新群書類従

第四

例言

本書は談洲樓立川焉馬が著『歌舞妓年代記』の續編なり。そも〳〵焉馬の年代記は、歌舞妓の濫觴に起り、元祿の發展、寶曆寬政の全盛期に及び、約二百年間に於ける東都演劇の沿革史にして、好劇家座右の寶たりしこと今更いふまでもなし。然れども同書は第五編に終り、文化甲子年の事までを記し、其の以後の事を載せず。本書は卽ち其の後を受け、文化二乙丑年より、安政六乙未年に至る、五十五年間の事を記す。蓋し著者が親しく見聞せる劇界の事實は細大洩すことなく、實に焉馬の年代記と、前後相通じて二百五十年、德川時代における唯一の劇史と稱すべし。而も續編は版行の運に至らず。僅に寫本にて傳はり二三珍書家の祕藏となり、一般讀書界の用に供する能はざりしを惜み、今回田村成義氏の藏にして、頗る善寫のもの

を底本に選び、新群書類従中演劇の部に收め、こゝに刊行することとはなれり。著者豐芥子の事蹟に就ては、大槻如電翁の詳しき紹介に讓る。

明治四十年十二月廿日

水谷不倒識

豐芥子略傳

石塚某は江戸の人、もと豐島町にすみ、おやの代よりからしをこなすをなりはひとしけるにより、世の人からしやとよびければ、地名と商物の名をとりつらねて、別號を豐芥とみづからなのりけり、いとわかきほどより、書みる事をいたくこのみ、いとまのひまあれば、いにしへいまのふみらひらき見ざることなく、世にまれにめづらしきがあれば、財ををしまずあがなひ得、人のひめもたるをも、ともかうもしてうつたへなどして、としをふるまに〳〵、大かた人は名だにしらぬ書どもいく千卷ともなくあつめたり、これをよとともののたのしみとし、また人にも見せほこりて、いみしき心やりとぞおもひける、かかりければ、とほきちかきをちこちに同じ心の友だちいと多くなり、さあらぬもこの人の名をしらぬはをさ〳〵なし、其たて丶好むところ、よのつねの有職とはこよなく、元龜天正のころよりをちつかたの事どもは深くも心をとめず、それよりこなたきのふけふにおよびては、事も物も、みやびたるさとびたる、いと廣くあつめてもらさず、なかにつきいくさ書、地理のふみをよくよみかむがへ、わざをぎをのこ、うかれめなどのうへにおきては、そのかみのさまどもをも、まぎる丶くまなくあきらめしりて、人のかたしとするふし〴〵をも、とへばかならず春風の氷をとくにことならず、秋の水のとゞこほりなきこたへごとには、つねにひと〴〵驚感心しけり、かくまで世におほかるまじき物しる人にはありけれど、人にむかひて、われだけき顏さらに見えず、ゆたかなる身なれど能衣著ず、風流なる調度どもはかへりみもせず、物いひたちゐふるまひはた、たゞのあきびとにつゆたがはず、世のいとなみにちからをつくして、人なきをりは庭におり、みづからからしのうすふみなどして、さばかりこのめるふみをも、いとましなければ忘れたるがごとし、そも〳〵ものしる人は世にともしくもあらざめれど、か丶るすき人にて、かうまで家のなりはひにいそしみ、身のおこなひたゞしく實やかなるは、ふたりと得がたし、こ丶にをかしき事あり、この人家號を鎌倉屋、字を

十兵衞といひけるが、としま町にさへすみければ、あるそゞろがはしき人この人の名をきゝ、はじめてとふらはむとて、かまくらがしなるとしまや十兵衞といへる酒あき人の家にいたりし事あり、この人その事を後にきゝ、げにまぎらはしき名どもなり、としまやはたれもしる大あき人なるを、我が古き書あまたもたるのみは、そのとしまやのとみにもをとらじと、ひとりゑみせし事ありとぞ、この人ゆゑありて、近きころ淺草諏訪町に移すみ、去年はじめてみやこのぼりしけるを、みちのほどより病おこり、月日經てかろうじて家にかへり、ひとたびはすくやかになりつるが、ふたゝびやまうのとこにつき、よはひ六十あまり三つにして、しはすのもちのころ、市路の雪のもろくきえて、はるのまうけのみかまぎならぬ、つひのたきゞのけぶりとなりしは、なきかなしむにもあまりあり、いでやとしごろの筆ずさみ、なにくれとすくなからねど、名をこのまねば板にもゑらせず、されば歌舞妓年代記の續貂とかいふもの、こはとほからずふみあき人の世におほやけにすべくなむ、さてこの人の墓はおなし淺草の報恩寺にあり、

文久二年九月　　二世　柳亭種彦記［印］

豊芥子實名今少したしかならず、ゆゑに石塚某としるし侍り、知れ候はゞ某字を除き、實名もて塡め候べし、

豐芥子略傳

豐芥子は、稱を石塚重兵衞、家號鎌倉屋、別號を集古堂といふ、其家祖は相州鎌倉の人にて、豐芥子より四代先、天明年間江戸に來り神田豐嶋町に住し、代々粉類を業とす、豐芥子に二女あり、長女某に聟を聘へしが、此聟放蕩故に間もなく離別し、弘化二年淺草門跡のうしろへ轉居せしが、其後嘉永元年同諏訪町西側の角に移り、先に離別せし聟を呼返し、從前の粉を商ふ、故に芥子屋と呼ばる、早くより好みて稗史中の珍書古本を藏す、古本の好者先當家を訪ふに、稗史隨筆等の珍書多くは其文庫中に藏せるを以て、求むる者芥子屋本とて、世に高く聞へしといふ、文久元年十二月十五日病て死す、享年六十三歳、淺草報恩寺中專念寺に葬り、法號豐芥信士といふ其著書は芝居座元考、歌舞妓十八番考、續歌舞妓年代記、吉原大全、深川大全、お七お駒二娘考、岡場所考、漂流年代考、地震年代考、近世江戸商人歌合、落語年代記等あり、

歌名垣魯文

明治十七年十二月十四日豐芥子二十三回忌法會

爐ばなしや其いにしへを夕時雨　二世春水染崎延房

枯菊もふたゝびかをる小春かな　龍吟岡田治助

親切を今日のたむけや室のうめ　紫香大久保源兵衞(存)

納豆に又もからしのうはさかな　梅彦四方新次郎

口きりや友だちひとりかけ茶碗　其水吉村默阿彌

枯蓮のしづくや秋のつゆよりも　二世種員有山新兵衞(存)

丹せいをけふ香にたつや冬至梅　芳幾落合幾次郎

ふる塚も掃除のとゝく十夜かな　笠仙橋本仙之助

故人の古寫本を見て

こがらしやちきれ／＼の鳥のあと　三世新七菊川金作

石塚氏のあと弔ふむしろ開くあした自ら

あみつゝり殘されたる文化見聞集を見て

こしかたを思ふなみだの落葉やま

かきあつめたる文のかず見て　三世種彦高島藍泉

今は世をなきからしやのきゝ書は

目にしみの巣もあまた見え鳧

とぢいとは切れてもすゑに藏書印　魯文野崎兼吉

からしの文字や年をふるほん

はたとせをみつの昔にめぐり逢て　雅樂鈴木定吉

手にふる本のあかもなつかし　只誠園根七兵衛

歌名垣がものせし上の傳記は、此追福のをり新聞紙上に掲げし者なり、二世柳亭(高橋仙果)の傳と併せ載す、又此手向の句共は、雪中庵(齋藤雀志)か抄錄より今度更に兩傳の次に添へしなり、

おのれ如電さいつ年、所藏せる劇場所考に私說を加へ、風俗畫報へ載せんとせしをり、著者豐芥子の子孫ありやなしやと、菩提所なる專念寺に赴き、問合したるに、寺僧曰く、子孫といふもの絕て久し、されど盆と暮との御墓參は、馬道の河竹さんがきつと御越なりと、河竹は知人なり、音づるべしとゐや述べ、其足にて馬道に至り、面會して其謂れを問ひたるに、新七子は容を改めて言ひけるは、不學無識の身を以て河竹三世を襲ぎたるは、冥加にあまる事なり、さて默阿彌師匠に紹介して、其門に入らしめたるは豐芥子なり、今日の榮ある、其源を遡れば、豐芥子の恩わする可らず、況んや其人の家も亡び、子孫も絕えたるからは、其墓まもるは我が爲す可きわざと、夫年每の忌日には香花をさゝぐる事して居れりと、夫より劇場所考出版の事に及びしに、更に差支なかるべし、其書の世に出でたらんには、故人の名を遺すわざにて、功德とこそ云ふべけれとありて、その如くしたりき、

かくの次第なれば、續歌舞妓年代記上版せんも、劇場所考の例に效ひてよけん、新七子既に物故せしかば、其嗣子金作子に謀りしに、先生と先代と既に其口約あるからは、今又何事をか申すべきと云へり、後の證據にかくはしるしおく也、

明治四十年十月　　白念坊如電

新群書類從第四目次

演劇（四）

目次終

新群書類從第四

演劇

花江都歌舞妓年代記續編卷の一

江戶　豐亭芥子編集

文化二乙丑年より至同十一甲戌年拾箇年の間を記す

●文化二乙丑年

○春中村座二月四日より「全盛虎女石」祐經東金茂右衞門三津五郎、月さよ茂右衞門女房お源とら、路考、せう〳〵、ちよこ平乳母おとね半四郎、姬路や淸十郎、鬼王祐成、中山文七、時宗團三郎、紋三郎、なきの葉とお夏、路三郎、朝比奈八百藏、京の次郎音八、十六夜七三郎、犬坊勘彌、萬江雷助、一番目五立目上るり「烏帽子紐解寐夜」、富本豐前太夫連中○二月十六日より市村座「花雲曙曾我」祐經と團三郎、高助、鬼王と赤澤十內、京の次郎、河津木像と八幡三郎、幸四郎、祐成源の介、大磯のとらと月さよ、米三郎、箱王丸團十郎、片貝十六夜路之助、近江小藤太と閉坊東藏、二ばんめ「江戶性男鑑」獄門庄兵衞幸四郎、黑船町の船宿忠右衞門と關口源次兵衞、粟餅賣德藏、高助米屋五八源助、德作女房お才、奴の小萬よね三、げいしやお瀧三浦屋千代鶴路之助、ほんし物喜兵衞、東藏、二はん目上るり「いの字とろのし末結女夫柳」、源之介病氣にてなし　富本齋宮太夫連中、○河原崎座二月朔日より「御江戶花賑曾我」祐つねと河津の亡魂、革足袋や半時九郎兵衞、小糸乳母お時松助、近江に國五郎、伊豆次郎本町丸綱五郎と紅絹の甚三、時宗鬼王、景淸に男女藏、綱五郎女房おふさ、小糸とせう〳〵なきの葉實は月さよ大磯とらに富三郎、朝比奈祐成と團三郎　糸屋佐七に粂三郎、和田義盛、万江、小間物屋十兵衞、四郎五郎、片貝、まつ江、犬坊丸、男寅一番目上るり「初霞由縁蝶」、常磐津綱太夫連中○三月廿七日より市村座常世出勤に付貳はん目「伊達姿花見御殿」原小次郎直則浮世斤平幸四郎、安達の奥方稲浦御前とめのと淺岡常世、賴兼と道哲、

島田十三郎に源之助、高尾に路之助、比企判官、松岡てきの助、東藏、大江兵庫に冠十郎、直則妻小ゆる木、萬作、とうふや三ぶ、門三郎、荒波梶之助に團十郎、秋田帶刀、片桐彌十郎、高助、上るり「二世の縁青葉楓」富本齋宮太夫連中（道哲と高尾の亡魂）〇三月河原崎座常世病氣全快に付一番目「鏡山」尾上に常世、岩ふじに松助、足輕隅田平、男女藏、お初、富三郎、求馬に榮三郎、二ばん目六代目團三郎七回忌追善狂言「助六由緣江戸櫻」助六に男女藏、伊久に松助、揚卷に富三郎、白玉に七藏、白酒賣榮三郎、蒲江に四郎十郎、くわんへら門兵衞に彦左衞門、朝顏仙平に國五郎〇四月十日より中村座「還供養妹脊縁日」園部の後室梅の方、正宗娘おれん、路考、幸崎伊賀守と地藏の五平次、三津五郎、五平次妹おみつ嫁まがきに半四郎、五郎兵衞正宗、和泉小次郎下り嵐三八、來國行に雷助、秋月大膳半左衞門、園部左兵衞門に紋三郎、薄雲姫せ川鶴三郎、妻平と正宗悴團九郎、八百藏、伊賀守奥方松ヶ枝、五郎次女房小女郎、路三郎、來太郎國俊に文七、大切上るり「道行念玉蔓」富本豐前太夫連中、引田村のおよし半四郎、船頭長作三津五郎、大でき也〇四月廿七日より市村座「花菖蒲浮木龜山」赤堀水右衞門と中野藤兵衞、幸四郎、兵衞女房おらいと女髪結お仙に常世、石井半次郎團十郎、十左衞門妻岡野と更科屋娘おしつ又四郎、娘おくらに路之助、錺間多門之助と石井兵助、下部團助、源之助、手代與助、百姓又四郎、東藏、奧女中おみの、万作、大倉瀨平、新平、石井兵衞と三木十左衞門、高助〇四月七日より一番目「五雁金」雁金文七に源之助、安の平右衞門幸四郎、極印千右衞門高助、雷庄九郎東藏、布袋市右衞門冠十郎〇五月五日より「夏祭」團七お梶と重の井のお房、路考、一寸德兵衞三津五郎、女髪結釣舟おさん半四郎、ところてん賣こつはの權兵衞文七、肴賣生の八五郎八百藏、なまの八妹おつき路三郎、大島佐賀右衞門三八〇十六日より曾我夜討と兩社祭禮二幕出す、大切上るり「戻り駕の俤うつす俄のにしき絵 姿花鳥居か色彩」常盤津連中、路考、半四郎戻駕の所作、かむろ勘彌、大でき也〇十三日より市村座龜山の貳番目一と幕出す、上るり「橘古巣玉垣」富本齋宮太夫連中高助、鹿しまの事ふれ、釣狐、奴、武者人形の所作事名酒賣に源之助、まんじう賣路之助、何れも大でき也〇六月十二日より市村座夏狂言「双蝶々曲輪日記」駕かき甚兵

衛と南輿兵衛高助、お関におはや常世、濡髪長五郎源之助、放駒の長吉と橋本治部右衛門東藏、あづま萬作、與五郎(市山)七藏、淨閑に冠十郎、貳番目「姫小松」俊寛に高助、お安に常世、龜王に源之助、有王に東藏、深山の木藏冠十郎、なめらの吉門三郎○七月十五日より「布引瀧」出る實盛源之助、瀬尾に東藏、小萬、まん作、九郎助冠十郎、小まん母七藏、河原崎座「假名手本忠臣藏」由良之助、義平、となせ、定九郎、與一兵衛、彌五郎、師直に男女藏、判官、勘平、平右衛門、瀬平に榮三郎、力彌、おかる、おその(小佐川)七藏、本藏とおかる母、小の寺十内、四郎十郎、九太夫に彦左衛門、原郷右衛門に辨藏、若狹之助(市川)門藏、かほより(下)嵐玉柏、松本よね三死す淨譽取妙文車信士(文化二乙丑年六月十一日)行年二十八才○七月廿日より中村座「けいせい鏡臺山」鶴屋禮三郎淺山兵庫後に鐵山實は大宰大貳梅丸三津五郎、傾城錦木後に禮三女房おりく、妹お照、半四郎、關取岩川、後家おこう、荒木左衛門に文七、荒屋五郎八實は赤松次郎、横綱若者紋の吉兵衛、鎌田又八に八百藏、吉兵衛女房およつ雲井御前に路三郎、岩川女房おとわ後にけいせい竹川、蘭右衛門娘おりくに路考、關取鐵

ケ嶽三八、(大)詰上るり「三國時酒」富本連中○閏八月朔日より「月視月餘慶讎討」御影堂の女房おそめと村上の奥方操御前、路考、木津勘助、三津五郎、勘助妹おくに、龜三郎、手代彌五七、三浦筆五郎に音八、勘助女房おさき半四郎、高木帶刀と岡田内記に文七、岡田佐市、八百藏、堀口伴右衛門、三八、三浦左門助と勘助下部小田八、紋三郎○同十六日より(大切に)「太夫暫由縁月視」一まく出す竹本河内太夫(歌舞妓の一世一代なり)夕ぎりに路考、伊左衛門に三津五郎、喜左衛門に八百藏、女房おさかに半四郎、○九月より「姫小松」俊寛と丹左衛門尉基康、三津五郎、俊寛妻あづまや路考、おやす半四郎、小松の重盛文七、龜王に八百藏、有王に三八、重盛御臺とあつまや妹鶴の前龜三郎、深山の喜藏、お安親次郎九郎に音八、なめらの吉と俊寛母無量、雷助、瀧口三郎、平判官康頼に紋三郎、此狂言三津五郎病氣にて奥行なく「千本櫻」靜御前に路考、忠信に半四郎、覺範に八百藏、よし經文七、○閏八月朔日より市村座「小室節錦江戸入」鷺坂左内後に重の井新左衛門、高助、馬士丹波與作、高島主計頭幸四郎、藝子いろはと高嶋の奥方眞弓御前、路三郎、娵重の井、路之助、伊達與市

郎團十郎、伊達與作、源之介、鷲塚官太夫、川こし江戸兵衛東藏、鷲塚八平次、冠十郎、奴の逸平門三郎、奴八藏に新平、女馬士じねんじよおさん德之助に米三實子也後に米三と改○二はん目「菘來𦲾綿菊嫁入」三幕 黑船町 忠右衛門、高助、米屋の五郎八、源之助、獄門庄兵衛、幸四郎、はんじ物喜兵衛に東藏、藝者お瀧に路之助、戀の奴、小萬に路考、「木下蔭狹間合戰」此下藤吉と竹中官兵衛高助、石川五右衛門と小田春長に幸四郎、左枝犬淸と蓮葉與六、源之助來作と加藤正淸、三好長慶に東藏、來作娘おてよと官兵衛、女房關路傾城ふよう路三郎、官兵衛娘千里と義照御臺綾の臺、路之助、石川村友市と大澤七郎に團十郎 ○顏見世狂言中村座「淸和源氏二代將」茨木次郎實は渡邊綱、三津五郎、修行者快山と將軍太郎良門、男女藏、平井の保昌と綱か叔母實は三田の仕の妹大町、伊三郎、市原鬼同丸實は純友一子純基、大谷友右衛門、三田源五と藤原の仲光に文七、袴垂保時と卜部季武、八百藏、源の賴親二代目嵐龍藏藤川叶助改名周防内侍實は渡邊娘小ゆきに半四郎、紫式部に路考、同二はん目足柄の山姥と賴光、三津五郎快童丸と花園姬、半四郎、山賤斧藏、男女藏、下部升平に八百藏、大切上るり「母育雪間鶯」富本連中なり、○市村座は「けいせい吉野鐘」楠正成と和田新左衛門、高助、宇都宮公綱、相摸次郎と獵師綱七に幸四郎、老女岩手と長崎次郎、松助、義貞とすしや久六、源之助、小山田太郎と恩地左近榮三郎、栗生左衛門と金貸の五郎八回國の硯龍東藏、篠塚五郎、團十郎、勾當内侍田舍娘おやな、すしや娘お里、伊賀局、路之助、小山田の女房千束路三郎、女萬才實は小女郎狐と相摸次郎女房六浦、吉野三郎女房お柚、白拍子の袖、けいせいよしのに富三郎、吳葉の前と賤女おうち實は吉野山天女の化身路考なり、上るり「錦着色乘合」富本連中○河原崎座「蝶花形戀聟源氏」貞任 女房松島、神宮皇后の靈と外ヶ濱の女房方、常世、八幡太郎と鉢德實田畑村の八右衛門實はおし鳥精靈、源之助、なにはのおつゆ實はおし鳥精靈と歌綾姬、中村慶子芳澤圓次郎 武内靈と淸原の眞人下り中山來助始は文藏と云二代目文七門人なり 伊貝十郎、修行者快了實は貞任下り 山村儀右衛門初め嵐松次郎後平九郎改又改名して下り源の賴義、四郎十郎、勝田次郎、奴いたてん勘平實は赤松之介爲光、荒五郎、新羅三郎と金の八郎下り嵐秀之助二代目雛助の子幼名直次郎と云 宗任と奴鐵平 實は坂戸九郎、東藏大詰上

るり「色蓬夜半の思羽」常盤津連中貳ばん目尾上の前、釣舟屋おみつ、三浦平太夫妻國妙、常世、金吾舎人之助と出羽城之助に源之助、粧姫、釣舟屋娘お中、慶子、獵師次郎作、來助、鳥の海彌三郎、東藏、按に此狂言役割番附には文化三丙寅年霜月十三日よりとあれとも文化二年丑の顔見世ならされは前後符合せす今定てこゝに出す

●文化三丙寅年

○春中村座「念力箭立椙」月小夜、片貝、揶葉狐、路考、梅澤小五兵衛實は伊豆次郎祐經、伊三郎、十六夜、半四郎、鬼王と小藤太、友右衛門、閑坊と五郎時宗、男女藏、祐成八百藏、八幡と満江、文七、朝比奈、音八大詰上るり「我栖里春曾我菊」富本連中貳ばん目「初音歌祭文」お染と久松姉おまき路考、久作と山家屋清兵衛伊三郎、綾瀬源十郎妻おさもと久松半四郎、肴うり佐四郎、男女藏、手代善六友右衛門、久作下人太郎助、文七、若徒石濱半平、八百藏、久松云號おのぶ、龜三郎、お染母貞林、雷助◎二月六日より故人半四郎七回忌追善大切所作「七字の花在姿繪」官女、手習子、座頭、田舎みこ、人麿、草かり、石橋、七變化半四郎大當り○市村座「梅柳魁曾我」重忠と八幡、高助、あんま劔菱莫庵後に近江小藤太景清、由利八郎、幸四郎、祐成、源の助、女髪結お六實は揶葉と月小夜、富三郎、祐經、松助、十六夜と大磯とら、路三郎、せふ〳〵と入丸おつる路之助、時宗と團三郎、榮三郎、鬼王冠十郎、大磯屋傳三と大日坊東藏、犬坊に團十郎、上るり「其壽寅試筆」富本連中二番目二日替り「略三五大切」鹿兒島十次兵衛に高助勝間源五兵衛幸四郎、笹の三五兵衛、源之助、藝者小萬に富三郎、船頭長兵衛に松助、廻し彌助、東藏、舛屋お此、路三郎、三五兵衛云號なきさに、路之助、若徒八右衛門に榮三郎、家主德右衛門と奴土手助、新平、上るり「仇枕夢玉鉾」常盤津連中は後日「河原噂京諺」黒木屋番頭半兵衛と重三母おたかに高助、坊主小兵衛、幸四郎、半兵衛女房おりくに富三郎、黒木屋大隅、松助、彦惣、源之助、井筒屋小きん、路三郎、彦三女房おみち、新兵衛女房おせん、路之助、筒井重三郎、榮三郎、同手代金六と髪結松の尾新兵衛、東藏、上るり「比翼鳥部山」常磐津連中二日共大評判大入なり 河原崎座「三津輿會稽曾我」祐經、祐成、時宗、朝比奈、團三郎、鬼王、満江、七役三津五郎、八わた女房呉竹、あこや、月小夜、衣笠御前、常世、義盛、三保の谷四郎、閑坊、三八、とらと十六夜、大姫君に友之中村慶子改よしさわ北條時政と八わた三郎

赤澤十內、來助、伊豆次郎、井場十藏、江間小四郎、荒五郎、入九とせう／＼、七藏、曾我太郎四郎十郎、岩永左衞門彥左衞門、景淸と京の次郎、近江小藤太、八十助、上るり「睦屠蘇猿隈」常磐津伊世太夫連中○三月狂言中村座「鏡山」（以下一行半原文脫落）市村座は（大詰）一幕「淸玄」奴淀平、淸水宿直之助淸玄に源之助、奴鳥羽平、東藏、姉輪の平次、冠十郎、奴壬生平、榮三郎、三浦息女櫻姬路三郎、嫐妻木に富三郎、淸玄に幸四郎、河原崎座は是迄の狂言其儘置て（大切）元祖中村慶子廿三回忌、中村のしほ七回忌追善「娘道成寺」白拍子橫笛、友之、あふつ坊、三八、たふつ坊、來助、住僧、四郎十郎三浦之助、三津五郎、三座とも三日より始めし所翌日四日芝車町より出火にて江戸中燒失す、河原崎座も類燒し中村座市村座は殘るといへとも大火に付暫相休む中村座○四月七日より「鏡山」の跡狂言（大切）「姬小松」（かんくつの來現）俊かん三津五郎、（はへぬき岩）有王、友右衞門、なめらの靑、雷助、深山の喜藏、辨藏、次郎九郎、音八、次郎兵衞盛次、八百藏、主馬判官、男女藏、小督局、半四郎、龜王、伊三郎女房お安、路考○五月十四日より「忠臣藏」若堂、彌次兵衞、平右衞門、（高助改）四郎五郎、桃井（花井才）三郎、力彌、（中村）春之助、與一兵衞、十太郎に宗三郎、由良之助、源之助、富森助右衞門、東藏、伊五と喜太八、新平、丁竹、（松本）小次郎、彌五郎、（市山）七藏、山名に松本武十郎、鄕右衞門とお輕母に門三郎、伴內に冠十郎、判官に勘平、榮三郎、小浪とお輕に路之助、お石、かほよ、路三郎、九太夫と一もんじや、松助、となせにおその富三郎、師直に本藏、定九郎、天川屋義平、幸四郎○六月十四日より（夏狂言）市村座「波枕韓聞書」兒島左近之丞と奴さか平、町かゝへ琴浦の金、團十郎、斯波采女之助と一寸德兵衞母お梶、道具屋淸七後に助松主計、才三郎、釣船のおさんと德兵衞妹お仲、萬作、玉島磯之丞後に一寸德兵衞と六角兵庫之助、畫鳶宿無團七、大内義たか榮三郎、田舍座頭、がまの仙人實は尼子三郎晴久、めのと五百機、大佛坊主の三ぶ、船頭天笠德兵衞實は吉岡宗觀一子大日丸、松助、（此狂言當りにて八月迄興行）○七月廿八日より中村座「初紅葉二樹讐討」吳服屋重兵衞、磯貝下部友平、三津五郎、遠藤野守之助、友右衞門、政右衞門女房おたね、おの江、和田ゆきへ、雷助、和田數馬、若徒孫八、紋三郎、磯貝兵助、龜三郎、磯貝實右衞門と澤井又五郎に八百藏、嶋川太

兵衞、荒木政右衞門、男女藏、仲居お色と兵助姉お袖に半四郎、梶川源五右衞門、佐々木丹右衞門、伊三郎、丹右衞門妻おみやと細川奥方蘭菊御前、路考○八月十七日より貳番目を出す「花兄幡隨長兵衞」細川勝元、執權石堂隼人、（高助事）四郎五郎、鮨賣彌市、源之助、鶉權兵衞、東藏、本庄助市、新平、白井權八、榮三郎、小紫に路之助、龍野惣右衞門、松助、中の町いくせやおりき、富三郎、尺八指南龍軒と幡隨長兵衞に幸四郎、上るり「戀結露白菊」（榮三郎 路之助）富本阿波太夫連中○同日より「湖月照天松」○九月廿七日より貳番目「織合襤褸錦」高市武右衞門、源之助、加村宇多右衞門、東藏、春藤新七、團十郎、若徒佐兵衞に武十郎、助太夫に門三郎、春藤次兵衞に榮三郎、お春妹お六、路之助、次郎左衞門女房お春富三郎、春藤次郎左衞門、幸四郎

○九月中村座にて萩野伊三郎大坂登り名殘狂言千本櫻に狐忠信相勤候よし文政五年の評判記に有顏見世中村座「瞻花雲雪陸奥」金の八郎爲朝と奴五郎平實は伊貝の十郎永衡、順禮外かはま南兵衞實は宗任、友右兵衞門、長岡七郎正國と大宅太夫光任、次郎藏母お百合、雷助、衣笠主水妹雄嶋と新造錦木瀧之助、加茂の義綱、茶屋廻り生男新太郎に勘彌、伊貝十郎娘稻船、女商人おいとに龜三郎、勝田次郎成信、佐伯藏人恒則、船頭竹屋の政實は荒川太郎時門に荒五郎、鎌倉權五郎と大こく舞德助實は鳥海彌三郎、權中納言則氏實は貞任、宿老五兵衞、盜賊蝦蟇丸に男女藏、おしやらく入道、おてんば妹初花、春駒のおよし實は外ケ濱安方鳥の精靈、女馬士のたまくのおゐん實は貞任妹尾上の前、放鳥賣おそで實は景政妹照葉、赤染右衞門に半四郎、高弘親王と田舍萬歲寶作實は善知鳥の精靈船頭さゞ波の次郎藏、三浦平太夫不負國妙、廻國修行者善八實は八まん太郎、三津五郎、平太夫妻八十島、傾せい茗荷屋の奥州、大江匡房御臺八重垣御前、淺茅ヶ原一つ家おさい、中將實方の妾岩手御せんに路考、（四立目上るり）「好哉妹脊衞（半四郎 男女藏 三津五郎）」富本豐前太夫連中、佐伯藏人妹まかきと新造千束（小佐川）七藏、赤村之助爲光、栗坂勘解由、納所同艮、嵐龍藏、河内判官頼遠、花川戸いさみ好六、劍術指南安達幡山、冠十郎、道長公息女あさかのまへ、雁お針おぬいにおの江

○市村座「壯平家物語」梶原源太景季、岡崎惡四郎義實、三位重盛（下り）彥三郎、景季妹敷島、義朝息女照葉

前、白拍子佛御せん下り難波げいしやおなみ實はとい
きが淵の龍女下り團之助、八本下八郞國連、そとひ雜兵
軍八、家主權兵衞に彥左衞門、瀨尾太夫せげん、うは
ばみ勘六下り嵐平九郞、大嶋海士磯女實は綠丸鷹の精
靈、岡崎四郞與方眞ゆみ、眞田文藏姉岩瀨に常世、上
總七郞景淸、大しま五郞爲家、牛若丸に團十郞、天城
の次郞、八丁礫喜平治、百姓田作、七つ松左衞門、才三
郞、加藤次景廉、りちぎ與五八、門三郞、波多の次郞妹
ふせや、梶原のめのとなきさ、留女三島小女郞に万
作、安達藤九郞盛長、鳥指日白淸吉實は由利八郞長
範、惡源太義平、髮結の龜實は川越太郞重頼に榮三
郞、より朝と眞田文藏政安、番町辻番川津三郞兵衞に
源之助、伊藤の娘龍姬、北條息女政子姬、盛長妹紀の
路、源吉女房おその實は長田太郞妹鳴見に路之助、平
淸もり、地獄淸左衞門實は長田太助景宗、鏡とき太
郞又に松助、武藏左衞門有國、鳴立澤の蛇骨ばゞあ實
は爲朝めのと鳴尾、鎭西八郞爲朝、髮結の長吉實は
鎌田政淸、服部村五郞藏、幸四郞、四立目上るり「此樣緣末懸
色事」源之助榮三郞路之助、富本齋宮太夫連中、賴ともに源之
助、政子姬に路之助、玄宗皇帝楊貴妃のやつしにて兩
人曲藤へ寄添笛を吹く榮三郞、藤九郞盛長にて日繖
をさしかけ何れも唐人裝束にてせり出し花やかにて
評判、兩座共相勤し處、十一月十三日葺屋町河岸より
出火にて兩座共類燒せり、五代目市川團十郞後蝦藏白猿
隱居して成田屋七左衞門と云、狂名花道のつらね向
島の別莊にて死す、還譽淨本臺遊法子行年六十六才增上寺中常照院

◎文化四丁卯年

春着講出來に付○二月五日より市村座「壯平物
語」去歲顏見勢狂言を其儘に興行す○三月七日より
「橋磐代曾我」祐經、日雁取彥助實は京次郞、秩父の
重忠に彥三郞、景淸、北條時政、八わた三郞幸四郞、
水茶屋月小夜のおばあ、朝比奈と小藤太に松助、權中
納言定家、祐成に源之助、時宗、伊豆次郞實は曾我の
團三郞に榮三郞、梶原平三に團十郞、行氏女房お弓、
京の小女郞、政子御せんに常世、十六夜、舞鶴、路之助
せふ〳〵、片貝、團之助、とら、大姬君、圓次郞、鬼王に
彥左衞門、上るり「其庵摸樣五節句」富本齋宮太夫連
中相勤、貳ばん目「往昔元吉原」雛屋次郞左衞門と同
時貞冠に彥三郞、夢の市郞兵衞、三浦屋四郞兵衞に幸
四郞、關取仁王山、松助、關取明石志賀之助、源之助、

やりておなつ、常世、藝者こずへ路之助、四郎兵衞女房おさん、圓次郎、湯女お初、團之助、寺西甚藏、榮三郎○四月六日より故人宗十郎七回忌追善に付「追善九にい左衞門」伊左衞門に源之助、夕霧路之助、吉田屋喜左衞門に榮三郎、伊藤文助に幸四郎、女房おりう團之助、文助妹お此、圓次郎、女徘諧師その女に常世、大切上るり「道行菜種裳」富本齋宮連中○三月廿七日より普請出來に付中村座「さるねの榮曾我」工藤祐經、鬼王、十郎祐成に三津五郎、五郎時宗と朝比奈に男女藏、舞鶴と月小夜、半四郎、伊豆次郎醫者金澤常景に藤藏、八わた三郎に荒五郎、團三郎に勘彌、曾我太郎、雷助、片貝小左川七藏、二の宮に七三郎、小藤太に鬼十郎、前司坊、市川瀧之助、犬坊、男寅、上るり「其儘娘七種」富本連中二はん目「助六櫻の二重帶」初日助六、三津五郎、二日め男女藏、初日意久男女藏、二日目三つ五郎、揚卷、半四郎、白酒うり荒五郎、白玉七藏、くわんへら門兵衞藤藏、滿江、雷助、朝良せん平相島儀右衞門今惣領甚六○五月五日より五節句の所作一幕「子の日男舞曲相生」半四郎男まひ三つ五郎、男女藏、衞士、長唄富士田千藏、三弦きね屋六左衞門なり彌生「兎紋日雛形」粟島三津五郎、兎半四郎、上るり常盤津太夫連中、端午市川のかいし傳ふやあやめ花別宗鐵五郎時宗男女藏、祐成三津五郎、馬士善好、上るり大薩摩文太夫、七夕「夕粧星逢夜」牽牛、織女、三津五郎、半四郎、所作富本連中、重陽「色礒離花娵」男女藏、半四郎、三津五郎、砧の所作長唄富士田源吾、三弦杵屋六左衞門なり○五月五日より「陌頭巖流島」月本武者之助、關東屋繁藏、佐保五郎重綱に彥三郎、繁藏女房おゆき、けいせい、淺妻に圓次郎、民右衞門娘お此、團之助、民右衞門女房おくら、常世、民右衞門悴民次郎、團十郎、武者之助女房鶴葉、万作、奴與五郎、六角ゆきへ之助、榮三郎、曾我石手代長次郎、源之助、民右衞門娘おてる路之助、吉岡民右衞門、松助、高島官次郎後に佐々木岸柳、幸四郎、大切上るり故人中村富十郎二十三回忌追善「娘道成寺」白拍子れんりに圓次郎、いとく坊源之助、金剛坊、幸四郎、住僧松助○六月廿二日より夏きよけん市村座「三國妖婦傳」天竺之場、華陽夫人の靈、松助、しゆげんの僧まりふら、彥左衞門、富士の場、妲妃、松助、雷震團十郎、紂王に宗三郎、伯邑考、才三郎、日本の場、玉藻のまへ實は九尾狐、松助、本幡左衞門佐、三浦之助、源之助、上總之助、榮三郎、坂部行綱息女藻女後に玉藻のまへ團之助、なす八郎宗重に團十郎、

武はん目「本律糸しらかへ」石塚彌惣兵衞、松助、糸や督左七實は神原佐五郎、源之助、本町丸綱五郎、半時坊主九郎兵衞榮三郎、藝者おふさ、糸屋娘おいと、團之助○七月廿二日より「金龍山劍礎」月の輪帶刀、彥三郎、秦左衞門景連、漁師檜熊の友成、幸四郎、帶刀奥方呉竹、常世、正木主計頭と一つ家の姥お大、松助、同娘小磯に露之助、月の輪釆女、中臣の進濱成、源之助、海上の次官榮三郎、傾城高窓と姥彌生團之助、二ばん目寺嶋の講頭正直杏兵衞、彥三郎、綾の吉六、幸四郎、松井源水、松助、やうじやお花路之助、紅屋半藏、源之助、刀屋半七、榮三郎、吉六妹お朝團之助、吉六女房おいね、團次郎、やといお針おその常世、一ばん目上るり「魂結結千種朝霧」富本連中○八月十六日より二ばん目「桂川」三まく片岡幸之進、彥三郎、針の宗兵衞、幸四郎、お半母、松助、おきぬ、路之助、長右衞門、源之助、おはんと幸左衞門榮三郎、上るり「桂川連理柵」富本連中○九月九日より中村座「假名手本忠臣藏」由良之助、勘平三津五郎、師直本藏、定九郎、與一兵衞、男女藏、判官、荒五郎、若狹之助、平右衞門、藤藏、右馬之丞とおかる母、雷助、九太夫と彌次兵衞、定十郎、伴內に嵐龍藏、鄕右衞門に坂東龍藏、力彌に瀧之助、おかるにおいし半四郎、かほよととなせ路考○同廿三日より十段目十一段目出す、義平に三つ五郎、おその半四郎、丁竹、藤藏、伊吾、儀右衞門也、○顏見世中村座「會稽雪木下」惟任光秀、森丹左衞門義成、武智光俊彥三郎、春永と蘭丸、伊吹の堂守、鬼坂の麥南、男女藏、朝倉義盛、音八、瀧川將監、雷助、柴田娘こし路、鬼兒嶋彌太郎、瀧之助、お通の方、龜三郎、此下妹しづはし、姥おりう、菊丸妹おきの路之助改路考、春永御臺と伊吹山のおすわ狐、路考改仙女、第一ばん目五立目上るり霜ふれは若紫の色みへて菊は老せぬ花にそ有ける「容艶花娘道成寺」かくれん坊、釆三郎、さくらん坊、男寅、白拍子釆女、仙女也、弐ばん目上るり「道行風流花振袖」富本豐前太夫、仕出し商人おすわ實は法性の兜の守護神、仙女、六字南無右衞門、彥三郎、柴賣庄九郎、實は齋藤龍興、佐藤正淸、男女藏、女髮結おつや實は光秀女房妻木、路考、大切上るり「憎雞合色採胸」富本連中、市村座「雪八島凱陣」一の谷樵夫三作實は主馬判官、寒念佛了善實は江田源藏房綱、四郎五郎、義經、佐藤忠信、室の津の家主みたらし伊兵衞實は三位中將惟盛、源之助、粂房むすめ象潟遊女櫻木實は忠度の奥方菊尾前に團次郎、鈴木重家

と竜の菊王丸、新平、下河邊行平、御厩の喜三太、土尺すり柳美、才三郎、増尾兼房と家主利窟利兵衛、門三郎、忠信女房、信夫、白拍子千壽、團之助、熊井太郎忠基岩手五郎光信、次郎八子方權吉、團十郎、强盜鬼武丸後に伊世三郎、百性出來作實は尾形三郎、家主三五郎實は岡部六彌太、榮三郎、是明親王と本少納言時忠實は鞍馬山僧正坊、夜番太郎七實は三條右衛門松助、建禮門院と草かりお松實は多門天の寅童子の化身、八島蜑若松、次郎八女房お大實は熊坂妹、麻生、半四郎、辨慶と佐藤次信、室津花屋源七實は菊とら源吾、三津五郎、柴屋町の道具や錦升、菊地兵庫成景、能登守敎經、町抱次郎八實は監物太郎賴方、播摩守重術、幸四郎、四立目上るり「花安宅扇盃」半四郎、榮三郎、國之助、源之助、三津五郎常盤津連中普請出來に付河原崎座「万代不易戯場如」侍女五百機實は海道左衛門女房お弓、水茶屋お梶、修行者妙智尼實は大内之助妻敷島、出雲のお國、義のり公、常世、名古屋山三、鵜の次郎作實は狩野元信、駕かき角兵衛、尼子三郎光久、荒五郎、梅園中納言實は盜賊海道左衛門、山中鹿之助、烏さし才兵衛實は岩見太郎、大内之助よし丸東藏、北面侍濱名一角實は摺針太郎、奴浮世又平駕かき長六實は笹の才藏、赤松次郎、冠十郎、かつらき、女馬士小萬、鹿之助、女房吳竹、傾城遠山亡魂七藏、傾城綠木、田舍娘おまつ、赤松次郎妹瀧の、中村松江、不破伴左衛門、秋月しま五郎、髮結いてふの長吉武十郎 ○七月十七日上方にて大谷德次死す行年五十二才常磐津連中、上るり「敷寫松彩色」

●文化五戊辰年

○正月二日より中村座「妹脊山」後室定か、芝六女房おきし仙女、入鹿求女、大判司、彥三郎、芝六とふか七男女藏、ひな鳥とおみわ路考、久我之助と橘ひめ龜三郎、後家おなかと紅葉の局に音八、めどの方、おの江、家主茂木兵衛、鬼次、でつち彌太郎市山七藏、飛鳥皇子と櫻の局龍藏、おきよ所彥左衛門、秦藏人、鎌足公雷助、大切「女鉢木」節之通り ○二月五日より「初便手銹飾曾我」大磯とら、妾奉公人おはま、政子御せんの中老月小夜、仙女、祐成と大神樂角兵衛實は京の次郎、祐つね、彥三郎、五郎時宗、鬼王、景淸、男女藏、振袖お六實は十六夜、大姬君とせふ〳〵路考、團三郎に七三郎、小藤太と閉坊に音八、時政に雷助、祐兼、市山七藏、朝比奈鬼次、一はん目上るり「梅柳昔畫冊」富本連中貳はん目

「伊勢十人切」福岡貢、彦三郎、同伯母およね、仲女、料理人喜助、男女藏、下田萬次郎、七三郎、左膳、雷助、御師正太夫仲居おまん音八、孫太夫娘榊、龜三郎、下部林平、鬼次、杉山大藏、坂東七藏、おこんに路考○正月十三日より市村座「月梅和曾我」小藤太と團三郎景清、幸四郎、祐經に京の次郎三津五郎、時政に滿江、松助、結城に百足屋金兵衞、源之助、時宗、前司坊、榮三郎、のり頼、あさ丸團十郎、龜菊と月さよ、半四郎、せふ〱と片かい、團之助、とらと若菜、圓次郎、鬼王と朝比奈八わた三郎高助改四郎五郎、一ばん目上るり「解初霞帶曳」富本齋宮太夫連中、弐ばん目「春商戀山崎」橋本次部右衞門とかこや甚兵衞、四郎五郎、引窓與兵衞と放駒四郎兵衞、幸四郎、八幡や與次兵衞と近藤德次郎、三津五郎、醫者まぼろし淨閑、松助、手代與五郎と南方十次兵衞、源之助、鷺長吉、榮三郎、非人下駄のお市と濡髮のおしけ、與次兵衞女房おはや、半四郎、子守お照、團之助、ふじやあづま、圓次郎、金神長五郎、團十郎○正月廿七日より河原崎座「ひらかな盛衰記」梶原源太下り市川團三郎、同平次と樋口の次郎、あさり與一、東藏、よし經と梶原與ゑんしゆ、重忠、荒五郎、樋口女房およしと姫千鳥玉川路三郎改瀧中歌川、おふで、七藏、船頭權四郎、冠十郎、弐ばん目「染模樣妹脊門松」おそめに團三郎、久まつに七藏、久作に東藏、山家屋淸兵衞、荒五郎、油屋女房おかの、歌川、手代善六、冠十郎○二月十七日より常世病氣全快に付「菅原」菅相丞と白太夫、後家みきと千代、つね世、かくじゆ、松王丸藤藏、源藏櫻丸、團三郎、梅王に直禰太郎、荒五郎、戸波と八重七藏、春藤玄蕃、冠十郎、時平と照國、武十郎、はると龍田のまへ小佐川松三、菅秀才、てる世後に三藏今もう太郎○三月三日より市村座「伊達競阿國戲場」外記左衞門に四郎五郎、仁木に絹川谷藏、羽生村與右衞門に幸四郎、豆腐屋三ぶと渡邊民部三津五郎、山名と局八汐、松助、細川勝元、源之助、金五郎に榮三郎、所化祐海と男之助、團十郎、政岡と三ぶ妹かさね、半四郎、蘭生のまへとなには、團之助、高尾と此花、圓次郎、榮御前と鬼貫、宗三郎、筒の才藏門三郎、千松に松之助、大切上るり「恨衣棣棠累」常磐津小文字太夫連中○四月八日より弐ばん目三幕、油屋九平次、四郎五郎、長藏に幸四郎、京紺屋德兵衞、三津五郎、平野屋德兵衞、源之助、ゑんま小兵衞、松助、船頭房、榮三郎、因の本村お辰と平野

や娘おきた、半四郎、けいしやおはつ、團之助、京紺屋女房おふさ、圓次郎、上るり「道行初時鳥」常磐津連中○三月廿三日より**中村座**「頃宿花兒譜(ころもやよいはなこのけいづ)」傾せい大町實は花子の前仙女、栗津六郎、俊兼彦三郎、渡し守惣太實は吉田下部軍助、男女藏、狂女おせんと小ふし路考、ゑふみ宰相實は大友常陸左衛門(下り)中村歌右衛門、栗津七郎と入間主水之助(下り)關三十郎、(初嵐宗太郎歌右衛門門弟なり)松井源吾(下り)中村東藏、梅若丸、多門(後に五代目菊之丞)貳はん日佐原多仲、彦三郎、小女郎と玉屋女房おゑん路考、玉屋新兵衛、中村歌右衛門、竹垣半次郎、(男寅改)傳藏、出村新兵衛、男女藏、與女中幾野、仙女、上るり「櫻草對の縫(かくもい)」富本連中 ○四月中頃より大切猿廻し、與次郎歌右衛門、おしゆん路考、傳兵衛、關三十郎(何れも大當り) ○五月五日より「千本櫻」すけの局とおさと、仙女、靜御せん、路考、川越太郎と覺はん、男女藏、小金吾、七三郎、卿の君、龜三郎、辨慶鬼次、相撲次郎、龍藏、梶原、東藏、中村川連(市山)七藏、お辻、雷助、よしつね彦三郎、すしや彌左衛門、三八、彌助に三十郎、銀平權太、忠信、源九郎狐歌右衛門、上るり「幾菊蝶初音道行」富本豐前太夫連中**市村座**「忠臣藏」由良之助に四郎五郎、師直と平右衛門、義平、幸四郎、勘平と石堂三津五郎、おかるとなせ、半四郎、九太夫とおかる母、松助、判官と本藏、源之助、桃井と定九郎、榮三郎、おその、團之助、かほよとおいし圓次郎、伴内、新平、山名に宗三郎、伊吾に善次、力彌に(花井)才三郎、鄉右衛門、門三郎、彌五郎に團十郎、不評判にて○五月十六日より故人坂東三津五郎廿七回追善に付、大日坊に三津五郎、中田屋太郎兵衛、四郎五郎、本田次郎、幸四郎、渡し守お鳥と下女お松實は八丸半四郎、手代半七、源之助、夜そばうり久六、榮三郎、お花に團之助、(大切)上るり「垣衣艸手向發心(しのぶぐさてむけのほつしん)」常磐津連中三つ五郎忍賣所作大當り「本朝廿四孝」百性横藏と越名彈正、幸四郎、板垣兵部と勘助母、四郎五郎、高坂彈正、三津五郎、慈悲藏、源之助、女房と娵ぬれ衣、半四郎、武田信玄、松助、勝頼に榮三郎○六月廿二日より**中村座**「布引瀧」齋藤實盛に歌右衛門、瀨の尾に(下り)工左衛門、小萬に おの江、九郎助、龍藏、重盛公(市山)七藏(貳はん日)「妹脊の門松」山家屋清兵衛に歌右衛門、久松、團三郎、お染に龜三郎、久作、手代善六、工左衛門、(大切)「在原系圖」四段目奴蘭平に歌右衛門、行平に團三郎、**森田座**は此度再興行にて「時(とき)

爲得花樣森田」一番目「爛軍記」熊谷次郎と忠のりスケ三津五郎、よしつねと六彌太、荒五郎、直家とあつ盛、勘彌、みた六と田五平、三八、下女お岩と相撲、歌川、貳ばん目「垣衣艸昔雛形」大日坊に八十助、麥飯うり二六に三つ五郎、岩永左衞門に三八、おはなに歌川、半七に勘彌、大切上るり「褄揚戀販女」常盤津連中一の谷の貳ばん目「姬小松」二の口切貳幕俊寛に三つ五郎、おやす、歌川、龜王に勘彌、有王に嵐音吉、なめら兵、荒五郎、深山の木藏に三八、何れも評判よく大入なりし○六月八日より市村座「彩入御伽艸」初日木幡小平次の怪、後日皿屋敷之死靈、二日替り、こはた小平次女房おとわと天竺德兵衞、奈加佐伊奈脅者、淺山鐵山、三平姉幸崎、松助、彌陀次郎とこれ世卿實名は赤松次郎、船越三平、榮三郎、細川政元、年禮者一角、團十郎、おさかべ姬と娍おりく、團之助、興行中松助病氣にて榮三郎相勤る、貳はん目香具屋彌兵衞、松助、鱷屋八郎兵衞、飯はや扇朝、榮三郎、丹波屋お妻、團之助、中まく上るり「蟬時雨恨及」常盤津れん中大切水仕合にて此狂言大々當り○七月十七日より中村座「增補覺仇討」九十九新左衞門に彥三郎、飯沼三左衞門、同勝次郎、歌右衞門、初花に路考、奴筆助、男女藏、佐藤卿助と庄屋德右衞門、工左衞門、飯治山三郎に團三郎、同三平に三十郎、筆助女房お弓と新左衞門女房しけ町仙女○八月十日より「行平磯馴松」鍛冶や太郎七彥三郎、女房おせん、仙女、松風と小ふじ路考、太郎七母、工左衞門、下女おなへ、關三十郎、破軍太郎、男女藏、此兵衞、歌右衞門○七月廿五日より市村座「時桔梗出世請狀」松下嘉平次四郎五郎、光秀と水尾正兵衞、幸四郎、久吉に三津五郎、久吉妻八重はたに半四郎、春永に源之助、蘭丸と小西彌十郎、榮三郎、蛇の目すしの荒と八尾田友綱、佐藤正淸團十郎、光秀女房さつきに千とも、團之助○八月十日より四代目幸四郎七回忌追善に付「是僅殘高麗屋島」中川の筏乘、七郎助と福淸、幸四郎、百姓舟越十右衞門に三津五郎、かしくと太郎作娘おその、半四郎、奴袖助に團十郎、福淸女房お梶團之助、小間物屋六三郎に源之助、上るり「六三かしくの留書」富本連中○八月廿八日より中村座「菅原」菅相丞に源藏、彥三郎、千代と櫻丸、仙女、かく壽と松王、歌右衞門、時平と白太夫工左衞門、照國と梅王、男女藏、戸浪と八重、路考、宿彌太郎、三十郎、はるとかりや姬、龜

三郎、土師兵衛、東藏、玄番、龍藏、〇九月廿四日より工左衛門名殘「染分手綱」二まく馬方八藏、歌右衛門、ひぬかの八藏、工左衛門、關小まん、路考、〇十月二日より彦三郎市村座へ行に付名殘り「廓文章」伊左衛門に彦三郎、夕霧に仙女、喜左衛門に男女藏、女房おさよ、龜三郎〇九月九日より市村座「鳴響御未刻太皷」香川帶刀と桔梗屋文右衛門、四郎五郎、島川太兵衛と磯具實右衛門、幸四郎、磯具藤助と若徒八内、三津五郎、仲居おさこと帶刀妹おなみ半四郎、大森賴母之助、紀伊國屋源七に源之助、三田村兵左衛門と鳶の音松に松助、下部友藏、榮三郎、大森專次郎と成田屋長兵衛、團十郎、實右衛門娘おゆき、團之助〇廿二日より半四郎五十回忌追善「三扇法繪合」半四郎三つ人形女三宮、田舍こせ、傾城也大出來〇八月十六日小佐川常世死す行年五十六歳　面貌院常遊日勝と改名す下谷敬運寺に葬る〇今年上方にて〇藤川友吉〇六月十六日關三右衛門〇六月十日中村粂三郎〇七月九日片岡愛之助〇閏六月六日中村元藏〇五月二日市川團藏十月九日死す〇顏見世中村座「御攝恩賀仙」彌平兵衛 宗淸に長田太郎に 加藤次京かと 四郎五郎、平淸盛、山木判官、難波次郎實は惡源太義平、歌右衛門、源義朝、鎭西八郎爲朝、平内左衛門、長盛、大庭三郎妹又の、男女藏、賴朝に下り小川吉太郎、長田庄司、三八、辰姫、路考、待宵待從と宗淸妻八條、黑木うり榊葉、仙女、大切上るり「色和倭院宣」富本連中〇市村座「松二代源氏」鬼同丸實は重太丸純基、藤原仲光、土蜘蛛精靈に三田源吾、彦三郎、髭黑の左大臣實は裃垂保輔、紙屑買淸兵衛、卜部末武良門、幸四郎、栗の木又次實は田原千晴すけ三津五郎、女やもめおまさ實は七綾姫、三田源吾妹小女郎、美女御前、半四郎、左大臣高明と炎木ばゝあすけ松助、賴光と渡邊綱、源之助、小式部內侍と綱女房春雨瀬川歌川改中村里好、黑木賣おのぶ實は桝花女と粧姫、下り田之助、先年親宗十郎一所に上方へ登り久々にて下りけり碓井貞光、幸壽丸、榮三郎、坂田公時、團十郎、一ばん目上るり「童遊色夕顏」富本連中大切上るり「色岩屋大江山入」常盤津連中 森田座「花兼見雪楠」相撲次郎時行と楠正行、見通し法印、三津五郎、備後三郎 煙草屋仁三郎と石和又太郎下り伊三郎非人しかばねの捨實は大佛太郎、船頭甚五郎、小山田太郎すけ榮三郎、みゆき姫と甚五郎女房お六、赤松次郎妹敷浪、團之助、傾せいいつはた公綱女房花

その、調次郎改いろは、石堂かけゆと息地左五郎、荒五郎、義貞と妻鹿孫三郎下り紋三郎、いかけや十九郎と奴入助、石見太郎、冠十郎、五大院十郎、坂東文藏改澤村淀五郎、大詰所作[倭假名色七文字]官女、猿廻し、田舍娘、老女、源太、もゝ太郎、三番叟、七變化、大當り 狂言作者松島半次改名して櫻田治助と也

◎文化六己巳年

○正月元日左内町邊より出火にて〃山伏井戸迄燒る、中村座類燒す ○正月廿五日より森田座[御贔負新玉曾我]祐經に朝比奈、三津五郎、舞鶴と片貝けす半四郎、鬼王と八わた、伊三郎、順禮大慈大助實は井場十藏、祐成、粂三郎、とら御ぜんと月小夜團之助、時宗と關三郎、紋三郎、せふ〱小佐川七藏、小藤太と閑坊けす四郎五郎、京の次郎と梶原、冠十郎、四立目上るり[御慶初の鶯]常盤津連中なり、貳番目[花暦開紀行]隱家茂兵衛、三津五郎、足輕文平と以春女房お幸、伊三郎、大經師、娘おさんに半四郎、力屋手代と山伏高慢院、粂三郎、藝者お花、團之助、めく〱ほ傳兵衛、四郎五郎○三月三日より貳はん目[其往昔戀江戸染]八百屋お七の百廿七年忌追善 土左衛門傳吉と白酒賣喜之助、三津五郎、お七に半四郎、仁田四郎に伊三郎、紅屋長兵衛と荒井源藏四郎五郎、五尺染五郎、小性吉三郎、粂三郎、下女お杉、團之助、釜や武兵衛、新平、上るり[新姫房雛世話事]常盤津連中切大上るり[道行手向の花曇]竹本遊湖齋半四郎大できなり○三月廿四日より中村座[花似想曾我]鬼王と京の次郎、仁田四郎、高助、月小夜、舞鶴、仙女、江間小四郎、工藤祐つね、歌右衛門、大磯とら、路考、團三郎と閑坊男女藏、祐成、吉太郎、時宗三十郎、せふ〱と行氏妹八わた、龜三郎、成家妹近江におの江、伊豆次郎に龍藏、貳はん目[八百屋お七物語]戸倉十内、神田の與吉、高助、與吉女房お杉、仙女、釜や武兵衛と百性土左衛門、傳吉男女藏、お七と三浦屋小しつ、路考、戸倉吉三郎と前髪左兵衛、歌右衛門、辨長、三十郎、大切上るり[艶容錦畫姿]富本連中○四月十七日より[秋葉權現廻船語]月本圓秋と玉島幸兵衛、高助、おさい、仙女、二本駄右衛門と月本祐將、歌右衛門、玉島逸當に男女藏、御濃御せん路考、月本始之助、吉太郎、德嶋五兵衛、三十郎、大切所作事二代目路考三十七回忌追善狂言[邯鄲園菊蝶]女達と山姥仙女、けいせいと白拍子、子もり金太郎、路考、禿に多門○四月五日より市村座[靈驗曾我籬]朝比奈と田邊文太夫

に彦三郎、小藤太と船頭松に藤川水右衛門、幡隨長兵衛、幸四郎、てこしのせふ〳〵實は京の小女郎、白井權八と藝者お松に半四郎、のり頼と本庄助太夫、松助、すけ成、本庄助市と田邊文藏、源之助、八重梅、長兵衛女房お時、里好、時宗と石井源之丞、寺西閑心、榮三郎、せふ〳〵と郷左衛門娘お妻、傾城小紫、田之助、初役工藤左衛門とまむしの治兵衛、大岸主水、團十郎、北條時政と石川右內に門三郎、長兵衛忰長松、松之助、八幡三郎に船宿因幡屋助八、四郎五郎、五立目上るり「元爲見花所領椎」富本齋宮太夫大薩摩文太夫三弦杵屋阿佐吉なり此狂言大當りにて六月上旬迄興行す、

對面の場　　近江小藤太成家、松本幸四郎

正本書拔

一いゝや主人は御ぞんじない、河津のさいごは安元二年其時二人りは五つと三つ金石丸は十五歳祐親預りおかれたる三ケ庄を押れふしかへしあたへぬ不道人、主君はいまだ前髪の、其時小藤太、わる智惠をおすゝめ申て遠矢のまちがひ、河津は矢さきに落命も皆小藤太がなせる科主人の心に無き事までおすゝめ申は此成家これと申も工藤の家ひきおこさんず心づかひサかたきはかく云成家め、怨みがあらば身どもにおいやれ、うちうたるゝは武門のならひ、ことに仰せの役故に主人に代つて河津を射たるかたきは身どもだ成家だ年々歳々有ふれた、とゞの仕舞は友切丸、役にたゝぬ連判をおとして主人にばつさりと首打切られる敵役そんな古手な小藤太じやない、兄はだじやくに弟は山寺育の兒あがり、にぶき手ぎはの手の內で此成家に及がたつものかは…………たわけた事を

○五月七日より中村座「忠臣藏」平右衛門と本藏、高助、かほよとおその、仙女、おかると、おいし、路考、重太郎と伊吾吉太郎、彌二兵衛に判官、三十郎、小浪に龜三郎、力彌に若太夫七三郎、郷右衛門に、雷助、伴內に中東藏、山名に龍藏、直能公と石堂に中山七藏、師直、義平、彌五郎、定九郎、おかる母、となせ由良之助、歌右衛門、若狹之助に九太夫、早野勘平、男女藏○六月十二日より夏きやうけん市村座「日本振袖始」巨旦將束に幸四郎蘇氏將束に源之助、女房五百機と稲田姬田之助、素盞の尊に團十郎、岩長姬後に八岐の大蛇に四

郎五郎、うけもちの長と天津兒屋根の臣、門三郎、貳はん目「御祭禮端平帷子」魚屋團七に幸四郎、手代清七と三河屋義平次に源之助、助松主斗、水賣一寸德兵衛に團十郎、げいしや琴浦と磯之丞姉お辰、團七、女房お梶、田之助、釣舟屋三ぶ、四郎五郎、道具や孫右衛門、門三郎、角力大鳥佐賀右衛門、坂東大五郎後に三代目大谷廣右衛門又改て四代目坂田半五郎◎廿四日より「大内鏡」第四段目まで左近太郎と道まんに幸四郎、保名に源之助、やかん平に團十郎、榊のまへと葛の葉、同狐、田之助、よかん平、四郎五郎、惡右衛門に新平、庄司に門三郎、童子に松之助、上るり「道行信田二人妻」富本齋宮太夫連中○六月十一日より森田座「阿國御前化粧鏡」なかさいな尊者實は竹枝外道、佐々木後室お國御せん、與右衛門、一松助、夏狂言の一世一代天竺德兵衛、土佐の又平、座頭德市實は岩倉夜叉丸、不破伴左衛門、實は赤松政則、木津川與右衛門重井筒のかさね、榮三郎、名古屋山三と金谷金五郎、勘彌、田舍娘お玉實は傾城遠山、山三女房かつらき、影の小三、七藏、狩の元信と矢橋良助、花井才三郎○七月十五日より中村座「高尾丸賀纜」足輕井筒平四郎後に道哲和尚、細川勝元、高助、高尾と平四郎女房

おまさ、仙女、政岡と渡平女房おるい、路考、仁木彈正、後世渡平と賴兼、歌右衛門、今川仲秋、熊田源五郎、吉太郎、渡邊帯刀、三十郎、山名宗全、染井村金五兵衛、下り市川友藏、鬼貫、龍藏、雷鶴之助と男之助、男女藏、大切上るり「色楓緣辻駕」富本連中番附出候處高助病氣に付興行なく○同十九日より「戀女房」定之進女房櫻木に仙女、おく方眞弓御せん、路考、戀重の井、路考、乳の人重の井、仙女、由留木左衛門と奴逸平男女藏、鷺坂左内、座頭桂政、歌右衛門、鷲塚官太夫、彌惣左衛門、與作に吉太郎、ゆるき、右馬之助、三十郎、藝子いろは、龜三郎、江戶兵衛、中むら仲助八平次に東藏、藤浪におの江、與三兵衛に雷助、じねんしよ三吉に多門、貳はん目「姬小松」三の口切俊くわんに歌右衛門、お安、路考、龜王、三十郎、有王男女藏、なめらの兵七藏、深山喜藏、仲助、次郎九郎にらい助、おへん、多門○七月十五日より半四郎出勤に付市村座貳はん目「魂祭お七の追善」安森源二兵衛と土左衛門の傳吉、赤澤十內、幸四郎、お七、半四郎、仁田四郎、源之助、吉三郎、田之助、五尺染五郎に團十郎、荒井文藏に紅や長兵衛、海老名軍藏、四郎五郎、下女お杉、團之助、上るり「新媛房雛世話事」常磐津連中道

行手向の 花曇遊湖齋素柳○八月 七日より 高助病氣全快に付中村座「近江源氏先陣館」片向造酒之頭と佐々木の後室微妙、佐々木高綱、高助、四斗兵衞女房おまきと宇治の方、仙女、高綱女房かゝり火、路考、佐々木三郎と谷村小藤太、歌右衞門、北條時政、友藏、頼家公に吉太郎、三浦之助と片岡主計に三十郎、時姫と住の江に龜三郎、駕かき四斗兵衞 實は和田兵衞と四の宮六郎に 男女藏、同貳はん目 法界坊に 歌右衞門、永樂や娘おくに、路考、手代要助に吉太郎、渡し守新兵衞、三十郎、野分姫に瀧之助、也大切上るり「葱例跡色歌」富本連中○八月 十七日より市村座「ひらかな盛衰記」船頭松右衞門に幸四郎、 おふて、半四郎、ゑんしゆに松助、 源太に源之助、 重忠と景高粲三郎、千鳥に田之助、船頭權四郎、四郎五郎、松右衞門女房およし、いろは、貳はん目「富か岡戀山開」出村新兵衞に源之助、玉や新兵衞に粲三郎、小女郎に半四郎、おゑんに田之助、手代三四郎、四郎五郎、産毛の金太郎に團十郎、氏原勇藏に門三郎、萩の藤兵衞に新平、鵜飼九十郎と玉や新左衞門に幸四郎○八月十六日より森田座「千本櫻」よし經と彌左衞門彦三郎、川越太郎、

權太、忠信、源九郎狐、かくはん、三津五郎、梶原平三に伊三郎、しつかと權太女房に團之助、彌助と小金吾に紋三郎、辨けいに冠十郎、鄕の君とおさとに七藏、川連とお辻小川十太郎、貳はん目「返魂香」浮世又平彦三郎、女房おとく、團之助、土佐將けんに冠十郎、奴岡平に勘彌、大切に上るり「有土佐容形寫繪」常磐津連中仙臺座頭、ふじ娘鬼の念佛、辨けい 彦三郎、傾城に 團之助、牛若丸 勘彌、何れも大出來○九月九日より「返魂香」を一番目にして貳はん目「鬮取二代勝負附」高倉隼人、彦三郎、秋津しまに三津五郎、女房、團之助、行司庄九郎、伊三郎、鬼か嶽に冠十郎、秋つ嶋一子くに松にみの助、大切「廓文章」伊左衞門に三津五郎、夕霧にすけ田之助、喜左衞門に伊三郎、女房おせん七藏 ○九月十六日より市村座「高麗大和皇白浪」南彈寺龍山國師又浪人浦辻良助 實は石川五右衞門、幸四郎、五右衞門 女房おりつ、半四郎、岩木兵衞、松助、盜賊筑紫權六實は瀨川采女に源之助、小鮒源五郎 實は岩木藤馬之丞と岸田式部に粲三郎、小西是齋娘綾女實は芙蓉、皇女、田之助、久次と座頭升市實は鈴木隼人に團十郎、醫者道庵と三二の 五郎兵衞、女ぼう 此江にいろは、早の彌藤

次、門三郎、小西是齋と若徒左中太に宗三郎、山門の場大道具評判よし○九月十七日より中村座「鏡伊勢物語」荒川宿禰と紀の有常、高助、春日のしのふ、仙女、宿禰の女房およひち、路考、しのぶすかの小よしと名荒の亡魂、行平、歌右衛門、豆四郎となりひらに吉三郎、いかる加藤太と仕丁和田作に三十郎、惟喬親王ととらにようの八、（女藏改）邑右衛門、ゐつら姫に瀧之助、孔雀三郎に男女藏、大切「廓文章」伊佐衛門に歌右衛門、夕霧に路考、喜左衛門に高すけ、女房おさよに仙女○九月廿九日より「男一疋嫁入献立」黒船忠右衛門に高助、女房おまきに仙女、奴の小万に路考、獄門庄兵衛、八木孫三郎に歌右衛門、鎌倉屋五郎八に吉三郎、はんじ物喜兵衛、三十郎、手代三九郎に邑右衛門、傾せい瀧川に龜三郎、濱地源左衛門に男女藏、大切は高は文章なり○顔見世中村座「奥州牧雪驪」實方、三浦平太夫、福都入道、炭取、和田左衛門に彥三郎、平太夫女房雄しまとあこやのお松、實方奥方尾上の前、一つやの主おはまに仙女、伊賀十郎、善知鳥安方、安部貞任、町かゝへ目玉の歌、あさかの沼おし鳥、歌右衛門、平太夫女房あさか、年國妹おとり、貞任女房柏木、千束のまへ、あさか沼のおし鳥精靈、路考、八幡太郎、宗任、春米や庄九郎實は御舘權太郎と新羅三郎、源之助、佐伯藏人、荒川太郎、尾張屋三郎介、三十郎、修行者幡龍實は鎌倉權五郎、外か濱南兵衛、大黒師とし國、男女藏、上るり「妹脊鳥色源」富本連中市村座「貞操花鳥羽戀塚」源三位賴政と足輕はせ平實は長兵衛尉信連、高助、遠藤武者盛遠後に文覺法師、賴豪阿闍梨、駕かき太郎太實は長田太郎に幸四郎、渡邊左衛門亘後に重玄法師、船頭手取の與次、彌平兵衛宗清、三津五郎、けさ御せん、船君大和屋小松、傾城ときわ木實は逢鳴姬に半四郎、平清盛と義朝の靈梓匪子眞弓（松助改）松綠、崇德院、藏人滿久、植木うりの松實は朝長、（榮三郎改）松助、待宵侍從、蜑小磯、宗清妻白妙、田之助、澁谷金王丸猪早太、八丁礫喜平次、團十郎、あやめの前とかほる、團之助、伊賀平內左衛門、武藏左衛門、野間平實は橘七郎、四郎五郎、重仁親王（榮介改）榮三郎、三立目上るり「誰同噂仇者」常磐津連中、團十郎金王丸にて「暫」松錄清もりにて請、森田座「四天王嫗功」橋の隼人實は平井保昌、平井保輔、渡邊つな、馬士六藏、山姥、紋三郎、多田滿中、百性次郎藏、實は碓井貞光、

坂田公時、西の宮左大臣、勘彌、大切上るり「山二重山雪彩色」常磐津連中○此年十二月廿五日上方にて芳澤崎之助死す（行年二十五才）

◎文化七庚午年

○中村座「江戸春御攝曾我」祐つね彥三郎、鬼王に歌右衛門、月さよととら、侍女二の町、路考、小藤太と祐成、源之助、團三郎と朝比奈三十郎、小藤太女房竹しのとせふ〳〵龜三郎、八わた三郎と時宗に男女藏、大非君、仙女、貳はん目稻の谷家老淺山兵部と小菊半兵衛彥三郎、兵部娘小いな、仙女、鹿の子勘兵衛、與次郎、歌右衛門、井筒屋娘おつる、けいしやお俊に路考、稻野屋半十郎に井つゝや傳兵衛、源之助、奴關助と落稻藤四郎に三十郎、井筒屋傳四郎、村右衛門、男達嶋の勘兵衛、男女藏、五立目上るり「花兄弟壯士春駒」富本連中市村座「春榮松曾我」鬼王に高助、祐經に閉坊法印、幸四郎、祐成に三津五郎、片貝と犬坊丸、侍女あふみに半四郎、八わたに月さよ、田之助、義のり公と十內に時宗、松助、和田よし盛、松鍱、非人鄕太實は伊豆次郎、團十郎、とらに團之助、せふ〳〵にいろは、團三郎に四郎五郎、朝比奈、才三郎、（四立目上るり）「祐成寄書物」富本齋宮太夫連中貳はん目「心謎解色糸」半時二郎兵衛に幸四郎、赤城家中本庄綱五郎に三津五郎、次郎兵衛女房おとき、糸屋娘お房、半四郎、鳶頭五左衛門に松ろく、町々へお祭の佐七、松助、藝者おいとに田之助、神原屋佐五郎、團十郎、手代佐五兵衛、四郎五郎、山住五平太、宗三郎○三月狂言兩座共（樓門五三桐なり）○三月三日より中村座「樓門五三桐」久吉と大江之助に彥三郎、吳竹、路考、五右衛門に歌右衛門、高景に源之助、久須に三十郎、蛇骨ばゞあ、邑右衛門、久秋、七三郎、花橘に龜三郎、九重に龍之助、求馬に（市山七）藏、薗生の方、おの江、筒井順けい、彥左衛門、矢田平に男女藏、貳はん目二代目宗十郎三十七回忌狂言作者並木五瓶三回忌追善狂言「隅田春妓女容性」しから木勘十郎に彥三郎、梅の由兵衛に源之助、（大當り）でっち長吉と小梅、路考、米屋娘お君、仙女、赤手拭の長五郎、歌右衛門、源兵衛堀源兵衛、男女藏、げいしや小さん龜三郎、かなや金兵衛と同金五郎に三十郎○四月十四日より「女鉢木」白妙に仙女、時賴に彥三郎、源左衛門に源之助、同妹路考、上るり（上京に付名殘）遊湖齋素柳勤る○三月六日より市村座「樓門五三桐」久吉と大江之助

に高助、五右衞門に幸四郎、高景に三津五郎、おりつと蘭生の方に半四郎、蛇骨ばゝあ松錄、久秋に松助、九重に田之助、久次に團十郎、吳竹に團之助、彌太平と佐藤正淸、四郎五郎、花橘に小佐川七藏、采女、才三郎、順慶に宗三郎、貳はん目「勝相撲浮名花觸」足駄齒入權助に幸四郎、白藤源太、三津五郎、大當り けいしやお俊に半四郎、伴川主水に松助、同勝次郎、團十郎、梅田村お咲に田之助、潮田伴之進、四郎五郎、よみ賣三五郎、鶴十郎、四つ竹大當り權助女房おとり、宗三郎、大切上るり「風誘鐘四つ竹」富本齋宮太夫連中 ○四月十二日二代目訥子追善狂言「道成寺」二まく 石場の源五郎、同宿文珠坊、高助、同普賢坊に幸四郎、住持滿月上人に松助、召仕榮吉、實は菊地左衞門之助松助、源五郎妹おみつ、田之助、下女お竹實は久方姬、七藏、大切所作「澤紫鹿子道成寺」は○正月廿三日より森田座「八陣守護城」千島冠者と那丹左衞門に伊三郎、佐々木四郎と佐藤正淸に下り市川市藏、壹紋所に一文字を引後に鍛十郎と改名す 田舍娘お時、小田の春永姬、丹左衞門娘七衣、下り藤川友吉、八十瀨の前、丹左衞門女房しがらみ、下り叶三右衞門、後に嵐加納と云 佐藤主計之助に紋三郎、小田春雄と船頭なた右衞門實は兒島政次下り門藏、初め大谷又桐の谷又大谷後馬十 此村隼之助と三浦之助義村勇次郎、後室三うらと佐藤與方葉す へ下り三條浪江、片岡造酒之頭、仁左右衞門、名前斗りにて不出勤 貳はん目「刀屋半七浮名深川」石岡左膳に仁左右衞門、不出 初花傳七と小梅村六兵衞に伊三郎、刀屋半七に見てくれの彌八、市藏、げいしやお花、友吉、大福餠賣福藏、紋三郎、町かゝへ勘吉に勘彌、半七女ほう おりうと六兵衞娘おさきに三右衞門なり、刀屋女房お熊に門藏、高松新次郎に勇次郎、升屋武兵衞に龍藏、角力取勝五郎下り山村儀右衞門、大切上るり「戀路の眞崎」常磐津連中 此時狂言作者奈川七五三助下り ○三月三日より貳はん目「隅田川續俤」一はん目は八陣なり 淺山主膳、法界坊、野分姬ゆふこん、市藏、永樂屋娘おくみ、友吉、渡し守おかん、三右衞門、手代要助、勇次郎、野分姬、吾妻藤藏、道具屋甚三、伊三郎、市藏忍うりの所作評判よし 大切上るり「鐘鳴觽寫繪」常磐津連中 ○四月五日より「自來也談」萬里野破魔之助、速見次郎、座頭德市、盜賊自來也、市藏、津市の正と名越長兵衞、馬士才吉、中邑晋藏、伊三郎、長兵衞娘みとり、傾せい代々衣、友吉、傾城三千歲に三右衞門 ○五月五日より中村座「敵討相合袴」吉岡一味齋と月本武者之助に彥

三郎、娌おりく、斧右衛門女房お六に仙女、京極内匠後に佐々木岸柳、毛谷村の斧右衛門に歌右衛門、民右衛娘お雪と友次と娣お園に路考、佐々木官次郎と東傳右衛門に源之助、夏賀大藏大輔と喜田孫兵衛に三十郎、吉岡民右衛門と奴佐五平男女藏 〇六月朔日より「道行戀飛脚」富本連中一幕、孫右衛門に彥三郎、梅川と忠兵衛姉お町、路考、忠兵衛に源之助〇五月五日より市村座「繪本合法衢（ゑほんかつぽうがつぢ）」多賀俊行公と高橋瀬左衛門に高助、佐枝大學之助、立場太平次、幸四郎、問屋人足與五郎と高橋彌十郎 後に修行者合法に三津五郎、彌十郎女房さつき佐五衛門娘およねに半四郎、道具や後家おりよ、松錄、高橋孫三郎 後に道具や與兵衛女非人うんさりのおまつ、松助、福や仲居おぬい、田之助、小島林平、團十郎、道具屋娘お龜に闇之助、笹山官兵衛、百性佐五右衛門、四郎五郎、松田幸兵衛と法印に門三郎、大平次女房おうち、七藏、佐五右衛門女房お綿、萬作、下部曾平に才三郎、手代傳三と奴八内に新平、三度の與五七に 小次郎〇五月十一日より森田座「忠臣講釋」由良之助と喜内に伊三郎、勘平と十太郎、鹿間宅兵衛に市藏、おくみとおりへ、友吉、かほよと平右衛門女房お北に三右衛門、師直に九太夫、門藏、判官に義平勇次郎、後家お禮、浪江〇六月朔日より貳はん目「世話料理八百屋献立」濱松半十郎、伊三郎、でつち與茂太に市藏、おいく、友吉、八百屋半兵衛に勇三郎、女房お千代に三右衛門、母お熊に相島磯右衛門〇六月廿二日より市村座「閨扇墨染櫻（ねやあふぎすみぞめざくら）」聖源律師と班女御せん、白柏子花子實は班女御せん靈魂、北條時政、松錄、新清水清玄と強盜天竺冠者實は吉田松若丸、吉田息女櫻姬、隅田川諸白賣新作 實は 山田の三郎に松助、吉田下部軍助、粟津六郎、北條時五郎、團十郎、天竺冠者女房棧し、都鳥商人お琴實は櫻姬かしつき妻木、七藏、清水造酒之丞清玄、潮田太郎、才三郎、松井源吾、粂の平内、宗三郎、大切上るり「尾上の鐘忍夜語」常磐津連中〇七月十五日より後日狂言二まく上るり白拍子にて道成寺の仕形へ忍實の所作文合たる仕組後に松助勤る 〇六月廿四日より 森田座「男盛浪花壯（いかさかりなにはくたき）」獄門庄兵衛と忠右衛門母貞林、八木孫三郎、濱地源左衛門、門藏、奴の小萬、三右衛門、黑船忠右衛門、勇次郎、女房お政と喜兵衛女房おはま、浪江、はんじ物 喜兵衛に山村儀右衛門、大切堀川之段、猿廻し與次郎、勇次郎、お俊に三右衛門、傳兵衛に、勘彌

○七月十五日より「道中娘菅笠」中村座 江戸屋平右衛門、本田彌三左衛門、彦三郎、傾城重の井、仙女、奴逸平、歌右衛門、ひぬかのお初、關の小萬、路考、由留木左衛門にじゃんじょ三吉、男女藏、伊達の與作にわし塚八平次、源之助、足かる小筐、團助、かつきの小萬、三十郎、官太夫に村右衛門、げい子いろは、龜三郎、座頭杵政、傳藏、鷺坂左内に東藏○八月十七日より大切所作二幕「奉掛色浮世圖繪」曾我蛇足の筆畫精靈女猿廼しに仙女、同おそめ猿、多門、小原女と武內大臣、歌右衛門、神功皇后と禿、路考、平惟茂に源之助、戸隱山鬼女、彦三郎、船頭梶藏實は大館左馬之助、男女藏、曾我蛇足、源之助、侍女伏濱に龜三郎、長谷部太郎、山村儀右衛門、獵師日蓮わし藏、市川俊寛僧都の助、八郎爲朝、大五郎、海士かるも、瀧之助、同松風、村雨、彦右衛門、上るり富本連中 長唄富士田千藏、岡安喜三郎、三弦杵屋六左衛門、同勝五郎、同喜三郎、相勤る○八月十七日より市村座「當龜八幡祭」山崎屋與次兵衛、高助、倉岡㕝左衛門、橋本次部右衛門、駕かき甚兵衛、幸四郎、南與兵衛、夜こては賣南與兵衛實は南方十次兵衛、三津五郎、次部右衛門娘お照、奥女中せきや 實は甚兵衛妹おはや、半四郎、角力年寄幻竹右衛門、松鍒、山崎屋與五郎と野手の三、松助、下駄の市實は三原傳藏、團十郎ふしやあつま田之助、鴻野の後室繼橋御せん、藝者都實は甚兵衛女房濡髮おしつ、團之助、山崎屋淨閑、あつま兄鶖の長吉、四郎五郎、菁鳶佐渡七、才三郎、三原有右衛門、新平、下代權九郎、宗三郎○九月十五日より大切二まく○倉岡閑居捕手場、上るり之場「千種の花色世盛」常磐津連中、掌法印之助、娵雛子小松、松之助、あつまに田之助、與五郎に松助、大和團子賣月見の三五郎、三津五郎、女房おいし、半四郎、大和團子之所作大評判○九月九日より中村座「伊達遊花街風俗」外記左衛門と豆腐屋三郎兵衛、彦三郎、めのと政岡、仙女、赤松彦次郎、仁木直則に歌右衛門、高尾とことふふや娘おきち、奥方沖の井、路考、荒獅子男之助、男女藏、賴兼と細川勝政、源之助、下部浮世戸平、渡部民部、浮田十三郎、三十郎、山名宗全と榮御せん、村右衛門、鬼貫と八汐東藏、鶴千代に多門○同廿五日より「腰越狀」五斗兵衛、歌右衛門、女房關女、路考、泉の三郎源之助、龜井六郎、三十郎、義つね、七三郎○九月十三日より森田座「今昔小栗文談」馬士與五郎、光秀、市藏、春永と久よし、伊

三郎、お通姫と與五郎女房おつさ、友吉、光秀奥方關の戸、三右衛門、松下嘉平次、百姓九郎次、門藏、蘭丸に勇次郎、貳はん目「戀飛脚大和往來」忠兵衛、市藏、梅川に友吉、龜屋娘おすわ、三右衛門、孫右衛門、伊三郎、八右衛門に門藏、槌屋次右衛門に勇次郎、常磐津連中上るり「三度笠慈愛旅路(さんどがさじあいのたびぢ)」八月廿六日上方にて若女形芳澤あやめ死す年五十六才○顔見世、十一月朔日より中村座「雪月花黑主(ゆきとつきはなのくろぬし)」病氣に付仙女不出深草の駄六、紀の名虎、山城之助貞兼、大伴黑主と瀧口兵衛、歌右衛門、蟹まつ風、六部と女衛士信夫、鎌田屋娘おみち、路考、大伴黑主、行平、炭燒宗五郎、紀有常、下男三助、初名題源之助、孔雀三郎、山賊立烏帽子と女郎花の幽魂、鹿島の事觸實は磯馴松の精靈、そばやかつき伊の松、僧正遍照と檜垣の老女、松錄、小野小町、蟹むら雨、女馬士おなへ實は小町櫻の精、龜屋の娘分おさこ、田之助、賴風に紋三郎、金かし長左衛門、村右衛門、大伴の山主、五代三郎、與九郎狐、中間關内彦三郎、四立目上るり「松色連春駒(かはらぬいろつれてはるこま)」富本連中市村座「四天王櫓礎(してんのうやぐらのいしずへ)」伊賀壽太郎、室津權の頭、栗の木又次、良門、山かつ峯藏、實は碓氷定光、幸四郎、源賴光、肴賣三田の源實は三田源太、二瀨源六、渡邊の綱、山姥、三津五郎、三日月おせんと周防内侍、粧姫實は桝屋花女、快童丸、半四郎、女馬士小よし實は粧姫下り山下八尾藏、始山下宇源太後に坂東三つ三鬼同丸と賴信、櫻町中納言行長實は相馬良門、卜部季武、團十郎初名題傾せい若松實は玉琴、里好、物部平太、良門めのと七瀨、四郎五郎、和泉式部、二の瀨女房お峯、團之助、大切上るり「有則戀重荷(あるときにこひのおもに)」常磐津連中森田座「觀車雪高樓(ものみくるまゆきのたかの)」五代三郎、木地の木藏、老女あこめ、切禿實は融大臣の靈、高助、五代三郎、女房綾卷、女順禮お町、女商人小よし、風流櫛おつや實は稻荷山大方姫の神靈下り中山富三郎、般若五郎、廻國修行者龍山、文屋秋津、大伴黑主、男女藏、惟喬親王、土器師丸太郎實は伴の善男、山かつ市原の市鶴、市藏、小町姫實は丸太郎妹おつゆ、秋津の弟蔓丸、友吉、業平、衛士五郎又實は堀川太郎、下り尾上新七、炭燒宗五郎實は孔雀三郎、衛士五郎又實は荒川兵庫三十郎、宗貞に勇次郎、五代三郎、娘照業、瀧之助、大筆次郎に傳藏、小野良實に丸太郎、母お作、門三郎、一條の后下り中山龜三郎大坂嵐佐の八子嵐龜吉也大切上るり「想思戀重荷」富本連中○十二月四日仙女死す押上大運寺印殘す、淨篤院信譽道阿慈生居士行年六十才

◎文化八辛未年

○春正月中村座「銀杏鶴曾我」御所五郎丸とたいこ持才助、七兵衛景清、歌右衛門、行氏妹月さよ、せふ〳〵に奥女中三原、梛の葉、路考、祐成と梅澤小五郎兵衛實は八わた行氏、源之助、箱根無宿鬼王坊主と時宗に松助、工藤に松鎌、行氏妹十六夜後に大磯のとら、奥女中なす野、田之助、よし盛に村右衛門、朝日奈と家主次郎作に東藏、團三郎に紋三郎、半澤六郎に閑坊、鶴十郎、重忠と百姓助八、彦三郎、上るり「廓罠春環菊」富本連中二ばん目「東都名物錦繪始」素讀指南荻生去來、龜の井彌惣兵衛、彦三郎、秋月一角、神田の與吉に歌右衛門、けいしや小さん、路考、名月院に金江金五郎、源之助、髮結才三に松助、城木や娘お駒、田之助、智喜藏と中間關內、東藏、才三母おふくに松鎌、大切上るり「拂曉鐘淺草」富本連中○閏二月七日より貳はん目「草履打」岩藤に松助、お初に路考、尾上に田之助、足輕國平に源之助、歌平に歌右衛門、牛島主税に鶴十郎○正月十七日より市村座「陬蓬萊曾我」祐經と京の次郎、浪人關の畑右衛門、景清、幸四郎、鬼王と重忠、十郎祐成三津五郎、月さよとあこや、衣笠御せん、半四郎、五郎時宗と團三郎に團十郎、せう〳〵に大姫君、八尾藏、大磯のとらと片かい、里好、近江八幡之助、成氏と赤澤十內、四郎五郎、中老二の宮と梛の業に團之助、滿江に浪江、ぜんじ坊才三郎、朝比奈に門藏、曾我の祐信、荒木與次兵衛（始め坂東鶴右衛門後に坂東錦幸）、北條時政と伊藤祐清高助、貳はん目「仕立荍昔綺」佃屋喜藏、車力鐵壁武兵衛、幸四郎、城木屋手代治兵衛實は尾花甚三郎、手習師匠尾花甚五右衛門、三津五郎、城木やおこまと甚五兵衛娘おきさ、半四郎、中賣かふき傳助と津田彌十郎に團十郎、城木や後家おつね、四郎五郎、武兵衛女房お時に團之助、手代丈八に宗三郎、上るり「袖浦誓中借」富本連中○二月十八日より四代目海老藏三十七回忌、五代目白猿七回忌、六代目團十郎十三回忌追善狂言「助六緣江戶櫻」髭の意久、幸四郎、白酒賣三津五郎、揚まきに半四郎、助六に團十郎（是初役なり）門兵衛に四郎五郎、しら玉に團之助、福山のかつぎに才三郎、朝顏仙平に市川栗藏、やりてに坂東大吉、滿江に浪江○二月廿三日より「臺賀榮曾我」滿江に京の次郎、主馬の判官、高助、梛の葉御前實は手塚太郎女房唐糸、下女

お竹、富三郎、和田義盛と祐成、時宗、閉坊、男女藏、八劔彈正、左衛門と祐つね、市藏、鬼王に三十郎、いざよいと舞鶴、友吉、せう〳〵中山龜三郎、宇佐美十内に勇次郎、女順禮おます、瀧之助、團三郎に傳藏、近江に龍藏、八わたに門三郎、二はん目「花姿詠千金」荒尾惣右衛門に木津勘助、高助、三田や娘お仲、勘助母お幸、富三郎、角力取男女川浪五郎、千葉當太郎に男女藏、深見十左衛門と若徒次作に市藏、傾せい大淀、惣左衛門娘小わた、友吉、手代與兵衛に三十郎、勘助女房おりつに三右衛門○閏二月七日より中村座大切所作「英執着獅子」富三郎相勤る○三月五日より中村座「年々歳々沙石川」千の利久に彥三郎、石川五右衛門に歌右衛門、利久娘綾女、路考、片岡造酒の頭に關白久次、源之助、筑紫權六に松助、大江之助に松綠、侍女瀧川に田之助、傾城九重に下女おくほ、龜三郎、久秋、七三郎、五右衛門悴五郎市、若太夫明石○同十五日より二はん目「浮名種艶油」大村屋九八に彥三郎、お染姉お春と久松に田之助、お染に路考、肴屋太吉に松助、油屋淸兵衛、源之助、久作に歌右衛門、上るり「芳曇傘相合」富本連中大切所作「遲櫻手示葉七文字」歌右衛門七變化傾城座頭業平海士越後しい橋辨慶朱鐘馗なり○六日より市村座「醋話水滸傳」日本駄右衛門實は石見太郎、幸四郎、玉しま庄兵衛、三津五郎、奥女中豐浦後に奴の小萬、半四郎、大塔宮の靈、濱名左門之頭、若黨五郎八、團十郎、中川隼人、淡路法印、四郎五郎、玄番養女八重町實は駄右衛門女房おれん、團之助、仲居おやま、八尾藏、傾せい都路、藤藏、濱名主稅之助、才三郎、荒川玄番に宗十郎、大切所作「七枚續花の姿繪」常磐津小文字太夫連中長唄芳村伊十郎、富士田吉四郎、尾形幸藏、三弦杵屋正次郎、ふし間勘吉「七變化」女三の宮梶原源太汐汲猿廻し願人坊主老女關羽三津五郎所作事大當り○四月八日より貳はん目「お花半七」鳶の頭五郎兵衛、幸四郎、香川源十郎、三津五郎、女髮結おつゆ、半四郎、手代半七、團十郎、刀屋娘お花に團之助、白金や藤兵衛、四郎五郎○三月五日より「信仰記」木下東吉、高助、九帳の前、富三郎、山口九郎次郎と是齋に男女藏、松永大膳と佐藤正淸、市藏、春永と三好修理太夫に三十郎、狩野之助、下人新作に勇次郎、ゆき姬友吉、柴田權六、勘彌、傾城花橋、是齋娘おつゆ、瀧之助、東吉女房おそのと御乳人侍從、三右衛門、大切はまべの通り○同廿一日より貳はん目「花後日妓女風俗」鳥亭焉馬、高助、松村屋傳六、男女藏、

重井つゝの女房お梶、富三郎、船頭徳兵衛、市藏、重井筒や十兵衛、三十郎、重井つゝのおふさ、友吉○四月六日より「忠臣藏」石堂右馬之丞とおかる母、堀部彌次兵衛、高助、かほよとおかる、となせ、富十郎、十太郎と岩次郎左衛門、大舘左馬之助、男女藏、師直と勘平、與一兵衛と二、定九郎、義平、本藏、由良之助、七役市藏、若狹之助に平右衛門、三十郎、力彌とおそのに友吉、判官と彌五郎に勇次郎、小なみに瀧之助、九太夫、山村儀右衛門、郷右衛門、一もんじや、門三郎、伴内きりしま紋右衛門、八段目上るり「旅衣姿花娵」（常磐津兼太夫連中）牛飼けらい作に男女藏、加古川下部二八にきりしま儀古衛門、鹿島の事ふれに傳藏、小早女早咲お梅、友吉、彌次兵衛一子八十之助（助高屋）金五郎、（高助子なり）水茶や松之尾に作右衛門、龍藏、喜太八に市川新藏、石堂奥方繁町御ぜん、富三郎○五月五日より中村座「花菖蒲佐野八橋」秋田城之助、白妙大介、彥三郎、源左衛門、妻玉笹、萬字屋新造舟橋、田之助、三浦彈正、義村と鐵輪切豆吉、松絲、舟橋勇介、佐野次郎左衛門、松助、紀の國や文藏、佐の源左衛門、二階堂信濃之助、源之助、萬字屋八つ橋と勇介女房おそて、路考、三浦荒次郎、傳逸坊

後に二代目三浦荒次郎、佐野兵衛（大當り）歌右衛門、○五月朔日より市村座「伊賀越」和田ゆきへ、櫻木林左衛門、四郎五郎、傾せい花紫と丹右衛門女房笹尾に團之助、しづまと澤井城五郎、石溜武介、團十郎、奥方まゆみと政右衛門女房お谷、半四郎、佐々木丹右衛門、唐木政右衛門、三津五郎、澤井又五郎、母鳴海、譽田内記、幸四郎○五月十七日より「御註文仕入萬染」ときや左介、四郎五郎、けいしや小梅、團之助、在所娘おとみ、八尾藏、千葉司之助、梅澁うり市兵衛、團十郎、でつち長吉、長五郎女房梅のおよし半四郎、髮結金卿長五郎實は里見主計、三つ五郎○六月八日より「千本櫻」靜御ぜん、すけの局、小金吾、權太女房小せん、三右衛門、相撲五郎、猪熊大之進、（大谷）隈兵衛、辨慶、（きり）磯右門、義經と彌左衛門、勇次郎、川越太郎、忠信、源九郎狐、銀平、入江丹藏、權太、覺範、七やく三十郎、彌助に梶原、勘彌、上るり「關初音松島」常磐津兼太夫連中
○五月十八日（若女形）瀨川龜三郎死す（行年三十九才）專學教道信士（本所押上大雲寺）○五月廿七日より（若女形）市川瀧之助死す（行年二十一才）淺草幸龍寺男女藏の弟なり
「附錄」○六月十三日葺屋町結城孫三郎座にて子供芝

居興行「千本櫻」しづかに松之助、するがに關松三郎、龜井、澤村傳之助、早見藤太、市川銀太、辨慶中嶋勘藏、よし經、澤村源平、忠信にみの介、上るり「道行初音旅」所作（みの介松之助）錦島關文車（市川傳藏、市川照世、岩井喜代太郎、松本健之助、）兩方共常磐津 小文字太夫 二はん目「助六所緣江戸櫻」白玉に德之助、まん江に照世、福山かつき、松三郎、やり手に銀次、門兵衛に傳之助、あさかほ仙平、平次郎、伊久に喜代太郎、白酒うりにみの介、揚卷、粂三郎、助六、傳藏なり〇七月十五日より（三代目）坂東彥三郎一世一代名殘り狂言、一日替り初日「菅原」菅相丞と白太夫に彥三郎、八重とかりや姫、戸浪に田之助、くりから太郎に紋三郎、土師兵衛、澤村治之助、（故訥子にて源之介兄なり）よたれくり、大五郎、菅秀才に源平、左大臣時平に松綠、まれ世に東藏、薗生前と春におの江、齊世親王七三郎、櫻丸、春藤玄番、判官代照國、松助、かくじゆと松王丸、源之助、龍田とちよに路考、梅王に宿禰太郎、源藏、歌右衛門なり、後日狂言は、由良之助、勘平母、若狹之助、彥三郎、平右衛門、定九郎、本藏、歌右衛門、かほよ御前、となせとおその、路考、判官に喜太八、數右衛門に源之助、勘平に十太郎、義平に松助、おかる

におい し、田之助、師直と九太夫、松綠、直義公に七三郎、石堂と千崎、紋三郎、伴內と才兵衛、東藏、山名と了竹に坂東彥左衛門（師匠と共一世一代）鄉右衛門に七藏、伊吾に鶴十郎、小浪に粂三郎、力彌に銀次、よし松に榮三郎、二日共大入大評判にて予も菅原を見物せしに白太夫賀祝の幕にて彥三郎一世一代の口上を述て歌右衛門もともに口上を述る九月節句後迄興行し〇九月十七日より「嫐軍記」さかみと菊の前、玉織姫に田之助、平山に治之助、石屋娘小雪後に粂三郎、乳母はやしと彌陀六に松綠、庄屋孫作に彥左衛門、茂次兵衛に東藏、ふしの方、おの江、あつ盛と田五平に松助、よしつねと六彌太に源之助、忠のりと直實に歌右衛門、（大切彥三郎御禮狂けん）上るり「枝鶴紅葉賀（ゑだのつるもみじのことぶき）」富本豐前太夫連中、平惟茂、懸想文賣お高、不動明王に彥三郎、鳥差勘八、歌右衛門、仲居お夢路考（不出）帶刀先生に源之助、馬士胴吉に松助、傾城琴鶴に田之助、仲居お照、おの江、榮屋才兵衛に東藏、こんから童子に多門、せいたか童子に明石

〇七月十八日より市村座「玉藻前尾花錦繪（たまものまへおはなのにしきゑ）」金毛九尾の狐と殷の紂王と三浦之助、幸四郎、周西白侯と上總之介に三津五郎、花陽夫人と妲妃、玉藻のまへに半四

郎、班足太子と終南山の雷震、坂部和田五郎に團十郎、崇侯虎貢仲官と鷲塚金藤次に四郎五郎、般の段帝乙王の后姜皇女と上總之助女房、常磐井、團之助、初花姫に八尾藏、上るり「苅枕露濡事」常磐津連中、貳はん目「謎帶一寸德兵衛」大島團七に幸四郎、一寸德兵衛に三津五郎、女房お辰と兵太夫娘お梶、半四郎、道具屋清七後に釣舟三吉、團十郎、足輕生習の八後に三川屋義平次に四郎五郎、奥女中琴浦に團之助、大鳥佐賀右衛門に門藏〇九月十六日より「千本櫻」辨慶と彌左衛門に四郎五郎、典の局と若葉の内侍、團之助、龜井に才三郎、土佐坊に善次、入江丹藏に大之進、栗藏、駿河に新平、卿の君と小せんに藤藏、川連法眼に與次兵衛、相摸五郎に門藏、お辻、浪江、小金吾、銀平、忠信と源九郎狐に覺範、彌十郎、おさと靜御前、半四郎、彌助によしつね、三津五郎、權太に川越太郎、幸四郎、上るり「道行初音旅」常磐津連中〇八月八日より**森田座**「漢人韓文手管始」幸才典藏、男女藏、傾城高尾に三右衛門、小原惣左衛門に住僧敎善、門三郎、呉才官に小治郎、伴僧快典、若黨四郎平、きり儀右衛門、沼津千嶋守、濱田幸十郎、勇次郎、十木傳七、三十郎、奥方照葉と傳七女房おさち、富三郎、下男久六に佐原和泉之助、勘彌貳はん目「大内鑑」道滿とやかん平に男女藏、庄司に門三郎、童子に淺尾萬吉、勇次郎一子なり保名に勇次郎、與勘平に三十郎、くすの葉と同きつねに富三郎、大切上るり「今昔同中富」常磐津兼太夫連中〇同十六日より二幕「縫習帶屋信濃屋」若徒團助に男女藏、おはんに傳藏、お絹に三右衛門、幸之進と幸左衛門、勇次郎、長右衛門に三十郎、お半母、富三郎〇九月十七日より「本朝廿四孝」鎌信に男女藏、百姓みの作と武田勝頼に慈悲藏、女房おたねに友吉、井上新左衛門と百姓横藏に市藏、高坂妻唐織に三右衛門、武田信玄に門三郎、常磐井御せん、景勝と越名たん正、勇次郎百姓慈悲藏に三十郎、勘助母に越名妻入江、媳濡衣、富三郎、貳はん目「俊寛双面影」俊寛市藏、有王に男女藏、龜王と瀬の尾太郎、三十郎、お安に富三郎、丹左衛門に勇次郎、千鳥に官吉、丹波少將市川の鶴三郎、次郎九郎になめらの兵、きりしま儀右衛門、深山の喜藏に小川十太郎、小辨に萬吉〇十月六日より「江戸紫流石男氣」白井權八に長兵衛女房おちへにすけ半四郎、幡隨長兵衛にすけ幸四郎、大切上るり「積戀雪關扉」常磐津連中山か

つに幸四郎、半四郎と富三郎にて女戻駕のもやう大出來なり、坂東彦三郎（當年五十六才なり）一世一代大當りにて十月下旬迄大入目出度舞納して上京し、翌年六年相勤、翌酉の秋大坂中の芝居にても一世一代狂言に菅原に（菅相丞、白太夫、源藏）三役也、同年上京して四條南の芝居にて又々一世一代にて忠臣藏に由良之助一役にて首尾能相勤、夫より剃髪して樂善と名號し今に存命なり

○顏見世 **中村座**「吾嬬花岩井内理」秀郷と粟島出來作、將門御乳人繼橋、念佛六兵衞、家主太兵衞、高助、將門に舟橋中納言御厨六郎、（一寸法師こと）ちよこの千代古平に下總屋馬右衞門、歌右衞門、逆髪の皇子と強盜袈裟太郎に上平太貞盛、左官小手藏、松助、純友しこ修行者月山、鋤鍬土之丞、市藏、玉水姫と傾せい難波津、白拍子春花（下り）嵐富三郎、武藏五郎、貞世と下部閼平、能太夫勘春、歌之丞に三十郎、傾せい逢坂實は將門妹敷妙、市子おゑん、官吉、藤原忠文、佐の太郎、禪門淨久に伊三郎、將門妾七綾後に瀨田龍女、手木の内侍、女馬士お岩、松崎兵衞娘千代、傾城花紫、半四郎、（四立目上るり）「鄙都梔玉簾（ひなのみやこもみちたまだれ）」常磐津連中（此時市藏市川に改め紋も〔紋〕を付る是迄師匠團藏方にわけ有て市の川と稱しけり紋〔紋〕なつけゐたり）○**市村座**「嚴島雲宮幣（いつくしまゆきのみてぐら）」守人親王（暫うけ）長田太郎、船頭五六實は壬生の小猿、いかけ師宇治の惡三郎兵衞、田原又太郎、幸四郎、渡邊瀧江と額政（鹽やき點者）源三、三津五郎、あやめの前と喜平次女房おみち、常盤御せん、矢取娘おはま、路考、平清盛（大當り）義朝、八丁礫喜平次、汐燒與惣實は鷹の精、宗十郎、（源之助改）賤の女横笛、豐作妹小女郎、汐汲小まつ實は鷹の精に田之助、澁屋金玉丸「暫」義平、髪結の定、長谷部長兵衞信連、團十郎、宗清女房白妙、長田妹やとり木、團之助、伊賀平内左衞門、老女八雲に百姓豐作實は七つ松鄕右衞門、玉春、瀧法印實は少納言信西四郎五郎、在所娘おわた、多門、鹿島事ふれ鑁助、惡三ふ女ほうおとみ、（中山）富三郎、（澤村治之助改金平）貳はん目上るり「濱千鳥夢の睦言」富本連中（此時狂言作者勝俵藏改て鶴屋南北となる）**森田座**は休なり（此年羽州最上にて山下民之助死す）霜月頃大坂角の芝居角丸竹田若太夫と四座共類燒す

◎文化九壬申年

◎春**中村座**「名高富士根曾我（なにたかきふじかねそが）」閉坊に朝比奈、近江小藤太、歌右衞門、鬼王に市藏、とらに官吉、禪師坊に紋三郎、伊豆次郎に伊三郎、祐信に七藏、八わたとどう三郎に三十郎、せう／＼と二の宮に嵐富三郎、祐成に松助、時宗に十六夜、半四郎、工藤に高助、（近江八幡石段立當り）

「臺頭霞彩幕」西屋半七、厚金次郎太夫、歌右衛門、鏡波茂右衛門、市藏、おつう（市川助藏 市藏の子なり）みのや庄介に伊三郎、百姓次郎作に七藏、笠松角太郎、今市屋善右衛門に東藏、野花や勘助、門藏、あをやぎ御前におの江、田宮右内に野花や右内に三十郎、半七言號おそのに富三郎、東金茂右衛門に松助、美の屋三勝、妙貞尼、半四郎、腕の喜三郎とみのや半左衛門に高助、貳はん目「其常盤津仇兼言」常磐津兼太夫 相勤る、此狂言大出來大當りなり**市村座**「初上松鶯曾我」祐經に十郎祐成、宗十郎、しとら實は京の小女郎、田之助、法橋金成、四郎五郎、月さよ、富三郎、犬坊丸實は團三郎、傳藏、十六夜、粂三郎、舞つるや女房お幸、團之助、時宗、團十郎、せう／＼に路考、八わたに朝比奈、三津五郎、近江と鬼王、幸四郎、上るり「三津朝床敷顔觸」常磐津連中（とら田之助にて川津の人形をもち せう／＼路考にて又野人形をもち朝比奈三津五郎行司にて三人せり出し）大當り貳はん目「色一座梅椿」遠山甚三郎に宗十郎、げいしやお宮、かつしかのおしすに田之助、油の九平次に四郎五郎、天滿や女房おきた、富三郎、糞者傳馬町おはつに團之助、木場の文藏に團十郎、與兵衛女房おつると十右衛門女房おりく、路考、かつしか十右衛門に三津五郎、小松茶うり仁太と引窓與兵衛、幸四郎○三月五日より**中村座**「清水清玄面影櫻」清玄法師、彈正左衛門に歌右衛門、奴淀平と廣澤屋長右衛門に市藏、甚五郎妹おつると清水清玄、宮吉、細川勝元、尼妙領、伊三郎、奴壬生平に彫物師新助、廣澤や彦太郎、三十郎、櫻姫に富三郎、奴鳥羽平に八つ岩源五郎、松助、水茶やお梶、廣澤屋娘お糸、彌生御ぜん、半四郎、左り甚五郎、鳴瀧民助、高助（大切所作）「假紫鹿子道成寺」上るり「道行拙振袖」常盤津兼太夫白拍子糸遊に歌右衛門、同宿有縁坊に高助、無縁坊に市藏、正覺坊に東藏、かくれん坊に儀右衛門、大館八郎に松助○四月八日より「龜山染讀切講釋」大岸藏人、歌右衛門、藤川水右衛門、市藏、藏人女房宿り木、宮吉、石井下部袖助、紋三郎、文藏娘おみつ、松之助、杉本木庵に大和屋清九郎、伊三郎、石井兵衛に七藏、奥野三平に門藏、十右衛門女房おとみと端の寮のお清、おの江、石井源藏、淺田屋十右衛門、三十郎、木庵娘おさよと源之丞、富三郎、田邊文藏に松助、石井養女千束、文藏女房おしつ、半四郎、磯上主、兵衛女房岩瀨、高助、貳はん目は清玄庵之場と道成寺貳幕是迄通りなり○三月五日よ

り「姿花江戸伊達染」頼兼に 角力取鳴神梶之助、宗十郎、道哲妹小はきに 政岡、田之助、山名持豐と八汐、浮世豆腐や戸平に四郎五郎、千松に籔助、鬼つらに宗三郎、仲居お大賓は片桐彌十郎、妻象潟、富三郎、井筒女之助、傳藏、鶴千代に多門、道益女房小卷、新平、榮御前と岩手山 修驗者萬海、龍藏、蓬萊や 兵衞實は汐澤丹下に雷助、新造薄雲、粂三郎、沖の井と高尾に團之助、荒獅子男之助に 細川勝元 團十郎、とうふや娘お谷、路考、角力取雷鶴之助と渡邊民部に、三津五郎、醫者堤道哲と仁木彈正に幸四郎、武ばん目瀨川仙女一周忌 追善狂言にて「其俤淺間嶽」巴之丞に 源之助、音羽のまへに田之助、和田五郎に團十郎、傾城奥州の亡魂に路考大當り 大切 深見艸相生獅子 富本連中○四月十一日より二幕出る「嫗山姥」煙草屋源七に源之助、八重桐に田之助、澤瀉姫、粂三郎、快童丸に團十郎、碓井貞光に幸四郎、○四月十四日より森田座「友集重島原細記」七草四郎と百姓 次郎作下り 坂東重太郎、奴紋平、天木主計下り中山 紋十郎、奴茶屋 娘お澤と北條奥方岩倉に里好、傾城村雨に下り三桝粂三郎、安達小文次、下り大谷官次郎、原田軍藏、こし元若菜下り坂東國五郎、百姓に下り中山門三下り嵐他平下り大谷 萬九郎下り豐松半三下り佐の川咲次郎下り桐山瀧五郎下り市川らん平下り澤村岩吉、東條左衞門に 勇次郎、甚太夫娘お里に 三右衞門、妼下り市川秀之助、嵐彌三郎、左京姉しからみ 萬作、東條息女桂姫、中山龜三郎、關白息女光姫に下り坂東花妻、足利島次郎に下り花桐德三郎、三宅一當下り中山 新七、石垣丹平、鐵橋黑八に下り桐山紋次、松永監物、同市正、下り中山豐五郎、傾せい大淀に此時不下佐の川花妻始め藤川咲之助 奴岡平、柚甚太夫、下り大谷友右衞門、鹿子木左京に 勘彌、二はん目「伊勢音頭戀寢劍」福岡貢、重太郎、藤ぬま左膳に紋十郎、料理人喜助、友右衞門、植木主水に勇次郎、貢伯母、三右衞門、孫太夫娘さかきに龜三郎、おこんに坂東花妻、正直正太夫に 紋治 ○五月廿五日 より「皐月連歌戀句白浪」此木藤吉、髮結鎌倉の 五郎八に歌右衞門、山口九郎次郎と黑船忠右衞門に市藏、こしもと几帳と傾せい瀧川に官吉、早野彌藤次、伊三郎、五右衞門娘お辻、松之助、森の力丸に喜代太郎、小田春永と 獄門庄兵衞に 三十郎、早枝犬喜代、八木や孫三郎、松助、東吉女房お竹と仲居おりつ半四郎、光秀とはんじ物喜兵衞に高助、五右衞門一子五郎市若太夫明

石、市村座「菖蒲太刀利生鑑」萩生左司馬、但馬や清十郎、宗十郎、千代倉のお品、堀口娘小富に田之助、岩淵權兵衛、さぬきや金介、四郎五郎、堀口女房竹川、富三郎、後室蘭の方と源八女房お辻に團之助、桃井生駒之助、象頭山の相撲坊に團十郎、左司馬奥方柳川、但馬屋娘お夏、路考、早川藤兵衛と民谷源八、三津五郎、狩人五郎右衛門と堀口源太左衛門、幸四郎、此狂言宗十郎病氣にて與行なく〇同十一日より「妹脊山」入鹿大臣、幸四郎、求馬と大判司に三津五郎、ひゐな鳥とおみわ路考、橘姫と久我之助に田之助、めどの方、富三郎、貳はん目、ふか七、團十郎、後室定かに團之助、お淸所お村、四郎五郎、後家おなる、宗三郎、貳はん目「誂紺子借屋」おはんに田之助、幸之進同幸左衛門、四郎五郎、針の宗兵衛に宗三郎、おはん母おかや、富三郎、香具や才次郎に藤藏、筆賣段助に團十郎、お絹に路考、長右衛門に幸四郎、上るり富本連中〇五日より森田座「壇浦安達原」安部の貞任と同女房袖萩に重太郎、うとう安方、紋十郎、くし毛の內侍、坂東花妻、八幡太郎、勇次郎、奥方敷妙、三右衛門、うとう女房お谷、里好、宗任に友右衛門、貳はん目「さる程重情

一諷」猿廻し與次郎に重太郎、お俊に花妻、傳兵衛に勇次郎、越後じゝ、三吉に照世、手代權右衛門に友右衛門、大切上るり「花妻浮名井筒顏」常磐津連中〇五月廿八日より切狂言坂東重太郎上坂名殘「新累世俗話」豆腐やかさねに重太郎、三郎兵衛に紋十郎、傾せい高尾、三桝粂三郎、絹川谷藏と百姓與右衛門に勇次郎、てつち豆太に紋治、百姓金五郎に友右衛門、賴兼公に勘彌〇六月十六日夏きやうけん市村座「京詣雷神櫻」賤女綾羽と女衛士とこよ實はみそろか池龍女、雲のたへま、田之助、八劍玄蕃に宗三郎、秦の民部と白雲坊、百姓萬兵衛に大五郎、小野左衛門春道と桂團之丞 龍藏、小野の息女錦の前に粂三郎、賤女くれ羽と女衛士かまわ實はみそろか池龍女に團之助、早雲王子と粂寺彈正、阿部の春行、雷神上人、團十郎、貳はん目は一日替り初日は「其姿〱〱」奥澤主計と寺西閑心に團十郎、傾城小紫、白井權八、田之助、長兵衛女房お時、澤田おゆりに團之助、新造八重梅、粂三郎、本庄助八に金平、同助市、龍藏、絹うり彌市、新平、後日は「散書仇名〱〱」權淸と大工六三郎、團十郎、げい子かしく、花賣かゝあおりく田之助、仲居おその、團之助、廻し七

郎介、宗三郎、二日共上るり富本豊前太夫連中○六月十八日より森田座「行平磯馴松」太郎七女房おせん下り川さの花妻、村雨姫、粂三郎、此兵衛と、太郎七母おたく、豊五郎、松風姫、龜三郎、小ふじとかちや太郎七、勇次郎、破軍太郎におなへ、行平、かん彌、大詰所作「形見忍夫摺」長唄岡安喜三郎、芳澤伊久四郎、三弦杵屋六三郎也、貳はん目「戀飛脚大和往來」龜屋忠兵衛と針立道庵、樋口水右衛門、荷物こふの傳が母、つるかけのち地兵衛、俄ぶけん福右衛門、新口村孫右衛門、七やく勇次郎、龜屋利兵衛とつちや次右衛門に豊五郎、梅川に花妻○七月廿五日より壹番「戀女房」道中双六の段、重の井に花妻、彌惣左衛門に豊五郎、三吉に万吉、由留木左衛門に勇次郎、與作に勘彌○七月十五日より中村座「忠臣講釋」師直に重太郎、太こ持次郎左衛門に百姓彌作、萬歳土地右衛門、九太夫娘おくみ由良之助七やく歌右衛門、九太夫、勝間宅兵衛、市藏、傾城浮はし、彌作女房おかよと平右衛門女房おさた、官吉、石堂縫殿之助と竹森喜太八、紋三郎、右馬之丞に喜内女房おわし、原鄉右衛門、天川屋義平、伊三郎、判官と彌五郎に三十郎、力彌と石屋五郎太、松助、娫侍從と十太郎、女房おりへ、かほよに半四郎、喜内におれい、數右衛門、高助、六段目、揚屋幕にて上るり「道行拙振袖」常磐津兼太夫にて近江次郎右衛門人形出つかい評判よし市村座は七月興行なく○九月朔日より「菅原」御臺所梅園萬と竜田に富三郎、時平と白太夫に玄蕃、四郎五郎、土師兵衛に宗十郎、希世に龍藏、はるに藤藏、かりや姫と八重に粂三郎、菅相丞に千代、團之助、梅王と判官代に團十郎、櫻丸と戸波に路考、かくじゆと源藏、三津五郎、宿彌太郎、松王、幸四郎○同九日より中村座「ひらかな盛衰記」船頭松右衛門に歌右衛門、梶原平二と重忠、市藏、松右衛門女房およしに友吉、集人に伊三郎、かし原源太に松助、千鳥とおふで、半四郎、ゑんじゆと權四郎に高助、二立目歌右衛門大阪登り名殘狂言「再春菘種蒔」上るり富本齋宮太夫改豊後路清海太夫連中、長唄芳澤伊十郎、三弦杵屋庄二郎、かけ合にて歌右衛門呑出し三番叟の所作、先年中村秀鶴のせし形なり、大切に「紅葉䄂名殘綿繪」澤瀉姫に友吉、太田十郎、儀右衛門、娫お俤に東藏、快童丸に、煙草屋源七、三十郎、八重桐後に山姥、杣切斧右衛門に歌右衛門、上るり常磐津文字太夫

勤る○八月廿日より森田座「其往昔戀江戸染」八百屋お七百三十年忌下女お杉に花妻、紅長に海老名軍藏、紋次、八百屋後家おたけ市川門三郎、釜屋武兵衞と荒井傳藏、中山門三、土左衞門と傳吉に才三郎、小姓吉三郎に龜三郎、上るり「新版房雛世話事」常磐津連中、手向草露の寫繪遊澗齋、お七に粂三郎、花賣湯嶋の五郎吉、赤澤十内、仁田四郎、勇次郎、白酒賣喜之助、五尺染五郎、勘彌○九月九日より「扇矢敷四十七本」娘おたか後におらんの方、與茂作女房おかよ田之助、かほよと彌次兵衞娘おつまに花妻、近藤源四郎、紋次、植木屋杢右衞門に堀部彌次兵衞、門三郎、師直に由良之助、八十助、小寺十内と堀部安兵衞、才三郎、喜太八妹おいち、彌二郎兵衞娘おとみ、龜三郎、百姓與茂作、小間物屋源七と鹽谷判官に勇次郎、上るり「重陽謎の常磐津」常磐津兼太夫貳ばん目お七是迄の通なり

〔附錄〕○正月廿日より堺町大薩摩吉右衞門座にて子供芝居「ひらかな盛衰記」梶原平二に照世、ゑんじゆに關松次郎、源太に源平、千鳥に松之助、上るり「禿紋日雛形」常磐津小文字太夫松之助みの助おわしまの所作事相勤る「容春小原小女」照世小原女の所作長唄岡安喜三郎、

芳村伊久四郎、三弦杵屋和吉也、切狂言「姫小松」お安に照世、次郎九郎に市川平次郎、木藏に市川銀太郎、なめらの兵に松次郎、小督局岩井徳次郎、所化元けつに坂東新作、小辨に山下金太郎、有王に中嶋勘藏、龜王に源平、俊寛にみの助○十月三日よりふきや町結城座にて「江戸紫流石男氣」長兵衞に金五郎、助太夫に子之助、彌市に源平、八内と寺西閑心に照世、小むらさき多門、權八におとき、松之助、二ばん目「睦月戀手取」富本連中景政に金五郎、よし家に源平、春駒に多門、松之助なり（此年上方にて若女形）澤村其答死す（八月廿五日始山下八尾三、三十六才）三桝徳三郎死す六十三歳、嵐三八も死す○顔見世狂言中村座「江戸櫻惠潤高德」和田新左衞門と備後三郎、高德とよし貞布袋尙和の靈像に三津五郎、八尾の顯幸娘渚と綾童子の畫像、勾當内侍に田之助、千種姫山下八尾藏、士人形傾せい梅か枝、多門、稻荷山のお福、市川助藏、同西行法師にみの助、山賊夜叉丸に長崎勘解由左衞門に大學、駕かき勘八、市藏、大塔宮かし付者瀨、顯幸妻槙の葉、おの江、忠冬（邑右衞門改）友藏、大塔宮と淵部伊賀守、恩地左近、熊手ばゞあ、吉田屋源公實は妻鹿孫三郎、松助、小山田太郎女房磯浪、櫻木の

精、備後三郎女房小櫻、勘八、妹おきし、錦童子畫像と深草人形賣おきよ實は伊賀局、路考、八尾別當顯幸と畑六郎左衛門、誹諧師來山、實は楠正成、高助（四立目上るり）富本連中勤る「靚今樣舞臺」大切上るり「國花花詠雪」常磐津連中勤る南村座「御攝恵雨乞」小町寺の玉苗と女六部お文實は伊勢侍從、五代三郎女房鵜羽、女衞士おつゆ、團扇うりお澤、吉野の乙女、團之助、檜垣の老女、文屋宮田丸、若黨世平、才三郎、十駄の駄六、秦の武虎、醫者よふかん大五郎、橘の登兒代丸と小野寵子丸、福壽狐、萬吉、市村竹三郎（後に四代目坂東彦三郎）山賊立烏帽子（中村歌藏、不下）須磨の次友、荒川宿松、雷助、荒卷甘四郎、山賊闇兵衛、門三、大江岩戸左兵衛門、高安左衛門、奴平藏、龍藏、小女郎狐、福若五郎妻さゝ浪、藤藏、孔雀三郎、帷喬親王、喜せん法師玉造小町實は大伴黒主、仕丁五郎又實は深草少將、勇次郎、次郎作女房小雪非倚姬、小原女、おみき實は小町櫻精靈、業平、官吉、順禮おせん實は小野小町、丸太夫娘おりき粂三郎、（始名題）五代三郎、人形や次郎作實は紀武住、足輕入平實は五代三郎、千束狐、仕丁太郎又實は樂原興範、三十郎、貳はん日上るり「戀いろは徒盛娘」大切「琴緒象天人」南方共富本連中森田座「雪芳野來人顏鏡」足利尊氏伊賀局、松ろく、敷嶋姬（德之助改）米三郎、大森彦七、楊名之助、女衒五郎四郎實は宇都宮彌三郎公綱、四郎五郎、五代院宗茂、男げいしや長吉に宗三郎、下部鬼相山平に紋次、革いさ賣十兵衛、印南左近、用舍侍甲斐口、鶴十郎、女小童雪實は龜壽丸、松之助、舟田兵庫つま雪の戶、花妻、よし貞、八百藏（不出）篠塚伊賀守、栗生左衛門、面賣壬生作實は妻鹿孫三郎、肴賣海老さこの十次に亘新左衛門、畑六郎左衛門、成田不動の靈像、團十郎、千枝狐、匂當內侍、はした女むらし實は錦の前、富士白の抱達引およ り、せいたか童子、文書女まさこ實は千枝狐半四郎、長崎勘由左衛門、相摸次郎、時行、仕丁又六實は由名惡五郎、附馬口の子小兵衛、舟田兵庫正國、こんから童子、幸四郎、名和又太郎、勘彌、（四立目上る）り「女文字色英」常磐津連中（大切）上るり「戀罠奇掛合」豐後路淸海大夫勤る

しばらくのつらね　篠塚伊賀守定綱

七代目
市川團十郎自作

東夷南蠻北狄西戎四夷八荒天地乾坤の其間にある

べき人の厄介小僧、運は天滿に折を得て帆は十分に礎石は北きた〳〵北野の梅ならで柿の素袍の下手若衆言葉の木守やく此船成就の神樂月一番太鼓に皆目さめ見る周の代の正月に雜煮の腹で花道へ罷出たるやつがれは新田左中將義貞が股肱耳目と呼れたる篠塚伊賀守定綱當年積て廿二歳のぶんをして市川流い手習ひ坂に車の横筋違見かけた不肖に暫と稚馴染の揚まくから一聲海老が烏帽子ほんの口眞似口拍子いさみこんだる、ろびやうしに龍頭鍋首の金冠白衣背羽屋のおぢい樣を寒の師走に引出した不孝者だと何れも樣呵つこなしでムり升おしゐは赤い顏瀧屋新酒の花は七つ梅隱居が鼻は五代目の船玉帆玉目ばち〳〵我等眼玉のふぬけ玉下手がこつちの取得にて壯年積て來人の顏見世八千余町の大湊新艘おろしの入船若衆とはゝ敬白

○文化九申の十一月廿九日四代目瀨川路考死す、循定院環譽光阿禪昇居士行年三十一才本所押上大運寺○同十二月八日四代目澤村宗十郎死す、善覺院達譽了玄居士、行年二十九才淺草誓願寺

㊀文化十癸酉年

○正月十一日より中村座「春駒勢曾我」祐つね、滿江舞鶴や傳二、重忠、三津五郎、八幡に若太夫七三郎、久須美、山下八尾藏、伊豆次郎、赤澤十內、非人まむしの五太、よし盛、市藏、小藤太に七藏、團三郎に東藏、宇佐美におの江、劔澤彈正に官藏、祐成と時宗朝比奈、三保の谷に松助、かむろ小蝶に多門、敷妙姫に二の宮、とら、せふ〳〵、田之助、鬼王と順禮七郎兵衞、時政、景清、高助、五郎丸、明石、四立目上るり「隈取霞帶曳」常磐津連中、貳はん目「初便廓玉章」古手買忠三郎、母妙閑、五百崎甚內に高助、龜や忠兵衞と孫右衞門に三津五郎梅川と龜屋娘おすわに田之助、藝者繁吉、多門、槌屋次右衞門に松助、丹波屋八右衞門に市藏大切上るり「三度笠故鄉春雨」富本連中勤る○二月五日より「娘景清八島日記」三の口切手越の口入佐次、三津五郎、人丸に田之助、景清に高助○同十一日より大切「澤紫鹿子道成寺」石場の源五郎、三津五郎、同宿櫻ん坊、金五郎、文珠坊に市藏、あんす坊みの助、下女お竹實は久方姬にせ川銀次郎、滿月上人七藏、てつち榮吉、實は小山左門之助、傳藏、源五郎妹おはつに田之助、同宿普賢坊に高助、上るり「未咲花契言」常磐津連中○正月十七日より森田座「例服曾我伊達染」比企頼員、常陸

坊山人、鬼王、奥女中大町、浮世どうふや戸平實は相澤丹三郎、四郎五郎、せう〳〵と奥女中山の井、十六夜、米三郎、梶原奥方にゑびらの前、せげん助右衛門、長沼官兵衛に 宗三郎、大藤内と百足や金兵衛、宗益女房若江、紋次、宿引、閉坊、伊之助、安田源五郎、鶴十郎、梶原平二景高喜代太郎、犬坊丸、松之助、鶴千代に市川助藏、大場宗益、おたすけおしま、箱根の兒朝日丸に儀右衛門、古郡外記左衛門、累が乳母おかや、曾我の祐信、門三郎、とらとほふらいや女房おてん、祐經妹梛の葉に花妻、祐なり、時宗、狩の助宗茂、百姓金五郎、三浦荒男之助、源太金吾、頼家公、團十郎、三浦や新造高尾、與右衛門女房かさね、めのと政岡、女達つき小夜お谷、二の宮、あこや、政子御せん、半四郎、祐經と下男重三郎、鴫立澤の土手の道哲後に羽生村與右衛門、京の次郎、劔澤彈正左衛門直則實は伊達の次郎近平、男達隱家の茂兵衛、景清、幸四郎○正月廿六日より市村座「花挿俟曾我」梛の葉、片貝、月さよ、團之助、祐兼、梶原平二、主馬の判官、下り嵐雛助、初小七祐なり、若徒増田甚之助、本田近經、紋三郎、範頼公の息女六浦姫、大磯や女房おつる、二の宮、藤藏、大藤内と八わた大五郎、祐經、久須美右内、箱根の畑右衛門實は井場十藏、下り歌藏、團三郎に照世、狩の助、小藤太、才三郎、京の次郎、梅澤小五郎兵衛、江間の義時、勇次郎、舞つる、とら、十六夜、官吉、箱王丸せう〳〵手こし彖三郎、鬼王、朝比奈、河津の幽こん、大磯化粧藏堂守 閉坊、三十郎、四立目上るり「牛房髭御節献立」富本連中、二はん目「花昏待乳山清搔」越前屋小女郎、乳母お大、團之助、出村新兵衛、深江李右衛門、三十郎、玉やおゑん、官吉、氏原勇藏、ひな助、松の尾新兵衛、眞間田嘉太夫、歌藏、玉や新兵衛、勇次郎、女髮結うぶけのお金、才三郎、手代三四郎、龍藏、鵜飼九十郎、玉や新右衛門、門三、上るり「濡燕戀朧夜」常磐津連中勤る○三月五日より中村座「其面影伊達寫繪」めのと政岡に三津五郎、仲居おわか、下り山八尾藏、道益と鬼連奥方大江金平、鶴喜代、榮三郎、角力取浮世川戸平、仁木妹濱田、荒しか男之助、市藏、鬼つらに七藏、茶道鈍齋に八汐、東藏、沖の井におの江、傾せいたつた、島田外記娘信夫、下り山下八百藏、里菊改浮田十三郎、三浦屋高尾、仁木辨之助後に彈正直のり松助、三ふ妹おたに、多門、頼兼とげいしやお梶、細川奥方

岩倉、田之助、三代目宗十郎十三回忌追善渡邊民部、豆腐や三ふと榮御せん、高助、五立目上るり「韻瀬水扇楓」常磐津連中大切所作事「四季詠寄三大字」三津五郎十二月の所作、正月吉書始の傾城、二月始午半田稲荷、三月雛人形の業平、四月始鰹勇に商人、五月兜人形正清公、六月祭の慕所書人、七月田舎饗女、八月俄鹿島踊、九月木賊苅、十月螢開便の奴、十一月鷺娘、十二月豆蒔金太郎なり上るり富本豊前太夫、富士田千藏、同吉四郎、岡安喜三郎、三弦杵屋勝五郎、常磐津小文字太夫同兼太夫相勤る○三月五日より森田座「濱眞砂劇場繪本」佐々内藏之助と小鮒源五郎實は岩木藤馬之丞、眞柴久吉下り尾上新七、常陸之介實は四方田、三二五郎兵衛、四郎五郎、九重姫實は伴作妹ふせや、米三郎、眞柴久次と半間勘作り下三枡大太郎、始め米五郎と云小田春澄、皆田の小雀、宗三郎、筒井順慶、紋治、不破の伴作、新平、五郎市に松之助、傾せい瀧川、龜三郎、高景と筑紫の權六實は佐藤正淸、團十郎、おりつに半四郎、浦辻良助、世尊寺中納言實は石川五右衛門實は武智光俊、幸四郎、貳はん目「お染久松色讀販」油屋娘お染、子飼久松、姉竹川、喜兵衛女房土手のお六、賤の女お作、

久松言號おみつ、お染母貞昌、七役半四郎、百姓久作に猿廻し佐次郎兵衛、團十郎、山家や清兵衛、新七、手代善六に四郎五郎、左四郎と鬼門鬼兵衛幸四郎、多三郎に勘彌、大切上るり「心中翌の噂」常磐津連中○四月六日よりお染久松を一番目にして貳ばん目「五大力戀緘」源五兵衛に新七、三五兵衛に四郎五郎、源五兵衛云號渚、米三郎、千嶋千太郎、大太郎、廻し彌助に紋次、家主仁兵衛に儀右衛門、出石宅左衛門に若黨八右衛門、團十郎、小まんに半四郎、花屋十兵衛、幸四郎○四月十八日より壹はん目「布引瀧」大序より三の切迄瀧の尾に四郎五郎、九郎助に儀右衛門、小萬に龜三郎、あふひ御せんに花妻、實盛に團十郎、二はん目七役なり○三月十二日より「添削信仰記」めのと侍從と光秀女房みさほ、團之助、松永に小田春永、火の車小次兵衛、雛助、狩の之助、直信、下人新作、紋三郎、藤吉女房おその、武智十次郎、宮吉、小西是齋に歌藏、光秀母さつき、眞柴久吉に勇次郎、雪姫と九郎次郎妹おつゆ、十次郎云號初ぎく、粂三郎、武智光秀と福島吉松、三十郎、貳はん目「心中嫁菜露」半兵衛女房千代、團之助、八百や甥佐兵衛、三十郎、古市のおなへに宮吉、同千束やのおくめに粂三

郎、山脇や重藏、雛助、八百や半兵衛に勇次郎、でつち與も太に才三郎所作大切「爰咲似山櫻」鍾馗、辨けい、業平、相撲あま、傾せい、座頭、越後じゝ、三十郎七變化○四月五日より「忠臣藏」となせとかほよ、おその、團之助、師直、伊吾、數右衛門、雛助、桃井に千崎、紋三郎、おいし、藤藏、九太夫に大五郎、おかると小なみ、官吉、山名と一もんじやに村岡せ平、龍藏、與一兵衛に定九郎、歌藏、右馬之丞に三才郎、本藏に勘平母と判官、勇次郎、力彌、粂三郎、平右衛門に義平、勘平、由良之助、三十郎、大切は七變化なり○五月六日より中村座「物くさ太郎」物くさ太郎、千の利久に三津五郎、伴左衛門と下部岡平、市藏、同伴作に友藏、狩野歌之助に金魚屋金八、松助、傾せい かつらき利久娘早枝とお國御前、田之助、利久女房しがらみと名古屋山三、高助、三段目口上るり「名所〱秀句の嗜」常磐津兼太夫、豐竹生駒太夫かけ合にて勤る、貳ばん目「封文其名顯」赤澤十内に高助、土左衛門傳吉と荒井八郎、三津五郎、八百やお七に田之助、五尺染五郎に松助、仁田四郎に市藏、下女お杉におの江、紅長に海老名彈藏、小性吉三郎に傳藏、釜や武兵衛に金平、大切上るり「隙行駒七字法藏」富本連中○同七日より森田座「曾我祭俠競」一寸德兵衛に助松主計、新七、佐の右衛門に釣舟のお三、四郎五郎、祭の煉子およね、粂本娘分お時、米三郎、斯波左近と家主喜三郎、大五郎、義平次娘おかちに龜三郎、玉島兵太夫に道具や孫右衛門、門三郎、主計女房お辰に花妻、魚屋團七と道具や清七、團十郎、主計娘お仲、磯之丞、女房琴浦に半四郎、醫師玉島兵太夫實は三川屋義平次と釣舟の三ふに幸四郎、舟頭さつはの權、磯之丞、勘彌○五月廿日より「壽狂言」萬治三庚子年御當地において男歌舞伎御免被爲遊木挽町に而始而太皷櫓を上芝居を興行仕文化十癸酉年まで

元祖森田太郎兵衛坂東又九郎致置候佛舍利と申所作狂言當九代目森田勘彌隱居坂東喜幸相勤可申之處喜幸儀最早芥壽之年賀も越候事故市川團十郎を相賴兩人に而相勤申候

右壽口上之義は吉例に任せ市川團十郎並に內緣も有之候得は坂東三津五郎罷出奉申上候尤松本幸四郎岩井半四郎其外惣座中罷出座附相勤申候間何卒賑々敷御見物に御出之程偏に〱希候以上

木挽町九代目座元　森田勘彌

市村座は五月狂言興行なく夏狂言〇六月廿四日より「ひらかな盛衰記」梶原平二に歌藏、秩父重忠に雛助、ゑんしゆに才三郎、權四郎と軍內に門三、梶原源太に舟頭松右衞門、紋三郎、千鳥とおふでに官吉、貳はん目「釜淵双級巴」岩木兵部に歌藏、當馬之丞に才三郎、五郎市に源平、おりつに山中岩次郎、五右衞門に雛助、大切「近頃河原達引」猿廻し與次郎に歌藏、傳兵衞に紋三郎、お俊に官吉〇六月十七日より森田座「尾上松錣洗瀧話」尻紫蔦か嶽の蝦蟇仙人、仲居お梶實はめのと岩はし松錣、新造歌町實は赤松の息女遠里姬、米三郎、浪人安達瀨平、山名滿廣、松本小次郎、かごかき眼兵衞と蛇女おたるに儀右衞門、傾せい玉川、又平妹お百合、龜三郎、今川仲秋に門三郎、吃の又平、座頭江戸都、中納言賴房實は石見太郎左衞門、團十郎、細川賴元、髮結甚五郎實は笹の才藏、長よし勘彌(此時松ろくろくろくびの仕掛大評判)大切(團十郎八景の)所作「門茲妾八景」姬垣の晚鐘に乙姬、浦島の歸帆に浦嶋太郎、瀧詣の夜の雨に景清、水賣の夕照に冷水うり、朧候の暮雪に四つ竹、心猿の秋の月にさる、晒女の落雁に晒女、石橋の晴嵐に石橋、上るり常磐津小文字太夫、長唄芳澤孝次郎、

同伊三郎、三弦杵屋六三郎勤る ○七月十五日より中村座「太平記菊水之卷」紺屋勇助後に宇治の常悅、三津五郎、傾城玉川に八尾藏、細川主膳實は鞠か瀨秋夜に市藏、高師泰と奴芳藏に東藏、めのと沖浪におの江、足利息女葉末姬、八百藏、正行奥方秋しの、いろは、楠正行と奴照平實は楠正義に松助、小山の息女小笹に多門、石堂妻寄浪、勇介女房おせん、田之助、石堂勘け由、夢はんし在兵衛實は佐々自憲法、高助、貳はん目は三日替り初日は「短夜仇散書」船越十右衛門に三津五郎、役者少長に七三郎、梶川長兵衛に市藏、役者露鶴に傳藏、俗醫者若林七郎助、東藏、後家おかち、いろは、大工町の六三郎、〽おばあおまつ、松助、田舍娘お綿に多門、福しまやおその、田之助、福清に高助、上るり常磐津連中二日目は「文月恨鮫鞘」道具屋彌兵衛に三津五郎、古手屋八郎兵衛に市藏、駕かき彌助に松助、丹波屋おつまに田之助、船頭清八に高助、上るり常磐津三日目は「三重襷賄曙」八百屋半兵衛、三津五郎、後家おたまに市藏、甥嘉十郎、松助、半兵衛女房おちよに田之助、家主太郎兵衛、嶋田平左衛門に高助、上るり富本連中勤る六月中尾州名古屋にて半四郎、幸四郎、四郎五郎、宗三郎、大太郎、花妻、龜三郎、鶴十郎、粟藏等にて伊達くらべ、お染久松、關の戸、累文談、東龜鑑、名殘楓等を勤め大入大當り ○八月十五日より市村座「尾上松緣せんたく噺」六月森田座にてせし通りなり、貳はん目「累淵扨其後」絹川羽生之助、正宗亡靈與右衛門女房累、松緣、與右衛門娘おきくに米三郎、かさね母おかや才三郎、旅の所化祐念後に祐念上人と與右衛門、團十郎、四の宮七郎元春に竹三郎、大切に團十郎八景の所作是も森田座の通なり作者鶴屋南北なり ○八月廿三日より中村座「白石噺」秋谷と庄屋七郎兵衛に高助、大福屋惣六に三津五郎、宮城野に金谷谷五郎、田之助、信夫に多門、恩地左近に松助、常悅に市藏、太こ持五丁に七三郎、ぜげん勘九郎に東藏、貳はん目は「短夜仇散書」おその六三郎是迄の通りなり ○九月九日より「大内鑑」保名にやかん平、三津五郎、加茂の後室と石川惡右衛門、金平、信田庄司に辨藏、與勘平、市藏、道滿妹筑波根、おの江、左近太郎、松助、榊の前と左近女房花町、葛の葉姬と同狐に田之助、芦屋道まん、高助、大切所作事「御名殘尾花留袖」草刈、重の御所使の女、信田社の神靈以上三役田之助名殘信田神童、源平、多門、友變化の狐奴、金五郎に

みの助、富本豐前太夫連中、常磐津小文字太夫、同兼太夫勤る○同十六日より大切に梅の由兵衛、汐汲、田之助、小梅、多門、上るり常磐津連中右之跡へ出す○九月十一日より森田座「男一疋達引安賣」久下玄蕃、船頭いなばや助八に四郎五郎、助太夫に藤川卜庵、宗三郎、源之丞妹八重梅、長兵衛女房お時、龜三郎、石井右内に門三郎、同源之丞、紋三郎、小紫に官吉、閑心と綺うり彌市實は助市、大岸主水に團十郎、げいしやお松と白井權八に半四郎、藤川水右衞門、船頭猪之助、幡隨長兵衛、幸四郎、

[附錄]○十月十三日より結城座にて子供芝居、石川五右衞門、中山勘藏、順慶に市川銀太、中納言有房實はめのとやどり木、岩井德二郎、禿千鳥實は小の丶おつう姫、湯殿孫云市川三吉、あつま與四郎實は眞柴久吉に源平、上かんや與六實は福しま左近市川松太郎、矢甲平實は須崎宮川二政次郎、傾せいせ川實は五右衞門女房おりつせ川兼五郎、景かけに三藏、上るり「戻駕尾花道」富本和歌太夫武ばん目「千本櫻」權太、勘藏、彌左右衞門に銀太、おさと、あすか植二郎、龜井に三吉、彌介によしつね、源平、小金吾、彌左衞門女房お辻、政次郎、靜に小せん、若葉内侍に兼五郎、忠信と八狐にかくはん三藏、上るり「道行初音旅」上るり右に同し○九月十七日嵐雛助死す行年廿三才貞岳院富山日秀信士深川淨心寺此年上方にて中山文七死す八十二才なり○顏見世中村座「群客坂東頌」桂中納言敎氏卿、赤村之介、三浦平太夫、鎌倉景政、船頭かし藏、高助、加茂の義つなに五百崎求馬、七三郎、鹿島事ふれおはま、生駒之助妹賤綾、女馬士お玉、多門、賴よし與方敷しま、いろは、周防内侍妹名月姫、金兵衞妹お糸、傳藏、河田民部、七三郎、紅葉之介、照政、男熊後に常磐津小文字太夫となる傳藏の弟なり惡五郎爲次、狩人鹿六、松島けんきやう實は安部貞任、組田のとう八に市藏、足輕藤九兵衞、仲人はね右衞門、東藏、生駒之助、紋三郎、放鳥うりお松、實方の息女淺香姫、木にしきのお文、官吉、中老尾上と傾せい中の君、伊達のおせき下り中村松江、八まん太郎義家、修けんしや了海、下女お初、女蜑小磯、山伏金剛院荒夜叉、松助、漁師うとう安方實は實方の亡靈、老女岩手御せんに安部の宗任、清原武則、金兵衞、三津五郎、南座から山下八尾藏改坂東三津三四立目上るり「艶扇畫花鳶」常津磐連中市村座「戻橋春御攝」髭黑の大臣にケス松錄、賴光北の方花園實は袴

垂女房雄島栗木又次娘おうらに團之助、藤原常俊姫鶴のまへに文次か乙娘おくり、池田中納言の息女花園姫によね三、大江の郡領に歌藏、栗木又次に金平、伊豫太郎、道信、のぶせり鍬形の金實は淡路守賴親、醫者道庵、馬士どふ六實は氷上の夜叉太郎に四郎五郎、猪熊入道に栗藏、快童丸に松之助、築島左少辨に善次、加藤忠正と尊國親王、賤の女おさな、鶴十郎、物部平太郎有國、奥女中若葉に新平、丹波太郎鬼住に奥女中楓、門三、堤彌惣太と多田滿仲、門三郎、賴信と蘭生前かしつき茂鹽、賤の女おふし、藤藏、美女丸實は小式部内侍に粧姫、三月日おせん實は能友娘九重姫、粂三郎、獵師深山の五郎藏實は卜部季武、大宅常任に萬歳梅太夫、栗の木次郎作、三十郎、三田源太廣綱實は袴垂保輔のぶせりつゞれの次郎、白川廣文、羅生門河岸茨木や鬼七五郎實は伊賀壽太郎、山かつ洞藏實は鬼同丸、幸四郎、將門娘七綾姫、廣文奥方操御ぜん、賤女お岩實はかつらき山女郎蜘の靈、鬼七女房おつな實は純友妾笘屋、花園姫侍女此糸、遊君八重桐後に山姥、半四郎、碓氷貞光、煙草賣酒むしのおよし、簑田源太廣綱實は將軍太郎良門、二の瀨源六、ゝ賴光、首賣鰕ざこの十實は渡部の綱、山かつ斧右衛門實は三田の仕に團十郎始座頭にて渡部の綱にて一枚名題 奴橋花平行三郎改龜三郎、大切上るり「親子連枝鶯」常磐津小文字太夫連中

森田座「御贔負繋馬」瀧口兵庫之介、渡部仕、將門母岩波、奴よかん平、修行者幡龍實は伊賀壽太郎、炭賣五郎八實は相馬良門、男女藏、櫻木親王の妾葛葉姫、傾城錦野太夫と紅花賣お色に里好、下部房平下り片岡松助、女形幼名嵐市太郎文化五年仁左衛門弟子となる 岩倉次郎鬼勝、馬士勘兵衛實は石川惣右衛門、馬商人馬九郎、宗三郎、百足坊主剛鐵、左大將元方、革足袋賣三右衛門、友藏、信田の森葛葉狐、伊豫の純友スケ松錄、軍學師藤下源藏實は俵藤太秀郷、冬奉公人久三にスケ三十郎、將軍太郎と純友一子重太丸男熊、左近太郎照綱、千枝の左近狐、荷かつき次郎八に才三郎、御廚三郎將賴、門藏、貞盛と蘆屋左衛門道滿に相馬六郎公連、勇次郎、公連女房若紫、筏乘おつゆ實は瀨田の龍女すけ團之助、榊の前と乙の待從、相馬の御ふし所娘お照、七綾姫、秀郷奥方眞弓に富三郎、大切上るり「三紅園の守關」富本連中勤る十一月廿九日高砂町より出火に而中村市村兩座共類燒す ○閏霜中七日より森田座「戻橋閻顔鏡」貞光と炭賣五郎三山かつ鐵藏實は鬼

團丸に男女藏、赤染右衛門に藤下傳藏女房お弓實は千晴與方眞弓御せん富三郎、公連女房若紫、近江湖の龍女泉星女と蘭生前、團之助、白川廣文、金田岩五郎實は公連に勇次郎、平の正盛、醫者道庵、宗三郎、加藤忠正、曾國寧王鶴十郎、お染淺尾萬吉、革たひや三右衛門、友藏、快童丸に、松之助、滿仲一字美女丸に三日月おせん實は九重姫、条三郎、仲光妻ふせや女髪結おむら、里好、女房小平、荒川太郎片岡松助、藤下傳藏實は下はるに大宅太郎に三十郎、三田源太實は保輔つゞれの次郎、茨木や鬼七幸四郎、お由實は女郎蜘の精、おつな實は笞や八重桐後に山姥半四郎、季武とよし門、洒蒸およしゑひきこの十實は渡部綱、山かつ斧右衛門實は任、源頼光團十郎、四立目上るり「三紅閨守閨」大切上るり「親子連枝鶯」市村座類焼に付役者をかりて興行せり○閏十一月十三日市川荒五郎死す、榮相院光譽市丸居士

當年尾上雷助も死す

◎文化十一甲戌年

○正月十日より森田座「双蝶々假粧曾我」朝日奈と鬼王に男女藏、椰の葉と大磯のとらに富三郎、松か岡橋染左實は京の小女郎、月さよ團之助、團三郎に仁田忠常に勇次郎、小藤太に門藏、禪司坊に松之助、閉坊に候兵衛、犬姫に龜三郎、八わたに門三郎、祐かね實は赤澤十内、滿江片岡松助、祐つねと景清に幸四郎、あこやせう／＼に半四郎、祐成と時宗、不動の靈像團十郎、貳はん目烏頭金神長五郎に男女藏、ふしや女房お園、富三郎、藝者あつま、團之助、手代與五郎に勇次郎、駕かき權九郎、宗三郎、三原や有右衛門、女非人野手の三、鶴十郎、橋本次郎右衛門「門三郎、長五郎妹お照、条三郎、かこの甚兵衛、松助、引窓與兵衛、放駒の四郎兵衛、南方十次兵衛、幸四郎、下駄のお市、與次兵衛女房おはや、けいしや都、半四郎、若徒新藤徳次郎、後にやわたや與次兵衛に町かゝへわしの長吉、團十郎、大切上るり「其心春朧夜」常磐津連中○二月八日より所作「擂業再張交」達摩、酒酔侍、傾城、爲朝、團十郎、相勤る、上るり常磐津連中、長唄芳村伊三郎、同伊四郎、三弦杵屋六三郎、相勤る○正月廿三日より普請出來に付中村座「御贔負延年曾我」鬼王新左衛門、開帳の世話人七郎兵衛に高助、範頼に七三郎、新造喜瀬川に多門、とらにいろは、せう／＼に傳藏、工藤に市藏、家主清左衛門と小藤太女房近江、東藏、京の次郎に紋三

郎、行氏妹八わたにおの江、十六夜のおいさ、傾城舞鶴友吉、月さよのおさよ、三浦の片貝、松江、團三郎、と時宗に松助、梅澤小五郎兵衛實は赤澤十内、十郎祐成、三津五郎、五立目上るり「咲分枕土俵」常磐津兼太夫連中貳はん目「色情曲輪蝶花形」百姓かこの甚兵衛に高助、南方十次兵衛、三津五郎、男達幻瀧右兵衛實は金神長五郎、三原傳藏、市藏、十次兵衛弟南與兵衛に松助、藤屋都後に十次兵衛女房おはや、松江、山崎屋姉おせき、次部右衛門娘おてる、友吉、甚兵衛妹おもと、多門、梅か辻小梅、いろは、與五郎に傳藏、傾せいあつま坂東三津三、上るり「道行若菜の重褄、」富本豐前太夫連中○二月廿四日坂東喜幸死す、行往院喜幸常安信士行年五十六○當正月十五日より結城座にて大坂下り小供芝居興行す狂言は「蘭奢待新田景圖」三の口切神勅嫁入小鍛治上下、防州錦帶橋上下、江戸役者にては市川三藏スケなり○三月三日より普請出來に付市村座「隅田川花御所染」入間家の中老尾上、軍助女房綱女、團之助、入間の妹櫻姫よね三、松井源吾と奴隅田平、四郎五郎、吉田公達梅若丸・松之助、奥女中に雷藏、善次、新平、儀右衛門、清水平馬之助、清玄、鶴十郎、清水の住僧に門三郎、大友常陸之助に藤藏、新造釆女に粂三郎、粂の平内長盛に忍か岡辻番の猿嶋惣太實は粟津六郎、幸四郎、尾上召仕おはつに入間の姫花子の前後に新清水の清玄尼、半四郎女清玄大當り吉田の松若と局岩ふし、吉田の下部軍助、團十郎、新清水の所化さくらん坊に大友一法師丸に龜三郎、大切上るり「都鳥名所渡」常磐津連中○三月七日より中村座「花雲宿色衣」物くさ太郎と土佐又平に高助、又平妹おみつ、多門、さくら姫に傳藏、土佐將監に七藏、小栗宗丹に大五郎、安房の十郎丸と浮世服平に市藏、蜑もしほ、おの江、お國の方と清水冠者清はる、又平女房おとく、友吉、蜑眞弓に娵妻木と上林やおみや、松江、下部淀平と金魚賣金八、松助、清水の清玄と吃の又平、三津五郎、故人坂東三津五郎三十三回忌追善に付大切三津五郎所作事「寄三津十二支子」に小松引、丑に小原女、辰に乙姫、巳に江の島座頭、午に王子祭り未に紙きぬた、申に猿田彦命、酉に鷄娘、戌に四つ竹、亥に仁田四郎、○上るり富本豐前太夫、常磐津兼太夫、長唄岡安喜三郎、三弦杵屋勝五郎、勤る同十八日より二はん目三まくいだす○三月十二日より森田座「妹

春山」定香に片岡松助、入鹿に宗三郎、ゑうしに友藏、めとの方に山本芳之助、雛鳥に龜三郎、大判司に勇次郎、久我之助、かん彌、貳はん目、「隅田川續俤（すみだがはごにちのおもかげ）」道具屋甚三郎、松助、野分姫に芳之助、永樂屋娘おくみ、龜三郎、手代庄八に友藏、法界坊に勇次郎、手代要助に勘彌大切上るり「雨顏月姿繪」常磐津連中○四月九日より「布引瀧」三段目一と幕九郎助に宗三郎、太郎吉、市川松太郎、瀬の尾に友藏、實盛に勇次郎、小まんに勘彌、○四月六日より**中村座**「忠臣藏」直義公に石堂、丸太夫、大館左馬之助、千崎彌五郎、あんま、原田安福に義平七役高助、仲居おもんに多門、力彌に傳藏、鄉右衛門、七藏、判官、了竹、定九郎、與一兵衛、おかる母、瀬平、本藏七役市藏、伴内と下女りんに東藏、かほよとおいしに友吉、おかるにおその松江、桃井、勘平、山名、安兵衛、夜そは賣庄兵衛にゑ平右衛門、松助、師直にとなせ、喜多八、一もんしやに門番可內、伊吾と由良之助七役三津五郎、○五月七日より「夏祭」釣舟三ぶにうばおりく、高助、團七に三津五郎、助松主計と義平次に市藏、磯之丞と一寸德兵衛、手代淸七、松助、お仲に德兵衛女房お辰、松江、團七女房お梶に友吉、傾城琴浦、傳藏、

大切上るり「戻駕色相肩」浪花の次郎作下り歌右衛門、禿たより、多門、東の與四郎に三津五郎、上るり常磐津兼太夫相勤め三津五郎、歌右衛門初ての出合にて大々當り大入○五月十一日より**森田座**「忠臣藏」判官に與一兵衛、定九郎、角兵衛、了竹おその、本藏、七役松助、九太夫とおかる母、宗三郎、かほよとおかるに龜三郎、師直、となせ、平右衛門、伊吾、義平、勘平、ゆらの助、七役勇次郎、右馬之丞、堀部八十兵衛、おいし、桃井、勘彌、○五月廿二日より**市村座**「復再松鎌刑部話」谷澤多仲實は南雲寺萬海に眞柴侍女早百合、大倉刑部俊高、妖怪おさかへ姫、墓仙人に松鎌、駒木太郎次娘なでしこ、姚綾女、よね三、千の利久、佐々木内藏之助、門三郎、利久娘床夏後に但馬やお夏、與次郎女房おちやひいのお岩、粂三郎、深尾靖十郎、猿廻し與次郎、羽矢川高景、天竺德兵衛、別所小三郎長治に團十郎、姫路笠賣源十郎、福しま鞍負之助、市村龜三郎、大切所作事市川團十郎十二月所作勤る正月に官女初若菜、二月に雁かこ稲荷詣、三月に藪入の御殿結、四月に初鰹の戲奴僕、五月に裾野の夢見草、六月に天王御札配、七月に齋日焔魔王、八月に白服の揚屋入、九月に山路の丁髷菊、十月に夷講、十一月に

男伴の神舞歌、十二月に追儺の多門大、上るり、名題［傾三舛四季俳優］富本連中（長唄芳村孝次郎、同伊久四郎、三味線杵屋六三郎相勤る）○六月十六日より貳はん目［桂川緣仇浪］堀尾帶刀、げいしや岸野の幽魂に松錄、長右衛門妹お岩、よね三、若徒段助、小次郎、おはんに三藏、長右衛門と幸之進に團十郎、○（當六月中幸四郎、三十郎尾張名古屋にて千本櫻大當り）中村座は番附出せし所松助病氣幷に歌右衛門延着にて興行なく○六月十八日より［双蝶々］幻瀧右衛門、與兵衛母お弓に高助、濡髮長五郎に三津五郎、放駒長吉（下り）歌右衛門、同姉おせきと南與兵衛に市藏、おはやに松江、あつまに友吉、與五郎に七三郎、手代權九郎に有右衛門、尼妙林東藏、大切戾駕は右出る役割にて大當り○七月十五日より松助病氣全快に付［伊勢音頭］藤治左膳に高助、料理人喜助に三津五郎、兵介女房お紫に歌右衛門、福岡貢に松助、杉山大藏に市藏、孫太夫娘さかきに松江、油屋おこん、友吉、彥太夫と仲居萬の、東藏、正太夫と油屋おしかに龍藏、○六月十六日より森田座［戀女房］江戶兵衛と定之進、乳の人重の井、松助、宮太夫と古手屋源兵衛に宗三郎、じねん生三吉に萬吉、姚重の井と關の小まんに龜三郎、彌三左衛門と八平次に友藏、奴逸平に左内、勇次郎、桂政と與作に嘶彌、○同廿九日より貳はん目［伊達競］絹川谷藏後に與右衛門、松助、とうふや三ぶに宗三郎、よりかねに（尾上）新三郎、かさねに勇次郎、○七月廿四日より市村座［新織博多緒入船］小町屋母お澤に博多小女郎、團之助、汐汲お米によね三、馬士宇都谷五郎右衛門、倉橋大膳に四郎五郎、小町屋娘おさとに粂三郎、小町屋宗七關戶村久次兵衛に三十郎、大通辭十木傳七、關東同者二合半藏、幸四郎、伊勢參りお市、實は琳聖太子姬君玉蘭女に半四郎、博多組の船頭浮洲の岩實は玄海灘右衛門、李榮君昇龍に團十郎、二はん目四代目幸四郎十三回忌追善狂言［もとさまかしく文月］福しまや清兵衛と按摩梶の長あんに幸四郎、神崎屋娘おその後にかしく、長橋女房お松に半四郎、福清女房お梶に團之助、船越十右衛門に三十郎、石川屋七郎介に四郎五郎、大工の六三に團十郎○八月十一日より大切［廓文章］喜左衛門に團十郎、伊左衛門に半四郎、夕霧に團之助、吉田屋女房に粂三郎、上るり遊冽齋素柳一世一代なり○八月六日より中村座［伊賀越］和田ゆきへと股五郎、母鳴見と松尾金介に高助、澤井城五郎

と同又五郎に市藏、櫻井に友藏、志津摩言號お松と傾せい花紫に友吉、丹右衛門女房笹尾と股五郎云號おそて、政右衛門女房お谷に松江、和田志津摩に松助、上松左內に唐木政右衛門、三津五郎、細川主稅之助に明石、櫻田大內記と佐々木丹右衛門、沢留武助に歌右衛門○八月廿八日より市村座「染纈竹春駒」姥藤浪に團之助、調姫に女小性小露、よね三、鷲塚官太夫にひぬかの八藏、四郎五郎、奴團助に友藏、伊達與三兵衛に逸平母おくら、門三郎、姥いろは、女小性小よし、くめ三郎、伊達新左衛門に三十郎、丹波屋與作、座頭桂政實はわし塚八平二、鷺坂左內に幸四郎、仲居關の小萬、女馬士じねんじよお三に半四郎「伊達與作、奴逸平、山形屋義平次、由留木左衛門、團十郎、下部駒平、龜三郎、貳はん目○九月十四日より四代目團藏七回忌追善狂言團之助所作「四季寫紀念紅筆」春に「池田湯谷花見車」夏に「佛御前扇獅子」秋に「都祇王紅葉御幣」冬に「俊寬僧都雪姿見」長唄芳村伊十郎、同芳次郎、三弦杵屋正次郎、同和助、鳥羽屋三五郎大切「姫小松」三の切俊寬に團之助、喜藏に四郎五郎、なめらの兵に三十郎、有王に幸四郎、お安に半四郎、龜王に團十郎、○

○九月九日より中村座「八陣守護城」千島冠者義弘に高助、團藏七回忌に付佐藤正淸、後室三浦のまへに市藏、鞠川玄蕃に東藏、北畠春雄に南嚴寺和尙、友藏、三左衛門娘雛衣に官吉、田舍娘お時、北畠息女春姫に正淸奧方、松江、此村隼人之助、松助、森三左衛門に三津五郎、船頭淵右衛門實は後藤政兵衛定次に歌右衛門、市山七藏かはり役勤る貳はん目「惣一座色の世界」高宮佐五平、高助、稻野谷半兵衛に三津五郎、同半十郎に歌右衛門、眞虫の治兵衛に市藏、小濱屋庄次郎に松助、けいしや小ひなに松江、半兵衛云號おみき、官吉、小濱屋おちかに多門、稻野谷半左衛門に七藏、上るり「富か岡屛風八景」常磐津連中大切「兜軍記」岩永左衛門に歌右衛門、半澤六郎に門三郎、あこやに松江、重忠に三津五郎、大當り此幕操り仕立にて古今大出來なり○顏見世中村座「二人聟座定」高安左衛門直村、狩人岩根のかけ藏實は伴良雄、須磨の汐汲おなへ實は金剛兵衛娘小磯、花又村どらのにふ八、藤の森與九郎狐に歌右衛門、業平卿と旅虛無僧實は花金吾、百姓豆郎、鏡とき幸助、松助改梅幸、旅虛無僧實は刀鍛冶實壽國重、孔雀三郎實は伴の良澄、喜妙法印、市藏、黑木賣信夫、金吾妹よ

せ波、井筒姫、松江、賤女おやま實は三巡の小女郎狐、伊勢の侍從、刀鍛冶太郎七女房お辰、下り中村大吉、破軍太郎に三條小鍛冶宗近、紀の有常、刀鍛冶太郎七實は藤森の左近狐、三津五郎、四立目上るり［由縁月須磨寫繪］富本豊前太夫豊竹歌代太夫貳ばん目上るり［形容菊禁朧］常磐津小文字太夫連中 ○霜月廿一日より貳ばん目［戀女房］左内に歌右衞門、與作と杵政、梅幸、姥重の井、傳藏、宮太夫とひぬかの八藏に市藏、與惣兵衞に七藏、米屋小左衞門に宮太夫女房小篠、東藏、與之助乳母おさん、おの江、彌惣左衞門と八平次に友藏、藤浪に松江、お乳の人重の井に大吉、馬士八百藏に三津五郎、大切［廓文章］吉田屋喜左衞門に市藏、女房おきつに松江、扇屋夕ぎり初日は三津五郎、後日歌右衞門、ふしや伊左衞門初日歌右衞門、後日三津五郎、上るり常磐津小文字太夫、豊竹歌代太夫市村座［世界花菅原傳授］左中辨三好淸行、百姓出來作實は輝國、植木賣五兵衞實は紀の長谷雄、高助、侍女櫻木、新造在原、多門、百姓萬作、家主杢郎右衞門下り嵐藤十郎、東條兼俊、星坂典膳、せけん金くつわの八、坂東大五郎改廣右衞門、戸勢の金岡に都之助、紀の良香、飴賣五作、辻占

武部源藏、下り嵐三五郎衞士又五郎實は菅の愼之助衞士次郎又、花園人庄兵衞、嵐三十郎不勤紅梅姫、齊世親王、勝野、よね三、奴宅内、土師兵衞之助兼武、寒念佛杉本坊、白井太郎、夜番鐵棒の音下り中山舍柳、白太夫娘松か枝、後室立田之前、辨の內侍、千枝狐、三弦師匠おちよ。に團之助、右中辨平の希世、舍人松王丸、佐四の三莊の白太夫實は新羅國の大將軍天蘭敬、山伏松月院、幸四郎、かりや姫、雁はれ雜式お岩、左大臣時平公、白太夫娘八重、白冠鷄の精、源藏女房戸浪、傾城菅原、半四郎、百姓十作實は直禰太郎、右大臣道實公、楠正行、町かゝへゐびさこ十、團十郎、くりから太郎、中將忠平卿、紀の秀丸、龜三郎、三立目上るり［車引和締姿］常磐津連中大切上るり［御攝花吉野拾遺］淸元延壽太夫連中勤る森田座［冬至牡丹雪陣幕］北條氏直に原五郎政俊、柚節木の横藏實は越名彈正忠政、三度飛脚柏屋孫七に四郎五郎、直江大和之助、下部雲平、土猫泥右衞門實は鬼兒島彌太郎、ごまの灰引まど小僧、片岡松助、坂垣兵部、歌藏、足輕與坂甚平、瓜生權太郎、諏訪社人相の谷兵衞、門藏、初雁姫、松之助、馬士御嶽德藏、三藏、輝虎妹衣紋姫、與女中此花、龜三郎、彌太郎妻越路、馬士おそね、

萬作村上義清、郷士足柄丹下、ひとかねや爲右衛門實は板垣兵庫下り 藤川武左衛門、武田左馬之介信重、下部照平、旅商人十三下り 市川三十、原隼人之助、山形三郎四郎俊光、りやうし浦島太郎作、勇次郎、山本勘助女房おかつ、足利息女八重垣姫、横藏妹おたね、半四郎、近江屋娘おゝみに粂三郎、直江妻唐衣、輝虎御臺春日の前、爲右衛門妻おすわ實は高坂女房綾織、友吉、長尾輝虎、伊奈四郎勝頼、柚肖の慈悲藏實は高坂彈正、衣紋狐、獵師五郎七、三十郎、傾せい七里、女達雷のおつる、龍宮の乙姫、半四郎、武田信玄に山本勘助、同母敷浪、夜そは賣三吉、團十郎、大切上るり「命懸色の二番目（いのちかけいろにばんめ）」常磐津小文字太夫勤る評判記曰嵐三十郎改市川三十郎御當地へ御下りは吹屋町へ嵐三十郎とお名前が出舛たれど成田屋御入門にて市川三十と改名致され此度森田座へ出勤でムり舛「大坂人」山科庄次郎殿とて京都中芝居の立役か嵐三十郎と改名して一昨年若太夫芝居へ一寸出られ其旅修行のよし若(?)しき人ではない「頭とり」古樣(?)奉ことてムり舛ふ云々

當年七月廿七日 常磐津兼太夫死す行年五十四才 中役者市川栗藏死す、〇上方にて八月十九日 中山文五郎死す九月十五日 女形三條浪江死す十月廿日狂言作者奈河七五之助死す〇當六月尾張名古屋にて幸四郎、三十郎千本櫻大當り

市川團十郎 岩井半四郎 譽ことば十八日より五日間

第一ばんめ三立目にて　×いく △ふさ

×「おりよもじながら二人り連誘合してけふこゝへ來事は來ても大せいの此皆さまの中の間でなんと岩井の杜若さん △「三升さんをわたしらがなんのひゐきもあつかましいおしのつよいとおさげすみ ×「またおしかりもと思ふても今更しよふも内證で △「云合したる譽詞お詫申て 兩人「つゐちよつと ×「ほんに今度のおもしろさ成田屋さんのほつたんにまだ兒髷の杜若から丹前ぶうの茶筌髪やつしと見せた糸まきの △「色と悪との二つ髷大和屋さん美しい花子の前の黒髪を思ひ切たるお姿に誰も涙を落しばら ×「打てかわつて夢の場のぬれには心紅葉髷 △「又二役の岩ふじはお意地の悪いもつれ髪 ×「無理で押髪 △「我を針打 ×「所へすつと大夫さんお初で庭へ忍髷 △「其仕返しに勝山を傍で見るさへうれ四の字 ×「夫から次のひやうし幕 △「お

さ船ならぬ渡し船×「こがれて銀杏△「しつとを島田×「さて上るりは花やかに對の出立の亂れ髮△「外には仕人も長かけの雨輪にかけし所作地藝×「一から十まで△「何おひとつ×「云分きんなき片はづし△「此大入のお手からは×「京大坂はまだな事△「唐子髷までひやうばんが×「ひゞきます〱△「江戸中が×「こぞつて三升に△「三つ扇×「むつまじ同士の△「名人さまと兩人「ほゝうやまつて×「御見物さま△「さぞかしおじやまに兩人「ござりませう

花江都歌舞妓年代記續編卷の二

文化十二乙亥年より文政四年辛巳迄七ヶ年の間

◎文化十二乙亥年

○春中村座「伊達彩曾我雛形」六浦左金吾賴兼後に土手の道哲、白水外記左衞門、政岡、時宗に歌右衞門、重忠と曾我十三郎祐成、金かし百疋屋金五郎、高舘氣頭爲村に梅幸、角力取八わた竹三之介に七三郎、せふ〱に傳藏、千まつに（榮三郎改）松助、六浦刑部秀勝と梶原景時、大江の廣元、市藏、鶴喜代に助藏、角力取近江鐺小平太に東藏、大達法印、やりておとら、樋爪の圖書宗連、渡邊軍兵衞に友藏、正庵娘小まき、傾城高尾、外記左衞門松ヶ枝に松江、鬼王妹月小夜後に與右衞門女房かさねに大吉、伊せ參り辨之介、後に仁木彈正左衞門直則、豆ふや與右衞門に三津五郎、松倉彌十郎、朝日奈に（初名明石改）傳九郎、市村座「增補富士見西行」根の井大彌太に高助、寫繪姬に多門、樋口の次郎に三十郎、轍の判官栃の六郎に廣右衞門、手塚太郎光盛、西行法師に三五郎、源の賴朝に伊達の庄司に門三郎、

根の井小彌太に金五郎、仲居お竹によね二、齋藤吾國武、石黑左衛門に舎柳、靱負女房お六、傾城逢坂に團之助、今井の四郎兼平に幸四郎、寫繪姬に半四郎、松波靱負と木曾義仲に團十郎、今井小文治に龜三郎、貳はん目「其盞色三組」愛澤家中淺田宗次に高助、愛澤の息女みつ姬に多門、平野や代德兵衛に三五郎、香具や彌兵衛に舎柳、天滿屋お初に團之介、古手買湯くわん場の八郎兵衛、重井つゝや長左衛門に幸四郎、八郎兵衛女房お妻、藝者重井つゝのおふさに半四郎、柴又の菜賣長藏、油屋九平次に團十郎、○二月八日より大切「御存江戸繪風流」關守關兵衛實は黑主に幸四郎、女かごかき山本のお杉實は此花妹八重垣、多門、逢坂の馬士九介に（松本）小次郎、同又六に鶴十郎、けいせい墨染實は小町櫻の精靈に團之助、女かごかきお松實は高松左衛門娘此花に半四郎、四位少將宗貞に團十郎、上るり常磐津小文字太夫連中勤る○一月五日より中村座「五大力艷湊」座頭はでの市實は獄門の庄兵衛に歌右衛門、廻しの彌助と奴の小まんに梅幸、千嶋萬太郎に七三郎、源五兵衛妹こずへ、鎌倉やでつち五郎八に傳藏、千嶋家中三五兵衛と八木屋孫三郎に市藏、出石宅左衛門と鳥羽屋惣八に七藏、菱川諸八、平淸の娘分おかよ、家主はんじ物喜兵衛に東藏、平淸女房お市、千嶋奧方眞弓、彌助母おこうにおのへ、賤ヶ谷伴右衛門、長谷部の雲八、鎌倉や千代三九郎に友藏、彌助女房お濱、けいしや櫻屋小まんに松江、奧女中渚、郡の奧方瀧川御ぜん、かまくらや後家おせつに大吉、船頭黑江町の忠右衛門、千嶋家中源五兵衛に三津五郎（此とき忠右衛門と庄兵衛にて石段のたて大評判）○四月十八日より「盛衰記」（二ノ切一ト幕）源太に三津五郎、平二に歌右衛門、ゑんじゆ大吉、千鳥に松江、軍內に東藏、（大切）歌右衛門九變化所作事、「其九繪彩四季櫻」文使娘、酒やのでつち、老女の花見、雨乞小町、雷、鑓持奴と辻君、（うしろ面評判よし）江口の君、石橋市村座「千本櫻」川越太郎、彌左衛門に高助、よしつね、熊井太郎に團十郎、おさとに半四郎、權太に銀平と覺はん、幸四郎、船頭沖藏に彌介、忠信に源九郎狐、三五郎、靜に若葉內侍、佐の局團之助、小金吾と梶原に三十郎、辨慶に舎柳、卿の君によね三、川つらと彌左衛門女房に門三郎、土佐坊に善次○同十七日より大切三五郎所作「八重霞櫻花掛合」、「融大臣詠歌陸奧」、「川夕霧山緣の月待」、「紙衣男草

履長刀」夕霧伊左衛門の「京女郎御庭の櫻見」、「墮落雷八挺太鼓」、「狂浮布袋唐子遊」、唐子に粂三郎とよね三、上るり清元延壽太夫、長唄芳村伊十郎、富士田吉四郎、三弦杵屋正治郎、〇四月十二日より貳ばん目「郭公色夜話」みのや平右衛門に高助、茜屋番頭十兵衛に三十郎、香川市之進に三五郎、あかねや手代長九郎に門三、奥女中桐しまに義右衛門、今市善右衛門に舍柳、三勝に團之助、山伏隨樂院に幸四郎、茜やでつち半七、同姉片瀨のお岩に半四郎、あかねや荷かつぎに團十郎、大切所作是迄の通なり〇五月五日より中村座「信仰記」此下東吉に歌右衛門、三好主馬之助と加藤正淸に梅幸、狩野直信に七三郎、傾城花橘に傳藏、柴田權六に市川鶴十郎、山口九郎次郎と藥屋是齋に市藏、慶壽院に七藏、とすの木花に東藏、松永鬼藤太と火の車小次兵衛に友藏、是齋娘おつゆと几帳のまへに松江、東吉女房おその、乳人侍從に大吉、下八新作と小田春永に三津五郎、義輝公に傳九郎、二ばん目「句兄弟菖蒲帷子」木幡屋のでつち長吉に歌右衛門、船頭金神長五郎に梅幸、源兵衛堀の源兵衛に市藏、手代伴七に東藏、木幡や娘おきみに松江、由兵衛女房小梅に大吉、梅の由兵衛に三津五郎なり

當春より森田座休み居りし所此度河原崎權之助櫓再興す

江戸 大芝居根元（歌舞妓 續狂言）　座元 河原崎權之助

元祖權之助九州に住居仕元來能狂言を以歌舞妓芝居に取立於肥前國長崎に興行仕寬永年中の頃於京都伏見所興行仕候御江戸御繁榮を奉慕御當地え罷下り太鼓櫓蒙御免於木挽町芝居興行仕候

二代目權之助寬文八戊申年森田勘彌伯父甥之故を以て木挽町五丁目において相座元にて興行仕候其後元祿年中森田座を相別れ如先年之河原崎櫓蒙御免於堺町に歌舞妓芝居興行仕候

三代目權之助享保十九甲寅年十二月蒙御免於木挽町五丁目に同二十乙酉年より延享元甲子年迄興行仕候

四代目權之助寬政二庚戌年二月蒙御免於木挽町五丁目同九丁巳年迄芝居興行仕候

五代目權之助寬政十二庚申年八月蒙御免文化五戊辰年四月迄芝居興行仕此度再興蒙御免芝居興行

仕候

文化十二乙亥年四月吉日

〇五月十一日より河原崎座「時今撰擢虎」松下嘉平次に岡部五郎、光秀娘さつきやうによね三、四天王又兵衞に門藏、淺山重満と佐藤正清に片岡松助、侍女若葉に多門、光ひでに幸四郎、同女房さつきに半四郎、春永と久よしに團十郎、貳ばん目「杜若艶色紫」お守傳兵衞と佐野次郎左衞門に團十郎、八ッ橋と杜若姉土手のお六に半四郎、船はし次郎左衞門、修行者願哲に幸四郎、萬すや娘おむらに多門、左大臣孫兵衞に四郎五郎、萬壽屋太平次とお六母おくらに松助、鐘彌左衞門に門藏〇五月十五日より市村座「覘仇討」飯沼勝五郎に三之助、三五郎、奴筆介に三十郎、お弓母お熊、非人なまこの八、奴團介、嵐來藏、北條氏政、道心我満、下女およし、あんこうの次郎に儀右衞門、飯沼三平に三十、同三太夫と後室岩はしに門三郎、徳右衞門娘お松に松之助、早川主水之助に金五郎、佐藤郷介後に瀧口上野に杏柳、新左衞門娘はつ花条三郎、筆介女房お弓と新左衞門妻おていに團之助、九十九新左衞門、三太夫後家よせなみ、庄屋徳右衞門に高助、大切所作須磨の寫繪汐汲に条三郎と團之助、行平に鹿兵衞、三五郎、上るり清元連中〇六月十二日より「開[illegible]侍[illegible]田系圖」小山田介市後に妻鹿孫三郎、庄屋可兵衞に三五郎、義貞と大森彥七に三十郎、尊氏と七[illegible]藤四郎に來藏勾當內侍、彌太郎妻磯波に条三郎、介市女房おそね、寺子や娘お此に團之助、女筆指南なぞ、小山田幸內に高助、貳ばん目「其噂色聞書」梶川新十郎に三五郎、里見伊介に三十郎、多賀屋娘おせんに条三郎、おせん姉おちえに團之助、有田文藏に高助、大切松風の所作是迄の通り也〇七月朔日より夏狂言河原崎座「艶紅葉汗顔見勢」足利より兼に男之助重光、仁木彈正、傾城高尾、渡邊外記左衞門、羽生村の與右衞門實は嶋田十三郎、與右衞門妻かさね、金五郎、坊主道哲、細川勝元、赤松満祐の靈十役團十郎 山名宗全、男達戸平實は山中鹿之助、片桐彌十郎、四郎五郎、新造薄雲、男之介妹政岡に多門、渡邊民部、祐念上人、傘禮一角に松助、仲居おいり、豆ふや娘おさんによね三、新造小紫實は足利の息女象潟姫、與右衞門娘おりくに松之助、姥八汐、實は井つゝ女之助、古手かい介八に鶴十郎、安達和介、笹の才藏、船頭萬六に新藏、鹽澤

丹三郎、船頭高吉に三藏、大切所作難頭へは及はすなから山さくら「垂帽子不器用娘」松之助團十郎、道成寺と二た面を限したる所作也、上るり 清元連中長唄芳澤伊三郎同伊四郎同伊久藏三弦杵屋六三郎、同作十郎、かけ合にて相勤る○八月六日より「桂川」三幕長右衛門に團十郎、げいこ雪野に多門、幸之進と幸左衛門に四郎五郎、おきぬに松助、おはんに松之助、大切上るり「霞帯地安賣」清元連中壹ばん目序ひらきに「隈取安宅松」辨けいに團十郎、草苅の小萩によね三、長唄連中右に同し、一ばん目をお半長右衛門にして貳ばん目「千本花王」四の口切二まく大鳥井の 大連法師、四郎五郎、龜井六郎に 新藏、駿河に三藏、川連に小川重太郎、義經に鶴十郎、鈴木三郎に松介、靜に多門、忠信と源九郎狐、かくはんに團十郎、上るり 道行初音旅豐竹生駒太夫勤る○七月十五日より中村座「男作女吉原」上州館林の團七に三津五郎、介松主計に歌右衛門、三ぶ女房おいきに大吉、一寸德兵衛に 梅幸、 油屋九平次、釣ふねの三ぶに市藏、德兵衛女房おたつ、けいしや天滿やおはつに松江、三河屋義平次に友藏、 油屋清七に七三郎、 油屋娘お仲、けいしやおみのに傳藏、貳はん目歌右衛門、御

當地一世一代舞臺勤納狂言十日替り

「大塔宮曦鎧」三の口切 ○齋藤太郎左衛門に 歌右衛門、永井右馬之頭に三津五郎、花ぞのに大吉

「けいせい返魂香」大門口之段吃之段 又平に歌右衛門、 女房おとくに大吉、土佐將監に市藏

「鬼一法眼三略卷」二の切三の切 後に詳なり「妹脊山婦庭訓」三の切四の切 後に詳なり

「御所櫻堀川夜討」三の切四の切 興行なし「織合つゝれの錦」屋敷之段大安寺堤之段 後に詳なり

「花衣いろは縁起」わしの段 興行なし「平惟茂凱陣紅葉」興行なし

「本朝廿四孝」二の切三の切 興行なし、上るり竹本政子太夫同須磨太夫勤る

○七月廿八日より第一番目序開「壽靭猿」八まん大名に東藏、大郎冠者に七藏、猿曳に歌右衛門、上るり常磐津小文字太夫相勤る○八月十一日より壹ばん目に靭猿と吃の又平其儘にて貳ばん目「千本櫻」道行之段、御殿場と二まく忠信と同狐、覺範に歌右衛門、よし經に梅幸、しづかに松江、山科荒法橋に友藏、飛鳥におの江、川連法眼に七藏、藥醫坊、東藏、龜井に傳九

郎、するがに喜代太郎、上るり道行初音旅宮本連中○九月十一日より「襤褸錦（つゐれのにしき）」春藤治郎左衛門に歌右衛門、同次兵衛に梅幸、同新七に傳藏、木村德三郎に七三郎、加村宇田右衛門に市藏改鰕十郎、（故團藏の門弟なりしが此度團十郎門人と成り幣吉も市鶴を[illegible]と改たり）彥坂甚六に友藏、次郎右衛門妹おろくに松江、次郎右衛門女房おはるに大吉、高市武右衛門に三津五郎、道行對の花かいらぎ、若黨伊兵衛に三津五郎、若黨佐兵衛に歌右衛門、（兩人奴の所作大出來大評判なり）式ばん目「妹春山」入鹿とおみわに歌右衛門、ふか七に鰕十郎（此時上坂名殘の狂言なり市川市藏門之助と改名して同道にて上る）御淸所おむらに宮越玄蕃、東藏、彌藤次に友藏、橘姬に松江、求馬に三津五郎、上るり道行戀のおだまき宮本連中○十月六日より「三略卷」鬼若丸鬼一法眼に歌右衛門、牛若丸に梅幸、奴ちゑ內に三津五郎、○九月十一日より河原崎座「忠臣藏」鹽冶判官、千崎、平右衛門、伊吾、三十郎、おかるに粂三郎、力彌に松之助、山名と大わし文吾に小次郎、鄉右衛門と與一兵衛（小川）十太郎、小なみに多門、伴內に善次、おかる母に（矢間）十太郎、鶴十郎、桃井と九太夫、おいし、數右衛門に松助、かほよとなせ、おそのに友吉、師直に定九郎、せげん小兵衛、了竹、彌次兵衛、右當、本藏、七やま四郎、勘平に一もんじや、善平、山良之介、團十郎○十月二日より式ばん目「博多高麗名物噺」小松屋惣七に三十郎、篠の才藏に松助、博多小女郎に粂三郎、玄海灘右衛門に幸四郎、木津川藏人に團十郎、大切に藤川友吉大坂登り名殘狂言（初め藤二郎此時花友と改名）「嫗山姥」源七に團十郎、八重桐に友吉、澤瀉姬に多門、太田十郎に市川團七、（後に津打門三郎と改）十月十六日尾上松綠死す傳翁院釋松綠惠琳居士（一向宗にて淺草今戶妙德山廣樂寺に印を殘す）○顏見世中村座「四天王御江戶鏑（してんおうおえどのかぶらや）」順禮長作、鷲の綱五郎實は渡邊綱、栗の木又次、山賤根草杢右衛門實は三田の仕、三津五郎、八大龍王實は美女御ぜん（實うけ）下村の使新介實は田原の千晴、中根屋の花咲實は土蜘の靈、賴光、快童丸（梅幸事）菊五郎、坊門太郎、中根屋若者喜兵衛、店頭三六、東藏、岩倉中納言實は和泉式部、又次女房おしづに松江、巨勢隼人之助に（片岡松介改）我長、同妹住の江に初花姬、龜三郎、物部平太（中受）部屋頭伴森右衛門、藪醫しや竹中一庵に友藏、奧女中浪花、いせ參娘お露實は眞門乳人さしま、川崎の通り者大四郎に幸四郎、碓氷の貞光袴だれ保介實は平井の保昌、賴信、肴うり鰕ざこの十實は二の瀨源六、足がらの山姥、

團十郎、奴鶴平に簑田五郎友綱（中）○傳九郎、（五立目上るり）「二重衣戀占」鶴賀若狹大夫同新内（大切）上るり「極彩色山路の曙」（上の巻）富本連中勤る（下の巻）常磐津連中相勤る○十一月廿八日より貳ばん目「歳市贍安賣」遠山甚四郎に三津五郎、鳶者紙ごま治兵衛に菊五郎、河田や妻お松に松江、手代庄兵衛に友藏、紀の國や小春に七左衛門女房お三、田之助、みすがら太兵衛に幸四郎、成田や七左衛門に團十郎、○十一月三日より河原崎座「大和名所千本櫻」よし經みだい所卿の君（多門改）菊之丞（此時十四）才静御せん、仲居おれい實は菊王妻波の戸、おりつ實は吳竹に粂三郎、直江左衛門（中受）かくはん實は辨慶、鬼治、猪股、小平六、寒念佛西念實は八栗八郎時門、門藏、猪熊入道におしやべりおしま、儀右衛門、仲居お市、喜三太妹寄浪、奥女中初瀨、おの江、上都妹小せん實は六代御前、松之助、左大臣朝方に善次、平少納言時忠に喜三太、歌藏、龜井妹錦木と仲居お清（下り）岩井かほよ（越後新潟の太夫元の子成を半四郎弟子にしてつれ來れり）川越太郎と川連の後家ひさかた、門三郎、鷲の尾に金五郎、皆鶴姫と仲居およしによね三、よしつね、女湯の番頭彌助實は小金吾、勇次郎、備前守行家、湯屋のながし權太實は源太景季、四郎五郎、忠信と相撲五郎實は菊王、按摩上都實は高尾の文覺、三十郎、すけの局實は芝居の茶屋女、女六部成尾實川連妹あすか、鮨屋女房お辻實は外記娘爪琴、大吉、傾城歌姫、實は玉虫姫の靈、熊井太郎忠基實は高賀姪おなか、静御せん實は小女郎狐、知盛の靈、女ゆすりお里實三條右衛門娘　靑葛に半四郎、向島の高賀、川連法眼實は能登守敎經、すしや彌左衛門實は江戸太郎重長に高助、（四立目上るり）「色初音曲鼓」常磐津小文字太夫連中（三立目半四郎皆二ばん目女湯之端大できた大入なり作者鶴や南北櫻田治介瀨川如皐也）

市村座は休座なり

しばらくのつらね　碓氷荒太郎貞光

七代目

市川團十郎自作

四大天王諸眷屬二十八部の大刄將日月五星一切龍王時に順じて護らざらんや成田の不動の一番むすこ我まゝ育の向ふみず尻持わ南無大師何んと大事の荒小性當年積て廿五ぼざつ尼に勝たる菓は清和源氏の當々源の賴光が股肱耳目と呼れたる碓氷の荒太郎貞光高野六億那智八千惚たらござれなびくべゐべヱ〱べヱロシヤナマカホタラ敵役の命

とりよこぞつぼうをハラハリダヤ運は天まく櫓
幕揚幕切て出てみれば子役まで十二年鶴嗣擯鯱
龍宮城葉銀杏の新顔見せ梅幸不背の王手箱明けて
悪魔の厄はらひ先〔紋〕を〔紋〕五郎おさななじ
みの中よしがみやげは素袍の澁つかき下手にも
〔紋〕ぬ座頭は皆御ぞんじの寶筐印陀羅尼ころば
ぬ情しり七代つゞく江戸根生遍照金剛厄除若衆と
ホヽ敬白

しばらくのつらね　熊井太郎忠基

五代目　岩井半四郎

東岸西岸の柳遲速同じからず南枝北枝の梅開落既
に異なり是皆春の詠にして時こそ周の天正月一陽
初て揚まくら口にはやつた暫と一聲かけてのおめ
みへはいづれも様のお叱もかへり三升は市川のゆ
かりの色も紫の帽子にあらぬ顔の隈思へばつがも
ならぬ坂やこの手柏の二た面鵜の眞似をする唐國は
朝鮮籠甲ぎんながしやかと似た山親玉に似ても
似つかぬ替玉は只江戸子とごひゐきをこうべに戴
かけゑぼし柿の素袍に大太刀もおこがま敷は候得
共伊豫守義經が股肱耳目と呼れたる熊井太郎忠基
けふ顔みせの花櫓相かわら崎御取立願ふすみから
角前髪これで親から二代の兵衞年男子の吉例若衆
とホヽ敬白

當年七月頃仙臺釋迦堂の芝居にて「姫小松」「妹脊山」
「山姥」大切所作事有之役者は粂三郎、三十郎、吉次
郎、金平、菊五郎、團十郎なり大當り

◎文化十三丙子年

○春中村座「比翼蝶春曾我菊」男達梶の長兵衞、舟越
十右衛門、八わた三郎、鬼王に三津五郎、工藤祐や傾城
小紫、本庄介市、白柄十右衛門に菊五郎、梶の長兵衛
妹かしく、田舍娘お梅に下り中村野鹽、奥女中妻木、藤
藏、赤澤十内、梶原平三、箱根屋畑右衛門に東藏、犬
坊丸に松助、月さよ、舞鶴、幡随女房おとせに松江、梶
の長庵とまん江に七藏、長あん妻おれいと團三郎改我長
又十郎、二の宮と傾せい初船に鑑三郎、本庄助太夫、
北條時政、絹うり彌市、友藏、田之助病氣に付不出箱根の寺西
閑心坊に幡随長兵衛、小藤太、大工かゝり六三、幸四
郎、祐成に時政、白井權八に團十郎、伊豆次郎に茶廻
り鶉權兵衛、傳九郎、上るり「其小唄夢廓」清元連中、

河原崎座「容賀扇曾我」手越少將に菊之丞、とらに團之助、せふ〳〵と箱王丸に粂三郎、一法師丸に門藏、閉坊丸に新藏、祐なりに勇次郎、小藤太に四郎五郎、八わたに團三郎、三十郎、梛の葉に大吉、月さよと小林の朝日丸に半四郎、工藤と蒲江に高助、四立目上るり「人來鳥箱根兒髷」常磐津連中貳ばん目「封文めでたくかしく」本郷菊坂かゞや娘おきくと小性吉三郎に菊之丞、湯しまのおかんに團之助、お七と菊酒屋樽ひろひ幸助に粂三郎、廻し神田の與吉と戸倉十内に鬼次、吉祥院の日玄上人に儀右衛門、手代七之助 門三郎、十内娘お松に松之助、八百屋久兵衛に門三郎、菊酒屋後家おいまとおのゝ、お菊兄かゞや武兵衛に勇次郎、かしくおばお梶と五尺染五郎に四郎五郎、佐藤定七とそばやかつぎ六三に三十郎、下女お杉と船越のお十に大吉、げいしやかしくの おやへ、夜番夢のお市、半四郎、鳶の者白山の傳吉、安森源次兵衛に高助、大切上るり「ちらし書仇命毛」富本連中○三月五日より中村座「梅櫻松雙紙」宿禰太郎、漁師梅六、白太夫妻小汐三津五郎、判官代と奴宅内、菅相丞に菊五郎、かりや姫に龜三郎、清一郎と神道者高間鈴成、東

藏、菅秀才に松助、立田のまへと松兵衛女房ちよに松江、齊世親王によね三、希世に友藏、秦の兼武に七三郎、舍人櫻丸と同女房八重早かわり大當り後室覺壽、かりや姫三まくめ計り壹まくつとむ田之助、筑紫の鹽燒白太夫、漁師松兵衛、春藤玄馬之丞に幸四郎、左大臣時平、船のり荒木の李藏、土師兵衛武部源藏、法性坊、團十郎、此狂言おもしろく出來大入大當りなり天津山大仕掛にて菊五郎相丞にて山の絕上へ引あけ中を飛て土間の上を引舟迄引て廻る古來稀なる大仕かけなり大切所作事「京鹿子娘道成寺」、白拍子さくら木に三津五郎、道成寺住僧に七藏、同宿觀音坊に七三郎、同勢至坊に簑助、同金がら坊に菊五郎、同せいたか坊と成田八郎春久に團十郎、○三月七日より河原崎座「局岩藤比翼裲襠」宇治の橋姫の靈に半四郎、平井兵左衛門一子權八、松之助是狂言の發端なり北條の息女時姫に介太太娘八重梅、菊之丞、尾上召仕おはつと七瀨太夫の娘七瀨、粂三郎、本庄下部谷平に門藏、長兵衛、娘おりき、松之助、平尾主水と絹問や佐五兵衛、門三郎、眞虫の治兵衛實は本庄介市、稻毛大膳、四郎五郎、お時兄小佛小兵衛絹問屋上州屋彌市實は本庄助八、三十郎、介太夫後家おらいと中老尾上に大吉、權八と局岩ふじ、長兵衛女房お時、傾せい小紫、半四郎、葛飾十右衛門と三浦屋

四郎兵衞、荒井帶刀、高助、貳ばん目四代目岩井半四郎十七回忌追善狂言所作「江戸紫手向七字」寺西閑心、髭の意久、酒賣花川長兵衞山川新兵衞霽の口仙吉朝岡仙平ひき拔のお品そはやのかげいつき二八著八重梅禿しら玉平井權八上卷の助六三浦屋の小紫けいせいあげまき七役半四郎、やりておみの、大吉、かんへら門兵衞に四郎五郎、新造はな町に菊之丞、同かほるに粂三郎、同卷絹、かほよ、若者喜兵衞に門藏、下女つやに儀右衞門、上るり常磐津連中長唄芳村伊十郎、同伊四郎、富士田吉四郎、三弦杵屋正治郎、同作十郎○四月二日より跡幕五まく八重梅に菊之丞、町げいしやお高に粂三郎、下部谷平に鬼治、介市に四郎五郎、介八と萬佛十右衞門に三十郎、後家おらいに大吉、權八とお時に半四郎○市村座は久々休座之所桐長桐此度再興にて三月十九日より「賜助御量負」菅原の道眞公と白太夫娘小櫻、逆立田、漢六女房おみち、源藏女房戸浪、團之助、堤畑の十作、衞士又六、高橋七郎光俊、才三郎、中納言清貫、わし塚平馬、候兵衞、希世に澤村川藏、輝國に又十郎、かりやひめ市川瀧之助初照之助文化九申年顏見世より改名す齊世親王に紀の長谷雄に三十、春藤玄番と天らん敬に宗三郎、松王妻ちよにおの

江、武部源藏、奴宅内實は宿禰太郎、梅ヶ濱の灘六に勇次郎、かくじゆのまへ、賤女おなる、白太夫娘八重、粂三郎、法性坊と藤原時平、山伏松王院、土師の兵衞、博多の船頭白太夫、高助、大切所作「京鹿子娘道成寺」○小櫻のゆふこんに團之助改こんから坊に勇次郎いとく坊に又十郎、いつちく坊に淺尾萬吉、たつちく坊に市川松太郎、住僧、川藏、くりから太郎に龜三郎、上るり「道行緣結柏」清元連中○四月六日より「有職鎌倉山」原田六郎に龜三郎、口輕勇藏に才三郎、天逸坊、下り中村村右衞門、勇介女房おそでに下り山科甚吉、佐野源藤太下り嵐三右衞門、前司泰村と藪田どく庵に宗三郎、與五作女房おとわ、おの江、大工與五作と三浦荒次郎、源左衞門母しからみに又重郎、弓削大介、佐野源左衞門に勇次郎、源左衞門妻玉笹下り嵐福松、弓削新左衞門、船橋勇介、秋田城之助、高助、貳ばん目嫉妬の場大切「道成寺」是迄の通り○四月十七日より河原崎座「盛衰記」千鳥に菊之丞、お筆に粂三郎、松右衞門女房小よし、かほよ、ゑんじゆ、門三郎、梶原景高と權四郎に四郎五郎、源太景季と船頭松右衞門に三十郎、大切戻駕所作「若菜の花中宵月」女駕かき打出の

お濱に菊之丞、同鈴鹿のお山に粂三郎、禿しけりに松之助、上るり常磐津連中○五月五日より中村座「時鳥貞婦噺」駒澤主膳、宮城阿曾次郎、後に次郎左衛門、三津五郎、磯貝藤介に菊五郎出なし實右衛門妻おさご、勇藏妹ふじ江、松本女房おふじに藤藏、かごや娘おやすに龜三郎、岩城瀧太、荻の祐仙に東藏、駒澤正三郎に三の助、磯貝實右衛門に七藏、げい者小とみによね三、立花桂庵、かごや後家おたく、友藏、座頭とまの市、正木勇藏、七三郎、實右衛門娘深雪後に瞽女あさかほに田之助評判よし船頭提婆の仁介、灸點所大崎木立、嶋川太兵衛、幸四郎、呉服や半兵衛、菊地權の頭に團十郎、下部友平、菊地治部之介に傳九郎、姥おまつ後に藝者小きく松江、上るり糸の五月雨清元連中勤る○五月五日より「増補妹脊山」ひな鳥と入鹿妹橘姫、菊之丞、久我之助、釆女の局、粂三郎、ゑみじと酒屋後家おつめに門藏、ゑぼし折求馬に儀左衛門、めどの方にかほよ、神南村のおさん、松之助、安部行主に門三郎、荷ない茶賣、戸左衛門と入鹿に四郎五郎、宮奴三作實淡海公、渡し守芝六、三十郎、後室定高、春日茶屋娘おせん、大吉、酒屋娘おみわ、立野の里のおきじに半四郎、大判司清澄と鎌足公、おみわ兄ふか七實は金輪五郎今國に高助、大切上るり「岩井水賤女晒布」富本連中○同廿一日より貳ばん目「略織襤褸錦」高市武右衛門に高助、左兵衛女房おぬい、半四郎、次郎右衛門妻おはる、大吉、伊兵衛妹おみよ、菊之丞、お春妹おしほ、粂三郎、加村宇田右衛門、三十郎、高市庄之助に松之助、六郎右衛門に門藏、

○五月三日桐座休の内芝居繁昌祈禱之爲大般若經讀誦執行致し居候所落間之上之大梁中程より折て落たり誠に怪しきこと共なり樣々世間の風説街に滿り有人の曰此大梁は相模の國小原邊の神木成よし神のたゝりと云又は是迄寛の住し木にて大般若の功德にて折れしと其時專らはなし也

○七月八日中村東藏死す常開院法悦信士深川淨心寺印を残す、俳名芝樂と云て家名山城屋と云半道敵にて文化五辰春中村座へ下り追々評判よく上上吉の位に迄成りにけり○六月廿六日より桐座「忠臣講釋」かほよとおりへ、菊之丞彌作女房おかよに甚吉、九太夫、乳もらい十兵衛、杉浦文次兵衛、門藏、力彌に瀧三郎、若狹之介、蔦村傳次、村右衛門、鹽冶判官十太郎母に彌五郎、才三郎、おいしにおれい、おの江、右馬之丞と義平に喜内、勘平、又重郎、師直、重太郎、太鼓持次郎右衛門、萬才とち兵衛、百

娃彌作、おくみ、由良之介七役三十郎、貳はん目「御そんし五大力」小萬に菊之丞、源五兵衞、三十郎、三五兵衞、又重郎、足輕八右衞門、才三郎、宅右衞門に門藏、廻し彌介、善六、家主徳右衞門、候兵衞、○七月十七日より中村座「忠臣藏」本藏と數右衞門、平右衞門、三津五郎、曹平、與茂七、菊五郎、おいしと仲居、藤藏、了竹に小次郎、與一兵衞、伊吾坂東大吉、伴内、坂村熊平、山名、尾上傳三郎、(初坂東幼名三甫松と云)直より公、三藏、よし松中村西藏(東藏子なり)となせとおその、松江、力彌、義助、鄕右衞門、おかる母、七藏、小浪、よね三、九太夫に友藏、右馬之丞、彌五郎、十三郎、かほよ、おかる田之助、師直に彌次兵衞、定九郎、義平、幸四郎、桃井、一もんしや、由良之助、團十郎、(此狂言幕なし大道具三段目御殿場の段花道の松間中道りよりせり出し古今評判大仕掛也)○閏八月七日より貳はん目「父は唐土 母は日本 國性爺合戰」三ノ口 三ノ切 伍將軍甘輝、三津五郎、老一官、辨藏、和藤内母に七藏、錦祥女、松江、和藤内三官、團十郎○八月朔日より河原崎座「菲楷蝶桔梗」新町ふじやあづま、次部右衞門、娘おてる、菊之丞、春永の妾几帳、橋本の下女おとら、粂三郎森の蘭丸、楠葉の佐渡七、鬼治、安田作兵衞、かごかき甚兵衞、門藏、醫者山崎淨閑、小楊葉屋村の喜助、儀右衞門、與五郎妹小ふじ、仁右衞門悴與五郎にかほよ武智十次郎に松之助、三好左京之進、與兵衞母おかや、門三郎、岡嶋丹平實は平岡鄕右衞門、米屋仁右衞門に四郎三郎、小田春永、伏見問屋書役長五郎、勝し賀與五郎正行、三十郎、ふしやの都、與五郎女房關の戸後に放駒お關、橋本治部右衞門後家幻、大吉、光秀娘さつき後に新町井筒やの仲居濡髮のおせき、團生の局、半四郎、山崎の渡し守與次兵衞、若徒十次兵衞後に南方や與兵衞、武智光秀、高助、(不入に付)同廿五日より「双蝶々」次部右衞門と與兵衞母お弓高助、與兵衞妻おはや、放駒長吉、半四郎、濡髮長五郎におせき、大吉、あつまに菊之丞、山崎屋與五郎に粂三郎、南與兵衞に三十郎、尼妙はい、鶯の甚兵衞に四郎五郎、お照に松之助、與次兵衞に門三郎、鄕右衞門に鬼治、鶯右衞門に門藏、手代權九郎に講中六兵衞、儀右衞門、上るり道行「千種の亂咲」常磐津連中○九月三日より貳ばん目「二面在姿繪」瀨の尾太郎に有王丸、四郎五郎、龜王丸に鬼治、深山木藏に門藏、なめらの兵に門三、康頼に新藏、丹波少將成經、小督局にかほよ、俊寛に三十郎、お安に大吉、千どりに半四郎、○閏八月十

五日より桐座「報讎殿下茶屋聚」千嶋冠者、糸屋萬作、本田靱負に男女藏、間瀬源四郎に龜三郎、岡船妾お才に幸右衛門女房おかつ、甚吉、内田中將秀秋、幸右衛門母小槇に又重郎、諏訪新十郎、才三郎、岡船岸之頭、宗三郎、彌助妻おりき、おのゐ、東馬三郎右衛門、馬士官八、舍柳、早瀬伊織に勇次郎、東馬橋藏、人形屋幸右衛門、下り三桝大五郎（三升源之介の父なり）早瀬左嶋頭、下り淺尾左衛門、○九月十一日より貳はん目「戀飛脚」釣拭の藤次兵衛、針立道庵、忠三妻おきよ、荷物瘤の傳か母、馬士六藏、在所男達源五郎、孫右工門（七役）工左衛門、槌や次右衛門に男女藏、八右衛門に大五郎、忠兵衛に勇次郎、梅川に甚吉、上るり富本連中○九月十二日より中村座「布引瀧」實盛に三津五郎、待宵姫に田之助、葵御ぜんに龜三郎、太郎吉に西藏、小まんに松江、九郎介、友藏、多田藏人に團十郎、木曾義賢と瀬の尾十郎、幸四郎、貳番目二代目坂東彦三郎五十回忌尾上松緑一周忌追善狂言（菊五郎おこまの幽靈大當り）「褄重噂菊月」佃や喜藏、肴うり喜三郎、三津五郎、大經師茂兵衛、城木や娘おこま、尾花六郎右衛門に菊五郎、でっち次郎吉に松助、喜三郎妹お玉に松江、城木屋庄兵衛、友藏、げいしや額の小さんに田之助、髮結才三に幸四郎、手代丈八に團十郎、大切上るり由縁の暦歌（菊五郎田之助）清元連中勤る四まくの夢の場おこま磔の造り物後に菊五郎おこまのゆふこんにて土間の中程よりせり出し舞臺へ中ウ飛が如く歩行又後に葛籠の中より出て上へ引あげて取大仕かけなり○同廿四日より松江大坂登り名殘り狂言大切に所作事「七小町容彩四季」變化、けいせい、田舍娘、女太夫、老女、鳥さし、女達、石橋、上るり清元連中長唄芳村幸次郎同伊久四郎、富士田千太郎、三弦杵屋勝五郎、同喜三郎、同與惣次郎、相勤る○九月廿四日より河原崎座「日蓮記御法花王」彌三郎女房お舟、菊之丞、蜑小いそ、松之助、四條金吾頼基、吉祥後日朗法師、鬼次、北條長時、小室の修驗者惠朝阿闍梨、波木井の庄司、四郎五郎、鵜飼勘作に船頭彌三郎、三十郎、勘作母おつぎ菊王丸後に日蓮上人、大吉、勘作女房おでん、波木井の息女七里姫、半四郎、△顔見せ狂言中村座「不破名護屋雪梓」國河上人實赤松喜次郎、不破伴左衛門、赤秋彦次郎、豆腐や三ぶ實は岩見太郎、幸四郎頼兼、細川勝元、夜そば賣風鈴松五郎、菊五郎、奴土佐又平、狩野の元信、七三郎、細川政

元と梅津嘉門、（市村龜三郎改）坂東彦三郎、柏木與方沖の井、下女おなか龜三郎、修げんじや三僧都やりて　お爪質や利八、宗三郎、渡邊民部之介、足輕世繼瀬平、下男豆助、七藏、銀杏のまへ、傾せい若紫、よね三、狩野歌之助直信、不破伴作、大和床のみの、寶助、八卦置多仲、實は石塚玄蕃、山名宗全、同奥方お國御ぜん、友藏、乳人政岡、金八妻おはや、辻君おつち、甚吉、大江之介鬼貫、はいかいし伊丹の鬼貫、人形や金八、家主作兵衛三十郎、傾城高尾、由三妻かつらき、三ふ妹おみや、田之助、角力取犬上團八、名古屋山三、井戸や堀披の傘、三津五郎、奴後に世戸平、赤松武者之介、刀師でんぼう政に傳九郎、（四立目上るり）「其川竹廓雀」（田之助三十郎）菊五郎、清元連中相勤る**河原崎座**は「清盛榮花臺」藤九郎盛長、伊賀平内左衛門、手打そばやの三ぶ、伊三郎、政子の前、牛若丸、賤女お波實は爲朝息女牛王姫、松之助、八丁礫喜平次、奴赤平實は直江左衛門、熊坂の手下鹿生の松若、鬼治、おんぼう五郎又、股野五郎、熊坂手下不知火太郎、（門藏改）馬十、關原與市、八人藝大島鬼遊、熊坂手下河内の覺乘（利しよ蔵右衛門改）惣領甚六、瀧口三郎常俊、増尾の金吾壬生の小猿（三藏改）桃太郎、一萬丸（大谷廣五郎）、箱王丸（市川鯉

三郎、丁七唱妹早咲、白拍子朝貞、下女お瀧、かほよ、宗盛に大福餅うり勘兵衛實は丁七唱、太夫の進友長、又十郎、賴朝、元吉四郎、夜番ねことの松、（尾上紋三郎改）仙花（森野）彌平兵衛宗清、熊坂手下三條右衛門、實は土佐次郎、昌俊、勇次郎、祐親娘辰姫、いつくしまのかゝへお德、成範卿息女彌生の前菊之丞、祐安妻滿江、ときわ御ぜん、宮しまのかゝへお時、渡し守お大に大吉、工藤妻梛の葉、おんぼう櫛まきのおさん、いつくしまときわや女房お民、娌若な實は宗清妹白妙、女修行者妙全實は爲朝の妻八丈の局、半四郎、清盛、河津三郎、工藤金石丸、熊坂長範、不動明王靈像、惡源太義平、團十郎、貳ばん目上るり「嫗髮戀曲者」（半四郎、菊之丞、松之介、團十郎）常磐津連中なり**桐座**休なり

當年女形山下萬作死す（四月八日）中村歌藏（七月廿三日）嵐來藏道外形（十二月八日）坂東清藏死す

◎文化十四丁丑年

○春**中村座**「今朝春曾我湊」興行なき内正月十二日夜乘物町より出火にて兩座共に類燒せり、**河原崎座**「木挽町曾我賜物」秩父の重忠に伊三郎、人丸箱王丸に松之助、朝日奈に鬼治、小藤太と景清伯父大日坊、

馬十、鬼王に甚六、御所五郎丸に新藏、舞鶴にかほよ、八はたに又重郎、團三郎に仙花、京の次郎に勇次郎、一萬祐成と三浦の片貝に菊之丞、十内と女房小よしに大吉、梛の葉にあこや、半四郎、伊藤祐清と艾賣三升屋五郎兵衛實は景きよに團十郎、上るり五立目「狩衣花此頃」半四郎、菊之丞、松之介、團十郎富本連中貳ばん目「妹脊緣利生組糸」石塚彌三兵衛、伊三郎、若徒權十後にあんま多仲に馬十、糸屋佐右衛門、紙くず買辻右衛門に甚六、萬才德太夫、多仲女房ごぜのおかん市川團七改津打門三郎、中根や佐五郎に仙花、石塚佐七郎後糸屋手代佐七に勇次郎、山住五平太娘小糸後に藝者中根屋いとに菊之丞、與茂作娘おとり、女髮結おもとに大吉、糸や娘おいとに綱五郎女房おふさ後にげいしやお房、半四郎、非人半時九郎兵衛實は山住五平太と木町綱五郎に團十郎、上るり、「浮名たつ身」勇次郎菊之丞常磐津連中○澤村田之助病氣にてありしがついに西方淨土に趣けり、麗香院映譽梅居士正月廿八日行年二十才

普請出來に付○三月五日より中村座「頃櫻曾我湊」景淸と小藤太、中間權助實は赤澤十內、高市數右衛門、黑船忠右衛門、幸四郎、祐成に時宗、淸玄坊、鎌倉や五郎八、孫太夫娘おつる、菊五郎、朝日奈と篠村伊織に彥三郎、傾城瀧川、三浦の息女小櫻姫、龜三郎、せふ／＼と藝者おせんによね三、手代伊八と團三郎に簑助、荏柄平太と手代三九郎、友藏、月さよと八百千代女房おちよに甚吉、町かゝへはんじ物喜兵衛と八わたに三十郎、梛の葉と奥女中小萬、あこや、大吉、當狂言より當座へ出勤八木孫太夫、獄門庄兵衛、下部烏羽平、重忠に工藤祐經三津五郎、八木孫三郎と御所五郎丸、傳九郎、大切三津五郎所作事「六玉川秀歌姿見」井出の玉川に俊成卿、かうけいし擣衣の玉川に曲馬奴野路の玉川に切禿女郎、調布の玉川に勇み商人高野の玉川に勸化坊主野田の玉川に狂女といい後に勸化坊主評判あしく鎭西八郎爲朝に改る

普請成就に付○三月七日より桐座「新舞臺仁礎」大領久吉と勝谷介右衛門に高助、濱町の方に里好、眞柴久秋下り片岡小六郎、初め中村熊五郎後にかゝ右衛門文化七年秋に中村林左衛門と改同十年仁左衛門養子となりて改名す岸田姫と瀧川、下女おひさ、桑三郎、小西彌十郎に久次下り坂東十太郎、岸田局に石川五右衛門下り仁左衛門、貳ばん目「東都鑑曾我世語」河津三郎靈と大藤內成景に高助、まん江市川門三郎、大儀屋傳三に下り中村京十郎、大藤內妻榊下り花妻、片貝に下り片岡長太夫、初市川友五郎文化八未の年片岡愛三郎と改同年顏見世より愛之介と改夫より今名に改時宗と大藤內娘乙女、

条三郎、仁田四郎に重太郎、朝日奈に仁左衛門、三ばん目「朝櫻隅田川八景」稲の谷半十郎に高助、半兵衛妻おさは、里好、八わたや八兵衛に舎柳、堤彌惣次、小六郎、げいしや八重次に長太夫、同小いなに条三郎、半兵衛に重太郎、本庄主税に仁左衛門、狂言作者奈川亀助下る ○四月八日より「廿四孝」越名弾正に勘助母、高助、越名妻入江、里好、高坂妻唐織に長太夫、慈悲藏妻お種に条三郎、慈悲藏に重太郎、横藏と高坂弾正に仁左衛門、「猿廻し門出の一節」非人願鐵に舎柳、井筒やお辰におの江、與次郎母に門三郎、井つゝや傳兵衛に下り坂東久女助重太郎門人にて上方にては荒太郎と云、番頭長九郎と家主權兵衛に紋治、お俊に長太夫、井筒や娘おゆきに条三郎、與次郎に重太郎、本國や仙太郎に仁左衛門、松山家の若殿千代君、幸若に朝太郎團之介倅なり大切所作事團之助「三人形紅の彩色」須磨の雪に汐汲女、其原の月に木賊刈、東山の花に子もり娘長唄岡安喜三郎、富士田勇藏、三弦杵屋伊右衛門、同彌右衛門相勤る團之助去春より病氣にて此度久々にて出勤なり

○三月七日より河原崎座「櫻姫東文章」所化自久に團十郎、兒白菊に松之助、以上發端なり由田郡次兵衛に伊三郎、稲の谷半十郎に松之助、入間悪五郎に鬼治、新清水、老殘月に馬十、局長浦に甚六、吉田松若丸に桃太郎、松井の源五に又十郎、粟津の七郎、町かゝへ仙太郎、仙藏、吉田下部軍介に勇次郎、郡兵衛娘小ひなに仙太郎女房葛飾のお十に菊之丞、吉田息女櫻姫後に小塚原千代倉かゝへ風りんのおひめに半四郎、新清水住僧清玄阿闍梨、釣鐘權介實は信夫の惣太、稲の谷半兵衛に團十郎、大切五節句の所作事

正月「松色操高砂」やつし尉と大神樂團十郎、やつし姥に鳥をひ半四郎、上るり常磐津小文字太夫、同喜美大夫、同安和大夫、三弦式佐、上てうし安次

三月「櫻艸娘髷簪」櫻草うりに團十郎、やしき娘に半四郎、長唄芳澤伊十郎、同伊四郎、同孝三郎、同源五郎、富士田吉四郎、三弦杵屋正次郎、同和助、鳥羽屋三五郎、杵屋三之介、同作十郎

五月「鏊忿身五郎」矢の根五郎に團十郎、大根馬に善次上るり大薩摩文太夫、三弦杵屋作十郎、同三之助、

七月「誓比翼鳥鐘」玄宗皇帝と子守女に團十郎、楊貴妃と樽ひろいに半四郎、上るり富本豊前太夫、同綱太夫、同内匠太夫、三弦鳥羽屋里夕、上てうし同扇

三
九月「檀獅最負物（かみまつりし、のひきもの）」綱五郎に團十郎、お房に半四郎、御祭禮ねり子に菊之丞、松之助、かほよ（初銀次郎事）路之助、てこまひに鬼治、善次、新藏、（市川）團八、門三郎、小團次、桃太郎、長唄芳村伊十郎、富士田吉四郎、三弦杵屋正次郎、同作十郎、上るりは富本連中前之通り、笛に平田門十郎、依田喜太郎、小つゝみ望月太左衛門、大つゝみ西川源藏、大こ坂田十兵衛、小西庄兵衛、ふり付藤間勘十郎、市山七十郎なり、

○四月八日より中村座「奥州安達原（おうしうあだちがはら）」貞任に幸四郎、義家に菊五郎、加茂次郎に庄や正右衛門、七三郎、生駒之介に彦三郎、よし家奥方敷妙によね三、新羅三郎に三の助、鎌杖直方に友藏、安方妻おたいに甚吉、うとう文治安方に三十郎、袖萩に大吉、宗任に三津五郎、鎌倉權五郎に傳九郎、貳ばん目「靑樓詞合鏡（さとことばあはせかゞみ）」唐物屋小兵衛に幸四郎、佐野次郎左衛門に菊五郎、八ッ橋に龜三郎、手代善六に小次郎、半田いなりに熊平、大木場の三ぶ、宗三郎、文藏女房おしづ、大吉、木屋文藏に三津五郎○五月五日より「忠孝菖蒲刀（ちうこうしやうぶかたな）」赤堀水右衛門に幸四郎、鳥井彌十郎、石井兵助、菊五郎、斯波左京之進に七三郎、石井半次郎に彦三郎、藤兵衛女房おりつに龜三郎、曾根治太夫に宗三郎、飯田由兵衛に七藏、兵衛娘おとせ米三、奴買介に三の助、神原兵治と百姓又四郎に友藏、十左衛門妻岡野に甚吉、餝磨多門之介、石井兵衛、中野藤兵衛に三十郎、兵衛妻おらい十左衛門妻おくら、大吉、三木十左衛門に三津五郎、若黨大倉瀨平、傳九郎、（大入にて七月下旬迄興行す）○五月十四日より桐座「鬼一法眼三略卷（きいちほふげんさんりやくのまき）」一條大內藏信光、福井の里の又作に高助、勘ケ由女房鳴瀨、乳人おむらに里好、鬼次郎と八劔勘ケ由に舍柳、皆鶴姫に長太夫、牛若丸、常葉御ぜん、賤女小いそに粂三郎、下部知惠内と福井の里の歌町に重太郎、鬼若丸と鬼一法げん、仁左衛門、貳ばん目猿廻し大切三ッ人形所作是迄の通りなり、河原崎座は五月は興行なく○六月十八日より夏狂言なり「彦山（ひこさん）」一味齋妻お幸に（下り）藤川友江、東傳藏に桃太郎、下部友平に（中山）門三、彌三松に鯉三郎、杣斧右衛門、松風藤藏に善次、一味齋娘おきく路之介、一味齋（小川）十太郎、京極內匠に廣右衛門、郡音成に才三郎、衣川彌三左衛門に毛谷村六介、又十郎、おそのに菊之丞、貳はん目「女舞劔紅楓（おんなまいつるぎのもみぢ）」半七姉おかよに友

江、笠や平右衛門に門三、今市善右衛門に嵐三左衛門、おつうに鯉三郎、あかねや半兵衛に廣右衛門、半七に才三郎、笠や勝二郎に又十郎、みやの三勝、半七女房お袖、菊之丞、大切菊之丞所作事「御取立娘四季遊」黒木賣、座頭、女猿廻し、上るり富本連中長うた芳村伊四郎、三弦杵屋正治郎、○七月廿八日より彦坂杉坂之段、敵討之段二まく出す○八月朔日より中村座尾上松緑三回忌追善狂言「追善累肩子」薩嶋宗観、羽生や介四郎、幸四郎、天竺徳兵衛、葛飾の正作、浮嶋多門の頭、座頭徳市、げいしや重井筒の累、木下川與右衛門、千原左近、七役菊五郎、廻し男金五郎に彦三郎、げいしや小さん、小山の息女千壽の前に龜三郎、みせ物師藤六に友藏、與五郎女房おきく、乳母宿り木に甚吉、里見左京之進、若黨良介に三十郎、宗観妻夕浪、かつしかのお十、大吉、浮嶋多門の頭、渡し守曲かねの與五郎に三津五郎、○八月二日より河原崎座「嫩軍記」熊谷と六彌太に仁左衛門、平山季重に合柳、みだ六に馬十、梶原に大谷馬十の子後に門藏となる杉藏、石や娘小ゆきに路之助、八足廻し茂次兵衛に紋治、乳母はやしに又十郎、ふじの方に花妻、田五郎に小六郎、あつ盛に小次郎、菊之前に長太夫、玉織姫とこさがみに菊之丞、忠のりと庄や孫作、よし經に團十郎、貳ばん目「浮借結紙治」粉屋孫右衛門に仁左衛門、治兵衛門女房お岩に長太郎、きの國や小春に菊之丞、奥女中野崎實は傳海おさん、紙屋治兵衛、團十郎、大切上るり道行「露にぬれ事」菊之丞、團十郎富本連中○九月九日より中村座「連歌月光秀」武智光秀に幸四郎、眞柴久吉に菊五郎、加藤政清に彦三郎、連歌師紹巴に友藏、園生の局に甚吉、森蘭丸に三十郎、光秀妻さつきに大吉、小田春永に三津五郎、貳ばん目「旨首尾鳴戸白浪」順禮おつるばゝあに幸四郎、隱岐の丈介に菊五郎、いよ松や三幸に彦三郎、山名や浦里に龜三郎、十郎兵衛娘おきみに西藏、安村時次郎に鎌助、小野村郡兵衛に友藏、安松靭負、櫻井主膳に三十郎、十郎兵衛女房お弓に大吉、鳴戸銀十郎、實は阿波十郎兵衛、粟山造酒之進實は海賊十郎兵衛、三津五郎、同十三日より河原崎座「巖流島勝負宮本」佐々木巖流、笠原新三郎、仁左衛門、熊澤甚之丞、奴團助實は宮本若黨繁藏に合柳、森下義太夫、中間七介、馬十、花森宮次郎、市川茂々太郎、木曾山童子淺尾万吉傳五右衛門女房園のや、紋治、宮本右門、宇佐美主計、又十

郎、仲居おさのと清瀧御ぜんに花妻、百濟典膳、白倉傳五右衛門に小六郎、名島村のおしな、傾せい東路、長太夫繁藏女房おきぬ、傳五右衛門娘糸はき、菊之丞、吉岡帶刀、宮本無三四、團十郎、○十月五日より片岡仁左衛門上坂名殘狂言「戀女房」十段目十一段目お乳の人重の井ひぬかの八藏、仁左衛門、本田彌惣左衛門に馬十、じねんじよ三吉、鯉三郎、調姫、萬吉、官太夫、小六郎、關の小まん、菊之丞、與作、馬士八藏、團十郎、大切「化粧六歌仙」業平、黑主、僧正遍昭、康秀、喜撰法師、壯丁當作實五代三郎、仁左衛門、仕丁、舍棚、馬十、門三、善次、官女坂東國藏嵐冠藏尾上仙藏、路之介、瀨川富三郎深草少將に茂々太郎、右大辨國經、紋治、仕丁、又十郎、小六郎、小野小町、長太夫、般若五郎照光、團十郎

△顏見勢中村座「花雪和合太平記(はなゆきわかうたいへいき)」長崎爲基、鍋いかけきせるの鷹九郎實は淵部伊賀守、幸四郎、辨の內侍、和泉の千枝狐、傾せい大淀、長藏女房おはま、菊之丞、正行妹玉琴、松之助、足利直よし馬十、相模次郎妹夕榮、よね三、恩地左近に七藏、脇谷義助源平改源之助故宗十郎養子なり駕かき次郎藏、實は大塔の宮の靈、畑六郎左衛門、佐川田喜六實は村上彥四郎、三津五郎、切みせちよ〳〵ろお松、判人金八熊平改三津右衛門、家主一寸伊九右衛門、甚六、五大院宗重、宗三郎、村上義照、妹夕して、龜三郎、大館左馬之介、部屋頭辰右衛門、友藏、竹澤左中、七三郎、赤松次郎則村、新田義貞、大福餅やあつた擲兵衛實は數馬、三十郎、切みせ三日月おせん、喜六女房およし、次郎作女房お雪實は吳羽の方の亡靈、半四郎、楠正行、衛士又五郎實は葛根之介、坊主小平次實は淵邊太郎友光、肴賣鰕ざ子の十實は直新左衛門、篠塚伊賀守定綱、穴堀大工のみの長藏、團十郎三立目上るり「戀山路奇釣夜著(こいやまぢてくだのつりよぎ)」菊之丞、源之介松之介、三十郎團十郎富本連中大切上るり「仇略睦言(あだなやつしつもるむつごと)」半四郎三ッ五郎團十郎、常磐津連中三津五郎、半四郎夫婦駕の所作事大でき

此時幸四郎悴市川高麗藏六才にて初舞臺黑餅を切破りて子役四五人と立廻り皆々追込て花道へはなる所大できなり

○十二月朔日より「姬小松」有王に幸四郎、小督局、菊之丞、俊くわんに三津五郎、小辨に才藏西藏改、所作雲穴、甚六、次郎九郎に友藏、なめしの兵に三十郎、お安に半四郎、龜王に團十郎、深山木花に傳九郎、葺屋町芝居都傳內座興行に付○十一月七日より都座「惠咲梅判官贔負(むろのうめはんくわんひいき)」鹿ケ

谷の山だちのおしな實は典侍の局、一の谷軍陽新地福原屋のおせい、傾城陸奥實は蝦夷國の綿典皇女、大吉、長田後家内海御せん、漁師浦作、角力取段の浦浪右衞門實は菊王、四郎五郎、鷲尾三郎、舟頭長吉、彦三郎、飴賣吉次實は錦戸三郎、男げいしや君八、女非人おとら、紋治、榛の次郎娘朝顔、げいしや歌吉、路之助、樽ひろひ松吉、松助、猪股小平六と判人源八、山伏わぼく院中山門藏改嵐三八、福原や幸吉、植木や松太袱野仙花、鈴木三郎妹小手の戸、福原かゝへおやま、下女おしげ甚六、百姓はま六、實は鎌田政清、手代勇七實は川越太郎、伊三郎、靜御ぜん、長田女房牛王の前、賤女おやま、女非人お手元お市、實は藤の森小女郎狐、梅基妹小中實は鄕の君に条三郎、越後同道晋作實は源九郎狐、九郎義經、山賊三上の夜叉丸、實は宗盛、長田景宗、榛の次郎娘朝かほ實は宗盛、庵崎松の庵梅基、實は佐藤忠信、菊五郎、三立目切上るり睦女夫義經くめ三、松介、菊五郎 清元連中大切上るり「嬲妹脊抱柏」条三郎菊五郎鶴賀新內、森田座再興して〇十一月十七日より「御贔負歸路爲朝」遠藤盛遠、非人權、又十郎、袈裟御せん、長田吳竹、友江、平淸盛、花守深谷の次郎八、廣右衞門、袈裟御せん母衣川、長田太郎景宗、才三郎、宗淸妻白妙、あま小磯、藤藏、女順禮初花、重盛みだい園生方、花妻、鎭西八郎爲朝、傾せい常盤木、齋藤左衞門信家、彌平兵衞宗淸、男女藏、渡邊直、より朝、勘彌、大切「積戀雪關扉」關兵衞男女藏、宗貞、又十郎、墨染に藤殘、小町姬に勘彌なり

十一月二日市川團之助死す、智幻西順信士、筑地本願寺塔中法照寺に印を殘す、行年三十二才、嵐新平死す

◉文化十五戊寅年（文政と改元）

〇春中村座「筆曾我曲輪日記」祐經に景淸、幸四郎、鬼王女房月さよ、妹十六夜、菊之丞、八丸に松之助、大日坊に馬十、奥女中久須美、よね三、まん江、傳三、七藏、本田次郎、源之助、祐成と近江八幡之助成行、重忠、三津五郎、奥女中宇佐美、龜三郎、赤澤十內に三十郎、小袋坂の番人割竹のおとわに半四郎、時宗と團三郎、鬼王、團十郎、祐兼に傳九郎、貳はん目古ぼね買源兵衞堀の源兵衞に幸四郎、仲町藝子お照に菊之丞、甚兵衞娘お關に松之助、平岡鄕右衞門に馬十、治部右衞門に七藏、げいしや松吉に小治郎、山崎屋與四兵衞、三津五郎、中間佐渡七に三津右衞門、研屋佐介、甚六、三原や手代權九郎に宗三郎、三原や專藏に籐助、野手のお

三ばゝあに友藏、南方十次兵衛と鶴の甚兵衛に三十郎、子守おとら後にげいしや長吉、輿四兵衛女房小梅に半四郎、關取濡髪の長五郎、團十郎、下駄の市に傳九郎、大切上るり「梅柳春道行」三ッ五郎、松之介 菊之丞、半四郎 團十郎常磐津連中◎二月四日より壹ばん目と貳ばん目の間へ「鎌倉三代記」六つ目七つ目 百姓東三實は佐々木高綱 下り 中村芝翫、時姫に菊亟之、三浦之助母鳴戸に七衛、北條時政に友藏、三浦之介義村に團十郎、○二月十日より芝居「曾我梅菊念力強」祐經にげいしや雪野後に長右衛門妻お絹、大吉、小藤太と見世物師梶の長兵衛に四郎五郎、でつち勘吉實はせんじ坊、下部團介、彥三郎、石部や倅才次郎、湯屋番頭平介、紋治、鬼王に善次、堤幸左衞門、質や金兵衛、三八、町かゝへ七之介と片岡幸之進、仙花、八わたとおはん母おかや、福島や清兵衛に伊三郎、稲の谷娘十六夜後にげいしやおその、同妹おはん後に新造かしく、せふ〳〵、粂三郎、時宗と團三郎後に大工六三、帶屋長右衛門後に針の宗庵實は新藤德次郎、菊五郎、五立目上るり「帶文雪穴解」くめ三 菊五郎 清元連中○三月七日より大切所作事菊五郎「深山櫻及兼樹振」春に傾せいの白梅ろくろ首の妖怪「座頭の越後唄」木琴「小袖物狂ひ」保名やつし 夏に「蝦蟇仙人」三本足の蟇の作り物 秋に「玉藻の粧ひ」九尾の狐「壽柱建」仕事師の所作 冬に「菊見の振袖」白拍子終母がいころとなる禿しげり、松助、奴に三八、此兵衛、新藏、善次、善治、相模寺の金剛律師覺元、菊五郎、金澤八郎照元に若太夫傳之助、上るり常磐津連中、清元連中、長唄岡安喜三郎、三弦杵屋勝五郎相勤る○三月五日より中村座「東山殿劇場段幕」名古屋山三、物草や太郎兵衛、小栗宗丹、芝翫、傾せいかつらきとお國御ぜん、菊之丞、土佐將監娘銀杏のまへに松之助、犬上團八に馬十、又平妹藤浪によね三、土佐光信に七藏、奴岡平に下り淺尾友藏、三上官藏に下り中村芝六、佐々木采女之介に源之助、不破伴左衛門に幸四郎、土佐又平光興に三津五郎、花形や會平に甚六、同娘お花に亀三郎、長谷部雲谷に市川友藏、佐々木左衛門賴方と金魚や金八、三十郎、仲居おみやに半四郎、山三下部鹿藏と佐々木桂之助に團十郎、貳ばん目故人松本幸四郎十七回忌と櫻田治助十三回忌追善狂言「幡隨長兵衛精進俎板」大江家中鳥取主計、芝翫、小紫に菊之丞、彌市に小次郎、幡隨長兵衛に幸四郎、一子長松にこま藏、本庄若徒介八、三津五郎、中間鐵平に三津右衛門、鶉權兵衛に宗三郎、

白井權八、長兵衛女房おちか、半四郎、寺西閑心に團十郎、○四月五日より大切所作事「其姿花圖繪」丹前奴大助、子守でつち太郎吉、石橋の役人富貴三郎、芝翫、傾城香久山、矢取娘お岩、石橋の役人花ぞの、半四郎、丹前男浮世之介、手品江戸藏、石橋の役人花房太郎、三津五郎、上るり常磐津連中、長唄芳村伊十郎、富士田吉四郎、松永兼五郎、三弦杵や正次郎、同和介、同六三郎相勤る○四月八日より都座「伊勢音頭戀寢劔」貢伯母おみのに大吉、杉山大藏に四郎五郎、下田萬次郎に彦三郎、油やおしかと正直太夫に紋治、仲居おまんと猿田彦太夫に三八、料理人喜助に仙花、孫太夫娘榊に甚吉、花浪左膳に伊三郎、油屋おこんに粂三郎、福岡貢に菊五郎、◎四月十五日より貳ばん目「双蝶々」三まく出す、長吉姉おせきと濡髪長五郎、大吉、山崎屋與五郎、彦三郎、講中六兵衛と鄉左衛門に紋治、あづまに路之助、山崎與次兵衛に門三郎、茶や伊四郎に伊三郎、放駒の長吉と京屋都に粂三郎、行司霧守に菊五郎、○五月五日より中村座「妹脊山」定加とふか七に芝翫、芝六女房おきじと雛鳥に菊之丞、官女に馬十、淺友、小次郎、津打門三郎、秀十郎、松本三吉、宗三郎、入鹿に幸四郎、大判司と求馬に三津五郎、芝六一子三作、男熊、お清所お村と中納言兼秋に甚六、橘姫に龜三郎、酒屋後家おなるに友藏、獵師芝六とでつち彌太郎に三十郎、おみわに半四郎、病氣に付松之介相勤大久我之助と大織冠に團十郎、貳ばん目「仕入染鳫金五紋」鳫金文七に團十郎、雷庄九郎に幸四郎、安平右衛門に三津五郎、布袋市右衛門芝翫極印千右衛門三十郎、けいせい清川に半四郎、同岩さきに菊之丞、山川屋權六に三十郎、同おくめに松之助、大入大當り○四月下旬年號文政と改る○五月五日より都座「松竹梅東鑑」ほつたん宅間市之進妻粉川、大吉、源次兵衛一子染五郎、松介、室住嘉太夫、門三郎、安森若徒久平に伊三郎、此間年數六ケ年たつ松月尼實局粉川、安森老母渚に大吉、釜屋芠武兵衛、高野山の莫造院學山、四郎五郎、大友三郎義長、灸點や居候彌作、彦三郎、宮川町のげい子きくの、松助、戸倉十内に大友常陸之介、仙花、高野やげい子琴野、賤女およね甚吉、八百や久兵衛實は若徒久平修行者地藏坊正源に伊三郎、宅間市之進娘お梅、伊勢參り吉三郎、久平娘お杉に粂三郎、安森染五郎に高野やのか丶へ粂之助、吉原宿の飯もり小夜衣のお七、

菊地兵庫之介成景菊五郎、四まくめ上るり「文明笹一夜」くめ三菊五郎故延壽齋十七回忌に付清元延壽太夫、同巳三次郎、延壽悴なり勤る○六月十六日より夏狂言森田座久々にて興行「妹脊山」入鹿に幸四郎、玄蕃に宗三郎、彌太郎に桃太郎、官女お成、御清所津打門三郎官女大殿橘姫に瀧之助、彌藤次と官女櫻の局、馬十、定高に久我之介、おみわ菊之丞、大判事とひな鳥、求馬、ふか七に團十郎、貳ばん目「東染榮久松」鬼あざみ清七後にあざみや清兵衞、非人鬼門喜兵衞實は硎や多三郎に幸四郎、野崎の小奴馬右衞門にこま藏、油屋後家お熊、判八目玉安に宗三郎、油屋手代善六と山家や佐四郎に馬十、油屋娘おそめと藝者おみつに菊之丞、佐枝家中野崎久作、非人ごみくた勘太とでちつち久松實は稻穗幸藏に團十郎○七月十五日より中村座「敵討揃達者」絹川彌三左衞門と一味齋、毛谷村六介、芝翫、一味齋娘お菊、菊之丞、六介妹おぬい、松之助、春風東藏に馬十、一味齋妻おつぎに七藏、京極内匠後にみじん彈正に幸四郎、足輕こま藏にこま藏、轟傳五右衞門、鑓持佐五平、三津五郎、渡邊勘ヶ由、友藏、杣斧右衞門、三十郎、一味齋娘おその、半四郎、絹川彌三郎、團十郎、奴友平、傳九郎○同十七日より都座「千本櫻」しづかとお里、すけの局、小せん、川越太郎、佐藤忠信、同狐、銀平、權太、覺はん、十役大吉、彌左衞門にさかみ五郎下り淺尾爲十郎、梶原に藥醫坊、四郎五郎、よし經に小金吾、彌介、彥三郎、貳はん目「增補猿曳諷」釣かねや權兵衞、四郎五郎、井づゝや傳兵衞、彥三郎、白じんおしゆん、瀧三郎、古手や五郎兵衞、門三郎、仲居おかねにおの江、ばばあおくま、爲十郎、猿廻しおとく、大吉○八月十日より中村座「伊達競阿國戲場」山名持豐、百姓金五郎に芝翫病氣に付芝翫代り左馬之介、妻沖の井に菊之丞、鹿之介妻此花に松之助。修げん者萬海、榮御前、馬十、仁木直則、豆ふや三郎兵衞、幸四郎、足利兼若君、こま藏、絹川谷藏、百姓與右衞門、三津五郎、でつち豆太、甚六、當間圖幸鬼貫、宗三郎、高尾に龜三郎、牟禮一角、道益姉小卷、友藏、渡邊民部に三十郎、政岡とかさね、出雲のおくに、半四郎、細川勝元、賴兼、仁木妹八汐、男之助、團十郎、山中鹿之助、傳九郎○九月九日より「忠臣講釋」矢間喜内に芝翫、かほよとおくみ、菊之丞、山名と娑や傳三、馬十、喜内女房おはし、七藏、定九郎、淺屋友藏、力彌、に茂々太郎、師直と九太夫に幸四郎、十太

郎一子太市、こゝの藏、由良之介と重太郎、三津五郎、判官に三十郎、おれいおりへに半四郎、五郎太と義平に團十郎、貮ばん目「女鉢本」白妙に芝翫、妹玉章松之助、佐野源左衞門に三十郎、時頼入道に三津五郎、大切所作事「花三升菊壽」あつ盛、米つき、隅田川渡守に團十郎、玉織姫、花うり女、狂女に菊之丞、上るり富本豐前掾連中（此年豐前太夫受領して豐前掾とあらたむる）長唄芳澤伊十郎、富士田吉次郎、松永兼五郎、三弦杵屋正次郎、同六三郎、勤る顔見せ、中村座「伊勢平氏攝神風」平淸盛、茶筌賣治郎藏實は上總之介廣光、庭作り出村新兵衞實は廣光に芝翫、乳人八條の局、出材女房おさく實は上總之介女房五百はた、大吉、飛彈左衞門景家、漁師灘六、實は伊賀平內、寒ねん佛寒通坊に爲十郎、牛若丸、駒之助、（故中村東藏の悴才藏此度芝翫養子となり改名す）關原與市に七藏、長田庄司忠宗、市川友藏、新院の姬宮重子の方と水屋常盤屋お松實は賴朝、松之助、漁師鹿藏實は多田の行綱、野ぶせり野晒の三、阿波の民部に三十郎、田舍娘那須のおさと、三國の小女郎、實は殺生石の靈魂に半四郎、小松重盛と崇德新院、熊坂太郎長範、西打當作、夜そば賣玉屋新兵衞實は三浦之介義澄に三津五郎、澁谷金王丸、平宗盛に傳九郎、三立目上るり「誰身色和事」芝翫 半四郎 三津五郎、常磐津連中相勤る、狂言作者篠田金治改名して並木五瓶となる

葺屋町座元名代かわり玉川喜十郎となる九月廿七日願相濟

江戸歌舞伎大芝居元祖續狂言　　葺屋町狂言座　玉川彦十郎

承應元壬辰年初而於葺屋町に大皷櫓上け歌舞伎芝居興行仕元祿元戊辰年迄年數三十七ヶ年之興行今般倚又葺屋町にて蒙御免當寅霜月朔日より私名題を以興行仕候承應元辰年より文政元戊寅年迄及百六十七年に

諸書を考るに承應元辰年興行の事いまたみあたらず寬文四辰年市村竹之丞玉川主膳相座本にて興行したる事諸書にみへたり

○霜月朔日より玉川座「四天王產湯玉川」卜部季武、大江山童子、長屋の頭鐵門喜兵衞實は六郎公連、足柄山の分身山姥、からいや錦升、栗の木又次實は伊賀壽太郎、幸四郎、傾城小てふ實はかつらき山女郎蜘のせい、百足のお百實は秀鄉娘千晴、濱村屋路考、奥女

中袖崎、伊賀壽太郎娘玉琴、菊之丞、御厨六郎正頼、返魂丹賣長井長齋實は二瀨源六、彥三郎、物部平太有風、山伏黑川のけんちん、大明の臣下䭾陽官玉眼、宗三郎、禿とこよ市村龜之助、（故家橘の孫なり此時初ぶたいか）奴はね平、こま藏、橋立三郎、源之助、丹州夜鷹川の鄉士あなごの庄司娘千代姬、甚六、保昌娘小式部、よね三、平の正盛、大つうじ藤馬實は大宅光遠、馬十、市川玉柏實は美女丸後に五條介惟光、甚吉、野ぶせりの安實は純友娘桔梗、大和屋杜若、半四郎、坂田金時、座頭歌遊實は將軍太郎良門、渡邊の綱、成田屋三升、碓氷の貞光、團十郎、（四立目上るり）「魏魂宿直嘶」（幸四郎菊之丞）團十郎、富本連中相勤る貳ばん目

序まく芝居顏見せ寄初の場中まく三升內の場顏見せの祝義いわひゐる所へ宗三郎唐人にてしばらくの錦繪を持來りて團十郎にあはんと云團十郎を見て畫と相違せりにせ物なりと大に怒り夫より大切に團十郎御家の暫の形にて楊まくより出ウケに菊之丞枡藏女にて唐裝束のなり（後に引ぬきにて奧女中袖訣となり實はいかす姬）中ウケ宗三郎前の唐人なり幸四郎木戶番の羽織を着ひげをつけ鯰坊主のみへ暫の引立何れも大てき評判誠にいつもながら如此き新手の趣向を出す事南北の工風なり

○十一月廿五日より春狂言の發端を貳まく出す「伊豆暦春人來鳥」鏡とぎ三ぶ實は小藤太に幸四郎、伊藤娘辰姬によね三、滿江に菊之丞、賴朝に彥三郎、一萬丸に龜之助、同箱王丸、こま藏、藤九郎盛長、門三郎、股野景久、馬十、工藤金石丸、祐つね、河津の三郎祐安、團十郎、

五代目市川白猿十三回忌追善

しばらくのつらね　七代目

碓氷甚太郎定光　市川團十郎作

東夷南蠻北狄西戎四夷八荒天地乾坤の其間に有べき人のしらざらんや三千余里も遠からん物に懼ざる荒若衆近付なりに出て見ればうつゐあねへが胴取とは四百余州の春遊び七言五言歌がるた鼻の先なる虎狩や威をかり狐の毛唐人海老が夜食のかたまり孫ひげ人參との疑ひに分らぬ腹をたつが弓和らく國は神の末卑劣な事は言ませぬ唫じやござらぬ正眞の日本風俗三升當年積て十八歲誠の年は廿

八成田の不動がほんそう子淸和源氏の嫡孫源の賴光が股肱耳目と呼れたる碓氷の荒太郎貞光五年ぶりでの揚幕から一聲かけ付三杯上戸差も押へもあらばこそ相人がふへれば瀧に水丑滿頃や一トつ目の光り輝く飛頭蠻百鬼夜行があやまつて一味などとは事おかしや夜行女もござれ雪女、集りよれる黑髮につながりやつた大ぞうめら這つくばつたきり／＼すほんに螢の身をこがす惚れ抱てねぢり首生根の尻尾は非のかしら金性水のぶら玉川八千餘町御存の荊籟の飛切江戸ッ子の交りなし正札月雪花の顏見せ譲の面の筋を引下手をはづさぬ十露盤の大玉小玉ばち／＼戀しきときわ待乳山是鏡臺に向嶋祖父が十三年ンごろな何れも樣へおめ見へのさまたげひろぐやつばらは日本橋の眞中から富士の御八嶺へほふり込とホヽ敬白

評判記に云く惣卷頭　極上上吉　松本幸四郎
〔頭取〕三ヶの津實惡の開山〔ヒイキ〕ヲツト頭取高らいやの親方は卷頭はお定り極の位の置やうがおそかつた待兼た／＼〔頭取〕其儀も存在れど極位は時のほふびと違ひ升れば委しう見極め升て當年より位を上せ升たどなたもお悅びてござり升ふ江戸根生の大立者〔ヒイキ〕大丈夫大盤石どふしてもいらいてはないぞ／＼〔老人〕此おん純藏と云し子役より高麗藏と改名して若ざかりの勢ひ屋敷も町も男女共に皆ひゐき衣類調度四つ花菱の紋盡ししかも其頃法會商人のあめ賣ありて顏かたち能似たとて皆人こま藏飴と仇名して飴賣も思はざる金もふけしたも此人のおかげ〔きおい〕ヲイ／＼年代記はぢいさんおまちそれも三十年の昔噺だろうハテ幸四郎と親の名をついで此かた流行におくれぬ證據はかわりめ毎に錦繪も若手より高らいやの繪がたんと出るじやあねへかこんな役者がどこの國に有物かすてきめつぼうごうてきな大立者どいつでもなんぞとぬかして見ろおれが相手だ何のこつたとほふもねへと云々

狂言作者福森喜宇助天明年中は玉卷兵治と云又久治と名のり寛政八年より久助と改名し種々の妙作ありしが當九月八日死去せり
　咸有院德譽應信士 行年五十二歲 小松川源法寺

上方にては正月廿三日中山よしを 女形 六月十八日尾上

新七三十九歳、七月二日澤村國太郎女形死す、文化二年一世一代

◎文政二己卯年

○正月十五日より中村座「曾我綉妹脊組帶」鬼王と百足や金兵衛、五郎時宗、日雇取竹の塚の孫八、片岡幸左衛門、芝翫、結城家中本間五郎九郎とでつち長吉に爲十郎、二の宮としなのや後家おかや、甚吉、小藤太、と針の宗兵衛市川友藏、せふ〳〵とおはん、げいしや雪野に松之助、八わたと早瀬主水、七三郎、團三郎と舞鶴や傳三、座頭歌市、伊豆の祐兼實は京の次郎、若徒段助、三十郎、月さよと奥女中鳴尾、おきぬ、大吉、祐成と大磯のとら、梶原源太、帶屋長右衛門、祐經、三津五郎、廻し仙吉と朝日奈、傳九郎、四立目上るり上の巻「睦月筈紋日」三十郎松之介三つ五郎、下の巻「春霞蝶道草」芝翫、常磐津連中大切上るり「道行思案餘」三十郎松之介三津五郎、清元連中相勤る、玉川座「惠方曾我万吉原」梶原景時、飯澤一學、鬼王坊主願山後に喜藏院、幸四郎、梛の葉御ぜん實は梶原娘籬、稽古所杵屋おらい後に万壽屋新造船ばし、在所娘おわた、菊之丞、工藤家中松井田條助、五郎時宗、彥三郎、河野の全成と城木や女房おさん、工藤家中尾花六郎右衛門、宗三郎、朝日奈に茂々太郎、宇佐美庄司と赤澤十内に市川門三郎、久須美彈定、いしや卜庵、やりておとら、馬十、三日月おさよ後は月さよ、妹十六夜賽の河原の閑坊比丘、半四郎、祐經とすけなり、玉川の湯ながし三介、工藤家中佐野次郎左衛門、伊豆の國みやけ嶋の無宿丈八、景清、團十郎、初夢之場孝謙天王、半四郎、道鏡に幸四郎、惠美押勝、團十郎、貳ばん目上るり「色表紙蔦屋正本」菊之丞半四郎團十郎富本連中○三月三日中村座「宿花女雛形」下河邊大江之介、尾上召仕おはつと行れつの押、芝翫、金澤のお浦、粂三郎、渡し守灘八實は稻毛三郎、行列の長柄持、爲十郎、奥女中に淺友、二代目中東初中村芝六去顏見せより山城屋の名なつぐ三津右衛門、桐しま儀右衛門初松本三吉と云顏見せより改名庭作り喜代作實は江間小四郎義時、菊五郎、求馬に箕助、軍次兵衛市川友藏、數平妹床世に松之助、増田數平と行列の押に三十郎、中老尾上に大吉、局岩ふじ三津五郎、大嶋主税に傳九郎、貳ばん目「助六曲輪菊」鬘の意久に芝翫、あけ巻に粂三郎、やりて坂東大吉、助六に菊五郎、福山かつぎ傳三郎、朝貞仙平に三津右衛門、ま

ん江に七藏、白玉に龜三郎、くわんへらに友藏、白酒賣に三津五郎、菊五郎粂三郎去年より尾州名古屋にて相勤居たりし處此度歸着に付當座へ飛入なり○三月三日より玉川座「宿花千人禿（やよひのはなせんにんかぶろ）」傘屋手間取長九郎、實は三條吉次信高、長田太郎に幸四郎、ときわ御ぜんと義朝の亡魂に菊之丞、主馬の判官に彥三郎、瀨の尾太郎、按摩可勝實は三條右衛門に宗三郎、平宗盛に茂々太郎、千人禿の內岩瀨丸にこま藏、同千歲丸に龜之助、水茶やお瀧藤藏、牛若丸に男熊、闕原與市に甚六、朝皃姬に祇園扇丸の娘おつる、よね三、高橋三郎、市川門三郎、女非人摺針ばゝあ、難波の六郎、馬十、笠屋三かつ、いつくしま常盤や女房おたみ、娵若菜實は鎌田政清女房白妙に半四郎、茜屋半七實は熊坂長範、今田善右衛門、平清もり、團十郎、貳ばん目「助六所緣江戸櫻（すけろくゆかりのえどざくら）」髭の伊久、幸四郎、揚まきに菊之丞、新造卷篠、彥三郎、男達に宗三郎、小次郎、市川小團次（始米藏）松本染五郎、澤村鐵藏荒藏、新造卷こと、茶屋廻り伊太郎、茂々太郎、しら玉に、藤藏茶屋廻り幸藏にこま藏、やりてお辰に津打門三郎、福山かつぎ善治、仙平に甚六、まん江に市川門三郎、くわんへらに馬十、白酒うりお十に半四郎、助六に團十郎○四月四日より「お染久松色讀販（いろのよみうり）」松本や佐四郎、煙草切鬼門喜兵衛に幸四郎、佐四郎女房おふみ、七兵衛女房おむらに菊之丞、山家や淸兵衛に彥三郎、門付さつまぶしの源太に宗三郎、多三郎に茂々太郎、手代善六、馬十、お染、久松、奧女中竹川、喜兵衛女房土手のお六、賤女お作、久松言號おみつ、お染母貞昌、以上七役半四郎、百姓久作、三升飴うり七兵衛に團十郎、大詰上るり「心中翌の噂（しんちうあすのうはさ）」半四郎、菊之丞、團十郎、常磐津連中○閏四月二日より「忠臣藏（ちうしんぐら）」師直、本藏、了竹、安兵衛、平右衛門、幸四郎、おかるおいし、菊之丞、彌五郎に彥三郎、鄕右衛門、おかる母に宗三郎、伴內と介右衛門に小次郎、力彌に茂々太郎、山名に染五郎、よし松にこま藏、かほよに藤藏、直よし公に男熊、伊吾に善次、一もんじやに甚六、小浪によね三、石堂に與一兵衛に市川門三郎、九太夫と大鷲に馬十、おそのに半四郎、判官、若狹之介、勘平、となせ、定九郎、義平、由良之介七役團十郎、初段より十一段迄大仕かけ幕なし○閏四月二日より中村座「菅原」時平公、白太夫、源藏、芝瓶、八重に粂三郎、宿禰太郎と春藤玄蕃に鶯十郎、竜田に甚吉、まれ世に淺尾友藏、松玉一子小太郎、尾上

がま六、菅秀才に駒之介、菅相丞とさくら丸、菊五郎、はるに坂東三津藏、平馬と奴宅內、三津右衛門、御臺花園御ぜんに龜三郎、土師の兵衞に友藏、かりや姬と戸浪に松之助、齋世親王に七三郎、梅王とてる國、三十郎、ちよに大吉、かくじゆと松王に三津五郎○五月五日より「夏祭宵宮譯」四幕團七九郎兵衞に芝翫、釣舟女房おつぎに粂三郎、三河や義平次に爲十郎、佐賀右衛門に淺尾友藏、德兵衞女房お辰に菊五郎、團七一子市松に駒之助、磯之丞に簑助、琴浦に松之助、釣舟三ぶ、三十郎、お梶に大吉、一寸德兵衞に三津五郎、○同十九日より大切「曾我祭」御祭禮番組御輿太皷、四神、猿田彥、榊、牡丹の花だしげいこ大ぜいはやし連中祇園ばやし女形殘らず蓬萊山の引物子役のこらず俄したし惣座中神宮皇后に武內宿禰のだしげいこ大ぜい行列奴、三津五郎芝翫花笠踊女形のこらず長唄連中雀おどり立やく殘らず御輿、獅子、上るり「能中綱擶の花轢」清元延壽太夫巳三郎事同榮壽太夫連中神宮皇后、三津五郎武內宿禰、芝翫兩人共出し人形のみへよろしくふりあつて引ぬきにて對の奴となりさま〳〵の所作有大切すゞめ踊も三津五郎、芝翫、三十郎を初め大勢兩花道より出誠に賑々敷面白き事なり此狂言古今稀なる大入大評判大當りなり

○五月五日より玉川座「梅柳若葉加賀染」長玄寺の望月後に望月帶刀、若徒又介、盜賊筑紫の權六、泉小次郎近衞、幸四郎、長玄寺の松林比丘尼後に大領の妾おりう、紅粉屋娘嶋のおかん、水仕女お松實は道房の姬濱町、菊之丞、花房求馬に彥三郎、蟹江一學、紅や手代勘八に宗三郎、多賀犬清に茂々太郎、紅や後家おくま、輕業の口上八ッ八に甚六、花房主膳、谷澤賴母に門三郎、車力丑五兵衞、ふく田や金六、馬十、大江の息女紅梅姬、げいしやかゞやのちよ、女曲持淺妻小俊、鎌田又八娘阿尼尾、半四郎、多賀大領、湯嶋の三吉、長谷重左衛門、木屋辰五郎實は合邦太郎、冠者太郎經之、團十郎○夏狂言六月十四日より中村座「緘入操見臺」腰越狀三ノ口切五斗兵衞芝翫、よし經に七三郎、錦戸太郎淺尾友藏、男達の次郎、東藏、和泉三郎妻高のや、龜三郎、和泉三郎、三十郎、關女、大吉、龜井六郎、傳九郎、「廿四孝」三ノ切横藏、芝翫、勘介母、七藏、慈悲藏女房おたね、龜三郎、慈悲藏に三十郎、高坂唐織、大吉「千兩幟」三まく鐵ヶ嶽、岩川女房おとわ、芝翫、鶴屋禮三郎、七三郎、手代善九郎、友藏、市原九平太、東藏、鶴屋淨久に七藏、錦木太夫に龜三郎、小のや七郎兵衛、三十

郎、岩川次郎吉、大吉、大切り「再夕暮雨の鉢木」佐野源左衞門經世、芝甑弟源次に三十郎、松下の禪尼に大吉、百姓太郎作、源藤太經景に傳九郎、上るり常磐津連中○六月十四日より河原崎座「裏摸樣菊伊達染」小座頭民市實は民部倅千松と鶴千代君、回向院の所化祐念、松助、黑澤官藏、寄妙院道哲、三浦屋德右衞門實は岩見太郎左衞門、市川友藏、盜人仁三、豆ふや三之介、山中鹿之介、仙藏、吉原三浦や新造薄雲、累娘おさく、井つゝ、女之介、けいしや小さん、奥女中政岡、粂三郎、嶋原三浦やの傾せい薄雲、渡井銀兵衞妻八汐、仁木原田丸、絹川與右衞門、後に高尾傳七、鳶の者金實は金谷金五郎、汐澤丹三郎、細川勝元七役菊五郎、貳ばん目上るり「浮名の立額」粂三郎菊五郎清元連中○七月十七日より中村座「新うすゆみ物語」幸崎伊賀守と渡し守五平次、芝甑、媵まがき、粂三郎、刀鍛冶團九郎に爲十郎、秋月大膳、市川友藏、幸崎奥方松ヶ枝、甚吉、來國行、七藏、園部左衞門に三之助、薄雲姫に松之助、來太郎國俊に七三郎、奴妻平、葛城民部之丞、三十郎、園部奥方梅之方に大吉、園部兵衞と鳥さし吉助に三津五郎、大詰上るり「大和文字戀の歌」芝甑松之介三津五郎小文字太夫改常磐津文字太夫、同造酒太夫綱太夫改同兼太夫相勤る、貳ばん目三幕「千種結色出來秋」佐藤定七と門と付吃りの傳三、芝甑、勇介妹小菊後に半兵衞女房お菊、粂三郎、かゞや手代惣八に爲十郎、かゞや與兵衞に七藏、多賀後室淺の方、龜三郎、篠原三太夫、市川友藏、定七娘おつゆに松之助、篠原勇介に七三郎、菊酒や幸助に三十郎、定七女房かゞのお千代に大吉、高嶋半兵衞、後に道具屋にて大和屋半兵衞○七月十七日より「蝶鵆山崎踊」倉岡鄉右衞門、高らいや錦升、若徒幻竹右衞門後に駕の甚兵衞、幸四郎、橋本次郎右衞門娘お照後に新丸本のみやこ、濱村屋路考、新丸本の女あるじおとら、菊之丞、三宅順藏、同宿竹林坊、彥三郎、三原有右衞門、新丸本仁右衞門、宗三郎、野手が兄下駄の市、音羽屋梅幸、南與兵衞悴濡髮長五郎、菊地兵庫頭、菊五郎、五百崎淨閑、盜人佐渡七、甚六、三作母おくら、後に尼妙貞、手代庄八、門三郎、山ざき與次兵衞、庄屋六兵衞、三原丹平、馬十、幻娘おはや、大和や杜若、山崎與次兵衞娘おせき、げいしやあづま、半四郎、菊地家中山崎與五郎、成田や三升、百姓野手の三作、十次兵衞倅生駒長吉、團十郎○八月十二日より「細工物籃轎評判」

駕かき與四郎、菊五郎、せんたく女房お波、菊之丞、同およし、牛四郎、駕かき次郎作、團十郎、上るり常磐津連中○七月廿日より河原崎座「一の谷嫩軍記」義經、田五平、六彌太、又十郎、みた六、廣右衛門、越中盛次、梶原平次、荒木照五郎、あつ盛、中村吉次郎、平山に茂二兵衛、候兵衛、さがみに瀧之助、菊之方、ふじの方、坂東三津三、忠のりと直實、仙花、貳ばん目「振袖隅田川」渡し守新兵衛、粟津六郎に仙花、淺澤主膳に才三郎、道具や甚三郎、廣右衛門、下女おさん、野分姫に久次郎、手代庄八に候兵衛、手代要助、甚三妻おさく、三津三、おくみに瀧之助、法界坊と野分姫亡魂、又十郎、大切上るり「雨顔月姿繪」常磐津連中○八月十八日より「心中紙屋治兵衛」粉屋孫右衛門、又十郎、傳海に廣右衛門、江戸屋太兵衛に候兵衛、小はるに瀧之助、次兵衛女房おさん、三津三、紙屋治兵衛に仙花、○八月十八日より中村座「いろは假名隨筆」師直と平右衛門、天川屋義平、芝翫、勝右衛門女房お町、粂三郎、定九郎と太田了竹、爲十郎、局侍從とゆらの介妻おいし、甚吉、伴内と喜兵衛、淺尾友藏、一筆左京に原鄕右衛門、坂東秀助、衣笠姫、鄒兵衛、儀右衛門、藥師寺と近藤源四郎、勘六、三津右衛門、參儀公道卿、早野三左衛門七藏、顏世、龜三郎、早野勘平、簑助、九太夫に友藏、娍おかるに松之助、桃の井と十太郎に七三郎、判官と早野和介、小の寺十内、三十郎、淺澤の松月尼、義平女房お園、大吉、不破數右衛門大當り大星由良之介、三津五郎、平馬とでつち伊吾、傳九郎此狂言忠臣藏の作りかへにて古今の名作大當りなり貳ばん目芝翫名殘狂言「小栗判官車街道」三段目 横山太郎、星川雲八、芝翫、門番彌次兵衛に爲十郎、横山三郎、淺尾友藏、てるて姫、中村米次郎、横山大膳、市川友藏、太郎女房淺香に大吉、○九月九日より貳ばん目かわり「御名殘押繪交張」芝翫九變化上るり常磐津連中、清元連中、長唄芳村伊十郎、富士田吉四郎、松永平藏、三弦杵屋正次郎、同和助、同文治、富士田千藏、芳村久九四郎、岡安喜平次、杵屋勝五郎、同和吉、同喜三郎、上るり竹本政子太夫、同竹太夫○十月六日より「勢州阿漕浦」二まく平尾の次郎藏、芝翫、平次女房おはる、粂三郎、庄屋彥作、爲十郎、平次一子友石にこま藏、沙門延然に三十郎、田村麿與方千壽の前、大吉、阿漕の平治、三津五郎、○九月九日より河原崎座「忠臣藏」判官に勘平、義平、となせ、仙花、おかると小なみ、三津藏、桃

の井と平右衛門、廣右衛門、彌次兵衛に候兵衛、山名と大わし、伴内弟伴作、不破數右衛門、照五郎、鄉右衛門、おかる母、十太郎、(小川)十太郎、力彌(坂東)吉之助、九太夫、伴内一もんじやに杉藏、かほよとおいしに瀧之助、師直、石堂、彌五郎、與一兵衛、定九郎、狸の角兵衛、了竹、おその、本藏(役九)又十郎、由良之介、伊三郎、顔見せ中村座「花艶和黒主」大江の太郎秀勝に良峯の宗貞、嶋原のおゐせ鷲又介實は孔雀三郎、ゆかんばかい彌八實は紀の名虎、子開田丸武熊、三十郎、玉造小貳娘浮草玉造小町後に惟喬親王(誓受)實表茶屋下女お留、嶋原げいこおくめ、秦大膳妹雪の戸、辨天長屋のお坂實は橘逸成娘袖の香、粂三郎、高安民部照光、寂莫僧都、良實後室小野刀自(坂東又十郎改中村十藏)、五大三郎妹鶏の羽、茶屋女おしま、荒川藏人妻矢橋、甚吉、岩倉玄蕃、足輕軍平、三津右衛門、班鳩太郎(中受)、馬士の八、左大辨雲連、廣右衛門、安達八郎、(中うけ)犬引九郎次、路次番達摩吉、甚六、黒主妹敷妙、生駒主水妻いほはた、鑑三郎、東宮之介と下部志賀平、大筆八郎、養助、五位之介安貞、七三郎、馬士どつこの駄六、伴の左衛門強宗、齊樂うり長崎千藏實は勘ヶ由次友、爲十郎、小の

の小町、磐若五郎妹八重菊、小原女おしつ敷嶋屋の七町太夫、神泉苑の善女龍神、綿つみお玉實は大江の音人娘はつ花、菊之丞、五代三郎照政、あんま闇市、深草燒丸太郎、實は深草少將の亡靈、大伴の黒主、小野の世話役惣五郎實は伴のよし雄、三津五郎、縣左馬頭と荒卷耳四郎、惟喬親王、船頭傳吉、傳九郎、四立目上るり「去程戀重荷」菊之丞、三十郎、粂三郎、三津五郎、常磐津兼太夫、同秀太夫、同鳴戸太夫勤る、玉川座「七小町櫓雨子」名虎の長男熊王丸、高松三郎重國、(下り)中山栖藏、惟喬親王、八百屋久兵衛女房おはゞア實は小町姫乳人檜垣、芋蛸入道、小野照や太兵衛實は荒川宿禰春久(四郎五郎改)東十郎、惟仁親王、八瀨の里釜風呂の茂兵衛實は荒卷四郎、高安左衛門、籠細工人小野の藤九郎、仙花、鐵壁大藏、山賊野ふすま眼藏、箱廻し源吉、杉藏、紀の貫之卿、小野のよし實、門三郎、良峯の宗貞、伊せ鰕亦平、關寺の小性吉三郎賴風、船頭上ヶ汐の彦、彦三郎、伴左衛門健宗、八百や久兵衛實は賴風の老臣十倉十内、家主仁介、籠細工人獨鈷の駄六郎、(市川友藏改)源太左衛門、女浦しまの小むつ實は高安の妹井筒姫、關守小性小野の吉三郎、賴風、小野小町、盤若床

の五郎妹おまち、松之助、二條の后高子、女こむ僧花月尼實は五代三郎妻眞弓、げいしやおぬい、名虎娘生駒姫、下り藤川友吉、深草少將、廻國修行者快全實は盗賊立ゑぼし、八大龍王、關守門前八百屋小町娘お七後に侍女女郎花、柴苅丸太郎、實は大伴黒主、八百やでつち彌作實は五代三郎近忠、惟喬親王、尾上町般若床の五郎、孔雀染五郎、菊五郎、四立目上るり「浪枕濡逢夜」菊五郎、粂十郎、彦三郎松之助清元連中河原崎座「奴江戸花鎗」田熊左衛門信守實は齋藤因幡之介龍興、松下嘉藤次後家小篠實は足利政知めのと蓮葉局、今川義元、彫物師五郎太實は別所小三郎重清、幸四郎、遠州池田宿舞子常盤木の小ふじ、佐藤正清妹誰袖、女筆指南澤田のお吉、松之助、大内千嶋之介義就、嵐秀之助、早枝隼人之介妻とみ山、船宿大黒屋のおさきに藤藏、山口九郎次郎、かたゝの小雀、革足袋賣紋八、淺尾友藏、松永大膳、多賀兵衛、宗三郎、雁仕丁九郎又實は朝倉左衛門義景、小田春澄、革足袋やかつぎ仁三、馬十、義景妹こし路、女非人のおきりにかほよ、鬼小嶋彌太郎、こま藏、此下兵吉妻お賤、小田春永公、關白時房公の息女芙蓉の前實はおさかべの小女郎狐、大吉、七條河原町傾城石川や眞砂路實は犀がけの郷士來作の娘お友、池鯉鮒宿の女馬士お市實は三州佐海の浦連理の藤精靈、五郎太女房おてつ、實は尼子晴久の娘森姫、半四郎、佐藤虎之介正清、北畠丹七郎信孝、此下兵吉後に眞柴筑前守高宮久吉、指物師清兵衛實は大内之介義弘、團十郎四立目上るり「色紫副寢柵」幸四郎、半四郎、松之助、團十郎、常磐津連中

しばらくのつらね　般若五郎妹八重菊

五代目

瀬川菊之丞自作

としのうちに春は來にけり顔見せはこれぞ芝居の正月とういて心もいさましうたつた一ト聲揚まくから暫なぞと結綿に似あわぬ烏帽子附太刀も作者のすゝめしかたなふ仙女がまねを正銘の孫まで三代五代目の不器用未練な身をもつて出過るくせも江戸ッ子の膽こしやくなつとお叱りのまんざらないも御存の誰じやと思ふア、つがもなまけた大振袖上座にござんす親王様も水道の水の飯事友達皆様方が何やつと尋ねなさんすおてんばは出羽の郡司良實が股肱耳目と呼れたる般若五郎仲則が其妹八重菊とて當年つもつてまだよう〳〵十八歳な何

ンじやや力に成田の花の兄突出されたる下手役者へたなやくしやは私よ女子だてらに荒事は何も樣と大和屋の親方さんを力にてけふお目見への堺町歸り新參千代八千代重る菊之丞こわな江戸中樣の厄介娘御ひゐきねがい上やんすトホヽうやまつてヲヽ耻かし

◎文政三庚辰年

○正月十七日より中村座「仕入曾我鴈金染」五郎時宗と赤澤十内、鶴木主水、宅間玄龍に三十郎、せうせうと月さよ、犬姫、玄龍娘おつた後に備前やおつた、粂三郎、伊豆の次郎、八わた三郎、家主六兵衛、十藏、安達奥方菅の谷、備せんや女房おしげ、甚吉、せげん清右衛門、有賀貞庵、安達家中本庄曾平太、三津右衛門、小藤太、結城家中野田角左衛門、お高兄秋田三九郎、廣右衛門、箱根の別當行實、奥女中岩崎後に山川屋後家お岩、甚六、三浦の片貝、備前やおのち、龜三郎、團三郎、山川や權六、篒助、鬼王、馬士箱根の畑右衛門、山川屋番頭義兵衛、爲十郎、とらと舞鶴、娩お高、奥女中瀧川、菊之丞、祐經と祐成、朝日奈、主馬の盛久、鴈金文七實は安達家中花岡文七、雷庄九郎、實は文七、安の平右衛門實は文七、極印千右衛門實は文七、布袋市右衛門實は文七、三津五郎此狂言大當り○三津五郎花岡文七にて鴈、雷、安の、極印、布袋と五度改名して一人にて五人男大出來なり○箱根の閑坊、道具や惣兵衛、若者新六、傳九郎、五立目上るり「萬歳君堺町」三十郎、爲十郎、粂三郎、菊之丞、三津五郎、富本連中河原崎座「陬曾我門松」祐經と伊豆の次郎、重忠、幸四郎、手越せう／＼、松之助、大姫君、よね三、二の宮、小由留木、藤藏、八わた三郎、下り市鶴、大日坊、友藏、朝日奈、新藏、範賴と鬼王、下り鰕十郎、赤澤十次兵衛に宗三郎、小藤太と三原邢次右衛門に馬十、けわい坂せう／＼十次兵衛娘十六夜、下り門之助、傳藏事京の小女郎、椰の葉に大吉、舞鶴と大磯の虎、あこや、半四郎、祐成と時致、非場の十藏、景淸、團十郎、貳ばん目「帶屋錆負札」幸之進と鴛かき針の惣兵衛、福しまや太郎兵衛、幸四郎、幸左衛門と葛飾十右衛門、鰕十郎、げいこゆきの、門之助、しなのやおいし、おびや下女おさい、長右衛門妻お絹に大吉、おはんと粂本娘分お吉、太郎兵衛妻お辰に半四郎、おびや長右衛門と蒔繪師粂次、竹の内長右衛門、團十郎、上るり「旅枕羅浮夢」大吉、半四郎、門之介、團十郎、常磐津連中番附出せし處鰕十郎、門之介延着に

付興行なく○正月十七日より「御歳玉似顔繪本」笠松村の万吉後に稲田幸藏、岩倉競實は稲田幸藏、あんばいよし大作實は鎌田又八、幸四郎、梅津宰相の息女九重姫、よね三、兵庫之介妻更科、大作女房お升、藤藏、たいこ持鐵八實は多九郎、質や十郎兵衞、友藏、科野幸藏娘おまつ、鯉三郎、同幸吉と大作一子大次郎、こま藏、牛嶋の願鐵坊、伊矢見の牧藏、宗三郎、小山判官と花守木曾兵衞、馬十、花守杵藏、薩摩兵庫之介、團十郎○二月八日より貳ばん目「其往昔戀江戸染」赤澤十內、土左衞門傳吉、幸四郎、釜屋武兵衞、友藏、八百屋後家おたけ、宗三郎、軍藏とべにや長兵衞に馬十、お杉に大吉、お七に半四郎、吉三郎と五尺染五郎、仁田四郎、團十郎、上るり「新媛房雛世話事」幸四郎、半四郎、團十郎市川男熊事、男女藏二男 常磐津小文字太夫、同和歌太夫、同都賀太夫道行「手向の花曇」竹本扇太夫相勤る○正月廿七日より玉川座「梅暦曙曾我」十郎祐成、本庄下部有竹步藏、かぢや權兵衞實は團三郎、志賀團七郎、下り楯藏、小藤太、御所の五郎丸、田川喜三兵衞、野田學左衞門、東十郎、時宗實は團三郎、本庄曾平次、鶴見主水に仙花、舞鶴、宮の下の湯女おさん藤川勝次郎、八わたと朝比奈、ごまのはい金五郎後に金谷金五郎、彦三郎、梶原源太左衞門、大藤內、劔澤彈正實は赤澤十內、料理人半八、源太左衞門、曾我箱王丸、げいしや直吉實は本庄與太夫娘しのぶ、ほていや娘お高後に奥女中清川、松之助、三浦奥女中片貝、大磯とら實は十內妹月さよ、六兵衞女房おつた實は與太夫娘宮城野、友吉、範賴、吉岡紺屋鳫金文七、後に足力按の平庵、後に布袋や手代市右衞門、後に雷門の修業者庄哲、後に極印鍛冶の千右衞門、あんばいよし六兵衞、重忠、祐經、菊五郎五立目上るり「進扇退扇鹽汲車」友花、楯藏、松之介、菊五郎清元連中相勤る○三月三日より中村座「五三桐」久吉と久次に三十郎、けいせい九重粂三郎、早川高景、十藏、園生の方、五右衞門女房おりつ、甚吉、倫非熊太郎、三津右衞門、傾城花橋、三津藏、靈山國師實は筑紫權六、廣右衞門、熊手ばゞア三上の百介、甚六、高景奥方岩波、龜三郎、久秋に箕助、瀨川來馬、七三郎、奴矢田平、三二の五郎兵衞、爲十郎、大炊之介妻呉竹、けいせい瀧川、菊之丞、此村大炊之助、石川五右衞門、三津五郎、小紺の源五郎實は小西行長、傳九郎、貳ばん目二代目瀨川菊之丞五十回忌追善狂言「花形見娘

道成寺」奉公人文吾、同宿觀音坊、三十郎、めのと槙の戸、条三郎、住僧に十藏、母お大、廣右衛門、下男お竹、龜三郎、下男佐介、三の助、横しま伴平、同宿せいし坊に爲十郎、三郎兵衛妹おみつ、白びやうし櫻木、菊之丞、奉公人口入三郎兵衛、三津五郎、市松政則にこま藏、上るり道行瀨川帽富本連中勤る〇三月三日より玉川座「櫻舞臺幕伊達染」渡邊民部之介俊友、大松屋荷かつぎ三郎兵衛實は下部谷平、岩倉彌十郎、渡し守與五作に楯藏、當麻圖幸鬼貫、赤井惡右衛門、浮世豆ふや戸平に東十郎、大舘左馬之介、山名の奴同助、仙花、山名息女折琴姬、勝次郎、修行者奇妙院、重三郎母おつめ、杉藏、渡部外記左衛門と三浦屋德右衛門、伊三郎、鶴千代君、龜之助、刀屋半七實は清水女之助經玄、山中鹿之助、彥三郎、山名宗全、源太左衛門、三浦の新造高尾、松之助、豆腐屋娘お花實は賴兼妹櫻姬、下駄屋下女お竹、奥女中沖の井、友吉、赤松彥二郎後に仁木直則・いさみ伽羅下駄の定實は嶋田十三郎、清水左衛門之介清玄後に新清水の清玄、乳人政岡、道益の藥箱持小介、折琴姬幽魂、足利賴兼、七役菊五郎、民部一子千秋若太夫市川朝太郎、大切り「隅田堤戀裿」

友吉、楯藏、彥三郎、菊五郎、清元連中〇三月三日より幸四郎、半四郎上方登り名殘狂言「隅田川花御所染」条の平内長盛、猿嶋惣太、渡し守、深淵の松兵衛、幸四郎、櫻姬、よね三、櫻姬かし付せきや、しつの女綱女、藤藏、奥女中に友藏、新造に小團次、小次郎、一法師丸市川團市、さくらん坊中しま勘藏、新造釆女、路之助、大友常陸之助、北條小四郎、源之助、清水平馬之介清玄、茂々太郎、住僧轟坊、宗三郎、奴隅田平、松井の源吾、馬十、梅若丸、こま藏、中老尾上、賤の女おしげ、班女御ぜん、大吉、おはつ隅田川酒賣おなみ、花子の前後に清玄尼、半四郎、松若丸、局岩ふじ、下部軍助、山田三郎、團十郎、大切上るり「都鳥名所渡」幸四郎、半四郎、團十郎、常磐津連中此狂言は文化十一戌年三月市村座にて興行し大當りなり此度は增補して又々大當りなり〇四月六日より鰕十郎、門之助到著に付「盛衰記」梶原平二と手塚太郎、船頭松右衛門、下り鰕十郎、郡内と船頭日吉丸の又六、友藏、松右衛門、一子槌松山本花里、義經、茂々太郎、梶原平三に小次郎、船頭權四郎に馬十、千鳥とおふで、門之助、ゑんじゆと松右衛門女房およし、大吉、梶原源太と齋藤吾國武重忠、團十郎、貳ばん目「兜軍記」岩永左衛門に鰕十郎、榛澤六郎

に茂々太郎、あこやに門之助、秩父重忠、團十郎、大切團十郎所作事「七五三升攝喝釆」正月に分身矢の根五郎時宗「惠方の大根馬」箱根の畑右衛門三月に「櫻物くるひ」工藤祐經五月に菖蒲の片手綱大磯の虎「千種の狩倉」十郎祐成七月に「銀河の色せがき」はこれの閉ほう九月に「野菊の掛罠」小林の朝比奈上るり常磐津連中、竹本竹太夫、同生駒太夫、三弦野澤東吉、同鐵次郎、長唄芳村孝次郎、同伊四郎、同孝三郎、松永兼五郎、三弦杵屋六三郎、同巳太郎、同新太郎、同作十郎、笛住田彥太郎、同柳太郎、小つゝみ田中作十郎、大つゝみ西川源藏、太こ望月太左衛門、小西權兵衛、坂田重兵衛、三弦杵屋正次郎、富本連中、大薩摩文太夫、三弦杵屋作十郎、ふり付市山七壽郎、藤間勘兵衛○五月狂言中村座「千本櫻」權太、相模五郎に三十郎、しづかに小金吾、おさとに粂三郎、お辻に十藏、下女おまき實は湍の侍從、甚吉、大之進と丹藏に三津右衛門、六代御せんに中村七之助、安德天皇に市村龜之助、あすかに三津藏、辨慶に廣右衛門、逸見藤太に甚六、卿の君に龜三郎、義經に三之助、川つらに七三郎、川越太郎、彌左衛門、爲十郎、權太女房小せん、若葉の內侍、忠信、源九郎狐、菊之丞、銀平に彌助、すけの局と覺範に三津五郎、梶原に傳九郎、上るり道行初音旅粂三郎、菊之丞、富本豐前掾連中相勤る○五月七日より河原崎座「双蝶々」濡髮長五郎に鰕十郎、あづまによね三、手代權九郎、尼妙林、三原有右衛門、友藏、十次兵衛母お弓、講頭六兵衛、門三郎、與五郎に茂々太郎、與次兵衛に小次郎、鄉右衛門に馬十、おはやに門之介、おせきに大吉、放駒長吉と南方十次兵衛に團十郎、貳ばん目「御ぞんし五大力」三五兵衛に鰕十郎、廻し彌助に友藏、宅左衛門に市川常十郎、若徒八右衛門に門三郎、千嶋千太郎に茂々太郎、下部土手平に小次郎、家主德右衛門に馬十、小まんに門之助、むさしや女房お此、大吉、源五兵衛に團十郎、玉川座は五月は興行なく○六月十八日より夏狂言「夏祭」釣舟の三ぶと三河や義平次下り中嶋三甫右衛門、此人先詠子と同道にて上京し幼名を百松其後三甫藏と改名し久敷休なりしが此度天幸の名をついで出勤此親も三甫藏と云師匠の名をつき三甫右衛門と改其年に死す寸德兵衛、磯之丞、手代淸七下り中嶋三甫藏、介松妻遠里、三ぶ女房おつぎ世川初濱次郎富三郎、傾せい琴うらに市川秀次郎、佐賀右衛門に市川友藏、源太左衛門子初子之助と云道具やお仲、團七妻お梶、德兵衛女房おたつ山下仲太郎、團七九郎兵衛とお仲、乳母おとまに楯藏、介松右衛門之介、松助、團

七桙市松に朝太郎、貳ばん目「關取二代鑑」鬼ケ嶽と木村庄九郎、三甫右衛門、隼人に三甫藏、秋つしま女房おさと、仲太郎、倖國松に龜之助、秋津嶋に楯藏○七月十五日より中村座「忠孝染分繮」長岡造酒之頭、若徒逸平後に古手や八郎兵衛、三十郎、姚重の井、げいしやおつま、粂三郎、伊達與八郎、古手や後家妙貞、十藏、奥女中藤浪、尾濱や女房およし甚吉、姚おざゝ、鷺坂左仲太、三津右衛門、じねんじよおさん、龜之助、しらへの姫に七之助、下部團助、古手や甥義兵衛、廣右衛門、本田彌惣左衛門、手代藤八、甚六、げいこいろはに龜三郎、座頭慶政に三の助、伊達の與作に七三郎、鷲塚官太夫にくも介江戸兵衛、見せ物師下々馬與之介、爲十郎、長岡奥方眞弓ごぜん、女馬士關の小万、古手屋女房おくの、菊之丞、伊達新左衛門、下部八藏、香具や彌兵衛、三津五郎、鷲塚八平次、山がたや手代藤七、傳九郎、大切上るり「褄もやう古手返」くめ三、三十郎、清元連（此狂言は本郷四丁目中村屋甚兵衛弟深川尾國やの女郎を木挽丁芝居へ連行ゐしの意趣にて佃の沖にて女郎と花屋の娘を殺し自分入水して死す船頭は助りたり此そふどふを縁女房に）作り入たる面白き作なり此狂言大入大當り三津五郎男重の井○七月廿日より河原崎座「組合いろは建前」鏑間宅兵衛、原郷右衛門、矢間喜内、彌次兵衛に鰕十郎、戸山官兵衛、芳村傳次に友藏、石堂、京都町人嘉兵衛、入間丑兵衛に常十郎、鷺坂伴内、堀部下部定介（松本）虎藏、田代孫右衛門、喜内妻おばし、九太夫後家お禮、門三郎、傾せい浮はし、瀧之助、彌次兵衛妹娘お品、路之助、桃の井若狹之介、小團次、鹽谷判官、万歲德右衛門、大星力彌、茂茂太郎、家主五太左衛門、小次郎、高の師直、中間關內、早稻田軍次、乳もらい善介、馬十、九太夫娘おくみ、彌次兵衛姉娘おきそ、平右衛門女房おきた、重太郎妻おりへ、門之助、田代安兵衛後に堀部安兵衛、石屋五郎太、矢間重太郎、大星由良之介に團十郎、貳ばん目二代目市川門之助廿七回忌追善狂言なり「お染久松」山家屋清兵衛、鰕十郎、油屋手代善六に友藏、山家や弟佐四郎、馬十、稻荷子僧多三郎、油屋娘お染、門之助、行德旅や成田や久作、でつち久松、團十郎○八月十七日より「妹脊山」（杉酒屋之段　御殿の段）ふか七に鰕十郎、家主茂義兵衛と御清所お村に友藏、虎卷彌藤次、（市川）市五郎、玄蕃に（澤村）川藏、橘姫、瀧之介、彌太郎に小團次、後家おなか、馬十、おみわに門之助、求馬と入鹿に團十郎○八月四日より玉川座「手習鑑」源藏と梅王、判官

代に稲藏、時平と兵衛、玄蕃、白太夫に三甫右衛門、くりから太郎、三甫藏、齋世親王に市川秀次郎、かりやひめに富三郎、小太郎に龜之助、希世とよだれくり市川友藏、竜田のまへとはるに仲太郎、櫻丸とすくね太郎に彦三郎、戸なみと八重に友吉、松王とちよ、かくじゆ、花園御ぜん菅相丞、大吉、菅秀才に朝太郎、〇九月九日より**中村座**「娵軍記」よしつねに三十郎、菊の前にあつ盛、直家に粂三郎、盛次とはやしに十藏、ふじの方、甚吉、梶原に三津右衛門、人足廻し茂次兵衛坂東大吉、玉織姫と小ゆきに三津藏、平山武者所に廣右衛門、庄屋孫作に甚六、下女お岩に龜三郎、岡部六彌太に簑助、みだ六、田五平に爲十郎、さがみに菊之丞、直實と忠のり、三津五郎、第貳ばん目つゞき新狂言道具や太郎兵衛實は監物太郎頼方、三十郎、蚤かるもに粂三郎、古かね買八實は本田の次郎に十藏、道具屋太五七に三ッ右衛門、道具屋太九郎に廣右衛門、池の大納言息女歌姫に龜三郎、居候與茂七に七三郎、太郎兵衛女房おりつに菊之丞、れうし浦七實は上總五郎忠光、三津五郎、漁師沖藏實は池殿の馬添軍藤次、傳九郎、大切三津五郎大坂登り名殘狂言七變化所作事

［月花雪名殘文臺（つきゆきはななごりのぶんたい）］

浪枕月淺妻　玉兎月影勝　狂亂雪空解

猩々雪醉覺　寒行雪姿見　女箱花文箱

戀奴花供待

上るり清元延壽太夫、同榮壽太夫、同志喜太夫、富本駒太夫、同濱太夫、同麓太夫、長唄芳村伊十郎、富士田吉四郎、同千太郎、三弦杵屋佐吉、同三郎助、同喜三郎相勤〇九月九日より**河原崎座**「大内鑑」道滿と與勘平、鰕十郎、悪右衛門に友藏、庄司妻に常十郎、信田庄司に門三郎、榊の前に路之助、木綿買安六、岩倉治部大輔、小團次、童子に市川治郎吉、左近太郎、茂々太郎、葛の葉姫、くずの葉狐、門之助、やす名とやかん平に團十郎、貳ばん目「梅由兵衛紫頭巾（むめのよしべゑむらさきづきん）」源兵衛堀の源兵衛、鰕十郎、赤手拭長五郎に友藏、額小さんに瀧之助、しからき勘十郎に門三郎、米や娘お君に路之助、金や金五郎に茂々太郎、三里の久庵に小次郎、非人どぶ六、金や金兵衛に馬十、小梅とでつち長吉に門之助、梅の由兵衛、團十郎、顔見せ**中村座**「猿若瓢軍配（さるわかひさごぐんばい）」柴田勝家、佐藤正清、難波堀江禰しまや清兵衛實は片岡助作直盛、鰕十郎、好兼公息女小野おつう姫、おむ

ら、げい子其ぎく、仲居お条實は山鳥の精靈に条三郎、宅間玄蕃に廣右衞門、口口甚太夫、岩瀨の局、(男達)大伴九郎兵衞、馬十、小侍從に甚吉、柴田勝久(下り)中村源之助、(初三桝他人大五郎子なり)齋藤光興、入江長兵衞、口利かつ、小西與十郎(下り)嵐德三郎、武智息女森姬、長兵衞妻おゆか、傾せい越じ、仲居おきく實は山鳥の精靈、福嶋やお市、菊之丞、眞柴久吉、雜兵小猿の日吉、岩窟の五郎藏、修行者雲龍、實は武智左馬之介光俊に團十郞、大切上るり上の卷「爰集花色宿」鰕十郎、菊之丞、条三郎、團十郎、富本豐前掾、同齊宮太夫、同濱太夫、下の卷「一樹蔭雪轤」くめ三、菊之丞、團十郎、常磐津小文字太夫、同造酒太夫、同秀太夫、玉川座は無人にて興行なりかたき所坂東三津五郎を引留て興行(此時中村座へ狂言作者奈河一洗下る)○十五日より「攀花拽高綱」賴家公、粟餠生玉や定六、三浦之介義村に彥三郎、稻毛太郎景成、雜兵梻須賀兵内、三甫右衞門、公曉、田舍娘、村のおむく、龜之助、比企判官と船頭さゞ浪の熊、三津右衞門、松田左近妹照は、粟餠生玉や妻おいり、盛綱女房早瀨、藤藏、佐々木高綱實は谷村小藤次、粟餠浮世與之助、元吉四郎、簑助、大江の局、鵜かき四斗兵衞、和田兵衞秀盛、源太左衞門、順禮太郎作實は結城之介友光、奴雪平、佐々木盛綱、楯藏、實朝公に朝太郎、片岡造酒之正春元、旅こむ僧秀山、大和屋文右衞門、松田左近春行、田舍嗅臍村おさん、大工五分のみほぞ右衞門、けいせい大淀實は宇治の方、船頭次郎作、佐々木高綱(九役)三津五郎、貳ばん目浪人赤城多門、彥三郎、白銀長者福富金太夫、三甫右衞門、百姓與介娘、龜之助、與介女房おゑん、藤藏、藪醫者澁谷道元、源太左衞門、百姓四人部屋の與介、古郡新左衞門、楯藏、諸げい師南花形甚三、花守古金井の正作實は泉小次郎近衡、三津五郎、(四立目上るり)「花紅葉士農工商」みの介、彥三郎、藤藏、龜三郎、三津五郎、常磐津連中、淸元連中○十一月三日より河原崎座「伊勢平氏額英幣」平忠盛の後室池殿御前、女盜賊麻生のお松實は越中の前司娘松ヶ枝、東やのお安、鳴尾屋巴丈、大吉、長田庄司忠致、白峯の木こり天駒喜兵衞實は鬼田與惣、宵寐の仁三、修行者雲月實はだくほくの江吉(下り)嵐冠十郎、万金丹賣吉六實は太夫進朝長、纐纈源内、宇野七郎親春(下り)尾上多見藏、澁谷金王、山田三郎、松助、景清妻大日のお竹、侍女初瀨、次郎九郞娘お辨に瀧三郎、風呂や火焚鐵八

實は盗賊三國の九郎藏、難波六郎、小道具や長九郎、（杉藏改）門藏、鎌田政清妹若菜、侍女よし野、げいしや小かつ、三津藏、關原藤太、伊藤武者景綱、入間家中金市善右衛門、（淺尾）友藏、進大藏人、里見家中船橋平左衛門、門三郎、下部盛平實は安達藤九郎、彌平兵衛宗清、かごや藤六、十藏、賤女小ゆき實は義平の妾雲井御前、赤坂宿のおじやれ物見のお松、盛久妻あこや、げいしや杵屋三勝、千鳥の內侍、門之助、青墓の風呂や摺針太郎作實は長田三郎景宗、主馬判官盛久、平重盛、茶せん賣禪了實は崇德院愛樹松の精、下部市介、髮結生貫の岩實は丹左衛門尉基康、三十郎、源義經、平忠清三男上總七郎景清、小原女お糸實は崇德院愛樹梅の精、賤男千本の枝六、平清盛、鳴尾や中ばたらき半七、船頭磯綱の龜實は惡源太義平、菊五郎、（四立目上るり）上の卷「操常盤嶋臺」瀧三郎、瀧之助、多見藏、門之介、梅藏、三ツ藏、三十郎、菊五郎、常磐津連中下の卷「詠梅松清元」三十郎、菊五郎、清元連中相勤る

●文政四辛巳年

○春中村座「劇場春曾我書初」祐經に鰕十郎、次兵衛妹おつる、せふ〳〵、粂三郎、大藤内に廣右衛門、傾城龜鶴に龜三郎、團三郎に茂々太郎、伊豆次郎に小次郎、八わたに（市川小團次改）瀧川男十郎、舞鶴屋傳三、甚六、足力按摩劔澤麥庵實は近江小藤太、馬十、女非人おそで實は樋口次郎妹唐糸、甚吉、十郎祐成は源之助、鬼王に德三郎、とらと仲居お玉實は京の小女郎に菊之丞せふ〳〵に粂三郎、時宗と梅澤や小五郎兵衛、團十郎、朝ひなに傳九郎、貳ばん目「寄笠極粉色」朝比奈藤兵衛、鰕十郎、仲町げいしやひな吉、大松やおなつ、粂三郎、利根川岸右衛門に廣右衛門、藤兵衛妻おきしに龜藏、おらんに龜三郎、手代段八（嵐）龍五郎、手代喜藏に甚六、林三太夫、狼の勘六、馬十、後家お霜、竹屋お高に甚吉、大松屋清十郎、源之介、寺子や兵助、目玉の眼兵衛、德三郎、三太夫娘お品に菊之丞、喧嘩屋五郎右衛門、團十郎、大切上るり上の卷「道行戀といふじ」下の卷「心中此身ひとつ」くめ三郎、龍五郎、德三郎、源之介、甚六、菊之丞、富本連中勤る河原崎座「三賀莊曾我嶋臺」梛の葉とともに大吉、和田義盛と鬼王に冠十郎、閉坊小藏實は團三郎、宇佐美三郎、多見藏、小林の朝日丸、松助、小藤太に門藏、百足屋金兵衛と赤澤十內、友藏、まん江、仁田四郎、門三郎、舞鶴

屋四郎兵衞、八わた三郎、十藏、月さよ、せう〳〵に門之助、五郎時宗と三度飛脚箱根畑右衞門、京の次郎、三十郎、十郎祐成と二度飛脚梅澤の小五郎兵衞、工藤祐經、菊五郎、御家狂言源五兵衞妻小万、國侍稲の谷半兵衞、大吉、古金買の彌助、小万親八右衞門、道心西宅、冠十郎、出石千太郎に多見藏、緋田檢校、門藏、安達家中笹野三太夫、岩井喜代太郎、千葉家中賤ヶ谷伴右衞門、友藏、同出石宅右衞門、門三郎、二階まはしおかつ、十藏、源五兵衞娘おゆき、門之助、千葉家中源五兵衞、三十郎、舞鶴屋新造小ひな、安達家中笹野權三郎に菊五郎、貳ばん目、八百や下女おさん、大吉、八百や母おとら冠十郎、下男松太、多見藏、げいしやつる吉、瀧三郎、大丸や荷かつぎ定六、門藏、非人土手の介九、友藏、百姓玉水平左衞門、門三郎、念佛六兵衞、十藏、汐入村紙漉の女房おみの、半兵衞妻おちよ、門之助、野ぶせり庚申塚の嘉十、三十郎、八百や半兵衞と同兄山脇十左衞門に菊五郎、上るり「旨就宵庚申」菊五郎、多見藏、友藏、瀧三郎、門之介、清元連中、

〇三月狂言中村座「伊達神解脱絹川」竹門の豆ふや三郎兵衞と山名奥方榮御ぜん、土手の道哲鰕十郎、加村奥方沖の井、とうふや娘かさね、同亡魂、粂三郎、大江鬼つら、同妹八汐、上ケつゝの五郎藏、廣右衞門、三浦屋の薄雲、龜三郎、足輕渡邊銀平、茂々太郎、鶴千代丸、市川團助、荒獅子千松に與右衞門娘すけ、市川せ米藏、女醫者篠村小卷、栗坂甚太夫、甚六、大場道益、馬十、仲居おきの、實は片桐妻宮城、甚吉、島田十三郎、源之助、花屋金五郎、德三郎、政岡の局と與右衞門女房おきく、菊之丞、豆腐やでつち豆太、木根川谷藏、羽生村與右衞門、祐念和尚、團十郎、男達浮世戸平、傳九郎、高尾は初日粂三郎、後日菊之丞、累かね初日菊之丞、後日粂三郎、上るり「玉匣二葉艶」粂三郎、團十郎、常磐津連中大切菊之丞、七變化所作「吾嬬菊宿の雛形」辨才天、狂亂男、田舍娘、いさみ、神功皇后、むすめ、雀おどり菊之丞、同すゞめ踊瀧川男十郎事市川江戸平、松本五郎市、市川市五郎、川嶋義右衞門、中村千代飛助、關三平、坂東杢藏、中嶋大藏、坂東村藏、市川照藏、上るり富本連中新内豐名賀薗太夫同廣太夫、同伊津太夫勤る〇四月二日より「出入湊」三まく黑船忠右衞門に鰕十郎、はんじ物喜兵衞廣右衞門、瀧川に龜三郎、手代三九郎、甚六、五郎八に源之助、奴の小まん、獄門庄兵衞に德三郎、八木孫三郎、團

十郎、○三月五日より**河原崎座**尾上松緑七回忌追善狂言「松尾上岩藤」初日岩ふじ菊五郎、後日大吉、召仕おはつ初日大吉、後日菊五郎、花守村のおくに、大吉、瀬原甚内、菟師の源兵衛、冠十郎、奴伊達助、冠者太郎、多見藏、歌綾姫と奥女中關屋、瀧三郎、奥女中に門藏、染五郎、春五郎、友藏、植木屋太郎作、友藏、塚本瀬平、門三郎、北條後室岬、庵崎主膳、十藏、北條息女時姫、文藏妻おつゆ下り尾上鯉三郎、傾せい大淀、中老尾上、文藏妹おしづ、門之助、下部磯平、植木屋文藏、三十郎、六浦の四郎次郎政信、百姓千介實は江間小四郎義時に菊五郎大切所作事「櫻三升娘道成寺」白拍子櫻子、門之助、もんじゆ坊、三十郎、ふげん坊、冠十郎、住僧、門三郎、北條時宗に菊五郎、上るり「道行櫻の瀧」常磐津連中勤る ○四月八日より「腰越狀」三の口切龜井の六郎に冠十郎、よし經、多見藏、和泉の三郎妻高のや、瀧三郎、伊達の次郎、門藏、五斗兵衛娘德女、市川團市、しづか、秀次郎、奴に多見藏、友藏、門藏、善次、關歌助、中むら市五郎、尾上梅五郎、澤むら瀧兵衛、錦戸太郎に友藏、和泉三郎、十藏、五斗妻關女、門之介、五斗兵衛に三十郎、佐々木高綱、菊五郎 ○五月狂言**中村座**「御所櫻堀川夜討」辨慶に鰕十郎、紗しのぶ、粂三郎、義盛母磯の谷、廣右衛門、卿の君に龜三郎、針妙おわさ、菊之丞、よしつね、押小路左衛門兼成、團十郎、梶原平二景高、傳九郎、貳ばん目「猿廻門途諷」料理人平介、鰕十郎、扇屋お俊、粂三郎、八もんじや久五郎、廣右衛門、井筒屋傳兵衛、源之助、與次郎に德三郎、左內娘幾瀬、菊之丞、成田屋七左衛門、團十郎○同廿二日より「忠臣藏」由良之介と本藏に鰕十郎、おかるにおいし、粂三郎、彌次兵衛に廣右衛門、小浪に龜三郎、力彌に茂々太郎、せげん惣八、大星瀬平、小次郎、直よし公坂東おてう、おかる母中山常次郎、もんじや才兵衛、吉田忠右衛門、嵐龍五郎、伴內と鄉右衛門、甚六、九太夫に馬十、仲居おみき、本藏妹みなせ、甚吉、判官と彌五郎に源之助、師直、定九郎、與一兵衛、平右衛門、德三郎かほよとなせに菊之丞、桃の井と石堂、勘平、團十郎、山名に傳九郎、貳ばん目は「猿廻し」是迄の通りなり○五月五日より**河原崎座**「敵討櫓太鼓」山の內後室名月院、釜鳴や飯もり四六、おくま、大吉、嶋川太平後に秋月一學、三吉おじい、土左衛門、冠十郎、尾花染五郎後に磯貝藏助、小緒太郎光兼、多見藏、源二兵衛娘

おゆき、山の内左衛門之介、松助娘おさご、水茶やお高、瀧三郎、八ッ山新五右衛門、家主長右衛門、八百屋後家お竹、門藏、釜鳴や武兵衛、堤彌藤次、染五郎、八百久若者、丈八、海老名軍藏、友藏、源二兵衛妻お禮、富岡や吉介、門三郎、尾花六郎右衛門、後に礒貝實右衛門、若徒阿部丈介實は駕かき彌作、十藏、釜鳴や抱鐵きうお杉、八百屋お七、門之助、礒貝下部友平、若徒才三戶倉十内、三十郎、問屋八足白山傳吉、尾花吉三郎後丈八小僧吉三、變名して髮結筑戶の喜藏後に吉三道心辨長、安達藤九郎盛長、菊五郎、此狂言南北の作にて求刻の太鼓とお七を取組たる趣向大できなり○夏狂言六月十六日より中村座「妹脊山」大判司とふか七、德三郎、入鹿に廣右衛門、久我之介と橘姬、龜三郎、求馬とひな鳥茂々太郎、家主茂木兵衛、龍五郎、御淸所おむら、甚六、後家おなかに源太左衛門、おみわと定高に粂三郎、彌太郎に傳九郎、貳ばん目「臺頭霞彩幕」茜屋半七、厚倉次郎太夫、德三郎、筑波屋茂右衛門、廣右衛門、茜屋娘おその、龜三郎、野花や勝次郎、茂々太郎、青柳御せん、野花や女房おぬい、路之介、笠松角太郎、醫者棒庵、龍五郎、みのや平左衛門、甚六、野花や隱居勘齋に源太左衛門、みのや三かつ、花陽庵の妙貞、粂三郎、東金屋茂右衛門、信田の家中田宮右内に傳九郎、大切上るり「其粂德初心俳優」德三郎、粂三郎、富本齋宮太夫連中勤る○七月十五日より「白石口噺」志賀臺七、庄屋七郎兵衛、鰕十郎、しのぶ、粂三郎、吉野や喜平次に廣右衛門、常悅妻おせつ、龜三郎、たいこ持五町、茂々太郎、百姓與茂作、とせう太夫、甚六、せげん觀九郎、馬十、與茂作妻おさよ、兼房妹住の江、甚吉、楠正成の靈と鞠ヶ瀨秋夜、源之助、金江谷五郎、瀧口隼太、德三郎、宮城野、菊之丞、宇治の常悅、大福屋惣六、團十郎、大野やの熊、傳九郎、貳ば目ん「浮名額昔繪双紙」あづまや吉兵衛に鰕十郎、同妻おみの、粂三郎、沼田伴右衛門、廣右衛門、刀屋忠三郎、源之助、町髮結金五郎に德三郎、額の小さんに菊之丞、油屋林孝に團十郎○八月八日より「仇緣結帶屋」片岡幸左衛門に鰕十郎、おはん、粂三郎、針の宗兵衛、廣右衛門、げいこ雪野、龜三郎、片岡幸之進、馬十、お半母おかや、甚吉、香具や才次郎、源之助、足輕段助、德三郎、おきぬに菊之丞、おびや長右衛門に團十郎、大切上るり「道行二世月浪」粂三郎、團十郎、常磐津連中○七月十七日より河原崎座「玉藻前御

園公服」待賢門院、那須八郎妻藻女、大吉、鷲塚金藤次、衛士又五郎、實は木幡彈正景澄、冠十郎、梓巫女直弓、多見藏、輔仁親王、瀧三郎、伴の七郎、染五郎、鹿嶋三郎、門藏、木樵岩淵の和田四郎、田熊法眼、俊次、友藏、安部泰親の進の藏人春俊、門三郎、お柳妹お露、松助、平太郎妹お柳、女夫坂の柳の木の精、門之助、那す八郎宗重、沙門蓮花坊實は當今鳥羽帝、三十郎、木幡左衛門光清、お柳兄横曾根平太郎、花揚夫人の靈、當今の后妃玉藻の前、金毛九尾白面の妖狐宙のりの所大評判菊五郎、貳ばん目ほつたん、遊女三浦屋の上總野後に非人おきさ、大吉、竹にし佐五右衛門、冠十郎、出村曾平次、門藏、浪人鵜飼九十郎後に非人次郎兵衛、三十郎、此間年數廿ケ年相立女非人おきさ實は上總野、大吉、駕かき杢右衛門實は竹垣佐五右衛門、小女郎兄茨の藤兵衛、冠十郎、猿廻し山谷の三作、出村小者伴介、多見藏、わかさや万七に門藏、二階廻しおかん友藏、佐五右衛門妻梅田村のおくら門三郎、植木賣の松に松助、三國やげいしやだつきの小女郎、おくら娘おしもに門之助、東福寺所化淨雲後に出村新兵衛、非人次郎兵衛實は鵜飼九十郎、三十郎、玉屋新兵衛、山邊帶刀、菊五郎、上るり「其噂吹川風」門之助、松介、多見藏、菊五郎、淸元連中此狂言祇園女御と玉藻のまへと出村玉屋を持込たる南北の作なり新作にて大當り／＼○九月九日より「菊宴月白浪」鹽冶の後室かほよ、桃の井奥女中加古川、大吉、鹽冶浪人斧九郎兵衛、古骨買與五郎、後に中間直助、冠十郎、鹽冶縫殿之介、町げいしや箱持佐介、多見藏、娌浮橋と町げいしやおきやら、瀧三郎、高の家中種ケ島六太夫、米屋作兵衛、浪人林平內、善次、定九郎一子よし松、鶴介、高の師安、雁ばゞアおとら、万升屋勘九郎、門藏、山名と百姓與一兵衛、友藏、石堂右馬之丞、越後獅子の宅兵衛、門三郎、石堂數馬之介、桃の井奥小性小なみ、松助、女達のおかる、伊吾餅女房おりん、門之助、石切佛權兵衛實は垣坂三平、緣日餅賣天川や伊吾、三十郎、鹽冶家の浪人斧定九郎、後に曉星五郎、桃の井播磨守に菊五郎、大切上るり「色盛松楓道」門之助、多見藏、三十郎、常磐津連中勤る此狂言も鶴屋南北と松井由輔の新作大當りなり○中村座は九月狂言看板迄出せし處少々分ケあつて興行なく顏見せ中村座「花相撲棧敷賀嵩」高安郡領の息女生駒姫、惟喬親王大で餅賣女牧方村の小露、女順禮お岸、伴の義雄娘五百機、女達扇蝶のお粂、粂三郎、在原業平、奴照平、茶屋京升

屋大四郎、源之助、般若五郎妹敷妙、梓神子榊、傾城春日野、亀三郎、荒川宿禰、百姓治作、門三郎、紅葉庵の通門上人、坪坂丹内妻山の井、健宗の隨臣幸內、たいこ醫者寒久、甚六、侍從之介妹梅ヶ枝、官女清瀧の局、げい子おげん、路之助、伴の伴宗、舍人熊王、鏡とぎ銀兵衛に廣右衛門、荒川宿禰妻植の葉、生駒姫かし付歌方、文書卷筆のお鹿、甚吉、高安左衛門俊清、文珠四郎一子産毛の與六、狩人嵐山の峯藏、見せ物師三ッ猿の彌次郎、德三郎、秦の武虎、實は文屋の秋津、願人虎松坊主、狩人猿谷のがけ藏、ぜげん馬の目抜九郎、冠十郎、紀の有常妹井筒姫、廻國修行者無量實は橘の逸勢娘菊町、酒賣牧方村のおまき、女占お辻實は伊勢の侍從、雇ひお針おきく、菊之丞、孔雀三郎、漁師次郎八、深草燒九太郎實は大江の太郎秀國下り三津五郎、此時名前計にて下り不申大澤丹平、般若五郎仲則、茶廻りでんほう吉、傳九郎、四立目上るり「娘盛閨取組」菊之丞、榮三郎、源之助、傳九郎、常磐津連中豐屋町玉川座久々相休居たる處此度市村座再興にて顏見せ「河種龜顏觸」大江岩戸左衛門、景連、廻國修行者伴山、閨守秀鶴閨兵衛實は大伴の黒主、瀧のや藤兵衛實は秦の大せん武虎、男女藏、久々の出勤惟喬親王、實は表茶屋下男、小野之介賴風、鳶の者音松實は破軍太郎、彦三郎、伴の健宗と非人猿つら傳吉、淺尾友藏、良實後室小の町御前、おの江、鞠岡龍太仲武松本秀十郎改中嶋勘左衛門、荒卷耳四郎照門中安高松左衛門、やりておかん、車力權兵衛、東十郎改四郎五郎、孔雀三郎一子力太郎、朝太郎、安見平馬市川友藏、鬼塚軍藏、江戸平、寂莫僧都、縣曲膳、家主勘六、小次郎、五位之介安貞、茂々太郎、般若五郎妹かへで、茶屋女房おかつ、藤藏、斑鳩女蕃、奴谷平、炭燒宗五郎、非人の馬、おしゆん母おいろ、馬十、白拍子女郎花、舞子お時下り岩井かほよ、大筆八郎、照綱、撞木町の逢坂屋成平實は孔雀三郎成平、あんま太宗庵、中山富藏改市川富藏此度團十郎門弟となる女非人戀塚のお百合實は岩手姫、五大三郎妻卷の戸、小野小町姫、小町櫻の精魂、踊の師匠藤間おしゆん實は井筒姫、九太郎妻お六、門之助、般若五郎照貞、「暫」良峯の宗貞、五大三郎照政、鏡とぎ與次郎の九太郎實は高安左衛門則久に團十郎、坂本山王の神靈、小舍人黃金丸市村龜之助改座本羽左衛門、四立目上るり「奴凧三升羽子板」彥三郎、馬十、團十郎、かほよ、雷藏、羽左衛門、常磐津連中相勤る、羽左衛門山王の神靈、猿にて馬具の所作大出來、幼年といへど名人故

家橋の孫だけにや感歎すべし、大詰上るり「積戀雪關扉」男女藏、門之介、團十郎、上るり太夫前の通り○お茶漬入道七色に市川團兵衞、此時一ッ世一代にて羽織の春へ一世一代の四字をぬい鯰坊主にて「暫」のひつたてなり舞納して龜井戸へ茶づけ見せを出す趣を團十郎口上に申けり三立目「暫」の幕大出來なり、河原崎座は○九月狂言仕舞と「千本櫻五册物」「妹脊山五册物」と云看板を出し置て顏見せ大名題は「妹脊山眺望千本」新中納言知盛、監物太郎、川越太郎、吉野大判寺の同宿藥醫坊、夜番半時廻り權兵衞、下り幸四郎出勤なししづか御ぜんに卿の君、渡海屋の抱女郎、眞綱のお銀實は釆女の局、忠信妹雲井、三笠山紅葉洞のお岸實は女鹿の精、門之助、よし經息女ひな鳥、船頭三太、すしや娘おさと、松助事三朝、川連法眼、判人八栗や甚五郎、歌學者天幸、三甫右衞門、馬士彌藤次實は粕谷藤次有國、辨慶橋の法印炙點院雲慶、梓巫女眞弓、門藏、渡海やふぢよくおすて實は安德天皇、關鶴之介、鈴木三郎妻飛鳥、築立新地渡海や妻おたみ、百姓ふか七女房小せん、瀧三郎、官女玉虫、吉野晒女おとき下り中村小雛、わつはの、菊王丸、藪いしや淵原の丹海下り尾上盤十郎故松緑門人なり増屋金吾近友、樽ひろい寐太郎實は六代御ぜん、多見藏、佐藤庄司元春と平大納言時忠、吉野川の生洲三田屋源藏、伊三郎、源の義經、御廐の喜三太、ゑぞ丹の船頭入江の丹藏實は相摸五郎、三笠山紅葉洞新關守獵師芝六、吉野釣べすしやいがみの彌左衞門實は秦の次官清澄、三十郎、女商人おつや、安德天皇御乳人めどの方、川越太郎妻錦木實は能登守教經、女順禮滿汐のお波、吉野入鹿酒やの後家くだ卷のおみわ、實は主馬判官妹定香、大吉、佐藤忠信、那須與市、鷲尾三郎、梶原源太、本津川百姓ふか七、吉野川渡錢取木の實の權太實は梶原景季、鞍馬山多門天の神靈、菊五郎、三立目上るり「調絲初音寶」菊五郎、三十郎、門之介、大吉、清元延壽太夫、同榮壽太夫、同政太夫

暫のつらね　般若五郎照貞

七代目

市川團十郎自作

神仙傳に曰仙人蘇耽種橘于井上救鄕里之憂とかや又我朝の其頃野夫はきらいな垂仁帝田道間守に勅あつて常世の國より取よせしは凡一千八百年八百八十の恩澤にて再さかふる橋は實さへ花さへ

其葉さへ枝に霜月〻いたちばな御禮を申あげまくから一聲かけねなじみの顔ぶれ右と左に引ッさげる弓幣帛の勝負力うちはどふしは御存の下手が自慢の江戸根生負る嫌で八月からねかして置た納豆ゑぼし柿の素袍に大太刀も昔の人の袖のかや顔なつかしき垢の古着をもつて新らしくこゝに着て出た某は出羽の郡司艮實殿の股肱耳目と呼れたる般若五郎照貞當年つもつて三升市川成田のといふが小歌にもノウマクさばけたばさらだゝ陀羅尼念者の色若衆情しりとはさしあいなくわつと紅葉の赤い着其瀧野屋の川瀧屋戀はくせもの命取抱七五三錺り組入の海老が夜食の種つきず代々譲り葉和泉屋の裏白根松神馬藻はがねは清き本升屋我神國の神風に一座新芽を吹屋町再興りう〳〵仕上の顔見せ防けひろぐ外道めら東夷南蠻北狹西狄四夷八荒天地乾坤の其間は贔屓連理の花橘彌勒菩薩も上覽あれとホヽ敬白

○九月廿七日上方にて嵐橘三良死す行年五十三才、

五月朔日上方にて市山七藏死す法名野詩日經行年五十三才

市川雷藏の系

元祖雷藏○始め嵐玉柏と云寶暦三酉の顔見せ大和延の門人となり市川升藏と改同十一巳の冬より市川雷藏と改名して明和四亥の四月十二日四十四才にて死す

二代目雷藏實子にて雛藏と云明和六丑年雷藏と改しが享和二辰年九月頃迄出勤して其後は出きんなし

三代目雷藏初め中山稲藏と云當年雷藏と改名してすたれたる名を再興せり

花江都歌舞伎年代記續編卷の三

文政五壬午年より同十丁亥年迄六ヶ年間

◉文政五壬午年

○春正月廿三日より市村座「御攝曾我閏正月」祐經、朝比奈、かごや甚兵衛、濡髮の長五郎、男女藏、祐成、八わたや手代庄八實は千葉家中山崎與五郎、彦三郎箱根畑右衛門實は赤澤十内、角力駒ヶ嶽馬右衛門、淺尾友藏、伊豆の次郎、角力鳥山九郎藏、勘左衛門、千葉の家中劔澤郷右衛門、八わたや淨閑、四郎五郎、千葉息女綻姫、げいしやあづま下り澤村璃答始中村仲二後に文化十三冬の名歌木に改名二の宮太郎下り嵐福太郎、五郎時宗、八わた三郎、町かかへ下駄の市、茂々太郎、三浦の片貝、十郎兵衛妻都、藤藏、小藤太、八わたや手代權九郎、馬十、月小夜、とら、下女おはや、かほよ、鬼王、與五郎兄南方十次兵衛、岸守五太夫に雷藏、舞鶴、げいしやおせき、八わたや娘おてる實は赤澤十内娘十六夜、門之助、十郎祐成、五郎時宗、南與兵衛實は引まど小僧與五郎、船頭鷲の長吉後に八わたや與次兵衛、團十郎、五立目上るり「通神廓曙言」門之介茂々太郎彦三郎かほよ 男女藏常磐津連中大詰別家本店「根元草摺引」男女藏團十郎 長唄富士田千藏、芳村源太郎、松永菊五郎、芳村伊四郎、三弦杵屋六三郎、同喜三郎、同新太郎、藤間和三郎相勤る大切上るり「道行縄手綱の引窓」團十郎大でき常磐津小文字太夫、同造酒太夫 ○閏正月廿三日より明狂言「兜軍記」岩永に男女藏、半澤に彦三郎、あこや門之助、重忠に團十郎 ○閏正月十五日より中村座「閏蝶々御惠曾我」せう／＼と時宗、松ヶ岡の妙貞尼、野手のおさん、女非人おてる、町げいしや放駒のおはや、舞つる、粂三郎、祐なり、八わた、結城家中三原與五郎、源之助、かさい太郎女房おいわ、都路御せん、龜三郎、結城家中三原有右衛門、南與兵衛母おしの、門三郎、箱根の閑坊鴛や仁右衛門、甚六、けいせい喜せ川中村春五郎、奥女中あまぎと下女おゆき、路之助、團三郎と若徒丹平、冠之助、小藤太と箱廻し權九郎、廣右衛門、二の宮、與兵衛女房おゆみ、甚吉、京の次郎、御狩場の下受人幻竹右衛門、劔術師南方十次兵衛、德三郎、赤澤十内、船持南與兵衛、稻毛家中橋本次郎右衛門、冠十郎、とらと十六夜、祐經息女敷妙姫、下駄の市、賤の女おとら、町げいしや濡髮のお

せき、梛の葉、菊之丞、稲毛家中平岡傳藏、家主甚兵衛、伊豆の次郎、傳九郎、貳ばん目上るり「浮氣同士愛聽從」粂三郎菊之丞富本連中○二月十日より四まく　おこまに粂三郎、尾花才三郎に源之助、堤彌平次に門三郎、佃屋喜藏、廣右衛門、城木屋女房お霜、甚吉、尾花六郎右衛門、德三郎、城木屋庄兵衛と手代丈八、冠十郎、萩の方、菊之丞、秋月一角、傳九郎、大切上るり「道行涙別橋」粂三郎清元延壽太夫勤る○二月六日より河原崎座「松梅鶯曾我」祐つね、平井村の權八後に非人木下川の與兵衛、幡隨長兵衛、惡七兵衛景清、下り幸四郎、大磯のとら、介太夫娘八重梅後に絹やおはん、梛の葉、門之助、禿千鳥、小いさみ治郎吉、三朝、本庄介太夫、同浪人介八、三甫右衛門、長兵衛子分宵の口の千太郎、非場十藏重勝、下り中山富三郎前市川新藏と改享和元酉の顏見せより高麗藏て幸四郎の養子となり市川三太郎と改名せしがいか成故にや離縁して其後文化七年また新藏と改去年上方へ登り此度錦車の名跡をつぎ錦升と同道にて歸着せり　浪人本庄介七、箱根の大日坊、足輕山中畑右衛門、門藏、工藤犬坊丸下り高麗藏、小藤太下り市川宗三郎、大江の光元、八わた三郎、鬘助、大江家媼岩瀨後に三浦屋の小紫、瀧三郎、關三郎、箱根の兒閉坊丸實は平家の公達保童丸、白柄十三郎、多見藏、朝比奈に伊豆の治郎下り盤十郎、せう〳〵、十六夜、中村芝友、絹屋長右衛門、伯父幸左衛門、足輕大鳥段介、伊三郎、鬼王と白柄十右衛門實は絹屋手代彌市、大磯屋傳三、あんま取針の宗庵、後に木下川百姓金五郎、三十郎、衣笠御ぜん、鶴ヶ岡舞八舞鶴、實は二の宮、祇園町のげい子菊野、本庄介太夫妻累、後に雪の下絹屋後家おきぬ大吉、十郎祐成、五郎宗時、月さよ、實は圓覺寺堂前の三日月おさよ、長兵衛弟稻葉小僧才次郎、大江家中平井權八後に大鳥村の庵主閑心、重忠、菊五郎、四立目上るり「鴫立澤虎礎」三十郎、盤十郎、三朝、門之助　菊五郎清元連中○三月三日より「助六櫻の二幣」花川戸助六實は京の次郎、幸四郎、滿江に伊三郎、朝貌仙平、門藏、かつぎ伊之介、善次、やりてお鐵岩井芝鐵、かんぺらに盤十郎、ゑら玉に菊次郎、市川瀧之助改尾上白酒賣新兵衛實は伊藤祐清、三十郎、意久大盡實は大友賴國、大吉、傾城揚卷、菊五郎○三月十一日より「賴政射家櫻」賴政妻爪琴、忠綱妹關屋、粂三郎、瀧口ぎおふ、尾崎之助、源之助、侍女七浦、龜三郎、宇治の左大臣賴長、本馬之介忠政、廣右衛門、爪琴姫媼おきぬ、甚吉、猪早太忠澄、恩太會平太實は長谷部信連、德三郎、石川左衛門

秀廉、星合郡司、冠十郎、官女あやめの前、妼彌生、菊之丞、源の賴政、葛城左京、田原の又太郎忠綱(下り)三津五郎、渡邊十七唱(侍)、萩原鄉介傳九郎、武ばん目[鐘淵(かねがふち)劇場故(かぶきのふること)]刀屋娘お花、粂三郎、手代半七實は吉田宿直之介、源之助、野分姬、龜三郎、刀屋岩見、門三郎、釣鐘建立講中お三ばゝあ、甚六、夜そば賣五郎七、廣右衛門、鮫茂妻おとな、甚吉、鮫の茂兵衛、德三郎、手代長九郎、冠十郎、土手の水茶屋都鳥のお浪、菊之丞、聖天町の願哲、小柴部、野分姬の亡魂、三津五郎(大切)上るり[染分葱彩色(そめわけてしのぶいろざし)](菊之丞、源之助、粂三郎、三津五郎)常磐津連中〇四月七日より[廓文章(くるはぶんしやう)]夕ぎり、粂三郎、喜左衛門女房おせん、甚吉、阿波大盡甚六、喜右衛門に冠十郎、伊左衛門、三津五郎〇三月五日より市村座[信仰記]松永大せんと佐藤正淸に男女藏、下人新作、彥三郎、火の車小次兵衛、盜人のど擲太淺尾友藏、慶壽院是齋妻おさく、おの江、人盜人礫の三、(候兵衛事)曾呂平、山口九郎次郎、藥や是齋、四郎五郎、是齋娘おつゆ、璃答、柴田權六(江戶平改)小團次、松永鬼藤太、小次郎三わ五郎(嵐福三郎)、足利義輝、森蘭丸、茂々太郎、けいせい花橘、藤藏、どすの喜藏、馬十、几帳之前、かほよ、十河軍平實は小西彌十郎、三好修理之介、雷藏、藤吉妻おその、乳人侍從、雪姬、門之助、此下藤吉、狩の之助直信、小田春永、團十郎、足利てる 若丸羽左衛門、金閣寺の段大仕掛(大切)市川門之助七變化[七所御攝初鐵漿(なゝところめぐみのはつかね)]桃の節句西王母、彌生の花藪入娘、苗代小田馬追、三社祭の虛無僧、花見歸りの老女、櫻紋日の新造、機關(からくり)雛の石橋石橋の相手奴(馬十淺友曾呂平小團次)上るり上下共に常磐津連中長唄富士田千藏、芳村源太郎、松永兼五郎、岡安喜代八、芳村伊四郎、(三弦)杵屋六三郎、同喜三郎、同新太郎、同六太郎、同和三郎ふり付藤間勘介〇四月十四日より(武ばん目)[時鳥(ほとゝぎす)雨夜盃(あまよのさかづき)]稻の谷半太夫、四郎五郎、近藤沼五郎、友藏伊丹覺右衛門、馬十、庄屋杢兵衛、雷藏、覺右衛門娘小雛、門之助、いなの谷半兵衛、團十郎〇四月四日より河原崎座[遲櫻愛宕聯(をそさくらあたごれんが)]光秀に幸四郎、嘉平次に伊三郎、森の力丸に三朝、宅間信盛、淺山多山重滿、三甫右衛門、宇野紹巴、門藏、曾呂利に善次、武智十次郎にこま藏、森蘭丸、三の助、園生局、芝友、百姓一作實は小西行長、多見藏、安田作兵衛、盤十郎、四王田妹小磯、菊次郎、尼ヶ崎餅屋ちまきの當作實は四王田正純、小田春永、三十郎、光秀妻さ月、大吉、眞柴久吉、菊五郎、

試ばん出「現金浮名欅」岬屋四郎兵衛、幸四郎、道具屋佐右衛門、伊三郎、同女房お百合、三甫右衛門、お百忰喜太郎、門藏、入間家中森越丹兵衛、鐙十郎、げいしやおとみ、菊次郎、入間家中兒嶋主水、三十郎、與兵衛妻お龜、大吉、道具屋與兵衛、菊五郎 ○五月五日より中村座「忠臣藏」かほよと力彌、おその、粂三郎、桃の井と石堂、重太郎、源之助、となせと仲居に龜三郎、原鄉右衛門とおかる母、門三郎、與一兵衛と伊吾、甚六、伴內と大わし、三津右衛門、下女りんと忠右衛門、龍五郎、よし松山しなり槌五郎、甚吉子なり一もんじや、金平、直よし公に冠之介、定九郎と喜太八、山名、廣右衛門、お石と仲居、甚吉、判官、數右衛門、本藏、德三郎、九太夫に彌次兵衛、竹、冠十郎、娘おかると小なみ菊之丞、義平、師直、平右衛門、となせ、可內、勘平、由良之助、七役三津五郎、彌五郎に傳九郎、八段目上るり「旅路の嫁入」小浪と女馬士おろく菊之丞可內とヽとなせに三津五郎 中間國內、傳九郎、當磐津連中勤る大當り大入なり○六月十八日より織部浪宅之段或まく力彌、粂三郎、織部、彌惣次、源之助、彌次兵衛、娘おさい、龜三郎、富森助右衛門、甚六、彌次兵衛娘おゑつ、甚吉、織部彌次兵衛、德三郎、戸林平內、大星瀨平、冠十郎、惣右衛門妹さへだ菊之丞、師直と平右衛門、由良之介、三津五郎、五月上旬河原崎座自火にて燒失に付幸四郎、門之助、市村座へ出勤○五月九日より「千本櫻」川越太郎に權太、銀平、幸四郎、鷲尾に高麗藏、梶原に覺カ範男女藏、六代御前、朝太郎、龜井に小團次、義經と小金吾、彥三郎、相撲五郎、大之進、淺尾友藏、お辻、飛鳥、おの江、彌左衛門に四郎五郎、卿の君、璃答、駿河、福三郎、入江丹藏、茂々太郎、若葉內侍、小せん、藤藏、川連、馬十、すけの局、かほよ、辨慶に雷藏、しづかとお里、門之助、忠信、源九郎狐、彌介、團十郎、安德天皇と善太に猪左衛門、四の口上るり「道行初音旅」門之助團十郎常磐津連中四の口大仕出○同廿日より「由開色深川」出村新兵衛、幸四郎、網飼九十郎、男女藏、產毛の金太郎、彥三郎、茨木藤兵衛、友藏、地廻だゞ六、四郎五郎、水茶屋娘おかん、璃答、八百屋伊三郎に茂々太郎、手代三四郎、馬十、氏原勇藏、雷藏、三國屋小女郎、玉屋娘おゑん、門之助、玉屋新兵衛、團十郎 ○六月十六日より夏狂言市村座「狹間合戰」此下藤吉と蓮葉與六、彥三郎、石川五右衛門、竹中官兵衛淺尾友藏、官兵衛妻關路、侍女波路、傾城芙蓉、おの江、三好長慶、四の宮源八、勘

左衛門、源左衛門に垂井藤太、曾呂平、官兵衛娘ちさと關米次郎、來作と春永に小次郎、義でると大清、足柄金藏、茂々太郎、來作娘お仙、綾の臺、おうつ、顔よ、次左衛門娘小冬、猢左衛門、(武ばん目)「夏祭昔者中」備中屋德兵衛實は玉島磯之丞、彦三郎、團七島無宿傳八九郎兵衛、友藏、介松妻唐織、おの江、駕かき三河屋義平次、勘左衛門、道具屋淸七に曾呂平、備中屋後家お梶、小次郎、釣舟屋三吉、茂々太郎、奥女中琴浦後に德兵衛妻おたつ、かほよ、小頭幸吉、濱田左門之介、猢左衛門、上るり「出來合稽古浴衣」(彦三郎かほよ)淸元延壽太夫、同政太夫相勤る○七月十七日より中村座「伊賀越」幸兵衛娘お袖に粂三郎、和田志津馬に源之助、久方御せん、龜三郎、和田行家、幸兵衛妻おつや、門三郎、(若徒)柘留武助、甚六、飛脚介平、大できき馬士がん八、三津右衛門、上松春太郎、鳥羽源之進、冠之助、櫻井林右衛門、澤井城五郎、廣右衛門、行家妻柴垣、甚吉、佐々木丹右衛門、山田幸兵衛、譽田大內記、德三郎、澤井股五郎、同母鳴見、荷持平作、宇佐美五右衛門、冠十郎、松葉屋瀨川後に平作娘およね、政右衛門妻お谷、菊之丞、唐木政右衛門、呉服屋重兵衛、三津五郎、若徒池添孫八、傳九郎○八月四日より「月友俄花道(つきのともにはかはなみち)」げいしやおきく、菊之丞、同おくめ、粂三郎、戻駕のやつし、男達目玉の德平、德三郎、此度師匠嵐橘三郎(先に吉三郎と云)之前跡を譲られ候に付大坂登りの名殘狂言也(仇名を目德と云)三津五郎たいこ持三津八にて口上あり此所作大できなり上るり常磐津小文字太夫、同造酒太夫、同都賀太夫相勤る

河原崎座普請出來に付○七月廿五日より「靈驗龜山鉾(れいげんかめやまほこ)」(此狂言五月興行すべき所にてやけたるゆへ七月やはり是を興行す尤五月仕立の世界なれば秋きやうげんの世界にて如何歟よし口上書あり) 藤田水右衛門後に豆州天城山の行者宗玄後に石堀源五右衛門、町醫者藤田卜庵、ゆかんばかい八郎兵衛、幸四郎、播州明石のちゃみ織お松後に大岸妾賤はた、駿河二丁目丹波屋おつま、門之助、大岸主税之介、三朝、沖津高臺院隱居了善、浪人林左衛門、三甫右衛門、武田家中掛塚官兵衛、門藏、藤田下部伴介、足輕權平、善次、源之丞一子源次郎、こま藏、水右衛門言號お才、芝友、若徒轟金六、明石家中石井六之進、多見藏、若徒中野藤兵衛、右內弟子石井兵介、丹波屋後家おりき、盤十郎、六之進妻お波、菊次郎、三木重左衛門、お松親佛作助、伊三郎、龜山家中大岸賴母、若徒武井文藏、三十郎、奥女中藤川實は石井後家しら浪、播州明

石の貞林尼、纐母妻月の戸、大吉、石井源之丞、後に香具屋彌兵衛、石井下部袖介後に岩淵伴五郎、武田多門之正、菊五郎、西まく口上るり「蟬雨活恨絵鞘」門之助菊五郎常磐津小文字太夫、同和歌太夫勤る市村座「敵討名歌膠」伊丹杢之進、唐橋陶五郎、男女藏、奴浪平、馬士紅藏實は阿星土岐之介、彥三郎、唐橋彈正、箱引長九郎、友藏、杢之進妻關屋、おの江、門番勝兵衛、雲生寺和尙、笹屋半兵衛實は阿波の金十郎、四郎五郎、阿星土岐之介、謎坊主春雪實は百數馬、茂々太郎、めのと織橋、傳內女房おふさ、藤藏、近藤軍八、ちよんかれがん山、馬十、おすまの方、かほよ、蟲うり露八實は高木內記、傳內母勝野、雷藏、西國順禮おきよ、けいせい高まど、門之助、阿星大領のり光、小わらり傳內、奴文字介、團十郎〇九月狂言中村座「三津組月盞」大內鑑榊りまへに条三郎、庄司に門三郎、作柄段八、三津右衛門、童子に樋五郎、後家茨の方、金平、惡右衛門と芦屋道滿、廣右衛門、庄司妻甚吉、與勘平、冠十郎、葛の葉姬、くづのは狐、菊之丞、保名、やかん平、三津五郎、左近太郎、傳九郎、上るり「信田妻菊の着綿」菊之丞樋五郎三津五郎富本綱太夫、同駒太夫、同常太夫、同齋宮太夫連中、「鬼一法眼」菊畑之段牛若丸、条三郎、智惠內に源之助、近藤判官、三津右衛門、皆鶴姬、菊之丞、鬼一法眼、三津五郎、「青庚申」おちよ、条三郎、山城屋仁兵衛、源之助、下女おたけ龜三郎、家主太郎兵衛、廣右衛門、芝田十左衛門、後家おつや、冠十郎、姊おかよ、菊之丞、半兵衛に三津五郎、錫嘉十郎、傳九郎、上るり「道行施毛氈」傳九郎条三郎三津五郎、富本齋宮太夫、駒太夫、同常太夫、同綱太夫〇九月九日より市村座「大內鑑」道滿とやかん平、男女藏、よかん平に彥三郎、庄司妻おの江、庄司に馬十、娘桔梗、かほよ、惡右衛門、雷藏、葛の葉姬とうらの狐、門之助、やすな、團十郎、とうじに羽左衛門上るり「花三升楓盛」門之助羽左衛門團十郎、常磐津小文字太夫、同和歌太夫勤る貳ばん目「色分限榮商」露の小五郎兵衛、男女藏、淀屋辰五郎に彥三郎、手代勘七淺尾友藏、藪醫者道因に四郎五郎、新七妻おみち、藤藏、げいしやおやま、かほよ、手代新七、雷藏、ふじやあづま、門之助、淀屋新兵衛、武左衛門、團十郎、大切「女鉢木」源左衛門に彥三郎、妹玉笹、茂々太郎、白妙に門之助、時賴入道、團十郎〇同晦日より貳ばん目「妹脊山」二たふかまく七、男女藏、後家おなる、馬十、玄蕃に松本國五郎、彌藤

次、勘左衞門、御清所お村四郎五郎、櫻の局淺尾友藏、梅の局、會呂平、紅葉の局、小園次、綠の局門十郎、藤の局、小次郎、彌太郎、茂々太郎、橋姫、かほよ、茂義兵衞に雷藏、おみわ、門之助、求馬と入鹿、團十郎○九月十一日より河原崎座中村大吉一世一代名殘狂言荻野伊三郎義も此度一世一代「御そんじ東伽羅」仁木彈正、榮御ぜん、絹川金五郎實は百姓與右衞門、幸四郎、細川勝元と豆腐屋三郎兵衞、伊三郎、とうふ賣三吉、三朝、黑澤官藏、三甫右衞門、山名左衞門、奧女中八汐、町醫者汐澤宗叢、門藏、民部一子千松、高麗藏、鶴千代、朝太郎、山中鹿之助、多見藏、大江鬼つら、かに十郎、奧女中沖の井、足利息女陸奥姫、菊次郎、汐澤丹藏、幻木津川友市、渡部民部逸友に三十郎、めのと政岡、大吉、足利賴兼、羽生の介七、六部道哲實は木津川金五郎、松ヶ枝關之助に菊五郎、貳ばん目「女達猿人交」輯達屋八兵衞、幸四郎、女猿廻しおしく、大吉、釣かねや權兵衞に門藏、げいしやお俊、菊次郎、古手屋五郎兵衞、三十郎、井筒屋傳兵衞と六角左京、菊五郎大切「時頼記」白妙に大吉、妹玉章に三朝、源左衞門に三十郎、最明寺時頼に菊五郎○荻野伊三郎俳名初朝后め京にて尾上藤藏と云て若衆形安永三午霜月中村座へ初下りにて次第に立身して元祖三津五郎なよくうつされ大和やくと聲かゝりしが終に天明巳の顏見せより二代目坂三津と改寛政十一未の顏見世に再改三代目荻野伊三郎と成て絕たる家を起し文化三寅十月亡師尾上紋太郎年忌に付はじめて大坂登り同五辰の顏見せ森田座へ下る顏見世中村座「御攝東百官」將門、强盜袈裟太郎、金五郎法印、高麗や太兵衞、けだもの屋神田の與吉、幸四郎、上平太貞盛、御厨六郎公連、播摩之介惟光、中村改三升源之助、貞盛姉つくばね、甚吉、田原之介千晴、こま藏、矢橋かし付小船、いたごのごぜおみち、路之助、駕かき逢坂姫、將門妾桔梗の前、田舍娘おみつ、與吉女房おやま、下り松江事中村三光、遠山玄蕃、新舟橋の八兵衞おいろ、いしや桂庵三津右衞門、沼田の庄司、門三郎、好古の息女讃岐のまへ、新船橋の八兵衞おきく、龜三郎、氷上夜叉太郎國秀、中愛駕かき紋六、足輕矢筈の羽根平大谷廣右衞門改坂田半五郎、豐島彈正左衞門貞連、武藏權の頭與世、百六、冠十郎、經基息女玉水姫、加藤金剛太郎重光、新船橋の八兵衞羽生やのかさね、けいせい貌、おしん、粂三郎、村雲皇子、うけ田原藤太秀鄉、絹川船頭與右衞門、風商人いか七、壬生の忠見、實は忠文の靈、家主六兵衞、三津五郎、藤原純素、船橋地廻り助實は海上太郎則正、傳九郎、四立目上るり「可愛解下紐」上の卷源之助、三光、三津五郎、半五郎、粂三郎常磐津小文字太

夫同和哉太夫同喜の太夫下の卷幸四郎三光三津五郎清元延壽太夫同榮壽太夫同志喜太夫二番目に續てソキ狂言「酒呑どうじ」酒呑童子に幸四郎、源頼光、源之助、三の君、甚吉、いばら鬼に三津右衞門、同めつゑ鬼にら中む千代飛助、同しやつ鬼桐し義右衞門、卜部季武、門三郎、花園に龜三郎、碓井貞光、半五郎、坂田公時、冠十郎、絹洗の女かつらの子、粂三郎、平井の保昌、三津五郎、渡部の綱に傳九郎、柴刈の翁實は正八まんの神靈に座本勘三郎右ワキ狂言果迄下役ども致來候處御慰の爲右の役者にて與行仕候段口上言あり○十一月廿五日より「猿似寔人寫」猿曳小よし、三光事まつ江、井筒屋傳兵衞、源之助、おしゆんに龜三郎、母おぎん、門三郎、古手屋五兵衞に三津右衞門、米屋八兵衞、半五郎、家主權兵衞、冠十郎、瀧口左内、三津五郎、○十二月三日より大切「姬小松」有王に幸四郎、龜王に源之助、次郎九郎に三津右衞門、小督の局、甚吉小辨槌五郎、なめらの兵、半五郎、深山の喜藏、冠十郎、おやすに粂三郎、俊寛に三津五郎、此時役者付に大坂下り淺尾勇次郎改中村仲藏と見へたれども下着なく其年評判記には淺尾額十郎と改名せり　市村座「御贔負竹馬友達」渡邊の綱、鳥羽少將重行卿、びわ法師寺嶋撿校、万度貢、笙藏實は平井保昌、仲町小供屋丹波屋吉五郎、船頭喜之助、二の瀨源六、菊五郎、渡部妻

君西、茨木や新造小式部實は美女丸、保昌妻和泉式部、下女おさん實は枡花女、純友娘粧姬、門之助、渡部下部舍那介、川部の小彌太、でつちきめ松に三朝、加藤三郎重國、左衞門佐惟衡、大坂下り布袋のからくり師ぼた餅、丹波屋廻し太介、富三郎事錦車平安盛、袴垂手下班の牛藏、井人杢兵衞、高山彌惣兵衞、馬十、仲光妻橋立、かしわの局、ひき手茶屋お安、奧女中竹川、おの江、頼光姉長夜母御せん、赤染衞門、柳ヶ浦あまもしを、池田中納言息女、花園姬、丹波屋げいしや椀のお六、ふり付岩井おせん、伊賀壽太郎妻爪琴、下リ半四郎、坂田の公時、白川の廣文、三田の源五照綱、戾橋夜番根津兵衞、男女藏、古川戶の六介、鬼同丸の手下鹿藏、家主忠藏、唐人方才太夫張良、甚六、大木戶五郎有宗、山りやうし才藏、數爵者見得、大原小源太、門藏、季武妻濱名、若葉の局、物人女房おゆか、辻君おたつ、藤藏、淡路守頼親、常陸之介重宗、男達杢藏、多田院の京我國師、かに十郎、頼親妹八重はた姬、加藤妹照葉、げいしや早言の筆次、中老岩瀨、菊次郎、西の宮左大臣、朱雀の老女茨木ばゞあ物部の平太、純友御乳人岩手、四郎五郎、源の頼信、柳川小金吾、純友一子重太丸、彦三

郎、六郎公連、仕立し商人宇治の茶六、實は忠文の靈、百姓栗の木又次實は卜部季武、大松屋番頭勇助、手習師匠玉江英德、三十郎、又次女房おきく實は秀鄉娘千晴姬、雨社祭禮のねり子おぬい實は橘姬の靈、茨木屋傾城七綾實は將軍太郎、丹波屋吉五郎女ぼうお花、仲町の前だれおしま、菊之丞、藤原仲光、市原野鬼同丸實は袴垂保輔、碓井の貞光、源賴光、筏乘り橫竪の角藏、仲町のごろつき火の車鬼七、伊賀壽太郎有信、團十郎、祭禮のねり子桃太郎實は公時一子快童丸、羽左衞門 四立目上るり「妹門祭物賣（いもがかどまつりのものうり）」羽左衞門、三十郎、菊之丞、彥三郎、門之助、菊五郎 常磐津小文字太夫 同造酒太夫 同都賀太夫 富本綱太夫 同濱太夫 同韮太夫 かけ合にて相勤る貳ばん目上るり「色山解深川（いろのやまとけたふかがわ）」菊五郎 半四郎 團十郎 清元連中相勤る○十一月十五日より森田座再興にて「花櫓和國凱（はなやぐらわこくのかちとき）」大明の琳璋太子、禿たより 朝太郎改 團之助、大内之介義智、四郎五郎、前關白兼良公息女歌姬、西國順禮お百合、女髮結おつや、璃答、村上伊賀太郎景澄、いら高法印、田熊信盛、百足の百介 淺尾友藏、世尊寺俊房卿、三好左京保忠、冬奉公人三藏、茂々太郎、氏江中務季秀、灸點女お市母お政、多々羅八郎、家主茂次郎兵衞 市川彥十郎改 中村魚樂、娵初霜、芝友、此村妻渚瀧川歌川 中村里好なるか 花守入道と金貸からす勘左衞門に勘左衞門、遠藤判官有信、小鮒源五郎、猿みの、五郎太夫、宗三郎、瀨川采女正春、石切治郎作、郡新助、百姓一作、多見藏、奧村主膳妻深雪、尊仁親王、侍女此糸、久秋の御臺蘭生のまへ、かほよ、赤松岩見之介祐國、眞柴久次、花賣笠作實は眞柴小市郎、漁師次郎藏實は三浦常陸之介、雷藏、芙蓉皇女、傾せい九重太夫、一卜酒賣お市、後にお通姬、實は神戶春高、海士もしほ實は宋蘇卿娘燕子花、治郎藏女房おふね、實は燕子花 下り松之助改 岩井紫若、佐藤虎之助、廻國修行者蟠龍、船頭玄界の與次兵衞實は宋蘇卿一子宋蘇民、家主杢兵衞、福嶋市松正則、夜そば賣仁八、男女藏、眞柴久吉、同久秋、勘彌、六立目上るり「思ひ指扇盃（おもひさしあふぎさかづき）」紫若、かほよ、團之助、勘彌 常磐津小文字太夫、同兼太夫、同組太夫相勤る狂言作者槌井兵七增山金八と改名す

しばらくのつらね　加藤金剛太郎重光

岩井粂三郎

東岸西岸の柳遲速同じからず南枝北枝の梅開落既に異なり是皆春の詠にして時こそ周の天正月一陽初て揚幕から口にはやつた暫と一と聲かけてのお

め見へは亦加役かとお叱りも返り三升は市川の由緣の色も紫の帽子にあらぬ顔の隈思へばつがもなら坂や兒手柏の二面鵜の眞似をする唐國は朝鮮鼈甲銀流しじやりかなまりか仰山な柿の素袍に大太刀はおこがましくは候へど清和源氏の根元根本六孫王經基が股肱耳目と呼れたる加藤金剛太郎重光今日顔見の世荒事も只江戸ッ子とだゝ子をひとへに御ひゐきお取立願ふ角から角前髮てふど三代ゆずりの強者纔生男子の吉例若衆とホゝ敬白

○十一月十三日中嶋三甫右衛門死す行年四十四才

●文政六癸未年

○春市村座「八重霞曾我組絲」祐經と神道者吉備宮大藤内、宮大工六三郎、實は船越左七郎、祐成小藤太、菊五郎、せう〳〵、綱五郎女房針賣のお房、小塚原羽織げいしやはね吉、門之助大でせんだ坊、信のもの德藏、三朝、伊豆次郎、大黑屋槌右衛門、錦車、山住五平太、糸や後家おいわ、馬十、鬼王、夜番人太眞介、甚六、御所五郎丸、神原佐五郎、男女藏、奥女中かしく、糸や娘お糸、日向ごせ明石、實は人丸、半四郎、醫者東林小地ごく九藏、門藏、片貝、宿場女郎花咲、藤藏、團三郎、久次美七郎、かに十郎、宿場女郎十六夜お京、鳶者女房おさつ、劔澤彈正左衛門、家主左五兵衛、四郎五郎、京の次郎、仁田の四郎、彥三郎、朝日奈に古金買權兵衛、船越十右衛門、三十郎、とら、げいしや小糸、尼妙林實は六三郎言號おその、菊之丞、時宗、八わた三郎、赤澤十內、半時九郎兵衛後に按摩長庵、糸屋聟左七實は本町綱五郎、團十郎、鳶の者吉、羽左衛門五立目上るり「心情語而御神樂」菊五郎、門之助、三十郎、菊之丞團十郎、常磐津連中中村座は春興行なし森田座○正月十七日より「初夢曾我寶入船」祐つね、山崎屋與次兵衛、盜賊幻長五郎、近江小藤太、幸四郎、鬼王妹十六夜、次部右衛門娘お照、田舍娘お村、舞鶴、紫若、蒲の冠者、南與兵衛、源之助、丸屋姉おせき、奥女中宇佐美、甚吉、大藤內、烏欄兵衛、三津右衛門、手代庄八、染五郎、都母おかんばゝあ、宗三郎、手代權九郎、伊豆の次郎、淺尾友藏、西口賴母、早の彥助、中村十藏、甚兵衛妹松おとら、團之助、でつち長吉、こま藏、大姫君、柳原おりう璃答、丸屋與五郎、茂々太郎、小袋坂のおゑん、三嶋伊丹平、魚樂、平岡郷介、尼妙林、小治郎、二の宮、下女おさわ、路之助、百合屋金兵衛、橋本治部右衛門、十次兵衛、母岡

の谷、門三郎、奥女中久須美、傾城あづま、龜三郎、鬼王と三原傳藏、半五郎、赤澤十內、鍋の甚兵衛、冠十郎、三浦の片貝、五郎時宗、傾城都後に十次兵衛妾おはや、粂三郎、十郎祐成、八わた三郎、南方十次兵衛、浮世商人どつこいどふ八、三津五郎 大詰上るり「綏袖(たなひくそで)愛釣八(いとうりひと)」くめ三、三津五郎常磐津連中 貳ばん目上るり「道行誰夕月(みちゆきたれもいふづき)」紫若 粂三郎、紫若、源之助、三津五郎 清元連中○三月五日より中村座「歸曲輪花伊達染」足利賴兼、大場道益、幸四郎、井筒女之助、片桐彌十郎妻萩の戸、甚吉、黑澤や勘藏、三津右衛門、やりておきせ、金平、茶道蓮齋 坂東大吉、竹澤藤馬、染五郎、道益女房おまき、義右衛門、男之介にこま藏、局政岡、三郎兵衛妻おちか、まつ江、鶴千代君 中村雅樂木、千松に槌五郎、仁木弁之助、中しま 勘藏、渡邊銀兵衛、たいこ持新助、小次郎、奥女中ちしま、番頭新造錦木、路之助、渡部外記左衛門、三郎兵衛母おこう、門三郎、奥女中ちしま、けいせい高窓、龜三郎、黑雲武平後に神並金左衛門、半五郎、大江の鬼貫、冠十郎、傾城高尾、女達雷お鶴、粂三郎、仁木彈正左衛門直則、嶋田重三郎、豆腐屋三郎兵衛、細川勝元、三津五郎、浮世戸平、山中鹿之助、大切「娘道成寺」白拍子櫻子、大館左馬之介時門、三津五郎、せいたか坊、源之助、こんがら坊、半五郎、住僧に門三郎、道行上るり竹本志喜太夫、同竹太夫○四月六日より貳ばん目「關取二代勝負附(せきとりにだいのしようぶづけ)」行司庄九郎、幸四郎、高倉隼人、源之助、六角伊達五郎に三津右衛門、秋つしま女房おさよ、まつ江、一子國松、槌五郎、傾城大淀、龜三郎、鬼ヶ嶽に冠十郎、秋津嶋、三津五郎○同十七日より二百年の壽家の寶「猿若門松」の狂言興行す摺物の寫左にあらはす 但し金の屏障羽織の圖并に狂言の圖は初へんに出しおれば略す

乍憚以口上書奉申上候

以先御町中樣益御機嫌能被遊御座恐悅至極奉存候隨て私芝居之義寛永元甲子年天下泰平國家安全之御吉慶として二月十五日初て中橋に於て歌舞妓狂言座御高免被成下舞鶴の紋所にて大鼓櫓を興行仕候尤家之紋之抱澤潟に御座候得共勘三郎狂言座御願申上いまだ御免し無之内富士山の頂上より一羽の鶴山折敷に銀杏をのせ是をくわへ元祖勘三郎宅江舞込候夢見候て無程願の趣相叶候に付是全吉瑞とすなはち舞鶴をもつて家の紋に仕候處其後櫓る事御座候て山なしきの形を其儘隅切角に銀杏の紋

所に改め然るに寛永九壬申年中橋より禰宜町に引移り又々慶安四辛卯年堺町只今の地に引移り打續芝居興行仕來候事元祖より私に至り十一代之年數當文政六癸未年迄二百年におよび狂言座打續仕候段以誠御江戸中樣の御贔負厚被成下御惠之御餘光故と冥加至極難有仕合に奉存候依之右二百年壽として來る四月十七日より日數三日の間元祖勘三郎致置候猿若之狂言并に門松と名付候狂言所作相勤申候以是古來之物に候得ばなか〱今樣之儀と相違御目に止り候樣の事にては無御座候得共たゞたゞ昔之古風を御覽被遊候と被思召何とぞ被仰合賑々敷御來駕の程奉希候尤其節猿若相傳の品々於舞臺に奉入御覽候先は二百年相續の壽御江戸中樣に御披露旁猶又御贔負被成下候御禮迄右以口上書奉申上候以上

文政六癸未年初夏

大江戸元祖歌舞妓狂言座根元中村勘三郎

十一代目猿若倅　傳九郎

○三月五日より市村座「浮世柄比翼稲妻」名古屋山三、傾城小紫、菊五郎、茶廻り長吉、三朝、六角左京之進、男達十三、錦車、古鐵買源兵衛實は本庄介八、馬十、三浦屋女房おたか、おのに、家主杢兵衛、甚六、本庄介太夫、男女藏、白井權八、長兵衛妻おちか、半四郎、石塚玄蕃、やりてお爪、門藏、奥女中しがらみ、八百善女房おきち、藤藏、菊蝶下部段八、唐犬權兵衛、蟹十郎、見せ物師又平、眞虫の次兵衛、四郎五郎、白柄菊蝶、幼名白井彌市郎、山三下部八內、三十郎、鰹岩橋後に傾城かつらぎ、又平娘蛇遣女鯰のおぬら後に山三下女お國、花川戸土物師おでん、菊之丞、不破伴左衛門、後に寺西閑心、播隨院長兵衛、團十郎、一子長松羽左衛門、門之助は病にて出勤なかりしが中途より出勤にて傾城小紫の役を勤る○三月七日より森田座「此君雀由縁紋日」禿若葉實は鶴千代君、團之助、角力取荒波梶之助、十藏、めのと沖の井、璃答、女之介、髮並三左衛門、茂々太郎、梓巫女吉野實は八汐宗三郎、でっち豆太、角力取浮世川戸平淺尾友藏、傾城政岡、薄雲尼實は仁木妹岩手の前、紫若、角力取絹川谷藏、幸四郎、貳ばん目三代目澤村宗十郎廿三回忌四代目宗十郎十三回忌明年十三年にあたる澤村田之助、七回忌追善狂言「紫由兵衛幀」金や娘おてふ、團之助、津田

源十郎、梅澁屋市兵衞、十藏、福淸女房お梶、璖咨、金や金五郎、氏原勇藏、茂々太郎、源兵衞堀源兵衞、宗三郎、金屋七艮介、友藏、藝者額の小さん、鷲の長吉女房およし、でつち長吉實は小柴六三郎、梅の由兵衞實は源十郎娘かしく、紫若、湯かんば買鷲の長吉、福嶋屋淸兵衞、幸四郎、大切所作「大和い手向五字(やまとなかてむけのいつもじ)」

五節句所作

「子日小松曳(ねのひこまつひき)」官女紫若、長唄芳村孝次郎、同伊四郎、孝三郎、同孝十郎
「上己雛櫻狩(じやうみのひなさくらがり)」紫若、常磐津小文字太夫、同兼太夫、同都賀太夫、同喜野太夫
「端午莊人形(たんごのかざりにんぎやう)」牛若に紫若、僧正坊に幸四郎、大薩摩文太夫三弦杵屋作十郎
「七夕星祭祀(たなばたのほしまつり)」子守紫若、淸元延壽太夫同榮壽太夫同宮路太夫ふり付岩井吉五郎
「重陽菊花傘(ちやうやうきくのはながさ)」紫若三弦杵屋作十郎、同彌三郎、同新太郎、同錦次郎

○四月六日より壹番目「陸奥千鳥女白波(むつちどりこひのしらなみ)」月本息女おみね、團之助、月本左衞門、夏目四郎三郎、十藏、女盗賊お幸、金平、佐竹十內、向底の又九郎、宗三郎、玉嶋幸兵衞、荷持仁助、友藏、笠原茶屋のお松、女盗賊牙のお才、月本後家きさかた、紫若、廻國修業者麗雲、實は日本駄右衞門、幸四郎（所作は是迄の通り）○五月狂言（兩座共天神記を興行す）中村座「菅原」松王と土師兵衞、幸四郎、輝國、源之助、よだれくり、（坂東）大吉、淸つらと杉王、染五郎、小太郎、槌五郎、龍田のま八、甚吉、まれ世と平馬、三津右衞門、櫻丸、彥三郎（當狂言より當座え出勤す）、花園御前、萩の侍從、ちよ、まつ江、菅秀才（中村）歌木、妼勝野、侍女おり江、路之助、紀の長谷雄、安樂寺住僧、門三郎、はるに龜三郎、御隨分兼竹、こま藏、宿禰太郎、倶利伽羅丸、半五郎、時平公、玄蕃、彌藤次、白太夫、冠十郎、八重とかりや姬、となみ、粂三郎、梅王丸、源藏、覺壽、菅丞相、三津五郎、貳ばん目、秋津嶋是迄の通り、市村座「菅原」櫻丸、菅丞相、菊五郎、戸波とはる、門之助、かりや姬、三朝、杉王、錦車、兵衞、馬十、花ぞの御せん、おの江、似せ迎ひ、甚六、天らんけい（松本）國五郎、平馬に曾呂平、小太郎、孫六、時平公、玄蕃、男女藏、菅秀才、德之助（市川おの江子なり）、齋世親王（岩井）辰之助、淸貫、（市川）門十郎、まつ世、門藏、龍田のまへ、藤藏、くりから太郎、かに十郎、白太夫、四郎五郎、禰直太郎、梅王、源藏、三十郎、ちよと覺壽、彌

之丞、八重、半四郎、てる國、松王、團十郎、牛飼童筆松實は飛梅の精、羽左衞門○五月十九日より大切「夏祭膽羅寶」紺屋德兵衞實は玉嶋磯之丞、宿なし團七、菊五郎、町かゝへ琴浦の金、三朝、仲居釣舟のおかぢ、おの江、大鳥佐賀右衞門、門藏、手代傳八、四郎五郎、げいしやおふさ、門之助、道具屋淸七實は助松主水、赤坂奴龜吉、團十郎○夏狂言六月十二日より中村座「和田合戰」城の九郎資國、冠十郎、淺利の與市、彥三郎、政子尼、路之助、市若丸、市川德之助、公曉、歌木、藤澤入道市川友藏、平太女房綱手、おの江、齋宮姬、璃答、江門の小四郎、源之助、班額女、まつ江、和田太郎經盛、佐柄平太、傳九郎「戀傳授文武陣立」口切三の鳥勘左衞門實は和田兵衞秀基、冠十郎、百姓庄六實は三嶋左近太郎、彥三郎、賤女おまつ、路之助、母おせつ、おの江、當間三郎、源之助、三しまおせん、まつ江、大江廣丸、傳九郎、貳ばん目「お妻八郎兵衞」香具屋彌兵衞、冠十郎、介三郎、駕かき彌助、彥三郎、女房おみき、路之助、奧女中おりへ、おの江、げしいやお才、璃答、八郎兵衞、源之助、藝者お妻、まつ江、おつま兄太八、傳九郎○六月十四日より森田座「法懸松成田利劍」三國の太夫嫡子藥王丸、座頭日朝實は日蓮上人、法華染五郎實は三國の吉祥丸、四條金吾賴基、兒ヶ淵がま仙人實は蒙古國の趙良、菊五郎、片瀨漁師捨吉實は北條天一丸、三朝、本間六郎左衞門、惟康親王、かに十郎、東條左衞門、門藏、漁師一心太兵衞後に千ヶ寺參り阿佛坊、波木井庄司、馬十、石井彌三郎、法師日僧、錦車、波木井息女七里姬、猿遣ィ石澤のおかん、文珠菩薩の尊像、粂三郎、成田不動明王の尊像、三國の太夫賴國、圓覺寺兒白ぎく丸、法印眼前坊後に冠り日親、妙法丸船頭嘯三郎實は蒙古國のはいかす丸、團十郎、貳ばん目、船頭神田川の與吉實は細川甚三郎、奧女中かさね、菊五郎、鹿嶋踊豐作、三朝、累が乳母お村、かに十郎、八介妹おりく、瀨川政之助、蜂山藤六、門藏、下總羽生の介、馬十、久保田下部八介、錦車、粂本のかるこお高、羽生の介娘おさへ、粂三郎、百姓與右衞門實は久保田金五郎、祐念和尙、團十郎、上るり「色彩間苅豆」菊五郎 團十郎 淸元連中○七月十五日より市村座「慢雜石尊贐」澤井股五郎、吳服屋重兵衞後に富岡惣六、菊五郎、政右衞門女房お谷、富岡かゝへはね吉路考の身ぶりの所大當り實は武助妹おその、門之助、仁木息女彌生姬、錦藻

川羽根澤屋幸吉、三朝、和田志津摩、船宿辰巳屋與五郎、やつこ重藏、錦車、長崎醫者十官、馬十、多門之介乳の人はま町、女髪結おせん、おの江、佐々木團右衛門、質屋長右衛門、甚六、澤井又左衛門後に佐々木岸柳、男女藏、箱根宮城野の賤信夫、仲町藝者おのぶ、半四郎、富岡屋廻し九介、荒卷伴作、門藏、奥女中笹尾、藤藏、和田貢、櫻井林左衛門、蟹十郎、澤井城五郎、池添孫八、四郎五郎、仁木春太郎後に仁木大内記、若黨石留武介、三十郎、股五郎言號鳴見、惣六女房おはま、奥女中瀬川妹お袖、菊之丞、江州志賀の土民宿なし團七、荒木政右衛門後に月本武藏、團十郎、でつち德松、細川多門之介、羽左衛門○八月十六日より貳ばん目「御ぞんじ松竹梅」（八百屋お七百五十年忌追善狂言なり）小性吉三郎、菊五郎、花賣おはる、門之助、赤澤十作、三朝、海老名源八、馬十、八百屋後家おかや、おの江、釜屋武兵衛、門藏、結城七郎、かに十郎、紅屋長兵衛、四郎五郎、赤澤十内、五尺染五郎、三十郎、下女お杉、菊之丞、土左衛門傳吉、仁田四郎、團十郎、筆や娘おしか、羽左衛門、八百屋娘お七、半四郎、（八百屋お七一世一代に相勤る）上るり「新媛雛の世話事」（菊五郎、門之助、半四郎、團十郎、）常磐津小文字太夫（同造酒太夫 同兼太夫）大切「道行手向の露霜」豊竹須摩太夫相勤る○九月十六日よりお七を壹ばん目にして貳ばん目「造物梅の由兵衛」梅の由兵衛、菊五郎、げいしや長吉實は小梅妹小三、門之助、安田越後之介、三朝、家主左介、錦車、金谷若徒喜六太、馬十、水茶屋女房おぬい、おの江、松本や佐次兵衛、甚六、氏原勇藏、男女藏、男達權六、善次、同五百平、門藏、同丑藏、蟹十郎、信樂勘十郎、四郎五郎、呉服屋源兵衛、三十郎、由兵衛女房小梅、菊之丞、福嶋や娘おきみ、半四郎、金谷金五郎後に赤手拭長五郎、團十郎、町かゝへ寶來の龜、羽左衛門○八月朔日より中村座「忠孝いろは短歌」由良之介女房おいし、縫之介姉浮橋、娵お高後におらんの方、まつ江、鹽谷判官、千崎彌五郎、めつぽう彌八、源之助、縫之助、大星大助、こま藏、斧九太夫、上かんや喜三郎、小治郎、鷺坂伴内、家主五兵衛、石場甚藏、虎藏、山名治郎左衛門、天川屋義平、染五郎、直義公、（中村）七三郎、八郎、織部安兵衛、種森兵内、（市川）友藏、太四郎妹おしん、師直侍従、下女おりん、路之助、小浪、彌次兵衛娘糸瀧、下女おりう、李右衛門娘お市、璃答、早野勘平、大星力彌、自陀樂寺住僧、彦三郎、鎊間宅兵衛、桃の井播摩守、

百姓與一兵衛、非人直介、源四郎、肴賣穜ヶ島の六、冠十郎、かほよ御ぜん、平右衛門女房おくみ、妼おかる、粂三郎、高師直、石堂右馬之丞、一もんじや才兵衛、植木屋杢右衛門實は原鄕右衛門、大星由良之介、幸四郎、斧定九郎、同宿道樂坊、桃の井若狹之助、大鷲文吾、傳九郎、六まく目上るり「仇縁松夕月」源之助松江清元連中相勤狂言作者櫻田治助、田島此助にて殊之外面白出來せし處三津五郎退座ゆへ入甲斐なく殘念〳〵〇八月朔日より森田座「忠臣藏增補柱礎」常州筑波の龍狐、早野勘平、判官高貞、坂尾權四郎、片岡下部元介、大星由良之助、三津五郎、大星妻おいし、師直奥方操御前、元介女房おせき、九太夫妻おれい、甚吉、七太夫召仕おかめ、鷺坂伴內、家主太郎兵衛、三津右衛門、直よし公、大星力彌、市川梯太郎、佐藤與茂七、坂東又次郎、千崎彌五郎、平野屋清兵衛、斧定九郎、坂田初甚吉と云半十郎、鹽谷子息爲若丸、槌五郎、墓守惡念坊、貝原義介、大吉、石堂右馬之丞、早野七太夫、原鄕右衛門、加古川本藏、門三郎、鹽谷奥かほよ御前、長七娘おらん、勘平母おきく、龜三郎、斧九太夫、堀部彌次兵衛、高師直、半五郎、片岡文吾、桃の井若狹之介、勘彌、大切七代目勘彌五十同忌追善狂言三津五郎所作「法花姿色同」傾城、大山參り、汐汲、福介、都見物右衛門、上るり清元連中長唄芳村孝次郎、同孝三郎、同孝十郎、同伊四郎三弦杵屋佐吉、同三良介、同正兵衛、同巳太郎、同作十郎、同錦次郎ふり付藤門大助〇九月十一日より中村座「御注文高麗屋縞」長兵衛女房お時、勝元妹白あや、まつ江、本庄介市、絹賣彌市、大岸主水、源之助、極らく十三、こま藏、右內娘八重梅、女髮結おだい、路之助、本庄介太夫、伊之助母おなる、小次郎、石井源之丞、稻葉屋助八、彥三郎、長兵衛一子長松、中村歌木、久下玄蕃、船頭新六、淺尾友藏、傾せい小紫、尾上菊次郎、石井右內、寺西閑心、冠十郎、白井權八、初役大でき明石町げいしやおまつ、粂三郎、藤川水右衛門、船頭濱松屋伊之介、幡隨長兵衛、幸四郎、赤羽根五郎作、まむしの次兵衛、傳九郎、大切まつ江、大坂登り、名殘り五節句作「后月名殘の島臺」官女、傾せい、いちこ、三番叟、紅葉見女奴、上るり清元連中長唄坂田新四郎、富士田新藏、同吉藏、松永平藏、富士田吉四郎、三弦杵屋佐吉、同三郎介、同勝太郎、同房之介、鳥羽屋三之介、杵屋喜三郎ふり付松本五郎市〇顏見せ中村座「還木曾菊簇」望月左

衞門重國實は能登守敎經、猫間中將實は强盜袈裟太郎、越後獅子十郎兵衞、芭蕉膏藥杉尾屋甚七實は樋口次郎兼光、幸四郎、傾城玉虫太夫、田舍娘おくめ實は近江のおかね、熊野御ぜん妼朝貌後に手塚妻かなさし、条三郎、新宮次郎義信、栖の六郎、珍里寺納所三菩、源之助初めて名題越後獅子三吉、木曾お六、櫛商人太郎吉、義仲の馬添駒王丸、高麗藏、花房艶之助、淸原の有武、水卷四郎實はわつはの菊王丸、馬士、和田藏、淺尾友藏、根の井大彌太妻梅田、賤女おみつ、諏訪の宿留女口豆のおぎん、路之助、けさ太郎、手下喜藏、膏藥下男可介、善次、武田信光、欒五郎、奴折平實は多田藏人行綱、義親御氣に入へぼけん入道心才、刀鍛治源五郎實は手塚光盛、諏訪明神の神職高島主水實は秩父の重忠、三十郎、栖の六郎妹初花、基房公息女茂子の君、瀨川菊太郎初ぶたい武藏五郎、家主杢兵衞、小次郎、猫間中將光高卿、古金かい藤六、井上九郎、門藏、實盛郎等松田三郎家高、蟹谷次郎實は內田三郎爲久、蟹十郎、義仲妾山吹御ぜん實は侍宵侍從、松田妹岩瀨、菊次郎、膏藥や娘おまつ、宗盛嫡子淸宗、三朝事まつ助、實盛の後室篠原、新宮備前守行家、醫者三ッ角銀庵實は

彌平兵衞宗淸、冠十郎、淸盛娘玉虫姬、仲居引四ッのお時、基房卿の靑侍更科主水之介春久實は義仲妾巴御ぜん、芭蕉膏藥娘お濱、菊之丞、木曾義仲、砥並山新八幡の神使朝日狐、占者百的百中實は入江冠者義親、菊五郎、石黑太郎信義肴賣ごり藏、傳九郎、四立目上るり「爰(こ も)鄭色友達(くるわいろのともだち)」菊之丞菊五郎こま藏三十郎くめ三源之介幸四郎、富本綱太夫、同齋宮太夫相勤る○霜月九日より市村座「大和大和花山樵(やまたやまはなのやまかづ)」平親王將門の靈藤原仲光、伊豆國百魔山姥、綱相場のいさみ、き〻、挽の源實は渡邊綱、觀喜天の世話人大和屋文右衞門、三津五郎、貳ばん目とだんまり斗り出勤なり茨木太郎鬼門實は大芦原四郎將平、柴崎屋居候半兵衞、家主佐五兵衞、櫓下のきも入犬猫ば〻あ、四郎五郎、高邦親王、神道者榊采女、足輕山右衞門、錦車事富三郎、賴光公かしづき櫻戸、けいせい七綾實は將門娘桔梗前、女髮結のお時、龜三郎、須藤兵部之尉元賴、大宅光任、三津右衞門、猪の熊入道雷雲、やりてお爪、甚六、橋立三郎妻幾野、三田源五妹みさき、女針醫小牧おのへ、おの江、白川民部廣文、綱の叔父むさし、時坊主隱居つら門、門三郎、かつらき山石蜘阿闍梨、梓神子さがみ、姿見煎餅燒の喜兵衞、馬十、綱妹舂爾、

辻君おきん、綿つみおせん、小佐川常世（三代目常世の子七藏事常世と改名田舍芝居へ修行の內病死せしが甚吉名を繼て改名す）平正盛、伊豫太郎國純、しるこ賣正月や熊、半五郎、美女丸、船宿伊之介實は川原の千晴、はかま垂保輔、狀遣ひ早介、彥三郎、北野神主の下女丹波の小雪、猿嶋屋かゝへ粧お姬、紫式部、關白忠房公の息女粧姬、網打場女たばこや引出しおかん、紫若、保昌後家式部實は九條の傾城和泉路、吉六女房、半四郎かゝお燒芋お七、辰夜叉御前、快童丸金時、保昌娘小式部、網打場のうてびゝ長家のおつな、半四郎、栗の木又平實は厨の三郞將賴後に卜部季武、伊賀壽太郎有信、山かづ根ッ子の斧藏實は三田の仕、吉祥寺門前の夜番人吉六、三ッ星そばのかつぎ仁太實は純友一子十太丸、團十郞、猿しまや小むよくおとめ實は將軍太郎良門、羽左衛門、上るり「月花茲（つきをはなここに）友鳥（ともどり）」（三津五郎、紫若、半五郎、半四郎、彥三郎、團十郞、）淸元延壽太夫相勤る森田座体にて〇霜月十九日より河原崎座「姬山姥紅葉赤本（こもちやまうばもみぢのあかほん）」碓井の貞光、稽古所世話やき林兵衛實は御厨三郞公宗、木こり斧藏實は三田の仕、廻國修業者月山實は伊賀壽太郎、男女藏、黑木賣おさと、團之助、下男庄太實は源賴信、助高や金五郎、□□主斗黑木賣おつや、橋立五郎、半十郞、賀方利金太、黑木賣おはな、たいこ持藤次郎、岸井長四郎（初芝鐵）左大臣惟次娘越方姬、げいしやおてつ、市川辨之助、猪の熊入道、市川門十郞、平の正盛、呴りばゝあおつめ、宗三郎、仲居おきた實は周防の內侍、黑木賣おしづ、奥女中吾妻や、藤藏、加藤豐後次郎忠正、三條刀指屋多三郎、芝居茶屋男佐七實は□□（仙藏改）伊三郎、榊五郎國純、升や八兵衛實は後藤三郎利經、源吾實は□□重友、雷藏、諸けい指南織江女實は將門娘七綾姬、關白賴忠息女粧姬、芝居茶屋お才實は濱芝、快童丸、門之助、羅生門の受負人、茨木五郎實は渡邊綱、源の賴光、足柄山の姥、三津五郎（一番目ばかり出勤なり）上るり「初深綠花の袖笠（はつみどりはなのそでかさ）」上の卷四立目（男女藏、半十郞、長四郎、門之助、團之助、藤藏、三津五郎）下の卷大詰（男女藏、門之助）三津五郎常磐津小文字太夫連中相勤る〇三月廿二日若女形の老功中村大吉死す、天龍院明譽淨光巴丈居士（行年五十壹才淺草新堀淨念寺に葬る）

・

◎文政七甲申年

〇春正月十三日より中村座「御慶曾我扇（かどれいしやそがのとしだま）」祐經、畫鳶大磯のとら、粉屋孫右衛門、幸四郎、奥女中梅川後に槌屋かゝへおすわ、舞鶴、十六夜、粂三郎、祐成、丹波屋八右衛門、梅澤の小三郎、源之助、箱王丸、洲崎

むさしや金太郎、こま藏、淺田五左衞門、箱根の閉坊、藪醫道庵、友藏、吉原舞鶴女房おでん、女髪結お綱、路之助、判人かん六、獵師浪六、「善次、ぜげん喜三郎、久次美次郎、染五郎、宇佐美六郎、北條時太郎、獵師沖六、松本錦吾、八わた、北條家中龜谷忠兵衞、三十郎、忠兵衞娘おさん、關宗太郎三十郎子なり大藤內、成景、横田茂平次、小次郎、のり賴、冠之助、工藤金石丸、美須河原太兵衞、家主三右衞門、りやうし梶藏、門藏、伊豆の次郎、船頭勘太郎、蟹十郎、大姬君、けいしやおすへ、菊次郎、六條の家來兼介、犬坊丸、まつ助、小藤太、百足屋金兵衞實は赤澤十內、箱根の傳海坊、二の口村孫右衞門、冠十郎、十內娘片貝後に工藤奧方梛の葉、けいしや小はる 鬼王妻月さよ、菊之丞、五郎時宗、鬼王、網打場槌屋次兵衞、菊五郎、團三郎、道具屋源六、傳九郎、大切上るり「飛脚文繝舟」幸四郎、冠十郎、菊之丞、くめ三、三十郎、菊五郎、富本安和太夫、同齋宮太夫、同大和太夫相勤る○正月十四日より市村座「假名曾我當蓬萊」鬼王と山川屋與茂七、あんま一つ目蠣市 實は寺岡市右衞門、四郎五郎、八わた三郎、三浦若狹之介義村、比企の奧女中大崎、一里半六實は關重次郎光興、富三郎、祐經息女大姬、三平妹おいし、新造龜つる實は力彌言號小浪、龜三郎、梶原景時、古かね買畑右衞門、金平、梶原景季、曾呂平、同景高、彈之進下部ぶた介、義右衞門、三浦隼人、松本五郎市、三平一子よし松、甚吉、樋五郎改大岸力彌、鯉三郎、せんじ坊、岩井辰之助、御所五郎丸、市川友藏、伊豆の次郎、一文字屋傳藏實は比企家中平澤甚內、小團次、比企家中鎊間宅兵衞、了竹妻おとら、家主勘左衞門、三津右衞門、朝日奈、山崎の庄屋與一兵衞、比企の中老吉備、甚六、三浦奧方岬御前、深川松本のお梅、おの江、佐々木盛綱、片岡源五右衞門、門三郎、安達家中、吉田忠右衞門後に越後獅子狸角兵衞、小藤太後に植松彈之進、本藤源四郎後に太田了竹、馬十、鬼王妻月小夜、與茂七女房お園、常世、十郎祐成、安達內匠之介、九郎兵衞悴潮田又之丞、安達浪人大高源吾、彥三郎、五郎時宗、安達奧方明石、御ぜん、粧坂せう〳〵三平女房十六夜のりん後に比企の妾富の方、紫若、安達家娘定野後に深川けいしやおかる實は九郎兵衞娘定野、半四郎、比企武藏守賴員、同弟鍜谷双盤實は安達家中大野九郎兵衞、小寺十內後に安達中間直介後につきがね權兵衞、與茂七悴ねごとの伊五、狩

人茅野三平、幼名團三郎、糸竹庵加古川實は工藤祐經、俳偕師其角實は大岸藏之助、團十郎、鶴林山の所化敎信、滿壽君賴家公、羽左衛門六立目上るり「花吹雪裾野忍笠」彦三郎、紫若、甚六、團十郎、羽左衛門、常磐津小文字太夫、同造酒太夫、同兼太夫相勤、此時長谷川勘平大仕掛大道具にて大出來なり○二月十三日より四代目市村竹之丞百年忌追善狂言貳ばん目「茶の湯景清」修行者大日坊、四郎五郎、人丸、龜三郎、足輕鐵平、曾呂平、半澤六郎、市川友藏、伊場十藏妻床夏、常世、秩父庄司重忠、彦三郎、惡七兵衛景清、團十郎、此狂言四代目竹之丞重忠にて市川海老藏景清にて茶の湯の場大評判なりし由此時の口上書にありふしん能く考へし其後安永五申年市村座春狂言「冠言葉曾我由緣」に四代目木場白莚景清、三代目松本幸四郎重忠にて乞食茶の湯大出來なり大切所作「筐花手向橋」大津繪鬼の念佛、同座頭、彦三郎、神靈猿、羽左衛門三役とも家橋のせし所作なり地廻り金、富三郎、女商人放鳥賣おしづ引ぬき局にて女郎下駄長屋のお政、紫若、放鳥賣七兵衛引拔にて地廻り團十郎吉、團十郎、神靈の猿の相手奴鶴平、彦三郎、上るり清元延壽太夫、同榮壽太夫同政太夫同佐賀太夫相勤る○正月廿日より河原崎座「七種萬歲曾我」景清、愛染明王の靈像、小藤太、和田義盛、梶原娘箙、男女藏、新造小磯、團之助、京の次郎、赤澤十內、半五郎、ぜんじ坊、金五郎、祐兼下部字佐美逸平、半十郎、同久次美三平、好藏、大藤內勘左衛門、馬士次良藏實は番場忠太、門十郎、伊豆の次郎に箱根閉坊、宗三郎、十六夜、藤藏梅澤小五郎兵衛、八わた三郎、伊三郎、大磯屋傳三、雷藏、とらとせう〳〵、五郎時宗、月さよ、門之助、祐つね、祐成、鬼王、團三郎、朝日奈、重忠、まん江七役三津五郎五立目上るり「蝶衛花の常磐津」門之助男女藏三津五郎常磐津連中貳ばん目「褄重潤色古手屋」芝土橋屋十兵衛、男女藏、粂本娘分おやゑ、團之助、香具屋彌兵衛、半五郎、八郎兵衛娘おかん、山科甚吉、佐々木家中榎原鄕介、宗三郎、重兵衛女房おやつ、藤藏、千葉家中狹山主水、伊三郎、佐々木家中狹山伊織、丹波屋手代伊八、雷藏、仲町藝者御守殿おせん、丹波屋おつま、鳥追おふね、門之助、古手屋八郎兵衛、門萬藏德又、三津五郎大切上るり「互朧晴清元」門之助三津五郎清元連中○三月十七日より古手屋を壹ばん目にして貳ばん目「布引」切三の瀨の尾に半五郎、九郎介、宗三郎、小萬かしく、太郎吉、甚吉、九郎助妻、雷藏、齋藤實盛、三津五郎「廿四孝」切四之庭造り

關兵衛實は道三、男女藏、長尾謙信、宗三郎、娍若草、團之助、同嬬衣藤藏、百姓みの作實は武田勝賴、伊三郎、長尾景勝、雷藏、八重垣姫、門之助○三月五日より**中村座**「舘風扇白浪」岸田の局、三二五艮介實は木村常陸之介、幸四郎、五郎介妹おりつ、粂三郎、石川文吾實は眞柴久次、源之助、眞柴久若、次郎吉、こま藏、川の井彌八、友藏、眞柴久次實は石川文吾千嶋冠者義廣、三十郎、茶屋雲才、庄屋息子豆太郎、門藏、奴だて平、かに十郎、娍小濱、菊次郎、世尊寺中納言道貞、松助、三上の百助實は武智光俊、石川介左衛門、冠十郎、久澤の妾早瀬、小紺の源五郎實は岸田局瀧川、菊之丞、旅芝居の女形石川眞砂路、盜賊石川友市、菊五郎、安田宅兵衛、傳九郎、貳ばん目「花曇艶街下駄傘」出村新兵衛、幸四郎、三國屋小女郎後に玉新女房お艶、三吉屋のお岩、花賣娘おかね、粂三郎、氏原勇藏、源之助、手代三九郎、友藏、玉庄女房お房、路之助、中間丹助、善次、鵜飼九十郎、手代半兵衛、玉屋庄八、三十郎、奥女中竹川、小次郎、茨藤兵衛、門藏、奥女中瀧町、菊次郎、產毛の金太郎、松助、玉屋後家お種、三吉屋喜右行門、冠十郎、非人おむら實は勇藏妹飛鳥、げいしや小金、菊之丞、玉屋新兵衛、木屋彥惣、菊五郎、土浦伊之助、傳九郎上るり三まく目「辻占更忍彈」くめ三、菊之丞、冠十郎、菊五郎、鶴賀出雲掾大切上るり「好容柳濡色」くめ三、三十郎、松助、菊之丞、菊五郎、富本安和太夫、同齋宮太夫、同豐美太夫相勤る○同廿七日より跡まく出す○四月八日より「行平磯馴松」此兵衛、三十郎、行平下女おなべ、源之助、畑太夫、友藏、おくみ、路之助、村雨姬、菊次郎、蜑小ふじ、菊之丞、大切所作「袖濡而須磨亂藻」三十郎菊之丞上るり竹本竹太夫、同岸太夫、長唄芳村孝次郎、岡安喜平次、芳村吉五郎、岡安喜次郎、同喜八三弦杵屋勝五郎、同三郎助、同榮次郎、同淺吉相勤○三月九日より**市村座**「牡丹蝶初簪」行烈押、四郎五郎、牛嶋主稅、富三郎、奥女中關屋、龜三郎、同さかき、曾呂平、同野方、義右衛門、同若菜、市川友藏、同初音、小團次、同蓬生、三津右衛門、同貌鳥、甚六、同浮舟、おの江、行烈押、門三郎、奴馬平、馬十、奥女中竹川、常世、五百崎求馬、彥三郎、中老尾上、紫若、おはつ、半四郎、局岩ふじ、團十郎、大姬君、羽左衛門、貳ばん目「冥途の飛脚」龜屋忠兵衛、二の口の孫右衛門、三津五郎、貳ばん目ばかり船宿おてつ、富三郎、傾城鳴戸世、龜三郎、巾着切段次郎、市川友藏、針立道庵、三津

右衛門、浪人鶴拭藤二兵衛、馬十、水茶屋おたけ、常世、槌屋治右衛門、彦三郎、梅川に半四郎、丹波屋鬼藏、團十郎、大切上るり「道行故郷の春雨」半四郎三津五郎清元連中勤る○四月十五日より「布引」三段目實もり、三津五郎、九郎助、四郎五郎、葵御ぜん、龜三郎、太郎吉、甚吉、矢橋の二惣太、三津右衛門、九郎助女房およし、門三郎、小まん、紫若、瀬の尾十郎初め團十郎○五月九日より中村座、市村座南座とも「絵本合邦衢」中村座、佐枝大學之介、立場太平次、幸四郎、孫七女房およね、福屋仲居おぬい、粂三郎、菊之丞病氣なりしが中途より出勤孫七女房およね役を勤む道具屋與兵衛實は手代孫三郎、源之助、でっち萬吉、こま藏、篠山官兵衛、質屋善兵衛、友藏、佐五右衛門女房おわた、路之助、守山團藏、蛇遣イ九介、善次、關口多九郎、染五郎、高橋瀬左衛門、福屋三吉、三十郎、佐五右衛門一子里松、團宗太郎、松浦玄蕃、小次郎、松田幸十郎、冠之助、奴八内、手代傳三、門藏、山伏升法印、かに十郎、道具屋後家おりよ、太平次女房おみち、菊次郎、小嶋林平、松助、鏡山太守俊行公、百姓佐五右衛門、冠十郎、彌十郎妻皐月、道具屋娘おかめ、門之助、高橋彌十郎後に修行者合法、問屋人足孫七、女非人うんざりお松、菊五郎、下部曾平、傳九郎○同廿三日より所作「酒債色三肩」兎、粂三郎、駕かきに菊之丞、門之助、女房駕の所作大でき上るり富本安和太夫、同齋宮太夫、同常太夫、同大和太夫相勤る市村座「合法辻」高橋彌十郎後に修行者合法、小あげ與五郎、三津五郎、百姓佐五右衛門、山伏大瀧法印、四郎五郎、小嶋林平、富三郎、松田幸兵衛、五郎市、佐五右衛門一子里松、甚吉、奴八内、手代喜六、市川友藏、中買善太、市川小團次改鶴岡八藏、浪人關口太九郎後に松浦玄蕃、三津右衛門、三度飛脚與茂七、辻番おいろ、甚六、太平次母おかや、おの江、高橋瀬左衛門、門三郎、大でき三上郷介、馬十、佐五右衛門女房おわた、常世、大槻一角、半五郎、高橋孫三郎後に道具屋與兵衛、彦三郎、同女房おかめ、太平次女房お六、紫若、彌十郎妻さつき、與五郎女房おいね、半四郎、多賀俊行公、佐枝大學之介、立場太平次、團十郎、高橋下部妻藏、羽左衛門、大切所作「花江戸繪劇場彩」曾我十郎祐成、朝貌賣花勝見三五郎、三津五郎、遊君手越、町げいしや大和やおせん、半四郎、曾我五郎時宗、氷賣瀧昇の吉、團十郎、上るり清元連中相勤る當座大々當り○夏狂言六月十六日より河原崎座「狹間

合戰」齋藤義龍、壬生村次左衛門、冠十郎、石川村の友市、こま藏、犀ヶ崖の來作、早打中嶋藤太、淺尾友藏、侍女しがらみ、官兵衛妻關路、路之助、石川手下三上の百介、玉淵理金太、善次、三好次郎國長、染五郎、中村の猿之助、市川三助、三好長慶、小次郎、小田春永、早打三郎、足利義てる公、冠之助、來作娘おそま、官兵衛娘千里、あやの臺、菊次郎、蓬萊與六、此下東吉、源之助、「早枝犬淸、傾城芙蓉、菊之丞、竹中官兵衛、石川五右衛門、幸四郎、貳ばん目「伊達浴衣菊染分」百姓ひぬかの八藏、冠十郎、甕塚八平次、友藏、關野屋內げいしや八重吉、路之助、仮宅のごろつき升五郎、善次、笹尾郷介、染五郎、引手茶屋込介、鎌倉平九郎 初め松本仙藏 文政五冬改名 つんぼほゝあおあさ、宗三郎、町かゝへ金太郎、好藏、關の屋女郎花川、虎藏、庄屋官兵衛、小次郎、小間物屋源六實は本田彌惣次、冠之介、關の屋新造いろは、菊次郎、座頭桂政實は伊達與作、源之助、關野や女郎小まん實は定之進娘重の井、同妹じねんじよのおさん、菊之丞、つき馬丹波屋與作實は奴江戸平、幸四郎、大切「御贔負綱女鳴神」佐藤正淸、こま藏、鳴神弟子白雲尼、菊次郎、同黑雲尼、友藏、森尾帶刀、源之助、大友家姫鳴神尼

丘、菊之丞、富本安和太夫、常太夫、齋宮太夫、大和太夫 相勤る○六月廿一日より中村座「嫩軍記」故人團三十郎 十七回忌追善 熊谷と忠度、田五平、三十郎、平山季重と茂次兵衛、門藏、彌陀六、男女藏、玉織姫、辨之助、梶原平二、門十郎、ふじの方、菊太郎、よし經乳母林に雷藏、あつもり、直家、菊之前、さがみ、門之助、六彌太、傳九郎、貳ばん目「江戸仕入團七縞」宿無團七、髮結一寸德兵衛實は玉嶋磯之丞、ところ天賣てん八、三十郎、大鳥佐賀右衛門、門藏、釣舟三婦、男女藏、道具や淸七、雷藏、深川藝者おはつ、團七女房おかぢ、辻君おつゆ、門之助、三川町油屋義平次、傳九郎、大切上るり「道行占花染」三十郎 門之助 常磐津小文字太夫、同造酒太夫、同喜野太夫○七月十四日より「大塔宮」齋藤太郎左衛門、三十郎、右馬頭一子鶴千代尾上岩五郎、八才の宮、歌木、齋藤の孫力若、岩井岩松、三位の局、菊太郎、永井右馬頭、雷藏、同妻花園、門之助、ときわ駿河守、傳九郎、此狂言七月下旬迄興行し舞納たる處門之助卒病にて終る、光陽院新車日流信士 七月廿七日三代目市川門之助行年三十一 藏淺草田甫幸隆寺に印なのこす
大谷馬十六月中團十郎同道にて甲州の芝居にて菅原に時平公、白太夫、春藤玄蕃、松王に海老藏 市川團十郎旅芝居

にては海老藏と云源藏、梅王に富三郎かりや姫と、櫻丸、戸波、紫若なり大切助六に意久助六にゑび藏あげ巻に紫若白酒賣新兵衛に富三郎何れも評判よく七月は下總成田へ又と同道にて右の狂言なす何れも評判よく大當りなりしが夫を此世の舞納として七月廿九日西方の芝居えおもむく、耀谷釋姿賢七月廿九日築地門跡寺中二代目大谷馬十行年五十七才〇八月十日より中村座「音菊高麗戀」(おとにきくいちやうのくせもの)日本駄右衛門實は長崎次郎爲春、荒五郎茂兵衛、幸四郎、逸當娘お才後に若菜屋若草、荒五郎茂兵衛女房おさん、粂三郎、月本圓秋、大經師手代伊之助實は月本始之助、源之助、左門一子鐵之助、ここの藏、佐々木義賢、大經師後家おくら、友藏、五郎娘小磯、路之助、足輕彥內、丹波屋久右衛門、善次、佐々木彈正、醫師八瀨當順、染五郎、玉嶋逸當、同幸兵衛、三十郎、佐々木公達高千代、宗太郎、石塚玄蕃、大經師手代介右衛門、庄屋奎兵衛、小次郎、荏原甚內、講釋師赤松梅藏、門藏、大和田源吾、蟹十郎、唐士姬めのと左枝、下女おはる、菊次郎、鎊間の五作、玉嶋下部五平、下男太介、冠十郎、佐々木息女唐土姬、大經師娘お玉、菊之丞、那伽犀那尊者實は赤松滿祐、座頭德市、□□政安、りやうし天竺德兵衛實は赤松彥二郎、渡部左衛門妻高千代のと五百機、大經師茂兵衛、菊五郎、細川政元、晝とんび喜太郎、傳九郎、貳ばん目上るり「濡袖浮名綻」(ぬれたもとうきなのほころび)冠十郎くめ三郎菊五郎、富本安和太夫同斎宮太夫同大和太夫相勤る〇八月廿二日より市村座「妹脊山」大判司、求馬、ふか七、三津五郎、ゑみじ、家主茂義兵衛四郎五郎事しやばく、秦の益勝、でつち彌太郎、官女櫻の局、富三郎、橋姬、龜三郎、官女萩の局、會呂平、同緣の局、門十郎、同いくよ局、義右衛門、同梅の局、大吉、彌藤次、友藏、玄蕃、八藏、後家おなる金平、お淸所おむら、三津右衛門、官女紅葉の局、仕丁次郎又、甚六、こしもと小萩、おの江、行ぬし、門三郎、めどの方、常世、久我之助、彥三郎、ひな鳥、紫若、さだかとおみわに半四郎、入鹿に團十郎、座頭福市、羽左衛門、貳ばん目「色成田利生組糸」(いろになるたりしやうのくみいと)安野屋十兵衛、三津五郎、糸屋佐右衛門、しやばく、藝者仲吉、龜三郎、九郎兵衛一子万吉、甚吉、大黑屋辻右衛門、三津右衛門、あわしま權兵衛、甚六、平淸女房おゆり、おの江、佐右衛門女房おかや、門三郎、中根屋女房おもと、常世、山住五平太、半五郎、石塚佐七郎、彥三郎、綱五郎女房おふさ、佐右衛門娘小糸、紫若、十兵衛女房小糸、半四郎、本町綱五郎、半時九郎兵衛、團十郎、

小いさみ三五郎、羽左衛門○閏八月五日より大切所作「戻駕色相肩」駕かき車の與四郎、三津五郎、同難波の次郎作團十郎、禿たより、羽左衛門、上るり常磐津連中○九月九日より「双蝶々」濡髪長五郎、三津五郎、手代權九郎、しやばく、笛賣新兵衛、富三郎、傾城なにわづ、龜三郎、野手の三、曾呂平、下駄の市、八藏、有右衛門、尼妙貞、三津右衛門、こうし六兵衛、甚六、引舟外山、おの江、山崎與次兵衛、門三郎、與兵衛母おゆみ、常世、郷右衛門、半五郎、山崎與五郎、彦三郎、ふじやあづま、與兵衛女房おはや、紫若、おせき、半四郎、放駒長吉、南與兵衛、團十郎、大切所作事「復新三組盞」傾城、大山まいり、くわいらいし、三津五郎、唐子、坂東玉三郎、（三津五郎養子にて此時初ぶたいなり）唐子、羽左衛門、上るり清元延壽齋、延壽太夫（剃髪して改名す）同榮壽太夫、同宮路太夫、相勤る長唄松永忠五郎、富士田吉次郎、松永兼五郎、岡本喜八（三弦）杵屋六三郎、同喜三郎、同六太郎、同六之助○九月十三日より中村座「彦山權現」京極内匠後に依塵彈正、幸四郎、おその妹おきく、粂三郎、衣川彌三郎、郡音成、源之助、吉岡三之丞、こま藏、春風藤藏、角力取鮎川、友藏、一味齋妻お幸、路之助、箱崎曾平次、四三の洞八、染五郎、柳川軍八、錦吾、衣川彌三松、市川純藏（幸四郎二男の由初舞臺五六才）毛谷村六介、奴友平、三十郎、奴佐五平、小團次、青侍兵九郎、杣斧右衛門、門藏、一味齋、轟傳五右衛門、かに十郎、衣川彌三左衛門、冠十郎、一味齋娘おその、菊之丞、門脇義平、傳九郎（貳ばん目）「嫗山姥」山賤岸藏、幸四郎、澤潟姫、怪童丸、粂三郎、煙草屋源七實は坂田藏人、源之助、腰元おうた、友藏、同野分、路之助、太田十郎、門藏、源七妹しらきく、菊次郎、萩野屋八重桐、後に足柄山の山うば、菊之丞、大切上るり「母育雪門鶯」（粂三郎菊之丞）幸四郎、富本安和太夫、同齋宮太夫、同大和太夫相勤、顏見世中村座は興行なく○十一月五日より市村座「倭假名平家物語」後藤兵衛尉盛長、際物師源五郎實は纐纈金吾成安、彌平兵衛宗清、三十郎、清盛息女歌綾姫、鎌田娘磯崎、紫若、惡右衛門督信頼、曾根村百姓太郎次、（淺尾）友藏、平家の侍八粟藤內、井出の庄屋五九郎兵衛、三津右衛門、曾根村賤女お市、路之助、左近の佐忠政（冠之助改）嵐德三郎、八丈の局、鎌田政清、門三郎、難波六郎、富三郎、新院藏人長盛、半五郎、盛俊妻さくら井、常世、牛若九、玉三郎、奴鶴平實は惡源太義平、彥三郎、長田太郎景宗、馬士

勘太、修驗者安樂院實は橘七郎近國、冠十郎、曾根村賤女お市實は女熊坂物見のお松、半四郎、鬟小磯實は嚴嶋辨財天の神靈、常盤御前、五條坂長きせるお村實は金吾の女房、菊之丞、平の淸盛、田原又太郎忠綱、三津五郎、齋藤吾國武、羽左衞門、四立目上るり「嚴嶋姿寫繪」菊之丞彦三郎紫若三十郎羽左衞門、宮本連中大切上るり「松月夜仇忍夜」紫若三十郎常磐津連中貳ばん目「姫小松」龜王、三十郎、がけのどう六、市川友藏、所化らんけつ、三津右衞門、次郎九郎、甚六、小督の局、龜三郎、なめらの兵に半五郎、小辨に玉三郎、深山の木藏、彥三郎、有王、冠十郎、お安、半四郎、俊寬、三津五郎〇十一月九日より河原崎座「男山惠源氏」渡邊左衞門五、熊野御ぜん實は崇德院の靈、白峯神靈、八百屋半兵衞實は金子十郎光成、菊五郎、奴折平實は物主藏人、長太郎景宗、源之助、瀧口靱負之介、松助、金剛太郎照門、渡部丁七唱、雷藏改市川男女藏市川男女藏海丸此度名前を雷藏にゆずり俳名海丸をば中村座頭取市川辨藏にゆずり自分は市川辨藏或は惣代と云淨藏貴所、やりてお爪、宗三郎、瀨の尾太郎、門藏、築地の入道淨明、三條右衞門、善次、高倉の宮、市川三之助、鎌田兵衞娘橫笛、仲居お瀧、藤藏、難波六郎、宇治の通人ほたる茶屋あたまのひかる、小次郎、あわの民部妻吳竹、おの江、鎌田正淸、秦の三郎、かに十郎、熊谷御ぜん妹朝貌、丁七妹かほる、菊次郎、武藏左衞門、玄やばく、奴升平實は澁谷金王丸、住吉踊の願人ぎん南、こま藏、女肴賣待宵お十、袈裟御ぜん、らくたわらや常盤木實は牛若丸、辨財天神靈、八百屋半兵衞女房半四郎おちよ、粂三郎、長田忠宗、雷門ごろ付源四郎實は惡源太義平、熊坂長範、平淸盛、橋場長兵衞信連、幸四郎、遠藤武者盛遠後に文覺法師、平宗盛、らくだわらや又太郎實は彌平兵衞宗淸、稻野屋半兵衞實は澁谷五郎正宗、鎮西八郎爲朝、團十郎、四立目上るり「布びゐき瀧の色糸」菊五郎、花助、粂三郎、源之助、菊次郎、團十郎淸元延壽齋、同榮壽太夫、同佐賀太夫、貳ばん目上るり「緋花も梅升」菊五郎こま藏團十郎淸元連中相勤む此顏見世團十郎、菊五郎、粂三郎大もめにて役者付三度彫り直しやうやくにきまる古今稀なる事なり、翌春は此役者にて中村座興行なり〇十二月十七日鶴屋南北の趣向にて書付を所々に配る商人の引札の如く或は日本橋通り又は淺草の市にて諸人に與へしとも云ふ其書付左に記す

建久年中双子の兄弟養父敵討の次第

扨も養安の頃河津の三郎京在ばんのみぎり風折と

いへる白拍子になしみ女懐にんして男子ふたりの子を産すなはち京の次郎一人を三郎と呼世の人の口の葉にかゝるをなげき双子ふたりを他家へ養子にやりけるに一人はかまくらの武士本庄助太夫へ遣しせいじんの後は倅の權三とよび今一人は白井兵右衞といへる同家中へ遣しける今白井權八と呼ゑかるに兩家の養父ねいかんの者にしてとのを失んとはかるをふた子の兄弟これを知て兩家の親も養父を討れ兩人の者義に依て兄弟敵同士と成るしかるに其頃十內といへる侍心よからぬものにて助太夫兵左衞門へ惡事を進めしも此十內なり其上双子母風折を討て立退き養父二人りも金比羅の大權現の利生によつて存命にてありけるが双子の兄弟敵討のぎねんもはれたれども母の敵十內東海道藤澤の間四ッ谷村に石井屋といへる家にたばこ切となり至りしを兄弟の者足袋の職人となつて敵十內をしゆびよく討事まつたく金比羅の御利やく曾我兄弟にもおとらぬ權三權八が孝心の敵討殊には神の告御利益の程ありがたく古今珍らしき象頭山御利生の次第の敵討の次第評判〳〵右の書付來春狂言の趣向也といへり南北の新手殊に此類なり或は顏見せの趣向を九月舞納に富に突て見物に見せ春きやうげんの大旨を吹聽する類ひ每年此の如く

其妙手新作かぞふるに暇あらず

當年上方にて八月廿二日 淺尾工左衛門十月七日 三桝大五郎死す

◎文政八乙酉年

○春市村座「皐富士曾我初夢」鬼王、千葉の家中高市數右衛門、男達はんじ物喜兵衛、三十郎、月さよ、せう〳〵、畑右衛門娘おしづ、紫若、閑坊、近江の妹宇佐美、うわばみばゝあお金、友藏、大藤內、煙草屋三九郎、三津右衛門、茨左衛門妹松ヶ枝、畑右衛門下女おはま、路之助、百足や手代銀八、曾呂平、小藤太家來運平、梶原景季妹あねは、門十郎、同平二妹醒ヶ井、義右衛門、大江の若殿力太郎、甚吉、狩野之介、梅澤屋手代嘉助、五郎市、大磯屋傳三、大江の奧家老小山九郎太夫、甚六、小柴の中間ぶる介、大吉、安達家中小柴掃頭、鎌倉屋仁右衛門、門三郎、大姫君、仲町藤藏かゝへおゆき、龜三郎、伊豆の次郎、水濱彌源次、富三郎、八わた妹久須美、小田原や女房おかる、常世、千葉家中入江友之進、半六郎、禿千鳥、雪の下大和屋お玉、玉三郎、時宗、團三郎、梅澤屋小五郎兵衛、彥三郎、近江小藤太、同小彌太、入江仲間瀨助後に箱根の畑右衛門、冠十郎、梛の葉、仁右衛門娘大江の奧女中瀧川、半四郎、大磯のとら、かもん娘小さん、菊之丞、すけ經、朝比奈、小紫若徒五郎八、後に黑船町道具屋忠右衛門後に男達獄門庄兵衛、三津五郎、せんじ坊、小いさみはんじ物喜太郎、羽左衛門、大づめ上るり「寄罠娼釣髭」菊之丞、紫若、玉三郎、三津五郎常磐津連中相勤る ○正月廿日より 中村座「御國入曾我中村」祐成、白井權八後に傾城小紫、あかね足袋半七、菊五郎、團三郎鬼王替りの役なり本庄下部介市後に絹屋彌市、源之助、せんじ坊、仲の町二葉屋扇吉、松助、八わた、平右衛門女房おかや、男女藏、河津の後家風折、三浦屋女房おしづ、藤藏、大江の家中白井兵左衛門、宗三郎、梶原景季、しちや今市屋善右衛門、門藏、鬼王新左衛門、判人善六、善次、三浦屋若者甚兵衛、赤羽根伴作、染五郎、半七娘お通、萩野藤十郎伊三郎子なり大江島五郎櫻川善孝、好藏、月さよ、岩淵久內、小次郎、女髮結おろく、本庄妣お勝、おの江、仲の町みのや妻おくら、かに十郎、團三郎女房十六夜、權八妹お才後に三浦屋新造勝山、菊次郎、大藤內後に小藤太、大江家中本庄介太夫、あかね足袋や平右衛門、しやばく、禿千鳥實は御所五郎丸、こま藏、舞鶴、介太夫娘八重梅、半七

女房三日月おさよ後に藝者三勝、茜屋たびや妻おその、粂三郎、祐經、赤澤十内後に醫者寺西閑心、非人宵寢の仁助後に唐犬權兵衞實は有竹丹助、幡隨長兵衞、幸四郎、五郎時宗、笹野權三、茜足袋屋聟長九郎、團十郎、朝日奈、本所中の鄉の介八、傳九郎、五立目上るり「蝶羽風梅誓」菊五郎、こま藏、傳九郎、粂三郎、團十郎、常磐津小文字太夫、同和歌太夫、同喜野太夫貳ばん目上るり「袖浦淚春雨」粂三郎源之助菊五郎清元延壽齋相勤る○三月九日より「其噂櫻色時」井筒屋傳兵衞、菊五郎、船頭長吉、こま藏、お俊姉おとく、おの江、げいしやおしゆん、粂三郎、關取白藤源太、團十郎、上るり清元連中○四月二日より「紋盡五人男」極印千右衞門實は眞間田甚三、菊五郎、案の平右衞門實は里見主水、源之助、里見長狹之介松助、市右衞門女房おふじ、藤藏、田川喜惣兵衞、宗三郎、大坂の立衆白舟長兵衞、門藏、非人傳八、善次、山川屋手代權右衞門、粂五郎、同平介、平九郎、醫者妙奈道庵、小次郎、お乳の人岩崎、おの江、遠藤曾平太、蟹十郎、里見の息女淸川、菊次郎、宅間玄龍、しやばく、山川屋でつち幸吉、こま藏、雁金文七實は結城友之助、千右衞門妹お高、粂三郎、布袋市右衞門實は進藤德次郎、幸四郎、雷庄九郎實は小見川傳藏、野田角右衞門、團十郎、非人九介、傳九郎○三月五日より市村座「物ぐさ太郎」山三下部岡平、金魚屋金八、三十郎、利久娘早枝、紫若、同妻しがらみ、常世、長谷部雲谷、友藏、座頭かす市三津右衞門、歌之助妹撫子、路之助、庄屋次郎作、甚六、金八女房おみや、龜三郎、福原左近之進、門三郎、佐々木彈正定賴、富三郎、猪熊門兵衞、半五郎、金八娘小みつ、玉三郎、狩野歌之介、名古屋山三、彥三郎、石づか玄蕃、冠十郎、御國御ぜん、山三妻かつらき、菊之丞、不破伴左衞門、物草太郎、三津五郎、名古屋小山三、羽左衞門、貳ばん目「仕掛袖浮名替紋」桔梗屋甚三郎、三十郎、奥女中袖岡、紫若、尾濱屋女房おさき、常世、らうのすげかへ長八、友藏、梁田傳藏、三津右衞門、女髮結おかん、路之助、半兵衞娘おつゆ、甚吉、肝煎婆おとり、甚六、小山の家老福原主水、門三郎、稻の谷娘おりつ、龜三郎、高崎新十郎、半兵衞下部友介、富三郎、修げん岩淵法印、半五郎、餝屋娘おかね、玉三郎、主水弟山田左市、彥三郎、笹岡甚右衞門、冠十郎、時雨ヶ岡妙貞尼、仲町羽おり藝者小ひな、植木屋娘おあひ、半四郎、尾花屋娘分おつ

や、女太夫おみね、菊之丞、出石次郎右衞門、小山家中、稻の谷半兵衞、手代たら福孫三、三津五郎、大切上るり「花既仇嵐夜」菊之丞半四郎三津五郎常磐津連中相勤る

○三月廿五日より河原崎座「忠臣藏」勘平、となせ、岡嶋八十右衞門、石堂、下り嵐雛助若狹之助、云お石、おその、里好、力彌、圓之助、伴内、文吾、勘左衞門、與茂七、坂東又次郎、九太夫と下女おりん、狸角兵衞、嵐此五郎、師直に由良之助男女藏改男女藏、よし松、尾上音吉、與一兵衞、鄉右衞門、彥助、小浪に瀨川菊茂、彌五郎、了竹、山名、あら木照五郎、數右衞門、つばくら宗舟、魚樂、かほよとかほる、菊太郎、桃の井に堀越八十兵衞、義平、伊三郎、判官、定九郎、おかる母、伊吾、平右衞門、本藏、男女藏、此狂言大坂下り大道具の棟梁長谷川勘兵衞工夫の仕かけ幕なしに二一歌舞妓とあやつり、、と幕の内に一かざりわけ古今珍らしき仕組なり五月頃迄興行し又々甲洲にて其幕興行し大ひやうばん也

○五月五日より市村座「千本櫻」權太に友もり、三十郎、卿の君と小金吾、紫若、梶原に友藏、大之進と馬士六藏、三津右衞門、あすか、路之助土佐坊に曾呂平、逸見藤太、門十郎、權太一子善太郎、安德天皇、甚吉、六代御前、岩井松太郎、駿河次郎、市川友藏、龜井六郎、八藏、入江の丹藏、甚六、川連法眼、お辻門三郎、若葉の內侍、富三郎、相模五郎に富三郎、辨慶に半五郎、小せんに常世、賤の子おちよぼ、玉三郎、義經に彥三郎、彌左衞門に冠十郎、おさとに半四郎、しづか菊之丞、川越太郎、忠信、源九郎狐、彌助、すけの局、三津五郎、賤の子太郎松、彌左衞門、上るり「新曲初音旅」菊之丞、玉三郎、三津右衞門、三津五郎彌左衞門、常磐津連中

○五月九日より中村座「初冠曾我皐月富士根」宇佐美尾上之助、幼名曾我の禪司坊、十郎祐成、菊五郎、鐘持實介實は鬼柳新平倅、滿江御せん、仁田四郎忠常、源之助、若徒小源次、松助、政子御前、藤藏、仲間雁助、宗三郎、眞虫の仁太郎、門藏、鬼王と鐘持傳六、善次、加藤光貞、足輕畑右衞門、染五郎、宇田五郎、平九郎、尾上之介一子祐太郎、萩野藤十郎、所化閑坊、好藏、梅澤や長太、長門郎、愛甲三郎、錦吾、吉良惟貞、草履取權藏、半十郎、梅澤や小平次、虎藏、奥女中岬、おの江、鬼柳新平、劍澤彈正、かに十郎、尾上之介妻二の宮、菊次郎、針の灸庵、しやばく、賴家公、こま藏、大礒とら、梅澤や下女おその實は伊太八言號近江小藤太娘なり時次郎女房浦里、粂三郎、岩藤蕃之丞、曾我太郎左衞門祐信、御所

の五郎丸、幸四郎、尾上之介下部初平後に尾上伊太八、鶴賀時次郎、曾我五郎時宗、團十郎、牛島主税、傳九郎、是鏡山を立役にしたる仕組なり、大詰曾我兄弟十番切の場大できなり（大切）「勝三人色の地走」曾我祭りの模様獅子、てこまひ、げい子、女形大勢、早乙女の手踊、こま藏、勘藏、し、頭の踊り、清元延壽齋連中上るりにて團十郎、日本武の尊（後に祭りの世話人本町綱五郎）菊五郎、龍神（後に祭りの世話人おまつり佐七）粂三郎、天女（後に祭りねり子三日月おせん）三人出しの人形のみへにておし出しすこしふり有て引ぬきにて皆々祭りねり子はたぬきの形になり所作事大切立役大勢雀踊大できなり　○清元延壽齋不慮の事にて五月廿六日の夜没す、妙聲院誓音日延信士行年四十九才

延壽齋住居本石町三丁目新道の宅へ歸らんと弟子一人召連來るに乘物町邊にて何者共知れず脇腹を鋭利の刄物を以て突かれたり夫より和國橋邊まで歩行たれども急處のいたでなれば駕に乘りて家に歸り間もなく息たへたり其後いろ／＼御詮議ありけれども何者といふことつひにしれずといへり

○六月十六日より夏狂言河原崎座「布引瀧」瀬の尾に幸四郎、鎌田次郎、こま藏、九良介妻小よし、宗三郎、難波の六郎、門藏、重盛、好藏、太郎吉、（市川）勝次郎、葵御ぜん、おの江、九郎介、しやばく、小まん、紫若、實盛、團十郎、（大詰所作）「和事色世話」團扇賣、幸四郎、扇賣、紫若土手道哲に團十郎、上るり常磐津連中相勤る（貳ばん目）「五大力戀緘」三五兵衞に幸四郎、船頭吉、こま藏、花屋女房おみよ、おの江、出石宅左衞門、宗三郎、家主德右衞門、門藏、下部土手平、粂五郎、伴右衞門、平九郎、千嶋千太郎、櫻川善好、好藏、粂本娘分お増、（市川）三之助、若徒八右衞門、富三郎、廻しの彌助、しやばく、藝者小萬、紫若、源五兵衞、團十郎○七月十七日より市村座「一の谷」岡部の六彌太、三十郎、あつもり、直家、菊の前、紫若、田五平、友藏、庄屋孫作、三津右衞門、石屋下女おいわに路之助、玄蕃に曾呂平、梶原に門十郎、八足廻し茂次兵衞、甚六、乳母はやし、門三郎、玉おり姬、小雪、龜三郎、越中の盛次、富三郎、平山季重に半五郎、ふじの方に常世、義經に彥三郎、みだ六、冠十郎、さがみ、菊之丞、熊谷と忠のり、三津五郎、監物太郎賴方、羽左衞門、（貳ばん目）「增補重井筒」德兵衞兄重井筒長右衞門、三十郎、德兵衞一子小市郎（坂東）三八、三津

五郎の子初め三田八と云 仲居おとき、路之助、紺屋でつち三太郎、富三郎、おたつ親吉文字屋宗徳、冠十郎、徳兵衛女房おたつ、長右衛門、女房おみき、半四郎、げい子重井筒のおふさ、菊之丞、京紺屋徳兵衛、三津五郎大切上るり「道行浮名の朧染(みちゆきうきなのおぼろぞめ)」おふさと矢取娘おはや、菊之丞、惣嫁小ぎん、紫若、徳兵衛と按摩城賀、三津五郎、常磐津造酒太夫、同乘太夫、同鳴戸太夫勤る○八月十九日より弐ばん目「仕入物連理帶屋(しいれものれんりのおびや)」惣嫁小ぎん、紫若、針の宗兵衛、半五郎、おはん母おかや、常世、香具屋才二郎、足輕段助、彦三郎、片岡幸之進、同幸左衛門、冠十郎、信濃屋娘おはん、藝子雪野、半四郎、長右衛門女房おきぬ、矢取娘おはや、菊之丞、おびや長右衛門、座頭城賀、三津五郎、大切上るり「桂川色水上(かつらがはいろのみなかみ)」菊之丞、半四郎、紫若、三津五郎、常磐津連中相勤る○七月廿七日より中村座尾上菊五郎筑紫大宰府へ參詣に付名殘狂言二日替り初日は忠臣藏大序より六段目迄、二番目怪談三幕、後日は忠臣藏七段目より敵討迄、二ばん目怪談跡まく三幕なり「忠臣藏」由良之介、勘平、となせ、菊五郎、おかる母と平右衛門、源之助、力彌に松助、仲居おなつ、藤藏、せげん源七、太田了竹、宗三郎、伴内に門藏、狸の角兵衛に善次、山名に染五郎、小なみに三之助、よし松に藤十郎、十太郎に好藏、種ケしまの六、長四郎、喜多八とたいこ持車立に錦吾、小寺十内に半十郎、めつほう彌八、虎藏、與一兵衛に小次郎、仲居おいの、おの江、數右衛門にかに十郎、かほよ、仲居おみちに菊次郎九太夫に玄やばく、おかるとお石、おその、粂三郎、高師直、本藏、定九郎、鄕右衛門、幸四郎、若狹の介、石堂、彌五郎、義平文吾、團十郎、直よし公、一もんじや才兵衛、伊吾、傳九郎、弐ばん目「東海道四谷怪談(とうかいだうよつやくわいだん)」小間物屋與七實は鹽谷の浪人佐藤與茂七、伊右衛門妻お岩、中間小佛小平、菊五郎、小鹽田又之丞、源之助、奥田庄三郎、松助、伊藤後家お弓、藤藏、高野家中伊藤喜平、孫兵衛女房お熊、宗三郎、あんま宅悦、伊右衛門親鹽谷浪人新藤源四郎、門藏、浪人秋山長兵衛、善次、同關口官藏、藥賣五文藤八、染五郎、中間伴介、手代飛助、醫者市ヶ谷尾扇、庵主淨念、尾上扇藏、小平悴次郎吉、藤十郎、民谷一子伊之介、尾上鏡助梅幸の次男也伊藤娘お梅、岩井春次、宅悦女房おいろ、長四郎、水茶屋おまき、半十郎、乳母おまき、おの江、お岩親四ッ谷左門、蟹十郎、小平女房おはな、菊次郎、小平親佛孫兵衛、玄や

ばく、お岩妹やうじみせおもん實は與茂七妻お袖、粂三郎、藤八五文藥賣直介後に鰻ほり權兵衛、幸四郎、鹽谷家浪人民谷伊右衛門、團十郎、赤垣傳藏、傳九郎、何れも、大でき大當り大評判にて九月十五日迄興行

○九月廿日より**市村座**「時討御未刻太皷」船越九八郎、三十郎、同妻おさご、實右衛門妹小ゆき、紫若、おさご兄生馬の眼九郎、かけ川林平、友藏、畑の五平太、桔梗屋文右衛門、三津右衛門、水茶屋おふで、上尾宿げいしや三ッ八、路之助、越後屋彌左衛門、若徒小道小山三、甚六、磯具兵左衛門、門三郎、桔梗屋下女おかね、龜三郎、兵左衛門家來桂三五七、富三郎、横田丹兵衛、雲助矢はづの仁三、半五郎、入江の奥方さゝ波御せん、桔梗屋女房お才、常世、おさご妹おいと、玉三郎、磯具下部三平、彥三郎、嶋川太兵衛、九八郎母早瀨、友藏親作兵衛、冠十郎、宿場女郎氣まぐれおさか、千々村要人妻賤機、半四郎、實右衛門女房渚、嘉七女房お北、菊之丞、千々村要人、磯具下部友藏後に髮結嘉七、磯具實右衛門、三津五郎、同藤助、羽左衛門

○九月廿一日より**河原崎座**「菅原利生好文梅」百姓白太夫、左中辨まれ世、土師の兵衛、玄やばく、舍人梅王、判官代照國、松助、花園御せん、後室かくじゆ、藤藏、くりから太郎、船頭灘六、錦吾、同沖藏、三好の清貫、（尾上）梅五郎、にせ迎ひ彌藤次、扇藏、かりや姫、大藏、齋世親王、娍かつの、（市川）秀次郎、局みなせ、安樂寺住僧、の助、菅秀才、藤十郎、宿禰太郎、わし塚平馬、門藏、春藤玄蕃、かに十郎、竜田のまへ、戸波、八重、菊次郎、菅丞相、源藏、さくら丸、菊五郎、（武ばん日）「舞扇榮松稚」淺草寺の所化法界坊後に仁王仁右衛門、松井の源吾貞景、玄やばく、ごろつき雷の門吉實は熊谷彌惣勝春、松助、寺小姓花形宮戸之介實は吉田梅若丸、藤藏、仲間駒形堂六、錦吾、猿しまや惣太、門藏、山田の三郎、かに十郎、惣太娘片葉のおよし實は入間の息女安達姫、菊次郎、伊勢參り權五郎、吉田家の娍庵崎後に惟貞御臺牛の御せん、幸崎甚內實は吉田の松若丸、菊五郎、

御名殘口上

御町中樣益御機嫌克被遊御座恐悅至極に奉存候隨而私芝居來顏見世ヨリ打續興行仕候樣日頃信仰仕候龜戸天滿宮に去ル八月廿五日御祭禮當日參詣仕下向之砌御社內にて古き反古風に吹散候取上げ披

見仕候處去る延享年中私祖々父の座にて仕候天神記操狂言役割番附に候間直樣持歸り掛合一流え申聞候得者是全聖廟之御利益と心魂にてつし難有仕合に奉存候然る處此節尾上菊五郎太宰府え參詣に罷越候に付外座にても御名殘仕右興行首尾能相勤候上尙此方座にても各々樣方え御名殘仕候樣相賴可申と菊五郎方え申入候處菊五郎義も兼々奉信仰候御神の靈夢にひとしく難有義には候得共兩座にて御名殘狂言相勤候儀各々樣方思召之程も如何と辭退仕候を再三相賴漸く納得仕候に付幸ひ手に入候番付を神の造と崇則菅原傳授を第一番目と仕細工人長谷川勘兵衛工夫仕置候式三番叟より珍らしきからくり仕立の大道具幕なしに仕第貳ばん目は古めかしくも菊五郎新工夫の怪談事鶴屋南北愚作の世話狂言筑紫參詣之役者共斗打寄出勤仕候日數十五日間御名殘狂言仕候尤短日の砌朝五ッ時三番より菊五郎始め座中不殘罷出相勤申候且又御利益之昔番附は細やかなる品に候間則寫し表看板に仕奉入御覽候何卒芝居御取立と思召初日より賑々敷御見物に御來駕之程ひとへに〳〵奉希候以上

○九月二十六日より　座元　かわらさきごんのすけ

「時桔梗小田豊作」武智光秀、幸四郎、小谷の局、藤藏、宅間左衛門、染五郎、山口九郎次郎、平九郎、本能寺日和上人、川藏、福富平馬、澤村東藏、光秀妹みの浦、三之助、武智十次郎、歌木、矢代條助、勘藏、長尾彌太郎、武智郎等好藏、堂守西念坊、長四郎、淺山多惣、半十郎、庄屋茂作、虎藏、諏訪飛彈之介、小次郎、蘭生局、おの江、佐藤正淸、ここの藏、森蘭丸、眞柴久吉、源之助、光秀妻さつき、粂三郎、小田春永、團十郎、安田作兵衛、傳九郎、貳ばん目「盟三五大切」浪人薩摩源五兵衛實は鹽谷浪人不破數右衛門、家主べゝり廻しの彌介實は民谷下部土手平、幸四郎、藝者きくの、藤藏、勝右衛門伯父富森助右衛門、勝右衛門家來德右衛門、同心了心、宗三郎、ごろつき五平、善次、高の家中賤ヶ谷伴右衛門、染五郎、里親かゝめおくろ、平九郎、夜番人太郎七、手代飛助、男げいしやきさ吉、長四郎、廻し藤八、半十郎、十二間のよくばり虎藏、高の家中出石宅兵衛、小次郎、源五兵衛家來六七八右衛門、源之助、げいしや妲妃の小まん實は彌助妹お六、粂三郎、船頭笹の屋三五郎實は德右衛門忰千太郎、團

十郎、ごろつきお先伊之助、傳九郎、（大切夜討の場四十七人の義士高野家來と入亂れ大だて有て道具廻ると向一面海にて波まく浮畫にて佃島等を遠く見せてすべて高縄濱のけしき前に苫をかけたる舟あり大薩摩にて苫を切ておとす團十郎義士のなり大高源吾にて師直の首をかゝへ居るみへよくせりふ有て上の方より義士大ぜいてうちんを持出て來りみへよく居並び先今日は是切と云一体此狂言七月狂言より忠臣藏同二ばん目四ッ谷怪談より續きたる趣向近年になきおもしろき作なれども入かひなく十月十四日舞納なり）〇顔見せ（兩座とも霜月朔日より河原崎座は休なり）中村座「鬼若根元臺」祭り世話役金五郎實は宇野七郎實は崇德新院の靈、筆學指南石山民部實は彌平兵衛宗清、鏡の宿眞木の安六實は惡源太義平、日野屋淸兵衛實は越中前司盛俊、三十郎、大工次郎九郎實は宇津美藤內、瀨の尾太郎兼康、熊坂手下女非人鬼面のお辻實は長田後家內海、ゑやばく、丹波少將成經、安六女房小ふじ、小督の局、藤藏、岩倉大納有景、女非人お捨、門藏鬼一娘皆鶴、三之助、兼康郎黨筑島嘉藤太、鏡の宿女郎屋長九郎、家主佐四郎、（善次改）彦左衛門、熊坂手下來現、庵崎の百姓久作、甚六、北白川の岩千代丸、熊坂手下壬生の小猿、油屋手代善六、（下り）三桝森藏、辨ゑんの後室汀の前、おの江、平判官康頼、晒屋次郎八、平少納言時忠公、熊坂手下□□（市川宗三郎改）成田屋宗兵衛、小松の重盛、丹左衛門尉基康、主馬判官盛久、麻生の松若實は俊寛郎黨龜王丸、兵衛佐頼朝、源之助、祭りてこまひぎおんのお梶、鬼界島の蜑千鳥、御曹子牛若丸、油屋娘お染、紫若、祭りてこまひ近江のおかね實は朝顏姫、次郎九郎孫おまつ實は宗清娘繪合、鏡の宿女郎染川後に喜兵衛女房お六實は長田の娘なる、赤坂の遊君靑墓實は俊寛娘德壽のまへ、油屋でつち久松、粂三郎、叡山の兒鬼若丸後に武藏坊辨慶、成田山不動明王の靈像、俊寛僧都實は郎黨有王丸後に熊坂太郎長範、小屋かしら鬼門喜兵衛實は江田源三廣綱、三谷の猿廻し桃太、團十郎、わつはの菊王丸、熊坂手下三國の九郎、傳九郎、（三度目上るり）「攝よせて色中綱」（三十郎、紫若、傳九郎、源之助、くめ三、團十郎）常磐津造酒太夫（鳴戸太夫改）同政太夫相勤る弐ばんめ序まく「道行浮瑠鷗」（紫若、くめ三）團十郎淸元榮壽太夫、同十五路太夫、同政太夫、相勤る市村座「東內裡劇場正月」秀鄕妻眞弓御ぜん、岩井御殿の上臈七綾、小梅村家主女房およつ實は硫球の黑安女、半四郎、修行者念佛六介實は藤原忠文、奴時內實は大芦原四郎將軍、冠十郎、貞世一子奥丸、三八、本所寺味淋和尚、偸賣かやの丹六、（淺尾友藏）小原女小いそ實はちはる姬、かしづき照葉、雇女おやま、路之助、千日行者曉山實は岩淵

刑部、伊賀壽次郎、金貸五市、牛五郎、藪醫富の出番、足輕横淵雲平、春米屋大八、三津右衛門、八十島庄司、眞壁の十郎、門三郎、許六妹小ゆき、水茶屋おくら、龜三郎、右衛門之介忠之、百姓荻介實は梁田次郎常俊、富三郎、千晴姫かしづき呉竹、常世、秀郷息女千晴姫、玉三郎、將軍太郎吉門、こま藏、上平太貞盛、大庄屋下男うつかり許六、瓦師梅ぼりの仁太、彦三郎、初めて名題平親王將門、仕丁五郎又實は伊賀壽太郎、沼田彌六兵衛、看貢虎鰒のてう、三田の仕、幸四郎、彌六兵衛娘みかみ、仲平卿の息女錦の前實は鷺の森小女郎狐、岩井御てんの女房濱萩、田原町のげいしやお百實は百足姫、菊之丞、六孫王經基、仕丁次郎又實は鳥森の万作狐、彌六兵衛妻高根、鬼塚兵庫之介、鳥越の仕事師米かみ彌藏、田原町のつき米や手間取秀介實は田原藤太秀郷、三津五郎、奴袖平實は進の小太郎、羽左衛門四立目上るり「顔佩色夕映(かほもみぢいろのゆふばえ)」は〔幸四郎、菊之丞、彦三郎、三津五郎〕羽左衛門、富本午之助、此時出語り、人形町かつら屋子なり同安和太夫、同齋宮太夫、同常太夫、同大和太夫相勤る四立目三津五郎菊之丞兩人にて雪のたて大でき大評判なり十二月十九日夜四時頃葺屋町結城座樂屋より出火にて中むら市村大薩摩三座とも類燒す

◉文政九丙戌年

○二月五日より河原崎座「三升曾我顔見世(みつかれてそがのかほみせ)」盜賊張本日本馱右衛門すけ經、朝日奈下り片岡仁左衛門此朝日奈の狂言我童のお留にて先年下りし時市村座にても勤む文化十四年三月也小藤太、仁田四郎、馬士喜藏、下り市川露藏、曾我の祐信、白木や後家おゝま、りうし、閑坊丈八、宗兵衛、赤澤十内下り嵐七五郎、久次美彌藤次鶴岡改市川八藏、下部松平、宗三郎、長吉娘おはん、下り片岡島丸、けいせい喜瀬川かめぎく、實は三浦の二の宮、三之助、海野次郎、黒塚伴藏下り片岡松助、のり頼、中野郷太下り片岡我十郎、りうし波八、醫者幸庵、舞鶴屋傳三、曾呂平、百足や金兵衛下り津打門三郎、住寺岩本院、の助、けいせい手越の少將、曾我の片貝、下り片岡松太郎、鬼王と城木屋養子才三郎、後に大坂下り娘形花笠才三郎、海野太郎下り桐山紋次、工藤息女大姫、大藤内娘乙女實は義經息女下り嵐龜之丞、團三郎、女房月さよ、大藤内妻榊、喜藏女房おこま下り嵐かのふ、祐なり、まん江、工藤家中鹿間三平下り小川吉太郎、まい鶴姫、菊之丞、祐成實は團三郎後に家根小僧繩ぬけ長吉、五郎時宗、大藤内成景實は備前平四郎、團十郎、五立目上るり「廓(さと)

花君名札」かのふ團十郎常磐津連中大切上るり「春雨思涙橋」仁左衛門龜之丞團十郎、豊竹富士太夫連中、清元連中にてかけ合に相勤る大切「嫗山姥」八重桐、菊之丞、太田の十郎、津打門三郎、澤潟姫、三之助、源七妹白菊、松太郎、妼おうた、紋治、烟草屋源七實は坂田藏人時行、團十郎、○三月十一日より「花雨濡嫁入」稻の谷半太夫、伊丹覺左衛門、仁左衛門、田宮仁右衛門、鶴藏、近藤沼五郎、七五郎、關口官藏、八藏、山口曾平、宗兵衛、庄屋杢兵衛に紋治、覺左衛門娘小いな、龜之丞、稻の谷半兵衛、團十郎、壹番目貳番目の間へ所作事「拙俳優三升」景清、いさみ商人、おたか、團十郎、上るり常磐津連中、清元連中、長唄岡安喜八三絃杵屋作十郎相勤る

此狂言は文化六巳年四月市村座にて靈驗曾我籬第三ばん目坂東彦三郎、澤村源之介、澤村田之助、市川宗三郎、花井才三郎、嵐新平抔相勤大當り其後文政五年四月又々市村座にて市川團十郎、市川門之助、澤村四郎五郎、市川雷藏、大谷馬十、淺尾友藏にて相勤る

○三月七日より普請出來に付中村座「樓門五三桐」此村大江之介、眞柴久吉、三十郎、早川高景、源之助、室住幸税スケこま藏、眞柴久秋、藤藏、蛇骨ばゞあ、門藏、瀧川左近岩井喜代太郎、篠井熊太郎スケ染五郎、たいこ持喜作、長四郎、傾城花橋、春次、奴□□下り市川惣十郎初中山百次郎米藏と改團藏門人と成惣十郎改める文政八評判記に見ゆ篠井春慶、甚六、岸田兵衛妻櫻戸、おの江、奴矢田平しやばく、傾せい九重、紫若、大江之介女房呉竹、五右衛門女房おりつ、久吉奥方蘭生方、粂三郎、久次と石川五右衛門スケ幸四郎、小西彌十郎、傳九郎、弐ばん目「初櫓彌生壽」仁田忠常、白酒うり新兵衛、三十郎、赤澤十内、源之助、海老名軍藏下り中村芝綠、高島屋女房おせき、藤藏、釜屋武兵衛、門藏、宇佐美久次平、半十郎、大澤團右衛門、川藏、家主杢六兵衛、彦左衛門、長沼六郎、甚六、岡宿妙念、八百やでつち五介、森藏、八百や後家おたけ、おの江、べに屋長兵衛、しやばく、下女おすぎ、小性吉三郎、紫若、お七、粂三郎、土左衛門傳吉、幸四郎、赤澤十作、五尺染五郎、傳九郎、三まく目上るり「雛對夢白酒」三十郎紫若粂三郎常磐津連中大切上るり「道行手向の花曇」粂三郎、清元榮壽太夫相勤る四月三日より市川團十郎出勤にて眞柴久吉と土左衛門傳吉と二役勤る ○四月五日より「花川戸三代男達」二幕幡隨長兵衛、團十郎、本

庄若徒介八、三十郎、長兵衛弟輔親の千太郎こま藏、男達早桶勘助、染五郎、三浦屋若者喜八、半十郎、せげん源七、歌助、飛脚早飛足介、歌十、長兵衛一子長松、中村歌木、家主六兵衛、長四郎、絹賣彌市、八藏、男達提婆の仁三、惣十郎、雲齋、喜代太郎、千代飛助、宗三郎、彦左衛門、森藏、其外大勢羈權兵衛、宗兵衛、小紫に紫若、白井權八、長兵衛女房おちか、粂三郎、寺西閑心、幸四郎○三月廿一日より普請出來に付市村座「江戸仕入雛行列」大姫君、召使おはつ、半四郎、牛島軍次兵衛、淺尾友藏、奥女中、踏之助、團之助、菊太郎、龜三郎、常世、其外大せい、法印奇妙院關三平、奴吉内坂東杢藏、望月大膳、半五郎、奥女中坂東吉次郎、大島義右衛門、桐嶋た顏見世より改め虎藏、門十郎市川友藏、三津右衛門、奴伊達平、富三郎、女小性こてふ、玉三郎、浮橋もとめ、彥三郎、中老尾上、菊之丞、局岩ぶぢ、三津五郎、浮はしかなめ、羽左衛門貳ばん目「富岡戀山開」玉屋娘おゑん、半四郎、鵜飼九十郎、冠十郎、手代三四郎、淺尾友藏、水茶屋おむめ、松本女房おせん、踏之助、耳切ばゞあ、虎藏、みせ物師桃九郎、大吉、三國屋才兵衛坂東秀之助、どぶ六のたゞ六、坂東新作、呑の蛇之助、吉次郎、栞の藤兵衛、半五郎、でつち勘太、勘藏、下女お竹、菊太郎、船頭三ぶ、三津右衛門、玉屋新右衛門、門三郎、氏原勇藏、富三郎、産毛の金太郎、彥三郎、出村新兵衛、幸四郎、小女郎に菊之丞、玉屋新兵衛、三津五郎○五月七日より中村座「藤川船艤話」袖介妹おまつ半四郎、石井下部袖介、三十郎、石井源之丞、古鐵買藤介實は石井家來中野藤助、源之助、馬士大六、芝緣、右內妻おらい、大六娘お才、藤藏、卜庵妻早苗、すね切眼六、門藏、香川帶刀、浪人北向の桶直、喜代太郎、浪人割下水のこけ安、染五郎、小座頭林彌、歌木、名越の若殿淺次郎、關三太郎、湯女お瀧、矢場女お弓、三之助、庄屋茂次兵衛、長四郎、所化つう門門三郎、名越時次郎、人足箱根の權、八藏、菊川良介、惣十郎、地藏院庵主西入、輕業綱熊右衛門、彥左衛門、石井仲間佛作助、甚六、大野武太夫、家主くる右衛門、森藏、石井右內、宗兵衛、名越の後室篠原、おの江、藤田卜庵、しやばく、帶刀娘おとき、紫若、右內娘藤川、藤助妹輕業師小さん、粂三郎、藤川水右衛門後に赤堀源吾力持金五郎、關十郎、藤川下部九介、傳九郎○五月九日より市村座壹番目は鏡山を殘し置て貳ばん目「縫直紫頭巾」男達

梅の由兵衞實は畫鳶長吉小僧、幸四郎、百姓どぶの六右衞門、冠十郎、やりておつや、淺尾友藏、額俵屋淸左衞門、半五郞、勝田軍藏、三津右衞門、淺川主水、門三郞、額俵屋の小さん、龜三郞、金や金兵衞、富三郞、同女房さつき、常世、大磯の虎の愛□玉三郞、曾我五郞時宗、こま藏、金や金五郞、彥三郞、六右衞門妹小梅、紫若、源兵衞堀の源兵衞、金屋家來奴由平、三津五郞、曾我十郞祐成、羽左衞門〇五月十三日より河原崎座「繪本(ゑほん)壁覺討(いざりのあだうち)」勝五郞、筆助、七五郞、同女房早わらひ、松太郞、お熊ばゝあ、曾呂平、はつ花、龜之丞德右衞門、新左衞門、鶴藏、貳ばん目「關取千兩幟」鐵ヶ嶽に仁左衞門岩川にかのふ「戀女房染分手綱」重の井仁左衞門馬士三吉島丸「神靈矢口渡」頓兵衞、仁左衞門、南瀨六郞、吉太郞、道念、紋次、おふれ、龜之丞「鬼一法眼三略卷」鬼一に仁左衞門皆つるに下り小川榮次郞「大塔宮曦鎧」齋藤太郞左衞門、仁左衞門、永井右馬頭、鶴藏　花そのにかのふ「織合襤褸錦」春藤次郞左衞門、仁左衞門、武右衞門に吉太女房おはる、かのふ、宇田右衞門に七五郞　甚六に紋治、「妹脊山婦女庭訓」□□□□□「彥山權現誓助劒」□□□□□「ひらかな盛衰記」平二に仁左衞門、源太に吉太郞、ふんしゆにかのふ千鳥に龜之丞「新板歌祭文」おそめに龜之丞手代善六に紋治久松に榮次郞、久作に仁左衞門「釜淵把双巴」五右衞門に仁左衞門、當馬につる藏「新物八百屋献立」八百屋後家と嶋田平左衞門、仁左衞門、半兵衞に吉太郞、おちよに、かのふ「義經腰越狀」後藤に仁左衞門、妻關女、かのふ、和泉三郞に吉太郞、義經に我十郞の內毎日かわり興行と番附に出けれども仁左衞門病氣に付出勤なし〇六月十八日頃より三座とも夏狂言はじまり市村座「新彫刻七いろは(しんはんなゝつ)」鹽冶判官、寺岡平右衞門、彥三郞、さき坂伴內、下女おかる、家主太郞兵衞、三津右衞門、若狹之助、千崎彌五郞、市川友藏、酒や又六、赤村丹六、やりてお杉、義左衞門、鹽谷家來前原義介、德ていしゆ九介、三平、義士鑓野久平、下女おいろ、市川門助、大工棟梁、番太長藏、高の家中志水一學、義士片右衞門、下女りん、村藏、姥しかま、笠原數馬、種ヶ島の六、仙石彥助、大舘主膳、めつほう彌八、高の家中、榮八、松本染藏、高の師直、堀部彌次兵衞半五郞、姥小なみ、右內、坂田杉藏、義士孫四郞、今川五郞、中村うつ藏、鹽谷家來九兵衞、新造うかれの坂東杢藏、寺男三介、眞木屋才六、でつち喜太郞、奴關內、坂東新作、狸の角兵衞、米屋四郞兵衞、高の家中新吾、吉次郞、墓守西念坊、大吉、こし元かん崎、下女おせん、新造嬉し野、由良之介妾おりう、岩井扇之助、仲居おはる、玉三郞、ほうづき賣せん太、三八、姥田川、下女みよ、仲居おくめ、坂東大五郞、加古川本藏、原鄕右衞門、門三

郎、かほよ御ぜん、勘平言號おきく、傾城爪生野實は元介妹おもと、由良之介妾おらん、龜三郎、元介女房おせき、仲居おあき、九太夫妻おれい、常世、本藤源四郎、早野七太夫、吳服屋清兵衛、斧九太夫、冠十郎、一色左京、由良之介、早の勘平、中間元介、三津五郎、直よし公、力彌、狢左衛門、大切所作事「再咲歌舞妓花轢」（またこゝにかぶきのはなだし）武內宿彌、りれし綱打、てこまひ仕事師、三津五郎、蛸に山科甚吉、いさみ、三津右衛門、友藏、新作、杢藏、清元連中相勤る中村座「紫女伊達染」（おまつはゝおなのだてそめ）仁木原田丸、こま藏、無理之介妻難波、藤藏、黑澤官藏、山名奧方榮御前、門藏、鹽澤丹平、船頭桃太、彥左衛門、井筒女之助、惣十郎、品川左忠太、平九郎、千松に岩井松太郎、鶴千代、三桝寅之助、左馬之介妻此花、新造薄雲、辰之助、鬼つら、鶯嘉藤次、八藏、大場道ゑき、同女房小ゑき、奴梅平、森藏、山中鹿之助、金屋金五郎、富三郎、彈正左衛門姉八汐、井筒外記右衛門、ゑやばく、高尾、賴兼、鴫神梶之助、女達雷おつる、彈正妹沖の井、荒獅子男之介、めいと政岡、七役紫若、石見太郎、傳九郎○七月十日より「矢口渡」（四の日切）新田義峰公、富三郎、下男六藏、森藏、ぶつたくりの万八、彥左衛門、うてな、三之助、渡し守頓兵衛、門藏、庵主道念、ゑやばく、おふね、紫若、大切「文月思戀五大力」吹廻しの彌介、富三郎、おさん母おはん、森藏、帶ひろどけの長右衛門、門藏、眞木わり八右衛門、ゑやばく、げいしや篠のおさん、彌介女房薩摩櫛の小まん、紫若、（是より後の役割門藏の次へ書くべし）あんま針の宗庵實は千嶋源五、惣十郎、桂川善好、八藏、下女おさき、三之助、家主宅兵衛、彥左衛門、町かゝへ小旦那音松、傳九郎河原崎座「義經腰越狀」五斗兵衛、仁左衛門、泉の三郎、源之助、奴に宗兵衛、淺友、紋次、七五郎、宗三郎、我十郎、門十郎、勘左衛門、伊達次郎、宗三郎、錦戶太郎、門十郎、泉三郎女房高のや、路之助、よし經、七五郎、德女に嶋丸、五斗妻關女、菊之丞、龜井に團十郎「けいせい睦玉川」（むつのたまがわ）惣嫁お百實は帶刀妻淺香、菊之丞、二九屋源右衛門、友藏、俳諧師銀河、宗兵衛、平方屋善八、門十郎、帶刀娘おぬい、甚吉、道心者妙念、紋治、帶刀奴三太平、團十郎「會稽襤褸茶」（くわいけいつゞれのちやのゐ）景清に幸四郎、大日坊、友藏、榛澤六郎、七五郎、人丸姬、龜之丞、重忠、團十郎「御そんじ五大力」三五兵衛に仁左衛門、八右衛門に源之助、家主六右衛門、たいこ持くげ八、紋治、出石宅右衛門、鶴

藏、賤ヶ谷伴右衛門、染五郎、土手平、勘左衛門、武藏屋女房お此、路之助、条本女房おつせ、松太郎、千嶋千太郎、我十郎、むさしや娘分おとわ、菊太郎、くめ本娘分おとも、友藏、げいしや嶋吉、嶋九、彌助、幸四郎、小まんに菊之丞、源五兵衛、團十郎○七月十五日より貳ばん目序幕へ譽詞

ほめ詞　かけ合　●富本豊袖　△富本久雛

△●「東西〳〵いづれも樣おじやまながらもほめことばはおゆるしうけて　△「成田屋のおやかたを名に立ら菊の香にめでゝずい市川と三ッ瀬川流たへせぬ御ひゐきは　●「まづ第一がうつくしく顔にあいきやう相生のまちにまつたるお二人りさん　△「あいかわら崎水無月から戀の封目文月まで引もかへさぬ大入を　●「いつまで草のいつ迄もたゞすへかけて御見物土間棧敷のなま中をたとへせかれておしおふとても縁とじせつのすへまでも　△●「永當〳〵入船は引船あと船きらいなく花をさかせる花の顔花のあづまはおしなべていづれもすいたまつさいちう　●「三千世界をたづねてもまたとあら事やつし事　△「瀬川ぼうしのきせわたと　●「たがいの心うちとけて　△「むすびがたき五大力　●「ヲ、引たりよこへを立よ　△「ヨイ〳〵　●「御太義ながらも頼じや　△「ヨイ〳〵　●「一度にこへをかけ何でもこつちのかた〳〵　△「ヨイ〳〵ヨイナア　●「ヲ、ヤレヨヲ△●「これ御ひゐき町の大入とホ、うやまつて申ス

○八月朔日より市村座壹ばん目「七いろは」をのこし置き貳ばん目「忠臣講釋」六ツ目七ツ目矢間喜内、幸四郎、乳もらい太郎作、冠十郎、甲屋幸十郎、半五郎、重太郎一子太市、坂田仲治、喜内妻おさよ、門三郎、けいせい浮はし、龜三郎、おりへ、半四郎、重太郎に万才德藏、三津五郎、大切上るり「戻駕色相肩」駕かき難波の治郎作、幸四郎、同あづまの與四郎、三津五郎、禿たより、半四郎、侍從の局、常世、明石礒五郎、勘藏、常磐津連中相勤る

○八月十一日より中村座「曾我中村穐取込」近江小藤太、團三郎、後に稻のや半兵衛、三十郎、工藤の後家梛の葉後に舞鶴や傾城白ふじ、狩野之介宗清、源之助、盗人權介、荒井藤太、芝綠、女六部海月實は伊藤娘辰姫、舞鶴屋女房おたみ、藤藏、盗人坪坂長半、奧家老在柄平之進、大藤内後家榊後に舞つる屋やりておくろ、

門藏、百足屋金兵衛、壽代太郎、箱廻し喜助、染五郎、所化雲泥、女太夫お鳥、半十郎、賴家公、けいしやおなつ、こし元尾花、三之助、醫者長西郎、大姬のかしづきめとはぎ、門三郎、盜人彌藏、宗三郎、同きり太郎、奥山水茶屋瀧右衛門、八藏、二の宮太郎朝忠、惣十郎、奴三平、判人勘六、彥左衛門、鬼王新左衛門後に鬼王坊主、甚六、百姓箱根の畑右衛門、石部金太夫、森藏、箱根の別當行實、曾我太郎祐信、宗兵衛、まん江、奥女中小ゆるぎ、おの江、りやうし地獄淸左衛門、こゑやばく、岩本院の兒禪司坊實は嶋津太郎義廣、曾我五郎後家十六夜後に舞鶴屋新造かへで實は小藤太娘粧坂のせう〳〵、團三郎妹おさよ、紫若、團三郎、女房おこう後に盜賊張本稻葉幸藏 後にげいしや柴屋小雛、曾我十郎、後家待宵後に舞つる屋新造 朝貌實は 小藤太娘大磯のとら、賴朝の息女大姬、粂三郎、江の嶋の役僧天日坊、後に嶋津太郎義廣實は淸水冠者義賢、舞鶴屋傳三實は京の次郎祐俊、團十郎、劔澤彈正實は伊豆の次郎、傳九郎○八月十二日頃より**河原崎座**「忠臣藏」七段目迄平右衛門、判官、本藏、仁左衛門、石堂と千崎に富三郎、一もんじや女房お銀、路之助、奥山孫七、七五郎、山名に小野寺十內、門十郎、三段目の本藏、松助、矢間十太郎、稱かしま六、平九郎、鄉右衛門、鶴藏、伴內に紋治、菅谷半之丞、曾呂平、めつほう彌八、與一兵衛、勘左衛門、おかる母、仲居、松太郎、直よし公、坂東雄蝶、となせ、菊太郎、かほよと三段目のおかる、龜之丞、九太夫、せげん義介、淺尾友藏、小なみに嶋丸、力彌、こま藏、桃の井、勘平、おかる、菊之丞、師直、由良之助、定九郎、幸四郎、壹ばん目は河原崎座貳ばん目は市村座也貳ばん目「花形(はながた)見娘道成寺(みむすめだじやうじ)」奉公人口入三郎兵衛、彥三郎、壹ばん目市村座貳ばん目當座江勤る下男佐助實は石堂縫殿之介、富三郎、めのと槇の戸、路之助、奉公人三作實は松倉文吾、七五郎、肝入嘉藏、虎藏、道成寺住僧、の助、法印奇妙院、同宿文珠坊、紋治、下女お竹實はゑのぶ姬、龜之丞、母お大、曾呂平、橫嶋新五右衛門、同宿彌勒坊、友藏、同宿觀音坊、嶋丸、同宿勢至坊、篠塚五郎貞純、こま藏、三郎兵衛妹おみつ、白柏子櫻木、菊之丞、上るり「道行瀨川帽(みちゆきせがわぼうし)」富本連中長唄岡安喜八、同喜三郎、芳村伊四郎、三弦杵屋佐吉、同作十郎相勤る○九月十九日より**中村座**「盛衰記」梶原源太と船頭權四郎、三十郎、梶原平三、芝緣、松右衛門女房お舟、藤藏、橫須賀軍內、門藏、佐々木高

綱、鎌田隼八、喜代太郎、番場忠太、染五郎、秩父の重保に牛十郎、井上次郎、梅五郎、清水屋と九郎兵衛、長四郎、宇治山の柚彌太夫、津打門三郎、家ぬし作兵衛、甚六、船頭に彦左衛門、喜代太郎、八藏、宗三郎、歌助、千代飛助、山吹御ぜん、春次、内田三郎、森藏、茶道順齋、宗兵衛、めのと關屋、梶原奥方延壽、おの江、秩父の重忠、ゑやばく、腰元千どり、紫若、巴御ぜん、おふで、粂三郎、和田義盛、梶原景高、船頭松右衛門、團十郎、よし經、傳九郎、武ばん目關三十郎大坂登り名殘り狂言（文化五辰年初下り當年にて十九年相つゞき追々出世なり）「けいせい返魂香（はんごんこう）」浮世又平、三十郎、狩野歌之介、源之助、下女お梅、森藏、土佐修理之介、惣十郎、土佐の將監、宗兵衛、又平女房おとく、粂三郎、大切三十郎五變化所作事「かへす〳〵餘波大津繪（なごりのおほつゑ）」ふじ娘歌座頭（歌上るり）かけ合天神うた船頭上るり奴（以上五役）宗三郎、歌助、千代飛助、尾上けい藏、辨慶、中村歌木、福祿壽、岩井松太郎、鬼の念佛、岩井金之助、上るり清元榮壽太夫、同政太夫、同志喜太夫、長唄芳村伊三郎、吉住小四郎、岡安喜代八、芳村長三郎、松永鐵五郎、三弦杵屋六三郎、同三郎助、同六太郎、同六之介、同喜三郎相勤る 大入大當り十月十九日舞納なり

○九月廿七日より 市村座「二夜月御伽草紙（ふたよのつきおとぎざうし）」武智光秀、幸四郎、松永彈正、中村の百姓彌助、冠十郎、小田三法師丸、眞柴小市郎、三八、金貸八兵衛實は佐藤正清、牛五郎、山熊太郎、珍重坊實は曾呂利、三津右衛門、三輪五郎、市川友藏、春永御臺うてなの前、辰之助、小西如清、白川小膳、門三郎、光秀妻さつき、彌介娘おいな、龜三郎、久吉妻梅の井、常世、千本姬、玉三郎、武智十次郎、こま藏、森蘭丸、武智左馬之介、彦三郎、小田春永、眞柴久吉、三津五郎、武ばん目船越十右衛門實は京極内匠、かしく兄七郎介、斧右衛門、冠十郎、福しま屋清兵衛、三津右衛門、春風藤藏、友藏、長兵衛手下勝義平、牛五郎、一味齋後家おこう、常世、奴友平、彦三郎、奥女中かしく、げいしやおその、牛四郎、毛谷村六三郎、口口利高實は盜人梶の長兵衛、三津五郎、（三津五郎病氣にて彦三郎代り役す）武ばん目「牡若色艷紫（かきつばたいろもえとぞめ）」船橋次郎左衛門實は修行者願哲、幸四郎、駕かき傳兵衛、冠十郎、お六姉おくら、常世、梁田伴藏、友藏、輕業の口上言三右衛門、大吉万壽屋娘お市、團之助、若徒丹二、勘藏、中間權平、義左衛門、万壽屋太平次、門三郎、万壽屋けいせい八つ橋、龜三郎、つりかね彌左衛門、牛

五郎、女かる業玉本小さん、玉三郎、佐野次郎左衛門、彥三郎、杜若姉土手のお六、半四郎、船頭金五郎、羽左衛門十月五日より三津五郎全快に付眞柴久よしの役をつとむ ○九月廿日より河原崎座「織合つゞれの錦」春藤次郎右衛門、仁左衛門、若徒伊兵衛、こま藏、同佐兵衛、しま丸、高市武右衛門、春藤次兵衛、富三郎、次郎右衛門妹お六、路之助、若徒佐五平、七五郎、下部與五平、松助、彥坂甚六、紋治、鎌田瀨左衛門、鶴藏、春藤新七、龜之丞、須藤六郎右衛門、加村宇田右衛門、淺尾友藏、高市庄之助、甚吉、次郎右衛門妻お春、菊之丞、上るり道行「對の花かいらぎ」こま藏鳴丸 貳ばん目「信仰記」割普請の段金閣寺の段 松永大膳、山口九郎次郎、仁左衛門、十河軍平實は加藤正淸、鶴藏、三輪五郎忠澄、森蘭丸、我十郎、慶壽院、瀨川富三郎、松永鬼藤太、門十郎、柴田權六、富三郎、狩野之介直信、小田春永、彥三郎、藤吉妻おきく、ゆき姬、菊之丞、此下東吉、團十郎、大切金閣寺の段大道具大仕掛なり

當正月中　松本小次郎死す

當年は役者の內譯合ありて初日おそなわる中村座は十月廿六日頃紋看板出し所役者出入ありて十一月上旬に又々出し直す役者付は十四日に賣出す市村座は霜月七日頃より紋看板を出し十一日に賣出す河原崎座は休なり

○霜月十三日より市村座「伊勢平氏惠顏鏡（いせへいじりせうのかほみせ）」廻國の修行者集山實は主馬判官盛久、矢文商人大助實は崇德院の靈魂、小督の局の靈魂、二人の亡靈合躰にて二面の所作大できく 三津五郎、阿波民部妻吳竹、常世、小金吾武里、三八、近藤太郎景時暫中愛部屋頭辰右衛門、宗兵衛、八栗次郎景住中うけ切見せ女郎お松、關原與市、三津右衛門、森山九郎近友、馬士尻馬の富、八藏、じや／＼馬入道、盜人源五郎、大谷改きりしま義右衛門、切見世女郎ちいさおかね、大吉、衛士、團四郎、市川銀兵衛、仙石彥助、市川團次、惣領勘八、松本染藏、市川桃藏、門助、足輕室津曾太平、下り嵐珉升團四郎代り役す地廻りあせ富、勘左衛門、中間茂佐介、長四郎、井上太郎、半十郎、家定下部赤平實は成瀨七郎信重、宗三郎、右大臣基房娘敷妙姬、三之助、新院若宮重仁親王、春次、須藤八郎時仕、馬士三分の吉、市川友藏、路次番さぼてん次郎、彥左衛門、敷妙姬かしづき冬野、おの江、なにはの咲平、近藤左衛門實は大嶋玄蕃、下り中山文五郎、下河部藤三淸常、足輕升平實は監物太郎賴賢、露藏、鎌田次郎妻岩田、九條傾城、池田屋湯谷、龜三郎、

土佐次郎妹小ゆるぎ、御所女中薬ずへ、玉三郎、武藏左衞門有國（中ぅけ）澁谷庄司、筑波藏人家定、ゑやばく、澁谷土佐次郎昌俊、平の宗盛、物かわの藏人、多田の行綱、彦三郎、（暫のうけ）式子内親王實は賴まさ息女花園前、義藏女房おたに實は義平妾宿り木、浦半の內侍實は切見世女郎三日月おせん、門院の侍女待宵、粂三郎、猪の早太忠澄、獵人義藏實は惡源太義平、瀨の尾太郎兼康、肴賣ゑびざこの十後に越中次郎兵衞盛次、かさうり六郎兵衞實は瀨尾太郎、團十郎、賴政次男源太丸兼隼、宇野七郎利貞、羽左衞門、貳ばん目上るり「積思花雪解」上の卷（三津五郎、彥三郎、團十郎、玉三郎、粂三郎、羽左衞門、）常磐津小文字太夫（同和歌太夫 同政太夫）下の卷（三津五郎 粂三郎）團十郎 淸元榮壽太夫、同政太夫、同志喜太夫、竹本嶋太夫相勤る 十二月十五日舞納

しばらくのつらね　猪の早太忠澄

七代目 市川團十郎自作

太平御覽に曰雪は豐年の瑞也と稻に穗が咲穗に穗がさく新米新入新參もの足かけ三年柿八年素袍の粘の聲色もむかし〳〵の祖父たちが一株植た福牡丹霜にかぢけぬ鬼は外先祖橙わが儘はゆづり葉柚味噌揚幕からちらと蜜柑だ金柑白衣うつゝい姉ェが向ふづらうまいお顏の大和柿わんぱくは虫のせへ團十郎艾赤團子あやめといへば源三位賴政どのの厄介もの當年積て十八才最ひとつ返して十八才丁度三十六童子成田の爺が力瘤一ッ張の弓の勢に的に橘吹矢町ゑどに當ッて江戶ッ子の猪の隼太忠澄といふ猪のしゝ若衆の向ふみず跡へは引かねへ負るがきらい啌じやムらぬ神馬藻野老繁昌榧搗栗勝て歌舞妓の大太刀烏帽子とホヽ敬白

〇霜月十五日より中村座「還花雪梅勝鯨浪」日本廻國修業者蕭張實は伊賀平內左衞門長盛、仁和寺の塔頭信西法師、非人關の次郎介實は鎮西八郎爲朝、大井川の瀨ぶみ狀箱の仲右衞門、幸四郎、平淸盛、源之助、池田の白拍子熊谷御前、盛俊妻歌垣、（嵐龜之丞改）中村大吉、奴豆平實は牛若丸、高麗藏、小萩七郎國俊、主馬小金吾、旅上下濱川の仁三、富三郎、德大寺中納言有房公、（市川）門三郎、奴新平、嵐德三郎、沼野平太長淸、喜代太郎、高橋九郎家澄、染五郎、女順禮佛おせん後に非人物見のお松、實は爲朝妻八丈、六條判官爲義娘白峯實

は崇德院の靈魂、源氏茶漬の女房お三、半四郎、大井川の川越、染五郎、かまくら平九郎、おのへ梅五郎、勘藏、ほんば鯛介、おのへけい藏、中村森五郎、せき歌十、おのへ小の藏、ちよひ介、中村つる藏、中むらうつ藏、おきの熊藏、市川廣五郎、三ます勝藏、中村千代藏、松本虎藏、門藏、大坂下り女形花房艶之丞、甚六、獻山庵圭雲决阿闍梨、森藏、飛彈左衞門國氏、藪醫千路里能爛、門藏、傘張法橋女房深ゆき、藤藏、內大臣宗もり、下り松助、傘張法橋、醫者內海宗庵實は長田太郎景宗、上總五郎淸宗、冠十郎、淸盛の乙娘鳴神姬、內田の女御用複樽のおひろ實は牛若のめのと伏見、盛俊妹外山、紫若、西國順禮ふだらく岸藏實は難波六郎常遠、禁裡北面但馬守經まさ、宗庵下部海鼠襟の新介後に畫鳶熊鷹小僧長吉實は惡源太義平、越中前司盛俊、丸太郎、下り菊五郎、瀨の尾十郎兼光、傳九郎、四立目上るり「雪御室能盃酒盛(ゆきのおむろよいさんさかもり)」幸四郎、半四郎、こま藏、紫若　菊五郎　富本午之介連中相勤る

◎文政十丁亥年

○正月三日葺屋町より出火して中村、市村、大薩摩、土佐四座ともに燒失す、兩座普請出來迄菊五郎、紫若、粂三郎、源之助、幸四郎、團十郎、河原崎えスケ○正月廿二日より河原崎座「群曾我嶋臺」名古屋山三元春、十郎祐成、秩父の重忠、菊五郎、猿つかい十六夜おしげ、三浦の片貝、粧坂少將、紫若、茶廻り長吉、松助、家主李郎兵衞、紋治、六角左京之進、鶴藏、稻妻組の男達金魚の金八、宗兵衞、同黑雲傳八、我十郎、同きのふの東八、伊達藏、同けふの西八、彥左衞門、同はたらかみ五郎介、宗三郎、犬坊丸に鷗丸、近江八幡之介成氏、地獄谷の鬼王、幸四郎、工藤祐經、御所五郎丸、仁左衞門、出雲屋女房月小夜お玉、梛の葉御ぜん、半四郎、げいしやお万、三之助、判人善六、片岡松助、奥女中しがらみ、松太郎、新造よしの、菊太郎、赤澤十內に森藏、上林やりておつめ、門藏、上林の傳三、富三郎、宵の口の千太郎、こま藏、山三下部鹿藏實は曾我の團三郎、源之助、上林のかつらき、大磯のとら、新造かつしか、粂三郎、不破伴左衞門重勝、五郎時宗、景淸、團十郎、源の賴朝公、權之助、貳ばん目「いもせ山」杉酒屋の段新御殿の段藤原鎌足公、菊五郎、求馬に源之助、お淸所お村、紋治、官女にまがき富三郎、いくの鶴藏、梅の森藏、宗兵衞、さくら我十郎、玄蕃に松助、彌藤次、宗三郎、入鹿の大臣、幸四郎、りやうしふか七、仁左衞門、おみわ

に半四郎、官女山路局、槌之助、わざその辰之助、はなわの良三郎、外山の局、春次、酒屋後家お熊、伊達藏、家主茂木兵衛、宗兵衛、でつち寢太郎、富三郎、橋姫、紫若、玄上太郎、團十郎普請出來に付○三月廿一日より市村座「萬歳阿國歌舞妓」井筒外記左衛門、金谷金五郎實は渡邊民部、雷鶴之助後に松ヶ枝關之助、三津五郎、千束屋女房おせん、丹介妻おとよ、つね世、鶴千代、三八、大江鬼貫、宗兵衛、あら物や五良右衛門大できて三津右衛門、道理之介、八藏、大場道益、大崎儀右衛門、義右衛門、豆ふやでつち豆太、大吉、笹野才藏、ゑび藏、小性櫻木彌生之介、新之助、金五郎悴千松、藤十郎、娵千賀野、團之助、同名古野、小三郎、同武くま、大五郎、たいこ持似丁、高繩穴五郎、長四郎、袖崎小文次、五郎市、鳶嘉藤次、半十郎、黑澤官藏、宗三郎、傾城高橋、勝次郎、同高まど、三の助、武田武助、下り坂東勇次郎、土子泥之助、友藏、鬼貫下部茂佐八、森山長兵衛、彥左衛門、奧女中沖の井、おの江、豆ふやのおくらばゞあ、文五郎、火之見番人嘉兵衛、鶴藏、三浦屋の薄雲、龜三郎、角力取山中鹿之助、伊三郎、仲居おゆめ、玉三郎、山名持豐、やりておかま實は腰元八茂、浮世戸平、ゑやばく、

山名河內之介、足利賴兼公、彥三郎、三浦屋新造高尾、豆腐屋娘お谷、嘉兵衛娘夕ぐれお六、金五郎妻額の小さん後にめのと政岡、粂三郎、土手道哲實は嶋田重三郎、外記左衛門若徒丹介、「浮田賴兼實は道哲、仁木直則、團十郎、十雲のお玉、嶋田女之助、羽左衛門、貳ばん目所作「月雪花蒔繪の巵」月長唄仕丁、三津五郎、同團十郎、御所女中、粂三郎、雪上るり市歸りのいさみ、三津五郎、湯歸りの藝者、粂三郎、納豆賣、團十郎、花長唄茶つみの娘、粂三郎、草摺引曾我五郎時宗、團十郎、小林朝日奈、三津五郎、上るり榮壽太夫清元延壽太夫同富士太夫、同政太夫、同志喜太夫三弦清元齋兵衛、同德兵衛、鍋太郎改同東三郎、長唄芳村伊三郎、松永鐵五郎、岡安喜代八、芳村長三郎、同幸次郎、三弦杵屋六三郎、同和吉、同六太郎、同六之助、同三五郎、笛、住田彥太郎、同彥吉、小づゝみ、望月太左衛門、同小泉長三郎、大づゝみ、太鼓田中傳九右衛門、ふり付西川扇藏、同松永五郎市、坂田重兵衛、小西權兵衛、長うた富士田新藏、同吉四郎、吉村幸三郎、同長三郎、松永鐵五郎、三味せん杵屋佐吉、同和吉、同六太郎、同佐次六郎、鳥羽屋三之介はやし方ふりつけ前におなじ、普請出來に付○三月廿一日より中村座

「伊達劇場根元礎」同貳ばん目大切「鹿子かさね小褄兩面」渡し守都鳥の與右衛門、幸四郎、おくれ万才經若太夫、源之助、同宿祐念坊、こま藏、同道哲坊、松助、信夫賣おくみ、紫若、同かさね、白拍子高尾、菊五郎、番附出し處何か譯ありて菊五郎退座せしゆへ又々番附を直し賣出す廿八日より中村座大名題前に有、夜鷹の引手小介、山名奥方榮御前、仁木彈正左衛門直則、幸四郎、足利賴兼公、關取井筒女之助、細川勝元、源之助、三浦屋薄雲に奥女中沖の井、大吉、荒し男之介、こま藏、岩倉彌十郎、富三郎、涌合外記左衛門、門三郎、笹の才藏、德三郎、宗益妻小卷、染五郎、長沼官兵衛、平九郎、奇妙院方海、鯛助、鶴千代君、槌五郎、奥方うてなの前、三浦屋やりておいわ、半四郎、政岡一子千松、仲次、鬼つら忰伊達五郎、菊藏、亘千左衛門、甚六、名和無理之介、森藏、圖幸鬼貫、門藏、奥女中松しほ、藤藏、山名左衛門、荒鷲風右衛門、奥女中八しほ、冠十郎、辻君高尾のおきみ實は勝元妹園生の前、女力持あらしの男りき、めのと政岡、紫若、黒澤官藏、傳九郎、貳ばん目「増補お染久松色讀販」松本屋佐四郎、鬼門の喜兵衛、幸四郎、庵崎百姓久作、源之助、京村屋のおいわ、大吉、金神の長吉、こま藏、髪結中の郷の龜、富三郎、油屋伯父太郎七、門三郎、油屋娘お染、でつち久松、奥女中竹川、喜兵衛女房おろく、賤の女お作、久松言號おみつ、お染母妙昌七役半四郎、油屋でつち久太、森藏、同手代九介、門藏、同多三郎、藤藏、同手代喜六、冠十郎、清兵衛妹お大、紫若、まやしの源太、傳九郎、上るり心中翌の噂、半四郎紫若源之介常磐津小文字太夫、同兼太夫、同政太郎、三弦岸澤式佐、同右和佐上てふし仲助○五月十七日より「狹間合戰」石川五右衛門竹中官兵衛、幸四郎、木下當吉久吉、源之助、綾の臺、大吉、垂井の藤太、こま藏、足柄金藏、富三郎、よしてる公、德三郎、五右衛門手下白鍵指藏、染五郎、同三上百介平九郎、堅田の小すゞめ、たい助、伊吹の山六、千代飛介、勢田の橋又千代藏、四の宮源吾、勘藏、庄屋梅右衛門、熊藏、海邊築次郎、桃太郎、桔梗屋女房おぬい、氏家息女よね姫、半四郎、婢さゞ波、東藏、同夏萩、扇之助、同おすは、しげ次郎、同おすへ、金平、同ながら、辰之助、十木勘之進、七五郎、大嶋與太夫、當十郎、菊地兵八郎、菊藏、くつわや惣兵衛、甚六、大森盛彌太、森藏、五右衛門手下矢橋の歸藏、門藏、官兵衛妻關路、藤藏、壬生村の次左衛門、齋藤龍

興、冠十郎、次左衛門娘小ふゆ、左枝犬喜代、紫若、芝田由理之介、傳九郎、吳羽中納言氏定卿、室元勘三郎、貳ばん目お染久松是迄の通りなり不入にて四五日して舞納けり　○五月十二日より**市村座**「三略卷(さりくのまき)」吉岡鬼一法眼、一條大藏卿長成、三津五郎、勘ヶ由女房鳴瀨、つね世、長成小性金彌、三八、平の清盛、宗兵衛、廣盛一子岩千代、三津右衛門、印南郡藏、八藏、廣盛下部無理平、義右衛門、同肝平、勘左衛門、近藤判官、門三郎、新大納言成忠卿、勇次郎、重仁親王、ゑび藏、松王ごてい、新之助、水茶屋與市、長四郎、瀧口藏人、五郎市、近藤次平、半十郎、笠原の丹海、市川友藏、下司平太諸賢、彥左衛門、清盛御臺肱子のまへ、おの江、市原團平、文五郎、性度阿闍梨、鶴藏、鬼若姊お京、龜三郎、小松重盛、伊三郎、鬼一娘皆つる姬、玉三郎、八劍勘ヶ由、しやばく、吉岡鬼次郎に彥三郎、乳母あすか、常磐御ぜん、下部とら藏實は牛若丸、粂三郎、書寫山の鬼若丸、下部ちゑ內實は吉岡喜三太、團十郎、荒勢八郎光貞、羽左衛門「盛衰記」先陣問答壹とまく源太、三津五郎、茶坊主順齋、彥左衛門、郡內、三津右衛門、ゑんじゆ、仁左衛門、千とり、粂三郎、平次、團十郎何れも大でき貳ばん目「夏まつり」一寸德兵衛、三津五郎、三ぶ女房おつぎ、常世、大鳥佐賀右衛門大でき文五郎、こつぱばん勘左衛門、團七一子市松、三八、つりの三ぶ、仁左衛門、此時仁左衛門御當地名殘と口上に書き候へども一向其沙汰なし傾せい琴浦、三之助、なまの八、彥左衛門、三河屋義平次、しやばく、玉嶋磯之丞、彥三郎、德兵衛女房おたつ、團七女房お梶、粂三郎、團七九郎兵衛、團十郎、玉嶋千葉之介、羽左衛門、上るり竹本嶋太夫、同太夫三弦鶴澤八助、同彌吉當狂言大當り　○夏狂言六月三日より**河原崎座**「獨道五十三驛(ひとりたびごじうさんつぎ)」鶴屋南北勝井源八作にて東海道五十三驛を狂言に取組五十三段がへしのからくり長谷川勘兵衛工夫にて大道具大井川の場にて舞臺一面の水仕かけ梅幸水中の早替り小夜の中山夜なき石の幽靈、猫の化物、奇妙也大でき、長谷川勘兵衛は材木町に住す歌舞伎繰り芝居の道具立に妙なる工風を案じ出し且山下にて五重塔のせり出し淺草觀音開帳の所三國妖狐傳にて天竺唐日本の大仕懸の工風其手段奇々妙々然れども家屋土藏などの切込工風は至て下手にて己か藏を建に外の頭立を賴みて建　ひとり旅の道づれ飛入にて三津五郎、粂三郎、團十郎、仁左衛門、スケにて役者揃故炎暑のいとひなく大入大當りなり、伊達の與作後に日本駄右衛門りやうし三保七實は本庄助七、法華長兵衛、三津五郎、大江息女重の井姬大吉替りつと

む後に非人小まん、民部之介妻おのぶ、傾せい小紫、粂三郎、中野藤介後に由井民部之介、入山津の江戸兵衛後に藤川水右衛門、牡丹獅子の八、廻しの次郎吉、幡隨長兵衛、團十郎、藤川官太夫、品川宿大磯屋おりう、仁左衛門、石井半次郎、お松妹おそで、松助、鬼坊主願哲、帶屋長右衛門後に旅人喜多八、紋治、赤堀源吾、八ツ橋村の佐次兵衛、本庄助八、門藏、あんま慶政後に旅人彌次郎兵衛、嶋田万九郎、彥左衛門、由留木右馬之助、栗原丹藏、我十郎、赤羽根屋五郎作、門三郎、馬士とぶ六、けい藏、しなのや後家おかや、銀兵衛、盜人犀かがけの六、馬平、杣かふもり三六、桃藏、菊川友六、新作、山形や義兵衛、川藏、女非人生皮のおはぎ、梅五郎、みろく町の仲居お大、大五郎、同やま、辰三郎、同おつや、團之助、奴逸平、井筒や惣七、菊藏、由留木息子左門之介、鷗丸賤はた山のおくら、關の小まん、松太郎、與八郎忰與之助、藤十郎、小萬母お波、おの江、石井左内、藤澤の智行上人、佛作助。宗兵衛、げいこいろは、しなのやおはん、玉三郎、奴大津の又平、由留木調之介、伊三郎、八ツ橋村の賤の女お松、丸子ねこ石の精、女達平塚のお十、梅幸と役わりに書しは女形の役ゆへ斯せしか馬士じねんしよの三吉實は丹波與八郎後に桑名屋の德藏、大工小貳四の八、稻葉山の三尺坊、平井權八、竹村定之進、日本馱右衛門十役菊五郎、上るり「須臾三保浮氣實」三津五郎粂三郎　團十郎松助、菊五郎　三保の浦の場にて相勤清元延壽太夫、同政太夫、同志喜太夫、相勤む

新板狂言　五十三段がへし

座元　河原崎權之助
坂本　小川半之助

此度河原崎座におゐて東海道五十三驛を敵討の趣向に取組右狂言の趣向に取組右狂言の繪面を一日の狂言につゞり合せ候鶴屋南北愚作の正本を以て長谷川勘兵衛工風のからくり道具に仕尾上菊五郎罷出相勤奉入御覽候別て宿々川々名所古跡に至る迄四季折〳〵の趣向を以て時代世話御家狂言取まじへ尤幕間の川泊なく近日より興行仕候狂言名役人替名は近日別紙番附にて御披露可申上候何卒御贔負不相替初日より賑々敷御見物に御來駕の程ひとへに〳〵奉希上候以上

〇七月十五日より「噂秋艸色時」藝者おしゆん、粂三郎、白ふじ源太、團十郎、船頭長吉、松助、眞猿屋與次郎、紋治、齋川孫八、門藏、駕かき三次、彥左衛門、

増田郡藏、銀兵衞、園生のまへ、辰三郎、お俊姉おとく、おの江、水茶屋お玉、玉三郎、ねづゝ屋傳兵衞、菊五郎〇六月九日より市村座「斯將優曲者」桑名屋德藏、かんざし賣千太郎、こま藏、赤星典膳、判人駒木根屋八兵衞、今市善右衞門、三津右衞門、須原金吾、若黨宮城十內、勇次郎、鄕上村庄屋尾二兵衞、俳諧師蛤枝、大吉、道具屋甚太郎、吉次郎、曾平次親與茂兵衞、三平、船頭沖藏、杢藏、船頭吉田屋庄吉、三宅左司馬、平九郎、お久妹おいち、厚倉次郎兵衞娘おつう、春次、三はしや料理人長助、輕心寺住僧快全後に立場の多九郎、奴兵內、文五郎、廻國女修行者□□、めのと明石、三勝姉おその、つね世、幡州高砂の船頭桑名屋德藏、赤松左馬五郎のり光、禪譽院良明の靈、小幡曾平次、めのと淺香後に曾平次女房お久、淡路嶋の家中赤根平右衞門、仲町じいしや三かつ、刀屋半七、細川左京之進實は七草四郎九役彥三郎、淡路しま甲斐之助、細川子息基丸、羽左衞門、三ばん目所作「七小町姿繎」雨乞小町、草紙洗に手習子、あふむに駕かき、きよみづに茶屋女、かよひに深草の少將、□□□狂亂關守小町にそとば引、彥三郎大でき、上るり常磐津連中相勤る、

長唄芳村孝次郎、同孝三郎、松永鐵五郎、同兼五郎三味せん杵屋和吉、同六太郎、同三五郎、鳥羽屋三五郎、ふへ、住田彥吉、同留八郎、小つゝみ、望月太左衞門、小泉長三郎、大づゞみ、田中傳左衞門、たいこ、坂田重兵衞、小西權兵衞〇七月廿三日より市村座「忠臣藏」大星由良之介、早の勘平、ごぜおよつ、加古川下部丸介、不破伴左衞門、□□□□□、加古川本藏七役三津五郎、由良之介妻おいし、仲居おせん、常世、義平悴よし松、三八、與一兵衞、太田了竹、宗兵衞、鷺坂伴內、三津右衞門、富森に八藏、一力亭主里丁、大吉、仲居おいち、□之助、同おきの甚吉、同おあさ、團之助、高の師直、堀部彌次兵衞、九太夫、仁左衞門、仲居おかつ、勝次郎、同おさん、三之助、同おはる、杵次、下女りん、友藏、めつほう彌八、彥左衞門、□□姪おしの、おの江、一もんじやにでつち伊吾、文五郎、原鄕右衞門、鶴藏、加古川娩□□、龜三郎、直よし公、千崎彌五郎、伊三郎、小なみに玉三郎、山名次郎左衞門、鹽谷判官、矢間十太郎、彥三郎、かほよ御前、娩おかる、女馬士おその、とな瀨、粂三郎、寺岡平右衞門、桃井若狹之介、定九郎、加古川下部角介、石堂右馬之丞、大わし文吾、

義平七役團十郎、上るり「道行緣旅路の嫁入」三津五郎、粂三ツ、玉三郎、團十郎、八段目上るり常磐津小文字太夫、同兼太夫、同政太夫上るり竹本竹太夫、同入太夫、同嶋太夫〇七月廿七日より中村座「ちうしん藏」鹽谷判官、不破勝右衛門、加古川本藏、源之助、かほよ御ぜん、力彌、おかる、大吉、仲居お大、スケ玉三郎、伴內に才兵衛、紋治、原鄉右衛門に門三郎、與一兵衛、下女りん、森藏、大星瀨平、我十郎、山名次郎左衛門、片岡まつ助、喜多八に梅五郎、狸の角兵衛、千代飛助、直よし公と十太郎、菊藏、おかる母、本藏妹雪の戸、松太郎、千崎彌五郎、七五郎、九太夫と判人善六、門藏、大星妻おいし、藤藏、若狹之介、大わし文吾、松助、師直、勘平、定九郎、となな瀨、小浪、平右衛門、由良之介、七役菊五郎、石堂、堀部安兵衛、傳九郎、番附には九段目迄とあれど七段目きり也貳ばん目「伊勢音頭」料理人喜助、貢伯母おみの、源之助、油屋のおこん、大吉、彥太夫娘さかき、スケ玉三郎、正直正太夫、あぶらやおしか、紋治、藤浪左吉、門三郎、角太夫、我十郎、あい玉屋喜多六、片岡まつ助、桑原丈四郎、梅五郎、中間權介、千代飛助、溝頭德右衛門、けい藏、みこさよし、勝藏、安達丹藏、菊藏、油屋女房おさき、松太郎、奴林平、七五郎、どうみやくの金兵衛、森藏、猿田彥太夫、仲居まんの、門藏、同きくの、藤藏、今田万次郎、松助、福岡みつぎ、菊五郎、德しま大藏、傳九郎〇九月朔日より市村座十段目天川屋の場を出す同日より「返魂香」三段目土佐將監、仁左衛門、修理之介、羽左衛門、下女お梅、文五郎、狩野之介、彥三郎、又平女房おとく、粂三郎、浮世又平、團十郎不評ばん大切「廓文章」ふじ屋伊左衛門、三津五郎、喜左衛門女房おせん、つね世、あわ大盡傾城夕ぎり、粂三郎、吉田屋喜左衛門、團十郎〇十月五日より「布引三段目切」齋藤市郎實盛、三津五郎、百姓九郎介、宗兵衛、九郎介女房小よし、勇次郎、小まん一子太郎吉、甚吉、あふひ御ぜん、おの江、矢ばしの仁惣太、文五郎、九郎介娘小万、龜三郎、瀨尾の十郎兼康、團十郎、上るり竹本嶋太夫三弦鶴澤德助貳ばん目は如此に出し候へども一ばん目やはり忠臣藏なり、七月廿三日より十月迄打續候事近來稀なる大出來大入大當りといふべし、中にも二段目松切之場、八段目道行の場古今の大できなり〇九月十三日より中村座「東海道四ッ谷怪談」神谷仁右衛門、直助權兵衛、幸四郎、須藤娘お梅、小平女房お花、大吉、ごもく侫の五郎

吉、こま藏、小汐田又之丞、富三郎、須藤又兵衛、孫兵衛女房お熊、紋治、闕口官藏、染五郎、新藤源四郎、片岡まつ助、小林平内、手代庄七、平九郎、水茶屋おまさ、米屋長藏、梅五郎、宅悅女房おいろ、庵主淨念、たい助、非人づぶ八、中間伴介、千代飛助、蜆うり次郎吉、藤十郎、お岩妹お袖、粂本の女房お柳、半四郎、梅澤や女房おほの、辰之助、水茶屋おのぶ、槌之助、土船の船頭專吉、鶴藏、通人文賀、宇津藏、藤八五文の手代万藏、荒藏、須藤喜次郎、菊藏、須藤召仕おまき、水茶屋坂太屋おつせ、松太郎、講中三九郎兵衛、甚六、あんま宅悅、門藏、佛孫兵衛、四ッ谷左衛門、門三郎、奥田庄三郎、赤垣傳藏、松助、女結髪おしげ、紫若、小佛小平、仁右衛門妻おいわ、佐藤與茂七、菊五郎、萩山長兵衛、傳九郎○同廿一日より瀬川菊之丞去年八月頃河原崎座にて忠臣藏大切道成寺相勤夫より所々田舍を修行して此度歸府に付中村座へ出勤なり「大内鑑」二まく芦屋道滿、幸四郎、信田の庄司、門三郎、同妻磯路、喜代太郎、木綿買作兵衛、平九郎、同丈六、千代飛助、葛の葉姫、葛のうらみ狐、スケ菊之丞、安部の童子、藤十郎、娘うら葉、豐次郎、同千艸、繁次郎、同花里、松太郎、同もみぢ、もめん買與太七、森藏、石川惡右衛門、門藏奴、與勘平、源之助、安部の保名、菊五郎、左近太郎、傳九郎、顏見勢○霜月朔日より河原崎座「惠咲梅(むろのうめ)判官贔負(はんぐわんびゐき)」鹿ヶ谷の杣根ッ子のふし右衛門、鈴木三郎重家、長田奥方内海御前、浪花男達牛股曾左衛門、讃岐左衛門義則、大江廣元、武藏坊辨慶、仁左衛門、田舍万才小介實は手塚六郎光盛、呉服商大丸手代源七、江田源三弘經、中の町巴屋傳介實は川越太郎、鎌田次郎政元、源之助、一の谷軍場新地福原屋の次郎吉、義經公達經若丸、嶋丸、源八、兵衛廣綱、軍場新地鏡掛松屋三ぶ、増尾權の頭、門三郎、榛の次郎娘朝貂、新地藝者歌吉、一の谷茶漬屋あやめの小よし、瀬川菊太郎改あやめ、緣日の飴賣、吉次安高、齋藤次祐家、法印わほく院實は茶日引の小辨慶、森藏、男藝者富次、杉目小太郎近國、醫者笹三建、我十郎、齋藤次郎秀連、御むまや喜三太、芋燒屋さつま源五郎、菊藏、武藏、太郎有國、男げいしや利十、踊指南でば長、梅五郎、小間物屋介五郎、尾上岩五郎、國藏、鵜沼の軍次、善次、新地の附馬万六、尾上岩五郎、福原屋若者權七、市川銀兵衛、ひやかし勘六、小の藏、同

船幽靈の土左衛門、尾上政藏、鹿ヶ谷獵師杢作、淺尾鬼右衛門、東條重賴、三桝勝藏、長田郎黨犬山新平、片岡五郎、同沼田鄉介、坂東今五郎、大物河岸船頭八嶋屋長介、尾上助次郎、江田源三一子小太郎、三桝大三郎、源賴家公、荻野藤十郎、小舍人綠丸、中村歌木、同操丸、三桝荒之助、同龜丸、市川銀助、同万丸、大谷番場、同鶴丸、淺尾いく次郎、同豐丸、大谷福吉、同錢丸、尾上音吉、典侍局かしづき櫻木、市川秀次郎、福原屋かるこおさの、市川豐次郎、同かゝへ女郎おうら、市川つる三郎、同おたみ、袖崎矢の次、重家妹雪の戶、牛王の前かしづきうら葉、吉原げいしやおみわ、下り中村琴糸、猪の股小平六、梅堀ゆやの火たき片松、有松玄番雲風、京四郎片岡松介改源三妹眞弓、福原お針おつせ、松の庵下女おしげ、片岡妹駿河路、松太郎、りやうし入舟浦作、判人源六實は八栗八郎景友、わつは菊王、赤井藤太、門藏、粕谷藤太有季、男げいしや幽靈の舟八、女非人おしやべりおふさ、常陸坊海尊、紋治、長田下部伊達平、新地福原や孝吉、傘張法橋一子惠美丸後に平宗盛、植木屋松太、重賴下部友藏、鷲尾三郎、松助、しづか御前、時忠の息女卿の君、信濃國賤女お瀧實は藤の森小女郎狐、下り菊次郎、長田景宗妻牛王の前、新地福原屋おせい、宗盛の御乳人すけの局、吉原奧州屋の陸奧太夫、ゐぞ國しやむしや王の姬錦典皇女、富樫左衛門妻關の戶、下り中村歌六、田舍同者音作實は源九郎狐、長田太郎景宗、榛の次郎娘朝貌、平の宗盛、松の庵の梅基、佐藤四郎忠信、九郎判官義經、菊五郎、上るり壹ばん目三立目「繕飾挿花藻（つくりかへかざしのはなも）」源之助 菊次郎 菊五郎、淸元延壽太夫、同政太夫、同志壽太夫、三弦淸元齋兵衛 同榮次郎 貳ばん目上るり「𨕫妹脊抱柏（いもせのだきがしは）」菊次郎 菊五郎 津留賀文彌、同美根太夫、同春太夫、三弦豐澤大助、同惣治相勤る此狂言は文化十四丁丑年葺屋町都傳內座にて興行せし通りなり不入にて貳ばん目 同廿日より「戀歌世帶榮（こひかこにせたいのこだて）」嶋田平左衛門、仁左衛門、八百屋半兵衛、源之助、山脇十藏、門三郎、講中八兵衛、森藏、同六兵衛、國藏、同七介、銀兵衛、同五左衛門、鬼右衛門、同九介、政藏、同十八、十五郎、同杢助、あわ藏、雲介紫八、善次、下女お竹、秀次郎、後家おたま、門藏、家主太郎兵衛、紋治、おちよ姉おかよ、菊次郎、半兵衛女房おちよ、歌六、甥嘉十郎、菊五郎 何れも大出來なりしが不入にて廿四日に舞納けり **市村座**「重年花源氏顏鏡（かわらぬはなげんじのかほみせ）」山かつ熊王實は鷲の尾三郎義久、

住吉踊のたいこ持やつとこ徳次、老女あこや女景清の母なり千羽鶴の評者おひやりこ傳兵衛、鈴木左衛門則政、連歌師長嘯實は秩父の重忠、三津五郎、盗賊口太郎實は井場十藏、齋藤實盛實は文使狀介上るり大出來鈴木三郎重家大できき船頭のり藏、仁科靱負之介直次、下り坂東簑助、人丸のめのと飛鳥、お村か母おむめ、女髮結おつげ、岩永の妻瀧川、つね世、傾せいおびとき、お針おぬい、鈴木三郎妻眞袖、龜三郎、荻原五郎常遠、駿河の次郎淸重、あんま闇市、文五郎、瀧口靱負國次、革足袋やざい六、秀太郎、夜叉太郎鬼門、樂斎軍次、丸あげの長九郎、宗三郎、庄屋李兵衛、町飛脚近江屋長兵衛、大吉、李兵衛女房おせん、川藏、六田三郎時定、惣領勘八、神主左司馬、桐嶋駒右衛門、とろ川太郎重友、荻野和十郎、高取九郎景成、市川も、藏、百姓どろ作、大谷馬平、同山七、坂東徳次郎、同土六、市川國次、賴九郎則國、中山定五郎、荒井田彌忠太、坂東吉次郎、夜そば賣風りん吉、坂東吉次郎、土市八郎信國、山形屋でつち樽吉、李藏、法師關熊坊、關三平、足輕彌忠太、坂東大藏、淸定妹倉橋、市川徳之助、姫霜夜、松本小三郎、同三冬、澤村金平、同小ゆき、坂東大五郎、

同初霜、岩井扇之助、辻八卦齋藤白狸大福屋餅右衛門、津打門三郎、初瀬新五忠政、五郎市、松田左文治豊久、板元山本重五郎、半十郎、瀧口小舍人鯉丸、新之助、住吉踊豆げいしやよんや名古吉、重忠一子重若、三八、景淸子普門丸、小いさみ瀧登りの升、ゑび藏、半嶋百姓悴鍬松、荻野藤十郎、井上八郎景春、市川團四郎、芳野三郎政久、梅本主税、次郎太郎坂東新作改名して花垣庄司娘夕ばへ木辻仲居おせん、春次、天狗小僧五郎吉、法橋逸當、升藏、生駒玄蕃信時、鬼佐渡内匠、市川友藏、梅田妹早咲、仲居おやま、槌之助、新造おだまき、三之助、岩間のがん八、古鐵買善八、六角左膳時定、彦左衛門、景淸伯父大日坊、岩永の郎黨鷲山洞六、船頭はだ次郎、三津右衛門、宇都宮彌三郎妻ふじの江、おの江、廻國六部海典、岩永大膳宗兵衛、法印大眼院、宗兵衛、半澤六郎成淸、若徒佐五平、伊三郎、三保の谷郎黨次郎國時、本田次郎近常、やつとこ入道雲庇、革足袋屋六郎兵衛、しやばく、げいしやおのそ、賴朝息女千壽前。玉三郎、岡部彌太郎友綱、扇麻の髮ゆい助、下り市川市藏、鰕十郎子助藏事改名して役割ばかりにて不下須摩の賤女乙女實は海野小太郎妹榊、傾城あこや、女非人あこやのお松實は景淸の

妻あこや、住かへ女郎おしゆん、宇治の通圖娘山吹、紫若、景清娘人丸、奥女中花笠、須摩の賤女おその、傳兵衛女房おやま、成田五郎女房船橋、粂三郎、山久武王實は海野小太郎行氏、阿曾山の强盜あざ丸、七兵衛景清、町か丶へ釣鐘權吉、成田五郎照時、團十郎、壹ばん目四立目上るり「榮花の夢全盛遊」三津五郎、玉三郎、簑助、紫若、三八、くめ三、團十郎、羽左衛門 常磐津小文字太夫 同和歌太夫、同政太夫、三味せん岸澤式佐、同字和左 簑助、鈴木三郎にて一子をいだき父鈴木左衛門の宅へ尋來り我子の養育を賴けれども父左衛門三津五郎にて是を不聞入かへつて主君義經公堀川より吉野沒落の御難澁の節も居不合今義經公蝦夷に御座有れば跡隨われ忠義も立べきに我子に引されて夫て忠義がたとうかと云れ三の介我子をさしころす處忠臣講釋の七ッ目喜內と十太郎の仕組大出來大詰琴責の幕何れも大できなり

狂言作者松嶋てうふ櫻田治助改 三升屋二三次、中村重助、奈川本助、金井三曉 福森吉助、松嶋半二、松川鶴藏、富岡新二 寺嶋松作

中村座「金峯山艶色源氏」傾城錦戸太夫實は知盛息女玉蟲の靈、新中納言知盛の靈、いがみのお里實は三條右衛門娘青葉、龜割坂の立場のおよね、半四郎、女湯の場大でき忠度息女玉織姫、梶原源太妻梅ヶ枝、淨留璃御前、建禮門院德子、大吉、鞆の六郎重國、旅こむそう青山、陸奥商人おつと清兵衛、江田源三廣綱、富三郎、猪の熊大之進、北條の郎黨篠原藤內、喜代太郎、平少納言時忠、家主作郎兵衛、芳野の晒屋布八、染五郎、やとひ女お富、須摩の百姓行兵衛、奥州飛脚行藏、中嶋勘左衛門、黑井玄蕃、大木戸八郎、秩父郎黨捨角錢藏、市山理宇藏、藤原の朝方、黑塚新吾、鎌倉屋鎌平、鎌倉平九郎、松嶋貫藏、醫者忠庵、中嶋勘藏、金剛次郎賴方、下男筥八實は入江丹藏、すし賣金太が金六、坂東和三郎、增尾の太郎近義、芳野泥川のふり付木松五郎七、松本光之助、須摩寺の所化うん才、千代飛助、賤の女おこと、市川門助、山賊九郎又、荻野熊藏、須摩の浦船頭わに六、中村鶴藏、同あわ六、中村うつ藏、山賊角太、中村專八、船頭浦七、杉藏、山賊狼の眼兵衛、坂東新太郎、船頭沖右衛門、中村熊八、酒句の七郎、闇歌六、山賊うづ藏、坂東村藏、日雇取長六、中村千代藏、船頭磯兵衛、平藏、龜井の妹錦木、十津川の晒女お作、御前長屋のげいしやおせん、岩井辰之助、若葉の內侍、卿の君、吾妻藤藏、十津川水茶屋おと

り、福原賤女おたつ、團之助、同おせん、芳野の落葉かきおかや岩井扇之助、同おくり、賤の女おため、岩井しげ次郎、同おはま、落葉かきおぎん、御所長屋げいしやおいわ、瀬川富三郎、姥初霜、落葉かきおしい、坂東勝次郎、早見藤太、だら介姑おくま、松本たい助賤女おすみ、山賊三國の九郎、けいあん雀屋忠六、水行者荒法橋、曾呂平、樋爪の太郎、賤の女おびん、家主杢兵衛、虎藏、源八兵衛廣綱、湯屋のながし三介、駿河次郎淸重、嵐七五郎、稻毛入道雲雷、忠六女房慾ばりおしま、梅本の鬼佐渡坊、甚六、湯屋ながし松まきの權太、梶原源太景季、武藏坊辨慶、猪の股小平六、半五郎、金賣吉次信高、元吉四郎忠ひら、下り市川八百藏、銀平娘おむつ、六代御前、鷲尾三郎義久、熊井太郎忠基、こま藏、佐藤四郎兵衛忠信、女湯の番頭彌助實は主馬小金吾、源の義經、芳野杣又次、下男佐吉實は太夫敦盛、彥三郎、白拍子靜御前、女六部道芝、銀平女房お辻實は次信妻信夫の前、尾形三郎妹おみつ、錦典皇女、菊之丞、横川覺範、由利八郎長範、渡海屋銀平實は能登守敎經、川越太郎重賴、富樫の左衛門家直、樂賣泥川のだゝ介實は尾形三郎行氏、此役後に芝翫なり幸四郎、貳ばん目大切上るり「道行濱邊の千鳥」菊之丞、富本午之助、同大和太夫、同志賀太夫、上てうし名見崎長佐、三弦 名見崎德治作所「江戸育娘道成寺」上るり竹本志摩太夫、三弦野澤彌七同大助 相勤む中村芝翫 延着にて 初日も 延引して 番附等もよふ〱十一月七日より賣出せし處同十七日に芝翫到着いたし錦升丈のお役尾形三郎にて路考丈女非人とこぢりがへしのだんまり同貳ばん目道成寺の序幕にて疾と殺し路考丈の兄にていろ〱異見すれ共きゝ入なきゆへ御主の爲と妹おみつをころす場迄何れも評判よく 市村座は 十二月 五日に舞納なり、夫より市川團十郎成田山奉納芝居とて 直様日數十日の内興行す ○十二月八日より 河原崎座「ひらかな盛衰記」おふでに紫若但し樋口の内ばかりにて其外は市川三之助相勤る、梶原平次景高、船頭松右衛門、團十郎、貳ばん目「花川戸三代男」白井權八、紫若、長兵衛妻お時、三之助、幡隨長兵衛、團十郎、三升丈紫若丈二人にて勤けるに顏見せより少しは入もありしとの事御兩人の御手柄といふべし

十月廿五日中山小三郎、喜樂死す、釋淨榮大坂にて七月十六日極上上吉市川鰕十郎死す行年四十八歳蘭有秀山信士嶋の内三ッ寺大福院に墓あり

辭世

西方の空ありがたし盆の上　新升

兄弟のちなみ淺からざりしもおもひがけなき別にて

かたうでをもがれてなくやきり〳〵す　梅玉

右は評判記に有之儘記す

江戸にても五渡亭國貞追善の錦繪に辭世新升

今一度かざりて見たき江戸の鰕　七代目三升

評判記「三都鑑」に云、市川桝右衛門引合にて故市紅門人となり北新地にて宮薗淨るりの首ふり興行の砌に座本を勤め市川市藏と名乘り初舞臺のよし其時のは「布引」に藏人「青柳硯」に淵軍太「廿四孝」に景勝（横藏は今の奧山なり）「千兩幟」に鐵ヶ嶽大當り右を初として段々出世して江戸へ下り市ノ川市藏と云其後七代目三升門人となり鰕十郎と改名す

歌舞妓年代記續編卷の四

文政十一戊子年春より文政十二己丑年十二月まで

◉文政十一年

○正月廿一日より中村座「水滸傳曾我風流（すいこでんそかのふうりう）」第一ばん目（は安元二年）河津三郎祐安、阿曾沼おし鳥の精、宇佐美市五郎、實は伊豆の次郎、芝祝、河津の妻浦江、大吉、伊藤祐清、宮三郎、天儀彌藤次、喜代太郎、巣澤の彌藏、染五郎、判人むやみの借七、勘左衛門、人足地藏の太助、千代飛助、伊藤娵春野、團之助、同息女辰姫、辰之助、同娵梅ヶ香、增吉、同娵松ヶ枝、勝次郎、人足まわし常兵衛、芝藏、河津一子一萬丸、仲次、同箱王丸、福壽、小藤太娘挪の葉（大吉相對）鬼王妻月小夜（だんまり一とまく）半四郎、大磯傾城龜鶴、藤藏、鬼王娘十六夜後に俺の屋三吉、扇之助、双子三ぶの六、駒十郎、古かね買伊之介、たい助、長尾新五、澄藏、畫かせぎ彌藏、曾呂平、二の宮次郎太夫、七五郎、鬼王妻熱海、佐十郎、鬼王新左衛門、甚六、源賴朝公、曾我太郎祐信、八百藏、三浦の大助、伊藤祐親、半五郎、小藤太悴閉坊後にくり廻し彌介、高麗松、

八幡の三郎行氏、彥三郎、傾城喜瀨川實はおし鳥精靈、工藤金石丸、（大でき）菊之丞、近江小藤太、盜人赤澤甚內、股野五郎景久、幸四郎、大場景親、土井の次郎實平、傳九郎、（一ばん目三立目上るり）上の卷「四十八手戀諸譯（しじうはつてこひのしよわけ）」河津、芝翫、喜瀨川、菊之丞、股野、幸四郎、上るり富本午之助、同齋宮太夫、同安和太夫、同大和太夫、（三弦）名見崎德次、同金升、鳥羽屋里淸、同下之卷「鴛鴦容姿の正夢（いもせどりすがたのまさゆめ）」おし鳥精靈、芝翫、菊之亟、大當り常磐津小文字太夫、同兼太夫、同千歳太夫、（三弦）岸澤式佐、同右和佐、上てふし仲佐三藏、同二番目は（建久四年此間十八ヶ年相立申候）薩摩源五兵衛實は宇佐美市五郎、芝翫、月小夜妹十六夜、大吉、盜人百足の金六、富三郎、大藤內、染五郎、笹野屋三吉實は月小夜（大吉かわり）半四郎、同抱お藤、藤藏、本田近常、八百藏、菊野屋若者太助、半五郎、五郎丸、こま藏、曾我十郎、芝翫、同五郎、彥三郎、菊の屋小万實は河津娘京の小女郎、菊之丞、口彌介實は閉坊（富三郎かわり）地獄淸右衛門實は赤澤甚內、工藤祐經、幸四郎、盜人畑右衛門實は下田の次郎、傳九郎、○正月廿一日より（實は廿八日より）市村座「二葉春（ふたばのはる）花麗曾我（にぎわいそが）」（第一ばん目第二ばん目）工藤左衛門、鬼王新左衛門、古手買佐野屋次郎左衛門に（初名）木谷文藏、同親次郎太夫、曾我祐成、三津五郎、同團三郎、夜そば賣中次實は中津三平、小林朝日奈、簑助、賴家めのと卿の局、田上屋女房おりう、常世、ばんばの忠太、質屋善右衛門、文五郎、工藤下部咲平、むやみの吉、秀太郎、六浦の川越蛇籠の石、船頭伊之助、宗三郎、家主作兵衛、櫻川善好、大吉、長谷寺住僧行實、玉本若者傳八、六浦川の川越八、杢藏、同音（惣領）勘八、同水增の七、（坂東）大藏、同仁太、（大谷）馬平、同吉（關）三平、同辰、吉次郎、和田小太郎、藤十郎、小奴宇佐平、甚吉、大姬かしづき歌橋（市川）德之助、同小ゆるぎ（松本）小三郎、同袖浦（澤村）金平、同小ふじ（坂東）大五郎、同星の井（岩井）春次、同六浦（岩井）槌之助、犬坊丸、朝日奈小者秀吉、三八、御所の五郎丸、ゑび藏、實朝公、新之助、川ごし金、道具屋安兵衛、團四郎、川ごし七、佐野中間與六、次郎太郎、王木屋二階廻しお吉、春次、同お花、槌之助、万才鶴太夫（津打）門三郎、結城の三郎、五郎市、千葉家中毛見川軍平、百足やの金兵衛、半十郎、矢の倉彌源太、舞鶴屋才兵衛（市川）升藏、川ごし逆水八（坂東）大八、醫者圓竹、畫かせぎ仁太（市川）友藏、曾我ぜんじ坊、げいしや雛吉、三之助、源太景季、判人たこ安、浪人秋山長兵衛、彥左衛門、箱根の入足畑右衛門、喜佐田善八、三

津右衛門、二の宮、おの江、田上屋藝者小吉、龜三郎、畑右衛門母おつめ、見留兵太夫、小山家中眞間田幸藏、宗兵衛、近江八幡之助、町抱おひやりこ傳吉、伊三郎、大藤内成景、小山家中木谷文之丞、しやばく、工藤息女犬姫、閉坊妹片貝、玉三郎、團三郎女房十六夜、次郎左衛門妻おみつ、とらが禿千鳥、紫若、大磯のとら、萬字屋佐久、仲町のげいしや八ッ橋のお妙、鬼王女房月小夜、粂三郎、伊豆の次郎、千葉の家中船橋次郎左衛門、箱根の同宿閉坊、足駄の齒入岩淵の權介、日雇取大磯屋傳三、曾我五郎時宗、團十郎、小山の若殿縫の介、源の頼家公、羽左衛門、上るり「寶船枕槽柏子」第一ばん目、二五立目、三津五郎、三八、粂三郎、紫若、簑助、團十郎淨瑠理常磐津小文字太夫、同和歌太夫、同政太夫、岸澤式佐、同右和佐上てうし扇藏和介○正月十九日より河原崎座「入山形曾我細見」小林朝日奈、清水冠者義高、赤澤十内、下り關三十郎、八幡三郎後に梅澤屋小五郎兵衛、曾我十郎實は家臣團三郎、源之助、十内娘十六夜、嶋丸、仁田忠常市川門三郎、犬姫のかしづき宇佐美瀬川あやめお萬飴ぐにや助、森藏、天城三郎、當十郎、大磯屋傳三、菊藏、百足屋金兵衛、梅五郎、家主權六、助次郎、片瀬平馬、岩五郎、梶原景時、銀之丞、同景季、八藏、同景高、鬼右衛門、稲毛の三郎、今五郎、御所五郎丸、大三郎、工藤息女犬姫、久須美彌太夫娘片貝、紫若、上總の五郎兵衛忠光、近江小藤太、仁左衛門、頼家公、當十郎、伊豆の祐兼、歌助犬姫かしづき久須美、琴糸、大藤内、京四郎、頼家の御乳人腰越、松太郎、清水の同宿行實、我十郎、閉坊法院、門藏、鬼王新左衛門、紋治、大磯新造手越、曾我五郎、松介、頼朝息女犬姫、粧坂せう／＼、菊次郎、十内女房月小夜、大磯とら、歌六、曾我十郎、京次郎祐俊、工藤祐經、菊五郎、上るり第一ばん目五立目「春霞意引綱」三十郎松助菊五郎上るり清元延壽太夫、同志喜太夫、同喜勢太夫、同鳴尾太夫三弦齋兵衛、同徳兵衛、榮次郎相勤る第二ばん目は一ばん目より年數廿七ヶ年相立狂言なり「蝶々孖梅菊」鮫洲のかごや南與兵衛後に南方十次兵衛、三十郎、米問屋山崎や與五郎後に角力取八幡山與五郎、源之助、千葉若殿與次郎、島丸、次部右衛門、門三郎、藤や二階廻しおかつ、あやめ、萬才福太夫、森藏、若徒丹平、我十郎、南條佐渡七、當十郎、鮫洲の仁三、菊藏、千葉若殿千太郎、梅五郎、いちこお弓下り十三、でつち長太郎下り三太郎、女達幻のお竹スケ紫若、品川駕籠屋甚兵衛、仁左衛門、非人音下り

歌助、藝者千代吉、琴糸、判人權九郎、京四郎、二階廻しお政、松太郎、倉岡丈右衞門、三原傳藏、門藏、倉岡有右衞門、紋治、三原傳藏松助、藝者ふじあづま、南方娘おてる、菊次郎、深川藤屋のかるこおはや、與五郎妹お關、歌六、盜人引窓子僧長吉、髮結濡髮長五郎、菊五郎、千葉多門之介、權之助 此狂言中加賀町みのやと云質屋見物して菊五郎親子と喧嘩して茶屋中中人にて相濟申候夫より當芝居不入にて狂言さし替りにて ○二月十日より壹ばん目「當梅伊達抄」細川勝元、三十郎、熊井源五兵衞、源之助、山中鹿之介、嶋丸、片桐彌十郎、門三郎、同妻淺香、あやめ、茶道雲齋、森藏、龍野玄蕃、我十郎、足輕三平、梅五郎、寺岡運平、銀兵衞、老女しがらみ、政藏、信夫七郎、勝藏、荒川彌藤次、十五郎、大工吉太、子之助、足利鶴千代、藤十郎、大江の鬼貫、仁左衞門、豆腐屋娘おその、紫若、政岡一子千松、三太郎、腰元若葉、矢の次、同早苗、豐次郎、同道芝、秀次郎、同原ゆふ、富三郎、鳴神新吾、歌助、とうふや下女およし、琴糸、渡邊兵庫、京四郎、渡會銀兵衞、豆腐屋ばゝお熊、門藏、同手代藤次兵衞、紋治、町かゝへ辰實は嶋田十三郎、松助、奥方いよの前、翫さゐだ、菊次郎、細川奥方沖の井、歌六、仁木直則、めのと政岡、大工六三實は松ヶ枝鐵之介、菊五郎、足利義政公、權之助、第貳ばん目、「双蝶々曲輪日記」相撲の段、難波浦の段、こめ屋の段、引まどの段 放駒長吉、南與兵衞、三十郎、濡髮の長五郎、源之助、山崎屋與次兵衞、與兵衞母おかや、門三郎、あづま、あやめ、平岡郷右衞門、森藏、講中六兵衞、當十郎、同七兵衞、十三、同八兵衞、國藏、山崎手代兵八、善次、幻竹右衞門、仁左衞門、仲居おひで、秀次郎、下男八介、小の藏、野手の三、菊藏、下駄の市、梅五郎、有右衞門、歌助、平岡丹平、我十郎、尼妙眞、紋治、與五郎、松助、かるこおきく、菊次郎、米屋おせき、與兵衞妻おはや、歌六、橋本主水、菊五郎○三月七日より中村座「一ノ谷」序切二のロ 三の切熊ヶ谷直實、芝翫、玉織姫に大吉、あつ盛、直實一子小次郎、八百藏、梶原景時、芝藏、成田五郎勘藏、越中次郎兵衞妻うら葉、辰之助、大館玄蕃、駒十郎、堤軍次、七五郎、三位經盛、佐十郎、ふじの方、藤藏、彌陀六、宇五郎、源義經、彥三郎、熊谷妻相摸、菊之丞、平山季重、傳九郎「嫗山姥」兼冬息女澤瀉姫、大吉、時行妹しら菊、藤藏、翫すみれ、團之助、同若竹、扇之助、同春野、繁次郎、同若菜、駒次郎、太田十郎、りう藏、こし元おうた、甚六、たばこや源七、彥三郎、荻野屋八重桐、菊之丞、

中納言兼冬公、勘三郎「不負江戸男俎板（かけねなしえどのまないた）」本庄助市、芝翫、小むらさき、大吉、久下玄蕃、富三郎、三浦屋若者佐介、喜代太郎、雲津伴藏、染五郎、白柄組早桶半介、勘左衞門、たいこ持千丁、光之助、同彦八、和三郎、湯かん場どう六、千代飛助、雲助音六、杉藏、同のど平、歌十、同豆右衞門、村藏、白井權八、長兵衞女房お時、半四郎、杉本屋若者嘉吉、橋三郎、同仲居すみの、團之助、同しげの、繁次郎、同あづま、馬次郎、同かつの、勝次郎、杉本屋彦十郎、駒十郎、たいこ持時八、澄藏、玄蕃下部鉢平、曾呂平、權八下部畑內、七五郎、鶉權兵衞、甚六、本庄助太夫、唐犬權兵衞、半五郎、長兵衞悴長松、ゑび藏、大江因幡之介、男達極樂十三、こま藏、寺西閑心、彥三郎、三浦屋女房おはま、菊之丞、若徒八內、幡隨の長兵衞、幸四郎、本庄助八、傅九郎第貳ばん目大切上るり「擲筆力七以呂波（にぐりがきなゝついろは）」所作事七變化けいせゐ、ごみ太夫、供奴、乙姬、浦嶋扇の手妙〳〵瓢簞鯰、石橋以上七役芝翫、上るり富本豐前太夫午之助改名す同齋宮、同大和、三弦名見崎德次、同金升、同長藏、常磐津小文字太夫、同和歌、同政太夫、同綠、同鳴門、三弦岸澤式佐、仲佐三藏、右和佐〇三月三日より**市村座**増補「櫻門五山桐（さんもんごさんのきり）」眞柴久吉、此村大江之介實は大明の宗蘇卿、三津五郎、眞柴久次、簑助、百姓長兵衞娘おりつ、つね世、眞柴下部三二五郎助、文五郎、こし元山吹、槌之助、櫻井小新五、秀太郎、一寶主主膳、宗三郎、姬澄の江、大吉、山森典膳、和十郎、別黨軍藏、馬平、吉川左近、德次郎、奴雲平、三平、同赤平、吉次郎、小田小次丸、三八、小性登之助、新之助、豐浦源吾、團四郎、奴浪平、次郎太郎、惡五郎下部平の平平、半十郎、五右衞門手下三上の佐渡內、升藏、奴岩平、大八、大江惡五郎、友藏、こし元櫻戸、三之助、堅田の小雀、彥左衞門、嘉平次、生駒、おの江、淸水の所化さくらん坊、三津右衞門、こし元若草、龜三郎、蛇骨□□實は雲瀨の局、宗兵衞、片岡三木之進、伊三郎、奴矢田平、しやばく、傾城九重、玉三郎、盜賊筑紫の爪琴、紫若、大江の助妻呉竹、粂三郎、早川高景、石川五右衞門實は武智光俊、團十郎、眞柴久秋、羽左衞門、上るり第一ばん目三立目「更名櫻の盞（あらためてはなのさかづき）」紫若、富本豐前太夫、同大和太夫、同麓太夫、三弦名見崎德次、同與三次、同市十、相勤る第二番目は四代目團十郎木場親玉五十回忌五代目團十郎向嶋親玉廿三回忌追善にして團十郎助六相勤る尤先例の通り吉原より傘三百本小田原町しんば其外ひゐきよりの進

物は衣裳壹重、紫縮緬三十疋、脇差壹腰、印籠壹箇、生肴壹艘、下駄其他多し略之衣裳壹重生魚壹艘粂三郎へ右品々仕切場へかざり茶屋〳〵へは吉原女郎より提灯すだれ毛氈を引二階へは霞と櫻の作り物を出し又明地へ櫻を植て茶見世を出し助六餅と云餅を製し賣其景氣人氣引立賑々敷事つたなき筆に盡したがし「助六所縁江戸櫻」（すけろくゆかりのえどざくら）髭の意久、三津五郎、白酒賣新兵衞、簑助、曾我滿江、つね世、三浦屋やりておふさ、文五郎、傾城卷山、總之助、男達矢大臣孫七、秀太郎、仲の町長門屋千次郎、大吉、三浦屋若ィ者惡介、川藏、同半介、和十郎、大野屋若ィ者善八。勘八、地廻り聖天町の勝、駒右衛門、同今戸の熊、杢藏、同田中の市、三平、同山の宿の辰、吉次郎、堀の船頭權七津打門三郎、茶屋廻り小いさみの三次、ゑび藏、揚卷の禿さのも、甚吉、同小のも、男金、白玉の禿たより、松太郎、同よすが、鐵藏、新造卷しの、淺之助、同卷柴、小三郎、けいせい卷口、金平、堀の船宿大黑屋おせん、大五郎、男達朝日のみだ右衛門、團四郎、地廻り坂本の吉、次郎太郎、傾城卷の江、松次、三浦屋若ィ者太介、五郎市、男達仁王の喜三郎、半十郎、同雷門の八、升藏、同清六、大八、福山かつき儀吉、友藏、けいせい卷橋、三之助、巴や若ィ者左兵衛、彥左衛門、朝貌せん平、三津右衛門、三浦屋若ィ者重介、宗兵衛、くわんへら門兵衛、しやばく、傾城卷の尾、玉三郎、けいせい白玉、紫若、三浦屋の揚卷、粂三郎、花川戸の助六、團十郎、茶屋廻り千之介、羽左衛門、江戸太夫河東（十寸見蘭洲、同東曉、同東洲、同河唯、十寸見河洲、同東市、同東和、同傳之助）同東佐（山彥文治郎、山彥河良、同良波、同小源次、同秀八郎）相勤る○三月十五日より**河原崎座**「千本櫻」知盛、入江丹藏、源九郎狐、佐藤忠信、三十郎、九郎判官義經、すしや彌助、源之助、鷺の尾三郎、嶋九、河連法眼、お辻、門三郎、若葉の内侍、あやめ、梅本鬼佐渡坊、土佐坊、森藏、龜井、我十郎、するが、當十郎、伊勢三郎、菊藏、山科法橋坊、梅五郎、野丁坊、十三、百姓土地兵衛、國藏、同出來作、岩五郎、同當作、澄五郎、同佐次兵衛、今五郎、熊井太郎、三太郎、川越太郎、相撲五郎、すし屋彌左衛門下り冠十郎、梶原景時、武藏坊辨慶、仁左衛門、安德天皇、六代御前、銀次、權太、子善太、松太郎、庄屋杢兵衛、助次郎、早見藤太下り冠九郎、知盛郎黨藤澤次郎、歌助、娵若葉、矢野次、同若草、豐次郎、同若菜、秀次郎、同若芝、富三郎、川連女房飛鳥、琴糸、利運坊、京四郎、天皇かし付

波の戸、松太郎、猪の熊大之進下り歌四郎、片岡八郎、門藏、樂醫坊、紋治、主馬小金吾、松助、卿の君、權太妻小せん、菊次郎、すけの局、すしや娘お里、歌六、いがみ權太、しづか御前、横川覺範、菊五郎、源のより朝公、權之助、上るり第四段目道行の日にて「菊雞闘初音（きくにとりせきのはつね）」三十郎菊五郎清元延壽太夫、同佐賀太夫、同喜勢太夫、其外連中相勤る○四月廿日より「盛衰記（せいすいき）」先陣問答一幕梶原平次、三十郎、母ゑんじゆ、源之助、茶道順さい、十三、郡内、歌四郎こし元千鳥、歌六、源太景季、菊五郎、○五月七日より中村座「假名書忠臣講釋（かなかきちうしんかうしやく）」由良之助、矢間十太郎、百姓彌作、才兵衛、たいこ持市八、師直、彌次兵衛七役芝翫、傾城浮はし、大吉、石堂右馬之允、佐藤與茂七、富三郎、伴内、稱ケ嶋の六、勘左衛門、近松半六、りう藏、近藤傳四郎、平九郎、與一兵衛、たい助、八瀬孫九郎、光之助、直よし公、和三郎、茶道珍齋、門助、でつち勘太、今六、義平一子義松、松次郎、重太郎悴太市、仲次、彌作女房おかよ、おいし、藤藏、師直奥方富の方、半四郎出す力彌、橘三郎、本間治部之介、そうかお百、芝藏、狸の角兵衛、そうかおきみ、澄藏、大わし文吾、桃井若狭之介、七五郎、おかる母、喜内妻おはし、早野三左衛門、佐十郎、せげん勘六、御代官七太夫、甚六乳貰ひ善介、門藏、矢間重次郎、萬才柹右衛門、八百藏、千崎彌五郎、正月や嘉兵衛、半五郎、斧定九郎、奴丙平、こゑ藏、鹽冶判官、竹林定七、彦三郎、かほよ御せん、九太夫後家おれい、おその、半右衛門妻おきの、おかる、早野勘平、十太郎妻おりへ、菊之丞、斧九太夫、同定九郎、鍔間宅兵衛、寺岡平右衛門、太田了竹、原郷右衛門、矢間喜内、幸四郎、山名次郎左衛門、天川屋義平、傳九郎、尊氏公、勘三郎、第二ばん目「淨瑠璃郞文章」伊左衛門、芝翫、吉田屋女房おさか、大吉、藤屋手代與吉、熊八、同吉兵衛、杉藏、禿筆の、歌木、同文字の、菊代、阿波大盡、甚六、扇や夕ぎり、菊之丞、吉田屋喜左衛門、幸四郎、上るり常磐津連中相勤る○五月九日より市村座「菅原（すがはら）」武部源藏、覺壽、白太夫、三津五郎、梅王、宿禰太郎、判官代、簑助、たつたの前、はる、つね世、橋本のとちめん坊、奴宅内、文五郎、近藤左門之介、安樂寺住僧、秀太郎、三よし清つら、宗三郎、下男三介、大吉、牛飼童菊丸、甚吉、松王悴小太郎、三八、手習子太郎松、團子、同次郎松、男金、菅秀才、ゑび藏、御隨身鈴千代、新之助、同杉王、團四郎、同竹王、次郎

太郎、天蘭敬津打門三郎、よだれくり、半十郎、鷲塚平馬、友藏、傾城錦木、總宿芝、三之助、左中辨希世、三津右衞門、にせ迎彌藤次、彦左衞門、伊豫內侍、おの江、土師の兵衞、宗兵衞、波多野次郎有國、伊三郎、春藤玄蕃、藤原時平、しやばく、かりや姬、玉三郎、八重、戸浪、紫若、御臺所園生御ぜん、さくら丸、千代、粂三郎、菅丞相道實公、松王丸、團十郎、くりから太郎、牛飼生駒、齋世親王、羽左衞門、十九日より元祖延壽齋廿七回忌に付二代目延壽齋節付致し置候「夜打曾我物語」上るり相勤る上るり「曾我祭宵宮一節(そがまつりよみやのひとふし)」月小夜尼、粂三郎、十六夜尼、紫若、祐成の亡靈、時致の神靈、團十郎、清元連中相勤る〇五月十一日より河原崎座「伊賀(いが)越乘掛合羽(こへいりかけかつは)」こん田內記栢榴武介、上杉右內、和田志津摩、松助、靭負、醫者慶安、門三郎、お袖、あやめ、川角源內、森藏、くつわや甚九郎、我十郎、池添孫八、我十郎、宿老杢兵衞、菊藏、沼田鷲平、梅五郎、なりんぼう介、善次、嶋川半七、八藏、浮田林平、子之助、醫者龍伯、勝藏、政右衞門〻子巳之助、甚吉、澤井股五郎、母鳴海、櫻井林左衞門、冠十郎、澤井城五郎、松尾金介、仁左衞門、足利息女彌生姬、德之助、小姓林彌、大三郎、仲居おかね、矢の次、同おとよ、豐次郎、こし元さつき、秀次郎、同あやめ、富三郎、下女おわさ、辰之助、醫者寒水、冠九郎、荒卷伴作、歌助、傾せい大橋、琴糸、竹の內齋宅、京四郎、河內屋娘おてう、松太郎、同妙貞、近藤野守之介、歌四郎、がいこつの癩病、紋治、傾城若紫、菊次郎、濱町御前、股五郎言號おその、丹右衞門妻笹尾、政右衞門妻おたに、歌六、丹右衞門、荒木政右衞門、三十郎、菊五郎は出勤なし十九日より半四郎出勤に付貳ばん目「桂川」四條河原の場、帶屋の場、かつら川の場帶屋帶や繁齋、仁左衞門、帶屋長右衞門、源之助、足輕段介、門三郎、てつち長吉、三太郎、若イ者喜八、善次、下女さん、鬼右衞門、雲介五郎太、冠九郎、片岡幸之進、同幸左衞門、冠十郎、おはん母おかや、松太郎、よたかばゝあ、紋治、長右衞門妻おきぬ、歌六、あんま歌市、三十郎、よたかのぎう針のお六、しなのやおはん、半四郎、上るり「桂川連理柵」三十郎、源之助、半四郎上るり、富本豐前太夫、同齋宮太夫、同仲太夫、三弦名見崎德次、安治金升相勤る〇六月十八日より夏芝居「廿四孝」百姓じひ藏、高坂彈正、三十郎、總ぬれ衣、じひ藏女房おたね、歌六、長尾景勝、源之助、鬼兒嶋彌太郎は嶋丸、武

田信玄、門三郎、娍常夏、あやめ、象潟隼人之介、七五郎、土屋左衛門、澄藏、勝沼武藤太、我十郎、村上左衛門、りう藏、北條時氏、「歌助、百姓正九郎、善次、同戸助、川藏、奴爲内津打門三郎、勘助母、仁左衛門、宇佐美七郎、友藏、越名妻入江、しつの方、琴糸、牛飼權六、森藏、岩淵藤馬、紋治、長尾謙信、半五郎、齋藤道三、冠十郎、高坂妻唐織、簑作實は勝頼、紫若、八重垣姬、菊之丞、越名彈正、山本勘助、團十郎、義晴公、權之助、第二ばん目「千兩幟」北野屋七郎兵衛、三十郎、千羽川女房お歌、歌六、鶴屋禮三郎、源之助、志村丈之介、嶋丸、市原九平太、森藏、呼出し奴萬藏、澄藏、若徒瀨平、歌四郎、志村三之介、三太郎、千羽川吉兵衛、仁左衛門、でつち久太郎、ゑび藏、手代淸八、當十郎、仲居おふね、春次、同おみき、增吉、くつわや佐右衛門、冠九郎、傾せい錦木、あやめ、手代善九郎、紋治、村岡團右衛門、半五郎、鐵ヶ嶽、鶴屋淨久、冠十郎、彌太夫娘お才、紫若、岩川女房おとわ、菊之丞、岩川次郎吉、團十郎、大切上るり「御祭禮三人俳優」仕丁紫若、菊之丞、團十郎三人所作其外關三、歌六、源之助、冠十郎、御祭禮ねり子大勢にて賑々敷事也上るり富本豊前太夫、同齋宮太夫、同仲太夫、三弦名見崎連中相勤る○六月廿一日より市村座「忠臣藏」斧九太夫、おかる母、浦松三太夫、宗兵衛、娍おかる三段目ばかり與小娃かつみ、玉三郎、堀部彌次兵衛、伴内、文字や、藥師寺、三津右衛門、判官三段目ばかり千崎彌五郎、三津右衛門、原郷右衛門、秀太郎、竹森三平、倉橋瀨平、杢藏、獵人めつほう彌八、惣領勘八、同種ヶ嶋六中山定五郎、同狸の角兵衛きりしま松兵衛、かつ川與惣兵衛、和十郎、力彌市川金太郎、直義公坂東德次郎、娍とこ夏澤村金平、本藏妹みなせ坂東大五郎、小なみ市川德之助、富森介右衛門坂東大八、おかる六段目ばかりかほよ、石堂右馬之允、常世、高師直、加古川本藏、鹽谷判官、勘平、與一兵衛、定九郎、由良之助七役、大序より六段目まで二ばん目「布引瀧」瀨の尾十郎、宗兵衛、待宵姬、玉三郎、九郎介、三津右衛門、同女房小よし、秀太郎、近藤次郎、杢藏、高橋十郎、勘八、横田兵内嵐岡藏、高橋郎黨平内坂東梅太、同軍藏、德次郎、小萬一子太郎吉、三八、娍小篠、大五郎、あふひ御ぜん、澤村金平、矢橋の二惣次、三平、長田の太郎、大八、九郎介娘小まん、つね世、木曾先生義賢、齋藤實盛、簑助、奴折平實は多田藏人行綱、羽左衛門、大切所作事「賦倭五文

字」簑助五變化、けいせい、松魚賣、田舍ごぜ、福介、忠信何れも大出來なり上るり富本連中相勤る長唄富士田吉四郎、千三郎、芳村五郎次、三弦杵屋佐吉、同寛次、同與市、笛住田彦七、小づゞみ大西德藏、大づゞみ堅田喜三郎、たいこ小泉長三郎相勤る、壹ばん目淨瑠理竹本鐘太夫、竹本千代太夫、三弦野澤大助、野澤大次相勤る右者河原崎座立者にて相勤候處當座坂東いちまきにて殊に簑助去顏見勢に下り是迄評判よしといへ共壹人にて當りし事なし然るに當夏狂言に至て「忠臣藏」七役「布引」實盛義賢は別て大出來大切所作事もよふいたされ夫故に初日より七月十三日まで大入大繁昌にて舞納し處又々茶屋の賴にて十五六七日と三日興行し目出度舞納親父秀佳丈の悅ひ大方ならず大當りふるまひをしけり此時芝翫よりはよい〳〵と云評判に貳人の狂歌に

芝翫より一ばいましの大當り坂東なれば八貫〳〵

○七月廿一日より　市村座「千本櫻」川越太郎、金ひら參り丸介、梶原平三景時、すしやの彌介、覺範、三津五郎、新中納言知盛、源九郎狐（大できて）佐藤忠信、簑助、權太女房小せん、常世、入江の丹藏、山科の荒法橋、文五郎、鯫なでしこ、槌之助、駿河次郎、秀太郎、伊勢三郎、宗三郎、野干坊、大吉、百姓あせ六、川藏、堀左軍太、杢藏、めのと荻の戸、和十郎、船頭波六、梅太、安德天皇、團子、熊井太郎、新之助、六代御ぜん、三八、辨けい、すしや彌左衛門、冠十郎（當狂言より出きん）權太、子善太、ゑび藏、百姓勘太、團四郎、同甚十、次郎太郎、同よい作津打門三郎、片岡八郎、五郎市、庄屋杢郎兵衛、牟十郎、早見の藤太、升藏、百姓八作、大八、龜井太郎、友藏、こし元小ぐるま、三之助、土佐坊、彦左衛門、猪之熊大之進、鬼佐渡、三津右衛門、尼妙貞、おの江、若葉の內侍、龜三郎、すしや女房、おつじ、川連法眼、宗兵衛、わつぱの菊王丸、伊三郎、平大納言時忠、しやばく、引田村のおみよ、玉三郎、しづか御ぜん、黑木賣おむら、紫若、卿の君、おさと、典侍の局、粂三郎、源のよし經、いがみの權太、相撲五郎、雁中間角介、團十郎、小金吾武里、羽左衛門、第四段口上るりの場「連吉野初音旅路」（金ひら參三津五郎、忠のぶ三の介、田舍娘玉三郎、おづか紫若）中間團十郎上るり常磐津連中勤る淨瑠理竹本竹太夫、同入太夫、同嶋太夫、三弦鶴澤篤助、同芳造相勤る　中村座は「江戶仕入讎釣船」と云ふ名題にて夏祭りの作りかへにて三尺看板

に芝翫團七にて女房お梶菊之丞をころす處舅殺しの趣の處にて面白ふ申せし處如何なる譯にや左の通りに替り○七月廿五日より「戀女房」下部逸平、鷺坂左内、芝翫、みさき御ぜん、大吉、伊達左一郎、留三郎、鷲塚八平次、門藏、同下部丹助、山形屋義兵衞、勘左衞門、馬士次郎作、りう藏、古手屋源八、たい助、米屋專藏、平九郎、豆坂文五右衞門、光之助、娍小蝶、和三郎、馬士ひよろ熊、熊藏、しらべ姫、銀次、小兒歌次、團次、同しほり、歌木、左内妻ふじ浪、藤藏、じねんじよの三吉、三八、米屋六兵衞、官太夫妻小笹、本田彌三左衞門、森藏、湯淺李兵衞、芝藏、馬士京談江戶六、駒十郎、同日坂の萬八、澄藏、八藏母おさん、七五郎、馬士すたれの十、甚六、伊達與惣兵衞、古手屋市兵衞、佐十郎、由留木右馬之介、八百藏、わし塚官太夫、半五郎、伊達與作、座頭けい政、彥三郎、重の井、關の小まん、菊之丞、伊達新左衞門、幸四郎、由留木左京、傳九郎、同左衞門、勘三郎貳ばん目「二更鐘娍念坂街」古手屋八郎兵衞、芝翫、仲町げいしやお才、大吉、矢嶋勇藏、富三郎、赤にしの太郎兵衞、門藏、岩田屋勘兵衞、森藏、柏木助三郎、八百藏、梶岡軍藏、半五郎、かごかき彌八、彥三郎、丹波屋おつま菊之丞、香具屋彌兵衞、幸四郎、道具屋太平次、傳九郎、切狂言「返魂香」吃之段、浮世又平、芝翫、狩野主馬之介、富三郎、娘お梅、團之助、百姓出來作、光之助、同米作、和三郎、同稻作、つる次、同豐作、勘藏、庄屋五作、平九郎、組頭入作、たい助、下女お百、森藏、狩野歌之助、高麗藏、又平女房おとく、菊之丞、土佐將監、幸四郎○八月十六日より「妹脊山」四段目、入鹿大臣、酒屋娘おみわ、芝翫、橘姫、大吉、宮越玄蕃、門藏、官女梅の局、りう藏、仕丁次郎又、歌十、同五郎又、森五郎、官女松の局、平九郎、同藤の局、たい助、お清所、芝藏、女童秋篠、歌木、同おくしも、丑松、官女右近、繁次郎、同みよし、駒次郎、同左近、扇之助、同はる日、増吉、同浪の江、勝次郎、同桃の局、澄藏、同櫻の局、森藏、同紅葉の局、佐十郎、烏帽子折求馬、獵師ふか七、彥三郎、鎌足奥方操御ぜん、菊之丞不出かまの足公、幸四郎、荒卷彌藤次、傳九郎、上るり道行「柳糸戀苧環」求馬彥三郎、橘姬大吉、おみわ芝翫、人形の身ふり大出來富本連中相勤る○八月廿日より河原崎座「綟入繰見臺」發端女達雁金のお文、歌六、同雷のお庄、源之助、同極印のお千、三之助、同安のお安、菜

糸、同布袋のお市、紋治、河原崎座頭取、小川十太郎、善次、飛脚早足兵太、鬼右衞門、是迄發たん役割也、初日第壹ばん目「川中嶋合戰」三段目切迄 山本勘助晴行、長尾彈正輝澄、源之助、勘助母敷なみ、門三郎、直江大和妻唐衣、琴糸、直江大和之介、當十郎、村上左衞門義淸、歌助、獵師芝八、廣五郎、澁谷郡藤太、鳥藏、篠崎民部、岩助、鉢崎郡八、吉藏、娍小百合、龜吉、漣御せん、升三郎、高田の局、富三郎、醒ケ井次郎則澄、岩淵丹下、歌四郎、輝澄妹衣紋姬、三之助、原五郎妹てり葉、あやめ、辻君おこぶ、茶道順齋、紋治、勘助女房おかつ、歌六、義輝公、權之助、後日一ばん目と番付に有し處延引して○九月九日より「近江源氏」佐々木三郎兵衞盛綱、同四郎兵衞高綱、源之助、四の宮六郎、門三郎、盛綱妻はやせ、琴糸、伊吹の九郎、當十郎、和田兵衞秀盛、花田園部之介、歌助、古郡新左衞門、鬼右衞門、竹の下孫八、島藏、堅田鄕次、岩助、佐々木小三郎、幾次郎、同小四郎、松太郎、娍照葉、豐次郎、同もみぢ、升三郎、同左枝、龜吉、同小百合、富三郎、北條時政、歌四郎、同息女時姬、三之助、でつちほん太、紋治、高綱妻かゞり火、谷村小藤次大で 後家微妙、歌六、第二ばん目しのぶ責、法界坊、岩崎姬の亡魂、荒川太郎照光、雷のお庄、源之助、由川屋權右衞門、門三郎、同手代權六、安のお安、琴糸、髮結牛次、當十郎、野田角左衞門、夜そば賣二八、歌助、道具屋市八、善次、でつち音吉、音吉、岩崎姬、升三郎、仲居おとよ、豐次郎、お文妹おつゆ、富三郎、野田下部宅內、大坂屋孫右衞門、歌四郎、山川屋娘おくみ、極印のおせん、三之助、山川屋手代九八、布袋お市、紋治、女達雁金おぶん、歌六、當芝居不入に付棧敷廿匁高土間十五匁平土間十匁、上るり「二面東寫繪」源之介、三之助、きんし、歌六 上るり淸元連中相勤る

○九月十二日より 中村座「繪本合法衢」高村瀨左衞門、同彌十郎後に合法、問屋人足孫七、高橋下部金平、芝衞、□□□、こま藏、山伏乾山法印、富三郎、左枝下部雁助、笹山下部八內、百姓佐五右衞門、門藏、お六親小兵衞、森藏、三上鄕助、勘左衞門、守山軍藏、宮兵衞下部權內、平九郎、古着仲買安兵衞、たい助、瀨田橋九郎、勘藏、唐崎松之丞、光之助、高宮太郎藏、和三郎、三度飛脚與五七、千代飛助、水茶屋龜吉、門助、駕かき八八、熊藏、彥根嘉忠太、鶴藏駕かきかぶ六、專八、堅田雁九郎、杉藏、茶道桃齋、桃太郎、雲介鬼とら、熊八、百

姓勘太、歌十、同村右衛門、村藏、矢橋喜藤太、森五郎、粟津次郎助、福三郎、多賀の若殿左門之介、松次郎、道具屋娘おかめ　ケス玉三郎、佐五右衛門、子里松、仲次、太平次、女房おみち、佐五右衛門女房おわた、藤藏、茶道瀧齋、今六、賤の女おわさ、團之助、式部妹濱野、増吉、賤の女おしげ、繁次郎、同〳〵ま、駒次ろう、左膳妹眞垣、勝次郎、松浦玄蕃、芝藏、關口太九郎、駒十郎、ぞふり取團平、澄藏、松田幸兵衛、佐十郎、質屋善右衛門、甚六、小島林平、八百藏、劍術遣ィ鎌田清藏、笹山官兵衛、半五郎、大守俊行公、道具屋與兵衛、彥三郎、彌十郎妻早月、福屋仲居、お六、孫七女房お米、菊之、丞立場の太平次、佐枝大學之介、幸四郎、瀬左衛門下部伴平、傳九郎、佐枝伊勢正、勘三郎、竊壹ばん目三立目上るり「后の月酒宴島臺」三番叟引拔にて角兵衛獅子、芝翫、千載引拔にて鳥追瞽のおはま、菊之丞、翁引拔にていさみ、揚場の松、幸四郎、何れも大出來なり長唄連中常磐津連中相勤る

○九月十五日より市村座「敵討合法衢」多賀俊行公、問屋人足孫七、三津五郎、高橋彌十郎、後に修行者合法、道具屋與兵衛實は高橋孫三郎、箕助、佐五右衛門女房おわた、常世、飛脚與茂七、文五郎、奴八內、宗三郎、平面勘五右衛門、大吉、篠原傳吉、川藏、足輕杢六、杢藏、水茶屋十介、駒右衛門、足輕四五八、勘八、駕かき杢右衛門、定五郎、百姓七介、馬平、同あせ六、德次郎、鳥本丹八、岡藏、浦森軍次、和十郎、倉角嘉忠太、梅太、熊山伴六、團次、百姓四五右衛門、松兵衛、駕かき甚八、三平、娵あざみ、吉次郎、佐五右衛門、子里松、藤十郎、道具屋でつちやま吉、三八、小性左門、金太郎、同かつ、鐵藏、草かり童升次、新之助、いさみの吉、ゑび藏、高橋瀬左衛門、笹山官兵衛、冠十郎、清水村のおもよ、德之助、同おつる、小三郎、同おはな、大五郎、娵よもき、金平、彥根嘉忠太、團四郎、奴權內、次郎太郎、娵此江、春次、百姓じひ助、門三郎、松田幸兵衛、五郎市、澁川亦藏、冠九郎、雲介やみの八、升藏、黑川兵內、大八、關口多九郎、雲助はだか次郎、友藏、森山軍藏、彥左衛門、太平次母おかや、おの江、松浦玄蕃、三津右衛門、奥女中しがらみ、龜三郎、三上鄉兵衛、宗兵衛、奴妻藏、伊三郎、大瀧法印、百姓佐五衛門、しやばく、清水村のお玉、玉三郎、道具屋娘お龜、彌十郎妻さつき、紫若、孫七女房およね、粂三郎、佐枝大學之介、立場の太平次、團十郎、小島林平、佐枝丹後の

正、羽左衛門、大切「姫小松」島物語之段、有王丸、三津五郎、しゆんかん僧都、養助、小督の局、龜三郎、谷蔭の三、文五郎、根かぶのふじ藏、友藏、深山の木藏、冠十郎、小辨、三八、かげのどう六、三津右衛門、だんぼくの江吉、宗兵衛、なめらの兵、しやばく、龜王妻お安、粂三郎、龜王丸、團十郎、○十月六日より河原崎座「けいせい睦玉川」坂倉小十郎（市川）門三郎、平方や善七（淺尾）歌四郎、俳諧師祖山（市川）當十郎。女髪結お濱（瀬川）富三郎、道心妙念、善次、茶屋才八（淺尾）鬼右衛門、旅さむらい才五兵衛（三升）勝藏、飛脚早介（市川）廣五郎、神主左司馬（市山）鳥藏、辻君おつや（岩井）岩助、同おくほ（中山）松藏、帶刀娘おぬい（岩井）松太郎、こし元小はぎ（片岡）龜吉、同小まき（市川）豐次郎、水茶屋おいろ（市川）升三郎、奥女中沖の井、琴糸、奴三太平、七五郎、にくや源右衛門、紋治、辻君お百實は帶刀妻淺香、歌六、貳ばん目「戀飛脚」つちや次右衛門、門三郎、丹波屋八右衛門、歌四郎、百姓忠三郎、當十郎、仲居おとみ、富三郎、からすがし由兵衛、善次、あは大じん、鬼右衛門、醫者平庵、勝藏、つるかけの土地兵衛、廣五郎、たいこ持とり八、鳥藏、樋口の水右衛門、岩助、やりておかん、松藏、禿市彌、幾次郎、同大吉、松太郎、仲居おかめ、龜吉、同およ、豐次郎、同おます、升三郎、井づゝやおゑん、琴糸、かめや忠兵衛、七五郎、針立道庵、たいこ持紋八、紋次、荷持こぶの傳が母、新口村の孫右衛門、けいせい梅川、歌六、大切道行宮園節にて歌六相勤る、棧敷代十七匁高土間十三匁平土間九匁なり

○十一月三日より顔見勢河原崎座「魁源氏騎士」長谷部信連、くわいらい師でくろく、六兵衛、悪源太義平、旅こむ僧集山實は主馬の盛久、町遣ィ早野や彦助、行司志村長之助、宇治の通圓、藤九郎盛長、三十郎、彌平兵衛宗清、伊豆の百姓下田の浦作、辰姫の奴鶴平、安達盛長、手跡指南南方十次兵衛、町かゝへ野手の三吉、判官盛久、小松の重盛、彦三郎、宗盛の妾熊谷御ぜん、朱雀傾城琴浦盛俊の妻越路、仲町の下り藝者あづま、嵐龜之丞（中村大吉改名す 市村座へ出勤）河波の民部、石橋山木こり杣右衛門、今戸かみくずや與次兵衛、門三郎、土佐の次郎、渡邊の丁七唱、伊豫之助仲綱、下谷山崎町家主千太郎、七五郎、天城りやうしがけ六、八栗太郎景純、野太鼓佐渡七、大庭景親、文五郎、天城灰燒九郎藏、高橋太郎景國關歌助、福原下部浪平、井上次

郎重つぐ團十三、瀧口官人藤馬、近藤三郎行重、團四郎、八坂三郎國弘、志賀の町人玉屋庄三郎、箱廻し喜之介、橘三郎、入沼有季、善次、當今の衞士次郎又、門助、同九郎又、田町鶴かきの萬吉、駒右衞門、衞士のろ又、團次、同作又、馬市、高倉院弟宮以仁親王暫ヶ實は女口口越咲、白拍子妓女大でき盛久の妻しからみ・田町雁お針おせき、關取放駒長吉、實は菊王、建禮門院、歌六、六代御前、新之助、蜑浪路、土佐次郎妹早咲、琴糸、足輕軍平、衞士次郎又、八百善料理人八藏、升藏、守山九郎、りやうし浪右衞門、歌四郎、祐清妹呉竹、下河部妻さゞなみ、圓次郎、おはなし入道見德、奥同者甚六、檜井の藤太、八百善下女おとみ、關原與市、紋治、瀨の尾兼康、布引社人利生水、平大納言時忠、今戸の隱居虱庄八、飛驒左衞門秀國、宗兵衞、近藤判官、大島りやうしどぶ六、武藏左衞門有國、米問屋手代權九郎、山木判官、伊賀平内左衞門、團八、金剛太郎照時、ゑびざこ十、二條の院の童瀧丸、海老藏、きくどし源五、源頼朝、事ふれ、鎌田祐清、平の宗盛、源之助、澤村源之助不下に付彦三郎替り役相勤彦三郎役は中山富三郎相勤る番附には市村座に有之、伊藤息女辰姫、牙藏女房おやま、福原のおはした若菜、山崎屋娘おてる、げいしやおしつ、二條の院、紫若、惡源太義平、難波の六郎大でき 奴木場平、伊藤九郎祐清「暫」金王丸正俊、かごや甚兵衞、關取濡髮長五郎實は松王こてい、清盛入道、團十郎、第一ばん目四立目上るり、清元連中相勤る「木挽花色顏見勢(こびきのはな、にかほみせ)」三十郎、富三郎、彦三郎、紫若 團十郎 第二ばん目上るり大切に相勤る「勝鬨戀顏(かちどきこひのかをぶれ)」歌六、紫若、三十郎、團十郎 清元連中

第一ばん目三立目

暫のつらね　澁谷金王丸昌俊

市川團十郎自作

莊子曰、北冥に鳥あり、大鵬と云、其翼垂天の雲の如し、一度南せんと欲する時は、水擊三千里、扶搖に摶て上ること、九萬里とかや、捨る秋風吹屋町、助ける神の御ひゐき町年に一度のお目見得も、今年は爰に御輿をすへ、根元金剛盤石の、動がぬ、とどをか力瘤、地からはへぬき江戸自慢強が自慢負ぬか得て、清和源氏の正統左馬頭義朝肘肱が耳目とあまやかし、もてあましたる某は澁谷金王丸昌俊當年積て十八年三筋をのせて三十八、はちぶさ

れたるあばれもの、やつとことつちや 運は 天でんとたまらぬ向ふ面足掛三年三十郎名殘の時の見知りごし赤いおぢいで逢ふとはほんに夢にも白絞り河原崎とや油屋の油壺から引出した、うつゝい姉が胴取ならしんぞ命も播磨なべ早が勝の花の顔見せゑび藏の 鎧着たりや木場の武者、祖父二人りが追善に當るといふもねらひの的眞魁の冬牡丹さまたげひろぐやつばらは西門跡の家の棟から伊豆と相撲の鼻の穴へほうり込とホ、敬白

○十一月十一日より**市村座**「貢之雪源氏贔負」(みつぎのはなげんじびいき)熊坂長範實は伊勢三郎義盛、三筋町のごろ付源太郎、青墓の雲介やたら彌八、岩手左金吾實は 冠者丸、惡源太義平、船頭岩藏、主馬盛久、簑助、秀衡息女信女姫、安徳天皇、三八、越中次郎兵衛妻歌町、三筋町綿屋妻おつね、賤の女お柳、熊井妹槇の戸、常世、隼人妹淺香、三しま池田屋おじやれ朝貌、當今侍女てり葉、龜三郎、秦の次郎、膏藥賣熊の傳三、麻布の松わか（市川）團九郎（市川友藏改名なり）阿波の民部、三島神職榊頼母（市川）紅十郎、大沼主膳、金貸五市、五郎市、高橋九郎、金毘羅參り佐五七（坂東）大八、熊坂手下まんだら次郎、關三平、同菟原の兵六（坂東）杢藏、同あし見の與四郎、（荻野）和十郎、向ひ掎丸四郎、（中山）定五郎、同藤平六（坂東）德次郎、同廣瀬のくづきり（しま）松兵衛、同ゑんげの犬藏（大谷）梅太、同越中のけう次郎（桐島）七五郎、同まがへしの彌兵衛（澤村）瀧五郎、同丹波の獅々丸（坂東）今五郎、同下田の太郎（惣領）勘八、犬上太夫（坂東）吉次郎、舍人貢丸（山科）甚吉、狂歌師あたまの光る、事觸義作、藪醫閑仲關の太郎成景、甚六、岩手兵庫景連、三郎兵衛親與四郎、熊井太郎、三島宿の 傘張次郎作、武藏左衛門有國（しやばく改）四郎五郎、舍人荻丸、藤十郎、一子小萩、（市川）德之介、同玉川（松本）小三郎、同遠野、（坂東）大五郎、千歳や遊女賤の尾（澤村）鐵之助、同遊女くだら野、熊坂手の者揚下の小六、次郎太郎、茶道用齋、熊坂手下禪久、大吉、同手下三條右衛門、宇野七郎近春、牟十郎、千歳や遣手お爪、栗野伴吾、義右衛門、筑地の入道淨明、近藤七國平三國九郎彦左衛門、女順禮お市、仲綱乳人眞葛、伊豆の賤女おたみ、おの江、武隈法印、關原與市、革足袋賣孫六、三津右衛門、當今北面彈正輔仲國、右衛門尉基盛、篆刻師三條京談、齋藤二助家（下り）藤川八藏、盛久妹横笛、侍從之介與方名古曾の前、あまもしほ（中村大吉改）嵐龜之丞、秀衡與方雄島の方、千歳屋遊女ときわ木、三郎兵衛妹

おきそ、白拍子熊が谷御前、牛若丸、女達荒波のおたつ實は江の島天女の精靈、ときわ御ぜん、粂三郎、鈴木三郎重家、青墓の旅宿や山中三郎兵衛、三筋町ちとせや彌平次、實は宗清、高野聖覺淨、藤原秀ひら、色事師南八重垣蘭雄實は北條四郎時政、三津五郎、瀧口藏人、若徒袖平、金賣橘次、碁打兵助、平の宗盛、羽左衛門、淨瑠理「恩愛瞎關守」(おんあいひとめのせきもり)(くめ三、三津五郎)第一番目上るり二建目常磐津小文字太夫、同和歌太夫、同政太夫三弦式佐右和佐上て扇藏、幸藏、萬吉、第二番目上るり「栞戀大和同」(くめ三、三の介、三津五郎)龜羽左衛門上るり右連中相勤る此狂言評判よしといへども不入にて入甲斐なく殘念／＼猶十一月廿八日より第二番目けいせい「戀飛脚」(生玉の段道行の段)龜屋忠兵衛簑助き大で仲居おさよ、つね世、同お仲、龜之丞、馬淵軍平、甚六、手代伊兵衛、紅十郎、小間物や與七、吉次郎、呉服屋半藏、勘八、神崎屋喜六、三平、仲居おぎん鐵之助、同おくに、おの江、槌屋治右衛門、三津右衛門、梅川新七、八藏、中の島八右衛門、四郎五郎、梅川、忠兵衛妹おみち、粂三郎、新口村孫右衛門、三津五郎、極木要人、羽左衛門(何れも大出來なり併し不入にて十二月十三日舞納)○十二月十五日より中村座「雪御伽平家」平入道清盛、浪人昇天實は義朝嫡男雷震丸、上方商人紅や長兵衛實は小僧吉三、三浦荒之助義純、吉原大門の四郎兵衛、轉七、安部保名實は惡源太義平、芝翫、長田の庄司、おしち兄八百久、難波六郎、奴上總之介平實は瀬の尾太郎、冠十郎、源頼朝公、小座頭四ッ都實は景清一子あざ丸、茶屋廻り鷺の尾長吉、高麗藏、井場の重藏、主馬小金吾、田町髪結伊之助、八百藏、清盛かしづき八條の局、同妾祇王、堀の船宿難波屋お梅、宗清妻白妙、藤藏、直江左衛門重勝、關屋の俊滿、辻八卦俊滿、佐十郎、官女熊葉の局、家主五左衛門、榎戸の船頭、明烏の勘太、勘左衛門、沼野平太、吉祥寺日親上人、駕かき入谷丹藏、りう藏關原入道蓮來、官女山路の局、千住馬士壺藏、平太郎、二尊院其鶯上人、惟盛與女中移り香、簑の輪の野伏り地藏の六十、たい助、瀧口三郎、舍人友竹、吉原ひやうし音、勘藏、官女濱邊の局、仕丁あわ又、ひやうし源、和三郎、仕丁とさ又、無言堂守寒居、ひやうし馬、光之助、大津の馬士三、ひやうしかつはきの又、千代飛助、神職九内、村藏、阿部の九郎、鶴藏、高橋十郎、森五郎、乙若丸、多門、牛若丸、仲次、侍女常代の局、福原や新造朝しの、團之助、名張太郎、神

職貢、鶴次、八木下八郎、五條橋番根津兵衛、福原屋料理人板八、駒十郎、高橋小文次、別府太郎國連、ひやかし八、冠九郎、中將實貞卿、安部保成、根岸植木屋杢兵衛、當十郎、唐使夢中陀輪、取おけば丶、おとら、鷲の宮水茶屋熊手のお福、澄藏、飯田九郎景次、浪人藤太汐入村鄕士石濱郡次、芝藏、武里妻めまき、祇女、吉原女髮結おさよ、あやめ、ひだの左衛門、吉祥寺尼妙林、花又村組頭芋右衛門、森藏、景淸伯父大日坊、長田下部早見文平、やりてお浪、門藏、熱田社人五郎作、鳶者土左衛門子分、湯島の三吉、田舍大盡惡右衛門、齋藤吾國武、半五郎、典侍の局、淸盛息女玉虫姬、福しまや傾城八しま、玉三郎、奈須の與市宗高、長田景宗、澁谷土佐次郎昌俊、仲の町茶や須摩六、奴三浦之助平實は金子十郎、源之助、八百久妹辨天お七後に佐渡島屋の小夜衣、四條の惣嫁華陽のお玉、常盤御前、殺生石の狐の靈、仲の町茶や むれ高松やお弓建禮門院、菊之丞、彌平兵衛宗淸、吉祥寺の納所辨長、西國浪人寂心、七兵衛景淸、今戸土器師彌兵衛、獵師彌藏實は由利八郎長範、隅田川富士見亭錦江實は宗淸、幸四郎、長田次郎範宗、平宗盛、鹿島事觸茂作實は海龍、傳九郎

淨瑠理　狂亂戀懸罠（うかれこゝろにだしのかけわな）　芝翫　菊之丞　冠十郎　幸四郎
貳ばん目大切　源之助

富本大和太夫　名見崎德次
同　仲太夫　上てふし安次
富本豊前太夫　富本駒介
同　麓太夫　名見崎市十
同　志賀太夫

當顔見世外芝居よりは殊之外遲やう〳〵十七日より始りし處大入大當りにて十二月十五日に舞納けり尤二ばん目は來春狂言の發端にて此看板は其まゝ出し置十七日には來春狂言の趣を吳服屋引札に拵へ其役役を反物に見立通の人々に配りしなり南北の妙作皆如此に手段奇々妙々其引札左に出申候

文政十一戊子二月十八日　願生院極樂善法子　寺は押上大雲寺三代目坂東彦三郎行年七十五歳幼名市村吉五郎とて九代目羽左衛門の二男にて寶曆八戊寅年五才にて初舞臺明和七庚寅の顔見せより彦三郎と改名して度々大當りをとり中にも菅相丞由良之介はおはこにて文化八辛未年中村座にて一世一代名殘狂言に右天神記忠臣藏にて古今の大當りして猶上方へ登り京大坂にても首尾能く舞納夫より黑谷へ行て剃髮し歸國して德本上人の弟子となり樂善坊と云又半艸庵と號す念佛の行者と成日出度西方蓮花座へ初上りにて定て極樂にては座附狂言は熊谷かろかやの大當りなるべし

文政十一五月廿五日　除障明仙信士　俗名松本染五郎行年四十七才寺は深川焔魔堂　市川の介、岩井長四郎、坂東國藏、片岡我十郎　此の四人と西方へ趣かれました

六月廿一日　松阿樹法信士　俗名勝井源八行年五十一才狂言作者なり寺は淺草日輪寺地中安彌院

勝兵衛行年四十三才是も作者にて狂言の作も段々上達の處死去致されおしむべし／＼

◎文政十二己丑年

○正月十七日より市村座「色一座曾我大寄」(いろいちざをかのおよせ)工藤祐經(初役大出來)新川船宿重兵衛、京の次郎祐俊、本町廻りの髮結仁三郎、箕助、結城の若殿光若、三八、糸や後家おりの、重兵衛女房おらい、常世、奥女中竹川、十內妹枝折、龜三郎、山賊彌藏、廻し男義助、三津右衛門、伊豆の次郎祐兼、團九郎、天城三郎、菊藏、糸屋手代嘉市、紅十郎、下田の十郎、梅五郎、糸屋手代源八、五郎市、舂米屋しな六、大八、梶原平三、三平、大磯屋新造あしかの、杢藏、かん酒や四五六、和十郎、仲間角助、貞五郎、新貝の荒五郎、徳次郎、御所の黑彌五、七五郎、愛甲三郎、岡藏、梶原源太、助次郎、同平二、吉次郎、新造うつの、徳之助、いわしや娘おみき、小三郎、管屋娘お大、大五郎、大磯屋禿千鳥、甚吉、大磯のとら、舞鶴姫、糸屋娘おふさ、半四郎、近江小藤太、鬼王坊主新左衛門、おまつり佐七、下男猪之介實は赤澤十內、曾我五郎時宗、菊五郎、賴家卿、藤十郎、扇屋娘おせん、扇之助、粂六娘分おまさ、鐵之助、糸屋の下女およし、春次、梶原下部軍內、次郎太郎、百足屋金兵衛、大吉、山賊がけ八、義右衛門、安のや下男太郎助、半十郎、大藤內、家主太郎兵衛、同女房おさぼ、彥左衛門、家主杢郎兵衛、糸屋手代佐五兵衛(此役は二月二日淺尾爲十郎當着に付二ばん目ばかり相勤る夫ゆへ二ばん番頭と直しけり)甚六、荏柄平太夫妻紅梅、宿老女房お此、山賊化の地藏、山住五平太、京四郎、三浦の義村、石塚彌三兵衛、八藏、小五郎兵衛妹十六夜、新造糸ゆふ、龜之丞、閑坊法印、半時九郎兵衛、四郎五郎、曾我團三郎、神原屋佐五郎、松助、小五郎兵衛妹月小夜、奥女中花咲、仲町藝子小糸、新造若草實は片貝、粂三郎、曾我十郎祐成、浪人小五郎兵衛實は八幡三郎、本庄綱五郎、大磯屋の傳三實は二の宮太郎、三津五郎、御所の五郎丸、肴屋江戶子之介、羽左衛門、何れも大出來なり

此狂言大當りにて提看板へ納を出し古今の大入にて舞納の日にも六十兩上りしと云々

淨瑠理 誰根岸君が手枕(たれとねぎしきみがたまくら)　猪之介、菊五郎　新造糸遊、龜之丞　若草、くめ三郎　同うつらの、徳之介　傳三、三津五郎

常磐津小文字太夫　同 和歌太夫　同 政太夫　三弦 式佐　有和左　連

右上るり舞鶴屋傳三根岸別莊の幕有之候處殊之外大入にして正月末より二月廿二三日迄棧敷土間賣切に付差出し不申殘念〳〵全杜若、梅幸、爲十郎抔加入ゆへならんか又對面の場は近年に無き大出來〳〵

○正月十九日より中村座「紅葉鹿振袖曾我(もみぢにしかふりそでそが)」頼家公下部梶平後に汐澤丹三郎(男にてめのと政岡みへ大でき)肴賣小僧吉三、曾我五郎時宗、渡邊民部、芝衛、地獄淸行實は近江小藤太、八百屋久平、奥女中八汐實は小介妻お倉、海老名軍次、冠十郎、淸左衛門子閉坊猪之介、工藤犬坊丸、神田の與吉、高麗藏、京の次郎後に土手道哲、本田の次郎、八百藏、八幡妹久須美、金澤の茶屋おふじ、鶴喜代かしつき沖の井、藤藏、渡部外記左衛門、滿江御ぜん、佐十郎、家主五左衛門、梶原景季、勘左衛門、同景高、平九郎、非人坊主かへり太郎、たい助、天水軍平、勘藏、たいこ持佐八、和三郎、小藤太下部長介、千代飛助、女講中四ッ目やおてう、村藏、同三ヶ月やおつき、鶴藏、同うろこやおさん、森五郎、御所の黑彌吾、千代藏、愛澤彌五郎、杉藏、鶴喜代君、大三郎、民部悴千松、銀吉、雪の下の踊子おしも、駒次郎、奥女中信夫、繁次郎、踊子おゆき、秀次郎、下女お時、富三郎、大磯藝者千吉、增吉、同萬吉、團之助、手代嘉十郎、鶴次、大磯櫓下何でもや嘉兵衛、駒十郎、百足屋手代淸八、冠九郎、蒲の冠者、當十郎、箱根畑右衛門、虎藏、黑澤丹藏、古かね買孫六、芝藏、奥女中生駒、吉原相撲屋女房お大、あやめ、鬼王、新左衛門、お七親彌七、森藏、渡會銀兵衛、女湯番おゆへ、神並丹左衛門、門藏、角力取虎ヶ石岩左衛門後に門藏景時奥方籬の前、半五郎、曾我二の宮、團三郎妹十六夜、外記娘岩手、玉三郎、雷鶴之介後に團三郎、八百屋雁女お杉、曾我祐成、源之助、梶平妻月小夜、豆腐屋下女お豆、八百屋娘小夜衣お七、御乳の人政岡、菊之丞、劔澤彈正實は伊豆の祐兼、吉三道心辨長後に鼠小僧小介、大場宗益、土左衛門傳吉、工藤祐經、幸四郎、朝比奈、釜屋武兵衛、河野全成鬼貫、傳九郎、

右狂言舊冬引札を以て御披露申上候通り吉例曾我物語に御家狂言をつゞり合顔見勢狂言に奉入御覽候松竹梅の世話狂言第二ばん目に差加え都合三組取仕組奉入御覽候扨當春狂言三立目來る彌生狂言の發端を奉入御覽候

鬼ぬ川友市、芝翫、寒念佛其中實は宇佐美十内、冠十郎、清水左衞門之介義高、源之助、かさねの前生羽生のおきく、菊之丞、石川與右衞門後に破衣の清玄、幸四郎、右狂言相始し處狂言の筋相不分に付評判惡敷ゆへ二月六日より二ばん目「隅田川續俤(すみだがわごにちのおもかげ)」三幕、法界坊、野分姫の幽魂、芝翫、刀屋手代長九郎、冠十郎、同手代半七、八百藏、野分姫お乳人五百崎、藤藏、刀屋岩見、佐十郎、講中おもと、村藏、同おだい、千代藏、同藤八、杉藏、でつち久三、今六、大七下女おこま、駒次郎、同おひで、秀次郎、水茶屋お浪、富三郎、大七下女おます、増吉、講中おさんばゝあ、虎藏、岩永家來大藏、芝藏、大坂屋源右衞門、門藏、刀屋娘お花、玉三郎、景清女房あこや、渡守水棹のおつゆ、菊之丞、夜そば賣二六七兵衞實は景清、幸四郎、石塚大膳、傳九郎、大切上るり「雨顏月姿繪(ふたおもてありしすがたゑ)」芝翫、玉三郎、八百藏、菊之丞 淨瑠璃常磐津連中相勤る ○正月廿日より河原崎座「江南魁曾我(みんなみにさきがけそが)」鬼王新左衞門、舞鶴屋傳三、駕かき金五郎實は吉田の下部軍介、足輕赤澤十内、三十郎、曾我團三郎、十郎祐成、朝日奈、夜そば賣五郎八實は粟津七郎、彦三郎 右役割に出し處如何成譯にや出勤なく旅芝居へ修行にて常陸へ行代中富勤る 八幡三郎、髮結甚五郎、富三郎、吉田家臣小柴嘉門、金五郎母おかや、門三郎、結城友光、茶屋廻り吉、七五郎、大藤内、四方の樽ひろい長太、文五郎、姉場平次、柳橋尾張屋の船頭仙吉、歌助、岩本院行實、十三、梶原下部けち平、定飛脚十兵衞、團四郎、見せ物師萬八、善次、梶原景高、銀兵衞、雪の下米屋五郎七、駒右衞門、辻君おいな、馬平、新貝荒次郎、鳥藏、竹の下孫八左衞門、廣五郎、愛澤彌五郎、龜吉、犬坊丸、三太郎、辻君額の小三實は嘉門娘花子、軍介女房おしづ、工藤左衞門祐經、歌六、賴家公、新之助、工藤女小性吉彌、松太郎、同奥女中宇佐美、槌之助、同久須美、舞鶴屋下女おしげ、琴糸、遠山の禿みどり、紫子松、大姫君かしづき辨、升三、同松しま、團彌、同和歌江、豐次郎、同袖浦、東藏、番場の仲間甚八、川藏、大姫君、染の助、大磯屋下女お梅、雨ごく水茶屋お岩、辰之助、古着や八郎兵衞、地廻り中之郷の七、升藏、箱根の畑右衞門、雪の下酒や清兵衞、歌四郎、二の宮、舞鶴屋下女お安、圓次郎、梶原景季、山出し奉公人肝介、紋治、海老名彈正左衞門、家主ばんばや忠兵衞、宗兵衞、近江小藤太、雪の下金かし源六、松井の源吾、團八、曾に奴あかん平、海老藏、七才にて大出來

月小夜、手越の少〳〵、女髪結おやまゝ實は粟津七郎妹矢橋、三浦屋の傾せい遠山、紫若、箱根の閑坊、辻八卦高崎甚內實は条平內左衛門、駕かき嶋田の八藏、京の小次郎實は吉田の松若丸、男達白柄十右衛門、團十郎

淨瑠理 〳〵鄽の初文 關三十郎 岩井紫若 市川團十郎 第二ばん目中幕に相勤る 清元延壽太夫 同政太夫 同志喜太夫 喜見太夫 鳴尾太夫 清本齋兵衛 上てうし同榮次郎 市治

澤村源之助到着に付二月十六日より第壹ばん目三立目だんまり、幕曾我十郎祐成、清水冠者下り源之助、景清娘人丸、紫若、上總景清、團十郎第二ばん目大切上るり「爰花咲吉野拾遺」衛士又五郎實は葛の恨之介、源之助、定辨律師、富三郎、辨の內侍、和泉の楠の千技狐、紫若、楠帶刀、團十郎、上るり清元連中相勤る何れも大出來にて入も追々增り源之助大評判此狂言は文化十一戌年顔見世に市村座え嵐三五郎下りて「世界花菅原傳授」第貳ばん目大切相勤る、葛の恨之助、三五郎、辨の內侍、千枝狐は古人團之介、楠正行、團十郎にて大當りせし狂言なり〇三月五日より中村座「千本櫻」渡海屋銀平、梶原景時、源九郎狐、佐藤忠信上るり仕出し大峰先達陀樂院大出來芝翫、相模五郎、鮓屋彌左衛門、冠十郎、同彌助、九郎義經、源之助、入江丹藏、こま藏、主馬小金吾、駿河次郎、八百藏、若葉內侍、藤藏、川連法眼、權太母、佐十郎、土佐坊、勘左衛門、藥醫坊、理宇藏、荒法橋、平九郎、鬼佐渡、たび助、庄屋作兵衛、歌十、六代御前、大三郎、安德天皇、福吉、權太一子善太、仲二、娍花咲、團之助、泥川雲八、鶴八、熊井太郎、駒十郎、片岡八郎、當十郎、庄屋杢兵衛、虎藏、早見藤太、芝藏、川連妻飛鳥、あやめ、針箱かせぎお吉、森藏、吉水院所化扇長、門藏、辨けい、半五郎、卿の君、玉三郎、典侍の局、おさと、權太女房小せん、鮎汲花筏おまる、しづか、菊之丞、川越太郎、いがみ權太、覺はん、幸四郎、龜井六郎、傳九郎、當狂言不入に付二番目より

當狂言は去秋市村座にて秀朝丈狐忠信友もり二やく共工夫被致勤しゆへ定て芝翫丈も新工夫もあらんと思ひの外御殿場も一向不動勤し故見物の請悪しく尤見好者は顔計りにて被致しきつい抔申けれども甚不評判成、友盛至て能出來成しが是も左のみにも不言只上るりの先達計り大出來成又當狂言始時は梶原は此度の役の內壹ばん可成と言し處

其思ひそゝり甚悪しく、花道にて床几にかゝり拵して見へ悪しくかへりて予が思ふには淺友の方が能とぞんじけり

○三月七日より市村座「妻花宿錦繪（つまのはなやどのにしきゑ）」尾上松緑十七回忌に付局岩ふじ、菊五郎、下女おはつ、半四郎（後病氣にて粂三郎勤る）、奴袖平、簑助、娩東野、常世（後くみ三番目役にて中老おの江大出来）、同柏木、三津右衞門、同かゞり火、團九郎、同こてふ、菊藏、浮橋、梅五郎、仲間郡内、三平、同鯖内、定五郎、ぞうり取武助、松兵衞、石原郡太、七五郎、仲間角助、吉次郎、小性須摩、甚吉、同明石、藤十郎、娩初春、德之助、同繪合、小三郎、同紅梅、大五郎、同浮舟、扇之助、同關屋、鐵之助、同とこ夏、春次、同早わらび、次郎太郎、同蓬生、義右衞門、同宿木、半十郎、築島門跡、彥左衞門、こし元若菜、甚六、同ふせや、おの江、元濱主膳、八藏、大姫君、龜之丞、手島主税、松助、奴浪平、爲十郎、中老尾上、粂三郎、後半四郎病氣に付おはつの役をかはり大出來なり、北條義時、三津五郎、庵崎求馬、羽左衞門、二ばん目「二代勝負附」關取秋津島、簑助（大出来）同一子國松、三八、井づゝやおしも、つね世、伊達五郎、三津右衞門、志村弟子角力源五郎、團九郎、吹守喜之助、五郎市、土くも丸藏、杢藏、飴うり吉介、小の藏、駕かき竹、岩五郎、やりておつや、今五郎、中門一之介、勘八、奴三藏、助次郎、六角奥方お照の前、半四郎、男達金神長五郎實は八百善、菊五郎、水茶屋お由、大五郎、新造春町、春次、喧嘩屋無理右衞門、次郎太郎、俳諧師修枝庵、大吉、鳴岩五平次、彥左衞門、白船小右衞門、甚六、萩野や佐介、京四郎、けいせい大淀、龜之丞、修行者明月院、四郎五郎、六角要之助、松助、鬼ヶ嶽、爲十郎、中居おとみ、秋津しま女房お里、粂三郎、行司庄九郎、高倉隼人、三津五郎（大切上るり）常磐津小文字太夫（同和歌太夫同）政太夫（岸澤式佐　三藏　仲助）岸澤右和左、此狂言壹ばん目鏡山度々故是ぞと云事も無き處二ばん目秋津島大當りにて五日目より土間棧敷賣切にて大入成し處三月廿一日佐久間町より出火にて尤風下故九ツ時分に燒失せり

「七重八重咲分櫻（なゝへやへさきわけざくら）」坂東三八（坂東簑助）相勤る何れも父秀佳丈被勤所作故大出來也、梶原源太、文遣イ奴、福山のかつき、朝妻船、玉兎、粂仙人、里の娘、三八、和藤内虎狩○三月七日より河原崎座「伊達競阿國戲場（だてくらべおくにかぶき）」渡邊民部、豆腐やの三ぶ、羽生村の金五郎、三十郎、左金吾頼兼、細川勝元（大出来）源之助、山中鹿之助、三ぶ弟三吉、山名奥方榮御

せん、富三郎、外記左衛門、笹の才藏、門三郎、奴ばら門門兵衛、所化祐海、七五郎、黒澤官藏、文五郎、山せげん源六、汐澤丹三郎、道益妻小まき、歌助、小山文平、舞役者品七、澤右衛門、大場道益、衣裳屋いせ五、十三、八ッ山彌忠太、團四郎、三浦若ィ者善八、善次、太こ持歌六、銀兵衛、奴大崎咲平、駒右衛門、同白銀臺藏、馬平、中間むだ介、桃太郎、田舍娘おさき、三太郎、めのと政岡、ぎおんのお梶、歌六、鯉瀧登之介、新之松、千松、團子、禿もみぢ、音吉、同かへで、幾次郎、奥女中袖浦、巴屋女房おきく、槌之助、無理之介妻此花、傾せい薄雲、琴糸、娍いわで、升三、同しのぶ、東藏、岩淵運八、川藏、奥女中松島、染之助、どうりの介いもと賤波、田舍娘おはや、辰之助、大江鬼つら、升藏、鳶嘉藤太、歌四郎、泥之介妻道芝、圓次郎、でつち豆太、羽生村庄屋せゝ兵衛、紋治、山名宗全、家主いつちく太郎兵衛、宗兵衛、浮世渡平、團八下出 鶴千代君、海老藏、大館左馬之介妻沖の井、與右衛門妻おさね、傾せい高尾、紫若、角力取きぬ川谷藏後に與右衛門、仁木彈正直則、同姉八汐、荒し、男之助、團十郎、上るり一番目三立目「澤紫色水上」澤村源之助 岩井紫若 相勤る富本豊前太夫、

同大和太夫、豊美太夫、麓太夫、仲太夫、名見崎與惣治 富本駒介 同豐志介 名見崎德次、右狂言評判能き處廿一日大燒にて七ッ時頃類燒す堺町、葺屋町、木挽町三座共燒失せし事珍敷事也如此大燒故芝居普請も出來間敷と團十郎は高野山へ參詣と云上坂す秀佳親子爲十郎當世抔は甲州の芝居へ趣幸四郎、菊五郎、くめ三抔は伊勢古市へ趣芝翫、冠十郎、東藤藏抔信州へ趣けり尤當年は伊勢大神宮御遷宮にて芝居も殊之外大入り大當りなりしとぞ芝居普請は木挽町早速手斧始にかゝり夏狂言には是非〳〵始めし樣成しがいかゞせしや後にて取還りける葺屋町の方先へ普請出來しけり尤家作道具方迄長谷川が工風故に出來す堺町も長谷川なり普請出來に付◎八月朔日より市村座「小田鴈文臺ひらき」木下東吉、武智光秀、簑助、同悴重次郎、三八、園生の局、常世、佐久間信もり、安田作兵衛、三津右衛門、櫻井小新吾、團九郎、八代條介、治郎太郎、福富平馬、吉次郎、淺山多三、和十郎、足輕權平、助藏、同東内、德次郎、本能寺日和上人、今五郎、山熊太郎、杢藏、小性左門、鐵藏、蘭丸妹若葉、德之助、內藤之介妻みの染、大五郎、山内九郎次郎、曾呂平、光秀妹桔きやう、鐵之

助、中尾治太郎、百姓一作實は小西行長、三津太郎初下り大出來連歌師紹巴、甚六、光秀妻さつき、下り藤川官吉、小野お通、歌六、松下嘉平次、小田春永、三津五郎、森蘭丸、羽左衛門二ばん目「浮名草紅のゝ紙」紙屋治兵衛大當り簑助、伯母おまき、つね世、江戸屋太兵衛、三津右衛門、でっち三太郎、團九郎、たいこ持豐八、大吉、醉だれの治郎、治郎太郎、けんのみの仁太、吉次郎、治兵衛悴勘太郎、勝藏、仲居おきん、德之助、同おいわ、歌柳、同おなる、大五郎、今利屋善六、曾呂平、仲居おつた、鐵之助、紀伊國や伊兵衛、彥左衛門、河庄女房お秋、おの江、願人傳海坊、三津太郎、治兵衛父五左衛門、甚六、治兵衛妻お若、宮吉、小春、歌六、粉屋孫右衛門、三津五郎、岩木新兵衛、羽左衛門、切狂言「大塔宮」齋藤太郎左衛門、簑助、右馬頭一子鶴千代、三八、三位の局、宮吉、妼菊野、鐵之助、同初汐、大五郎、同尾花、歌柳、同野分、德之助、太郎左衛門一子力若丸、勝藏、八才の宮、藤十郎、駿河守範貞、甚六、右馬頭妻花園、歌六、永井右馬頭宣明、三津五郎九月四日より序幕中幕の間へ上るり「拝傘濡網島」常磐津小文字太夫、同和歌太夫、同駒太夫、岸澤右和左、同市藏上てうし同八五郎、同扇吉、紙治、あんま秀市、簑助、江戸屋太兵衛、三津右衛門、紀伊國屋小春、惣嫁およつ、歌六、あめ賣新兵衛、三津五郎、夜そば賣二八の五郎介、羽左衛門、何れも大出來大當り普請出來に付〇九月朔日より河原崎座「一谷嫩軍記」堺町中村座普請出來迄菊之丞スケ第二ばん目ほつたん第一番目二段目口切の間に勤る平左衛門娘三勝、菊之丞、千葉家中赤沼半七、源之助、熊谷妻さがみ、菊之前、薩摩守忠度、歌六、壹ばん目ばかり二ばん目葺屋町スケ越中前司、門三郎、九郎よし經、乳母はやし、七五郎、石屋彌陀六、兎原の田五平、文五郎、梶原景高、勘左衛門、百姓どん兵衛、團四郎、太夫あつ盛、小次郎直家、槌之助、妼小はぎ、歌柳、石屋娘小ゆき、小三郎、妼尾花、東藏、玉織姫、増きち、熊谷郎黨郡次、升藏、人足廻し文次兵衛、平山季重、歌四郎、ふじの方、佳朝、庄屋孫作、紋治、阿波民部、富三郎、岡部六彌太、熊谷直實、三位經もり、源之助、貳ばん目「菊月千種の夕映」藝者の箱持半七、源之助、今市善右衛門、紋治、三勝親平左衛門、七五郎、三かつ母お黑、文五郎、左官市八、廣五郎、善右衛門娘おその、槌之助、筏乘り音、無敵流の指南岩沼佐平、野守藏、刀屋傳八、升藏、下女お丸、虎藏、非人曉伴助、歌四郎、

船宿大見や新藏、富三郎、むきみ賣伊之松、三太郎、仲町げいしやみのや三勝、菊之丞、大切所作事上るり「菊蝶東籬妓」五變化、淺間嶽色脚、鹿島浦、子守、女達、石橋、富本連中相勤る長唄連中相勤る

○顔見世十一月十六日より市村座「智仁勇愛頼三津」

鏡の宿女郎いばらき實は純友の娘快童丸後に金時、半四郎、壹ばん目スケ卜部季武、袴垂保輔、三島宿馬士由藏、間野中納言政義卿、越川宿百姓良助實は將軍太郎、簑助、良助一子頁松、舍人雪若、三八、仲光妻早わらび、良助母、お針おてつ、常世、平時盛、肴賣長、三津右衞門、豐後守平惟政、三田八幡神主伊織、鏡の宿女郎屋藤兵衞、三津太郎、清水所化玄哲、衞士芝八、はい諧師銀河、甚六、惟盛家來大原久馬、柴屋町家主忠兵衞、彥左衞門、良門郎黨伴七、越川宿庄屋與九郎兵衞、曾呂平、左大臣道長卿、仲光郎黨多賀八郎、和十郎荻野な坂東と改狩人扨八、吉次郎、政義家來岩倉源吾、鬼藏手下小六、奎藏、堅田りうし鷹九郎、勘八、久世七郎、惣領扇作、坂戸六郎、助藏、仕丁伴六、二三藏、惟政郎黨八瀨八郎、鐵藏、同綴喜の四郎、淸六、同小奈田三郎、勘平、同愛宿の六郎、德次郎、鬼藏手下猿の仁太、巨勢右衞門、狩人竹六、三平、親王の舍人月若、荻の藤十改紋三郎、同花若、三太郎、將門殘黨武藤五郎貞世、盜賊鬼藏實は碓井貞光、瀨田の橋番人松兵衞實は三田源吾、山かづ實は三田の仕、花造又次實は平井保昌、齒磨うり五郎、三十郎、舍人春若、甚吉、仲光の小性餅彌、市川仙兵衞、蓬壽丸の奴男田平、岩井男金、はたごや下女おせん、都路筆松海士もしほ、歌柳、妼深ゆき、海士なぎさ、女商人おはし、辰之助、粧姫の侍女紅梅、賤女おみや、市川德之助、仲光茶道新才、鬼造手下赤田膺藏次郎太郎、眞海阿闍梨、賴光郎黨八田部喜太六、十三、春宮兼仁親王、賴光家臣八十の八郎、五郎市、心學沙不負、塗物師武右衞門、大吉、賴信家來嘉藤次、鬼藏手下土六、良門郎黨眞間籾次、歌助、道長息女粧姫、藤壺女官松枝局女商人おつぢ、鐵之助、妼墨江、鬼藏母おしら、女商人おれん、おの江、淸水そふじ番塚右衞門、山伏享鶴院、鏡の宿地廻り源太郎、團九郎、仲光家來川越忠太、院の公卿成取卿、石山蜆賣牛六、紋治、惟政息女玉綾、仲光の乙子美女御ぜん、女順禮お瀧、官吉、純友一子十太丸、下り片岡市藏、良門姉賢壽尼、良介女房お賤後にごぜみさほ、柴屋町藝者お歌、藤壺女御、

歌六、滿仲家臣藤原仲光、渡邊の綱、伊豆の山姥、三田仕事師三星の市、百姓萬作、源賴光、三津五郎、瀨田橋床水揃香吉、賴信公、花山院の一宮懷仁親王、羽左衛門、第壹ばんめ四立目上るり常磐津連中相勤る

上の幕明霞前彈三の介、牛四郎宮吉、三津五郎三十郎、羽左衛門　雪笠里土産三十郎牛四郎三津五郎

此狂言大入にて後不出して不譯だんまり斗り三幕尤片市延着ゆへみやげ狂言として○十二月二日より

「廿四孝」三段目口切　百姓慈悲藏、簑助、高坂妻唐織、常世、百姓正五郎、三津右衛門、長尾景勝、三十郎、百姓戸助、紋治、鑓彈正、百姓横藏、市藏、鑓の妻おの江、じひ藏妻お種、歌六、高坂彈正、勘助母田毎、三津五郎、役者揃ゆへ何れも大出來大當りなり

○十一月十五日より河原崎座「倭いろは鏡」畑六郎左衛門時能、脇屋次郎義時、天川屋でつち伊吾實は大星力彌、聟の受今戸橋商人槌兵衛實は相模次郎時行、絹賣彌市、白柄十左衛門、百新左衛門、新田義貞、澤村源之助、舞子お百合、新左衛門妻八雲、六郎太夫娘こすへ、助太夫娘八重梅、小侍從、鹽谷奧方かほよ、龜之丞、藥師寺次郎左衛門、赤松圓心、淵邊信連、男達唐犬權兵衛、坊門淸忠、宗兵衛、新田奧女中道芝、玉琴姫かしつき初霜、中の町尾張屋お竹、槌之助、鷺坂入道伴内、足輕彌太郎、紙くず買うづら權兵衛、義右衛門、政山太郎、平九郎、飛脚ひよん介、澤右衛門桃井保淸、南瀨六郎、田町大惣でつち八五郎、團四郎、三條河原非人箱虎、足輕忠太、雲介の音、銀兵衛、鹽谷縫殿之介、三井寺門ばんくだ兵衛、三升米五郎、師直郎黨後名八郎、三浦若者庄兵衛、きりしま駒右衛門、神事の奴にほ平、市川廣五郎、同をり平、市川子之助、そつ平、中村鈍平、同おく平、きりしま松兵衛、ふこ平、市川九十郎、同ゆめ平、中村專八、同せす平、尾上政藏、由井濱船頭浪六、市川團平、同九郎作、雉子藏、師直の郞黨手本の九郎、善次、足利直義公、中村鈍之助、神事いねり子倉若丸、中しま和田右衛門、同小天狗丸、かなぼう音吉、小性京枡玄治之介、大三郎、篠塚五郎照政、備後三郎、升風呂湯汲めつぽう彌八、盜賊けさ太郎、本庄若徒助八、寺西閑心、粟生左衛門、スケ三桝源之助、八才の宮、新之助、小姓柴大和之介、市川松次郎、神事ねり子龜安丸、團子、同藤若丸、紫子松、木場供丸、市川富太郎、鬼子丸、淺尾幾次郎、五條坂駕かき伴六、澤村川藏、高の師直、大津牛飼の多六、市川升藏、鹽谷判

官、澤村田十郎、石藤妹浮橋、玉琴姫かしつき霜夜、中の町あふみや女房おちか、琴糸、妼寒梅、松次郎、同ぬるで、市川升三、玉琴姫かし付かへで、澤村東藏、同深ゆき、師直妹久方姫、土手水茶屋お花、岩井七之助、栗生妻夕しで、八才の宮めのと八汐、女髮結おつや佳朝、桃井若狹之介、青貝師六郎太夫、男達だいば仁三、七五郎、楠正成奥方櫻井、勾當內侍、白拍子島寺の袖、小梅代地烟草やお六、柳島妙見靈星、幡隨長兵衞女房おとき、半四郎、本藏娘小浪、藤房卿息女玉琴姬、妼若菜實は小山田太郎妻宿り木、女修行者妙典、舞子お梶、白井權八、傾城小紫、紫若、楠正行、小奴さゝら三八、うゐろう賣虎屋藤吉、大舘左馬之介照時、茶屋廻り小僧吉、長兵衞一子長まつ初暫人形にて相勤る海老藏

此芝居不入にて續狂言無之暫は女にて紫若相勤暫の人形を持出舞臺へ來ると海老藏と替り相勤る此一幕は茶ばんにて始終忠臣藏の役割にて相勤是より幕ごとに狂言替り申候十一月廿五日より

「女鉢木」源左衞門妻白妙大出來澤村源之助、時姬、龜之丞、船橋八郎、團四郎、時賴入道、三升源之助出勤なくかわり七五郎、源藤太、宗兵衞、白妙妹玉笹、紫若、青砥五郎、海老藏、竹本都太夫、同戶志太夫野澤市助同十九八源之助白妙大出來也然共不入故入甲斐なく殘念〳〵〳〵第一ばん目四立目

「天正同戲場門松」澤村源之助、三升源之介、嵐龜之丞、岩井紫若富本連中相勤る

○十一月廿三日より中村座「金幣猿島都(きんのざいさるしまだいり)」純友實は伊賀壽太郎一子金剛丸、六部法界、通圓の如月尼實は將平姉みくりや、多田滿仲、田原千晴、坂田藏人、源之助、北白川安珍實は文珠丸賴光、能勢源吾光貞、八百藏、光貞妻小幡、七綾の侍女櫻井、船ばしげいしや八兵衞實は上總之介妻白浪、藤藏、公連郎黨軍藏、瀧夜及めのとしゝのと、醫者中山こんにやく、相馬公家工中納言、文五郎、神澤彌九郎、坂東太郎手下雲七、八兵衞母おいも、芝藏、坂東太郎手下若平、犬上兵藤、冠九郎、同照助、高橋文太夫、勘左衞門、同雲太、かるこお丸、澄藏、同瀧六陸奥三太郎角西、理字藏、坂東手下杉丸しらせ十太、駒十郎、同飛八、雲介八、鶴次、坂東手下猿松、安波之介盛笠、和三郎、尾島三郎友行、池田土佐之介、光之助、雲介六、源滿仲の郎等兵太、千代飛助、同伴藏、森五郎、同香取三郎、千代藏、同門太、歌十、同源六、京右衞門、同大久、杉藏、境藏、峰藏、同軍平、七五三藏、純藏一子重太九、大三郎、足

柄屋悴金太郎、多門、將門の十八禿快童丸、岩井久次郎、同鬼童丸、大谷福吉、同茨木丸、市川坂藏、同大江丸、岩井鎌吉、同磐若丸、中村歌木、小舍人卜部の季丸、仲次、まつりのてこまひ兼、梅太、同音、鳩之助、山賊音藏、染藏、多田息女おとみ、菊世、旅女郎おべく、駒次郎、同おけな、秀次郎、同おまね、七綾侍女初霜、増吉、旅女郎おどん、侍女八重がき、富三郎、將門妹七綾姫、にし木、馬士伴七、山賊岩藏、七人藝里遊、闕屋五郎、歌四郎、山伏滿海實は大内之介安とし、生田七郎、小金牧士當馬、門三郎、じやくまく僧都、貞盛後岡五郎定友、碓井荒藤太、黑雲入道、半五郎、籏田の仕、八坂の淨藏貴所、船頭大作實は伊賀壽太郎左衛門、家主庄兵衛、大芦原將軍、冠十郎、將門實は滿仲息女夜叉ひめ、船橋足柄屋おつた白さくら子女盜賊とゞろき、眞那子娘淸姫、秀鄕奥方矢橋、菊之丞、田原藤太秀鄕、時廻り半平實は上總之介、白拍子花子實は忠文靈、すみ友、筑波山强賊坂東太郎、藤原忠文、芝翫、筑波の賊石くろ、伊與の太郎、白雲入道多田冠者滿成、傳九郎、第二ばん目上るり所作利たかノヽ向ふ梅菊もぬ「道成寺思戀曲者(だうじやうじこひはくせもの)」中村芝翫、白拍子實は忠文の靈瀨川菊之丞白拍子さくら子の替紋に白拍子とれ事

富本豊前太夫　同 齋宮太夫　同 仲太夫　同 千代太夫　同 秀太夫
名見崎徳治　同 安治　上てふし 同 喜十郎　名見崎市十郎

常磐津小文字太夫　同 松壽　同 祖賀太夫　同 千歳太夫
岸澤式佐　同 仲助　同 芦吉　岸澤角露

長唄　富士田新藏　芳村孝三郎　芳村五郎治　菊若芳三郎　芳村伊久四郎
三弦　杵屋三長助　杵屋勝太郎　杵屋慶次郎　杵屋佐市　杵屋喜三郎
ふへ 住田彦七　同 菊川孝吉　小つゝみ 大西德藏　大つゝみ 福原門左衛門　たいこ 福原百之助　小つゝみ 寶山左衛門

當芝居普請出來候處彼是延引しやう／＼十一月廿二日より初りし處狂言面白き作意にて入相花王を增補し別て第二ばん目道成寺之場芝翫白拍子奴と成大勢に取かこまれ難義に及ぶ處え菊之丞誠の白拍子にて舞臺へ來りわたしが病氣ゆへ芝翫さんにおどりを賴と言てはいる大勢是にてしづまる芝翫是より所作有とゞ忠文の靈と成迄大出來大當りにて十二月十七日迄興行也

幸四郎こま藏番附には入たれども當年は京都に相勤居申候

文政十二己年十月三日
瑞班院政譽郡好居士
俗名二代目荻野伊三郎行年八十歲葛飾に住法名群好始め尾上紋三郎後に坂東三津五郎と改め寬政年中より伊三郎と改名す

文政十一戊子年十二月九日
清心院好譽知道居士

實子三代目荻野伊三郎行年四十三歳俳名仙花始め尾上紋三郎と云後仙花と成

文政十二己年
速成院法就日身信士

俗名松島てうふ俳名左交行年六十三歳始め松島陽助又半二と改夫より師の名跡を續ぎ二代目櫻田治助と改去亥年よりてうふと改名

田嶋此助是も二枚目の作者なりしが故人と成られしは殘念〳〵

中山龜三郎是も久しき人なりしが黄泉の客と成しは惜べし、中村佐十郎死去上方にては正月廿九日華岳宗薫信士市川市藏四十一歳　淨雲院宗潤信士中村芝猿四十歳　四月四日片月衒岡信士片岡蝶十郎四十三歳

文政十二己十二月廿四日
蘭山義芳信士
實惡花方
上々吉(下半白)

俗名二代目市川鰕十郎行年廿四歳幼名助藏とて堺町にて臺柏の狂言には半七娘お通の役子役ながらも能勤し親父新升と上坂被致去々年親父に長き別れと成直に名跡を被續今若手のきゝものなりしに定業とは申ながら殘念〳〵

・

文政十二己丑年十一月廿七日
一心院法念日遍

俗名鶴屋四代目南北行年七十五寺本所押上春慶寺葬禮は寅正月十三日深川櫓下より此日は二の卯にて殊之外賑々敷ことにて見送りの者には團子を笋皮づゝみ外に大帳に拵へし小本一冊づゝ出しけり此本外題は「寂光門松後萬歳」

南北碑之表

一心院法念日遍　　鶴翁南北冢

石碑右之脇之文

鶴屋南北はじめの名勝兵衛故ありて鶴屋氏を犯しぬうまれつき滑稽を好て人を笑せしを業とす終に歌舞妓作者の中にては抜群の才ありて十種曲門とのふりを寫し人の心にかならん事を要とすされどよむ事をきらわれ文盲なりと云自ほこる事なし文政十二乙丑霜月二十七日とし七十五才にてみまかりぬ上の戯場の作者たる事五十四年也罷なんとする時子弟等を呼て云々

是より左の文にうつるなり細書してわかりがたく右之文ばかり寫出す此文六樹園之書なり

花江都歌舞妓年代記續編卷の五

文政十三庚寅年より天保二辛卯年十二月まで

◎文政十三庚寅年（天保元年）

○正月十三日より市村座「曾我評判比翼男（そがひやうばんひよくおとこ）」工藤奥方なきの葉、白井權八、片貝、幡隨長兵衞女房お時、大磯のとら、半四郎、助太夫娘八重垣後に小紫、唐犬權兵衞妻おみち、大磯やお傳實は衣笠道具屋娘おかめ、少將、紫若、曾我十郎祐成、朝比奈、男達夢の市郎兵衞、あん梅よし成家、簑助、大友の法師丸、小紫、禿、三八、助太夫妻みや、金貸地獄おせい、料人熊五郎、箱根畑右衞門、三津五郎、市郎兵衞子分うづらの三五郎、大江家老和田孫三郎、三津太郎、京の次郎、おかめ母おくら、甚六、唐犬子分藤八、久下玄蕃、宗太郎、曾我の若黨鬼王、新左衞門、道具や手代藤助、彥左衞門、醫師見澤曾呂平、三浦義村、和十郎、三浦屋若者藤六、吉十郎、大磯傾城梅澤、男金滿壽丸、吉松、小紫禿、紋三郎、船頭直吉、三太郎、曾我五郎時宗、本庄若黨八內後に唐犬權兵衞、八幡三郎、三十郎、幡隨一子長松、ゑび藏、新造かいこ、甚吉、大藤內、十三、みうらや四郎兵衞、五郎市、梅澤小五郎兵衞、大吉、のり賴、歌助、龜菊、鐵之助、米屋女房おくの、矢左衞門妻乙些、悴白井甚九郎、紋次、大江息女しのぶ姬、質やの娘おせん、友吉、白井兵左衞門、伊豆次郎まむしの次郎吉、釣かね彌左衞門、市藏、助太夫、工藤祐經、花川戶長兵衞、絹屋番頭後に江戶紫大盡、三津五郎、本庄助市、腕の喜三郎、羽左衞門

ハテめづらしい三とせの對面　爰奥野記殿狩衣（ここにおくのかいはのかりきぬ）　長唄連中　坂東三の介　關三十郎　坂東三津五郎

世の中な色に遊びて過ごしここ　雅榮花大盃　清元連中　此上るり不出

道行おかめ與兵衞色直肩毛氈　坂東簑助　岩井紫若　常磐津連中

○正月廿八日より中村座「虎石想曾我（とらがいしねんりきそが）」朝比奈初役、曾我五郎助、井場十藏、家主かつ吉、勘吉、畠山重忠、源之助、千葉家中石培勇藏、團三郎、八百藏、賴家公、曾我下女おふし、藤藏、宇佐美彌忠太、晝鳶目玉の十、文五郎、盜人仁太、大學下部眼介、芝藏、百足や千代、金兵衞、堺町仕切場五兵衞、冠九郎、梶原景高、三浦の奥女中岩浪、理宇藏、茨の左衞門、木賀軍平、駒十郎、

宮下丹藏、和三郎、高嶋や次郎介、光之助、梶原源太、勘左衞門、雲介地ごく清六、千代飛介、愛甲三郎、千代藏、建長寺和尙、京右衞門、御所の黑彌太、杉藏、大磯禿ゆるき、仲次、大磯のとら、二の宮初右衞門娘十六夜、金五郎妻、辻君のおさん、歌六、金五郎娘おかん、大三郎、とら禿千鳥、多門、高嶋や娘おてつ、菊藏、舞鶴屋傾城小磯、駒次郎、同六浦、秀次郎、久須美彌太夫、化地藏哲玄、森藏、新造喜瀨川、増吉、濱村屋下女お玉、富三郎、新造手越、にしき、大藤內、高嶋屋小者清八、虎藏、石田爲久、願哲法印、歌四郎、半澤六郎、秩父重保、門三郎、和田義盛、おさん母鳥のおくら、古嶋主税實は小藤太、半五郎、近江八幡之介實は鬼王新左衞門、尾上之助召仕、千葉家中此村大八、畑の初右衞門、館野景久、冠十郎、梛の葉、新造龜菊、河津の娘京の小女郎、濱村屋路考、大姬の靈菊之丞、工藤祐經、岩藤大學之助、曾我祐信大當り中村座留場金五郎實は金谷金吾、曾我十郎祐成、同五郎時宗、芝翫、閉坊、權吉、赤澤十內、傳九郎、上るり富本豐前太夫、同安和太夫、同大和太夫、宮崎正九郎、烏羽や伊久利、同里壽名見崎德次男草履打の仕組、文化八五月中村座にて歌右衞門三浦荒次郎、佐の兵衞、源之助、佐の源左衞門相勤、其後文政八年五月同座にて幸四郎岩藤、玄蕃、曾我太郎左衞門菊五郎、宇佐美尾上之助相勤しなり

眞の枕は唐の越雲
仇枕は倭の祐經　通俗妓容三國志　第一ばん目五立目

三桝源之助
三升大五郎
中村歌六
坂田中次

中村芝翫相勤

當芝居より中村歌六出勤

○二月四日より河原崎座「千本櫻」川越重賴、三位惟盛、いかみ權太、平の知盛、佐藤忠信、源九郎狐、横川覺範（七やく大出來）源の助、主馬の小金吾、源よし經（下り）市川市十郎、川連女房飛鳥、佳朝、辨慶、儀右衞門、龜井團四郎、土佐坊、銀兵衞、駿河次郎、米五郎、早見藤太、駒右衞門、梅本の鬼佐渡、子之助、藥醫坊、龍五郎、百姓松六、九十郎、同秀右衞門、團平、山科荒法橋、善次、六代御前、權太悴善太、松次郎、彌左衞門妻お辻、國十郎、川連法眼、升藏、若葉內侍、琴糸娍梢、升三、同早枝、東藏、鄕の局、權太女房小仙、七之助、猪隈大之進、澤右衞門、梶原平三、七五郎、彌左衞門、宗兵衞、靜御前、おさと、龜之丞、熊井太郎、景清一子あざ丸、海老藏、淨瑠理「道行初音旅（みちゆきはつねのたび）」龜之丞、源之助、清元志喜

太夫、同倉太夫、同富士太夫、相勤貳番目「隅田川續俤」法界坊、野分姫の幽魂、源之助、手代半七、市十郎、大坂や源右衛門、儀右衛門、夜そばうり二八、團四郎、講中ばゝァおとら、銀之助、堤文平、米五郎、代官牛島大藏、善次、でつち長太、鈍之助、富の札うり當八、升藏、野分姫、七之助、道具や市八、澤右衛門、道具や甚三、七五郎、手代長九郎、宗兵衛、石見娘おくみ、龜之丞、渡し守木賤、紫若、市村と兩座勤北條時五郎時光、ゑび藏

淨瑠璃　二西東錦繪　澤村源之助　市川富十郎　岩井紫若　嵐　龜之丞　清元延壽太夫　志喜太夫　倉太夫

棧敷代　金三分貳朱
高土間　金二分三匁
平土間　金壹分

○三月十一日より中村座「櫻時清水清玄」義仲一子清水志津摩之介、清玄、軍助倅清太郎、男達樂平、源太、源之助、山田の三郎、渡守文五郎、八百藏、斑女御前、局八坂、野吾妻藤藏改中村芝鶴、藤澤將監、姉川平馬、文五郎、道具屋小兵衛、繼母おくら、芝藏、吉田の家臣小栗左衛門、代判のやす、冠九郎、大姫のかし付岩沼、理守藏、植木や茂吉、駒十郎、石濱丹平、つる次、大江家中樋口左中、光之助、鈴鹿見藤太、粟津の下部八助、勘右衛門、非人の音、千代飛助、呉服や長七、森五郎、玄蕃下部關内、歌十、同可平、杉藏、大姫討手軍藤、京右衛門、兵藤、七五三藏、同勝藤、梅太、めしもり女お丸、みね藏、番頭杢七、染藏、大江一法師丸、大三郎、三郎左衛門娘照天、梅若の實母梅柳院、水茶屋祇園のお梶、歌六、梅若丸、仲次、娵のわけ、菊代、同初瀬、駒次郎、同枝折、秀次郎、本倉遠之進、森藏、櫻姫かし付山吹、増吉、同初音、富三郎、賴朝息女、大姫君、にしき、ごろ付きざ忠、虎藏、清水の同宿逆縁坊、天狗小僧手下辻風の音、歌四郎、吉田の少將、お梶親軍助、清水の轟坊、門三郎、惡五郎、友成、平尾脇本陣、いづや仁三郎、源五郎弟郷助、半五郎、粟津六郎俊兼、奴鳥羽平實は盗人牛松、井の源吾後におべく親地藏の三、横山玄蕃時益、冠十郎、大江息女櫻姫實非人照天、下女おべく、天狗小僧霧太郎、けいせい花子太夫、吉田の松若丸、菊之丞、清水住職清玄阿闍利後小栗常陸之介兼氏、吉田下部浣平後男達信夫の惣太、後鳥羽院神靈、芝翫、北條泰時、判人の庄兵衛、傳九郎、第二番目上るり「第二番目九變化」中村芝翫九へん化「葉越の月安宅古

例」長唄里の子、甚吉、歌木、辨けい、芝翫、引拔て「八嶋落官女の業」長唄官女肴を入たる臺を首にのせ「豊後國布刈の祭」常磐津連中「乞巧殿牛市の賑」富本連中傘牛花道よりせり出し引拔にて「浮世風俗娘揃ひ」富本連中七夕祭り短冊をかつぎ娘の形引拔になり「一ッ星長者の倉入」常磐津連中かけ合よばひ星相手猫芝藏「喜撰庵の茶呑説」「花見酒戯男」富本れん中淺草奥山茶屋女と勇み男と後ろ面の所作「淺草に仁王靈驗」十社權現の由來長唄りやうし子役不殘九變化芝翫何れも評よし富本豐前太夫、同齋宮太夫、同大和太夫常磐津和歌太夫、同政太夫、綱太夫、長唄富士田新藏、芳村伊久四郎、三弦杵屋三郎介、杵や喜三郎、閏三月初旬より菊之丞病氣にて引込勝に罷成不入となり同十三日より同廿六日舞納、「腰越狀」三段目口切 泉の三郎、源之助、義經、八百藏、三郎女房高の谷、芝鶴、奴銀平、文五郎、同卷平、芝藏、同金平、駒十郎、同黑平、千代飛助、五斗兵衛娘德女、甚吉、關女、歌六、婉里枝、菊世、同若葉、駒次郎、同立田、秀次郎、奴ふち平、森藏、婉うたの、富三郎、奴鎗平、歌四郎、伊達の次郎、米五郎、錦戸太郎、冠十郎、五斗兵衛、芝翫、龜井の六郎、傳九郎、壬三月廿五日舞納○三月十三日より市むら座「全盛陸奥山」足利賴兼、彈正姉八汐、細川勝元、簑助、政岡一子千松、三八、民部妻沖の井、常世、鳶嘉藤太、ぜげん文吉、三津右衛門、山名持豐、三ふ弟二三、三津太郎、とうふやでつち豆太、甚六、汐澤丹三、勘左衛門、大場道益、同妻小槇、曾呂平、いせしや鳥右衛門、和十郎、岩淵軍八、吉十郎、奴萩平、杢藏、同石平、勘六、靑地十內、助藏、山田彌源次、二三藏、高尾禿たより、相藏、同あすか、茂作、新造若葉、甚吉、同かひで、紋三郎、小性熊田甚之介、三太郎、嶋田十三郎實足利左京亮、豆ふや三ぶ、井筒外記左衛門、三十郎、大舘左馬之介、ゑび藏、鶴千代丸、紫子松、鶴千代かし付千ひろ、蔦五郎、同浪路、升三、けいせい玉の井、德之助、同もゝ二郎、槌之助、賤の女お此、春次、仲居おみつ、辰之助、仁木下部田子平、伊三郎、笹野才藏、十三、茶道順才、大吉、三浦や若者次兵衛、五郎市、黑澤官衛、歌助、傾城寄波、鐵之助、大江の鬼つら、團九郎、山中鹿之助、宗太郎、家主太郎兵衛、友次、けいせい高尾、官吉、菅野小助、仁木直則、百姓金五郎、市藏、與右衛門女房かさね、粂三郎、絹川谷藏、榮御前、百姓與右衛門、三津五郎、浮世戸

平、所化祐海、荒獅子男之助、羽左衛門（第二ばんめ浄るり）

荒獅子男之助せりふ　座元　市村羽左衛門

ア、ラあやしやナア今荒獅子男之助照秀のざんしやに御前を遠ざけられ御寐所のゆか下にとのゐにゆだん荒事は江戸市川のかぶしきをちよつとかりるもしんるいだけまねて三升を角うずは先祖のゆずりの古上下ひつばる筋くまつらのかわあついやつだとおしかりをおわび事やら胸もわく／＼出てみりやごろつきあるくちい／＼めうぬもたゝの鼠じやアあるめへ出羽奥州の二ヶ國でりきしやとよばれたかなこぶしそんじよそこからとりよせた此鐵扇をくらわぬうちきり／＼いちくわん渡してしまへ

江戸櫻衆袖土産（三之助／三十郎）くめ三清元延壽太夫（政太夫／喜代太夫）相勤る

歌山三の介ぼうふらおどり大出來、文政二年秀佳、芝翫（梅玉）二人り奴のふり也、名古屋山三後藝者箱持甕助、不破伴左衛門舞臺に引拔赤やつこ三十郎、傾城葛城後げいしや粂三、大切禿くめ三、あわしま三の介上るり常磐津連中相勤る大入（大當り四月上旬迄興行）〇三月十一日より

河原崎座「添削筑紫䙁」加藤左衛門繁氏後にかるかや道心（古今大出來）禿の宿玉やの與次、多々羅新胴左衛門、源之助、桑原女之助、高野同宿喜悦坊、市十郎、監物妻橋立、佳朝、黒塚鬼藏人、高野同宿分口坊、義右衛門、高野山の同宿宗悦坊、宗兵衛、大佛新兵衛、關口隼人、團四郎、鬼菱當馬、娍小柳、銀兵衛、外山左衛門、米五郎、横口戸平、駒右衛門、獅子坊鄉竹、廣五郎、友坊大學、龍五郎、若徒八介、鈨平、五嶋平馬、團平、松倉圭水、九十郎、松浦左門之助、善次、與次娘かどた、甚青、駒澤一學（下り）澤村雄次郎（助高や金五郎の事なり）こし元紅梅、歌柳、同早わらひ、升三、同桔梗、東藏、高野山圓實阿闍利、庄屋太郎作、澤右衛門、關白良基公、升藏、繁氏奥方牧の方、琴糸、義弘の奥方櫻木、通陽門院、七之助、監物太郎信俊、播州浪人藤馬、同宿安心坊、七五郎、大内義弘、大江刑部左衛門、宗兵衛、黒塚浪千鳥、龜之丞、與次女房おらち、新胴左衛門娘夕しで、紫若、菊池多門、ゑび藏、二ばん目「戀娘昔八丈」（白木やの段／鈴ヶ森の段）髪結喜三郎、源之助、堤彌源次、市十郎、お駒母お霜、佳朝、佃屋喜藏、儀右衛門、河原崎座頭取川藏、團四郎、同はやし方市郎兵衛、前五郎、同幕引箱とら、銀兵衛、同西棧敷久兵

衛、駒右衛門、同若衆の迭り竹、善次、尾花六郎右衛門下り雛次郎、白木や丁稚勘太、鈍之助、げいしやお増、升三、高嶋の下女おまき、東藏、紀の國や中はたらき喜太、澤右衛門、白木や下女お松、琴糸、奥女中竹川七之助、大和屋中ばたらき八藏、升藏、白木や庄兵衛、七五郎、同手代丈八、安兵衛、奥方萩の方、龜之丞、おこま、紫若、芝金屋小鰕の十、ゑび藏

四月十二日より長唄所作 桃櫻戯暖幕（やよひのはなおふぎのだんまく） 澤村源之助 岩井紫若

内裏雛 [illegible] 仕丁 [illegible] 源之助
后 官女 [illegible] 矢根のやつし 紫若

長うた 松永忠五郎　岡安喜代八　富士田吉二郎　芳村長三郎　信田勝次郎　[illegible]長五郎
小つゞみ 望月太左衛門　太田市郎兵衛　田中傳四郎
大つゞみ 西川政藏

三味線 杵屋六三郎　同 長四郎　同 六四郎　同 巳太郎　同 勘九郎
たいこ 坂田十兵衛　望月太左衛門
ふり付 藤間大[illegible]

當狂言之内

棧敷代廿七匁五分、高土間廿五匁五分、土間十七匁五分大入にて三月より十二月を打越し四月十四日迄興行古今大當り澤村訥升「千本櫻」より大きに其上に此度の大當りにてますます評判よし○五月十八日より

中村座「眞寫いろは日記（しきうつしいろはにっき）」矢間十二郎、藥箱持直介權兵衛、源之助、若狹之助、文遣喜介實は千崎、大星力彌、八百藏、乳もらいおすわ實は平右門女房お北、大野下女りん、芝鶴、浪人運八、醫者要伯、文五郎、伴内、鐵砲彌八、芝藏、百姓與一兵衛、花賣おまつ、冠九郎、今村半太夫、下部るり平、理字藏、下部關內、料理人喜介、駒十郎、村松三太夫、腰元おたか、勘左衛門、高の下部鄉助、千代飛助、人足六、森五郎、赤松傳藏、七五三藏、早見藤兵衛、峯藏、かほよ御前、九太夫妻お禮、堀部娘おきそ後に新造敷妙、女非人しがらみのおくみ、方字やの八ツはし實は近藤下女おかよ、歌六、足利直義公、菊世、けいせい浮はし、駒次郎、同野はし、秀次郎、家主半六、乳母おかや、森藏、こし元九由吹、藥者おきよ、增吉、こし元若葉、仲の町蔦や下女おつな、富三郎新造模橋、潮田妹ふせや、にしき、太田了竹、浪人赤の亦九郎、歌四郎、田代藤左衛門、原鄉右衛門、義平女房おその、門三郎、石堂右馬之丞、山名左衛門、半五郎、御所詰番加古川本藏、同妹となせ、浪人小山田庄左衛門、狸の角兵衛、山川屋義平、堀部彌太兵衛、冠十郎、高野の妾富の方、由良之介女房おいし、菊之丞、

不動高の師直、鹽谷判官、斧九太夫、早の勘平、山川や悴伊五郎、九太夫娘小浪、鎌開宅兵衛、寺岡平右衛門、佐野次郎左衛門實は近藤源四郎、大星由良之助、芝翫、藥師寺次郎左衛門、すまのがま六、大高源吾、傳九郎

○四月十九日より市村座「忠臣藏」本藏女房となせ大出來一文字や女房おまき、半四郎、桃井、勘平、おかげ參り若の介、天川屋義平、錢助、鹽谷の小性右門、三八、おいし、仲居おつた、つね世、種ケしまま六、下女りん、太田丁竹、甚六、せげん源六、吉左衛門、富森助右衛門、曾呂平、原郷右衛門、和十郎、大こもち平八、杢藏、潮田又之丞、勘八、片山源五、扇作、勝田新左衛門、助藏、勘平母おかや、桃朝（先に花井才三郎今頭取）桃井の女小性留木（八段目道行計りとなせ）紋三郎、足利義直公、三太郎、判官、本藏、平右衛門、不破數右衛門、三十郎、よし松、紫子松、婉若藤、甚吉、仲居おなつ、德之助、同おはる、春次、同おふし、總之助、近松勘助、伊三郎、本藏家臣梶川磯兵衛、十三、浦松三太夫、五郎市、一力亭主、大吉、千崎彌五郎、歌助、仲居おきく、錢之介、本藏妹となせ、仲居おのぶ、おの江、矢間十太郎、三ひんの佐介、宗太郎、狸の角兵衛、でつち伊吾、たいこ公家八、紋次、山名次郎左衛門、めつぽう彌八、三津右衛門、石堂右馬之介、竹森喜太八、三津太郎、師直、斧九太夫、同定九郎、與一兵衛、市藏、かほよ御前、小なみ、こし元おかな、おその、靑華女おきん、粂三郎、大星由良之介、堀部彌次兵衛、三津五郎、力彌、羽左衛門、八段目浄るり「旅路の嫁入」おかげ參り、錢助、となせ、紋三郎、小浪、紫子松、女商人、くめ三、清元延壽太夫、政太夫、伊勢太夫、相勤何れも大評ばんにて六月上旬迄興行す

七段目茶屋場由良之助、三津五郎にて三弦を彈く、其唱歌に

うきといふ聲はひとつでもつらいときの憂（うき）とエ、浮世心うき／＼うきたつ浮世のおなじうきよにあそぶならういて遊ので夫でうきと申すなりナント九太さんそじやないかもつとも至極じやどふりじやと誉てくれねばあわぬぞへしゝの自作

○五月九日より河原崎座「忠臣藏」師直、本藏、勘平、定九郎、與一兵衛、となせ、天川屋義平、伊吾、放下師、出來作、寺岡、ゆら之介十一やく、源之助、判官、矢間、市十郎、伴內、丁竹、義右衛門、片岡源五、めつぽう彌八、園四郎、せげん源七、下女りん、銀兵衛、大わし駒右衛

門、一力亭主簑兵衞、善次、直義公、伴之助、石堂、千崎彌五郎、雛次郎、よし松、助藏、本藏妹となせ、仲居おます、七之助、娘早苗、仲居、お豐、歌柳、姫小はし、仲居おうら、升三、原郷右衞門、狸の角兵衞、澤右衞門、種ケしま六、赤垣傳藏、山名次郎左衞門、升藏、おいし、仲居おうた、琴糸、おかる母竹森もゝの介、七五郎、九太夫、數右衞門、宗兵衞、おかる、小なみ、龜之丞、かほよ、力彌、仲居おりう、賤女お岩、おその、紫若、大舘左馬之介、海老藏、上るり八段目

澤紫榮二株(みなとはなさかへのふたもと)　源之助　となせ　仲居　放下師
　　　　　　　　紫若　賤の女　龜之丞　小濱

宮本連中相勤る　何れも大出來にて六月九日迄興行

○六月十六日より市村座夏狂言「太刀作武藏折物(たちづくりむさしのわざもの)」佐佐木岩流、白倉傳五右衞門、笠原新三郎、佐藤正清、市藏、那照千代丸、三八、熊澤甚之丞、三津右衞門、吉岡帶刀、和十郎、近藤鍋松、中間鐵平、吉十郎、富山千之助、山の内蟹丸、森藏、大宮新之介、勘八、植島傳右衞門、助藏、寶來允才兵衞、二三藏、雲介の八、德次郎、阿部方右衞門、巨勢右衞門、小宮宅藏、雲介又、三平、木曾山の童子、吉松、こし元小きく、仲居おまん、男金葉すへ娘、仲居おみち、德之助、那熊太郎、若徒與五郎、伊三郎、大本武右衞門、立浪主膳、十三、百濟典膳、傳右衞門、女房関の谷、曾呂平けいせい東路、鐵之助、倉橋存右衞門、森本義太夫、甚吉、正清與方清瀧御せん、常世、宮本武藏、みの介、花森官次郎、傳右衞門、娘糸萩、眞柴久吉、新左衞門第二番め「夏まつり」三幕目圍七、市藏、釣船三津右衞門、團七一子市松、吉松、なまの八、吉十郎、軍平、助藏、こつはの權、三平、琴浦、德之助、佐賀右衞門、曾呂平、釣舟女房おつぎ、鐵之助、義平次、甚吉、團七女房お梶、德兵衞、女房お辰、常世、一寸德兵衞、鎌助、玉嶋磯之丞、新左衞門、當夏狂言古今大出來なりし所中村座にて怪談狂言初り不入にて早々舞納殘念〳〵○六月廿六日より中村座夏狂言「南□□栄妙法經(みんなみくりきのきしぼし)」三圍の嫡子後に善日丸　日蓮上人、梅若一子犬若、鶴岡勘作後に小畑小平次、南部七郎一子日藏、藤澤待の四ッ谷おいわ、龍光山七意の精、木こり彌三郎實は海盜日眞太郎、八百藏、極樂寺所化學林坊、おでん繼母おかく、穢多皮はぎの忠三、文五郎、東條左衞門景信、同苗惡五郎、勘左衞門、瀧田の三郎、藤橋忠太、光之助、鎌長

寺所化利久坊、神主梅左京、千代飛助、東作下部那古平、森五郎、同めら平、千代蔵、百姓共蔵、杉蔵、神主のつとの主馬、七五三蔵、禰一作、秀三郎、座頭のこ市、歌十、島士方吉、峯蔵、平の左衛門、色蔵、建長寺兒白菊、其吉、助作伜短市、八重蔵、中山娘お梅、荷負、藤三郎妻おつね、駒次郎、中山女房お峯、秀次郎、女とひかかァおぼん、富三郎、四ッ谷左内之進、同兵衛、女房およつ、冠九郎、本間の六郎、醫者中山これにや〳〵、森藏、越の左衛門、おいわ伜お留、助作雅吉内、門三郎、叢古左衛門後に梓白黒天女、妙那女房波木井娘七里、建長寺兒白き、、助作女房おでん、三國局梅荷後に浪人西條金兵衛は實者の職がよ丸、歌六、石井の藤太、法師池前坊箱根入道道了併七、鉢頭法華長介實は通上五位左衛門、傳九郎 [illegible] にて拜させし也

上るり [illegible] 甲斐指と面身延 八百蔵 歌六 傳九郎 富本連中相勤處大入大當りにて無此上事

○八月朔日より中村座「妹背山」三段目より四段目迄 後室定高、橘姫、歌六、久我之助、でつち子太郎、八百蔵、大宰の娘小菊、芝鶴、家主茂木兵衛、紅葉の局、文五郎、櫻局、芝蝶、荒巻彌藤次、冠九郎、梅の局、駒十郎、宮越玄蕃、酒屋ば、助左衛門、仕丁太郎又、業蔵、同次郎又、千代飛藏、こし元ふせや、七五三藏、同枝折、菊世、同かへで、秀次郎、萩の局、増吉、萩の局、富三郎、御所女中おむら、森藏、大宰娘きよふ、にしき、入鹿、冠十郎、ひな鳥、おみわ、菊之丞、求馬、ふか七、大判じ、芝翫、玄上太郎、鎌足公、勘三郎、中狂言「曲輪日記」長吉姉おせき、歌六、山崎與五郎、八百蔵、ふじゑ東、芝鶴、講中六郎兵衛、文五郎、原有右衛門、芝藏、山さき與次兵衛、門三郎、下駄の市、駒十郎、のでの三、千代飛助、手代庄八、森五郎、毛妙林、森藏、かごの甚兵衛、冠十郎、藩髪長五郎、娘吾照、菊之丞、放駒長吉、芝翫、幻竹右衛門、勘三郎、何れも大出來大當り、上るり太夫竹本三好太夫、同東太夫下り同香の太夫、三味せん鶴澤彌吉郎下り同政五郎、第貳番目所作事「月雲花閨扉（つきゆきはなのせきのと）」菊之丞、芝翫、月、とくさ刈芝翫、雪、關女菊之丞、花、關兵衛芝翫、小町菊之丞、上るり常磐津小文字太夫、松壽、駒太夫、三弦岸澤式佐、同金蔵、同扇蔵○八月四日より市村座「一ノ谷」熊谷直實、薩摩守忠のり、鑓助、卿の局、けいせい菅原實は田五平妹おしも、半四郎、小姓左

門、三八、藤の方、常世、人足廻し兵衛、三津右衛門、庄や孫兵衛、甚六、醒ヶ井兵太、彦左衛門、鷺原景時、曾呂平、成田五郎、百姓忠吉、和三郎、赤間軍頭太、吉十郎、砂岡兵藤次、奎藏、久賀山正藤次、勘八、高根勝藤次、淺山次郎、助藏、荒川藤内、二三藏、百姓武吉、德次郎、同與五作、こせ右衛門、常作、妹槇の尾、田口金平の通盛公、三十郎、敦盛、德之助、忠清妻染衣、こし元小槇、春次、盛次、妻うら葉、辰之助、堤の軍次、伊三郎、三草四郎、百姓五左衛門、十三、同丹平、五郎市、同與四郎、歯ぬきの與四郎、大吉、大館玄蕃、百姓文平、紀次、玉なり姫、石屋娘小雪、鐵之助、道中の次郎、関九郎、菊の前、乳母はやし、おの江、須の股軍平、紋次、みだ六、鹿原の田子平、市藏、熊谷妻さがみ、菊の前、条三郎、源の義經、岡部の六彌太、忠度、三津五郎、五條三位、俊成卿、猪左衛門、二ばん目「新靱帯屋注文」、箕うら段介、箕助、長右衛門妻お徳、常世、針の宗兵衛、三津右衛門、家主六郎兵衛、十三、たいこ持彌介、和十郎、いとや娘お吉、吉十郎、惣嫁おふじ、奎藏、鹿沼九次右衛門、勘六、とめ女おたく、蔦五郎、同おみし、扇作、雲介源、二三藏、同安、德次郎、仲居おふじ、春次、同おみよ、辰之助、幸左衛門、下部谷平、伊三郎、たいこ持小介、五郎市、おはん母おかや、おの江、でっち長太、紋次、片岡幸之進、同幸左衛門、市藏、ぎをんのお梶、条三郎、しなのやおはん、六波羅土手のお六、半四郎、帯屋長右衛門、三津五郎、香具や才次郎、半左衛門、上るり「月友桂川浪」上下 三津五郎半四郎両人 清元連中相勤大當り〇八月廿六日より「岡崎廓 市川哉眞砂簾」若木當馬後に小紬の源五郎、眞柴久吉、左枝政右衛門、源之助、白拍子小百合、湯女お照 中村富藏 尾上菊次郎 なり久秋屑樂、瀧瀨川求馬、市十郎、足柄女房お縫、湯女お秀、佳朝、小田有樂齋、駒田久馬、足柄金藏、升藏、竹通姫、角藏、娘お梅、傾城千代鶴、七之助、村井傳藏、堀山寺開祿、義右衛門、鋼島市松、遠藤宿藏、勘藏、同熊八、高田幸藏、平九郎、人形やでく助、奥同者虎作、鍛兵衛、左中辨藤實公實は岡田小藏、高木次郎太夫、三浦常陸之介、幸四郎、大舘左馬之介、新之助、神田與吉實は眞柴小口、土井熊太郎、高麗藏、禿たより實は左右衛門悴右郎市、みび藏、禿もみぢ實は菓子松、同しのぶ、松太郎、小津左門、助藏、姥早わらび歌柳、湯女お澤、東藏、傾城花紫、仲居おやま、升三、求馬下部並藏三上

百助、團四郎、軍平妹佳の江、けいせい若紫、琴糸、謙
園町石ばしや伊三郎、岐部左近下り 松本鋼助、片桐下部
軍介、桃谷權内、宗三郎、方右軍平、印金堂伊兵衛、才
五郎、潮田主水、庄や庄右衛門、角屋後家お徳、宗兵
衛、傾城陸奥、熊海湯女お芳下り 鳶鶴之丞、小早川高景、
佐佐木左司馬之介下り 市川壽美藏中山富三郎事 石田の前、左司
馬妾花咲、傾城瀧川實ハ五右衛門女房おりつ、紫若、此
村大炊之介實は大明の宗蘇卿、髮ゆい三筋の綱五郎、
石川五右衛門、團十郎

附錄　市川團十郎

去寅年大火に付芝居普請中高野山參詣いたし京大
坂の芝居え引留められ大坂道頓堀中の芝居にて
「ひらがな」梶原平三、船頭松右衛門、二ばんめばん
隨長兵衛三役、是を初として數々勤られ、此地を首
尾能名殘り狂言相勤、夫より京都、いせ古市、尾張
名古屋、越中立山より中山道に出られ街八月木挽
町に乘込、茶屋の兩側に難波の贔負より送られし
のぼり四五十本立並べ、其賑々敷盡しがたし 尤團十郎十一オにて市川白猿と申候 當芝居道具建上方表之仕方に被致評判よ
く大入大當り也

○九月廿九日より「大内搜」奴與勘平、葛の葉姫、葛の
は狐、源之助、石川惡右衛門、壽美藏、木綿買吉太、宗
三郎、石川長等入藤駒右衛門實は藤馬平、岡澤藤藏五
郎芹屋道滿幸四郎石川郎等山東三九郎、木綿買段六、
龍藏、庄司女房、伴朝、信田の庄司、宗兵衛、安部の
童子、ゑび藏、奴やかん平、安部の安名、團十郎○九月
十三日より中村座「熊野霊驗栗街」池の庄司、源之
助、小栗のしも部鐵石又平、八百藏、てかの後家ふじ
澤、芝鶴、横山三郎、文五郎、石塚新作、芝藏、後藤太
夫、冠九郎、横山下部管平、駒十郎、同鳴平、千代飛助、
柚よき藏、森五郎、同二郎藏、千代鳥藏、非人六、杉藏、
同音、秀三郎、茶道順才、七五三藏、太田左淺香、けい
せい常陸、歌六、足利左馬之介、菊世、秘田箱木、同次
郎、同梅澤秀次郎、同四の宮、增吉、同若瀨、宮三郎、同
はつせ、にしき、飛脚左仲太、森藏、左馬之介、訴八上
総左京、門三郎、横山大膳、門番藤兵衛、須藤角太郎
後横山玄蕃、冠十郎、けいせい松山、女非人初花、横山
蔘安照手前、菊之丞、横山太郎、河野や後久實は太こ
持才介、星川雲八、小栗判官兼氏、芝翫、二ばん目
「近頃河原の達引」藝子おかん、歌六、井筒や傳兵衛、

八百藏、おしゆん、芝鶴、足立の家中ふじ嶋忠九郎、家主權兵衞、文五郎、醫者達ぐわん、古手や非筒八郎兵衞、芝藏、判人義介、冠九郎、げいこ小新、增吉、仲居お糸、富三郎、げい子小金、にしき、米や八兵衞、牛飼六、森藏、おけん養父佛仁介、與次郎、母おしづ、門三郎、傳兵衞兄爪仁竹、冠十郎、扇文の仲居白ふじのおげん、菊之丞、猿廻し與二郎、芝翫

上るり 嚴部代壽 舞菊之丞 芝翫 富本豐前太夫 大和太夫 富本[illegible] 志賀太夫 名見崎德治 名見崎市十 名見崎忠五郎

○九月十七日より市村座「故衣襤褸錦」郡山奥方初瀬御前、半四郎、高市茂右衞門、みの助、同庄之助、三八、次郎右衞門女房お岩、常世、須藤六郎右衞門、三津右衞門、彥坂甚六、春藤助太夫、和十郎、奴權內、吉十郎、同米平、李藏、同馬士權次、同森平、勘八、同喰內、馬士三藏、助藏、同牛平、馬士山泥次、二三藏、同さむ平、德次郎、つらの仁藏、こせ右衞門、相の山お杉、德次郎、お玉、扇作、こし元お梶、男金、比丘尼明珍、紋三郎、同おしげ、德之助、助太夫娘おろく、春次、森岡德三郎、五郎市、奴與五郎、十三、こし元おまき、鐵之助、春藤下部佐五平、團九郎、相川逸八、紋次、加村宇多右衞門、市藏、入江奥方渚姬、条三郎、春藤次郎右衞門、三津五郎、同弟新七、春藤次郎兵衞、入江小太郎俊行、羽左衞門、「關取二代勝負附」高倉隼人、木村庄九郎、鑊助、秋津島女房おしづ、常世、角力取鳴岩浪五郎、彥左衞門、同籠石、曾呂平、土くも紀次、秋津島一子國松、吉松、水茶やおだい、筆松、けいせい大淀、辰之助、六角伊達五郎、伊三郎、手代太助、大吉、鐵ヶ嶽網右衞門、市藏、秋津島國右衞門、三津五郎（此度角力の一世一代にて勝見連中よりのぼり數本芝居の前へ立大入大當り）六角要之介、羽左衞門、第貳ばんめは別の狂言お半長右衞門、是又半四郎、三津五郎御兩人ゆへ、諸人皆後世にかゝる名人はあるまじとて大評判なり、九月廿五日より大切に

所作 大和詞手爾葉部 片岡市藏 坂東みの介 清元延壽太夫 同 政太夫 同 [illegible]太夫 清元齋太夫 同 市次 同 金 清元榮次郎

所作彙題 業平人形ひな猿廻し、山歸りいさみ おかね おふみ 馬方 片市

長唄　芳村□□　富士田吉四郎　同 新九郎　同 若三郎　芳村□□
三味線　杵屋佐吉　同 和吉　同 和七　同 三五郎　同 佐介　同 きの介　同 淵吉
笛　住田長五郎　同 金太郎　田中左十郎
小鼓　同 長吉　同 佐五郎　田中傳左衛門
大鼓　小泉長治
大こ　六郷新三郎　小泉長三郎
付振　松本五郎市

いづれも大出來大當り○十一月朔日より河原崎座「一陽來復澁谷兵」(いちようらいふくしぶやのつはもの)渡邊左門源貞、平の宗もり人足觀し茂次兵衞、主馬小金吾、崇德しんいん、万才寶土佐冠者希義、六や〻、源之助、庄司娘糸いふ、宗盛かしづき朝良、新院妾白拍子祇王、白拍子祇王、總之進、長田太郎、わつばの前王、新院の藏人長光、今戸の船頭三吉、高麗藏、備中のびん久坊、熊坂手下、桐山九郎、本場新猿、進の次郎純次、開九郎、難波六郎、熊坂手下次郎、料理人喜介、宗三郎、隼人郎實は來山友純、藤芝居頭取嵐此五郎、たい助、盜賊がけ藏、金貸忠吉、撫藏、熊坂手下、松浦五郎景純、入山澤藏、夜そば賣東や二八、團四郎、庵原へん太、若沼德平、銀兵衞、瀨の尾太郎、木場河岸上ケ八、木場藏本、鍋七郎、熊坂手下大鼻八郎、團内、平家の公達保童丸、多門、讃岐流人小猿の淸八、熊坂太郎實は鷲尾三郎、長田の庄司、幸四郎、高雄山の子坊主どんぐりゑび藏、うし若久次郎、六代御前、新之助、高倉の宮侍女、初霜、唐吉、あまなきさ、高倉宮、七之助、三條右衞門、蔦香あせ留、助左衞門、關の次郎、熊坂手下八郎、升藏、新院妹伏屋姬、鐵漢師、讃岐や抱へお金、鐵之助、猪の早太、渡部日、多田藏人行綱、京宿御女香、杉本淸陽軒、七五郎、陽谷かし付待從、重頼妹が良るいさぬきや女房おしま、白拍子熊谷御ぜん、高瀨足輕長谷平實は長谷部長兵衞、茶せんうり實瀧口ぎおふ、町かゝへ伊之介、難波六郎常遠、表着、いさ御ぜん、待宵侍從、源太郎御ぜん、櫓下の引手茶や口先のお六、菊之丞、金王丸女房雷のお鳴、宗盛の姿實は惡右衞門尉娘雷姬、常磐暫、遠藤武者、讃岐の流人惡の源太郎實は惡源太、牛飼豐六、三位中將通盛實はごろ付團林の五郎吉、團十郎、番太郎娘破竹のお竹實は惡源太女房妻姬、紫若

此時曾我の蓮華寺にて坊主大善上るり「稲荷双六甲冑緣記」(なりもりすごろくかつちうえんぎ)

源之助　菊之丞　齋宮太夫
龜まこ藏　團十郎　富本豐前太夫
富すみ藏　志賀太夫
瀨

宮崎名見崎連中

宇治川八幡祭市川

○十一月五日より市村座「源平戲場年代記」九條の

雑士ときわ、半四郎、近江屋女房おまさ、女順禮おさし、辨才天神靈、半四郎、崇德新院、法華山袈裟太郎、わたり料理人竹松、平の宗盛、義助、宗もり侍女山太の局、丹左衞門妾夕しで、ふきや町橋や女房おしま、鎌田又八妹おつた、常世、飛彈左衞門實は大倉勝貞、醫者醉庵、宇治賴長、三津右衞門、武藏の左衞門有國、おふむ吉兵衞、歌助、早咲かし付小梅、仲の町女藝者おつち、紫妻、三井寺の行者じやくまく坊、唐物や五郎兵衞、督呂平、信田三郎常時、田町の法印女三院、十藏、松山庄や無理右衞門、大吉、高橋判官、市村座留場の指八、和十郎、女主るり越行、深雪姫かし付いなせ、竿松、もしほ、升三、同岩はし、大七、下女おたき、與三郎、同下女おさよ、松太郎、宗盛の奴宗太郎、いろ手杢藏、同こせ右衞門、市村座小道具方、大新、扇作、源の乙若、久次郎、土佐次郎奴つた平、甚吉、當今の女童千代丸、相藏、同喜代丸、茂作、同幾代丸、紫女太、同八千代丸、紫子松、同松代丸、三次、渡邊瀧次郎信淸、左馬頭義朝、丹左衞門尉元春、二十郎一ばん目計り二ばんめは中村座スケ回國女六部小嶋、紀文妾お爲、菊之丞坂三津と中なり當今侍女初花、仲の町巴屋娘分おもん、紋三郎、長田郎等、鬼夜叉堀の船頭伊之介、吉十郎、宗もり姬住の江、萬五郎、南部才郎妹もり岡、與三郎、伊豫の三郎五郎市、片言入道女西、其角門人都木、儀右衞門、一條次郎貞宗、冬奉公人三介、伊三郎、女かいらいしおろく、土手水茶やおせん、辰之助、深雪姫かし付久方、女醫者歌仙、佳調、瀨の尾太郎、琴の指南お袖、水茶屋おせん、矢大臣門雛渡やお北下り瀨川多喜惠先大谷廣之助事長田太郎景宗、星影平内左衞門、向しま植木や木作、市藏、長田庄司娘八重絹、小松重もり、坂東順禮札六、江戸太郎重信、紀文大盡實は主馬の判官盛久、三津五郎、瀧谷金王丸、新宮次郎、十八代二條の院、羽左衞門、

上るり「片太相路橋關戸」市藏三之介紫若多喜惠團十郎常磐津連中相勤

十二月より二ばんめ富本連中上るりにて「女伊達」、「子守」、菊之丞、大切淺間、淺之丞、おうしう、三津五郎、きくの丞、何れも大當り〳〵 ○十二月朔日より「姬小松」三の切龜王、三の助、女房お安、つね世、深山喜藏、三津右衞門、谷間の東六、歌助、小主の軍太、和十郎、小督の局、佳調、しゆん官、三十郎、小辨、吉松たなしの江元甚六、有王、市藏、あつまや妹鶴の前、紫若、主馬判官、大切所作女達おはま、子守おしず、奥州

のゆうこん男達白船久右衛門、三郎右衛門、ねつ長兵衛、歌助

「雛雪寄結綿」きくの丞 巴之丞 三つ五郎「其儘淺間嶽」長唄連中 はやし連中 富本連中

一陽來復澁谷盾 筆一ぜん目三 立目相撲る 將兵衛 瀬川如皐 河原崎座

澁谷金王丸、市川團十郎、つらね、三升自作

達磨大師の容貌に日蓮花徹夫の花道は教外別傳の木實の結び倩女離魂の迷をたつ如何禪師才牛の意現前の紺莚壽太刀末廣のいろ／＼と七代目出度三升の紋是ぞ十方一ト目眼なるかならぬか成田屋が大喝一聲揚幕から片手の蘗を掛烏帽子素袍は緋の下手自慢澁谷金王昌俊といふ情しり今年で漸々十四歳逆に讀ばいつの間に四十往合盛朝がおやかしたるやんちやん育氣まゝ育は延すぎた枝に杖つく九十九髪百々くり三年どんぐりは八代目ばゝのがき八年壁にむかつて九年ぼう十年積て市川へかゐる氣じやもの木場の者我儘歩行のどら息子どらは千里をかへり花顔みせ贔に御目見えに妨ひゐぐ奴原は外に思案も無外法河原崎の家の棟から不二と筑波のすてつぺんほうり出すとホヽ敬白

○十一月七日より中村座「鐘業綱顔見世」源の頼光、强盜鬼同丸、坂田藏人、碓井貞光妻柵、芝鶴、三しま神職堅木主水、藤原の仲光、あせ六親大介、門三郎、國侍與次郎兵衛、夜番の太郎兵衛、猪の熊入道雷雲、森藏、大工の長彦左衛門、奥野藤太、質や勘右衛門、冠九郎、浪川八郎近友、道具や床清、駒十郎、橋立三郎兵衛としかつ光之介、市原藤間、米五郎、天野屋勝六、勘八、地廻りやね吹の勝、千代飛助、船頭仁介、染藏、戻橋本の抱お丸、森五郎、同おやゑ、千代飛藏、同おうみ、歌十、あひる新堀の小ちよく、お豆、歌木、伊賀壽太郎、足柄山の盗はんにや丸、人形うり土作、平井の保昌、ごろ付三五郎實は栗木、又次、三十郎、紀の忠久妻瀧夜叉、才念娘どもりおとく、賤女おやま、保昌後妻矢はし實は玄蓮妻御厩女遣赤染のおもん、皇武部、歌六、在所娘中山踊おとく、德之助、夜叉法印、熊右衛門、澤瀉ひめ、かしづき深山けいこ所娘おきみ、春次、同菜の戸、琴糸、物部の平太、山賊うん八、けいしや深川、百介、芝藏、義若めのとはやし、又次母おれい、おの江、丹波太郎鬼秀、戻りはし本抱おぢん、所化てん馬坊、文五郎、大江太郎娘しら菊、白雲比丘、叶や下

女おたみ、珉子、大江山番賊、鬼平吾、一ッかねの才念、法算の行者牛右衛門、宗兵衛、卜部の季武、頼光下部關內、ごろつき清兵衛、牛追ひの竹藏實は伊與太郎、有信めのといよの局實は渡邊妻、箕田快童丸後金時、葛城くもの精、傀儡女澤瀉姬、けいこ所娘うでのおきさ實は貞世娘おわしま、粂三郎、袴垂保輔實は將軍太郎、雲の絕間之介、童子太丸純基、山かづ斧藏實は三田の仕、足柄山姥、奴駒平實は大江太郎、大工次郎吉實は渡邊綱、注古後家熊實は小紫、あせ六、芝翫、第一ばん目二立目上るり「詠は嵐の山柚花束紫徒は嵐の快童熊の月輪」頼光、源之助、牛追ひ、冠十郎、あわしま、八百藏、おもだか姬、くめ三、奴芝翫、同大詰妙閒之介實在鳴神上人紫衣「雲帶千丈瀧」貞光、源之助、黑雲、芝鶴、白うん、みんし、お山、かろく、鳴神粂三、絕間、芝翫、大當大出來、南北一子勝兵衛死す始め坂東鶴十郎と云ひし樂善彥三の弟子なり、「足柄山賤舞」常磐津小文字大夫連中相勤

◎天保二辛卯歲

中村座市村座は去暮十二月廿三日夜小傳馬町よりの出火にて類燒に春狂言は休なり〇正月廿日より河原崎座「河津繫曾我本說」十郎祐成、手習師林田兵介、あやめ人形うり菊介、鬼王新左衛門、根師清十郎、畠山しげ忠、源之助、鬼王妹十六夜、片貝、けわい坂少將、娘上るり竹氏夏藤兵衛、梅澤や嫁つや、龜之丞、團三郎、八わたの三郎、本田の次郎、ゑびすやの荷負ひ金介、こま藏、梶原平三、傍閒大九郎、新猿小林朝日奈、但馬や手代勘九郎、團九郎、清水の冠者、宗三郎、大藤內、但馬や飯焚しなは、たい助、半澤六郎、娘上るり箱持忠吉、勘藏、かばの冠者、林三太夫、團四郎、梶原源太、鼓いしや常住、銀兵衛、梶原平三、龍藏、千葉之介、加古川の足輕眼兵衛、本塢藏、江間の小四郎、船頭砂利八、團內、箱根別當行實、姬路屋傳八、平九郎、馬士畑左衛門、草力の三、紀次、けそう文うり、文六、但馬やでっち友介、鈍之助、愛甲の三郎、大島村の万作、駒右衛門、頼家公、多門、朝日奈一子與市、かげ清一子あざ丸、ゑび藏、小鏡坂大日坊、工藤祐經、古かね買喜藏、梅澤や五郎兵衛、根津八右衛門、幸四郎、伊豆の次郎、じごく清兵衛、勘左衛門、舞鶴や女房お濱、水茶やお倉、富三郎、義高妹紅梅姬糸やのおきふ女上るり津賀龜にしき、舞鶴やかゝへ夕貞、品川の藝者中村屋おいく、七之助、大磯

屋傳三、千葉家中花梅玄藏、升藏、三浦の片かい、娘上るり越後、鐵之助、久上のせんし坊、近江の小藤太、但馬や九右衛門、七五郎、二の宮、大磯のとら、藤兵衛女房お瀧、富瀧、八わた三郎實は赤澤十内開坊、但馬や手代、勘五郎、氏夏の姉お百、富三郎、月小夜實は梛の葉、舞鶴姫、おこや、五郎吉、女房おしな、但馬や娘お夏、菊之丞、梅澤や小五郎兵衛、五郎時宗、かげ清、喧嘩や五郎吉、朝比奈藤兵衛、露の五郎兵衛、團十郎上るり「最迫戀男容」清十郎、源之介、おなつ、きくの丞、氏なつ、龜之丞、五郎吉、團十郎、富本豐前太夫連中大當り○三月三日より河原崎座「牡丹蝶初旹」北條よし時、中老尾上、源之助、こし元早枝、龜之丞、望月主稅、高麗藏、奥女中楓山、新猿、同やるせ、團九郎、同松しま、宗三郎、同[illegible]、銀兵衛、同淡花の、木場藏、同さゝの、團内、松おせの、勘左衛門、同行富、竹藏、いしや勇庵、たい助、てうちん持さぼ八、善次、女小姓金彌、あた吉、同青柳、菊壽、同銀彌、露太郎、同花の、助藏、小性左衛門、高次、同右門、幾次郎、奥女中花形、菊代、同綾瀬、にしき、同浮舟、東藏、若菜、富三郎、同夕がほ、増吉、同初音、七之助、同竹川鐵之助、足輕壬生平、七五郎、奥女中關屋、富瀧奴江戸平、杉森彌源次、喜若藏、大姫君、尾上召仕おはつ、菊之丞、尼御臺林の方、大の左衛門、局岩ふじ、團十郎、武ばん[illegible]「五大力比翼紋」源五兵衛、源之助、笹本娘分お京、龜之丞、代官桑山伴藏、ことゑ藏、家主六郎兵衛、新猿、奴土手平、團九郎、越谷伴左衛門、宗三郎、料理人喜助、紺助、千しま千太郎、團四郎、たいこ持木曾八、銀兵衛、外山總藏、木場藏、ゑわしの彌介、幸四郎、けいしや露吉、にしき、同庄吉、菊藏、笹本娘分おすみ、富三、同おてう、増吉、けいしや安吉、七之助、出石左衛門、七五郎、若徒八右衛門、壽美藏、げいしや小萬、菊之丞、笹の三五兵衛、團十郎大當り〳〵

普請出來に付○三月廿八日より市村座「五山桐」眞柴久次、吉川五右衛門、三の助、御臺若山の方、大炊之介女房呉竹、五右衛門女房おりつ、常世、蛇骨ばゝ、三津右衛門、櫻井熊太郎、歌助、仲居おしづ、紫妻、たいこ持平作、和十郎、行長妹さかき、住調、仲居おやす、雛松、新造竹川、升三、仲居お花、松太郎、奴楯平、奎藏、同穩平、こせ右衛門、同的平、扇作、同弦平、德次郎、中間百内、鐵藏、同はし内、二三藏、五右衛門一子五郎市、吉松、禿わかな、相藏、同うら葉、茂作、同花の香、

仙兵衞、同みどり、專之助、同のほる、逸之助、同このも、業子松、櫻井小新吾、妻吉、御□丸久勝、久次郎、此村大炊之助、眞柴久吉、三十郎、瀨川釆女、福島市松、三太郎、岩はし嘉門、三平、茶道捨齋、得二、谷倉傳五、吉十郎、高山右內、五郎市、黑崎辨藤太、京四郎、松田左近、宗太郎、三五六兵衞、甚六、岸田民部之丞、三津太郎、奴矢田平實は大明の順喜觀、市藏、折通姬紫妻、小早川高景、左枝政右衞門、三津五郎、眞柴久秋、羽左衞門

貳ばん目「鐘淵戲場故」粟津の七郎俊兼、簑助、平岩女房お墨、常世、淺茅原非人三、三津右衞門、夜そばうり二八、歌助、野分姬、紫妻、永樂やでつち太郎吉、會呂平、山上文治、十藏、觀化ばゝおれい、大吉、平岩おしげ、筆松、同おくに、升三、非人の八、圭藏、平岩娘おいさ、紋三郎、道具や甚三、三十郎、庵崎新吾、吉十郎、澤田彌九郎、伊三郎、道具や市郎兵衞、菊四郎、永らく德右衞門、甚六、山崎や勘十郎、三津太郎、永樂や手代庄八、市藏、永樂や娘お組、紫若願鐵坊野分の亡こん三津五郎（後病に付みの助替り）永樂や手代要介、羽左衞門上るり「染合せ心歌色」三十郎、三津五郎 紫若、羽左衞門 常磐津連中（中頃より三津五郎病氣の所みの介替りに何れも大出來なりしか不入なり）○四月十七日より「富岡戀山開」玉や新兵衞、簑助、粂本女房おてつ、常世、玉や手代三四郎、三津右衞門、萩原藤兵衞、歌助、箱崎の船頭、三ぶ、會呂平、玉や下女おつる、水茶やおしか、紫妻、料理人吉介、十藏、三國や才兵衞、和十郎、同おせん筆松、玉や下女お竹、升三、粂本下女おしほ、松太郎、でつち熊吉、德次郎、粂本娘おぎん、紋三郎、出村新兵衞、三十郎、八百や伊三郎、三太郎、氏原下部有助、伊三郎、見せもの師もゝ九郎、玉や新左衞門妻お大、京四郎、粂本下女おいせ佳調、紅葉茶やのお鹿、甚六、氏原勇藏、三津太郎、玉や嫁おゑん、多喜惠、鵜飼九十郎、三國や小女郎、紫若、產毛の金太郎、結城左衞門之介、羽左衞門○三月廿八日より中村座「眞砂白浪」眞柴久次、尾西行長、神崎や傳吉實は齋藤藏之介、源之助、男達入船長兵衞實は本村又藏、つゝしの權六（下り）中村芝十郎瀨川うねめ、たいこ持、才助、八百藏、石田娘早瀨、兒月若丸、芝鶴、松田勇介、門三郎、兒友若丸、澤邊奧方はなか、森藏、醫師養宅彥左衞門お兒綱若丸、延九郎、澤谷助方、駒十郎、桂左市、光之助、地廻堅間の留八、勘八同入江五六、千代飛助、代官青木平次、岩五郎、飛脚

早介、千代藏、やりておつる、歌十、三浦又藏、杉藏、百姓松作、嘉傳、渡邊官兵衛、鶴五郎、鬼廻四九八、車藏、けいせい七浦、淀町御せん、歌六、禿わかば、銀太、同ゆかり、友藏、兒竹わか丸、三紅、仲居お秀、秀次郎、同おとは、駒次郎、樋尾娘浮舟、德之助、隨眼長老熊右衛門、傾せい初糸、春次、同歌町、琴糸、兒丸若丸、うんかい坊、芝藏、仲居おでん、松の江、兒濱若丸、奥女中ときわ木、文五郎、石田娘瀬川、けいせい染衣、琪子、荒川藤馬、難波上野見方松ヶ枝、宗兵衛、百姓東六、盗人鬼王の小猿實安田作兵衛、廷十郎、左右衛門女房おりつ、祇園のお梶、蘭生局、粂三郎、兒猪わか丸後に五右衛門、早川高景、石田の局、大備もち次郎作實光後、芝䖝、二ばん目大切所作事、初め仕丁、芝かん、賤の女、くめ三、業平、黒主、喜せん、僧正へん正、康秀、芝䖝、小の小町、粂三、「六歌仙容彩」上るり清元延壽太夫〔淸元太兵 大夫大夫〕大出來大當り○五月七日より一ばん目と二ばんめ間へ「夏祭」〔三段目の段、團七內の段〕一寸德兵衛、源之助、釣舟の三ぶ、芝䖝、同女房おつき、芝鶴、うりは權、芝藏、なまの八、彥左衛門、鐵之丞、半五郎、團七、一寸市松、八重藏、團七女房おかぢ、歌六、琴うら、德之助、一寸女房お辰、粂三郎、團七九郎兵衛、芝䖝、○五月十一日より河原崎座「矢口渡」南瀬六郎、おふね、源之助、義興御臺筑波御前、けいせいうてな、龜之丞、篠塚八郎、こま藏、乞食坊願才、新猿、吉田勘解由、馬士長藏、團九郎、江田判官、宗三郎、代官大代官藏、嗣助、雜兵軍內、助藏、新田德壽丸、新之助、竹澤監物秀時、幸四郎、娘もち坂の茶や六郎兵衛、善次、兵庫一子友千代、音吉、娘さつき、菊代、同おやめ、東藏、大嶋長門妻お濱、富三郎、土肥三郎左衛門妻お鈴、にしき、世利田右馬之介妻お辨、增吉、市川五郎妻おつが、七之助、井の彈正妻水木、鐵之助、雜兵閑內實は山田小三郎、七五郎、兵庫妹おぎさ、富瀧、頓兵衛下男六藏、新田義興公、壽美藏、兵庫妻みなと、新田小太郎よし峯、菊之丞、由良兵庫之介、矢口の渡頭頓兵衛、團十郎「孀山姥」〔くるは口しの段〕賴光公、源之助、季武、こま藏、姥白きく、龜之丞、同おうた、新猿、同お花、木綿藏、同小笹、增吉、同春風、菊代、同東竹、東藏、貞光、幸四郎、娘秋しの、にしき、同小冬、富三郎、同更しな、七之助、太田の十郎、團九郎、澤瀉姫、鐵之助、渡邊綱、壽美藏、八重ぎく、菊之丞、煙草うり源七、團十郎、貳ばん目曾我まつ

り所作事
「曾我祭武藏鐙物」牛若丸源之助 壽慶團十郎 其外惣座中殘らず

長唄 岡安喜三郎 同 甚吉 同 喜代七 ふじま吉二郎 よし村伊四郎
三味線 きねや六三郎 同 長四郎 同 六之介 同 巳太郎 同 彌十郎
ふへ 住田勝次郎 同 彦十郎
小鼓 望月太左衛門 太田市郎兵衛
太鼓 田中傳次郎 西川忠藏 坂田十介
大こ 望月太郎右衛門
長唄ふり付 芳村伊久四郎 西川扇藏

夏狂言市村座「夏浴衣國字小紋」かほよ御ぜん、女房お絵、松月尼、彌作女房おかや、腰元おかる、おかや、常世、九太夫、柴村七太夫、三ッ右衛門、多田軍兵衛、彌助、定九郎、源四郎、歌助、げいこ里町、彌兵衛娘おきそ、秀ちか娘釆女七太夫、娘おみち、紫妻、由名いのくま、伴内くん平、曾呂平、團世久之進、一文字や才兵衛、大吉、仲居おしげ、尼知貞、筆松、若徒喜惣太、ほり部彌兵衛、仲十郎、大ぼし力彌、若狹之介、三太郎、早の三左衛門、三平、仁木主せん、五郎市、喜多八、渡邊作太夫、京四郎、おいし、なぎさ、住朝、上むら左京、大わし文吾、天川や義平、宗太郎、けいせい浮はし、彌兵衛娘おしな、細川妹せきじ、たきへ、高の師直、たいこ持次郎左衛門、不破數右衛門、田代安兵衛、百姓彌作、堀部彌兵衛、大星由良之介、三十郎、鷺谷判官、小寺十内、千崎彌五衛、縫殿之助、よし維公、宗左衛門、上るり祇園町一力の段清元連中相勤る 團三十郎大出來大當りく 何れも大評判○六月廿二日より河原崎座「十帖源氏物ぐさ太郎」物草太郎、千の利久、源之助、お國御ぜん、利久娘早枝、かつらき、鯰之丞、狩の歌之介、石塚玄蕃、名古や山三、高麗藏、長谷部運吉、宗三郎、犬上團八、團四郎、茶道一茂久、銀兵衛、佐々木桂之助、海老藏、同義丸、新之助、金八娘小みつ、かなぼう音吉、鯰小よし、菊代、同小ふじ、富三郎、利久妻しがらみ、増吉、福島下部又六、升藏、歌之助妹撫しこ、金八、女房おみや、鐵之助、金魚や金八、壽美藏、不破伴左衛門、團十郎、第二ばん目「伊勢音頭戀寢刃」福岡貢、古市油やおこん、德之丞、正直正太夫、おしか、新猿、杉山大藏、宗三郎、下田万次郎、勘藏、肝煎民次、團四郎、猿田彦太夫、銀兵衛、小しまや、喜多六、龍藏、大々講中、嘉四郎、團内、安達件藏、紀次、巫女さよじ、鐵之助、大々講中太郎兵衛、冠四郎、比丘尼妙林、鐵平、油やの八介、三九郎、相の山お杉、助藏、お玉、麗助、油や娘おきく、多門仲居せんの、きく代、同よしの、富三郎、さんの、増吉、

油やおきし、東藏、藍玉や次郎介、竹藏、孫太夫娘さかき、鐵之助、油屋のまんの、藤浪主膳、壽美藏、料理人喜助、幸四郎、鳥羽鄕青江兵助、團十郎、上るり竹本和泉太夫、豐竹綿義太夫、三弦野澤矢吉、大西大八措々評判よろし○七月十七日より中村座「驛相良聞記」豐田大内記母鶴見、池添孫八、上杉春太郎、三桝源之助、澤井城五郎、石留武助、櫻井林左衛門、芝十郎、和田志津摩、松葉屋要助、八百藏、政元奥方讃丁、木辻けいせい染川、芝鶴、上杉右内、門三郎、笹佐團右衛門、灑崎巫女御巣、森藏、馬士方眼八、せげん淸右衛門、彦左衛門、川上源内、冠九郎、越谷宮太夫、駒十郎、神職灑崎浪江、米五郎、女賣内、千代雅助、政右衛門女房お谷、丹右衛門女房苗尾、歌六、總角き、三紅、条本二階廻しお駒、駒次郎、つちや新造ちと世、とくの助、津川頭藏、熊右衛門、松葉屋大はし、琴糸、荒卷作助、澤井下部助平、芝蝶、お柳うばおつや、おの江、星合團四郎、堀口彌藤次、文五郎、足利息女、彌生姫、条本娘分おかの、雛子、宇佐美五右衛門、團者やふ森せい行、宗兵衛、山田幸兵衛、和田靭負、遠藤野守之助、冠十郎、平作娘お米後伸丁の藝者米吉、幸兵衛、娘おそで、条三郎、唐木政右衛門、澤井股五郎、佐々木丹右衛門、芝翫、何れも大出來、わけて酒匂川舞臺一面水仕懸ヶ大たて、中役者不殘罷出大評ばん大當り○七月十八日より河原崎座「一ノ谷嫩軍記」源の義經、忠のり、源之助、あつもり、小次郎直家、龜之丞、人足廻し茂吾兵衛、しんゑん、梶原景高、團九郎、百姓すゝめの忠吉、宗三郎、同又兵衛、たい助、つゝみ軍次、勘藏、成田の五郎、團四郎、すの股運平、銀兵衛、大館玄蕃、團内、土佐冠者まれ義、鐵之助、平山季重、鬼原川五平、幸四郎、熊井太郎忠もと、ゑび藏、こし元千草、菊代、百姓荒介、荒藏、同かん八、勘左衛門、同鄕作、升藏、石屋娘小ゆき、鐵之助、乳母はやし、庄や太郎兵衛、七五郎、ふじの方玉おり姫、富瀧、石屋のみだ六、壽美藏、菊の前さがみ、菊之丞、岡部六彌太、熊谷直實、團十郎、二番目「色操廓文月」佐の次郎左衛門、かごかき傳兵衛、源之助、がくの小さん、龜之丞、金屋金五郎、高麗藏、輕業の口上三右衛門、新猿、非人づぶろくの三、團九郎、中間權平、宗三郎、若もの利介、たい介、若徒船頭、團四郎、せげん勘八、銀兵衛、お六母おくら、團内、梁田伴藏、木場藏、わかい者き介、龍藏、

かごかきまつ、紀次、樽ひろい辨太、銑之助、見せもの師次郎、善次、同鳥八、廣五郎、同喜六、三九平、地廻り山の宿の權、今六、同田町のかね、七五三藏、砂利場のてつ、冠四郎、見せもの師とら、馬平、かごかきかしが、駒右衞門、かるわざ子供小よし、菊壽、同小富、紀久藏、万壽や清兵衞、幸四郎、小いさみ十吉、ゑび藏、藝者おきし、きく世、同おたみ、にしき、同おもん、東藏、同おまき増吉、万壽屋仲居おはま、富三郎、たいこ持歌十、妻藏、料理人たみ、升藏、げいしやおさわ、鐵之助、万壽やおしか、富瀧、釣かねや源三郎、壽美藏、万壽や八ッ橋、土手のお六、菊之丞、乞食坊主願鐵、船橋次郎左衞門、團十郎、何れも大出來尾上菊五郎下り○八月六日より**市村座**「東海街四谷怪談」小間ものや與七實は佐藤與茂七、小佛小平、大星由良之助、伊右衞門女房おいわ、同死靈（桃灯より出る所古今大當り）菊五郎、民谷伊右衞門、三十郎、伊藤後家おゆみ、常世、小平女房お花、梅之丞、秋山長兵衞大當り、鷺坂家來成山森內、三津右衞門、關口宮藏、水からが爲吉、歌助、西尾中女房おかつ、紫若、藥賣藤八、會呂平、仲間伴助、義右衞門、水茶や娘お鹿、紋三郎、近藤源四郎、仲十郎、堂守

西念、助次郎、くも介源八、岩五郎、非人吉、斧藏、同七、杢藏、念佛講中六兵衞、音右衞門、同仁作、麗十郎、地廻り常、德次郎、同口三郎の口扇藏、同辰、二三藏、同音、傳藏、講中與太七、他藏、古手やぼろ七、三平、米やのひね右衞門、吉十郎、利倉や與七、五郎市、水茶やおもん、十藏、小林平內、伊三郎、宅悅女房おすへ、鴬かき出羽長、梅五郎、乳母おまき、かてう、あんま宅悅、傳三郎、伊藤喜兵衞、佛孫兵衞妻お熊ばゝア、京四郎、念佛孫兵衞、甚六、四ッ谷左門、宗太郎、喜兵衞娘お梅、多喜惠、赤坂傳藏、奧田庄三郎、松助、與茂七女房お袖、尾上榮三郎（始め中村歌蝶後に尾上菊枝此度改名して大名題へ上る）藥賣直助、市藏、桃井はりまの守、三津五郎、小汐田又之丞、足利直義公、羽左衞門、二番目「千本櫻」（三の口切より四の口まで）いがみ權太、しづか御ぜん、菊五郎、佐藤忠信、すしや彌左衞門、三十郎、權太女房小せん、常世、若葉の內侍、梅之丞、庄屋作兵衞、大吉、六代御前、森次郎、權太一子せん太、紫子松、百姓米七、五郎市、百姓田子右衞門、十藏、獅の熊右之進、傳三郎、彌左衞門女房おこし、宗太郎、（病氣に付十藏かわり）主馬の小金吾、松助、すしや娘おさと、榮三郎、梶原景時、市藏、能登守のりつね、三津五郎、す

しや彌介實は惟盛、羽左衞門、何れも古今稀なる大入大當り〳〵

淨瑠璃　道行初音旅　關三十郎　尾上菊五郎

菊五郎おいわの幽靈提灯より出る工夫は長谷川勘兵衞工風也盆桃灯の貳番を用ゆ眞中糸の骨のかゝり二間切て捨其糸のつなぎへ針かねにてくゝり付紙を張り尤前と後通拔なり菊五郎細工場へ來て見て是ではちいさいだろふといへば勘兵衞笑ふて大きい中より出るは誰でも出られますちいさい内からどふして出られると思はせねば面白なしとて工風見せたるに梅幸のみ込感心して工風にのりしと云々桃灯より出るは此度初る也

○九月廿一日より中村座「信田盛噂響嫁入」安部の保名、大內之介宗俊、源之助、衞士平作實は村岡五郎定友、石川惡五郎、奴やかん平、芝十郎、岩倉次部太夫祐定、舍人蔦丸實は定友子早友、八百藏、照久妻筑羽根、つほね荻の戶、芝鶴、長岡新平、門三郎、就平馬おた卷、森藏、丸岡軍藏、彥左衞門、木綿うり與九郎、小詠歌七郎兵衞、冠九郎、四ッ塚藤次、駒十郎、望月丹藏、光之助、藏人、米五郎、若黨左平太、千代飛助、照久下部三平、森五郎、しからき運藏、千代藏、三國左金吾、歌十、山田團九郎、杉藏、惡五郎下部がん介、染藏、安部の童子、紫子松、櫻木親王、八重藏、榊のまへ女非人お町、歌六、照綱一子つる之助、大三郎、葛の葉姬かし付桔梗、德之助、同秋の、春次、雲井の鴈、琴糸、いつてつ、丹藏、奴すかん平、芝藏、石川惡右衞門、四五六の長、文五郎、園生の前、珉子、石川彈正、轟御ぜん、あしや道滿、宗兵衞、大倉權の頭照久、奴與かん平、冠十郎、左近太郎照つな、くずのはひめ、葛のは狐、田舍みこお駒、駕かき芝の常奴野子平、芝翫、所作事四季詠所作の花くずのは狐田舍みこ駕かき常奴小かん平芝翫四變化、常磐津連中相勤る、右狂言四五日興行之處、中村芝翫所作場にて奴小かん平にて舞臺之下へ這入花道より田舍みこにてせり出しの所大怪我いたし暫時休座に成たり○九月十一日より河原崎座「菅原」菅相丞、櫻丸、源藏、源之助、直禰太郎妻立田、櫻丸妻八重、粂三郎、御臺園生の方、珉子、くりから太郎、こま藏、よだれくり、まれよ、新猿、にせむかひ彌藤次、團九郎、みよしの清つら、宗三郎、舍人松王、團四郎、わし塚平馬、木場屋土師兵衞、藤原時平、幸四郎、

舍人緑丸、海老藏、菅賞齋、音吉、松王子小太郎、紀久松、齋世親王、菊代、安樂寺住僧、たい助、天蘭溪、升藏、下男三介、虎藏かり、や姫、鐵之助、奴宅內、七五郎、源藏妻戸浪、梅王女房春、富瀧、判官代照國、春藤玄蕃、壽美藏、直禰太郎、白太夫（下り）市川鰕十郎、始市川瀧十郎と云新升の弟子也、後室覺壽、梅王丸（大當り）松王女房千代、菊之丞、舍人松王丸、團十郎、當狂言中程より澤村源之介病氣に付菅相丞、市川團十郎、櫻丸、岩井粂三郎、武部源藏（下り）鰕十郎、替り役相勤いつれも訥升よりは大出來にてます／＼大入大當りなり古今珍敷／＼／＼〇五月朔日より中村座顏見世狂言「相馬館節會大寄」當狂言は九月狂言信田妻の狂言、關三十郎當狂言より出勤、故新狂言二幕加へ、上總之介國治實は秦の次郎時行、上平太貞盛、伊豫守純友、三十郎、乾平馬、山賊岡山彌九郎、歌助、白拍子眞袖、歌六、蘆原七郎將武、芝翫、其餘は九月狂言の通り也、葛の葉評判あしく〇十一月九日より河原崎座「松賓巴（まつをちからともへの）藤浪（ふぢなみ）」木曾義仲、田舍同者澤介實は園原山朝、白狐たい子村西行法師、三十間堀材木や次郎兵衛實齊藤吾、五郎兵衛、源義經、澤村訥升（源之介改）楯の六郎、万才小介實は武藏左衛門有國、座頭づふ市、山崎や手代喜助實は齊藤六太夫坊覺明、のり頼、壽美藏、よし仲の奴こま平、三十間堀の町かしら千太郎、手塚の太郎、高麗藏、根の井妻梅田、粟津の伯母お舟、けいせい都大夫、靜御前、眼子、猫間の中將、鹽谷村の小旦那、艶次郎、男藝者庄五郎、森藏、庄屋太九郎兵衛、武佐十郎、男藝者庄吉、井上九郎彦左衛門、武田五郎信つら、すりはり雲介半六、ひど金かし烏ばゝァおかん、勘左衛門、守山伴藏地廻り喜三郎、團四郎、水卷四郎、網打場の抱へ女郎おふで、勘藏、笠原平五、せげんねじ右衛門、龍藏、鶴やのやりておつな、村藏、庄屋つく兵衛、善次、巴御前の小娃金彌、久次郎、駒若丸、多門、板額御前寐覺、奈やの浦島のお龜、望月左門妻更科、網打場女店頭はき溜のおまつ、袈裟太郎妻お玉、今井妻園原、政子の方、半四郎、城の太郎資永、大津元ゆい問屋、江戸仕入の文七、淺利與市、佐々木盛綱、樋口の次郎兼光、三津五郎、（如斯役割出候所病氣に付出勤無之終に十二月廿七日死去すおしむへし／＼）笠原かゝへ女おゆき、笠原平四直頼、紀次、達麻入道座禪坊、おとぎ座頭、鳶澤朝市、網打場かゝへ女おしか、虎藏、戸澤局、富三郎、姚若菜、菊代、仲居おはま、子守およし、東

藏、同仲居およし、徳之助、矢澤村宿木、にしき、水茶屋新增本のお岩、七之助、樋口妹みたけ、山崎や下女辰、辰之助、基房公の息女茂子の君、女髮結おいろ、山崎の下女おてつ、鐵之助、けいせい逢坂山、基房公の侍女音羽の局、鶴の甚兵衛妻おみち（下り）瀨川路之助、落合村大六、石黒左衛門實は瀨の尾太郎、革足袋や明石や、萬作、石田爲久（下り）大谷友右衛門、田舍娘お玉實は小女郎狐、新造寫繪、朱雀藝子吾妻、九條の舞子かつらき、山吹御前、（スケ）粂三郎、義仲妻巴御前、鳥追おみの、更科主水之介、駕籠甚兵衛妹おはや實は實盛娘篠原けいせい逢坂、菊之丞、（病氣ゆへ替路之助相勤當狂言五六日出勤にて不出終に正月六日死去す）盜賊張本袈裟太郎、望月左衛門實能登守のり經、今安小四郎兼平、今戸の瓦師長藏實は上總の五郎忠光、和田のよし盛、幸四郎、

上るり　壹ばん日稚女夫手管掛罠（わかみよふとてくだのかけわな）　（諏升／すみ藏／こま藏／くめ三）　富永豐前太夫（大和太夫／志賀太夫）相勤る

當座役者揃居りし所菊之丞、三津五郎、病氣ゆへ出勤なく不入にて殘念〳〵○十一月十三日より市村座[江戶好菊伊達染（えどこのみきくのだてぞめ）]渡邊民部、竹町の竹松實藻くづ（だんまり）の三平、岩倉彌十郎、鎌助、神谷丹左衛門、馬方笹の才藏

（スケ）鰕十郎、奥女中沖の井、仲居お園實女之助、叔母松しま、常世、渡邊外記左衛門、三津太郎、道益悴大場宗益、奥女中小槇、鷲嘉藤次、傳三郎、番頭藤次兵衛、お竹親花うり茂三八、甚六、奥女中芝崎、黑塚鬼一郎、梅五郎、家主李兵衛、曾呂平、守山作之進、五郎市、佐武佐五郎、奥女中此花、伊三郎、同うらは、坂東愛之助、同三春、（小佐川）友次郎、同濱待（小佐川）梅次郎、雲齋三光の六、李藏、大工升之介、岩五郎、仲居おせん（惣領）扇作、間嶋小兵衛（小佐川）友次郎、大こ持介八（坂東）東十郎、清次（尾上）小の藏、政岡一子千松、吉松、薄雲禿よすが、相藏、同たより、茂作、鶴喜代丸、粂次、女小性つま木（大谷）守之助、汐澤丹三郎、甚吉、豆腐や下男權介（片岡）嶋藏、文遣三次、馬平、名和無理之介、麗十郎、山森伴作（坂東）狗八、桶や甚太（小さ川）蔦五郎、木戸嘉兵衛、利根藏、地藏堂西念、ごせ右衛門、橘連世話人丸や角五郎、吉十郎、む理之介、調九郎、奥女中かつみ、三彌、篠川瀨九郎、奥女中裾かは、虎五郎、茶道雲齋、岩沼德平、義右衛門、奥女中つくらは、かてう、渡邊娘おやす、藝者お玉、多喜惠、大場道益、山名家來八汐、官太夫、京四郎、足輕渡會銀平、七五郎、奥女中八十嶋、吉原藝者おゆき、梅之丞、

黒澤官藏、とうふや後家お熊、三津右衛門、山中鹿之介、奴浮世戸平、松助、三浦や薄雲實細川妹淺壽姫豆、腐や娘小三、同下女お竹下り榮三郎、大江の鬼つら、馬士さゝら三八、赤井惡右衛門、市藏、仁木盛則、乳人政岡、藥箱持小助、大工かり金五郎實は嶋田重三郎、出雲のおくに實名古や山三、菊五郎、細川勝元、井筒女之介、羽左衛門、荒獅子男之介、三浦や四郎兵衛、不破伴左衛門實河内次郎政元スケ團十郎、

廓花對編笠（さとのはなついのあみがさ） 山三、井筒、淺吾姫、尾上菊五郎、市川團十郎、不破、同榮三郎、市村羽左衛門

清元 延壽太夫 政太夫 鳴尾太夫 相勤る

當座役者出替りに付甚もめ團十郎、木挽町退座いたし當座へ出勤之處尾上菊五郎上方にて白猿と少し口論致せし由にて三升を入候ては出勤不致と申ゆへ座元頭取甚困り申候處みの介中人に入中直りいたさせよう〳〵十三日より興行之處何れも評判よく三座一の大當り也

浄瑠璃の幕にて不破名古屋の出度々出勤の事故御兩人共大出來舞臺へ來り鞘當りにて切結之處へ坂東みの介革羽織にて鳶のものゝこしらへ大きなる熊手へお福の面を付酉の町より吉原へ來り此喧嘩を見て一人りは恩のある木場の親方一人りは大事の伯父子どちらに怪我ありてもすまずと二人の中に入て双方を引分け立引の所大評判〳〵

天保二辛卯年 十二月廿七日
濤貸院實譽秀佳信士 俗名坂東三津五郎 行年五十七歳 芝増上寺山内 月界院

無類極上々吉今和事にては三ヶ津に双人なし一代當り狂言數るにいとまあらず今改名をして年表を爰にしるす

安永七戊戌年顔見せ森田座へ子役娘方坂東三田八と云し葺蕗のおし娘舞臺にて此節五代目團十郎申候は此もの末頼もしき者なりと甚美賞せしが名人の眼力たがふ事なく今旣に極上々吉無類の大達者となりぬ天明二壬寅年子役所作同三癸卯年森田座若太夫にて森田勘次郎と改、寛政十戊戌年霜月より立役坂東簑助と改、名同十一己未年顔見せより實父名跡を續き三津五郎と改名葬禮正月九日和泉町より二丁町よし町より通町木挽町表裏五丁目橋より尾張丁通り此日堺町より芝迄見物の群集神事祭禮の如し

天保三壬辰年 正月七日
高照院勇擧才阿哲藝信士 俗名瀬川菊之丞 行年三十一歳 本所押上 大雲寺

大上上吉當事娘形若女形所作事其外諸藝に通達し若手には珍敷名人京大坂にも此太夫如きはなく繆致よく愛敬ありて諸人の氣請よく贔負連中も多くありしが命數の限り是非もなき次第なり葬禮正月十日新乘物町より二丁町富澤町村松町藥研堀兩國橋へかゝり龜澤町通り昨日は秀佳今日は路考と見物道路に滿々て其夥敷事筆紙に盡しがたし秀佳路考の葬禮を見て贔負連中は勿論芝居好の者又は戯場ぎらいの野暮介迄も後世に至りてはかゝる名人出來まじと皆々歎きしとなん

改名年表

文化丙寅年子役瀨川多門と云同七年庚午娘形同十二乙亥年顏見せより菊之丞と改名十六歳にて大名題へ上る昔より名人上手多しといへ共かゝる年若にて名題へ上りし事いまだ聞ず長命なりせば此すへも無類の位になり仙女同様なるべきに早世せし事惜むべし〳〵

市川おの江死去す

市川門三郎死す

始め中山楯八と云（中山楯藏舍弟）寛政十戊午顏見世より市川門三郎と改名年功と云古強者なりしが此度西方淨土へ趣しは殘念〳〵

上方にて敵役の立者嵐團八いかなる事にや剃髮して黒谷へ行弟子となり俗名改名せし由評判記に有り

秀佳路考追善とて賣出し候繪本草双紙數々

三津瀨川上品仕立（柳亭作　國貞畫）

三津瀨川法花勝美（綠間山人　國よし）

葉名手楠忠臣藏（大仕かけ忠臣藏）狂言書本

三津せ川落し咄し對面のせりふ

其外にしき繪等百五十番程も出板せし由古今珍事なん

花江戸歌舞妓年代記續編巻の六

◎天保三壬辰年

○正月十二日より河原崎座「小野道風青柳硯」（おのゝとうふうあほやぎすゞり）小野道風、出羽の次郎よし實、がく彫の内斗、訥升、女郎花姫、義實女房お町、龜之丞、小の賴風、こゝま藏、基經與方菊の上、珉子、婲若菜、森藏、鬼蓑平馬、勘左衞門、陽成院、勘藏、岩角ちから、虎五郎、渡會左門、鈗之助、關白基經公、庄屋當作、たい助、鉄瀨厲六、駒右衞門、大納言冬卿、廣五郎、官人丹下、鳥藏、額彫五郎兵衞、村藏、築嶋遠道、善次、築波の宮、澤平、良實娘小千代、多門、婲早なへ、きく壽、同ふじ浪、きく代、同若竹、東藏、同まがき、増吉、同道芝、富三郎、額彫六三二、虎藏、女郎、美奈の川、鉄之助、出羽の次郎信次（内裏の場と早なり場の斗り）道風乳母法輪尼、七五郎、道風妻置霜、兵部娘笹鶴、路之助、但馬守伴の健宗、友右衞門、鷹取兵部、壽美藏、どつこの駄六、額彫龍木仁介、片岡市藏（當狂言より出勤なり）左大將橘の逸勢公、幸四郎、二ばん目文藏妹おみち、白拍子さくら子、訥升、牛島文太實は深見十左衞門、壽美藏、大守八郎、高麗藏、水茶やおしけ、珉子、庄屋茂九郎兵衞、森藏、後家おいく、勘左衞門、庭作り與三、勘藏、料理人いつ民、國四郎、關や藤六、龍藏、待賴吉五、紀次 綾瀨官藏、伊三郎、庵崎深雪、荒五郎、仲居お竹、にしき、同おもん、東藏、植木や下女お竹實は忍姫、總泉寺住僧、文藏女房、七五郎、おつゆ、路之助、劔術指南井澤幡藏、友右衞門、植木やでつち平吉實はしらぎく丸、龜之丞、植木や文藏、同宿文珠坊、市藏、同宿普賢坊、放駒四郎兵衞、幸四郎

上るり道行「道行丸い字」（みちゆきまるにいのじ）澤村訥升

常磐津小文字太夫
和歌太夫
佐喜太夫
岸澤式作
同 仲介
同 鯉南介
同 お吉
岸澤扇藏

「京鹿子娘道成寺」澤村訥升、片岡市藏、松本幸四郎

長唄
岡安喜三郎
富士田吉三郎
岡安喜代七
芳村伊三郎

三味線
杵屋佐吉
同 長四郎
同 六之助
同 紋太郎
同 彌十郎

小鼓 望月左衞門
大鼓 田中傳次郎
大皮 坂田十兵衞
同 望月太郎右衞門

ふへ 住田勝九郎
同 堅田喜太郎
振付 藤間勘十郎
同 市山勝五郎
同 芳村伊四郎

右「青柳硯」狂言は江戸にては明和元甲申年森田座にて秋道風菊五郎、だ六三八郎、良實廣治、相勤其後寛政元己酉六月中村座にて松本幸四郎相勤、其節駄六坂田半五郎其後絶て興行なし今度訥升、片

市と同座に成相勤る珍しき狂言故大入もあらんかと思ひの外不入にて殘念〳〵尤上表方にては大きに當りしとぞ

○正月廿五日より中村座「花鳥魁曾我（はなにとりさきがけそが）」男達有明三ぶ實は粟津六郎、梶原源太、鬼王新左衛門、濱地源右衛門、三十郎、曾我十郎祐成、男達曙源太實は吉田松若丸、源之助、箱根閉坊、伊豆次郎、芝十郎、劔澤はく庵、小美川典膳、宗兵衛、大藤内、松井源吾、文五郎、相澤彌九郎、梅澤や手代平介、歌助、海老名源藏、夜商人勇吉、冠十郎、花柄平太、駒十郎、船越八郎、鶴五郎、箱根の行實、十藏、本田次郎、和十郎、番場忠太、千代飛助、萬才駒太夫、歌十、小藤太一子小彌太、中村万吉、小性右内、中村友藏、丁稚梅太、冠藏、鬼王倅鬼太、市川八百藏、鬼王妻月小夜、舞鶴姫、三ぶ女房おふし、歌六、大姫君、調、團三女房十六夜、駒次郎、家主半六、座頭もつ市、大吉、二の宮、大姫かし付久すみ、琴糸、虎の禿千鳥（三舛）大三郎、五郎時致、大磯のとら禿小蝶（坂東）豐三郎、今三郎介、大坂男達おひやりこ傳兵衛、芝翫、奥女中竹川、結城息女千歳、芝鶴、團三郎、八百藏、和田義盛、賣卜者卜傳實は粂の平内兵衛、非人眞虫眼六、八幡三郎行氏、冠十郎、工藤祐經、小林朝比奈、小美川若徒平内、男達破軍太郎兵衛實は山田の三郎、芝翫

（一ばん目四立目るり）「朝日影霞の隈取（あさひかげかすみのくまどり）」（三十郎、みの介、源之助、芝翫）清元連中相勤大出來

（二ばん目上るり）「獨吟景事隱裏紅緒晒（かくしうらこふのゆふはへ）」（三十郎、みの助、芝翫）常磐津連中相勤候之處大入ゆへ上るり興行なし

○二月四日より市村座「忠臣藏」鹽屋朝若丸、海老藏、本藏妹みなせ、顏世御前、かてう、高野師直、原郷右衛門、潮田又左衛門、京四郎、山名次郎左衛門、小□金兵衛、曾呂平、石堂右馬允、五郎市、桃井若狹介、海部左京、梅五郎、種が島ろく吉、十郎、富森介衛右門、奴へく内、こせ右門、直よし公、貝原伊介、熊次郎、めつぽふ彌八、山成むた九郎、二三藏、千崎彌五郎、猩々九郎兵衛、森藏、小なみ、お梅、（小さ川）梅次郎、お春、婬若菜草、愛之助、同紅梅、同さかき（小さ川）友三郎、せげんの勘六、庄屋杢兵衛、喜左衛門、婬おかる、幸左衛門、娘つま、紫妻、力彌、甚吉、斧九太夫、伴内、一文字屋才兵衛、近藤銀五郎、伊丹幸左衛門、三津右衛門、判官、勘平、定九郎、與一兵衛、潮田又之丞、本藏、由良之介、羽

左衛門
二ばん目大切
「道行振袖香(みちゆきふりそでのか)」白拍子櫻木　市村羽左衛門　竹本阿矢太夫
竹澤大作

ふへ　中村佐吉　大つゞみ　小谷長四郎
岡安喜代八　同　増田德七　たいこ　六郷新三郎
富士田吉次郎　同　清住長五郎　坂田重三郎
同　新九郎　六郷新三郎
同　千五郎　小づゝみ　大西德藏

所作事「結習鹿子道成寺」　大舘左馬介　海老藏
同宿觀音坊　喜左衛門
住寺　五郎市
同宿　三郎右衛門
龍頭へはとゝき兼たり初櫻

三みせん　杵屋勝五郎　小鼓　六郷新三郎
同　和吉　同　大西德藏
同　和七　大鼓　小谷長四郎
同　佐市　たいこ　六郷新三郎
同　坂田重三郎

尙市村座內外入組候事有之立もの簑介は中むら座へ行、片市は河原さきへ行、春狂言休座に相成候處座元羽左衛門「忠臣藏」七やく大出來、大切「道成寺」所作事者訥升より大出來にて壹ばんめ貳ばんめ共古人坂東三津五郎の趣にて可相勤仕切場へは、つい立に三津五郎由良之介、四立目の所を畵き、鏡に羽左衛門の顏のうつりし所をかざり置けり

天保三年壬辰於市村座、七代目、市川團十郎海老藏と改名す、倅市川海老藏行年十歳にて八代目市川團十郎と改名

市川海老藏助六の幕にて口上

高ふはムり升れど是より口上をもちまして申上升る當座御ひゐきとムり升して御見物被下大入大繁昌仕候段座元羽左衛門義は申上るに不及惣座中かゝり合のもの共難有仕合奉存候扨私先祖段十郎は慶安四卯年以來より御取立に預り二代目團十郎當代迄數代血筋を以て相續仕り今年に至り凡百八十二年に及び候迄大江戶御贔負御取立に預り且者日頃信心仕り升成田山御利生にて一子を授りまして當年十歳に罷成り私義も十歳之節團十郎と改名仕り故當年團十郎名前讓り度段親父松本幸四郎岩井半四郎へも右之段申候得者兩人も其段可然と申升る故悴ゑび藏を八代目市川團十郎と改名爲仕私義海老藏等仕升る樣にムり舛る扨御見物樣方之內も御老人樣方者私祖父五代目團十郎後市川鰕藏白猿と云後鰕藏白猿抔者面白く平六兵衛の愁たん彼是と今に御咄しもムり舛るが私義も是迄三芝居者勿論上方表へ

迄も罷上り相勤ムりましたれども是ぞと申事も參り舛せず親に似ぬ子者鬼子と申升るが私の下手が似ませぬ樣に鬼子になりまして行〳〵は御贔負をもちまして名人の數にも入り升る樣に偏に奉願上まする猶申上升るは隣座相勤居升る坂東みの介事此度坂東三津五郎と改名仕り升る去暮親父坂東三津五郎病中に私を膝元へ呼まして申升るには倖みの介事いまだ若輩ゆへ心元なく思ひ候まゝ我なき後何卒せ話して被下と申升ゆへ私も達而辭退仕申たれ共かへつて病氣にさわり候ゆへ申候まゝに枕元にて兄弟の盃取りかわしまして私義兄分に相成りましてムり升る是とても兄と申名斗にて何の世話もいたす事は出來不申尙坂東三津五郎と改名仕り升と三芝居にて者座頭株にムり升れば私同座仕り升ても彼に座頭爲仕私義者頭取役か世話役にても相勤候樣ムり升る又々申上升るは親父松本幸四郎義尙芝居斗り出勤仕り第貳番め壽總角の助六の狂言に罷出升る岩井半四郎義も親類にムり升る此總角役相勤申候長言はかへつて御退屈いよ〳〵此所壽狂言すみから隅まで左樣思し召被下升ふ

○三月八日より中村座「櫻時女行烈（さくらどきをんなぎやうれつ）」正流三代坂東三津五郎（みの介改名）下河部大江之介、初役局岩ふし、源之助、久留米東馬、芝十郎、天城軍次郎兵衛、宗兵衛、牛嶋主税、わしのや善六、文五郎、奥女中常夏、冠十郎、同よもぎふ、駒十郎、駒形勇藏、十藏、熊本丹藏、和十郎、奥女中かゞり火、森五郎、同しがらみ、歌十、同常磐木、トキ八、中間兼平、重三郎、高津喜內、助藏、直木隆平、三平、庵崎亘槌藏、甚吉、調布與太郎、森田勘彌、秩父の家臣半澤主殿、三十郎、奥小性若菜、紋三郎、芳野や才兵衛、京右衛門、奥女中うつ蟬、愛次郎、同夕顏、秀次郎同松風、三紅、北條息女、調姬、調、奥女中紅梅、愛之助、薄くも、駒次郎、同浮舟、大吉、閼屋、琴糸、同柏木、芝藏、同初音、主殿妹もみぢ、芝鶴、三笠主殿、庵崎求馬、八百藏、半澤女房槇木の戸、常世、當狂言より出勤八つ代勘け由、くも介鐵八、冠十郎、仲居尾花、けいせい長門、歌六、獵師あみ六實は隼人之助、尾上、おはつ、芝甑行列先、三十郎供、芝甑　其外女中衆御姬宮、おさん源之助、冠十郎、芝十郎　惣座中殘らす

二ばん目上るり「彌生(あよい)の花淺草祭(はなあさくさまつり)」

神宮皇后 引抜 獵師濱成、善玉
武內大臣 引抜 同 武成、惡玉

通人、永木
小僧、勘彌
野暮大臣、芝翫
たいこ持四丁、芝十郎
茶屋女おかん、文五郎
手代銀兵衞、冠九郎
番頭金兵衞、宗兵衞

石橋雨人 三津五郎
とりて 歌助、駒十郎、森五郎、芝藏

清元延壽太夫 志尾太夫、鳴尾太夫
常磐津小文字太夫 和哥太夫、政太夫

何れも大出來大當り四月十七日より廿五日迄十二代目中むら勘三郎改名壽狂言中村芝翫口上拜領傳來品也八代目市川團十郎披露

△壽狂言「猿若」大名、七三郎 猿若、勘三郎 「新發意大皷」和尚、八百藏 盜人、七三郎 新ぼち、勘三郎

「門松」興行なし

「鬼やらい右四番」大小舞
立 中村琴糸 小佐川常世 中村かろく 中村芝かく 坂東しらへ
役 關三十郎 三桝源之助 嵐冠十郎 藤間勘十郎 中村芝十郎 坂東三津五郎 中村芝翫

○三月十二日より市村座「隅田川花御所染」入間の息女花子の前後に淸玄尼、半四郎、細工人左り甚五郎、團十郎、淸水平馬之介淸春、忍か岡の惣太、鰕十郎、奴隅田平、三津太郎、奴戶田平、團九郎、奥女中七浦、甚六、同築地野、彥左衞門、同梅尾、曾呂平、同桐しま、義右衞門、同西川、梅五郎、同よね川、升藏、石濱勘藏、岩五郎、中間權內、梅太、同宿西薫、利根藏、同念才、馬五郎、夜商人五八、馬平、同門八、こせ右衞門、いさばや烏羽八、奎藏、同宿さくらん坊、相藏、同たつちく坊、和田右衞門、梅若丸、路太郎、文友、一法師丸、團子、入間郡領氏直、升四郎、奴升平、鯉十郎、醫者天庵、銀兵衞、中間可內、勘八、奥女中民川、辰之助、同花形、紫妻、同眞乳、德之助、同宮戶、三友郎、同淺茅、愛之助、同綾瀨、春次、同梅田、多喜惠、同關屋、かてう、新淸水住僧惠坊、京四郎、望月大膳、三津右衞門、入間の中老、尾上、富瀧、尾上召仕初、櫻姬、粂三郎、猿島惣太、局岩藤、吉田松若丸、海老藏 七代目團十郎改名 吉田の下部軍助、北條小四郎義時、羽左衞門、第二ばん目市川海老藏流壽狂言十八番の內「助六取縁江戶櫻(すけろくゆかりのえどざくら)」三浦のけいせい揚巻、半四郎、うゐろううり 十八番のうち 虎屋藤吉、團十郎、曾我の滿江、富瀧、福山かつぎ三八、團九郎、やり手お瓜、甚六、三浦や若もの喜介、彥左衞門、男達龍泉寺の勘次、宗三郎、同大門の忠次、義右衞門、同おはくろどぶの金次、梅五郎、五十軒の庄七、團內、みの輪の嘉兵

衛、曾呂平、三うらや若い者大七、杢藏、地廻り岩、岩五郎、同市、扇作、同勝、德次郎、同留、桃太郎、同兵、馬平、揚卷の禿若菜、紫子松、同しげり、嘉市、髭の意久、幸四郎、白玉禿たより、茂作、同よすが相藏、三浦や若者嘉助、勘八、同利介、五郎市、茶屋廻り伊之助、鯉十郎、同新介、新之助、傾城卷尾、辰之助、同卷里、紫妻、同卷の江、德之助、新造卷絹、梅次郎、同卷しの、東藏、けいせい卷の戸、多喜惠、同卷紫、春次、松や女房お時、かてう、朝顏千平、三津右衛門、くわんぺら門兵衛、鰕十郎、けいせい白玉、粂三郎、花川戸助六、海老藏、白酒うり新兵衛、羽左衛門

江戸太夫河東
十寸見蘭洲　同東暁　河東改蘭八　山彦夫次郎
同東市　沙流　同秀次郎
同東川　同双二郎
十寸見河洲　同東和　東作　同小龍二
同河逸

○三月十三日より河原崎座「伊達鏡」左金吾頼兼、豆腐屋三ふ、政岡、細川勝元、訥舛、渡部民部、榮御前、壽美藏、三浦や高尾、嘉村奥方沖の井、龜之丞、奴袖平、男之助照元、高麗藏、仲居おきの、左馬之介妻此花、珉子、家主茂九郎兵衛、森藏、ち子梶之助、勘左衛門、道益妹小槇、所化西念、勘藏、横川大藏、たゐこ持根八、團四郎、黑澤官藏、鳶嘉藤次、新藏、願人殘月坊、もぐ九郎兵衛妻おねこ、紀次、たいこ持慶藏、でつち、鈍之助、奥女中しのはら、馬山三太夫、たい助、淸水寺上人、廣五郎、中間うき介、村藏、同七介、三九郎、所化もふ念、今六、同うんねん、熊藏、若もの佐介、七五三藏、黑山官六、冠四郎、佐官彌九郎、鳥藏、大場宗益、駒右衛門、禿よしの、麗六、同たつた、澤平、小奴岸六、麗助、足利鶴喜代丸、音吉、千松、紫子松、奥女中ふせや、梅之丞、婀しのぶ、紀藏、同文字橋、菊代、同松しま、袖之助、同歌かた、東藏、錦木、にしき、同糸はぎ、增右衛門、同松の、富三郎、煮豆や萬藏、虎藏、山名息女折琴姫、奥女中澤邊、鐵之助、山名宗全乳母おもよ、山中鹿之介、七五郎、清水女之介經春、汐澤丹三郎、松助、大江鬼貫、豆腐や甥戸平、友右衛門、賴兼妹櫻姫、長五郎女房おさき、豆ふや娘お花、榮三郎、仁木彈正宣則、一世一代幸四郎、二番目上るり淸元連中相勤る

「隅田堤戀衣図」　壽美藏　まつ升　榮三郎　菊五郎　いづれも大出來なりしが不入にて殘念〳〵

淸水左兵門之介淸玄、後に淸水寺淸玄坊　菊五郎
折琴姫ゆふこん、はしほ、鳶頭丸文龍長五郎

○四月廿三日より市村座女清玄渡し場の幕助六仕返し場迄興行之處半四郎、粂三郎、病氣故相休候處病氣全快迄に三段目盡し幷壽十八番の內矢の根五郎「盛衰記」大序二の切三の切熊井太郎、團十郎、舟頭權四郎、鰕十郎、源義經、三津太郎、兼道ちん才、甚六、船頭富八、彥左衛門、同磯六、宗三郎、同九郎藏、升藏、同甚六、鯉十郎、浪藏、熊十郎、沖六、奎藏、同なた六、吉十郎、內田の三郎、義右衛門、佐々木四郎、團內、妼夕顏、にしき、同浮草、德之助、駒若丸、守之助、畠山重保、五郎市、船頭銀八、銀藏、梶原平三、曾呂平、こし元なでしこ、春次、權四郎娘なよし、紫妻、こし元卯の花、辰之助、しんしゆ、かてう、軍內、三津右衛門、おふで、妼千鳥、富瀧、梶原平次、舟頭松右衛門、海老藏、梶原源太、秋父の重忠、羽左衛門、此間へ壽狂言十八番之內（上るり大薩摩文太夫、三味線、杵屋、馬方、坂東彥左衛門、曾我十郎祐成、市村羽左衛門）「矢口渡」（三の口 三の切）四の切南瀨の六郎、鰕十郎、竹澤けん物、三津太郎、馬士長藏、團九郎、つくば御せん、辰之助、けいせいうてな、德之助、つんつく坊、銀兵衛、江田判官、勘八、德壽丸、音吉、よしみね、紫妻、下人六藏（大出來）三津右衛門、兵庫妻みなと、富瀧、由良兵庫、船頭頓兵衛、海老藏、頓兵衛娘おふね（大出來）羽左衛門、「三代記」七つ目三浦之母、鰕十郎、雇かゝあおよち、甚六、阿波の局、辰之助、讃岐の局、春次、富田の六郎、熊十郎、藤三女房おくる、かてう、時姬、紫妻、安達藤三郎實は佐々木高綱、海老藏、三浦之介義村、羽左衛門○五月十三日より半四郎全快に付當狂言の內「鎌倉三代記」を拔て「新清水」夢の場、渡し舟の場二幕不差加不入なり ○五月七日より河原崎座「昔語黃鳥墳（むかしかたりうぐいすつか）」河內の佐々木源太左衛門、佐々木源之助、訥升、長者娘梅か枝、九重妹八重機、鑑之丞、日下重三郎後に濱左衛門、若黨作內、高麗藏、源太左衛門妻きよし、眠子、長者妻玉木、山田源十郎、梅五郎、日下淸三郎、勘藏、外山勘左衛門、團四郎、杣馬八、室山比丘、龍藏、川こし五郎、太和多木辨次、紀次、若黨勝介、鈗之助、長柄の長者横田次郎太夫、たい助、戸田佐五右衛門、駒右衛門、杣竹九郎、大しま大八、廣五郎、星の井丹助、三九郎、會田宿やの亭主、鳥藏、非人岩井熊藏、同車の牛、冠四郎、同闇の三、今六、醫師文庵、村藏、北條花若丸、澤平、小性左門、助藏、同右門、瀧助、珉小の濱、富三郎、同小きく、菊代、同葉すへ、增吉、梅か枝妹さくら木、東藏、日下重左衛門、番

頭石太夫、七五郎、こし元幾世、路之助、佐々木源吾、大にん坊、友右衛門、淀與三右衛門、若徒作藏、壽美藏、北條左門の頭、多賀の佐々木源太左衛門、諏訪洞、幸四郎、二はん目上るり「染幟蒲菖の彩色」みこ、法印、いさみ、娘、桃太郎、澤村訥升相勤る

富本豐前太夫連中　長唄はやし連中

當狂言の內棧敷代廿七匁五分、高土間廿二匁五分、平土間十七匁五分

○五月十一日より中村座「手習梅」菅しやう〳〵（武部源藏初役）梅王、三津五郎、土師兵衛春藤玄蕃、芝十郎、雜掌彌藤次、宗兵衛、わし塚平馬、奴宅內、文五郎、三好淸つら、下男三介、冠九郎、杉王、駒十郎、安樂寺住僧、和十郎、波崎丹下、米五郎、荒しま主悅、森五郎、百姓豐作、光之助、同十作、十藏、牛飼櫻王、千代飛助、百姓出來作、染藏、同五作、歌十、同門六、とき八、同鋤八、六助、同鍬八、三平、獵師沖藏、千代藏、同娘藏、杉藏、同梶藏、瀧藏、同にだ藏、助藏、男弟子岩松、友藏、同長松、七藏、ふく松、イ藏、松王一子小太郎、紫子松、櫻丸、覺壽、源之助、笠見藏人、甚吉、天らんけい、京右衛門、こし元わか菜、秀次郎、同さつき、三紅、同あやめしらへ、同かつの、駒次郎、局岩尾、龜次郎、同いよの內侍、梅之助、よだれくり、大吉、齋世親王、琴糸、まれよ、芝藏、花園御ぜんかりや姬、芝鶴、くりから太郎、八百藏、梅王女房はる、當世、源藏女房戶浪、左大臣時平、白太夫、冠十郎、千代、立田の前、歌六、松王丸、宿禰太郎、八重照國、芝翫、菅秀齋、傳藏

上るり（竹本三輪太夫、竹本八代太夫）三味せん（竹澤大作、鶴澤伊八）

○六月十八日より河原崎座「黃鳥塚」上るり共儘二ばん目「且說浪花當寫本」團七の（茂兵衛）訥升、岩井風呂のおとみ、龜之丞、吉田やみんし、珉子、たいもじ八、勘藏、親方權兵衛、團四郎、廻しの久七、龍藏、非人十、紀次、同八、鈬之助、頭取小川十太郎、たい助、新地の河九、駒右衛門、船頭吉岡の十、廣五郎、仲居とみ、富三郎、同お梅、菊代、けい子なつ、增吉、高市數右衛門、梅五郎、堺の大治、七五郎、瀨川路曉、治介妻おかち、路之助、廻しの治兵衛、蛇の市兵衛、友右衛門、大見や、錦車、狂言作者、並木正三（幸四郎かわり）壽見藏、岩井風呂の治介、鰕十郎（何れも也）

○六月十八日より市村座一はん目「千本櫻」川越太郎、主馬の小金吾、すしや彌介、源九郎狐、狢左衛門、鮨や彌左衛門、甚六、權太妻小仙、しづか、琴糸、辨け

い、川つら、熊十郎、龜井、吉十郎、大之進、嶋藏、安德天王、六代御せん市川壽吉、土佐坊、相藏、善太、守之助、すしや女房おかや、藥醫坊にせ右衛門、若葉の內侍、川連妻飛鳥、德之助、するが、五郎市、鬼佐渡、彥左衛門、卿の君、おさと、紫妻、梶原景時、三津右衛門、よしつね、權太、覺範、スケこま藏「双蝶々」上下濡髮と與五郎、羽左衛門、棒頭六郎兵衛、甚六、尼妙貞、與四郎兵衛、曾呂平、のでの三、桃太郎、下駄市、杢藏、あづま、德之助、有右衛門、彥左衛門、長吉姉お關、紫妻、鄉右衛門、三津右衛門、放駒の長吉、高麗藏、二ばん目上るり「むかしの人の追善に香もふつゝかな橋の軒　辻花七化粧」座元羽左衛門、曾我十郎、江口の君、心猿、植木うり、あみ打、田舍娘こせ、杜立、大七役、

清元連中　長唄連中　殘十八匁　高十五匁　平十二匁

「蔓一筋加賀文臺」當狂言七月十六日より始る處故障出來廿六日より始る　中村座安田年行、同桂之介、鳥井又助大出來谷澤主水、源之助、田代佐五右衛門、平野勘兵衛、芝十郎、梅の井花の、常世、押木庄太夫、京右衛門、香河軍藏、芝藏、越田宅左衛門、冠九郎、小山龍藏、染藏、奥女中駒井、駒十郎、玉木伊十、駒十郎、野上大九郎、文五郎、左近娘定子、芝鶴、

望月將玄、雲藏、谷澤賴母、冠十郎、高はし作十郎、五十松、三甫右衛門、安置左近之進、芝翫二ばん目「本町丸艫舳稻妻」半時九郎兵衛、源之助、糸や彌十、芝十郎、醫者東林、文五郎、山住五平太、芝藏、綱五郎女房おふさ、常世、奥女中濱なぎ、芝鶴、あはしまの權兵衛、冠十郎、笠原喜藏、森五郎、奴かん平、千代飛助、本町丸綱五郎佐七、芝翫、大切所作事「おどけ俄者本珠取」清元連中惠比須、龍王、球とり、海士、しやほん、玉うり

右四變化芝翫何れも大出來なりしが不入此狂言隨分評判よかりし所故障ゆへにか不入にていろ〳〵の惡口の內

芝翫や五〆とつちやあ冠十に合ぬから京桝の內仕舞かと云と云々

然る處八月十七日壹ばん目と上るりの間へ一ㇳ幕「近江源氏」八つ目九つ目佐々木高綱、源之助、四の宮六郎、芝十郎、花田園部之介、文五郎、古鄉新左衛門、光之助、竹下孫八、染藏、佐々木小四郎、吉松、同小三郎、八重藏、姬小ゆり、秀次郎、同夕良、龜三郎、同千草、三江、同花の、友三郎、盛綱妻、早瀨駒次郎、でつちほん太、芝藏、高綱妻篝火、芝鶴、はゝ微妙、常世、和田秀盛、北

條時政、冠十郎、佐々木盛綱、谷村小藤次、芝翫、源の實朝公、傳藏、何れも大出來〇八月朔日より**市村座**[増補筑紫䌫(そうほつくしのいへつと)]加藤重氏、後にかるかや道心、新銅娘夕して、玉やの與次、訥升(當狂言より出勤)監物太郎、同宿安心坊、壽美藏、黒塚鬼藏八、庄や太郎作、同宿宗悅坊、三津右衛門、獅子戸鄉介、曾呂平、松倉主水、五郎市、大納言良基卿、高野山圓實阿闍梨、熊十郎、松浦喜藤次、杢藏、重氏一子石動丸、紫子松、高野山、兒淸市、音吉、同市藏、同麗助、同芳藏、同茂作、同梨藏、同吉松、與次娘かどた、澤平、郡次、紀久藏、尼子左衛門太夫晴久(當狂言すけた、んまり一幕)三津五郎、鬼菱平馬、紀次、こし元ちくさ、富五郎、同とのみ、愛之助、同まがき、菊助、横鄉戸平、木樵與喜作、龍藏、由利の七郎、關口隼人、團四郎、婉小はぎ、東藏、同桔梗、德之助、同稻舟、富三郎、義弘奥方櫻木、紫妻、加古川東馬、同宿義圓坊、七五郎、繁氏奥方牧の方、珉子、監物女房橋立、路之助、駒形一學、同宿喜悅坊、高麗藏、千鳥の前、與次女房およち、龜之丞、河内次郎政元、だんまり多々良新左衛門秀冬、市藏、菊地左衛門、團十郎、桑原女之助、羽左衛門、貳はん目[ひらかな]むけんの段けいせい梅枝、訥升、千歲

や才兵衛、三津右衛門、たいこ勘八、鈌之助、同竹次、助藏、仲居およへ、東藏、同お富、富三郎、同おとく、德之助、同おしつ、紫妻、お筆、珉子、法印、甚六、同女房お鹿、路之助、梶原源太景季、羽左衛門、上るり、竹本百合太夫、三弦鶴澤勝三、何れも大出來〲〇八月二日より**河原崎座**[天竺德兵衛韓噺(てんちくとくへいゐこくのはなし)]細川政元、渡守浮世戸平スケ三津五郎、奴鹿藏、かなや金五郎、松助、吉岡宗觀實木祖閑見世物師藤六、宗兵衛、宗觀妻夕波、遠山姉おくに、與右衛門娘お德、琴糸、佐々木桂之介、奴音平、新七、山名時五郎、後室お國御前、梅五郎、桂源吾、篠の才藏、居合拔長井深十郎、和十郎、質や利兵衛、たい助、犬上段八、ぜげん權九郎、勘左衛門、浪人赤松丹六、馬平、同嘉藤太、市五郎、同大藏、冠四郎、庄屋こせ八、村藏、足利義若丸、久次郎、又平娘おのさ、紋三郎、山三妹いてうのまへ、仲居おさの、德之助、藤六妹おふで、奥女中袖垣、春次、足輕彦右衛門、山の部伊平太、彥左衛門、庄屋杢兵衛、尼妙林、甚六、名古屋山三郎元春、奴笛平、三津太郎、茨木門兵衛、羽生や竹四郎、友右衛門、山三女房かつらき、けいせい遠山、額の小三、かつしかお十、粂三郎、天竺德兵衛、土佐の又

平、座頭德市、木下川與右衞門、狩の四郎次郎、累井筒
のかさね、不破伴左衞門、菊五郎、大切上るり 常盤津
小文字太夫 若太夫、政太夫、三味線、岸澤市藏、上てうし金藏、同萬吉
「命懸色の二番目」女達雷のおつる、粂三郎 明石潟馬右衞門、友右衞門 浦島太郎作、三津五郎 何れも大出來〳〵
附錄此度累井筒の怪談風呂敷包を柱にかけおのづ
からほどけ內より幽靈の出る仕かけ古今大出來大
當りお岩のちやうちんとは又格別奇妙〳〵
○九月十五日より「布引瀧」三段目迄中村座「二代勝
負附」二幕木曾義賢瀨の尾太郎、鬮取秋津島、三津五
郎、長田太郎、百姓九郎介、矢十郎、高橋判官、九郎介
女房小よし、宗兵衞、橋の仁惣太、六角伊達五郎、文五
郎、宇佐美六郎、鳴岩九郎八、冠十郎、籠石浪八、駒十
郎、土くも丸藏、森五郎、小松重もり、和十郎、長田郎
等兵內岩五郎、六角要之介、甚吉小萬一子太郎吉、翫
八、秋津島國松、助三郎、水茶屋おみそ、秀次郎、妼紅
葉、龜次郎、同楓、三江、待宵姬、駒次郎、杣斧吉、大吉、
難波の次郎、若者喜六、芝藏、あふひ御前、傾せい大
淀、芝鶴、下部新平實は行綱、〻ケ高麗藏、小まん秋津島
女房おきよ、常世、行司庄九郎、冠十郎、齋藤實盛、鬮
取鬼か嶽、高倉隼人、芝翫、行司式守喜之助、傳藏、
大切上るり「夕ぎり伊左衞門廓文章」三津五郎 夕ぎり、芝翫 伊左衞門
一日替り大當り、夕ぎり、伊左衞門、三津五郎、阿波大
盡、芝十郎、吉田屋、女房おせん、常世、喜左衞門、冠十
郎、夕霧、伊左衞門、芝翫
富本豐前太夫 大和太夫 和田太夫 名見崎與三郎 同 喜十 上てうし同 市藏 同 市十
竹本三輪太夫 竹本嶋太夫 同八代太夫
鶴澤大作 鶴澤伊八 大入大當り
○九月十五日より市村座「信田館貢物船謠（したやかたみつぎものがたり）」信田家中
信田早八、神力丸船頭小平次、常陸國篠原狐、訥升、信
田家中千原十左衞門、小見川左內、美壽藏、信田額次
郎、妼早枝、茨木彌藏、三津右衞門、眞壁沖右衞門、小平
次母おなる、道具や八十兵衞、曾呂平、庄や杢兵衞、五
郎市、下妻歌五郎、勘藏、粂房林平、古手や伊が八、熊
十郎、漁師細右衞門、吉十郎、長寧寺住僧宥有、こせ右
衞門、行方源吾、松戸丈介、德次郎、松戸次郎八、小松
や手代定兵衞、三九郎、同來介、船頭浪藏、もゝ太郎、
同とも藏、熊藏、同岩藏、熊次郎、漁師つな藏、仲藏、小
平次娘おつか、紫妻、秀女浪守之介おなみ、音吉、仲居

おきよ、富三郎、下館源内、紀次、黑石要八、小まつ、手代善助、鈨之助、筑摩新吾、鮒うり源五郎、新藏、大浦仁平次、團四郎、こし元小はき、愛之助、同野きく、菊代、同尾花、東藏、同淺顔、小平次、妹おつな、紫妻、辛崎や傳次郎、七五郎、傾せい須磨浦、早人母飛鳥、眠子、小山判官、奥方賤はた、十左衛門、女房水はま、路之助、奴久我介實は小山主水之介、こま藏、早人妹白露、小平次女房おかち、龜之丞、信田家中さし田傳藏、小松や惣右衛門、市藏、小山嫡子英太郎、團十郎、信田治部大夫、同しつけん、浮島彈正、幸四郎、信田多門之介、小松や宗七、羽左衛門、二ばん目所作事、訥升相勤、「妾花后雛形」舞姫、唐人、丁稚、局女郎、小鍛治、五變化、長唄連中、常磐津連中、○九月十七日より**河原崎座**「忠臣藏」九段目迄 鹽谷判官、本藏、平右衛門、數右衛門、三州源之助、桃井若狹之助、九段目力彌、松助、原司右衛門、おかる母、七五郎、直よし公、竹森喜太八、新七、矢間一もんしや、梅五郎、下女りん、富森助右衛門、たい助、六角左京、駕かき萬十、駒右衛門、司とは八、冠四郎、めつぼふ彌八、植藏、種か島六、村藏、杉の十平次、市五郎、上松三太夫、島藏、茶屋珍才、龜五郎、

狸の角兵衛、小寺十内、京右衛門、大はし、米五郎、一力亭主、娵早わらひ、仲居お御、細之助、こし元若菜、仲居おきん、にしき、九段目、小浪、菊代、こし元山吹、仲居おてる、春次、山名次郎左衛門、せげん善八、彦左衛門、百姓與一兵衛、鷺坂判内、甚六、本藏妹みなせ、仲居おこと、琴糸、千崎彌五郎、石堂右馬允、三津太郎、斧九太夫、鷺坂判内、友右衛門、かほよ仲居おとは、粂三郎、おかる、力彌、お石、粂三郎、高師直、勘平、二段目小浪、定九郎、由良之助、菊五郎 大出來成しか不入にて ○十月四日より二ばん目「其噂楓色時」清元延壽太夫 政太夫 鳴尾太夫 三弦 齋兵衛、千藏 榮次郎、磯八 白ふし源太、源之助、船頭長吉、松助、家主權兵衛、七五郎、髮結三吉、新七、落咄し扇橋、梅五郎、増田郡藏、駒右衛門、地廻三次、市五郎、同かし吉、龜五郎、同やけ鐵、冠四郎、下女おなへ、村藏、園生前、春次、水茶屋おうた、琴糸、駕かき六藏、彦左衛門、猿や町與次郎、甚六、有松主水、三津太郎、お嶋姉おとく、粂三郎、げいしやおしゆん、粂三郎、るづみや傳兵衛、菊五郎、大當り狂言作者、待乳正吉、松島てうふ、濱村助、金井由輔、寺嶋松作、中村重助、瀨川如皐、わつはの 雞王生熱のひつきより出る、景清の大百日、

典待局の靈、緋袴にて三人立廻り、直に辻堂に入、下の方藪疊より田舍姬の出何れも評よし、覺はんにて鼠衣の旅僧、義つね常陸坊兩人に道を敎へ、本舞臺へ來る向ふをきつと見て本つりかね、落つく先は座王堂おのれ義經今にぞ思ひしらせんとにらむ所外にるいなし本家〳〵横川の源信坊實は將軍太郎良門、惟仲息女粧姬、墨染櫻精靈、菊五郎、淨るり二はん目◯十一月廿七日より市村座「坂東武者綱手始」市川團藏名前計り奴すは平、重太郎、純基實は碓井貞光、袈裟太郎、駕かき次郎作、橋立文平、三十郎、獵師粟の木又次、伊賀壽太郎、幸四郎、ころ付市原鬼藤次實は物部平太有國、坂田金時、市藏、賴光妹美女の前、政平娘芳原傾せい七綾實は良門妻、蘆原の次郎作、京の次郎作、女房おまち、榮三郎、源賴信實は常陸五郎、下部浪平、松助、大宅次郎光久、梅五郎、奴和田介若徒宇作、十藏、巨勢芳岡、奴出來助、和十郎、田邊隼人、久々智左衞門米五郎、荒岡次郎、問屋役人辻右衞門、寅五郎、奴友平、大木戶五郎、菊四郎、飛脚三里の又平、日の岡九郎、京右衞門、祭の役人常陸丸、吉松、粧姬わらはかざし、紋三郎、廣綱奴ませ平、助三郎、祭役人常陸丸實は仲光一子幸壽、粧姬わらはは留木、簑助、季武一子武部丸、菊之助、賴光公達文珠丸、大三郎、禿小枝、二藏、同たより、三次、江の鮒入道鯆鯰、森藏、式部傍女初紫、富五郎、同梶の戶、愛之助、同常夏、友三郎、女順禮おうた、梅四郎、蘆屋太郎、黑岩次郎、甚吉、加藤三郎妹濃藤、古商人おなる、松代、同木〳〵しのおつげ、乳人なきさ、しらべ、粧姬こし元二葉、女商人おきん、三紅、奴土手介、道者鈴女、五郎市、須藤八郎、奴谷平、熊十郎、押合平馬、宇野兵衞、曾呂平、茨木左衞行成景、大津雲助、平九郎、京四郎、次郎作妹おしつ、紫妻、加藤三郎妻橋立、かてう、平の正盛、若徒ぶん平、歌六、山かつ牛藏、鬼藤次女房おふく、三津右衞門、伴の別當隆家、猿廻し百姓太郎次、宗兵衞、粧姬妹千束の前、嶋原月見仲居お春、嵐田之助、伊賀壽太郎妹花園、北野傾せい小櫻方下玉三郎、良門めのと御槪、渡邊妻春雨、次郎女房おきみ、常世、源の賴光、田原の介千晴、丹波の目代八栗庄內、駕かき京の次郎作、源之助、山賊長本丹波太郎實渡邊の源次綱、關兵衞實は左大臣髮黑主、三津五郎◯顏見世、十一月廿五日より中村座「棊盤忠信雪黑石」九郎判官義經、傀いらいしてく

ゐく實は鷲尾三郎義久、尺八指南彌左衞門實は小金吾、渡海や銀平實は平知盛、わつはの菊王、秩父の重忠、訥升、時忠息女卿の君、彌左衞門女房おくに、喜三太妹おきしけいこ娘おかめ、龜之丞、阿波民部重能、權太の母おむつ實は一條右衞門妾かほる、月行事仙吉實は半澤六郎、八百藏、權太妹おさと、惟盛侍女渚、雁お針おみち、路之助、吉野衆徒辨中阿闍梨、武小辨夫なり卿、熊膏藥傳三郎、甚六、出羽左衞門有國、下市の百姓九介、山くじらのもん治兵衞、芝藏、平少納言時忠、吉野衆徒感立禪師、道具や喜内、冠十郎、白川村の茂作、大吉、鈴木の三郎、駒十郎、猪の熊入道大進、はだか參り市、紀次、駿河次郎、鶴五郎、龜井の六郎、冬奉公人與六、森五郎、番場の忠太、夜番人音、千代飛助、代官森山郡次、岩五郎、早見藤太、瀧藏、六代君、七藏、能登守敎經、尾形三郎惟義、佐々木三郎盛綱、横川範覺、清水坂堂守傘張法橋、幸四郎、建禮門院纎子大原の女馬士おつな、藤戸の渡し蜑おしほ、靜の母賤の前司、煙草うり お六實は重衞の妾伊王の前(半四郎改名)杜若、門院侍女小待從、岩井粂三郎、よしつね息女いぬゐ姫、粂八(久次郎事)朝方息女花照姫、富三郎、同かし付しもと、德三郎、卿の君侍女深雪、駒次郎、同枝折にしき、水茶やおたい、清繁妹おこそ、東藏、熊井太郎妻柏手、女順禮お德、富の札うりおよし、琅子、海野太郎、吉野衆徒、次部法眼寒念佛西念、文五郎、女六部妙典、民部妻うつせみ、女髮結おつる、芝鶴、梶原平次景高、清水院金王法橋、御厩喜三太、三保谷四郎、芝十郎、常陸坊海尊、下市庄屋善右衞門、川越太郎重頼、こゐ付仁太實は黑木左衞門、冠十郎、黑木うりおせん實は典侍の局亡靈、權太女房お仙、のり經娘横ぶへ、靜御前五條坂けいこあこやのお松、半四郎、(粂三郎改名)佐藤忠信、正直村庄作實は江田の源三、いがみの權太、武藏坊辨けい、町かゝへ七、惡七兵衞景清、芝翫、安德天皇、傳藏、第壹番目四立目淨るり上の卷「(大將の物見車 御惠の丁子車)世界の色花辨慶」よしつね、訥升、喜三太、芝十郎、八百藏、龜之丞、しつか、半四郎、辨けい芝翫、常磐津小文字太夫、若太夫、岸澤式作、上てしし八五郎其外連中下の卷「(小原の黑木賣西の宮の 箱根正直庄やか村の月)優平家後段景事」訥升、半四郎、芝翫、清元延壽太夫、政太夫、鳴尾太夫、清元齋兵衞、粂次郎、其外連中相勤何れも大出來、簑田源吾廣綱、獵師松か崎勇介、源の頼信、羽左衞門、

第二番目 大切上るり［時代違ひな染直す／黒染と髭黒主 積戀雪關扉（つもるこひゆきのせきのと）］髭黒主、三津五郎、粧姫、黒染櫻の靈、菊五郎、頼信、羽左衛門、三立目段まり牛藏、三津右衛門、嵩藏を脊負來る貞光、三十郎、狩人の姿にて兩人立廻りあり辻堂より渡部綱、狩裝束行縢（むかはぎ）弓矢を持出て牛藏を相手に立廻りあり、古塚崩れて源信僧都、きく五郎、ゐがくりあたま破衣腹に繩を卷色靑ざめ瘦てひよろ〳〵と立、二人りの中に入り、寶劔菊五郎の手に入ると是を頂き元の穴へ這入あと兩人宜しく 三重 幕を引と菊五郎、花道のすつほんより傾せいにてせり出し空を見ながら切幕へ入大出來、大切、關の戸墨染櫻、櫻をきぬ張りにし墨染の姿、櫻の坑より見ゆる仕掛け何れも大出來大當り狂言作者寶田壽助、福森吉助、田川正助、高松金助、坂調三、松本幸二、奈河本助〇十一月十六日より**河原崎座**［頼有御攝綱（たのみあるごひいきつな）］周防の內侍岩井谷町切見世三か月おせん、市原賤女おやな、綱五郎、女房おふさ、桝花女の靈桔梗の前、杜若、碓井荒太郎貞光（初暫）能勢太郎信澄、木場筏乘り三吉、團十郎、山かつ斧藏實は三田の仕伊豫太郎、せりこふくや權兵衛、大江の左衛門、鰕十郎、伊與の太郎、部屋頭辰右衛門、

引手茶や稻穗や通光、友右衛門、乙の侍從、女髮ゆひおつけ、三之丞、大宅太郎、蛤町獵師とま六、宗三郎、熊野の次郎、たいこ櫻川由次郎、勘藏、同善孝、馬淵太郎、銀兵衛、切見世女おかね、たい助、長屋廻り權次、和志藏、正盛中間佐五六、駒右衛門、同へち介、扇藏、鬼菱藤內、廣五郎、宮津子小彌太、團子、同太郎又、麗助、同次郎又、紫子松、市原野里娘おゐた、龜吉、同おむめ、粂三郎、小舍牡丹丸、新之助、同花若丸、銀吉、妼光同早わらひ、繁次郎、保昌妹笹の梅之助、同田原之助妹浪の戸、富三郎、盜賊雲夜及、大和十郎、丹波太郎鬼住、龍藏、高松鬼太郎、大福もちや太右衛門、義右衛門。辻風の雲夜及、升藏、幾野次郎妹霜夜、增吉、遠里三郎妹雪の戸、龜次郎、花園姫かしつき初しも、辰之助、髭黒の左大臣、船頭伊之助、勘左衛門、季武妹伏屋、琴糸、粂本二階廻しお玉、猪之熊入道番雲、花の師匠春草庵、一猿、彥左衛門、淡路守頼親、平清料理人豆久、團九郎、藤原の仲光、石場の家主彌惣兵衛、七五郎、頼光妹花園姫、粂本娘分おはた、菊三郎、御幸之介行成、源の頼光むきみ賣三次、高麗藏、平井の保昌、物部の平太有風、狀遣ひ定七、壽美藏、保昌妻橋立、惣嫁

袴垂のお安、仲光妻しら梅（下り）山下金作（初嵐三時と云）足柄山の快童丸後坂田の公時、池田中納言息女粧姫、藝者中根や小原、和泉式部、半四郎、大葦原親王將平公、鰕さこの十兵衞實は渡部の綱、足柄の山姥、囘國修行者幡寶は將軍太郎良門、成田山講頭本町丸綱五郞、丹波の國しつへい太郎、海老藏、第二番目大切淨るり「木場相傳の山姥白銀傳來の快童色升哉時雨大和」山かつ、鰕十郎、賴光、高麗藏、奴升平、壽美藏、金太郎、半四郎、山うば、海老藏、上の卷富本豐前太夫、大和太夫、古志太夫、（三弦）名見崎德治、安治、市藏、名見崎市藏、下の卷常磐津小文字太夫、若太夫、男女太夫（三弦）岸澤式佐、仲助、扇吉、和助、相勤大當り狂言作者三升や二三次、篠田銀三、高全助、姥尉助、七室市雅、勝田慶藏、篠田金治

第一番目三立目

　　暫のつらね　碓井の荒太郎貞光

　　　　　　八代目　市川團十郞（十歲相勤）

東夷南蠻北狄西戎八荒天地乾坤其の間に有べき人のやつかい小僧八百八町八百萬の神と佛の惠にて其御贔負にやどり木や取揚げ婆々あは成田の不動

おぎやあといふもしばらくもおんなじ產聲あげまく〳〵の持のたいない蹴破つて罷出たる某は碓井荒太郎貞光江戶吉例の惡魔はらゐつん拜んだる向ふづらおとつさんでもかまやせぬこちやかまやせぬ昔〳〵のぢい達がねがひの筋隈掛烏帽子柿の素袍に鶴菱は御恩を着升おいらが產着すてきな御利生めつぽうな御利生大太刀ちから髮御見物のうぶすなへけふ宮まいりの花の顏見世さまたげひろぐ赤がへるおもちやの中のがらくためら富士と筑波の眞中から天の川へほふり込とほゞ敬白

　　　　七代目　市川海老藏自作

○當顏見世六部良門女六部白猿杜若兩人にて三座一の大出來也切見世の幕大切山姥上るり迄何れも大出來大當り

花江都歌舞妓年代記續編卷の七

◉天保四癸巳年

○正月廿三日より **中村座**「初芝居愛敬曾我」十郎祐成、八わたの三郎、黑船忠右衞門、駕かき東の與四郎、梅澤小五郎兵衞、三十郎、仁田の四郎、浪人箱根の畑右衞門、鎌倉や手代三九郎、小林の朝此奈、冠十郎、赤澤十內、小藤太鑓持久 壽美三平、はんじもの喜兵衞、芝十郎、蒲の冠者、いつみや治三郎、八百藏、大藤內、成景、小藤太、中間伴介、文五郎、海老名軍藏、地ごく清兵衞、芝藏、梶原景季、冠次郎、鎌くらや手代久七、駒十郎、海野太郎、米五郎、新貝の荒四郎、光之助、梶原平三、染五郎、百足や金兵衞、大吉、若者鄕助、千飛助、舞つる禿千鳥、路太郎、御厩のとん竹、大三郎、工藤祐經、惡七兵衞景清、中間馬淵角內、雲介大磯の龜、幸四郎、景清娘、人丸女、非人おさよ禿たより鎌倉屋後家おてる、和田の舞鶴姬、杜若、千壽君、實朝公、駒太郎、飛脚一時三平、森藏、大磯宿引おかく德之助、伊豆の次郎左衞門、かまくらや下女おとく、辰之助、地廻り藤六、番場の忠太、歌助、忠右衞門母おこう、眠子、奥女中喜瀨川、鬼王妹十六夜、芝鶴、三うらの片貝、鎌くらや五郎八、多門、忠右衞門女房おまさ、かまくらや娘、奴の小まん、龜之丞、鬼王新左衞門、御所の五郎丸、八木孫三郎、近江の小藤太、源之助、曾我五郎時致、梅澤小五郎兵衞、駕かき難波の次郎作、獄門の庄兵衞、大日寺閑坊、芝翫、源の賴家公、鎌倉や倅仁三松、傳藏、第二ばん目大切「戾駕色相局」與四郎、三十郎、禿杜若、次郎作、芝翫、淨るり常磐津小文字太夫連中相勤何れも大出來大當り○正月廿一日**市村座**市川團藏、到着に付曾我狂言興行なく時代狂言則「八陣守護斯本城」加藤肥田頭正清、下り市川團藏、此村後室三浦、正清女房葉すへ、常世、三左衞門娘ひな絹、玉三郎、加藤數馬之介清鄕、下り市川團三郎、小田春若丸、みの介、まり川玄蕃、三津右衞門、八十瀨の局、かてう、三保崎大藏、熊十郎、淺井勘ヶ由、森五郎、小姓右近、義作、同左近、相藏、坪坂運八、杢藏、横雲兵馬、こせ右衞門、赤間主膳、杣十郎、奴丸平、桃太郎、堅田鐵八、熊次郎、妼しげの、蔦五郎、石山岩九郎、三作、角平筆八、粟津清五郎、助藏、矢橋勇八、歳藏、宇間郡司、利根藏、奴

しま平、德次郎、横須賀運八、三平、妼橋、友三郎、同志賀、富五郎、同初音、梅次郎、同つばき、直之助、いかるが藤内、和十郎、早枝左門、五郎市、岩淵寅太郎、曾呂平、富田三之進、京四郎、山陰中納言、七五郎、春姫君、三左衞門女房しからき、妼とき、榮三郎、後藤政兵衞、正次、小田春雄卿、市藏、森三左衞門可なり、千しま兵庫頭義弘、三津五郎、第二番目「鳴門染色繪白波」安田ゆきへ、團藏、十郎兵衞女房おとく、常世、けいせい浦里、玉三郎、櫻井村二郎、團三郎、非人佐渡七、三津右衞門、茶屋女房お吉、かてう、石部金太夫、寅五郎、茶屋女房おたか、しらべ、十郎兵衞娘おきみ、助三郎、たいこ持和十郎、船頭才藏、五郎市、非人さど七、曾呂平、仲居およし、三紅、舟宿女房おくま、紫妻、戸川主水、京四郎、本阿彌縫殿介、七五郎、手代助右衞門、宗兵衞、矢場女お春、榮三郎、奥女中氏江、市藏、阿波十郎兵衞、三津五郎、櫻井主膳、羽左衞門、大切「檀浦兜軍記」ちゝぶの重忠、菊五郎、傾せいあこや、團藏、半澤次郎、團三郎、岩永左衞門宗連、三津五郎、何とも大出來大々當り、重忠長袴の出如何岩永あこや三曲何れも大出來大評判壹番めかとう毒酒より樓船よし天守月代を剃り床几にかゝる是は元祖市川鰕十郎、大百日かつらにて勤め候此方見分よし仕打萬端申分なし○正月十九日より河原崎座「富士扇三升曾我」ちゝぶの重忠、大藤内實近江小藤太、曾我十郎祐成、菊五郎、小林朝日丸、團十郎、河野法橋全丈、鬼王新左衞門、壽美藏、宇佐美三郎祐茂、伊豆次郎、高麗藏、焔魔堂守閑坊、友右衞門、劔澤彈正左衞門、團九郎、箱根の畑右衞門、宗三郎、大磯や傳三、團四郎、梶原源太、龍藏、半澤六郎、團内、番場の忠太、銀兵衞、梶原平次、鷲藏、平家公達保童丸、粂三郎、梅澤小五郎兵衞、工藤祐經初工藤訥升、景清、子あざ丸、新之助、千壽君賴家、菊之助、竹の下孫八左衞門、春五郎、新貝の荒次郎、かま平、せげん地ごく清七、升藏、妼小磯、紀久之助、同六浦、白之助、同腰こへ、濱之助、同うたはし、繁次郎、同小ゆるぎ、菊世、蜑千ひろ、東藏、奥女中星の井、龜次郎、同うた世、春次、蜑もしほ、琴糸、梶原平三、彥左衞門、奥女中みすき、三之丞、百足や金兵衞、甚六、鬼王妹十六夜、大姫君、菊三郎、清水冠者義高、京の次郎、松助、けわい坂少將、月小夜、金作、舞鶴姫、大磯の虎、半四郎、蒲の冠者のり賴、八幡の三郎、實は赤澤十内、

惡七兵衛景清、海老藏、第二番目「其往昔戀江戸染」小姓吉三、五尺染五郎、菊五郎、ゑび名軍藏、鬼王、庄司左衛門、壽美藏、べにや長兵衛、荒井源藏、友右衛門、お七母おかや、三之丞、家主太左衛門、彥左衛門、鈍風運平、扇藏、萬屋娘おりん、菊世、仁田四郎、白酒うり新兵衛、訥升、京や娘おぬい、東藏、狩之介、勘藏、所化妙典、義右衛門、吉祥寺日海上人、たい助、かまや武兵衛、甚六、花や娘おさき、菊三郎、赤澤十作、松助、下女お杉、金作、お七、半四郎、土左衛門傳吉、海老藏、大切上るり「桃媚ある娘ざがり櫻趾らふ若衆ぶり新媛雛の世話事」八百やお七、半四郎、白酒うり、訥升、菊三郎、菊五郎、傳吉、海老藏、常磐津小文字大夫、和歌大夫、駒太夫連中相勤、道行「手向の春雨」岩井半四郎淨るり竹本入太夫、三弦鶴澤久作相勤

第二番目八百屋の場にて青物づくしのせりふ

六左衛門傳言　市川海老藏

「もしおつかさん明ましてはけつこふな春でござりますお目出たい次手に厄拂ひじやァござりませぬが長芋の浮世に短い紅蘿蔔八百屋の升に一生を計り込だる唐がらしまだ唐ぢさの時分から心こまかに切り干大根茗荷も知らねへ生瓜だと世間で白瓜噂を紫蘇何と茄子とながらへてまた枯根にも花鹽のそこをこう／＼つく土筆よしない事を根芋に持ち干瓢するは八百屋の蕪菜サァなん茗荷法蓮草くらやみの薑をあか小豆若葱をしらねへ葱は小芋に心黒くわへ百合がきたない迚切ては捨られまゐはだ菜うわさも有事か先達不孝は蒲公英の葉はさかさまな事に成り蕨ま松露と氣を大和芋箸にも懸らぬ此わしが心の竹の子うち明てとんだかぼちやがいけんを湯波よくきく辛子とわさびに唐茄子一番じゆんさいじゆんわりとコカァ私を立てくんなせへナ

○第貳番目お七吉三何れも大出來大評判○三立目八幡の三郎實は赤澤十内にて團十郎、梅幸、と過し赤澤山にて河津が討れし物語夫より箱根地藏堂にて小藤太討れ早替りにて箱王丸にて近江を討取菊五郎早替りにて十郎祐成大磯通ひの所大出來此狂言は文政六未年市村座にて「八重霞曾我組糸」と名題にて大當りなりし此度も大々當り○三月三日より中村座「櫻時花吉原」不破伴左衛門、福島左近之進、浮世、　、三十

郎、名古屋三郎右衛門、修顯者賴横院、冠十郎、不破道犬、犬上鵬八、芝十郎、南無右衛門女房礒菜、嘉門時蓬生、路之助、長谷部雲谷、庄や德右衛門、文五郎、奴岡平、笹野蟹藏、歌助、唐崎團右衛門、冠次兵衛、矢橋兵藏、駒十郎、栗津久内、米五郎、山賊つゝらの胴八、森五郎、同岩、染五郎、上林清左衛門、大吉、飛脚岩平、千代飛助、醫者町野養甫、勘左衛門、小姓右門、友藏、同左門、イ藏、御次九久藏、大三郎、山賊筑紫の軍太、武智左馬五郎、岸田兵部、幸四郎、けいせい葛城、出雲のお國、將監娘おみつ、女髪結おせん、杜若、三八倅三之助、八重藏、女小姓千彌、七藏、茶や珍慶、森藏、肩や娘お花、德之助、左京妻關屋、駒次郎、呉服や娘おかよ、にしき、官女松の局、辰之助、いてうの前、眼子、岩淵丹下、出子須介、芝藏、さゝ波御前、又平女房早枝、芝鶴、又平娘おりう、新造いわ橋、多門、名古屋三平、瀬川采女、八百藏、白拍子藤浪、奥女中柏木、あしや姫、龜之丞、佐々木桂之介、千鳥吉久、奴鹿藏、源之助、名古屋山三、さゝら三八後六字南無右衛門、左官門兵衛梅澤嘉門、芝翫、佐々木花若丸、禿もじの、傳藏、第貳番目所作事「奥九重彌生花道」九變化中村芝翫〔文道の娘、丁稚、雨乞小町、雷、越後獅子、契情、座頭、朱鐘旭（先年師匠歌右衛門相勤置候此段相勤）富本豊前太夫、齋宮太夫、志名太夫、三味線名見崎德治連中長歌富士田千藏、吉住小四郎、同小八、同定五郎、同正三郎、三弦杵屋六左衛門、同彌三郎、同三五郎、同榮藏、同喜三郎、ふへ住田新七、同金太郎、小つゞみ田中佐十郎、大つゝみ田中傳左衛門、大こ坂田重藏、同六郷新平、ふり付藤間勘十郎、三弦杵屋慶次郎、ふへ住田新四郎、三弦杵屋三太郎、第一ばん目不破名古屋の狂言は山東京傳先生作稻妻表紙を增補せし仕組なり京攝にはおりおり興行す此節の嘉門は宇治常悦の作りにて謀叛人の如し甚惡し〇三月九日より**市村座**「妹脊山婦女庭訓」大判司清澄、烏帽子折求馬、團藏、入鹿妻めどの方、常世、御清所おむら、團三郎、志賀之介、簑助、秦の大膳、三津右衛門、曾我惠みし、一友（團九郎改名）、妼小きく、かてう櫻の局、熊十郎、宮越玄蕃、虎五郎、妼きゝやう、しらべ、仕丁次郎又、市十郎、直宿之介、甚吉、仕丁九郎又、築次、同太郎又、市五郎、同五郎又、歳藏、足輕助兵衛、德次郎、同德平、利根藏、同利助、吉十郎、中納言行主、和十郎、萩の局、五郎市、家主李兵衛、曾呂平、宮女乙の局、

三紅、同さかみ、紫妻、でつち寐太郎、七五郎、杉酒屋後家おきた、京四郎、大宰の息女ひな鳥、入鹿妹橘姫、玉三郎、酒屋娘おみわ、中山みよし下り初より名題入鹿大しん市藏、りやうしふか七、後室定高、三津五郎、久我之助、藤原鎌足公、羽左衛門、二ばん目「五大力戀緘」勝間源五兵衛、團藏、武藏や女房お此、常世、千しま千太郎、出石宅右衛門、團三郎、下部土手介、家主六兵衛、三津右衛門、飯塚新吾、一友、木森源十郎、富十郎、茶や女房おみさ、かてう、岩崎丹藏、熊十郎、幾坂一平、虎五郎、娘分おとよ、しらべ、船頭三治、李藏、げいしやおち代、熊次郎、時まわり伴太、利根藏、武藏や權次、こせ右衛門、若イもの喜介、德次郎、すしやの虎吉、十郎、娘分おまつ、紋三郎、藝者富次、富五郎、同梅次、梅次郎、仲居おしか、愛之助、いかるか傳藏、和十郎、亭主伊之介、五郎市、博多鐵之介、曾呂平、げいしやおちよ、三紅、同淺吉、紫妻、賤の谷伴左衛門、京四郎、げいしや倉吉、玉三郎、同小まん、みよし、廻し彌介、市藏、さゝの三五兵衛、三津五郎、若徒八右衛門、羽左衛門、第一番目琴責の段其まゝ差出す、市川團藏、病氣に付大はんじ三津五郎、後室常世、替り大出來○三月十八日より「源平布引瀧」瀨の尾十郎、市藏、九之介女房かてう、葵御ぜん、紫妻、矢早瀨の仁惣太、熊十郎、汐見の忠太、三平、庄や李郎兵衛、利根藏、太郎吉、助三郎、百姓九郎助、宗兵衛、小まん、玉三郎、齋藤實盛、團藏、第貳ばん目「勝見幢頭由兵衛」三島隼人、團藏、出勤なし由兵衛女房小梅、常世、金谷金十郎、團三郎、曾根崎伴五郎、一友、三里久庵、三津右衛門、米屋手代喜助、熊十郎、同下女おふじ、しらべ、同下男與太郎、李藏、同仁介、こせ右衛門、地廻り築地の小太、桃太郎、同兵次、德次郎、米屋手代權六、三平、船頭吾吉、十郎、娘分おまつ、紋三郎、仲居おしづ、梅次郎、同およし、三紅、米や仁右衛門、京四郎、信樂主膳、七五郎、げいしや小さん、米や丁稚長吉、玉三郎、同娘おきみ、みよし、赤手拭の長五郎、源兵衛堀の源兵衛、市藏、信樂勘三郎、梅のよし兵衛、三津五郎、金谷金五郎、千葉主計之介、羽左衛門、○壹ばんめ實もりせの尾大出來、貳番目由兵衛茶や場にて三津右衛門、庭の木に上りいろ〳〵鳥の眞似狂言の盃山のうつし大出來玉三郎長吉無間の鐘の場思の外評よし由兵衛勘十郎大出來なれ共中入なり○三月五日より河原崎座幕あり幕なし十一段

の表と裏を引かへして二十二幕「假名手本忠臣藏」目錄の第一鶴岡の饗應、其裏湯揚の花肌、第二諫言の寐刄、其裏繼穗の花催、第三戀歌の意趣、其裏蜂の巢の花靭、第四來世の忠義、其裏短刀の花筐、第五恩愛の雙玉、其裏闇路の花雨、第六財布の連判、其裏血汐の花蔓、第七大盡の鑄刀、其裏後室の花衣、第八旅路の嫁入、其裏心中の花氈、第九山科の雪轉、其裏目錄の花結、第十發足の櫛笄、其裏揚屋の花踊、第十一合印忍兒、其裏本望の花郎役わり高の師直娩、おかる、斧九大夫、茅の三平、天川や利兵衞、菊五郎、足利直より公、團十郎、おいし、仲居おゑい、杢右衞門、妹お市、榮三郎、斧定九郎、大わし文五郎、石堂右馬之丞、高麗藏、山名次郎左衞門、近藤源四郎、茅野三左衞門、了竹悴丑の五兵衞、友右衞門、原鄉右衞門、吉田兼好、質や後家おまつ、甚六、百姓與一兵衞、甚六、矢間十太郎、伊せ參り好藏、宗三郎、鷺坂伴內、梅五郎、千崎彌五郎、勘藏、狸の角兵衞、龍藏、狩人めつほう彌八、扇藏、庭作り受地の喜六、駒右衞門、同傳八、扇藏、祇園のたいこ持常七、廣五郎、雲介權六、六三郎、同久助、熊藏、鳥居本宿の百姓太郎作、多賀十郎、一力娘おいわ、粂三郎、鹽谷判官、小間物屋彌七實は矢藤與茂七、堀部安兵衞、潮田又之助、加古川本藏、訥升、力彌弟大三郎、新之助、鹽谷爲若丸、菊之助、鳥居本宿、百姓才六、鳥藏、鹽谷娩おぬれ、村藏、茶道順才、麗助、梶川與惣兵衞、たい助、祇園たいこ持白十、升藏、箱根の湯女おきく、紀久藏、同おはま、濱之助、鹽谷こし元浮舟、繁次郎、同彌生、菊世、仲町尾花や二階廻しおほの、東藏、鹽谷こし元繪合、龜次郎、深川松本下女おみさ、琴糸、一文字屋才兵衞、庭作り善八、彥左衞門、おかる母おかや、三之助小なみ、菊三郎、力彌、竹林只七、よし松の船頭伊吾、松助、仲町娘分お千代、一力の仲居おかね、師直の御部やらんの方、金作、かほよ御ぜん、升や娘およし、仲町藝者園吉實は八助、娘おその、本藏女房となせ、半四郎、若狹之介、中間直助權兵衞、植木や杢右衞門實は竹森喜多八、寺岡平右衞門、天野や義平、早のかん平、大星由良之介、海老藏、第四段め裏にて淨瑠璃道行「旅路の花聟」娩おかる、菊五郎、早の勘平、海老藏、清元延壽太夫、政太夫、鳴尾太夫、三線清元榮次郎、市松、千藏、萬吉、清元金助相勤、此狂言は三升屋一三兼て筋書致し置候此度白猿增補被致二段目

松切り古今の大出來、一の當り湯治場師直夢の場大出來、其裏蜂の巣大出來、四段目城わたしに御元祖代々位牌を取り出す所九太夫との出合九太夫倅定九郎を呼出し配分金の事くどく言て引込大出來、六段目九段目由良之介評よく十段め直介權兵衞十一段目植木や迄古今稀なる大當り白猿、梅幸一座にては仇矢無之大當りは己前の秀作、錦升の一座にひとし○四月十二日より十段目十一段目淨瑠璃「若緣松鉢植」(わかみどりまつのはちうへ)おらんの方、金作、與茂七、訥升、常磐津文字大夫、若太夫「三弦式澤式作、同八五郎、相勤何れも大出來○五月十五日より中村座「ひらかな盛衰記」梶原源太景すへ、秩父の重忠、源之助、船頭權四郎母ゑんじゆ、鰕十郎、梶はら平三、芝十郎、ちゝぶの重保、八百藏、横須賀軍內、船頭又六、文五郎、同富藏、家主太郎兵衞、芝藏、船頭灘吉の九郎作下り鬼一、鎌田隼人、冠次兵衞、番場忠太、船頭かぢ六、駒十郎、同浪藏、森五郎、妙貞比丘、大吉、船頭綱藏、千代飛助、同とも七、岩之助、同岸八、鶴五郎、同浦六、龜五郎、同沖作、梅太、木曾駒若丸、小十、和田義盛、幸四郎、巴御前、こし元千鳥、杜若、松右衞門一子つち松、翫八、娫若葉、秀次郎、同さつき、梅之助、同阿安、梅五郎、同なつの、にしき、清水や庄八、勘左衞門、娫青葉、辰之助、隼人娘お筆、珉子、松右衞門女房およし、芝鶴、山吹御前、多門、梶原平次景高、船頭松右衞門實樋口次郎兼光、芝翫、第貳番目「二銀杏御存地染」(ふたいてうごぞんじのえどぞめ)本庄若徒八內、源之助、大岸主水、鰕十郎、本庄助太夫、芝十郎、雲介すべとの馬、文五郎、足輕佐介、芝藏、中間細內、鬼一、雲介辨、冠次兵衞、同もり、森五郎、同仁太、米五郎、駕かき角、駒十郎、奴五手介、染五郎、中間てつ平、千代飛助、長兵衞一子長松、團十郎、幡隨院長兵衞、幸四郎、同女房おちか、白井權八、杜若、奥女中葉ずへ、梅之助、局みさほ、駒五郎、雲介富、勘左衞門、權八言號しら梅、多門、久下玄蕃、冠十郎、傾せい小紫、寺西閑心、芝翫、濱名若殿朝丸、傳藏、何れも評判よし二ばんめ幸四郎、幡隨長兵衞の一世一代と言口上言あり○五月十六日より河原崎座「玉藻前御園公服」(たまものまへくものはれぎぬ)天竺花湯夫人の靈、横曾根の平太郎、玉藻の前實は金毛白面の妖狐、菊五郎、當今の舍人力王丸、團十郎、平太郎女房お柳、女夫坂の柳の精、榮三郎、金剛太郎重虎、金藤太秀國、高麗藏、木こり和田四郎、田熊法眼俊次、友右衞門、安部の保親、宗兵衞

磯上飛驒時國、宗三郎、鹿島三郎義つら、梅五郎、當今乙の宮補仁親王、勘藏、中納言光兼、義右衛門、浦辻左京、團四郎、梓巫眞弓、團內、安部の門人峯岡主水、銀兵衛、葵の七郎熊武、わし藏、仕丁九郎又、菊四郎、安部門人小泉大和平、平九郎、同榊宮內、駒右衛門、同松倉外記、扇藏、衛士福作、馬平、同尙作、今六、海賊多藏、廣五郎、同波八、扇作、百姓作右衛門、島藏、山田源藏、多賀十郎、衛士榮作、春五郎、同豐作、村藏、當今の小舍人梅丸、新之助、同松丸、粂三郎、同菊丸、菊之助、奈須八郎一子綠丸、音吉、小姓林彌、銀助、□□山花好まゝ藏、木こり斧吉、麗助、衛士宮作、幾次郎、官女小澤の局、濱次郎、同竹の局、繁次郎、同喜久の局、東藏、同大和の局、春次、松倉隼人、升藏、官女際の局、楊枝村おいそ、琴糸、神主忠太夫、彦左衛門、官女ぬるでの局、進の藏人妻なぎさ三之丞平太郎妹 おつゆ 官女南瀨の局、菊三郎、衛士又五郎、木播三郎景澄、進の藏人定時、奈須八郎宗重下り市川鯉三郎、女夫坂賤女 おきん、奈須八郎妻藻女、金作、あやめの前、海老藏、第二番目「新兵衛菖蒲帷子(しんべゑせうぶかたびら)」玉や 新兵衛實は三浦や船頭新、菊五郎、開帳立番なゐびの十、粂本の娘分おしん、榮三郎、

氏原勇藏、箱廻し金助、高麗藏、葵の藤兵衛、友右衛門、瓦師伊之介、宗三郎、三田屋金次郎、梅五郎、氏原下部有助、勘藏、鍛ひしや三四郎、銀兵衛、たいこ持たま八、扇作、同長作、廣五郎、夜たかおさつき、たい助、水茶やおぬい、濱之助、粂本娘分おきく、東藏、同二階廻しおはる、春次、同おさよ、琴糸、判人次郎兵衛、彦左衛門、親方辰右衛門、宗兵衛、船頭松、松助、產毛金太郎、鯉三郎、女髮ゆいお三、金作、花うりおこと、仲町三國屋小女郎のその吉、半四郎、出村新兵衛幼名鶴飼九十郎、海老藏、第二ばんめ上るり當る音や濡た盤の傘やとる「心中誰夕立」小女郎、半四郎、船頭、松助、箱廻し、こまゝ藏、新兵衛、菊五郎、何も大出來大當り、文政四巳年九月當座にて相勤大當りせしなり〇市村座休に三津五郎、スケにて三浦之助三立目白猿、梅幸、三人だんまり大詰白猿、梅幸兩人兩花道より出てあら事二ばんめ仲町の太夫藝者櫻川にて白猿、梅幸兩人太刀打の中へ一寸としたもふけ役高麗藏を相手に三人生酔の所作事大出來大出來〇五月十三日より市村座「義經千本櫻」佐藤忠信、梶原平三、主馬小金吾、團藏、飛鳥井、常世、入江丹藏、團十郎、舍人勝見丸、みの助、相撲五郎、三津右衛

門、猪の熊大之進、一友、駿河次郎、當十郎、龜井六郎、繁十郎、娡あやめ、しらべ、下郎百姓作兵衛、杢藏、同孫七、こせ右衛門、出來作、桃太郎、同村右衛門、杣十郎、赤井次郎、築八、船頭沖藏、歳藏、同五郎太、德次郎、同なだ六、吉十郎、同太郎兵衛、三平、六代御前、音吉、渡海や銀平實は知盛、三十郎、權太女房小せん、すしやおさと、すけの局、半四郎、權太一子善太、安德天皇、助三郎、こし元初瀨、梅次郎、同さつき、愛之助、同なでしこ、友三郎、片岡八郎、知十郎、伊勢の三郎、五郎市、土佐坊昌尊、曾呂平、娡みさほ、三紅、早見の藤太、甚六、すしや女房お辻、七三郎、若葉内侍、卿の君、玉三郎、しづか御前、みよし、すしや彌左衛門、武藏坊辨慶、市藏、いがみの權太、太川越太郎、三津五郎、源のよし經、すしや彌介實は惟盛、羽左衛門、第一ばん目大詰淨るり道行に戀と忠義を結び合ふ「紅綵初音旅(べにしぼりはつねのたび)」忠のぶ、團藏、しづか、みよし、富本豐前太夫、大和太夫、三弦名見崎德次連中竹本阿矢太夫、三弦竹澤大作第二番目「夏祭(なつまつり)浪花鑑(なにはかゞみ)」釣船の三ぶ、團藏、德兵衛女房おたつ、うばおみつ、常世、玉しま磯之丞、團三郎、手代傳八、三津右衛門、中買彌市、一友、道具や手代喜助、十藏、三ぶ女房おつぎ、かてう、こつぱの權、市五郎、下女およし、松代、なまの八、八三郎、一寸德兵衛、三十郎、團七一子市松、助三郎、提藤内、和十郎、角筒内記、京四郎、けいせい琴浦、紫妻、大島佐賀右衛門、歌助、道具や孫右衛門、甚六、同娘お仲、團七女房お梶、みよし、三河や義平次、市藏、團七九郎兵衛、三津五郎、濱田隼人之介、羽左衛門、淨るり竹本嶋太夫、同文太夫、三弦鶴澤德七、同彌吉相勤○壹ばんめ貳番めとも評ばんよし三四日相勤團藏病氣に付相休○六月九日より中村座「太平記忠臣講釋」六ツ目七ツ目矢間喜内、三十郎、ちゝもらい太郎作、冠十郎、惣嫁お百、文五郎、同おきみ、芝藏、同おだい、大吉、中間關内、十兵衛、くつわや才兵衛、駒十郎、同喜七、歌十、あかねやおくろ、梅太、猿まわし與七、トキ八、禪門淨久、冠次、吉勝重太郎女房おりへ、梅若、同一子太市、小十、中間歌介、助左衛門、喜内女房おさよ、珉子、けいせい浮はし、多門、かぶらや幸十郎、源之助、矢間重太郎、芝翫、相勤何れも大出來○六月十六日夏狂言市村座「箱根靈驗躄仇討」北條三郎時政、團三郎、庄屋德右衛門、甚六、瀧口上野、熊十郎、奴團介、非人八、曾呂平、溝口源左衛門、非人七、虎

五郎、妼夕がほ、富五郎、同小ゆき、愛之助、岸田半左衛門、杢藏、百姓ごん六、こせ右衛門、同丑之介、築八、進藤五郎三、平林丑藏、吉十郎、下女おふく、相藏、利久娘綾女、德之助、百姓とび六、五郎市、新左衛門女房早わらび、紫妻、九十九新左衛門、筆介、七五郎、九十九娘初花、玉三郎、飯沼勝五郎、羽左衛門、大出來「伊勢音頭戀寐劒」仲居まんの正直正太夫、甚六、藍玉や北六、熊十郎、女郎おしか、曾呂平、猿田彥太夫、奴りん平、虎五郎、仲居せんの、富五郎、同よしの、愛之助、栗原丈右衛門、杢藏、ふじ浪主膳、こせ右衛門、安達伴藏、德次郎、若もの佐介、築八、下田萬次郎、桃太郎、講頭勘兵衛、杣十郎、相の山お杉、熊次郎、杉山大藏、吉十郎、おどり子せんじ、茂作、同萬次、相藏、女郎おきし、德之助、油や女房おきぬ、しらべ、孫太夫娘さかき紫妻、料理人喜介、相稱の金兵衛、一友、貢伯母お榮、七五郎、油屋おこん、玉三郎、福岡貢、羽左衛門、大切「夕ぎり伊左衛門廓文章」吉田や喜左衛門、一友、同女房おさか、紫妻、あふぎや夕ぎり、ふじや伊左衛門、羽左衛門、一役早替り淨るり常磐津小文字太夫、岸澤式作、竹本阿矢太夫友太夫、鶴澤彌吉、同德七右かけ合にかたり一ばんめより大切迄大出來、當狂言中棧敷十五匁高十貳匁平十匁也〇七月十五日より**市村座**五月狂言「千本櫻」「夏祭り」相勤候處團藏病氣に付相休此度右狂言其儘興行市川ゑび藏、出勤貳ばんめ團七九郎兵衛、海老藏、一寸德兵衛、三津五郎、釣舟の三ぶ團藏、相勤第二番目大切三十郎、亡父廿七回忌追善狂言「父三十郎が追善三筋およばぬ人眞似な弄猴門出諷(さるまはしかどでのひとふし)」おしゆん、たま三郎、わちがいや八兵衛、三津右衛門、横ふち丸平太、歌助、與次郎母おとし、かてう、けいこ娘およし、梅藏、同おしん、茂作、おきぬ、二藏、雇かゝおきめ、歌十、きも入義介、三平、つりがねや權兵衛、甚六、古手や五郎兵衛、七五郎、猿まはし與次郎、三十郎、井筒屋傳兵衛、羽左衛門、何れも大出來大々當り此時千本櫻に下り前川友吉すしやお里の役なり〇七月十六日より**河原崎座**「時代世話讀切功言(じだいせわよみきりかうしやく)」「鬼一法眼三略卷」吉岡鬼一、鬼若丸後辨慶、鯉三郎、侍女呉羽下ります壽、吉岡鬼二郎、梅五郎、同女房お吉、琴糸、播磨の大掾、銀兵衛、性慶阿闍梨、團內、廣盛一子岩千代、鷲藏、書寫山の兒梅丸、菊四郎、同春千代、扇作、同菊丸、多賀十郎、同花丸、粂藏、同音丸、麗助、宇野七郎、春五郎、田邊大彌

太、村藏、出生の鬼若丸、澤平、坂の上文藤次、たい助、妼川瀨、繁次郎、同常夏、東藏、下司平太、菊四郎、笠原のたんかい、平の宗盛、團四郎、下部虎藏、勘藏、鬼若うば飛鳥、三之助、鬼一娘皆鶴姫、多門、御曹司牛若丸吉岡喜三太、高麗藏、鷲の尾三郎義清、團十郎、「一谷嫩軍記」三ノ切女房さがみ、多門、源義つね、勘藏、堤ぐん次、梶原平三、今六、石やみだ六、たい助、ふじの方、きんし、熊谷次郎直實、高麗藏、「妹脊山婦女庭訓」りやうしふか七、酒屋娘おみわ、鯉三郎、橘ひめ、ます壽、寐太郎、官女梅の局、梅五郎、入鹿大臣、琴糸、御清所おむら、銀藏、家主茂木兵衞、團内、宮越玄蕃、麗五郎、荒堂彌藤次、わし藏、竹の局、駒右衞門、菊の局、繁次郎、みやの局、東藏、酒屋後家おたる、たい助、楓の局、團四郎、ゑぼし折求馬、勘藏、櫻の局、彥左衞門、女商人おきく、多門、鎌足公、高麗藏、玄上太郎、團十郎、第貳番目「五大力戀緘」さつま源五兵衞、笹野三五兵衞、鯉三郎、げいしやおはま、ます壽、廻しの彌介、梅五郎、むさしやお此、きんし、櫻川善孝、銀兵衞、賤か谷伴左衞門、鷲藏、松田半左衞門、駒右衞門、千島千太郎、今六、粂本の伊之介、扇作、夜ばんねぼ介、春五郎、奴土手平、麗助、娘分おしげ、繁次郎、げいしや八重吉、東藏、出石宅右衞門、たい助、來山伴藏、團四郎、若徒八右衞門、勘藏、家主六兵衞、彥左衞門、粂本女房おみさ、三之助、げいしや小まん、多門、笹野三五兵衞、薩摩源五兵衞、高麗藏、三外や船頭十吉、團十郎、當狂言棧舖代十八匁高十五匁平十二匁○八月十六日より「童相撲双蝶々（わらべすまふふたつてふ〳〵）」すまふ米や二幕濡髮長五郎、鯉三郎、山崎や與五郎、勘藏、講中六兵衞、三八郎、有右衞門、銀兵衞、野手の三、鷲藏、下駄の市、麗五郎、手代庄八、駒右衞門、水茶や亭主、鈋平、仲居おまさ、春五郎、でつちぜん太、麗八、同長吉、澤平、船頭佐介、麗助、仲居おさは、助藏、同およつ、袖之助、山崎與次兵衞、たい助、尼妙貞、團内、平岡郷左衞門、彥左衞門、米やおせき、多門、放駒の長吉、高麗藏、志村庄之介、團十郎、第一ばん目と貳番めの間にて淨るり「戾駕色相肩（もどりかごいろのあいかた）」與四郎、鯉三郎、禿、多門、次郎作、高麗藏、常磐津小文字太夫連中相勤何れも評よし○鬼一、鬼若中評、さかみ、熊谷大出來、五大力源五兵衞、こま藏評よし、源五兵衞ふか七おみわ早替り評よし、戾り駕、双蝶々何れも評よく相應に入もあり○七月廿七日より**中村座**「一

谷嫩軍記」三ノ切迄市川團十郎、市川海老藏出勤、惡七兵衞景清、源のよしつね、海老藏、薩摩守忠のり、源之助、岡部六彌太、團十郎、玉をり姫、龜之丞、梶原平三、芝藏、大館玄蕃、冠次郎、番場の忠太、團十郎、堤軍次、森五郎、三草の八郎、森五郎、蘆原藤吾、米五郎、卿の君、杜若、平大納言時忠卿、幸四郎、熊谷小次郎直家、あつもり、菊三郎、ふじの方、芝鶴、平山武者所、芝十郎、熊谷妻さがみ、金作、石やみだ六、越中の次郎兵衞、冠十郎、熊谷直實、三保ノ谷四郎國俊、芝翫、景清、三保谷、白藻。芝翫、初出谷景清非人と姿をやつし、三保谷旅虛無僧にて兩人焚火にあたりながらせり出し扮世上噺より源平軍物語になり夫より別れて景清花道へ謠かゝりにてはいる所を景清と呼かけられ立かへりて兩人引拔になり太刀打の立廻り大評判なり「源平布引瀧」百姓九郎助、冠十郎、齋藤市郎實盛、海老藏、矢橋の仁惣太、鬼一、小萬一子太郎吉、翫八、あふひ御前、秀次郎、九郎介女房小よし、梅之助、小まん、芝雀、瀬の尾太郎兼康、幸四郎、「五大力人切籠(ごだいりきにんぎりかご)」薩摩源五兵衞、笹の三五兵衞、海老藏、廻しの彌介、幸四郎、若徒八右衞門、源之助、げいしや小まん、龜之丞、家主六右衞門、文五郎、千島千太郎、鬼一、間島臺藏、駒十郎、倉坂文八、森五郎、中間土手介、千代飛助、茶道珍才、龜五郎、番太寢ず太、トキ八、野花や喜之介、岩五郎、いせや下女おとわ、駒次郎、料理人喜兵衞、大吉、賤ヶ谷伴左衞門、芝藏、野花や娘分おさき、芝鶴、いせやおつな、金作、出石宅右衞門、冠十郎、さつま源五郎兵衞、笹の三五兵衞、芝翫、奥小性右門、傳藏、五大力一日替り何れも評よし、大切「嫗山姥」煙草や源七、源之助、おもたか姬、菊三郎、太田十郎、文五郎、嫗おうた、芝藏、同白菊、芝鶴、萩のや八重桐、芝翫、何れも大出來大當り○八月十六日より**市村座**「假名手本忠臣藏」大星由良之介、本藏妻となせ、團藏、大星妻おいし、仲居おつね、常世、若狹之介、力彌、松助、ばん内、大わし文吾、三津右衞門、高松半六、一友、本藏妹みなせ、かてう、竹森喜太八、熊十郎、原郷右衞門、寅五郎、仲居おわく、しらべ、同おます、德之助、種ヶしまの六、平九郎、下女りん、梅五郎、足利直よし公、甚吉、加古川本藏、不破數右衞門、三十郎、大館左馬之介、團十郎、義平一子よし松、助三郎、仲居おとみ、富三郎、おあい、愛之助、おとも、友三郎、おせの、松代、前原伊介、五郎市、めつ

ほう彌八、十藏、狸の角兵衞、曾呂平、仲居おみつ、三紅、おつま、紫妻、太田了竹、京四郎、矢間重太郎、歌助、でつち伊五郎、甚六、おかる母おかや、七五郎、小なみ仲居お玉、玉三郎、娌おかる、かほよ御ぜん、榮三郎、高の師直、堀部彌次兵衞、茶屋意久、山名次郎右衞門、市藏、天川や儀平、海老藏、石堂右馬之允、一もんじや才兵衞、寺岡平右衞門、斧定九郎、三津五郎、鹽谷判官、千崎彌五郎、羽左衞門、早の勘平、おその、斧九太夫、菊五郎、淨るり竹本阿矢太夫、同人太夫、三弦鶴澤五市、同彌吉何れも大當り○九月十六日より三津五郎、海老藏、河原崎座出勤に付是迄の「忠臣藏」七段目迄平右衞門、木藏、三十郎、石堂右馬之允、定九郎、三津五郎、相勤貳ばん目二幕「かさね菊絹川染」金谷金兵衞、團藏、又平妹おきく、常世、金谷金五郎、松助、山野邊伊平太、三津右衞門、尼妙林、甚六、居合抜長井源十郎、一友、藤六妹おかね、かてう、仲居おせん、紫妻、同おとみ、富三郎、水茶やおみや、德之助、庄や六郎兵衞、仙藏、木戸番きら八、市五郎、道心者善心、柚十郎、居合小奴太郎松、相藏、渡し守戸平、三十郎、でつち米松、茂作、岩代越平、熊次郎、稲むら源八、三作、村役人、利根藏、ぜげん馬平、三平、質や利兵衞、曾呂平、見世物師藤六、京四郎、世継瀬平、七五郎、下女おさよ、玉三郎、がくの小さん、榮三郎、羽生村助四郎、市藏、重井やげいしやかさね、絹川與右衞門、菊五郎、奴岡平、羽左衞門、かさねの幽靈何もながら大出來大當り○九月十三日より**河原崎座**「竹春吉原雀」とふふや三ぶ、浮世渡平、羽生村金五郎、三ぶ弟三吉、高麗藏、奥女中磯浪、園生の前、けいせい高尾、多門、山名宗全、榮御前、殿の法印、宗兵衞、黑澤官藏、高輪牛右衞門、勘左衞門、名和無理之介、鳶嘉藤次、宗三郎、でつち豆太、笹の才藏、勘藏、大崎伴吾、土子泥之助、義右衞門、犬上鴈八、宮城丈介、團四郎、俳かい師花鳥、高松文吾、團內、立浪藤次、團や茂々兵衞、銀兵衞、八づ山八郎、道益妻小まき、鷲藏、政岡一子千松、吾吉、井筒女之介、新之助、大江鬼つら、友右衞門、鶴千代君、澤平、禿てり葉、麗六、娌小きく、助藏、早なへ、袖之助、浮舟、繁次郎、若者太介、鈍平、旅役者品八、たい助、娌松風、春次、同桔梗、升壽、同明石、辰之助、奥女中繪合、新造高春、琴糸、家主六兵衞、おもしろや文吉、彥左衞門、三浦や女房お時、奥女中竹川、三之丞、

山中鹿之助、所化祐念、鯉三郎、與右衛門女房かさね、杜若、乳人政岡、半四郎、仁木彈正左衛門、足利頼兼、寶井其角實土手の道哲、絹川谷藏、百姓與右衛門、彈正妹八汐、細川勝元、海老藏、當狂言京大坂堺名古屋古市其外北國筋迄も度々興行故此度より申分なし○九月十六日より中村座中村芝翫、名殘狂言「手向山紅葉御幣（たむけやまもみぢのみてぐら）」菅原道實公、後室鶴壽、武部源藏、同宿勢至坊、源之助、御臺花園御前、宿禰太郎女房葉櫻、龜之丞、菅家の養女紅梅姫、菊三郎、左中辨常世、文五郎、天蘭敬冠次兵衛、宰相房則、駒十郎、荒島主稅、森五郎、舍人杉丸、光之助、同谷丸、麗五郎、わし塚平馬、染五郎、衞士九郎又、千代飛助、奴可内、瀧藏、神職宮野兵部、卜キ八、左大辨定丸、岩五郎、舍人稻丸、大三郎、齋世親王、判官代照國、緋川荒藤太貞俊、麗藏、中納言知次實紀の長谷雄、同宿觀音坊、幸四郎、三好清つら、土師の兵衛、同宿文珠坊、芝十郎、白太夫女房園生、中納言季房、同宿普賢坊、冠十郎、源藏一子小太郎、猿八、姥あやせ、七之助、同眞垣、秀次郎、官女竹の局、繁次郎、同紅葉局、梅之助、局かつの、駒次郎、百姓十作、大吉、奴宅内、鬼一、春藤玄番、芝藏、源藏女房となみ、乳人小夜路、芝鶴、藤原の時平、宿禰太郎、松月尼、百姓白太夫、同悴くりからの四郎九郎後にくりから太郎、白拍子櫻木、芝翫、菅秀才、傳藏、第一番目發端に所作事「志賀山一流再春菘種蒔」中村芝翫、市川高麗藏、清元延壽太夫、志喜太夫、志津太夫、三弦清元榮次郎、同磯八、相勤第二ばんめ大切所作事裏梅も龍頭へといくおとり立「亂拍子醜娘振袖」三枡源之助、中村芝十郎、松本幸四郎、嵐冠十郎、中村芝翫、長唄はやし連中淨るり竹本三輪太夫、三弦竹澤大作相勤

芝翫名殘り狂言何れも大出來大々當りくりから太郎にて腕に倶利迦羅龍の入ぼくろせしなり此節歌川國芳畫にて水滸傳豪傑のにしき畫大に流行して東都俠者彫ものにせし也是によりて芝翫如是にして看官の眼をよろこばせしなり時平の笑ひ道成寺三番叟の作何れも大出來大々當り堺町兩側へひゐきより餞別の幟數十本其中に唐木綿に此度之大名題看板を書きたるもの眼を驚かせしなり其外數々の積物中々筆にも盡しがたし

○十一月朔日より顏見世中村座「廚川譽高松（くりやかはほまれのたかまつ）」八幡太郎義家、善知鳥安方、「志賀崎生駒之助、國妙娘袖

はぎ、桂中納言のり氏、安部の宗任、源之助、河内判官賴任、法印道樂院實は高木四郎太夫、鳥海山杣斧藏、出羽の惡五郎、芝十郎、新羅三郎、僧良照、面うり三つ八、加茂次郎よし綱、八百藏、國妙妻雄嶋、呼子前かし付三春、女髮ゆいおとみ、船宿辰巳や伊八、芝鶴、秩父の九郎助國、貞任郎等姥戸新吾、芝藏、川股八郎、山がつ山藏、鬼一、大名門國雄、勘左衞門、日置の九郎、奉公人與六、森五郎、波多野兵庫、よね五郎、所化頓空千代飛助、千賀の浦の海士おいわ、岩五郎、同おいま、伊麗六、同お梅、梅太、同お龜、龜五郎、同おちよぼ、千代藏、おたき、瀧藏、同おかん、冠四郎、同おてつ、鐵藏、同おつる、麗助、同おうし、冠藏、貞任一子千代童、尾上前、小性りん彌、大三郎、茶道珍才、らくの助、呼子の前かし付時雨、相藏、同初霜、秀次郎、のり氏妹呼子の前、增吉、豆とら入道淨阿自、虎藏、昇山律師、冠次兵衞、笠原軍記、ゆかんば買長太郎、森藏、岩淵彌惣太、郡司爲時、文五郎、生駒之助女房直衣後宗任妹名古曾、放鳥賣おいろ、畫の內侍實けい子おわた、多門、鎌倉權五郎、獵し文次實鳥海彌三郎、植木や音實武藏五郎、大內之介實は磐井五郎、家任、高麗藏、祝貞娘尾上の前、信夫山信夫狐、はた織およし、文治女房お谷實友久妻錦木、龜之丞、三うら平太夫、不貢國師、文治母眞壁、爪割四郎、寒念佛西念、大宅太夫光任、冠十郎、安部の貞任、羽黑山の强盗松夜叉、左大臣基貞公實大工伊之助、賴時後室岩手御前、荒川左衞門武則、源賴義公、幸四郎、貞任一子千代童實はおきみ、尾上の前小性文彌、傳藏、第一番目四立目上るり（時なれや龍の都は色世界）「〱千束の錦木」法印、芝十、面賣、八百藏、鳥賣お色、多門、しのぶ狐、龜之丞、安方、源之助、傳藏、第一番目大切（諸とも吹雪に濡し中々）「色浮名辰己船遊」おきく、龜之丞、おきた、多門、植木や音、高麗藏、半兵衞、源之助、何れも評よく當狂言五夕直下げ、狂言作者中村鶴子、櫻田治助、松島半二、高松陽助、寺島松作、中村重助○十一月十五日より市村座「戀入對弓取」澁谷金王丸昌俊町かゝへ瀧登りの八、團十郎、惡源太義平、遠藤武者盛遠、瀨の尾太郎、海老藏、讃岐の局、重能姬、かほる白雲尼實祐淸妹小谷、半七女房おその、粂三郎、瀧口競、きくとぢ、金吾、盛久、下部惣太、早咲うり、請地の松、松助、惣領入道長生藪逆河內覺淨、甚六、淨藏貴所、小盜人九郎次、京四郎、難波の六郎、茶道

具や手代孫八、熊十郎、別府太郎、小盜人根ッ子坂七、しやばく、沼田平太、化物の察守四郎兵衛、曾呂平、高山辨藤太、はり子のとら、虎五郎、廣安妻吹雪、鑑次郎、奴八十平、五郎市、義忠妻しづはだ、東藏、島原の仲居おすみ、友三郎、同およし、梅之助、同おかつ、繁次郎、同おひで、富五郎、おまつ、愛之助、義近娘かへで、橘之助、高倉の宮、小舍人粂丸、粂三郎、同芳丸、相藏、同紀丸、茂作、同杉丸、團子、和田丸、和田右衛門、同吉丸、吉松、御曹子牛若丸、同しゝ丸、紫子松、同きく丸、菊之助、同木場丸、新之助、利好娘くれない、團之助、兵衛妹八千代、德之助、安近妻小霜、野上や女房おかめ、紫妻、衛士五郎又、三平、同次郎又、又八、築又、桃太郎、同斧又、和十郎、同竹又、多賀十郎、同九郎又、こせ右衛門、太郎又、扇作、其外大勢五條七郎、吉十郎、八瀨の五郎、奴山平、宗三郎、宇治の九郎、熊坂手下六助、梅五郎、犬塚源藤次、仲町たいこ持傳八、一友、丁七唱、熊坂手下麻布の松藏、七五郎、景宗妹うら葉唱、妹綾子、茶道具屋幸介女房おきく、みよし、鬼彈正左衛門景宗、長田の庄司、黑雲尼實園城寺衆徒金峯主水、今市屋善八實は兵衛成景、市藏、白拍子けさ御ぜん、女なまづひさご、槇島のお賤、淸明ヶ瀧の女鳴神實末廣姬、長田景宗妻岬のまへ、げいしや三かつ實大炊長者娘夜叉御前、半四郎、左大臣賴長、熊坂小僧半七實は式部の七郎長範、渡邊源左衛門亘、長田太郎景宗、新藏人仲綱、田原の又太郎、袴織十藏、菊五郎、小松三位重盛、茶道具や幸助實は三條吉次信高、羽左衛門、狂言作者福森久助、金井由輔、福森吉助、三升や二二、奈河本助、第一番目五立目上るり（鳴神の昔を今に家祖がゆるしの色衣）「立浮名大和」女鳴神、半四郎、白雲尼、榮三郎、松助、黑雲尼市藏、信高、羽左衛門、常盤津小文字太夫、政太夫、駒太夫、三弦岸澤市造、同三造連中相勤何れも大出來大々當り〇當狂言三立目左大臣賴長、菊五郎、しばらく請瀨の尾の十郎、海老藏、赤つら暫中ウケ鯰坊主、粂三郎、見へ引立澁谷金王丸、八代目市川團十郎、

暫のつらね

東夷南蠻北狄世間みづにすむかいるの子はかいるに成田の山の奥ずつとの奥のその奥の山から小僧のわいて來たわいてきた〳〵人の波士間さんじきもはなやかに花の顏見世花道のつらねも口から出

ほうだい七代八代だい〳〵ところはへぬきはうそじやござらぬほんだわらかきのすはうの下手のなく澁谷金王丸正俊まけるがきらひかやかちぐりかつてかぶとの緒を七五三かざり福壽皆圓まるもうけよそに[鎌]◯ぬよきことをきく〳〵と牡丹の向面おいらは[図]ばへの市川流おとつさんでもおぢさんでもへこまされてつまるものかとホヽ敬白

○惡源太、海老藏、末廣、くめ三、賴長、菊五郎、だんまり大出來替りて菊五郎、土間よりいさみのこしらへにて本舞臺へ上りあちこちと突とばされ寶物を拾ひ花道の引込御家〳〵次に盛遠一旦不段のたく大出來大當り

○十一月十日より森田座再興「四天王劇場寄初」源の賴光、大宅太郎光任、卜部の季武、すへひろや船頭竹、訥升、高國親王、女非人おまつ、あふみや治郎右衞門、白河民部、壽美藏、すみ友一子十太丸、丹波太郎鬼住、醫者道庵、友右衞門、常忠息女粧姫實かし付てり葉、純友娘九重姬、新子、三日月おせん、玉三郎、仲光妻東路、御影堂の娘お梅、みんし、伊豫太郎、狩人荒熊の五郎藏、貸物屋新兵衞、三津右衞門、三條小鍛冶妹道芝、茨木やおはりおぬい、琴糸、鬼住下部ひへ內、路次番次郎、彥左衞門、熊尾新吾、夜そばうり新、團四郎、猪熊入道番雲、義右衞門、成相八郎、團內、盜賊がけ六、飛脚狀箱虎右衞門、銀兵衞、盜賊道六、紀次、橋立三郎、和十郎、坂戸九郎、ごろ付金、鷲藏、增田小文治、ごろ付ぎん、鈬之助、盜賊時次郎、家主杢郎兵衞、平九郎、野ぶせりの次郎、ごろ付いろ吉、杢藏、海上十郎、駒右衞門、野ぶせり馬、馬平、同三、三九郎、高明の仕丁、鬼しだ景藤、利根藏、鬼念佛藤、三作、鬼打豆藤、金藏、鬼ばすいが藤、龜吉、鬼の木立藤、扇作、鬼風鐵藤、伊久助、鬼の子むし吉、團子、小原小娘おくめ、粂三郎、三位五條之介惟光、簑助、子奴木場新之介、花園姬侍女小てう、紋三郎、當今の女の童のし千代、秀三郎、のし喜代、德次郎、のし美代、てう一郎、のし利代、三七、のしと代、みの松、のし多代、竹三郎、のし嘉代、大和助、のしい代、德之助、樽ひろい專吉、鯉吉、小奴和田平、和田右衞門、室澤遊女や才介、切見せ女郎おいろ、大吉、笹山次郎、五郎市、八栗庄司、切見せ女郎おかね、たい助、幾野の次郎、甚吉、園生の前かし付置霜、紀久藏、小ゆき、梅次郎、しぐれ、菊代、留代、升壽、

みぞれ、しらべ、寒梅、辰之助、田原の千晴、小くじらや權介、勘藏、近忠姉もしほ、かてう、廣綱妻みさき、女髮ゆいおはる、路之助、西の宮左大臣、入齒藥太夫、宗兵衞、河內冠者賴信、女鑓持おなべ、二の瀨源六、賣卜者岸田左京、鯉三郎、賴光奧方園生の前、袴垂女房雄しま、八幡巫女千原、常世、坂田主馬之介金時、團十郎、賤女お岩實かつらぎ、女郎蜘の精、保昌妻和泉式部、鬼七女房おつな、杜若、貞光妻あやおり、船宿大和や女房おすみ、半四郎、盜賊長本保 輔實平井保昌、碓井の貞光、伊賀壽太郎、羅生門河岸茨木や鬼七五郎、海老藏、將軍太郎良門、粟の木又次實御厨三郎、大江山一ッ家の老女熊江 實公連後家村路、渡邊の源次綱（之に役者の名を脫するか）おもしろき人を呼出す時雨月「染色濃木每濡事」鳥さし藤六、訥升、粧姬、玉三郎、事ふれ、鯉三郎、渡邊、三津五郎、常磐津小文字太夫、若太夫、政太夫、三弦岸澤式佐連中相勤大出來大當り當狂言仕組如何せしや一番目貳ばんめの間に「木下蔭狹間合戰」此下久吉、訥升、小田春永、大垣三郎、蓮の葉與、壽美藏、齋藤義藏、友右衞門、千さとけいせい芙蓉、玉三郎、しづの方、みんし、壬生村次郎右衞門、たい助、三好長慶、宗兵衞、犬千代、鯉三郎、綾の臺闇路、常世、小ゆ、おつう、杜若、竹中官兵衞、石川五右衞門、三津五郎、五右衞門、久吉、お岩三人だんまり、竹中官兵衞捕手の場、壬生村迄申分なく御殿場詰合貳番目隅田川家根船鬼七ゑびざこ鬼七女房三人顏見合大出來、中幕鬼七が內へ女房を貰ひ來る所例の江戸ッ子卷舌の大平樂、大切渡邊綱にて伊賀壽太郎見出し迄大出來大當り扨此度森田勘彌、櫓再興に付故人坂東三津五郎、三男幼名坂東三田八、文政七甲申年より三八と改名す天保元庚寅年五月より十代目森田かん彌、と改名後見坂東三津五郎相勤、久々にて興行勘彌幼年に付後見三津五郎、諸見物へ勘彌引合口上あり

前文略之當座森田座と改り升てムり升すかん彌義は私弟にムり升れば私義も恐れながら後見役相勤升る市川海老藏、岩井杜若、澤村訥升、右其外不調法のものども打寄まして顏見せ狂言取仕組御覽に入候間御取立と思召永當〳〵御見物之程偏に希上奉るとの口上辯舌さわやかなり先づは櫓再興目出たし〳〵

狂言作者並木五瓶、篠田銀三、高金助、鶴屋孫太郎、坂

てう三、寶田壽助、三升や二三次
當狂言海老藏役わり羅生門河岸茨や鬼七とあり此鬼七といふは本所安宅切見せの亭主にて後に深川網打場局見世え轉住せり此人戯場好にて殊に中村仲藏秀鶴ひゐきにて狂言作者三升や二三次翁の友人なりし故に切見世の亭主の名計り二三次翁ものせしなるべし

花江都歌舞妓年代記續編卷の八

〇天保五甲午年

〇正月廿三日より市村座「三幅對書始曾我(さんぷくつゐかきぞめそが)」景清一子あざ丸、團十郎、曾我箱王丸、箱根の閉坊、出村町の出村新兵衛、京の次郎景清、海老藏、三うらの片かい、鬼王女房月小夜、榮三郎、伊豆の次郎、たいこ、櫻川由次郎、朝日奈、松助、女順禮おきし、奥田屋女房おさち、三之助、粂本二階まはしおいわ、辰之助、海賊中玉の彌平次、吉十郎、同加田右衛門、又八、大藤內成景、桃太郎、御所の黑彌吾、市松、安西彌七郎、吾五郎、出村の子分蛇之介國次、梶原奴四五平、多賀十郎、たいこ米太、奴かま平、蒲の冠者のり賴、馬平、若黨八助、こせ右衛門、海賊つくしの市藏、扇藏、同平左衛門、三平、小女郎禿、重之丞、三すじ、源の賴家公、新之助、奥田屋下女おとく、友三郎、同おしも、繁次郎、大姫かしづき小まつ、愛之助、同若葉、富五郎、水茶屋おせん、橘之助、そがせんし坊、難波の仁三、鯉十郎、八木下七郎、座頭盛市、園內、はかたの女郎勝山、團之助、同み

さほ、德之助、同江口、春次、同袖芝、東藏、松か崎尼妙貞、奥田屋の仲居小梅、紫妻、仲丁の新子おしん、小紫、鬼王新左衞門、仲町せげん地ごく、清左衞門、近江小藤太なり家、市藏、あこや、三國小女郎、仲町越前屋の小女郎、杜若、重忠、小まつや宗七、赤澤十内、三國や船頭新實玉谷新兵衞、三浦屋奥州の幽こん、工藤左衞門祐經、菊五郎曾我十郎祐なり、氏原勇藏、八わたの三郎行氏、羽左衞門第二ばん目四立目淨瑠理いにしへを思ひいつもの其儘に「初霞淺間嶽」京の次郎、海老藏、三浦や奥州ゆふ魂、菊五郎、清元延壽太夫、同政太夫、鳴尾太夫三弦清元齋壽、同榮次郎、相勤大切「姬小松子日の遊」嶋物語の段ねつこの岩實有王丸、海老藏、かけの藤六、直藏、俊寛僧都、團藏、德壽丸、紫子松、龜王女房おやす、杜若、俊くわん家來龜王丸、菊五郎、何れも大出來大當りの所二月七日外神田佐久間町より出火にて類燒す○二月五日より中村座「假名手本忠臣藏」高の師直堀部安兵衞、石堂右馬之丞、冠十郎、義平女房おその、仲居おふち、芝鶴、ばん内、一もんじや才兵衞、文五郎、與一兵衞、冠次兵衞、藥師寺次郎左衞門、理宇藏、與茂七、森五郎、竹森喜太八、米五郎、斧九太夫、染五郎、狸の角兵衞、大わし文吾、麗五郎、めつほう彌八、下女りん、勘左衞門、種がしま六、千代飛助、茶道珍才、てつ藏、同珍慶、冠藏、大星由良之助、斧定九郎、不破數右衞門、本藏女房となせ、加古川下部丸助、若狹之助、八百藏、鹽谷判官、早のかん平、加古川本藏、でつち伊吾、加古川下部角内、潮田又之丞、寺岡平右衞門、高麗藏、かん平は、花井、桃朝、力彌、麗助、仲居おむめ、梅之丞中村梅之助事となせ妹みなせ、仲居おくま、駒次郎、同おさん、娘小なみ、にしき、せげん半六、一力亭主万藏、とら藏、顏世御ぜん、おいし、女馬士おきく、仲居おわた、こし元おかる、多門、天川や義平、芝[illegible]、原鄉右衞門、桃井播磨守幸四郎、足利直義公、[illegible]、第三段目淨瑠理「道行塒友鴉」おかる多門、伴内、文五郎、かん平、こま藏、富本豐前太夫、大和太夫仲太夫改八百太夫三弦富本豐志藏、名見崎德次、榮次、喜三郎、相勤「曾我物語」曾我十郎祐成、高麗藏、同五郎時宗、八百藏、工藤左衞門祐經、幸四郎、當狂言中直下げ棧敷十五匁高三朱平貳朱也當七日初日之處佐久間町より出火にて四つ半時頃兩座とも類燒す小あみ町通り靈岸しま鐵砲洲佃しま迄延類せり○正月十一日より森田座「念力

曾我的鳫（そがまとふかりがね）」曾我の祐なり、八わたの三郎、大磯のとら、赤澤十内、宅間玄龍、山川屋權六、鶴木主水、ちゝふの重忠、訥升、鬼王新左衛門、江間小四郎、三九郎、壽美藏、京の小次郎、手代儀兵衛、友右衛門、手越の少將、十六夜、うさみの局、玄藏、娘おつた、玉三郎、そがの片かい、ひぜんやのおのち、みんし、本ま曾平太、女中岩さき、三津右衛門、妼はな雨、ひぜんやおしげ、琴糸、大藤內下部たん平、彥左衛門、曾我團三郎、林丈助、勘藏、万江御ぜん、ひぜんやおきよ、かてう、伊豆の次郎、野田角左衛門、一友、重忠奥方きぬ笠、大磯やおとく、路之助、久須美の局、ひぜんやかゝへおいわ、小紫、鬼王女房月さよ、奥女中すがの谷、常世、工藤奥方椰の葉、鳥追おやま、妼お高、けいせい清川、舞つる姬、杜若、近江小藤太、朝比奈、工藤左衛門、七兵衛景淸、鳫金文七、極印千右衛門、雷庄九郎、安の平兵衛、布袋市右衛門實は花岡文七、三津五郎、第壹ばん目大詰所作事古きすかたを今やうのいとさし「壽柱立」訥升、杜若、三津五郎、右長うたはやし連中○右役わり番附相配りて當狂言興行なく○正月二十七日より「伊賀越乘掛合羽（いがごへのりかけかつぱ）」佐々木丹右衛門、譽田內記、和田志津馬、吳ふくや重兵衛、訥舛、栢榴武助、上松右內、池添孫八、松野金介、澤井城五郎、壽美藏、澤井股五郎、醫者正庵、櫻井林左衛門、友右衛門、志津摩云號おそで、玉三郎、傾せい大橋、きんし、道具や市兵衛、彥左衛門、近藤野守之助、團四郞、荒卷伴作、河內屋おくま、義右衛門、がいこつのらいひやう、山井淸六、銀兵衛、鳫川軍七、紀次、あらゐ金兵衛、わし藏、飛脚權內、杢藏、同はや介、駒右衛門、家主長六、龜吉、山守左仲、澤村助藏、小性金彌、篗助、政右衛門一子巳之助、紫子松、仲居おもん、紋三郎、祇園町豐作、大吉、石森貞廣、たい助、上杉春太郎、甚吉、仲居おとみ、菊代、妼おきく、紀久藏、同おはま、濱之助、足利息女彌生姬、舛壽、河內や娘おてう、しらへ、和田しつま、勘藏、股五郎女房おその、けいせい、花紫、みんし、丹右衛門女房笹尾、平作娘およね、龜之丞、管領奥方濱町、政右衛門女房お谷、常世、川角源內、沼津の平作、冠十郎、和田靱負、股五郎母鳴見、唐木政右衛門、三津五郎、第二ばんめ大切上るより是はかれ〳〵御噂の小町櫻を手生の振事「積戀雪關扉」墨染櫻の精、訥舛、四位の宗貞、玉三郎、關守關兵衛、三津五郎、常磐津小文字太夫、若太夫、駒太夫、三弦岸澤式佐、八五郎、金藏、相勤何れも

大出來大當り然る處二月十日鍛冶橋御內より出火にて晝七つ頃燒失せり當月七日堺町葺屋町類燒八日本所同九日小石川より小川町へ飛火御やしき方類燒十日初午丸の內より出火此節日々火事のみに罹り東に走り西に駈せ南にて類燒し北の方へ引移り不仕合なるものは行先〳〵にて燒失せしなり芝居も三座共類燒ゆへ普請出來迄役者一統海老藏、菊五郎初め上方表へ其外尾張名古屋其外諸々へ旅行せり

『役者現銀店』天保五年二評判記　極上上吉客座　どふ見ても直打のあり古今欄市川海老藏〔ひいき〕去二月七日午の刻に佐久間町より出火にて芝居類燒に及びはからず上方へおのぼりゆへ我々悅んでおり舛中畧〔頭取〕直樣角の芝居三のかはりより出勤「金門五三桐」に小早川高景、眞柴久吉、歌右衛門、五右衛門、矢田平、大炊之介、芝翫山門の場にて順禮の同者を引おこして手裏劔をうけとめての幕切中評やはり柄抄にて受る方よし夫より先澤村其答十七回忌追善狂言德三郎事嵐橘蝶改名「淺澤紫」に小寺十內「關取二代勝負附」行司庄九郎、實川額十郎、秋津島、鬼か嶽芝翫大當り「鳴神櫻」鳴神上人雲のたへま雷十郎松江事五月替りに「太平記兜競」と題して「近江源氏」八つ目迄して九つ目のかはりに「鎌倉三代記」八

卌目三浦義村時姫、富十郎、佐々木歌右衛門切狂言「夏祭」一寸德兵衛團七、芝翫、三ふ、歌右衛門夫より直樣下の關へ下られ「千本櫻」權太覺はん切に三つ人形の所作事景淸安宅べんけい水うり是を目見へ狂言として次に「伊達競」仁木、道哲、荒し、絹川、細川勝元、賴兼、八汐評よく夫より「三日太平記」光秀「五大力」源五兵衛「花川戶」に幡隨長兵衛、旅芝居の事なれば四五日めづゝに狂言かはり凡四十日あまり興行にて評判よく大當りさすが江戶の大立者感心〳〵外一座の役者は中山新九郎、淺尾奥山、市川舛五郎、女形は嵐三右衛門、瀨川多門、同瀧江、市川三之丞其外は略し舛す此一座にて筑紫博多を出勤にて長崎を見物がてら段々と西國へお出のよし夫では當春大坂の二のかはりには間に合申間敷と上方一統に殘念に存し舛る古今無類いろあいは京にもまさる江戶紫縮緬別座岩井杜若〔頭取〕花のお江戶で女形の親玉大和屋の太夫さんでムり舛す〔ひいき〕江戶類燒故か上方へおのぼりはからずうるはしい御顏を見ましてうれしい〳〵○八月より角の座へ出勤「九重錦」に女船頭あなふのお里實は池どの御前芝翫丈國衛との出合だんまりの立廻り皆一統に悅びました「桂川」はし

下のお六河原の場そうかのぎうお持前の江戸つ子外にるいなし二役おはん石部の段花道よりの出誠に十四五娘と見へました夫より長右衛門（歌右衛門梅玉）に合悦ぶ所其後長右衛門の寐間へ迯來た所どふか初手から長右衛門に氣がある樣だ帶屋の內より道行のけい事こんな事はおいへ〳〵〔頭取〕此度京南側顏見世「妹脊山」おみわ（入鹿、仁左衛門、求馬、額十郎、橘姫、紫若）春は何んぞめざましい事を待舛す〳〵

同書に云去二月江戸類燒に付役者衆中桑名或は甲府芝居名古屋兩座にて上方役者同座にて興行役割殘らず左に記す評は春永に（午の四月）桑名春日芝居前狂言「伽羅先代萩」才原かけゆ、冠十郎、熊井源吾、細川久元、松助、嶋田十三郎、梅五郎、妹淺香、東藏、鬼つら、壽美藏、娘おその、榮三郎、仁木直のり、大工六三、めのと政岡、菊五郎、切狂言「伊勢音頭」若徒林平、松助、母おみね、きんし、おしか、梅五郎、さかき、東藏、まんの、正直正太夫、傳三郎、彥太夫、勘左衛門、料理人、喜助、左せん、壽美藏、油屋おこん、榮三郎、福岡貢、菊五郎、同芝居にて七月十五日より「天竺德兵衛韓噺」木曾官民部、逸友助四郎、壽美藏、名古屋山三、奴岡平、松助、犬かみ團八、冠四郎、姉お國、妹おみや、重井筒小きく、おとみ、いてうの前、富五郎、下部儀平、金五郎、勘藏、袖垣下女おとく、東藏、御國ごぜん、長介、ともよし、宗太郎、丹六、權平、伊平太、岩五郎、よし貞、門兵衛、妙ちん、浮世又平、傳三郎、けいせい遠山、元春妻かつらき、げい子小さん、榮三郎、天竺德兵衛、座頭德平、大日丸かの、四郎次郎、かさね、與右衛門土佐の又平、菊五郎、〇午の二月十六日より尾張名古屋大須芝居「けいせい稚兒淵」兒すて若丸、石川五右衛門、小ふな源五郎、小早川高景、市川團三郎、娘おまつ、けいせい七浦、中村三光、兒花若丸、坂東八重桐、同雪若、娵初しも、市川松之助、ぎおんのおかぢ、五右衛門女房おりつ、片岡松江、齊藤藏之助、中山樂之助、兒つなか、秋大じん、淺尾玉之助、兒月わか、せ川采女、中村關之助、ひし川團之丞、番頭傳兵衛、寒かい坊、淺尾山、山方かけゆ、岩城や藤右衛門、笹之長兵衛、尾上傳三郎、醫者養老、東寺の東六、花房帶刀、嵐與市〇三月十九日より同座「けいせい筑紫琴（つくしのつまこと）」阿曾次郎左衛門、團三郎、冷泉帶刀、大內之介、中山來助、春さめ、深雪、あさかほ、三光、雲井の前、夕して、八重桐、おら

ん、弓之助女房瀬川、松江、沖津の仁三、弓之助、ゆふせん、蛇つかひの六、口山、岩田郷介、足輕てん藏、岩代瀧太、傳三郎、老女、お玉、橋けいあん、ふじや德右衛門、與市○四月十五日より同座「けいせい楊柳櫻（やなぎざくら）」長五郎、老女八くも、よしのり公、團三郎、木津の關兵衛、仲間作介、奴布平、來助、小性右近、けいせいあづま、妹おふじ、三光、傾城ひなじ、司のまへ、妹おひな、八重桐、奥方ねさめ、嫁おまつ、松江、ゆふきの守、渡部要助、三嶋之介、大工勝七、關之助、ほり江せん流、山名熊太郎、淀家小あん、口山、岡本兵庫、番頭宗兵衛、傳三郎、藏之進、榮三郎、本多の正、與市○五月五日より同座「復讐二島英勇記（かたきうちにとうえいゆうき）」切狂言「伊勢音頭」加藤清正、笠原新三郎、福岡貢、團三郎、むさしの、いとはき、おこん、三光、娘さかき、八重桐、清瀧御ぜん、おばおみね、松江、宮本無三四、武右衛、料理人喜助、樂之助、傳五右衛門、達太夫、惣領甚八、かんりう、甚之丞、正太夫、まんの、口山、太郎右衛門、七介、左膳、與市○同廿九日より同座「近江源氏先陣館」切狂言、「文月恨切籠」谷村小藤次母みめう、團三郎、四の宮六郎、かゝみとき新兵衛、樂之助、とき姫、丹波やお妻、三光、そのべの介、口山、かゝり火、松江、酒造の守、北條時政、嵐與市、和田兵衛、香具屋彌兵衛、坂東三津太郎、助三郎、市川白三郎、宇治の方、坂東三津三、比企の判官、米五郎、佐次兵衛、中村市右衛門、はやせ、おさい、中村花妻、佐々木三郎盛綱、同四郎高綱、古手や八郎兵衛、三桝源之助、「本朝廿四孝」大切、「嫗山姥」煙草や源七、團三郎、よこ藏、三津太郎、じひ藏、樂之助、よこ藏母、與市、おたね、三光、唐おり、松江、八重桐、景清、源之助○六月十七日より「菅原傳授手習鑑」切狂言、「名作切籠曙（めいさくきりこのあけぼの）」櫻丸、てる國、源ぞう、左市郎、團三郎、かりや姫、おはる、花妻、まれよ、番頭長九郎、口山、かくじゆ、白太夫、宗右衛門、與市、梅王丸、すくね太郎、新十郎、樂之助、となみ、八重、おせん、三光、春藤げんば、鬼一、にしきのまへ、總さゑだ、三津三、時平公、中津方五郎、桐島駒右衛門、千代、たつたのまへ、後家おちへ、松江、菅相丞、松王丸、里見伊助、源之助、當芝居舞納市川團三郎、嵐與市、淺尾口山、桐しま駒右衛門其外中通り甲斐國甲府の芝居へ行三桝源之助は殘り清壽院芝居入替りとなる○七月甲府芝居前狂言立者計り役「八陣守護城」かとう清正、市川團三

郎、切狂言「檀浦兜軍記」けいせいあこや、市川團三郎、岩永左衛門、淺尾口山、秩父の重忠、嵐與市〇八月より「けいせい筑紫𤲿」あそ次郎左衛門、市川團三郎、切狂言「伊勢音頭」福岡貢、團三郎〇八月十五日より名古屋清壽院芝居「濃紅葉小倉色紙」切狂言徳兵衛(おふさ)「曾根崎村噂」笹原左門之介、嵐三五郎、夕して、三光、娘お梅、中村松助、同お早、重次郎、奥田なぎさ、坂東のしほ、小まつや藤右衛門、犬上兵庫、淺尾鬼丸、岸田陸助、富澤十内、淺尾奥次郎、小まつや宗七、中村鶴五郎、月本源藏、米五郎、采女之助、市川もゝ三、南京孫平二、小倉源五右衛門、市川扇藏、仲右内、鬼一、母眞弓、金左衛門、小川鬼雀、千草ひめ、女房おかち、中山南枝、三吉の狐、笹原隼人、船頭嶋の小平次、三桝源之助、平のや徳兵衛、嵐三五郎、娘お北、三光、仲居おみつ、中村松助、けいこおいと、嵐重次郎、天滿やお竹、坂東のしほ、油屋九平次、淺田宗二、鬼丸、長谷川丈助、奥次郎、舞上り鶴吉、廻し男榮吉、米五郎、てつち長吉、茂々三、たいこ佐平二、鬼一、天まや新兵衛、小川鬼雀、同おはつ、南枝、下人長ぞう、源之助〇九月七日より同座「接合驛路木母」與田大内記、ごふくや十兵衛、三五郎、おそで、おその、三光、おそへ、松助、淀町御ぜん、重次郎、丹右衛門女房さゝを、のしほ、澤井又五郎、はゝ鳴見、宇佐美五右衛門、沼津平作、山田幸兵衛、鬼丸、和田ゆきへ、城五郎、奥次郎、しつま、中村鶴五郎、上杉春太郎、米五郎、林左衛門、扇藏、近藤野守之介、鬼一、上杉右内、石溜武助、鬼雀、女房お谷、娘およね、南枝、佐々木丹右衛門、唐木政右衛門、源之助〇十月十四日より「けいせい品評林(しなさだめ)」佐々木桂之助、名古屋山三、三五郎、白柏子、三八、女房礒な、おこう、三光、おなか、松助、藏人女房お澤、のしほ、中間鹿藏、鬼丸、佐々木三八、明智左馬五郎、奥次郎、中間猿次郎、名古屋山平、鶴五郎、かのゝ四郎次郎、米五郎、不破道犬、扇藏、長谷部雪六、鬼一、名古屋山左衛門、鬼雀、いてうの前、かつらき仲居お時、南枝、不破伴左衛門、佐々木藏人、源之助、切狂言「戀飛脚大和往來」新口村忠三郎、三五郎、おすわ、三光、けいこつや絹、松助、けいせい道芝、重次郎、いつゝやおゑん、のしほ、馬士江戸六、下女おべん、針立道庵、鉤かけの戸次兵衛、傳かばゝ、垂井、畑助三郎、新口村孫右衛門、鬼丸、丹波や八右衛門、奥次郎、いしや道誓、茂々三、かめや利兵

衛、扇藏、つちや次右衛門、鬼雀、同梅川、南枝、龜や忠兵衛、源之助○五月九日より仮芝居にて興行中村座「假名手本忠臣藏」高師直、堀部安兵衛、石堂右馬之丞、冠十郎、大星女房おいし、仲居おふじ、芝鶴、山名次郎左衛門、せげん善六、彦左衛門、一文字や才兵衛、與茂七、森五郎、小寺十内、光之助、斧九太夫、染五郎、矢間重太郎、麗五郎、種か島の六、千代飛助、狸の角兵衛、千代藏、めつぽう彌八、歌十、下女りん、とき八、茶道珍才、相藏、同珍慶、冠藏、一力亭主万吉、馬平、大星ゆらの介、數右衛門、となせ、若狹之助、定九郎、下部丸助、大わし文吾、八百藏、勘平、でつち伊吾、本藏、鹽谷判官、下部角丸、潮田又之丞、寺岡平右衛門、高麗藏、與市兵衛、勘平ばゞ、桃朝、力彌、麗助、たいこ出來七、三百藏、妼若葉、増吉、同さつき、仲居お梅、梅之丞、（中村梅之介改名す）本藏妹みなせ、仲居おくま、駒次郎、同おさん、小浪、にしき、ばん内、奥山、孫七、とら藏、おかる、かほよ御前、伴四郎、原郷右衛門、天川や義平、桃井播磨守、幸四郎、足かゞ直義公、傳藏、第三段目道行「睠友鴉」勘平、駒藏、ばん内、とら藏、おかる、伴四郎、富本豐前太夫連中相勤當狂げん棧敷二十匁高五匁平十匁何れも評よく大出來也

仮普請出來に付○五月七日より市村座「一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）」直實妻さかみ、九條の仲居おまき、常世、奴田五平、平山武者所、越中次郎兵衛、三津右衛門、梶原平二、熊十郎、堤の軍次、五郎市、庄や孫作、吉十郎、熊谷小次郎、あつもり、橘之助、玉をり姫、石屋娘小ゆき、徳之助、さめが井兵太、直藏、田五平母はやし、三藏、大舘玄蕃、人足廻し茂次兵衛、曾呂平、石や下女おいわ、ふじの方、みんし、石やみだ六、平大納言時忠、芝十郎、忠度奥方菊のまへ、みよし、岡部六彌太、熊谷次郎、團藏、さつまの守忠のり、源のよし經、羽左衛門、第二ばん目「織合襤褸錦（おりあはせつゞれのにしき）」次郎左衛門女房お春、常世、彦坂甚六、三津右衛門、春藤助太夫、三藏、春藤妼さつき、團之助、若徒十五郎、もゝ太郎、奴釘秡鐵内、こせ右衛門、同棒内、つき八、同二合半内、蔦五郎、同一平、玉次、同米内、歳藏、宮田源八、吉十郎、多右衛門一子庄之介、相藏、助太夫娘お六、菊代、須藤六郎右衛門、熊十郎、加村宇田右衛門、芝十郎、はたごや娘おたに、みよし、春藤次郎左衛門、團藏、同次兵衛、次郎左衛門弟新七、高市多右衛門入江小太郎、羽左衛門、第二ばん

目大切所作事（辭選申もおこがましく不束なから家の株）「名橘花枝振」かいら
い師いさみの商人狂亂市村羽左衛門相勤浄るり清元
延壽太夫、志喜太夫、喜勢太夫三弦清元齋壽、榮次、市
次、千三、長唄岡安喜代八、同喜平次、富士田新九郎、
同吉四郎（三弦）杵屋和吉、同和八、同六四郎、同勝三郎、は
やし連中（ふり付松本五郎市）何れも大出來大當り芝居
本普請出來に付○五月廿五日より森田座「妹背山婦
女庭訓」漁師ふか七三十郎、ひな鳥、入鹿妹橘姫、龜
之丞、てがのゑみし、友右衛門、おはしたおむら、甚六、
紅葉の局、一友、櫻の局、飛鳥の皇子、歌助、酒やの後
家おたる、荒卷彌藤次、義右衛門、宮越玄蕃、わし藏、
仕丁次郎又、年藏、同太郎又、松藏、柳の局、市右衛門、
女の童乙女、粂三郎、官女待從、紋三郎、梅の局、相長
屋土左衛門、大吉、竹の局、龜次郎、松の局、かのふ、桃
の局、たい助、捴小きく、春次、同桔梗、しらへ、家主茂
木兵衛、森藏、でつちね太郎、玄上小太郎、莨助、久我之
助、玉三郎、おみわ、後室さだか、半四郎、入鹿大臣、ゑ
ほし折求馬、大判司清澄、三津五郎「けいせい返魂香」
浮世また平三十郎、土佐將監、友右衛門、狩野歌之助、
七五郎、下女お高、たい助、土佐修理之助、四郎五郎、
又平女房おとく、粂三郎、第二番目「花菖蒲浮名顔觸」
米問屋坂間傳兵衛、石濱隼人之助、三十郎、梅田村い
お咲、龜之丞、潮田伴之進、友右衛門、若黨佐五平、四
郎五郎、權助女房おとり、甚六、津川勝次郎、一友、よ
み賣三五郎、歌助、箱廻し谷八、義右衛門、呉ふくや六
之助、十三郎、舟頭長助、わし藏、中間又助、杢藏、大の
じ娘分おもん、紋三郎、道具や小ふじ、森之助、弟子娘
小なつ、澤平、大のじ下女おくら、松代、同お竹、榮次
郎、夜番人作右衛門、たい助、東金宿のおさい、ます
壽、眞猿屋與次郎兵衛、森藏、おさは、姉おとみ、三之
助、大のじ爲八、津川主水、七五郎、水茶屋大和やお
花、玉三郎、石濱下部勇介、是駄賃人岩淵の權助、幸四
郎、藝者おしゆん、半四郎、角力取白ふじ源太、三津五
郎、船頭小口や政吉、かん彌、大切淨瑠理（五月雨ひそかに濡鳥）
「二世三世角力盟」藝者おしゆん、半四郎、白ふじ、三
津五郎、富本豐前太夫、式部太夫、八百太夫（三弦名見崎）
喜十、同徳次、相勤大出來大々當り
○當武番目は文化七庚午年三月市村座にて勝相撲
浮名花觸と云名題にて大當り此度も大出來大々當
り殊に中村座市村仮芝居にて興行の處當座本普請

之出來は坂東秀朝がはたらきといふべし

○六月廿三日より中村座「東海道四谷怪談」堀部安兵衛、宅十郎、伊平女房おはな、芝雀、秋山長兵衛、彦左衛門、りんさ吉使、與五郎、関口官蔵、森五郎、奥田庄三郎、巌五郎、中間伴介、千代飛助、利くらや茂助、千代三、庵主浄念、瀧蔵、お熊はゝあ、歌十郎、醫者尾仙、直五郎、佐藤與茂七、伊右衛門、女房おいは、小佛小兵衛、八百蔵、民谷伊右衛門、潮田又之丞、高麗蔵、伊藤娘お梅、粂次郎、伊藤喜兵衛、四つ谷左門、三百蔵、若屋女中おまて、増吉、伊藤後家おゆき、梅之丞、うばおまき、駒次郎、女髪ゆひお大、にしき、佛孫兵衛、小はやし平内、りう蔵、お岩妹おそで、玉三郎、直助権兵衛、幸四郎、別狂言「けいせい阿波の鳴門」櫻井主膳、冠十郎、千代武太六、森五郎、由馬の音、いよ六、奴角内、とき八、若いもの喜助、冠蔵、岡太助口蔵、十郎兵衛女房お弓。玉三郎、あはの十郎兵衛、道心者純西坊、高麗蔵、十郎兵衛娘おつる、傳蔵、浄るり第一番目四條目葉を思ひにくりかへす文月「二世縁願色糸」おいは幽霊、八百蔵、秋山彦左衛門、伊右衛門、高麗蔵、富本豐前太夫、三弦富本豐志藏、名見崎榮治、何れも大出來なり

○七月より市村座「源平布引瀧」瀬の尾十郎、中村芝十郎、小まん、みれし、奴おり平實盛、八行つな、熊十郎、長田の太郎、三蔵、待宵姫若代、こし元床なつ、猪之助、九郎介女房小よし、こせ右衛門、矢橋二惣太、三平、葵御せん、德之助、高はし判官、曾呂平、なんばの六郎、當十郎、首藤九郎介、三津右衛門、木曾義賢、藤蝶一、露實蝶、同左衛門、錦武は八日「梅重艶仲町」から豆屋金五郎、芝十郎、重井筒女房おせん、みんし、香取すわ右衛門、熊十郎、奴音平、三蔵、奥女中きくの、菊代、若や千八、三平、たいこ持傳八、同壽栄、熊次郎、浄念坊、手代權九郎、こせ右衛門、廻しのおしつ、園之助、同おとく、徳之助、下男茂助、曾呂平、北野屋平兵衛、半場左司馬、當十郎、羽生村お助ばゝあ、三津右衛門、小間物屋傳兵衛、結川與右衛門、けいしやおふさ、かさねの幽こん、佐倉惣八、利左衛門、大出來大評判○七月廿日より森田座「當秋八幡祭」山崎屋與五郎、夜そば賣南與兵衛、南方十次兵衛、誂妹、鴻野後室、縮緬御前、甚兵衛、女房おしつ、常世、山崎屋浄閑、船頭わしの長吉、友右衛門、船橋丹下、四郎五郎、山崎手代權九郎、甚六、三原有右衛門、市友、葉山彦介、書斎

たと七、歌助、道具や善六、義右衛門、たいこ持久藏、錦兵衛、米や仁右衛門、和十郎、足輕升平、鶴藏、佐倉質八、非人すたれの十、大次郎、鵜舞人谷の金、九二平、下女おなど、松藏、たいこ持島羽や里八、木の平、山崎やでっち善太、糸作、俄のねりこ粂吉、粂三郎、二葉屋女小みの、鐵助、げいしやおふじ、富三郎、こし元糸はき、鐵太郎、同小きく、粂次郎、げいしやおいは、かなう、講中萬代屋市兵衛、大吉、同孫六、十藏、中げん市助、たい助、ふじや娘分おやま、しらへ、げいしや舛次、ます喜、和泉新町のおくめ、春次、香取文次、甚吉、げいしやおもん、紋三郎、倉岡新三郎、下駄の市賀は三原傳藏下市川清十郎澤村訥升ふじやあづま、王三郎、あら川左近、野手の三、橋本次部右衛門、冠十郎、與女中園屋、十次兵衛女房おはや、山崎や娘おてる、三五郎、女房おいし、半四郎、倉岡左右衛門、頭かき甚兵衛、山崎屋與次兵衛、大和國才月見の三五郎、三津五郎、みはへ法印喜野坊、勘彌○八月十六日より大切淨るり道行「千種の花色世盛」山さきや與五郎、訥舛、ふじやあづま、王三郎、みことの、鐵助、おいし、半四郎、大和同才、三五郎、三津五郎、法印喜野坊、かん顔、常磐津小文字太夫、若太夫、政太夫、三弦岸澤市造、同八、仲助、いつれも大出來大々當り當狂言も文化七庚午年八月市村座にて秀佳、杜若、錦升三八大當り作者鶴屋南北なり今におり／＼興行すいつも評ばんよし

「役者現銀店」に云　ほうび白子寶貝　上上吉　澤村訥升
前文略してしるす此度「大坂頭取」三月上旬訥升丈久々にて御登り時ならぬ乘こみゆへふねにはあらで中の芝居へかごにて乘込其道すがらの賑はしき錦井その聞の贔屓者は一やうに縫の繻絆に花をかざり待ていた／＼のひゐき連中は前後に道南側の茶屋は軒ずらのちやうちんを家にてらし夏祭にことならず是を見物せんとおし合／＼川竹の賑ひはさすが大立者になられし御きとくがムり舛た此度江戸顏見世へはからずお顏を見ました「頭取」「先代杜若」に是利頼兼役瑞覚丈に定まりしを此人ゑ讓られました岸吉原通ひの歸り道大勢のらうせきものを三田平切ちらし橋のらん干にもたれ後話ひをうとふていはらるゝ處大出來／＼とふふや難い場無一役細川勝元對決の場申分なし夫より御目見へ狂言對かや同

みんし、梅王丸、宿禰太郎、春藤玄蕃、高麗藏、松王女房千代、みよし、土師兵衛、藤原時平公、幸四郎、松王丸、判官てる國、羽左衛門、第貮ばん目「隅田川戯異縁日」聖天町の法界坊、野わけ姫ゆふこん、三十郎、永樂や娘おくみ、龜之丞、同手代庄八、三津右衛門、大坂屋太郎兵衛、曾呂平、永樂や權左衛門、三藏、植木賣松六、直藏、五百崎市松、三平、非人ごん、又八、同山平、もゝ太郎、比丘尼妙開、萬九郎、同眞淨、米藏、駒形の厚平、熊五郎、關屋の瀬平、伊麗六、鉤かね講おこせばゝあ、こゝ右衛門、小女おつや、團藏、松本下女おしろ、團之助、同およし、岩松、水茶屋おせん、橋之助、山上文次、五郎市、夜そば賣二八、染五郎、永樂やでつち長太、十藏、野分ひめ菊代、山崎屋助十郎、歌助、松本女房おしも、琅子、道具屋甚三、高麗藏、渡し守都鳥のおしつ、みよし、鮫鞘の茂右衛門、幸四郎、永樂屋手代要助、粟津七郎、羽左衛門、第二番目大切上るり歌に「忍關娘商人」法界坊、野分幽魂、三十郎、おくみ、龜之丞、おしづ、みよし、要助、羽左衛門相勤、常磐津小文字太夫、若太夫、男女太夫、三弦岸澤東造、八五郎連中何れも大出來大當り當狂言目出度舞納是より本普請に取かゝり暫休

菅原にて菅相丞三十郎思ひの外大出來二ばん目法界坊是又大に評判よし其外何れも大出來なり

◎九月廿二日より森田座「時今出世容」小田春永、佐藤正清、訥升、園生の局、常世、四天王又兵衛、友右衛門、堀井久太郎、四郎五郎、連歌師宇野紹巴、甚六、宅間左衛門信盛、やす田作兵衛、市友、櫻井小新吾、義右衛門、庄屋杢兵衛、銀兵衛、淺山多惣、和十郎、福とみ平馬、わし藏、山内玄蕃、虎五郎、小栗の百姓彌兵、杢藏、同米右衛門、馬平、同源十、松藏、同彌五六、伊久助、同太次右衛門、紀藏、同金之丞、麗助、込山東吾、助藏、足輕羽平、幸之助、小性金彌、澤平、同吉彌、銀助、同紋彌、徳之助、茶道珍齋、大和助、森力丸、篁助、同坊丸、粂三郎、本能寺日和上人、たい助、總子菅鐵太郎、同野分、紀久藏、同かいこ、粂次郎、同尼花、亀次郎、同ふよう、ます壽、光秀妹桔梗、春次、矢代粂助晴行、甚吉、侍女萩の戸、紋三郎、中尾彌太郎、百姓作實は小西彌十郎、満十郎、嘉平次娘千里、長三郎、松下嘉平次、冠十郎、森蘭丸（後ニ満十郎かはり）光秀妻さつき、半四郎、武智重兵衛光秀、眞柴筑前守久吉、三津五郎、武智

冠十郎、瀨の尾十郎兼康、三津五郎、大入大繁昌にて
日數打切目出度舞納

中村座市村座普請にて顏見世なし

花江戸歌舞妓年代記續編卷の九

●天保六乙未年

○正月十五日より森田座「結題會我鴈(むすびだいそがたかりかね)」曾我十郎祐成、同五郎時宗、赤澤十内、鶴本主水、重忠、酌升、月小夜、品川びせんや女房おしげ、女達、奥方菅の谷、工藤奥女中くすみ、常世、鬼王新左衛門、秋山三九郎、野田角左衛門、尺八指南宅間玄藏、壽美藏、近江小藤太、本庄曾平太、山川屋手代義兵衛、友右衛門、曾我二の宮、品川備前屋おのぶ、みんし、箱根の閉坊、醫者貞あん、市友、團三郎、山川屋權六、勘藏、同手代淸八、半澤六郎、和十郎、ちゝぶ小六郎重保、甚吉、梶原平次、義右衛門、同源太、駒十郎、ばんばの忠太、虎五郎、百足や金兵衛、勘八、びせんやのせげん新六、杢藏、りやうし太平次、駒右衛門、油屋九平次、大次郎、米や仁右衛門、三九郎、八百屋久兵衛、子之助、辻君おしま、紀作、夜番人半八、吉藏、船頭勘七、松藏、同八藏、らい助、同藤八、門平、同三七、伊久藏、びせんや子じやくおとわ、三吉、同娘分おとは、紋三郎、保童丸、富士五郎、江

の島案内の千千代松、粂三郎、大磯舞鶴や傳吉、籐助、山川屋權左衛門、たい助、こし元袖次、鐵太郎、平子の妹わかな、紀久藏、安西の娘さわらび、繁次郎、岩永娘はつ音、友三郎、姉方勝春次、三うらの片貝、しらべ、工藤息女大姫、菊世、足輕浪平、彦左衛門、箱根の別當行實、奥女中岩崎甚六、八幡三郎行氏、山川屋支配人六兵衛、伊豆の次郎、淸十郎、工藤奥女中宇佐美、玄龍娘おつた後びぜんやのお蔦、みよし、晝とんび、大磯のとら、團十郎、けわひ坂の少將、文七女房おたか、奥女中淸川、舞鶴姫、工藤奥方なぎの葉、半四郎、小林朝日奈、鷹金文七實は安達家中花岡文七、當庄九郎、極印千右衛門、安の平右衛門、布袋市右衛門、工藤左衛門祐經、三津五郎、御所五郎丸、かん彌、第壹ばんめ大詰（三ツ浦團の五花入に軍配の扇蝶）「若い訥子花顔鑑」時宗、訥升、少々、半四郎、朝日奈、三津五郎、常磐津小文字太夫、若太夫、佐喜太夫、三弦岸澤式佐、上てうし同文左衛門、市太郎、壽助相勤

當狂言は文政三庚辰年中村座春狂言「仕入曾我賑金染」と云大名題にて故坂東秀佳一人にて五人男大當りなり此度秀朝相勤大入大々當り此狂言より役者のせりふを書し「おふむ石」といふもの歌川國芳畫にて出板す表紙は赤澤十内、訥升、お高、半四郎、花岡文七、三津五郎彩色摺りにものす是「おふむ石」いろずりの起原なり森田座より始り今は不殘上紙すりの彩色表紙とはなりぬ是迄のは小本にて表紙に大名題をしるし袋には貮三べんの色どりなりし今まれ〳〵見當るものあり當時にくらべては雲泥の相違といふべし其沿革の圖戯場隨筆に出し爰に略す此時極印千右衛門實は花岡文七、三津五郎

「こふなつたらやぶれかぶれいかにも極印千右衛門、本名は花岡文七にせ金つかひばかりじやアないあらかせぎからやじりきり人胴ばらしはゆふべのゆきあひぬしはたれともくらまぎれせうきん三百兩このにせ金とすりかへた出所はおれにもしろ鐵の質うけ諸拂にいつぺんでもつかつたらばのがれつこのないどうるい手下とがはいちれんたくせうサアきり〳〵へんとうしやアがれェ、○文七女房おたか、半四郎

「モシあだちのいゑをたちのいてうつてかはつたお

まへのこゝろかくさんじてもしつたゆへいへばきりどりごふどうはぶしのならいとツイにあのゆいがはまでなけないおまへの身のうへ其ときのわたしがかなしさ死がいをもらい取おいたら直に死なふと思ふた處ふしぎにおまへは命をのがれふねであふた其嬉しさすぐに立退この江戸へきてから雷庄九郎と僞をはゞかりて名をかへてもやつぱりかへぬおまへのしわざアノばんとふがよからぬたのみいやがるわたしをおまへのすゝめむりに千葉家の淸川にャあのよふナこわいことそふして金も代ものもあつちへやらず一人りしておまへがとりあげ番頭や相手の侍へどうせうと思わしやんすぞいナア何れも大出來大々當り

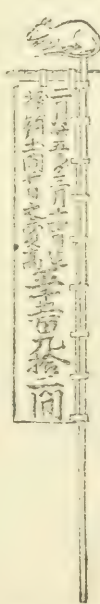
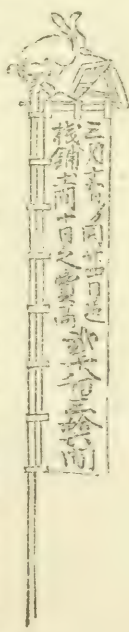
○二月廿三日より本替淸書帳に付市村座「御攝五十三驛」曾我十郎祐成、同大藤兵衞、實相うり瀨市、寺西閑心實は白須賀十右衞門、實多地獄淸三、源之介、犬坊丸祐友、同十郎、石井兵助、池西網の市藏、若徒久須美造平、松助、源之助、又四郎娘十六夜、いせ參り吉三郎、しなのやおはん、玉三郎、吉祥院、大日和尚、海老名軍藏、本庄下部八内、百花屋金兵衞、鬼市、醫者藤田卜庵稻葉手下鯛作、曾呂平、荒井藤太、稻葉の手下、石部金六、三藏、百姓八兵衞、旅芝居、ふり付松本八十八、五郎市、助太夫娘八重梅、水茶や三しまおせん、東藏、梶原平三、吉十郎、実介野晒の五助、すゞ八、同半助、もゝ太郎、同仁右衞門、万九郎、狩人彌藏、熊次郎、大津羊飼よだれの丑、春五郎、問屋人足喜多八、三平、同彌次郎、廣藏、薄雲、新造、白菊、楯之助、所化辨才、三吉、万壽君、賴家、石塚下部上手助、鯉十郎、二丁町げいしや升吉、升壽、石部飯もり女おなべ、友三郎、同おはら、富五郎、稻葉の手下洞藏、川越し六、多賀十郎、武塚伴吾、榮三郎、澤の瀧夜叉、岩五郎、大藤内、成景、庄屋鶴の音、太左衞門、梅五郎、八ッ橋村のおくら、奎のや女房お民、かてう、駿河二丁町藝しやお京、大三郎、椿屋長右衞門、吉祥院所化辨長、三津右衞門、傳吉倅菊松、菊之助、賴朝息女大姬君、明石のお松、梅澤屋下女お杉、三浦の小紫、菊三郎、石塚玄蕃後ニ馬水右衞門、八ッ橋村の又四郎、釜屋茂の武兵衞、梶原景高、冠十郎、嶋原けいせい薄雲太夫、大磯屋女房おとら、飯盛女小夜衣、おも寶播磨のおとき、梅幸、工藤左衞門祐つね、白井權八、鳶の者五左衞門、傳吉、猫石の怪猫

葉幸藏實清水の冠者義高、伊豆の次郎祐兼、菊五郎、曾我五郎時宗、中野藤助、男達五尺染五郎、狩の介宗茂、大江因幡之助廣繼、羽左衛門、五幕目吉原宿にて上るり「封文思ひ〳〵」武兵衛、冠十郎、吉三、國三郎、お七、菊五郎、清元延壽太夫、志壽太夫、喜勢太夫、三味せん清元榮次郎、同市次、大出來大當り○三月四日より沼津、三嶋、箱根、小田原、大磯、平塚、藤澤、戸塚、程ヶ谷、神奈川、川崎、品川、日本橋まで不殘差出す役割以前にしるしあるは爰に略之油屋鮹の市藏實字佐美三平、松助、いせ參り吉三郎實ハ平作三吉、源次郎、妾お牛、市藏、女房おそで、玉三郎、本庄助八、熊十郎、新貝荒次郎、又八、愛甲の三郎、もゝ太郎、稻毛の三郎、春五郎、雲介鮫ずの馬、熊次郎、同瀧川の音、三作、同高輪の牛、冠藏、同羽根田の猫、音吉、同杉田の梅、がま平、梅澤屋かゝへおしげ、橘之助、同おまち升壽、同下女おとみ、富五郎、同おます、壻之助、東海寺門番たが七、多賀十郎、箱根の猟左衛門、岩五郎、小紫新造おらく、東藏、禿○かり、大三郎、御厩の喜竹、菊之助、三浦の小紫、榮三郎、俗おんま釣の宗庵實八富ツ橋の又四郎、田舍大盡八百久實は多武、冠十郎、[illegible]

人安森源次郎實清水冠者、菊五郎○當狂言文政十丁亥年六月河原崎座において「獨り道中五十三驛」鶴屋南北、勝井源八作なり此度是人增補せしなり○團時猫石の怪、是迄之通りけいせい薄雲幽靈、因幡之助、羽左衛門の懷より出る見物いかゞして出るやと驚き奇妙不思議と譽るのみなり、夜啼石幽靈旅芝居より梅門の場大井川水仕合長谷川大仕掛駿河二丁町廓の場男達唐犬權兵衛、源之介、五尺染五郎、羽左衛門、小紫身請の達引爾人白刄を切むすぶ處へ土左衛門傳吉きく五郎にて中人にはいり「イヤめつたにはのかれないあぶない抜身の眞中へとんで飛こむ鶯頭こゝがかんじんかな棒の火のよふじんより身の用心互にはらを建前のいましやア世話やく頭取とどのてうばでもありがたひその御ひゐきで去年の夏も旅あるき桑名の宿での大煩ひいづれもさまへ御め見へもならねへことかと神だのみその御利益の靈參り五十三次まゝたこゝへはる出ぞめのちうにんに一ばんくちを菊五郎此でんぽうの傳言にじゆんわりあづけて下さんなせへナ
○江戸見世物等見ヶ關山實否上る箱根曾我兄弟王藤對面之場大[illegible]町田舍大盡傳三小紫新造花扇八

長唄連中鈴ヶ森之場品川之場日本橋御祭禮之場迄古今大々當り

○稲葉幸藏にて大内へ忍入銀の鼠の香爐を奪取夫より大津の場鼠の社に頼豪の術ゆづりのち京桝や口だんまりまで石部宿お半長右衛門坂の下にてけいせい薄雲にていなばの介したひ來り廿十郎に殺されお家の怪談大當り四日市桑名や徳藏にて海賊張本幸藏しんきろうの立を見て我大望露顯せしとさとりともづなをきつて走る處すごいもの／＼岡崎古寺薄雲にて家橘の懐より出る幽靈薄衣がとれるときれいなるこしらへ奇妙／＼袋井宿藤やくしや實は權八にて大日坊殺し掛川の場樓門の場京升やと立廻り日坂の夜啼石大井川の場家橘兵衛深手の樣子を見て無念のこなし府中の場家橘京升の中人大出來○小紫の買論岡部權八江尻の場幸藏手疵養生興津関所にて權八女の姿になり通らんとして見あらされ候處二役お七にて例惡女形女郎にて辨長をたなし短刀を奪取谷底へけこむ所權八網乘物破る箱根山工藤にて兄弟對面大出來大磯の場權八夫より鈴ヶ森にてお時京桝や具足や三八だんまり品川の場お時ごん八二役大出來／＼三津右衛門中軸上上吉

扨此處は何れも樣おなじみの熊山丈でムり升す「マツテいた／＼此人が出ると舞臺が格別賑わしうムり升す五十三次に帶屋長右衛門にて十六夜に見とれ石山寺へお百度參り何も仕打はムり升せぬがおかしうムり升す石部宿お半と新枕の所盗ぞく幸藏に出合癪病のこなしに辨長古寺の生醉大出來のちお七にたばかられ窓心中の所輕い事／＼

仕切場へ右棧鋪土間之賣高牌建たり京攝の芝居に建る千軒のぼりといふものなるべし　其圖は浪花烏工松好齋あらはせし戲場圖會出せり江戸にては此度始てなり

○三月九日より森田座「花舞臺丹前俠客」名古屋山三元春、吉田の松若丸、今戸の土物師人形傳助、訥升、

奥女中長川、賤女網女、常世、清水平馬之介、清玄、山三、下部鹿藏、吉田下部軍助、壽美藏、松井の源吾、貞兵衞、石塚玄蕃、友右衞門、不破下部關田平、判人勘六、一友、荒川喜藤太、松若下部浮世又平、勘藏、篠野才藏、はねはの彌藏、和十郎、奥女中桐しま、義右衞門、同萩の、銀兵衞、同柏尾、勘八、同七郎次、紀次、男達士子口之助、鳫金や若者權七、銀兵衞、男達黒雲傳八　虎五郎、同木舟上はやしやりておつめ、亀六、杢藏、同横蟹蟹助、駒右衞門、牛島軍次、助藏、夜ばん人五多六、大夫郎、清玄下部戸田平、三九郎、上林若者喜六、紀藏、百姓つと作、松藏、同銀右衞門、口同玉六、麗助、同傳十、紀作、櫻姫女小性小ゆき、銀吉、同小しも、赤市、新清水所化かんれん坊、澤平、同いつちく坊、銀助、同たつちく坊、孫市、葛城禿小てう、三吉、同よすが、三すじ、佐々木桂之助、富士太郎、所化さくらん坊、粂三郎、花子かしづき花野、紋三郎、大友一法師丸、みの助、小間物や六兵衞、大吉、足輕さゝら三平、たい助、奥女中梅田、しらべ、同せきや、鐵太郎、同あやせ、紀久藏、同花かた、友三郎、同まつち、粂次郎、同宮戸、龜次郎、淺茅萩次、入間家姉姫櫻ひめ、菊壽、庄屋彦左衞門、同心者無縁坊、家主杢郎兵衞。大友常陸之助、六角左京之進、清十郎、媚岩はし賣けいせいかつらぎ、鳫金屋新造采女、みよし、細工人左り甚五郎、團十郎、粂の平内左衞門長盛、入間家局松川後花賣ばゝアおまつ、幸四郎、中の町出雲やおくに、入間家息女花子の前、後新清水の清玄比丘、半四郎、不破伴左衞門重勝、忍ヶ岡辻番猿しま惣太、隅田の渡し守松兵衞實粟津の三郎、吉田の忍逢梅若丸、勘彌、第一番目三立目淨るり「櫻露の濡事」松若、訥升、かくれん坊、澤平、清玄尼、半四郎、富本豊前太夫、大和太夫、八百太夫、三弦名見崎德治、市十、長作、登茂次相勤第貳番目大切淨瑠理狂亂のにしき繪も櫻さくらを混ぜて「都鳥名所渡」松若、訥升、清玄尼亡魂、半四郎、わたし守、三津五郎、常磐津小文字太夫、若太夫、佐喜太夫、三みせん岸澤式佐、同三藏、市太郎、壽助相勤大入大々當り、四月三日より庵室の場大ぎり上るりさし出す

發端六本杉三立目行列惣座不殘作左衞門仕合場、同松若清玄尼夢の場、返し瀧の場、四立目山三浪宅、五立目さや當之場、大詰吉原同往返し、二番目序まく、濱し場、庵室清玄殺しの場、大切松若訥升松

み、玉三郎、淺茅太郎、武成、古手買甚三、高麗藏、吉田の侍女小梅、渡し守お松、下り岩井紫若、粟津七郎後兼、傳藏、〇大友常陸左衛門、幸四郎、侍女小梅、紫若、吉田の常忠、團藏、隅田川筏の上のだんまり後に屋根舟替り幸四郎皮剝にて千代徳助をしめころしやね舟より紫若を引出すとかまほこ小やより市紅立出る皮剝引續にて黑びろうど大百日にて立廻り大出來大評判

〇五月廿日より市村座「漢人韓文手管始」香才典藏、高尾、玉三郎、唐使吳才官、番僧徒典、三津右衛門、清德寺下男久六、鬼一、小山宗左衛門、三藏、神奈川や手代、嘉兵衛、曾呂平、五島左衛門、五郎市、小田主税、ふようや才兵衛、多賀十郎、博多貢升や清兵衛、吉十郎、下部笞平、又八、同盧平、桃太郎、笹原小七、春五郎、若イ者與七、万九郎、同宿ちたん坊、熊次郎、同よたん坊、三作、奴角内、冠藏、同丸平、音吉、茶道順才、木藏、たいこ持喜六、楠藏、須藤丹平、扇藏、傳七一子松次郎、三吉、禿靑葉、大和助、同かへで、綱吉、土田佐五郎、神奈川や利兵衛、團四郎、仲居おきつ、橘之助、同おます、升壽、同おちか、增之助、喜田伴作、岩五郎、唐使珍花慶、梅五郎、けいせい名山、吉藏、佐賀良僊正、若徒四ッ平、熊十郎、是利千代丸、菊之助、傳七女房おさち、紫三郎、清德寺の住僧教善、沼津千島守、冠十郎、松浦五郎照政、團十郎、十木傳七、羽左衛門、第二ばん目大切上るり隅田の情と浮氣名立島の時鳥「菖蒲色相撲」難波の次郎作、源之助、禿たより、大三郎、京の與四郎、羽左衛門、常磐津小文字太夫連中第二番目二日替りに体初日「關取千兩幟」岩川次郎吉、源之助、鶴屋禮三郎、松助、同千代善九郎、三津右衛門、市原九十太、鬼一、たいこ持礒八、三藏、角力取鐵岩、助太、多賀十郎、たいこ海八、もゝ太郎、觸込人足、喜八、万九郎、角力取鳴子崎大藏、三作、同勝の森、〆助、音吉、同三ッ巢、吉藏、冠藏、彌太夫娘お才、橘之助、けいせい錦木太夫、升壽、惠海庵のおはる、增之助、大坂屋佐右衛門、岩五郎、一村岡田右衛門、梅五郎、岩川女房おとは、紫三郎、鐵屋浄久、關取鐵ヶ嶽陀三右衛門、冠十郎、行司志村丈之助、團十郎、千羽川女房およつ、北野や七兵衛、羽左衛門後日「關取二代勝負附」高倉與人行司志村庄九郎、源之助、六角伊達五郎、熊十郎、角力取龍石竹右衛門、團四郎、志村幸之介、五郎市、黄木千手代本助、

三平、呼出し奴市六、扇藏、秋つしま、子國松、澤平、若徒瀬平、直藏、けいせい大淀、梅之助、角力土蜘山五郎、岩五郎、同鴫岩浪五郎、梅五郎、六角要之助、東藏、秋津島女房お里、粂三郎、鬼ヶ嶽洞右衛門、冠十郎、瀧頭瀧のほり吉、傳十郎、秋津島國右衛門、羽左衛門、何れも大出來大當り當狂言五幕下け○五月十九日より中村座「菜初由兵衛」梅の由兵衛、下り坂東彦三郎、源兵衛堀源兵衛、芝十郎、信濃勘十郎、國三郎、米や娘おきみ、小紫、曾根崎作五郎、勘左衛門、非人どう六、森五郎、親方才右衛門、鷹五郎、三里久庵、千代飛助、地廻り伊三、いま六、同重五郎、要めしや權七、ト三藏、米や娘おひさ、粂三郎、晴花屋五郎右衛門、幸四郎、娘分おやま、玉三郎、でつち長吉、粂太郎、娘分おつる、徳之助、額の小さん、にしき、けいしや駒路、駒次郎、金屋金兵衛、同金五郎、高麗藏、由兵衛女房小梅、紫若、三品作人、團藏、何れも大出來大當り○五月九日より「ひらかな盛衰記」大序より四段目の切まで梶原源太景季、けいせい梅ヶ枝、船頭松右衛門、訥升、非人娘お筆、梶はら奥方ゑんじゆ、當世、ちゝぶの重忠、船頭權四郎、梶原景時、友右衛門、千とせや才兵衛、一友、ちゝぶの重保、勘藏、佐々木高綱、甚吉、千歳や造りてお玉、義右衛門、非の上次郎、紀丈、船頭九郎作、虎五郎、同富藏、勘八、同又六、杢藏、同沖八、駒右衛門、内田の三郎、大次郎、梅ヶ枝兎たより、みすじ、同よすが、澤平、茶道珍才、孫市、木曾谷達駒若丸、徳次郎、無學や理兵衛、大吉、杣彌太夫、たい助、こし元さつき、鐵太郎、同あやめ、紀久藏、同若葉、龜次郎、辻法印妻おてう、しらべ、横ずる宣内、辻法印鐵由、甚六、和田小太郎義盛、七五郎、源の義つね、四段目目源太景季、清十郎、嬢千鳥、松右衛門、女房およし、巴御ぜん、龜之丞、政子御前、半四郎、梶原平次景高、三津五郎、根の井小彌太、勘彌、第二番目「繪帶色紙分」千代長三郎、訥升、松本女房お八重、つね世、寄場の伊之助、壽美藏、非人とら松、友右衛門、まわしの權七、義右衛門、佐原木左膳、國三郎、料理人喜助、助藏、たいこ富八、銀兵衛、伊せや庄左衛門、相十郎、丹波屋平五郎、一友、けいこおかん、龜之丞、若徒段助、三ッ五郎○是迄發端の役わり序幕迄年數十二ヶ年相立つ○帶屋長右衛門、綱かき白川の與作、訥升、長右衛門妻おきぬ、當世、でつち長吉、友右衛門、千代叢兵衛、一友、佛だんや才次郎、勘

藏、下女おりん、銀兵衞、針屋惣兵衞、おびやのばゝア、勘八、おびや手代五兵衞、紀藏、石部宿のおじやれ、およつ、友三郎、げいこ雪野、菊世、舞子おくめ、粂三郎、ほうづき賣みの吉、簑助、隱居半齋、七五郎、坂間傳十郎、清十郎、しなのやおはん、龜之丞、女髮ゆいお岩、半四郎、筆商人段助、三津五郎、大切淨瑠理道行「緣の觀世水」おはん、龜之丞、長右衞門、訥升、常磐津小文字太夫、若太夫、駒太夫、三弦岸澤式佐、三藏相勤一ばんめ上るり竹本美家太夫、津根太夫、美濃太夫、三弦野澤大吉、鶴澤彌吉相つとむ

「ひらがな」四の切「無間の鐘の段」梅がへ人形の身ぶり訥升大出來「先陣問答」大出來貳ばん目發端長三郎おかん心中に出ておかん一人り死去し長三郎死おくれ跡に殘り長右衞門となりおかん再生して長右衞門と桂川にて心中する狂言何れも大出來大々當りなり

〇六月十五日より夏狂言中村座「敵討東八景」生田傳八、黒塚軍藏、芝十郎、遠城治左衞門、一色左京之亮、齋藤木曾兵衞、團三郎、寂榮和尚、下部時平、當十郎、丈右衞門、娘さつき、治左衞門女房お浪、小紫、町げいしやおいさ、紋三郎、一色富五郎、高宮鄕助、勘左衞門、須川長左衞門、丹波屋手代與六、森五郎、一色監物、岸川通右衞門、染五郎、一色司之助、高淵茂助、麗五郎、中間三助、家主太郎兵衞、市右衞門、二割半兵衞、はやし新八、千代飛助、非人松、栗坂數馬、伊麗六、林善八、非人山、重五郎、庄林八郎、手代新八、瀧藏、原熊太郎、鶴や方次郎、米藏、娵十六夜、粲之助、間おとく、麗之助、坂井久藏、石林甚五作、粲八、鬼女の岩、手代かん六、卜、藏、かさの六、島崎源吾、熊右衞門、村並九藏、でつちぼん太、相藏くぼき慶安、荻原團次、トキ八、名古屋相助、守口庄八、虎藏、総きぬた、青柳下女おすみ、菊壽、梅やおはな、富右郎、けいせい三うら、中やおとく、粂三郎、次左衞門女房おいわ、德之助、おわりやおふさ、團之助、丁げいしやおしげ、局錦木、にしき、宗左衞門女房お藤、局高しの、駒次郎、象潟御前、十右衞門、女房お六、琱子、奈月尼、玉三郎、遠城宗左衞門、安藤喜八郎、高麗藏、丹波屋十右衞門、遠城吉之助、傳藏「日高川入相花王」播摩の四十次、芝十郎、修行者、快了實は田原藤太秀鄕、團三郎、六孫王經基、森五郎、九山猛德、市右衞門、手關取國

八、今六、同甚太、重五郎、同與六、瀧藏、同金八、堺田專平、トラ藏、庄屋杢作、熊右衛門、でつち長太、相藏、大作・千力松、髭八、紛基爺男經若丸、イ四郎、相馬公達貞王丸、成右衛門、姥小むろ、升壽、同あわし、麗之助、同みさほ、富五郎、下女おらち、德之助、眞弓御前、由太郎、大作女房おせつ、みんし、四ッ塚大作、實は伊豫權純友、高麗藏

○第一ばんめ數訂「崇禪寺馬場」の書替　貳ばん目「入相花王」いものし大作大芝居にては珍らしき狂言なり上るり竹本伊與太夫、同伊喜太夫、三弦鶴澤與三郎、同壽助何れも評ばんよし直十匁下げ

○七月廿七日より市村座「木下蔭狹合戰」眞柴久吉、源之助、宮兵衛妻關路、常世、左枝犬喜代、玉三郎、齋藤義龍、熊十郎、大垣三郎、和十郎、四ノ宮源吾、多賀十郎、道具や五介、直藏、五右衛門手下金藏、三平、同團介、扇藏、同かたゝの小雀、又八、姥おすき、もゝ太郎、同おます、升壽、同おやま、好之助、おまる、橘之助、道具や太郎兵衛、槌藏、次左衛門娘小冬、みの助、宮兵衛娘千里、粂三郎、百姓次右衛門、冠十郎、森のらん丸、團十郎、垂井藤太、小田春永、羽左衛門、竹中官兵衛重治、石川五右衛門、三津五郎、第二番目「色羽二重鑾節染」巴屋八八、源之助、高山家おく女中小はぎ、八八女房おみつ、玉三郎、羽田孫六、仲居おでつ、甚六、芝村幸内、直藏、たいこ金八、扇藏、櫻木左門、又八、高山家若との鶴之助、茂作、仲居おいう、升壽、同おため、好之助、同おとり、橘之助、幸主才兵衛、槌藏、奴綱助、鬼一、山本重助、熊十郎、柴屋丁げいこ小ひな、粂三郎、關口彌源次、冠十郎、船頭吉、團十郎、たいこ持仁作實は稻の谷半兵衛、羽左衛門、稻の谷十内、三津五郎皆々大出來大當り○七月廿日より中村座「松主殿下茶店聚」早瀬玄番、同伊織、人形や幸右衛門、彦三郎、町田左門頭、安達彌助、高麗藏、万助女房おとく、母みさほ、常世、關船岸ノ頭、安達元右衛門、友右衛門、東間大藏、神道者鈴木太夫、勘左衛門、鳥羽の牛ぞう、手代善六、森五郎、仕丁藤作、岩淵平馬、粂五郎、大和万才、白酒や太助、光之助、井筒や平三郎、手代久七、麗五郎、道具や利兵衛、最上軍兵衛、市右衛門、奴幌助、千代飛助、非人八、いま六、岡市、重五郎、庄や頓兵衛、熊十郎、手代佐兵衛、瀧藏、鈴木金藏、鋼藏、尼妙閑、田舍侍坂大之進、大吉、中將秀秋、甚吉、幸

右衛門一子幸松、猿八、万助一子万吉、成右衛門、京屋万助、三津五郎、佐竹新十郎、小道具や藤兵衛、三木藏、遊山慶安、でつち三太郎、虎藏、こし元小しも、紫之助、同かへで、麗之助、同千代きく、菊壽、植木や娘おとり、友三郎、早瀬源次郎、粂太郎、茶や娘おすわ、閏之助、早瀬下女お大、小紫、染の井妹薬すへ、にしき、伊おり妻染の井、幸右衛門、女房おとき、みよし、荒川傳五右衛門、林刑部、澤田庄三郎、芝十郎、宇治の方、紫若、東關三郎右衛門、幸四郎、眞柴久秋、傳藏、片岡造酒之頭、勘三郎、第貳ばん目[姫小松子日の遊]三ノ切亀王丸、彦三郎、同女房お安、常世、珍山木藏、勘左衛門、がけの藤六、森五郎、たくぼくの江吉、染五郎、小辨、猿八、俊寛僧都、三津五郎、小督の局、駒次郎、なめらの兵、友右衛門、有王丸、幸四郎

×幸右衛門△萬助かけ合せりふ

×だまろうこやつといわしておけばさま〴〵のたはことす町人のたましひに引くらべ善ごんくどくの望にない浪人なれどもいかなる幸右衛門今迄の土人形の職人と思ふたらあてがちがふコリャ此刀が目にや見へぬか馬鹿な事を△スリヤこなさまがアノいかな幸右衛門殿とな×イカニモ△アノこなさまがハテなア×サ武士の忰の面ンていゝ疵をつけたる小忰きり〳〵是へだしやれサ△さやうでもござりませうが私もこゝの内のはへぬきにもござりませぬ七ヶ年以ぜん主じ万助病苦の枕もとへわたくしを呼申されまするは是なるおとくと夫婦になり何卒忰万吉めを養育致しくれよとの遺言ゆへぎりある忰さやうならば致方がござりませぬせがれの替り此万助をお手打になされませうよふかくごいたしてをりまする

右殿下茶や大當りにて第貳ばんめ取かへ○七月十九日より[双蝶々曲輪日記]放駒長吉、彦三郎、山崎屋與五郎、高麗藏、郷右衛門、勘左衛門、野手の三、尼妙貞、森五郎、有右衛門、染五郎、手代庄八、光之助、水茶や佐介、麗五郎、下駄の市、市右衛門、船頭の瀧、伊賀六、搆中八兵衛、瀧藏、同權兵衛、熊右衛門、同久八、相藏、同與太郎、友藏、同万兵衛、虎藏、同六兵衛、大吉、濡髮長五郎、三津五郎、でつち長太、麗次、同太吉、鯛藏、與次兵衛、三木藏、仲居おふで、友三郎、ふじやあづま、にしき、仲居おくま、駒次郎、長吉、姉おせき、常

世、鶴の喜兵衛、幸四郎、志村丈之助、門三郎◯八月朔日より森田座大道具大仕掛長谷川勘兵衛工風表側に幟を維光正七月より幕なし「忠臣蔵」大仕掛の口上看板差出す僞板の番附を差出す
「假名手本忠臣蔵」鹽谷判官高貞、早野勘平、寺岡平右衛門、丁稚伊吾、となせ、市川や義平、訥升、不破數右衛門、斧九太夫、同定九郎、一文字や才兵衛、壽美藏、若狹之助、石堂右馬之丞、スヶ團三郎、おかる母 おかや、おいし、みんし、山名次郎左衛門、鷺坂伴内、太田了竹、一友、矢藤與茂七、勘藏、矢間重太郎、和十郎、めつぼう彌八、大わし文吾、□右衛門、七段目の伴内下女りん、錢兵衛、猩の角兵衛、小いの寺十内、前原伊助、勘八、岡野千平次、虎五郎、稲ヶ島の六、奥山孫七、團五郎、せげん小八、奎藏、村松三太夫、駒右衛門、磯貝十郎兵衛、助藏、一力亭主才助、富の森助右衛門、三九郎、岡しま礒右衛門、子之助、潮田又之丞、らい助、赤垣傳藏、門平、中村初介、藥八、石堂緋縅之介、雲助、鹽谷爲若丸、粂三郎、大ぼし大三郎、富士太郎、仲居おもん、紋三郎、茶道松竹、銀助、よし松、徳之助、足利直義公、三すじ、百姓與一兵衛、たい助、木藏妹みなせ、仲居おてう、しらべ、同おてつ、鐵太郎、同おさい、紀久藏、同おこう、幸之助、同おかめ、龜次郎、同おます、升壽、同お春、春次、同お菊、菊世、同小露、徳之助、原郷右衛門、竹森喜多八、當十郎、數右衛門、下部元助、千崎彌五郎、清十郎、かほよ御前、小なみ、賤女お玉、こし元おかる、玉三郎、大鷲左馬之介、團十郎、義平女房おその、半四郎、六角左京、勝部吉郎右衛門、高ノ師直、三津五郎、大星力彌、勘彌、加古川本藏、ゆら之助、スヶ團藏、第八たん目道行「契りし旅路の嫁入」賤の女おやま、小浪、澤平、馬士清十、清十郎、となせ、三すじ、鶴かき喜の介、訥升、常磐津小文字太夫、若太夫、伊勢太夫、三弦岸澤式佐、同八五郎吉今大出來大々當り◯九月九日より切狂言「俊寛双面影」女護島龜王隱居洞ヶ嶽嶋物語三幕龜王丸、訥升、有王丸、壽美藏、丹波の少將、團三郎、平判官康頼、當十郎、なめらの兵、和十郎、深山の木藏、がけの勘六、紀次、だくぼくの江吉、團三郎、俊くわん一子徳壽丸、澤村徳之助、所化らんけつ、たい助、小督の局、市川徳之助、お安親次郎九郎、瀬の尾太郎兼康、友右衛門 海士千鳥、玉三郎、龜王女房お安、半四郎、丹右衛門、基康、三津五郎、主馬の

小金吾、勘彌、俊寛僧都、團藏、右狂言上方仕立の道具に仕奉入御覽に候長谷川勘兵衛何れも大出來大々當り○八月廿八日（十九日初日ノ處白猿病氣に付延引）市村座（幕ありまくなし表と裏二十二幕）「假名手本忠臣藏」加古川本藏、太田了竹、斧九太夫、高師直、由良之助、菊五郎、本藏娘小なみ、佐藤與茂七、石堂右馬之丞、松助、一もんじや才兵衛、でつち伊吾、吉田の兼好、原鄉右衛門、甚六、高松權六、せげん佐七、曾呂平、山名次郎左衛門、矢間重太郎、梅五郎、富森助右衛門、たいこ八十八、五郎市、鷺坂家來鷺塚二番太、竹森喜太八、團四郎、村松喜兵衛、吉十郎、稱ヶ嶋の六、又八、鹽屋治助、万九郎、雲介音、晋吉、同又、木藏、百姓與一兵衛、扇藏、狸の角兵衛、三平、大星大三郎、新之助、茶道珍才、和田右衛門、同林才、銀助、鹽谷判若九、三吉、樂箱持權助、直藏、小寺十内、下女りん、多賀十郎、赤垣傳藏、たいこ長八、岩五郎、藥島左次太夫、一力仲居おまる、小林平内、銀兵衛、塔の澤湯女おむめ、一力仲居おいち、菊代、仲居おたき、富之助、仲居おとり、鹽谷妼若葉、橘之助、同浮舟仲居おまち、升藏、同おせん、紋三郎、同おふぢ、直義公、東藏、鷺坂伴内、前原伊介、熊十郎、千崎彌五郎、奴可内、升五郎、本藏妹みなせ、勘平母おかや、由良の助、妹お大、伊三郎、義平一子よし松、菊之助、かほよ御前、仲居おはな、おいし、榮三郎、妼おかる、義平女房おその、本藏妻となせ、梅幸、若狹之助、錺間宅兵衛實ハ寺岡平右衛門、天川や義平、加古川本藏、本場請負人材木や七兵衛、斧定九郎、早の勘平、ゆら之介、海老藏、大鷲左馬之助、大星力彌、團十郎、不破數右衛門、鹽谷判官、羽左衛門、第三段目裏にて道行「旅路の花聟」おかる、梅幸、かん平、海老藏、淨るり清元延壽太夫、政太夫、鴨尾太夫三弦清元榮次郎相勤皆々評よく大々當り日數打切目出度舞納（當作吉書本丁綱國貴首直、菊五郎、ゆらの助、海老藏七段目力彌、三十郎、黑頭巾吉は紫ちりめんを冠り近比ニ例の手拭をかぶりし）○是二度目なり梅幸、九太夫、太田了竹、大出來鳥居本宿、平右衛門、ゆらの介、勘平、大出來古今大入大繁昌なりし○九月九日より中村座「後太平記艶錦帳」花作大作實平柳、銀十郎、しなの、幸藏、網嶋兵庫之介、彥三郎、北寺木曾兵衛實ハ佐々目兼房、冠十郎、遠山甚三、奴有平、舟宿大いや熊、高麗藏、長狹原奥方おすわの方、大作女房おきす、みよし、辰巳屋おみや、長狹原家かしつき松ヶ枝、芳鶴、庭作り善太、甚吉、上畑新吾、笠貴の鳥ばゝア、勘左衛

門、長狭伏屋之介、鶴十郎、代官田澤彌太郎、女髪結おかん、森五郎、高島大助、通人里遊、染五郎、どせう賣ど六、麗五郎、古著賣卜市右衛門、岩倉彌六、千代造助奴實平、伊麗六、同丹介、虎五郎、やりておハ百、歌十、大島伯藏、松藏、舞子よしの、貴助、禿ふみの、露之助、田植子供喜太、成右衛門、大作倅大次郎、吉造、下浪大三郎、稻田幸藏、大作弟留市、岩倉妻喜幸藏、源之助、笠森おせん、けいせい宮城野、半四郎、日見の二五郎、長狭原右京之亮、三津五郎、小性金彌、茶道珍才、腰八、通人文彌、しら藏、わしげの、守之助、大嶋や女房玉菊、友藏、百姓與茂作、三木藏、家主九兵衛、大吉、田植女おかね、麗之助、けいせい萬之助、粂太郎、同あき妻、同之助、同歌扇、おすわ方妹妻きく、にしき、新造宮芝、春次、同宮里、小紫、仁王膳之助、鳴ヶ瀬秋夜、兜一、けいせい玉花、兵庫之助、女房更科、龜三、花山の曇禪坊、鶴九郎、右衛門、志賀屋七、せげん勘九郎、三津右衛門、長狭原圖書、庄屋七郎兵衛、舩宿伊平次、立鳴の太九郎、芝十郎、地藏作娘おのぶ、梅澤の息女九重姉、太九郎妹小糸、紫若、大黒屋惣六、幸四郎、梅澤恐達鶴若九、傳藏、何れも大出來大當り○十月五日「染摸様妹背門松」油屋多三郎、彦三郎、松屋源右衛門、芝十郎、提婆の仁三、高麗藏、京村屋若糸、龜三、たいこ文作、甚吉、おはりおかん、勘左衛門、まやしの源太、森五郎、小道屋利兵衛、市右衛門、青菜うり、勘六、トキ八、野崎嘉兵衛、歌十、山河屋清兵衛、源之助、油屋娘おその、半四郎、手代久七、友藏、京村屋作兵衛、三木藏、小山屋宗助、大吉、仲居おいね、菊藏、同おまき、同之助、下女おてう、春次、油屋女房おきよ、常世、同手代善六、冠十郎、でっち久松、紫若、茨の九藏、幸四郎、俳諧宗匠卜蘭、勘三郎、大出來大當り○十月二十日より森田座「廣布法恩日蓮記」筆王丸後に日蓮聖人、南部七郎満氏、鶴造勘作、同母おつき、船頭彌三郎、工藤左近重行、本間六郎重連、満十郎、吉祥丸後日朗法師、萬藏、四條金吾頼基、當十郎、渡木井の庄司、庄屋德藏、小三郎、東條左衛門景信、義右衛門、岩別丹下紀之、梅樂寺良觀、國三郎、東條杢四郎、助藏、宿屋の入道、大東郎、日雇取仁三郎、杢藏、平の左衛門、三九郎、沙門日昭、りい助、同日法、伊久助、茶の間りん、染八、船頭梶六、三作、同浪八、紀藏、小性金彌、大和助、同吉彌、澤平、勘作一子経市後日像法師、宗之助、蟹もしほ、三すじ、三國

の太夫重忠、たい助、婏紅梅、富五郎、同小きく、好之助、同深雪、紀久藏、同初霜、菊代、三國與方湊路、調、彌三郎女房お舟、庄司妻鳴瀨、みんし、北條長時、一友、法住寺の學林坊、友右衛門、勘作女房おでん、波木井息女七里姫、玉三郎、本間三郎重清、寶助、明星天子、勘彌、當狂言十五日間興行棧敷十五匁高金三朱平七匁五分大出來十一月顏見世役者入替り番卅三座共不出來中村座菅原の役わりを入替り番附に准て出松本幸四郎松王丸一世一代市川海老藏尾上菊五郎出勤

一世一代の松王丸御目見得　江戸

　隨市川流の梅王悪重金剛力　贔屓

其名尾上の櫻丸兒弟顏見勢　御榮

菅原傳授手習鑑

寬永元甲子より千穐万歲

當天保六乙未年迄新役者附

及二百十二年大々叶

第一
　東風吹ば匂ひおこせよ
　　梅の花あるじなしとて
　　　春な忘れそ
君代
壽く
龜戸の神籬

第二
　此度は幣も取あえず
　　手向山紅葉のにしき
　　　神のまに〳〵
万代
つきぬ
北野の垂跡

第三
　海ならでたゝへる水の
　　そこ迄も淸きこゝろは
　　　月ぞ照らさん
千代
かけて
天滿の慈現

第四
　我たのむ人をむなしく
　　なすならば天が下にて
　　　名をや流さん
幾代
久しき
筑紫の宮柱

○霜月十三日より菅原道實公、櫻丸、春藤玄蕃、傳授場の源藏、菊五郎、梅王丸、後室覺じゆ、寺子屋武部源藏、海老藏、藤原時平公、判官代、彥三郎、宿禰太郎、壽美藏、源藏女房戶浪、榮三郎、左少辨希世、にせ迎弥藤次、三津右衛門、局みなせ、三之丞、齋世親王、婏深ゆき、小紫、三好の淸貫、勘左衛門、奴たく內、市右衛門、荒嶋主稅、岩五郎、百姓十作、植藏、同畑助、馬士、仕丁梅又、伊麗六、同楠又、冠四郎、同しの又、相藏、同梯又、音吉、栗又、大作、樫又、木藏、鐵棟引會忠太、扇藏、下男三助、とら藏、百姓鍬作、大吉、手習子守松、守之助、同梳吉、鍬八、同樂松、樂之助、同品松、たい藏、同千代松、臺三郎、成松、とん助、高松、鳳次、星松、和田右衛門、こし元もしほ、龍之助、同二葉、菊壽、霜夜、友

三郎、同竹川、粂太郎、同やま本、團之助、同勝野、東藏、仕丁喜波又、團子、同竹又、梅五郎、同桐又、坂東鶴十郎、松王一子小太郎、壽三郎、小舍人久丸、粂三郎、同升王丸、新之助、仕丁駒又、成右衛門、同瀧又、瀧助、菅秀才、三吉よだれくり、太郎松、曾呂平、舍人杉王、升五郎、娩てり葉、かめ三、御臺花園御ぜん、芝鶴、さくら丸女房八重、菊次郎、かりや姫、くりから太郎、松助、立田の前、梅王女房はる、常世、土師兵衛、百姓白太夫、冠十郎、松王女房千代、紫若、舍人松王、幸四郎、小舍人沖丸、傳藏、第一番目筑摩川の場、志賀の浦の場、大切淨瑠璃の場、役わり四位の少將宗貞、彥三郎、百川逸藤、甚吉、山賊仙北太郎、森五郎、同馱六、染五郎、同にう八、麗五郎、船頭鳫助、千代飛助、山賊がけ六、山田十五郎、同砂七、瀧藏、同三四郎、今村友藏、平岡太郎、光之助、高松三郎妹宿木、にしき、春日の、賤女小梅、紫若、孔雀三郎、小野の小町、墨染櫻のせい、菊五郎、關守關兵衛實黑主、海老藏、第一ばんめ三幕目上るり（羽織の縫模様振袖の田舍染）「濃紫菊色糸」賤の女、紫若、孔雀三郎、菊五郎、富本豊前太夫、大和太夫、八百太夫、三弦宮崎忠五郎、名見崎德治、友治、喜三郎相勤第二番目大切淨瑠璃「積戀雪關扉」小まち、墨ぞめ、菊五郎、宗貞、彥三郎、關守關兵衛、海老藏當狂言幸四郎一世一代にて一入り大名題殊に白猿、梅幸初め役者揃ゆへ大々當り狂言作者連名なし○十一月廿三日より市村座顏見世「雪櫻詠千本」佐藤四郎兵衛忠信、源九郎狐、ごろつきいがみの權太實は宗盛家臣若手五郎光信、典侍の局、新中納言知盛の靈、川越太郎重賴、納升、尾形三郎惟義、梶原平三景時、相模五郎、町飛脚松兵衛、芝十郎、水行者荒法橋、梶原平次景高、市川鰕藏、行家妹ありす、下の關舞若松、大物新地引手茶やおとり、龜井六郎、阿波民部、伊三郎、武藏坊辨慶、猪の熊大之進、三ノ輪酒屋くま八、熊十郎、大物舞おぎさ、卿の君かしつき小笹、大物新地丸やかゝへおきち、橘之助、海野の太郎、田舍あんま上市、紀六、垂井藤太、前藏、吉野の杣又次、吉十郎、伊勢三郎、國三郎、の坂網かき權、又八、同市、千代藏、同八、春五郎、同仁太、こせ右衛門、猫谷藤太、杢藏、諸坊主西念、三平、里りすかめ松、澤平、同千代松、相藏、同はな松、茂作、つる松、德之助、安德天皇、綱吉、卿の君かしつき深山、猪吉、同てりは、扇之助、同枝折、紀久藏、娣輪の讃香、

さめヶ井兵衛、こま廻し金藏、多賀十郎、片岡八郎、きも入すしや番頭與六、蒔繪師椎齋、五郎市、若葉の内侍、大物の海士卜磯、同新地藝しやお梅、升之助、志渡の漁師老松、きみ藏、山鯨うり吉六、菊四郎、土佐坊昌俊、大津の旅籠や淸兵衛、番場の忠太、甚六、備前守行家、すしや母おつぢ、あめ賣吉次、七五郎、ごん太女房おせん、下の關あま若松實民部妻外濱、矢場女お市、かめ三、源のよし經、入江の丹藏、庭作り樹兵衛、淸十郎、しづか御前、すしや娘お里、卿の君、十つ川お愛、龜之丞、水屋兒きく若、菊之助、吉野の强力横川の覺範實のとの守のり經、野ぶせりの椎本善太武藏坊辨慶實は不動化身、囘國修行者鏡山實景淸、隱取安宅松、海老藏、金剛太郎時定、團十郎、大峯先達念珠實鈴木三郎繁家、童の菊王丸、順禮白拍子しづか實藤の森小女郎狐、きも入すしや彌介實小金吾、武里三位中將惟盛、羽左衛門、第一番ばん目四立目優法印が色懺悔内小女郎が外八文字「磯衛浪濡衣」すけの局、訥升、相模五郎、芝十郎、丹藏、淸十郎、小いそ、升之介、なぎさ、橘之助、卿の君、龜之丞、鈴木の三郎、羽左衛門、淨るり常磐津小文字太夫、若太夫、組太夫、三弦式作、市藏相勤何れも大出來大當り、狂言作者中村重助、安田正助、村柑子、福森久助、玉卷喜久、並木五瓶、並木新吉、並木小七

後三立目椎の木善太、海老藏、野ぶせりにて夢の幕安宅の辨けい、ゑび藏、相藏、鯉吉古手に所作事長唄連中次源九郎狐、訥升、小女郎狐、羽左衛門、順禮にて善太と三人だんまり四立目上るり五立目團帳場、權太、訥升衛り場、千本の椎木場、通し下市村奉公人口入處すしや彌助大出來六立目より大詰迄二人り忠のぶ二入りしづか忠信菊王石段大だて迄大當り

◎十一月十五日より森田座「花櫓劇陣取」強盜岩倉の瀧夜叉後左官土藏實稻葉伊豫之助、三浦之助義村、奴矢田平實山形三郎照秀、後藤元兵衛政次、源之助、北畠春雄卿、浪高瀨一角實岸田太郎、左枝家眞女中植野、友右衛門、加藤數馬之介、柴田常磐之介定景、團三郎、春孝御臺お通の方、義龍愛妾吳羽、松岡衣手尼、かぶき消、みんし、しのぶの名人三尾嶋大藏、鞠川玄蕃、龜成の門弟古何はめんと、一友、堤應之助、奧岡善門六實此村華之助、御藏、山島六郎、山賣淸八、和

十郎、荒熊軍太、肝入むさしや三吉、義右衛門、由利の七郎、寺侍小助、中山小三郎、瓜生判官政信、夜そばうり音、關四郎、入足廻しかん六、左官箭とら、鎌兵衛、盗人枝高、北畠郎等菱藤、駒右衛門、同山藤、高瀬次郎、善次、鬼塚瀨藤太郎等岡藤、大次郎、同森藤、名取三郎、三九郎、郎等軍藤、盗人才六、築八、並川郷藏、郎等瀧藤、三作、政信下部雪平、らい助、本領入道花生、左官こて五六、菅好、藤森仕丁猪又、尾寺門番お竹、たい助、高臺寺兒月若、粂三郎、同雪若、新之助、同花若、富士太郎、同玉若、玉之助、鹿島の事觸茂市、豆げいしやみの吉、鐵助、柴田次郎丸、大三郎、春若かし付甫合、紋三郎、矢田平一子三之助、神事役人辰若、玉市、同成若、大和助、宇治案内千太郎松、銀太、同次郎松、壽市、同米松、壽市、同和田松、和田右衛門、波多野妹やよひ木、奥女中うら葉、しらべ、ほうづき賣おやま、道具や女房おさよ、春次、樒春待、りやうりや娘おます、鐵太郎、あふぎやおかな、花妻、いなりや留女おはま、こし元道芝、濱之助、同菅草、仕立や娘おいう、好之助、總青柳、升壽、雪嗣妹篝火、宿娘おとわ駒次郎、春若かぶき浮舟、大磯はたごや娘おのゑ、德之助、増尾の次郎、

ひど金貸五郎市、鬼一、小田息女春ひめ松ヶ岡の衣手尼（下り）市川茂々代、一ッ家女あるじ谷の戸實義龍娘千束、森山左衛門娘羅衣、志賀里の賤女おりく、吉原宿屋の新造浦里、嶋原けいせい玉琴、玉三郎、仕出し商人三よしや與四郎、大内千嶋の冠者、百姓次郎作實丹羽七郎長俊、今戸燒師土六實片岡造酒之頭、正木左衛門雪綱（下り）市川九藏、早枝奴芝ゑびのおかん平、三浦荒太郎、義基、ゑびざこの十、關十郎、梅しまの賤女お力實利清娘錦木、小田左中將春孝卿、龍興息女龍田の前、女髮結おせん實義龍娘龍田の前、松山おたつ狐、半四郎、早枝又左衛門利清、加藤肥後之頭正清、家原主殿利明、强欲けさ太郎、三津五郎、第一番め四立目（古き妻なる實 實に岩井川）「娘達戀重荷」奴矢田平、濱之助、賤女、玉三郎、次郎丸、大三郎、百姓次郎作、九藏、賤女おりき、半四郎、上るり常盤津小文字太夫、若太夫、伊勢太夫、三弦岸澤式作、文左衛門、吉四郎、壽助、惣八相勤

座頭坂東三津五郎病氣にて市川團藏出勤之處是又相休當狂言日數わづか興行し早春より又々顏見せ狂言相初め狂言作者寶田壽助、篠田佐助、寶井幸助、出來松孝次、三升屋四郎、高谷麗吉、篠田左衛

門、坂てう三、金井山輔

森田座下り

市川九蔵白猿改名尾上菊次郎中村三光改名して下る 市川鯖蔵、嵐三五郎不下

大坂

中村歌右衛門事中村玉助、鶴助事中村芝翫、關扇事嵐園八、中村芝楓事中村歌右衛門、東藏事中村十曉、舎丸事大谷友右衛門

評判記「役下柄競」に云 客座 極上々吉 市川海老藏

大江戸の親玉白猿丈一昨年より長崎見物がてら九州路を御修行旅芝居の義なれば狂言はいろ〳〵かはり諸方にても大きに評よく去六月備中まで歸られ大坂表より小六丈小川丈璃光丈其外の役者衆中下られ白猿丈座頭にて持狂言いろ〳〵出勤夫より直様大坂表へ登られ兩座の内にて暇乞狂言でも與行と思ひの外御歸國は殘念〳〵

眞上々吉　關三十郎去五月勢州古市へ登られ千本次に忠のぶごん太、銀平忠臣藏堀部、ゆらの介、與茂七夫より六月大坂表にて八月より中の座へ出勤役くわん切に双紋水尾十郎右衛門、奴定助の首を打持参の處大出來 植木や杢右衛門 當顔見世北側芝居にて久々にて御上京双蝶々長吉一やく十次兵衛大出來切清玄に奴淀平春めざましい事頼升〳〵

同上々吉　坂東彦三郎去春より濱芝居の座頭春若太夫芝居にて双葉絵双紙横山太郎、漁し銀平、左京之介狐、杢作、三の替り信田妻に保名、牛頭兵衛、六孫王經基申分なし但し不入夫より泉州水間へ出勤菅原に菅丞相、松王丸、切極彩色手代清十郎夫より大坂へおかへり若太夫に八陣の看板出ましたれどどゆう譯か江戸表へお歸りは殘念〳〵

同上上吉　市川八百藏

天保六年未ノ正月十九日
關權院寶日相信士　俗名淺尾國五郎行年二十七才
中寺丁正法寺

同二月十五日
梅園院秀芳日艶信士　同中村松江二十二才
中寺丁實泉寺

中村歌右衛門悴玉之助近比梅花改又々去年松江と改櫻姫に槿楠はいる狂言なしりが前表といふべし

同六月二十三日
大鼓院自鳴日口信士　市川虎藏五十九才高
津中寺町角浄圓寺

同十一月四日
額妙院延若日壽信士　實川額十郎行年五十四才
江戸にて淺尾勇次郎

此人故人淺尾工左衞門門弟にて幼名淺尾八百蔵其後はへあつて中村八百藏と改又淺尾勇次郎と改名被致江戸表にて長らく御修行段々御出世にて大坂へ歸られ武道の親玉となられ又額十郎と改名せられ天保四巳年に苗字を實川と改とう〳〵座頭迄になられました

花江都歌舞妓年代記續編卷の十

●天保七丙申年

○正月五日より森田座「世界春再鏡」三浦義村、左官長藏、稻葉伊與之助、三桝源之助、岸田太郎、與女中まきの、友右衞門、義龍妻與須、みんし、三尾島大藏、仕出し貢八、與四郎、武田亡靈、片岡造酒之頭、九藏、一友、松か岡衣手尼　市川茂々代、山左衞門娘ひな衣、新造、浦里、玉三郎、ゑいさこ十、三浦あら太郎、四十郎、梅島お力、岩橋のおせん、濃田の前、半四郎、早枝又左衞門、けさ太郎、三津五郎、小田春若丸、勘彌○去顔見世狂言役わりにくわし立者ばかりを愛に記す餘は前書と同斷故略之當春狂言「稻原作景圖」關平尚任つたん第一ばん目大詰　奴蘭平、源之助、行平御臺みなせ御ぜん、みんし、奴春平、和十郎、同夏平、團四郎、同秋平、三木藏、冬平、助藏、伴の義澄、駒右衞門、らん平忰しけ藏、三すし、賤女おりく、玉三郎、百姓與茂作、九藏、在原行平卿、半四郎、第二番目大切所作事　振も未熟な喰分の大太鼓は改名の御禮「抽手際接穗鉢植」西王母、清朝唐人、いさみ、石橋捕

手、駒右衛門、善次、三九郎、三作淨瑠璃清元連中長唄連中相勤右者市川九藏御土産狂言何れも大出來大評判也○正月廿六日より中村座口上看板に御馴染松本幸四郎儀舊冬一世一代仕候處日數無之候に付年來之御禮も不申上依之當狂言第二番目伊達くらべの御殿場對決場二幕相勤させ御暇乞の口上申上幷親類の役者共一統罷出御禮奉申上候間何卒賑々敷御見物に御來駕之程偏に〳〵奉希上候以上「若市神曾我湊」曾我十郎祐成、日雇取新助實稻津新助、赤澤十内、小林朝比奈、箱根の閑坊、芝十郎、近江小藤太、梅澤の小五郎、大礒屋傳三、高麗藏、曾我蛇足、箱根畑右衛門、三津右衛門、團三女房十六夜、芝鶴、本田の次郎別當行實、當十郎、大藤内、勘左衛門、船大工小日那善吉、鶴十郎、伊豆の次郎、森五郎、結城七郎朝光、道具や手代金助下り市川荒五郎、半澤六郎、戸塚の飯もりおひやう、麗五郎、箱根同宿寒念、光之助、同觀念、友藏、馬士地獄清兵衛、千代飛助、百足屋手代銀助、重五郎、米や十兵衛、伊麗六、若屋こつ八、瀧藏、御所の黒彌吉、海野々小太郎、冠四郎、竹の下孫八左衛門、相藏、日雇取武助、大吉、禿おてう、若太夫、壽三郎、月小夜、工藤女中下り嵐璃光、禿千鳥、粂三郎、伊勢の三郎、とら藏、玉や下女お妻、富三郎、同おせき、菊壽、同おつた、友三郎、姒みさき、粂太郎、時姫、かしづき江島、みなと、玉屋娘おてう、團之助、北條息女時姫、德之助、京の小女郎、にしき、曾我の二の宮、けわゐ坂せふ〳〵二代目岩井松之助小紫改名とが團三郎、八はたの三郎、團三郎、豐嶋藏人妻呉竹、工藤奥女中久須美、滿江御ぜん、常世、股野々五郎、河津太郎助實は稻津刑部、冠十郎、工藤奥方梛の葉、曾我五郎時致、大礒の虎、紫若、鬼王新左衛門、淸水冠者義高、工藤左衛門祐經、團藏、源の頼家卿、傳藏、第二番目刀屋半七、彥三郎、千葉家中堤宅兵衛、芝十郎、千葉若殿常之丞、高麗藏、刀屋手代善七、三津右衛門、尾濱や娘分おきせ、芝鶴、如筆平、當十郎、三浦やの船頭槌松、甚吉、富か岡神子、たぬき勘左衛門、船頭上總屋の門吉、鶴十郎、座頭目出市、森五郎、むきみや三次下り市川荒五郎、鳶の者爲、染五郎、仲丁男げいしや助次、麗次郎、醫者中浦けんばん、市右衛門、千葉家中生實二平、光之助、内田の樽ひろい喜助、友藏、半六娘おはま、粂太郎、半七姉お勝下り璃光、げいしやひな次、みなと、鯛かき太郎兵衛、大吉、仲

げん件助、千代飛助、側の地廻り十重五郎、文道喜多七、伊賀六、なりなうり七介、七五三助、尾濱屋娘お瀧、團之助、同おてる、徳之助、げいしや浅吉、にしき、同小千代、松之助、下總曾我野々牛六、團三郎、尾濱屋娘分お岩、常世、刀屋有見、冠十郎、同娘お柳、左濱屋女郎お花、紫若、千葉家中石岡左膳、團藏、第壹番目四立目「色上戸虎の巻話」新蔵、彦三郎、朝日奈、芝十郎、せふ〳〵、松之助、傳三、ことゝ藏、とら御前、紫若、淨るり常磐津小文字太夫、小文太夫、松太夫弦三、岸澤式作、八五郎相勤　市川團藏出勤無之間坊法印、鬼王、工藤祐經、幸四郎相勤第弐番目「伊達競阿國戯場」細川勝元、彦三郎、大江鬼貫、榮御ぜん、芝十郎、荒獅子男之助、高麗藏、道哲妻小牧、三津右衛門、鹿之助妻松島、芝鶴、山中鹿之助、荒五郎、汐澤丹三郎、染五郎、鷲の嘉藤次、千代飛助、千松、粂三郎、鶴喜代丸、守之助、奥女中しのぶ、仙之助、同たかの、麗之助、松の尾富五郎、同萩むら、菊壽、同文字瀉、友三郎、同小嶋、粂太郎、同おたへ、みなと、同村瀬、團之助、同にしき、竹川松之助、渡邊民部、團三郎、同妻沖の井、常世、山名宗全、彈正妹八汐、冠十郎、御乳人政岡、紫若、仁木彈正、幸四郎〇二月十六日より市村座「闇輪來伊達大寄」曾我十郎祐なり、不破伴左衛門實大内之介、物草や太郎兵衛、名古屋山三、細川勝元、訥升、外記左衛門妹沖の井、宗數娘お才、けいせいかつらぎ、菊次郎、神並下部さゝら三八、後室お國御前、植木や紀の清十郎、大江鬼貫、修けん寂莫法印、熊十郎、世繼瀬平、播坊主祐光、高嶋徒家おかつ、甚六、神並丹左衛門、國十郎、村人太左衛門、奥女中小槙、曾呂平、黑澤官藏、非人の礫、梅五郎、光道理之介、五郎市、品川猿之助、國三郎、粂本娘分お玉、奥女中初音、橘之助、土手泥助、吉十郎、同門弟部八、三平船頭氷揖の竹、晋吉、代官關件次、こせ右衛門、穴堀小兵衛、扇藏、木下川與右衛門、角力富鶴之助、非つゝ女之助、三嶋源之助、佐野才藏、奴岡平、團三郎、政岡一子千松、三吉、丁稚與太郎、茂作、娘さはらび、扇之助、同梅か枝、紀久藏、堂守西念、奥女中白川杢藏、鷲嘉藤次、木下川ごろ付勘太、若五郎、名和無利之助、紀次、奥女中浮舟、增之助、同若菜、升之助、同象潟、福島屋下女お松、東藏、茨木門兵衛、人足金兵衛、福島屋番頭七郎介、菊四郎、鹿之介妹松嶋、大場の下女おみち、薄雲姉

おくま、伊三郎、鶴喜代丸、菊之助、けいせい薄雲、げいしやおきく、福嶋や娘おその、山三女房お久、紫三郎、あのと政岡、新造高尾後與右兵衛門女房かさね、同幽靈、梅幸。仕事師辰、山中鹿之助、曾我箱王丸、松助、工藤左衛門祐つね、嶋田重三郎、那迦遲那尊者實赤松滿祐靈、非人羽生小屋の助、仁木彈正直則、大工六三郎實松か枝園之助、菊五郎、足利頼兼、鹽澤丹三郎、朝比奈、渡邊民部逸友、羽左衛門何れも大出來大當り

發端義弘武者修行與右衛門三右衛門を打寶物を奪ひ取政岡と早替り羽生の助、丹三郎落合だんまり次なるさいな尊者滿祐の靈義弘へ術ゆづり非人助の首獄門之場與右衛門累殺し吉原之場足利表門より御殿場羽生村かさねと助の首の怪談大出來九幕目對面大切おその六三例之通大出來大當り○森田座□上看板前文略之當春狂言之義何がな珍らしき趣向をと存候へ共諺に種なき品玉とやら申候事も御座候得者御見物樣皆御ぞんしの菅原と忠臣藏を種として吉例曾我物語と取仕組則鬼王新左衛門工藤を以御ひゐき町ゑ莪梅のその欠付けの由良之助にはあらねども當狂言より出勤致追々彌生も引つゞき恩案の作者共と相談之上新狂言奉御覽候

森田かん彌

○三月七日より「菅原流四字曾我(すがはらりうかなかきそが)」菅原□忠臣藏□曾我是を趣向の役人替名くりから太郎な大星太三郎分身箱王丸時致小太郎に鬼王新左衛門是なよし松景清一子あさ丸、團十郎源藏是たゆらの助鬼王新左衛門松王丸是な本藏近江小藤太成家かくしゆおいし曾我の滿江御前下男三助同團の角兵衛船頭伊豆やの次郎實は久上のせんし坊判官代是な子堂秩父重忠天平山相丞同大わし文吾惡七兵衛景清相丞の木像同若徒之助成田不動の靈像、海老藏菅相丞是な判官高貞二の宮太郎頼忠菅丞親王同早の勘平赤澤十内梅王丸同矢間十太郎曾我十郎祐成、九藏土師の兵衛同與一兵衛大藤内成景三好清貫同大星力彌工藤犬坊丸祐友、友右衛門杉王是な彌五郎曾我團三郎、升五郎立田の前是な太田了竹工藤與方梛の葉、みんしまれよ同山名次郎左衛門仁田の四郎忠常、七五郎よたれくり同てつち伊吾箱根の閉坊、勘藏局みなせ同おかる母二の宮かしつき師、三之丞似迎ひ同伴内八幡の三郎行氏、一友梅王女房お春同一もんしやけはい坂の少將、茂々代公王女房千代同おその大磯のとら戸なみ同下女りん鬼王女房月小夜、玉三郎かけや腰同おかる重忠息女椎姫懷丸同定九郎曾我五郎時宗菅丞相同かほる御前三浦の片貝八重同となせ鬼王娘十六夜天らん敏同ゆなみ仲町上總や惡かま上總や惡七實入丸姫お七、半四郎時平是な高師直工藤左衛門祐經

白太夫同平右衛門百姓屋銀兵衛實は赤澤十内奴宅内同力弥同梅澤屋小五郎兵衛斎藤太郎同大川屋小林朝日奈左膳同九太夫和田左衛門義盛、三津五郎菅秀才同直義公満壽君、頼家公、勘彌役割番附より仲町喜久亭壽樂、七五郎、同名見崎峯次、千葉の助、かん藏、本田の次郎、仲町清元、金助、和十郎、隅はら平次、大坊家來與九郎、美右衛門、仲町の廻し喜助、米やひね右衛門、小三郎、梶原源太、大野や萬次、團四郎、馬士畑右衛門後に牛飼めつほう彌八、新貝荒次郎、銀兵衛、海野々太郎、吉原たいこ里八、鯉十郎、下部けち平、同宿百念、馬平、仲町の和十、海藏、同米太夫、鐵棒引彌藤次、駒右衛門、柾作平、仲丁の百助、善次、竹の下孫八左衛門、大次郎、吉原男げいしや三九郎、御所の徳竹、鑿助、げいしやおのへ、紋三郎、舞鶴姫、粂三郎、鬼王悴鬼市、新之助、小藤太ノ子小彌太、猿藏、里の子おやゑ、玉之助、油屋升六、神がしまの六兵衛、三木藏、舞鶴屋傳三、新や直助、たい助、仲丁尾花や娘分おいは、舞鶴や仲居おはる、駒次郎、同お大、仲丁山本の娘分おいく、升壽、奥女中郷、舞鶴や仲居お千代、しらべ、同おたつ、奥女中勝野、かてう、梶はら家來丹平、よたれくり、伊吾小はやし朝日奈、築地善好、奥女中さかき、舞鶴やおなみ、三之丞、仲丁の傳八、一友、鬼王女房、大磯の虎、月小夜、みんし、賤い女おかる、玉三郎、御所五郎丸、勘彌、右狂言作者寳田壽助、三升屋四郎、大出來大當り、

大名題稲妻に松の嵐花に梅ヶ枝の横「花御江戸根生兄弟」はてめづらしい「車引對面菅原流國守曾我」十一冊

第一　鶴岡誓應　是ハ勅使參向と見て楊柳御山に　大名の花號合

第二　諫言寐入　是ハ筆法二の字と見て二の宮の面に　主徒の勘當赦

第三　慈悲歌意趣　是ハ鷹鳥流しと見て鼓中の佳麗星に　掛帽の初元結

第四　來世忠義　是ハ代籠の薫香と見て千葉の屋形に　形見の小袖乞

第五　恩愛双玉　是ハ土俵の不覺と見て箱根の湖水に　正夢の弓鋒矢

第六　財布連判　是ハ吉田の美麗と見て御立の彩に　行列の草摺曳

第七　大盡錆刀　是ハ御愛樹の花見と見て向島な春色に　屋根樹逢馴染

第八　旗路嫁入　是ハ同胞の順番と見て大磯の揚屋に　[illegible]の虎玉章

第九　山科雪狩　是ハ賀の祝の茶签酒と見て曾我の在所に　譬喩の和田宴

第十　發足櫛笄　是ハ寺子屋の身替と見て例の世話場に　金力の歩行複

第十一　合印忍兒　是ハ天拜山の吉文と見て富士の裾野に　本望の十番切

初段より大切迄中分なき大出來中にも五幕目對面

之場五郎の衣裳に藤太上下熨斗目肌扳になると菅原の車引の兄弟の如く對の衣裳のように見得へし是等の事迄工風致されしはかんしん／＼次隅田川屋根船之場七段目仕組大出來七幕目鷄ながし八幕目大磯屋と九段目九まく〳〵の櫻丸腹切寺子やまで何れも大出來〇九藏所作事其まゝ殘す大出來なり

〇三月廿三日より「檀浦兜軍記」岩永左衛門、海老藏、あこや、九藏、半澤六郎、勘藏、ちゝぶ重忠、三津五郎大當り

〇二月十日より璃光御目見狂言として中村座「おさん茂兵衛大經師昔暦」二幕男達提婆の仁三、彥三郎、手代長八、芝十郎、大經師意春、高麗藏、はゝおふじ、芝鶴、かみゆひ太助、三津右衛門、荒井左源太、鬼一、げい者ひな次、かめ三、でつち金太、鶴十郎、げい子おしか、森五郎、手代勘九郎、染五郎、下女おかや、麗五郎、番僧傳入、市右衛門、八百や喜八、千代飛助、肝いり源六、大吉、下女おたみ、璃光、手代茂兵衛、源之助、垄頭持一寸八、虎藏、娘おへか、勘八、中居おろく、麗之助、同おふて、友三郎、同おてう、團之助、同おたに、にしき、きぬやおつち、常世、赤松梅藏、冠十郎、大經師おさん、紫若、香貴太郎兵衛、幸四郎〇三月四日より「花頭劇彌生」下部江戸平、彥三郎、牛島軍次兵衛、芝十郎、庵崎求女、高麗藏、奥女中あやせ、芝鶴、同みつゑ、三津右衛門、同さつき、當十郎、女小性わかな、壽三郎、瀧川左門、甚吉、奥女中草のか、勘左衛門、同のわけ、鶴十郎、同さつき、森五郎、國師天庵、染五郎、奥女中あさみ、麗五郎、同元芝、市右衛門、同みなせ、光之助、中間可內、友藏、飛脚早介、千代飛助、笹原甚平、荒五郎、橋場小十郎、鰭藏、奥女中たまき、勘八、仲間鄉十、大吉、同豆內、虎藏、中老尾上、璃光、同女中初音、にしき、同早枝、團之助、同くれは、みなと、同やよひ、粂太郎、同春風、友三郎、同七うら、菊壽、同浮はし、富五郎、紅梅、麗之助、けざしき久吾右衛門、粂三郎、奥女中せきや、松之助、多吉女房おつた、常世、望月勇太、冠十郎、大姫君、召仕おはつ、紫若、局岩ふじ、植木屋多吉、團藏、第二番目「義經千本櫻」二段目三段目いがみの權太、幸四郎、辨けい、梶原平三、芝十郎、相模五郎、高麗藏、入江の丹藏、權太母おたね、當十郎、龜井の六郎、甚吉、熊井太郎、鰭藏、わしの尾三郎、荒五郎、うしまど八郎、

市右衞門、するかの次郎、光之助、ともの六郎、友藏、六代御ぜん、壽三郎、權太一子善太、升之助、官女とめき、粂太郎、同かほる、團之助、權太女房小せん、みなと、若葉の內侍、かめ三、典侍の局、常世、すしや彌左衞門、冠十郎、同娘おさと、紫若、渡海や銀平實は知もり、團藏、大切所作事（五十四帖の源氏を其月雪花にまとめて）「席書扇繪合」石山に月の宿り木、三日月に藤の裏葉、足柄に雪の箒木、藪入に借の花宴、地主花に舞の胡蝶岩井紫若、岩井粂三郎、中村千代飛助淨るり常磐津小文字太夫、富本豐前太夫長唄囃子連中相勤

壹ばんめ尾上岩ふじ其中評千本何れも評よし所作事大出來大入大當り

○四月四日より市村座（伊丹屋藤助五十回忌に付）「今噂鯱菜櫻」伊津喜伯母おみね、源之助、孫太夫娘さかき、菊次郎、藤浪左膳、團三郎、德島大藏、熊十郎、あい玉や喜多六、鬼一、おしか、舎呂平、胴脉の金兵衞、あいや次郎介、海五郎、隈本角左衞門、國十郎、たいこ持市八、五郎市、桑原丈四郎、岩五郎、藤上主鈴、多賀十郎、巫女さよし、春五郎、入方佐介、植藏、大々講中嘉四郎、吉十郎、同作十、三平、油屋定八、又八、わかい者三次、臺五郎、同八助、千代飛助、講中太郎兵衞、紀次、お杉、友十、同お玉、音吉、比丘尼妙林、音右衞門、講頭甚之丞、こせ右衞門、小びくに妙ちん、相藏、同妙貞、三吉、同妙才、茂作、あぶらやおとす、大三郎、仲居せんの、扇之助、同よしの、增吉、百姓多作、直藏、下田萬次郎、橘之助、油屋おきし、東藏、猿田彥太夫、甚六、同正直正太夫、安達甚藏、仲居まんの、菊四郎、油屋女房おきさ、伊三郎、でつち與吉、菊之助、油やおこん、粂三郎、奴りん平、松助、福岡伊津木、菊五郎、料理人喜助、羽左衞門○四月十七日森田座「八犬傳評判樓閣」犬江親平仁、同宿白雲坊、團十郎、橫堀圖書在村實山下欄左衞門定包、赤岩一角實大鼠八郎、大法師、一角後妻松むし、墓六小者額藏後犬川莊助義任、同宿黑雲坊、壽美藏、馬加大記常武、犬塚の庄屋墓六、古那屋文吾兵衞、友右衞門、足利成氏、墓六女房龜さゝ、玉坂飛伴太、升五郎、白柏子玉梓、品川對牛樓のかゝへげいしやおゐつ、茂々代、犬坂兵部、富山妙眞、眼代鰐崎惡四郎實は那古の七郎、七五郎、蟇坂十郎照文、刀屋兵六、勘藏、品川宿老金助、犬塚村出來助、仁田山新吾、和十郎、幸川伊保八、おどり指南西川、桐嶋義右衞門、串崎

團吾、男伊達横藏、團四郎、百姓庄右衞門、志村亥之助、三木藏、軍木五倍次、下女おとら、品川對牛樓まかないおまき、銀兵衞、同ねつばん、喜助、大記下部八内、鯉十郎、八藤當馬、馬平、龜谷段子太、繪本問屋丁子や平兵衞、海藏、子守娘おちやほ、銀助、大野や娘おさん、媤卯の花、三すし、草刈鶴松實は前鬼童子、新之助、同龜松實は後鬼童子、猿藏、犬塚信次郎後信乃戌孝、浪人深見勝五郎實は犬村角太郎禮儀、網干左母次郎、非人土田の土太郎、鳴神上人、關取犬田川小文吾、犬山道節忠興、海老藏、里見公達勝見九、簑助、對牛樓かゝへおもん、紋三郎、同おしな、鯉吉、同おいく、媤さつき、濱之助、開帳世話人此五郎後伊丹傳宅、たい助、一角下部もつ平、駒右衞門、非人井太郎、畑上五郎、善次、小杉大八、見世物し出猫又藏、大次郎、疋田喜又、非加田郎三、九平、見世物師土地之介、番頭嶋藏、麗助、船頭しん太、大作、開帳立番黑助、秀三郎、角力ひよろか嶽、九二藏、九二平、奥女中更科、古那屋下女おはる、春次、江戸や下女おます、品川げいしやおやま、升壽、船頭吞四郎、法華正兵衞、畑上五郎次、善好、奥女中櫻木、江戸屋娘お梅、あまなは茶や娘おしま、駒次郎、濱路のうばおよし、富山の妙眞、對牛樓お花、三之丞、込山一當太、緣連軟上宮六、船頭梶五郎、一友、一角妾まと井、對牛樓女房おもと、みんし、墓六娘はま路、水茶やおひな實角太郎妻雛衣、房八女房おぬい、雲のたゑま實は里見伏姬の靈、菊次郎、犬飼現八、山林房八、百姓ぬか助、同宿白雲坊、堀内藏人貞行、對牛樓かゝへかたね實は犬坂毛野、九藏、里見乙若梅千代、条三郎、里見冠者義實、東山義政公、二津五郎、第一番目五立目（歌舞妓十八番の内な新狂言に取結て）「夢艶色鳴神」（ゆめみくさいろになるかみ）赤雲坊、團十郎、黑雲坊、壽美藏、雲の絶間、菊次郎、白雲坊、九藏、鳴神上人、海老藏、淨瑠理清元延壽太夫、志喜太夫、喜美太夫、三弦 清元磯八、同榮次郎 連中相勤

繪入讀本里見八犬傳の狂言に仕組大々當り江戸にて初興行也第一番目朝比奈切どふしの場、雪の下江戸屋の場、圓覺寺方丈の場（しのた佐助 木屋半七）三建目引かへし鎌倉篠目か谷の場（三升や四郎）四四立目鳴神淨るりの場夢の所、富山に伏姬靈道節に靈玉と名劍を授る所大出來、同四立目庚申山開扉の場同牡丹畠の場實田壽助、同五建目瀧の川の場金井由輔、同墓六

内の場同圓塚山の場（寶田三升屋）第一番目大詰古我芳流閣の場、城下升屋の場、坂東川船の場三升屋四郎、第二ばん目序幕祭禮角力の場、本屋牛七右正本の内芳流閣の場省略してこゝに記す

（前文略す）九藏（貞行）「扨は在村切腹と見せたるは謀事であつたよなあ　壽美藏（ありむら）「云ふにや及ぶ當家へ入込初より成氏に乞諂ひ執權の職にへ上り老臣犬坂兵部も我計略をもつて自滅させしに跡役として堀内貞行汝が面體一應にては得心すまじと彌忠義と心をゆるさせ最前汝が討取たる玉梓といふも我妹成氏が心亂さんと安西が娘と僞り成氏に近よらせ淫酒を進める手だての一つ然るに我詞を用ひず成氏に肌をふれざる不孝の妹迚も手延に成り難くと腹心の者に言付毒酒をもつて計りしにおつくたばつたる上からは冥途の供の堀内貞行われは京都へ三鳥の卷を献上し武總兩國申給はり大望成就の有さまを草葉の影より見物いたせ　九藏（口惜思入にて）「ちゑゝ口惜いかゝる汝が工みとしらずうか／＼切腹なしたるか譬へ武將に願ふ共紛失なしたる三鳥の卷手に入ん事思ひもよらず、壽「馬加大記は我腹心三鳥の卷をもつて姿を隱せは密使を以て招きなば時日をうつさず取得る實、九「左程根深く工みし謀反切腹なせし其上に實名なくて叶ふまひ、壽「危所をよけて突込乃先元より包む我本名安房の國主神余の舊臣山下柵左衛門定包變名なして入込共今迄しらぬ犬たはけ、九「扨こそ横堀在村は實名山下定包にて神余の余類であつたよなあ、壽「兼てかたろふ者共參れと（奥にて）鯉、海、犬「はあゝと（鯉十郎、海藏、大作箭の形り股立にて、出て來る）鯉「成氏貞行くたばる上は大望成就の定包公、九「扨は汝らも在村が一味徒黨であつたよなあ、壽「もう此上は藏人觀念と（壽美藏九藏へ切てかゝる一寸立廻つてきつとなる）、九「横堀村在が謀反の樣子我君いち／＼御聞あられ升たかと（此時奥にて升五郎）「委細の樣子は聞屆た山下定包そこうごくなと（つゝかけとんちやんに成升五郎先に義右衛門駒次郎、升壽のみな／＼長刀を持出來り）春次「反謀人山下定包、四人「うごかしやんすなと（急度いふ壽[illegible]右々、を見ておどろき）壽「やゝゝゝあ毒氣に當つてくたばつたる成氏が此體は、升「愚かや定包汝在村と變名して我に仕ゆる始より一と曲ありと思ひし故いつてつ短慮の體に見せ態々汝を取上て傍に近付伺ふ所玉梓なりと僞

りて汝が妹を入込せ我に心を赦させせんと計るといへ共、九「兄定包と事替り道を守つて最期の玉梓まつた上使といつはつて最前來りし犬江親平皆里見どのと云合、義右衛門「味方と見せて毒薬を君に用ゆるていに見せ、春次「長柄くはへを入替置毒酒をもりしは一味の者共と鯉十郎海藏大、作、是を聞て三人「よう／＼／＼扨は我／＼が呑だのが毒であつたかいよ／＼と三人苦しみたふれる壽美藏見て壽「はかる／＼と思ひの外藏人がゐせ智惠にて切腹せしも僞りにて一味の者共落命せしかや、、、九「國家の大事に替たる一命鷄の血汐を以て汝をはかりし故にこそ心ゆるして寶の行衛本名あかせし山下定包最早叶はぬ尋常に覺悟いたせと懐より鷄の血しきつと見へ此時りゝ敷捕手一人駈來り、捕手「申上升る犬塚信乃手ひどく働き七手の力者の手に余りて見へ升る、九「善悪知れざるおこの曲もの坂東一と聞へたる犬飼現八兼て御不興蒙れ共信乃を召捕差上なば夫をば功に閉門御免妹更科は頭の願ひかれに傳へて片時もはやく、春「忍ゝ有難ひ是より直にそうじやと春次思入有てやはりとん／＼にて向ふへはいる九「犬飼現八向ふ迄は七手の者共取逃さぬやうに心いつちに取囲めい、捕手「かしこまつてムり升ると引かへし向ふへはいる九「一味の者共落命なせば一本たちの山下定包九「運のきうたつ斯なる上は先非をくひて降參するかさあ／＼返答は、皆々「何んと／＼と壽美藏無念の思入壽「ちゑゝ仕込に仕込し我大望中途に露顯なしたるか何今更に降參せんや一旦此場を切抜んうぬらよつたら死人の山だぞ、九「轡頭刎が勇ありとも最早籠中の鳥同前、壽「何をこしやくなと壽美藏は眞ん中升五郎、九藏上と下にて壽美藏をかこふこゝろ

義右衛門、駒次郎、升壽長刀にて是も壽美藏をかこふ心双方ひつぱり見へかけりにどんちやんをかぶせいさましくよろしく幕

と引付るととん／＼にてむかより九二平、門平、秀三郎、松藏みな／＼りゝ敷捕手の形りにて幕外へ出て來り、門平「いづれも犬塚信乃の若年者と思ひの外しげきはたらき、九二平「是迄七手の者共おくれを取し義はムらぬ、門平「此上は心いつちにからめとらんあれ／＼芳流閣の重疊へ馳登つたと相見へまする、秀次郎「此上は常の御殿のひさしより

はこばしごをもつてかけ登らん、松藏「やいんなが
らも月かげに在所を尋ねん何れも參れ、皆々「合
點だとやはりとん／＼にて皆／＼幕の引付へはいる本舞臺三間の間一面の筋
塀の道具まく尤此道具幕跡へよせて釣る事照葉櫻
に花の変りし釣枝とん／＼にて幕明くとすぐに大
薩摩になる「それもふこ竹林にいつてうそむく時
はよふせんとして風を起す英雄ばんそつにおもて
する時は威風あたりをはらふとかや犬飼現八信通
が忠臣ふんどの其有樣めざましくも叉いさましゝ
大だいこ入諆への鳴物になり九藏りゝ敷捕者の形
り樓上を見あげし心是を善次、三九平、大次郎、ら
い助捕者の形りつぎはしごをもつて支へいる此見
得にてせり出す能時分鳴物打上九藏きつと見得一
寸立廻つて左右へわかれ、三九平「上意を蒙る七手
の力士ろうぜき者を組留るを、善次「犬飼現八只壹
人加勢抔とはいらざる差出、大次郎「邪魔致せば昧
方迚用捨はせぬ、らい助「われ／＼はぶんどり高名
をそれにちつして、四人「見物おしやれ、九藏「東八
ヶ國にならびなき柔術覺への犬飼現八閉門御免の
忠義の手始め妨致す七手の者共拐は横堀在村にか
たんなせしに相違あるまひ目差敵は惡事の同類う
ぬらいち／＼覺悟なせ、四人「何をこしやくなと是
より諆への鳴物になり九藏皆／＼を相手に立廻り
ありて皆／＼を上へ追込能時分しらせに付道具
幕切て落す本舞臺三間下の方少明て上の方はいつ
はいに芳流閣の重疊の家根此家根の左右の端に莫
大成金の鯱付あり尤立廻りのかせに遣ふ丈夫に拵
へる事後ろはやはり霞の幕をいつはいにおろ
す日覆ひより諆への月出る此家根の上に海老藏
大はらはあれの形り是を三階の捕手大勢組付い
る此見得三味線入諆への鳴ものにて道具納ると
直に海老藏皆／＼な相手に面白き立廻りありてとゞ皆／＼な下へ切て落す見得此時九藏下の方より櫻の實木を傳ひ上りし心に
て家根へ上る海老藏と一寸立廻りきつと見へ、九藏「命しらずの浮浪人上意に
依て坂東に去るものありと呼れたる犬飼現八が只
今召捕かくごいたせ、海老藏「何を小しやくな其廣
言非道の縄目にかゝらんやならば手柄にからめて
見よ、九「何をこしやくなと兩人見へ鳴物替り兩
人はいろ／＼面白き立廻り始終しやちほこをかせ
にする事抔あり此立廻りの内にころび落んとする
こと度／＼あつてとゞ刄物をすてやはらの取もの

たてになり兩人組合ながら此家根より後へ落る直に前側の霞をたん／＼引上る霞のはり物の下に同幕をつけある事能時分鳴物打上げ浪の音はでなる唄になりしらせに付霞まく切ておとす

本舞臺三間の間一面の浪手摺うしろまく此前上の方に笘を懸し漁船に四つ手をおろしある下の方に誂への家根船此家根船の上に信乃の吹替氣絶している都て坂東川の體爰に上の漁船に二役房八の九藏はでなる廣袖衣裝物音に目の覺たる體浪の音田舍うたにて道具留る、九藏「合點の行ねへ今の物音船泥坊かと目が覺たら簾はきへるし眞つくらで何んだかさつはりしれないとりすり火打とりだし火を打て簾をづける此內海老藏二役角力取の拵へにて家根船の中より出てのびをする九「何んだかどんぶりいつたやうだか土左衛門じやあねへか知らぬ、海老「太そなふ音がしたがとなりの船に懸つているは市川の兄いじやあねへか、九「そういふ聲は行德の關取か、海老「アイけふは庄やの小旦那の思ひ付て此江戶船でれいの太酒いつもの通りよはされて一人船へ取殘されたがおめへとんだ所迄夜網をおろしなすつたの、九「そふさ常からすきな砂どりに魚の懸るを待間ついとろ／＼とやらかしたが寢耳へどつさり水煙り三年物がはねたのかと川の中を見る此時簾のあかりにて海老藏も家根船の上の信乃の吹替を見付、海「をや誰だか爰にとてすかし見て髮はざんばら上下と思入此時九藏四つ手を引上げ此網に現八の吹替懸り居て小へりへ手をかける九藏すかし見て九「やあ五月人形見るやうに形りも小具足武者ぶりの、海老「そんなら今の物音は、九「ゑ丶と思入此時烏の聲九藏笘を見てあ丶時鳥か、海老「そふよ、曉のへどはとなりの時鳥、九「どふやう人かげと家根船の上をすかし見よふとする「たしか網にもと海老藏も見よふとする、九「いやすてきな鯉よと此時現八の吹かへた船へ引上、海老「いや家根に寢たのは、九「ゑ丶と信乃の吹替むゝと等す心付九藏思入と思入海老藏有合笘を取て吹替へかける木の頭是にて日覆へ月出る是と共にうしろの黒まく落す遠見になる

海老「こいつは生醉だそふだと兩人思入浪の音下田の唄にてよろしくひやうし幕

○曲亭馬琴先生著述里見八犬傳發市せしは文化十一甲戌年より正月賣出し天保十三壬寅年にいたり廿九ヶ年にして全尾せり卷百○六冊其餘數多出板あれ共此書にて其名大に當れり浪花戲場にて一兩年

以前に此仕組あり又淨るり九本上下四冊あり八犬傳苔八つ總と云外題にて有し此編の行はるゝ事古今ならぶ物あるべからず今古繪師も是を畫すかゝる根無事も流行するに順ひかゝる族の腹をも膨す事信天翁の筆力廣大の功なるべしこたび狂言の仕組長談を失是と書綴り鳴啼を夢にせしはたらき又戲作者の及ざる處といふべし何れ其趣にあらざれば觀聽なるべし

○五月九日より中村座「大塔宮曦乃鎧」長井右馬之頭、訥升、村上彥四郎、芝十郎、赤松次郎、高麗藏、賴員女房早咲、芝鶴、ときは、駿河守、高橋九郎、三津右衛門、中納言藤房卿、常十郎、大塔の宮、菊吉、右少辨としもと、勘左衛門、日野相資卿、菊五郎、右大辨師賢卿、玄惠法印、粂五郎、ごせおいろ、市右衛門、あしす二郎、光之助、多次美次郎四郎、友藏、黑部の別當、千代飛助、おどり子かな松、市八、同駒松、成右衛門、同澤松、八歲の宮、守之助、踊子關松、三次、同芝松、三十藏、同蔦松、七之助、賴員一子力若、升之助、右馬之頭一子鶴千代、壽三郎、踊子若まつ、粂三郎、笠森新吾、紀次、姬衣笠、菊壽、三位の局、德之助、土岐右近、藏人賴員、團三郎、右馬頭女房花園、常世、勾當の內侍、紫若、齋藤太郎左衛門、團藏、第貳番目「富岡戀山開」玉屋新兵衛、訥升、鵜飼九十郎、芝十郎、うぶけ金太郎、高麗藏、松本女房おきく、芝鶴、玉や手代、三四郎、三津右衛門、紅葉やおしか、勘左衛門、八百や伊三郎、荒五郎、見せ物し松右衛門、市右衛門、船頭三ふ、千代飛助、同喜太郎、十五郎、丁稚長太、七五三藏、ゑさほり同久七、冠四郎、地廻りたゝ六、森五郎、同嘉助、相藏、同竹、紀次、いばらの藤兵衛、幸四郎、地廻り鐵、李藏、同鎌、勘八、三國や才兵衛、大策、松本娘分おさと、紀久藏、同おつま、麗之助、同おかよ、富五郎、玉や下女おふで、友三郎、梅本娘分おきた、みなと、同おやへ、團之助、げいしや仲吉、粂三郎、水茶や娘お梅、にしき、玉や娘おゑん、松之助、氏原勇藏、團三郎、梅本女房おみね、常世、げいしや小女郎、紫若、出村新兵衛、團藏、何れも評よし○七月五日より市村座「世善知鳥相馬舊殿」善知鳥安方、尼如月尼實は將門娘瀧夜刄、伊豫椽純友、藤浪勾當、純友一子十太丸、九藏、奴烏羽平實荒猪丸、外か濱の醫者老熊、友右衛門、三田の庄司、甚六、御厨三郎景連、當十郎、芦原七郎、國十郎、代官浪

崎軍平、矢上藤內、三平、近藤四郎、又八、小濱六郎、臺三郎、漁師勘太郎、千代飛助、雁かゝあおちやほ、友十郎、筑波山の宮やつこ杉又音七、同松又、紀藏、所化雲念、松八、惠日寺住僧西與上人、杣十郎、筑波山賊金剛十郎、橘十郎、十太九娘籾風、大三郎、里の子岸松、相藏、同市松、つな次郎、田舍娘おもさ、茂作、うとふ一子千代童、紫子松、姥野はぎ、三花、同ふよふ、好之助、同尾花、扇之助、同千草、增之助、女順禮おつゆ、みなと、笠間兵內、平の惟時、熊十郎、瀧夜叉うば伏屋、加藤太夫妻綱手、伊三郎、賤女小蝶實かつらき、山土蜘の精、善知妻錦木、玉三郎、鷲沼六郎、藤六、左近補相、團三郎、大宅太郎、光國、瀧夜叉弟平太郎實は將軍太郎良門、源の賴信、羽左衛門、第貳ばん目「木朝丸彩繪組上」花咲九郎兵衛實は半時九郎兵衛、栗島權兵衛、九藏、糸や手代佐七、友右衛門、桐生の糸問屋次左衛門、甚六、手代平六、國十郎、鳴見作藏、三平、籠廻し喜七、臺五郎、同茂助、千代藏、たいこ持千八、音七、糸屋下女はつ、又八、船頭猪之介、橋十郎、げいしやおくめ、扇之助、同おたま、增之助、同おもへ、みなと、山住五平太、熊十郎、けいしやおふさ、糸や娘小いと、玉三郎、神原の佐五郎、團三郎、綱五郎、羽左衛門、當狂言十日より引下げ

何れも大出來大評ばん、是山東京傳著述のうとふ忠義傳を仕組し也上方にては度々興行せり東都には此度を初めとす「狂言作者」西澤一鳳隨筆に云

前文略之小說稗史の戯場にかけては昔と今をいはず京傳を通とし次に曲亭なり京傳が作には西鶴立圃か口調に讓りて新に案しを出さず馬琴は轉載なれ其文中に癖あり僞作類板を嫌て近來出板の小說にも名を賣らるゝ事を歎く斷りまゝ見及べり尤京傳は文化に歿し曲亭は今に存命たれば年々に書を閲月々に發明すべし中略變名なり其我句を入しは此なり曲亭の稗史にも玄同蓑笠抔とて詩歌連俳を書入しは拙なし名を賣るゝをいとはゞ魚魯のあやまりよりは先に是をつゝしむべし醒々齋には絕て此事なし天保の今に存命せば此誤りあるかしらねど著作堂よりは一段勝れし所ありと予は思へりと云々

此一條は芝居にはかゝわらねど八犬傳うとふの狂言なり殊に浪華の狂言作者西澤一鳳大介筆意面白

ゝく予が方吊ひの面會之節談話にも聞しまゝ因に爰に記せり

○八月十七日より「盟約廓影物（にせかけてさとのほりもの）」細工人左利甚五郎、九藏、馬士方次郎藏、友右衛門、待宵姫つけ人淺田右門、當十郎、山名郎等軍藤次、三平、同軍藤太、又八、下職彌太郎、千代藏、門田門兵衛、米藏、所化狂念、甚五郎作唐獅子の精、御藏、千歳や水もの喜助、友十、大のや爲六、こせ右衛門、山名郎等兵藤次、橋十郎、政元息女待宵姫、橘之助、山名家來熊田關太夫、甚六、甚五郎、女房おさち、玉三郎、斯波之助、團三郎、甚五郎作おやま人形の精、家橘、細川政元、羽左衛門何れも、大出來大當り○七月十五日より森田座「本朝廿四孝（ほんちやうにじふしかう）」庭作りみの作實武田勝頼、菊五郎、長尾三郎景勝、松助、姫ぬれ衣、菊次郎、越名妻入江、みんし、原小文次、多賀十郎、白須賀十郎、小三郎、更科六郎、鯉十郎、奴首平、大作、同興平、九二平、同盆助、秀三郎、同角內、木藏、同兵六、かま平、鬼子島彌太郎、猿藏、高坂彈正、長尾謙信、三津五郎、足利義若丸、粂三郎、娘はつ音、春次、同常夏、菊壽、同夕顏、妻次郎、同かほる、三すし同關や、升壽、同八つ橋、もゝ代、慈悲藏、妹おたね、三之丞、武田信玄、幸四郎、高坂妻唐をり、八重垣姫、紫若、越名彈正、花の關兵衛實齋藤道三、海老藏、足利義晴公、勘彌、第二ばん目「東海道四谷怪談（とうかいどうよつやかいだん）」小間物や與七實は佐藤與茂七、伊右衛門女房おいは、同死靈小佛小兵衛、大星ゆらの助、菊五郎、赤垣傳藏、松助、小平女房おはな、菊次郎、大ほし大三郎、鎌助、伊東喜兵衛、七五郎、奥田庄三郎、勘藏、額堂のおまさ、飛山森平、梅五郎、米屋ひね右衛門、義右衛門、利倉屋茂助、團四郎、醫者玄伯、銀兵衛、中げん伴助、岩五郎、小はやし平內、多賀十郎、肴賣の勝、鯉十郎、藥屋〆元忠八、馬平、堂守西念植藏、灸點や女房おすへ、春五郎、古着や嘉七、駒右衛門、地廻り權善次、矢間重太郎、升五郎、足利直義公、新之助、小汐田又之丞、三津五郎、しゞみ賣次郎太、菊之助、關口官藏、一友、秋山長兵衛、善好念佛孫兵衛、たい助、四つ谷左門、三木藏、伊右衛門母おくま、曾呂平、水茶やおもん、紋三郎、うばおまき、駒次郎、後家おゆみ、三之丞、あんま宅悅、近藤源四郎、菊四郎、喜兵衛娘お梅、松之助、與茂七女房おそで、半四郎、藥賣權兵衛、幸四郎、大館左馬之助、團十郎、與女中か古川紫若、權兵衛悴直助、民谷

伊右衞門、海老藏、此度までおいは四度興行何もなから大出來大當り○九月十五日より市村座［金鎚對緒環」義經腰越狀序三の口切五斗兵衞、三十郎、同女房せき女、龜井六郎、九藏、泉三郎女房高の屋、玉三郎、五斗娘とく女、大三郎、權之守兼房、甚六、駿河の次郎、歌助、元よし四郎、橘十郎、權之守娘小ゆき、橘之助、本田の次郎、錦戶太郎、熊十郎、伊達の次郎、一友、泉の三郎妹松しま、みんし、泉の三郎忠衡、三津五郎、源の義經、羽左衞門［妹背山婦女庭訓」四の口切りやしふか七、三十郎、入鹿大臣、でつち寐太郎、おはしたおむら、九藏、橘姬、玉三郎、酒屋後家おなる、梅の局、歌助、あら卷彌藤次、家主善兵衞、義右衞門、宮越玄蕃、桜の局、十藏、仕丁山又、はり助、同黑又、秀助、同岩又、友十郎、酒屋娘おみわ下り杜若、官女みよしの、春次、同櫻木、辰之助、合長家主左衞門、一友、采女前童花野、粂三郎、玄上小太郎、みの助、采女御せん、紫若、ゑほし折求馬、羽左衞門、第貳ばん目［露時雨曾根崎心中」淺田宗次、三十郎、蜴の長藏、平野や娘おきた、玉三郎、道具や彌介、熊十郎、醫師珍藏、十藏、仲居お梅、辰之助、同おはる、春次、てんまや幸助、三平、櫻川三孝、米藏、在所娘おせん、杜若、若い者利八、臺五郎、平野や手代源七、粂三郎、道具や藤助、直藏、油屋九平次、一友、宗次女房おらく、みんし、天滿屋おはつ、紫若、佃屋三右衞門、三津五郎、平のや德兵衞、羽左衞門、大切［法恩日蓮記」身延山の段日蓮上人、九藏、神田講中六兵衞、甚六、三條右衞門、講中八兵衞、こせ右衞門、同源助、熊八、同勘六、りう藏、妙片こと、友十、所化日朗、粂三郎、こし元みのり、扇之助、同ゑにし、辰之助、同うてな、春次、七里姬かしつきはす葉、橘之助、正司與方岬、珉子、波木井息女七里姬、紫若、波木井庄司、三津五郎、四條金吾、羽左衞門、第貳ばん目大きり時も幸ひ四つ紅葉の追善を紫の人の進めにまかせて［狂華法手向」岩井紫若、常磐津小文字太夫、同小文太夫、組太夫、三弦岸澤式作、同三藏何も大當り○口上に

市川門之助十三回忌追善として淨るり相勤とあり

小文字太夫兄故如斯殊に菩提所は幸龍寺日蓮宗故身延山を興行せしなるべし

○九月十八日より森田座［名護屋帶雲稻妻」名古屋山三、菊五郎、同下部鹿藏、松助、同下女おくに、菊次郎、長兵衞孫長松、新之助、佐渡嶋又平、犬上段八、菊四

郎、初瀬寺同宿九鐵、上林やりておつめ、曾呂平、湯屋番頭吾助、團四郎、家主杢郎兵衞、銀兵衞、笹野才藏、鯉十郎、上はやし若者忠七、馬平、たいこ持五丁、植藏、初瀬住僧轟坊、小間物や久七、春五郎、森山大藏、駒右衞門、塚田要助、大次郎、泥田丈六、奴文平、らい助、地廻り辰、秀之助、同又、木藏、箱廻し喜助、大作、文遣ひ與七、吾吉、山上軍八、扇藏、葛城禿たより、三すし、同よすが、大和助、中間さゝら三八。たい助、佐々木額五郎、梅五郎、嬬かいて、升壽、同ぬるて、妻次郎、上林けいしやお花、しらへ、せげん源六、善好、婉てり葉、駒次郎、奥女中しがらみ、三之丞、さゝ木志賀之介、勘藏、六角左京之助、七五郎、佐々木花若、菊之助、けいせいかつらぎ、紫三郎、幡隨長兵衞、幸四郎、茶屋廻り千太郎、團十郎、けいせいゆふこん、梅幸、佐々木桂之助、不破伴左衞門、海老藏、第二ばんめ大切淨るりいにしへなおもこいつもの一と節に「其傷淺間嶽」奥州幽魂、梅幸、桂之助、海老藏、富本豊前太夫、大和太夫、志賀太夫、三弦名見崎連中相勤第一番目二ばんめの間へ「妹背山吉野櫻咲」口明第三の後室定香、梅幸、事ふれ出來作、松助、ひな鳥、菊次郎、荒卷彌藤次、岩五郎、

宮越玄蕃、多賀十郎、娘さゝやう、駒次郎、同小きく、東藏、同小はき、三之丞、久我之助、紫三郎、入鹿大臣、幸四郎、大判司、海老藏、何れも大出來、第一番目不破名古屋四度目なり○九月十八日より中村座、大和軍配小田原「織合襤褸錦」加村宇田右衞門、冠十郎、彦坂甚六、芝十郎、奴佐平、弟新七、高麗藏、須藤六郎右衞門、三津右衞門、瀬左衞門、勘左衞門、十兵衞、相の山お杉、相藏、同お玉、七五三藏、おしげ、みなと、おゆり、友三郎、おそよ、團之助、傳藏、今六、德三郎、光之助、助太夫、市右衞門、おろく、松之助、中間伊兵衞、團三郎、次郎左衞門妻おはる、常世、春藤次郎左衞門、團藏○馬士切役はり三輪五郎左衞門、阿波座の田五助、冠十郎、河田かち右衞門、入方與惣太夫、芝十郎、瀬川要八、大工文三郎、高麗藏、玄蕃妹はつ汐、芝鶴、宅間玄蕃信盛、らかんの鐵八、三津右衞門、高川曾平、富十郎、小田之助春雄、甚吉、不く井順慶、勘左衞門　瀧川與方なきさ、廣五郎、馬士たら六、千代飛助、同きし八、伊覧六、大工喜三八、哥十、同新八、勘藏、犬山喜藤太、冠藏、宅間小平太、勘八、そりはし阿武内、大吉、けいせい菊のか、菊壽、同道芝、富五郎、

同秋しの、麗之助、白拍子はま荻、粂太郎、傾せい遠里、みなと、奥女中うら葉、團之助、春永息女千本姫、德之助、小田公達三法師丸、壽三郎、藤右衛門娘おその、松之助、眞柴久次、奴峰平、團三郎、小早川帶刀、渡部藤右衛門、壽美藏、勝重の妾お谷、呂撰久吉の息女ひさこの前、九條傾城園菊、紫若、小田三七郎春孝、嶋田修理之介勝重、眞柴久吉、團藏大切「姬小松子日の松」龜王女房おやす、杜若、有王丸、冠十郎、次郎九郎、芝十郎、所化雲けつ、三津右衛門、深山の喜藏、當十郎、なめらの言、勘左衛門、たきれの溝六、廣五郎、がけの藤六、勘八、講頭おたき、ばゞあ大吉、俊寛一子德壽、粂三郎、龜王丸、壽美藏、俊寬僧都、團藏、何れも市紅もちまへの狂言ゆへ大出來別して馬士切大出來大當り○當年米穀高直に付世上至つて騷が敷御救小屋所々へ建候程にて三芝居共茶屋〳〵飾り物積物一切なし入替り番附出す櫓下と役はり計り出す

○十一月十九日より中村座「新洞左衛門筑紫組帶」菊地又太郎武光、桑原女之助、漁師友市、高麗藏、加藤左衛門繁氏、監物太郎、漁師作六、團三郎、黑塚鬼藏、入尾賀瀨太郎、三津右衛門、穗波小文吾、藏人、當十郎、黑塚郡領、勘左衛門、韋駄天早助、森五郎、大江刑部、染五郎、坂戶八郎、廣五郎、とら鰒入道、和尙市右衛門、大內之助、奥方櫻木、みなと、奥女中政なき、團之助、繁氏奥方牧の方、德之助、同一子石動丸、壽三郎、監物妻橋立、同妹吳竹、芝鶴、新洞左衛門娘夕しで、黑塚郡領娘千鳥、常陸之助息女みなせ姬、玉三郎、大內之助義弘、芝十郎、多々羅新羽左衛門、大友常陸之助、團藏、遠賀多門之助、傳藏、第二ばんめ「桂川戀の柵」若徒段助、こかね餅うり伊吾、高麗藏、同輿次郎、錠まへ直し五六、團三郎、しなのやでつち長吉、三津右衛門、長右衛門弟義兵衛、當十郎、石部のおしやれおかん、勘右衛門、けんとくうり三五七、森五郎、繁齋女房おたく、染五郎、信濃や下女おりん、廣五郎、宿引治多六、市右衛門、守山隼人、勘藏、佛檀屋才次郎、友藏、けい子雪野、三五郎、同おてう、團之助、同おのへ、德之助、奥女中竹川、芝鶴、しなのやおはん、長右衛門女房おきぬ、玉三郎、片岡幸左衛門、帶屋繁齋、芝十郎、帶屋長右衛門、夜そば賣仁六、團藏、仕事師舞つるの紋吉、傳藏、大切上るり（おはん右衛門）「帶文桂川水」餅うり（こま藏團三郎）お半、玉三郎、繁齋、芝十郎、長右

衛門、岡藏、常磐津小文字太夫、若太夫、伊勢太夫、岸澤式佐、同文左衛門連中相勤大田來也切狂言「嫗山姥」たばこや源七、高麗藏、こし元小さゝ、三津右衛門、太田十郎、森五郎、女小性もみぢ、守之助、同千代の、升之助、同よしを、麗八、同まさな、樂之助、妼かほる、玉江、同みさほ、富五郎、同七瀨、麗之助、澤瀉ひめ、粂三郎、妼しらきく、みなと、同はつへ、團之助、同八千代、德之助、荻のや八重きり、岡藏、狂言作者櫻田治助、純通與三兵衛、松島半二、中村卜一、松島霞郷、福森吉助、松島てうふ○十一月十二日より市村座「清和二代槻猛者」大江左衛門匡衛實は袴垂保輔、北面の侍橘立五郎友久、加茂川新地丹波やかゝへ女郎百足のお百實七岡や娘、ころ付三星の市五郎實は渡邊綱、九藏、保昌娘小式部、大三郎、匡衛下部菊平實加藤七郎、丹波や若い者泥助實茨木鬼秀、丹波太郎手下鬼夜叉、菊四郎、左中辨正冬卿、石部金太、三田の太夫禰頼、甚六、新作けいしやおやま、頼光妹美女御前、橘之助、野瀨八郎、仁和寺の住僧鼎國、小三郎、伊與七郎、常陸太郎國平、國十郎、加茂神職采女、直藏、丹波手下坂東太郎鬼風、橘十郎、柏屋船猪之介、臺五郎、丹波やかゝへ女郎おいち、千代藏、同おたの、こせ右衛門、時盛下部山坂丹下、三平、丹波や小ちよく、おかめ、坂東目勝、仁和寺兒雪若、茂作、同花若、相藏、小舍人廣澤月丸、照世、市原野草刈童龜松、龜助、同鶴松、玉市、同竹松、辰之助、同千代松、勝之助、丹波やかゝへ女郎おこう、扇之助、同おたま、美女御前かしつき小雪、増之助、笘やの次郎、樽ひろひ勘太、植藏、新地ぜげん鯰の髭六、岩五郎、仲光妹てり葉、たんばや女房おくり、東藏、三田の小文吾光友、仲光下部宅平、淺尾工匠、町飛脚又藏、坂戸九郎平、平の惟政、熊十郎、平の左衛門時盛、巫女、げいしやおすゝ、丹波手下鬼藤太、一友、鬼同丸妹かつらき實午若の怪、小原女お花、泉式部、白拍子幸壽前實光友妹椎、粂三郎、市原鬼同丸實大江山賊主丹波太郎鬼門、平井保昌、幸四郎、藤原仲光、北面侍幾野の太郎、碓井の貞光、絹商人あせ六、源の頼光、羽左衛門○此間年數二十ヶ年相立狂言坂田の公時、諸藝指南眞柴實は公時妻柵、卜部季武、九藏、けいこ姫お梅、大三郎、同おうた、菊四郎、たばこうり源六、甚六、頼よし御臺司の君、橘之助、雷寒郎等栗平、又八、

同丹平、臺五郎、同角平、千代藏、山かつ斧藏、三平、多田源太丸、けいこ娘枝折、増之助、同おさは、東藏、大田の十郎、工匠、猪熊入道雷雲、熊十郎、物部平太、一友、賤女おきせ、公平云號白きく、榮三郎、右大辨師秋卿、幸四郎、坂田の公平、江口里文書、源五郎、源の賴よし、羽左衛門、第一番目三立目、所作事千歲、九藏、翁、榮三郎、三番叟、羽左衛門、引抜唐女、榮三郎、唐人、九藏、羽左衛門、變りて新造、榮三郎、太神樂九藏、羽左衛門（鞦韆の曲も囃子や里神樂）「花誘劇場踊（はなさそふかぶきおどり）」長唄連中相勤第二番目（禰は翠風流士の黙ゑ花は紅樵夫叟の赤頬）「頭雪男山姥（かしらのゆきおとこやまうば）」公時、九藏、白きく、榮三郎、公平、羽左衛門、常磐津小文字太夫連中相勤何れも大出來、狂言作者中村重助、篠田佐助、村柑子獻壽助、瀬井周藏、寳田壽助○十一月七日より森田座「勢源氏寳扇（きおひけんじのたまもの）」源の義經、大神樂　實はさつまの守忠度、奴國平實は今戸、高麗や下男三太、木樵熊王後わしの尾三郎、冬奉公人環助實は佐藤次信、川越太郎、訥升、扇おり小はき實はあつもり、俊成息女きさゝの前、熊王女房おはや實は重盛息女綾子、扇や娘かつら子、菊の前かし付小原や娘お梅實は喜三太妹千里、深雪娘世代、菊次郎、備前守平の行家、石切みだ六實は梶原平次、阿根羽の平次、大物の米問屋萬右衛門、友右衛門、鹿島事ふれ茂作、鈴木の三郎、放し鳥や大四郎、滿十郎、八せ七郎、百姓正作實は平の太郎、小原や若い者喜助、齋藤吾祐家、山くしらや次兵衛、狂言師祝七之進、義右衛門、猪股小平六、するがの次郎、居合長井莪介、團四郎、右大辨朝方、扇持人おきん、馬士畑右衛門、銀兵衛、扇おりおます、小原やの娘分おかな、三すじ、成田五郎一子不動丸、新之助、熊井太郎忠基、しばらく後にすしやのおさと、けいせい菅原太夫、女髮結お安實は熊谷妻さかみ、建禮門院、小原やけいしやお幸實は門院妹齋の宮、杜若、成田五郎光俊、山かつ杉藏實はつゝみの判官、安達田五平實は佐藤忠信、木樵熊王實は平の知もり、熊谷直實、はせを、富やく瓜太郎實はわつはの菊王、安德天王、猿藏、提軍次、生花指南樂齋、善好、さかき田左近、たい助、藏人妹くれ竹、扇をりおはま、女太夫おはま、駒次郎、藤澤次郎善次、扇賣おもん、紋三郎、片岡妹はつ霜、小平六娘玉琴、辰之助、扇おりおよし、こい吉、同おきさ、紀久藏、眞田文藏妹はや咲、小原や下女おきね、妻次郎、瀬戸八郎妹梅園、白之助、小

原次郎妹てり葉、齋の宮かし付呉竹、山下三勝、伊勢三郎妹たが袖、小原やおはりおぬい、しらへ、龜井六郎妹小さく、旅げいしやおせん、升壽、伊藤息女敷嶋姫、六彌太妹ふじ枝、升之助、扇屋下女おゆき實は菊の前、かしつき深雪、小原屋女房おしす、三之丞、門院小侍女待從、粂三郎、主馬の小金吾、町かゝへねみ之助、口入すしや彌左衞門實は宗淸、坂東八十助、横川覺はん、人足 廻茂次兵衞 實は能登守のり經、今戸高麗や錦紅、夜そば賣一八實は平山武者所、盜賊山太郎實は景淸、博多町ぜげん勘九郎實はのり經、幸四郎、八代入道どんくり、熊谷小次郎直家、船頭八艘や飛太郎、闇十郎、回國修行者妙典實は喜三太、平少納言時忠、京六波羅の扇屋上總、熊王母芹生實は水無瀨の局、岡部六彌太、ころ付逆櫓の松實は樋口の次郎、三津五郎、第一ばん目四立目淨瑠理上の卷戀に狂ふ猿菊の亂咲下の卷は口に媚く牡丹の傾城「鞍馬獅子其影形」源之丞平忠のり訥升とこの前菊次郎おいし、澤平さおん、三すし松藏、海老藏、おたに、勘彌、役者揃にて大當り狂言作者三升屋四郎、本屋半七、福森久助、安田正助、勝見てう三、金井由輔〇四立目上るり同四立目暫、熊井太郎、杜若、受、時忠、三津五郎、中受、成田五郎、ゑひ藏、錦江、幸四郎、同返し權太、おさと、景淸、三人たんまり五立目あふきや第貳番目番太郎、仁三、海老藏、お仲、杜若、いさみ源、三津五郎、杜若、番太女房燒いもの狂言大々評よし

當年は凶年にて三芝居共大入といふ程の事無之別して八犬傳新狂言大出來うとふ物語など珍らしき趣向なれ共骨折甲斐なく殘念なる事共なり

〇六代目岩井半四郎死去す四月八日又杜若旅行にて弟紫若其外門弟中打寄殯葬禮なり法名

深窓院梅我日鮮信士深川淨泉寺行年三十八歲

幼名久次郎と云文化元甲子年子役同五戊辰娘方同九壬申顏見世初大名題位上上吉追々上達して文政十二上上吉京大坂にて評よく天保三壬辰顏見世中村座におゐて半四郎と改名一世の內當狂言八百屋お七、白井ごん八、熊谷妻さがみ、鬼一の牛若、かさね、三國や小女郎其外藝者役下女おはつ、曾我の五郎、猶數多あるべし當春狂言より何れも大出來大當り當時三ヶ津女形の大達者なりし惜むべし

〱

役者早速口天保丁酉年評判記

一寸御披露申上升三都御見物方御存の儀ではムり升ど御知らせ申上升るは深窓院梅我日鮮居士

六代目岩井半四郎行年四十一歳(三十八の誤か)

菩提所深川淨心寺

〔頭取〕申上るも泪のたねながら扨々殘念至極當時立おやま無人の所歌舞の菩薩となり給ふは誠に無常には老をまたずとやら去る顏見世より森田座へ出勤にて無人の所いろ／＼御心配其後春顏見世致され三月中白猿丈と御同道にて吉例の曾我に忠臣藏菅原三つ組にて評よく大當りの所中比より御病氣にて引れ柳島の別莊に居給ひしが〔ひゐき〕とてものことに藝評を聞かして下され〔頭取〕御尤でムり升か故人になられ升たゆへ此處で評は致されませぬ何れ別に致升ふ夫は格別梅我丈御病氣ゆへ三座の見舞日々にして取わけひゐき連中も名醫を乞ひ加持祈禱抔致し遣されましたが天命なる哉其かひなく去る四月八日曉に死去致され先假の野送りあり日を追て本葬式〔ひゐき〕いやはやおびたゝしい人でムり升た第一施主は紫若丈白猿丈梅幸丈錦升丈秀朝丈訥升丈當人門弟不殘其外三座の惣役者芝居懸り一同にて花々敷野へ送りでムり升た〔頭取〕秀佳丈露考丈新車丈も近年稀なる葬式でムり升たが此度は又格別でムり升た(中略)極樂へ疑なくといふゑんきをとりまして極上上吉と致升た是より藝評扨「世界春再顏見世」三立目だんまり官女龍田の前にて緋の袴の立廻りきへて幕外子守となり花道の引込大出來／＼上るり錦木にて力持宜しく貳ばん目おせん御家／＼大切迄申分なし三月第序二の宮妻片貝にてかほよ御前のまさひ宜しく二段目鬼王新左衞門にあふてのこなし大出來五段目曾我の五郎時致、入り舞臺に至り升た夫より水車のまなび對面の場大出來／＼六幕目輝姫宜しく三巡の場惡七と云仲町藝者屋根船にて白猿丈とぬれ所大出來七幕目げいしや惡七無類／＼九まく目十六夜古今の大出來是が此世のお名殘狂言でムり升たまた返す／＼殘念／＼

あはれなりかほる丁子の椿紋もきへてはかなき香の燒から　寶珠齋

咲匂ふ花の卒塔婆の手向草經よむ鳥のやとり木にせん　五柳亭

定紋の扇の富士もさつきやみさかさまごとゝなりてうたてし　　梅の屋

天保七年丙申九月十二日
靈雲軒龍山日騰信士　俗名市川鰕十郎行年五十歳三代目
元祖鰕十郎門弟初め瀧十郎と云て大坂にて死去す

花江都歌舞妓年代記續編卷の十一

◎天保八丁酉年

◎正月十一日より中村座「曾我蝶衛比翼結(そがもようひよくのとりくみ)」曾我五郎時宗、赤澤十内、山崎屋與五郎、白柄十右衞門實若徒八内、本庄助市、彦三郎、梶原平次景高、閑坊後にのでの三、下駄の市、幻竹右衞門、芝十郎、曾我十郎祐成、京の小次郎、そがの團三郎、幡隨長五郎、高麗藏、小林の朝日丸、粂三郎、きぬや彌市、夜番八多五作、甚六、橋本次部右衞門、十内母おりつ、七五郎、本田の次郎、甚吉、近江の小藤太、山崎千代權九郎、勘左衞門、八わたや、船頭さど七、夜そばうり二八、粂五郎、地こく清兵衞、染五郎、江間の小四郎、市右衞門、新貝荒次郎、友藏、雲助、大礒の虎、千代飛助、男達ふりくつ勘六、伊麗六、同はげの四郎兵衞、万九郎、三浦若ィ者九助、冠四郎、竹の下孫八左衞門、瀧藏、山崎やでつち三太、七五三藏、花鳥茶屋かさ六、歌十、花川戸家主、太郎兵衞、大吉、工藤奥方梛の葉、幡隨女房お時、杜若、箱根の畑右衞門、大藤内、儀右衞門、三浦禿たより、

太郎、同小てふ樂之助、同ゆかり、七之助、新造若芝、菊壽、同二の宮、友三郎、同八ッ橋、粂三郎、同八重梅、にしき、橋本下女おらい、麗之助、工藤奥女中宇佐み、春次、同久須美、紫妻、白井若徒細內、唐崎左門、佐十郎、三浦屋の吾妻、次部左衞門娘おてる、松之助、源の賴家公、壽三郎、ぬれ髮のおせき、十內女房おさわ、鬼王妻月小夜、常世、鬼王新左衞門、南方十郎兵衞、平岡鄕左衞門、鴛の甚兵衞、冠十郎、三浦の小紫、十內妹おむら、三うらの片かい、仲丁のげいしや、放駒の長吉、白井權八、小林舞鶴姬、紫姬、幡隨院長兵衞、本庄助太夫、工藤左衞門祐經、幸四郎、畠山小次郎重保、傳藏、第一番目五立目淨瑠理（戀の手取りとたきゞて もゝてたくだく中立は）「女扇初旭鶴」時宗、彥三郎、祐成、ことの藏、朝日丸、粂三郎、梶原、芝十郎、舞鶴、紫若、常磐津小文字太夫、伊勢太夫、三弦岸澤式佐三てうし（金藏 壽助）八五郎相勤、第二番目中幕上るり（權八のよし〳〵の立すがた 與五郎は返す〳〵も亂れ草）「彼狂夫書集」與五郎、彥三郎、あづま、松之助、新造、粂三郎、甚兵衞、冠十郎、權八、紫若、富本豐前太夫、同いろは太夫、秀太夫、三弦富本豐柳、名見崎德次、安治相勤、何れも大出來大當り〳〵◎二月四日より「和田合戰女舞鶴」三段目淺利の與市、彥三郎、平太女房つなで、松之助、四郎淸近、森五郎、平塚權藏、冠四郎、戶塚軍藤、瀧藏、小田原甚藤、七五三藏、川崎文藤、万九郎、胤若丸、樂之助、祐若、めゝかつ實若、寅之助、經若、万作、綱若、七之助、國若、鶴八、善哉丸、公曉、守之助、媄梅の井、友三郎、同玉の井、にしき、同星の井、春次、朝の井、紫雲、與市一子市若丸、粂三郎、政子禪尼、常世、班額女、紫若、源の實朝公、傳藏、皆〳〵評よし◎正月十七日より市村座「戲場花根元曾我」鬼王新左衞門、京の次郎祐俊、近江の小藤太、九藏、赤澤十內、大礒文造、丈助、二の宮太郎朝忠、團三郎、百足屋金兵衞、六浦の獵師、手越彌藏、三津右衞門、海老名軍藏、景淸伯父大日坊、菊四郎、万壽君、かし付宇佐美、万江御前、三之丞、曾我太郎、半澤六郎、當十郎、大藤內、相澤彌九郎、工匠梶八郎、平次、銀兵衞、久須美逸平、團四郎、米屋八木六、江間小四郎、こい十郎、万歲福若德太夫、直藏、才若龜右衞門、海藏、臼杵の三郎、三平、海野の太郎、又八、愛甲の三郎、千代藏、安西彌七郎、米藏、竹の下孫八左衞門、こせ右衞門、番場の忠太、橋十郎、大神樂鶴の丸音、相藏、禿浪路、升之助、大坂下り力持入藏、目

勝、鬼王一子鬼市、照世御前、五郎丸、新之助、鬼王女房月小夜、梛の葉狐、大磯のとら、和田息女舞鶴、杜若、非人地獄清左衛門實坊、廻國修行者幡龍實は景清、海老藏、同一子あざ丸、猿藏、とら新造千鳥、大三郎、同禿小てふ、茂作、百足屋でつち倉松、和田右衛門、万壽君、頼家公、三すじ、雁おはりおぬい、白之助、女髮結お安、扇之助、奥女中岬、三勝、同初音、團之助、三うらの片貝、德之助、奥女中梅か香、舞鶴屋げいしやおりう、辰之助、梶原平三、箱根屋畑右衛門、甚六、大姫君、水茶屋およし、橋之助、蒲の冠者、舞つるや傳三、熊十郎、伊豆の次郎、箱根の雲助、お化けの地藏、一友、月小夜妹十六夜、手越の少將、重忠奥方衣笠、榮三郎、小林朝日奈、工藤犬坊丸、團十郎、工藤左衛門祐經、梅澤小五郎兵衛、西國順禮次郎藏實はちゝぶの重忠、團藏、曾我十郎祐成、八わたの三郎、そがの團三郎、羽左衛門、三立目返し所作事「廓春情戀（とさのはるこひ）の種蒔（たねまき）」千歲、九藏、翁、榮三郎、三番叟、羽左衛門、唐女、榮三郎、唐人九藏羽左衛門新造、榮三郎、大神樂九藏羽左衛門長唄はやし連中相勤、後の三立目六部景きよ、海老藏、なぎの葉狐、杜若、順禮重忠、團藏、古今の大出來看客皆かんしんせり

當狂言は享和元辛酉年 顔見世河原崎座「名歌德三升玉垣」といふ大名題にて 廻國修行者六十六部五代目市川鰕藏白猿西國順禮三代目市川團藏市紅岩井粂三郎六代目半四郎黑塗笠に銀の杖狐の見へ大當り此度も杜若往古を思ひ出しこたび海老藏團藏兩人に祖父と親の面影を寫させ自分は以前の狐の役を勤三人のだんまり近頃での評判なり

第二番目「博多小女郎（はかたこぢよらう）」船頭今の曾平次、九藏、座頭盛市實は片山陸平、團三郎、中山彌平次、三津右衛門、加田の市吾、菊四郎、奥田屋女房おまつ、三之丞、奥田屋四郎右衛門、當十郎、德嶋平右衛門、工匠、浪花の仁三、團四郎、下官ちりめんていこ、銀兵衛、奥田屋仲居おつや、こい十郎、奥田屋廻し次郎兵衛、國十郎、同りやうり人友助、唐使珍冥官、三平、同頂南安、こせ右衛門、小女郎禿重の丞、三すじ、千嶋若宮千歲丸、新之助、三國の小女郎、杜若、海賊毛曾利九右衛門、船頭嶋の小平次、海老藏、舞子水本歌もん、猿藏、奥田屋娘お大、大三郎、博多傾せい勝山、升藏、同菅野、當十郎、同江口、白之助、同操、三勝、奥田屋仲居おはた、團之助、

博多のけい城朝倉、德之助、奥田屋仲居おさき、辰之助、庄屋夢想兵衞、甚六、博多の女郎花の香、橘之助、じやむたら三藏、熊十郎、小倉傳右衞門、一友、博多の肴問屋、木津川屋升藏、團十郎、小松屋惣七、團藏、浪人箱崎要助實は千嶋家中向井金三郎、羽左衞門
　團藏此度誠の惣七見せ申へくやといわれしが上方にて評判にやしらねど御當地にては菊五郎の方大にすぐれり九右衞門小女郎はいつとても大出來大
　評判なり對面よし

○二月廿三日より森田座「群集御攝門白浪」萩塚滿次郎、藤屋伊左衞門、野口藏之丞、室の津の漁師磯六、早川高景、訥升、萩塚奥方千鳥の前、磯六女房おなみ、扇屋夕霧、龜之丞、由佐衞壽院、室の津漁師平作、若谷源藤太秀景、友右衞門、福嶋左衞門正則、入聟でたらめ仁藏、清十野、野間隼人、盜賊浦藏、勘藏、通人箱虎、銀兵衞、盜賊郡八、紀次、南瀨の九平太、虎五郎、ふじや手代與八、三木藏、やうし岩藏、國三郎、なにはや松八、杢藏、八嶋甚藏、助藏、道具屋彌市、善好、松本屋才兵衞、たい助、高由逸當、駒右衞門、盜賊濱助、大次郎、鶯かき三次、善次、でつち茂吉、喜多八、多田折邊、小坂部彌太郎信久、大領久吉、三十郎、伏塚息女いく代姫、玉市、里の子澤まつ、澤平、けい子濱出、玉江、禿よしの、玉次、同たつた、德之助、新造遠里、紋三郎、正念寺知鏡尼、かてう、げい子ひな次、紀久藏、仲居おとく、喜次郎、けいせい小野町、末らべ、鷹谷源吾、十藏、主水娘若草、升之助、伏塚の奴國平、松太郎、大工かがりの長藏、歌助、喜左衞門女房おとせ、眞弓御前、みんし伏塚千次郎、叢助、滿次郎奥方葉覺御前、扇屋夕霧、玉三郎、濱田出雲、桑名太郎左衞門、壽美藏、小西彌三郎、團十郎、右原三位國影卿、宇田要助、吉田屋喜左衞門、盜賊阿波十郎兵衞、伏塚鳴門之助、三津五郎、尼智月、淺川求馬、勘彌、中幕「一谷嫩軍記」三の切熊谷妻さがみ、訥升、ふじの方、みんし、堤軍次、勘藏、熊谷次郎直實、三十郎、梶原平三景時、歌助、みだ六實は宗清、壽美藏、源のよし經、三津五郎、大切上るり丸にいの字は最愛字いの「嫐花街文章」伊左衞門、訥升、夕ぎり玉三郎 ゆふ相龜之丞 吉田や女房、みんし、喜左衞門、三津五郎、當世津小文字太夫、若太夫、駒太夫、三弦岸澤式佐、金藏、上てうし壽助何れも大出來大當り二人夕きり大に評よし

○三月六日より中村座「櫻花大江戸入船」[illegible]澤彈正左

衛門實粂平内長矩、厚原次郎太夫、幸四郎、曾根伴五郎、源兵衛、堀のおげん、番頭九右衛門、冠十郎、宵寝の伊三、赤根や荷ゑよい金五郎、大友常陸之助より國、高麗藏、平三女房おなつ實は柳の木精、尾上妹おきみ、菊次郎、奥女中關屋、芝鶴、平三母おかや、手代仁右衛門、七五郎、仕立屋喜の八、甚六、四ッ目屋手代甚助、奥女中駒留勘左衛門、鳶の者勘太、小町屋手代宗七、森五郎、庄や松兵衛、大七、鳶の者富藏、船頭傳右衛門、染五郎、小林のうばおそで、薪屋權六、市右衛門、狩人眼六、船頭平右衛門、岩五郎、赤根や手代甚四郎、友藏、柚柴右衛門、船頭加田市吾、春五郎、同文三、手代常八、伊麗六、時坊主存念、扇藏、門番嘉中太、冠四郎、見世物師丹六、歌十、でつち平四郎、相藏、中間宅助、重五郎、同茂助、木藏、同十内、鶴助、出入町人守之介、蔦五郎、同丁八、三六、藤間門弟おきの、醫者坂田雲泥、佐十郎、奴江戸平、信樂勘十郎、三十郎、花鳥茶屋娘おとり、粂三郎、道具や女房おなべ、米や八兵衛、船頭三藏、曾呂平、同出羽兼、奥女中横綱、梅五郎、兩國餅屋娘おいく、山形屋武助、義右衛門、薪屋娘おすみ、糀八、鈴屋娘お兼、平三倅平次郎、守之助、桶屋娘おたか、樂之助、藤間門弟おもん、奥女中唐あや、東藏、料理屋娘おやを、菊壽、扇や娘おわか、友三郎、青柳娘おいと、七藏改名粂太郎仕立屋娘おぬひ、春次、繪ぞうしや娘紫我すゝ、紫妻、呉ふくや娘おきぬ、壽三郎、大姫君子守小三、八ッ橋村おむら、松之助、牛嶋主税、赤根や手代源十郎、松助、中間權平、今市善右衛門、赤手拭長九郎、芝十郎、おきみ母およね、奥女中あやせ、常世、奴隅田平、同やとひ仁三郎、柚破れ簑の平三、髮結の鐵、彦三郎、召仕おはつ實は二代の尾上、踊子小梅のおよし、田舍神子榊、みのや抱三かつ、紫若、岩ふじ亡魂、小天狗長七、寺嶋百姓作次郎、清水冠者義高、赤根や半七實は曉星五郎、菊五郎、万壽君、賴家公、傳藏、第二番目序幕淨瑠璃「惣同士二世朧夜(はれだうしにせのおぼろよ)」長きち、菊五郎、小よし、紫若、富本豐前太夫、大和太夫、名見崎徳次、同安次相勤大出來大當り

ほつたん岩ふじの亡魂おはつに怨をいひ打擲のゝち局の姿となり平内左衛門、隅田平、おはつ三人の立廻りあり三立目鳶の者長吉踊の師匠およし見そめる處四立目清水冠者狩裝束神子さかきぬをかつき鬼女の面を冠り紅葉狩の見へだんまり大出來

五立目二代のおのへ岩ふじの幽靈平内左衞門に乘移り草履打の仕返しのち岩藤の靈尾上を惱ましがい骨になる仕懸け奇妙二ばん目長吉殺しはお祭り佐吉の仕組と同所なり

○三月三日より市村座「裏表櫻彩幕」城結の七郎朝光、奴江戶平、松ヶ枝亡魂、次郎左衞門伜清親實は新清水の同宿清玄、九藏、北條泰時、櫻姬の下部壬生平、團三郎、八ッ橋村の鄕士次郎左衞門、狩野源藤太、奥女中柏木、三津右衞門、同床夏、二階堂刑部國門、菊四郎、奥女中綸合、大森するがや女房お三、三之丞、和田左衞門盛秀、清水寺轡坊、當十郎、駒子圖書之助、奥女中篝火、勘八、同宿り木、須山大炊之助、團四郎、眞柄舍人之介、鯉三郎、神保內記、五百崎軍藤太、國十郎、奴鳥羽平、馬平、清水の所化逆緣坊、戶坂彈正、直藏、隅田の加茂平、ひな藏、いしや藪坂てふ庵、三平、ふり付廣山品十郎、米藏、雁下女おいち、友十、建長寺所化變哲、大作、同雲哲、松藏、雁中間左助、橋十郎、下座敷奴鶴平、相藏、童の瀧夜叉、和田右衞門、海老成田の抱壽之助、新之助、實朝妹、紅梅姬、尾上召仕おはつ、杜若、狩野源左衞門宗茂、局岩ふじ、隅田川渡し守大助、海老藏、小奴升平、猿藏、奥小性小蝶、升之助、局初音、三すじ、建長寺兒花丸、春之助、同芳丸、照世、同住職眞嶺禪師、廣五郎、奥女中空蟬、升壽、同すゞ蟲、かなめ、同朝貌、白之助、野分、扇之助、夕貌、團之助、同松助、德之助、同明石、増之助、同浮舟、辰之助、竹川甚六、同松ヶ枝、女順禮お兼、橋之助、望月軍兵衞、熊川運八、六浦左京之進、熊十郎、奥女中早わらび、馬士胴八、市友、實朝妹櫻姬、勇助女房おそで、源左衞門、女房玉笹、榮三郎、源の實朝公、大館五郎照秀、團十郎、三浦荒次義澄、中老尾上、狩尾の兵衞、團藏、清水宿直之介、狩野の下部勇助、五百崎求馬、羽左衞門、第二番目大切淨瑠璃歌舞妓十八番之內（其古事を今樣に蝸牛の戲打や角びた）ひ「花雲鏡入月」清玄亡魂、九藏、櫻姬、榮三郎、大介、海老藏、大館、團十郎、宿直之助、羽左衞門、常磐津文字太夫（小文字太夫改）同小文字太夫、岡太夫、三弦岸澤式佐、同八五郎（壽助惣八）右狂言の番組、第一鷹裏弓爭論其裏花見の戀挑、第二隨落破法衣其裏振袖の剃髮や、第三柳營草履打其裏權勢の扇擊、第四水仕芝居談其裏閑居の男捻、第五自殺懷短刀其裏老功の管鎗、第六四辻占烏啼其裏景圖の狀箱、第七長廓下稻妻其裏奥庭の花

雨、「有職鎌倉山」「鏡山故郷錦繪」是を表裏とし清玄惹うりを組合せたる仕組いづれも大出來狩の兵衛梅王以來の評判上るり迄大出來也〇四月十七日より熊ヶ谷笠の紀久御影堂の鸚鵡「扇源平躑躅」鈴木の三郎、九藏、次郎兵衛盛とし、團三郎、姉輪の平次、三津右衛門、木鼠忠太、捌八扇おりお咲、廣五郎、宿老李郎兵衛、三平堤の軍次、千代藏、町人權兵衛、箕八、雨龜右衛門、負藏、白拍子千壽、杜若、扇屋上總ヶ三津五郎、熊谷直實、海老藏、扇折およし、扇之助、同とく、德之助、同お山、升藏、上總娘桂子、橘之助、同うば深ゆき、三之丞、扇折小萩實敦もり、榮三郎、熊谷小次郎、團十郎、彌平兵衛宗清、團藏、源の義經、羽左衛門、大に評よし〇四月十一日より森田座「初給羅五紋」劔術指南宅間甚藏、八十助、大内左馬之助、金澤村賤女おみつ、簑助、高山家中鶴木主水、宅間主税松太郎、山家中野田角左衛門後に極印屋の寐す香、義兵衛、宍戸典膳、山三、晒げいしやびせんやおのち、升之助、櫻川新孝、はいかい師箱虎庵角成、銀兵衛、高山家中本庄倉平太、おたかの手下、熊の浪六、虎左郎、櫻川孝三、極印や内げいしや八重吉、たい助、同若イ者喜助、松井小文治、三木藏、大工長藏、お高手下かく藏、駒右衛門、地廻り儀茶やの源、笹由九郎、喜次、ごろ付目玉の幸助、品川の引手茶屋作助、三九郎、地廻り高輪のうし、沼岸七郎、三作、高山家中岩崎郷藏、おたか手下牙藏、大次郎、金澤東や若イ者太吉、非人の又、らい助、奴木幡の里平、極印や抱女郎お松、音吉、金澤案内子由松、大和助、おたか手下三次、鬼源當馬、助藏、娘初風、極印やかゝへおとみ、玉江、金澤東や下女お鶴品川の藝者妻吉、妻次郎、極印や小ぢよくお市、玉市、同かゝへ女郎おゆか、こし元うの花、おらべ、陶奎姜の亡靈、曆金村百姓甚十、十藏、甚藏女房おつた、奥女中常夏、かこう、極印屋抱おきく、娘早わらび、紋三郎、箱廻し伊太郎、清川左衛門、歌助、在所娘お文、宿場女郎極印おせん、雁おはり當のおなる、女盗賊妾のおたか、宇の下茶や女布袋のお市、山川屋浪六、官女玉章の局實は奎姜娘花岡、玉三郎、白拍子待宵、義清の復浪平、助蒲、第一ばんめ二幕目、清盛さぞ若一袈裟女かな「浪花准朝妻」娘みゝ之助、大主、玉三郎、白拍子、かん彌、長唄はやし連中第貳ばん目大切所作事、けいせい、縫うり、福助、在所娘、雀おどり右五變化、坂東玉三郎相勤るり富本豊前太夫、

大和太夫、志名太夫、三弦名見崎徳次、同安治、同豊柳
長うた連中相勤親のはずりの手本なそのまゝ「四季所作徴三大」五月
迄假芝居の内棧敷十三匁高土間十匁平金二朱

第一ばん目文政三辰年正月中村座「仕入曾我雁金
染」故人秀佳一人にて五人男大當り是を五人女に、
書替へ大當り、役者ひゐ錦に云上上吉坂東玉三郎
「頭取」大和屋の御養子玉三丈當度森田座にて先年
故人秀佳丈の勤られし五人男を女に書直されわづ
かの不人にて一人り先立興行被致しは流石にお
江戸の根生と一同にかんじ入升たさればこそ思ひ
の外の評判にて大繁昌被致玉三丈受よく且其身の
御出世となり升た〔芝居好〕かりがね村のお文後
に雪の下茶や女布袋のお市二役當のおなる四役女
盗賊安のおたか五役梅印のおせん六役由川や權六
大切所作事大出來〳〵數多きお役ゆへ中にはは
まらぬ事もムり升たが何に致せ一人にて引受られ
興行被致しはかんしん〳〵大立者になる印でムり
升下略す
當狂言雛納の日坂東三津五郎舞臺におゐて玉三郎
大當りの口上を諸見物に述しなり是より玉三郎の
名四方に發し後大達者となる

〇五月七日より一傾城阿波の鳴門」十郎兵衛女房お
弓、玉三郎、町飛脚早助、三木藏、十郎兵衛娘おつる、
玉市、どつはのぶた六、阿波十郎兵衛、三津五郎、玉
木衛門之助、勘彌、狂言一番目と二ばん目の間へ差出
し大切五變化の内へ、狂女、鳥さし差加へ七變化に仕
富本連中長唄囃子連中相勤何れも大に評よし〇五月
五日より市村座「ひらかな盛衰記」先陣問答の段母ゑ
んじゆ、三津五郎、石田三郎爲久、三津右衛門、番場の
忠太、團四郎、姫千鳥、杜若、梶原平次景高、海老藏、横
須賀郡内、菊四郎、畠山の重忠、九藏、梶原源太景季、
羽左衛門「大内裏大友眞鳥」百姓助八實は宿禰金道、
九藏、庄屋松兵衛、團十郎、龜山藏人、當十郎、助八母
おせつ、三之丞、百姓豊作、三平、小舍人升五、新之助、
大友眞鳥、三津五郎、輪抜の五郎又實はわし夫親十
郎、海老藏、立浪桙國右、猿藏、小亂荒武者、こい十郎、
藏人娘なでしこ、橘之助、助八女房おさく、榮三郎、菊
地金藤吾、牛五、團十郎、友長息女かよう姫、羽左衛
門、興行なし第一番目「小いな峰さり」一稍の谷牛太夫、
伊丹覺太夫、三津五郎、宗圭李郎兵衛、菊四郎、須藤丹

平、勘八、神職左近、廣五郎、瀬山四八、馬平、覺左衛門娘小いな、杜若、近藤沼五郎、海老藏、みこ榊、團之助、早乙女おはる、かな女お夏、増之助、おあき、德之助、おふゆ、升藏、伊丹下女おしげ、辰之助、神職左司馬、甚六、山口曾平太、熊十郎、横田伴藏、友、肴うり升、團十郎、稻の谷半兵衛、羽左衛門、何れも大出來大當り扇や熊谷其〻、興行なり○六月八日より**森田座**[忠臣藏]大星由良之助、矢間十太郎、となせ、堀部安兵衛、もゝの井若狹之介、納升、斧九太夫、友右衛門、山名次郎左衛門、歌助、小の寺十内、松太郎、原郷右衛門、佐十郎、ばん内、銀兵衛、狸の角兵衛、紀次、種ヶ嶋の六、虎五郎、富森助右衛門、三木藏、力亭主才助、團三郎、倉橋傳助、駒右衛門、間瀬久太夫、大次郎、たいこ千助、三九郎、同万八、三作、潮田又之丞、らい助、前原伊助、善次、せげん小八、善好、鹽谷判官、定九郎、千崎彌五郎、加古川本藏、平右衛門、彦三郎、一文字屋女房おやま、大ぼし妻お石、師直妾橋立、杜若、おかる母、本藏妹みなせ、かてう、仲居おたつ、辰之助、與一兵衛、たい助、森喜多八、助藏、仲居おます、しらべ、娍繪合妻次郎、同はつせ、紀久藏、同常夏、玉江、仲居おとく、德之助、同おふじ、紋三郎、本藏娘小なみ、簑助、娍おかる、早野勘平、かほよ御前、玉三郎、高の師直、矢間喜内、石堂右馬之丞、不破數右衛門、大川屋義平、三津五郎、大星力彌、足利直義公、勘彌、大序より七段目迄幕なし八段目より十段目迄新狂言十一段目義士本望の場迄大出來大當り○七月十一日より**市村座**[三荘太夫銕鶏藏（さんしやうだいふこがねのとりどし）]三荘太夫、藏之進、九藏、時門、菊四郎、船頭牛藏、同九助、同三平、勘八、段八、國十郎、奴角助、千代藏、やりておつめ、こせ右衛門、柚園五郎、柏藏、同よも次、茂作、同五六、冠四郎、同次郎作、と〻、藏、奴關内、米藏、民千代、守之助、初姬、綱吉、對王丸、三吉、軍太、鯉十郎、仲居おきよ、娍尾花、増之助、下女小雪、同ききやう、友三郎、禿みどり、**七之助**、右近甚吉、安壽姬、橋之助、主税、熊十郎、御臺、むつき、おらち、みんし、要人、勘藏、山良三郎、一友、太夫娘なぎさ、植竹、常世、櫻戸、榮三郎、權六、岩城判官政氏、太夫娘お三、羽左衛門、第貳ばん目[花燈籠千種朝朗（はなとうろうちぐさのあけぼの）]伊助、九藏、喜藏、菊四郎、忠八、國十郎、男達久右衛門、勘八、でつちよも吉、鯉十郎、軍兵衛、三平、下女およし、橋之助、同おふじ、甚六、おせつ、でつちかん太、常世、

おせん、粂三郎、新十郎、羽左衛門、大詰盆おどり、眠子、橘之助、友三郎、増之助、甚六、雀踊、千代藏、米藏、冠四郎、梅六、〻〻藏、相藏、茂作いづれも大出來、第二ばん目所作事「彩摸樣見立八景」神宮皇后、うしろ面、瓢たん鯰水中の所作、雷、いな妻、手習娘、石橋、右七變化市川九藏相勤常磐津文字太夫、同組太夫岡太夫、三弦岸澤式佐、同三藏大出來大當り〇七月廿五日より森田座「繪本合法衢」高橋彌十郎、後修行者合法、道具屋與兵衛實は高橋孫三郎、訥升、笹山官兵衛、百姓佐五右衛門、友右衛門、松田幸十郎、清十郎、駕かき甚八、歌助、福屋佐吉、勘藏、高宮源吾、松太郎、佐五右衛門女房おわた、道具屋後家おらい、かてう、飛脚與五七、娰あざみ、銀兵衛、雲助どら猫の喜次、紀次、松浦玄蕃、道具屋手代善六、虎五郎、篠原傳吾、三木藏、松山鄕藏、團三郎、下部八内、駕かき三次、駒右衛門、官兵衛下部權內、大次郎、關口多九郎、三九平、草かり松太、新之助、早枝大學之助、多賀俊行公、くらがり峠立場太平次、彥三郎、福や女房おだい、孫七女房お米、杜若、草かり梅太、粂三郎、瀨左衛門下部曾平、山伏杉法印、佐十郎、三上鄕兵衛、てう十郎、坂本權平、善次、蛇つかい九助、善好非人めんつうの六、たい助、奴團平、助藏、太平次女房おみち、辰之助、道具屋下女おたか、しらべ、早枝妾おすま、升壽、佐五右衛門一子里松、德之助、賤の女おもよ、妻次郎、おはな、紀久藏、おはる、三筋、早枝妾おゆみ、紋三郎、小嶋林平、簑助、大槻一角、八十助、道具屋おかめ、彌十郎、妻さつき、玉三郎、福や息子千吉、團十郎、高橋瀨左衛門、女非人うんざりおまつ、福屋次兵衛、問屋人足孫七、三津五郎、多賀半次郎、勘彌、當狂言評ばんよく、わけて非人うんざりおまつ大出來くらがり峠三人共評よし〇八月十一日より中村座「假名手本忠臣藏」本藏、鹽谷判官、平右衛門、三十郎、石堂右馬之丞、斧定九郎、高麗藏、一文じや佐兵衛、伴內、九太夫、芝十郎、力彌、千崎彌五郎、松助、原鄕右衛門、かん平母おかや、七五郎、竹森喜多八、山名次郎左衛門、染五郎、數右衛門、めつほう彌八、勘左衛門、近松半六、冠藏、矢間新六、友藏、與三兵衛、與一兵衛、十三、狸の角兵衛、大わし文吾、岩五郎、種がしま六、市右衛門、下女りん、義右衛門、伴內弟ばん作、森五郎、仲居おつま、本藏妹みなせ、紫妻、駒次郎、七藏、春次、菊壽、梅太郎、

女小性、澁八、二藏、本藏娘小浪、松之助、寺岡妻おとり、大ほし妻おいし、菊次郎、かん平妻おかる、かほよ御前、紫若、ゆらの助、早の勘平、若狹之助、菊五郎高の師直、幸四郎、足利直義公、傳藏、九段目迄大切「本朝廿四孝」謙信、芝十郎、五郎武園、高龍藏、景勝、松助、小文次、歌助、次郎、重五郎、六郎、万九郎、五郎、□□、姫春次、七藏、駒次郎、紫妻、姫ぬれ衣、菊次郎、齋藤道三、幸四郎、八重垣姫、紫若、武田勝頼、菊五郎、淨るり竹本戸和太夫、同鐘太夫、鶴澤市作、同藤三郎

○九月廿二日より市村座「假名手本忠臣藏」義平女房お園、下女おりん、娘おかる、杜若、大ほし大次郎、新之助、斧九太夫、堀部彌次兵衛、菊四郎、石堂右馬之丞、山名次郎左衛門、當十郎、大わし源吾、鷺坂伴内、又太郎、大ほし力彌、三段めおかる、橘之助、狩人角兵衛、桃井家下部關内、勘左衛門、與一兵衛、せげん小助、大次郎、鹽不治助、万九郎、杉の十平次、堀十郎、富森助右衛門、三平、建長寺伴僧學入、助藏、同妙哲、富藏、同連哲、國藏、同怪全、千之助、鹽谷爲若丸、茂々太郎、若狹之助、平右衛門、定九郎、中間直助權兵衛、勝間宅兵衛、天川屋義平、ゆらの助、海老藏、堀川與惣兵衛、小寺十内、川藏、太田了竹、種ケしまの六、箱猿高松、勘六、海藏、大ほし瀬平、玉猿、本藏妻となせ、仲居おます、福之助、かほよ御前、おかる母おかや、仲居おたき、鯉之助、仲居おいち、三すじおはま、太三郎、おはな增吉、小なみ扇之助、めつほう彌八、大吉、おいし、仲居おさく、辰之助、おやま、かてう、小はやし平内、万作、原郷右衛門、矢間十太郎、升五郎、よし松、筱藏、鹽谷奥小娃お高、粂三郎、高の師直、本藏、建長寺住職妙覺禪師、天川屋丁稚伊吾、彌次兵衛娘妙界尼、[illegible]もんじや才兵衛、石堂右馬之丞、九藏、足利直義公、鹽谷縫之助、千崎彌五郎、團十郎、鹽谷判官、早野勘平、一力亭主清兵衛、佐藤與茂七、仲間元助、不破數右衛門、羽左衛門、七段目迄かな手本後は裏表何れも大出來大當り

○九月廿二日より森田座「增補黃鳥墳」河內、佐々木源太左衛門、同苗源之助、訥升、佐々木源吾、大にん坊、友右衛門、番頭忠太夫、日下重左衛門、同十三郎後に濱右衛門と、清十郎若徒作內、佐十郎、長柄の長者、たい助、同妻玉木、てう十郎、川こし五郎太、和多木辨次、紀次、川こし傳、若徒勝介、らい助、袖竹九郎、助藏、同馬八、寶山大二郎、比丘川越

の松、三九郎、同六、非人の牛、音吉、淀與惣左衞門、若徒作左衞門、彥三郎、花若、德之助、妼菓ずへ、梅ヶ枝妹さくら木、升之助序まくの源之助、澤平、日下淸二郎、甚吉、こし元越路、妻次郎、同小の路、三すじ、長者下女おまき、同下女おぶん、銀兵衞、源之助母なぎ佐、長者妼いくよ、巨撰、北條多門の頭、多賀太左衞門、諏訪洞仙、三津五郎、貳番目「契比翼額襪」金谷金五郎、彥三郎、堤伴藏、友右衞門、家主六兵衞、善好、同女房おとら、銀兵衞、長者家の者七介、たい藏、同松三、九平、同辰、らい助、いしや、かん竹、大次郎、奴ごん內、紀次、わる者仁三、佐十郎、同音てう、十郎仲居おたみ、升之助、小三母おかや、かてう娘おかな、三すじ、同おとみ、妻次郎、藝者小三、玉三郎、堤良助、訥升、大切「盟約緣長夜」金五郎彥三小三玉三郎富本豐前太夫、同大和太夫、三弦名見崎德次、同柳豐名見崎喜十相勤大に評よし○十月十九日より市村座「太平記忠臣講釋」矢間重太郎、不破數右衞門、九藏、一力娘おいわ、粂三郎、九太夫、大黑や幸右衞門、菊四郎、万才福太夫、勘藏、鷺坂伴內、勘八、惣嫁お百、大吉、同おきみ、こせ右衞門、梶川與惣兵衞、山村國十郎、猿廻し丹兵衞、

三平、沙門日扇、扇藏、染物屋おいろ、松藏、せんたくやお爪、國藏、十太郎一子太市、大ぼし大三郎、新之助、高の師直、ちゝ、貫善助、矢間喜內、冠十郎、こし元小霜、扇之助、同小冬、增吉、若徒關內、團四郎、けいせい浮はし、橘之助、山名次郎左衞門、熊十郎、喜內女房おくら、みんし、女達金笄おかる、がほよ御ぜん、一力女房お才、杜若、潮田又之丞、鹽谷判官、羽左衞門、淨るり竹本戶和太夫、同嶋太夫、三弦鶴澤一作、同勝三郎第貳番目「江戶織連理帶屋」筆賣團助、九藏、ふじや娘おくめ、粂三郎、幸左衞門、菊四郎、でつち長太、勘藏、針の宗兵衞、留女おしま、國持甚吾右衞門、勘八、奴谷平、三平、宿役人斧右衞門、扇屋惣嫁おぶか、米藏、同おやゑ、冠四郎、たいこ持丸八、相藏、同腰八、和田右衞門、家主六兵衞、幸之進、冠十郎、下駄屋娘おもと、茂作、いとや娘おかう、升藏、ゐあや娘おとも、團四郎、仲居おいと、辰之助、げいこ小千野、橘之助、お半母おかや、みんし、長右衞門、妻おきぬ、榮三郎、香具屋才次郎、團十郎、土手のお六、しなのや娘おはん、杜若、帶屋長右衞門、羽左衞門、大切上るりおはん長右衞門「桂川

月友達」門上るり、九藏、黑木うり、榮三郎、おはん、杜若、長右衞門、羽左衞門、常磐津文字太夫、小文字太夫、組太夫、三弦岸澤式佐、文左衞門壽助何れも大出來○十一月九日より顏見世中村座「勸善懲惡四天王顏鑑」平井勘解由保昌、空也寺の茶筌坊、白川の廣文、魚藍下肝煎宅兵衞、三十郎、源の賴光、とんきよしまの庄屋六兵衞、袴垂保輔、赤羽根の花うり、喜之助、訥升、碓井荒太郎貞光、上かんや由兵衞、純友一子力壽王、靑山野ぶせりがせん坊、高麗藏、保昌妻道芝、高砂屋女房お八尾、白金の女髮ゆひおふじ、芝鶴、俵屋けいせい千晴、貞光妾槇の戶、目黑布晒おむら、松之助、平井小次郎保昌、下部升平、栗又、手代吉六、淸十郎、巖石九郎、醫者すい庵、歌助、奴淀平、菊土地太郎、水や嘉市、森五郎、笹山平太、奴らん平、二本榎の大工平藏、染五郎、鈴川權太夫、三光坂の金かしみき藏、二の瀨源吾、町飛脚龜忠、中むら友藏、庄屋太五右衞門、上州男達喜太郎、伊麗六、貢上使市郷四十太、宮崎七郎助藏、盧はら八郎、嵐万九郎、愛塚五郎、山田重五郎、せり吳服屋丈助、市山七五三藏、堺町芝居のがく十、坂東三作、岩倉法印、盜賊笠木大藏、紀次、込山入道、安財局女郎おさん、義右衞門、三條の小狐丸、紅屋小女おとに、粂三郎、香うり三田の源實は渡部源次綱、栗の木又次、藤原仲光、三津五郎、同一子幸壽丸、大悲丸、賴信、簑助、淺原八郎栗又、下女おまつ、ひぢり坂ばゝあ、湯のながし十八、十藏、千鳥侍女瑁花、滿仲息女粧姬、中目黑水茶屋女おかん、紫子松、粧姬侍女梅里、麻布市原の紅や下女おぎん、岩井梅藏、同おきく、粧姬侍女久方、紀久藏、同小きく、紅や下女おさよ、菊壽、季武妹紅梅、三田八まんみこすゞしの、春次、貞光の妹早咲、飯倉綿摘おくま、駒次郎、座敷上るり竹紅勝、紫妻、栗又でつち勘太、季武一子太郎季國、壽三郎、卜部季武、右中將慶貞、麻布六本木上州や彌一右衞門、八百藏、坂田の公時、市原の鬼同丸、丹波太郎鬼澄、部や頭辰右衞門、芝十郎、紅やの局女郎三日月お仙實は綱の妻くれ竹、葛城山蜘の精靈、爲時の息女兼冬公息女千鳥前靈、紫式部、紫若、千觀律師將軍太郎良門、岩井寺町ろじ番長吉、幸四郎、源の美女丸、栗又でつち長松、傳藏、第一番目四立目、上るり「施波浮乘合」訥升こま藏三十郎芝十郎紫若、富本連中相勤此淨るり幕口出同六立目淨瑠理新らしき怪談の百物語夜啼しの古をもつて又「來霄蜘蛛線」

源の頼光公變化みこし入道とうふ買小藏訥升、禿、粂三郎、渡邊綱、三津五郎、公時、芝十郎、千鳥前靈、紫若大出來大當り狂言作者櫻田治助、田川正助、玉卷久二、中村トー、松嶋祐二、同蝶二、松嶋てうふ

三立目返し幸四郎良門にて酒呑童子の見へ保昌三十郎源の頼光訥升山伏姿布あらいの女紫若だんまり大出來四立目上るり不出五立目局見世おせん若紫三田の綱三津五郎六立目日下浄るり大づめ土蜘にて良門幸四郎四天王蜘退治の見へ何れも花々敷大出來也

○十一月廿三日より市村座「鬼切丸三升角鐔」臼井荒太郎貞光、能勢八郎、怪童丸、後に坂田公時、閣十郎、丹波太郎鬼門、山賤斧右衛門實は三田の仕、平井保昌、幸四郎、藤原の仲光、伊與太郎有國、鬼同丸實袴垂保輔、山かづ怪藏實三田源太廣綱、九藏、保昌娘小式部、粂三郎、田原之助千晴、升五郎、常陸之助平正盛、武者修行の無敵齋、菊四郎、仲光娘橋立、羅生門河岸の惣嫁おさよ、三之丞、坂戸九郎大峰の強力猪熊雷雲、勘八、賤女およし、茨木やゝへ女郎、遠里辰之助、萬大庵大器、三嶋の神職主水、大吉、石蜘法印、茨木や若者猪之助、馬平、保輔手下鬼藤吾、橘十郎、同照蔦松藤、市川蝠藏、女小性呉羽、三すじ、宗近弟靱負之助、多田の町饅頭や鳥飼蝶二、勘藏、舍人峰丸、照世、淡路守頼親、戻橋辻八卦阿邊の清兵衛、丹波百姓畔六、卜部の季武、冠十郎、大悲丸頼信、新之助、舍人大勢、丹波のおくり、紋三良、美女御前かし付夕ばへ、市川よさめ、同小ゆき、白之助、同小笹増之助、同深雪、いばらきや抱へ女郎幾野、升藏、樋瓜太郎、衛士五郎又、國十郎、加藤七郎國友、伊麗六、須藤六郎、衛士の次郎又、三藏、二の瀬源吾、願人霧現院、閣四郎、頼光妹美女御前、多田の藥師、水茶屋お組、橋之助、左大臣高藤卿、笛吹峠木樵栗の木又次、熊十郎、保昌妹東へ戻はし、廿酒屋女房お安實時行娘白きく、みんし、池田中納言息女花園姫、保昌妻五百機、一條の歌所紫式部、粂三郎、辰夜叉御前、鰕ざこ女房三日月長屋お仙、女六部無量尼、將門息女七綾姫、養由基息女桝花女、杜若、廻國修行者快山實將軍太郎良門、鹿嶋入道髭永、足柄山姥、肴賣鰕ざこの十、瀧や内舍人渡邊源次綱、海老藏、河内之介頼信、平井の渡し守庄吉實大宅太郎光任、桃園門前うつ飴や龜藏、攝津守源の頼光、羽左衛

門、第二ばんめ大切淨瑠理御取立に産湯の水市川流に杜若の色「大和讓の快童」怪童丸、團十郎、快藏、九藏、斧右衛門、幸四郎、山うば、海老藏、常磐津文字太夫、小文字太夫、組太夫三弦岸澤式佐、同三藏、市太郎、おはん長右衛門は其儘に興行す役わり前と同斷ゆへに爰略す狂言作者中村重助、篠田佐助、村柑子、本屋半七、齋周藏、津打治兵衛

三立目團十郎貞光にてしばらく辰夜叉うけ杜若、高藤熊十郎中うけ鯰坊主海老藏、仕丁大勢三階不殘同返し六部、海老藏女六部杜若、兩人だんまり評よし是よりおはん長右衛門石部の宿場二軒茶や四條河原帶屋の場次に大切山姥上るり何れも大出來なり

○十一月十三日より當顔見世狂言より河原崎座再興す大名題「世界平氏梅顔競」主馬の判官盛久、金賣橘次信高、ごろ付浮世伊之介實難波の六郎、彦三郎、五條坂遊君あこや、小野の賤女小雪、音羽湯のながしおさん實若草、菊次郎、八丁礫の喜平次、下部盛平實安達藤九郎、赤松屋龍三郎、團三郎、瀧口三郎春時、雁雜兵田五作、當十郎、近藤判官、音羽ゆ女ながしおきざ、佐十郎ふわ〳〵入道海月、箱虎、宰領角介、公、銀兵衛、權の太夫藤原の信つら、五條坂せげん勘六、てう十郎、勘解由次官助のり、五條坂茶や廻り音、大次郎、八木下八郎、善次、佃波七郎助國市川らい助、おんまよく市尾上音吉、坂部十郎近冬山科たい藏、丸野太郎浪行坂東藤橋、茶道入齋坂東つる助、中宮三郎國友、業八、河原崎座留場万次、又八、瀧野の平太友高、三九郎、音羽湯のゆ扱乘惣領駒右衛門、平賀次郎、五條坂の地廻りてんふらの富市川雜藏、景清一子あざ丸、新子、兵への佐賴朝、團十郎、牛若丸、新之助、廻國修行者典了實は多田藏人、向嶋武藏屋權三すけ團藏、鎭西八郎爲朝、木場嶋田町家主七左衛門、海老藏、女盜人塵布のお松、玉三郎、小舍人幾千代丸、猿藏、早川伊豫之助、五條坂酒や夜おかし六兵衛、七五郎、盛久の嫡子小四郎、澤村德之助、女小性りんや、澤平、侍平みゆき、三筋、同初しも、妻次郎、五條坂女髮結おはる、かてう、洲府太郎秀連、音羽ゆ下男綱六、岩五郎、加藤次景廉、赤松屋下男久助、たい助、娍早枝、おとはゆ下男百、曾呂平、天の藤内景光、家主彦左衛門、善好、新侍從信親、かし物屋娘おのへ市川德之助、伏見の次郎、料理人鐵、甚吉、讃

岐の局茂兵衛、女房お玉實は經遠妹雲井小川安之助、瀬の尾太郎、太鼓持あふむ吉兵衛、一友、景清小奴喜久平、金王丸昌俊、菊之助、長田の太郎忠宗、音羽湯の株主以春、友右衛門、盛久下部波平、阿波六郎重能、植木屋寺嶋の辰、松助、忠盛の後室池の禪尼、景清女房大澤のお竹、綿つみ女お丸、常世、よし朝妾内海、赤坂宿おじやれ、物見のお松、上總の七兵衛景清、音羽湯の茂兵衛實は惡源太義平、「播摩守平清盛」菊五郎、第貳番目御ひゐきより御差圖にまかせ「八陣守護城」[illegible]浦船の場由左衛門娘ひな衣、梅幸、由左衛門妻しがらみ、常世、柴田對馬之助、團三郎、山陰中納言滿忠卿、佐十郎、早川久馬、虎五郎、下部林平、ひな藏、宅間十郎、らい助、船森軍藤坂東又八、和田の七郎、染八、精谷平馬つる助、多賀の三郎、藤橘、姫紅葉、三すじ、同てり葉、かてう、蒲生主計之助、德之助、此村後室三浦安之助、鞠川玄蕃、北畠春雄、鄕友右衛門、森山左衛門晋成、彦三郎、蒲生飛騨守正清、團藏、大切淨るり通ひ廓も五條坂の「夕時雨一寸傘指盞」盛久、彦三郎、阿古や、菊次郎、景清、菊五郎、富本連中相勤番附にありて興行なく八陣と貳番目の間へ淨瑠璃「積戀雪關扉」すみ染、梅幸、宗貞、彦三郎、小町、菊次郎、關兵衛、海老藏、常磐津文字太夫、若太夫、岸太夫、岸澤式佐、文左衛門、市藏何れも大出來大當り

○四立目盛久非人の姿彦三郎廻國修行者行綱、團藏、遊君、あこや、菊次郎、景清、菊五郎、四人だんまり五立目景清廓通返し池の禪尼御殿場、次に八陣二た幕、貳番目音羽湯おさん茂兵衛大出來なり狂言作者寶田壽助、勝見てう三、松嶋半二、藤田左衛門由豐作福森吉助、鶴屋南北、三升屋二三治

役者ひめ飾に云、上上吉、市川壽美藏、上上吉中村千代飛助

錦車丈は幼年の頃高麗屋の御養子となられ子役にて評よく則幼名を市川高麗藏と名のられ讀打屏風滿に八才にて坊太郎の御役を勤られ其後市川新藏と改名ありて錦紅丈杜若丈御同道にて大坂表へも登られ尾州名古屋表へも度々御旅行あり其後又中山富三郎と名のり又々市川壽美藏と改られ殊に大達物ともなるべき處當年四十二才を一期として極樂淨土へ乘込れしは扨々殘念でムりました法名寺號等は追て二の替りに申上升す誠に泪の種でムり升した、千代飛助丈義も代々中村太夫元の御門弟に

て三階の頭を勤られ評宜しく且立師の名人にて身の軽き事飛鳥のごとく夫故千代飛助と名のられいつも大立者の相手は此仁に限り升たが是又極樂淨土へ趣かれ歌舞の菩薩の數に入しは殘念至極でムり升た兩人共におなじみ厚き各々樣何卒一偏の御ゑかうを偏に願上升す

觀すれば夢の世なれやわさをきの
過去の現世の二番目〳〵　五柳亭豐芥再誌

市川壽美藏俳名双松軒家名大見やと云　錦車事は寛政九丁巳年市川三太郎とて中村座へ初て出る享和元辛酉顔見世より高麗藏と改文化七庚午立役となり市川新藏と改文政五壬午年顔見世より中山富三郎と改名して木挽町河原崎座え下り天保元庚寅八月市川壽美藏改河原崎座海老藏同道にて下る顔見世より大名題へ上る

同中村千代飛助俳名龍蝶々後に嶋千改名す家名伊勢屋　享和三癸亥子役文化四丁卯年漸やく文政年中三階中頭文政十丁亥年より三階頭となる

大坂の名人古今稀人老功上上吉㊂片岡仁左衛門俳名我童家名松しま　享行年八十三才法號快翁院義敎日耀信士　天保八丁酉三月廿日此寺は中寺町業王寺

お人始中村十藏門人にて幼名中村松助と申升たが其後少し譯合有て先淺尾爲十郎門弟となられまして淺尾國五郎と改名其後苗字計り山澤とせられ又々元の淺尾と改天明八酉年に七代目片岡仁左衛門と改名致され升た「老人」我童丈を古今の稀人といふ筈じや初舞臺より一昨年迄七十年餘ついに此人は芝居興行中病氣で引れたといふ事は稀にて其上舞臺でふざけるといふ事なく藝道を大事にかけられたる冥加には三ヶ津の親玉となられました實に役者衆中の鑑ともなるべきは此人でムり升す「頭取」近頃嵐梅次郎丈を養子に貰はれ片岡我當と改名させられ此人は幼名市川新之助と申て子役の時より小手利にて中略藝の筋がよいゆへ追々御上達でよい繼木を致されたゆへ末頼母敷ぞんじ升處去春角の座二の替り「小倉色紙」に笹原右近之進、岸田十左衛門と番附には座頭にあれど出勤なく程のふ御死去でムり升たしかしながら我當丈や我升丈が居らるゝゆへ結構な葬禮にて則墓所は小橋にへ足場が遠ひに其道筋の人群集誠に人死がある程の見物でムり升た道は親玉〳〵此上は我當丈隨分出

精いたされ親御のよふに大立者になり玉へ 下略
若木をば植て榮へを松嶋や
心いそ／＼法の船路へ
釋敎順 大上上吉 俗名嵐璃寛
天保八年酉六月十三日本葬七月三日墓は千日、寺はうつぼ常源寺行年五十才
芳しき句は四方に立花の
嵐に此世猿の替紋
〔頭取〕此お人は故人嵐猪三郎丈門弟にて幼名嵐德三郎と申し其後嵐壽三郎と改名致され又元の德三郎と成江戸表へお勤の中十八年以前先の璃寛丈死去ゆへ呼戻され嵐橘三郎の名相續致され大芝居へ出勤にて文政十子年に嵐璃寛と改名「嵐組」座摩稲荷で目德／＼となられた時分から藝風の能役者であつた故段々昇進して三都の花方の惣大將になられました 下略 去春角の二の替り「小倉色紙」に笹原隼人「三吉狐、船頭平治大當り 中略 五月大西へ御出勤「乘合噺」民谷源八二三日御勤之處御病氣なるを押て勤大出來／＼切「戀の湊」に出村新兵衛 民や新兵衛松勢中略 本葬は七月三日璃寛丈大金もふけたお人ゆへ大はり込にて葬式不殘別誂にて角中表方衆にきびらの帷子に橘の紋を凡六七十人誂に立派にて其上芝居休の時ゆへ嵐家は申に不及玉助替り芝翫、歌右衛門始中村家其外與六、工左衛門中役衆迄で送りしゆへ大群集筆紙に盡しがたく前代未聞の事でムり升た

良山祇清信士 俗名嵐三五郎 天保八年酉六月廿九日、行年三十四才家名京屋俳名來芝寺は下寺町源聖寺 此人嵐雷來 來芝倅幼名三吉一鳳軒に聞しに親來芝と違ひ氣量よく藝の筋もよかりしと云々此人は親まさりになるべきものなり早世なりしは殘念なることゝかたられし

花江都歌舞妓年代記續編巻の十二

◉天保九戊戌年

○正月十五日より中村座「魁國曙曾我」曾我の十郎祐成、鬼王新左衛門、嶋の者伊八郎、八わたの三郎行氏、彦三郎、伊豆の次郎、近江小藤太、石部屋金兵衛、芝十郎、そが禪司坊、幸之進、若徒團助、松助、堤幸左衛門、盗人牛の五兵衛、菊四郎、大磯や才兵衛、蛇遣イお袖、森五郎、地獄清左衛門、盗人山姥の權、染五郎、大磯屋路考新八、友藏、安西彌七郎、桐藏、臼杵の八郎、富藏、海野太郎、音次郎、新貝の荒次郎、國次、申若切音、音吉、神主宮内京藏、甚五郎、弟子のみの八、三作、小藤太下部矢田平、千代藏、仲町のまわし市助、箱根の閑坊、岩五郎、本田の次郎、湯屋番頭平助、十藏、千壽君、實朝公、壽三郎、工藤左衛門祐經、仲町子供屋舞鶴屋傳三、赤澤十内、幸四郎、小林朝比奈、菊之助、梶原平三、堤伴五郎、善右衛門、大町の家主畑右衛門、大工勘六、曾呂平、水茶屋女おさは、紀久藏、工藤奥女中呉竹、升之助、舞鶴屋女房おかめ、粂本二階まわしおみつ、駒次郎、大磯屋仲居おやま、紋三郎、京の小次郎、女上るり竹染、七藏、大工小五郎兵衛、二の宮太郎、佐十郎、工藤奥女中宇佐み、お半母おかや、芝鶴、工藤こし元手越、稲の谷娘おはん、大磯や新造雪野、菊次郎、鬼王妹十六夜、甚五郎、女房おきぬ、仲町のげいしやその八、榮三郎、工藤奥方なぎの葉、鬼王女房月小夜、曾我五郎時宗、帶や長右衛門實は新藤徳次郎、揉りそうじ針の宗庵、彫物師後藤甚五郎、菊五郎、源頼家公、傳藏、第一番目六立目浄るり「浮名も今はしら涙の其道行にお半長右衛門帶文川傍柳」おはん、菊次郎、長右衛門、菊五郎、常磐津文字太夫、岡太夫、若太夫、三弦岸澤式佐、八五郎、壽助、三八、何れも大出來大當り、○正月廿二日より市村座「伊達競全盛曾我」關取絹川谷藏、羽生村の與右衛門、訥升、三浦の高尾、外記左衛門娘沖の井、玉三郎、井筒女之助、清十郎、大江の鬼連、庄屋權兵の承、熊十郎、黒澤官藏、家主市郎右衛門、勘八、道理之介妻此花、巴屋仲居おまき、辰之助、大場道益、大吉、仁木下部田五平、大次郎、鹽澤丹三、三藏、茶道順才、又八、鬼つら下部逸平、歌藏、土子泥之助、橋之助、鬼つら下部郡平、三造、同行平、千代藏、同德平、

和藏、同文字半、茂作、たいこきの八、音次郎、百姓甚五右衛門、こせ右衛門、村あるきかん太、肩藏、民部、子鶴松、照世、渡邊民部、豆腐や三郎兵衛、九藏、政岡一子千松、糸三郎、高尾禿みよし、絹吉、同ゆふしで、玉市、小性金彌、重吉、同千彌、三吉、禿みどり、澤平、けいせい常夏、賤女おそで、森次、けいせい葉山、瑠之助、同相木、かつ三、同千山、友三郎、齋藤藤次、紀次、神並丹左衛門、判人文吉、彦左衛門、持氏息女園生の前、巴屋仲居おとり、橋之助、山中鹿之助、所化南海、無理之助妹なにわ、巴屋女房おもと、みんし、百姓金五郎、調布豆太、友右衛門、鶴千代乳人政岡、與右衛門女房かさね、杜若、荒獅子男之助、嶋田重三郎、團十郎頭初座浮世渡平、足利左金吾頼兼、羽左衛門、曾我物語役わり曾我五郎時宗、九藏、同十郎祐成、家橘、工藤左衛門祐つね、訥升、箱王ばんめ大詰淨瑠璃御贔負由良愛に召れて庵の者「若木花容彩四季」工藤、訥升、五郎、九藏、十郎、羽左衛門、狐つりの對面替りて十六夜、訥升、團三郎、九藏、十內、羽左衛門三人仕丁の姿常磐津文字太夫、小文字太夫、駒太夫、三弦岸澤式佐、三藏、金藏、三八相勤○序幕青原茶屋やの場より頼兼高尾きぬ川大出來同

返し谷藏高尾殺し二幕目とうふ屋三幕目對面上るりの處大詰になる四幕目與右衛門、金五郎、三ぶ、かさね四人だんまり大々評よし五幕六幕與右衛門住家より土ばし累ころしまで何れも大出來大當り○正月五日より河原崎座「筆書始娑張曾我」「吉例曾我物語」「源平布引瀧」實もり、せの尾、海老藏、團藏一日替り「一谷嫩軍記」工藤左衛門、齋藤實盛、瀨の尾十郎、熊谷妻さがみ、鷺かき東の與四郎、秩父の重忠、團藏、曾我十郎、箱根の閉坊、木曾よし賢、高麗藏、鬼王新左衛門、八わた三郎、奴折平實は多田の藏人、源の義經、團三郎、小方・子太郎吉、新之助、近江の小藤太、伊豆の次郎祐兼、矢橋の二惣太、市友、八わた女房三浦、久喜万字女房おきん、小まん母およし、經盛御臺ふじの方、三之丞、本田の次郎、堤軍次、當十郎、大藤內成景、虎五郎、蒲の冠者、てう十郎、久喜岩若者源五郎、團四郎、梶原源太、銀兵衛、同平二、大次郎、百足や金兵衛、馬平、番場忠太、ひな藏、箱根の堂守とぢ坊、駒右衛門、愛甲三郎、善次、半澤六郎、三九郎、海野の太郎、らい助、御所の黒彌五、築八、久喜若者仁兵衛、大作、安西彌七郎、和田右衛門、次の又うん平、扇藏、竹の下

孫八左衛門、橘十郎、臼杵八郎、こせ右衛門、茶やまわり新助、善好、久喜やりておさい、たい助、景清一子あざ丸、猿藏、源の頼宗公、白助、久喜万字けいせい八ツ橋、升之丞、同織路、さゝ蔦、照尾、三すじ、同代な照、妻御せん、かてう、北條時忠息女玉おり姫、徳之助、久喜紅城実井、鬼王妹十六夜、九郎助、娘小まん、梅之丞、久喜傾城滝本、曾我の二の宮、松之助、化粧坂の少將、待宵姫り三右衛門、赤澤十内、百姓九郎助、有やみだ六、平山武者所、鬼十郎、秃たより、条三郎、大磯のとら久喜万字の瀧川實は同女房おきん實はあこや、紫君、舞鶴姫、条三郎、小はやし朝日奈、瀬の尾十郎、齋藤實もり、熊ヶ谷次郎直實、鶴かき榛沢の次郎作、久喜万字蘭蕎實は景清、海老藏、曾我五郎時宗、熊宮太夫あつ盛、熊谷小次郎、久喜のかゝへ五郎吉、因十郎、第弐ばん目浄るり〔貝風色相扇〕次郎作、海老藏、秃、条三郎、眞岡的、同藏、常磐津文字太夫小文字太夫連中相勤○布引三ノ口義賢館高麗藏評よし九郎助住家實盛、同小尾目倚り實もり同藏評よしせのを海老藏大によし一ノ谷組打陣屋何れも大出來第弐ばん目曾我の序まく久喜万字樓假宅の場結藏、高麗藏、秃、条三郎、久喜藤吉、海老藏、たき川、紫若、長吉、團十郎、樓上にて上るり常磐津文字太夫、式佐、文右衛門大出來大切對面大評判去天保八丁酉十月十五日角町より出火廓中類焼此節久喜假宅は深川新地大旭樓にて庭え潮入遊客爰に釣をするもふけあり當春は築山泉水新たに作り櫻樹多く植て諸客の案内いふばかりなし其節報條あり文句のみを左に出す○二月五日より第二ばん目序幕久喜万字假宅の場差出し上るり「」假宅の朝直し「字解中備」久喜万字實は景清、海老藏、久之助、条三郎、すけ成、高麗藏、長吉、團十郎常磐津連中大當り

（香蝶樓國貞の圖畧す）

久喜万字屋が假宅は深川なる古石場なり所の名に因み庭は石もて山を組あげ古木ながらに梅のあり高樓にはなほ見あぐるばかり藤の棚をゆひわたし盛りの頃は海原の浪こゝもとに寄かとうたがふ其うへにこの園の外なる池ある所を囲ひいれ櫻は更なり山吹つゝじ花ある木草をあまた植田にしのあへ物田樂なんど商ふかけ茶屋貸座敷すべて野邊

のさまをうつし池にのぞんで釣を垂木陰によりて花を愛こゝに遊べる客人の永き春日も飽ざるやうに意を用ひて作りたり嗚呼解語花の柳腰かゝい映せてしかなの類ひも口ふこゝちしつ昔に唄の揚屋に遊ぶ夢といふとも久喜楼の此庭もせにいかでかおよばん

人咲やかんじん万字の玉の春　白猿印

○三月七日より中村座「楼門詠千本」第一ばんめ第二番目役わり 此村大炊之助實は大明の宗蘇卿、石川五右衛門、梶原平三景時、大和國源九郎狐(下り)中村歌右衛門(よ實事當時俳名翫雀と云々)眞柴久次、すしや彌助、彦三郎、鮓屋彌左衛門、朝露市之頭、芝十郎、けいせい九重、すしや娘おさと、菊次郎、少納言時忠(下り)中村芝翫、酒井熊太郎(下り)濱尾與山、高山右膳(下り) 中村翫右衛門、錦川求馬、森五郎、笠倉段右衛門、轟大造、染五郎、奴関内、歌助、下市百姓友作、友蔵、同濃兵衛、伊賀六、米塚藤平、万九郎、植原伊織、三作、奴ふじ平、藤橋、同かね平、鐘蔵、同よし平、音吉、ろく平、三六、同鳥平、鷲助、同石平、イ四松、茶道珍才、大和助、三嶋植太夫、七五三蔵、左大臣朝方、儀右衛門、安徳大皇、壽三郎、蛇骨ばゝア實は岸田の局、幸四郎、早川高兵衛、三津五郎、權太一子善太、菊之助、峰森助六、岩五郎、たいこ喜作、十蔵、渚嶋文太(下り)鶴蔵、庄屋杢郎兵衛、曾呂平、六代御前、守之助、新造浮舟、きく代、同高尾、紋三郎、仲居おくめ、七蔵、同おくま實は彌十郎妹御、彌左衛門女房お幸、駒次郎、けいせい花橘(下り)歌さく、福島江則、佐十郎、猪熊大之進、歌助、筑紫權六、菊四郎、若葉の内侍、芝鶴、眞柴久秋、主馬小金吾、松助、大炊之助女房呉竹、權太女房小せん、染三郎、静御せん、眞柴大領久吉、奴矢田平、いがみの權太、菊五郎、五右衛門、一子五郎市、傳蔵、第二番目三幕目浄瑠璃([illegible])「初音旅梅宿」しづか、梅幸、忠のぶ、歌右衛門、常木豊前太夫、大和太夫、八百太夫、三弦名見崎徳治([illegible])常木豊様、同梅次 上るり 竹本イ蔓太夫、同嶋太夫、三弦金澤左衛門、同大助相勤 大切所作事([illegible])二幅對和歌姿富常磐津文字太夫、若太夫、駒太夫、三弦岸澤式佐熊八、岸澤八五郎、金(印)祇園守太夫、同歌雄重太夫、同綾歌太夫、名歌太夫、三弦祇園民兵衛、同文蔵、同藤造、長唄富士田千蔵、同吉四郎、同安五四郎、同喜之助、松本鐵五郎、三味線杵屋六左衛門、同六四郎、榮

藏、宗五郎、喜三郎、笛住田又兵衛、同住田卯之助、小つゞみ大西藤藏、大つゞみ田中傳次郎、たいこ坂田重兵衛、同重内、長うた吉住小三二、三弦杵屋勝五郎小つゞみ田中傳右衛門、ふり付藤間勘十郎、同男女太郎、一舊妓の花の宴、一俳師の花の葉、一狂亂の花軍、所作事中村歌右衛門相勤何れも大出來大當り○瀧雀久々にて下り五右衛門評よけれど若者程になく宋蘇卿初よりむほん人の如く二ばんめ隱はら忠信大切所作事まで中評なり○三月三日より市村座「柳櫻寫繪加賀骨」多賀大領、若徒鳥居捌助、長谷部十左衛門、諸升、本屋妻あづま、しまや娘おかに、玉三郎、高橋數馬、満十郎、鹽江一角、志摩や後家おくま、熊十郎、安達貴伯、しまや手代宗八、勘八、奥女中千早女髮結お安、辰之助、古手や金七、大吉、米や太郎助、大次郎、香川軍平、三藏、柏木曾平、又八、櫻井新吾、歌藏、梁川喜藤次、橋十郎、梅園若菅方九郎、臺五郎、奴伊平、相藏、多春公八しな八、松藏、地廻り花川戸の長吉右衛門、同山の宿の三、正藏、中間權内、三作、同權平、小性左門、玉市、奥小性金彌、条三郎、多賀犬清、籠助、小性左門、三吉、蔦屋でつちかん太、澤平、長安寺の望月後望月帶刀、ゆしまの三吉、泉の小次郎、九藏、奥女中若葉、かつみ、同初音、菊壽、若葉瑠之助、飛鳥川勇藏、紀次、奥女中左枝、梅園娘分おとく、春次、家主李兵衛、上野町の道具屋喜兵衛、彦左衛門、大江息女紅梅姫、淺草楊枝店おふさ、橘之助、花房主水、名川隼人之助、勘藏、奥女中伏屋、志摩や下女およし、みんし、平野官兵衛、中間□□大藏後谷邦手下簇魔仁三、友右衛門、長安寺の尼松林比丘、かゞの千代、水仕女おまつ、藤房の息女花町姫、杜若、北條泰時、團十郎、花房求馬、本屋辰五郎實は谷邦太郎冠者、太郎經行、源頼朝公、羽左衛門、第一番目二ばん目の間にて所作事頭も彌生は御男寄せて集し花の宴「内裡模樣源氏紫」足利尙久、石堂勘解由、誹升、女小性たそがれ、明石樓娘分おすま、玉三郎、官女風月、みんし、同花鳥、橘之助、赤松主計、げいしや仲吉、九藏、仕丁泥藏、友右衛門、仁木惟吉、籠助、義政妾ふじの方、白拍子あやめ、杜若、足利義尙、三津五郎、娘かつら子左金吾光氏、羽左衛門、淨るり常磐津文字太夫、同小文字太夫、組太夫、岸澤式佐、三藏、三八、文字八、長唄岡安喜代八、芳村伊千五郎、松永鐵五郎、岡安喜代藏、同喜平次、三弦杵屋六三郎、同和

七、同和三郎、同和市、同六之助、ふへ二見太市、同住田安太郎、小つゝみ稲原百吉、同長藏、大つゝみ稲原門左衛門、同染吉、たいこ太田市兵衛、同二見方吉、ふり付松本五郎市、花川保十郎、ふへ菊川幸吉、たいこ稲原百之助、ふり付西川扇藏、小つゝみ寶山左衛門、三味線杵や勝左衛門、同和吉○第壹ばんめから騷動何れも評よく、田舍源氏の上るり内裡雛五人ばやし所作事がんどう返し大仕掛古今大當り○是「田舍源氏」の役わりにて仕組し初めなり、柳亭足薪翁戲作の内第一の大當りにて當年は廿五編迄合廿六編松風廿七編薄雲の卷迄以上三綴出板せり、此度古今稀成る大當りは全く柳亭先生の功なるべし○四月廿七日より「本朝廿四孝」白須賀六郎、訥升、慶元湍衣、玉三郎、原小文次、清十郎、長岡八郎、熊十郎、三條の五郎、勘八、妼野分、扇之助、同狐、かつみ、長尾三郎景勝、九藏、こし元初霜、菊壽、深ゆき、唯之助、山形源吾、彦左衛門、更科七郎、勘藏、花守關兵衛實齋藤道三、友右衛門、長尾謙信、三津五郎、八重垣姫、杜若、鬼見島彌太郎、團十郎、花作りみの作實は武田勝頼、羽左衛門、淨るり竹本三輪太夫、三弦野澤小作

右狂言二番目大切に差出し第一番目より紫宸殿是迄之通

○三月廿一より河原崎座「菅原傳授手習鑑」菅相丞、荒藤太武國、團藏、藤原の時平公、幸四郎、舍人梅王丸、高麗藏、判官代照國、團三郎、松王一子小太郎、新之助、左中辨希世、市友、梅王女房はる、あやめ(梅之丞事改)くりから太郎、當十郎、みよし清つら、虎五郎、似迎ひ彌藤次、てう十郎、荒島主税、團四郎、奴宅内、下男三助、箱猿(銀兵衛事改名)よだれくり、玉猿(馬平事改)百姓與五兵衛、廣五郎、仕丁又六、ひな藏、かなぼう引、音又、駒右衛門、百姓七兵衛、善次、同八之進、築八仕丁四郎又、大作、船頭なだ八、元藏、同浪六、冠藏、菅秀才、福之助、舍人みどり丸、猿藏、百姓白太夫、武部源藏、三十郎、宿禰太郎、八十助、てならい子長松、紫子松、御臺花園御せん、紫妻、妼彌生、槌之助、伊豫の局、たい助、百姓十作、勘左衛門、こし元初音、ます壽、同よしの、三すじ、同はつせ、勝次郎、同かつ野、齋世親王、德之助、かりや姫、下り市川升之丞、たつたのまへ、松之助、源藏女房戸浪、櫻丸女房八重、龜之丞、土師の兵衛、春藤玄蕃、冠十郎、賤女おまつ、舍人櫻丸、松王女房千代、紫若、

女の童いくよ、粂三郎、小鳥黄次郎作、後室覺壽、舍人松王丸、海老藏、舍人松王丸、金剛太郎定照、團十郎○四月十四日より「檀浦兜軍記」琴責之段けいせいあこや、團藏、景きよ幸四郎、半澤六郎成清、團三郎、奴可内、虎五郎、同關内、こう十郎、同道内、團四郎、同吉内、箱讃、岩永左衛門宗連、三十郎、平家の公達保童丸、新之助、景清娘人丸、升之助、同角文、大日坊冠十郎、重忠の方衣笠、紫若、秩父の庄司重忠、海老藏、本田乙次郎近常、團十郎○閏四月十四日より「本朝綺娘好」第二番目三幕尾花六郎右衛門、團藏、伯屋喜藏、あわしま修行者太郎作、高麗藏、尾花下部要助、團三郎、城木やでっち傳吉、新之助、道具屋定吉、市冬、醫者絹あん、虎五郎、熊田郷藤八、てう十郎、雀葉や料理人伊之助、團四郎、同下女おとめ、箱讃、同若者、紫藏、元藏、城木や手代長八、重藏、紫若の返り竹、廣五郎、河合前仕切場幸吉、ひな藏、非人ごん、駒右衛門、同源、喜六、同きん、築八、飴かき八、大作、同甚、鶴助、早枝竹千代丸、猿藏、三十間堀材木屋かゝや佐八、三十郎、西の宮でっち若吉、嘉之助、ほうらいや若者作吉、冠藏、非人米、杉藏、同十、馬藏、おこま母おつね、紫妻、川しま娘分おみつ、三すじ家主杢郎兵衛、たい助、城木や手代喜六、勘左衛門、げいしやおはな、德之助、ほうらいや娘おかね、升之丞、おこま待仕おたま、松之助、奥女中竹川篠之丞、占者秋月一角、八十助、城木や手代丈八、冠十郎、しろきや娘おこま、紫若、友達娘おひさ、粂三郎、髮結壽のゑびの才三實は尾花甚三、海老藏、香屋三筋の綱、團十郎、第二番目二幕目淨瑠璃あい〳〵と聞見合せて田植かな「紫牡丹絲艶道行」おこま、紫若、あわしま、高麗藏、才三、海老藏◇深見五郎太夫、七郎太夫、同三郎太夫、三絃深見東三郎、紫五郎、同源次郎相勤同大切時鳥一二の聲の夜明かな「夏雨油袖浦」おこま、紫若、富本豊前太夫、合志太夫、三絃富本豊柳、上てうし名見崎友治相勤皆々大出來評判よし○閏四月十二日より中村座「文武藏[illegible]」宮本友次郎後武者修行無三四、吉岡太郎右衛門、歌右衛門、賤女小よし實は雪の精、梅幸、宮本武左衛門、名嶋の百姓十兵衛、若徒眞五郎、彥三郎、花守官次郎、高麗藏、けいせい櫻木、菊次郎、岡田林左衛門、なあら坊若松、東山、津島の一子福丸、玉太郎、百濟典膳多山源藏、歌助、甲利彈太郎、七助、娘おしな、歌菊、醫者滸あん、鶴藏、白倉傳之丞、森

五郎、川上瀬平、桒五郎、山賊鐵八、雀五郎、亀洲方右衛門、駒助、岩くら瀧兵衛、伊隠六、ほうらいや亀八、七五三藏、駕かきすけ、富藏、神間蛸平、柳藏、同鯱平、團次、永嶋藤三郎、藤橋、門番常太、菅吉、爪の喜六、儀右衛門、福島一子多門丸、菊之助、佐藤貢之助正清、幸四郎、菖蒲うりの鶴、壽三郎、軒合權藏、曾呂平、竹下久之進、三六、仲間左義助、鶯助、百姓杢兵衛、イ四郎、同作四郎、川崎矢五七、高の藏、石垣蟹丸、岩五郎、茶屋娘おぶん、菊代、三右衛門娘さつき、七藏、傾城裏梅、勘次郎、庄屋六兵衛、流右衛門、近藤蝸丸、鴫見三右衛門、佐十郎、佐藤息女葉末姫、松之助、熊澤甚之丞、傳五右衛門女房おかのや、菊四郎、奥女中笹生、芝觸、十兵衛妹おひさ、粂三郎、宇佐美主水之助、名島の百姓三四郎、松助、白倉傳五右衛門、森本義太夫、名島の百姓七助、芝十郎、佐藤貝方清瀧、常世、蓬莱や伸居おいわ、傳右衛門娘糸はぎ、紫若、佐々木官吾後一刀軒巖流、笠原隨軒齋、菊五郎、宮田修理之助、傳藏、いづれも評判よし○閏四月十五日より市村座「巌皮里見八熟梅」犬塚信乃戍孝、赤岩一角妻船虫實ハ玉章姉文字野、髪ゆい尺八の力次郎、金碗八郎孝よし、蝎升、里見

息女伏姫、玉還のかゝへひな衣、蟇六娘はまじ、玉三郎、里見次郎義成、蟹崎十郎照文、清十郎、陣代氷上久六、横堀軍次、有村熊十郎、軍木五倍次、甚太郎、女房おさは、勘八、犬塚下女およし、蘆尾村のお玉、辰之助、庚申山案内者もず平、大吉、手兒奈の五郎、狩人柚木ぼく平、大次郎、戸田の土太郎、百姓豐作、三藏、狩人むく平、腹ばし伊太郎、又八、戸田の渡守安平、橘十郎、畑上五郎次、三平、玉還の若者喜七、万九郎、團藏、百姓あせ六、松藏、同田八、同次郎、同はら六、正藏、同黑八、仙平、柚よき八、子之助、同斧藏、茂々十郎、里の子よし松、三吉、同館松、澤平、童團松、綱吉、同しげ松、重吉、同五郎吉、勝次郎、草刈童里松、玉市、犬塚小者額藏實ハ犬川莊助義任、浪人左母次郎、市川の舟主山林房八、犬山道節忠與、山藤中將則房實ハ山下柵左衛門定包、丸藏、早乙女おはや、大三郎、妼青葉、菊江、同ゆかり、菊吉、同若苗、扇之助、同若葉、增之助、幸川臺八、こし元阜月、紀次、奥女中小はぎ、早乙女おしな、森次、百姓甚太郎、犬塚下男脊助、濱左衛門、堀内藏人貞行、蟇六妻龜笹、才三郎、犬飼現八女房お松、赤岩妼卯の花、橘之助、金まり大助孝德、犬塚村百姓ぬか助、

勘藏、馬加大記當武、庄屋犬塚蟇六、古彦山一當太、友右衛門、犬江親平仁、いせ參りみの吉、賓助、里見の後室五十子御前、獅子毛の實犬飼毛野胤智、在所娘おたね、杜若、犬塚番作一戍、荷德はたこ九、古那屋文五兵衛、三津五郎、足利成氏、犬村角太郎禮儀、犬田小文吾悌順、犬飼現八信道、里見次部輔義實、羽左衛門、當狂言より寛十郎出勤番作、道循相勤「本朝廿四孝」は其まゝ興行す第四段目狐火のだん岩井杜若相勤何れも大出來

○里見八犬傳 此度貳度目大入 大當り 然れ共狂言は以前の方仕組宜し ○五月朔日より 河原崎座「惡閒雨鉢木」泉の小次郎、紀の國屋文左衛門、狩野兵衛ス團藏、源左衛門妻白妙、粂本娘分お仲 下り淺尾勇次郎（大坂若女方實川額十郎替） 弓削大助、狩野次郎左衛門、高麗藏、若徒勇助、三河屋市鶴、原田六郎女房、岡三郎、源左衛門子梅丸、箱之助、同松千代、猿藏、同櫻子、福之助、宗兵衛下部五百平、市友、二階堂息女玉章、仲町げい者粂吉、升之丞、衣笠兵馬鬼武、虎五郎、和田主計之助、池澤屋喜三郎、てう十郎、須山大炊之助、仲町まわし佐助、川藏、眞柄舍人之助、箱猿、建長寺眞嶺禪師、廣五郎、西の宮手代喜八、舟橋下部厂助、玉猿、男達鳫金文七、市友、同安の平兵衛、虎五郎、布袋市右衛門、箱猿、極印千右衛門、廣五郎、同雷庄九郎、勘左衛門、熊川うん八、駒右衛門、呉ふくや重右衛門、喜次、道具屋平八、らい助、たいこ持都卒中、團六、建長寺所化雲哲、大作、同妙哲、延藏、雁下女お市、鶴助、犬上郡次兵衛、十藏、千葉之助胤直、桝十郎、肽遣ひ万元藏、松坂屋吉兵衛、扇藏、ちゞみや七郎兵衛、たい助、鞠子圖書之助、勘左衛門、北條左門之助時宗、玉吉のおはま、紫妻、粂本娘分おけん、ます壽、娘さつき、友三郎、粂本娘分おとみ、三すじ、紀文の下女およし、かなめ、狩野の下女おまき、こちやの女房おきさ、みしん、二階堂左京常秀、八十助、狩野源藤太、三浦の前司泰村、舟橋の次郎左衛門、冠十郎、源左衛門妻玉笠、奥女中八ッはし、紫三郎、こちや娘お熊、粂三郎、舟頭わしの長吉、千葉家中玉章、長五郎、狩野源左衛門經世、海老藏、肴うり十、志喜孫三郎、團九郎 大出來大當り○五月十三日より市村座（浦島の古事も語り傳へし徒娘花菖蒲引ん女し力業）「命懸色の二番目」浦島太郎作、訥升、漁師網藏、三平、同梶六、三作、同沖七、吾次郎、同波八、仙平、同岩吉、正藏、六浦

の灘藏、九藏、庄屋万作、松藏、野上の五郎子の助、り
やうし汐九郎、彥左衞門、女達雷のお鶴後に浦島女房
岩がね、杜若、齋藤吾國武、團十郎、女鬢もしほ實は
龍宮城の乙姬、源の賴家公、羽左衞門、何れも評よし
○六月十八日より中村座「音菊家怪談（おとにきくいへのばけもの）」吉岡宗觀、
奴岡平、細川政元、浮世又平、彥三郎、けいせい遠山
かつらぎ御前、げいしや小さん、菊次郎、長谷部雲南、
羽生屋助四郎、奥山、山名左衞門世繼賴平、歌助、桂
之助義延、甚吉、山住伊平太、鶴藏、質屋利兵衞、森五
郎、船長[illegible]六、染五郎、金魚屋銀八、鶴五郎、奴成平、
駒助、船増屋か丶へ、おやま、伊麗六、中間可助、七五
三藏、同與吾內、富藏、非人のら兼、國藏、同化岩、藤
橋、増屋八兵衞、義右衞門女小性鶴次、壽三郎 小奴瀧
平、菊之助、見世物師富六、會呂平、娵さきの、友三郎、
そば賣仁八、イ四郎、船増屋か丶へおつね、高の藏、是
輕權平、岩五郎、いてうの前、七藏、こし元御垣、駒次
郎、石崎源十郎、佐十郎、奴磯平、雷助、菜門兵衞、重
井筒の妙林、菊四郎、おくに御前、水茶やおみや、芝
鶴、名古屋山三、箱まわしの金五郎、松助、宗輔夏夕
浪、遠山姉お澤、常世、重井筒のかさね、同ゆふ魂、狩
野四郎次郎元信、天竺德兵衞、座頭德市、不破伴左衞
門實は大明の賊首大日丸、木下川與右衞門、菊五郎、
佐々羅三八、傳藏
第一番目天竺德兵衞座頭德市貳ばんめ與右衞門か
さね早替り是迄之通いつもながら大入大當り夏狂
言中歌右衞門入湯にて出勤なし
○七月九日より夏狂言河原崎座「晴皷雲井曲（はれわたるくもゐのきよく）」はつ
たん役わりかどわかし五四郎、友右衞門、奥田主殿、
てう十郎、大內之助義治、川藏、右門悴富士太郎、三
吉、同妹小ゆき、團九郎、次部太夫娘櫻子、團七、庄屋
七郎兵衞、扇藏、馬士兵六、元藏、質や利八、三藏、馬士
強四郎、箱猿、浪人富士右門、九藏、此間七ヶ年相立
狂言富士太郎妻櫻染、櫻間左衞門言號お國、けいせい
浪江、榮三郎、馬士五四郎後に非人阿彌陀坊、淺間左
衞門母從原、友右衞門、富士太郎一子榮太郎、新之助、
馬士かん太、室積平馬、市友、大內息女吉野の前、けい
せい八重梅、升之丞、局朝しも、井崎佐仲、虎五郎、奥
田主殿、てう十郎、大內之助、神原左膳、川藏、父鬼伴
藏、巴や惣八、箱猿、吾妻丹下、堤武左衞門、尼信德、
廣五郎、奴くに平、狩人茂作、三藏、是利義若丸、猿藏、

小性左門、万吉、狩人勘作、船頭三保の鶴、玉猿、津守彌平次、狩人甚作、茂々十郎、同岩作、飛脚時助、駒右衛門、大島段次、善次、家主丈助、駕かき傳六、らい助、同太十、轟軍次、團六、狩人鹿作、下女おとは、鶴助、矢谷傳八、順禮芝右衛門、大作、下部がん助、音次郎、猿まわし與四郎、扇藏、小性紋彌、三吉、禿たより、福之助、同よすが、桝之助、醫者玄伯、たい助、腰元初音、仲居おとま、三筋、同おつね、娵せきや、尊之助、同おせん、仲居おつる、かなめ、同おはな、こし元おのぶ、ますや、水茶やおとも、巴屋おしま、徳之助、大内の妹姫にしきのまへ、条三郎、右門妻三寒、同娘小ゆき、後けいせい浪路、勇次郎、富士右衛門知之、富士太郎知一、橋本治部太夫、九藏、奴袖助、髪結三すじの綱五郎、團十郎、しなのゝ助實は淺間左衛門、海老藏當狂言大出來大當り

第一番目二幕目舞樂問答

△淺間左衛門照行、市川海老藏
×富士右衛門知一、市川九藏　カケ合せりふ

×いかに照行承れ元來其方が家は四天王寺の樂官なれば當社の舞樂を勤むべき者にあらずしかるにおして乞望はこれふしんの第一 △事新敷申分そも舞樂のらんじやうは唐士舜の後八子始てこれを制作あるわが日本に傳へしは推古天皇二十年秦の川勝せうらいして夫よりいらい今にいたり富士淺間東儀なん、ど十七家に別れたれども傳ふるみちは只一筋むやくの論談片腹いたひ ×今御邊が申ごとく天王寺の伶人は唐士の伎樂を傳へ異國の道をまなぶといへどもわが住吉の樂官は忝も神の御末天の岩戸の神樂にもとづきまことをてらす末世の鏡佛道をもつてほんとするお身達がしることならず △かみと佛は水波にたとへ神道正直にもとづけば釋迦眞實の理をとき給ふいわんや照行幼少より藝道に心をゆだね晝夜たんれんおこたりなく磨けば光る玉鉾の唯一神道かぐらの奥儀しらぬと思ふは俗にいふ井の内の蛙りやうけん近頃もつてそこつ千万 ×道の左衛門あつぱれの心懸しかし春日八幡にことかわり當住吉の神樂にかぎり太鼓をのぞき用ひざるは是則神秘の大事さほどしたつる左衛門けふの舞樂にアノごとく太鼓をかざり用ゆるはしんりよに違ふふしんの一ツたゞし又所存あつてか此返答がサ、承りたい △太鼓の形は圓にして日本のかゞみにかたどる則神の御正體撥をあげて是をうて

ば鏡に表を打も同然此理をもつて神樂には太皷を除用ざれども管絃舞樂は異朝の伎藝さすれば太皷を用ゆるをひがこととは申され升まい×尤の一言なれども舞樂の大事は太皷にありかぐらは笛を本とする心がけはあるまい〳〵△神代の昔大和の國天のかぐ山の竹をとりて雌雄二管の笛を制す是我朝のきほんとなる×しからば太皷のおもて皮は△大陽の形なり×シテ呂律にはいとうすれば△九々の數にて神佃調×裏皮は陰にぞくし△六々とかぞふれば黄色調のしらべにあたる×撥頭の極意はいかに△佛家にいわゆる阿吽の二點×左りをあげて打時は△東に寄て火德を治め×右をしづめてひかふるは△西にあたつて水氣をよぶ×三ッ巴をゑがく古實は△日月星の三光を智仁勇の三ッにかたどり二六時中の時をしらしめあるひは軍に隊伍をさだむまだ此外に妙用口傳青海波の浪がしら竹林樂の風の音御ふしんの事あらばこのざをさらずおたづねあれつまびらかにかたつてお聞せ申さん右門殿此照行がかくごのほどかくの通でムらふかひ

是より淺間左衞門右門を打て立退樂用して髮の毛白髮となりすかたをかへ占者になり奴袖助返り打し六幕目淺間左衞門けいせい浪路を見そめ壬生狂言の學びにて鉦と太皷の打込兩人無言の仕打大出來なり七幕目茶や場八幕目左衞門母うばら友右衞門一ッ家のばゝア大出來大切敵打まで大當り

○八月十五日より「日高川入相花王(ひだかゞはいりあひざくら)」大作、女房おせつ、白川の安珍實は花王太親王、榮三郎、眞那古の庄司、鑄物師四十次、友右衞門、鹿瀨十太、市友、實賴息女おだ卷、升之丞、蘭監物、虎五郎、同宿かくれん坊、廣五郎、くげん坊、三藏、同六尺坊、玉猿、醫者貧德、茂々十郎、禰田平馬、善次、同宿九年坊、駒右衞門、同さくらん坊、らい助、同とんきよ坊、團六、鑄物師甚九、元藏、同段八、晉十郎、秦の小次郎、新之助、四ッ塚大作實は伊豫掾純友、剛寂僧都、海老藏、經基一子經若、猿藏、大作一子力松、團九郎、將門一子駒王丸、新子でつち長太郎、三平、百姓出來作、大作、同くわ作、扇藏、松崎村の李右衞門、鶴助、道成寺瑞光上人、たい助、妣おまつ、三すじ、同おしも、專之助、同おゆき、かなめ、下女おらち、德之助、經基妻眞弓、時綱妹夕しも、勇次郎、六孫王經基、庄司娘清姬、田原藤太秀

郷、九藏、田原之助千晴、團十郎、大切（いそけども心三らいさくら哉）「道行戀別路」あんちん、榮三郎、おだまき姬、升五郎、庄司娘清姬、九藏、常磐津文字太夫、同小文字太夫、吾妻太夫、三絃岸澤式佐、文左衛門、重五郎、市藏、相勤三ノ切鑄物師大作實はすみ友、腹切四段目庄司住家之段閨寢僧祐請嬉しつとにて鐘を面に當鬼女の形のうつるを見て安珍のあとをしたひ日高川に來り渡し船を呼し渡さゞりしかば川へざんぶと飛込幕次道成寺の幕大出來なり〇九月朔日より中村座「鬼一法眼三略卷」吉岡鬼一法眼、青駕山の鬼若丸、一條大藏卿、歌右衛門、吉岡鬼次郎、奴智惠內實は喜三太、彥三郎、新大納言成忠、松助、鬼一娘皆鶴姬、菊次郎、廣盛一子若千代、井氣奈通安、與由、市原團平平廣盛、歌助、維慶阿闍梨、佐十郎、盧源吾、鶴藏、平の宗盛、兒瀧千代、伊賀六、同さぎ丸、實助、同鶴丸、藤橘、所化鼓名、團六、同傳濟、玉六、法順、イ四郎、寒丁、木藏、才黑、淺之助、奴丸平、儀右衛門、淺黃判官、曾呂平、瀧口の貢、玉太郎、源の乙吉、壽三郎、主馬小金吾、菊之助、九條の次郎、岩五郎、兒市丸、市松、同梅千代梅之助、すゞの若、駒次郎、同園千代、瀧右衛門、同穗丸、甚吉、

笠原たん海、菊四郎、鬼二郎女房お京、芝鶴、勘解由女房なるせ、つね世、中納言時忠卿、芝十郎、常磐御前、下部とら藏實は牛若丸、安藝守淸盛、菊五郎、兒松王、こでい傳藏、第二番目「女房盛中山兵衛」梅の由兵衛、歌右衛門、信樂勘十郎、源兵衛堀の源兵衛、彥三郎、山崎與五郎、松助、米屋娘おきみ、菊次郎、非人どぶ六、與由、山崎與兵衛、歌助、米屋仁右衛門、佐十郎、醫者三り久庵、鶴藏、判人さど七、鶴五郎、手代善六、廣五郎、賣脇伴五郎、駒助、野手の三、伊之六、料理人兼吉、藤橘、神田の勘、八木藏、構中李兵衛、イ四郎、大黑や若者、德平、三六、同彌助、相藏、手代權九郎、儀右衛門、隼人之助、丁子庄太郎、玉太郎、植木屋善五郎、菊之助、下駄の市、岩五郎、でつち長郎吉、市松、いせ參り松太郎、淺之助、大黑や下女おしげ、梅之助、奧女中關屋、駒次郎、けいしやおてる、歌菊、赤手拭の長五郎、菊四郎、下女おたけ、芝鶴、大黑屋女房おもせ、常世、幻竹右衛門、芝十郎、由兵衛、女房小梅、米や丁稚長吉、肴賣三五郎、菊五郎

第壹ばん目大切「橋辨慶」牛若、菊五郎怪我を致し二ばん目由兵衛與行無之「伊勢音頭戀寢刃」福おか

貢、歌右衛門、料理人左膳、喜助、彦三郎、万次郎、松助、油やおこん菊次郎、正直正太夫、米平、仲居おしか、奥山、藍玉屋北六、歌助、相の山おたま、木藏、同おすぎ、三六、杢大夫、イ四郎、左助、相藏、定六、今六、金兵衛、義右衛門、次郎助、岩五郎、つたの淺之助、せんの増吉、神女さかきおきし、歌菊、てり葉、壽三郎、主ぜん、森五郎、さよぢ、市右衛門、靭負、鶴助、文太夫、鷺助、主計國次、大藏、鶴藏、つたの義之助、よしの、芝鶴、さきの、駒次郎、まんの、角太郎、菊四郎、何れも大出來

○九月十七日より**河原崎座**（天文より天正十年迄五十ヶ年之間を新狂言大道具大仕かけに仕奉入御覽に候）「繪本大當記（ゑほんたいとうき）」浮世風呂娘おとは、齋藤娘辰姫、東吉、女房おきく紫若、几帳の前、榮三郎、安田宅兵衛、浮世風呂のおつめ、友右衛門、武智十次郎光義、新之助、松永鬼藤太、市友、狩の丶助直信、升之丞、淺倉義景、宅間左衛門信盛、虎五郎、三好修理之助、淺山多三郎、てう十郎、足利義てる、長尾彌太郎、川藏、山内玄蕃、浮世風呂の下女おすま、箱猿、柴田權六勝重、乾丹藏、廣五郎、石原新吾、堀井久太郎、三藏、川島忠次、左官馬六、玉猿、福富平馬、山熊太郎、茂々十郎、森の力丸、猿藏、光秀女房さつき、小栗栖の賤女おやゑ、狩野の雪姫、杜若、松永大膳久秀、山口九郎次郎、武智十兵衛光秀、海老藏、森の坊丸、粂三郎、本能寺日和上人、鯛助、淺山多三、妹立田、妻次郎、日雇頭市助、扇藏、大工伴兵衛、駒右衛門、同吉六、善次、茶道珍才、らい助、足輕瀬平、團六、百姓芝十、大作、大工吉兵衛、鶴助、辷山藤吉、元藏、矢代丈助妹みゆき、みすじ、けいせい花橘、らん丸妹若葉、かなめ、こし元もみぢ、浮世風呂下女小磯、ます壽、慶壽院光秀、妹桔梗、德之助、園生の局光秀、丹みさほ、勇次郎、小田上總之助春永、此下東吉久吉、九藏、加藤虎之助正清、森の蘭丸、團十郎、第二ばん目は日高川四段目の口切道成寺上るり迄興行何れも大出來大當り○十一月五日より**中村座**（尾上菊五郎一世一代御名殘）「一世一代功力妙法字（いつせいちだいくりきのあうのじ）」廣宣流布四番續

第一二の巻は捻つて曰　奥女中のやの字結縁にし嬉しき
一夜泊は有難　中山御代拜

第三四の巻和して言　仇名女房の心配さつと時雨に篤
濡るゝといふは有難　堀内百度參

第五六の巻譬へて觀　徒娘の珠數の房も戀の願ひに歩はだし
テモ御利益は有難　池上戀龍詣

姿はづかし姫君の
蝶にはあらで物狂ひ

小春月とは有難　身延法恩忌

第七八の巻
略して解

○第一番目二番目役人替名舟守彌三郎、法花長吉、靑砥五郎、藤壽法印、肥前坊後に日朗法師、歌右衛門、三國太夫賴國、極樂の家主南無七、四條金吾より基、彥三郎、日蓮弟子日法、彌三郎、弟彌作、松助、三國娩織江、彌三郎女房おかぢ、一心太郎娘おぬい實は波木井息女、塚原勘作女房おでん、菊次郎、日蓮弟子日像、勘作悴經市、菊之助、波木井の庄司、平賀太郎、阿佛坊、七五郎、石井三郎長勝、女非人おくま、桂大之進重行、佐十郎、鰐口入道雲海、長瀬の六郎、鶴藏、岩瀬臺藏、いしや中山道庵、森五郎、名越の太郎、看眼遠量曉、市右衛門、嚊鼻扇風柳見せ物師家十、伊麗六、三川屋剛助、鷲助、大月七郎治定、相藏、繪師樽居の龜三六、松田藤吾、藤橘、漁し沖六、木藏、牛頭の九郎又、國次、馬頭の耳又、つる助、仕丁次郎又、杉藏、婚魔王、渡邊の十郎、義右衛門、小姓右門、日勝、同左門、成右衛門、里の子芝松、成子、同駒松、万作、守松、七十郎、山王の靈猿壽三郎、貫名八郎重政、木場成田屋七左衛門、升谷太郎左衛門スケ海老藏、彌三郎娘おふね、主太郎、里の子ぬり松、桝太郎、鶴松、兒歌、同よし松、駒吉、目下り小僧太、徭八、貫名一子寶丸、市升、娩初雁、淺之助、同花咲、仙之助、小川の下女お花、梅之助、岩淵丹下、勝沼武藤太、岩五郎、極樂寺所化榮林、非人六浦の辰、曾呂平、奥女中駒はし、波木井の娩小濱、堀の內小川の女房おゆき、駒次郎、常破梨眞曉、依知の三郎、徭右衛門、題目太郎、本間六郎、兵衛善好、石和の小三郎、麻屋でっち儀吉、歌太郎、東條玄蕃、宿屋入道光則、歌助、平の左衛門宗茂、おぬいの母おいの、三度飛脚小松屋孫七、菊四郎、平の大膳宗次、麻屋三九郎、願掛松兵衛、奥山、三國の御臺梅菊、庄司妻鳴瀨、芝鶴、南部七郎俊長、法花山の袈裟太郎實は北條相模之助時宗、團三郎、北條後室美法千日尼、常世、庄司娘七里、東條左衛門、鵜飼勘作、非人片瀨の松實太平一子犬吉、東條杢四郎、後極樂寺良觀律師實唐士趙龍胤、三國の惣領吉祥太郎、同息子柴王丸、〆て七面傳吉、菊五郎、明星天子、傳藏、狂言作者櫻田治助、篠田瑳助、是迄佐改玉卷久二、本屋半七、中村登一、田川屋章助、松島てうふ、三升屋二三次スケ中村重助スケ鶴屋南北 ○第二ばん目口幕上るり狂亂「愛思戀山風（いとしとおもふこひのやまかぜ）」七里姬、梅幸、日像、

之助、彌三郎、歌右衛門、富本豐前太夫、同八百太夫、古志太夫、三絃名見崎德次、小澤榮次郎、同長次郎、上てうし富本前藏相勤何れも大出來淨瑠理竹本イ菱太夫、竹本尾上太夫、三絃鶴澤大作、同市作相勤

尾上菊五郎一世一代口上　市川海老藏

「高ふはムり升れど是より口上を以て申上奉升る當芝居御取立御ひゐきあつて初日よりかよふに永當〳〵と御見物に御來駕なし下され升る段中村勘三郎は申上るに及ず惣座中いか計り大慶至極難有仕合にぞんじ奉り升る扨申上升るは尾上菊五郎儀にムり升る私とは兄弟の事親共松緣より內緣もムり升て年來厚き御ひゐきなし下され斯樣にうるわしき御尊顏を拜し難有仕合にそんじ奉升る扨先達八月中が頃にもムり升ふ菊五郎方より急にあいたきよし申遣ましたるゆへ私も取物も取あへず參り升たる處に當人申升るにはイヤ外の事でもない段々と重る年どふぞ足手のたつしやナ內最早當顏見世を一世一代と致たいから外ならぬ貴樣より年來御取立に預り升る御高恩の御禮口上申上呉とかよふに申升るゆへ私も當惑仕江戶役者中むら歌右衛門始岩井杜若市川團藏關三十郎其外若手の衆中よりも今兩三年も見合呉升るよふ種々樣々といけん申升たれ共菊五郎申升るはイヤそふでない老少不定又は御見物樣方へ無禮等之なき內とたつて申升るゆへ其心得におり升たる處に當人義御存知の通り當九月舞臺に置升てよほどのけがを仕中々出勤もおぼつかなく家內の者も泪にむせびおり升たる折から有夜うつら〳〵夢のよふに高祖日蓮大菩薩の靈夢に預り日に增全快仕升たるも全く祖師の御利益と難有仕合にムり升る扨尾上菊五郎彌々一世一代を仕是より寺嶋へ引籠り升て松の隱居親共の名をつぎ升て松綠と改名仕四季折々の草花も御らんに入奉り度春はつゝみの花ざかり夏は涼の御遊山船秋は殊更隅田の月冬は翁のほつくの通りいざさらばゆき見にころぶ處迄とチトアノ邊へ御遊山の節は菊五郎素人に成升たる姿どのよふで有ふと御立より下され升るよふ願上奉升るわけて願上奉升るは菊五郎義は一世一代を仕り升て己が好の植木を友と仕り升る段は身に余る大慶跡に取のこされ升た私本の木から落た白猿なぞは中々一世一代な

ぞと申事は出來ませぬ是より若手衆中へ打交り秋にすがり升てなり共とつ百年も御見物樣方の御目のじやまを仕升る樣にムり升るあまり長口上は御たいくつ先は尾上菊五郎一世一代の御披露且は當顔見世日數ムり升ぬゆへ早朝より大入大繁昌の御願恐なから角から角迄ずいと左よふに思召下され升ふ

ほつたん東條杢四郎菊五郎蟒蛇にのまれ其腹を裂御鏡をくわへて出る處四條金吾立廻り此蛇の頭は髑の頭によりて其形を自ら造りしと云々四立目土の牢同返し日蓮上人波の上の題目鵜飼勘作濟度龍の口御難勘作石澤川の幽靈地獄の幕彌三郎蘇生の處大詰趙龍胤の見出し迄何れも大出來

○船頭彌三郎、中村歌右衛門△實名重政、市川海老藏●てうりういん、菊五郎

○「今日本の大軍もおぢおそれ我をさへぎる者あらふや待とート聲とめて出た昔出立の荒事師△「我も名のれば信者でムる欒王どんの古郷はみな御存知のあはの國市川村で御誕生子三升ならば八代目めでたき周の正月に一座若カやぐ猿若で□「一世一代妙法の利やくによつて堺町榮いてうに異國のくせ者もうこのぞくを音羽屋が名殘によつて三座から來毎の雪もかぶきの花○「牡丹にてうどうら梅も久しぶりでの顔あわせ△「重扇にまねかれて木挽町から爰に木場むしや□「一騎當千船頭も同中村舟歌もヤンラ目出度やぐらの榮○「おもひもふけし三人が△、寄りあつまつた花の兄□「梅も幸ひ折よく爰で「三人逢たナア

是より貳ばん目口上上るり次操の内小川や法花長五郎七面傳吉出合

□法花長五郎、歌右衛門、○七面傳吉、菊五郎

□「本に他宗の衆さへ信心つしやるものわたしなぞは此七月故人になられた親方中村玉助夫坂にて死去の名跡をつぎ宗旨もそのまゝ法花長五郎といふけちなやろうサ○「そんならおまへが噂に聞た法花長五郎さんかへわしも親の名をついで七面傳吉と云左官サ本の手傳あらかべから今じやサぬり上ケ頭りやうかぶ是もやつぱり信心のおかげサ□「夫はお仕合時に初めて逢てトいつた所が精進酒○「此頭にゆつくりと□「夫につけてもさつきの噺し○「エ、□「イヤはたから見ても御利益の○「祖師のおかけでけふ爰で□「あじな縁か

ら傳吉さん○「長五郎さん□「重てお目に、□「か丶り升ふ

當狂言思ひの外中評なり

○十一月十日より市村座「白旗世界樹々鏡」□□親忠、熊谷次郎直實、非人たゞ七、餘伍將軍平惟茂歌右衞門、寶珠太郎、石屋彌陀六、法師武者、寂十郎、平山武者所季重、彌藤二芝十郎、寐覺法印、内股入道、甚六、梶原景時、□□光景、胤長、又太郎、有國勘左衞門、義國軍次、勘藏、侍從春次、奴團平、雀五郎、同太郎又、虎藏、同五郎又、大和助、同藤吉、茂々藏、玉江多三郎、同玉次、增吉、稻魂の靈旭狐、熊谷局さかみ、杜若、ふじの方、常世、玉おり姬、白拍子千子、しうか、園生、槃三郎、僧回典、九藏、熊谷小次郎、あつもり、團十郎、源のよし經、龜松、羽左衞門、後三立目淨るり「花舞臺霞の猿曳」猿廻し、歌右衞門、猿琴次郎、女大名、九藏、太郎冠者、羽左衞門、常磐津文字太夫、同小文字太夫、組太夫、三絃岸澤式佐、同市藏、「三藏相勤○「積此松行平」狂言作者中村重助、齋周藏、中村小七、村柑子、松嶋半七、近松加造○十一月五日より河原崎座「當平家世盛」安藝守平清盛、河津三郎祐安、伊豫冠者、左馬頭源義朝、鎮西八郎爲朝、緣日商人紀の源、訥升、伊賀の平内左衞門、長田太郎景宗、鎌田次郎政淸、奴長谷平實信連、源朝長、高麗藏、主馬判官盛久、團三郎、瀨の尾太郎右衞門督信賴、琉球國侍女おけ丶ら、關原與市、友右衞門、景淸、奴友平、平の宗盛、八丁礫の喜平次、澤村四郎五郎（一友事改名）白拍子朝良、宮島のか丶へおよく、松之助、丁七唱、植木店商人吉次、坂東鶴太郎（てう十郎改名）武田太郎信有、宮じまか丶へおべん、市川川藏（市川瀨や）金子次郎光國、琉球國の黒主すかんひん廣五郎、箱虎入道角建、箱猿、坂田九郎、船大工の平、染五郎、有馬四郎、たいこ櫻川三孝、玉猿、琉球の船頭じやが助、駒右衞門、進の次郎、元藏、市ヶ谷九郎、扇藏、千人禿榮丸、市友、同久丸、團七、同德丸、新子、同綾丸、紫子太、同高丸、紫我松、同松丸、德之助、きくまる、澤平、源の牛若丸、新之助、同乙若、猿藏、千人禿明石丸、友松、同山丸、松次郎、同友丸、三次、難波の次郎、大庭の三郎、琉球國あほすとらう、虎五郎、近藤八郎、紀次、圓實阿闍梨、あんま方悅、たい助、四條藏人、橘三郎、忠光妹常夏、菊代、瀨の尾妹かなめ、長田妹關屋、菊江、同關路、菊壽、娍紅葉、專之助、同初音、麗之助、

同紅梅、妻次郎、盛次娘伏屋、紫子松、盛俊妹しら菊、みすじ、兼氏妹呉竹、常磐町げいしやお松、德之助、盛久妹空蟬、引手茶やおくめ、七藏、辨天のげいしやおしま、忠宗娘敷妙、かゝへおきく、升之丞、成久妻しがらみ、忠宗妻内海、琉球國母簾夫人、みんし、太夫の進、冬奉公人、大和吉、朝長、養助、宮しまかゝへお時實は義朝妻常磐御前、熊谷御前、白拍子祇女、榮三郎、鎌田兵衛妻白妙、琉球國寧王女、忠固の息女、白妙姬、崇德新院侍女彫江、常磐やのおたみ、紫若、義平娘雷姬、宮嶋の娘おひさ、粂三郎、長田の庄司忠宗、股野五郎、雜兵木場平、寒念佛修行者快了實熊坂太郎長範、彌平兵衛宗清、ごろつき雷りの源、海老藏、上總五郎景清、澁谷金王丸昌俊、團十郎、第一番目四立目（上の卷は富本方の角力 下の卷は神事の取組）「御存の四十八手」河津、訥升、白峰姬、紫若、股の海老藏、淨るり富本豐前太夫、大和太夫、三絃小澤藤吉、鳥羽屋里夕、名見崎德次第二番目大切上るり（きのふは玉の深閨に けふは伏屋の賤が業）「緣花契色事」源の爲朝、訥升、おけいら、友右衛門、簾夫人、みんし、王寧女、紫若、常磐津文字太夫、小文字太夫、兼太夫、三絃岸澤式佐、八五郎、同市造相勤何れも大出來大當り

三立目返しだんまり清盛、訥升、白峰姬、紫若、熊坂、海老藏、三人四立目上るり、五立目長田屋敷、六立目清盛館、同奥清もり火の病ひ、大詰第二ばんめ序まく喜平二、訥升、長則、こま藏、秋しの、紫若、世話だんまり大切琉球國上るりまで大當りなり

狂言作者並木五瓶、勝見てう三、勝諺藏、奈川富士助、家勝助、篠田左衛門、松嶋てうふ十一月廿九日より「嫗山姥」廓ばなしの段、萩のや八重きり、訥升、源賴光、高麗藏、娍お歌、四郎五郎、太田十郎、廣五郎、澤瀉姬、菊代、こしもと夕ばへ、かなめ、初しも、菊江、小雪、菊壽、同にしき、妻次郎、藏人妹しら菊、七藏、御臺花園、紫若、たばこや源七、海老藏大出來大當り

天保九戊戌年五月十日

猛譽勇山寬閻居士（俗名五代目松本幸四郎行年七十五歲寺は押上大雲寺）

辭世　まつ苗の植付をして樂寐かな　錦升

元祖松本幸四郎は實事荒事の名人（初め小四郎と云）市川家に續きし江戸俳優の名家にして二代目三代目は市川家を相續し四代目幸四郎（俳名錦孔と云後男女川京十郎と云）の實子幼名純藏と云明和七庚寅年春狂言中村座大名題「鏡池俤曾我」くわいらいし人形のやつし是初舞臺なり明和九壬辰年

より高麗藏と改名安永七戊戌年若衆方荒事寛政八丙辰年立役享和元辛酉年顔見せより松本幸四郎と改名實惡の名人文政年間度々京攝に上り京大坂及尾張名古屋所々にて諸藝の譽をあらわし舞臺を勤事七十當り狂言數多あり其内幡隨長兵衛、仁木彈正直則、佐々木岸柳、高の師直、武智光秀、遠藤武者盛遠、土左衛門傳吉、局岩ふじ、岸田の局、工藤左衛門祐經、惡七兵衛景清、帶屋長右衛門、斧定九郎、此外敵役世話時代共數ふるに遑あらず舞臺出勤中引し事なし古今無類の名人と稱すべし

天保九年戊戌七月廿五日

歌唄院宗讃日徳居士（大坂中村玉助行年六十一歳寺は高津中寺町角正法寺號百樹院ト云家名加賀屋）

辭世　おち葉さへまたせぬ秋のなか空に
老木はかなく枯るゝかなしき

此辭世は今歌右衛門深川淨心寺師匠梅玉父歌右衛門（俳名一先後歌七）建立の妙見宮あり大破に文化年中再建せり境内に碑を建たり其碑面に右の辭世を彫りまた「七尺にたらぬ碑たゝて文月かな翫雀」如斯しるせり元祖中村歌右衛門（俳名一先）加賀國出生のよし故に加賀屋と家號す二代目の歌右衛門は養子にして初水木東藏といふ三代目は實子にて幼名福之助といふ後に歌助と改名其後實父の名跡相續す近來大坂の大達者なり文化五辰年春中村座へ下り大に評判よく同九申年大坂上り右五ヶ年の間大當り江戸にて出世し浪花にて嵐季冠とならび大に評能同十一戌年再ひ中村座へ下り秀佳と一座になり「双蝶々」に長吉（長五郎 三ッ五郎）戻駕に次郎作（東の與四郎 三ッ五郎）始出合古今大當り同十二亥一世一代相勤上坂文政元寅年再々中村座へ下り此度中村芝翫と云同二卯年上坂す天保七申年中村玉助俳名梅玉改名す京大坂惣役者の藝頭古今無類と評判記にしるせり又狂言の作をも兼金澤龍玉と號す天保五午年此名目を奈川本助に讓る二代目金澤龍玉是なり

浪花の浮世畫師長谷川貞信畫追善の畫像に

鳴呼なごりをしや此世のわかれ道
妙法蓮花きやうの旅立　梅玉とあり

江戸浮世畫の名人國貞畫に

名に高きなにはの梅のはなちりて
老木ながらもをしまるゝかな　賓市亭　升成

大坂役者の終りしを江戸表にて錦畫にし彫刻せられしは實に梅玉死後の譽といふべし

○八月廿日より市村座「戀湊根曳綱」小早川帶刀、花賣四季作、眞柴久秋、納升、けいせい檜垣、網六女房八重、傾城長門太夫、玉三郎、御次丸、久勝、新之助、八ッ代爲太郎、岸田兵庫、熊十郎、緒笠緣之助、品田幸藏、勘八、奧女中吳竹、仲居おりう、辰之助、熊山丹下、大次郎、難波屋才兵衛、大吉、三笠主水、海藏、久留米東間、又八、小山勇六、万九郎、並松權平、橘十郎、醫者良仙、三平、奴宅内、子之助、同角内、魚藏、丸助、音次郎、可平、仙平、茶道雲才、澤音六、同順才、大和助、たいこ佐の八、杉藏、兒乙若、嵐德三郎、同つた若、綱吉、禿みどり、重吉、女小性小柴、條三郎、左枝政左衛門、海老藏、所化珍念、猿藏、女小性胡蝶、玉市、奧女中若芝、仲居おとく、春次、同お梅、增之助、おまつ、扇之助、おあい、太三郎、金かし欲兵衛、やりておつめ、紀次、博多屋十右衛門、彥左衛門、勘ヶ由妻小ゆる木、佳調、駒形勇藏、雷助、彌生之助妹卯の葉姫、難波屋娘分おとり、橘之助、帶刀妻千種、女馬士おくに、常世、花筏の德藏、川越鐵八、八ッ代勘ヶ由、冠十郎、尼榮林實久秋妹ひさご姫、福島左近之助、眞柴秀丸、團十郎、三輪左衛門長之、獵師網六實は吉川隼人之助、彌生之助、羽左衛門、第貳番目寺西閑心、納升、三浦の小紫、玉三郎、男達早補半助、熊十郎、奴土手助、勘八、新造八重梅、辰之助、玄蕃、下部鐵平、大次郎、家主杢兵衛、大吉、男達湯灌場仁太郎、海藏、同石塔の淸吉、又八、三うら若者長助、万九郎、雲介の源、三平、同辨、子之助、同石、魚藏、同竹、音次郎、同鐘、仙平、同梅、杉藏、禿ゆかり、條三郎、幡隨の長兵衛、海老藏、同一子長松、猿藏、でつちいの吉、澤平、雲介六郷の八、勘左衛門、同濱川の辰、紀次一世一代男豆虎、虎藏、男達塔婆藤兵衛、彥左衛門、權八下部細內、雷助、三うらの新造はつ梅、橘之助、三浦女房おちか、常世、久下玄蕃、うづら權兵衛、冠十郎、白井權八、長兵衛女房お時、杜若、男達眞虫の次兵衛、團十郎、本庄下部八內、白柄十右衛門、羽左衛門、いつれも大出來

四代目幸四郎三十三回忌五代目幸四郎百ヶ日追善狂言市川高麗藏父の遺骨を紀州高野山え納に參り留守ゆへ杜若と兩人にて相勤候由舞臺におゐて口上あり

◎十一月十日より顏見世市村座「白旗世界樹岡鏡」熊谷次郎直實、岩倉山盜賊北方太郎實福の六郎、さる廻

しイ四郎、尾形三郎惟義實は能登守敎經、歌右衛門、美濃の賊主曼陀次郎實伊勢の三郎、西國旅僧了念、奥女中三芳野、奈須の與市宗高、九藏、俊成息女菊のまへ、尾形妙初、瀬實菊地息女渚の前、白拍子千壽、榮三郎、平山武者所、船頭文字兵衛、室積勘ヶ由、芝十郎、佐藤三郎次信、十町、梶原平次、波知谷右衛門、又太郎、兼房妹象潟、まつばや抱げいしや八重吉、橘之助、洲の股入道雷寒、惣領甚六勘八改名忠基妹岩瀬、松葉や女房おせき、辰之助、六郎妹枝折、けいせい代々春、春次、有國下部團平、太こ持喜助、鶴五郎、直利大藏、駒助、多賀文藤次、大次郎、高崎九郎、又八、岩手の五郎、橘十郎、郡屋頭喜兵衛、三平、奴土手平、子之助、同八太平、富藏、仕丁太郎又、青次郎、同次郎又、三木藏、同九郎又、冠藏、同三郎又、團六、非人の三、仙平、同六、大和助、遣手おつめ、中村丑兵衛、中間權平、イ四松、下部豆平、とら藏、小舍人御厩の喜三又、德三郎、上童菊王丸、猿藏、熊谷女房相模、八嶋の蟹若松、政子の方、稲魂の靈砥並山朝日狐、杜若、山蔭軍平、海藏、江戸太郎重長、大吉、大館玄蕃、馬士仕合の吉、三藏、太夫有國、赤井の藤太、勘左衛門、光基妹夕霜、仲居おます、市川福之丞升壽改名義國下部鳴平、松井主水、おのへ雷助、堤の軍次、鈴木の三郎、勘藏、けいせい代々歌實は敎つね妹久方姫、舞子おうた、中村駒菊、いり經一子經丸、玉太郎、經盛室ふじの方、一の谷女撫夫おつね、正俊妹牛王の前、常世、玉おり姫、白拍子松しま實は女髪結おしま、時忠息女卿の君、玉三郎、白亮のみだ六實は宗清、大工七ッ道具の辨、佐藤次郎政信、冠十郎、鷺尾三郎、團藏、無官太夫敦盛、小次郎直家、澁谷金王丸昌俊、團十郎、關東の賊主魔隱れ蛇平、伊勢參宮の同者龜藏、源のよし經、羽左衛門、第二番目「積此松行平(つもれこのまつにゆきひら)」二幕紀の名虎妾むらじ、同娚すまの此兵衛、九藏、須磨のうら海士松風、榮三郎、孔雀三郎成平、芝十郎、方海法印、又太郎、けいせゐ田毎、橘之助、深山の谷藏、甚六、岩嵐のがけ藏、駒助、ねつこの斧兵衛、子之助、染殿の皇后、杜若、白雲の峯八、三木藏、切株のふし藏、丑兵衛、谷間のこけ平、冠藏、早瀬の瀧八、富藏、船頭磯八、万九郎、同沖七、茂々太郎、同灘藏、三藏、大江千里之助、勘藏、高松左衛門息女村雨姫、玉三郎、浮洲の岩實牟禮の兵衛、冠十郎、破軍太郎照澄、團十郎、中納言行平公、羽左衛門、第二ばんめ大切

上るり月に雲戀は曲者「浪爰須磨の濡衣」此兵衞、九藏、松風、榮三郎、行平、羽左衞門、富本豊前太夫、同八百太夫、古志太夫、三絃富本豊柳、名見崎友治、市藏、小澤榮次郎、相勤長唄はやし連中淨るり竹本イ蔓太夫、同島太夫、鶴澤大作、同富之助、相勤狂言作者中村重助、齋周藏、村柑子中村小七牟羅勘次松島牟次、歡喜助

花江都歌舞妓年代記續編巻の十三

◉天保十年巳亥年

○正月九日より河原崎座「伊達競陽向曾我」曾我十郎祐成、六浦左金吾頼兼、渡邊民部早友、嶋田重三郎實清水冠者、訥升、曾我團三郎、井筒女之助、八幡の三郎、團三郎、近江小藤太、浮世戸平、山名宗全持豊、同奥方榮御前、友右衞門、大江の鬼貫、奴雷鶴平、四郎五郎、黒澤官藏、虎五郎、足輕稻妻鳴平、川藏、鷲嘉藤次、廣五郎、大場宗瓮、箱根猿、梶原平次、玉猿、百疋屋金五郎、駒右衞門、高尾丸の船頭〆八、七五三藏、同しなの助、らい助、小間物やくし六、團六、大磯屋若い者喜六、扇藏、千葉常若丸、市友、千壽君、實朝公、源平、鶴千代丸、新之助、工藤左衞門祐經、非人閑坊、小僧道哲、彈正姉八汐、細川勝元、荒しゝ男之助、海老藏、小林朝日丸、猿藏、高尾禿もみじ、新子、同たつた、團七、源賴家、澤平、政岡一子千松、福之助、近習守太夫、たい助、男達小地ごく淸平、紀次、梅澤や小五郎、鈬之助、こし元菊江、けいせい薄雲、おのへ、姬初音、かなめ、

同紅梅、守之助、三浦下女お仙、麗之助、同おたい、三
筋、新造八重衣、菊壽、娍若園、菊世、汐澤丹三郎、宗益
妻小まき、勘藏、大磯や女房おてん、みんし、加村奥方
沖の井、傾城高尾實鬼王娘十六夜、粂三郎、かさね井
筒のおやま、粂三郎、鬼王庄司左衛門、乳人政岡、仁
木彈正左衛門直則、團藏、浮世豆腐や三五郎、曾我の
五郎時致、團十郎、第二はん目「關取二代勝負附」關取
秋津島國右衛門、訥升、行司庄九郎、團三郎、角力取籠
石浪八、紀次、四郎五郎、同土蜘丸八、箱猿、虎五郎、同
鳴岩川藏、呼出し奴馬平、玉猿、秋つしま一子國松、新
之助、關取鐵か嶽洞右衛門、海老藏、傾せい大淀升之
丞、六角伊織之助、勘藏、水茶やおみつ、みんし、秋津
島女房おさと、粲三郎、高倉隼人、團藏、行司志村丈之
助、團十郎、何れも大出來大當り○二月十日より**中村
座**「岩井歌曾我對面」曾我十郎祐成、團三郎秩父の重
忠、彥三郎、地獄淸左衛門、久須美次郎、芝十郎、八はた
三郎行氏、梅澤屋小五郎、高藏麗、傾城喜瀨川、和田の
舞鶴、白拍子風折、菊次郎、手代甚八、奥山、舞鶴屋傳
三、歌助、伊豆の次郎、佐十郎、大藤内、𤢖右衛門、茨原左
衛門、鶴藏、鳶の者源、森五郎、錺鷹藤九郎、十藏、せげ

んこまの平、染五郎、海老名源八、市右衛門、中間たく
内、鷺助、愛甲三郎、い四松、御所の黑彌吾、相藏、臼杵
の八郎、高の藏、荏柄平太、芝鐵、竹の下孫八左衛門、
つる助、牽頭持三孝、鴻藏、禿千鳥、壽三郎、賴朝息女
大姬、菊三郎、兒福丸、福助、梶原平三、彥左衛門、
新造まかき、壽之助、同七うら、麗之助、同琴次、菊
壽、梶原平次、駒右衛門、けいせい手越、七藏、奥女中
歌あや、歌きく、曾我の禪師、𤢖太郎、けいせい龜き
く、松之助、成淸妻いなせ、奥女中岬、芝鶴、粧坂の少
將、紋三郎、近江の小藤太、劔澤丈五郎、宇佐美三郎、
内八百藏、曾我の二の宮、北條奥方十六夜御前、常世、
大磯の虎御ぜん、鬼王女房月小夜、民部左衛門娘小い
そ、曾我五郎時宗、紫若、鬼王新左門、梶原源太景季、
盜賊百足の金藏、稻田幸藏實は保童丸、歌右衛門、
工藤犬坊丸傳藏、（工藤左衛門、三保の谷、赤澤民部左衛門、三十郎の役なりしが出勤なし）第一
はんめ四立目上るり「富士屏風霞卷帶」傘持、芝十郎、
仕丁三ふ、内八百藏、ふく丸福助（姚青柳七藏同 哥江うた菊）風折菊次
郎、すけ安、高麗藏、祇園守太夫、同名哥太夫、巴太夫、
三絃祇園英三郎、上てうし、林藏相勤大詰淨瑠理「今
樣若三人」祐なり、彥三郎、時宗、紫若、景季、歌右衛

門、常磐津文字太夫、同若太夫、駒太夫三味線岸澤式佐上てうし同金藏、

○當狂言何れも評よく四立目上るり返し獄門場幸藏歌右衛門若衆にて時姫紫若民部三十郎たんまり五立目幸藏若衆にて白髪の作り中六立目近江八わた石壇のたて上るり大切對面の場迄大出來大當り

○二月十日より市村座「館扇面眞砂白浪」九條の傾せい眞砂路、朝倉義景籠浦、屋か淮の賤女お友、義輝後室久方御前、杜若、盜賊石川五右衛門、朝倉義景、難波の梅賣耕作、三輪左衛門長義初下り嵐吉三郎、小のゝ小通姫、久吉妻賤方、行長妹住の江、玉三郎、松永大膳久秀、五右衛門手下足柄金藏、又太郎、鬼子嶋彌太郎、判人百助、甚六久吉妹若芝、石川や女房おきは、辰之助、小田右衛門佐信澄、五右衛門手下松、勘左衛門、八代丈助、奴峰平、三藏、山熊太郎、濱名の商人金六、大次郎、松田五郎、手代庄八、又八、山賊谷藏、奴眼平、万九郎、村井傳藏、山そゝ信樂の松、茂々十郎、安田作兵衛、橘十郎、五右衛門手下南藏、三平、同三、冠藏、同熊仙平、箱廻し義八、大和助、八反梅の亭主庄六、富藏飛脚屋藤兵衛、助藏、公達輝若丸、茂々太郎、小性左門、德三郎、同右門、綱吉、禿たより、玉市、同しけみ、勝次郎、住吉おとり三太三吉、義景一子よし丸、重吉、でつちの吉、村助、同千吉、國藏、仲居おます、增吉、同おせん、扇之助、同お妻、太三郎、奴若菜、玉江、同小蝶、玉次、松井田圭鈴、呉服屋左衛門、大吉、梅か茶や女おはる、仲居おつた、春次、櫻井小新吾、小間物屋佐七、雷助、奥女中呉竹、商人早梅、かてう、小田墟之助春忠、京おりや多次郎、鶴五郎、婉白妙、京藝子小はま、橘之助、山口九郎次郎、奴倚平下り万作、松永奥方園生の前、小原女お龜、長義妻小谷、龜之丞、朝倉の臣小鮒の源吾、梅か茶や蓮の葉お六、田熊左衛門信盛實齋藤龍興、冠十郎、此下藤吉後に眞柴大領久吉、別所小三郎則秋、九條揚屋石川屋傳三、柴田修理之助勝家、九藏、加藤虎之助、森蘭丸、團十郎、小田上總之助春永、百姓市作實は小西彌十郎、小川左近釜友、足利義昭公、羽左衛門、第貳番目「春相撲御攝顏觸」せうふ付賣金澤屋おやま、杜若、關取岩川次郎三下り吉三郎御目見へ千羽川女房およつ、玉三郎、村岡團右衛門、又太郎、千原九平太、甚六、角力三芳川、三之助、三藏、同五大山音吉、大坂佐右衛門、大次郎、たいこ持樂八、冠藏、

同けい助、富藏、角力取うす卷門平、又八、同もみか浦赤藏、助藏、てつち芳松、三吉、仲居お咲、増之助、同お梅、扇之助、若徒瀬平、雷助、角力取くは岩團吉、鶴五五郎、彌太夫娘お才、橘之助、手代善九郎、万作けいせい錦木、龜之丞、つるや淨久 冠十郎、關取鐵か嶽、駄右衛門、北野や吉兵衛、九藏、行司粂之助、團十郎、岩川女房おとく、つるや禮三郎、羽左衛門、淨るり常磐津文字太夫、三絃岸澤式佐連中相勤上るり竹本嶋太夫鶴澤一作みな〳〵大出來大當り○三月十一日より中村座所作事（御贔負の影（うつくしさ）櫻かたな）「花翫暦色所八景」八變化（中村歌右衛門 岩井粂三郎）第貳番目大切に相勤、乾あたつて花に霞忍か岡に天女の皈鴈、北に當つて花に誘吉原に助六の夜雨、艮當つて花に濡隅田に旁妻（かくしづま）の晩鐘、震あたつて花に渡兩國 に飴賣の夕照、巽當つて花に曇深川に丹前の朧月、離あたつて浮高輪に舟乘の歸帆、坤あたつて花に埋菽窪に鷺娘の暮雪、兌にあたつて花に亂音羽に雀踊の晴嵐、常磐津文字太夫、同若太夫、駒太夫（三弦）岸澤式佐、文左衛門（金藏 三八）文字八連中相勤富本豊前太夫、同八百太夫、志賀太夫（三絃）富本豊柳、名見崎德治、喜十、友治、喜三郎、長唄富士田千藏、同吉四郎、岡安喜之助（三味線 吉住新五郎 同瓢二）杵屋六四郎、同榮藏、同三治、同勝五郎、ふへ住田又兵衛、同卯之助、少つゝみ大西德藏、大つゝみ田中傳次郎、だいこ坂田松兵衛、同田中源助、長うた富士田新藏、三絃杵屋喜三郎、杵屋六左衛門、少つゝみ田中傳左衛門、ふり付藤間勘十郎、同男女太郎

所作事何れも大出來此內飴賣の所作は當時江戸中にて評判のおまんが飴といふ年齡五十年の男女の姿にて赤き前垂かけ菅笠を冠り飴を籠に入是を棒にて荷なひ「やゝおまんがあめじやにいつちふか四文じやと呼ながら歩行多ふく商ふときじぶんで唄ひながら踊る事也其身ぶりいやみにて音聲又別なり唱歌に「かはいけりやこそ神田から通ふにくて神田からかよわりよか」此文句を大人小兒もよく眞似大に流布す翫雀此ものを呼でおどりのふりを學び此度の所作に仕組せしゆへ猶〳〵江都は勿論近國在々迄も彼が評ばん名高くなりしも全歌右衛門が所作ゆへなり彼飴やに翫雀より仕着を遣りしを常に着して街を歩行し

○三月三日より市村座壹ばん目「義經千本櫻」二の切三の口切

すしや娘おさと、杜若、源の義經、主馬小金吾、梶原平三景時、吉三郎、武藏坊辨慶、又太郎、龜井の六郎、らい助、するがの次郎、大次郎、早見藤太、甚六、庄や杢郎兵衞、大吉、百姓出來作、又八、猪の熊大之進、三藏、權太一子善太、猿藏、六代御前勝次郎、若葉の內侍、橘之助、彌左衞門女房お辻、かてう、すしや彌左衞門、冠十郎、いがみの權太、靜御前、九藏、權太女房小せん、玉三郎、すしや彌介、源九郎狐忠信、羽左衞門、貳ばんめ「千兩幟」は其まゝ大切道成寺所作事口上

下總國葛飾顯松山安住寺中興開基權大僧都阿闍梨誠阿享保三戌年入寂右元來は五代目市村竹之丞と申從幼年佛法歸依にて天台宗を相學家業之外は日夜佛法修行致妻義不持染衣之心願決定甥を養子と而相讓り猶碩學之上比叡山宿坊安住院之住職と相成其後寬文八年先師之固を以て安住院辭退し顯松山へ入院仕堂宇全備成兼しを志願に依て再建す夫より里俗市村竹之丞寺と異名申傚し候

右竹之丞百回忌之節は當座元幼年に付是迄打過候所七代目宇左衞門早世に付百五十回忌相當五代目市村竹之丞七代目市村宇左衞門右兩人追善として十二代目市村羽左衞門相勤（手向さへ棄ばかり多し出さくら）「花筐未熟道成寺（はながたみみじゆくどうじやうじ）」所化普賢坊、吉三郎、住僧轟坊、冠十郎、所化勢生坊、九藏、同觀音坊、大館左馬五郎、團十郎、白拍子櫻子、十二代目羽左衞門相勤淨るり竹本い蓁太夫、竹本嶋太夫、三絃鶴澤一作、同人助、長唄岡安喜代八、松永鐵五郎、岡安喜代藏、同升吉、芳村市五郎、三絃杵屋和吉、同六之助、同小三郎、同六次郎、同長次郎、笛菊川幸吉、菊枝安太郎、鷹末清左衞門、小つゝみ太田重兵衞、大つゝみ福原門左衞門、たいこ福原百之助、同源吉、ふり付松本五郎市、花川蝶十郎、三せん杵屋淺吉、杵屋六三郎、小つゝみ寶山左衞門、何れも大出來、役者金剛力天保十一年評ばん記に云

上上吉　たれもすききらいのない玉つむぎ　市村家橘　前文略之

「頭取」「眞砂白浪」に小田春永大將役をいたされては申分はムり升ぬ小西彌十郎評よく「千兩幟」に岩川女房おとく加役のやうには見へ升ぬ「見功者」近頃は立役からいたさるゝ女形が何れもはやるでムるが一座にその役をする者がなければよん所なく勤るもいいが女形をさしおいて是見よかしにする

はいらぬ事夫よりもちまへの立役を御出精なさるが第一にムる〔頭取〕三月「千本櫻」にすしや彌助〔ひいき〕此やうな役にかけては誰とならんでもひけはとらぬ古人秀佳丈の俤其まゝでムる（中略）源九郎狐忠信 古今の評此時先祖の追善として大切「娘道成寺」の所作〔見功者〕いかゞと存せし處出はより亂拍子もうまい事でムり升たふりの内も少々づゝてんさくを加へて面白事〔頭取〕さるゆへにこそ隣町の大敵にも恐れず大入なりと云々（中略）此節より羽左衞門追〳〵評ばんよし

○三月六日より河原崎座「則幸櫻色蘭（ときにさいはいさくらのいろとき）」來太郎國俊、奴妻平、訥升、葛城民部之丞、奴袖平、刀鍛冶來國行、團三郎、秋月大膳、十丁、夘川兵藏、清水の場の國俊清十郎、澁川藤馬、四郎五郎、同右内、虎五郎、こし元うら葉、川藏、同彌生、廣五郎、同さくら、玉猿、下部關内、駒右衞門、かしや職人權七、乃助、同藤六、音次郎、下部可内、熊吉、五人組市兵衞、扇藏、小性吉彌、澤平、同金彌、福之助、公達成君丸、新之助、幸崎伊賀守、刀鍛冶、團九郎、海老藏、北條氏若丸、猿藏、清水住僧轟坊、箱根娍小はた、春次、同早わらひ、鈗次郎、同もしほ、おの江、同若葉、守之助、同若草、みすし、同若芝、菊代、渡し守大作、勘藏、うすゆき姫、升之丞、こし元青柳、みんし、伊賀守妻松か枝（下り）鯉之助、娍まがき、園部兵衞妻梅の方、正宗娘おれん、榮三郎、成氏の息女千束姫、粂三郎、薗部兵衞、五郎兵衞、正宗、團藏、薗部左衞門、團十郎、公達時若丸、長十郎「父者唐士母者日本國性爺（こくせんや）合戰（かっせん）」紅粉流しのたん、甘輝妻錦祥女、訥升、老一官、十丁、まん、ぼうらい、哥六、うんてれかん、七五三藏、ふんりんし、らい助、和藤内三官、海老藏、娍海棠、おの江、同芙蓉、妻次郎、同芝蘭、勘藏、和藤内母みんし、五將軍甘輝、團藏、大出來大當り第貳ばん目大切所作事（爰に咲みんな三升屋江戸の花）「四季詠㋩歳（しきのはなかめまるにいのとし）」訥升、海老藏、團十郎

○春大内の花宴行平、訥升、仕丁、團十郎、○夏夕立の猪牙雷鈗之助船頭訥升○秋亂菊の小蝶白拍子訥升○冬石橋の雪けしき花房太郎訥升、福貴三郎海老藏、淨瑠理常磐津文字太夫、若太夫、吾妻太夫（三絃）岸澤式佐、同文左衞門、壽助、長唄芳村孝次郎、同金五郎、岡安喜代七、同甚吾、同甚六、三絃杵屋三五郎、同若三郎、同彌七、同彌市、西川奥藏、ふへ住田勝次郎、小つゝみ六鄕新三郎、同仙右衞門、大つゝみ六鄕新十郎、大だい

こ小泉長次郎、同望月林之助、笛福住長五郎、長うた芳村伊十郎、三味線、けす杵屋六三郎ふり付西川扇藏、同松本五郎市、小つゝみ望月太左衛門相勤

『役者金剛力』に云、大極上上吉　稀者後見回市川海老藏

〔頭取〕三か津に御ひゐき厚き其中にもお江戸根生の白猿丈市川の水とふ〳〵として口上の辨舌はみな切おつる瀧の如く七代つゞくお家の藝ぶり又とたぐひもあら事實惡夫故にこそ稀者の二字をすへ置升たが御批判はムり升まひ中略大入大繁昌致升た引つゞいて三月〔櫻色蘭〕伊賀守の三八笑ひ大に評よく刀鍛冶團九郎何れもおゐかはムり升せぬが此時第貳番目の〔國性爺〕に和藤内お家の荒事夫が下廣しといへ共外にまた一人りとかけがいのない和藤内市紅丈伍將軍かんき訥升の錦せう女お三人はり合にていせう小道具共格別に吟味して物事てうしにのり其氣のはづむといふ事は拍子次第中略此狂言は名にあふ近松の名作なれど道具衣裳共唐を寫す事故大金のかゝる狂言故久しく出ぬ事なりしが市紅丈近年稀成乘り氣にて白猿丈訥升丈お二人り共まけずおとらぬ衣裳の物入中〳〵算當にはかゝらぬ大張込と下畧す◯此度の衣裳三人にて千兩もかゝりし世間にての風説せしよし

錦祥女　澤むら訥升

これ母さま聞分升た身にかなふた忠孝親にもろふた此からだ孝行のためすてる命はおしいとも思ひ升ぬさあお手にかけて下さり升せあゝ思へば一生に親しらずついに一ち度の孝行なくなんで恩をおくろふぞ死なせてたべ母上さま又此やり水は黄河迄つゞきある能きたよりにはおしろい流しかなはぬしらせは紅をながす約束にて迎ひにおいてあるはづいざ紅をといてながしゝらせん

和藤内　市川海老藏
かんき　市川團藏

「やあ伍將軍甘輝といふ髭唐人はわぬしよな天にも地にもたつた一人りの母に繩をかけたはおのれを己れと奉つて味方に賴んためなるにもちてうすればほうづもない味方にならぬば此大將が不足なか第一女房のゐんといひそつちからしたがふはづさあ日本無双の和藤内がすぐに賴む返答せい

いかに〳〵 ●「をゝ女房の縁といへばなをならぬ御へんが日本無双なれば我は唐土きたいのかんき女にほだされ味方する勇士にあらす女房を去る所もなし病死する迄べん〳〵と待れまい順風次第はやかへれ但し置みやげに首をおいて行たいか ■「いやさ日本のみやげにうぬが首をもつてゆく ●「いやそが首を置てゆけ ■「さあ ●「さあ兩人さあ〳〵〳〵〳〵返答とはとふしやい

○四月四日より中村座「義經腰越狀」泉の三郎、彥三郎、源義つね、高麗藏、泉の三郎、女房高のや、麗次郎伊達の次郎、奥山、龜井の六郎、歌助、奴金平、佐十郎、同鐵平、鶴藏、同銀平、森五郎、同卷平、雀五郎、同駒平、駒助、同黑平、伊麗六、妼勝山、目勝、同小谷、梅代、同瀨川、菊江、同千尋、梅之助、奴洲平、儀右衛門、同打平、彥左衛門、錦戶太郎、芝十郎、五斗妻關女、紫若、五斗兵衛、歌右衛門、同娘とく女、傳藏「姬小松子日の遊」俊寛僧都、三十郎、有王丸、高麗藏、小べん、福助、深山の杢藏、歌助、なめらの兵、翫右衛門、たくほくの江吉、鶴藏、かけのとう六、森五郎、根株の節八、染五郎、谷底の夢七、市右衛門、小督の局、七藏、龜王丸、八百藏、同女房お安、紫若、何れも大出來○五月廿一日より中村座（松本幸四郎一周忌追善狂言として）「追善皐聯歌（ついぜんさつきれんか）」小田上總之助春永、彥三郎、武智十兵衛光秀、（追善に付）高麗藏、小のゝお通、菊次郎、安田作兵衛、奥山、淺山多三、歌助、中尾彌太郎、佐十郎、百姓文字作、翫右衛門、連歌師紹巴、鶴藏、山の内九郎次郎、森五郎、倉澤丹下、日和上人、十藏、宅間信盛、染五郎、櫻井新吾、雀五郎、妼木幡、淺之助、庄屋己戶兵衛、鶴助、芝崎文六、相藏、光秀一子十次郎、壽三郎、但馬守一子鬼丸、福助、內藏之助娘田みの、粂三郎、森山次郎、橘三郎、山熊太郎、儀右衛門、平泉左門、彥左衛門、小姓左門、七十郎、こし元江川、菊江、同戶上、麗之助、粂助娘錦木、にしき、光秀妹きゝやう、七藏、信盛妹歌あや、歌菊、淡路兵庫、歌太郎、蘭生の局、松之助、作兵衛女房簑浦、芝鶴、森のらん丸、八百藏、讚岐の局、常世、光秀女房皐月、紫若、久よし、歌右衛門、貳番目「夏祭浪花鑑」一寸德兵衛、三河屋義平次、高麗藏、團七女房おかち、德兵衛女房おたつ、菊次郎、大鳥佐賀右兵衛門、奥山、こつはの權、鶴藏、なまの八、儀右衛門、團七一子國松、中村万作、浪松數馬、十藏、せげん善六、彥左衛門、けいせ

い琴浦、歌菊、三ぶ女房おいさ、松之助、釣舟の三ぶ、玉しま礒之丞、八百藏、團七九郎兵衛、彥三郎、濱田衞門之助、傳藏、當狂言中棧敷廿五匁平十五匁

『役者金剛力』に云、市川高麗藏前文略之五月下旬より御親父錦紅丈の追善狂言御すゝめにしたがひ「皐月連歌」に武智光秀「見功者」馬だらいから本能寺迄ばんめ「夏祭」に一寸德兵衛三河屋義平次二やく何れもよう出來升た中略六月市村座へ出勤の處藝道修行のため急に上坂いたされ升たと云々

○五月十一日より市村座「花菖蒲浮木龜山」石井兵衛妻おらい、重右衛門妾おくら、杜若、赤堀水右衛門、鳥井彌十郎、吉三郎、重右衛門妻岡野、石井半次郎、藤兵衛女房おりつ、玉三郎、大倉瀬平、升五郎、曾根治太夫、川越し島田の七、又太郎、龜島權太、礒田八之丞、甚六、彌勒町の茂右衛門、勘左衛門、川こしの松、三藏、戶倉連八、大次郎、高丸郷藏、又八、若徒才助、万九郎、いしや玄伯、茂々十郎、百姓次郎作、三平、庄屋傳右衛門、助藏、川こしの六、橋十郎、同半、大和助、同吉、正藏、同長、子之助、同三、國藏、松並左門、茂茂太郎、藤兵衛一子藤吉、勝次郎、小性金彌、重吉、藤兵衛娘お市、玉市、石井下女おひで、かてう、茶道珍才、大吉、妼さつき、太三郎、同青葉、扇助、同朝路、增吉、奥女中床夏、春次、同みの尾、彌十郎、娘おてる、辰之助、斯波左京、川こしの竹、鶴五郎、兵衛娘おとき、鎗間奥小性嘸子、橋之助、足輕飯田由兵衛、川こし日坂の石、万作、重左衛門一子重松、猿藏、神原兵次、奴關助、百姓又四郎、冠十郎、三木重左衛門、石井兵衛、九藏、細川主計、團十郎、石井兵助、中野藤兵衛、鎗間多門之助、羽左衛門

○追善狂言御禮として道成寺所作事日數十日相勤何れも評よし○五月五日より河原崎座「勝関和合兵」第一ばん目近江源氏「三浦之助義村、しほ賣長藏、訥升、本田の次郎、團三郎、北條相摸守時政、十丁、松田左近朝光、淸十郎、富田の六郎、四郎五郎、土肥の彌五郎、虎五郎、大庭の三郎、川藏、飯森玄番、廣五郎、板坂兵馬、箱猿、榛名の十郎、玉猿、八つ山藤次、駒右衛門、百姓豐作、七五三藏、醒か井の兵、團六、雜兵うん當、らい助、同權當、立藏、同永當、乃助、岡山曾平、扇藏、建長寺榮西和尚、たい助、佐々木小四郎、亭主福之助、同小三

郎盛淸、市友、公曉丸、新之助、安達當三實は佐々木高綱、佐々木母微妙、海老藏、北條時若丸、猿藏、藤三郎、女房おくる、鯉之助、讃岐の局おの江、こし元あやめ、妻次郎、同さつき、守之助、同青葉、みすし、阿波の局、菊代、古郡新左衛門、絹川村おみち、勘藏、白拍子若狹、升之丞、源の實朝公、源平、三浦之助母三雲、盛綱妻早瀨、みんし、駕舁四と兵衛、和田兵衛秀盛、芝十郎、高綱妻かゝり火、北條息女時姫、粂三郎、春久の娘しからみ、粂三郎、片岡造酒之頭春元、佐々木三郎盛綱、團藏、鞠川六郎弘次、團十郎、源實朝公、長十郎、第貳番目「夏祭浪花鑑」一寸德兵衛、同女房おたつ、訥升、助松主計、團三郎、駕舁大滿の七、虎五郎、代官彌藤次、川藏、大鳥佐賀右衛門、廣五郎、なまの八、箱猿、こつはの權、紀次、高津の三、玉猿、あくたの市、駒右衛門、友達伊の松、新子、同吉之助、い太、團七一子市松、新之助、團七九郎兵衛、海老藏、友達よし松、猿藏、同吉松、よね万、長次郎、德之助、竹松、澤平、けいせい琴うら、升之助、三ふ女房おつき、鯉之助、三河や義平次、芝十郎、團七女房おかち、粂三郎、釣舟の三ふ、團藏、玉しま礒之丞、團十郎何れも大出來○五月廿一日より「新板歌祭文」小山屋義兵衛、油屋おそめ、訥升、同手代善六、野崎久作、芝十郎、油屋多三郎、淸十郎、手代小助、虎五郎、座摩のけん太、川藏、松屋源右衛門、廣五郎、梅田の久三、玉猿、原村屋才兵衛、扇藏、太こ持里十、七五三藏、道具や利右衛門、團六、石津縫之助、松本屋佐四郎、四つ竹三すしの三吉、鬼門の喜兵衛、海老藏、引舟の綱吉、猿藏、鈴木彌忠太、十丁、女非人おろく、こい之助、引舟の水吉、源平、よみ賣かん八、たい助、下女おてつ、鈨之助、お針およし、おのゑ、仲居おはつ、妻次郎、同おかね、三すし、京村屋いと、菊代、でつち久太、勘藏、久作女房お才、油屋後家おきぬ、みんし、山家屋淸兵衛、團三郎娘おみつ、粂三郎、相良丈右衛門、團藏、丁稚久松、團十郎、石津乙若丸、長十郎、

訥升のおそめは大坂にては大當りなりし由江戸表は杜若初め梅我、紫若の娘方殊にお家の狂言ゆへお染の評ばんは薄し久松大に評ばんよし

○六月中村座「布引」と「猿廻し」差出す番附出板なく仕切場へ役はりを張り出せしか失念せり「源平布引瀧」實盛、高麗藏、瀨の尾、八百藏「猿廻し門出諷」猿

廻し與次郎、八百藏、家主、奥山、古手屋つる藏、米や、歌助、けい者おしゆん、菊次郎、井筒や傳兵衛、高麗藏

○六月廿二日より市村座夏狂言「假名手本忠臣藏」義平女房おその、大星の下女おりん、妹おかる、杜若、大星大三郎、新之助、斧九太夫、堀部彌次兵衛、石堂左京之進、十町、山名次郎左衛門、大はし文吾、鷺坂伴內、又太郎、大星力彌、三段目のおかる、橘之助、狸の角兵衛、桃井家下部關內、勘左衛門、百姓與一兵衛、ぜけんの十平次、橘十郎、富の森助右衛門、三平、建長寺伴僧小助、大次郎、左官小手藏、又八、鹽屋治助、万九郎、杉學入、助藏、同妙哲、富藏、同連哲、國藏、同怪善、子之助、中間宅內、大和助、同丸助、桂市、鹽谷爲若丸、茂々太郎、桃井若狹之助、寺岡平右衛門、斧定九郎、中間直助權兵衛、鎊間宅兵衛、天川屋義平、大星由良之助（すけ）（七役）海老藏、里の子常松、勝次郎、梶川與惣兵衛、小寺十內、川藏、太田了竹、種か嶋の六、箱猿、高松權六、海藏、大星瀬平、玉猿、本藏妻となせ、仲居おます、福之助、御臺かほよ、おかるは、おかや、仲居おたき、鯉之助、同おいち、三すじ、同おはま、太三郎、同おはな、增吉、本藏娘小浪、扇之助、めつぽう彌八、大吉、前原伊助、三藏、ゆらの助女房おいし、仲居おさく、辰之助同おたま、春次、同おやま、かてう、小林平內、万作、原郷右衛門、矢間十太郎、升五郎、義平一子よし松、猿藏、鹽谷奥方小性お高、粂三郎、高師直、加古川本藏、石堂右馬之丞、建長寺住僧妙覺禪師、天川屋でつち伊吾、千崎彌五郎、沙海尼、一もんじや才兵衛、（七役）九藏、足利直義公、鹽谷縫之助、千崎彌五郎、團十郎、鹽谷判官高貞、星野かん平、一力亭主清兵衛、佐藤與茂七、中間元助、不破數右衛門、足利尊氏公（七役）羽左衛門

大序二段目仕來り其裏建長寺花瓶の松きり夫より蜂の巢三段目（かん平 おかる）道行なし四段目五段目六段目七段目おかる身請うち宅兵衛使者何れも大出來大當り

○七月十九日より中村座「忠孝義士由良意（ちうこうぎしのゆらゐ）」寺岡平右衛門、百姓彌作、斧九太夫、尾張屋歌山、天川屋義平、三十郎、鹽谷判官、加古川本藏、長門屋小兵衛、早野勘平、彥三郎、若狹之助、石堂右馬之丞、千崎彌五郎、行司庄三郎、八百藏、山名次郎左衛門、代官七太夫、奥山、矢間重太郎、森山郡兵衛、歌助、原郷右衛門、福島屋佐兵衛、佐十郎、長門屋若者忠七、鶴藏、鷺坂伴內、森五

郎、小舟乘吉、川の安、染五郎、仲の丁髪ゆひ、幸藏、雀五郎、潮田又之丞、駒助、近松半六、今六、たいこ持宗八、鷺助、駕かき鐵、イ四郎、小道具方なまの兼、芝鐵、茶道金才、目勝、菓子賣ゑら高ばゝ、鶴助、高村勘助、相藏、小寺十内、杉藏、仲の丁長門屋若もの富、橘三郎、一力亭主才兵衛、十藏、大のし若者嶋藏、儀右衛門、かむろすその、壽三郎、同しげの、福助、仲居おひさ、粂三郎、同おきく、菊江、同おあさ、淺之助、長門屋下女お梅、菊壽、同おまつ、紫子松、せげん善六、彦左衛門、七太夫娘おつゆ、仲居おくら、七藏、本藏娘小なみ、歌菊、堀部彌次兵衛、菱川成右衛門、縑右衛門、大星力彌、歌太郎、本藏妹みなせ、新造勝里、松之助、仲居おなか、平右衛門女房お北、芝鶴、由良之助妻お石、彌作女房おさき、仲居おつた、小兵衛女房おいま、常世、こし元おかる、義平女房おその、岡本屋重岡、けいしやおさめ、かほよ御ぜん、紫若、大星ゆらの助、不破數右衛門、本藏妻となせ、髪結新七、高の師直、歌右衛門、足利直義公、傳藏、貳番目（おさめ 新七）「大師河原利裙櫛」何れも大出來

此狂言寛政十一未年四月市村座「袷袖小血汐染色」と同し仕組にて岩井風呂の書直し歟

○七月廿五日より河原崎座「其往古戀江戸染」宇佐美尾上之助、小性吉三郎、五尺染五郎、訥升、醫者劒澤麥庵、べにや長兵衛、海老名軍藏、芝十郎、鬼王庄司左衛門、十町、中間鳫助、かまや武兵衛、万作、加藤太部光貞、虎五郎、愛澤彌五郎、川藏、長沼六郎、うばおくら、箱猿、宇田五郎信重、玉猿、梅澤や長太、海藏、甘縄丹下、駒右衛門、中間可助、らい助、駕かき三太、團六、片瀬左忠太、七五三藏、岡部彌三郎、立藏、非人芋虫の權、乃助、家主太左衛門、扇藏、同宿妙念、三次、同妙齋、澤平、吉良小四郎、紀次、吉祥寺日和上人、たい助、千壽君實朝公、猿藏、岩藤彈正左衛門、曾我太郎祐信、赤澤十内、仁田四郎忠常、土左衛門傳吉、海老藏、尾上之助一子梅太郎、新之助、政子御前、鯉之助、所化妙てん、釻之助、賴光妹爪琴辰之助、筆屋娘おしか、春次、花柄の妹梅田、妻次郎、万壽君、賴家公、紙や娘おみの、みすし、廣次妹深雪、扇之助、大澤團右衛門、三藏、重忠妹初音、おの江、米や娘およね、菊代、若徒小源次、勘藏、糸屋娘おきぬ、升之丞、神田の與吉、清十郎、義時の妻綾衣、お七母おかや、みんし、本田の次

郎、團三郎、尾上之助妻二の宮、八百や下女お杉、粂三郎、頼朝息女大姫君、粂三郎、重忠奥方衣笠御前、八百屋お七、杜若、赤澤十内、下部初平、團十郎、江の島案内子千代松、長十郎、大切上るり「新媒雛の世話事」吉三、訥升、白酒うり、粂三郎、お七、杜若、傳吉、海老藏、常磐津文字太夫、同小文字太夫、同太夫三弦岸澤式佐、文左衛門相勤道行手向の花雲岩井杜若相勤申候、淨瑠理竹本伊惠太夫三弦鶴澤與三郎

第一ばん目「鏡山」を男にせし仕組貳ばん目八百やお七何れも評判宜しき處杜若病氣にて引れし處直さま「千本櫻」三の切出され其節の評判記金剛力に云（前文略之）杜若丈出勤にて「戀の江戸染」に土左衛門傳吉仁田しかる所ほとなく杜若丈御病氣にて急に「千本櫻」の三の切を出され誠に一夜つけ所ではなくさしかゝりてのとん智純作いがみの權太道行の忠のふ「芝居好」丁度其日に行あはして江戸芝居で古今にない事だん／＼役者が功者になつて稽古せずに直に舞臺へ出るとはかんしん／＼「頭取」九月「千本櫻」を一番目にすへて工夫の辨慶評よく「安達か原」の三段目四段め安部の貞任に一つ家の老女岩手粂三丈の戀衣を娘としらず小ざいなみ腹をあばく所のすごみもよふムり升た下略す

○九月九日より（戀の江戸染切狂言）「義經千本櫻」川越太郎、主馬小金吾、すしや彌助實は惟盛、訥升、伊勢の三郎、芝十郎、すしや彌左衛門、万作、龜井の六郎、勘藏、猪熊大之進、川藏、軍兵兵藤、玉猿、同豆兵、茂々十郎、万藤、駒右衛門、武藏太郎有國、らい助、中山太郎、音次郎、今井十郎、住市、軍兵ひよろ藤、市六、五人組杢郎兵衛、扇藏、彌左衛門女房おこの、たい助、建禮門院德子、杜若、いがみの權太、武藏坊辨慶、佐藤忠信實は源九郎狐、海老藏、御臺の菅三太、猿藏、六代御前、よね市、權太一子善太、若子、軍兵ばん藤、三藏、同紀の藤、紀次、駿河の次郎、鈍之助、こし元小はき、春次、同てり葉、三すじ、同きゝやう、扇之助、若葉の內侍、おの江、卿の君、升之丞、權太女房小せん、鯉之助、安德天皇、源平、しつか御前、すしやお里、粂三郎、門院小侍從、粂三郎、梶原平三景時、源の義經、團十郎、万壽君、頼家公、長十郎「奥州安達原」（三段目四段目）權中納言則氏實は安部の貞任、同女房袖はぎ、志賀崎生駒之助、訥升、謙杖女房濱夕、みんし、謙杖直方、十丁、旅人角平、虎五郎、袖

菘娘おきみ、福之助、外か濱南兵衛、黒塚一つ家の老女、鎌倉權五郎、岩手、海老藏、加茂次郎丸、猿藏、瓜割四郎、万作、義家妻敷妙、菊代、環の宮、升之丞、侍女蔦の内侍、生駒之助、妻戀衣、榮三郎、新羅三郎義光、八まん太郎義家、團十郎、第二番目大切浄るり御目見へに清「」しめ元方の一節を「」〆能色相圖」三浦之助義村、粂の手子前浮世與之助、訥升、けいせい九重太夫、まつりのねり子おせん、榮三郎、祭りのてこまい、三筋綱五郎、上總之助廣常、海老藏、清元延壽太夫、同榮壽太夫、忰初舞臺志喜太夫、鳴尾太夫、政太夫、三弦清元齋兵衛、千藏、梅次郎同一壽、礒八、忠次郎、同德兵衛相勤

清元延壽太夫久〻にて罷出息子榮壽太夫御目見へ上るり大に評ばんよし所作事大出來大當り第一番目「千本」大序の切辨けい海老藏工夫にて雜兵大勢と大たてにてどゞ雜兵の首引拔用心水桶の中ゑ打込芋あらひの見得大荒事大出來なり同三の口切何れも大出來「安達原」三の切外か濱南兵衛宗任海考藏袖萩評よし貞任中評同四の切黒塚の婆大に評よし予は大歌舞妓にて見物せず珍敷役當時親玉より外に此樣なる事勤る者なし大出來也 扨芋あらひの辨慶白猿の工夫なりとの評判なり〇豐芥按するに安永二癸巳年十一月中村座顏見世狂言大名題「御攝勸進帳」第一ばん目五建目安宅關之段〇富樫左衛門五代目市川團十郎、源よし經四代目松本幸四郎、齋藤次祐家、中嶋勘左衛門、常陸坊、嵐音八、武藏坊辨慶、市川海老藏〔四代目市川團十郎〕本場の親玉と云々〇富樫の關にて海老藏「勸進帳」を讀ながら中五郎、つな藏兩人を相手に立ありどゝ富樫の左衛門より行先〻の關所の切手をもらい十一人の山伏悦て關所を通る雜兵辨慶をあやしみ繩をかけ大木にくゝし付誠の辨慶と名乘〻と云ながら大せひにていぢめる 海老藏わしわ腹からの山伏でごんす今度出羽の國羽黒山へ年シこもりに行に違ひムり升ぬ 八藏そんなら夫に違ひはないか 海老藏何さ 八藏そんなら此道筋を知つて居るか 海老藏いゝへ 八藏そんなら此道筋をしらないか 海老藏 どふぞをしへてくださりまし 仲此富樫から野々市ゑ一り、のゝ市から加賀の金澤ゑ又一里八かゝの金澤から高松よねいて今濱磯の山此間か山越しに十八里 海老そんなら今の山伏もよつほといつた

でムり升うな皆々たしかにもう一二りはいつたろふか海老そんならまだはやいはへ八はやいとは海老おまへのことさ八おれがことゝは海老おまへの手の内わしに縄をかけさしつた其手の内のはやさと云もの八そういはれてのりぢを語るではないがまだ〳〵あんなこつちやない海老はてな八はやいとだしちやあ先第一足がはやいそして手がはやしそこで女房が子がはやしそして口がはやしさいはみゝがはやし海老もういくらほど今の山ぶしはいつたであらう八をほかた三りもいつたてあらう海老そんならもうよいかげんだはへ仲よいかげんとはなんの事だ海老よいがけんとは跡から行ことだ皆々そんならわりやあ海老武藏坊辨慶だとしばり縄切る皆々おどろく思入にていやあゝ海老我君を落しまゐらせあとをつかくるが忠義の一つそこおつひらいて通すまいか八辨けいと答へちやあとふされぬ夫やるなゑへ皆々やあらぬは海老いでもの見せんと云まゝに皆々どつこい○是より太皷入の相方になり海老藏きびのよき立ありとゞ殘らす首を引拔天水桶ゑ打込八藏も手傳ひ首をはこぶとゝ八藏か首も引拔さらよんと思入以前の山伏立戻り幸四郎一人りいです海老藏を見て山伏皆々出來た〳〵海老やつかましいと金剛杖を二本取つて首を芋のようにあらふかたしやぎりにて幕狂言作者櫻田治助元祖名人左交なり古今妙作海老藏大當りなり當狂言の辨慶は是をうつせし白猿の工夫おもしろし故に因に爰に寫出せり

○九月十二日より中村座「世吉田花街稻妻(せかいはよしださとのいなつま)」名古屋山三、金魚や金八、細川勝元、三十郎、狩野雅之助、左り甚五郎、奴淀平、櫻姫の侍女いなせ、甚五郎女房お才、利久女郎しからみ、常世、淸水宿直之助、奴岡平、八百藏、猿しま惣太、長谷部雲谷、奥山、奴鳥羽平、歌助、六角左京、佐十郎、犬上團八、鶴藏、三上玄番、森五郎、笹目三八、染五郎、奥女中石山、雀五郎、同大津、駒助、同竹嶋、今六、醒か井藤六、鷲助、畠森善平、イ四松、中間九助、芝藏、雲助の久、綱藏、同八、麗八、百姓松太、同勝、同他六、立藏、同作之丞、藤橋、所化西念、相藏、同空念、杉藏、惣太一子六松、福之助、吉田の梅若丸、粂三郎、山三一子元市、壽三郎、敬月國師、十藏、奥女中桐しま、儀右衛門、同平野、淺之助、同矢橋、紫子

松、同粟津、槌之助、同夜雨、妻次郎、同浮船、菊壽、植木賣梅藏、橘三郎、奥女中片田、にしき、佐々木彈正、鬣右衞門、名古屋山平、歌太郎、淀平・妹おつる、歌菊、雅之助妹桂子、松之助、梅若丸うばのもせ、芝鶴、佐々木息女櫻姬、唐崎のお松、銀杏の前、菊次郎、山三女房かつらき、お國御前、はねはのお安、祇園のおかぢ、紫若、淸水淸玄、櫻姬實はおつるの亡靈、物草太郎、千の利久、歌右衞門、淡路の七郎、傳藏、第二番目大切淨瑠理「隅田川月の和歌」渡し守、彥三郎、松若丸、八百藏、櫻姬、菊次郎、賤女、粂三郎、淸玄とおつる亡靈、歌右衞門、何れも大當り○淸水淸玄に十帖源氏惑うり三世界の仕組大に評よし○八月十五日より市村座「箱根權現靈驗記」九十九新左衞門、瀧口上野、飯沼下部筆助、吉三郎、新左衞門娘初花、玉三郎、溝口源左衞門、なまこの次郎、甚六、百姓耕作、寒助、進藤大次郎、百姓市作、中間久馬、又八、百姓權助、万九郎、重右衞門、三平、百姓三吉、雲助の六、娰若菜、大和助、くも助の三、正藏、同八、子之助、同七、國次、同仁太、雀市、僧淨覺、富藏、おつゆ、玉市、おなへ伴右衞門、廣五郎、おくま、國藏、里の子村助、九十九妻、早蕨、かてう腰元千草、太三郎、同葉末、春次、庄屋德右衞門、冠十郎、奴三千助實は飯沼勝五郎、羽左衞門、第貳ばん目「御貢信田今歲稻」左近太郎、奴與勘平、吉三郎、石川惡右衞門、甚六、庄司女房かてう、總尾花、玉江、安部の童子、勝次郎、あしや道まん、信田の庄司、冠十郎、葛の葉姬、玉三郎、安部保名、葛の葉狐、野かん平、羽左衞門、大切淨るり恥かしき露にも着の二おもて「道行野邊吾妻菊」與勘平、吉三郎、葛の葉、玉三郎、やかん平、羽左衞門、常磐津文字太夫、同兼太夫、組太夫、三弦岸澤式作、同三藏相勤、家橘子別れ大に評よし當芝居直下げ五匁づゝ○十一月十五日より顏見世中村座「隅田川雪旗陣立」女六部深雪實は梅井の靑墓、白拍子熊野御前、女髮結水櫛のお保、杜若、惡源太義平、木樵の大太實は伊勢三郎、奴閑平實は御廐の喜三太、矢はぎの藤太、吉三郎、矢剎長の娘淨璃理姬、重扇屋仲居おきく、古戰場のげいしや曲引のおこと、菊次郎、義朝公遺乙若丸、壽三郎、上るり姬かし付十五夜、重家妹てり葉、辰之助、鰐口入道淨雲、生亭闇右衞門、鶴藏、丹波七郎、太こ持豆橋、鶴五郎、荒越新吾、松五郎、犬塚大膳鬼門、曾呂平、住よし踊利兵衞、染五郎、難波の次郎經

倭、廣五郎、佐原十郎、嵐勘右衛門、菅饗より德平、中山德三郎、所化若念坊、市右衛門、熊坂手下八木下小六、杉藏、ゆで蛸八平、相藏、眞土けら次郎、つる助、すり針太郎、藤橋、河内の覺海、瀧藏、三國九郎、璃三郎、麻布の松藏、七五三藏、足輕ふた助、儀右衛門、淨るり姫かしつきせんじゆ、槌之助、同更科、梅之助、同狭衣、菊壽、同まがき、菊代、武藏左衛門有國、勘左衛門、姫のかしつき冷泉、當今の侍女若松、松之助、柾木三郎、手塚の太郎、淸十郎、矢はぎの長者後室三のを、吉次信高、古せん場の番人、喜八、冠十郎、侍宵の小侍從、粂三郎、御曹子牛若丸、橘次娘言葉、けいせい若紫太夫、鷲の尾女房小ゆき、大太女房おまつ實は熊坂むすめ霜夜、紫若、ものかはの藏人、傳藏、第壹ばんめ四立目淨るり（お通の文曲を夜行の本に綴りて名題も其儘）「田舎源氏十二段」奴岡平、吉三郎、娵傳藏上るり姫、菊次郎、牛若丸、紫若、富本豐前太夫、同志賀太夫、八百太夫、古志太夫（三弦）名見崎友治、同總次、東三郎相勤第弐番目大切上るり（昔安宅の松 今五葉の松）「紫曲輪大門」杜若、吉三郎、粂三郎、菊次郎、紫若、常磐津文字太夫連中右上るり興行なし

三立目返し悪源太、吉三郎、おとく、菊次郎、龍女、紫若三人だんまり四立目上るり「田舎源氏」流行に付上るり外題にあげる同返し藤太、吉三郎、女六部、杜若、田舎娘、紫若三人だんまり五立目青墓長者ゐ熊坂亂入之處竹本連中上るり大出來也口上看板に顏見世狂言の眞似事にて來春顏見世狂言御覽入候由書出す

〇十一月十五日より市村座「太平入船篠塚」大道寺新左衛門氏久、愛敬餅屋新兵衛、仲秋若徒三保崎左仲太、網船の船頭彦、細川賴之、新田左中將義貞、彦三郎、片桐才藏、廻國修行者了典、戸田主稅之助、八百藏、仲秋かし付紅葉、けいせい浮嶋、歌をる、岩淵荒五郎、荒乳山賊角藏、おまんが飴五六、與山、泰範かし付三保浦、鬘もしほ、歌世、羽衣の社神主牧野左門、茶道珍好、名越太郎、歌助、今川駿河守、あんま牛市、大膳女房早ゆり、甚六、日野中將光時、雁かゝあおきさ、佐十郎、高松丹左衛門、翫右衛門、八劔喜藤太、質や手代藤八、大次郎、奥津官吾、橘三郎、蒲原新藏、質屋行事半藏、伊麗六、三宅賴母、若者喜兵衛、又八、印南主計、若者佐助、鷲助、茨五三次、橋十郎、熊坂新吾、醫者陸

宅助、三平、中間角内、富藏、同へく助、イ四松、山賊谷
間のかげ七、大和助、同松平、目勝、女小性吉彌、歌女
太郎、山名彈正時氏、りやうし田子の浦七、戸田大膳、
夜番人清太、芝十郎、今川後室關の戸、茶園安部川お
香、藏人妻錦木、三次女房おつね、正行姉菊水、常世、
ひなの宮、福助、山賊岩藏、たい藏、同風六、國藏、同て
く八、幸吉、社人采女、のし藏、中間丸助、百右衛門、鹿
澁藤澤万九郎、こし元若菜、淺之助、同紅梅、らいの
助、春野太三郎、早はらび、増吉、糸遊妻次郎、岩淵の
下部鯰の髭平、大吉、山口郡藏、町かゝへ金、駒助、服
部源吾、町かゝへ鐵、鶴五郎、典藥備義院、醫者藪のこ
う庵、十藏、乙女まへ乳人かしは木、かてう、數馬妹
折江、福之丞、富士平妹みゆき、奥女中うつのや、揚弓
場娘おとり、橘之助、濱名左衛門妻しつはた、駿河二
丁目水茶屋おふじ、二階廻のおつる、芝鶴、今川次部
之助秦範、俳階宗匠かへり晋山、家主吉兵衛、下り小川
吉太郎、濱名息女乙女の前、女髮結利久櫛のお山、け
いせい東路、新地の藝者妻吉、辨の內侍、坂東しうか
玉三郎改名 今川伊豫之助仲秋、白酒賣龜 六實敎野小次郎、
楠帶力正儀、大森彦七、家橘、荒川藏人實は篠塚伊賀

守、藏人下部富士平、片桐秦之進、足利義詮、釣船の三
次、楠正成の靈、歌右衛門、第二ばんめ淨るり天乙女の好夫狂月
桂男の戀情争「其名對色介(そのなもついろひと)」彦三郎、しうか、歌 なる、歌右衛門 羽左衛門 常磐津文
字太夫連相勤〇十月廿七日より河原崎座口上書に「吉
例顏見世」之義者御贔負樣方御勵めにまかせ來春奉
御覽候山出せり「御攝曳綱坂(ごひいきをひくやつなさか)」將軍太郎良門、將門
娘瀧夜叉姫、平井保昌、茶筌賣空阿實卜部季武、庭作
り源正、訥升、藤原の仲光、善知鳥文次安方、山賤斧右
衛門實三田仕、團三郎、淡路守賴親、四郎五郎、二の瀬
源吾、武藏五郎貞世、勘藏、大木戶太郎、大福餅賣勘兵
衛、虎五郎、夜叉太郎、そば賣十六、三藏、坂戶九郎町
飛脚早助、紀次、仲光下部音平、芽荷しよい万助、尾上
朝十郎、黑澤八郎、修驗者万海院、茂々十郎、塚原源藤
太、駒右衛門、神事の奴樽平、らい助、菊平、吉次郎、呑
平、佳市、安平、市六、酔平、立藏、庄屋松右衛門、扇藏、
猪の熊入道雷寒、瓦丁家主彦左衛門、坂東一猿彦左衛門改名
丹波太郎鬼住、山鯨屋伊助、海猿、鷺沼六郎、卜者升井
主計、黑猿丹波猿ましら、猿藏、伊賀壽太郎有信、雲切
丸、船頭灘六、小原女お京、丹波ひゝ猿實坂田の公平、
渡邊源次綱、海老藏、丹波の小猿、新之助、中山大納言

角連、大江九郎友定、箱猿、茨木七郎、船頭笘六、玉猿、笘屋六郎、朱雀の文遣喜八、柿猿、保昌一子保若丸、源、平「竹神事役人千代丸、市友、松丸、福之助、龜丸、新子、丸、德之助、友丸、由吉、新丸、金作、万丸、米万、惠日寺同宿西念、澤平、同妙念、「三次、同賞譽和尚、たい助、幾のゝ八郎賴親郎等鐵藤次、釻之助、道遠妹深雪、市川紅之助、常久妹越路、扇之助、池田息女花園姫、三筋、奥女中呉竹、春次、加藤三郎妻露霜、おの江、仲光妹橋立、小原女おます、升之丞、物の部の平太有國、若黨彌惣太、了竹乳母ふせや、灘六、女房おなみ、鯉之助、市原野の鬼童丸、平の正盛下り坂東重太郎、けいせいしら縫「公連娘みくりや、基房息女粧姫、けいしやおたつ實季武妻洛、榮三郎、攝津守源賴光、碓井虎太郎貞光、丹波の小猿手白、坂田の公時、團十郎、六十六代花山院、長十郎、第一番目四立目淨瑠理（赤本の金びら 西遊の白猿）「花三升戀いの守」鉢たゝき空阿、訥升、山かつ、團三郎、粧姫、榮三郎、源の賴光、手白猿、團十郎、小猿、新之助、黒木うり、升之助、雷寒一猿ましら、猿藏、黒木うりおたち、ひゝ猿實公平、海老藏、常磐津文字太夫、同小文字太夫、組太夫、三弦岸澤式佐、文左衞門相勤

三立目だんまり平正もり下り重太郎、保昌、訥升、白ぬい、榮三郎、渡邊綱、海老藏、四立目上るり五立目六立目詰迄何れも評ばんよし右三人猿の淨るりに親猿の白猿からだ猿の皮に縫くるみ頭は白き毛を長くうへたる鬘此猿のまへには隱しものなし見物の人〴〵猿のちんぼこがないと云々衣裝小道具に者能々心を用ゆる人なれ共猿の珍寶には氣のつかざりしにや無くてもの事なり一笑すべし
狂言作者並木五瓶、奈川春助、並木左衞門（甚六 新次）勝諺藏、津打治兵衞、三升屋二三治○同十七日より「勢州阿漕浦」濱邊のだん平次内のだん○阿漕の平次、訥升、奥村兵庫、團三郎、庄屋彦作、万作、二見の磯八、茂々十郎、百姓杢助、扇藏、上かんや欲八、らい助、田舍かゝあおとく、市六、嶋藏、彌惣太、柿猿、醫者卜庵、らい助、平疋の次郎藏、海老藏、平次一子友市、由吉仲居おへん、立藏、同お梅、扇之助、奥田主水、勘藏、平次母おつき下り壽太郎、同女房おはる、榮三郎、鈴鹿太郎雲住、團十郎、何れも大出來、秀佳（平次）芝翫、次郎藏相勤しより此度にて二度目なり海老藏中村座へすけにて出勤す中村座「壇浦兜軍記」岩永左衞門宗連、吉三郎、遊

君あこや、菊次郎、ちゝぶの重忠、海老藏、當座にても[勢州阿漕浦]漁師平次、吉三郎、同女房お春、菊次郎、平瓦次郎藏、海老藏何れも大評ばん三戲場目出度舞納めでたし〱

天保十亥年九月廿八日

釋歌是證信士 二代目關十郎、俳名歌山　築地門跡塔中、法重寺　家號おはりや　行年五十四才

初は大坂嵐吉五郎門弟にて嵐宗太郎といふ後三代目中村歌右衛門弟子となり中村歌助と改名す文化五辰とし關三十郎と改名して師匠と同道にて中村座へ下り追〱藝道上達して大達者となりぬおしむべし〱役者金剛力に云

和實の功者歌山丈は[菅原]の武邊源藏忠臣藏の寺岡平右衛門などはからだに備はりて此人の役に極りて蔭で聞てさへ目の先へ見へるやう思はれまた後世の手本を殘し江戶仕組の[曾我]狂言鬼王新左衛門などふけた役なら無くて叶はぬ役者なれど近年は多病になられ升て一年つゞいて出勤なく六七十迄達者で居らるゝ役者も多きに盛りを龜戶に引こもりいたづらに年月送られし事かへす〱も殘り多きことでムり升た中村座春狂言に工藤の役御病氣にて歌右衛門丈に讓られ三月一番目貳ばんめの間へ[嶋物語]に俊寛お安紫若丈何れも評よく五月狂言出勤なく七月義士の由來に寺岡平右衛門斧九太夫[芝居好]久々にて平右衛門の年はいといひ打付たるお役中略九太夫は拵よけれ共根がはまらぬお役敵役にて由良之助を一つぱい計るやうに見へた中略彌作の鎌腹不出後には九太夫も八百藏丈に替り役を賴で是が舞臺のお名殘りでムり升た御馴染の御方樣一遍の御回向をねがひますと云々

ついにゆくおのか寺岡平右衛門の舞臺か役殘りをはりや〱　花笠外史

千代までと思ひし松の定紋をけふ花瓶に手向るそうき　美圖垣

苦むすをこのみし松もくち木とは　上嘉

死出の旅いそくを留る關もかな　如泉

丁々の音も淋しや松の斧　五玉

わさをきの手形のこして死出の山かゝる旅路の關そはかなき　六朶園

とこしへにかはらぬ松の根つよさも遂のけうふりとなるそはかなき　梅屋

同書京大阪之部　客座　大上上吉　坂東三津五郎
〔頭取〕扨此所がお江戸の立物坂三津丈でムり升す〔市川組〕これ〳〵頭取此座は八年ぶりにて歸り新參の親玉市紅丈の評判どふするのじや〔梅舍組〕いや市紅丈も其通りじやが當時上方で立役の答方こちの梅舍丈から評して貰いたい〔頭取〕成程御兩所の仰御尤でムり升すしかし三河屋丈はおも〳〵と立役の惣巻にすへ置ました〔市川組〕をつと承知〳〵〔頭取〕又梅舍丈は立役の花方ゆへ巻頭はあたりまへでムり升れば評の始なれど譯而お斷申上升るは坂三津丈一昨年の冬お登りにて御按内の通り角の座にて顔見世へ御出勤致されました初日延引ゆへ評判記の間に合ず夫ゆへ爰にて一寸坂三津丈の評を仕り升す（中略）左樣なら直樣かゝり升ふ坂三津丈一昨年冬思ひがなくけお登り幸ひ上方も璃寛丈延若丈三津五郎丈玉助丈玉役者斗り俄に黄泉の客となられしゆへ役者ぶ人の中なれば闇夜に燈し火をてらしたやふに思ひの外お上りはよいが御病氣で折心のおあしか惡ひゆへ思ふやうに動れぬと承りがつかりいたしましたが先角の座顔見世に致され座附口上に難波の太夫が引合にて（中略）お江戸の立者と見へましたお目見へに自身の病氣の事ませての口上すつぱりとした江戸つ子せりふ一統に受取ましたぞ〔頭取〕顔見世狂言の替りに〔姫子松〕巖屋の段をお目見へ狂言として出され則お役は俊寛僧都〔さしき〕此俊寛毎度出る狂言にて近年梅玉丈又は歌山丈も致され大當りをとられし故いかゞと存じの外捺のよくお安か鏡を持て金打せんとするを留本名をあかす處の詰合相手が慶子丈故しつくりとよふムり升た（此節狂言女五右衛門、富十郎、久吉三つ五郎、久次我童、久秋璃珏）物語りの間も足の惡いわりにはよふいごかれ升た道は名人の御子息故其きどくあらはれ見ごたへがムり升た（中略）同座二の替りの一枚看板の畵面にもどつさりと書てあつたが出勤なくちと譯合あつてひいきの西國の旦那が見物やら養生がてら下へ連れて歸られたとの噂此頃は長崎邊にムるとの咄しでムり升す長崎には名醫も數多あれば御病氣の爲に參られたのでムり升ふどふぞ元の坂三津に成て早ふ上方御出勤を待升〳〵〇西の方諸國宮島下の關周防長崎肥後其外所々旅芝居出勤のよし

天保九亥九月廿六日
純雄璃光信士 俗名嵐璃光行年五十六才 生玉中寺町 圓通寺

同 十一月七日
釋金伏 俗名大谷友右衛門俳名舍丸行年四十七才 寺は鰻座 蓮生寺

花江都歌舞妓年代記續編卷の十四

●天保十一庚子年

○正月十五日より中村座「鶴ヶ岡根元曾我」和田息女舞鶴、半四郎、近江や女房お時、忠重奥方衣笠、杜若、曾我五郎時宗、梅澤小五郎、八わたの三ぶ實は小袋坂願人閉坊、鬼王新左衛門、吉三郎、大磯のとら、三浦奥小性宇佐美實は鬼王妹十六夜、同姉おちよ、菊次郎、大磯屋のでつち鶴吉、壽三郎、京の次郎、四郎五郎、吉備の大藤内、鶴藏、若徒關平、鶴五郎、非人おさか、森五郎、百足や手代金兵衛、染五郎、曾我太郎祐信、廣五郎、本田の次郎近常、德三郎、舞鶴屋傳三、雷助、同やりておつめ、市右衛門、安西彌七郎、冠藏、愛甲三郎、相藏、竹の下孫八左衛門、藤橘、白酒うり彌兵衛、璃三郎、榛ヶ谷四郎、つる助、三浦部屋方おそで、七五三藏、重忠一子重若、源平、とらが禿千鳥、粂三郎、御厩の德竹、猿藏、新造初梅、紀久三郎、近江の小藤太、勘左衛門、盛久妹呉竹、菊壽、舞鶴や仲居おきし、梅代、友光妹玉琴、玉江、忠政の妹松ヶ枝、紀之

助、新造龜きく、梅之助、大磯判人地ごく清七、曾呂平、梶原源太景季、義右衛門、源頼家公、紀之助、新造喜瀬川、菊代、梶はら景高、岡右衛門、千葉の妹星の井、手越の少々、松之助、大磯屋女房おさみ、みんし、小林朝日奈、ち丶ぶの小次郎、清十郎、曾我の團三郎、文使正助、北條小四郎、團三郎、伊豆の次郎祐兼、醫者環造、仁田の四郎、冠十郎、工藤與方梛の葉、紫若、工藤左衛門、曾我十郎祐成、中間久すみ、三五郎、十內弟赤澤十作、秩父の重忠、訥升、工藤犬坊丸、傳藏、第二番目「花蝶春顔觸」長吉姉おせき、杜若、放駒の長吉、吉三郎、ふじやあづま、菊次郎、尼妙林、四郎五郎、下駄の市、鶴助、野手の三、森五郎、三原有右衛門、山崎手代庄八、廣五郎、講中經師や惣助、染五郎、同丹波や吉右衛門、儀右衛門、同瀧田や六兵衛、勘左衛門、仲居おゑん、辰之助、南與兵衛、團三郎、山崎屋與次兵衛、冠十郎、幻竹右衛門、濡髮長五郎、訥升○双蝶々外題直し第壹ばんめ六立目大詰淨るり相槌の對面三重十二座の岩戸申樂「珍敷戀の優曇華」舞鶴、杜若、時宗に小五郎吉三郎、おきよ、菊次郎、團三郎、祐つねと十作、訥升、勘左衛門つる藏、常磐津文字太夫、同小文字太夫、兼太夫、三弦佐々木市藏、同重太郎、同八五郎相勤

坂東彦三郎番附載て出勤なし何れも大出來日數打切目出舞度納

○正月十三日より河原崎座口上看板に「尾上菊五郎義去々年於堺町座に一世一代御名殘狂言仕引籠り罷在候所市川海老藏初再勤相進め候得共菊五郎義は辭退に及候を達而相勤め再勤仕候且岩井杜若、市川九藏大坂下り澤村其答、尾上榮三郎、尾上松助、坂東壽太郎、市川團十郎其外不殘罷出相勤候」由口上大名題「梅咲若木場曾我」曾我十郎祐成、大藤內成景實は近江小藤太成家、お祭り佐七實は神原佐七郎、菊五郎、清兵衛女房おふさ、梅幸、石塚下部袖助、曾我團三郎、松助、鳶の者長吉、菊之助、久須美次郎、團三郎、伊豆の次郎祐兼、山住五平太、菊四郎、團三郎言號十六夜、けいしや額の小三、伊三郎久上の前司坊、勘藏、梶原平三景時、虎五郎、手代三九郎、三藏、雲介の八、朝十郎、箱根の畑右衛門、岩五郎、ばんばの忠太、茂々十郎、海野の次郎、駒右衛門、あい甲の三郎、らい助、箱根の同宿三念、三五郎、同別當行實、たい助、同所化さくらん坊、三次、同かくれん坊、三吉、梶原景高、扇

藏、同源太景季、箱猿、百疋や金兵衛、黒猿、非人大磯の傳三、海藏、同梅澤の五郎、赤猿、たいこ次郎八、雲助の彌藏、柿猿、判人築嶋や源六、一猿、工藤犬坊丸、茂々太郎、源の頼家公、新之助、曾我の五郎時致、八幡三郎行氏實は赤澤十内、半時九郎兵衛、本庄綱五郎後福島屋清兵衛、海老藏、朝日奈姉舞鶴、土手のお六、景清妻あこや、杜若、平家公達保童丸、猿藏、江の島案内子福松、あかん平、同兼松、熊吉、江のしま兒千代丸、新子、梅丸、よね万、松丸、團七、竹丸、福之助、鶴丸、市之助、龜丸、福助、藤丸、市升、粂本二階廻しおたつ、辰之助、同おとよ、おの江、同娘分おみつ、三すじ奥女中賤はた、扇之助、同松代、紀之助、同伏や、羽三郎、同舍り木、春次、伊豆の三郎、菊藏、頼朝の息女大姫、福島や下女おます、升之丞、箱根の閉坊、鬼王庄司、方作、三浦の片貝、佐七母おかや、鯉之助、けわひ坂の少將、石塚娘おみつ下り澤村其答、鬼王新左衛門、粟嶋屋權兵衛、壽太郎、鬼王女房月小夜、大磯のとら、仲町げいしや小糸、粂三郎、北條息女時姫、粂三郎、景清一子あざ丸、神原佐七郎、工藤左衛門祐經、九藏、小林の朝日奈、御所の五郎丸、船頭かなや金五郎、團十郎、源の實朝公、長十郎

下り澤村其答初め瀨川多門後に中村大吉○尾上菊五郎久々にて海老藏と出合近江八わた石段のたて曾我兄弟の早替り大出來五立目對面第貳ばめんお祭り佐七おはこの狂言にて大當りなり

○二月十日より市村座「七五三飾寶曾我（しめかざりおたからそが）」三ツくしのおいち、化わひ坂の少將、げいしやおしゆん、工藤奥方梛の葉、お千代、十六夜、紫若、朝日奈、八百やばゞおやを、小五郎兵衛、清兵衛、閉坊法印、見づきの彌助、芝十郎、百疋屋金兵衛、佐五右衛門、奥山げいしや小ひな、杵屋駒吉、かほる、下座敷持元八、うさみ左衛門、男達玄藏、甚六、箱根の畑右衛門、劔澤外記、飾右衛門、梶原源太、宮越三藏、大次郎、梶はら平次、男達與市、鷺助、梶原平三、三平、番場の忠太、肴うり石、ィ四松、安西の次郎、仲助、愛甲の三郎、鯛藏、臼杵太郎、大和助、ちゞみ商人七右衛門、佐十郎、伊豆次郎祐清、花柄の平太、歌助、非人大磯の松、方九郎、鬼藤太、がん八、又八、竹の下家主孫八左衛門、方江御前、八わたの助、吉太郎、曾我五郎時宗、赤澤十内、小者三太郎、講釋師鯱勇、下駄のは入權兵衛、たいこ升八、

八百藏、娩ますの、瑣吉、同梅野、主治、同三ツは、歌女太郎、稽古娘山吹、妻次郎、同もしの、らいの助、セウガクボ、市太郎、柏屋丹次郎、雀五郎、地ごく清兵衛、竹本鳥場太夫、十藏、鄉助、大吉、でつち久太八、稽古娘お民、太三郎、同おあさ、淺之助、同ます、守之助、同かつ、八百や忰勝次郎、三浦片貝、賴朝息女大姬君、橘之助、眞弓御前、十內女房おきわ、芝鶴、大礒のとら、鬼王女房月小夜、げいしやお秀、しうか、角力取白ぶし源太、八百屋半兵衛、鬼王新左衛門、大藤內成景、工藤左衛門祐經、歌右衛門、曾我十郎祐成、梅澤小五郎、男達月見の三五郎、井筒や傳兵衛、羽左衛門、第壹番目の與淨るり（蓬萊に髭かきな／てよ和歌ゑびす）「戀敵衛渦卷（こひでんじゆちどりのききもの）」升八、八百藏、片かい、橘之助、せふ〳〵、紫若、お玉、しうか、大藤內、歌右衛門、祐なり、羽左衛門、常磐津文字太夫、同小文字太夫、兼太夫、三絃岸澤式佐、同三藏、連中第貳番目大切淨るり道行「傘濡衣（あいあいがさぬれてきさらぎ）」白ふじ、歌右衛門、おしゆん、紫若、傳兵衛、羽左衛門、半兵衛、歌右衛門、小ひな、歌ほる、三五郎、羽左衛門、常磐津連中相勤何れも大出來大當り○八百や半兵衛人形身大に評よしすまふ白ふじ關取阿武松其まくの

仕打大出來○三月廿一日より第一ばんめ第貳番目の間へ所作事
「花暦十二月所作（はなきやうだいねんぢうぎやうじ）」　△市村羽左衛門　○中村歌右衛門
○松の花月若菜摘公家△梅見月春日詣官女○櫻月花見田舍持△花殘り月卯の花賣丁稚△橘月菖蒲人形鐘旭小鬼笒次郎○床夏月やとひ奴（山王祭禮／奴）雨八△女郎花月七夕祭娘○葉月月の紋日（○けいせい／○神なり）○菊月腹鼓の僧茂林寺狸福助△霜の花月山獵師狩人○△室の花月女鉢木△白妙（最明寺）△梅はつ月石橋雨人相勤捕手與山、歌助、甚六、雀五郎、駒助、大次郎、又八、鷺助、三平、イ四松、大丸○三淨瑠理常磐津文字太夫、同小文字太夫、兼太夫、三絃岸澤式佐同三藏上て（うし）山五郎、三八相勤長唄富士田歌成、同吉藏、同千五郎、同新十郎、芳村伊千五郎、松本鐵五郎、岡安升吉、松永忠兵衛、三味線きねや勝五郎、同三太郎、同六松、同和八、同長四郎、ふへ菊川幸吉、菊枝安太郎、住田彥吉、小つゞみ太田市兵衛、大つゞみ福原百之助、たいこ福原門左衛門、同福原染吉、ふり付松本五郎市、花川蝶十郎、藤間男女太郎、藤間勘十郎、小つゞみ寶山左衛門、三みせん杵屋六三郎、淨るり竹本イ菱太夫、同イ理太夫、三絃鶴澤勘六、野澤市

作、相勤當所作事大出來
○三月七日より中村座「時節吉野千本櫻」川越太郎重頼、渡海屋銀平實は平知盛、富樫之助家直、横川の覺範、吉三郎、武藏坊辨慶、すしや彌左衛門、佐藤庄司元治、冠十郎、左大將朝方、川連法眼、四郎五郎、繼信一子鶴若、壽三郎、さがみ五郎、小柴嘉門、逸見藤太、鶴藏、龜井の六郎、鶴五郎、猪の熊大之進、森五郎、土佐坊、廣五郎、おさと母おらち、雷助、庵守西念、市右衛門、船頭沖六、冠藏、百姓重右衛門、つる助、下男おべく、權助、座頭ねぶ市、花右衛門、金比羅參り捨松、百姓さいかち、典平、篠原藤內、いせ參り、藤橋、旅役者ゑん之丞、ごせおきよろ、璃三郎、舟頭なだ藏、たいこ扇好、相藏、同浪八、七五三藏、六代御ぜん、金藏、ごん太忰善太、臺太郎、義久一子よし丸、源平、熊井太郎、彥三郎、金子の小彌太、猿藏、荒法橋、五人組杢郎兵衛、義右衛門、樂醫坊、荒川軍平、紀次、五人組佐右衛門、官女花藻、玉江、姒彌生、紅之助、若ふじ、梅代、浮花、菊壽、官女浮洲、梅之助、百姓鍬藏、鬼佐渡、旅籠や忠兵衛、曾呂平、同鍬作、染五郎、駿河次郎、鈨之助、川つら女房、飛鳥璃久三郎、若葉の內侍ゝ菊代、入江丹藏、たいこ兵太、岡右衛門、時忠息女卿の君、忠信妻花垣、松之助、繼信妻菊町、權太女房小せん、耶子、梶原平三景時、主馬の小金吾、清十郎、和泉三郎、源の義經、團三郎、靜御前、小柴嘉門娘おしづ、すしや娘おさと、菊次郎、佐藤四郎兵衛忠信、源九郎狐、典侍の局、いがみの權太、十津川口口、すしや彌助實は惟盛、鷲尾三郎義久、訥升、鎌田の光次、傳藏、淨るり竹本連中相勤第貳番目所作事（手道具も五ゝ・行といふ「）世帯雛遊睦相生目錄」○墨染櫻に傚ふ關守の本性（大伴黑主吉三郎、墨染櫻の精、訥升）○かちかち山に傚ふ樵男の火性（きこり訥升）○鷲の段に傚ふ農夫の土性（山中左衛門、訥升、兒傳藏）○道成寺に傚ふ生娘の金性（道成寺姫）○宮戸川に傚ふ網打の水性（りやうし訥升）常磐津文字太夫、兼太夫、吾妻太夫、三絃岸澤式佐、同文左衛門、壽助相勤長唄はやし連中何れも大出來「千本櫻」新狂言大序是迄之通り

つゞきくか君花見の場序の中堀河御館同切鳥居場返し佐藤庄司屋敷の場二段目大物浦の場同返し碁磐忠信三ノ口切推木よりすしや四段目切道行御殿場何れも大出來大當りなり

○三月五日より河原崎座口上石板の寫

乍憚以口上書を奉申上候
御町中樣益御機嫌能被遊御座恐悦至極に奉存候隨
而當春狂言殊之外御意に叶ひ古今稀成大入大繁昌
仕候義座元權之助並私義不及申上此度再勤仕候尾
上菊五郎始惣座中難有仕合奉存候分而申上候者私
先祖より傳來候歌舞妓十八番の內安宅の關辨慶勸
進帳之儀は元祖市川團十郎才牛初而相勤二代目團
十郎柏莚迄は相勤候得共其後打絶候故私多年右之
狂言心掛種々古き書物等取集相調候處此節漸々調
候に付幸ひ元祖才牛儀當年迄百九十年に及候間代
々相續之壽二百年の賀取越として右勸進帳之狂言
相勤申候右勸進帳之儀は外記やうのものにて余り
古代に相成候間幸ひ杵屋六三郎儀は私幼年よりの
朋友此度一世一代として三絃手事ふし付新らたに
致させ「櫻門五三桐」と「おはん長右衛門」の間にて
相勤奉入御覽候誠に古代にて御意に叶ひ候義は有
之間敷候得共先祖の例而已市川代々御贔負の御餘
光に而二百年來の御取立と被思召被仰合賑々敷御
見物之程偏奉希上候以上

三月　市川海老藏

第一番目「樓門五三桐」眞柴大領久吉、奴矢田平、菊五郎、眞柴久秋、松助、福島市松、菊之助、筑紫の權六、菊四郎、瀨川求馬、勘藏、櫻井熊太郎、光五郎、奴入平、三藏、同澤平、朝十郎、蒲田軍藏、岩五郎、奴山平、茂々十郎、音平、駒右衛門、盜人桐八、らい助、同本藏、立花たいこ持九八、音次郎、伊吹傳藏、坂田の八郎、市松、山崎隼人、三代藏、小紺の源五郎、千右部平、赤猿、奴關內、箱猿、同秋內、玉猿、同宅內、黑猿、堅田小雀、海猿、五右衛門一子五郎市、新之助、石川五右衛門、此村大炊之助實は太明朱蘇卿、海老藏、久吉小性右門、猿藏、同左門、茂々太郎、米山甚右衛門、一猿、仲居おせん、扇之助、嫐彌生、羽三郎、仲居おはる、春次、外山こん八、粂藏、けいせい花橘、升之丞、蛇骨ばゝア、方作、仲居お大、こい之助、傾城九重、其答、岸田の局、市藏、大炊之助妻吳竹、早川の妹ふせ屋、粂三郎、早川高景、九藏、眞柴久次、團十郎、久吉の小性林彌、長十郎中幕○元祖市川團十郎才牛百九十年の壽歌舞妓十八番の內「勸進帳」武藏坊辨慶、海老藏、判官よし經、團十郎、常陸坊海尊、市藏、卒子兵藤、菊四郎、片岡八郎、黑猿、伊勢三郎、赤猿、卒子伴藤、箱猿、駿

河次郎、海猿、辛子權藤、万作、富樫左衞門、九藏、長唄芳村伊十郎、岡喜安代七、芳村金五郎、岡安喜久三郎、三絃杵屋長次郎、岡安若三郎、杵屋彌七、杵屋三五郎、長唄岡安喜代八、ふえ福住長五郎、小つゝみ六鄕新三郎、大つゝみ小泉長次郎、同六鄕新十郎、小つゝみ望月太左衞門、ふり付西川扇藏、三絃一世一代杵屋六三郎、相勤第二ばんめ「御注文繻子帶屋」片岡幸左衞門、しなのやおはん、菊五郎、座頭松市、松助、針の惣兵衞、菊四郎、げいこ雪野、伊三郎、家主杢郎兵衞、たい助、仲居おふじ、おの江、二軒茶屋娘おきく、三すじ、帶屋長右衞門、海老藏、おはん母おかや、こいの助、長右衞門、女房おきぬ、仲居おやま、榮三郎、若徒段助、八坂の□、三吉、片岡幸之進、九藏、でっち長吉、團十郎淨るり「おはん長右衞門櫻花桂川浪」おはん、梅幸、座頭、松助、おそま、榮三郎、三吉、九藏、長右衞門、海老藏、長吉、團十郎、淸元延壽太夫、同榮壽太夫、志喜太夫三絃淸元一壽、同延三、梅次郎當狂言大々當り○豊芥按するに此度の「勸進帳」一ト幕ならば昔の一切づゝの狂言に似たり今度海老藏摺物をものして御贔負の連中へ配る其文に曰く

勸進帳之儀者元祖團十郎相勤二代目團十郎へ相傳其後絶て興行不仕狂言一條全を不得家之傳書も蠧而切々相成居り多年補綴し漸々當春其全を得幸ひ今度百九十年之壽に相勤候得共元祿年間古雅成立振舞故思召にも叶不申恐入候百九十有余年無爲替御贔負之御惠御機嫌宜鋪御見物奉願上候と云々

此書中に元祿年間とあれば最早續狂言なり按するに元祖市川團十郎一世の内大當りといふは元祿十五壬午年二月二日より中村勘三郎座におゐて武藏坊辨慶の役其節大名題

提虎鞆泉寬濶弌藏「星合十二段」四番續狂言作者三升屋兵庫 是元祖才牛の俳名なり役人替名

武藏坊辨慶、市川團十郎、上るり御前、芹田小傳次、めのと十五夜の前、袖崎いろは、れいぜいの前、澤村小傳次、三河の大部、中嶋三郎四郎、たんかい法師、よこ山六郎次、いづみの三郎、宮崎傳吉、同娘柱の前、市川竹之丞、さとうつぎ信葉山岡右衞門、ひづめ五郎、市川團四郎、鈴木三郎、村山四郎三郎、其餘は略之

此狂言古今大々當りにて二月二日より初め六月廿五日迄百五十日の間興行す是才牛自作の狂言なり見

物は夜のうちより群集して棧鋪も切落も見物の人々安氣して見ることあたはず故に此狂言を星合とは得言ずしておしあい／＼と江戸中の大評判なりしと云々

「役者江戸櫻」元祿十五壬午年評判記に云前に略之顔見世より二三度狂言が當らねばさま／＼町中の悪口此人の勤め給ふ座計り當りつゞけ給はゞ外座の口過は有まじ万事に付て幸不幸の有ものと初心な見物衆は是にて万のことおしはかり給へあなかしこ／＼扨二の替りむさし坊辨慶になり給ひ初に五條橋にて似せ牛若れいせい小傳次どの藝お家の荒事濡事のうつり又外の者のえせまじき大出來なり三番目伊勢の三郎と也信夫小太郎金作殿を鑓にて殺さるゝ處むがうして尤に聞え此所第一の大當り大切の藝者人樣御らんの通何をせられてもおもしろからぬ所なし顔見世初狂言の不出來を此度の辨慶になり伊勢の三郎兩役の當りにて取かへしぬと諸見物の悦び大方ならず兎角關東無双の名人とは此人と中村七三郎じやと見ぬ國の人々はおぼ召せ／＼と云々按するに元祿十四辛巳年十一月顔見世狂言大名題「葛城吳越戰」同十五壬午年春狂言大名題「鎌田家大黒柱」此狂言正月二日より相始し處不評判にて同廿六日舞納此二芝居は名人同士寄合にて不勝れと見へたり

扨又七月より右「十二段」後日として大名題（女高砂勢松 女熊坂茄松）「新板高舘辨慶状」十二段後日大狂言四番續市川團十郎作當狂言是又大當り此度は二人り辨慶なり○按に此度の「勧進帳」恐らくは是等より出たるものなるべし後絶へて興行せざるが寶永年間より年々の評判記其外芝居の書に見當らず夫より百二十余歳の春秋を經て安永二癸巳年十一月中村座顔見勢狂言大名題「御攝勧進帳」第一ばん目五立目安宅關の段（此度は前巻に出す）按ずるに此度の壽狂言「星合十二段」「高舘辨慶状」「御攝勧進帳」安宅關の場に能狂言と歌舞妓狂言と取交へ添削せし白猿が妙作なるべし代々血統を以て七代八代と榮ふるは實に大江都俳優の隨市川其流きよく潔よし此下流を汲もの數多ありされば歳々の評判記にも三ヶ津役者の巻首稱譽せり西塔の武藏坊辨慶は力万人に勝れ市川海老藏が藝は万人に秀たり

都にはあらぬ吾妻の武藏坊藝のちからには一騎當千

豐 芥 子

其餘は爰に略省す壽勸進帳の一條別記に委細にあり

○四月五日より**市村座**「ひらかな盛衰記 市川」八百藏、關三十郎と改名、歌右衛門舞臺におゐて口上、こし元千鳥、紫若、船頭權四郎、芝十郎、隼人娘おふで、歌をる、橫須賀軍內、奥山、家主義右衛門、甚六、雁かゝアおかゑ、翫右衛門、船頭九郎作、大次郎、同富藏、鷲助、同又六、三平、番場の忠太、イ四郎、船頭灘藏、仲助、同磯六、たい藏、沖藏、大和助、浦藏、幸吉、茶道珍才、のし藏、梶原郎等權藤太、正藏、同兼太、杉藏、義仲公達駒若丸、安次郎、梶原平次景高、秩父の重忠、三十郎(八百藏改名) 松右衛門一子つち松、琴次郎、娫若葉、歌女太郎、卯の花、淺之助、しげり、太三郎、つゝじ、玉次、なでしこ、麗之助、あやめ、妻次郎、柏木增吉、講頭太郎兵衛、大吉、同忠吉、雀五郎、山吹御前、橘之助、梶はら奥方ゑんじゆ、鎌田隼人、吉太郎、松右衛門、女房およし、しうか、船頭松右衛門實樋口兼光、歌右衛門、梶原源太景季、源賴朝公、羽左衛門、第二ばんめ「戀女房染分手綱」沓かけ村(道中双六)乳人重の井、紫若、本田彌惣左衛門、鷲塚八平次、芝十郎、奥女中はし立、歌をる、馬士次郎作、歌助、雲介の三、駒助、同權、又八、調の姫、守之助、八藏一子捨松、勝次郎、由留木の若殿福丸、福助、沓掛村馬士八藏、三十郎、ぢねんぢよの三吉、粂三郎、娫玉笹、紫子松、幾世、歌女太郎、柵玉次、綾瀨、太三郎、早わらび、淺之助、桐しま、妻次郎、ふじ浪、らいの助、增花增吉、橫田文藏、十藏、宮瀧源吾、雀五郎、奥女中室井橘之助、八藏母おさわ、芝鶴奥女中若菜、女馬士小まん、しうか、座頭慶政、歌右衛門、伊達の與作、由留木左衛門、羽左衛門○五月十五日より 貳番目大切(夕ぎり伊左衛門)「廓文章」吉田屋だんあふきや夕ぎり、紫若、吉田屋若者五八、奥山、月八、歌助、京七、甚六、喜助、翫右衛門、當助、駒助、喜左衛門女房お秀、しうか、よし田や喜左衛門、歌右衛門、ふじや伊左衛門、羽左衛門、富本豐前太夫、同志賀太夫、染太夫三絃名見崎東三郎、同德治、忠五郎相勤竹本イ菱太夫、同イ利太夫、鶴澤翫六、竹澤市藏相勤いづれも大出來

○五月五日より**河原崎座**「騎飾忠臣鞍」大わし文吾、牧の侍從後醍谷妻かほよ、笹野屋船頭三五郎、九藏、

鹽谷判官高貞、富森助右衛門、團三郎、石堂縫之助、菊之助、師直奥方たへま、げいしや菊野、中村大吉（澤村其答改名なり）山名次郎左衛門、德右衛門、道心了貫、万作、山崎百姓平右衛門、菊四郎、師直下部谷助、夜番人太郎七、勘藏、道具屋甚助、斯波新左衛門、三藏まわし幸八、朝十郎、六角左京、男げいしや喜之助、茂々十郎、高野家來伴吾、駒右衛門、同足輕郡八、からい助、鄕六、立藏、うん八、乃助、三六、扇屋、淵邊伊豫守、賤ヶ谷伴右衛門、黑猿、小姓吉千代、ふかん平、大星大三郎、新之助高野武藏守師直、勝間源五兵衛實不破數右衛門、家主くら廻しの直助、大星由良之助、海老藏、鹽谷爲若丸、猿藏、小性みよし丸、茂々太郎、桃井播磨之助、男藝者喜左吉、海猿、山名下部かに藏、判人源六、赤猿、願人のたまく坊、たいこ持澄八、箱猿、同馬太夫、下猿、石堂刑部、柿猿、道具屋彌八、たい助、足利直義公、澄五郎、小性半彌、新子、同林彌、よね万、鹽谷妣若葉、扇之助、同さつき、紅之助、高のこし元ふせや、春次、粂本娘分お安、三すじ、同おつね、おの江、勾當內侍實は鹽谷の妹初霜、升之丞、師直の母高壽院、鯉之助、若黨六七八右衛門、日四郎兵衛孝則、市藏、かほよ御前實勾當內侍、げいしや小まん、榮三郎、もゝの井こし元小なみ、粂三郎、大星力彌、下部彌助、團十郎、新田義若丸、長十郎

○當狂言忠臣藏に五大力を仕組し是を前編として七月狂言にて後へんとして義士の銘々傳御覽に入可申由口上書ありしが中評にて後へんは興行なし

○五月七日より中村座「伊賀越讀切講釋（いがごえよみきりかうしやく）」佐々木丹右衛門、石溜武助、吉三郎、櫻井林左衛門、澤井後室鳴見、沼津の荷物平作、冠十郎、逸見主稅之助、四郎五郎、里の子つる松、壽三郎、荒枝伴作、鶴藏、池添孫八、鶴五郎、進藤野守之助、染五郎、石森慶庵、廣五郎、荒川兵部之助、雷助、荷持安兵衛、市右衛門、飛脚さぎ助、冠藏、なりんぼうの六、つる助、なまなかの權、典平、黑瀨の三、花右衛門、地ばれの七、夜ばんとき助、秀三郎、馬かたほん八、目勝、下代權兵衛、璃三郎、奴りん平、相藏、禿金彌、金藏、同きんや、七十郎、小性右門、芳吉、でつち善吉、市升、里の子よし松、臺太郎、同豐松、市友、上松、鷹丸、源平、桑田內記、澤井股五郎、澤井誠五郎、彥三郎、重兵衛忰重吉、猿藏、里の子德松、德之助、同千の松、澤平、政右衛門、一子巳之助、勝

次郎、山岡榮藏、儀右衛門、戸倉善平、紀次、青田源藏、勘左衛門、柏木善右衛門、佐十郎、河内屋娘おてう、玉江仲居おかう、紅之助、同おたつ、梅代、お菊、菊壽、同お梅、梅之助、鎌くらや爲助、曽呂平、びやくらいの八、染五郎、上松春太郎、鈥之助、仲居おきち、璃三郎、志津摩言號お袖、菊代、河内や妙貞、岡右衛門、けいせい花紫、松之助、齋宮妻濱町、珉子、上松右內、和田志津摩、清十郎、丹右衛門妻笹尾、平作娘およね、政右衛門女房おたに、菊次郎、唐木政右衛門、呉服屋重兵衛、和田靱負、訥升、上松主水之助、傳藏、當狂言、大に評よし○六月廿一日より「達浴衣一對色揚」万壽屋藤吉、駕かき傳兵衛、吉三郎、男達清兵衛、冠十郎、魚うり松、壽三郎、植木屋友藏、四郎五郎、かるわざ口上豆助、鶴藏、池澤や與三郎、鶴五郎、非人の三、森五郎、中間權平、廣五郎、若徒丹次、雷助、見せ物師彌十、市右衛門、升屋若イ者源兵衛、海藏、見世物師鳥八、冠藏、足力あんま欲市、典平、松井源六藤橘、茶飯や藤七、花右衛門、見世物師三太、相藏、子供かる業小よし、市升、同小なつ、金藏、判人彌助、玉猿、駕舁竹、柿猿、万壽やかゝへ升六、黒猿、巴屋娘お玉、あかん平、藤吉悴喜久次、猿藏、船橋次郎左衛門、道心者願哲、海老藏、塚本一子與之吉、源平、禿ゆかり、臺太郎、同あやめ、市之助、鈴木彌平太、紀次、梁田伴藏、染五郎、万壽屋抱げいしやお梅、梅之助、同おせん、菊壽、同おとく、梅代、同お安、玉江、蔦や花次郎、鈥之助、井づゝや女房お民、璃久三郎、がく俵屋小三、菊代、つりかねや彌左衛門、岡右衛門、奥女中松ヶ枝、松之助、傳兵衛母おくら、みんし、船頭金や金五郎、清十郎、大三ッ、樽ひろひ市、新之助、万壽や八ッはし、菊次郎、土手のお六、佐野次郎左衛門、訥升、伊香保頁之助、傳藏、大に評よし

○當狂言文化十二亥年五月河原崎座におゐて「杜若艶色染」と云文政九戌年九月市村座「杜若色艶染」天保二卯年七月河原崎座「色操廓文月」右是迄三度興行せし同狂言なり

○六月廿日より河原崎座「東鑑怪談噺」非人宵寐の仁三實泉の小次郎、けいせい陸奥太夫、小佛小平、三浦總淺香後小平次女房お百、笠原彌太郎、小舟乘半七、仲町藝者蓑屋三勝、千葉の家主赤根平之進、彦三郎、千葉多門之助、新之助、厚倉次郎太夫、八內、同心

敎心、市藏、平左衛門つゝま葉ずへ、仲丁みのやおその、こいの助、敎心寺哲玄 後立場 多九郎、料理人、長九郎、富田六郎淸定、万作、足輕源六、庄屋茂作、佐十郎、比企の判官、道具屋や甚八、虎五郎、こし元おとら、所化有宅、今市善右衛門、箱猿、太こ持淸元馬太夫、玉猿山賊石藏駒右衛門、同岩助、らい助、同三八、立藏、非人がん次、乃助、同七、目かつ、ほうづき賣三吉、猿藏、蠶もしほ、げいしやてる次、升之丞、照井太郎鬼住、船頭市、赤猿、燈籠うり長松、茂々太郎、禿もじの新子、同てり葉、よね万、小姓吉彌、树之助、でつちぽん太郎、三次、やりておくま、扇藏、非人八、市太郎、今市下部郡内、鶴助、佛孫兵衛、たい助、娘おせん、紅之助、同おはる、新造しのぶ、みすじ、仲居おゆき、能貝娘三笠、おのへ、二見屋十右衛門、山賊松六、海猿、三浦の前司、せげん五兵衛、黑猿、次郎太夫娘おづう、蜑小磯實は常胤妻星の井、お百妹おみね、太吉、泉の小次郎實は千葉之助常胤、若徒戸山十助、團三郎、船宿大和屋のおやま、粂三郎、江間小四郎義時、浪人輪倉勝五郎、團十郎、源の頼家公、長十郎、當狂言彦三郎 大出來大當り夏狂言中直安

文政十亥年夏於市村座「斯將優曲者」と云に同じ

○七月廿五日より 市村座「御贔負杷虎木下」孔人侍從、狩野雪姫、紫若、山口九郎次郎、男立喜藏、加藤正淸、芝十郎、藤吉女房おきく、歌をる、大東小次兵衛、奥山、森三右衛門、歌助、茶道珍齋、龍右衛門、日雇市助、大次郎、村長吉郎兵衛、橘十郎、朝倉義景、三平、茶道林才、イ四郎、百姓大作、たい藏、同豊作、仲助、足利輝若丸、勝次郎、藥屋是齋實松永鬼藤太、森蘭丸、三十郎、正淸一子主計之助、福助、こし元とこ世、淺之助、同初瀨、太三郎、瀧田、龍之助、小室、妻次郎、小はき、橘助、石原新吾、駒助、家主持兵衛、十藏、奥女中澤野、春次、春永妹司姫、橘次、柴田權六、是齋女房おさち、吉太郎、春永奥方几帳の前、是齋娘おつゆ、しうか、松永大膳、此下藤吉、多々羅左衛門實は明智光秀、歌右衛門、狩の、助直信、上かんや新作、小田春永、羽左衛門

○中村玉助三回忌追善狂言「けいせい反魂香」又平女房おとく、紫若、庄屋藤内兵衛、芝十郎、下女おさら、奥山、狩野修理之助、三十郎、將監娘おむめ、歌女太郎、土佐將監、吉太郎、浮世又平、歌右衛門、狩の歌之

助元信、羽左衛門○八月廿八より大切淨瑠理「戻駕色歌羽」あづまの與四郎家橘、禿たより、しうか、なにはの次郎作、歌右衛門、常磐津文字太夫、兼太夫、組太夫、三絃岸澤式佐、同文左衛門相勤大出來大當り○金閣寺大仕掛追善吃又大に評よし○八月四日より中村座「新園祭禮信仰記」松永大膳、山口九郎次郎、武智十兵衛光秀スケ 海老藏、小田上總之助春永、十河軍平實加藤虎之助、吉三郎、小西是齋實松下嘉平次、松永弟鬼藤太、冠十郎、盜人幾藏、四郎五郎、同小次兵衛、雀藏、同三、櫻井新吾、森五郎、柴田權六、本能寺日和上人、廣五郎、長尾彌太郎、是齋女房お七、雷助、人足太郎作、市右衛門、百姓彌五七、冠藏、同甚九郎、相藏、公達てるわか丸、芳吉、石川五郎市、猿藏、小田三法師丸、源平、乾丹藏、紀次、棟梁杢兵衛、玉猿、庄屋龍藏、染五郎、彌太郎妹みゆき、梅之助、多三妹立田、玉江、淺山多三、鈨之助、光秀妹きゝやう、是齋娘お露、菊代、盜人かん太、岡右衛門、森の蘭丸、下男新作、かのゝ介直信、清十郎、武智十次郎、新之助、狩野のゆき姬、藤吉女房おきく、乳人侍從、菊次郎、木下藤吉後眞柴大領久よし、安田作兵衛、訥升、森の力丸、傳藏第貳ばん目「戀湊博多諷」毛ぞり九右衛門、海老藏、向井金十郎、吉三郎、小倉傳右衛門、冠十郎、奧田屋四郎右衛門、四郎五郎、中國彌平次、鶴藏、じやがたら三藏、森五郎、か田の市太、廣五郎、たいこくん介、海藏、同ぶん六、冠藏、りやうり人喜助、花右衛門、仲居もしほ、相藏、博多のけいせゐ小女郎、杜若、早手の風平、染五郎、博多傾せいかつ川、梅之丞、奧田屋仲居おはる、梅代、同お花、菊壽、代官彌藤吾、鈨之助、けいせい小くら、菊代、德しま平右衛門、岡右衛門、奧田や女房おかつ、珉子、座頭盛市、清十郎、けいせい江口、菊次郎、小まつや宗七、訥升、箱崎要之助、傳藏○海老藏毛ぞり九右衛門此度三度目いつもながら大出來大當り小女郎宗七評よし○九月十一日より中村座「菅原傳授手習鑑」舍人松王丸、後室覺壽スケ 海老藏、舍人梅王丸、宿禰太郎、吉三郎、藤原の時平公、百姓白太夫、土師兵衛、冠十郎、小舍人熊王、壽三郎、春藤玄蕃、四郎五郎、左中辨希世、よだれくり與茂太、鶴藏、下男三助、森五郎、奴宅內、廣五郎、安樂寺住僧雷助、笠見藏人、龍藏、左少辨菅根、市右衛門、百姓出來作、冠藏、同可內、花右衛門、仕丁次郎又、相藏、里の子岩松、万作、若松、市

之助、太郎松、澤平、菅秀才、吉吉、小舍人虎王、澤平、松王女房千代、立田の前、櫻三郎、松王一子小太郎、猿藏、似せ迎ひ彌藤次、黒猿、堤畑の十作、玉猿、荒島主膳、夏五郎、總勝の、扇之助、もしほ、梅代、ふたば、菊壽、てり葉、玉江、齋世親王、鈍之助、局岩瀨、璃三郎、かりや姫、菊代、三よしの清貫、鬼右衛門、御臺花園御前、珉子、梅王女房おはる、判官代てる國、くりくら太郎、清十郎、小舍人獅子王、新之助、櫻丸女房八重、源藏女房戸浪、菊次郎菅相丞舍人櫻丸、武部源藏、訥升、秦の兼成、傳藏、第貳ばん目白藤源太おしゆん傳兵衛、花川戸身替(はなかはとみがはり)の段角力取白ふじ源太、海老藏、眞猿屋與次郎、吉三郎、古手買輪違屋八兵衛、冠十郎、増田郡藏、市藏、地廻り伊三、つる作、同吉、秀三郎、げいしやおしゆん、榮三郎、園の生の前、玉江水茶屋おせん、扇之助、お俊娘おとく、菊次郎、井筒屋傳兵衛、訥升、有松圭水、傳藏、清元延壽太夫、同榮壽太夫、志喜太夫、三せん清元齋兵衛同一壽千藏相勤

何れも評よく大當り○此度清元忰榮壽太夫へ内縁有之候市川海老藏烏帽子親と相成元服爲致候御披露且は延壽太夫御ひゐき樣より御進めに隨ひ召出候口上あり

○九月廿七日より市村座「礒衛成渡雁(いそちどりなるとのかりがね)」十左衛門女房おしづ、けいせい花紫、紫若、浮島甚太夫、芳桂屋手代喜兵衛、浮嶋下部大八、芝十郎、富岡玄蕃、よこねの松、奥山、黒本丹下、大炊之助妾お民の方、歌助、村數十次兵衛、猿左衛門、守山軍次、大次郎、薩嶋下部宅内、又八、増田源吾、鷲助、たいこ喜八、七五三藏、足輕覺左衛門、橘十郎、判人金兵衛、三平、飛脚早助、たい藏毒虫の八助、〃四郎、生竹の七平、仲助、鯱の文太、相吉、悪酒の勘次、杉藏、惣ふじの松六、富藏、いせ參り八八、梅藏、圭膳一子圭税之介、勝次郎、薩島傳藏、菅楚圭膳、三十郎、次兵衛忰簡次郎、福助、大八一子喜代松、琴次郎、こし元小笹、麗之助、ぬるで、太三郎、もみぢ、妻次郎、いろは、猿之助、あをば、増吉、雲介才六、駒助、萩本要人、雀五郎、原文次、十藏、芳楚や下女お徳、春次、いせや娘おきし、橘助、十左衛門母みさほ、芝鶴、高岡中納言常長、芳楚屋下男與助、吉太郎、信田の息女久姫、粂三郎、姒霜夜、次兵衛娘おみつ、村平女房おいち、しうか、千原十左衛門、よしのや次兵衛、歌右衛門、虚無僧妙典實浮嶋長七、若徒勇助、

信田大炊之助、羽左衛門、第弐ばん目大切上るり頃は五月中旬なるに是は〳〵とばかり花の「吉埜山雪振事(よしのやまゆきのふること)」辨の内侍、千枝狐、羽左衛門、正行、三十郎、定辨律師、芝十郎、衛士又五郎實は葛の恨之助、歌右衛門、常磐津小文字太夫、同兼太夫、組太夫、三絃岸澤式佐、同文左衛門、三藏和勤大當り○九月九日より河原崎座「東海道振分雙六(とかいどうふりわけすごろく)」澤井又五郎、磯具實右衛門、同下部友平、呉服屋十兵衛、船頭九八郎、彦三郎、上松の小姓求馬、新之助、丹右衛門妾お雪、祇園のけいこ花紫、大吉、道具屋甚九郎、馬士大藏、万作、和田志津摩、でつち伊太郎、勘藏、祇園鯉や万兵衛、虎五郎、庄や杢右衛門、茂々十郎、馬士彌六、駒右衛門、川ごし蛇籠の石、らい助、同晋、立藏、同松、晋次郎、嶋田の留女、お入、叶市六、伊勢參りぼん太、目勝、雲助、三三次、同六、金作、布山かん太、辰藏、大原惣太、鶴助、早川金吾、芝鐵、馬士山中の万九の助、酒賣八兵衛、扇藏、政右衛門一子巳之助、實右衛門娘おそで、祇園鯉万仲居お市、杜若、上松小姓主税、猿藏、こい万料理人七助、黒猿、嶋川下部峯平、嶋田宿二見や十太夫、海猿、青茶ばゞアおとら、箱猿、澤井の下部段助、赤猿、竹の内せいたく、一猿、足輕佐五平、たい助、香川帶刀、柏木傳右衛門、佐十郎、鯉万仲居おつゆ、紅之助、同お花、辰之助、同下女、おまつ、おの江、荒卷伴作、醫者養閑、甚六、政右衛門妻お谷、鯉万仲居おたき、こいの助、櫻井林左衛門、鳴見城五郎、菊四郎、梶川傳五右衛門、池留孫助、市藏、祇園町、けい子松の、粂三郎、嶋川太兵衛、佐々木丹右衛門、和田靱負、石留武助、唐木政右衛門、九藏・髪結次郎吉、磯貝藤助、團十郎、山の内賴母之助、長十郎大出來在下け

○此狂言は文化三寅年七月中村座「初紅葉二樹讎討(はつもみぢふたきのあたうち)」と云大名題にて三津五郎、男女藏、伊三郎、路考にて大あたりなりし天保八河原崎座「世界平氏梅顏鏡」此度も相應なり○十一月九日より中村座「優平家劇(やさへいけかぶき)場軍配」惡源太義平、湯屋番頭茂兵衛、門脇中納言敎盛、岡嶋屋璃寛實有王丸、崇德新院、渡邊左衛門、百吉三郎、長田庄司忠宗、晋羽湯株以春、彌平兵衛宗清、壬生村門前小紫清次實舟越十右衛門、長田太郎、冠十郎、清盛妾佛御前、五條の傾せゐ若草、下りげい子東やの小辨、中村梅枝、おわりや茂吉、壽三郎、磯脇宮藏、家主ひね右衛門、鹿の谷賤女おむら、鶴藏、俊寛家來高松三次、三條の鳶の者兼吉、庄屋次郎九郎、鶴五郎、

煙草賣留七、難波の郎等軍太、奴半平、森五郎、瀧口三郎、女流しおなべ、廣五郎、中宮の三郎、中村座留場龜安、髮ゆい岩、海藏、雜掌泥之進、旅役者衣裝著せ喜介、浪人なめらの兵、市右衛門、長五郎等運平、近藤判官、常藏、押送り船頭六、冠藏、同まぶ六、つる作、同たくぼゝの江吉、夏五郎、同わし摑の繁、爲藏、同がけの藤六、鶴助、駕かき三、辰藏、同七、仕丁これ又、張藏、仕丁つの又、嶋藏、同三ッ又、おの藏、同うち又、秀三郎、鎭西冠者爲朝、大江太郎、物かわの優藏人、浮世畫師歌川國芳、辻法印黄雀坊實舍人龜王丸、三十郎、舍人德壽丸、芳吉、同銀壽丸、七十郎、金壽丸、孫六、一の宮重仁、惣領十吉、沼の平太、流人深山喜藏、ゆや流し長吉、十藏、あまかよし、妼紅葉、紅之助、同たつた、蜑もし、菊壽、同なぎさ、妼よしの、淺之助、宇野七郎、三絃師匠杵屋三吉、百姓豐作、歌太郎、烏丸片富卿、井戸堀鳥勘左衛門、勘左衛門、築地入道海雲、花の師、一猿、新地判人源四郎、彦左衛門、踊子娘おちく、仕かゝ、女郎およし、扇之助、常磐津文字仲、櫓下かるこ、おしげ、璃久三郎、相模阿闍梨、ながし權七、大船頭浦右衛門、岡右衛門、一條次郎、昔噺馬生、茶番師杉弟、鶴十郎、難波の次郎、松ヶ鼻百姓多作、島守り惣領甚太夫、甚六、佐渡の次郎、奴宅内、けん德寺所化雲けつ、歌助、相馬之助常成、新院妾白峯、三莊太夫娘春町、茂兵衛女房お玉、中山とみ三、三莊太夫娘松ヶ枝、三條清水やおとよ、宗清妻しがらみ、女上るり豐呂撰、大日坂のお竹、常世、白太夫娘八重機、女流し山出しのお三、左大臣賴長息女千鳥前、賤の女お安、次郎吉、女房おさよ、ときわ御前、紫三郎、三莊太夫實は瀬の尾太郎、五條坂の門付浮世伊之助、法性寺修行俊寛僧都、同靈但馬之助、金比羅の講頭、眞虫の次郎吉、平清もり、遠藤武者盛遠後文覺上人、彦三郎（頭取座）舍人友竹、百姓しけ藏、傳藏第一番目大詰淨るり（冬の月うつくし過て　おそろしき其面影の）小夜衣「嫐容顏花競（つまかさねすがたのはなくらべ）」法印龜王丸、三十郎、常政、富三、おむら、鶴藏、兼吉、鶴五郎、白峯姫、紫三郎（經政後寛亡靈）彦三郎、常磐津文字太夫、同組太夫、同唇妻太夫、三絃岸澤式佐、三藏、佐々木市藏（市太郎八五郎）相勤三立目返しだんまり惡源太大江の太郎お安千とり俊寛同亡靈上るり二タ面のやつし貳ばん目しゆとくいん天羽山の如し狂言作者三升屋二三次、狹野吉平、村勘二、晉井連三、中村登一、本屋半七、龜山爲助、幸若周藏、鶴屋南

北○霜月五日より**河原崎座**「歸花雪武田（かへりはなゆきのたけだ）」山本勘助母染雪、船まんぢう大和や小松、善光寺門番花やおむめ、武田奥方常磐井御前、女髪ゆいおでん、杜若、小舍人鯉丸、新之助、高坂妻唐織女、馬士およし、高田水飴屋お市、花やおでん、民部娘かほる、大吉、小舍人紀ノ國丸、舟宿長松、源平、井上新左衛門、齋藤龍丸、難波の六郎、万作、大和之助、妹みのはし、娍秋しの、やうじ見せおせん、辰之助、金ぴら參り三助、坂垣主水、地廻り並木の松、鈨之助、同雷門の五郎助、村上左衛門義清、猿はしふじ太郎、虎五郎、木地根古入道椀具、上かんやとぶ六、紀次、汐尻うん平、辻八卦百中、七五三藏、万屋甚五兵衛、國右衛門、諏訪神職宮齋、杉十郎、武田郎等夕六、駒右衛門、馬場崎九郎、万九郎、筑摩太郎、立藏、沓掛七郎、吉次郎、越名中間、司助、馬鷲者養仙、箱猿、雁中間馬、越名中間万平、玉猿、同角內、土手の堂守次 丹坊、黑猿、小舍人花丸、鳶の者三筋の綱、猿藏、本樵横藏實山本勘助、鬼兒嶋彌太郎、生澤川の鵜飼の七、越名彈正、橋大工吉五郎、遠藤武者盛遠、海老藏、小舍人鶴丸、歯磨うり次郎吉、あかん平、高坂中間德平、いも賣伊五八、海猿、どぜう汁やぬら介、高坂中間宅內、柿猿、同百兵衛、講中頭長六、・猿、百姓すき作、たい助、長尾郎等矢代藤太、らい助、同五九郎、扇藏、女の童小てう、染之助、同なのは、玉市、武田娍山路、紅之助、北の方たをやめ御前、縫物やおぬい、おのえ、藤間門弟おひさ、武田娍二のせ、三すじ、長尾こし元柴多、菊代、北條相模守氏康、そばやかつぎ二八、瓦師太吉、四郎五郎、義晴公妾賤の方、越名妻入江、鶴賀門弟宮古路、こいの助、足利義晴公、大江大和之助、瀧口三郎常とし、清十郎、長尾の娍小梅、水茶やお糸、糸三郎、長尾三郎景晴、柳丁はたこや藤八、武田の近臣春日源吾、若徒長谷平實は信つら、團十郎、武田娍ぬれ衣、松葉かきお山、慈悲藏女房おたね、長尾息女衣紋の前、伊之助女房おとわ、白拍子袈裟御せん、紫若、高坂彈正、武田四郎勝賴、慈悲藏實は直江山城之助、武田信玄、山の宿の船宿伊之助、渡邊左衛門亘、訥升、春宮重仁親王、長十郎、四立目月になまめく淺妻 ふれ闇にいろめく淺 船方「浪枕水棹の濡事（なみまくらみさほのぬれごと）」鵜飼の七、海老藏、舟まんぢう、杜若、衣もんの前、紫若、勝賴、訥升、常磐津文字太夫、同小文字太夫、同吾妻太夫、岸澤式佐、同文左衛門相勤

壹ばんめ「本朝廿四孝」武番目鳥羽の戀塚大田奈當り狂言作者松嶋釣夫、豊晴助、姥尉助、助重文助、中村故助、瀧壽升吉、中村重助

○十一月十一日より市村座「鎭西八郎降魔鏑」(ちんぜいはちろうがうまのかぶら)齋藤五郎國武、長田太郎景宗、八町礫鬼平次、悪染新地の娘分おくら、市川九藏、大隅金子浦の蜑人小さづま、宗清の妾白妙、飛彈内匠娘小露、尾上菊次郎、景友一子重若丸、中村鶴助、安達別當景當、梓巫子眞弓、尾上菊四郎、須藤刑部、中村駟右衛門、飛彈内匠實は悪七別當國連、下男九助實は佐々木源藏、中村芝十郎、非人七ッ梅の權實は阿波民部重能、小川吉太郎、琉球國王の兆宮季花いゝへ、挿木町の傾城常磐木、坂東しうか、鎭西八郎爲朝、雁大工那智の石松、小船乘橋場の吉、中村歌右衛門、彌平宗清、主馬小金吾武里、浮洲の龜、手取の與次、市村羽左衛門、壹番目四立目淨瑠理月花の夢に夢見る霜夜哉「戀九成鴛鴦思羽」鬼平次、九藏、小さつま、菊次郎、季花、しうか、爲朝、歌右衛門、與次、羽左衛門、常磐津小文字太夫連中大切所作事シテハ名におふ傾理前の連御前ソハ名うて道成寺二人鐘入、尼滿月尼實は眞鶴の精靈、市川九藏、尼松月尼實は武藏左衛門鶴國、中村芝十郎、長唄はやし連中道行「南花道振袖」(みちゆきはなみちのふりそで)白拍子連理實は主馬の小金吾、市村家橘、佛御前實は鎭西八郎、中村歌右衛門、常磐津文字太夫連中

花江都歌舞妓年代記續編卷の十五

●天保十二辛丑年

○閏正月十六日より中村座「櫻門五三桐」眞柴久吉、石川五右衛門、吉三郎、奴矢田平實大明順喜觀、冠十郎、小姓銀香之助、壽三郎、けいせい九重、松之助、小西彌十郎、鶴五郎、田中刑部、森五郎、高山右近、廣五郎、黑崎喜藤太、市右衛門、印南平馬、常藏、奴たて平、冠藏、儀平、高倉新吾、夏五郎、奴岸平、秀三郎、松田源吾、相藏、禿草葉、七十郎、同立の、金藏、此村大炊之助實宋蘇卿、三十郎、米塚甚作、石五郎、瀨川求馬、十藏、娌さかき、扇之助、仲居おやま、菊壽、同おはや、淺之助、けいせい花橘、かなめ、眞柴金吾久秋、海藏、篠井熊太郎、岡右衛門、蛇骨ばゝア おろく、甚六、筑紫い權六、歌助、御園生の前、大炊之助妻吳竹、大領の息女曙姫、条三郎、小早川高景、眞柴大領久吉、彥三郎、鞘島市松正秀、傳藏、第貳ばん目（薩摩源五兵衛げいしや小萬笹野三五兵衛）「御存五大切」薩摩源五兵衛、吉三郎、まわしの彌助、冠十郎、条本娘分おまつ、松之助、家主六右衛門、鶴藏、若黨八右衛門、鶴五郎、賤ヶ谷伴右衛門、森五郎、外山鄉藏、廣五郎、夜番ねづ八、市右衛門、熊井軍藏、常藏、非人の傳、つる助、同六藏、肴賣市助、つゝじ料理人喜六鶴藏、たいこ持喜作、目勝蜆うり濱吉、臺太郎、笹野三五兵衛、三十郎、条本亭主伊之助、十藏、仲居おひで淺之助、おさん、紅之助、おきく、菊壽、千崎千太郎、歌太郎、深田鷹八、勘左衛門、石井庵娘分おとわ、かなめ、深井彈八、岡右衛門、奴土手介、甚六、出石宅右衛門、杉藏、条本娘おとく、とみ三、石橋庵女房お此、常世、げいしや小まん、榮三郎、千島冠者、彥三郎、第二番目「魁源平躑躅」扇屋上總、冠十郎、小次郎直家、新之助、姉輪の平次、鶴藏、扇折おすへ、廣五郎、堤軍次、冠藏、庄屋杢兵衛、つる助、百姓音作、林藏、扇折およし、淺之助、同おはな、扇之助、京童升世、あかん平、木鼠忠太、岩五郎、上總娘かつら子、とみ三、御影堂でつち三吉、猿藏、上總女房深雪、常世、扇折小はぎ實あつ盛、榮三郎、熊谷次郎直實スケ海老藏、何れも評判よし○閏正月五日より市村座「筆始曾我編笛負」曾我五郎時宗、栃坊權助實赤澤十內、大黑舞實初の三藏、はんじものゝ喜兵衛、濱名源右衛門、三猿、行氏娘八わたの

小ゆき、女太夫おきく、忠右衛門女房おむめ、梅花、景清一子保童丸、備助、石見屋金兵衛、梅澤や千代三九郎、菊四郎、鎌倉前戸屋千代久七、瓶右衛門、京の小次郎祐伸、虎藏、村八百左衛門、大太郎、小藤太下部久次平、駒助、蓮の冠者、櫻川三孝、さゝ助、神職數馬、茂々十郎、狂言師清枝多平七、五三藏、梶原平三景時、三平、番場忠太、イ四郎、竹の下孫八左衛門、富藏、新見荒次郎、百藏、海野の太郎、德松、大磯屋十男三助、鼻右衛門、大神樂文市、杉藏、善願寺兒吉丸、安太郎、源の實朝公、勝次郎、仲の丁大磯屋傳三、馬士箱根の畑右衛門、極樂寺門前山田屋庄兵衛、稻毛の家臣高市數右衛門、芝藥、小林の朝日丸、茂々太郎、梶原源太、三平、臼杵妹若草、歌女太郎、御所の黒彌五娘はつね、玉江、工藤息女犬姫、淺利妹春鳳、淺之助、金子の娘早はき、蘭之助、久上寺兒稚司坊、太三郎、舞鶴やげいしやおきの、梅之助、同お銀おとき、壻吉、行氏下部宇佐平雀五郎、半澤六郎、市助、妹十六夜、倉橋主水娘かつる、橘之助、曾我團三郎、鎌倉前戸倉や手代喜の助、勘藏、伊豆の次郎、稻毛家臣馬淵仲平太、舞鶴屋女房おつる、梅澤や後家おまん、芝鶴、鬼王新左衛門、忠右衛門、はゝおすは、小川成家娘近江の小藤、鬼王女房同小夜、女太夫勝見のおはな、喜瀨川、仲町のげいしやお瀧、しうか、工藤祐つね、大國舞皆目ざめの音吉、雪の下黒繪町の忠右衛門、瓶雀、曾我十郎祐成、大黒舞拍子の音松、鎌倉河岸梅澤屋五郎八、家橘、第一ばん目四立目淨るり（さいはひ心に任せたり席書の式三番／後端はてうとまいつて候文字ゝ歳旦）「舞奏いろの種蒔」翁替りて三藏、時宗、九藏鳥追おきく、菊次郎、傳三、芝十郎、おはな、しうか、三番叟かわりて音吉、祐つね、歌右衛門、千歳、かわり音松、祐經、羽左衛門大々當り道成寺二人鐘入顏見世に相勤大評ばんにて當狂言大切に相勤候由番付に有之候へ共不出二月より差出す音吉、三藏、音松三人にて狐拳大に流行し江戸中大評ばんとてつるけん獨稽古といふ小本或は錦畫にも出板せり

酒にけん酒の所作事は此時にはあらず弘化四未年河原崎座春狂言伊賀越の時なり一座は歌右衛門、梅幸、九藏、錦升等也如何の間違にや削りて弘化未年の部へ加ふべし

二上り

「酒はけんざけいろしなはかいるひとひよこみひよこ／＼へびぬら／＼なめくでまいりやしよそれじやんじやか／＼／＼じやんけんなばさまに和藤

內がしかられたとらはほう／＼とてつるてんきつねでさあきなせ

「役者按摩曲「吉（前文略之）成駒屋が上手な事はしれた事だ公家高家大名町人皆夫々にしわけるが淺草の昔吉はうきひものであつた「りく＼つ者」吉吉拵のまねを擧るとは何事だおいらは小屋ものとて豆藏どうぜんあちらで歌右衛門が物眞似をすることこそよけれ天下で御免なされた二丁町の芝居で奥山のまねをするとて嬉しがる見物の心のしれぬばか／＼しいこじきのまねでも何のまねでも見物の氣に入る處が當世／＼按ずるに「りく＼つもの」ものゝいふ處も又可なり中役者ならば兎も角も大達者には少し斟酌有たし雷なし非人の役にも本名にても名にてもあれば達ものと思へど初より豆藏と思ふゆへ大に賤しく乍併江戸中の大評ばん大々當り

○正月十一日より河原崎座「戀相撲和合曾我」けわい坂の少將、宇佐美逸平妹おこと、藤兵衛女房おはつ、五郎吉女房おさよ、杜若、御所五郎丸、兵助倅筆松、新之助、和田舞鶴娘、手越の少將、三太夫娘お品、大吉、小奴豆平、大松屋倅伊三郎、あかん平、箱根の閉坊、大松屋手代清八、万作、蒲の冠者、浪人林三太夫、半澤六郎、但馬やでつち虎松、鈍之助、莊柄平太、但馬や番頭權六、虎五郎、大藤内成景、高津伴藏、紀次、雁中間半助、たいこ持林藏、馬平、梶原源太、大松や手代忠七、國右衛門、國嘉助、江間小四郎、杉十郎、梶原平次景住曾平、駒右衛門、首足屋金兵衛、宗三郎、醫者藪之内丹庵、夜番權六、箱猿、景清一子あざ丸、藤兵衛、倅藤太、猿藏、曾我五郎時致、極樂寺門番五郎吉、三太夫、若徒藤兵衛、男達朝日奈藤兵衛、紙屑拾ひ五郎、海老藏、重忠一子重若丸、源平、別當行實、大松や下代德右衛門、鯛助、梶原平三、辻駕の百房藏、馬士、箱根畑右衛門、せげん地獄清右衛門、彦左衛門、安西妹小いつて、下女おとく、春次、新造喜瀨川、娘分おしま、三すじ、景清娘人丸、鳥追ひ篭の輪おさん、おの江、三浦息女片貝、但馬や下女お竹、菊代、人丸のうば晃竹、下谷仲町げいしやおやま、辰之助、三浦平六兵衛、櫻川善孝、張八、河津惣領一ノ宮、吉原鶴屋女房お吉、鯉之助、伊豆の次郎祐兼、幇間大九郎、四郎五郎、赤澤十内、藤兵衛、千分湯島勘吉、但馬や甥甚三郎、清十郎、矢場娘切通のおかん、舞鶴や新造亀さく、条三郎、曾我五郎時

言「堺開帳三升花衣」（此狂言は作は壽阿彌翁にて榮三郎に送りしを海老藏若時分に天保歳にて撰爲し自分の狂言にせし由）熊谷蓮生法師、海老藏、尾貫如、常世、同妙春、松之助、平山武者所、季重、甚六、時忠息女玉おり姫、榮三郎、主馬の判官盛久、彦三郎○蓮生法師軍物語大出來なりしに役者投扇曲に此藝評にし當時出板の江戸の部役者評判何もいゝ撰集にて更に引書不成○四月二日より「岡源躑躅」、「谷嫩軍記」熊谷妻さがみ、須磨の營若松、杜若、熊井太郎、新之助、玉織姫、傾せい菅原實は田五平妹桐島、大吉、保童丸、おかん平、平山武者所、萬作、龜井の六郎、升五郎、忠光妹卯の花、菊代、熊谷郞等軍次、鉄之助、梶原平次、虎五郎、須の又運平・紀次、義經郞等蘆原權藤、主税、時忠臣大館玄蕃、國右衛門、平山郞等成田五郎、駒右衛門、同松浦次郎、萬九郎、六彌太部角内、立藏、同丸助、吉次郎、宅平、乃助、丹六、市兵、越中の次郎、宗三郎、醒ヶ井兵太、篇猿、景清・子譲丸、猿藏、石屋みだ六實は宗清、兎原田五平、隱居樂人齋、海老藏、六代君、源平、三位經盛卿、雷助、阿波の民部、川藏、庄や孫六、たい助、番場忠太、扇藏、百姓茂本兵衛、彦左衛門、奥女中若菜、森次、新造染衣、三すじ、局小槇、おの江、景盛妹吳竹、辰之助、ふじの方、乳母はやし、鯉之助、猪の股小平六、四郎五郎、鈴木三郎繁氏、清十郎、漣姫、粂三郎、九郎判官義經、木こり熊王丸、團十郎、菊の前、熊谷小次郎、平のかつもり、紫若、薩摩守忠のり、岡部の六彌太、熊谷次郎直實、訥升、第二ばんめ「八幡鐘念婚知夜」粂本女房おせん、杜若、藤井靱負、新之助、中村屋女房お□、大吉、おつま親赤にしの佐次兵衛、萬作、丹波屋市兵衛、升五郎、げいしやびな吉實は玄太夫、娘お才、菊代、武藏や船頭長吉、鉄之助、開帳世話人權兵衛、虎五郎、丹波や太平次、料理人喜太郎、駒右衛門、粂本若者仁助、非人の七、箱猿、彌兵衛倅彌三郎、猿藏、吾貝屋彌兵衛、海老藏、ほうかうき賣此吉、源平、木魚講太郎右衛門、扇藏、ふじ本船頭太七、川藏、中むらや下女おはま、春次、同おふみ、三すじ、粂本娘分おかつ、おの江、二階廻しおわか、辰之助、丹波や下女おむら、鯉之助、提岡軍藏、岡部五郎、藤井勘次郎、清十郎、矢との娘お若、粂三郎、下總の家中矢代百藏、團十郎、伸丁丹波屋おつま、女太夫およし、紫若、吉子や八郎兵衛、きぬくや孫藏、訥升、第三ばんめ大切淨瑠璃「心中浮名の鮫鞘」女太夫おつま、紫若、八郎兵衛、孫三、訥升、常磐津

六、茂々十郎、十太郎下部關內、イ四松、奥田孝七、大和助、松村喜平、たい藏、奥女中おなべ、鼻右衛門、光明寺全快、村作、禿かさね、菊助、足利直義公、勝次郎、斧九太夫、百姓伊五郎、一文字屋才兵衛、九太夫女房おれい、矢間新八郎、饗間宅兵衛、種ヶ島六藏、三十郎、一力の娘おくわ、禿せ賀次、安次郎、一力亭主多助、大次郎、馬瀨久太夫、十藏、かほよ御ぜんこし元うた菊、歌女太郎、岡淺ぢ、淺之助、緒谷梅代、岡もしほ、縫之助、一力仲居おきそ、梅之助、おきち、太三郎、おいな、玉市、おはま、瑁吉、松本多門之助、光之助、補村大助、雷助、鹽谷縫之助、一色左京之助、勘藏、本藏娘小なみ、けいせい浮はし、橘之助、山名次郎左衛門、須磨谷半之丞、歌助、小林平内、師直妹みさほの前、奥山、由良之助女房おいし、內侍かし付侍從、芝鶴、石堂右馬之丞、喜內女房おさよ、吉太郎、利太夫娘おりへ、本藏、女房となせ、義平女房おその、平右衛門、女房お北、勾當內侍、勘平、女房おくみ、大星力彌、しうか、大星ゆらの助、寺岡平右衛門、矢間十太郎、獵師由岡角兵衛、早野勘左衛門、天川屋義平、高野師直、當右衛門、鹽谷判官、若徒佐五藏、佐藤與茂七、早野勘平、座頭德市實早の和助、下部元助、花岡中納言匡友卿、羽左衛門、何れも大出來大々大當り評判記

「役者投扇曲」に云中村歌右衛門〔頭取〕いろは連歌に由良之助平右衛門重太郎角兵衛早野勘左衛門義平師直七役〔出すぎ〕また久しいもの忠臣藏の書かへかちとめづらしい狂言が見たい〔芝居好〕こんどの位いろ〳〵おなじ世界の物を集て近年稀な出しものゆへ三四度行升た(中略)〔頭取〕何れも是迄度々お勤のお役ゆへ金錺へ七寶のふくりんかけたる樣にて非を入る處もなしさる故に暑中迄も興行ありしはお手柄〳〵す(下略)岡書取東しうか(前略)いろは連歌に利太夫女房おりへ本藏妻となせ義平女房おその何れも評よし〔ヒイキ〕當狂言は江戶にては珍らしく役もよくゆき渡り升た〔頭取〕平右衛門女房お北勾當內侍いかゝと存せし處大に評よく勘平女房おくみ一しほよし(中略)流行雀丈御同座故當年はめき〳〵と御出世が見へますす(下略)岡書尾上菊次郎かほよ御前こし元おかる直助娘おすは天川屋下女おりん〔ヒイキ〕しうか丈の役おそのが身替りに成てくらがりにて入かわる處もよふござり升た〔頭取〕元助女房

おさき師直難おらんの方七役兼中分はござり升せぬ（下略）同書に關三十郎九太夫女房おれい二ッ役前やくともなさるゝ故〔ヒイキ〕當時の世の中は去嫌ひを言てはゐられぬ出たとこ勝負やらすのかさぬのが流行〳〵〔頭取〕文字屋や丁兵衛かるい事〳〵矢間新八郎是又評よく律がしき本藏しかま宅兵衛の役何れも評よく（下略）同書市村家橘（評文略）いろは連歌に判官に勘平與茂七持をへの役とて中分なく座頭德市實は早の和助若黨伴五平下部元助北國屋友卿七役何れもおゐかはござり升ぬ〔女中〕いつもの忠臣藏とちがつておもしろい事でござり升た（下略）と云々

○五月五日より河原崎座　神靈矢口渡　頓兵衛娘おふね、村若、篠塚三郎、新之助、女馬士おいろ、大吉、枝はらい豆太、ゐかゝ年、筑波御前、みれし、下男六藏、馬士長藏、方作、竹澤監物、升五郎、けい城うてな、菊代、山田小三郎、鋭之助、江田判官、虎五郎、雲介野中の松、重猿、こぞゐのひゐ助、國右衛門、立場茶や權助、杉十郎、笹目兵太、駒右衛門、頓兵衛若、らい助、同こき六、乃助、惣内、伸助、太五八、音次郎、朋六、市六、兵内、宗三郎、代官大伴官藏、團八と坊主吉兩、萬猿、新田德壽丸、源平、由良兵庫、矢口禰守頓兵衛、海老藏、兵庫一子友千代、猿藏、三上の十次、川藏、松浦之助、たいし助、庄屋杢兵衛、扇藏、總うの花、扇之助、大鳴長之助、妻おなみ、春次、世利田妹おすい、三すじ、丑肥三郎妻お雛、おの江、友千代めのとしがらみ、長之助、大しま長之助、眼助、兵庫妹みなせ、鯉之助、吉岡助ヶ由、四郎五郎、篠塚八郎重虎、清十郎、與小姓若菜、条三郎、新田小太郎、義峯、關十郎、是利息女湊姫、紫若、南瀬の六郎、新田左中將義貞、訥升、脇下早丸、長十郎、第二番目〔初冠曾我皐月富士根〕政子御前、杜若、手越の少將、大吉、さがの滿江、みれし、赤澤十内、方作、中間小源太、鋭之助、愛甲の三郎、虎五郎、竹の下孫八左衛門、紀次、臼井の八郎、重猿、工藤佑臣彌藤吾、駒右衛門、たいこ持曾十、龍助、やりておつゐ、市六、誹坊主閑坊、宗三郎、大藤内、錦猿、曾我五郎時宗、海老藏、御所の黒彌五、扇藏、仲居おだい、春次、同おいそ、おの江、鬼澤彈正時道、四郎五郎、仁田の四郎忠常、清十郎、御所の五郎丸、團十郎、大磯のとら、紫若、曾我十郎祐成、訥升、大切曾我祭り〔曾我祭劇場邊物〕

御輿太皷獅子猿田彦榊月に武藏の出し子役不殘、蝶に牡丹の引物幷大神樂どうけ曲より相中不殘皆岡大せる、千鳥の玉川の學び團十郎粂三郎大吉、大津乙女の出し幷女手こまへ杜若、紫若神功皇后武内宿禰の出し幷屋奴行列の學び海老藏兩升當著津連中長うたはやし連中、早乙の學び手踊り女方大勢、儀仕出し惣座中のこらず二立役惣おどり、神輿惣座中不殘能出相勤、賑々敷大出來大當り ○七月五日より 中村座「天竺德兵衛万里入船」天竺德兵衛、松崎撿校、大工六三、高橋助市郎、佐市郎死靈、大日丸、鯉の情、七役多見藏、細川賴之、奴國平、吉見屋治右衛門、吉三郎、今川郡領貞廣、高橋新十郎、冠十郎、井筒屋息子長吉、壽三郎、船岡五郎、岩淵丹下、岩五郎、里見左京、茶道須宋、鶴五郎、左京妻しがらみ、女奴おりき、國三郎、今川伊與之助、あめ賣太郎作、多藏、磯しま賴母、瑞了和尙、雷藏、菊地息女紅梅姬、粂三郎、高宮大藏、庄屋伊右衛門、勘左衛門、岸田求馬、歌太郎、神主釆女、千代藏、家主太郎兵衛、夏五郎、押がりの源多、晁平、奴可平、目勝、船頭浪藏、つる助、[illegible]小車、菊壽、同きゝやう、紅之助、左京妹、絹こ、淺之助、岩倉刑部、廣五郎、針の長庵、森五郎、奴てつ平、相藏、なまづの源六、つる作、すつぽん泥藏、大澤新吾、市右衛門、菊地左馬次郎、海藏、所化東念、つゝじ、同西念、辰藏、仲居おかん、盜人願鐵坊、現十郎、宗觀女房夕浪、いづゝやおかぢ、常世、げいしやかしく、內藏之進妻秋しの、粂三郎、吉岡宗觀、荒川內藏之進、かしく兒曲りかねの介五郎、彥三郎、第貳ばんめ大切所作事（まだ深山木の桐かはなから不束な枝ぶり）「八重九重花姿繪」五郎時宗、若衆、けいこ娘、吉原の鷲の者、唐女、かみなり、りやうし、瓢簞鯰、狂亂者八變化尾上多見藏相つとむ常磐津文字太夫、富本豐前太夫、長唄はやし連中三弦岸澤、佐々木、名見崎連中相勤○四ばんめ天竺德兵衛師匠梅幸より傳來の狂言大に評よし

大工六三は師匠の持まへにて松朝上手といへ共江戸ッ子腹にはなかくあわず所作事大に評ばんよし○役者投扇曲に云（前文略）木琴の座頭を撿校でいき上使の上下裝束を唐裝束にかへたるは御工夫よし猶又水中の早替り幽靈怪談等大に評よく大切雷のげい事番衆は仰り致し升た「ヒイキ」あの放れわざは梅幸にも出來ねへ早ぎり扇の手いづれも御手煉

かんしん〳〵下略

○八月廿一日より中村座「[illegible]街聚色浪[illegible]」紋竹右衛門、長吉姉おせき、願人源閑、神道者六太庄太夫、九蔵、ふじや美さ吉、與兵衛女房おはや、大吉、吾嬬丈之助、福助、かうはら權兵衛、菊四郎、行司庄九郎、虎蔵、たいこ持、佐渡七、鶴五郎、千代權九郎、新右衛門、七まがり藤兵衛、大次郎、野手の三、さぎ助、ふじやす兵衛、七五三蔵、秋原兵内、三平、御所柿次郎吉、イ四松、料理人留吉、正蔵、百姓下九太夫、和助、呼出しはり蔵、札うり友平、仙平、長谷や利中、杉蔵、かごの甚兵衛、三原傳蔵、三十郎、與兵衛娘おはま、茂々太郎、禿吉次、太次郎、みはらや大吉、坂大米屋仁右衛門、十蔵、新造はつな、住津次郎、同歌のや、歌女太郎、同淺妻、淺之助、仲居おつぎ、玉市、同おたま、玉江、同おだい、太三郎、下女おたか、亀之助、女髮結おまさ、増吉、下駄の市、又八、正木新三郎、勘蔵、娘おてる、長五郎、姉お露、橋之助、三原在右衛門、下男九助、歌助、平岡郷左衛門、與由、其徳の女房おやを、長吉、うば、芝鶴、措本次郎右衛門、甚兵衛、女房およね、吉太郎、ふじやあづま、與女中淺香、しうか、浦髮長五郎、南與兵衛、歌右衛門、放駒長吉、山崎與五郎、羽左衛門、第一番目五立目浄るり「[illegible]山崎」庄太夫、九蔵、あづまや、しうか、あづま、ふく助、與五郎、歌女太郎、長五郎、歌右衛門、與五郎、長吉、羽左衛門、第二ばん目大切所作事「六歌仙體彩」なり平侍女、家橋、小町、しうか、小舎人、花丸、福助、官女白きく、菊四郎、同秋しの、歌助、仕丁駒又、駒助、鶯又、さぎ助、億久、又八、千代又、茂々十郎、官女初しも、勘蔵、江島、冠雨、遍昭、康秀、喜撰、黒主、歌右衛門、長うたはやし連中清元竹本連中、何れも大出來大當り○ねてふ〳〵の書替長五郎長吉相撲場より橋の場兩人出合大に評よく引窓五立目上るり六立目大切六歌仙所作事迄大々當り

評判記「役者[illegible]曲」に云當狂言も大きゝにて顔見世迄も打つゞける處みつればかげると世のことわざ十月初旬はからずも地紙の災にて堺町より出火して兩座共一陣の風と吹ちりました（下略）同書にこの四月中より西澤一風丈江戸見物がてら御出府と聞た故定めて續雀丈の作者と成て御出勤と思ひの外以前近松やなぎが書物を略平家物語のすじを増補ありたる橋の立引ももはやよほど前の事ゆへ當時幸ひ

一鳳丈の下り故今一度きんじたならよさそうなと云々

◎八月三日より河原崎座「御國入貢諷」桑名屋女房おとく、尼惠林實は久秋妹ひさごの前、杜若、けいせい檜垣、綱六女房おやへ、傾城長門太夫、菊次郎、難波や娘おひさ、粂三郎、奥女中吳竹、鯉之助、絹笠庵之助、川こし鐵八、万作、駒形勇藏、銑之助、四谷傳九郎、虎五郎、やりておつめ、紀次、小山軍藏、玉猿、久留米東馬、國右衛門、博多十右衛門、駒右衛門、醫しや良仙、たいこ持万八、らい助、同宿うん念、の助、兵庫下部可内、金作、熊山丹下、宗三郎、眞柴小姓海老丸、あかん平、同木場丸、猿藏、お次丸久勝、新之助、紀の丸、源平、八ッ代龜太郎、川藏、難波屋才兵衛、光十郎、するがや吉兵衛、雷助、三笠次太夫、たい助、仲居お梅、春次、同おあい、三すじ、勘ヶ由妻小山留木、辰之助、彌生之助妹卯の葉姫、岸田兵庫、品田幸藏、四郎五郎、八ッ代勘ヶ由、福島左近之助、清十郎、女中松ヶ枝、大吉、郡彌生之助元氏、獵師網六實は吉川隼人之助、三輪左衛門、團十郎、帶刀妻千種、女馬士おやま、紫若、小早川帶刀、花うり四季作、左枝政左衛門、訥升、眞柴秀丸、長十郎、第貳ばん目「けいせい戀飛脚、」龜屋娘おすわ、土や女房おきよ、菊次郎、新町のけい子小せん、粂三郎、龜屋後家妙りん、鯉之助、同番頭德八、万作、河野圭水銑之助、横淵軍平、虎五郎、荷持傳次、紀次、針立のどうあん、國右衛門、龜や手代伊兵衛、杉十郎、くゞ原多仲太、駒右衛門、古手買棟太、万九郎、順禮勘六、音次郎、たいこ持茶十、仲助、金貸由兵衛、宗兵衛、禿かほる、猿藏、つちや一子升之助、新之助、かむろはつね、源平、里の子万太、米万、同千太、菊松、龜やでつち六松、澤平、けいせい名山、川藏、同柏木、春次、新造紅梅、三筋、かめや下女お竹、辰之助、げい子小ゆき、おの江、丹波屋八右衛門、四郎五郎、槌屋治右衛門、清十郎、忠三郎女房お花、大吉、梅川新七郎、團十郎、けいせい梅川、紫若、龜屋忠兵衛、新口村孫右衛門、訥升、梶本要人、權之助、大切淨瑠理「道行情の三度笠」梅川、紫若、孫右衛門、忠兵衛、二やく訥升常磐津文字太夫、同兼太夫、岸澤式佐、連中相勤何れも大出來評はんよし◎九月廿七日より中村座「九月花操章」大内鑑、双蝶々おしゆん傳兵衛猿まわし◎奴與勘平、放駒長吉、南方十次兵衛、猿廻し與

次郎、多見藏、山崎屋與次兵衛、荷淵九平太、定十郎、志村裏之助、嘉三郎、ふじやあづま、松之助、木綿買吉六、妙林、吉手屋侯助、左近太郎、三原有右衛門、鶴五郎、野手の三、廣五郎、千歳の市、岩五郎、手代庄八、市右衛門、錦屋藤八、鍼疲、髮結久七、鶴作、刀屋忠六、鶴助、秋山次郎、日勝、萸ふくや嘉平次、夏五郎、菊の細九郎、千代松、晃夜見丸、和藏、乳人梅の井、辰之助、安部の童子、鶴之助、信田の神主熊王、猿藏、小野の息女六の君、長吉姉お園、杜若、嵐屋道清、濡髮長五郎、石川悪右衛門、海上藏、山崎屋與之助、新之助、信田の庄司、與次郎母、利十郎、山崎や與五郎、多藏、十次兵衛妻お早、助三郎、鈴道や八兵衛、箱猿、丹波屋善右衛門、團八、大屋與太郎、清藏、嵐若菅、菊壽、若な、平伎、若紫、淺之助、八代の八郎、歌太郎、天王寺や六兵衛、杉弟、平岡郷右衛門、的屋權兵衛、現十郎、好古彈臺山御前、庄司妻百萬、常世、庄司娘葛の葉、信田の葛の葉、狐げいすおしゆん、榮三郎、安部の保名、奴やかん平、鷺の甚兵衛、井筒屋傳兵衛、彦三郎、北面の侍乾合人、傳藏〇當狂言白猿湯治より歸り當座へスケにて濡髮長五郎、長吉、松朝にて同貳番目猿廻し與次郎大に評よかりし處十月六日出火して南芝居共皆時の内に一片の燒土とこそはなりにける

〇八月廿一日より河原崎座清本大功記、孫市姉葛妻、杜若、河野局、孫市妻高の屋、菊次郎、春永息女さく姫、粂三郎、四方田又兵衛、方作、浦の由三郎、鈍之助、猪の兵助、玉猿、連歌師紹巴、駒右衛門、矢代條助、杉十郎、利倉丹平、駒右衛門、同百隨海、方九郎、増田五郎八、音次郎、櫻井新吾の助、舟坂逸平、市六、庄屋勘五右衛門、扇藏、七瀬作作、宗三郎、小姓右衛門、猿藏、同左門、新之助、安德寺ゑけい、鈴木喜多頭重成、延十郎、眞柴大領久吉、小田上總之助春長、中川瀨平、吉三郎、根道金才、あかん平、同常才、源平、同宗才、川藏、里の子峯松、米方、同とく松、市孫、市□子重若、田吉、同姉松代、菊松、里の子いねの松、市太郎、同國松、澤平、同条松、市友、淺山多三、富藏、本能寺日和上人、たい助、願元あけは、歌女之助、道喜、春次、野わけ、三すじ、せきや、辰之助、深田ゆき、おの江、齋藤妹しのぶ、□□、宗治妹玉壽、榮次郎、長左衛門、妻そり梅、鯉之助、安田作兵衛、四郎五郎、小早川高景、清十郎、森蘭丸、佐藤虎之助正清、團十郎、正則妻、紫若、

清水長左衞門、鈴木孫市、福島正則、訥升、三法師丸、長十郎、第二番め「鐘淵劇場故」わたし守みやこのお賤、杜若、永樂屋娘おゝみ、菊次郎、同手代長九郎、万作、大坂屋源右衞門、虎五郎、夜そば賣二八、玉猿、道具や市郎右衞門、國右衞門、代官牛嶋久八、駒右衞門、大坂屋手代音八、万九郎、講中久右衞門、市六、同七八三藏、世話役ばゝア、捻がねお市、扇藏、道具や甚三郎、吉三郎、堤彌平、雷助、永樂や權左衞門、たい助、平岩のおよし、辰之助、野分ひめ、おの江、大七女房およね、鯉之助、永樂や手代要助實は松若丸、團十郎、法界坊、野分姫幽魂、訥升、大切上るり「雨顏月姿繪」常磐津文字太夫、小佐喜太夫、政太夫、三弦岸澤式佐、金藏、三藏相勤何れも大出來　○十一月五日より河原崎座「菅原傳授手習鑑」判官代てる國、藤原の時平、吉三郎、土師の兵衞、嵐猪三郎冠十郎改名飛梅の精、粂三郎、奴宅内、万作、木こり岩藏、鈨之助、壬生の小猿、虎五郎、百姓畊六、紀次、同鍬六、玉猿、鬼塚軍藤、國右衞門、奴百助、杉十郎、舍人竹王、猿藏、同松王、新之助、春藤玄蕃、百姓白太夫、スケ三十郎、にせ迎彌藤次、菊四郎、涎くり與太郎、升五郎、轉法入道、鷲助、仕丁三又、三平、猿又、イ四郎、ねこ又、大和助、津の又、はり助、五郎又、芝四郎、太郎又、杉藏、立波監物、團八、雛式右源次、箱猿、百姓出來作、十藏、こし元小はる、歌女太郎、同紅梅、麗之助、山獵し熊右衞門、奥山御臺花園、御前、芝鶴、櫻丸女房八重、かりや姫スしうか、松王丸、宿禰太郎、相模次郎スケ歌右衞門、梅王女房はる、源藏女房となみ、杜若、後室覺じゆ、梅王丸、武部源藏、野伏り願鐵實は百濟川成ゝ海老藏、里の子龜松、源平、同峯松、あかん平、奴可内、駒右衞門、船人仲藏、万九郎、同かい、六之助、同波六、三藏、同梶右衞門、三次、仕丁五郎又、金作、次郎又、仲助、九郎又、らい助、奴八助、扇藏、媼もみぢ、宗三郎、山獵師才六、川藏、菅秀才、米万、里の子長吉、市松、松王一子小玉郎、市友、里の子、岩まつ、菊松、權まつ、市太郎、岸まつ、澤平、百姓耕作、雷助、法性坊阿闍梨、たい助、こし元尾はな、梅之助、千草、三すじ、初しも、辰之助、野わけ、おの江、磯上の妻おく霜、鯉之助、下男三助、わし塚平馬、四郎五郎、齋世新王、清十郎、倶迦羅太郎、團十郎、松王女房千代、立田のまへ、菊次郎、菅原道實卿、櫻丸、駄枳尼天の化身、訥升、秦の[illegible]人長十郎第貳ば

ん目「男達[illegible]錦繪」男達十日ゑびすの下右衛門、吉三郎、同[illegible]の角左衛門、猪三郎、すゞきや下女おはつ、方作、男達嘉祿の平兵衛ケ、三十郎、山川やてつち長太、福助、見せ物師でき六、大次郎、角左衛門、下部土手助、福助、あんばいよしの六、歌助、げいしや花勝負の清吉、秀佳、男達布袋の市右衛門、歌右衛門、辨天の水茶やお辨賓は文七女房おとは、杜若、男達毘沙門庄九郎、海老藏、見世物師猩吉、熊五郎、男達大黒の權六、團十郎、辨天の文七、訥升、大切上るり「色の樂屋寫姿見」海老藏、三十郎、しうか、歌右衛門、菊三郎、猪三郎、團十郎、菊次郎、訥升、常磐津文字太夫連中相勤狂言作者松島釣夫、若井粂五、豊晴助、中村重助○第貳ばん目發端三立目返しだんまり淨辨作介、海老藏、時行、歌右衛門、茶枳尼天、訥升、大出來幕外川しま下女お竹、万作、紀文、訥升、芝居見物に來る處是より菅原貳段目より寺子屋迄貳ばんめ七人男大當り大切淨るり古今大出來大々當り中村市むら類燒に付スケニテ達者揃ゆへ大入日々なり日數打切目出度千秋樂舞納○扨當十月六日の夜堺町中むらの勘三郎芝居樂屋より出火にて兩座並あやつり兩座燒失せり是迄芝居町に限り度々火事有之事故普請之義見合可申旨之由然る處○十二月十八日三座元御召出しの上被仰渡之條

堺町葺屋町木挽町三芝居狂言座並操座掛役者座頭出方惣代料理茶屋惣代

一此度市中風俗改候樣にと御趣意有之候處近來役者共芝居近邊住居致候町家之者同樣に立交り殊に三芝居共狂言仕組甚猥りに相成右に付市中へも風俗押移り近來別而野鄙に相成又は時々流行の事多くは芝居より起り候哉に付依之往古は兎も角も當時御城下市中に差置候ては御趣意にも相戻り候事に候一躰役者共義は身分差別有之候處いつとなく其隔も無之樣に相成候も不取締の事に付此節堺町葺屋町兩狂言座並操芝居其外右に携候町家之分は不殘引拂被仰出候乍然二百年來土着之地相離候に付而は品々難澁之筋も可有之哉に付相應之御手當可被下候替地之義取調追而可及沙汰候木挽町狂言座義も追而類燒致候歟普請大破に及ひ候節は是又引拂申付候間兼而其旨可存權之助座之儀は來春興行相初候共狂言仕組并役者共猥りに素人ゟ不立交候樣に取締方之義をも厚く可相心得申候

右之通被仰渡奉畏候仍而如件

天保十二丑年十二月十八日

北御奉行様

一同月大晦日一統御呼出しの上淺草聖天町へ替地被仰付御手當金として五千五百兩下し置るゝとなり然れ共聖天町には小出信濃守殿同主税殿屋舗なればこれも替地に引移り候間廿日之間に鼠山と回向院東の明地え移し翌二月朔日より堺町葺屋町の者共へ引移らせ賜ひける此土地は俗に姥ケ池とて往古一ツ家ありし所なりといふ一万八千坪余あり地形甚低きゆへ元地假住居より毎日各々地形普請を見に參り後には手傳等致候翌天保十三寅年七月に地名を猿若町と號し一丁目中村勘三郎二丁目市村羽左衛門幷操座二軒共引移る

小出侯御下屋敷圖略

御庭ノ内玉岩地藏尊石像毎月廿四日參詣ユルス

文宣王孔子之像文覺上人作ト云

南無阿彌陀佛ノ碑

此六字ノ名號法然上人眞筆ニシテ姥ケ供養ノ爲ニ建之ト云

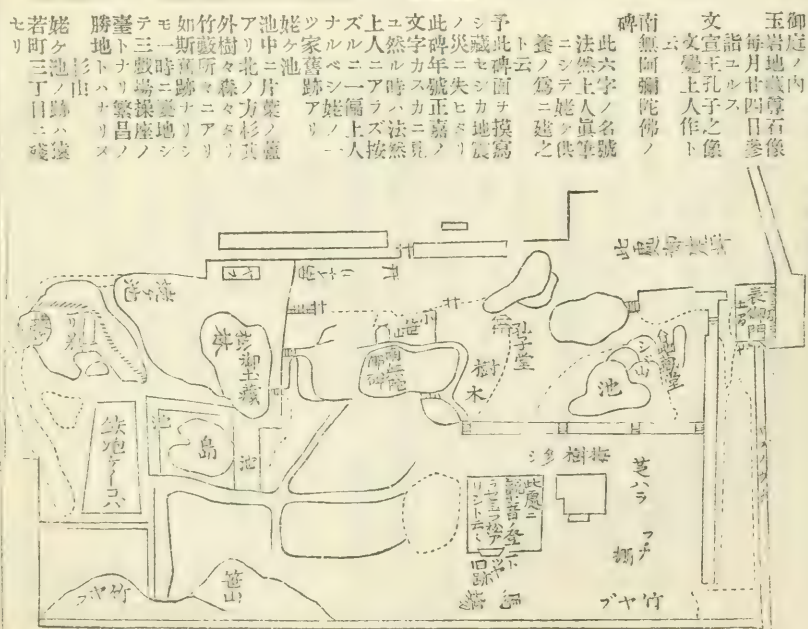
予此碑面ヲ摸寫シ藏セシカ地震ノ災ニ失ヒタリ此碑年號正嘉ノ文字カスカニ見ユ然ル時ハ法然上人ニアラズ按ズルニ一偏上人ナルベシ

姥ノ一ツ家舊跡アリ

姥ケ池

池中ニ片葉ノ蘆アリ北ノ方杉茸外樹々森々タリ竹藪所々ニアリ如斯萬跡ナリシモ一時ニ墓地シテ三戲場操座ノ臺トナリ繁昌ノ勝地トハナリヌ

彡山

姥ケ池ノ跡ハ猿若町三丁目ニ殘セリ

堺町葺屋町南芝居焼失ニ付場末替地引拂

「サヽラかなしいな／＼先此度の御趣意にて貳百年來住馴し芝居外へ引拂ふとの仰にて二丁町は掛置て當り八丁其外も皆難儀の次第なれは御慈悲願ひて驅込訴願て見ても叶わぬ上追而替地の御沙汰にま遠山子と思ひしが其近邊は矢部にしてとふか駿河の了簡を賴むと思ふ其内に御役御免になられけり跡は如何と案じるに何ンにも鳥居のないといふ奉行が出來て此末は賴むと思ふ甲斐もなし嘆ふと嘆われぬ堺町昔ハ咄の難澁で涙を流して葺屋町昔にいわれぬ若代町昔の事は兎も角も事新村木町と改れば越前どふなことを言出しては合羽干場か砂村へ引拂われと思ふ處へ左衞門殿が取なしで淺草見付を打越して今戸聖天町へやらんと引越料を遣して彼地をはさら地／＼

御役替りましよ御役かへ

小出候御屋敷取拂に付落語

此度勘三郎羽左衞門南芝居焼亡に付淺草山の宿小出伊勢守樣行屋敷一万七十八坪被下候而此御やしきは貳百年來御住居被成ける此處にいにしへの姥ヶ池住か池など年ふりたる池御殿にありけるが今度替地立になりける故此地に數年來住せし魚其たゝに轉宅せんと鯉は荒川え移り鰻は綾瀬え引越し鮒は小梅の源兵衞堀に宿替す其中に泥鰌は平氣にて替るべな／＼申ける我々皆轉宅するに其方は如何するぞといふスッポンいわく我等は爰に殘り住居すといふソリヤどふいふ譯だやといふに芝居が此地え移りなば河童になるといふた　又

小出樣御屋鋪内に數年來住居せし狸取拂被仰付甚難儀に相成替地拜領願度旨遠山樣へ御願申上候處左衞門尉樣御尋被成ける其方年久しき住居を放れ難澁の段尤なりシテ住居は如何程計りほしきやと被仰ける狸申けるは私義は御そんじの通りひろげ候へば八疊敷御座候間四坪程御願申度といふ此段御聞届に相成向島にて替地を被下難有仕合と住居にあり付けるよし狐承り早速北御番所え御訴訟申上狸同樣に拜領地願出ける御奉行被仰けるは某先きの月は番なり故に狸に替地に遣しけるか當月は南のかゝりなれば南え願出べき由被仰ける其時狐申上けるは何卒私にも此方樣にて替地願度段申

ける遠山樣被仰けるは其義は如何なる事にや狐申けるは私義は野狐の義に御座候へば鳥居はくゞられませぬといふた

川　柳

猿若町狸長屋へ店をかり
藪の内積蒸籠は虎屋なり
とんだ事山が河原となりました
橋と銀杏が先へ咲はじめ
大木の跡は木挽にのけて置
二座をば引四方は殘りて鼻が明き
もてぬやつ三番叟から見て戻り
芳町が來るか田町へ尻が見へ
今度から芝居へ獨りやられない
言譯に繪本を買て早かへり
女房は芝居と聞とりんきする
山の宿ア、つがもねへ場處となり
助六はおらが隣とりきむ也
大川が近し川童がやみと引
樂屋から金藏山を買て喰ひ
古家で借金拂ふ芝居邊

聖天はつんぼ棧敷の風情也
小出たつ株木の跡へ歌舞妓立

○古池へ歌舞妓飛込水の音
中村市村兩芝居場處替に付戲文

難澁六歌仙

定紋の銀杏かつちるしも枯は　中むら座
さぞ邂逅(たまさか)に見物やこん
去年したる大黒舞が前表歟　市村座
やとらんとむたとこへ引こし
淺草や棟木のうしわ馬道に　地主
のりかへられし土地の繁しやう
かくまてに所の運の月行事　兩町の家主
思へは去年の火事の恨し
日わくれて野口わと云し淺草わ　町内番人
みやことなりて爰ぞひとつ家
二階建思ふ壺屋かあきなひの　あわゆき
てはつもむざと消る泡雪
御とかめを思へはおもひまはす程　役者
せましき物わむた遣ひなり
長兵衛や助六へんいふの意か花川戸邊とゑ越なから　狂言方

狂言よりはかくあたまかな
諸ともに越ねはならぬふりつけの　振附
さす手引手に是わ損もふ
扨こして北新まちのうら借屋　表方
ひと棟つゝを壁て仕切場
猫かよふ近所へ越て鼠木戸　留場
出方の者の恐縮くもむへ
かつはてふ役名もしるし山谷堀　表の者
旅人と見は我わひかなん
狂言座こしての後のことは鯲見せを　さかな屋
いかゝはせんと胸のをとり子
わさをきの今ふる里をはなれなば　角　久
我にしき書のうれやゝみなん
うきことの積ればつもるや數馬さゝ　かつまや
潰るゝ十組こす二丁町
親父橋大和田の見せになはあれど　大和田
あさ草へ行芝居けんふつ
いもさかや思ひはかりていたましく　芋酒屋
出方親子のさそこまるらむ
まくのうちともにゆく身はともかくも　万久

舞臺さよる見せの商ひ
あはれとは爰をゆきゝの人も見よ　操　座
待乳の山のしたのあやつり
諸共にこすか皷の二ちやうまち　鳴物師
すてぬうき世のちりからの音
手代さへうちなげかるゝ世の中や　大家名主
泪のあめのふる袴著て
是よりは植せいろうの印まて　虎　屋
とらやにかわる竹村の文字
いなりまちまづさしあたる引ことに　下タの立役
袖すり邊へ店やかりけん
我見世も六さは見馴ぬ人ばかり　蛇の目すし
をしのきかさるすしの新見世
引こしにうきそ升屋か物思ひ　升屋質見せ
ひちよりもまつ涙なかれぬ
越て行芝居の側に紅葉塚　豆腐屋
あたりに近き土手も八町
燒のこる我洗湯を天道の　風呂屋
みすて給ふ口ひきこしのさた
仕馴し芝居の側をはなれなば　福　山

そらたのめなるふく山の名や

我のみか上野の堂も焼にけり　大佛屋
　げに大ふつに火やたゝるらむ

これからはひさへしるこの名につれて　田舎汁子
　田舎へなりとひきこみやせん

御駕籠訴をなしてもかうの圖ははづれ　源氏茶漬
　けんしが見世の夢の浮はし

越てゆくあとはどうなる瀧水の　四方
　よもの買人もやゝよどむへし

兩座とも地所はもぬけのから衣　佃長
　をしいつく／＼佃長のなく

引こしに興も鮫洲のなみだはし　大盛茶漬
　あしの建場もたゆる大もり

三味せんのどうが芝居のこす沙汰に　藝者屋
　いとより細きわかこゝろかな

今よりは馴染の客もいとゝほく　芝居茶屋
　みかけた山の宿たにもなし

戯子四人え申渡之事

葺屋町狂言座
岩代町義三郎店
羽左衛門

南本所元町
長右衛門店左兵衛同居
歌舞妓役者　彥三郎

深川越中島
重助店庄兵衛同居
右同　吉三郎

新乘物町要助店
福助同居同人父
右同　歌右衛門

其方共義素人え立交候趣相聞候に付羽左衛門彥三郎吉三郎は呼出歌右衛門は鳥居甲斐守より引渡候に付請取遂吟味候處素人に立交候義は芝居場所替被仰出追而替地え引移候後之儀と心得違懇意の者方え被越候迄之義に而酒宴之席等え立交之義には無之候得共右始末重々恐入以來は一同相愼都而申渡之趣堅相守可申旨に而慈悲相願候に付令宥免此度吟味之不及沙汰

羽左衛門は橘町三丁目琴師平八致懇意平八義は四ッ谷鹽町町醫千葉元呂親類に付右續を以倅病

氣に付容躰承りに罷越候由
彥三郎は尾上菊五郎先妻妹の娘しま儀は新吉原町山口巴屋え緣付當時後家にて相續罷在候に付私菊五郎と因緣に付出入仕候
吉三郎は去年中權之助座興行の砌十一月廿九日兼而最負に相成候人神田佐久間町一丁目家持五郎右衛門義芝居見物に有之打出しの後料理茶屋吾助方ゐ被越一應挨拶申述候迄に御座候由
歌右衛門は天保二卯年堺町芝居にて狂言中怪我致し其節名倉彌次兵衛方え療治に罷越其節角力取鰐石文藏と心易相成候處此度大關に罷成候に付歡の挨拶に罷越候由又去丑年木挽町茶屋に而佐久間町五郎右衛門に被相呼候由申上る

花江都歌舞妓年代記續編卷の十六

◎天保十三壬寅歲

○正月河原崎座「飾海老曾我門松」「双蝶々曲輪日記」角力場米や、番目二ばんめ役割、鬼王新左衛門、鳶頭地獄清三、放駒長吉、わたの三郎、多見藏、箱根畑右衛門、平岡郷左衛門、現十郎、そがまん江、橋本次部右衛門、朝十郎、宇佐美三郎、山崎手代久七、多藏、久須美四郎、若徒梅澤小五郎兵衛、宗三郎、御所五郎丸、三原有右衛門、川藏、梶原源太景季、講中念佛六兵衛、箱猿、稻毛三郎、野手の三、玉猿、小山の六郎、たいこ喜六、團八、海の、太郎、山崎でつちほん太、杉十郎、蒲の冠者、丹波屋善右衛門、冠九郎、金ひら參り願山、駒右衛門、惣嫁おひよろ、市松、同おはね、仲助、小あんま長賀、金作、番場忠太、千代藏、禿千鳥、菊松、伊豆の次郎、髪結本田の次郎、吉升五郎、鬼王一子、鬼市、猿藏、曾我の十郎祐なり、せり吳ふく京屋小次郎、山崎屋與五郎、團十郎、工藤左衛門祐つね、赤澤十內、舞つるや傳三、南方十次兵衛、吉三郎、箱根閉坊、山崎

や與次兵衛、小林朝日奈、猪三郎、奥女中喜瀬川、次郎右衛門娘おてる、國三郎、かむろ小蝶、市太郎、里の子鶴松、新子、同龜松、米万、梶原平次、下駄の市、岩五郎、箱根の行實、たい助、大藤内成景、虎五郎、源の賴家、浮世仲居おみつ、三すじ、同おとく、舞鶴や新造初音、おの江、二の宮太郎妻片貝、浮瀬女房おたき、鯉之助、百足屋金兵衛、尼妙りん、万作、小藤太一子小彌太、あかん平、化粧坂のせふ〱、惡嫁おさよ、鬼王女房月小夜、ふじやあづま、大磯の虎御ぜん、十内妹十六夜、長吉姉おせき、女太夫阿古屋のおまつ、榮三郎、曾我五郎時宗、近江小藤太、鬮取濡髮長五郎、惡七兵衛景清、海老藏、小林朝日丸、景清一子あざ丸、新之助、工藤犬坊丸祐友、長十郎、第貳ばん目大切五變化所作事大空や三ツ四ツ五ツ凧市「松朝霞彩色」（まつのあしたかすみのいろどり）万才、子守娘、唐人、奴凧、石橋、多見藏、常盤津文字太夫、小文字太夫、三絃岸澤式作、文左衛門連中長唄芳村伊十郎、岡安喜代藏、同喜久八、同喜三郎、芳村十五郎、三絃杵屋三五郎、佐々木八五郎連中はやし連何れも評ばんよく大々當り

○此度番附に棧敷代三十五匁高土間三十匁平土間廿五匁右敷物代の義は古來の通り下直に仕候と添書あり是被仰渡ありし故なり狂言作者松嶋釣夫、豐晴助、姥尉助、玉木久助、柴晋輔、鶴屋南北

○三月七日より「岩藤浪白石」（いわほのはななみのしらいし）宇治の常悅實清水の冠者、局岩ふじ、大黑や惣六、劒澤段七、奴伊達平、鵜の羽、黑右衛門、吉三郎、五百崎求馬、鞠ヶ瀨秋夜、團十郎、庄屋七郎兵衛、醫者寒竹、猪三郎、大野や熊藏、奥女中繪合、万作、同若菜、宗三郎、同横笛、川藏、同柏木、箱猿、狂歌師龜鶴、玉猿、段七弟臺藏、團八、同下部丹助、杉十郎、同貫平、冠九郎、百姓畑作、駒右衛門、國田平、らい助、貸本や重兵衛、熊五郎、地廻り竹門のとらの助、同石、市六、茶道珍才、金作、小間物や久七、梅藏、大黑や遣りておしづ、扇藏、惣六倅惣吉、新之助、おの江、召仕お初、惣六女房おたま、常悅妾おせつ、紫若、下座敷持小猿の三太、猿藏、鳩の豆うりばん太、三吉、ぜげん勘九郎、虎五郎、門付どせう太夫たい助法印、奇妙院岩五郎、はいかいし醉酊、茂々十郎、清水の兒花若丸、茂々太郎、腰元左枝、菊代、同ひな町、きんし、仲居おてう、梅之助、同おなか、春次、新造宮柴、三すじ、奥女中花形、おの江、同三芳、野通

ひおはり、おたき、鯉之助、嶋田三郎兵衛、梅咲や、駒吉、外五郎、奥女中彌生、土手の茶や、編笠のお六、珉子、百姓與茂作、同女房おさよ、吉太郎、中の丁茶屋女娘おせん、粂三郎、大姫君、宮城野妹しのぶ、中の丁げいしやお梅、菊次郎、中老尾上、けいせい宮ぎの、伊平次、女房おつた、榮三郎、根の井谷五郎、牛嶋主税、吉野屋伊平次、九藏、万壽君、賴家公、長十郎、當狂言鏡山と白石噺、組合たる新狂言大に評よし

右大入大繁昌に付御禮として故人五代目白猿當座におゐて御評判に預り候歌舞妓十八番の内景清此度海老藏に相勤させ尤古風なる大薩摩淨るりを常磐津文字太夫出語にて奉入御覽候至而古雅成る狂言故御目まだるいがちに候得共大江戸根生の市川流家の藝に候へば宜舗御評判願上候且、番目の義は海老藏の趣向鏡山は江戸の南北白石ばなしは難波の一鳳右兩人增補致候由口上あり、歌舞妓十八番之内景清市川海老藏相勤役人替名岩永宗連吉三郎仁田の四郎團十郎梶原平三景清猪三郎長谷川八郎万作番場の忠太川藏重忠妻きぬ笠紫若榛澤六郎升五郎保童丸米万景清娘人丸菊次郎同女房あこや榮三郎秩父の重忠九藏万壽君賴家公長十郎右狂言中より海老藏申分事御吟味になり當狂言相止め出勤なし

○四月六日より「苅萱桑門筑紫𨏍」(かるかやどうしんつくしのいへづと)三の口切監物太郎信俊、吉三郎、菊地左門之助、團十郎、大内之助義弘、猪三郎、新銅三郎、万作、關口兵太、川藏、獅子井や助、箱猿、海月式部、岩五郎、松倉主水、團八、繁氏一子石動丸、猿藏、黑塚娘千鳥の前、紫若、友形大角、虎五郎媳若葉、梅之助、同常夏、三すじ、義弘奥方櫻木、おのえ、監物太郎妻橋立、鯉之助、繁氏奥方牧の方、みんし、桑原女之助、菊次郎、新洞刑部娘夕しで、榮三郎、新洞刑部秀貫、九藏、尼子晴久一子力丸、長十郎、當狂言大に評よし

○市川海老藏事六月廿二日申渡

深川島田町熊藏地借

十兵衛方同居同人父

歌舞妓役者　海　老　藏

其方儀家作之義者長押塗かまち等不相成雛幷道具之儀も結搆成る儀致間敷旨前々より町觸有之所其方家業躰之義者表向を飾り不申候而者贔負も薄く

道具類も右に准し金高之品無之而者融通も不宜右に付町觸を背き居宅長押造り床塗かまちにいたし赤銅七々子釘隱打庭向へは御影石の燈籠其外大石數多差置又は同所土藏内え不動之像を飾り莊嚴向惣金箔彫物有之須彌檀朱塗彫物惣金泥入合天井にいたし或小單笥等へ赤銅七々子に金丸桐之紋小柄等を金物にいたし其外手を込候かな物相用唐欄幷額奈良細工木彫彩色之雛等迄追々買取右雛道具は島桐に而金砂子を敷胡粉紺青に而瓢簞を菊桐之紋形に置名前不存町人より貰候迚右檀え猩々緋を敷座鋪内え飾り其上狂言に用ひ候品之儀も一通りにては見物之氣に入申間敷と革具足一領幷鐵に而甲無之具足一領何れも武用之品を所持いたし狂言に相用且又先代より持傳へ小珊瑚樹之根付緒〆付候高蒔繪之印籠等狂言之節相用又者銀無垢ちろり所持いたし候所金子に差支へちろりは所持いたし其餘の品々は質入いたし或は可賣拂と預け置金子借請候後丑十月質素儉約之儀被仰出候に付不相濟義と後悔いたし居宅向造作等取崩し候場所も有之候得共右躰身分をも不顧奢侈僭上之至殊に先年より買置候其高サ一丈七尺之石燈籠壹對深川永代寺境内に於て開帳有之候不動え奉納可致と高價之品右境内え差置候段旁不屆に付觸に背候品幷居宅取崩し候木口共取上ヶ江戸十里四方追放申付候○御咎に相成下總へ立越暫く居住し夫より田舍芝居え幡谷重藏と改名して所々え出勤し其後上方え上り彼地にて狂言に罷出矢張り重藏と云其後海老藏と改

此節之狂句に

景清か牢破つて手鎖くい

海老藏は役者の中で大きな眼

○四月廿四日より[ひらかな盛衰記]梶原平次、船頭松右衛門實樋口の次郎、吉三郎、根の井太郎秀俊、團十郎、船頭權四郎、猪三郎、松右衛門一子つち松、茂々太郎、横須賀軍內、庄屋作郎兵衛、万作、番場の忠太、船頭富藏、宗三郎、同九郎作、岩五郎、同梶助、玉猿、同又六、冠九郎、水主浪八、駒右衛門、同沖七、らい助、同岩藏、熊五郎、ちゝぶの小六郎、新之助、巴御前、紫若、木曾の駒若丸、猿藏、茶道珍才、杉十郎、しみづや與九兵衛、團八、こし元初瀨、琴枝、同小ぐら、春次、同立田、三すじ、山吹御せん、おのえ、めのと五百機、鯉之

助、修理之介、升五郎、梶原與方ゑんじゆ、鎌田隼人之助正次、吉太郎、同娘お筆、菊次郎、こし元千鳥、松右衛門女房およし、榮三郎、梶原源太景季、秩父庄司重忠、清水駒王丸、長十郎、第貳番目「其三味線紫高根」花屋惣八、吉三郎、米屋仁右衛門、猪三郎、惣八母知督、吉太郎、荻原一角實は醫者沼田久齋、米屋下女およし、万作、犬井傳次、川藏、おはりおさよ、玉猿、米屋でつち二太、塞十郎、同下男久七、冠九郎、船頭長吉の助、講中松兵衛、岡六、同金右衛門、七藏、手習子筆松、口口、彦惣女房おます、紫若、同悴吉松、常吉、判人權九郎、岩五郎、お咲爺親四九郎兵衛、虎五郎、講頭念佛百兵衛、たい助、川作下女おきん、梅之助、同お竹、菊代、升屋德右衛門、惣八女房おさき、みんし、同娘お梅、粂三郎、小野村屋女房おまち、菊次郎、妼古今後小の村やのお糸、榮三郎、川崎屋彦惣、手跡指南小山田正藏、九藏○荊营は其まゝ殘す第一ばん目貳番目の間へ六代岩井半四郎七回忌追善狂言「戀女房染分手綱」双六の段じねんじよの三吉、粂三郎、御乳人重の井、紫若相勤其外役わり奴逸平、吉三郎、伊達左一郎、閘十郎、鷲塚八平次、猪三郎、本田彌惣兵衛、万作、與

女中初音、菊代、同闘屋、春次、近習文吾二、駒右衛門、同源吾、扇藏、女小性おとめ、新子、同小てう、米子、しらべ姫、染之助、妼おさつ、たい助、同紅梅、琴枝、同松風、梅之助、同明石、三すじ、與女中梅枝、おのえ、同竹川鯉之助、同若葉、みんし、與方岬御前、菊次郎、關の小まん、榮三郎、伊達の與作、九藏いつれも大出來○五月十三日より「左甚五郎細工鑑」紀の長谷雄、吉三郎、飛田杢三政廣、猪三郎、高山源藤太、馬士牛頭の鬼藏、万作、講中難波や松兵衛、茂々十郎、あらゝ木八郎、團八、甚五郎、細工獅子の精、飛田郎等車藤、らい助、同卒藤熊五郎、同番藤、岡六、祇園茶や女お梶、紫若、飛田の郎等運藤、七藏、同權藤、金作、同門藤乃助、茶道どん才、冠九郎、講中天王寺や堂右衛門、川藏、甚五郎娘おそよ、粂三郎、同女房おみね、菊次郎、長谷雄妻花園、榮三郎、島原のけいせい三芳野、甚五郎、細工おやま人形の精、彫物師左り甚五郎、九藏、巨勢の金岡、權之助、第一番目と二番目の間にて淨るり「艶萬蒲木偶」飛田政廣、猪三郎、お由人形、九藏、常磐津文字太夫、同小文字太夫、三絃岸澤式佐連中相勤はやし連中相勤○六月廿二日より「世善當東內裡」筑波柴

川の童平太郎後將軍太郎良門、源の頼信公、團十郎、二の瀨源六、團三郎、坂田怪童丸、茂々太郎、羽田九四郎、醫者老くま、万作、黑塚の荻木ばゝア、栗の木又次、升五郎、平の時盛、馬場祐義、宗三郎、張名兵內、白玉賣平八、岩五郎外ヶ濱勘太、のぶすま時藏、玉猿、飴賣水太、駒右衛門、見る目眼六、能五郎、かく鼻大八の助、百姓あぜ六、市六、同麥作、仲助、同畑作、金作、同出來作、七藏、田舍かゝアおつめ、扇藏、小姓右門、紫子松、左門、米子、碓氷荒童子、新之助、惠月寺の尼如月、將門娘瀧夜叉、うとう次妻錦木、純友後室衣川、桝花女、紫若、卜部季若丸、猿藏、うとふ悴千代童、由吉、神主立川求馬、むさゝび岩六、杉十郎、庄屋太郎作、斎鷲ひろ藏、茂々十郎、木鼠早太、花うり竹八、團八、鹽がまのおなべ、笹ごの藤太、三藏、夜叉太郎、すゑ十三、川藏、すみ友娘かたみ姫、官女松しま、菊代、金剛十郎、虎五郎、筑波の別當寶德、たい助、腰元靑葉、銀八、同名とり、梅之助、同下紐、春次、官女桑おり、三すじ、同笹川、源六、妹あさり、おの江、官女白川、又次妻おくら、鯉之助、碓氷荒童丸、藤六、左近輔盛、勘藏、うば伏屋、外ヶ濱賤の女小磯、みんし、古御所女童しのぶ、糸三郎、光國妻綾衣、頼信妻名古曾の前、女六部妙典、榮三郎、獵師うとふ安方、平親王將門の靈、白拍子七あや實葛城山蜘の精、おんぼう猿島惣太、伊賀壽太郎、大宅の太郎光國、渡邊の綱、九藏、美女丸君、長十郎、第貳番目大切所作事淨瑠理（時代と世話をとりまじへ）「彩桔梗花帷」里わらべ牛飼、物狂、天女（水中早替り大當り）朝顔賣、鬼女五變化市川九藏相勤常磐津連中長うたはやし連中相つとむ

○發端引かへし巴ヶ淵だんまり良門、團十郎、象潟、榮三郎、將門靈白ひやうし七あや、九藏、美奈川廣室、瀧夜叉良門謀叛うとふ腹きり越中國立山地獄の場うとふの亡魂象潟に片袖を渡し古鄕へ届呉よと賴處次老熊內の場次上るり夢の場外ヶ濱千代童母の仇老熊仇打より山塞伊賀壽太郎隱家五幕目古御所の場同大詰評定ヶ谷舞の場京傳著述のうとふ此度も大に評ばんよし

○八月廿六日より「伊達競阿國戲場」仁木彈正直則、奴絹川谷平、吉三郎、渡邊外記左衛門、彈正妹八汐、猪三郎、政岡一子千松、猿藏、三浦やの高尾、壽美之丞、山名宗全、道益妻小槇、万作、鷺嘉藤次、宗三郎、黑澤

官藏、川藏、木戸彌九郎、團八、笹野才藏、杉十郎、奴きじ平、冠九郎、同たつ平、駒右衛門、醫者大場道益、扇藏、三うら若者佐助、金作、樂箱持かん六、梅藏、禿たつた、米万、同にしき、清三郎、鶴喜代君、もふそう、大江國幸鬼貫、榮御前、虎五郎、山中鹿之助、升五郎、仲居おきの、おの江、奥女中白川、春次、同松しま、琴枝、浮浪、梅之丞、安積、三すじ、鹿之助妹此花、菊代、足利息女園生姫、粂三郎、右京妻沖の井、みんし、乳人政岡の局、仲居出雲のお國、紫若、足利頼兼、荒獅子男之助、細川勝元、團十郎、鳴神挺之助、新之助、大舘左馬之助、長十郎、第二番目「闕取千兩幟」闕取岩川次郎吉、吉三郎、同鉄ヶ嶽陀二右衛門、つる屋淨久、猪三郎、彌太夫娘お才、壽美之丞、鶴屋手代善九郎、万作、市原九平太、宗三郎、大坂や佐右衛門、角力取鐵岩すき藏、冠九郎、同笹ふの繁右衛門、駒右衛門、同大童山はり助、乃助、大坂屋若者喜六、市六、太皷礒八、仲助、同海八、闘六、せげん善次、彦左衛門、村岡團右衛門、升五郎、仲居おとみ、三筋おはる、春次、けいせい錦木、菊代、千羽川女房およつ、みんし、岩川女房おとは、紫若、鶴屋禮三郎、北野屋市兵衛、團十郎、行司志村太之助、新之助、何れも評よし當狂言直下ヶ〇十一月五日より顔見世河原崎座口上書に前文略す先年一世一代仕養生のため湯治に罷越候尾上菊五郎儀此度歸國仕候に付當時役者不人之砌且年ばゐかた〱座の取締に再勤致吳候樣相進め候へ共達而辭退及然は當顔見世より來〻ヶ年の間再勤致候樣との口上を出す

「室町殿所好番組」狩野四郎次郎元信、土佐の又平光興、座頭德市、不破勘ヶ由實は赤松彦次郎、重扇屋のおきく、同亡靈木津川の幸助、菊五郎、細川政元、非人六字南無右衛門、渡し守浮世又平、仕丁三芳花又、三猿事九藏山三下部鹿藏、佐々木桂之助、松助、奴菊平實狩の丶介、うたのでつち梅松、菊之助、茨木軍兵衛、尼妙りん、大谷廣右衛門萬作改名後家お國御前、せげん權九郎、升五郎、門弟赤坂丹六、山野邊伊平太、宗三郎、門弟海上段六、質屋治兵衛、伊勢九郎、團八、荒川藏人、居合扱兵介、杉十郎、かし本やいせ清、片桐四郎、升四郎、鬼塚一學、有賀芝、梅藏、足輕權平、扇藏、和名無理之助、乃助、鹿島の事ふれ、茂々作、木戸番やらずの十吉、茂々十郎、雲谷律師門弟山脇十八、見世物し藤六、虎五郎、世繼瀨平、羽生や助四郎、市藏、梅津嘉門、奴岡平

仕丁難波の梅又、多見藏、半田稲荷三吉、猿藏、佐々木豐若丸、熊吉、今川ゑび丸、あかん平、政元一子三芳丸、茂々太郎、四郎次郎妹繪合、がくの小さん、壽美之丞、山三妹左枝、浮瀨仲居おうた、歌菊、重扇屋下女おさの、こし元深雪、にしき、大鮹入道海月、市川團兵衛、妼濱荻、壽美世、同千鳥、染之助、同早咲、東藏、同うつみは、藏人妻初しも、梅之丞、同妹もみぢ、紫女太、宗連娘伏屋、妼しぐれ、三すじ、同綱呂木仲居おはる、春次、幸助妹おみつ、水茶やおはな、菊代、賤の女おせん、粂三郎、紫の姉野宿のおまつ、藤六女房おはま、みんし、今川駿河守、馬士さゝら三八、團三郎、けいせい紫太夫、足利公達義尙公、賤女かつしかお十、山三妻かつらき、若紫、名古屋山三郎、かなゐ金五郎、仕丁三筋の綱又、靑砥五郎照門、團十郎、足利義千代丸、長十郎、狂言作者鶴屋南北、豐嶋新藏、姥尉助、豐嶋大策、奈河晴助、松原金輔、斯波晉輔

○四立目赤松きく五郎政元非人三猿義尙牛若のやつし紫若靑砥五郎團十郎四人だんまり其餘は是迄之通り

○十一月三日より「ひらかな盛衰記」先陣問答梶原源太、菊五郎、同平次景高、多見藏、橫須賀軍内、廣右衛門、こし元横ぶえ、市六、茶道珍才、千代松、妼初音、壽美世、同紅梅、梅之助、浮舟、三筋、若な、春次、重忠娘衣笠姬、粂三郎、ゑんじゆの前、三猿、こし元千鳥、紫若、ちゝぶの重忠、團十郎、大切「猿廻門蓮諷（さるまはしかどでのひとふし）」おしゆん親方重兵衛、菊五郎、猿まわし與次郎、多見藏、釣がねや權兵衛、廣右衛門、米や八兵衛、市藏、輪達や五郎兵衛、升五郎、げいこ娘おなか、紫女太、同おつる、東藏、雇かゝアお竹、虎五郎、與次郎母おぎん、みんし、男達香の圖九助、三猿、げいこおしゆん、紫若、井筒屋傳兵衛、團十郎何れも評判よし

木挽町戲場え被　仰渡之事

一今般市中風俗改候樣との御趣意御座候處近來役者共芝居近邊に住居いたし町家同樣立交殊に狂言座仕組甚猥りに相成右に付而者自然市中にも風俗押移り近來別而野鄙又者時流行事杯多く者芝居より起り候儀に付依而者御城下市中に差置候而者御趣意も相戻り候儀に付勘三郎羽左衛門狂言座者去丑年中猿若町に引移り被仰出木挽町芝居之義も追而類燒致し候歟普請大破及候節者引拂申付旨其節被

仰渡置其後追々取締方申付候處役者共ゟ付狂言
作者等一同猿若町ゟ一纏に住居致日々通相勤候に
付而者座々不取締基に付今般芝居に携候町家之義
者引拂被仰出猿若町三丁目地所爲替地に被下木挽
町狂言座者元地仰に准し於同時地所永代被下其上
御手當金貳千七百五十兩被下候間其旨難有可奉存
但し地所幷手當金割合等之義追々可及沙汰

木挽町五丁目伊三郎店
狂言座　權之助

右芝居付料理茶屋
惣代　長右衛門
惣代　國三郎

右芝居出之者
惣代　德兵衛
代　庄藏

右狂言座地主
代　長兵衛

右料理茶屋
惣代　吉左衛門
彌吉

右之通被仰渡難有奉存仍如件
寅十二月六日於北御番所

一中村市村操座場處替之事

一天保十三壬寅年正月十二日北御番所於御白洲被仰
渡

堺町專助店狂言座
勘三郎
外十六人

此度堺町葺屋町兩芝居幷操芝居其外引移候に付淺
草聖天町最寄替地可被下旨申渡置猶取調之上淺草
山之宿町小出伊勢守下屋敷壹万七十八坪被下候間
其旨可存尤坪數割付之義者近日可及沙汰
右之通被仰渡難有奉畏候仍如件
寅正月十二日
右　勘三郎
外受印

一堺町葺屋町歌舞伎座操座引拂之事

一天保十三壬寅年二月三日初午に付聖天町稲荷祭禮
之處小出候引拂中に付燈籠太鼓等遠慮則三日町御
奉行樣御勘定奉行樣御立合見分に而棒杭打被申候
其杭に

天保十三壬寅年二月三日
堺町葺屋町兩芝居其外替地

兩町替地形入札之事

一地面有形之通
右坪數八千百八坪之處惣地埋立其上盛土之處東之方土塀地形より三尺五寸下りにいたし平均に置土致候事
但土塀下三尺殘し置下水仕付可申候尤木の根竹の根堀取盛土可致申事（仕樣帳面別にあり略之）

一金千七百八拾八兩也　本石町壹丁目　伊兵衛

一金貳千四百四拾九兩　小舟町二丁目　喜三郎

一金貳千三百九拾三兩　小網町三丁目　岩五郎

町名被仰渡之事　堺町月行事　長七
葺屋町月行事　庄助

堺町葺屋町替地町名唱方之義堺町は猿若町一丁目葺屋町は同二丁目木挽町之儀も追而引移り候上は同町三丁目と相唱替地方は是迄之通堺町葺屋町と相唱候樣可致

四月廿八日

一同六月四日兩町狂言操座太夫元地主共御呼出し被仰渡之御請書

堺町地主　太郎助
六兵衛
長左衛門
彌惣次郎
甚兵衛
すみ後見　重右衛門
みよ後見　喜左衛門
銀次郎後見　喜左衛門
市郎兵衛後見　喜兵衛
みよ後見　代次郎
こと後見　平次郎
もと後見　九兵衛

とめ後見　九郎兵衛
み代後見　利兵衛
きわ後見　太兵衛
葺屋町地主 らん後見　代次郎
てつ後見　卯兵衛
右町幷河岸買下地庵崎　清兵衛
久太郎
源次郎
惣太郎後見　富之助
よし後見　代次郎
かね後見　次郎右衛門
喜左衛門店支配人　善兵衛

新材木町之内地主　右同人
吉郎兵衛代　清次郎

一其方所持地面引地被仰付淺草山之宿町裏通猿若町にて元坪添替地被下候

一家作幷土地等燒殘り之分は夫々御手當被下候間難有可存右割合替地渡方之義者追而可及沙汰御手當之儀者地主に而も地借に而も持主に被下置候間其旨可存

堺町地主之内　治兵衛
まつ後見　庄助
ゆき後見　新兵衛
葺屋町地主之内　源次郎
とり後見　久次郎
次郎右衛門
なを後見　安次郎

其方共所持地面同斷引地幷引料御手當被下是迄芝
居操座へ貸置候元替地猿若町に而增坪除被下候

堺町狂言座 勘三郎
同町操座 吉右衛門
葺屋町狂言座 羽左衛門
同町操座
藤三郎後見 平次郎

其方共儀今般猿若町へ芝居場所替被仰付舊來土著
之地に離候義に付格別厚き御仁惠之御沙汰を以於
同町に勘三郎羽左衛門座へ貳百三拾六坪五合吉右
衛門平三郎座へ百二十七坪七合五勺之地所被下候
間難有可存尤此地所者永代芝居へ被下置候儀に付
万一座元相讓り候節は跡座元へ地所相讓り芝居
興行無差支樣右之通り被仰渡難有奉畏り候仍如
件

狂言座 勘三郎
座頭 彥三郎

同 芝居付料理茶屋
惣代 半助
文七
右同町地主
惣代 利兵衛
右同町操座 吉右衛門
狂言座 羽左衛門
座頭 歌右衛門
同芝居付料理茶屋
惣代 榮藏
吉右衛門
同町地主
惣代
右同町操座 孫三郎
狂言座 權之助
座頭 九藏
操座人形遣ひ 貳人

同上るり語　弐　人

右町内　名　主

家　主

三芝居歌舞妓　役者共

三芝居狂言座取締方之義者寛政六寅年規定證文差出し文政十亥年以來度々申渡置候處近來風儀悪敷給金之外加役よないなぞと唱增金望斷請候得者病氣申立興行爲差支候に付無據增金等相渡候上追々增長いたし立者座頭と唱候者壹人に而千五百兩程請取候者も有之右に付身分を不顧不相應之奢に長し候趣相聞不埒之至りに候向後他所住居不相成猿若町へ引移り途中往來致候節者暑寒共編笠を相用總而素人へ立交り候義は難相成候且給金之儀は座頭之者壹ヶ年五百兩を限り其餘之者は右に准し夫々割合相立總而町役人へ申付座元より之申談違背致間敷候尤京大阪等も同樣之申渡有之筈其外三ヶ津之外遠國城下在町等へ罷越狂言致候義は不相成段國々へも御觸有之候間其旨存湯治神佛參詣抔と號猥り參候儀は致間敷候若此上聊にても申渡之趣相背候はゝ嚴重之咎可申付候間心得違致間敷候

狂言座々元共へ三芝居狂言座取締方之儀は寛政六寅年規定證文差出文政十寅年以來度々申渡置候處追々相ゆるみ歌舞妓役者共給金之外加役よない抔と唱增金等相渡し右故芝居上り高より給金高多く興行差支に相成候趣相聞畢竟役者共身分不相應之奢に長し右過分之給金請取候段不埒之至に候得共座元共古來より之規定を崩し互に給金せり上候段是又不束之事に候勿論立者座頭と唱候者壹ヶ年給金五百兩に取極其餘之者共義右に准し割合相渡以後給金增等致間敷候尤役者共義過不及無之樣三座へ割合壹ヶ年限り代る／＼相抱壹ヶ所へ居付不申樣致羅合抱入候義者不相成候且近來大入之節は棧敷代敷物代等引上候由相聞不繁昌招き候儀に而向後棧鋪代敷物代等は古來之直段より一切引上不申狂言仕組等猥り成義無之樣可致候

　但役者共取締方申渡す上は給金渡し方遲滯無之樣致し遣し座元も權威を以押付候取計致間敷候

操座元

浄瑠理語
人形遣イ

操座之義近來淨るり語人形遣イ等花美之衣類上下等著用致早替り抔と唱人形遣イ人之働きを見せ追々給金せり上げ又は道具仕懸け等諸入用相懸り候故不引合に而休座勝に相成候趣相聞候右は一筋に利徳之名聞に抱り渡世之衰微を不顧段心得違之至候總而狂言座取締方申渡等之趣に准し上るり語り人形遣イ給金等相當に引下げ兩座へ代る〳〵罷出候樣致出語出遣イ通例之上下は格別花美の衣裝等は勿論可相止尤座元之者共も給金渡方遲滯無之樣致可遣

但人形遣イは猿若町ゟ可引移

芝居付茶屋
地主共

今度狂言座猿若町ゟ御引移しに相成候に付而は元地へ御殘可被置候處芝居付相離候而は迷惑との趣意を以地所引替其上增坪等被下置候段難有可存一躰元地よりは地位も相劣り候義に付近邊見合地代相極め不相當之直上ケ致間敷候畢竟場所繁昌致候得者地代店賃等滯も無之永久連綿請取方も出來候儀に付心得違之義無樣可致

芝居付
茶屋共

猿若町地所元地より地位も相劣り候儀に付地代之義最寄上は其方共義是迄より者住居も致安狂言取締嚴重に相立候間興行等も滯候筋無之候然上は渡世向實意に相營喰物料理等高直之品等不差出且棧敷代敷物代等も古來之通り相改見物人物入薄き樣心懸け左候得者自然與場處繁昌致渡世永續可致筋に付心得違無之樣可致且役者共を見物人ゟ引合或は酒宴等の相手に差出候段相聞候においては吟味之上茶屋商賣爲差止嚴重咎申付候間兼而其旨可存

右町々
名主共

右之通取締方申渡候間得其意寛政規定證文文政以來度々申渡廉々向後違失無之樣厚相心得役者共申渡を背候歟座元如何之取計有之者早々可申立若等閑に致置においては其方共迄も可爲越度候間精々

取締方行届候樣厚世話可致
右之通被仰渡奉畏候仍而如件
七月四日
狂言座　勘三郎
其外連中

同八月廿三日猿若町配分金高
勘三郎
一金四百兩ッ、　狂言座　羽左衛門
一金百三拾五兩ッ、　吉右衛門
操座　孫三郎
一金四百六拾兩　廿兩ッ、　大茶屋　廿三軒
一金六拾八兩　十二兩ッ、　拾六軒と拾四軒
一金貳百廿四兩　八兩ッ、　拾五軒と十七軒廿八軒
一金百七拾五兩　五兩ッ、　廿壹軒と三拾壹軒
一金百廿六兩　拾八兩ッ、　五百兩給役者七人
一金百四兩　拾三兩ッ、　五百兩以下八人
一金三百十五兩　五兩ッ、　中役者六十三人
一金八拾四兩　貳兩ッ、　中通り役者四十二人
一金四拾七兩貳分　貳兩貳分ッ、　狂言作者拾九人
一金九拾三兩と貳兩貳分五匁貳分六厘九毛ッ、
拾三兩九分九厘五毛　仕切場手代三拾六人
一金三百拾九兩　壹兩ッ、　出方三百拾九人
一金三拾五兩　七兩ッ、　人形遣イ五人
一金貳拾兩　五兩ッ、　相中人形遣イ四人
一金六拾四兩　二兩ッ、　同中通り三拾貳人
一金拾兩壹分と貳兩貳分と五匁三分九厘ッ、
六匁五分五厘五毛　仕切場手代四人
一金五拾壹兩　壹兩ッ、　出方五拾壹人
右割合金目當り申上候分尤去丑年類燒後渡世相休
候者又者此節新規共渡世向え相加り候は相除候
一金九百三拾五兩　地ならし入用に當
外に引越料金身分により裏家迄有之候
天保十三壬寅年八月廿三日に被仰付候

東都戯場起立より場處替年表

寛永元甲子年二月御免を蒙り元祖中村勘三郎中橋
廣小路に於て櫓を上け芝居興行す同九壬申年の冬
禰宜町に替地を給はり引移り當所に二十ヶ年在住
慶安四年卯年境町葺屋町え替地を玉わり當年迄百
九十二ヶ年相續此度淺草聖天町え場所替る森田か
ん彌万治三庚子木挽町に芝居起立年數當天保十四

癸卯年迄百八十四年相續す此度さるわか町三丁目え引移る

口上

二百年來葺屋町に於て興行仕候處此度御當所え御地所被下置誠に以一等歡悦無限冥加至極難有仕合奉存候早速普請等皆出來仕候間舞臺開初より日數十日之間式三番叟を中村歌右衛門坂東しうか市村羽左衛門猶又第一ばん目より市川三猿尾上菊次郎關三十郎其外惣座中罷出新芝居御取立と被思召初日より永當〳〵御見物に御光駕之程偏奉希上候

江戸大芝居根元歌舞妓狂言座

十二代目 市川羽左衛門

猿若町二丁目普請出來に付市村座「壽[illegible]荒木新舞臺」池添孫八、山田屋幸兵衛、佐々木丹左衛門、三猿、政右衛門女房おたに、靱眞娘おのち、孫八女房お梅、菊次郎、素麵屋おふく、福助、櫻井林左衛門、上松典膳、菊四郎、鎌倉屋狀遣ィ孫七、松の尾金介、鶴十郎、和田靱眞、荒尾伴助、翫右衛門、馬場井放火宅、有馬の筆八、大次郎、手白の蟹菊、中間段九郎、鷺助、飛脚飛助、倉岡源吾、又八、伊丹どぶ六、唐木の下女おしめ、七五三

此節

猿若町芝居之略圖

溪齋英泉畫

表題

花櫓新板一覽ト云

板元

中野屋五郎右衛門

三河屋金治郎

文花堂庄三郎

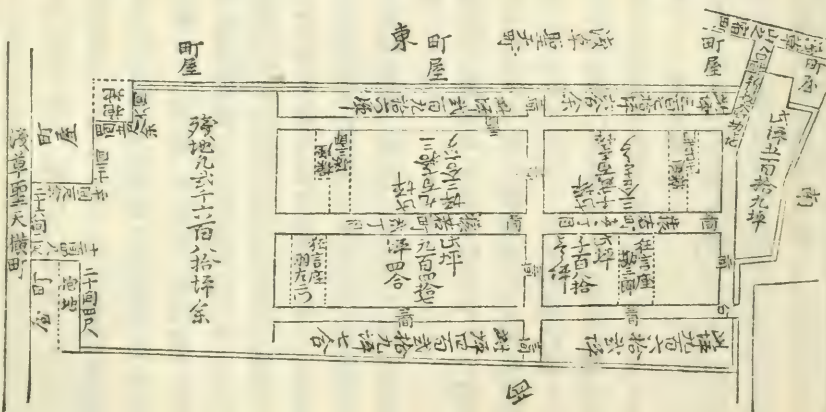
九ヶ所合

六千八百八十坪三合七夕

道式

凡千八百坪

合

八千六百八十坪餘

藏、池田の黑九郎、中間千代助、茂々十郎、そうめんや若者松兵衞、イ四郎、山田屋下女おてつ、角太郎、茶道珍才、幸吉、同林才、村助、樽ひろい夢太、かん八、山上臺藏、トヽ藏、かし本や伊介、万九郎、柏木善右衞門、酒屋万兵衞、十藏、豆腐うり八十八、大吉、丹右衞門一子卯之助、勝次郎、澤井股五郎、鳴見大八、逸見五右衞門、關三十郎、譽田息女菊姬、尾上太升、金かし勘兵衞、せげん汗富法印、勘左衞門、醫者鷄庵、神主小動相模、三藏、有馬の湯女下の大坊のにき、玉市、同中竹の坊のお槇、歌女太郎、同大門のおはつ、しらべ、川崎屋のおいよ、梅之助、奥の坊おなつ、富三郎、中の坊のお常、增吉、代官押上佐久次、酒井の梶平、駒助、靭負女房柴垣、有馬湯女河の本のおいち、かてう、同第の坊のおきわ、仲居おます、福之丞、有馬湯女池の坊の松風、山田屋下女お唉、橘之助、荒尾主膳、若徒沼津平作、勘藏、呉服屋重兵衞、幸兵衞、女房お菅、歌助、上松てる丸、茂々太郎、花扇屋女房お鶴、孫八母おいく、芝鶴、山田屋幸兵衞娘お袖、松田屋けいせい瀨川、有馬の湯女素麵屋小富、しうか、唐木政右衞門、柘榴武助、根井城五郎、歌右衞門、和田志津馬、譽田大內記、足利義光公、羽左衞門、第貳番目所作事「月雪花歌再夕市」○玉川明淵の月最仲麻呂、歌右衞門、唐女、羽左衞門○見伏の月晒賤の男、歌右衞門、さらし女、羽左衞門○隅田の雪暮ときわ御前、歌右衞門○隅田の花朝蝶々うり、歌右衞門、里の子おふく、福助、おかめ、勝次郎、かわらけ賣お梅、玉市、太郎松市太、入松市之助、かんざし賣羽左衞門○胡蝶の花夢雄蝶の精歌右衞門、雌蝶の精羽左衞門、組子多勢常磐津文字太夫、同小文字太夫、兼太夫、式澤三藏、同文左衞門、同式佐、長唄はやし連中淨るり竹本桐太夫、同喜代太夫、三絃竹澤大作、鶴澤翫六相勤

○大當り此節舞臺へ蠟燭かんてらのあかり一切ならざるゆへ正明け六ッ半時に相初夕七ッ時に打出しなり故に見物のもの桃灯にて出る御藏前通りは賑はしく遠方よりは夜八ッ比より仕度して來りける大切に至りては役者も道具建も更にわからざりし然れ共珍敷事ゆへ大々當り

○普請出來に付十月五日より中村座「金龍山誓礎」吉田の斑女御前、女馬士小はたのお市女、漁師濱成、杜若、粟津七郎俊兼、吉三郎、人買猿しま惣太、猪三

郎、壽姫の乳人秋篠、甚三、女房お賤、常世、吉田松若丸、壽三郎、粟津の妹浮はし、八瀬、賤女おまつ、松之助、三上の雲夜及、永樂や手代庄八、鶴藏、高橋軍藏、森五郎、矢瀬の次郎、冬奉公人權七、廣五郎、五百崎照平、鈂之助、山田の六郎、海藏、花川戸仲太、市右衛門、代官武藤次、相藏、茶道珍才、辰藏、伊勢參り大次、目勝、雲介の十、橘三郎、杣斧右衛門、つる助、同なた六、夏五郎、中間むし助、峯藏、足輕定六、杉藏、講中七郎兵衛、團助、牛嶋大藏、鶴作、奥女中淺芽辰之助、堤文次、鶴五郎、草苅童紀の松、源平、葛城の嶋主、勝海、聖天町法界坊、壽姫亡魂、檜熊の武成スケ訥升、草苅童音松、鶴之助、常陸の次郎、夜そば賣二八、四郎五郎、婉もみぢ、菊壽、同野きく、琴枝、夕ばへ、若松、初しも、小紫、奥女中さゞ浪、升の丞、神職榊主膳、講中尼眞月、紀次、平岩民部之助、でつち長吉、甚吉、堀の鳫八、船頭の七、岩五郎、越方三郎、雷藏、永樂屋伯父權左衛門、佐十郎、基房息女壽姫、榮二郎、松井の源吾、山崎勘十郎、現十郎、永樂や手代要助、吉田松若丸、淸十郎、松浦五郎照時、道具屋甚三、團三郎、泰の川勝妻瞖、永樂屋娘おくみ、黑木賣おせん、榮三郎、渡し守竹松、吉田下部軍助、泰の藏人川勝、一ッ家の檜熊ばゝア、檜熊の友成、彦三郎、進の中臣淡海公、傅藏、第貳ばん目大切淨瑠理月の名所の隅田川俤寫振袖の双兩顔「色忍良女售（いろしのぶやつしあきうど）」法界坊壽姫の亡魂、訥升、要助、淸十郎、おくみ、榮三郎、わたし守、彦三郎、常磐津文字太夫、小文字太夫、兼太夫三絃岸澤連中富本豐前太夫、染太夫、粂太夫、三絃名見崎連中相勤

○淺草靈驗記と葱賣を組合たる仕組三立目返し勝海、訥升、お市、杜若、友成、彦三郎、あけぼの、榮三郎四人のだんまり五立め宮戸川三社の網船之場貳ばん目序幕永樂屋中幕一ッ家姥彦三郎大出來大切上るり何れも大出來○十一月五日より「八陣守護城（はちぢんしゆごのはんじやう）」毒酒湖水佐藤肥田守淸正、吉三郎、北畑春雄卿、猪三郎、山左衛門妻柵、常世、鞠川玄蕃、鶴藏、坪坂軍八、廣五郎、宅間郡次、海藏、婉千草、相藏、同野分、團助、山陰中納言、鶴五郎、こし元初しも、若松、同深雪、菊壽、横雲平馬、岩五郎、早川主馬、甚吉、左枝右門、雷藏、佐藤主計之助、淸十郎小西彌十郎、團三郎、山左衛門娘雛衣、榮三郎、森山左衛門音成、彦三郎、次に「鬮取二代勝負附」天滿社内秋津島内二幕高倉隼人、吉三郎、鬼ケ嶽、猪

三郎、岸守與之介、壽三郎、傾せゐ大淀、松之助、鳴岩五郎藏、森五郎、同土蜘、九藏、海藏、同籠石浪右衛門、市右衛門、六角要之助、冠五郎、秋津島一子國松、勝次郎、關取秋津しま、訥升、呼出し奴音吉、鶴之助、水茶やおとめ、小紫、やりてお艶、紀次、茨屋太介、鈨之助、六角伊達五郎、現十郎、秋つしま女房おさと、榮三郎、行司庄九郎、彥三郎第二番目「伊勢音頭戀寢劔」あぶらやおこん、杜若、奴林平、吉三郎、猿田彥太夫、あい玉や喜多六、豬三郎、貢伯母お榮、仲居千野、松之助、杉山大藏、油屋おしか、鶴藏、胴脈の金兵衛、森五郎、粟原丈四郎、廣五郎、神子きよし、市右衛門、比丘尼おきん、辰藏、神主右内、目勝、同織部、杉藏、同釆女、鶴十郎、非人おむら、峯藏、比丘尼小かん、岡六、飛脚早助、鶴作、油屋女房おきぬ、辰之助、料理人喜助、訥升、下田万次郎、多藏、仲居おきし、かめ三、入方佐介、紀次、小嶋四郎助、岩五郎、若者利八、雷藏、黑上主鈴、佐十郎、孫太夫娘さかき、榮二郎、正直正太夫、仲居まんの、現十郎、藤浪左膳、團三郎、福岡貢、彥三郎、片桐市正、傳藏○八陣加藤大に評よし鞠川大出來秋つ島中評伊せ音頭何れも大出來狂言作者三升屋二三次、松島半二、本屋半七、中村七郎右衛門、幸岩周藏○十一月五日より市村座「增補兜軍記（ぞうほかぶとぐんき）」手塚の太郎光盛、遊君あこや、源の範賴、羽左衛門、女非人音羽のお瀧實景清娘人丸、女達お松、菊次郎、監物太郎、福助、菊四郎、はん澤六郎、鶴十郎、景清伯父大日坊、粂右衛門、友柳七郎、大次郎、齋藤五郎、鷺助、四ッ多輪の藥師坊、梶原下部蛐平、茂々十郎、門脇五郎、ィ四郎、番場の忠太、相十郎、五條坂番人與六、鐘五郎、ちゝぶの下部可内、はり藏、同兵藤、成右衛門、同郎等軍平、角太郎、同甚内、幸吉、地廻り藤八、村助、同源十、粂八、同石六、卜藏、岩永の郎等新木染吉、万九郎、祇園町佐のや小平次、橘十郎、勢田大宮司、十藏、庄屋與九兵衛、大吉、禿みどり、勝次郎、秩父庄司重忠、𢌞國修行者快典實三保ノ谷四郎國俊、三十郎、禿小松、太升、肝登見法印、勘左衛門、鹽家の兵衛、三藏、猶國妹夕ばへ、國三郎、宗高妹早咲、歌女太郎、成清妹道芝、玉次、廣之妹紅梅、しらべ、重能妹李島、麗之助、常胤妹初霜、增吉、梶原平三、駒助、近經妻唐あや、かてう、進の次郎妹葉末、福之丞、根ノ井娘白梅、橘之助、獵師峯作實は成田藏人、勘藏、石田三郎爲久、歌助、秩父の小六

郎、三田八、花扇屋おきみ、芝鶴、重忠の妻玉房御前、遊君あこや實は口口、しうか、岩永左衛門宗連、獵師蜑六實は景清、遊君あこや實わつばの菊王丸、歌右衛門、第二ばん目[猿廻門出一歌(さるまわしかどでのひとふし)]ゐッ、や傳兵衛、羽左衛門、げいしやおしゆん、菊次郎、井筒屋番頭長九郎、釣かねや權兵衛、菊四郎、多保柳千之丞、福助、米屋五次兵衛、鶴十郎、岩淵官右衛門、嵐右衛門、非人與太郎、さぎ助、柳屋若者田兵衛、雷助、おしゆん親方稲毛屋庄次、十藏、弟子娘おみわ、勝次郎、尾張屋由兵衛三十郎、ゐづゝや幸之助、玉三郎、判人勘七、勘左衛門、井づゝや手代嘉七、雁かゝアおさん、三藏、弟娘おきみ、歌女太郎、非人柳じまどぶ八、駒助、いなげやげいしやおふく、福之助、ゐづゝや下女おさき、橘之助、沼津の平作、與次郎母おさよ、助藏、古手屋十兵衛、井筒屋、幸兵衛娘おそで、しうか、猿まわし與次郎、歌右衛門、大切[源平布引瀧(げんぺいぬのびきのたき)]物語之段瀨の尾十郎兼光、三十郎、百姓九郎助、菊四郎、矢羽瀨仁惣太、大次郎、九郎助女房およし、十藏、小まん一子太郎吉、勝次郎、あふひ御前、藤藏、九郎助娘小万、しうか、齋藤別當實盛、歌右衛門、多田藏人行綱、羽左衛門、何れも大出來

大當り

狂言作者櫻田治助、笠縫專助、村柑子、松嶋てうふ、玉卷久二、篠田瑳助

因に云操座大薩摩吉右衛門太夫播磨太夫普請出來八月四日より初り淨瑠理[菅原傳授手習鑑]第四の卷迄

御殿の段　口 竹本千代太夫　ヲク 豐竹小島太夫　竹本吉の太夫

加茂堤の段　口 竹本室太夫　ヲク 竹本美代太夫

傳授之段　口 竹本喜久太夫　切 竹本由良太夫　跡 竹本簑太夫

汐待　口 竹本秋太夫　竹本政戸太夫

道明寺の段　中 竹本津瑠太夫　次 豐竹靭太夫　切 竹本中太夫

車爭ひの段(カケ合)　梅 竹本紋太夫　松 竹本吾妻太夫　櫻 竹本美代太夫　時平 竹本簑太夫

天拜山の段　竹本紋太夫

手習兒屋の段　中 竹本吾妻太夫　切 豐竹靭太夫

おそめ久松[新板歌祭文]

野崎村の段　口 竹本津瑠太夫　切 竹本播磨太夫

三味線鶴澤市太郎、野澤當八、花澤伊八、鶴澤泰造、

同鐵三郎、同福造、同寅次郎、同忠次郎、同市哭、同文三、其餘略之

床頭取竹本鬼一

人形白太夫、吉川清五郎、櫻丸、女房八重、錦のまへ、西川力藏、梅王、土師兵衛、吉川松五郎、時平、希世、西川久太郎、戸なみ、かりや姫、藤井新七、櫻丸、西川新十郎、玄蕃とてる國、西川兼吉、立田の前、西川大三郎、武部源藏、梅王女房はる、吉田文四、松王丸、宿禰太郎、吉田冠二、菅相丞、千代、西川伊三郎

○おそめ、吉川清五郎、後室覺じゆ、百姓久作、吉田千次、頭取吉田冠二、床頭取竹本鬼一

ロ上吉川傳造、人形細工和泉屋五郎兵衛

右上るり相始珍敷ゆへ古今大入大當り

結城座普請大に延引す

九月十九日

歌舞妓役者

宗十郎

梅幸

右者編笠冠り候様兼々申渡置候處木挽町芝居へ罷出候内右兩人編笠失念いたし冠り不申候に付吟味中手鎖同日過料三〆目つゝ被申付

繪草紙錦繪類御觸有之役者繪女郎御停止草ぞうし墨摺後表紙三四へん摺なる錦繪役者名前を不書載總而芝居之事御停止故三ヶ津役者も出板無之向後役者上り下り改名は勿論死去戒名之事中より以下の役者は更に不知事なり見聞之分は爰に載

猿若町三丁之畧圖　豊國縮図

季細八
呼子鳥和歌三町全圖ニアリ

猿若町二丁目

中村座

ヤブノウチ入口

即席料理
佃長

天町入口

猿若町三丁目

二丁目新道

市村座

編笠に忍ふ猿若おのか毛の　梅　屋
　たらぬ三筋にひける町わり
北極のうこかぬ御代のためしとて　綠樹園
　ほしの如くに集ふ見物
植こみてめたつかふきの花やくら　六朶園
　千代かはら崎銀杏たちはな
善にすゝめあしきを懲す人眞似は　花笠文京
　今もむかしにまさる若町
月日ほし三ッの芝居は周の代の　春　屋
　春に人來とつくる鶯
古へのかゝみなりけりよしあしを　花柳園
　今にうつして三ッのちまたは
大江戸の寅にあたりて七ッめの　六帖園
　猿若町はことに賑はし
天地より猶もましらの三ちうや　東雲亭
　客を呼子の鳥の大入
狂言の山また山にわけいれは　立　亭
　人呼子鳥こたまにもきく
大入の的をはづさぬ矢聲かな　東風の屋
　鼓の皮の猿若の地は

八百半もッイちよいじやぞや爰からは
　霄庚申の三ッの猿若
右者和歌三町に所載る夷曲なり
繁昌はひやく眞猿若惠美須　豊　芥
　三ッの櫓の榮久しき

花江都歌舞妓年代記續編卷之十七

●天保十四癸卯年

○正月十二日より中村座「鶴千歳萬代曾我」八幡の三郎、曾我の團三郎、吉三郎、近江小藤太、箱根の畑右衛門、芝十郎、大姫君、粂三郎、そがの二の宮、松之助、大藤内成景、梶原源太、鶴藏、百足屋金兵衛、森五郎、本田次郎、近藤廣五郎、宇佐美俊平、鉄之助、御所の黒彌吾、海藏、横須賀軍平、市右衛門、曾我禪司坊、甚吉、大野や才助、相藏、竹の下孫八左衛門、千代松、結城の七郎、辰藏、相澤彌五郎、多見平、箱根同宿西念、杉藏、同西也、岡六、同西傳、綱十郎、舞鶴屋女房お市、辰之助、小林朝日丸、鶴之助、祐經奥方挪の葉、舞鶴姫、杜若、仁田の四郎忠常、梅澤屋小五郎兵衛、工藤左衛門祐經、彥三郎、千葉家娰十六夜、化粧坂せふ〳〵、紫若、寶船うり長吉、源平、新造龜鶴、かめ三、蒲の冠者梅尾、蜑お時、春作、童力夜叉、浪平、梶原平三、紀次、同平六、糸茂岩五郎、宇佐美三郎、佐十郎、工藤息女敷妙姫、榮次郎、梶原平次景高、箱根の閉坊、現十郎、伊豆の次郎祐兼、清十郎、鬼王女房月小夜、絹川渡し守お竹、常世、鬼王新左衛門、ぜげん地獄清兵衛、猪三郎、舞鶴屋傳三、曾我五郎時宗、高麗藏、白拍子風折、大磯の虎御前、榮三郎、清水冠者義高、男達戀塚門兵衛、曾我十郎祐成、訥升、犬坊丸、壽三郎、源の頼家公、傳藏、第二番目「本朝廿四孝」三の切四の切。長尾景勝、越名彈正、吉三郎、齋藤道三、芝十郎、更科六郎、鶴藏、原小文次、東藏、白須賀十郎、海藏、娰早わらび、菊壽、同綸合、若松、同浮はし、小紫内竹川、さか江、山本勘助母、杜若、百姓横藏實は山本勘助、彥三郎、長尾息女八重垣姫、慈悲藏、女房お種、紫若、越名妻入江、常世、長尾謙信、猪三郎、高坂妻唐綾、娰濡衣、榮三郎、高坂彈正、武田勝頼、訥升大切淨るり梅川忠兵衛「道行故郷の春雨」梅川、紫若賤女およし粂三郎忠兵衛孫右衛門訥升清元延壽太夫、志喜太夫三絃清元千藏、同梅次郎、相勤大出來大當り○正月十一日より市村座「祭禮祭歌曾我花轎」曾我五郎時致、極樂寺門番藤六、鳶の者三ふ、畠山重忠、三猿、舞鶴や傾せい喜瀬川、小藤太娘藤の戸、天滿屋おはつ、重井筒のおてう、菊次郎、鳶のもの吉、福助、近江下部宇佐平、鳶の太七、菊四郎、二の宮太郎、

たいこ持鶴八、鶴十郎、月小夜妹十六夜、天滿屋下女お玉、藤藏、見越ヶ嶽の大佛坊、天滿屋久右衛門、衒右衛門、判人小文太、大次郎、梅澤や小五郎、鷲助、舞つるやけいせい綾菊、七五三藏、鳶の者喜四郎、茂々十郎、海野小太郎、ィ四松、盗賊幸吉、相十郎、臼井の八郎、鐘五郎、手妻遣ィ行衛之介、はり藏、巾着切の七、芝喜藏、髮結の權、むら助、狂言作者玉卷久二、十藏、犬坊丸、多喜藏、源の實朝公、勝次郎、小林朝日奈、寐番楜坊、權助、赤澤十內、油樽おわりや九平次、三十郎、少々禿小てう、太升、梶原源太、勘左衛門、同下部げし平、三藏、新造玉章、玉三郎、喜瀬川新造龜鶴、歌女太郎、本田の次郎妹唐あや、梅之助、新貝妹道芝、らいの助、千葉妹春雨、しらべ、海老名妹初花、增吉、舞鶴や新造早歌野、福之助、同女房おいね、かてう、伊豆の次郎、竹十郎、八幡の下部久須平、平野屋才兵衛、勘藏、大藤內成景、佐貫文次兵衛、歌助、鬼王女房月小夜、芝鶴、御所五郎丸、三田八、とらの禿千鳥、茂々太郎、舞鶴や傳三、京の次郎、德兵衛母お十、本田次郎近經、團三郎、大礒のとら、行氏娘雪の戶、げいしやおふさ、しうか、工藤一臈別當、祐經、けわい坂男藝者德兵衛、小達甚十郎、鬼王新左衛門、近江の小藤太成家、歌右衛門、曾我十郎祐成、夜そば賣三吉、八幡三郎行氏、曾我團三郎、羽左衛門、第二番目大切淨るり所作事「魁香樹(かしこがき)いせ物語(ものがたり)」曾我兩社御祭禮、白酒うり、三猿、巫女、菊次郎、大工、三十郎、はひかひし、團三郎、わたし守、しうか、才藏、歌右衛門、萬歲、羽左衛門、常磐津文字太夫、富本豐前太夫、長唄惣はやし竹本總連中不殘罷出相勤古今大出來大々當り

右曾我祭り初日より當五月廿八日迄くりかへ引替御覽に入候樣口上書あり

○二月廿八日より**中村座**「伊達競阿國戲場(だてくらべおくにかぶき)」關取絹川谷藏、吉三郎、大江の鬼つら、驛正姉八汐、芝十郎、奧女中名古曾、粂三郎、同松しま、松之助、鳶の嘉藤次、でつち豆太、鶴藏、瀧夜叉丸、森五郎、大場道益、廣五郎、料理人判助、鈍之助、富本林藏、海藏、やりておつめ、市右衛門、鬼つら下部盛平、伊麗六、仁木下部田賀平、冠五郎、熊本左源太、相藏、三浦若者喜助、辰藏、地廻り鳴吉、千代松、同はね助、目勝、非人のらく、彥八、同とり、孫六、庄屋與九兵衛、峰藏、講中太郎七、鴻藏、同込助、乃助、茶道頓才、岡六、奴紀の平、澤平、夜廻り

寐す六、杉藏、船頭梶平、イ藏、槇原眼六、麗八、岩淵軍八、判人常吉、鶴作、山中鹿之助、鶴五郎、茶や女房おかつ、辰之助、小姓櫻井八重次、琴次郎、政岡一子千松、鶴之助、とうふや娘かさね、杜若、井筒外記左衞門、豆腐屋三郎兵衞、荒獅子男之助、彥三郎、乳人政岡、油屋丁稚久松、紫若、鶴喜代君、源平、三浦のけいせい薄くも、かめ三、嶋田重三郎、笹の才藏、梅尾鯱嶋崎、喜代松、同淺香、若松、宮城野、さかゑ、竹しの、菊壽、奥女中八百嶋、春次、同八ッ橋、志妻、管野小助、紀次、櫻川善好、甚吉、渡會銀平、岩五郎、片桐彌十郎、佐十郎、奥女中きさ方、榮二郎、黑澤官藏、宗益妻小槙、鹽澤丹三、現十郎、荒川民部、逸友、清十郎、奥女中沖の井、常世、山名宗全、同さかへ御前、猪三郎、仁木彈正直則、鷲山の宿の仁三、高麗藏、三浦の高尾、油屋浪お染、榮三郎、細川勝元、猿廻し與之助、左金吾頼兼、訥升、同下部伊達平、壽三郎、井筒女之助、傳藏、大切淨瑠理「道行浮塒鷗(みちゆきうきねのともどり)」仁三、高麗藏、久松、紫若、お染、榮三郎、猿まわし、訥升、清元延壽太夫、榮壽太夫、鳴尾太夫、三弦清元一壽、千藏、兵藏相勤

何れも大出來大當り高麗藏仁木攵錦升より傳來故小兵なれ共大に評判よし

○二月十九日より市村座「廓燕姿稻妻(さとつばめすがたのいなづま)」名古屋山左衞門、上林仲居おみや、千の利久、三猿、白拍子藤浪南無右衞門女房磯菜、上林仲居お國、菊次郎、南無右衞門子文彌、福助、不破道犬、茨の門兵衞、菊四郎、奴閑平、品川狠之助、鶴十郎、白拍子おりう、けいせい柏子、藤藏、廣川丹藏、山名宗全、翫右衞門、上林清左衞門、大次郎、若徒甚平、鷺助、順禮多見助、七五三藏、同千代六、茂々十郎、柏木屋手代みつ平、光十郎、花造九介、イ四松、同龜右衞門、相十郎、上はやし若者喜助、鐘五郎、たいこ持たゐ藏、はり藏、すしやでつち權太、むし藏、盜賊鱗目の久、かに八、同在六、德松、俳諧師三階庵、登り升助、質屋利兵衞、三九郎、茶屋廻り次郎兵衞、同觀念坊、十藏、又平一子太郎吉、多喜藏、桂の助弟花形丸、勝次郎、奴鹿藏、雲介、寐覺の駄々六、名輪無理之助、三十郎、里の子きく松、飛脚かん平、勘左衞門、奴段平、三藏、道具屋甚三、井づゝ女之助、竹十郎、こし元かつみ、勝之助、同玉芝、玉三郎、歌あや、歌女太郎、仲居おつぎ、玉次、同おむめ、梅之助、おらい、麗之助、おてう、ゑらべ、おます、増吉、大丸手代嘉七、

高取十平次、駒助、佐々木家中老深見、仲居おふく、福之丞、佐々木家局花の戸、仲居およし、かてう、名古屋山平、保曾河勝元、勘藏、長谷部寒六、下男只野才藏、歌助、上林女房おやを、奥女中折鶴、芝鶴、一色賴母之助、三田八、禿みよしの、茂々太郎、佐々木桂之助、梅澤嘉門、柏木屋清右衛門、團三郎、けいせいかつら木、南無右衛門娘楓、山三下女おたま、玄うか、不破伴左衛門、六部南無右衛門、笹良三八、土佐の又平、歌右衛門、名古屋山三、六角修理之介、下部猿藏、狩野四郎次郎、羽左衛門、第二ばん目大切「積戀雪關扉」宗貞、三猿、關兵衛、歌右衛門、小町姫墨染靈 羽左衛門、常磐津文字太夫三弦岸澤式佐連中相勤

第一番目山東軒「稻妻表紙」增補二番目淨るり何れも大出來大當り

○五月朔日より中村座「碁太平記白石噺」楠判官正成、吉三郎、庄屋七郎兵衛、志賀臺七、芝十郎、田植逆井村おのふ、粂三郎、常磐の局、新造宮里、松之助、右大辨中友卿、どぜう太夫、鶴助、萬里小路信房、傾城染衣、森五郎、左中辨惟清、廣五郎、伴の紀の方、古者祭ト、鈍之助、物川藏人、海藏、田植女おなべ、市右衛門、臺七下部貫藏、伊麗六、左少辨廣長、冠五郎、新造八つはし、相藏、百姓豐助、辰藏、同麥作、目勝、げいしや萬吉、千代藏、地廻り三ケ月の松、鴻藏、新造花菱、乃六、同まり葉、岡六、大丸手代勘助、澤平、若葉の局、新造宮里、辰之助、少納言春蒲、鶴五郎、かむろしげり、源平、藤壺の內侍、杜若、金江谷五郎、彥三郎、後醍醐天皇、鶴之助、恩地左近、多藏、小間物屋源造、梅尾新造、嬉野、菊壽、同いよ花、若松けいせゐにしき木、喜代松、同藤枝、左少辨九口、紀次、新造宮の戸、紫妻、船頭伊三、勘吉、少納言師方、醫者養雛、佐十郎、右大辨陰貫、浪花屋冠九郎、百姓與茂作、現十郎、たいこ五丁、清十郎、與茂作女房おさよ、常世、坊門宰相清忠、大福屋惣六、高麗藏、あやめの內侍、傾せい宮城野、紫若、六つ目のしのぶ、宇治民部之介常悅、訥升、第貳ばん目きぬ川與右衛門、吉三郎、羽生村金五郎、芝十郎、園生前松之助、判人傳吉、鶴藏、百姓かん太、千代松、同正八、麗八、賤女おしの、辰之助、與右衛門女房かさね、杜若、里の子藤松、琴次郎、賤女おいそ、喜代松、同おとく、春次、所化祐海、清十郎、曾我五郎時宗、冷水うり花びしの吉、豆腐や三郎兵衛、高麗藏、大和屋

おせん、紫若、さゝら三八、朝顔賣紀の介、曾我十郎祐成、訥升、篗の才藏、壽三郎、井筒女之助、傳藏、第貳ばん目上るり「花菖蒲祭色月夜（はなしやうぶまつりのいろづきよ）」夜討曾我（五郎、高麗藏 十郎、訥升）替りて（水うり、こまの藏 おせん、紫若）朝顔賣、訥升、大薩摩富士田吾藏（三弦）杵屋六左衛門相勤清元延壽太夫、榮壽太夫（三弦）清元八五郎、同安治相勤大出來大當り○猿若町三丁目普請出來に付○五月五日より河原崎座「假名手本忠臣藏」（大序より七段目迄）「菅原傳授手習鑑」（寺四段目口まで）菅原道實公、武部源藏、櫻丸、松王女房千代、高の師直、早の勘平、大星由良之助、菊五郎、松王丸、宿禰太郎、斧九太夫、不破數右衛門、寺岡平右衛門、彥三郎、足利直義公、牧董きく松、菊之助、左少辨稀世、鷺坂ばん內、土師兵衛、廣右衛門、梅王女房はる、一力女房おませ、壽美藏、舍人杉王、勝川與三兵衛、百姓與一兵衛、升五郎、三好清貫、矢間十太郎、宗三郎、似迎ひ彌藤次、狸の角兵衛、植木や杢右衛門、箱右衛門、牛飼九郎又、奴岩內、茂々十郎、種ケしま六、大友古水、團八、牛飼太郎又、六角左京、熊五郎、齋世親王、菊太郎、藤原時平公、覺じゆ、山名次郎左衛門、一文字や才兵衛、加古川本藏、九藏、安樂寺住僧道德、たい助、金棒引一藤太、扇藏、めつぼう彌八、原郷右衛門、虎五郎、本藏妹みなせ、仲居おむめ、梅三郎、同おみつ、喜久三郎、同おふじ、娌常夏、藤藏、同ふじ浪、仲居おすみ、三すじ、同おはる、娌かつ世、にしき、わし塚平馬、判人源六、晋右衛門、大星力彌、歌菊、菅秀才、熊吉、百姓白太夫、七段目九太夫、吉田忠左衛門、市藏、花園御前、おかる母、仲居およし、みんし、判官代輝國、千崎彌五郎、團三郎、櫻丸女房八重、立田の前、源藏女房戸浪、かほよ御前、娌おかる、榮三郎、舍人梅王丸、斧定九郎、石堂右馬之丞、一力亭主市郎兵衛、鹽谷判官、桃井若狹之助、大わし文吾、團十郎、大出來大當り

當狂言中尾上菊五郎菅相丞の衣裝之儀且又早野勘平役之節持候鐵炮是は親松緣より遺物の由木筒には候得共臺引金物等全鐵炮の形を其儘寫候品狂言に相用候始末不埒に付右品御取上げ御咎有之乍併興行差支無之由

○五月朔日より市村座「源平勝武闘（げんぺいしょうぶかたな）」「一の谷」源の義經、畠山重忠、さつま守忠度、羽左衛門、熊谷妻さかみ、小宰相の局、乳母はやし、常世、あつもり、熊谷小次郎、籐助、平山武者所、人足廻し茂次兵衛、菊四郎、庄や孫

作、兎原田五平、歌助、門脇中納言、御臺ふじの方、勘藏、梶原平三、大納言時忠、瀧右衛門、醒ヶ井兵太、大次郎、鶯津三郎、鷺助、番場の忠太、萬九郎、菊乃前、かめ三、玉おり姫、菊代、阿波民部、つゝみの郡次、鶴十郎、三草四郎、三田八、石屋みだ六、越中次郎兵衛、傘はり五郎作、三十郎、熊谷次郎直實、主馬の判官、岡部六彌太、歌右衛門二番目「妹脊山婦女庭訓（四段目切）ゑぼし折求馬、羽左衛門、橘姫、みの助、官女もみじの局、菊四郎、同櫻の局、歌助、同はぎ局、さぎ助、松の局、駒助、玄蕃大次郎、彌藤次、七五三藏、仕丁太郎又、子之助、同次郎又、三九郎、侍従かてう、裏葉、歌女太郎、染衣、増吉、小ゆき、福之丞、つまこと、しらべ、撫子、勝次郎、お清所おむら、りやうしふか七、三十郎、入鹿大臣、おみわ、歌右衛門、大切けい事「箱入あやめ木偶」甚五郎、女房おつた、常世、桃し木養太夫、菊四郎、川井友五右衛門、歌助、神道者原之進、勘藏、馬場井風仙、大次郎、香うり捨六、鷺助、下女おしめ、七五三藏、大工六兵衛、竹十郎、同ぶつ九郎、イ四松、同わび九郎、萬九郎、甚五郎妹おさよ、かめ三、所化角連坊、駒助、料理人多奴吉、三藏、綾り與兵衛、十藏、細工人甚五郎、歌右衛門、難波好お山人形の精、京土產衛士の人形の精、江戸仕立劔ゑぼし人形の精、羽左衛門、常磐津文字太夫、同小文字太夫、三弦岸澤式佐三藏相勤長うたはやし連中何れも大出來大當り

○六月朔日より中村座「繪本合法衢（ゑほんかつほうかつぢ）」左枝大學之助、吉三郎、百姓左五衛門、芝十郎、清水村のおはな、粂三郎、太平次女房おきの、松之助、笹山下部八内、鶴藏、松浦玄蕃、森五郎、三上郷兵衛、廣五郎、下部春平、訥之助、廣川逸藤太、海藏、神職伊おり、市右衛門、雲介木辻の松、伊麗六、同長町の長、冠五郎、石山照藏、相藏、百姓あせ六、辰藏、澁川又藏、千代藏、百姓杢六、目勝、熊山伴六、乃六、佐五右衛門女房おやよ、辰之助、下部曾平、鶴五郎、宮仕次郎吉、琴次郎、瀬左衛門一子瀬之助、源平、道具屋娘おかめ、杜若、多賀大圭俊行公、高崎瀬左衛門、彦三郎、彌十郎女房皐月、孫七女房およね、紫若、佐五右衛門一子與之助、鶴之助小姓堤力丸、寅之助、奥女中升見、かめ三、鰻なでしこ、若松、同さゆり、喜代松、道具や下女おはる、春次、乳人しがらみ、紫妻、堅田鷹助、紀次、柴崎宇内、甚吉、松田幸兵衛、佐十郎、三度飛脚與五七、現十郎、小嶋林平、滿十

郎、多賀奥方漣、常世、笹山官兵衛、猪三郎、道具屋與兵衛、立場の太平次、高麗藏、高崎彌十郎、後に修行者合法、闇屋八足孫七、納升、丁稚三吉、壽三郎、多賀公達梅丸、傳藏、第二番目大切淨るりは其まゝ差置何れも評よし

○六月十五日より河原崎座「國性爺合戰(こくせんやかつせい)」歌舞伎十八番之内「鳴神夏祭浪花鑑」一寸德兵衛、三川屋義平次、同宿黑雲、彥三郎、玉しま磯之丞、同宿赤雲、松助、同東雲、菊之助、道具屋彌市、大島佐五右衛門、廣右衛門、和藤内妻小むつ、けいせい琴浦、壽美之丞、代官津田宇源次、古手や十兵衛　升五郎、なまの八、下官ほるなんろう宗三郎、婉葉らん、下官じやが太郎兵衛、箱右衛門、下官いぎりす兵衛、鴛鴦三、茂々十郎、同天滿の七、下官るせんべい、團八、船頭波六、下官うんすんこら、梅藏、代官左番次、芥の善、熊五郎、船頭仲六、菊太郎、下官大勢ひ、庄屋杢兵衛、たい助、團七悴市松、茂々太郎、友達千代松、猿藏、伍將軍甘輝、同宿白雲、釣舟の三ぶ、九藏、友達子供かめ松、熊吉、同鶴松、鶴之助、仙檀皇女、茶屋女おせん、歌菊、紙屑買萬助、こつばの權、岩五郎、下官ねづとのさん、團兵衛、こし元芙蓉、梅三郎、同かいとう、嶋三郎、同芝らん、さかゑ、同ぼたん、壽美世、同紫ゑん、藤藏、同ふうらん、三すじ、同しやくやく、にし木、李とうてん、古道具屋孫右衛門、音右衛門、同娘お仲、榮次郎、鄭芝龍老一官、助松主計、市藏、和藤内母、三ぶ女房おつぎ、珉子、同宿西雲、新之助、甘輝妻錦幹女、雲のたへま姬、團七女房おかぢ、德兵衛女房お辰、榮三郎、和藤内、國性爺、鳴神上人、團七九郎兵衛、團十郎、同宿南雲、長十郎　歌舞伎十八番之内「迷雲色鳴神(まよいのくもいろになるかみ)」黑雲坊、彥三郎、白雲坊、九藏、赤雲坊、松助、雲南坊、長十郎、たへま、榮三郎、鳴神上人、團十郎、上るり常磐津文字太夫、兼太夫、三弦岸澤式佐、同文左衛門相勤何れも大出來大當り當狂言五夕下け

尾上菊五郎病氣に付夏狂言市川團十郎に相進め與行之處大出來にて是より八代目團十郎追々評判よし

○七月十四日より「源平布引瀧(げんぺいぬのびきのたき)」第三の切まで齋藤市郎實盛、彥三郎、平宗盛、松助、三井寺兒音若、菊之助、長田太郎、廣右衛門、侍胥姬、壽美之丞の大序多田の藏人、升五郎、矢橋の仁惣太、宗三郎、庄屋角次兵衛、箱右衛門

大序高橋判官、岡八、小松の重盛、熊左郎、三井寺兒成若、猿藏、木曾の先生義賢、瀬の尾十郎兼氏、九藏、小萬悴太郎吉、茂々太郎、軍兵大勢、妣野分、壽之世、同千種、さかえ、進の次郎、岩五郎、九郎介女房およし、たい助、難波の六郎、虎左郎、高橋判官、百姓九郎介、市藏、あをひ御前、みれし、見瀧若、九郎介娘小ゑん、榮三郎、奴折平實は多田の藏人、團十郎、木曾の駒若丸、長十郎、第二番目「相合傘濡貸下駄」下屋新兵衛、彦三郎、八百屋伴三郎、松助、千代三四郎、廣右衛門、げいこ升次、壽みの糸、所々下部有助、升五郎、春の蛙之助、宗三郎、盛切ばゞあおとら、箱右衛門、どぶろく陀多六、岩五郎、見世物師いれゞお松、茂々太郎、玉屋でつち銀太、梅藏、米屋黒右衛門、團兵衛、たいこ白八、菊太郎、餓のねり子千代吉、鶴之助、同きく松、熊吉、出村新兵衛、九藏、玉屋娘おゑん、歌菊、同下女おたけ、梅三郎、仲居おもく、島三郎、同おさん、三すじ、同おまつ、にしき、舟宿姿見の三ぶ、音右衛門、水茶屋おむめ、榮次郎、米の市兵衛、市藏、花籠女房おしま、珉子、鶴岡九郎、廣右衛門、三國屋の小女郎、粂三郎、氏原勇藏、產毛の金太郎、團十郎

第一番目二番目の間へ國性爺樓門紅ながし二幕大切鳴神上るり相勤

○七月五日より市村座「名橘御未剣太鼓（なにたちはなおやつのたいこ）」磯貝藤助、中間八内、羽左衛門實右衛門、娘お雪、後室みさほ御ぜん、錦田村おまた、菊次郎、大森賴母之助、若徒高瀬兵助、簑助、田淵宮内、桔梗屋文右衛門、菊四郎、醫者長庵、家主左九郎、歌助、舟越重藏、淺川主膳、勘藏、辻番人文六、横山丹平、龍右衛門、宮田庄平、大次郎、横須賀伴藏、鷲助、大森萬次郎、七五三藏、乳母山出しおいろ、ゝ四郎、やぶ坂嘉伴太、子の助、大森公達、島丸、龍助、磯谷實右衛門、島川太兵衛、香川帯刀、三十郎、女小娃千種、勝次郎、念佛六兵衛、雷助、花形無茶之助、勘左衛門、總星合、かめ之助、同うつせみ、玉三郎、きゝやう、歌女太郎、紅梅、玉次、お針おぬい、しらべ、仲居おきく、梅之助、同おまさ、增吉、同おます、龍之丞、同おいね、かてう、藝者小きく、かめ三、香河召仕おしも、菊代、聖谷禪師、大森宗秋、鶴十郎、たいこ持玉八、三田八、川作女房お花、帯刀娘おなみ、藤藏、仲居おさご、奥女中川竹式部、女房しがらみ、しうか、髮結友藏、羽左衛門、當狂言二幕目嶋川太兵衛、

磯貝實右衛門二役三十郎、實右衛門討處替り大出來三まく目御殿場四幕目藤助返り打大切敵討の場迄何れも大出來大當り○八月廿二日より中村座「國性爺合戰」「花川戸紫其名所」一ばん目 二番目 役割和藤内三官、寺西闇心、吉三郎、老一官、うづら權兵衛、猪三郎、新造八重梅、粂三郎、せんだん皇女、中の町げいしやおやな、松之助、下官でれめんていこ、白柄組蔣備治助、現十郎、同闇夜の市藏、森五郎、中間土手助、廣五郎、唐女牡丹花、釱之助、男達牛車の大八、丹平、同石搭半助、海藏、古道具屋杢郎兵衛、市右衛門、三浦若者喜六、今六、同傳吉、相藏、雲助の三、冠五郎、同八、來八、同勇、岡六、同松、乃助、同辰、鴻藏、堀の船宿柏屋おます、辰之助、極樂十三、鶴五郎、長兵衛一子長松、茂々太郎、小侍女ふよう、源平、錦祥女、三浦の小紫、白井權八、紫若、新造小芝、若松、同此花、繁松、下官竹林官、紀次、氏江下部勘平、甚吉、唐女から花、喜代松、同紫莚、春次、同蘭花、紫妻、鐘旭半兵衛、鶴藏、下部八内、淸十郎、森田屋おかぢ、常世、伍將軍甘輝、絹うり彌市、幡隨長兵衛、高麗藏、和藤内女房小むつ、同母、長兵衛女房おとき、杜若、まむしの次兵衛、壽三郎、あら川左馬之助、傳藏 逢た見たさは 飛たつかばり「廓章」八重梅、粂三郎、權八、紫若、第二番目中まく淨瑠理淸元延壽太夫、同榮壽太夫、三弦淸元千藏、忠八同かへし上るり 辻切に誰 と白井の 見返り柳「戀闇月吉原」彌市、高麗藏、おやま 松之助、權八、小紫 紫若、富本豐前太夫 三弦 名見崎連中相勤竹本戸和太夫、同嶋太夫、三弦鶴澤市作、同由次郎相勤第一番目貳ばんめ共大に評よし

○八月廿六日より河原崎座「伊賀越道中双六」佐々木丹右衛門、百姓平作、唐木政右衛門、彦三郎、柘榴武助、松助、池添孫八、升五郎、澤井助平、櫻井林左衛門、道具や廣右衛門、がん八、奴權平、宗三郎、龜七、火の廻り、箱右衛門、綾川軍七、岩五郎、藪の内造いたゞ、茂々十郎、野守之助、關八、斯波角太郎、梅藏、星坂段吾、大藏熊五郎、□□傳三郎、菊太郎、櫻井下部權助、小の藏、中間杢助、芝鐵、柏木善右衛門、安兵衛、佐十郎、吳ふくや重兵衛、櫻井母鳴見、ゆきへ、山田屋幸兵衛、九藏、小娃左門、市之助、同右門、淸三郎、幸兵衛娘おそで、かめ三、荒卷伴作、虎五郎、役人彌藤次、たい助、うば、梅三郎、娩きやう、にしき、同小ぎく、三すじ、同かへで、さかへ、山の井淸六、晉右衛門、上松

右内、古着屋□□市藏、しば町□柴垣、みんし、久方御前、壽美之丞、柏木五右衛門、澤井股五郎、芝十郎、政右衛門女房お谷、幸兵衛妻およし、平作娘およね、丹右衛門妻さゝ尾、榮三郎、和田志津摩、澤井城五郎、譽田大内記、團十郎、何れも大出來大當り○九月廿四日より市村座「壽三艶侭莚」大内鑑、嫁切、戀飛脚、左近太郎、奴よかん平、三十郎、左近妻花町、女非人、菊次郎、大倉權之頭照久、菊四郎、石川彈正、歌助、六の君、こし元きゝやう下り市川瀧三郎、左近太郎一子てるの助、勝次郎、奴すかん平、十之助、衛士爲よし、三の助、信田の庄司、ぬべの童子、市松下り中村慶十郎、局道芝、嫗野風、福之丞、つくばねこし元野きく、菊代、庄司妻かてう、同尾花、瑠吉、石川悪右衛門下り嵐園八、おしや道まん下り淺尾工左衛門、葛の葉姫、くづのは狐、しうか、阿部の保名、やかん平、羽左衛門「嫁切」伊丹覺左衛門、浪人鄕助、工左衛門、家主久兵衛、菊四郎、神職左近、隨右衛門、山口曾平太、同左司馬、大次郎、須藤丹平、七五三藏、近藤沼五郎、三十郎、覺左衛門娘小いな、菊次郎、中間半八、駒助、瀨山皿八、イ四松、權兵衛、らい助、早乙女おはる、玉次、同おなつ、勝三郎、

同おあき、かめ太郎、同おふゆ、梅の助、神子さかき、森三郎、稻の谷半兵衛、羽左衛門「戀飛脚」槌屋次右衛門、三十郎、けいせい梅川下り嵐富三郎、丹波屋八右衛門、百姓くわ作下り柴崎秦藏、河野圭水、鶴十郎、仲居おふじ、藤藏、同おさが、しらべ、禿たより、守之助、新造枝川、芝喜藏、小ちそ若もの喜介、成藏、同與助、升助、順禮鐘九郎、古手買藤八、助藏、節季候子之助、おます、榮三郎、小ちや女房おきよ、しうか、龜屋忠兵衛、羽左衛門、大切淨るり古人の傷を去方様におすゝめにははつかなくもとりあへず「其名巳浪花梅忠」二ノ口村孫右衛門、針立道庵、馬士六藏、傳が母賤女おきよ、男達源五郎、藤次兵衛、淺尾工左衛門ちやくお目見へおみやげ狂言梅川、富三郎、忠兵衛、羽左衛門、常磐津文字太夫、兼太夫、組太夫、三弦岸澤式佐、同三八、相勤何れも大出來大當り○此度下り工左衛門は元大谷友右衛門弟子友次成か○壬九月廿七日より「増補姉看の門松」元屋橋の段野崎村久作、手代善六、工左衛門、太郎兵衛女房おとま、富三郎、松坂屋源右衛門、菊四郎、小道具屋利兵衛、鶴十郎、でつち長太、芝喜藏、鳶の者三五郎、三十郎、丁稚久松、菊次郎、下女おます、増吉、同おりん、團八、京村屋おいと、藤藏、油屋太三郎、

簑助、同娘お染、しうか、山家屋清兵衞、羽左衞門當狂言も大に評よく○十月十日より中村歌右衞門、當夏より休み居候處無據儀有之河原崎座へ出勤に付當座名殘り狂言日數十五日間興行「ひらかな盛衰記」第三段目船頭權四郎、工左衞門、同富藏、菊四郎、同九郎作、歌助、同由六、助藏、同仲六、瓶右衞門、同なだ七、大次郎、同浪助、鷲助、同山八、七五三藏、秩父の重忠、三十郎、松右衞門女房お芳、菊次郎、船頭駒八、駒助、同又六、鶴十郎、隼人娘おふで、しうか、船頭松右衞門實は樋口次郎、歌右衞門、梶原源太、羽左衞門「廓文章」吉田屋段吉田屋女房おむめ、富三郎、同若者甚助、勘左衞門、阿波大盡、臺藏、吉田屋若者字八、慶十郎、同理吉、團八、吉田屋喜左衞門、三十郎、仲居おふく、福之丞、同おてう、かてう、おいち、森三郎、ふじや伊左衞門、歌右衞門、あふきや夕きり、羽左衞門大出來大當り○閏九月十一日より中村座「神靈矢口渡」南瀨の六郎、新田義貞神靈、吉三郎、竹澤監物、猪三郎、栗生娘てりは、松之助、馬士長藏、修行者道念、現十郎、三上の十次、森五郎、熊野三藏、廣五郎、江田判官、海藏、雲助の松、伊ま六、犬伏官藏、冠五郎、下男八助、相藏、御臺つくば御前、長之助、篠塚八郎、鶴五郎、兵庫一子友若、源平、頓兵衞娘おふね、生麥村賤女おやま、紫若、新田德壽丸、寅之助、奴浪平、多藏、こし元野きく、若松、同小冬、しげ松、同はつしも、菊壽、同小春、紀次、逸見軍次、甚吉、土肥の妻吉野、喜代松、大島妻おきさ、春次、仁田妻尾花、紫若、船頭六藏、鶴藏、新田義峰、清十郎、兵庫妻みなと、常世、由良兵庫之助、矢口の船頭頓兵衞、高麗藏、けいせいうてな、杜若、鳥さしきぢ六、壽三郎、新田義治、傳藏、第貳番目「國性爺」樓門の段、「紅流し」二幕其まゝ相勤同十九日より「二世契間喜久月」二幕花屋惣八、吉三郎、升屋武右衞門、猪三郎、松村屋女房おふみ、松之助、判八眼八、森五郎、仲居おさん、廣五郎、たいこ醫者寒竹、伊ま六、龜や船頭安吉、澤平、半兵衞一子よし松、仲太郎、浪花屋小いな、半兵衞女房おちよ、紫若、でつち三太郎、甚吉、松村屋娘分お仲、喜代松、堤小傳次、鶴藏、半兵衞姉おつね、常世、稻野や半兵衞、高麗藏、小梅村のおよし、杜若、大切上るり白露やむふんべつなる置屋「心中花菱扇」小いな、紫若、半兵衞、こま藏、常磐津文字太夫連中相勤

○壬九月十一日より河原崎座「義經千本櫻」川越太

郎、渡海屋銀平實は知盛、いがみの權太、四段目のよし經、彥三郎、入江丹藏、松助、さがみ五郎、進見の藤太、利劍坊、廣右衛門、若葉の内侍、壽美之丞、亀井の六郎、升五郎、猪の熊大の進、宗三郎、土佐坊荒法橋、箱右衛門、片岡八郎、岩五郎、番場の忠太、茂々十郎、鬼佐渡坊、團八、船頭追風の早藏、梅藏、同荒波の立藏、熊五郎、庄屋杢郎兵衛、扇藏、權太一子善太、百松、駿河の次郎、佐十郎、小舍人三芳丸、茂々太郎、同三筋丸、猿藏、大和國源九郎狐、梶原平三、主馬小金吾、典侍の局、佐藤忠信、九藏、卿の君、鶴藏、六代御前、當吉、熊井太郎、白十郎、中納言朝方、虎五郎、彌左衛門女房おしづ、たい助、官女梅の局、梅三郎、絃野分、鶴三郎、同桔梗、壽美世、同尾花、さかゑ、同小きゝ、三すじ、官女紅葉の局、にしき、藥醫坊、音右衛門、白拍子千歲、榮二郎、川つら法眼、市藏、同妻あすか、みんし、わつぱの菊王、新之助、武藏坊辨けい、すしや彌左衛門、芝十郎、しづか御前、權太女房小せん、すしや娘おさと、榮三郎、源の義經、すしや彌助實は惟盛、横川の覺範實は敎つね、團十郎、安德帝、長十郎、第貳番目大切淨瑠理「此傾松狩衣」奴此兵衛、彥三郎、漁師松兵衛、九藏、主水、白十郎、松風、榮三郎、中納言行平、團十郎、清元延壽太夫、同松壽太夫、鳴尾太夫、三弦清元八五郎、同梅次郎連中相勤○十月朔日より「其噂劔本說」（尾上菊五郎罷出一ばん目二ばん目共相勤）いがみの權太、福岡貢、菊五郎料理人喜助、彥三郎、今田萬次郎、松助、正直正太夫、仲居まんの、廣右衛門、油屋女房おきの、壽美之丞、胴脈の金兵衛、升五郎、杉山大藏、宗三郎、巫女小夜路、箱右衛門、安達文四郎、岩五郎、百姓多作、茂々十郎、あい玉や次郎介、團八、仲居はぎの、菊太郎、入方佐介萬九郎、黑上主膳、佐十郎、藤浪左膳、九藏、孫太夫娘榊、歌菊、大々講中作十、杉藏、隈木角左衛門、虎五郎、仲居花の、梅三郎、同つたの、三すじ、同せんの、にしき、油屋おしか、音右衛門、同おきし、榮次郎、藍玉北六實は德島岩次、市藏、伯母おみね、珉子、御師猿田磯太夫、德島岩次實はあい玉や北六、芝十郎、あぶらやおこん、榮三郎、奴林平、團十郎、主水之助、長十郎いつれも大出來大當り○十一月朔日より顔見勢市村座「若殿達丸牧大寄」盜賊張本風間八郎實は細川政元、本間源四郎、船頭灘藏下り坂東三津五郎、細川修理之助政元實は風間八郎久照、杉本佐兵衛入道實は淨

辨律師、廻國の修行者榮山實は新田小太郎、吉三郎、新田義澄の妾賤はた、文賣お筆實は正行娘早咲、狐師門兵衞、おもち栗生待宵、富三郎、雛式梅丸、福助、横山息女てる日の前、船頭せゝの磯藏、在原屋成平、菊四郎、鬼門逸藤太、りやうじ門兵衞、萬長まかなひばゝあ、臺藏、小栗部領兼重、大戶觀音堂守道念、慶十郎、岩淵軍次、代官込山左源太、團八、横山次郎秀宗、黑塚官兵衞、大次郎、一色丹下、山伏剛丈院、三藏、山りやうし猪の藏、梓みこお市、七五三藏、星川軍次、柿猿、山名彈正有宗、勘左衞門、手跡師南からす勘左衞門、早川市之進、雷助、大卷丈九郎、紀次、秀國小姓右門、相藏、當今小舍人鶴丸、源平、横山大膳、秀勝、漁師鬼瓦胴八、冬春公人寐次兵衞實は左司馬、工左衞門、萬長の下女小萩實は横山息女照手姬、當今辨の內侍實は千枝狐、浪七女房おとく、菊次郎、小舍人龜丸、寅之助、照手妼春雨、勝三郎、同夏風、玉次、同秋の、增吉、片岡嘉次郎、でつち豆太、小栗の奴江戶平、甚吉、同きく平、井貝佐平次、妼片目、鈍之助、在所娘おしな、萬長下女おはな、梅之助、後藤妹紅梅、萬長下女お升、福之助、同お冬、山名姉呉竹、かてう、兼氏下部秀平、夜そば賣三五郎、三田八、島村七郎兼氏、下部三千助、遊行上人、勘藏、照天かし付香取、常吉女房てりは、室の津小賓屋娘おふじ、藤藏、渡し守みの作實は池の主計之助、鬼瓦胴八弟行吉、具足師五郎太、鎌助、足利御臺花園御前、小原女、馬士おみね、萬長後家おまき、常世、新田義興妾丹後の侍從、横山太郎妻淺香、萬長の娘ひたち、しうか、横山太郎秀國、西國順禮紀の作後に仕丁又五郎實は河內の塚本狐、漁師浪七、訥升、小栗判官兼氏、楠帶刀正つら、繪師小栗宗丹實は兼氏、第一番目四立目淨るり是は〳〵とばかり花の「吉野山雪の振事」定辨律師、吉三郎、おかぢ、富三郎、久壽丸、福助、辨の內侍千枝狐菊次郎、塚本狐、訥升、正行、羽左衞門、常盤津文字太夫、三弦岸澤式佐連中相勤大切三代目坂東三津五郎、十三回忌に相當候に付追善狂言として「姬小松子日の遊」俊寛僧都、三津五郎、主馬判官盛久、吉三郎、重盛御臺蘭生、富三郎、なめらの兵、菊四郎、だくぼくの江吉、臺藏、俊寛一子小辨、勝之助、越中の次郎兵衞盛次、工左衞門、岩根の輿太藏、紀次、小督の局、佳好、深山の木藏、勘藏、龜王女房お安、しうか、龜王丸、訥升、有王丸、羽左衞門、第一番目三立目返し新田

よし澄、吉三郎、丹後侍從、しうか、順藏、雨升、正行、羽左衛門、四人だんまり四立目横山館太郎、同妻淺香小栗何れも大出來吉野拾遺迄上るり大當り大切り後寛評よしお妾は若井杜若其まゝにて大出來大當り狂言作者櫻田治助、村柑子、河竹萑郎、本屋半七、磐井志玉、田川正助、福森久二、篠田瑳助

○十一月五日より河原崎座顔見勢「稚軍法振袖武藏」主馬判官盛久、宇治の通圓實は長田太郎景宗、徳大寺實貞卿、鰐昇一り塚の松實は越中のせんし、小松の重盛、彦三郎、惡源太義平、寺男おんぼう、甚八、座頭松市實は朝長、熊坂太郎長範、三十郎、義朝娘待宵姫、祇園のおかぢ、淨るり姫、賤の女おえづ、菊三郎、河野四郎信光、加賀見政次郎、一條の次郎、淸十郎、難波の六郎、書寫山兒丸若、厄拂五兵衛、廣右衛門、兒升若、修驗者蒲海實は民部、茶筌賣六助、升五郎、若徒金原橘次、猪の又小平六、家主傳兵衛、龜右衛門、書寫山兒岩若、岩五郎、同さぎ若、鷲助、同熊若、熊五郎、同宿かん念、龜八、同とん念、芝喜藏、同ちん念、成藏、同らん念、三介、八牧判官、太神樂つる丸の三五郎、判官傘高、書寫山の性惠和尚、佐十郎、藪醫富田通庵、兒歌若、歌助、景淸一子菖門丸、猿藏、源の牛若丸、福助、源今若丸、鶴の助、金剛太郎、兒鶴若、鶴十郎、兒花若、高橋娘吳あや、水茶やおうた、歌菊、通圓下男丁介、十藏、竹田の七郎、行者頓鐵實は九條次郎、虎五郎、女童裏きく、榮壽、江見の次郎妹立田、喜久三、茶摘女おいろ、さかゑ、同おはな、歌女太郎、岩國三郎妹渚、梅三郎、兒駒若、駒助、見越入道箱虎、箱右衛門、兒吾若、いせの義連が娘ことじ、榮次郎、待宵侍女伏屋、兒花若、五條のけいこお糸、かめ三、平の宗盛、代官綱笠、丹下鐘供養の世話人權兵衛、市藏、長田景宗妻内海鬼若、乳母幾世、五條の茶やおきの、嵐小六改名瀬の尾太郎、堅田のがん八、古骨買惡七實は傘張法橋黒塞入道、芝十郎、長田景宗娘淸姫、うば幾世娘おつる、五條目高屋抱眞那古太夫、宮女小督の局實は杉の木魂、御曹子牛若丸、榮三郎、書寫山兒鬼若丸、村上太郎時連、物川のやさ藏人、後乘り水棹の竹實は北條四郎時政、白拍子花子、狂言師外六實は藏人、淸姫の怨靈武藏坊辨慶、平淸盛、歌右衛門」、第貳ばん目大切淨るりお好みに任せ京鹿子の上代もよふな及すながら染替て「江戸紫男道成寺」實貞、彦三郎、白雲入道、三十郎、待宵姫、菊三郎、黒雲入道、芝十郎白拍子花子狂言師

外六寶は藏人清姬の怨靈歌右衛門、常磐津文字太夫、小文字太夫、吾妻太夫、三弦岸澤式佐、連中富本豐前太夫、籠太夫、七五三太夫三弦名見崎友治連中長唄芳村伊十郎、岡安甚六、同喜代次、芳村吾助、岡安喜代七三弦杵屋勝五郎、同勝三郎、同三郎助、同六助、同和三郎、ふへ住田新七、同又八、小つゝみ望月太吉、大つゝみ田中傳四郎、たいこ六郷新十郎、望月太右衛門、大つゝみ太田市兵衛、小つゝみ望月太左衛門、ふり付藤間大助、當狂言大出來大々當り狂言作者河竹新七斯波晋輔改名す姥尉助、九字薪作、勝見てう三、篠田金助、豐晴助けす櫻田治助○三立目瀬の尾、芝十郎、朝長、三十郎、おゑづ、菊三郎、三人立廻り替りて重盛、彥三郎、杉の精、榮三郎、村上、歌右衛門三人だんまり四立目書寫山五立目船の場大詰五條橋牛若、榮三郎、辨慶、歌右衛門上るり竹本雀飼太夫、同歌太夫、同戸和太夫、三弦竹澤大作、鶴澤勘六、大切男道成寺迄大出來大當り當顏見勢日數打切舞納めでたし〳〵中村座顏見世狂言相休因に云市川海老藏事去寅とし六月廿二日蒙御咎直様下總國へ立越罷在候處當卯年五月中旬伊勢古市常芝居名代久馬屋武兵衛座本中村辰之助前狂言「神靈矢口渡」四まく「夏祭浪花鑑」上中下由良兵庫、渡し守頓兵衛、團七九郎兵衛、幡屋重藏市川海老藏名前を憚り如斯にて旅芝居相勤す南瀨の六郎、三河や義平次、市川市勇、新田義岑、一寸德兵衛、坂東重三郎、雲助、願西、釣舟の三ふ、坂東三津五郎、篠塚八郎、玉しま磯之丞、市川鯉三郎、兵庫妻みなと、德兵衛女房お辰、坂東のしほ、おふね、團七女房お梶、中村富二郎、けいせいうてな、筑波御前、三ふ女房おつき、谷村谷三郎、其餘は略す同九月より同所名代嵐梅之丞座にて前狂言「敵討殿下茶屋聚」全部七冊切「宿無團七時雨傘」上中下東馬三郎右衛門、千嶋左衛門の正人歌や鄉右衛門、團七の茂兵衛、幡谷重藏、幸右衛門女房お時、富田やお吉、女房お梶、山下金作、安達彌齋、早瀨伊おり、手代久七、市川鰕壽郎、安達音右衛門、早せ玄蕃の正、岩井風呂の次助、其餘中山文五郎、嵐冠十郎、嵐三右衛門、中山文七、小川吉太郎大座にて大當りのよし同十一月より大坂道頓堀角の芝居へ此一座出勤なり狂言前狂言「菅原傳授手習鑑」大序より四段目迄◎檜の浦兜軍記の内の大切「御惠月景清」乞食茶の湯の段大佛供養の段傳授の菅相丞、覺壽、松王丸、非人七兵衛、惡七兵衛景清、市川海老藏幡谷重藏大坂に至り名前の儀御伺申上候處當地に

ては矢張りゑび藏とて唱旨被仰渡候よし八重と宿禰太郎市川米十郎相勤（辰年より小團次と改）是より海老藏大坂在住にて京攝其外所々に出勤す
中村富十郎事京大坂追放にて堺に出勤のよし

尾上梅幸衣裝一件

菊五郎道具衣裝

一白綸菊模樣摺込着付
　白綸重ね付　白さや形くゝり袴
　淺黃ぬめ摺込模樣丸くけ帶
　壽綸萠黃横霞梅鉢模樣錦糸縫ふせ裝束
　緋之房付組糸下り

右裝束の內壽綸萠黃裝束は紋柄有之目立候間引替可申旨一昨十二日申談候に付早速地合見繕萠黃綸綾緞子へ眞鍮泥を以梅鉢模樣拵摺込候積り取計ひ一昨十四日中補理可申筈之處天氣合にて摺込等出來兼候內御廻り方御見留に相成候義にて取急候得共彼是手間取天氣合旁延引仕私共より申談候を不相用候儀には曾て無御座候右衣裝の內白沙綾綸くゝり袴は織出し模樣にて全綸に相違無之候得共綾織にて紛敷候間引替候積りに御座候

一紫山舞綸裝束
　白ぬめ着付黑梅鉢紋ちらしへり黃糸縫ふせ

右裝束見改候處紫地擘嶋共糸にて織出し有之候得共全綸に相違無御座候間其儘差置申候

一樫臺漆塗木筒取付眞鍮かな物付候鐵炮　壹梃

右は菊五郎親松綠存生中右品買求錆塗之木筒取付所持仕忠臣藏勘平役相勤候節は五段目鐵炮場と唱へ候場所へ用來り當り狂言にて入を取候趣申傳に當菊五郎儀親松綠より遺物同樣右品讓り請是迄忠臣藏狂言之節度々用來り都て景氣取候家業にて持傳へ候鐵炮にて當り狂言抔と心取罷在候儀に御座候

右之通にて繪綸裝束は漸昨十五日出來仕候に付引替等用鐵炮之儀は去る十四日御廻り方御見留に相成候品故相用不申儀にて申付を等閑に相心得候儀には曾て無御座此上精々心付右躰之儀無之樣厚取扱方可仕候間此度御吟味御呼出し等相成候得は興行も出來不申右權之助座芝居に携候掛り合之者貳百人餘も乍恐難澁仕候儀に付格別之御慈悲を以御聞濟被下置候樣御宥免の御沙汰於私共一同奉願上

候以上
卯五月十六日
猿若町三丁目
名主 七左衛門
當分取扱をり
新両替町
同 佐兵衛
加賀町
同 平四郎
猿若町三丁目五人組持店
歌舞伎役者
菊五郎
卯六十才
其方儀衣裝等之儀に付先達嚴舗申渡有之候處相背紋紗にて裝束に似寄候品仕立名主共より差留候所代り品間に合兼候迚其儘相用殊に親代より持傳ね候共狂言之儀は眞似び迄に可致處木筒には候得共臺引金物等全鐵炮之形を其儘寫取候品狂言に相用候始末旁不埒に付過料拾貫文申付之
但右品は取上
右之通被仰渡奉畏候日數三日之内に急度可相納被仰渡是亦奉畏候以上
天保十四卯年五月十八日
猿若町三丁目五人組持店
歌舞伎役者
菊五郎
五人組 伊三郎
同 吉左衛門

以書付申上候
一猿若町三丁目權之助抱役者菊五郎衣裝之内紫綾絹裝束並白紗綾織出し絹くゝり袴共御下け渡しに相成候に奉受取候尤右品々は織出模様にて綾織紛敷品に付決て爲相用申間敷旨被仰渡奉畏候爲御請此段申上候以上
卯五月十八日 右町
名主 七左衛門
當分取扱をり新両替町
同 佐兵衛
かゞ町 平四郎
天保十四卯年六月十一日
深川猿江町

藤八店勘彌事

八十助

申渡

其方儀旅行中養子勘彌儀猿若町三丁目家持狂言座權之助對談之上去る酉年より來る未年迄之年限にて座元相讓り置候後勘彌は病死いたし候へ共其方留守中に付訴不致置候故自然同人名題消失致候旨其外品々訴狀に認及訴訟候に付同町地主並町役人ゟ相對之上住居致候はゝ勝手次第今般願之筋は難及沙汰再勤之儀は先例之通り帳付可相願旨申渡置候處右委細之儀は不申立再勤願之通申渡す申渡有之趣を以帳付致し右出訴中木挽町芝居猿若町ゟ引移御手當金被下候旨承り權之助與存中右躰難有蒙御沙汰候上は程立候共年限相對は有之候共容易座元取戾候も相成間敷とヽ途に存迷ひ返濟之金子調達致度候得共差當り存付も無之先は金子心寄も置候樣可致と猿若町ゝ家作致候積材木取揃芝居大梁等も心當有之抔申觸或は座元申付有之芝居地所之儀も追て沙汰有之旨被申渡候抔と無跡形儀を手紙に認金子借用可致先ゟ差遣し未た金子借入候儀は無之全家名斷絕も可致と歎ケ敷存心得違致とは乍申右始末不屆に付江戶拂申付之

深川猿江町
家主　藤八

其方儀店子八十助儀養子勘彌病死帳付の訴も不致置八十助儀弟子共手當にも差支候に付猿若町え再勤致度旨及訴訟候に付同町地主並町役人ゟ相對之上住居は勝手次第今般願之趣は難及沙汰再勤之儀は先例之通帳付可相願旨申渡置處八十助儀再勤願之通申渡有之趣を以帳付致度旨申聞候はゝ得と承り糺可申處無其儀右申渡之趣意振不都合之儀も不心付願書に加印致附添罷出候段不埒に付過料五匁申付之

同町
五人組　伊兵衛
名主　茂左衛門

其方共儀同町藤八店八十助義養子勘彌病死帳付之禮も不致置八十助儀弟子共手當に差支候に付猿若町へ住居再勤致度旨及訴訟に候に付同町地主並町役人相對之上住居は勝手次第今般願之趣は難及沙

汰再勤之儀は先例之通帳付可相願旨申渡置處八十助儀再勤願之通申渡有之趣を以帳付致度旨申聞候はヽ得と相糺可申處無其儀右申渡之趣意振不都合之儀不心付願書に加印いたし附添罷出候段茂左衛門名主役之身分別ての儀右始末不埒に付伊兵衛は過料三〆匁茂左衛門は同五〆文申付之

天保十四卯年六月十一日

旅芝居渡世之御觸之事

一旅役者と唱候者共両國橋於廣小路狂言致候儀市中取締方御趣意に不應次第に付此度爲引拂渡世替不致者は猿若町ゟ引移り歌舞妓役者共弟子可相成旨申付候就ては右申渡に相洩市中に散在之旅役者共も可有之同樣之儀に付渡世替不致候はヽ店爲引拂候樣可致假令身寄之者に候共内分にて於爲致同居急度可及沙汰間其旨町中不洩樣可申通

右之通被仰渡奉畏候爲後日仍如件

天保十三寅九月六日

堀江六軒町理兵衛店　宇八

同町治兵衛店　宇太郎

芝七軒町與兵衛店　文藏

同町利八店　長兵衛

同人地借　伊兵衛

芝濱松町壹丁目太兵衛店　正藏

同町五人組持店　清兵衛

湯嶋天神門前榮吉店　半藏

同店　仲五郎

同町家主　文藏

同町儀兵衛店　傳次郎

同町喜兵衛店

伊　助

同店よね後見
長三郎

同店
長　吉

同店はる後見
金　八

芝濱松町壹丁目岩次郎店
長　八

同町八十八店龍太郎幼年に付後見
喜兵衛

旅役者と唱へ於兩國橋廣小路致狂言候者今般爲引拂渡世替不致者は猿若町へ引移歌舞妓役者共弟子に可相成其餘市中に散有之旅役者共も同様之儀に付渡世替不致候はゞ店爲引拂假令身寄之者たり共内分にて同居爲致候におゐては急度可及沙汰旨去る寅九月中申渡且歌舞妓役者振付師は一同猿若町へ一纏に可致住居儀に有之處其方共之内守八外九人儀微若之男子を抱弟子召仕抔と書出し右之者共料理茶屋伊之松外六人方ゟ呼寄自宅にても客有之節酒之相手に差出し就中出家に爲買揚猥り成儀も有之由相聞右は前書申渡しも振れ旁難捨置次第に付今般嚴舗可及吟味處御改革後男子共髮之形衣服等をも替質素之風俗に相改候趣にも相聞如何之儀なから年久敷右渡世致來候儀にも有之間格別之宥恕を以不及吟味之沙汰に尤以來右渡世致候儀決て不相成候間早々渡世替いたし其段可訴出候若渡世差支候男子共は猿若町へ引移歌舞妓役者弟子相成可申置人共も同所にて振付渡世致候儀は格別都て前書之通被仰渡可相心得候

右之通被仰渡奉畏候仍如件

天保十四卯年五月七日

右
守　八
守太郎

文藏煩に付代
さ　わ

長兵衛煩に付代
惣　吉

傳兵衛煩に付代

かつ
庄藏
清兵衛
半藏
仲五郎
傳次郎類に付代
久次郎
伊助
よね後見
長三郎
はる後見
金八
長八
瀧太郎後見
喜兵衛

右宇八外十六人え被仰渡前書之趣私共へ被仰渡奉
畏候仍而如件
右之通
安部遠江守樣御貴所において被仰渡之
猿若町二丁分

當分取締掛り
名主　庄右衛門
同三丁目名主七右衛門
外御用に付代
幸助

花江都歌舞妓年代記續編巻の十八

●弘化元甲辰歳

○正月七日より市村座「當訥子萬歳曾我」工藤左衛門祐經、比企の判官、髪結三つくしの秀、三津五郎、宇佐美十内、伊豆の次郎祐兼、男達金神長五郎、吉三郎、鬼王妻月小夜、工藤奥方梛の葉、常世、鎌澤彈正左衛門、丸屋手代權九郎、菊四郎、曾我團三郎、與兵衛下部市助、勘藏、平岡左衛門、梅澤小五郎兵衛、臺藏、曾我の太郎、丸屋仁右衛門、慶十郎、奴下知平、同心たん坊、團八、梶原平三、なにはや彦助、大次郎、箱根の畑右衛門、箱廻し茂助、三藏、梶原源太、こしま喜平太、七五三藏、梶原平次、廣島や手代又八、番場の忠太、柿猿、奴泥平、大磯や手代嘉助、澤平、犬坊丸、太升、大磯虎御前、三浦の片貝、仁右衛門娘おはや、あめ賣お高、菊次郎、鬼王新左衛門、和田の義盛、駕の甚兵衛、百足屋太郎兵衛、勘左衛門、箱根の行實、雷助、粂本娘分おむめ、大姫かし付かつま、梅之助、同ます花、増吉、同おてう、かてう、曾我せんじ坊、甚吉、若徒きく内、船頭鐵之助、大姫君、安部川げいしや花の、森三郎、同およく、みさほ、福之助、月小夜、與兵衛娘おてる、佳好、本田次郎近常、三田八、曾我二の宮、喜瀨川げいしやみや吉、藤藏、京の次郎祐よし、駒形の長吉、簑助、曾我五郎時宗、賴員侍女まかき、鴛鴦の精、喜瀨川げいしや吾妻、しうか、曾我十郎祐成、久須美四郎、吉備の宮、大藤内、與兵衛、仕出し商人紀の作、訥升、小林朝日奈、おし鳥の精、山崎町與五郎、閉坊法印、羽左衛門、第一番目四立目、淨瑠理上の卷（觀世水伊寫す千鳥の情）下の卷（渦卷波姿大礒）（艶鴛鴦の契）「鳥集春錦繪」賴員、三津五郎（かつみおし鳥の精）しうか（のとら菊次郎おし鳥の精福助）祐成、訥升（閉坊おし鳥の精）羽左衛門、常磐津文字太夫、兼太夫（三弦）岸澤式佐、文左衛門連中相勤第二ばん目大切淨るり（あつま與五郎）「浮名蝶の道行」上るり淸元延壽太夫、鳴尾太夫（三弦）淸元八五郎、同千藏、相勤○當狂言第一番目貳番目大切迄大評判大出來大當り○正月七日より河原崎座「曾我評判福良雀」壽師曾我蛇足實久須美四郎左衛門、京の次郎、鳶の者八重櫛才三、鬼王新左衛門、彦三郎、赤澤十内、大磯や下男三助、八幡の三郎行氏、三十郎、鬼王妹十六夜、大磯のおはりやお崎、大姫君、富三郎、三浦の片貝、化粧坂の少將、菊三

郎、二の宮太郎、そがの團三郎、清十郎、馬士箱根畑右衛門、日雇ば、あおせは、廣右衛門、野伏閑坊、本田の次郎、升五郎、和田左衛門義盛、四つぃの手代かん六、翫右衛門、大藤内成景岩五郎、伊豆の次郎、鷲助、竹の下孫八左衛門、扇藏、海野太郎、万九郎、新貝の荒次郎、新平御所の黑彌吾、長藏、安西彌七郎、杉藏、番場の忠太、い四松、古郷新左衛門、箱根の行實、佐十郎、金かし地ごく清左衛門、劔澤彈正左衛門、歌助、源の賴家公、鶴之助、犬坊丸、福助、源實朝公、多家藏、江間の小四郎、梅澤や小五郎兵衛、鶴五郎、八はたの三郎妹久須美、女占おうた、歌きく、梶原平三、虎五郎、けいこ娘おさん、喜久三、同おいそ、菊壽、狩野妐若草、さかへ、同初音、歌女太郎、同梅か香、梅三郎、梶原平次、箱右衛門、手越新造かめ菊、大姫かし付紅梅、榮次郎、同早はらび、大磯や下女おます、龜三、曾我太郎、極樂寺門番市藏、なきのは御前、そかの滿江、小六、小林の朝日奈、蛇足家來大津又平實は近江の小藤太成家、芝十郎、大磯のとら、土手の茶やお駒、鬼王女房月小夜、狩の之助妻雪の戶實は蛇足娘小女郎、榮三郎、工藤左衛門祐つね、曾我の十郎祐成、同五郎時宗、大磯や傳三、狩野之助宗茂、歌右衛門、御所の五郎丸、長十郎、第一番目六立目所作事上の卷「戀(こひ)すてふ天浮橋(あまのうきはし)」下の卷は「色(いろ)みへて惠方解(ひはうのふたゆき)」蛭子の尊、彥三郎、伊弉再尊、榮三郎、伊弉諸尊、歌右衛門下の卷三五郎、彥三郎、三介、三十郎、朝日奈、芝十郎、小まん、榮三郎、傳三、歌右衛門、常磐津文字太夫、同小文字太夫、三弦岸澤式作、同三藏、相勤第貳ばん目「薩摩歌(さつまうた)琴の(ことの)彈始(ひきぞめ)」笹の屋三五郎、いしや菱川玄章、三十郎、むかしや女房おさき、富三郎、千島千太郎、清十郎、尼子丁家ぬし德右衛門、廣右衛門、同女房おかい、翫右衛門、千島家來若山大藏、船頭ちよ吉、鷲助、千島家中小嵐典六、元五郎、同宇な本忠次、三九郎、東乘、富藏、千代藏、源五兵衛若徒八右衛門、佐十郎、賤か谷伴左衛門、歌助、角力取種か島種淸、鶴十郎、げいしや、歌吉、歌菊、稲村か洲崎魚突藤平、虎五郎、糸本娘分ゑい、榮壽、同おせい、さかへ、おかめ、歌女太郎、同おむめ、梅三郎、船頭浪吉、駒助、齋坊主銀倉、箱右衛門、きせ川のげいしや梅吉、榮次郎、同つる次、かめ三、出石宅右衛門、彌助女房お六、小六、男達さめの茂兵衛、芝十郎、げいしや小まん、千島息女よし姫、榮三郎、さや師

彌助、勝間源五兵衛、歌右衛門〇第壹番目大詰對面の場工藤曾我兄弟歌右衛門一人にて相勤貮ばん目五大力の增補中評にて〇正月廿八日より「小栗判官車街道」兼氏執權池の庄司、小栗下部つる平、彥三郎、橫山三郎時廉、須藤太郎實は橫山玄蕃、三十郎、けいせい常陸、富三郎、美登小太郎妹小萩、菊三郎、片岡加次郎輝高、淸十郎、橫山家來石塚新吾、廣右衛門、藤太高次、升五郎、駿河二丁町あけや金八、翫右衛門、鎌倉の昵近山名宗五郎、岩五郎、同星合吉助、さき助、茶道順才、梅藏、足利左馬之助、鎌倉の昵近篠山藤太、三九郎、同杉山杢之進、千代藏、やり手おつめ、扇藏、橫山下部丹平、万九郎、其外大勢雁中間ねち兵衛、國藏、非人抓米の三三助其外大勢後藤兵助介高、佐十郎、修驗者奇妙院、歌助、風間四郎正貞、鶴十郎、橫山姬初音、歌菊、神職榊賴母、十藏、橫山こし元紅葉、菊壽、同若葉、さかゑ、同はつ瀨、歌女太郎、同梅か枝、梅三郎、足柄山杣よき藏、駒助、飛脚とう八、箱右衛門、橫山姬若菜、榮次郎、同とめ木、かめ三、左馬之助付人上左京、市藏、名武の後室ふし浪、小六、門番霖次兵衛實は栗柄左近掾、橫山大膳、芝十郎、太郎妻淺香、橫山養女照手姬、榮三郎、橫山太郎、星川蓮八、小栗判官兼氏、歌右衛門、足利公達万千代丸、長十郎、第貳番目は薩摩歌其まゝ、興行〇三月十五日より中村座「姿花宿鏡山」局岩ふし、菊五郎、望月賴母、九藏、醫者天庵、猪三郎、奧女中唐崎松之助、同柏木、現十郎、同橫ふへ、鶴藏、同若菜、森五郎、竹川廣五郎、同浮舟、宗三郎、同空せみ、國五郎、橫田逸平、武五郎、茶道珍才、茂々十郎、隅田彌平、冠五郎、中間音八、若徒の軍八、兼十郎、同眼八、鄙鳥賣松作、入助、花商人出來作、相藏、嫁菜うり里松、仲太郎、同芳松、十次郎、女小姓金彌、やまと、奧小姓左門、熊吉、座頭松葉、菊之助、牛島彈正、松本幸四郎市川こま藏改名す召仕おはつ、杜若、北條時若、市川高麗藏市川新之助改名すかはらけ賣もゝ吉、茂々太郎、姿見五太夫、音右衛門、こし元若草、若松、同初瀨、壽美世、同小きく、しけ松、同千鳥、紫女太、奧女中宮戶、三すし、同淺茅、春次、同宮古、にしき、同眞乳、紫妻、同伏屋、辰之助、奴隅田平、鶴五郎、大姬君、粂三郎、奧女中關屋、壽美之丞、浮田求馬、松助、中老尾上、岩井半四郎紫若改名奴江戶平、團十郎、結城の七郎、壽美藏、源賴家公、傳藏、第貳ばん目「助六廓桃櫻」白酒うり新兵衛實

は曾我祐成、九藏、かんへら門兵衛、猪三郎、けいせい白玉、松の助、茶や廻り新助、現十郎、朝顔せん平、鶴藏、男達矢大臣候兵衛、森五郎、同次郎七、廣五郎、同半助、國五郎、同喜三郎、團五郎、同竹右衛門、武五郎、同風八、冠五郎、白玉禿たより、臺五郎、同よすか、棹太郎、仲の町茶や廻り增五郎、菊之助、髭の伊久實は伊賀平左衛門、幸四郎、曾我の滿江、杜若、外良うり虎や藤吉、高麗藏、揚卷禿もさの、茂々太郎、同いはの馬吉、やりておたつ、音右衛門、新造卷芝、若松、同卷草、しけ松、同卷里、にしき、同卷の江、春次、同卷篠、紫妻、同卷絹、辰之助、若者喜助、鶴五郎、傾せい卷の戸、壽美之丞、新造卷糸、粂三郎、福山かつき三吉、松助、傾城揚卷、半四郎、花川戸助六實は五郎時宗、團十郎、淨瑠理江戸半太夫、同文次郎同半藏同半六連中相勤第貳ばんめ序幕所作事廓の花も積重ねたる竹村の青樓「新よし原雀」岩井半四郎、中山現十郎、市川九藏相つとめ淨るり清元延壽太夫、同松壽太夫、三弦清元千藏相勤○倘淨るり竹本島太夫興行なし鶴澤市造相勤る

○當座者去卯十一月より太夫元不調法有之顔見世春狂言興行無之當三月五日、作落着に相成同十五日より初り八代目市川團十郎助六七代目岩井半四郎揚卷岩井粂三郎幼年に付改名す松本幸四郎髭の意久何れも初役にて大々當り助六狂言五月までとほし興行すうゐろう賣こま藏初役辨舌さはやかにて錢獨樂もはたし扨壹番めかゝみ山四立目長局岩ふしきく五郎部やの處富本豐前太夫同仲太夫三味せん名見崎安治淨るりを語らせ菊五郎木琴を打合せ是より娘大勢にて流行のはうたをうたふ其うたに

本てふし

「一ト夜明ればまた氣もかはる花のさかりに向じま初音ひと聲はづかしいほおゝほけきよふの約束は實り嬉しいじやないかいナァ

「一ト夜あくれば扨あら玉の初日の出や若水てお大名さま方御登城へヒホッわきよれ實ぶね門を禮しやのおめでたや」此葉唄日每にかはるよし是よりぺこ／＼よと大勢にて唱ふゆへ諸見物一統笑ひを催し絶倒せしなり五立め草り打六立め奥庭大仕掛大出來大々當り

○三月朔日より市村座「戀相撲花江戸紀」井筒外記左

衛門、赤松満祐の亡魂、彈正妹八汐、關取錦戸關之助、三津五郎、仁木彈正直則、頼兼下部伊達平、吉三郎、寶來や仲居おたい實は彌十郎妻、丹助女房およし、常世、井筒女之助、高尾新造もみじ、輻助、大江の鬼連、丹助、親嘉兵衛、菊四郎、ぼしかゐや才助、鹽澤丹三郎、勘藏、渡會銀平、地廻りの吉、臺藏、笹野才藏、慶十郎、黒澤官藏、宗徒妻小まき、關八、名和無理之助、大次郎、ばら門の喜兵衛、地廻りの鳴藏、三藏、同万六、寂寞坊、七五三藏、同もん平、庄や李兵衛、柿猿、高尾禿てり葉、勝次郎、井筒民部之助、鳶嘉藤次、三八、政岡一子千松、茂々太郎、鶴千代君、多升、けいせい高尾、豆腐屋娘かさね、菊次郎、名古屋小山三、源平、山名宗全、同奥方榮御前、醫者道益、浮世豆ふや戸平、工左衛門、さゝら三八、寅之助、山からす勘左衛門、伊皿子たい藏、勘左衛門、唐犬權兵衛、口口奴紀の平、紀次、娩百しき、勝次郎、同つゝじ、王次、同淺香、梅之助、同夕して、しらへ、奥女中松しま、輻之丞、仲居おはる、かてう、丁稚豆太、甚吉、庄屋幾右衛門、鈍之助、斯波の妻此花、寶來や娘分お梅、森三郎、沖の井、佳好、たいこつる八、三田八、けいせい薄雲、藤藏、山中鹿之助、みの助、局政岡、奥女中小はぎ、しうか、細川勝元、角力取絹川鶴之助、訥升、同鳴神住之助、外記左衛門、下部丹助、足利頼兼、羽左衛門、第貳番目大切所作事「古今ひなの姿繪」内裏雛三津五郎、しうか、官女調八、椎茂鈍之助大鼓　吉三郎、太こ菊次郎、笛みの介、小つゝみ、訥升、地謡羽左衛門替りて歯磨うり吉、吉三郎、女鴬かき秀吉しうか、おきく菊次郎、いの松源平、てつち長太三八、狂亂おやま紀之介、しうか訥升、人形うり鍋六通人羽左衛門
淨瑠璃　常磐津文字太夫〇清元延壽太夫兩連中長うた連中〇此所作事の場三方床にて惣かけ合にて相勤大出來大當り〇四月六日より「伊賀越道中双六」沼津のだん岡崎のだん山田幸兵衛、三津五郎、澤井股五郎、桔梗武助、吉三郎、管領濱町御前、幸兵衛妻おゆき、常世、番人藤助、菊四郎、道具や六兵衛、臺藏、工左衛門、一子巳之助、太升、こふくや荷持安兵衛、鈍之助、幸兵衛娘おそで、藤藏、平作娘およね、しうか、唐木政右衛門、呉服屋重兵衛、訥升、和田志津摩、譽田大内記、羽左衛門大出來評よし〇三月二日より河原崎座「金花山魁情入艘」男達白柄十三後浮世戸平、鳶嘉藤次、浮田の藩中田村三左衛門、細川勝元、彦三郎、土手の道哲後金五郎、仁木妹八汐、井筒外記左衛門、三十郎、けいせい柏

木、渡邊民部娘おるい、富三郎、三浦の新造、錦木、浮田家奥女中松しま、菊三郎、井筒女之助、汐澤丹三、清十郎、宗益妻おまち、大江の鬼連、廣右衛門、古道具や彌市、修驗寄妙院、升三郎、醫師大場宗益、年禮一角、鯱右衛門、管野小六、男達黒鬼鐵平、岩五郎、同白鬼銀平、山名民部小助、鷲助、角力取岩見山、銀吉、たいこ小三次、梅藏、男達音鬼金平、元五郎、政岡一子千松、常吉、宗益妹小槙、松戸宿役人佐九郎兵衛、佐十郎、山中鹿之助、小助女房、惡ばのお市、鶴十郎、三浦の新造かへで、婉岩手、歌きく、浮田家臣黒澤官藏、向ごしのわたし守とら、虎五郎、仲居おきし、喜久三、同おりう、菊壽、同おせん、同さかゑ、三浦の新造ぬるて、婉しのふ、歌女太郎、同あやせ、三うら新造呉羽、梅三郎、男達赤鬼胴平、阿武熊新六、駒助、雲介の八、三浦のやりておとら、箱右衛門、同新造いろは、婉みつ江、榮次郎、同にしきど、三浦の新造たつた、かめ三、笹の才藏、家主李兵衛、市藏、奥女中沖の井、三浦屋女房おくに、小六、角力年寄最上山奥右衛門、山名奥方榮御前、山名宗全、芝十郎、けいせい高尾、外記左衛門娘小はき、鶴之助、女房お谷、おちの人政岡、榮三郎、

浮田左金吾頼兼、關取伊達か峯、鶴之助、松か枝園之助、仁木彈正直則、歌右衛門、足利左門之介、長十郎、大切所作事御攝㨿の御好に任せ在し姿を其まゝ「都花鯱所盡」乙姫、浦島、座頭、傾城、奴僕、辻君、執着七變化中村歌右衛門、相勤浄るり常磐津文字太夫、同小文字太夫、岸澤式佐、富本豊前太夫、同八百太夫、名見崎德次、長うた芳村岡安杵屋はやし惣連中相勤○四月三日より「義經腰越狀」泉の三郎、彥三郎、龜井の六郎、三十郎、泉三郎妻高の谷、富三郎、伊達の次郎、廣右衛門、奴金平、升五郎、同四郎藏、鯱右衛門、同色八、鷲介、婉横ふへ、梅藏、雀おどり、奴つる平、万九郎、たか、杉藏、がん、辰藏、きじ、芝喜藏、もづ、鯱八、かも、イ四松、五斗娘德女、染之助、奴筋藏、鶴十郎、同銅八、歌助、同黒平、駒助、こしもと初音、菊壽、同常夏、さかゑ、同若菜、歌女太郎、同綸合、梅三郎、同浮舟、榮次郎、奴銀助、佐十郎、同鐵平、市藏、源よし經、清十郎、錦戸太郎、芝十郎、五斗女房せき女、五斗兵衛盛次、歌右衛門、蒲の冠者のり頼、長十郎、何れも評よし○五月五日より中村座「菅原傳授手習鑑」菅相丞、櫻丸女房八重、春藤玄番、藤原時平、菊五郎、武部源藏、後室覺壽、九藏、土師

兵衛、白太夫、猪三郎、たつたの前、松之助、左中辨希世、現十郎、涎くりのゐ松、鶴藏、三婦の清貫、宗三郎、唐僧天蘭敬、森五郎、奴宅内、廣五郎、荒島主稅、國五郎、鐵棒引牛六、冠五郎、百姓麥作、音八、同及太、粂十郎、雜掌右源次、八代藏、星坂源吾、菊太郎、仕丁たこ又、相藏、同友又、らい八、同ねこ又、い藏、同鳥又、鴻藏、菅秀才、熊吉、齋世親王、菊之助、松王丸、宿禰太郎、幸四郎（父幸四郎七回忌追善として松王）源藏女房戸浪、杜若、松王一子小太郎、茂々太郎、鷲塚平馬、音右衛門、媼さつき、繁松、同若草、壽美世、同道芝、紫女太、同野分、染之助、同梅か枝、三すし、同勝野、にしき、梅の局、春次、御所女中桐壺、紫妻、舍人杉王丸、安樂寺の住僧、鶴五郎、梅王女房はる、花園御前、壽美之丞、かりや姫、粂三郎、くりから太郎、松助、松王女房千代、半四郎、判官代てる國、梅王丸、團十郎 右狂言大出來貳番目は助六其ことゝ興行大々當り○五月朔日より 市村座「假名（かなで）手本忠臣藏（ほんちうしんぐら）」幕なし十六段續高の師直、加古川本藏、不破數右衛門、中間元助、早の和助、九太夫女房おれい、一色左兵衛督、三津五郎、斧九太夫倅定九郎、竹森喜太八、馬士嘉四郎、植木や杢右衛門、石堂右馬之允、大はし文吾、天川や義平、吉三郎、大星妻おいし、本藏妹みなせ、小浪うはおたい、おかるの母おかや、一力仲居おつた、源四郎、女房おくに、義平女房おその、常世、大星大三郎、駒助、鷺坂判內、せげん源六、菊四郎、千崎彌五郎、小道具や利助、小次郎、百姓與一兵衛、近松半六、臺藏、原郷右衛門、一力亭主万助、慶十郎、小はやし平內、下女りん、國八、梶川與三兵衛、めつぼう彌八、大次郎、植木や丁稚三吉、鈫次郎、浦松喜平、勘左衛門、高村十助、雷助、小姓左內、勝次郎、山名次郎左衛門、小寺十內、三八、奥小姓左門、太升、鹽谷爲若丸、源平、かほよ御前、作兵衛妹おとく、平右衛門女房おきた、勾當內侍、石堂奧方連の方、本藏娘小浪、おらんの方、菊次郎、斧九太夫、堀部彌次兵衛、太田了竹、茶道金才、下男直助、溫飩屋作兵衛、新藤源四郎、工左衛門、義平一子よし松、寅之助、媼あやめ、しらへ（其外大勢）一力仲居おまさ、政次郎、同おふく、福之丞、同おてう、住調、二階堂但馬、奥山、孫七、甚吉、狸の角兵衛、こし元おさは、鈫之助、了竹妹おかな、仲居おきさ、森三郎、同おかく、太四郎妹おしん、かこう、斯波釆女之助、汐田又之丞、三田八、杢右衛門妹お市、仲居おふし、

藤藏・足利直義公、矢間十太郎、簑助、こし元おかる、大星力彌、文吾妹おすつ、高の局、はしる、喜三郎女房おむて、千太郎、女房おりへ、壹岐守息女七里姫、しうか、若狹之助、佐藤與茂七、若黨佐五兵衛、一文字や才兵衛、本藏女房となせ、小間ものや與七、大星由良之介、訥升、鹽谷判官高貞、早野勘平、丁稚伊吾、大舘左馬之助、上かんや喜三郎、寺岡平右衛門、廣島壹岐守、羽左衛門、貳番め中幕淺からす思ひ染井の植木やに「造物菊睦言」おらん、菊次郎、與茂七、訥升、淨るり清元延壽太夫三弦清元八五郎連中相勤當狂言忠臣藏大出來大當り○五月三日より河原崎座「繪本自來也説話」速水雅四郎、勇源吾、椎津嫡子左門之介、彥三郎、万里野破魔之助、椎津市の正國久、三十郎、源吾妻おそゑ、けいせい左枝、富三郎、新潟角之屋女房おてん、菊三郎、高宮矢柄、清十郎、淺妻、歌之助、岩瀨喜太八、廣右衛門、椎津の良等與坂七郎、升五郎、杣斧藏、糀右衛門、せけん德藏、岩五郎、典せん下部宅助、鷲助、椎津の良等長岡次郎、元五郎、軍八門弟石舟傳吉、万九郎、同銀九郎、新平、同角藏、杉藏、同大八、辰藏、同五太夫、イ四松、百姓善右衛門、扇藏、飛脚早介、佐十郎、白山一學歌助、松永一子久丸、多家藏、新潟角のや倅つる松、鶴之助、織とのや新三郎、福助、椎津の郎等、呼子の三平、鶴十郎、角のや新造誰袖、歌きく、茶道頓才、九字藏、淨國寺住僧清極、十藏、庄や八右兵衛門、虎五郎、角のや仲居お久、喜久三、同おしう、菊壽、こし元常夏、さかゑ、同竹川、歌女太郎、同柏木、梅三郎、椎津の郎等坂田の八郎、駒助、同箱館伴作、箱右衛門、角のや新造袖しの、榮次郎、醫者喜樂齋、市藏、名越のうばおよし、小六、鹿野苑軍八後に五十嵐典膳、刑部太郎高芳、芝十郎、けいせい代々衣、長兵衛娘美鳥、瞽女お政實は武國妻政子、榮三郎、山賊自來也、海老名民部太郎武國、名越長兵衛、歌右衛門、公達義風丸、長十郎、第貳番目「江戸兩國夜店始」仲の町長門屋九兵衛、彥三郎、狂言堂如皐、三十郎、踊師匠藤間おむら、富三郎、同ふし間千太郎、清十郎、中戸屋の若い者嘉兵衛、廣右衛門、おとりの師匠藤間おいろ、佐十郎、髮ゆひ親方忠右衛門、三九郎、おとり子おかつ、目勝、狂言堂下男仁助、三助、見せ物師口上辰、糀八、同因果捨、芝喜藏、森山郡兵衛、歌助、長門屋若い者忠七、鶴十郎、踊子おゑい、茶や女おきく、菊壽、福しまや下女お大、歌女太郎、長門や

下女おむめ、梅三郎、鴻ののしの若者善吉、駒助、力持大江山鬼藏、藤右衛門、ふく島や半兵衛、升五郎、中戸屋女房おいま、小六、日雁の頭縣の喜三、芝十郎、げいしやおきの、榮三郎、髪結博多の新七、歌右衛門當狂言大出來大當り○七月七日より中村座「昔尾岩怪談」高の師直、佐藤與茂七、伊右衛門妻おいわ、同幽こん小佛小平、波久官太夫、大星ゆらの介、菊五郎、伊藤喜兵衛、汐田又之丞、天川や義平、九藏、藥師寺玄蕃、四つ谷左門、佛孫兵衛、猪三郎、けいせい加古川後家お弓、松之助、按摩宅悦、山名次郎左衛門、現十郎、鷺坂伴內、中間伴助、鶴藏、關口官藏、宗三郎、伊右衛門母おくま、小林平內、國五郎、藥賣藤八、武五郎、宅悦女房おとよ、入藏、藥賣直助權兵衛、不破數右衛門、高野門番ねほ介、幸四郎、小兵衛女房お花、高の奥方眞弓、杜若、秋山長兵衛、音右衛門、嫋野分、しけ松、同秋しの、壽美代、同ふよう、染之助、岡野妹常夏、三すし、伊藤孫娘おむめ、梅賀、夢の谷娘若葉、にしき、浦松娘磯浪、紫妻、伊藤うばおまき、辰之助、佐原伊助、進藤源四郎、鶴五郎、石堂奥方渚の前、壽美之丞、おり部娘かるも、粂三郎、奥田庄三郎、赤垣傳藏、大星力彌、松助、左門娘お袖、後室顔世御前、半四郎、民谷伊右衛門、大わし文吾、若狹之助、團十郎、兒島彌太郎、壽三郎、石堂縫殿之介、傳藏、第二番目序幕上るり「菊嬉閨睦言」幽魂　菊五郎、伊右衛門、團十郎、清元延壽太夫三弦清元千藏相勤大々當り

○當座におゐて廿年以前初て興行し此度五度目に而お岩の一世一代相勤怪談新工夫增補に致大切に忠臣藏夜討義士本望の段御覽に入候樣との口上何れもなから大出來大當り○七月十一日より市村座「立稱見臺開」越後謙信、勘助母白妙、三津五郎、直江山城守、鬼兒島彌太郎、吉三郎、山城女房唐衣、義晴妾賤の方、常世、足利松壽丸、稲助、北條氏康、菊四郎、百姓次郎吉、小次郎、須山刑部左衛門、臺藏、近江小平、慶十郎、村山左衛門義清、大次郎、長尾三郎景勝、三八、勘助女娘おかつ、長尾の嫋ぬれ衣、菊次郎、井上新左衛門、花守關兵衛實は齋藤道三、工左衛門、山城一子義丸、寅之助、板坂玄仁法印、勘左衛門、板垣兵部、雷助、北條下部宅助、紀次、こし元千草、勝三郎、同秋の、玉次、同なでしこ、梅之助、同小きく、政之助、時綱の妹、竹の尾、稲之丞、正忠妻お[illegible]、霜、かてう、直江

大和之介、甚吉、武田下部賤平、宇十郎、長尾姒三橋、森三郎、同局八つはし、佳好、足利左門之助、三田八、長尾の妹衛門の前、藤藏、白須賀六郎、簔助、勝頼妹衛門姫、粂三郎、高坂妻唐織、庭作りみの作實は、武田勝頼、しうか、長尾輝虎、高坂彈正、武田信玄、宗十郎（訥升改名）山本勘助、長尾息女八重垣姫、足利義晴公、羽左衛門第貳番目「澤村咲初由兵衛」（さはむらさきそめてよしべゑ）四代目澤むら宗十郎三十三回忌追善狂言金谷金兵衛、源兵衛、吉三郎、勘十郎女房おつた、常世、非人土手のとふ六、菊四郎、三島隼之助、小次郎、曾根伴五郎、米屋仁右衛門、慶十郎、いしや久庵、團八、地廻り三谷の龜、又藏、玉長の倅權平、粟松、一中節指南都東五、三八、紀伊國や丁稚長松、源平、米屋の娘おきみ、菊次郎、赤手拭九郎八、工左衛門、千葉の公達花若丸、寅之助、井筒屋才右衛門、勘左衛門、地廻り田中の三、紀次、米や手代喜助、松太郎、仲居お梅、梅之助、同おふく、福之丞、米屋下女おきさ、森三郎、由兵衛女房小梅、しうか、梅の由兵衛、宗十郎、信樂勘十郎、羽左衛門○訥升此度五代目澤村宗十郎と改名す表招き釣看板に自分部屋の處鬘下にて居る脇に鏡臺かつら抔あり珍らしき書組にてあり

し春狂言より打續大當りなり然るより當狂言初評判よかりしが後追々不評となり（粂三郎長吉出勤なくしうか勤る）○七月十五日より河原崎座「追善いろは實記」（ついぜんじつき）千崎彌五郎、不破數右衛門、鹽谷判官高貞、彥三郎、斧九太夫、磯太夫、女房おらん、三十郎、ゆらの介女房おいし、富三郎、大ほし力彌、菊三郎、矢間十太郎、清十郎、斧定九郎、廣右衛門、竹森喜太八、升五郎、高松半六、巌右衛門、神原主水、岩五郎、小はやし平內、さき助、庄や杢太夫、佐十郎、小寺十內、歌助、公達爲若丸、多家藏、桃井國千代、鶴之助、大星家來佐五平、福助、早の三左衛門、鶴十郎、茶道もん才、九字藏、平右衛門、子平吉、百松、間瀬久之進、十藏、梶川與惣兵衛、虎五郎、姒まがき、菊壽、同尾花、さかゑ、同撫子、歌女太郎、同桔梗、梅三郎、奧女中とら尾、箱右衛門、貌世の姒朝顏、榮二郎、原鄉右衛門、市藏、寺岡女房お北、小六、紫村七太夫、近藤源四郎、芝十郎、磯太夫娘おくみ、彌作女房おかよ、七太夫、娘おつる、かほよ御前、榮三郎、高の師直、百姓彌作、鐇間宅兵衛、寺岡平右衛門、天川や義平、早のかん平、大星由良之介、歌右衛門、公達直義公、長十郎 第貳番目（三代目中村歌右衛門追善）「宵庚申後段献立」（よいごうしんごだんのこんだて）山

勝十右衛門、丁稚三太、三十郎、浪津李之進、廣右衛門、植木やの八、丹五郎、中間權平、虎五郎、飛爪彌當次、駒助、八百屋下男九介、元五郎、同長助、千代松、夜番人むら藏、國藏、十右衛門、下部作平、三助、金貸吉兵衛、歌助、半兵衛一子半之助、多家藏、船宿女房おひて、小六、深川稻のや小ひな、半兵衛女房お千代、榮三郎、八百や半兵衛、歌右衛門、大切淨るり降かれて今宵となりし月の雨「千種埜戀の兩道(ちくさのこひのふたみち)」小ひな、榮三郎、半兵衛、歌右衛門、常磐津文字太夫、佐喜太夫、吾妻太夫、三弦岸澤式佐、相勤大出來

○歌右衛門半兵衛人形身の三度目壹番め忠臣藏書替何れも大當り

○八月十三日より市村座「讐兩人合法(かたきうちにんかつほう)」高橋瀨左衛門、多賀の大守俊行、竹葉屋太郎助、三津五郎、早枝大學之助、若徒孫七、吉三郎、後室漣御前、鯛や女房おしな、常世、梅澤嘉門之助、福助、高根屋與惣兵衛、三上郷兵衛、菊四郎、笹山官次郎、百姓茂七、小次郎、森山軍藏、與惣兵衛女房おもゝ、嘉藏、修驗者榮梅、慶十郎、彥根嘉忠太、團八、鳥本玄蕃、大次郎、黑川多九郎、三藏、池の坊湯女おけん、七五三藏、勝浦三平、德三郎、早枝後丸、源平、笹山官兵衛、志摩や重兵衛、工左衛門、彌十郎女房さつき、佐五兵衛娘おやま、菊次郎、重兵衛一子しけ松、寅之助、與兵衛下部晩平、三八、せげんの富藏、勘右衛門、赤井角平、雷助、戶倉傳吉、紀次、姚月花、勝三郎、同小きく、玉次、水茶屋おはな、梅之助、道具屋下女おりう、しらべ、こし元政なき、政次郎、中の坊の湯女お竹、福之丞、高根屋うはおさは、かてう、松波小文次、甚吉、百姓紀の作、守十郎、太平次、およし、森三郎、奥女中まかき、佳好、吉岡甚之丞、三田八、左枝息女御法姬、高根屋中働お唉、藤藏、小島林平、裝助、道具やおかめ、與兵衛女房およね、しうか、高橋彌十郎後修行者合法、細川修理之助、漁師あみ六、宗十郎、高橋與兵衛後修行者合法、金比羅丸の水主吉藏、足利義政公、羽左衛門右狂言評よし○九月廿一日より中村座「玉藻前雲井公服(たまものまへくもゐのはれぎぬ)」花陽夫人靈、藻の三平、玉藻のまへ實は金毛九尾の狐、菊五郎、那須の八郎宗重、安部の泰親、九藏、田熊法眼嶋政、猪三郎、永太郎妹お朝、女夫坂柳の精魂、松之助、柚和田四郎、現十郎、鹿島三郎義連、鶴藏、磯上飛忠次、宗三郎、梓巫女眞弓、廣五郎、伴の七郎熊武、國五郎、金助太郎、

團五郎、鳶山軍八、武五郎、衛士太郎又、冠五郎、同次郎又、又藏、烏丸盛長卿、兼十郎、柚谷右衛門、相藏、同木六、小の藏、同斧七、長十郎、同掛八、常十郎、一子綠り丸、百松舍人菊王丸、菊之助、衛士又五郎實は三浦上總之介義澄、幸四郎、那須八郎妻藻女實は堀川院皇女杜若、牛飼きは丸、峰藏、神主舌切忠右衛門、官女梅の局、橘賀、同柏の局、しけ松、千代の局、若松ぬるての局、三すし、同南瀨の局、にしき、賤女おいそ、紫妻進の藏人、鶴五郎、浦仁親王、壽美之丞、永太郎妹お露、粂三郎、鷺塚金藤次、松助、白拍子和歌の前、半四郎、横曾根永太郎、當今鳥羽院、團十郎、田熊三郎照氏、壽三郎、參議俊常卿、傳藏、第貳番目「誰噂色菊月」鳶の者お祭り佐七、菊五郎、神原佐五郎、安濃や十兵衛、九藏、石塚彌三兵衛、猪三郎、あのや十兵衛、女房おらい、松之助、山住五平太、現十郎、手代佐五兵衛、鶴藏、箱廻し義助、宗三郎、醫者百川東林、森五郎、同下男秀助、廣五郎、角力取鹿子山音八元祖音八人形町にて鹿子餅名物なりしが安政四年斷絶鳶の者八五郎、菊太郎、赤城左門之助、熊吉、半時九郎兵衛、幸四郎、中根や女房お時、杜若、安の屋船頭、高麗藏、奥女中花咲、梅賀娩野末、すみ世、水茶やお松、しめ太、宮本女おちよ、染之助、乳人竹川春次、宮本女房おつた、辰之助、佃のおすみ、壽美之丞、赤城賴母之助、松助、げいしや中根やのおいと、半四郎、本町丸綱五郎、團十郎○第壹番目雲井の公般玉藻の前宙乘三度め貳番目めお祭り佐七是迄度々の大出來大當り○

九月より市村座「一人合法」後日「小はる治兵衛増補天網島」蜆川茶屋の段粉名屋孫右衛門、三津五郎、河瀨女房おせん、常世、江戸屋太兵衛、菊四郎、手代善六、團八、河内や庄兵衛、らい助、願人坊てんかい、工左衛門、仲屋おむめ、梅之助、同おてう、しらへ、河庄女房おいね、かてう、てつち三五郎、三八、河庄娘おきみ、森五郎、雁金屋五郎兵衛、小次郎、紀伊國や小春、菊次郎、狩野源左衛門、經世、吉三郎、白妙妹玉笹、藤藏、源左衛門女房白妙、宗十郎、第貳番目大切傳兵衛おしゆん「昔形松白藤」ふ白、羽左衛門、おしゆん、しうか傳兵衛宗十郎上るり清元延壽太夫松壽太夫三弦清元八五郎、忠次郎相勤箱廻し與次郎、吉三郎姉輪の平次、臺藏、地廻り京たんの八、とく次、同虫歯の常升、十郎、同三鶴の紋相十郎同いつそりの吉、金壺耳遠太、大五郎、下女おかつ、玉次、蘭生の前、福之丞、藝者お俊、しうか、井つゝ、傳兵衛、宗十郎、白

藤源太、羽左衛門○九月十一日より河原崎座「櫻紅葉清水清玄」奴清平、山田の三郎政友、彦三郎、松若丸後清水志摩之助清玄雁中間軍助、三十郎、班女御前、奥女中竹川、富三郎、同松風、傾せい花子、菊三郎、大江多門之助、綾瀬彌太郎、清十郎、伊勢参り五郎太、廣右衛門、粟津の六郎、植木や曾理松、升五郎、清水住僧敬月、國師奥女中柏木、紫右衛門、狩人音六、梅藏、同當七、阿野下部權平、元五郎、同丹平、道具屋市助、三九郎、古着や十兵衛、河野下部專平、千代藏、島原若者、喜助、新平、同やり手おつめ、扇藏、巴や才兵衛、若徒半十郎、佐十郎、山景鬼藤太、合長屋の佐次兵衛、歌助、蜆うり源次、鶴之助、在竹崎求馬、福助、吉田の梅若丸、美家藏、阿野の惡五郎義成、合長家の太右衛門、鶴十郎、傾城眞乳、仲居祇園のおかち、佳好、小性銀彌、常吉、同金彌、百松、女小性綾次、鎌太郎、同歌次、音次郎、清水の小坊主うん念、富五郎、同珍念、守内とん念、粂吉、同ほん念、清三郎、組頭堀立半右衛門、取上ばゝお小汐、十藏、入間の家臣若兒軍藏、巾着切の金、虎五郎、妼胡蝶、同初雪、菊壽、吉田妼常夏、奥女中野分、さかゑ、同若菜、島原浮舟、歌女太郎、妼紅梅、奥女

中明石、梅五郎、同ゑふ合、阿の下部雀平、駒助、徘徊師二世銀河、奥女中夕顔、箱右衛門、同閑屋、島原けいこ菊野、榮次郎、大江の家臣石濱帶刀、庄屋福右衛門、市藏、奥女中しがらみ、島原明石やおすま、小六、奴鳥羽平、渡し守しのぶの惣太、芝十郎、入間の息女櫻姬、茶や女おせん、榮三郎、清水清玄、阿闍梨、奴壬生平、吉田少將、惟貞、歌右衛門、一法師丸、長十郎、當狂言中評也○霜月顔見世中村座「大政入道榮花賦」大名題看板差出せしか十日より廿四日迄鳴もの停止に付興行なし然る所○廿六日より「綴合忠講釋」田代安兵衛、矢間喜内、九藏、十太郎女房おりへ、九太夫娘おくみ、菊次郎、斧九太夫、乳もらい太郎作、猪三郎、万才福又、福助、鹽谷判官、淸十郎、灰潟彌助、現十郎、猪熊軍兵衛、鶴藏、田代彌右衛門、紫右衛門、惣嫁お百、廣五郎、同おさみ、鷺助、小寺十内、奴剡内、團五郎、十太郎一子太市、音五郎、百姓多作、雷助、彌次兵衛娘おきそ、歌女太郎、一文字や女房、紫妻、彌次兵衛娘お品、けいせい浮はし、瀬川宮三郎、喜内女房おきよ、一力女房おいし、小六、かほよ御前、松之助、高の師直、織部彌次兵衛、三十郎、勘平女房おかる、半右衛門女

房おきた、半四郎、矢間十太郎、大星由良之介、歌右衛門第貳ばん目「伊勢音頭戀寢刃」仲居おたね、九藏、油屋のおこん、菊次郎、藤浪主膳、猪三郎、正直正太夫、仲居まん八、現十郎、奴林平、安達大藏、油屋おしか、鶴藏、播州屋藤六、瓶右衛門　黑上主鈴、森五郎、德嶋や岩次、廣五郎、熊木角太郎、鷺助、相の山お杉、團五郎、同お玉、瓶八、遠州屋次郎助、冠五郎、比丘尼妙勢、つる作、同妙色、芝喜藏、巫女おの江、太升、桑原丈四郎、駒助、胴脈金兵衛、音八、巫女おすゞ、千代飛助、仲居おいは、染之助、同おすは、しめ太、同おまつ、若松、同おひで、勝次郎、油屋おきし、喜多六、歌助、油屋女房おさき、松之助、同娘おむめ、粂三郎、料理人喜介、三十郎、主膳娘おわか、半四郎、福岡貢、歌右衛門、何れも大出來○霜月朔日より市村座「吾妻花相馬內裡」上平太貞盛、芦原四郎將平、「鬼塚兵庫之助、神田の與吉、藤原忠文、彥三郎、御厨六郎公連、龍姬めのと矢はし、奴藤平、金貸又藏、百足姬かし付空さゆ、芝十郎、貞盛姊筑波根、玉永姬のかし付深江、あせ六、女房おとみ、秀郷妻眞弓、百足かし付十五夜、民三郎、奴こま平、高麗藏、大宅の次官伊與の太郎、植木屋寺島の松兵衛、菊四郎、播磨之助雅元、八坂の淨藏、小次郎貞盛妻難波津米屋娘およね、市川團之助（森三郎事團之助と改）進の小太郎、三田八、秦の八郎、山伏浮雲法印、臺藏、小田木典膳、庄や五九郎兵衛、學寮坊西念、慶十郎、高田軍藤次、水ぐわしやきた八、團八、須藤九郎、夜そばうりにほ助、大次郎、將門娘きゝやう、鶴之助、逆髮の皇子、彌六兵衛女房高根、三上の郡領、「鷲の者米かみの彌藏、伊賀壽太郎、三津五郎、修行者妙操實忠文息女逢坂、江口傾城白女、秀郷息女龍姬、女金かし百足のお百、好古息女讃岐の前、杜若、當今小舍人龍丸、橘藏、同虎丸、東之助、勘解由次官時秀、田町の汗富法印、勘左衛門、江口大和屋の仲居おたつ○百足姬かし付更科、しけ松、同おはさ、雇女おみつ、てうの助、山出し奉公人おはる、仲居おてう、しらへ、同おます、梓巫女お弓、政次郎、玉水姬かし付千草、百足姬妣そつの介、にしき、同月さゆ、玉水かし付うら葉、福之丞、同岩瀨、酉町水茶やおふく、佳調、淺香次郎、汁粉もち正月や半兵衛、飴うりかやの丹平、國五郎、三井寺の三眞阿闍梨、坂田の十郎、寫繪師牛島九樂、佐十郎、眞門乳人繼橋、古手屋女房おきぬ、百足姬かし付狹衣、辰

之助、物部七郎、大福もちうり伊八、三八、經基息女玉水姫、百足姫、娩千手、玉三郎、平兼盛妻竹しの、槇屋娘おはな、百足姫娩有明、藤藏、豊島彈正左衛門、念佛六助、料理人板六、市藏、大宅太郎、勝間田三郎、囊助、百足姫娩冷泉、俵藤太秀郷、郡領娘百足姫、將門妾賤はた、鴻の屋お大、江口けいせい七綾、しうか、平親王將門、鼻高入道、錦升、田原藤太秀郷、百姓畔六、伊豫掾純友、幸四郎、橘の遠保、田原之助、千晴、六孫王經基、鳥越の矢師、橘屋嘉吉、武藏、權の頭貞世、羽左衛門、第壹番め大詰 貞享の昔より百七十歳に鳴神搭て の薫り久しき春色なしたふて 雲絶間當麻天女嫁入」空さゆ、芝十郎、十五夜、民三郎、玉藻、鶴之助、鳴神尼しうか、當麻之助、羽左衛門、淨瑠璃常磐津文字太夫、兼太夫三弦岸澤式作、文左衛門相勤狂言作者櫻田治助、村柑子、清水正七、松本幸次、松島半二、福森久二、篠田瑳助、何れも大出來大當り然る處十日より廿四日迄鳴物御停止に仰出候に付相休廿五日より相始○三建目田原藤太秀郷にて坂東しうかのしばらくうけ三つ五郎中うけ彦三郎芝十郎入道幸四郎、嘉吉、羽左衛門しばらくのつらね出し板なし四建目たんまり貞盛、彦三郎將より三津五郎、顔せいしうか將門幸四郎、遠保、羽左衛門五立目返し百足姫、しうか、遠保、羽左衛門、雪降の大たて文政年間路考秀佳の仕組なり六立目貞盛舘淨るり女鳴神大詰將より三津五郎矢はし芝十郎百足、しうか秀郷幸四郎千晴羽左衛門大々評判よし河原崎座大名題「御攝恵源氏」看板出たれ共顔見世狂言興行なし

○市川團三郎死去す初市川重太郎と云天保二卯とし市紅養子となり團三郎と改名

○浪花にて市川團藏中症にて身體叶はず打臥候由故に市川海老藏より上々達役者一人りも無之當春より京坂にて仇矢なく大當りのよし風聞あり彼地にても中村富十郎、中村芝翫、片岡我童、市川助十郎抔京大坂芝居出勤ならざる樣風聞あり皆身分不相應の奢ゆへと云々無程御免に相成候由中村慶子は親不孝なる故御免無之ゆへ江戸表へ下りしと云々

○尚十二月十七日より市村座春狂言の散らしを出板す左の通

建久年間男達烈女録

本朝 地神五代 白拍子ノ始
舞姫 宇賣女ノ命

關東 建久四癸丑年正月 寛闊之始
風流 和田酒宴大寄

傾城 小松天皇 遊女之始
傾國 姫ノ七道ニ分

全盛 羽島 島之千歳
和哥之前

武士 イツ 河津三郎祐泰
サカミ 俣野五郎景久

蝶花ケ谷產 大磯虎御前
扇ケ谷產 粧坂之少將

江戸ノ產 蛇塚 蛇五右衛門
土井眞鶴 鬼王新左衛門

小袋坂東 朝比奈藤兵衛
橘小路 朝比奈義秀

佳女ケ谷 藝子於俊
若宮小路 舞子三勝

前ケ谷 梅堀小五郎兵衛
淺澤 源兵衛堀源兵衛

渦小路 關東小六
簑島 秩父小六郎

三津ケ崎 十左衛門傳吉
松ケ岡 死八小左衛門

梶桑坂 奴之小万
八ツ橋 勝木小万

長谷寺前 鶉權兵衛
神輿ケ嶽 家鴨傳兵衛

アタミ產 三浦之薄雲
マツマケ谷 三浦之片貝

稻村崎 魚師五左衛門
花水橋 前髮三左衛門

丹前 三浦義也
大佛坂 三浦義村

金澤 油屋九平次
片瀨 油賣德兵衛

竹ノ下 東金茂右衛門
藤澤 筑波茂右衛門

大タキラ 遊女於初
梅ケ谷 遊女尾房

杉本坂 島野勘左衛門
トツコカ池 鹿子勘兵衛

岩船前 白木屋於駒
タンカツラ小路 黑木賣於花

雪ノ下 赤間傳兵衛
鳴立澤 赤澤十內

矢車坂 引田源兵衛
淺瀨川 和田左衛門

松葉ケ谷 曾我五郎
龜ケ谷坂 曾我十郎

羽瀨小路 刀屋半七
シスジ崎 茜屋半七

佳多平ケ辻 土手野於六
葉八鄉 八百屋於七

小ユルギ 波名岡團三
鶴ケ岡 八重桐才三

高麗寺門前 岩淵權兵衛
江島 石岡左膳

菊池ケ辻 笹野三五兵衛
六浦 菱川源五兵衛

小イフ 團三妻十六夜
ヱガラ 鬼王妻月小夜

幸津新町 工藤左衛門
三ケ荘主 工藤左衛門

白藤源太
上總夷隅郡金山之産
當年廿歳

弘化二乙巳年正月

右に縮圖せしは來春狂言に市村羽左衛門角力取白藤源太に紛作する事を半紙二枚竪續きとし江戸中へちらし評判を願ふ計策にものせり此手段前々よりあり多くは呉ふくやの引札年代記式は敵打の次第に擬し其節狂言に寄りて見立の飾りものを出す是も十二月の十七日十八日兩日之内淺草市の群集に見せて春狂言の景氣とす然るに此節松浦侯御領分肥前平戸生月村の産にて身丈七尺五寸重さ四十五貫目手形壹尺八分足形一尺五分此肖像を畫く豊國國芳初め數多出板す其内國芳畫にて竪二枚つゞき上の一枚に右の如仕切其内に本朝角力節會の始其外往古より大關になり名目をあらはし下一枚に生月の肖像大きく半身に畫きしなり大に流行して後に者生月物語と云一代噺の畫本出板す是後の馬馬作也狂言作者此畫を假用して白藤を彼大男に準擬して板行にものし江戸中へすらせしは當時の意に叶ひしはたらきといふべし

花江都歌舞妓年代記續編卷の十九

弘化二乙巳年

○正月十四日より中村座「玉笄椿源平曾我」(安元二年より建久四年迄十八番續に仕候)工藤金石丸、八幡三郎行氏、梅澤屋小五郎、兵衞、彌平兵衞宗淸、主馬判官盛久、濱路源左衞門、はんじ物喜兵衞、九藏、淸盛妾祇王御前、忠右衞門女房お梅、時政息女政子の前、伊東娘辰ひめ、菊次郎、宗淸娘玉琴、嫁茶賣おひさ、粂三郎、伊東次郎祐親、波の民部、猪三郎、三位惟盛、眞田の與市、福助、源の賴朝、鎌倉屋五郎八、淸十郎、梶原平三、梅澤や手代三九郎、現十郎、館の六郎、馬の口取、赤澤十內、鶴五郎、瀨の尾太郎、判人梅堀の源六、鶴藏、大場三郎、鎌倉や手代久七、笄右衞門、宇佐美三郎、安達次郎、森五郎、海野小太郎、濱路の下女おなべ、廣五郎、久須美逸平、馬淵和平太、鷺助、近藤七郎、官女衣手、團五郎、安田三郎、冠五郎、曾我一萬丸、音次郎、源牛若丸、太升、景淸一子あざ丸、そがの箱王丸、多家藏、福原雜式小文太、たばこ之、勘太、雷助、千人禿もみぢ、千代飛助、同みどり、やまと、同わかな、粟平、同千鳥、運太兵衞、同小てら、尾登、同呉羽、兼松、あやは、重次郎、しげり、勘助、政子妣千草、若松、同紅梅、勝三郎、番場忠太、駒助、辰姫かし付春雨、歌女太郎、同道芝、春次、忠右衞門母おすわ、紫妻、伊東の濱蠻小儀、主水娘おりう、宮三郎、海老名源八、伊東の濱の庄や六作、乳人八丈の局、盛後妻かまくらや後家おくら、梛の葉、小六、淸盛の妾祇女御前、げいしや小たき、鳥追のおしげ、行氏妻月小夜、松之助、近江小藤太、股野の五郎、獄門庄兵衞、長田の庄司、扇屋うり舞鶴や傳三、三十郎、義朝妾常盤御前、宮女玉虫、新院の愛妃讃岐の局、女大神樂鶴の丸のおあさ、白拍子風折、牛四郎、安藝守平淸盛、惡源太義平、黄金餅賣生玉や勘六、川津三郎祐泰、惡七兵衞景淸、歌右衞門、平宗盛、壽三郎、第一番目四立め(伏見常盤の朗詠の意味を砕ひて)「雪解松操織」宗淸、九藏、玉琴、粂三郎、今若、太升、乙若、小松、常盤御前、牛四郎、淨瑠璃富本豐前太夫、豐紫太夫、三弦富本豐柳、名見崎安治連中相勤同大詰(道成寺の今樣舞の扇を翫して)「花競俄曲突」道成寺所作歌右衞門、僧菊次郎、ふえ九藏、小つゞみ粂三郎、松之助、大つゞみ三

十郎、太こ福助、替りて三吉、九藏嫁なうり、粂三郎、鳥追松之助、渡し守半四郎、おきく菊次郎、福壽草うり福助、田舍侍三十郎、山兵衛歌右衛門、上るり常磐津文字太夫、佐喜太夫、政太夫、岸澤式佐、文左衛門、相勤去顔見世狂言え曾我を取仕組古今大出來後の三立め清盛福原の館日な招く所同さぬき局半四郎、盛久、九藏、義平、歌右衛門、三人だんまり上るり六立め清盛火の病ひ第貳ばん目大切迄大當り矢倉下と役わり番付と大に相違せり○正月七日より市村座「曾我風流家春駒」鬼王新左衛門、寐言の長兵衛、東金茂右衛門、親子獅子おできの角兵衛、京の次郎、彥三郎、箱根の閉坊、深見伴之進、筑波茂右衛門、芝十郎、けわい坂の少將、在金娘お富、民三郎、犬坊丸高麗藏、大藤內成景、權介女房おとり、菊四郎、本田の次郎、津川勝次郎、小次郎、舞鶴屋新造手越、三浦の片貝、團之助、大神樂十二藤助、三田八、新貝の荒次郎、百足屋金兵衛、臺藏、曾我太郎、粂川亭主久兵衛、慶十郎、八わたの下部渦平、たいこ持善八、團八、風の神畑右衛門、油屋平代久藏、大次郎、角力取安宅松辨太、三太郎、小藤太一子小彌太、鎌太郎、角兵衛し、つの次、源賴家公、鶴之助、工藤左衛門祐經、井筒傳兵衛、東金茂右衛門、佃三右衛門、鬼王眞左衛門、三津五郎、舞鶴姫、團三郎、女房十六夜、唐金妹娘おさは、天満屋おはつ、杜若、犬坊丸、勘藏、鬼王一子鬼市、百松、同悴眞三郎、相藏、劍澤卜庵、愛甲の三郎、勘左衛門、大姫姒千ゝとせ、しげ松、同若芝、金子妹玉縄、てるて之助、土屋妹高松、花やしき下女おてう、しらべ、大姫かし付舍木、粂川仲居なまさ、政次郎、同おきん、安達妹衣笠、にしき、千葉妹櫻木、花屋敷のおから、福之丞、曾我の萬紅、梅澤や女房およし、かてう、竹下孫八左衛門、鬼王用人丹平、國五郎、伊豆の次郎、箱根の行實、佐十郎、三浦の奥方みさき、粂川女房おむめ、辰之助、梅澤や小五郎、景季妹ゑびら、三八、ちゝぶの息女雛姫、玉三郎、曾我二の宮、大姫君、鐵藏、宇佐美三郎、おしゆん母おとら、市藏、久須美四郎、御用とく介、義助、和田の義盛、赤澤十內、津川主水、油屋左平次、工左衛門、鬼王女房月小夜、大磯のとら、德兵衛、女房おきた、藝者おしゆん、しうか、曾我の五郎、近江小藤太成家、舞鶴や傳三、足駄衛入權助、幸四郎、曾我十郎祐なり、八幡三郎行氏、そか團三郎、小林朝日奈、平野屋德兵衛、出遣イ人形彈

語の市太、關取白ふじ源太、羽左衛門、第一番目五立目所作事「橘松花草摺（とこよのはなちとせのくさずり）」朝日奈、羽左衛門、曾我五郎、幸四郎、長唄岡安喜代八、富士田千藏、岡安喜代藏、松永鐵五郎、杵屋六之助、和八、彥二郎、正六郎（ふへ菊川幸吉菊枝安太郎、たいこ太田市兵衛小つゞみ福原百之介大つゞみ同門左衛門同福原百十郎）ふり付（西川巳之助同芳次）郎三絃杵屋六八翁相勤第貳番め大切淨るり（おしゆん白藤の義理の柵おはつ徳兵衛の水の出端）「戀綾瀨流流（こゐのあやせながれつまた）」角兵衛し丶、彥三郎、つる之介、おしゆん、しうか人形遣い、五郎七、幸四郎、白ふじ、羽左衛門（は此白ふじの前觸）去暮ちらしにせし常磐津文字太夫小文字太夫、岸澤式佐、連中相勤何れも大出來大々當り

○此白ふじの役を去暮ちらしに前觸せしなり

○同二月朔日より（岩井杜若年忌一世一代）「おはん長右衛門岩井太帶〆如月（いわいおびしめてきさらぎ）」片岡幸左衛門、若徒段助、彥三郎、座頭米市、芝十郎、おはん母およし、民三郎、たいこ持こま八、こま藏、家主六郎兵衛、菊四郎、でつち長太、小次郎、げいこ、雪野、團之助、たいこ秀八、三田八、國侍甚五右衛門、臺藏、京四條の扇九、慶十郎、酒屋下女おなべ、團八、部屋頭ねほ助、大次郎、惣嫁おやへ、武五郎、同お梅、千代藏、家主八兵衛、眼藏、雲助の音木十郎、同勝、も丶太郎、いせ參りの松、鶴之助、片岡幸之進、三津五郎、しなのやおはん、土手のお六、杜若、友達娘おまつ、松太郎、同お玉、てう之助、同お福、福之丞、お牛うばおいね、かてう、惣嫁おぶか、國五郎、ふじや久兵衛、佐十郎、仲居おたつ、辰之助、信濃や抱鳶三五郎、三八、藝子小梅、玉三郎、帶屋の下女おふじ、藤藏、香具や佐左衛門、市藏、同才次郎、三の助、しなのや次兵衛、工左衛門、長右衛門女房おきぬ、しらか針の宗兵衛、幸四郎、帶屋長右衛門、羽左衛門○岩井杜若、當狂言一世一代との口上なれ共續て出初た是おはんの一世一代なるべし不相替大出來大當り石部と四條河原二た幕○正月二日より河原崎座「魁源氏曾我手始（さきがけげんじそがのてはじめ）」崇德新院、宇治惡左府（暫ウケ）賴長、畠山重忠、京の次郎祐義、工藤左衛門、菊五郎、飛彈左衛門、景家（暫中ウケ）足輕綱平、後田原又太郎、曾我團三郎、吉三郎、民部妻深雪、乳人吳竹、鬼王女房月小夜、御臺政子御前、常世、新藏人仲綱、主馬判官、梅澤や小五郎兵衛、八わた三郎行氏、松助、難波の六郎、八栗關內、梶原平三、廣右衛門、渡邊了七唱、淺利の與市、講中金兵衛、宇十郎、別府太郎國廉、奈太板軍八、新貝荒次郎、虎五郎、北國太郎正綱、高倉の宮、曾我禪司坊、甚吉、鹿島入道猿右衛門、

佐川春義、竹下孫八左衞門、岩五郎、海野の太郎七、五三藏、鹽辛賣金太、菊太郎、軍書讀遠見、平家の郎等ゆづりは、散藤澤平、同根松の入藤、遠目鏡茶屋音、入藏、國籬下部和田平、平家の郎等かやの八、代藤八代藏、景淸一子あざ丸、市川幸藏あかん平改名す大磯の千鳥、熊吉、大坊丸、菊之助、渡邊左衞門、日兵庫頭賴政、曾我十郎、鬼王新左衞門、小林朝比奈、宗十郎、鬼王一子鬼市、源平、源の賴家公、富之助、大藤內、紀次、沼の平太、箱根の畑右衞門、音右衞門、高橋小文次、犬淵東馬、宗三郎、河野作藏、伊豆の次郎、非人七、七右衞門、花園嬶かし付梅ヶ枝、大磯舞子小つる、梅賀、祇園仲居お榮、菊壽、同おきち、三花、大磯茶やおつた、花園侍女梅がへ、三好腰元木の葉、さかゑ、花園侍女岩木、梅之助、花園侍女若榮、こし元初霜、三筋、花その侍女紅梅、丁七妹伏屋、梅三郎、花園かし付竹川、團三郞妹十六夜、小六郎妹桐の谷、榮次郎、義朝息女花園姬、大磯やおでん、江間妹龍花、壽美之丞、武藏左衞門、瀧口靭負、梶原源太、鶴十郎、河波民部娘おなる、女非人阿古屋のお松、舞づるやおでん、化粧坂少將、新車、瀨の尾太郎中略長田庄司景宗、書爲箱根の閉坊、近江小藤太、友右衞門、白拍子けさ御前、女なまづひさご、待宵の侍從、三浦の片貝、大磯のとら、榮三郎、澁谷金王丸昌俊、遠藤武者盛遠、武者修行大しま圭水、曾我五郎時宗、惡七兵衞景淸、團十郎、小奴、升平實は源太丸、長十郎、第貳番目序まく上の卷は淨るり「扇谷髭の訥子主」爾とし、菊五郎、でつち、源平、おせん、新平、禿熊吉、朝日奈、宗十郎、常磐津文字太夫連中下の卷は長唄の「正札附根元草摺」朝比奈、宗十郞、曾我五郎、團十郎、長唄はやし連中相勤狂言作者河竹新七、本屋宇七、勝見てう三、紀文左衞門、勝俵藏、本屋春助、並木五瓶、鶴屋南北

第一ばんめ後三立目しばらく前略之宇治の賴長暫くのうけ菊五郎我に敵たふ奴原を刄の錆となさんづ折から音右衞門「吉例とは言ながら　紀次「耳をつらぬく今の一ト聲　虎五郎「しばらく〳〵と聲をかけたは　皆々「何やつだエヘ　團十郎「しばらく　皆々「暫とは　團「しばらく〳〵しばらくブウ　大ざつま淨るりかゝる所へ澁谷の金王昌俊はトアリヤ〳〵の聲よせになり團十郎吉例のこしらへにて出て來り「素袍の袖のたふやかに實に鳳凰の羽づく

ろい勇しかりける次第なりト此文句にて花道吉例の座に住ふ皆々「どつこい 菊五郎「今朗位の規式と違勅のやつ原 景家吉三郎「すこうべ落す向ふづら 兼氏友右衛門「しばらく」と聲をかけ なんば廣右衛門「のたくりつん出たわつばしめ 鶴十郎武藏右衛門「こでもまづうぬは みな「何やつだヱ、吉三郎「イヤサ皆々「何やつだヱ、ト爰にて團十郎自作のつらね

「夫七福神の寐言に日ながきよのとをのねふりのみなめざめ波のり船や乗り初めに乗つて來た〳〵先大黒の鼠木戸毘沙門天が寶塔から蜈蚣の足取り繁昌はながひ天窓の福錄壽老目出鯛惠比壽の藏入にお辨が巳年の身になる金得手に布袋ぞ顔見せの一番太皷鷄に河原崎かげ歌舞妓の正月元日二日三升が素袍の色も柿の下手桃栗三年二年目で歸り新參御目見得の時を烏帽子や大太刀に肝の太客輕と雑煮の腹で花道へ罷出たる某は淸和源氏の正統左馬頭義朝が股肱の耳目と呼はれたる澁谷金王丸昌俊當年積つて十八歳誠は五年田作に市川橙榧勝栗海老が夜食のかた鞠唄一夜揚幕おつ開き見渡す向ふは年玉の重扇の親骨子骨赤ひはだれだ三ッ吉に轡の紋の奴凧わるく糸目をつけるがさいご金龍山の家の棟から富士と筑波のすてつぺんほふり込とホ、敬白皆々「どこへ 吉三郎「サアいづれもやしばらくだ〳〵根元歌舞妓はじまつてよりお江戸の名物しばらくの本店たいづれもそつ首用心さつしやい皆々「イヤア、ト菊五郎團十郎を見て思ひ入あつて菊五郎「しばらく」ト聲をかけてつん出たやつを能々見ればかくれもない三升の紋ハア、成田屋の小わつはだナいづれもさまの御ひゐきを力におれを向ふづら大たばな事をふき出したナ〇誰かある目障りになるアノ子僧菓子でもやつて引たてさせい（團十郎を小わつぱの子僧のと言は當時菊五郎より外一人もなし）友右衛門「さやう〳〵君の仰を待ずとも大入餅でも早々やつてぼつけへすのが一の手だ身共なぞも久しぶりにいちばい肝にこたへ升る つる「お手前方さへ夫だもの 廣「われ〳〵なぞは猶の事 虎五郎「何ンだかがた〳〵と 紀「いせう歯の根が合升ぬ 音「コリヤいかゞ致したらよくムらふ 吉三郎「イヤだトいつて君のお目ざはり早くあつちへ遠ざけ召れ 榮三郎「サア皆さんいつもの通

り御苦勞ながら引立が來たぞへ皆々「イヤモウ、箱
「先ッさしあたり景家との以後の勝手を覺ゆる爲
に昔引立にまいれとのそりやいけならいきも
しよふけれどまづだれかれといわふより噂に聞た
いつもの昔例サア入道お出被成い／＼箱「シタリ
○ム丶よし／＼しよふがムゑ／＼○ト榮三郎が手
をとりコリヤおまへに限る役だとんと男でいかぬ
わけなんとかかとかやわらかに一番だましてお歸
し成れ／＼榮「どふしてまア殿達の跡込するを
かつてもしらず何ンでわたしがト迯よふとするを
箱「ハテそふいわずともおれがおしへてやる程に
ござれ／＼ト榮三郎におしへトこふそばへいつて
○わつばめそこを立ヱ丶○トそれなんのぞうさも
ない事よ榮「それじやといふてどふしてわたしに箱
「ハテ氣のよわい後ろには入道が押へて居る氣を
しつかりとやつたがよいト是にて榮三郎思ひ入あ
りて榮「そんならてんぼのかわとやろふかいナ箱
「ちつ共早くやつたり／＼ト榮三郎こなしあつて
みな／＼「御手柄の程が見たいな／＼榮「どりや
／＼／＼ト宜しく花道へ行團十郎の傍へ行思入有

りてモシ親方おゑへまあ此寒いによふ早ふ御出な
さんしたナ○それはそふとまづ當年は御目出たふ
ムんすナ○夫はそふとわたしやちつと頼みがムん
すが何ンと聞ては下さんせぬかト團十郎ふりむ
いて團十郎「アリヤア誰れだと思つたら思ひもつ
かねへ音羽屋のあねへか先へひつたてとはじやく
ん繪を押へましよそふして爰へ何しにきたのだト
榮三郎もじ／＼思ひ入して榮「サアわたしも今年
は皆さんのよんどころないおすゝめに爰迄出たは
出たものゝ女達らに立ヱ丶でもムんせぬ○どふ
ぞわたしが顏をたつて我まゝいわづおとなしふ外
聞づくゆへそつちの方へすこし計り團「何だ外聞
づくだから揚幕のほうへ立てくれろか成程そふい
ふ事ならば外でもないおめへの事今年は一ばん
新らしく榮「ハイ團「揚幕の方へ榮「なろふ事なら
團「たつてやろふと言たいがいやだ早くなくなれ
なくなりよふがおそいと鹽を付てかんでしまふ
ぞ榮「そんならどふでも團「どふしたとト急度思
入是にて榮三郎思入あつて箱右衛門を招く箱「と
ふだな／＼ト榮三郎の傍へ來てとふだと思入榮三

郎かぶりをふる箱右衛門思入あつて、そんならおれがト手をふりあげる團「どふしたとトにらむ箱右衛門悔りして箱「一トツとやトまり唄を唄ふ榮三郎箱右衛門のあたまをまりにして舞臺へ來る皆々「どふ致したナ箱「どふも參らぬみな〳〵「ヱヱらちもない箱「サア〳〵是からはお手前方だ○是より大勢替々引立みな〳〵おかしみあり吉「ヱヽ最前から用捨すれば君の御前共憚からず友「さま〳〵の慮外くわんたい吉「イデ此上は飛驒左衛門景宗友「瀬の尾の太郎兼氏廣「難波の次郎經遠つる「武藏左衛門有國吉「我々四人で四人「イデぼつかへしてくれべいか團「イヽヤわざ〳〵來るには及ばねいおれが方から今そこへ行ぞ皆々「イヤアア團「旦那寺へ人をやれ皆々「イヤア、團「早桶の用意しろ皆々「イヤア、團「さらば御輿をかきあげべいかトヽヒヨニ成りアリヤ〳〵の聲團十郎舞臺へ來り中啓をくわへ肌をぬぎ皆々千鳥に入替り立役をかこつて思入きつとなりをみな〳〵「どつこい常世「おやうい所へ松助「金王丸出來やつたか女皆々「待て居たわいのふ團「昌俊の來るからは大舟に乘たと思つておちついてムり升せ〳〵時に承ふは何故人々の首をはねんとおしやるのだ菊五郎「ヤアあんがいなる澁谷金王丸地下の臣下でありながら階下をけがすりよぐわいなやつの吉「一天萬乘の我君の詞を背きしゆへ違勅の罪に皆々「行ふのだ團「ソリヤア無理だ我まヽだみな〳〵「ソリヤ又なぜ〳〵團「違勅の罪を糺そふなら差當りての賴長公新院の袞龍の御衣御ゆるしもない官位昇進何れからの勅定だ夫を聞ふは吉「サアそれは團「サア皆々「サア〳〵團「誰だと思ふアヽつがもねい○吉田の社で紛失の八咫の御鏡心もとない赤いおじいたちがほつほにあんべいおれに下さいてい〳〵しませう吉「それをおれが知るものか團「うぬがしらざアサア差詰上座にムる親王さま引ずりおろしてくれべいかト寄ふとするどろ〳〵に成り團十郎だち〳〵と成る吉「何ンと賴長公の御威勢をみな〳〵「見たか團「ヲヽ見た〳〵親王様の御いせも寶の有所も殘らず見たは皆々「ソリヤ又どこにあるの團「爰にあるはト菊五郎にかヽる榮三郎へだて榮「アヽ是早うしやんすな其

御鏡はわたしが預り爰に持ているわいナアト懐より錦の服紗に包し鏡を出し團十郎へ渡す 團「コリャ御鏡をどふしてこなたが 桒「サこれを取らふ計りに身にも應せぬ役廻り御鏡をわたしへ渡せしは向ふの麁相こつちの仕合おまへに渡せばけふよりしてやつはり元の源氏方是で年があいたわいナア 吉「そんならうぬも敵 皆々「ヱゝいめへましい 友「モウ此上は破れかぶれアノ御かゞみを 團「どつこいそふうまくはいかねへ○イザ御鏡をお受取なされ升セト鏡を出す松助うけとり 松「一度失せしは八咫の御鏡 甚吉「再び味方の手に入うへは宇十郎「丸く納る此良見世 常世「これぞ誠に御ひゐきの 桒三「名題もそのまゝとりたて源氏 團「めて度一ッ〆べいかみな／＼ 立役「ヨイ／＼／＼ヨイ／＼ト手を打 團友「こつちも〆ろト 敵役皆々同手を打 友「ヱゝかしましいわへ 吉「十ヲガ九ッ仕負せた大望も 友「とんだやつが出しやばつて 吉「おもふたこともいすかのはし 菊五郎「かた／＼お扣い○小ざかしいわつぱが振舞たとへ何程升るとも朝日に登る此頼長万乗天子の王位を持てきやつらが一チ／＼今には

へつらふ蒐夫迄は放しがい 友 此返報はかさねて 敵役みな／＼「きつと 團「ヲゝ何萬騎でも持てこひ恂り共するのじやァねへはサア何れもさまを御供して立歸るがいゝぶんはあるめへが 皆々「言ぶんは 團「イザ／＼お立あられ升ウ「さらば／＼と日の本に英雄獨歩の其勢勇しかりけるとト此淨るりの內七藏常世先に鮅皆々附添松助宇十郎甚吉桒三郎附みな／＼向ふへ這入團十郎行かゝる 吉「そりや仕丁「やらぬはト仕丁不殘團十郎へかゝる團十郎大太刀にて一時に首を落すばら／＼投首にて仕丁皆々ぶつかぶり 菊「澁谷金王丸 皆々「昌俊 團「よわ虫めら 皆々「さらばト下り端に成り吉例の見得にてよろしく幕トまく外團十郎ふつて這入る跡シャギリ

○此良見世にしばらくの狂言なしかゝるいさましき昔仕組は追々すたれり

○二月二日より「御注文繻子帶屋」（ごちうもんしゆすのおびや）片岡幸左衛門、しなのやおはん、菊五郎、若徒段助、吉三郎、おはん母おかや、常世、座頭松都、松助、家主杢兵衛、植藏、舞子芳い、菊松、帶屋長右衛門、宗十郎、ふじや仲居おはな、三藏、同おゑい、きかゑ、同お芳、三好、同おむめ、

梅之助、同おさん、三すじ、げいこ宵野、新車、片岡、幸之進、針の宗兵衛、友右衛門、長右衛門女房おきぬ、榮三郎、香具や才次郎、植木屋の綱吉、團十郎、大切おはん長右衛門「梅柳桂川浪」おはん、菊五郎、長右衛門、宗十郎、座頭、松助、惣嫁、新車、植木うり、團十郎、淨るり淸元延壽太夫同松壽太夫、三弦同一壽八五郎相勤大當り○三月十二日より**中村座**「契情宮本」加藤虎之助正淸、吉岡太郎右衛門、笠原隨翁軒、九藏、けいせい櫻木太夫、甲利の奥方長門の前、菊次郎、笠原童子實は熊の精、粂三郎、岩本武右衛門下男七助、猪三郎、瀨川采女、福助、花守官次、淸十郎、熊澤甚之丞、現十郎、若黨與五郎、鶴五郎、福田林左衛門、鶴藏、代官曾平太、森五郎、宇佐美圭水、廣五郎、白倉傳之丞、鷺助、近藤鍋松、團五郎、杉原勘作、冠五郎、山內蟹丸、元五郎、禿よしの、太升、同たより、舩助、同みどり、やまと、同花里、權八、七助、千里松、多家藏、ほふらいや才兵衛、雷助、元輪兼五郎、大五郎、中間土手八、音八、車田孫次、駒助、こし元すみれ、染之助、同若菜、紫女、多門、夕貝、若松、同小ざゝ、勝三郎、甲利輝太郎、歌女太郎、村山源藏、百濟與膳、舩右衛門、婉ゑ合、春次、同呉竹、紫妻、菓末姫、宮三郎、森本儀太夫、傳五右衛門妻岡の谷、歌助、佐藤與方淸瀧、小六、七助娘おとみ、松之助、佐々木官吾 後岩柳、三十郎、傳五右衛門娘糸萩、小のゝお通、蜑もしほ、半四郎、宮本友次郎、武者修行宮本六三四、海津や治右衛門、歌右衛門、第貳番目「倭假名在原系圖」四ノ口切 中納言行平、九藏、女輕業師玉本小金、粂三郎、高松左衛門、猪三郎、刀持江戸の花力之助、福助、荒川律三郎、現十郎、古金買久作、鶴五郎、金貸鐵九郎、鶴藏、口上云入右衛門、廣五郎、賣藥うり眼六、冠五郎、蘭平一子しげ藏、行平御臺みなせ、芝鶴、浪人段八、大五郎、同高浪運平、音八、綾瀨の局、十藏、こし元松ヶ枝、勝三郎、金剛太郎妹常盤井、宮三郎、與茂作女房おりく、松之助、百姓與茂作實は跡見音人、三十郎、染殿の皇后、半四郎、奴らん平實は伴義雄、紀の名虎、歌右衛門、破軍太郎、壽三郎、上るり竹本雀餌太夫、竹澤大作、鶴澤轍六第貳番目大切所作事 蝶ゝ来て手元狂ふぞつくり髭「狂亂雀の百囀」中村歌右衛門、常磐津文字太夫、岸澤式佐連中長唄囃し惣連中相勤何れも大出來大當り○三月三日より**市村座**「正寫加賀觀姿畫」市村羽左衛門、伊

勢參宮其外諸神佛御禮參りに付名殘狂言の口上あり（此事座元にては相ならず）吉澤賴母、鳥井崎又助、男達島の勘兵衛、細川勝元、彥三郎、牛島彈正、局長はし、きく酒や手代權九郎、芝十郎、茶屋廻り新吉、高麗藏、山名大膳、菊酒や藤左衛門、菊四郎、歌名澤帶刀、小次郎、娵せきや、菊酒や下女おかう、團之助、茶屋廻り増五郎、三田八、蟹江監物、臺藏、大聖寺日念上人、渡由丹左衛門、慶十郎、片田短才、きく酒やでつち忠吉、團八、岩尾や若者長助、奧女中黑染、大次郎、同花形、男達横黑部次、勘左衛門、同棒筋の建藏、奧女中今竹、武五郎、同元梯、男達古着の彌多吉、虎藏、平のがん八、百姓きよろ作、千代藏、足利備中の正、けいせい岩ふじ、源藏姉篠原、三津五郎、信樂後室左枝、かしやの千代、又助女房おとり、杜若、望月源藏、男達鹿子勘兵衛、若徒松田新助、幸四郎、蟹江次郎太郎、奴段平、三八、娵早瀨、重松、同若菜、てうの助、奧女中繪合、しらべ、同常夏、政次郎、新造松人、にしき、同升壽、磯之丞、岩尾や女房およし、かてう、醫者欲野ごうてき、辨慶小左衛門、國五郎、杉山半藏、稲戸の玉將、佐十郎、中老眞住、堀の舟宿黑竹のおかね、辰之助、けいせい玉尾、玉三郎、求馬妹初音、藤藏、犬上一角、市藏、菊酒屋藤三郎、霙助、岩見太郎、菊酒や幸助、斯波の武衛（下り）三桝梅舍（三升他八事改名して下る）山名宗全、志賀左膳、岩尾や寐ず番ゆめ介、土左衛門、信樂の娘おのへ、賤の女お梅、細川息女薫姬、菊酒屋娘おきく、けいせい尾上、秀佳、谷澤求女、奴うづ平、きく酒屋手代嘉介、足利左門之助、淀屋辰五郎、家橘、第一番目五幕め（雲となり雪と積りて）「仇櫻夢夜あらし」けいせい尾上、しうか、求女、羽左衛門、上るり清元延壽太夫、清元一壽連中相勤大切所作事月雪花三ッ詠（吉きりやうな御好に任せ三都の名物な蒔繪の盞）「廻來手爾葉曲水」市村羽左衛門御名殘狂言○月、江戸砂子見突鱗コチ勝次郎淨るり常磐津文字太夫、同小文字太夫、三弦岸澤式佐相勤○花、京鹿子娘道成寺白拍子羽左衛門鶴雲、彥三郎、秀雲、三津五郎、芝翫、芝十郎、錦雲、幸四郎淨瑠璃「道行橋袖香」竹本戸和太夫、同入太夫三絃鶴澤市作同菊造○長唄囃子連中○雪、難波獅子雪花房石橋羽左衛門何れも大出來大々當り

○世界は鏡山けいせいの岩ふじおのへ加賀騷動の仕組大出來

○四月五日より「鎌倉三代記」安達藤九郎實は佐々木

高綱、梅舍、同女房おくる、團之助、在所かゝアおらち、團八、阿波の局、しらべ、同讃岐の局、かてう、富田六郎、翫太郎、三浦の母、市藏、北條時姫、しうか、三浦の助義村、家橘大切「新造色中汲」菊酒屋之段差出す役わり前にあり大に評よし○三月三日より河原崎座「鏡山再續俤」局岩藤の亡魂、北條時政、菊五郎、劔澤彈正左衛門、吉三郎、谷澤の後室おきの、常世、牛島主税、松助、足輕隅田平、廣右衛門、花房求馬、宇十郎、浮田主水、甚吉、岩淵軍藏、岩五郎、奥女中千里、箱右衛門、同しのざき、梅藏、同小いわ、七五三藏、奴姿見川平、菊太郎、川上彌九郎、澤平、平井正平、入藏、駒留伴四郎、榮來八、岡本屋手代喜三郎、德之助、地廻り竹澤の駒、萬九郎、中老二代の尾上、結城七郎、宗十郎、兒友若丸、源平、女小姓吉彌、七藏、小姓左門、才三郎、同右門、富五郎、奥家老淸之進、紀次、中間權平、宗三郎、奴淀平、七右衛門、こし元すさき、三花、同小梅、三好、同龜の井、さかへ、同淺茅、梅之助、同あやせ、三筋、奥女中待乳、梅三郎、同關屋、壽美之丞、大姫君、榮次郎、甘繩平太、鶴十郎、奥女中五百崎新車、花柄郡次、友右衛門、田舍娘およね、榮三郎、寺中間次郎吉實は結城七郎、安達彌太郎友純、團十郎、源の賴家公、長十郎、第二番目「東都名物錦畫始」秋月一角、菊五郎、佃屋喜藏、龜井彌三兵衛、吉三郎、粂本女房おいさ、常世、萩はら千次郎、松助、高木伴藏、廣右衛門、たいこ持龜吉、宇十郎、古利多道齋、虎五郎、でっち三太、甚吉、金比羅參りよい虎、箱右衛門、木挽の松六、岩五郎、同伊太郎、梅藏、料理人喜介、七五三郎、船頭の勘、扇太郎、小坊主西念、菊之助、金江金五郎、西方寺名月院、宗十郎、中間丸助、紀次、醫者富田逸竹、音右衛門、非人の捨、宗三郎、佐藤銀平、七右衛門、粂本おひで、三花、水茶やお松、三好侍女淺野、さかへ、粂本のおゆり、梅之助、同娘分おとみ、三すし、城木屋下女おゑい、梅三郎、筆屋おしか、榮次郎、菱川息女千種、壽美之丞、下部關内、萩原惣右衛門、鶴十郎、城木やおこま、新車同父庄太夫、同番頭丈八、友右衛門、げいしゃ額の小さん、兵部娘おみら、榮三郎、髮結才三郎、團十郎、兵部娘おらん、長十郎、第一ばんめと貳番目の間にて夕きり伊左衛門「廓文章」伊左衛門、宗十郎、喜左衛門女房おせん、新車、若者喜六、宗十郎、同五八、虎五郎、同仁助、箱右衛門、同三藏、紀次、同義助、音右衛門、同多

吉、宗三郎、阿波の平左衛門、鶴十郎、扇屋夕ぎり、榮三郎、吉田屋喜左衛門、團十郎、第二番目大切上るり小三金五郎お駒才三郎「擲櫻戀一道」金魚うり、宗十郎、おこま、新車、小三、榮三郎、法印、長十郎、才三郎、團十郎○清元延壽太夫、同美代太夫三絃同一壽、八五郎相勤いづれも評判よく大當り

○第一ばんいわふじ怪談貳度目第二ばんめ狂言廿文化八辛未とし中村座にてお駒、田之助、才三郎松助今菊五郎なり小三、路考、金五郎、源之助、一角、歌右衛門なりし此度菊五郎の一角は梅玉よりまさりて大出來也

○五月五日より中村座、「妹背山婦女庭訓」紫六内より山の段迄鎌足公、後室定高、九藏、同娘雛鳥、粂三郎、そがの入鹿、猪三郎、同妹橘姫、松之助、久我之助、福助、藤原淡海、清十郎、大納言兼秋、鶴藏、庄や杢兵衛、森五郎、民部太郎、廣五郎、天智天皇、國五郎、宮越玄蕃、三九郎、荒卷彌藤次、元五郎、紫六、一子三作、勝次郎、同杉松、百松、獵師紫六、三十郎、中納言行住、雷助、牛飼鐵九郎、大五郎、歌比丘尼妙清、猿廻し孫次郎兵衛、駒助、采女の局、歌女太郎、春米や新右衛門、瀧右衛門、妼きゝやう、春次、同小きく、此妻、山背の奥方植木の戶、小六、右大辨國房、歌助、紫六女房おきじ、虎五郎、大判司清澄、歌右衛門、第二番目「黄金成花街鷄」淀屋内之段、新兵衛内之段、淀屋手代新兵衛、九藏、同隱居吉庵、猪三郎、新兵衛女房おもよ、松之助、番頭清九郎、現十郎、手代藤七、鶴五郎、岩淵富藏、鷲助、若黨鷹助、冠五郎、淀屋辰五郎、三十郎、同針女お絹、芝鶴、仲居お若、若松、同おてる、勝次郎、新兵衛妹おつぎ、宮三郎、家主こゝら右衛門、歌助、叶や女房およし、小六、けいせいひな次、菊次郎、盜賊柿の木金助、神田丸の與吉、歌右衛門、大切「源平咲分つゝじ」扇屋上總、三十郎、同下男得手吉、清十郎、姉根輪の平次、現十郎、提重次、鶴五郎、手代れこ助、つる藏、人足廻し茂次兵衛、森五郎、扇折女おいろ、廣五郎、上林若者きやつ六、音八、扇おり女おせん、紫女太、同おまん、染之助、同お百、若松、同おひで、龜太郎、扇や娘さかみ、扇折女小はぎ實は敦盛、菊次郎、扇屋孫娘直江、粂三郎、熊谷次郎直實、歌右衛門、冠者範頼公、壽三郎、上るり竹本雀餌太夫、同志滿太夫、三絃竹澤大作、鶴澤瀧六何れも評よし大當り○五月五日より**河原崎座**

「菖蒲戀山崎（はなあやめこひのやまざき）」山崎屋與次兵衛、鴛昇甚兵衛、八わたや竹右衛門、菊五郎、倉岡丈左衛門、幻長五郎、橋本治部右衛門、吉三郎、後室繼橋御せん、甚兵衛、女房おしづ、常世、倉岡新三郎、船橋丹下、松助、葉山彥助、手代權九郎、廣右衛門、晝鳶さど七、ふじや治右衛門、宇十郎、足輕丹平、虎五郎、香取文治、甚吉、講中杢兵衛、箱右衛門、同市兵衛、駕かき金、岩五郎、佐倉郡八、駕かき文、善次、男藝しや都民中、七五三藏、でつち善太、菊太郎、水茶や佐介、扇藏、小奴あかん平、幸藏、南方十次兵衛、南與兵衛、下駄の市、女夫團子あやめの三五郎、宗十郎、鴻野友若丸、源平ふじや娘おせん、寅之助、げいしやおつた、七藏、鴛昇辰、紀次、質や善六、吾右衛門、三原有右衛門、下部市介、講中妙貞、七右衛門、女小娃金彌、榮壽、こし元さゆり、三花、同友芝、三好、同早苗、さかゑ、同若葉、梅之助、ふじや下女おきん、三すじ、同おつね、梅三郎、同娘おゑい、榮次郎、和泉新田のおくめ、壽美之丞、米や仁右衛門、人間鄉兵衛、鶴十郎、ふじやあづま新車、山崎屋淨閑、船頭鳶の長吉、友右衛門、女中關屋甚兵衛、妹おはや、山崎や娘おてる、女夫團子おはな、榮三郎、山崎や與五郎、野手の三、荒川左近、團十郎、八幡蝶之介、長十郎、第二ばんめ大切淨るり 双いはなれぬなか〳〵は蝶の女夫のふたり連「壯訥子色成田屋（わかいどしいろのなりたや）」三五郎、宗十郎、あづま、新車、お花、榮三郎、與五郎、團十郎、淸元延壽太夫、鳴尾太夫連中相勤

○當五月猿若町壹丁目専助地借歌舞妓役者市川團十郎に被御渡其節半紙貳枚つゞき板行にものせしを次に摸寫す

（圖畧す）

申渡

猿若町壹丁目
専助地借
歌舞妓
役者
團十郎

其方儀幼年よりにうわにて父母の心にそむく事なくげいどう心がけ去寅年父海老藏御仕置相成其方若年ゆへきう金もおとり其上借ざい厄介多なんぢうのくらし方有之處きう金受取度ごとはつほとなづけのごき置其比海老藏住宅いたす下總國幡谷村に送り同人大坂に旅行いたす節も路用その外あつく手當いたししげ〳〵書狀を以きげんを聞返書の趣いさい母すみに申聞安心いた

させ同年八月同人病氣のみぎりも水をあび成田不動ゐへいゆのきくわんいたし藥せんじ食事こしらへとふぢしん取こしらへかん病行屆其後歌舞妓役者共ゐ一とう猿若町壹丁目ゐ引うつり候に付其方も當時の住居ゐ罷越彌そふくそしよくをこゝろかけ候に付不勝手之やうを母しんばいいたすあいだ諸事しつそにいたすゆへこんきう無之樣心を用ひ芝居こうぎやう中きやう言のまく間も有之時は宅ゐ立歸り母のきげん聞妹ます弟幸藏をいたはりやういく致し姉みつをもむつまじく厄介いたし當其方父の弟子團兵衛は七十歳に相成やしなふもの無之に付引とり置病中より死後にいたるまであつく世話致しつかはし其方年比に相成聞妻をむかへるやう申すゝめ候ものあれどもしせん母の氣にいらぬ節は心づかへの趣相斷四年ほど以前より每朝しよふじん茶たちにて成田村新勝寺旅宿の不動ゐ日參いたし父の身分無事歸國いのり母をもなぐさめ右躰の孝心をつくし兄弟等の世話行屆段きどくの儀に付爲御褒美として鳥目拾貫文とらせつかはす

巳五月

右團十郎母
すみ

町役人

右之通北御奉行所にて被仰渡之

團十郎

四勿有聲譽君子遠戲場豈圖俳優藪產團十郎聞其孝弟
羨士人誰敢嘗家世住江戸爺曰海老藏前年蒙嚴譴放逐
出都鄙家亦以非類被移擯其坊裏囂雖切奕法不許相隨
歌舞書貫伎道源夜沽賣羅錢雖不多分獻資旅裝書信數
問安得報以慰孃極甘體病則躬藥湯兩弟及姉妹愛育共
同床輯睦致和氣一家貧寠忘更有爺弟子七十輩偎々取
養終天壽費用不論發人或勸婚娶輒辭曰不違心恐迂孃
意奉歎爲所妨持願爺無恙偕赦早歸鄉從爺來大坂至今
四星霜自斷茶焉内每朝祈佛堂々々其祀成田不動王積
誠感閭里令聞自擡揚乙巳維夏五官聽審且詳旌賜賞錢
萬孝名達四方嗚呼先王道所重是綱常吾輩奉其教徒語
則讀章厚顏聚使弟頰舌開張時乃頗演劇扮爲君子粧
十郎内君子外則優倡兩者孰可愧慨嘆發中腸

小竹學人近製

抑戯場俳優元祖市川團十郎は下總の人なり姓は堀起にして元祖段十郎より妓藝名譽なるを以て江戸名物の一個と號三才の童子と言へ共其名を知らざる事なし役者の首長として初代より爰に八代血統を以て家名相續して連綿たり父海老藏事去る天保寅年六月故あつて江戸住居なり難く遠國に漂泊して渡世をなす當時團十郎弱年にしていまだ藝道も未熟なるに母と兄弟四人中睦敷養育なし朝暮父海老藏の事をのみ懸念して一日半時も忘るゝ事なく母には心及ふ程は孝養を盡すといへ共父海老藏の手元にありし節の事を押量り母の不自由朝夕の事萬事に付父海老藏を案事心勞を見るに忍びず種々に諫め或は慰め兄弟にも相應の手當して養育し睦敷なして母に安心をのみ願ふといへども弱年にして給金の高低ければ萬端心に任せず獨り是を心勞して下總の成田不動尊は代々尊敬なす元祖出生の地の靈地なれば迚誓願をなし父の身分無事に歸國を祈りて母の安堵を見度亦兄弟の者にも生長させ倶に孝養を盡し追々老年にも及び他國住居も不自由なるべしと怠らず不動尊を祈り其身藝道を勵み出精の爲に芝居休之節は絶食の行を勤辛苦を厭ず孝養をなす事實に性質柔和篤實なる故とは申ながら斯る妓藝を業とし遊興を事となす懶惰放蕩の渡世其群に生長しても總役者の長たる家名を繼では同業の者をも憐み施し諸事聚に勝れて心を勞し年頃に及べ共妻をも迎へず孝道を思ひ朋友の信共に全からん事をのみ怠らず勵し故に其孝信の實天に通じて今年恐れ多くも公廳に達して孝子奇特之者なるを以て御褒美として鳥目を下し置れ江戸町々に號令ありて諸人に孝行の旨を觸れ知らしむる事になりければ團十郎は誠に心魂に徹し恐れ多く愧耻入といへ共母ますは有がた涙に袖をぬらし我子の面目早速に父海老藏へ早飛脚を以て告けるにぞ海老藏は是を聞折節食事の時にてありしが我を忘れて持たる箸も飯椀も取おとしあの悴〳〵とばかりものさへ言れず有難涙喜び涙嬉し涙を止めかね人目も耻ず聲をあげ泣しづみしぞ斷りなるよふ〳〵心を落付斯不幸なる親を持同古郷の住居も恨ず剩親の厄介を若年の身に引受て苦勞さするも不便ぞと思ぬ日迚はあらね共心に任せぬ不自由悴めは此悦ふ顏が見たいであろふに逢て一ト言適悴よふしてくれる忝と譽ておすみや子供

等と共に愛度打寄て安堵させたらどの樣に悦び居らふと袖袂涙を絞るぞ斷りなり右返書こま〳〵と認め飛脚へぞ渡しける扨團十郎孝行の事浪花の狂言作者西澤一鳳三都に比びなきものにて飛きやく早々立歸り書狀さし出も可申次第にて口達に及ける團十郎初め母おすみ兄弟共打寄返書をよみ畢る先きだつものはなみだなり孝子の悦の文を書遠近の知己に送りしとぞ、去る弘化元年秋大坂の芝居役者中山文五郎（俳名美男家名大坂や）師匠中山文七老年に及び多病にして業躰も勤兼しを文吾朝暮機嫌を問看病し孝行を盡し其事公廳に聞ゑて御褒美を下し置れし事世々稀なる奇特ものなりと人々申あへりしに此度は花の東に名高き團十郎が孝行迚京大坂も一統に街の噂に富名せり尋常の渡世にあらぬ懶惰遊興なる中にかゝる眞心あるものは古今いまだ聞ざる所也諺に云泥中の蓮瓦中の玉と云ふべきものなるべし〇六月二日より市村座「東鑑怪談噺」けいせい陸奥實は小二郎、近村船頭半七、藝しや三勝、小平次女房お百、平右衞門、彥三郎、誓玄坊主、山賊雲夜叉、多九郎、川長若者、長九郎、六郎、芝十郎、常若、こま藏、家主杢兵衞、仁右衞門、菊四郎、娵葉すへ、おはね、けいしやおなる、團之助、有誓坊主、小賊太郎、團八、伴左衞門、甚八、大次郎、侍軍次、武五郎、よし時、五郎兵衞、浪人仁三郎、幸四郎、侍伴吾、雛太郎、腰元錦木、にしき、仲居おかつ、てうの助、同おてう、しらべ、けいせい萩衣、福之丞、仲居おいね、かてう、侍源次、十右衞門、奴三平、佐十郎、同三平、侍勝平、小次郎、次郎太夫、佛孫兵衞、市藏、待宵姫、玉三郎、常たね、げいしやおその、梅舍、女六部秀月實は星の井、おのゝお通、しうか、大詰盜賊武五郎、久藏、雛太郎、眼介、島八、らい八、二番目中幕淨るり一諾同士隅田道行」半七、彥三郎、おつう、しうか、富本豐前太夫、豐紫太夫三弦名見崎安治（萬藏改）同與惣次、同紫長相勤」嫗山姥」（廓ばなし一番目二ばん目の間に）たばこや源七實は坂田藏人、梅舍、娵おうた、菊四郎、同白きく、團之助、太田の太郎、團八、こし元若葉、しらべ、同千草、政次郎、局岩浪、かてう、澤瀉ひめ、上三郎、萩のや八重桐、しうか、太田の十郎、幸四郎、上るり竹本嶋太夫、三弦鶴澤菊造〇七月十五日より中村座「石田詰駒眞砂路」曾呂利新左衞門實は小西彌十郎、細川兵部大輔藤高、眞柴大領久吉、九藏、大領愛妾淀町御せん、女達三上のお百、

松之助、奴矢田平實は三浦隼人、福助、眞柴金吾久秋、瀬川采女、清十郎、信盛妻岩浪、現十郎、狩の雅樂之介、鶴五郎、岸田刑部、鶴藏、五右衛門手下金藏、森五郎、監物の妻みどり、廣五郎、帶刀妻さの路、鷺助、堅田の平助、團五郎、桃山おはした、泥谷善生、冠五郎、眞柴中將久次、紫野一如禪師實は齋藤内藏之助、岩城主税之助、三十郎、石田の娘あやせ、祇園の水茶やおりつ、粂三郎、お次丸久勝、茂々太郎、槌井順慶、吾八、彼古立次郎妻松ヶ枝、芝鶴、嶋原仲居嬉しの、染之助、同秋しの、紫女太、同みよしの、若松、同寄しの、勝次郎、奥女中左枝、歌女太郎、同玉苗、春次、けいせい九重、宮三郎、小田有樂齋、歌助、大野彈正秀連、猪三郎、内藏之助妻七浦、新左衛門娘蘭女、石田の姉娘瀧川、菊次郎、早川高景、石田の局、石川五右衛門、歌右衛門、木村主殿之助、壽三郎、第二番め「増補浪花鑑」一寸徳兵衛、九藏、同女房おたつ、松之助、道具や傳八、現十郎、同孫右衛門、叛右衛門、中買彌市、廣五郎、こつぱの權、駒助、なまの八、冠五郎、でつち庄吉、相藏、まつりのねり子松吉、小松、團七悴市松、多家藏、道具や手代淸七實は玉嶋磯之丞、釣舟の三ぶ、三十郎、ねり子ちよ吉、千代び

助、ちもりげいこ琴浦、宮三郎、三ふ女房おつぎ、道具屋うばお倉、小六、三河屋義平次、猪三郎、道具や娘お仲、團七女房お梶、菊次郎、團七九郎兵衛、介松、主計之助、歌右衛門、上るり竹本雀餌太夫、同歌太夫、鶴澤大作、同叛六相勤第一番目五立目（君の仰な狩衣のしばし局の今様の哥きよくは）「戀弦結繝鉄」久次、三十郎、瀧川、粂三郎、早瀬、菊次郎、石田の局、歌右衛門上るり常盤津文字太夫同佐喜太夫三弦岸澤連中相勤何れも大出來大當り大詰洞ヶ嶽より樓門がんどふ返し大道具大仕懸け評よし〇七月十五日より河原崎座假名手本忠臣藏（表と裏二十二まく）高の師直斧九太夫、妼おかる、菊五郎、鹽谷判官、近藤源四郎、不破數右衛門、吉三郎、由良の助女房お石、おかる母おかや、仲居おつた、常世、千崎彌五郎、貸本や彌市實は與茂七、松助、鷺坂伴内、狸の角兵衛、廣右衛門、竹森喜多八、酒や下女おなべ、寺十郎、大友主水、種ヶしまの六、虎五郎、足利直義公、倉はし金助、甚吉、馬士箱根のとら、下女りん、箱右衛門、六角左京、たいこ與三太夫、岩五郎、事ふれ何れしそじん八、酒やでつち池太、善次、猿島左文太夫、たいこ荻江、千代作、七五三藏、同里八、在所娘おさく、菊太郎、

百姓金十、たいこ抜江、權三郎、澤平、國露助、百姓かん太、人藏、茶道珍才、小の藏、大星由良之助、加古川本藏、一文字や才兵衛、槃の谷半之丞、宗十郎、あんま歡市、村松喜平、紀次、寺見幅右衛門、めつぽう彌八、吉右衛門、杉本十平次、一力亭主專助、宗三郎、百姓與一兵衛、矢間十太郎、七右衛門女小姓松風、菊壽、箱根の湯女おさん、三花、同およし、岡野妻ハナせ、三好、仲居おこう、與田姉いそ浪、さかゑ、磯貝妹眞弓、仲居おちよ、梅之助、同おきん、浦松娘花の盃、三すじ、赤松姉關路、仲居おむめ、梅三郎、同おゑい、又之丞、妹小蝶、紫次郎、原郷右衛門、吉田の兼好、鶴十郎、大星力彌、赤穗酒や娘お花、小の寺娘渚、新車、山名次郎左衛門、せげん傳六、赤穗酒や四郎兵衛、友右衛門、かほよ御前、仲居おせん、本藏、女房となせ、紫三郎ニ若狹之助、早野勘平、寺岡平右衛門、錺間宅兵衛、斧定九郎、石堂右馬之允、團十郎、舞子和歌吉、長十郎、第三段目のうしろ道行「旅路の花聟」おかる、梅幸、かん平、團十郎淨るり清元延壽太夫同鴨尾太夫、三絃清本一壽、八五郎、相勤申候より大出來大當り〇八月十三日より市村座「義經千本櫻」（羽左衛門早速立歸り後日江に千本の裏表）川越太郎、いかみの權太、伊勢の三郎、渡海や銀平實は知盛、彦三郎、武藏坊辨慶、漁師十作、片岡八郎經春、芝十郎、鷲の尾の三郎、高麗藏、入江丹藏、いしや寒齋、菊四郎、卿の君、銀平、女房お安、若葉内侍、團之助、逸見の藤太、千本の下女お竹、猪の熊大之進、團八、六ッ田の七、大次郎、宮内彌藤次、土田の八、武五郎、小茶や喜六、九字藏、猪の熊大藏、龍八、吉野案内子道松、勝次郎、でつちせん太、鶴之助、千本の後家小せん、典侍の局、杜若、横川覺はん、漁師太郎作實は佐々木藏人、七兵衛景清、幸四郎、六代君、橘藏、安德天皇、百松、大物の浦船頭吉、相藏、梶原七郎景持、海野太郎、梶太郎、妼かる萱、しげ松、同小萩、てうの助、同きゝやう、しらべ、同尾花、政次郎、蜑おきん、にしき、同おふく、福之丞、局藤浪、かてう、川つら女房あすか、辰之助、駿河の次郎、庄屋杢郎兵衛、佐十郎、龜井の六郎、小次郎、こし元まがき、玉三郎、九郎判官義經、主馬の小金吾、梅舍、靜御前、十作娘千鳥、千本娘お里、しうか、佐藤忠信、源九郎狐、すし賣彌助、三位中將惟盛、三保ノ谷四郎國俊、漁師橘次實は但馬經政、羽左衛門、第四段目「道行初音旅」しづか、しうか、忠のぶ、家橘、淨る

り常磐津文字太夫、同兼太夫、三絃岸澤式佐連中、淨瑠璃竹本美代太夫、同□蒲太夫、三絃鶴澤市作、金三郎、同菊造相勤大出來○九月十一日より中村座「紅葉成綾繒褸錦」春藤助太夫、高市武右衛門、春藤次兵衛後に尺八指南□□嘉門、九藏、入江奥方漣御前、伊兵衛、女房おぬい、松之助、春藤新七、福助、同下部伊兵衛、清十郎、加村丈助、進藤彌七、現十郎、花園中納言、鶴五郎、山伏奇妙院、備後や手代喜兵衛、鶴藏、いしや善快、森五郎、若徒與五平、按摩慶安、廣五郎、片山軍次、鷺助、星崎源吾、團五郎、飛脚早介、冠五郎、奴りん平、三吉、備後や下女おさは、芝喜藏、彥坂甚六、加村宇田右衛門、春藤下部佐兵衛、三十郎、須藤の娘お岩、琴の師匠出口のお柳、粂三郎、武左衛門悴庄之助、茂々太郎、入江の奥女中野分、芝鶴、奉公人口入仙兵衛、十藏、千日參り了念、雷助、茶舟のり八、駒助、三好淺次郎、染之助、入江のこし元紅葉、紫女、多花園息女千草姬、若松、嶋原けいせいかめ鶴、歌女太郎、原文次、翫右衛門、須藤の下女おとく、春次、入江小太郎、友達娘おいと、宮三郎、入江の御部屋お松の方、備後屋下男當助、歌助、佐兵衛女房おみよ、小六、須藤六郎太夫、高木大學、猪三郎、次郎右衛門女房お春、嶋原けいせい小車太夫、びんごや娘お六、菊次郎、須藤六郎左衛門、春藤次郎右衛門が渡し守勘の浦の又六、備後屋重兵衛、歌右衛門、入江修理之助、壽三郎、築貳ばんめ大切上るり（お好に任せ又いにしへの傚なうつす）「花野露色相駕籠」與四郎、九藏、禿、粂三郎、次郎藏、歌右衛門、常磐津文字太夫連中大出來大當り○九月六日より市村座「廓文戀飛脚」甲子槌屋文四郎、彥三郎、晝鳶六藏、芝十郎、たいこ持西川林藏、高麗藏、甲子樓かヽへ枝川、菊四郎、同難波津、團之助、醫者針立道庵、團八、甲子樓やりておしげ、大次郎、奴床下剃今六、武五郎、地廻り砂利場の音、三太郎（其外大勢）辻占くわし賣、八、九字藏、禿にほひ、百松、茶や廻り增五郎、鶴之助、忠兵衛言號おすは、杜若、丹波屋男藏、幸四郎、龜屋でつち長太、橋藏、禿かほる、相藏、龜屋手代利兵衛、翫太郎、竹本娘おきく、しげ松、武藏野の下女おてう、てうの助、同おいわ、しらべ、同おまさ、政次郎、甲子樓新造歌梅、にしき、同せと梅、福之丞、通ひお針お糸、かてう、梅川の番新梅山、辰之助、新造梅しそ、佐十郎、堀の船頭吉、小次郎、新造梅井、玉三郎、若徒忠三郎、梅令、甲子樓

かゝへ梅川、しうか、傾城忠兵衛、三八、百村孫右衛門、羽左衛門○廿八日より比翼紋花街寫繪　百姓十右衛門、彦三郎、おかんはゝ、芝十郎、まむしの次兵衛、高砂藏、うけ、權兵衛、菊四郎、さゝや娘おみつ、團之助、久下女お常、團八、新十郎、彌市、大次郎、石原又平、武五郎、中間丈下助、むい八、長兵衛、女房おとき、杜若、此村大吉、橘屋長兵衛、芝四郎、同伜長松、橘藏、下部細内、藤太郎、三浦の新造此糸、しげ松、同糸ゆふ、こうの助、同花糸、しのゝ、同初いと、政次郎、笹や下女おきん、にしき、車屋の下女おます、編之丞、おはりおいね、かてう、さゝや女房おすゞ、辰之助、本庄助太夫、佐十郎、久住早太、小次郎、車や娘お市、十三郎、按摩とり助市實は下部八内、梅介、本庄の娘八重梅後三浦やの小紫、白井權八、しうか、本庄の奴定助、羽左衛門、浄るり梅川忠兵衛道行故郷の露けいせい梅川、しうか、忠兵衛、孫右衛門、羽左衛門、清元延壽太夫、同榮壽太夫榮治也三弦三みせん清元千藏相勤大出來大當り

○九月十五日より河原崎座七月狂言の節…きゝ十三ヶ條々傳ふ假名手本忠臣藏石屋五郎太實は早野勘平、高の師直、娘おかる、菊五郎、田代安兵衛、矢間十太郎、さんぴん太助實は近藤源四郎、吉三郎、九太夫後家お熊、由良之助妹おせき、女筆指南つたの、常世、千崎彌五郎、鹽谷縫之助、松助、原方彌助、入間荘兵衛、鷺坂伴内、廣右衛門、竹森喜多八、研屋伊四六、宇十郎、奥野將監、さんまの權、虎五郎、下部定助、倉橋金助、甚吉、下女りんや、みの八、箱右衛門、相手や十兵衛、赤垣專藏、岩五郎、そばや二八、妹わか葉、善次、吉田忠左衛門下女おきん、七五三藏、勝田新三郎、菊太郎、門番夢介、小の藏、家老仙右衛門、[illegible]藏、天川や義平、門付人形とししの次郎八、大星由良之介、宗十郎、義平一子由松、源平、浦松喜兵衛、しけりの吉、龍次、からつぶしの久、間瀬久太夫、吉右衛門、北村傳次、小林平内、宗三郎、猪の熊郡次、大星瀬左衛門、高野伽小はぎ、三花、同お竹、岡野妻八十瀬、三好、貝田妹なみ、高野こし元尾花、さかへ、同きゝやう、磯貝妹眞弓、梅之助、稽古娘お京、高野姿禿富、榮次郎、浦松娘花のか、高野姫霜夜、三すじ、赤垣姉關路、茶屋女およし、梅三郎、田代孫左衛門、家主杢兵衛、原郷右衛門、鶴十郎、織部妹娘おしな、九太夫、娘お組、門付三すじのおいと、大星娘小浪、新車、織部彌次兵衛、若徒北八、間瀬傳内、友右衛

門、織部姉娘おきく、ゆらの介女房お石、義平女房おその、與茂七言號お民、かほよ御前、榮三郎、大星力彌、錺間宅兵衞、寺岡平右衞門、里見佐五右衞門、佐藤與も七、大わし文吾、團十郎、足利直義公、長十郎、五幕目淨るり道行「露時雨千種濡色」宗十郎、新車、榮三郎、團十郎、清元延壽太夫連中相勤大切おしゆん傳兵衞白ふじ源太「花川戶身替の段」井筒屋傳兵衞、菊五郎、男達釣かね權兵衞、吉三郎、傳兵衞母おつた、常世、行司丈之助、松助、增田郡藏、善次、舩宿貸や與次郎、宗十郎、茶屋娘おせん、三よし、園生の前、榮次郎、おしゆん妹おとく、新車、古手買八兵衞、友右衞門、げい者おしゆん、榮三郎、白ふじ源太、團十郎上るり清元連中相勤大出來大當り顏見せ○十一月朔日より中村座「花䀋大江山」渡邊のつな、人是翫し小栗栖の睢六、九藏、女順禮お梅實は仲國娘深雪、小式部內侍、粂三郎、鈴木山の道魔道人、猪三郎、基房息女粧姬、純友娘桔梗の前、松之助、美女屯後源賴信、清十郎、平の秦盛、現十郎、源の賴光下り尾上菊十郎、鹿島三郎、鶴藏、幸町の中將盛平、森五郎、綺立次郎、廣五郎、丹波の源八、岩五郎、宗春奴淀平、團五郎、かつらきの蜘夜叉、冠五郎、綱が伯母村雲實は茨木童子、ゑい山の兒磐石丸、市原鬼同丸、菊五郎、大宅太郎妹滿汐、さか江、花園かし付梅の戶、梅三郎、大江の匡衡、女房關の戶、瀨川路三郎、白川、卜部季武下り市川男女藏、九條けいせい小夜風、野伏りおよね實は瀧夜叉姬、榮次郎、物部の平太有風實袴垂保輔、平井の保昌、幸四郎、春宮の太夫惟忠、壽三郎、第一番め六立目積る思ひの數々なまだ文さへも「幾野路解紐」幸四郎、くめ三郎、九藏、當顏見世狂言幕數多く殊に短日の砌に御座候へば幕數揃かね候に付來午年春狂言に取交せ御覽に入候取あへずお半長右衞門の世話事狂言五幕取仕組來る十三日より差出との口上あり「御注文妹脊組帶」片岡幸左衞門、九藏、しなのやおはん、粂三郎、片岡幸之進、猪三郎、げい者小野、松之助、早瀨主水、清十郎、本間五郎九郎、現十郎、香具や才三郎、菊十郎、山城屋義兵衞、廣五郎、町髮結才三、菊五郎、お半母おかや、坂東岩獅、百足や金兵衞、岩五郎、しなのや下女お政、春次、刀屋勘藏、姿見吉右衞門、茶汲女おかね、さかゑ、仲居お梅、梅三郎、尾濱や女房お玉、路三郎、若徒段助、男女藏、長右衞門女房おきぬ、榮三郎、帶屋長右衞門、幸四郎、町かゝへ金藏、壽

三郎、篠武ばん目大切上るりお半長右衛門に「道行思案餘」座頭てる市、九藏、おはん、粂三郎、長右衛門、幸四郎、清元延壽太夫連中相勤評よし狂言作者三升屋二三治、田島此助、河竹雀則、豊嶋新藏、幸若周藏、並木五瓶○十一月朔日より市村座顔見世「會稽信田雪錦誕」阿部の保名、純友嫡男重太丸、奴狐勘平實は塚本狐、富士由先達正部民部大輔、羽左衛門、室橋權の頭照久、奴彌勘平、丁子や手代政八、伊賀壽太郎、三十郎、菅倉治部大輔、奴與勘平、夜商人正月やあづ吉、梅舍、保憲息女檜の前、好古御臺寄浪御前、大坂下り女輕業おふさ、仲居おはなり下り藤川花友、舍人立浪主税、手品遣玉太郎、輻助、右大辨諸忠卿、修驗者犬神の紋、盜賊しづへい太郎、菊四郎、あしや道滿、加茂神職齋宮小次郎、金剛太郎政勝、奴すかん平、三八、賤雲夜及、乾平馬、雲助、伴の景虎、鶯堂樓四郎、虎五郎、あべの童子、多家藏、照綱一子照之助、百松、葛の葉姫、侍女深ゆき、けいしやおかつ、まつ三、同おたま、くずのは侍女霜夜、蝶之助、同早咲、げいしやおてう、しらべ、けいそう文うりあや衣、大黒や娘おろく、歌女太郎、榊の前あのと道芝、松前女商人おとせ、蜑おつる、芝鶴、淨藏貴所、賊うろこ九郎、男達喜七、大次郎、武藏五郎、加茂の後室轟御前、米つき辨四郎、猿右衛門、石川彈正左衛門、もめんうり與九郎、講頭南無妙右衛門、瀧口靱負之助、小くるす八郎、いせ參り竹、三田八、好古息女六の君、女こむ僧呉竹、下女お梅、藤藏、照久妻つくばね、左大將の息女敷妙、わたし守おつゆ、小六、經基息女もしほの前、くづのは侍女玉こと、玉三郎、石川惡右衛門、いつてつ丹藏、菊の番付うり五郎七、芝十郎、信田息女葛のは姫、女非人お町實は左近太郎女房花町、遊女いよの、長柄伊賀壽妹みさこ、しうか、左近太郎照綱、しのだ森くづの葉姫、式部太夫伊井、源經基卿、雲助大七、賤の女おうた實は和泉千枝狐、歌右衛門、大切淨瑠璃色なきも一對のイト面白き二人妻アラ美紅の三人奴「吾住森六花裡梅」やかん平、三十郎、すかん平、三八、惡右衛門、芝十郎、道まん、小次郎、與かん平、梅舍、草かり橘藏、童子、多家藏、くづのはひめ、しうか、くづのは狐、棒はなの長助、小原女、歌右衛門、狐かん平、あべ保名、羽左衛門、何れも大出來○四立目だんまり惡右衛門、芝十郎、伊井、歌右衛門、保名、羽左衛門上るり少々替り外は天保二年興行の通り淨るり常磐津文字太夫

連中相勤狂言作者櫻田治助、福森久二、清水正七、村柑子、近松藤助、藤本吉兵衛○十一月朔日より河原崎座「繪本大當記」小田春永公、狩人霧藏、山口九郎次郎、蛇の目すしの虎、十河軍平實は佐藤正淸、彥三郎、足利御母公椎壽院、小田御臺几帳の前、是齋女房はおさち、祇園しん地蔦やおせん、常世、柴田權六、植木うり松、福島市松、小田三七春孝、松助、三上雲夜叉、火車小次兵衛、飯田角兵衛、廣右衛門、田熊玄番、新地のせげん善六、筒井順慶、團八、三好修理之助、いしや妙案、長尾彌太郎、宇十郎、盗人木藏、三宅源內、武智郎等大崎八郎、宗三郎、足利義てる公、吉川內藏人、つたや息子小七、甚吉、石原新吾、大工作兵衛、國五郎、小田三法師丸、幸藏、森の力丸、鶴之助、此下東吉、後眞柴久吉、齋藤內藏之助、文遣ィ鳫金や文七、仕丁紀の又實髙由右近、安田作兵衛、宗十郎、輝若丸、源平春永小姓坊丸、友松、小田息女初鳫姬、七藏、乾丹藏、百姓三毛右衛門、紀次、同作左衛門、本能寺、日和上人、當助、朝倉左門、武智郎等大須賀四郎、箱右衛門、長尾妹初しも、ぎおん仲居およし、三よし、淺山妹たつた、奧女中松ヶ枝、園梅の井、福之丞、らん丸妹若草、よし輝妾花橘、つたやの抱おゑひ、榮次郎、瀧川左近、庄や茂兵衛、辻占杉弟佐十郎、淺山多三、あめうり五三七、お國歌舞妓作者竹田出雲、七右衛門、光秀妹きゝやう、つたやの抱おしげ、園生の局、團之助、矢代條助、入江長兵衛、連歌師紹巴、鶴十郎、東吉女房おきく、是齋娘お露、侍女もみぢ、森のらん丸、新車、小西行長實は松下嘉兵衛次、三輪右衛門、風呂のおつめ、松永鬼藤太、友右衛門、狩のゝゆき姬、乳人侍從、出雲のお國、光秀妻さつき、侍女かへて、菊次郎、松永大膳、下男新作實はそろり新左衛門、仕丁成又實は武智左馬之介、狩野之助直信、武智十兵衛光秀、團十郎、同十次郎光よし、長十郎貳ばん目大切淨瑠理林間に酒な喫して顏に紅葉の三人生酔「雲衛士白張」仕丁紀の又、もみぢ、宗十郎、かへで、菊次郎、玄蕃、團八、新車、成又、團十郎、仕丁大勢常磐津文字太夫連中相勤○十一月廿二日より「關取千兩幟」北野や吉兵衛、彥三郎、千羽川女房およつ、常世、市原九平太、廣右衛門、鶴屋手代善九郎、團八、角力鍬形鋤藏、宇十郎、村岡團右衛門、宗三郎、せげん源六、國五郎、大坂や佐右衛門、虎藏、呼出し奴小の八、新藏、角力出目山勝藏、桃太郎、同籠岩、金太、

團藏、同片岡市藏、團助、鳥取荷川治郎吉、宗十郎、若徒瀬平、雷助、けいせい錦木太夫、團之助、彌太夫娘お才、新車、つるや淨久、友右衞門、岩川女房おとは、菊次郎、鶴屋團三郎、鳥取鐵ケ嶽陀右衞門、團十郎、行司志村丈之助、長十郎、淨るり竹本戸和太夫、雛太夫、秀大夫、三絃竹澤大作、鶴澤市作、[illegible]、何れも大出來狂言作者篠田瑳助、本屋半七、勝見鬮三、本屋吾助、鶴屋南北、河竹新七

○足利館より道行だんまり（團藏、彦三郎、赤松、宗十郎）大膳、團十郎（實は太田末春實は熊谷直實）本能寺上るり迄評判宜し三芝居顔見世狂言日數打切る

七代目岩井半四郎久々病氣にて出勤なかりし所此世の縁のかぎりにや終に四月朔日四十二歳を一期としてあはれ淨土に趣かれけり惜しむべし〳〵

法號　現光院紫若日藤信士（寺は深川淨心寺）

此太夫は文化丙寅中村座初舞臺にて岩井松之助と云同十一甲戌娘形文政五壬午顔見世より上上　紫若と改名して森田座に下り（此時より大名題に上る）天保年上方に登り天保六乙未四月中村座に下り御目見え奥女中松本幸四郎市川團藏三人役の上のだんまり大評判是より追々評よく弘化元甲辰三月中村座にて七代目岩井半四郎と改名猿若狂言鏡山中老尾上（半四郎）お初（一世一岩ふじ　菊五郎）貳番目助六（八代目半四郎改名口上あり）揚巻（半四郎）いや意久（四郎初）何れも大出來然る處追々病氣重く現世を去りて遠き御國え趣し

辭世　時鳥わが紫の雲に啼　紫若岩井半四郎

父戀し嵐もわらの丸に落子かな　紫童岩井粂三郎

撫子におくれて雖をかきつはた　五代目 杜若岩井杜若

秋またで此世や思ひきりの花　納子

今に咲花は根にあり燕子花　三升

師の恩や跡に芝蘭の風かほる　龍紫岩井松之助

花ふるやけふ極樂の煉供養　しうか

花うりて面影見ゆる衣更　菊次郎

ゑほしきてけふは輿かけ白丁花　三津五郎

花ちりて櫻の實をは殘しけり　幸四郎

糸萩は秋をもまたすしをれけり　歌右衞門

白けれはとこやら淋し花いはら　家橘

ぬきかへてけふ卯の花の白かさね　榮三郎

岩藤やおのへの役を思わるゝ　梅幸

うたゝねやさめて夢のものかたり　文字太夫
精進に若鮎籠やほとゝきす　延壽太夫
燒香は芝蘭の風のかほりかな　現十郎
思ひ音に鳴てあかすや時鳥　鶴藏
血を吐しやうすは見へずほとゝぎす　新車
ぎし〳〵の花は輿かく音かとよ　友右衛門

浪花役者句略之

岩井紫若兒の名を繼て七代め半四郎と名のりしに
改名一年にしてかね〳〵の病の爲に四月の朔日世
を早ふせしとて大急用の書狀におとろきて

封をきる間にさへ胸や踊り草　在大坂 市川海老藏

紫にかゝる涙は染色に　夜雨庵 白猿
　さめてはかなき夢の世の中

淺尾工左衛門死去
天保十四癸卯九月市村座え下り當年迄居なりに相勤
し所はからず冥府の客とはなられし評判記出板無之
右法名不知

極樂のみちは淺尾と二人りつれ　坂東三津五郎

如是發句集に見へたれば同時比に終りしにや

花江都歌舞妓年代記續編卷の二十

●弘化三丙午歳

○正月十一日より中村座「筏曾我大江山入」（去顔見世狂言曾我を取実）渡邊の綱、小林朝比奈、近江小藤太、九藏、多田の息女桂子、けはひ坂少將、粂三郎、道魔道人、坂田の公時、曾我太郎祐信、猪三郎、綱女房橋富、關白息女粧姫、松之助、大藤内成景、現十郎、源の頼光、菊十郎、秦の勇藏、鶴五郎、百足や金兵衛、鶴藏、横淵九平太、森五郎、橘立次郎、廣五郎、甘縄平太、若五郎、箱根の畑右衛門、武五郎、伊豆の小蒲太、冠五郎、大礒屋傳三、菊太郎、公連の文珠丸、朝次郎、源の世繼丸、尾上菊之助（熊吉改名）如笛平、尾上榮三郎（菊之助改名）ゑび山見般若丸後酒吞童子、綱伯母村雲實茨木丸、工藤左衛門、曾我十郎祐成、菊五郎、同五郎時宗、坂上是則（下り）多見藏（尾上多美藏三度め下り）、金剛太郎宗吉、高麗藏、小舍人桔梗丸、茂々太郎、禿かむろ、小松、碓井の貞光、若獅與女中久須美、春次、叡山快轡阿闍梨、音右衛門、庄や杢郎兵衛、音八、けいこ娘おせん、與三郎、同およし、榮枝、曾我二の宮、粂之助、官女小はた、しけ松、同錦木、若松、同かゑて、さかゑ、鬼王妹十六夜、梅三郎、渡邊妹かほる、路三郎、卜部次官季武、是則の妻有明、鬼王新左衛門、男女藏、けいせい小夜風、周防の内侍、大礒のとら、梅幸、榮三郎（改名）物部太郎有國後犄垂保輔、平井保昌、八幡三郎、七兵衛景清、幸四郎、源頼朝公、壽三郎、大切多見藏「御土産狂言（難花江の松の操も心も清き堀川に）」「目出度慶猿若一諷」猿廻し與次郎、（下り）尾上多美藏、同母お銀、岩獅わかかひや八兵衛、鶴藏、横淵九平太、森五郎、古手屋五郎兵衛、廣五郎、肝いり簑助、入藏、けいこ娘おみき、尾上竹三郎、同おしけ、與三郎、同おきぬ、紫女太、やとひかかあおさん、音右衛門、釣鐘や權兵衛、現十郎、げいこおしゆん、梅幸、井筒や傳兵衛、菊五郎、淨るり竹本戸和太夫、同島太夫、三弦鶴澤市作相勤る何れも大出來大當り○此度梅幸改名御披露の摺物綴本にして差繪は歌川國芳畫かけり其餘に自序あり左に記す

元祖菊五郎梅幸は亡父の師なりければやつかれ榮三郎なり舊名を既に還暦の齡ひも越たれ今とし猶子に女名を遣りて段々と名をゆつりの葉の春なかく御引立をねがひ奉り只〳〵老樂の心を安うせん事を思ふ

のみ

おろそかにすな橙の門餝り　梅壽

（梅幸　更三　榮三改　菊之改　青吉　熊改）

讓られて大事の花よ接穂うめ　梅幸

筋隈の引始哉朝かすみ　榮三郎

眞似やせんまた鶯の啼習ひ　菊之助

梅さくやもとより松も一つ垣　三朝

梅か香のかくはし凡四里四方　多見藏

菊の時はきくにも名あり梅の宿　榮次郎

富士までも伸し度ものは凧　朝次郎

古木から傳へて梅の盛りかな　常世

盃の壽の字氷るやうゐの舍　三升

見知り名の多し御慶の手札差　薪水

いさきよき朝よ尾上のきしの聲　錦升

芽出しから上手よ幾くの花作り　しうか

とし毎に薫りて梅の古木かな　秀調

歎はしひとつ凸のわかな摘　家橘

其花の末たのもしや芽出し菊　翫雀

忘れしなその元種の根分菊　菊次郎

小枝まで枝の揃ふや鉢の梅　納子

三千里と丶のふうめの月夜かな　三猿

松に梅身の養ひや庭狹　杜若

梅に添ふ壽も哉鉢の松　三升屋 榮思

其薫りひとかたならず垣の梅　五瓶

袖凧を空の摸樣や日本晴　左交

摘替へて女蔞てふ艸や面白み　南止

幸ひは子に讓りたる年始かな　二代目 豐國

おのつから梅の匂ひや舞臺香　延壽太夫 太兵衛

年々に殖し愛たし年始門　文字太夫

咲匂ふ菊の籬にさしかさす
　ゐた葉榮ゆる梅の壽こ　山東 京山

たつ春とともにひらける梅か香を
　花の兄きと誰かいはまし　立川 焉馬

袖に香を添てゆつれる梅幸茶
　かほりも高き花の下蔭　梅屋

賑はしや壽く春を幸ひに
　さき榮たる梅の花園　六朶園

苔まて粒や揃ふて鉢の梅　鳥居 清滿

とふ見ても女也けりうめ柳　菊善

年玉や名を新玉の草双紙　貞雲

取添て名もゆつり葉や鏡草　善哉庵 永機

江戸一の花の名札よ根はけ菊　寳晋齋　鼠肝

丙午春　梅壽梅幸粂三郎菊之助肖像鉢植之寄樹圖略之

○正月十一日より市村座「當曾我武繪懸額」曾我の五郎、猪の早太忠澄、大神樂丸市、元太夫、松田左馬之助、國府津甚之丞、小西彌三郎行家、家橘、鬼王新左衛門、宇治左大臣、大神樂笛吹嘉平、賣卜者赤澤左內、岸澤判官、三十郎、八幡三郎行氏、賴政郎等丁七唱、高木源右衛門、早川高景、豐久次、梅舍、和田の舞鶴、久次、姒白菊、傾せいきせ川、藝者おふさ、正清妻八代、花友、木田孫市郎、白酒賣ふし吉、福助、曾呂利新左衛門、朝倉主膳、小田春雄卿、朝日屋藤兵衛、三八、大谷主税、へ弐遣ひお市、草履取り宅內、岩淵丹下、虎五郎、眞壁鬼藤太、駒助、犬坊丸、橘藏、正清一子虎之助、氏若丸、多賀藏、源實朝公、相藏、飯沼新八郎、代官きう右衛門、十藏、貸本や嘉七、奴丸平、瀧太郎、政姫こし元ときは、本まつ三、同千草、てう之助、若粂、しらへ、同侍女道芝、かてう、同春雨、にしき、同呉竹、芝鶴、船頭北辰丸、與次兵衛、茶屋女おたい、大次郎、かし村慶とく、道具や武兵衛、瀧右衛門、國府津甚內、比丘尼明日、歌助、堀井茂助妻高窓、主膳娘おむら、藤藏、常磐津文字勝、甚內娘おひな、小六、白酒うりおゆき、玉三郎、梅木三左衛門、百姓千石權平、百足や金兵衛後に同心者當念、足力葛澤、北條氏安、芝十郎、工藤與方梛の葉、中宮星子の君、大磯けいしやお秀、けいせい龜きく、瀬川采女之助、左內娘おさよ、しうか曾我五郎時宗、兵庫頭源賴政、朝倉主水、大神樂荷持赤藏、小西手代彦七實は根府川主膳、佐藤葉末之頭正清、歌右衛門、第一番目四立目弓張月のいるに任せて「神樂諷雲井曲毬」猪の早太元太夫　羽左衛門　笛吹、三十郎　おふさ、花友　おいろ、玉三郎　ふし吉、ふく助　金兵衛　芝十郎　おひて　しうか　より政術　持安六　歌右衛門、常磐津文字太夫、同佐喜太夫、三弦岸澤式佐連中相勤○二月廿四日より所作事持合うて龍頭、とげ山「江戸鹿子娘道成寺」白拍子橘實は左枝侍從之助、家橘、小西彌太郎行光、所化雀念坊、三十郎、同梅念坊、梅舍、堺や友兵衛、三八、かし村慶德、瀧右衛門、小西後家おとら、虎五郎、下女おふじ實は政姫、藤藏、彌太郎女房およし、小六、てつよ喜代松實左枝逸清丸、花友、藤兵衛、母おしほ、芝十郎、彌太郎妹おみつ、しうか、小西手代彦七實は根府川主膳白拍子薫實はおみつの亡魂、歌右衛門、鍋木多門之助、羽左衛門、淨るり道行「狹夜千鳥戀の眞袖」中村歌右衛門　市村羽左衛門　常磐津文字

太夫弦三岸澤式佐連中長唄岡安喜代七、富士田勇藏、芳村伊久三郎、松永善吉、同鐵五郎三味線杵屋勝五郎、同和八、彦次郎、同和十郎、同正三郎振付西川巳之助 西川芳次郎笛藤枝安太郎 住田龜七 小つゞみ福原百之助 太こ福原百十郎 大つゝみ福原門左衛門 長うた岡安喜代八 太こ太田市郎兵衛 六郷常三郎 三味線杵屋藤四郎 杵屋六左衛門 振付藤間龜三郎 藤間大助 相勤

○第一ばんめ上るり大神樂荷持歌右衛門どんつく大評判二ばんめしうかおみつ嫉妬大に評よし二人り道成寺大出來大々當り

○正月十一日より河原崎座「廓模樣比翼稻妻」山三下部鹿藏、雪駄直し仁三後白柄十左衛門實は白井彌一郎、彦三郎、三浦女房おつた、常世、六角左京之進、男達まむしの次兵衛、佐々木桂之助、簑助、石塚玄蕃、家主杢郎兵衛、廣右衛門、判人善六、上林やりておつめ、團八、佐々木額五郎、縫箔屋彦兵衛、宇十郎、初瀨寺所化雲哲、男達半助、宗三郎、茶や廻り長吉、吳ふくや勘六、男達傳吉、國五郎、飛脚三平、小間ものや六助、善次、ゆや番頭とら、男達石塔勘八、虎藏、男けいしや都民中、中女乞食おすて、七五三藏、初瀨寺住僧轟坊、扇藏、長兵衛一子長松、幸藏、船頭水掉の竹、竹三郎、長兵衛女房お時、仲の町信濃やお辰、杜若、名古屋山三、唐犬權兵衛、宗十郎、名古屋小山三、源平、佐々木小姓金彌、由次郎、三浦の娘おみつ、七藏、禿よしの、百松、同たつた、福藏、口入雀や忠兵衛、雷助、女乞食おふて、箱右衛門、上林新造、三輪里三花、同おた卷、佐々木妼こてふ、政次郎、同紅梅、上林新造大和路、梅之助、佐々木こし元早はらひ、三浦の新造此八、三よし、同此糸、三すし、同此花、佐々木妼若菜、福之丞、奥女中しからみ、辰之助、川崎の茶屋、重扇のお榮、仲の町きりやお梅、榮次郎、足輕笹の才藏、佐十郎、中間さゝら三八、男達のざらし五介、七右衛門、仲の丁大野やお松、團之助白柄下部團八實は非人下駄かしの助市、雀十郎、梅津掃部之助下り淺尾爲十郎、三浦や傾城小紫實は助太夫娘八重梅、新車、本庄助太夫、見せ物師又平、友右衛門、こし元岩橋後に上林けいせいかつらき、蛇遣ひおぬい後に山三下女お國、菊次郎、白井權八後にかつしか十三、不破伴左衛門後に寺西閑心、團十郎、小紫禿ゆかり、長十郎、第貳番目序幕淨るり梅柳さそ若衆かな女哉「逢見愛井字」小紫、新車 禿、長十郎 ごん八、團十郎 延壽太夫改清元太兵衛同美勇喜太夫弦三同千藏、梅次郎相勤何れも大出來大當り○右狂言初日差出候處十五日九山よ

り出火西北の大風にて通京橋迄八丁堀より佃島延焼に付當座相休三月より栢初いつれも評よく大當り○四月十一日より[檀浦兜軍記]琴責の段秩父重忠、彥三郎、半澤六郎、松助、けいせいあこや下り中村芝雀、岩永宗連、團十郎、大出來當狂言女郎屋の場にて酒狂人舞臺へ上り伴左衞門役團十郎衣裝へ土瓶の茶をあびせたり然れ共やけどもせざりし卽座に取押へ事鎭りし○三月十一日より中村座[當世廓伊達寫繪]細川勝元、赤井悪右衞門、佐々木賴賢、九藏、長則妹象潟、けいせい遠山、粂三郎、伊豫の方奥女中沖の井、松之助、不破伴作、大場道益、番頭藤次兵衞、現十郎、狩野修理之助、左枝三郎、山中鹿之助、菊十郎、熊井源吾、下駄や母おつめ、家主太郎兵衞、鶴五郎、大場宗益、鳶の嘉藤次、萑原甚内、鶴藏、名和無理之助、森五郎、渡邊銀兵衞、下駄や金兵衞、冬春公人權助、廣五郎、鳴井新吾、武五郎、奴岡平、冠十郎、でつち豆太、千代飛助、足利照若丸、朝次郎、民部一子千松、菊之助、鳶の者辰、島田重三郎、榮三郎、赤松彥次郎則正、賴豪舊鼠の靈、道益下人小助、うは五百機、大工の六三、松か枝園之助、菊五郎、岩倉彌十郎、浮世又平、多賀藏、肴うり新、

井筒女之助、高麗藏、花賣茂太八、とうふや後家おくま、岩獅子奥女中しか浦、仲居おとく、春次、家主杢兵衞、局ふし浪、音右衞門、三井のはん藏、合長屋喜六、音八、腰もと小蝶、與三郎、同若葉、榮枝、同さはらび、染之助、同初花、紫女太、同山吹、しけ太、同紅梅、若松奥女中松しま、とうふや下女おむめ、梅三郎、伴作妹淺香、奥女中八十島、路三郎、渡邊外記左衞門、豆ふや三郎兵衞、男女藏、後室お國御前、とうふや娘おその、梅幸、岩見太郎長則、花ひしの下駄定、汐澤丹三郎、幸四郎、佐々木桂之助、壽三郎、大切所作事東路へ根こして植し梅わ[七重咲浪花土産]七變化尾上多美藏相勤淺妻船、文賣、國奴、振袖娘、瘤翁、豆打も、太郎、石橋常磐津連中富本連中長唄連中相勤大出來大當り○四月三日より市村座[胡蝶綾成觀新摸]放駒の長吉、山崎與五郎、家橋、三原有國、長吉姉お關、鳶の者鍾馗半兵衞、三十郎、南方十次兵衞、幻竹右衞門、梅舍、正木新三郎、井筒の仲居おかつ、玉三郎、山崎手代さしぞ七、小次郎、平岡郷右衞門、三八、三原有右衞門、野手の三、駒助、角力取松、イ四松、呼出し鳴八、孫六、與兵衞一子與之助、多家藏、行司正三郎、橋藏、山崎手代佐助、十藏、下駄の市、疵

太郎、仲居お三、まつ三、同お玉、てう之助、同おてう、しらへ、新造玉楠、歌女太郎、奥女中深見、にしき、井筒女房おいね、かてう、山崎の渡し守、おつる、芝鶴、七まがり藤兵衞、大次郎、葉やの彥七、猿右衞門、手代權九郎、歌助、たいこ芝八、三田八、次郎右衞門妹おてる、藤藏、佐渡七妹おさち、長五郎、母およね、小六、與兵衞女房おはや、長五郎妹おつゆ、花友、かるの甚兵衞、わしの籐吉、芝十郎、藤やあづま、難波や娘おしつ、しうか、濡髮長五郎、南與兵衞、枇杷葉湯うり正八、歌右衞門大切上るり「道行戀山崎」正八、歌右衞門、法印、福助、あつま、しうか、與五郎、羽左衞門常磐津文字太夫岸澤式佐連中相勤大出來○五月廿五日より中村座「日吉丸稚櫻」小田上總之助春永、九藏、同妹みさき姬、粂三郎、源左衞門女房おせつ、松之助、足輕喜曾太、現十郎、小田三郎春忠、常磐枝犬喜代、菊十郎、中村彌助、鶴五郎、足輕戶田平、雲助岡崎の八、鶴藏、安國寺惠慶、足輕矢當平、廣五郎、盜人むくらの谷藏、大垣九郎、くも助の三、武五郎、高下曾平、狩人五次兵衞、冠五郎、染井や庄七、淸水九平太、入藏、栗崎孫九郎、里の子辰吉、三吉、雲助の音、左山犬右衞門、榮都八、米や升右衞門、ふくしま石松、榮三郎、郡音成、松下嘉平次、盜人はちすは與六、日吉丸後に木下藤吉、眞柴筑前守久吉、多見藏、里の子てう吉、茂々太郎、足利輝君、源右衞門一子源次郎、小松光明寺貞觀和尙、岩獅、柴田妻小谷、春次、家主太九郎兵衞、音右衞門、八劍かけゆ、百姓豐作、音八、武智十次郎、染之助、森の蘭丸、紫女太、賤女おたつ、しげ松、同おさく、若松、彌助女房おとよ、梅三郎、けいせい淺妻、路三郎、茶わんや源右衞門、光秀母さつき、男女藏、藤吉女房おきく、光秀女房みさほ、梅幸、かちや五郎助、山口九郎次郎、大澤主水、武智十兵衞光秀、幸四郎、足利榮次郎、壽三郎、第二番目「双蝶々曲輪日記」南與兵衞、長吉姉おせき、九藏、ふじやあづま、粂三郎、平岡鄉右衞門、現十郎、三原傳藏、鶴五郎、平岡丹平、講中尼妙貞、鶴藏、三原有右衞門、森五郎、茶や主才八、野手の三、廣五郎、下駄の市、岩五郎、角力取豆絞鴻藏、同かちぐり小の藏、でつち花松、高吉、放駒の長吉、多見藏、山崎屋與次兵衞、長五郎母おきよ、岩獅、講中善右衞門、音右衞門、同六兵衞、音八、仲居お岩、榮枝、同お山、染之助、同おくめ、紫女、太竹右衞門娘おとら、梅

三郎、長五郎姉おしづ、路三郎、幻竹右衛門、男女藏、濡髮長五郎、與兵衛女房おはや、梅幸、山崎や與五郎、行司庄九郎、幸四郎何れも大出來大當り發端中村の住家日吉丸誕生の段此間十三ヶ年相立二幕丁稚壷割三まく茶わんや此間十六ヶ年相立四幕目矢矧の橋五まく鷹野六まく奴部や七まく長短の鎗備此間十五ヶ年相立大詰尼か崎二番目ぬれがみ梅幸大評よし○五月十二日より**河原崎座**「天滿宮緣梅松櫻」中納言友秋卿實は漁師松兵衛、筑紫の垣燒白太夫、武部源藏、彥三郎、乳人小夜路、白太夫女房小汐、常世、中納言末房公、春藏人、松助、くゝりから太郎、奴宅内、唐使天蘭慶、淺尾爲十郎、舍人峯丸、鑵助、春藤玄蕃、神道者鈴成、廣右衛門、左中辨希世、わし塚平馬、團八、物川の持直、宇十郎、廣瀨高資、宗三郎、鐵棒引彌藤次、扇藏、りやうし小松の小太郎、竹三郎、菅原道實公、後室覺壽、漁師梅六、宗十郎、御臺花園御前、源藏女房戶浪、杜若、菅秀才源平、小舍人紀の丸、由次郎、こし元あやめ、三花、さつき、政次郎、若葉、梅之助、渚の侍從、三よし伊豫の內侍、福之丞、妹勝野、常葉中納言、奥方藤浪、かりや姬、團之助、判官代照國、筑紫の鹽燒五郎作

下り中村芝雀、立田の前、櫻丸女房八重、新車、三好の淸貫、土師の兵衛、友右衛門、春月尼、松兵衛女房千代、待宵の侍從、菊次郎、藤原時平、宿禰太郎、寺小姓よしの介實は舍人櫻丸、團十郎、飛梅の精、長十郎第二番目「二世盟妬念鮫鞘」矢島勇藏、香具や彌兵衛、彥三郎、兵太夫女房、常世、藤井官次郎、松助、若徒曾平次、爲十郎、丹波や下女おかん、宇十郎、船頭長吉、甚吉、八郎兵衛娘おみき、幸藏、古手屋八郎兵衛、金魚うり金八、宗十郎、船宿大和やおふさ、杜若、でっち善太、友松、合長屋喜兵衛、雷助、同勇介、箱右衛門、丹波や娘分おきの、梅之丞、川長の下女お增、福之丞、判人佐次兵衛、七右衛門、げいしやひな吉實は兵太夫、娘お才、芝雀、丹波や女房おせん、新車、梶岡軍藏、古手や仁兵衛、友右衛門、丹波やかゝへおつま、八郎兵衛、女房おさよ、菊次郎、丹波や次郎三、野田新十郎、團十郎、大切淨瑠理おまつ八郎兵衛「心中緣短夜」菊次郎宗十郎淸元太兵衛三絃同壽連中竹本戶和太夫三味線鶴澤市作何れも大出來八代目時平の七笑櫻丸二役共大出來大評判よし○閏五月七日より**市村座**「假名手本忠臣藏」七まく鹽谷判官高貞、中間元助、家橋、加古川本藏、斧定九

郎、百姓與一兵衛、不破數右衛門、三十郎、桃井若狹之助、千崎彌五郎、石堂右馬之丞、梅舍、佐藤與茂七、福助、こし元玉章、玉三郎、大はし文吾、梶川與三兵衛、狸の角兵衛、小次郎、矢間十太郎、三八、小寺十内、種か島六、鷺助、原郷右衛門、米や八兵衛、虎五郎、赤垣傳藏、六角右京、駒助、松か枝千嶋守、翫太郎、竹森喜太八、十藏、足利直義公、橘藏、鹽谷爲若丸、多家藏妣あやめ、駒次郎、同さつき、まつ三、同桔梗、しらべ、同あじさい、かてう、同かし付澤瀉、歌女太郎、同鷹の羽、にしき、本藏妹みなせ、芝鶴、間喜平、古手や久兵衛、大次郎、めつほふ彌八、茶道珍齋、翫右衛門、山名次郎左衛門、歌助、梶川與三郎、汐田又之丞、三田八、元助妹お高、藤藏、おかる母おかや、小六、かほよ御ぜん、小浪、元助女房おせつ、花友、斧九太夫、天野や清兵衛、一文字や才兵衛、芝十郎、勘平女房おかる、大星力彌、しうか、高の師直、早の勘平、大星由良之介、歌右衛門第貳番目「五大力色湊」さつま源五兵衛、家橘、廻しの彌助、三十郎、若徒八右衛門、梅舍、千島千太郎、福助、げいしや秀治、玉三郎、料理人喜兵衛、小次郎、中間土手平、三八、十寸見和洲、鷺助、櫻屋才兵衛、虎五郎、梅本若者惣吉、成藏、同藤兵衛、市五郎、安松佐十郎、翫太郎、むさしやの下女おしう、十藏、同おこま、駒次郎、同おまつ、松三、梅本娘分おつき、蝶之助、同おかち、しらへ、げいしやかめ吉、歌女太郎、同大吉、にしき、梅本娘分おてう、佳朝、同おつる、芝かく、出石宅右衛門、翫右衛門、石塚伊平次、大次郎、賤ヶ谷伴右衛門、歌助、鳥羽屋小三次、三田八、梅本娘分おます、藤藏、武藏や女房おこの、小六、梅本女房おみね、花友、家主徳右衛門、げいしや小萬、しうか、笹の三五兵衛、千嶋之介義しけ、羽左衛門淨るり竹本錦太夫、歌太夫、しま太夫三弦金澤左衛門、鶴、翫六、同市作、大に評よし大當り ○六月十八日より 夏狂言中村座「伊賀越讀切講譯」ゆきへころし圓覺寺木辻あけや沼津政右衛門女房おたに、平作娘およね、松之助、荷持平作、現十郎、佐々木丹右衛門、譽田內記、鶴五郎、上松右內、廣五郎、柘榴武助、森五郎、澤井城五郎、岩五郎、和田志津摩、三吉、荒卷伴作、入藏、川湊孫八、榮都八、竹内せい宅、乃六、宇都宮兵部、イ藏、進藤野守之介、松五郎、傾せい花紫、春次、細川奥方、濱町榮枝、管領息女彌生姫、丹右衛門妻笹尾、梅三郎、澤井股五郎、櫻井林右衛門、鶴藏、唐

木政右衛門、見ふくや重兵衛、譽田主税之助、藤三郎「和田合戰女舞鶴」三の口切淺利の與市、鶴五郎、荏柄の妻綱手、梅三郎、同一子公綱丸、小松、藤澤入道、音八、實朝妹齋宮姫、染之助、與市一子市松、百松、尼君政子御前、春次、城の九郎、鶴藏、板額女、松之助、けいせい返魂香吃の又平、現十郎、同女房おとく、松之助、百姓出來作、源八、同豐作、長三郎、庄や杢作、小い藏、下女おらい、扇藏、狩の修理之介、染之助、同雅樂之助、鶴藏、土佐將監、岩獅、所作事志賀山一流に師匠の曲舞おこかましくも今度此たび「未熟蕊種蒔」千歳、女太夫、松之助、翁、現十郎角兵衛しい三番叟鶴藏常磐津小文字太夫連中長唄はやし連中相勤貳ばん目「五人切籠千補賭」上中下新はり八右衛門、鶴藏、町かゝへ乙、森五郎、幻長右衛門、岩五郎、小三の母おはん、音八、船頭なみ八、三八、けいこ娘おゆき、紫女多、宋主宅右衛門、現十郎、たいこ清元榮五郎、鴻藏、千鶴源五右衛門、岩獅、薩摩備の小萬、けいこ笹の小三、松之助、五碓香うり彌介實は千しま千太郎、鶴五郎○何れも大出來大當りわけて淨るり鶴藏志賀山にて三番叟一流にして古今大出來當狂言中

棧敷十一匁五分　高九匁五分　平七匁五分　○七月廿七日より市村座「青砥稿」赤根半七、仕丁竹又、佐良義次郎、家橘、赤待傳道、笠屋平三、上臺庄九郎、三十郎、座頭丹波市、白まゆの長、熊の且藏、厚倉新十郎、梅舎、席幕の赤根半七、伊皿子七郎、福助、席まへのおさん、玉三郎、庄屋正兵衛、善吉女房おうし、小次郎、伊賀留源治、眞紫村土大郎、不施長九郎、名草小者蜜八、鶯助、せと物や手代道八、後家おそや、虎五郎、道具や勘六、鴛かききやく平、駒助、厚倉若黨次郎平、イ四松、雲助關の孫六、孫六、同といんの友、嶋八、ほつたんのおさん、勝次郎、半七娘おつう、多家藏、發端の半七、橘藏、庄や杢郎兵衛、馬場華庵、十藏、赤根の下女おこま、駒次郎、藪屋の仲居おまつ、まつ三、同おてう、しらべ、松山下女おはな、てう之助、笠屋小なつ、にしき、同小かつ、歌女太郎、みのや仲居おいね、かてう、同おくま、芝鶴、百姓かん太、鴛かきそく平、翫太郎、今市全八郎、佐栗久平、大次郎、室田曾太夫、取上ばゝあイ守、翫右衛門、花笠呂頭吉後に蓮花院所化樂中、多賀の郡司、歌助、續井吉若、三田八、笠屋小よし、藤藏、半七女房おしの、名草の下女おさし、小六、典膳娘その花、木曾のお六、花友、赤根半六、盗賊佐栗宇太郎、上臺嶌二、芝十

郎、笠屋三勝、賤の女おなみ、時松、文字石後に劇齋妾おれき、しうか、蠶屋善六、名倉劇齋、青砥左衛門尉藤綱、歌右衛門、續井昭順、羽左衛門、第壹番目六幕め淨るり一時の夢とは白雲の上人なる文記に寄て「邯鄲」女 仕丁、家橘、賤しうか 公家、歌右衛門 蠶屋善吉夢の處 常磐津文字太夫、同佐喜太夫 三弦岸澤式作○當狂言無類大々當り此節大帳を草ぞうしに出板す○九月より二ばんめ大切所作事古き双紙の讀くせな常磐の艷に洗ひあけて 六歌仙在原の業平祇園おかち、家橘、所化さくらん坊、福助、同金てこ坊、小次郎、同よたん坊、三八、同かれん坊、橋藏、同くねん坊、三田八、仕丁大勢官女大せい 小野の小町、しうか、僧正偏正、文屋の康秀、喜撰法師、大伴の黑主、歌右衛門、上るり 常磐津文字太夫連中長うたはやし連中竹本雀朝太夫連中相勤○十月二日より「源平布引瀧」三の切 齋藤一郎實盛、家橘、百姓九郎助、芝十郎、矢橋の仁惣太、三八、小万一子太郎吉、音次郎、奏御ぜん、藤藏、小万母小よし、小六、九郎助娘小まん、しうか、瀨の尾十郎兼氏、歌右衛門、小松重盛、羽左衛門、いづれも大出來○七月朔日より河原崎座「御誂龜山染」錺摩多門之介、石井兵衛、中野藤兵衛、彥三郎、十左衛門妻岡の谷、奥女中白河や常世、香川

半次郎、淺山内記、松助、飯田與四兵衛、石井下部關助、爲十郎、細川主水、簑助、曾根治太夫、廣右衛門、磯田八之丞、團八、茶道金才、宇十郎、掛川官兵衛、宗三郎、足輕次平、甚吉、龜島權太郎、百姓九郎八、國五郎、同五郎介、戶倉運八、善次、山淵勘六、百姓次郎藏、虎藏、石尾鄉藏、七五三藏、川越し 廣右衛門、團八、宇十郎、らい八、鶴藏、仲助、宗三郎、甚吉、扇藏、越藏、岡六 藤兵衛娘おいち、長十郎、錺摩の舍弟淺次郎、竹三郎、三木重左衛門、田邊文藏、宗十郎、藤兵衛悴長吉、才三郎、奥女中みの尾、紀久藏、錺摩妼きゝやう、三花、同尾花、政次郎、同紅葉、梅之助、同糸はき、三よし、多門之介妹なでしこ姬、榮次郎、石井下女おひで、福之丞、彌勒町の茂右衛門、佐十郎、大倉瀨平、七右衛門、石井の娘おとせ、團之助、斯波左京之進、石井兵助、芝雀、錺摩奥方千種、新車、神樂兵治、八つ橋村又四郎、友右衛門、石井兵衛妻おらい、藤兵衛女房おりき、十左衛門妾おくら、菊次郎、赤堀水右衛門、明石の縮屋清七、鳥井彌十郎、團十郎、十左衛門一子八十松、長十郎、大切所作事古き流行とこひいきのあいつかもない御進に「眞似三升姿八景」瀧宮乙姬 清元引拔 浦島太郎、長うた連中「瀧詣景清」常磐津連中「冷水賣」清元連中「朧候」富本連中 心猿 大さつま引拔 晒女 おかれ 常磐津

石橋長唄にて道中〇第壹番目大に評よし貳番め所作事相應の出來なり〇八月十三日より「一春扇曙騎士」扇屋上總大掾、彦三郎、同女房深草、常世、扇をりおやま、園之助、同おいろ、宇十郎、木鼠忠太、國五郎、提の軍次、善次、庄屋杢郎兵衛、新平、組頭豐作、扇をりおきく、紀久之介、同おます、福之丞、同おのぶ、紫次郎、上總娘柱子、新車、阿根輪の平次、友右衛門、扇折小長實は無官太夫敦盛、菊次郎、熊谷の次郎直實、團十郎、同小次郎直家、長十郎何れも大出來大當り〇八月廿七日より中村座「累扇月姿鏡」狩野四郎次郎元信、木下川與右衛門、垂井筒のかさね、菊五郎、新造花山、佐々木息女銀杏の前、粂三郎、與右衛門妹おみや、松之助、炭木門兵衛、かさね母妙りん、現十郎、箱まわし金五郎、菊十郎、笹の才藏、船頭鯖間五作、由住伊平太、鶴藏、佐々木定頼、門弟伊丹新吾、質屋利兵衛、廣五郎、野上作六、岩五郎、利根段平、武五郎、判人權九郎、冠五郎、でつち喜久松　菊之助、神田の與吉、榮三郎、渡し守浮世又平、名古屋山三、多美藏、山中鹿之助、茂々太郎、佐々木曼若丸、禿もみぢ、小松、樽ひろひ吉松、千代飛助、世話瀬平、かしつき夕浪、春次、見せ物師藤六、音右衛門、岸野和田八、森五郎、長谷部運八、庄屋杢郎兵衛、音八、婉秋しの、紫枝、仲居おきの、紫女多、才藏妹小笹、下女おさめ、しげ松、後室お國御前、藤六、下女おかつ、梅三郎、遠山姉おさは、げいしや小さん、梅幸、生羽や助四郎、不破伴左衛門重勝、幸四郎、佐々木桂之助、壽三郎「鎌倉三代記」一番目二番目の間にて安達藤三郎實は佐々木高綱、多美藏、同妻かゞり火、松之助、在所かゝあおらち、鶴藏、讃岐の局、春次、富田の六郎、廣五郎、古郷新左衛門、武五郎、土肥彌五郎、冠五郎、家主太郎右衛門、相藏、古手や七兵衛、鴻藏、米屋奴の六、小の藏、藤三女房おくる、辰之助、三浦之助母、岩緋、阿波の局、梅三郎、北條時政、現十郎、同息女時姫、梅幸、三浦之助義村、幸四郎、淨るり竹本桐太夫、同嶋太夫、三味線鶴澤叛六、同富助相勤〇第一ばんめ貳番目共怪談迄不相替大出來多見藏、佐々木藤三大出來大當り〇九月一日より河原崎座「松竹梅彩加賀染」長玄寺の望月後に帯刀、谷澤十内、土左衛門傳吉、泉の小次郎、彦三郎、與女中初瀬、八百屋後家おたよ、段助、母おさこ、常世、多賀大善代、菊酒屋幸七、松助、柏木曾平太、神田與吉、爲十郎、尾花數馬之

助、伊豆藏、千代佐七、みの助、長沼六郎、いしや玄伯、廣右衛門、釜屋武兵衛、家主八兵衛、團八、姫川勇藏、米や六兵衛、宇十郎、所化妙念、非人の瀧、宗三郎、小島右門、鳶の者辰、甚吉、大川團右衛門、奥女中しら山、團五郎、奥醫師安達白伯、鳶の者市、善次、香川うん平、奥女中金澤虎藏、湯島三吉、竹三郎、多賀大領、鳥居股助、仁田四郎、白酒うり新兵衛、宗十郎、友達子供菅松、太升、同成松、幸藏、同紀の松、源平、同くに松、由次郎、八百やてつち三太、友松、金澤丹吾、五人組杢兵衛、雷助、同銀兵衛、中間とら、箱右衛門、奥女中小ゆき、筆や娘おみつ、紀久之助、奥女中大野、三花、同かつら木、仲居おます、政次郎、同おはな、奥女中生野梅之助、同戸山、仲居およし、三よし、筆や下女おしか、奥女中、福之丞、同、左枝、紙や娘おみの、榮次郎、吉祥寺日和上人、家主太左衛門、佐十郎、谷澤十作、古手や四郎兵衛、七右衛門、奥女中梅田、琴指南おつゆ、團之助、花房主人高橋隼人、芝雀、大江息女紅梅、八百や下女おすき、新車、蟹江一角、紅屋長兵衛、海老名軍藏、友右衛門、長玄寺尼松林比丘後大領の妾お柳、奥女中淺尾、八百屋お七、かゝや抱お千代、菊次郎、花房求馬後に小姓吉三郎、五尺染五郎、長谷部十左衛門、冠者太郎經之、團十郎、股助娘お蝶、長十郎、第二番目大切浄るり桃の媚ある娘ざかり櫻恥らふ若衆ぶり「新媛雛の世話事」傳吉、彦三郎、白酒うり、宗十郎お七、粂三郎吉三、團十郎清元太兵衛同榮壽太夫三弦清元文藏同一壽相勤大切「道行手向の露霑」尾上菊次郎相勤竹本連中相勤いづれも大出來大當り〇霜月九日より顔見勢中村座「三升桝勝閧帳貫」長尾謙信、百姓慈悲藏實直江山城之助、足利義晴、高木次郎太夫、浮世畫師喜多川程芳、中納言繁久、彦三郎、同息女藻汐の前、高坂娘紅梅、賤女田毎、根岸植木娘おくめ、粂三郎、越名妻入江、すはの、水茶やおせん、高木次郎太夫、女房呉羽、玉庄娘お芳、松之助、鵜飼太郎勝治、竹三郎、北條氏康、駒ヶ嶽、滿海法印、村井傳藏、現十郎、長尾次郎景久、小間物屋治兵衛、駒田求馬、菊十郎、村上の下部志賀平、更級六郎、いしや醉藏、鶴藏、板垣兵部、更料そばかつぎ二八、八百半下男九助、廣五郎、白須賀六郎、荒川藏人、甚吉、曾根の五郎、平岡權内、國五郎、風越山のかけ六、箱廻し三次、冠五郎、獵師横藏實は山本勘助、仕丁鶴又實は尼子義久、武田信玄、料理人音吉、男達松六、多見藏、高坂彈正、勘助母みゆき、劔

狩の皇子、連歌師是好、八人藝半島登由、三津五郎、越名彈正、柳丁旗龍や藤兵衛、齋藤道三、佐々木刑部、男達朝五郎、三十郎、川中島渡し守、北六、世話人吉六、森五郎、賤女お山、しけ松、浦賀の船人妻六、箱右衛門、高坂主税之助、馬醫者養仙、たいこ持喜久亭壽賀八、佐十郎、長尾娍初しも、柳や下女おしづ、梅之助、さつま浪人井上新六、三條五郎、上田屋榮吉、成田や宗兵衛（宗三郎事）京や女房おはや、長尾娍しの笹、げいしやおすみ、福之丞、長尾娍てり葉、八つはし　長はた、げいしやおとみ、春次、かしつき八つ橋、柳丁はたこや女房おはな、指月樓の女房おりう、辰之助、蘭原中納言、野伏り捨、文遣金兵衛、岩獅、原小文治、猿橋ふじ太郎、髮ゆい千太、簑助、高坂妻唐あや、義晴北の方手弱女御ぜん、後家おつた、常世、長尾息女八重垣姫、じひ藏女房おたね、傾城更科太夫、茶や娘お文、刑部女房誰袖、菊次郎、足利義輝公、花造り簑作實は武田勝頼、染物やこひ吉、長尾三郎景勝、鬼子島彌太郎、髮結三すじの綱五郎、團十郎、第貳番め大切淨るり「積戀雪關扉」（つもるこひゆきのせきのと）宗貞、彦三郎、小町ひめ、墨染の靈、条三、關兵衛、團十郎、常磐津文字太夫、小文字太夫、同芝江齋（組太夫改名）

三弦岸澤三藏、同文左衛門相勤何れも大出來大當り狂言作者藤本吉兵衛、田島此助、河竹雀助、幸若周藏、豐島新造、三升や二三治、櫻田治助第二番目序まく（出雲大神の中立に結び合せたるゑにしのいとの）「戀葉浮名移」富本豐前太夫、同齋宮太夫（三絃）鳥羽屋里長、里夕相勤（興行なし）第一番目二十四孝八重垣姫評なし大切關戸何れも大出來〇十一月五日より市村座「鷄龍丸船市榮錠」（けきりやうまるいちはんいかり）船頭玄海灘六、修けん寂寞僧都實は土蜘の精、赤松彦次郎、鷲のもの鍾馗の牛兵衛實は赤松、不破伴作、大内之介義弘、菊五郎、細川修理之介、千の利久、淺川左膳、八百嘉十、中村源之助（三升梅舍事改名）山中鹿之助、吉良三郎、鷲の長吉、榮三郎、笹の才藏、柏木の衛門、郡代駒形勇藏、畫師宗丹、松助、則政郎等曉風太郎、岸田兵庫之助、家主善右衛門、廣右衛門、かつらめ姫かし付名古屋三平、品川狸之助、冬奉公人甚太、三八、衣笠縁之助、鷄龍丸の水主吉六、呉ふくや太兵衛、團八、八つ代龜太郎實は赤松滿丸、名輪無理之助、中山寺講頭勘兵衛、守十郎、甲利の臣小山祐藏、土手泥之助、虎五郎、甲利の臣熊本丹下、鷄龍丸水主太郎吉、大次郎、同水主辰松、甲利の臣久留米東馬、猊太郎、醫者仙庵、音右衛門、武少辨行

成、人形町ときはや 清五郎、澤村喜十郎七五三藏改名爲村公達爲若、菊之助、檜垣の禿、梶の吉彌、同みよし、朝次郎、小姓金彌、勝次郎、卯の花娍初しも、梅松、同早さき、玉次、同千鳥、まつ三、甲利奥女中浦浪、下女お玉、てうの助、奉公人口入おまさ、甲利奥女中眞砂、政次郎、同小はき、尼妙貞、しらべ、奥女中敷妙、中山餅賣おあめ、かてう、勘解由妹小ゆるぎ、勝元奥方なぎさ、梓巫弓眞弓、尾上菊枝榮次郎改名尼子義久、星合五郎、日雇取市助、鶴五郎、さゝら三八、甲利の臣淺山主水、袋物し小川半助、三田八、帶刀妹呉竹、義輝公御臺たをやめ御前、八百や下女おつま、藤藏、甲利息女卯の葉姫、隼人妹園菊、清元師匠おくに、玉三郎、帶刀女房千種、出雲のお國、義輝妾賤の方、八百や娘お千代實は爲村妹千代菊、花友、八つ代かげゆ實は柳か瀨九郎、山名左衛門、船大工島川屋義平、芝十郎、島原けいせい檜垣、網六女房おやへ、博多傾城長門、園もの小いな實は足利息女かつらぎ姫、船宿大和屋お秀、しうか、甲利家老小早川帶刀、大内之助義弘、渡し守伊之助、稲の谷半兵衛實は斯波左衛門、甲利吾成、宗十郎、岩見太郎、漁師あみ六實は吉川隼人之助、鳥さし與四郎、八百や半兵衛實は六角右京亮、連歌師宗祇、羽左衛門第貳番目五立目上るり思ひは深き情のうつ巻纏の淵瀨の觀世水「渉舟色の媒」(わたるふねいろのなかだち)與四郎、羽左衛門 紀の松、源平 伊之助、宗十郎、かつらぎ、しうか 常磐津文字太夫、兼太夫 三弦岸澤式佐、文左衛門相勤狂言作者櫻田治助、福森久二、清水正七、紀文左衛門、柑子、並木五瓶、鶴屋南北○三立目げきりやう丸の船場、四立目甲利舘返し寂寞坊、菊五郎、かつらぎ、しうか、斯波左衛門、宗十郎、岩見太郎、羽左衛門、四人だんまり五立目上るり大 大出來大當り ○霜月二日より河原崎座「一谷雪見樓」(いちのたにゆきみのたかどの)閻部の六彌太、軍場商人大福うり勘兵衛實はわしの尾義久、九郎判官義經、吉田屋喜左衛門、文遣の留實は濱田の主水、錦升幸四郎事玉をり姫、笛の師お竹實はみた六娘おいし、喜左衛門女房おたき、新車、越中の次郎、平家座頭琵琶、都若徒隱岐の丈助、芝雀、無官太夫敦盛、玉木衛門之介、熊谷小次郎直家、福助、鈴木三郎堤の軍次、十郎兵衛母お鶴、小次郎、直江刑部、一の谷木こりかけ六、吉田屋若者喜助、猊右衛門、時忠家來大舘玄蕃、奴浪平、鷺助、一角入道生成、連歌師鬼面善次、成田の五郎、藤や手代茂助、武五郎、同千八、卜者金齋、三藏、さつまの守忠のり、碁會所四郎兵衛實は

佐藤忠信、猪股小平六、櫻井主膳、たいこ持、九藏、主馬小金吾、武里友松、深谷七郎、せけん馬、若五郎、百姓團五兵衛、吉田や若者三吉、駒助、平大納言時忠、杉目小太郎、吉田屋若者升七、七右衛門姉輪の次郎、連歌師春樂、音八、萩の侍從、白拍子千壽、吉田屋仲居おこう、團之助、同おきん、有國妻ふせや、三よし、時忠息女卿の君、歌女太郎、景盛妻松風、吉田屋仲居おきん、にしき、同おせん、忠清の妻吳竹、梅三郎、盛次妻うら葉、仲居おかつ、八島の蜑若松、芝鶴、梶原平次景高、人足廻し茂次兵衛、吉田や若者松六、歌助、ふしの方乳母はやし、ふしや後家おせつ、小六、三草の八郎、兎原の田五平、金かし佐渡七、爲十郎、平山武者所、石や彌陀六實は宗淸、阿波大盡實はふし屋番頭忠七、友右衛門、俊成卿息女菊の前、女非人はき溜お松實はのり經妹滿月、直實妻さかみ、櫻井主せん娘おゆみ、扇や夕ぎり、梅幸、熊谷次郎直實、軍場口入すゝめや忠兵衛、主馬判官、四國修行者滿月實は能登守敎經、阿波の十郎兵衛後に五右衛門の鎌十郎、藤や伊左衛門、歌右衛門、第二ばんめ大切御おふせにまかせにつかしながらしたいめん「新宅廓文章」喜左衛門、福升、同女房、新車たいこ持、九藏、夕ぎり、梅幸伊左衛門、歌右衛門、淨るり常磐津文字太夫、同小文字太夫三弦岸澤式佐、同三藏、竹本雀師太夫三弦鶴澤大作相勤いづれも大出來大當り○十一月廿四日より「妹脊山婦女庭訓」道行つれん御殿いだん獄しふか七、錦升、入鹿妹橘姬、新車、あら卷彌藤次、芝雀、玄上太郎、福助、官女梅之局、小次郎、同もゝの局、翫右衛門、櫻の局、鷺助、藤の局、善次、仕丁栗又、新平、柿又、七藏、樫又、岡六、杉又、蝶三郎、ゑぼし折求馬、お端たお村、九藏、官女楓の局、七右衛門、同花子、團之助、同あやめ、にしき、同なわ、梅三郎、深雪、芝鶴、松の局、歌助、采女前侍女松岡、小六、宮越玄番、爲十郎、紀の友雄、友右衛門、采女の前、梅幸入鹿大臣、酒屋娘おみわ、歌右衛門、金剛太郎、長十郎、第一ばんめ貳ばん目の間にて道行「戀の苧玉卷」求馬、九藏、橘ひめ、新車、おみわ、歌右衛門、淨瑠理園竹雀餌太夫、同守太夫、同い蔓太夫三弦金澤佐右衛門、同翫六相勤狂言作者篠田瑳助、勝見調三、本屋春助、櫻田治助、河竹新七、三芝居顏見世狂言何れも大出來日數打切舞納めでたし〳〵

慶香院德善日大信士　俗名嵐猪三郎　行年七十三歲

俳名慶舍家名具足屋住所人形町

辭世

燈籠や晦日の夜とは成にける　芝三田三丁目蓮光寺

嵐慶舍は大坂役者二代目嵐吉三郎門人となり嵐冠九郎と云夫より冠十郎改名寛政十二庚申顏見世市村座え初下り追々評判よく文政九丙戌顏見せより上上吉にすゝみ同十丁亥六月甲府より上方え登り同十一庚子三月河原崎座え下り七月より市村座え出勤三か津舞臺の功重り天保十二壬寅嵐猪三郎と改名す、役者投扇曲と云

〔頭取〕江戶實惡の老功具足屋慶舍丈師家の御名跡相續の當嵐吉丈も御出精にて評判もよろしく御安堵でムふ角力の敵役にて鬼か嶽鉄かだけなど三か津にかくれなき功なり名とげたる冠十郎の名を猪三郎と改名當璃寛丈の御實父の名をつぎ十七回忌の法筵まで殘る所なくとりいとなみ永らく老を養ふ事浦山しい身の上でムり升す〔樂屋通〕御息子冠之助丈がいられたら此うへもない事なれども天道は滿るをかくとやら師家の岡嶋屋を三代め迄お世話なさるゝは古來まれなる七十餘歲の御老人童顏鶴髮とは慶舍丈のことでムらふ〔頭取〕中村座へ御出勤の所譯有て河原崎座へ璃寛丈と共に御出勤の跡にて二丁町兩座類燒ありしに御住宅はつゞかなふてめでたい／＼○如斯あり是より先き天保十評判記大坂に嵐冠十郎名見へたりいかゞの譯にや

手向の發句に

師は先へ關を越けり花の原　二代目嵐冠十郎

世の風のあら／＼しさよきり／＼す　嵐冠五郎

朝寒と悟つて宵の枕哉　市川九藏

見送れは秋の螢の行衛哉　關三十郎

今朝秋や初風しみる襟つ首　坂東三津五郎

折そへるしきみに寒し秋の水　尾上榮三郎

橋杭も瘦を泣らん秋の水　坂東彥三郎

手向んと袖濡しけり萩の露　中村歌右衛門

手作りの初穗の菊を備へけん　尾上菊五郎

秋立や斗りにふるし嵐かな　松本幸四郎

秋たつや此朝嵐夕あらし　市川團十郎

秋の蝶芙蓉の蔭に入にけり　岩井杜若

初代
嵐猪三郎 初代嵐吉三郎悴 俳名璃子
二代目冠門弟 松竹田萬吉
嵐猪三郎　嵐冠九郎後冠十郎と改名
弟子
嵐冠次兵衛 初 冠 九 郎
嵐冠五郎
實子始冠之助と云後多病にて舞臺を引浮世繪を以て業とす
歌川豐春と云人形町の口錦畵見世開今に繁昌せり三芝居繪本を書たり
當時嵐冠十郎は日德璃寬の門弟のよし

弘化三丙午年四月四日
釋旭山信士　俗名杉坂平八俳優之節　坂東三津右衛門
東本願寺地中滿照寺　俳名熊山と云　家名大和や

三代目坂東三津五郎門弟にて享和三癸亥子役にて坂東熊平と云て初舞臺文化五戊辰敵役同十四丁巳三津右衛門と改名文政四辛巳のとし師匠と共に大坂え上り彼地にて大に評よし歸國之節餞武本餞別費堺町え建たり一代の内大當りと云は鷺坂伴内奴助平朝顏仙平此人の持ものにていつも大出來也一躰口跡の調子舞臺にぎやかにして住吉町え料理や出し杉坂とて大大繁昌せり毎朝肴買出しに河岸え出るに夜衣を着して歩行せし

花江都歌舞妓年代記續編卷の廿一

弘化四丁未年

○正月十一日より中村座「綴三升曾我初夢」曾我の十郎祐成、此村大炊之助實は大明宋蘇卿、油屋大三郎、手越の喜瀬川、あぶらやおそめ、よめ菜うりおやま、化粧坂の少將、条三郎、けいせい九重、京村屋お京、工藤奥女中久須美、松之助、犬坊丸、竹三郎、梶原平三、油屋番頭善六、現十郎、赤澤十内、眞柴久秋、菊十郎、劔澤一角、蛇骨ばゞア、鶴藏、醫者卜庵實は箱根の閉坊、廣五郎、久上の前司坊、甚吉、百足屋金兵衛、國五郎、船頭藤岡の徳、冠五郎、須の股運平、鹿藏、庄屋長助、雷助、箱根別當行實、十藏、愛甲三郎、相藏、新貝荒次郎、イ藏、御厩徳若丸、幸藏、小林朝比奈、おし鳥精、糸や佐七、奴矢田平實は大明順喜觀、呂山重忠、多見藏、眞柴大領久吉、山家や清兵衛、神原佐五郎、油屋太郎兵衛、工藤左衛門祐經、三津五郎、鬼王新左衛門、早川高景、半時九郎兵衛、鬼門喜兵衛、近江八幡之助、三十郎、大磯や禿かしく、千代飛助、同みどり之助、同若草、男之助、同たより、徳次郎、同新造山路、やまと、同野分、竹三郎、馬士畑右衛門、箱右衛門、番場の忠太、森五郎、新造澤の、米次郎、同浦浪、粂松、大磯や傳三、佐十郎、新造手琴、小山屋仲居おさき、梅之助、地獄清右衛門、梶原平次、宗兵衛、三浦片貝、仲居おきより下市川鯉桃、小山や新造、おこう、大磯や女郎千とせ、福之丞、同女房おぬい、春次、畑右衛門女房おかつ、小山仲居おいわ、辰之助、三浦の家來久上平内、大藤内、岩獅、二の宮太郎、簑助、小山屋女房おちよ、工藤の奥女中、宇佐美、お染母おせつ、常世、大磯のとら、神沼鴛鴦の精、大炊之助女房呉竹、鹽町河岸げいしやお房、女達小よし、菊次郎、曾我五郎時宗、河津三郎祐安、眞柴久次、石川五右衛門實明智左馬之介、油屋でつち久松、本町丸三筋綱五郎、惡七兵衛景清、團十郎、萬壽君、賴家公、壽三郎、第一番目四立目上の卷（譽に殘る四十八手を御ひゐきのお好に任せ）「戀角觝顔競」股野五郎、彦三郎、喜瀬川条三郎、川津團十郎、同下の卷は（俤のころ粧ひだ今様にとりなして）「鴛鴦襖閒陸」おし鳥の精、菊次郎、多見藏、富本豊前太夫三弦鳥羽屋連中相勤第貳番め大切淨るり（今も昔も瓦町にお染久松の戀中の評判を）「道行艶初鷄」お

そめ、くめ三郎、およし、菊次郎、でつち、竹三郎、久松、團十郎、清元太兵衞三絃同千藏、いづれも評よし四立目四十八手同下おし鳥時宗夢の場五立め對面大出來六立目此村やしき同返し宋蘇卿大々出來評よし大詰樓門第二ばんめお染久松世話狂言大出來大當り

○正月十一日より市村座「富士紀書易曾我」大藤內成景實は近江小藤太、椀屋久右衞門、箱根兒箱王丸後曾我五郎時宗、尾上菊五郎、鬼王新左衞門、南方十次兵衞、源之助、曾我團三郎、榮三郎、宇佐美三郎祐茂、松助、兒閙坊丸、わんや手代權九郎、廣右衞門、十次兵衞下部丹平、面うり浪吉、三八、久須美玄藏、三上郷右衞門、團八、山崎屋手代宇八、宇十郎、三上六郎右衞門、虎五郎、梶原源太、箱根の畑右衞門、たいこ持とんてき、猿太郎、地ごく清兵衞、音右衞門、山崎手代甚八、嶋藏、竹の下孫八左衞門、市五郎、あづま禿おのは、芝太郎同ゆかり、朝次郎、源賴家公、相藏、御所の五郎丸、勝次郎、源實朝公、由次郎、松山禿みどり、同常盤、吉彌、犬坊丸、源平、白酒うりお作、蝶之助、仲居おてう、しらべ、同お政、政次郎、おいね、かてう、新造妻琴、紀久之助、三浦の片貝、娌てりは、菊枝、曾我前司坊、三田八、娌若菜、立花や女房お花、藤藏、そが二の宮新造、梅幸、玉三郎、中老久須美、丹波やあづま、久兵衞、女房おさん、與兵衞女房おはや、花友、伊豆の次郎、鶴昇さど七、わしの長吉、芝十郎、尼妙貞實は月小夜、丹波や松山、佐渡七娘おてる、中老宇佐美、しうか、八わた三郎實は赤澤十內、橋本次部右衞門、椀屋久兵衞、工藤祐つね、宗十郎、曾我十郎祐成、山崎屋與五郎、鶴がき八わたや與兵衞、源賴朝公、粉左衞門第貳番目大切淨るり（椀久松山の波に千鳥の物狂ひ　吾妻與五郎栄種の蝶の物狂ひ）與五郎、家橘、うき世夢助、あつま、花友、けいせい松山、わん久、宗十郎、き三、大次郎、十次兵衞、源之助、常磐津文字太夫、兼太夫、吾妻太夫、三弦岸澤三藏、同式佐相勤○當狂言は調子大坂にて勤しを江戶に直し興行之處左のみの當り無之殘念〳〵

○正月十二日より河原崎座「飾駒曾我通双六」曾我五郎時宗、和田志津摩、御神輿の胴六、大こ持初寅の竹七、磐田內記、錦升、化粧坂少將、孫八女房おのち、げいしや小鶴、幸兵衞娘お袖、新車、曾我團三郎、佐々木丹左衞門、池添孫七、芝雀、工藤犬坊丸、たいこ持福引の壽六、上松春太郎、福助、荒尾主膳、若徒沼津平作、小次郎、あら卷伴作、幸兵衞

女房およし、繇右衛門、澤井下部段九郎、飛脚さぎ平、鷺助、藪の內せいたく、阿漕の網七、岩五郎、唐木下女おなべ、庄屋金十、善次鶴ヶ岡別當教實、扇藏、びぜんや若者喜介、七藏、曾我の十郎祐成、和田靭負、池添孫八、たいこ持若衆の三好、山田屋幸兵衛、九藏、小願人閑坊、友松、坂の音六、萬屋喜兵衛、武五郎、櫻井下部權平、ごま灰がん八、駒助、ぜげん法印音、くも介の熊、音八、近藤野守之助、醫師鷄庵、七右衛門、びぜん屋抱おはな、山田屋下女おさく、團之助、備前屋かゝへおむつ、三花、同およし、仲居おつた、三よし、同おきん、びぜんやかゝへおまつ、にしき、同おこう、仲居おむめ、梅三郎、同おこま、備前屋抱おなか、芝鶴、呉服や十兵衛、女乞食お捨、歌助、曾我の二の宮、靭負後家柴垣、扇屋女房おつる、小六、赤澤十內、櫻井林右衛門、笹尾屋德兵衛、爲十郎、大崎の大盡義盛、澤井股五郎、鳴見大八、宇佐美五右衛門、友右衛門、大磯のとら、政右衛門女房お谷、げいしやお辨、武助妹およね、備前屋の抱おふじ、梅幸、一﨟別當祐經、澤井城五郎、四ッ井の風呂番福島の黑助、柘榴武助、唐木政右衛門、歌右衛門、豆たいこ持春袋の金三、長十郎、第壹ばんめ五立目所作事シテハ名應一﨟別當ワキハ名譽曾我兄弟「比乎葉相槌(くらべうたてにはのあいづち)」曾我五郎時致、錦升、同十郎祐成、九藏、工藤祐經、歌右衛門、ふへ梅幸、大つゞみ福助、小つゞみ新車、たいこ長十郎、長唄はやし連中同和田酒盛の姬初牽頭藝子の踊初「笑門俄(わらふかどにわか)七福(のしちふく)」竹七、錦升、升吉、長十郎、壽六、福助、小つる、新車、三好、九藏、お辨、梅幸、黑助、歌右衛門、常磐津文字太夫、三弦岸澤連中相勤對面之場にて俄の所作虎峯大評判だんまり胴六、錦升、幸兵衛、九藏、武助、歌右衛門是迄三段返し大仕懸大出來何れも大々當り ○二月廿八日より中村座「臺比雪花隅色園(ぶたいのはなやよいのいろとき)」園部兵衛、下男吉助實は來太郎國俊、渡し守惣太、彥三郎、幸崎息女薄雪姬、花子の前後に淸玄尼、粂三郎、こし元まがき、新造采女、松之助、所化さくらん坊、竹三郎、澁川東馬、現十郎、刎川兵藏、下部角田平、菊十郎、娰ちとせ、鶴藏、かさい太郎龜成、廣五郎、汐入村彌藏、國五郎、鐘ヶ淵ごん六、冠五郎、娰花の戸、虎藏、淸水任轟坊、十藏、奥小娃蔦野、七藏、大友の一法師丸、幸藏、葛城民部丞、粟津六郎、多見藏、幸崎伊賀守、三五郎兵衛政宗、三津五郎、下部妻平、秋月大膳、三十郎、道心者銀念、箱右衛門、牛島庄や久平、森五郎、娰夕ばへ、重松、同菓すゞへ、仙

之助、黠者井双庵笑吾、佐十郎、娍かほる、梅之助、松井源吾、宗兵衛、こし元清せ、扁之丞、庵崎のおしづ、鯉とら、櫻姫めのと初瀬、春次、奥女中せきや、辰之助、來圓行、岩獅、來三市國光、養助、幸崎內室萩の方、葛城妾花房、常世、園部奥方梅の方、正宗娘おれん、軍助女房おつな、菊次郎、園部左門之助、刀鍛冶團九郎、吉田の松若丸、山田の三郎、下部軍助、團十郎、入間多門之允、壽三郎、一ばんめ二ばんめ間にて「關取二代勝負附」關取鬼ヶ嶽、高倉隼人、多見藏、けいせい大淀、粂三郎、六角伊達五郎、鶴藏、鳴岩浪藏、廣五郎、籠石竹右衛門、國五郎、土蜘丸藏、虎藏、濱松主稅之助、幸藏、行司喜村庄九郎、三十郎、秋津嶋一子國まつ、多家藏、六角妻之助、みの助、秋津しま女房お里、菊次郎、關取秋津嶋、團十郎、淨るり園竹雀舘太夫、三弦金澤左衛門相勤也

○役者豐年藏にて薄雪に左門之助當時色事師のしては此三升丈のもちまへ別て此役は大でき〳〵「見功者」八九年まへ木挽町にて出勤なされし時古人團藏が手をとつておしへられし其時團九郎を觀海老藏丈が勤られしを見てのみ込でおかれ此度の團九郎大できでムり升す「頭取」二ばんめ二代勝負附に秋つしま大切松若すみだ川わたしより夢の場粂三丈とのぬれ事大でき〳〵と云々下略秋つしま中評なり

○三月十六日より市村座「初櫻尾上若藤」猿島惣太實は粟津七郎、入間部領照時、細工人左り甚五郎、菊五郎、山田の三郎、清水平馬之介、清玄、北條義時、源之助、比丘の次郎賴久、菊三郎、綾瀬の七郎、奴みだ平、松助、足輕門八、奥女中明石、廣右衛門、清水主稅、奴戸田平、三八、同心者無縁坊、奥女中さつき、團八、大友常陸之助賴國、奴綾平、宇十郎、奥女中松しま、權藤太、虎五郎、牛島軍次、大次郎、庄や杢郎兵衛、奥女中柏尾、謎太郎、新清水轟坊、音右衛門、かるかや勝助、奥女中七浦、喜十郎、同あやめ、高井官藏、入藏、吉田公達松若丸、橘藏、所化さくらん坊、源平、同かくれん坊、菊之助、大友一法師丸、勝次郎、入間の奥女中梅田玉次、同花形、まつ三、勝瀬、調の助、宮戸、しらべ、淺茅、政次郎、同待乳、かてう、竹川紀久之助、民川、菊枝、庵崎、玉三郎、櫻姫かしつき關屋、入間息女櫻姫、藤藏、軍助妹つな女、はん女御前、花友、奴隅田平、比企

判官、芝十郎、入間の姉娘花子の前後に淸玄尼、隅田川の酒賣おなみ、尾上召仕おはつ、しうか、吉田松若丸、局岩ふじ、吉田下部軍助、大江因幡之助、宗十郎、庵崎求馬、中老おのへ、吉田少將惟貞、羽左衞門第二番目大切所作事出雲の筆の操な歌舞妓の所作に名題を其儘「假名手本忠臣藏」十一段かわり市村市左衞門、足利直義公、小なみ、小町、力彌、角兵衞獅子、駕かき、犬勝次郎、おかる、旅奴、下女りん、大わし、でつち伊吾常磐津連中淸元連中長唄はやし連中相勤大出來、豊年藏にて前文略之尾上岩ふじ女淸玄二役おはつの早替り大でき〳〵別してお初にて訥子丈との仕合大詰のしかへし女淸玄と申杜若丈をよく呑込夫ゆへに大當り三月の大當りはしうか丈のおてがら〳〵○宗十郎岩ふじ大出來尾上中評なりし

○四月廿四日より河原崎座「福聚海駒量傳記」足利義廣公、富士太郎知友、繪師狩野元信、錦升、名古屋小山三實は元國娘お國御前、杵居不破のお園實は井筒民部娘藤沼、新車、今川近臣荒川鐵八、富士の若徒、土子泥助、芝雀、今川播部之介、髮ゆい浮世床の又、福助、片桐才藏、開帳の世話忠七、小次郎、松葉屋の手代佐兵衞、更科組の男達峯月駒七、翫右衞門、同鏡臺、三藏、長谷部重六、鶯助、やりておつめ、鳴瀧瀨平、岩五郎、局若江、樂八、津守玄蕃、善次、宇多野軍次、請負人佐次兵衞、元五郎、駕かき田中の金彫物、大工獅六、梅鉢、同象八、船頭向ごしの竹、三吉、富士左京進常雪、六角修理之助、船宿つくはや茂兵衞、九藏、奐禮學藏、ごふくや手代丹八、武五郎、樂人小野主計、犬上段八、駒助、修驗者魔界坊、樂八、出見賴母、音八、更科組の男達、四十八、樂八、淺澤隼人、七右衞門、けいせい柏木、足利の井筒姬、團之助、娵さつき、仲居およし、三よし、同おさん、奥女中葉櫻、にしき、同卯木、番新八重咲、梅三郎、奥女中若葉、仲居おつる、芝鶴、淺間の若徒名和無理之助、更科組男達石六、歌助、足利御臺雪の前、甚五郎、女房おつや、小六、村雲の皇子、奴さくら三八、爲十郎、山名刑部、茂兵衞母お角、友右衞門、名古屋奥方遠山、茂兵衞女房おしげ、實は富士太郎、言號早枝、梅幸、名古屋三郎右衞門元國、ほり物師左り甚五郎、觀音講頭六字南無右衞門、淺間左衞門照政、歌右衞門、出雲や息子長吉、長十郎、所作事上巳飾る御雛を漸出來恐入候「時翫雛淺草八景」棚の熊の友成神靈、錦升、和歌三神人形玉津嶋姬、蚕おふみ、新車、ひゐな隨神の

精、芝雀、園精、福助、和歌三神人形住吉の精、檜の熊濱成神靈、興師善玉、九藏、高砂尉人形、長十郎、うし善次、おやまゝ人形精、梅幸、左り甚五郎、和歌三神人形、人丸の精、檜熊の武成神靈、りやうし惡玉、歌右衛門、常磐津文字太夫、小文字太夫、岸澤式佐連中長唄三味線はやし連中いつれも大出來○三まくめ淺間左衛門、富士左京を殺し、高笑ひの幕時平と同斷大出來大切甚五郎所作事和歌三神と云漁師三社の見得引拔善玉惡玉のおどり近年の大出來大々當り○五月十一日より市村座「先代河岸艶船込」仁木彈正直則、羽生屋助三郎、菊五郎、男達浮世戸平、豆腐や三郎兵衛、源之助、足輕嶋田十三、榮三郎、汐澤丹三、山中鹿之助、松助、大江國幸鬼貫、質屋十兵衛、廣右衛門、笹野才藏、所化祐海、三八、儒者井屋見齋、判人文吉、團八、道益、妹小植、宇十郎、黑澤官藏、虎五郎、岩淵軍藏、大次郎、鳶嘉藤次、瓶太郎、大場道益、音右衛門、足利鶴喜代、叶助、梅澤嘉門之助、橘藏、千松、源平、品川猿之助、菊之助、彈正姉八汐り下中山文五郎、仲居おたま、玉次、同おまつ、まつ三、奥女中あやめ、てうの助、さつき、しらべ、松嶋、紀久之助、尤道理之助、三田八、賤の女おすわ、菊枝、おそよ、玉三郎、奥女中沖の井、藤藏、細川息女園生前、笠森おせん、花友、山名宗全、同榮御前、羽生村金五郎、芝十郎、三浦や高尾、與右衛門女房かさね、しうか、足利頼かね、乳人政おか、絹川谷藏、井筒女之助、川だちもくづの三次、百姓與右衛門、渡邊民部、宗十郎、細川勝元、船頭松ヶ枝の鐵、羽左衛門、○第一番目二幕目淨るり及ずながら先代のおもかげに「夢結以納子手枕」高尾しうか、頼兼、宗十郎、清元太兵衛、三絃同千藏、相勤第貳ばんめ「鬼一法眼三略卷」第三段目の切鬼一娘皆鶴姫、花友、白川の湛海、文五郎、鬆かへで、佳調、秋しの、玉次、はつ汐、松三、夕貝、てうの助、奴虎藏實は牛若丸、しうか、鬼一法眼、宗十郎、奴智惠内、羽左衛門、淨るり竹本雀餌太夫、三絃金澤左衛門、何れも大出來大當り○六月三日より中村座「忠臣列撰隨筆藏」矢間重太郎、斧定九郎、一文字や才兵衛、小寺十内、彦三郎、かほよ御ぜん、半左衛門娘おふき、けいせい花咲、粂三郎、大星力彌、万才德又、竹三郎、佐々木兵部、せげん源六、乳もらい善介、現十郎、若狹之助、金遣り嘉兵衛、千崎與五郎、菊十郎、鷺坂伴内、こし元お玉、廣五郎、種ヶしま六、惣嫁お百、國五郎、

同おきみ、めつぼう彌八、とら藏、間垣久之進、一力亭主清七、雷助、淺田千平、百姓與一兵衛、十藏、一力娘おつた、七藏、鹽谷爲若丸、幸藏、寺岡平右衛門、織部安兵衛、高木靱負、多見藏、大星由良之助、矢間喜內、織部彌兵衛、三津五郎、高の師直、斧九太夫、潮田又之丞、三十郎、義平一子よし松、太升、重太郎一子太市、延太郎、でつちかん太、東之助、狸の角兵衛、夜廻りねず六、箱右衛門、仁木右門頭、竹森喜多八、森五郎、石堂右馬之丞、早野三左衛門、佐十郎、こし元撫子、仲居おきく、梅之助、近藤源四郎、村井傳藏、宗兵衛、傾城浮はし、仲居おらく、りとふ、同 おます、こし元夕照、福之丞、鹽谷奥女中吳羽、仲居おてる、春次、同あやほ、一力女房おかつ、辰之助、大星妻おいし、おかつの母おかや、喜內女房おはや、常世、こし元おかる、重太郎、女房おりへ、義平女房おその、愛妾おらんの方、菊次郎、鹽谷判官、早野かん平、大わし文吾、天川屋義平、髪結三すしの網五郎實は佐藤與も七、團十郎、足利直よし公、壽三郎、淨瑠理園竹雀餌太夫、竹本嶋太夫、代々太夫三弦金澤左衛門、鶴澤與三郎、同市造當狂言中五匁直下け何れも大出來◎七月廿五日より市

村座尾上菊五郎一世一代御名殘狂言大名題「尾上梅壽一代噺」京大坂草津石部水口（五十三次開保 作者清水正七）土山坂下より石藥師迄（作者櫻田治助）四日市（常盤津淨るり左交作）桑名より岡崎迄（作者並木五瓶續寺怪談）藤川より袋井迄（作者櫻田治助）掛川（座頭木琴 並木五瓶）嶋田。金谷（大井川作者藤本斗文）藤枝（權八助太夫な打並木五瓶松島陽助）岡部より府中まで（作者田島此助櫻田丹二）薩埵峠（お七辨長殺し與津山井の間 作者福森久三紀文左衛門）蒲原（薄雲幽靈 作者並木五瓶篠田金二）吉原（清元淨るり權八小紫 櫻田治助、梅澤宗二）原沼津（作者櫻田）三嶋（道中雙六 清水正七）大磯上るり（清元）櫻田、川崎、品川（權八立腹切無類之評判 作者櫻田治助梅澤宗二）大切日本橋御祭（禮七變化所作事坂東しうか）常磐津清元長唄はやし連中相勤第一番目三幕目（初日は桑名の宵宮祭に船に奏る燥子の俳優）其常磐津松行平（此兵衛家橘、松風、行平宗十郎）常磐津連中同四幕目（中入は薩埵峠袖引留て化生の縁端）旅道伴れて富本富本連中（後日は大磯の新宿に比翼とかわる夢蝴蝶）心大八首尾清元小紫（權八菊五郎）清元連中相勤

御町中樣益御機嫌能被遊御座恐悅至極奉存候隨而私儀幼年の昔より出世仕年に御取立依而致立身壯年に至り親其名前を繼ぎ殊に父松緑工夫致置候怪談仕掛物等を讓り請年々歲々大評判に預り

一世一代 乍憚口上

親共師匠元祖尾上菊五郎名跡相續仕此類なき立身出世藝道の冥加に叶ひし仕合全く自力に及び難く皆大江戸三千余町御取立御餘光と申年來信心仕信貴山毘沙門天の御利益に御ひゐきの御蔭故と心魂にてつし難有仕合奉存候然る處此度悴共親類共とも打寄申候には最早天命をしると申齢も過老年に斯繁昌致是迄十分に立身被致候へ共滿れは欠ると申諺も有は今の間に御禮を申上身退の貢ふと申又私も近年多病に相成打續勤兼候ゆへ一兩年以前より養生致度存寄と申悴共進めに隨ひ父松緑三十三回忌にも相當候へは何をがなと存候處御ひゐきより仰被下候は先年相勤候五十三次の狂言十三ヶ年以前未年當芝居にて相勤古今稀成大入繁昌致候儘猶年々噂のみゆへ右狂言を相勤候樣御差圖に任せ取あへす五十三次の狂言を一世一代と仕且亦私家に傳り候三幅對と申狂言をいまだ相勤不申候間右三幅の內一幅を追善として差加へ是迄五十三次を一日に入御覽候故宿々悉致難く末々に至り行屆ざる處御座候間御慰も薄く候得ば此度は二日替りに仕初日には京都より大井川迄を時代世話怪談大道具大仕掛取仕組後日は藤枝より日本橋迄をやはり怪談大仕掛にて入御覽可申と作者共打寄せ工夫仕怪談を取交初日後日とも新狂言に取仕込尤初日狂言三日目迄に京都より大井川迄取揃へ四日目より後日三日目迄に藤枝より日本橋迄取揃へ初日後日出揃候上にて二日替りに致私老年の事に候へば中村芝十郎藤川花友尾上松助中村源之助坂東しうか澤村宗十郎座元羽左衛門始其外惣座中幕毎に罷出相勤申候則當狂言一世一代仕候間大江戸三千餘町の端々迄も御合初日後日共何卒御見物被成下候樣且亦御いとま乞の口上は別段申上候先は一世

一代仕候間初日より御賑敷御來駕之程偏に／＼奉希上候以上

尾上菊五郎

役割天竺德兵衛、那伽犀耶尊者、新造、薄雲、同ゆうはん、琴浦、お蔦、桑名屋德藏、猫石の精、白井權八、土左衛門傳吉、江尻穢多團七、おどりの師匠小夜衣、お七、怨念の死神、六角左京亮義弘、菊五郎、小僧治郎吉、菊之助、佐々木彈正若徒八内、寺西閑心、安森吉三郎、名古屋山左衛門、源之助、佐々木桂之助、湯島の三吉、小間物屋丈八、榮三郎、淺田彌市、玉島磯之丞、安森源十郎、松助、石山寺所化辨長、道具や娘おうら、樽やおせん、本庄助太夫、廣右衛門、助松主計、賤の女おくら、男達婆羅門紋平、宇十郎、奈聞埜八右衛門、局岩瀨、男達棺助、金より金吾、虎五郎、三河の百姓義平次、奴土手平、足輕こつはの權内、大次郎、長谷部運八、池鯉鮒の胴六、鷲の宇太左衛門、大島佐賀右衛門、猿太郎、道具や孫左衛門、ごまの灰おかんば〻あ、音右衛門、中納言兼房公、たいこ里七、道具や手代喜助、喜十郎、駄右衛門、手下音、白井下部佃内、又八、米屋娘およね、大島佐五右衛門、道具や手代傳八、釜や武兵衛、久下玄蕃文五郎、官女松の侍從、まつ三、糸や娘おきぬ、娩尾花、てう之助、同き〻やう、仲居おます、政次郎、同おさか、こし元千草、しらべ、八内姉おいね、後室さ〻浪御ぜん、かてう、吉岡の銀杏の前、小紫、新造春日野、紀久三郎、まむしの次兵衛、三田八、こし元おみや、玉三郎、佐々木娩夕波、三浦の女房おつま、三島おせん、藤藏、圓秋妻象潟、こし元琴浦、權八言號八重梅、樽や抱おくに、花友、不破道犬、芝十郎、大明の皇女唐土姬、祭禮練子松風のお市、杵屋おなか、釣舟のおかぢ、德兵衛女房牙のお才、樽や女房おみつ、三浦屋小紫、しうか、長崎次郎爲村、道具や手代淸七、玉島逸當、祭禮の練子、行平の鍋、白柄十右衛門、一寸德兵衛、日本駄右衛門、宗十郎、月本因幡之助、祭禮練子村雨の此兵衛、旅虛無僧英山、男達五尺染五郎、笹良三八、月本圓秋、羽左衛門、淨るり竹本入太夫、三弦鶴澤三糸○當狂言一日替り興行之所古今大々當りに付京都より大井川迄九月より右後日狂言大切日本橋の場え差加へ祭禮ねり子所作事是は三代目坂東三津五郎十七回忌追善狂言坂東しうか市村羽左衛門兩人にて七變化所作事「倭假名色七文字」淺妻、手古

舞源太田舍娘、しうかけいせいかい頭人積廻し、家橘、淨るり常磐津文字太夫、小文字太夫、岸澤式佐連中、清元太兵衛同一壽相勤長唄杵屋連中相勤引續評ばんよく大々當り
○豐年藏に云前文略之七月、一世一代〔見物〕思ひがけないまだ十年位は引込むまいと思つていたにおしいものだ〔頭取〕何か御心に御所存があつてかとても一世一代をするなら達者に何もできる内がよいとの事さすが大達者御氣生かんしん／＼扨一代咄もらかんむほんゆづり次に天竺德兵衛何もながら大でき／＼〔なまぎこ〕薄雲は顔にしわが見へたモゥ女形はよせばいゝ〔でんほう〕たはことをつくとはりくくちくぞコレいくら年がよつても九太夫におかるだの時平に八重のと敵役と娘形と出來る役者があるものか〔頭取〕猫の魔がさしてよみかへるばゝあの御工夫きめう／＼猫寺懐より出る幽靈宙乘ねこ大評判大詰の座頭早替り樋口よりのかいるの引拔大井川の返り打申分なく大當り九月後日に白井權八助太夫を殺し犬神に取付れし場狂言の發端宇津の谷峠〔芝居好〕いつもの權八の鈴ヶ森と見せたる訥子丈との出合評判よし〔頭取〕二丁町にて傳吉さつた峠小夜衣お七いせんの通り忍た村閑七花友の腹をさき旅こむ僧二人を泊焚火もへ立訥子家橘三人顔見合〔ひゐきこ〕見物がうなりました類なし／＼モ一つとないものは六郷のわたしにて立腹を切仕うちモゥ是が見おさめ／＼〔見物〕孫子のすへ迄噺のたねに見ておけとのせりふ大きなもの／＼大切日本ばしの落合迄申分なし／＼當一世一代狂言十月廿日に舞納是より三丁目居宅にて菊の薬餅菊柏もち室の梅紅梅しんこ初音まんちうやどの梅といふ新製の餅を鬻きて産業とす菊五郎改菊や万平
○七月十五日より河原崎座〔齋藤太郎左衛門〕〔一筆書墨田初鴈〕從是一番目二ばんめとも永井右馬頭、麥飯うり次郎作、實は宇都宮公綱、道具や甚三、大舘左馬之助、錦升、藏人妻早咲、庄太郎女房お汐實は三位局、わたし守おつゆ、新車、土岐藏人、永樂や手代要助、芝雀、輪管の太郎、釣鐘搆中請地の松、福助、平賀三郎、忍地左近太郎、小次郎、黑部の別當、道具屋市兵衛、翫右衛門、高橋九郎、木邑右近之助、鷺助、横淵東馬、百姓豐作、岩五郎、同万作、永樂屋でつち辨太、善

次、西郡判官、大七、若者太助、元五郎、牛嶋大藏、植木屋石六、梅鉢、同柴六、早瀨六郎、三吉、おどり子大勢、山崎勘十郎、九藏、藏八一子力若、多美藏、八才の宮、才三郎、右馬の頭一子鶴千代、音次郎、蟹ヶ瀨玄蕃、百姓出來作、武五郞、長谷本九郎、非人地藏の三介、駒助、ゑんまの長六、右少辨俊基公、音八、吉田中納言冬房卿、夜そばうり二八、七右衞門、三位の局、實は磯波、千種家息女野分姬、團之助、大七下女おこま、村次郎、娌きゝやう、與三郎、小萩、榮枝、白きく、三藏、尾花、大七、下女およし、三よし、同おきん、萩の侍從、にしき、川越妹しら梅、うしやのおふね、梅三郎、赤松の妹松ヶ枝、野分姬かしづき五百崎、芝かく、常磐駿河守、釣洲百藏、歌助、兵太夫女房おさみ、永樂屋後家おらく、小六、村上彥四郎、大坂や源左衞門、爲十郎、垂水兵太夫實は河內守廣信、赤松律師、永樂や番頭長九郎、友右衞門、右馬頭妻花園、次郎作女房おりう、土手の水茶や都鳥のお波、永らくや娘おくみ、梅幸、齋藤太郎左衞門、百姓庄太郎實は楠多門兵衞、聖天町法界坊野分姬亡魂、歌右衞門、楠一子正行、長十郎、第貳番目大切空行のみなとおもひきや燈にもかけのすみだ川とは「兩顔月詠歌」甚三、錦升、渡し守、新車、おくみ、梅幸、法界坊、野分亡魂、歌右衞門「五人男侠花姿競」男達極印千右衞門實は進藤德次郎、嘉川隼八、千葉藩中望月數馬、彥三郎、里見息女淸川、男達鴈金文七實は結城友之助、鴈かね紺屋でつち文吉、粂三郎、同豆太、山川やでつち千吉、竹三郎、遠藤曾平太、醫者藪原道庵、現十郎、里見長狹之助、淨念法師、菊十郎、浪花達衆白船久右衞門、紙屑買太郎八、廣五郎、田川喜惣兵衞、非人丸寐の八、國五郎、遠藤下部軍內、紺や手間取淺、冠五郎、山川や手代權六、浪人茨木彌藏、虎藏、里見下部しげ平、手代淸七、らい助、愛染講頭善六、西照律師、十藏、中間伴助、相藏、男達布袋市右衞門實は鴈金紺屋文七、神田丸の與吉、多見藏、卜者宅間玄龍、町抱月見三五郎、吉岡兼房、三津五郎、男達安の平兵衞實は里見主水、植木買松、笠間郡領、三十郎、里の子竹松、多家藏、其外大勢、非人ゑんまのくわつ八、尼妙貞、箱右衞門、役人馬淵源吾、紺屋手間取德藏、森五郎、山川や手代平助、米澤屋五左衞門、佐十郎、こし元てり葉、仲居およし、梅之助、浪人大坪屠仲太、せつた直し仁三、宗兵衞、仲居おふく、娌もみぢ、福之丞、同桔梗、友達娘おらく、鯉と

う、水茶やおかつ、紺屋下女おはる、春次、乳人なるせ、仲居おきく、辰之助、隼人女房岩崎、山川や後家おつた、里見後室繼橋御前、常世、千右衛門女房お梅、紺屋娘おたか、けいせい菊川、菊次郎、男達雷庄九郎實は小見川傳兵衛、非人新米の三、野田角右衛門、勝間六京之助、團十郎、荒川太郎、壽三郎「檀浦兜軍記」岩永左衛門宗連、多見藏、半澤六郎成清、菊十郎、岩永郎等、兵當國五郎、其外大勢遊君阿古屋、菊次郎、秩父の庄司重忠、團十郎、淨るり竹本入太夫、同嶋太夫、三弦鶴澤與三郎、相勤何れも評よし○十月六日より、源平布引瀧、（三の口切）瀬の尾十郎、彦三郎、百姓九郎助、現十郎、篠塚軍平、森五郎、矢羽瀬仁惣太、國五郎、りやうし磯七、相藏、同かぢ六、薪藏、齋藤別當實もり、多見藏、木會義賢、三津五郎、長田太郎、三十郎、小万一子太郎吉、多家藏、百姓米作、孫六、庄屋杢兵衛、源次葵御前、鯉桃、九之介女房小よし、常世、同娘小万、菊次郎、花川戸身替の段宿廻し、與次郎、彦三郎、姉輪家來逸當太、虎藏、地廻り、大勢、下女おせん、仙之助、園生の前、しげ松、げいしやおしゆん、粂三郎、井筒屋傳兵衞、白藤源太、團十郎、いつれも大出來大當り○九月九日より河原崎座「義經千本櫻」川越太郎、さかみ五郎、いかみの權太、横川の覺範、實は敎經、錦升、卿の君、ごん太女房小せん、賤の女おたみ、新車、主馬小金吾、入江丹藏、龜井六郎、芝雀、熊井太郎、わつばの菊王、福助、片岡八郎、吉水下男杢助、小次郎、鈴木三郎、常陸坊、瓶右衛門、猪の熊大之進、吉野くつ平、さぎ助、山科荒法橋、百姓甚十、岩五郎、土佐坊昌俊、鬼佐渡坊善次、黑井の次郎、船頭早藏、元五郎、同音六、赤井藤太、梅鉢、信夫の小太郎、船頭松八、三吉、安德天王、音次郎、權太一子善太、才三郎、六代御前、音吉、源九郎判官義經、御厩喜三太、放し鳥賣百々作、すしやや助、九藏、庄屋彌九郎兵衛、返り坂藥醫坊、音八、伊勢の三郎、三輪杉平、七右衛門、若葉の内侍、伊勢三郎妻濱おぎ、團之助、娍野分、三花、同眞葛、鮎汲おなみ、三よし、同おきじ、娍尾花、にしき、官女紅葉局、こし元白露、梅三郎、同はつ霜、櫻の局、芝鶴、早見藤太、奈良のでく平、川連妻あすか、すしや女房おくら、小六、武藏坊辨けい、駿河の次郎、爲十郎、すしや彌左衛門、海のゝ太郎、川連法眼、友右衛門、典侍の局、すしや娘おさと、鳥さし返り咲お梅、しづか御前、梅幸、渡海屋

銀平實は知盛、梶原平三景時、禰宜四ッ井駒成、源九郎狐、佐藤四郎兵衛忠信、歌右衛門、堀小彌太、長十郎、第四段目の口淨るり上の巻は嫂の孝環繰返す「新曲初音皷」しづか、梅幸、忠のぶ、歌右衛門、富本豊前太夫、三絃鳥羽屋里長連中下の巻はむかしな今に取なして「旅雀三芳穐」鳥うり茂々作、九藏、鳥さしお梅、梅幸、禰宜駒成、歌右衛門常磐津文字太夫三絃岸澤式佐相勤何れも大出來大當り○霜月十五日より顏見世中村座「八嶋裏梅鑑」盜賊袈裟太郎實は越中の次郎、野尻次郎維村、平大納言時忠、紺屋の隱居宗德、重井筒女房おます、三十郎、維義妹白縫姫、宇佐八幡樂人久丸八、嶋浦の蜑茂汐實は官女玉虫靈、重井づゝ抱おふさ、植木賣江戸紫のお花、粂三郎、菊地の臣瀧川藏八、臼井主稅之助、高松源吾、船頭沖藏、炭うり剣六、現十郎、左中將清孝、漁師鰐七、五文字判六松露、鶴藏、菊地の臣入江隼人、松浦老女君江、福しまや利右衛門、廣五郎、尾形下部林平、赤間七郎、茶ばんし鷺、さぎ助、迷禪法印、まわし義助、音八、山賊がけ六、大丸屋手代久六、冠五郎、尾形三郎維義、富樫左衛門、旅廬無僧是客實は岩瀨常駿、重井筒次兵衛、船頭みよしの吉、九藏、松浦若徒棠藏、

家主太郎兵衛、らい助、神職數馬、講中善介、十藏、娞あやは、重井筒抱おたけ、竹三郎、同およし、娞吳羽、梅代、黑木賣お梅、重井つゝ抱おむら、米次郎、同おいろ、曆賣おいせ、梅之助、九條判人源六、男げいしや万八、駒助、龜井妹はつ霜、松浦仕女ふせや、井筒娘分おはる、春次、同おさよ、松浦侍女道柴、伊勢妹藤の戸、芝雀、森山次團太、片岡七郎、森五郎、駿河次郎、松葉や若者佐兵衛、右筆紺齋、翫右衛門、松浦侍女舍り木、引手茶やおすへ、花形師匠おふで、辰之助、佐伯の七郎、料理人喜之助、町かゝへ三吉、三田八、九條けいせい九重、卿の君、矢とり娘おたま、玉三郎、純義御臺深雪前、叶屋女房お六、小六、洞ヶ嶽盜主龍室積左衛門、大友郡領、題目講世話人七次、男女藏、吉成妻左用衣、時忠御臺楓之前、德兵衛女房おはつ、賤の女はかたのおしま、菊次郎、松浦兵庫之助、菊地右門正貞景、能登守敎經、京紺屋德兵衛、拳指南とてつる庵酒樂、歌右衛門、第二番目大切淨るり壽うつぼ猿、二郎冠者、九藏、大名、現十郎、さる、花助、太郎冠者、菊次郎、猿曳、歌右衛門、常磐津文字太夫、佐喜太夫、岸澤式佐相勤大出來狂言作者藤本吉兵衛、中村故七、豐嶋

新藏、村冠二、市岡和助、櫻田治助
○四立目返しだんまり三猿芝雀時代なる中に歌右衛門德兵衛にて世話にて出られ手がるき立廻り見物の請よく松浦兵庫之介大詰迄大出來第貳ばんめ德兵衛の人形ふり（八百屋半兵衛同斷）○十一月廿五日より茶や場出す井筒女房三十郎おふさに異見近松の院本の通（大判小異）亭主九藏德兵衛に異見巨燵の中へおふさをかくす事あり後心中に出る歌右衛門二階にて一人り狂言の間無類の大出來四立めだんまりに拾ひし尊像此場の切に火の中へ打込夫より九藏三十郎に見付られ命助る事也
○十一月四日より中村座「源家八代惠剛者」齋藤吾國武實は長谷部信綱、せり呉服高嶋や長兵衛、鎌田兵衛正清、下り市川小團次、越中次郎兵衛盛次、池の丹波之助頼盛、齋藤實盛、源之助、宗盛かし付眞弓、池の禪尼、志内六郎姉矢橋、常世、三位中將重村、紫三郎、瀬の尾太郎、採治療菲見文五郎、能狂言師幾太郎、部屋頭長右衛門、歌助、仕丁九郎又實は長田太郎、切見世女郎おてう、宗兵衛、新藤五郎光安、飛脚藤太、甑太郎、飛驒左衛門、盗賊玄光、虎五郎、塞念佛莫連坊、家主太郎兵衛、吾右衛門、瀧口三郎、鳥うり久作、又八、地廻り嘉吉、進の次郎虎藏、高樂賣久太夫、具足師吉吉、入藏、權藤太遠景、上かんや一せん八助、鴻藏、木曾先生義賢、老女熊野の庄、長田忠宗、三津五郎、源乙若、菊之助、當今の小舍人龍丸、吉彌、同虎丸、勘藏、天王寺門番づふ六、箱右衛門、重衛吉號千壽の前、鯉とう、小松の直勤松浦次郎ゑい山兒ちゞ丸、國五郎、羽根川東馬、大次郎、志内の六郎、甚吉、阿波の民部、三日月長屋ろじ番松、小次郎、娍しのぶ實は宗盛言號千里の前、ときはかし付横笛、藤藏、白拍子湯谷御前、藏人妻待宵、花友、成能娘鳴戸の前、三日月おせん、行綱妹白梅、しうか、野伏り顯吾實は惡源太義平、ゑびざこの十、主馬判官、小松重盛、團十郎、平大臣宗盛、能師高村定之進實は多田藏人、瀧谷金王丸昌俊、羽左衛門、第一番目大詰所作事「今よぶ高野物狂」市村羽左衛門、常磐津文字太夫、同小文字太夫、岸澤式佐、同文左衛門、第貳番目大切（所作事と申すも恐れいり豆に花のお江戸の御ごゐきな）「四季寫土佐畫拙」七變化市川小團次、乙姫、大黑、船頭、雷、おいらん、客人、禿（辨次郎才三郎）牛若丸以上七役、辨慶、團十郎、淨るり常磐津文字太夫、連中竹本鶴澤連中長唄

はやし連中相勤狂言作者櫻田治助、福森久二、松嶋てうふ、清水正七、松島陽助、三升屋二三治
○四建目だんまり惡源太夫百日團十郎國俊狩裝束小團次鳴戸の前しうか行綱武者修行羽左衛門若手揃當時のきゝもの斗り大に評よし五建目局見世三日月おせんゑびざこの十しうかと八代目の出合大當り六建目御殿場内侍寶はおせん杜若其儘大詰まで大出來○能狂言家橘評よし、役者豐年藏に云、大上上吉見れば見る程いろけの有結び文坂東しうか〔ひゐき〕花のお江戸根生の娘形やぐら三枚の大達ものとはしうか丈の事ですが大和や秀佳丈の存生の目がね違はず玉三郎の時分より京大坂を藝の修行の見へ升た／＼〔頭取〕當時三座のおやまにて何をさせても申分のないしうか丈末の春曾我の書初に月小夜にて妙貞尼となりかたり場の後に訥子丈家橘丈三人せわの　だんまり大でき／＼○上上吉あつはれ業もの涙の平の差添　市川小團次〔三升連〕たれだど思つたらば海老藏丈門弟升藏丈の門弟米藏丈廿四五年跡小役にて上方へ上られ小芝居抔修行して米十郎と成り中芝居の大立者に成ときゝ升たが久しぶりにお下りは目出度／＼〔ひゐき〕市村座へ下りのいわいに一つ〆てもらい升う〔連中〕ョイ／＼／＼ョイ／＼す（中略）顔見世惡剛者だんまり狩場形にて三升丈家橘丈しうか丈との立廻り大出來／＼二役薺藤吾實は信綱にて荒事申分なし〔ひゐき〕大詰井戸やかたの大だては目がさめるよふに身のかるい事きめう／＼〔頭取〕所作事七へん化一つとして申分なく／＼大當り／＼〔連中〕其中でも雷と牛若は類なし〔わる口〕船どふわるかつた茶船のりかわたし船の船頭であらふあんな船頭は江戸の舟宿にはあるまい〔連中〕今に江戸風をのみ込升す何んでもこん度市村の大入は小團次丈のお手から／＼○米升丈初下りより大に評よし
○十一月七日より河原崎座「菅原傳授手習鑑（すがはらでんじゆてならいかゞみ）」直根太郎、戸隱の霧太郎、都之助艮香、舍人梅王丸、錦升、源藏、女房戸浪、立田の前、櫻丸女房八重、新車、判官代照國、參議定綱、芝雀、かりや姫、舍人鶴丸、竹三郎、左中辨希世、奴宅内、廣右衛門、僞迎ひ彌藤次、よだれくり與太郎、宇十郎、荒島主税、百姓鍬六、善次、清原の廣純、鐵砲引音又、岩五郎、局みなせ、百姓助八、喜十

郎、安樂寺住僧、昌藏、仕丁大勢、手習子大せい、菅秀才、紀千松、飛梅の精、由次郎、松王一子小太郎、源平、武部源藏、百姓白太夫、船頭荒藤太、藤原時平公、彦三郎、こし元大勢、女中頭三つ蔦、菅家姫山路、三よし、同勝野、梛の待従、にしき、伊豫の內侍、高藤の室菊川、梅三郎、紀の長谷雄下男三介、佐十郎、三好の清貫、堤畑の十作、七右衛門、御臺花園御前、梅王女房はる、團之助、くりから太郎、鮭塚平馬之允友景、爲十郎、齋世親王、十條民部、松助、土師兵衛、唐使裴文籍、春藤玄蕃、友右衛門、松王女房千代、後室覺壽、文室の息女紅梅姬、舍人櫻丸、梅幸、菅原道實公、秦の兼武、櫻餝うり紀の作、舍人松王丸、宗十郎、小舍人杉王、長十郎、第一番目四建目だんまり淨瑠理盗人の黒出立時平の白裝束「忍夜妬い字」きり太郎、錦升、丑の時參り、紅梅姬、梅幸、兼武、宗十郎、清元太兵衛、同勇喜太夫、三絃千藏、同忠次郎相勤何れも評よし然れ共不入にて○同十九日より「澤村咲博多花艶」海賊毛剃九右衛門、錦升、奥田屋女房おしま、新車、座頭もり市實は向井金十郎、芝雀、中國彌平次、廣右衛門、じやがたら三藏、宇十郎、加田の市吾、博多の女郎、小倉喜十郎、料理人喜助、岡六、奥田や仲居お柴、柴枝、同おせん、與三郎、小女郎禿重之丞、幾太郎、船頭嶋の小平次、彦三郎、奥田仲居おはな、三花、同おつた、三よし、博多けいせいみさほ、にしき、同かつ山、梅三郎、同江口、團之助、難波の仁三、七右衛門、小倉傳右衛門、爲十郎、德島平左衛門、松助、船頭灘の後平次、友右衛門、けいせい小女郎、梅幸、小松屋宗七、宗十郎、栗原主税、長十郎、當狂言も評ばんよし不入殘念〳〵　淨るり豊竹桐太夫、同姬太夫、同喜久太夫、同入太夫、三味線竹澤大作、鶴澤與三郎相勤狂言作者梅田瑳助、九字新作、勝見調三、梅澤宗六、松本幸治、梅盛春助、河竹新七、三戯場顏見世狂言評判能日數打切目出度舞納

弘化四丁未四月六日

天慈院永久日受信士　俗名岩井杜若行年七十二　日蓮宗　深川淨心寺

江都根生の女形六代目岩井半四郎事は天明八戊申子役岩井粂三郎俳名梅我寛政九丁巳娘形文化元甲子顏見世より半四郎と改名俳名杜若とす大達者となり一代之內當り狂言多し

女清玄、お染久松七役、鏡山おはつ、藝者、揚卷、白井權八、曾我五郎時宗、しばらく、三かつ、おみわ、おさ

と、女達おつる、放駒長吉

猶あるべけれども爰に略之文政三庚辰京大坂所々にて名譽をあらはし天保三壬辰十一月中村座におゐて半四郎を悴粂三郎に譲り俳名杜若を以て名とす弘化の初め剃髪して松下庵永久と申淺草富士下に隱居し世を退れ居られしに當四月六日終に此世を去り迷途黄泉の客となられし

弘化四丁未八月廿四日

淨說得聞信士　俗名中村芝十郎行年四十九歳　深川本誓寺地中　靈閑院

俳名芝樂家名江戸屋

幼名岩井喜代太郎と云文政年中芝翫と共に大坂に上られ故人中村歌右衛門梅玉門弟となり中村芝十郎と改名し所々修行し天保二辛卯三月中村座ゑ下り大名題追々評よく出世なりしにはからず死去致され升た

上上吉　坂東三八

上上吉　嵐團八

狂言作者村拙子

何れも歌舞の蓮花座ゑ趣かれました

花江都歌舞妓年代記續編巻の廿二

◎嘉永元戊申歳

〇正月七日より中村座「月梅攝景清(つきのむめひかきのかげきよ)」「褄二重梅由兵衛(つまがさねむめのよしべゑ)」傍聞長者實は伊場十藏、盗賊壬生小猿、山崎勘十郎、ちゝぶの重忠、三十郎、長者娘おさん、御曹子牛若丸、げいしやおやま、でつち長吉、粂三郎、伊場の小太郎、髮結の粂實は里見粂之助、天野四郎照行、新七、金賣橘內、矢文うり德大淸、イ七、福助、三保野谷四郎、古手買やらずの九助、現十郎、盗賊摺針太郎、醫者粂庵、つる藏、百足や金兵衛、盗賊麻布の松若、廣五郎、同韋駄天、刑部堀源三郎、鷺助、梶原平次、音八、人買權藤次、冠五郎、盗賊うるし根太郎、元五郎、同深谷の梠若、三吉、同しなのゝむくろぎ丸、成藏、同戸隱の彌平、岩井長四郎松太郎改名 其外大勢、五條坂の禿みどり、尾上歌柳太升改名 景清一子あざ丸、白藏、室津肝煎佐次太夫、金賣吉次信高、源兵衛堀源兵衛、九藏、彈澤加次郎、雷助、庄や早稲田ばゝ作、十藏、青柳娘分おとみ、しげ松、同おゆき、梅之助、盗賊與四郎、駒助、長者娵早わ

らび、春次、同初音、芝鶴、盗賊彈久森五郎、千葉主水、甚右衛門、青柳娘分おさき、辰之助、いわほのし丶丸、三田八、北條息女玉衣姫、玉三郎、下りけいしやお梅、御臺政子御ぜん、梅歌、長者女房柵、義時奥方吳竹、青柳女房おいと、小六、船番匠杢右衛門、三浦之助義村、梅澁うり奥四兵衛、男女藏、傍關賤女しのぶ實は八丸姫、けいせい梅ヶ丶、五條坂仲居おきく、由兵衛女房小梅、菊次郎、盗賊張本熊坂張欒、千葉之助常胤、梅のよし兵衛、惡七兵衛景清、歌右衛門、万壽丸君、賴家公、壽三郎、第一ばんの四立め上るり（初夢た巳午の曾我よき五條坂の恵方參り）「色品替拳酒」關三十郎、中村福助、坂東玉三郎、岩井粂三郎、市川九藏、尾上菊次郎、中村歌右衛門、常盤津文字太夫、岸澤式佐連中相勤いつれも大出來大々當り、第二番め四立目牛若熊坂大立手下大勢同返し上るり大詰第二番め由兵衛長吉殺し迄大出來○正月十一日より市村座「初春の御壽そが」第二ばん目「三升獨鈷博多襠」曾我五郎時宗、たいこ持小平次、庭作りおぼら六三、小團次、舞鶴や傳三、奥田や料理人喜助、花岡團三郎、源之助、舞鶴や女房おせん、奥田や仲居おつた、常世、曾我ぜんじ坊、粂三郎、箱根滿左衛門、

天草三藏、文五郎、梶の長兵衛、座頭盛市、歌助、筏のりきりきの介、加田の市五郎、宗兵衛、男藝者櫻川孝作、博多のけいせい小倉、甚太郎、百足や金兵衛、徳島平左衛門、虎五郎、廻し小助、菅右衛門、花岡の若徒佐五平、島藏、佐野太郎、元助、愛甲三郎、市五郎、臼杵の八郎、茂三郎、竹の下孫八右衛門、眼助、福清か丶へおふく、三太郎、梶原源太景季、箱右衛門、萬壽君、賴家公、勝次郎、御所五郎丸、菊之助、近江小藤太、植木や梅澤小五郎兵衛、福島屋清兵衛、三津五郎、小女郎禿しげの丞、幸藏、同かつみ、吉彌、犬坊丸梢藏、千壽君實朝公、相藏、八幡の三郎行氏下り坂東三津藏、梅本仲居おつや、つやの、同おむめ、梅松、同お玉、玉次、同おかつ、まつ三、仲町けいしや百吉、仙之助、博多けいせい勝山、鯉とう、そが下部宇佐平、小倉傳右衛門、國五郎、非人かん八、中國彌平次、大次郎、曾我下部久す平、甚吉、長兵衛女房おかく、奥田や四郎兵衛、小次郎、舞鶴や娘おつる、奥田や仲居おふじ、藤藏、三浦の片貝、十右衛門女房おさよ替りしうか花友、粧坂仲町のげいしやかしく、博多けいせい小女郎、しうか、曾我の十郎祐成、鬼王、小僧七郎助、毛ぞり九右衛門、團十

郎、工藤祐經、小まつや宗七、船越十右衛門、羽左衛門、第一番目大詰今様見立六歌仙の段が「替(かは)れば柳糸遊所操(やなぎのいとゆうしよあやつり)」喜せん、小團次、遍正、源之助、小町、しうか、黒主、三津五郎、業平、團十郎、康秀、羽左衛門、小平次、小團次、おつる、藤藏、けいしや、しうか、傳三、源之助、鳶、三津五郎、おめうり、團十郎、たいこ、羽左衛門、相勤常磐津文字太夫連中長唄はやし連中何れも大出來大當り○役者産物(ほうび)合に云

大 上上吉市川團十郎曾我ニ鬼王小僧七郎介小團次丈と立廻り評よく次に五分月代にて世話敵白猿丈其儘〳〵後腹切迄申分なし上るりの業平の景事きれい〳〵引拔餉うりいやみなく奇妙〳〵（中略）毛そり九右衛門大當り〳〵 大 上上吉市村家橘（前文略之）船越十右衛門作り萬端よく後見せもの師の所作事大でき〳〵引拔康秀の景事大當り〳〵工藤祐經若輩ゆへいかゞと存の外落付たる仕うち兄弟二人共不評故一ちばい見榮へが致し升た三役小松屋宗七申分なし大出來上上吉市川小團次そが三立目八代目としうか丈と雪降りの立廻り植木や六三さら〳〵としてよし所作事見せもの師言立の奴奇妙〳〵

（中略）六歌仙に喜せんは別段大出來〳〵 大 至上上吉坂東しうか曾我にけいこかしく押立と云花かあつて申分なく十右衛門女房大出來〳〵淨るりに小町姫きれい〳〵對面に鬼王代りのおさよ花道よりの出大當り〳〵切小女郎花かあつて大評判〳〵と云云此四人きゝもの也

○正月廿四日より河原崎座「吉例曾我訥子玉(きちれいそがのとしだま)」曾我五郎時宗、非人ひねりの八藏、旅座頭けい政實はひねり八藏、八木孫三郎實はひねりの八藏、錦升、小林や新造ゑびら、ゆる木姫雲の井、江戸平 妹十六宵の小よし、舞鶴やのけいせい瀧川、新車、八幡の三郎行氏、伊達與作實鎌倉や五郎八、忠右衛門母おすわ、芝雀、宇佐美久須之助、大かくら紋三、竹三郎、わし塚下部段助、いしや寒竹、本田彌惣右衛門、廣右衛門、官太夫、小笹古手や十郎兵衛、鷺坂下部鴨平、宇十郎、旅座頭めく市、舞つるや若もの善助、善次、越川軍八、鎌倉や手代忠八、岩五郎、横田傳吉、黒船子分市藏、武五郎、おはしたおまつ、たいこ都林中、喜十郎、舞鶴ややりておつめ、扇藏、萬壽君、才三郎、千春君、音吉、由留木息女調姫、イ久太郎、忠右衛門一子忠吉、由次郎、鳶

の者百足の金太郎、源平、曾我十郎祐なり、伊達若徒逸平、八木孫左衛門、獄門の庄兵衛、由留木造酒頭、彥三郎、箱根兒閉坊丸、友松、有馬の湯女おはな、三花、同おます、嫗春野、政次郎、湯女おきん、奥女中錦木、にしき、同梅ヶ枝、湯女おせん、梅三郎、伊達與三兵衛、米やひね右衛門、湯女おはつ、奥女中藤浪、舞つるや女房おでん、闇之助、わし塚八平次、馬士畑右衛門、赤澤十內、爲十郎、そが團三郎、鶯梅澤の小五郎、由留木右馬之助、松助、近江小藤太、わし塚官太夫、小地ごくの江戸平、高市宇田右衛門、友右衛門、小林屋けいせい朝日太夫、由留木奥方眞弓御前、女馬士關の小萬、忠右衛門女房お梅、梅幸、工藤祐經、鷺坂左內、鎌くらや仁兵衛、黒舟忠右衛門、伊達新左衛門後重の井新左衛門、宗十郎、小はやしや朝吉、女馬士じねんじよのおさん、長十郎（當狂言は文政三辰年七月中村座新左衛門三代目坂東三津五郎重の井岩井くめ三郎おさん市村龜之助二ばんめみの吉役いづれも大當り）第一ばん目五六目上るり（三日三夜の大とら浮れ廓の）「釣狐罠環菊」（つりぎつねわなにかんぎく）（全壹號）時宗、錦升、久太之助、竹三郎、朝日太夫、梅幸、ゑひら、新車、朝吉、長十郎、祐つね、宗十郎、清元太兵衛、同榮壽太夫、三弦同一壽千藏相勤

○二まくめ有馬湯治場三幕め重の井詮議四まくめ貧家五まくめだんまりより上るり六まくお三身替り迄申分なし大出來大當り

○三月十五日より中村座「忠孝譽高輪」（ちうこうほまれたかなわ）高の師直、進藤浪次郎、彥太夫女房おらん、千崎彌五郎、三十郎、忠太兵衛娘おいと、大星力彌、嫗おかる、粂三郎、矢間重太郎、桃井若狹之助、新七、上松左衛門之助、大鷲文吾、福助、柴村七太夫、鎌田軍兵衛、現十郎、古はやし平內、浪人刎川左司馬、鶴藏、家主久兵衛、廣五郎、中間誠介、音八、浪人横田傳藏、冠五郎、同中野半八、元五郎、瀨山皿八、三吉、爲若丸、音次郎、寺岡一子平吉、才三郎、桃井國千代丸、歌柳、大星大三郎、鹽谷判官、佐藤與茂七、植木や杢右衛門、織部安兵衛、九藏、義平一子よし松、花助、庄や七郎兵衛、らい助、同庄兵衛、竹次郎、嫗若葉、梅代、夕ばへ、米次郎、花てる、しげ松、春の、梅之助、小蝶、しらべ、浪人須藤丹平、駒助、松ヶ岡松月、芝鶴、浪人山口曾平太、森五郎、馬淵嘉功太、嶽右衛門、尼春月　春次、同花光尼、辰之助、小寺十內、三田八、高野息女逢夜姫、玉三郎、彥太夫娘おくみ、嫗折枝、梅歌、平右衛門女房お北、鄉右衛門女房道芝、小

六、結城忠太夫、佐藤鄕助、加古川本藏、男女藏、後室かほよ御前、彌作女房おとよ、義平女房おその、ゆらの助女房おいし、菊次郎、早野かん平、鐵間宅兵衛實は寺岡平右衛門、百姓彌作、天川や義平、大星由良之助、歌右衛門、足利直義公、壽三郎、淨るり園竹雀舖太夫、三味線金澤左衛門、相勤大出來大當り役者產物合に云此度之忠臣藏に由良之介のないは正月三ヶ日に雜煮の無之やうの物夫ゆへ格別大入もなく引つゝき本國の場の追加に成ました「ム々口」ゆらの介遲かつた夫故不入は殘念〳〵と云々中評也

○三月四日より市村座「昔語稻妻帖(むかしがたりいなづまさうし)」畫師浮世又平、仁木左京之進、山三下部關平、作左衛門下部猿次郞、小團次、佐々木桂之助、土佐修理之助、山三下部鹿藏、源之助、室町の北の方綾の臺、修理之介女房おまつ、常世、名古屋山平、榮三郎、不破道犬、長谷部雲谷、文五郞、神職造酒太夫、家主杢兵衛、歌助、犬上段八、雲谷門弟加尉、宗兵衛、藻くづの三平、上はやしやりておつめ、蜒太郎、土子泥助、雲谷門弟二九、虎五郞、肝いりせち兵衛、晋右衛門、矢橋兵藤、松影手代嘉七、又八、粟津藤太夫、吳ふくや十右衛門、虎藏、雁ひば、あおちか、若い者喜七、入藏、居酒屋久七、たいこ里七、嶋藏、上林仲居おとら、箱右衛門、かつらき新造、桂野七藏、宮澤正之助、橘藏、名古屋山左衛門、土佐將監光信、攝津嘉門、三津五郞、米や廻り升五郞、幸藏、小性金彌、吉彌、同銀彌、勝次郞、禿しげみ、才三郞、同かつの、相藏、佐々木花形丸、延太郞、茶道珍才、勘藏、奴伊達平、下り坂東三津藏、妼道柴、つやの玉づさ、玉次、松風、まつ三、常夏、仙之助、上はやし仲居おてう、てうの助、同おます、福之丞、おいね、かてう、こし元おたき、足利息女銀杏の前、鯉桃、名和無理之助、庄屋の丁助、國五郞、笹の蟹藏、雲谷門弟芳雀、大次郞、上林淸左衛門、甚吉、狩野歌之助、小次郞、白拍子藤浪、仲居おみや、又平女房早枝、花友、けいせいかつらき實は藤浪妹お柳、將監娘おみつ、大和屋お秀、山三下女お國、しうか、不破伴左衛門、狩野四郞次郞元信、下男與四郞、細川修理之助政元、團十郞、名古屋山三元春、笹良三八、六字南無右衛門、羽左衛門第二番目「義經(よしつね)千本櫻(せんぼんざくら)」四の切佐藤忠信、源九郞狐、小團次、川連女房あすか、常世、象徒連丸、禪師文五郞、同見溜の若狹、歌助、同什高坊、宗兵衛、同卒法沙彌、蜒太郎、同荒法

橋、又八、同業醫坊、島藏、川連法眼、三津五郎、駿河次郎、三津藏、伊勢の三郎、甚吉、片岡八郎、虎五郎、龜井の六郎、小次郎、しづか御前、奥女中よしの實は源九郎狐、げんそく千枝狐、腰女深雪實は千枝狐、しづか、九郎判官義つね、團十郎、横寺の九年坊、白拍子花橘、草刈龜松三やく實は源九郎狐「初音鼓　本狐」しづか、狩左衞門、淨瑠璃常磐津文字太夫、岸澤式佐連中、長唄囃子連中竹本入太夫、同島太夫、鶴澤蟹六、同清三郎、相勤何れも大出來大當り○第一番目大名題わり書に山東庵の滑稽一陽齋の筆意在りし僞を敷寫して狂言の葉京傳子の作りへ如す是書團十郎狩野の元信にて衝立に松の畫をかゝれたは奇妙〳〵此繪を江戸中の娘達のはいとりでござり升た仲の町さや當て若手の三名人揃の事故釣合能大評判大入大々當り近年彌生狂言の當狂言になり升た是も京傳の筆意と云今に名譽をのこされし第二ばんめ忠のふ三弦の胴より出し小團次大に評よし大切所作事迄何れも大評判大當りなり○三月四日より河原崎座「鎌倉山櫻御所染」清水冠者之助清玄、秋田城之助、見世ものの師桶藤の壬生平、局岩藤、錦升、北條息女櫻姬、狩野の娘おまき、祇園のおかぢ、新車、結城の七郎友光、若徒井橋、勇助、廣崎求馬、芝雀、奴つる平、浮橋妻八、竹三郎、二階堂刑部、奥女中柏木、衣笠兵馬、廣右衞門、六浦左京、奥女中常夏法印、吉妙院、宇十郎、鞘子圖書之助、奥女中綿谷、善次、須山大炊之助、奥女中讃岐八、岩五郎、同やどり木、神原內記、武五郎、戸頭彈正、奥女中逢生、壽十郎、眞柄舍人之助、下部可內、梅鉢、千葉光太郎、奴紀久平、鉄次郎、清水の兒鶴若丸、由次郎、同鶴若丸、源平、三浦荒次郎、狩野兵衞、隅田川、渡守竹作、奴莚平、彥三郎、清水兒雪若丸、友松、月若丸、朝次郎、花若丸、奥升、こし元若菜、三花、同明石、女八講世話役お增、政次郎、隅田川茶やおはな、奥女中夕がほ、にしき、同浮ふね、賤女おたみ、梅三郎、細川民部、清水の散月圓師、八つはし屋傳兵衞、佐十郎、建長寺眞嶺禪師、醫者宗壽、狩の下部五百平、七右衞門、奥女中竹川、勇助、女房おそで、北條家息女紅梅姬、團之助、牛島主稅、狩の源藤太、しら川淵藏、鶴十郎、源實朝公、綾瀨主水、顯藤勘介、松助、奴鳥羽平、貨物屋軍次兵衞、三浦大膳、友右衞門、中老尾上、壬生平妹おみつ、北條奥方松ヶ枝御前、源左衞門妻玉笹、梅幸、狩の源左衞門宗茂、清水清玄阿闍梨、

植木うり紀之助、召仕おはつ、宗十郎、大館五郎照秀、長十郎、淨るり竹本大和太夫、三弦鶴澤與三郎、相勤第貳番目序幕田舍源氏の姿を假り「夢結胡蝶卷」錦升、源平、長十郎、新車、宗十郎淨るり淸元太兵衛三弦同千藏連中相勤〇鏡山鎌倉山取合たる仕組何れも大出來大當り源左衛門古今大出來同

〇四月廿六日より「音聞殿下茶店聚」東閒三郎右衛門、安達彌助、京屋滿助、錦升、早瀨の後家操、萬助、女房お德、新車、早瀨源次郎、竹三郎、奴うで助、尼妙閑、廣右衛門、神道者鈴太夫、番頭善八、守十郎、東閒大藏、鳥羽の牛藏、田舍侍築地彥之進、善次、最上軍兵衛、小道具屋利兵衛、岩五郎、岩淵平馬、仕丁藤作、横見傳之丞、醫者慶安、手代嘉助、喜十郎、同佐兵衛、黑塚金藏、白酒や太助、梅鉢、浮田中將秀秋、手代與七、鈬次郎、小妹右門、由次郎、難波や一子笠松、源平、京屋丁稚長松、友松、幸左衛門一子幸松、淸次郎、萬助一子萬松、兼次郎、友達子供大勢、茶や女おまさ、政次郎、下女おたつ、にしき、井筒やのおきち、梅三郎、佐竹新十郎、非人頭傳吉、佐十郎、井づゝや伊三郎、中間升平、七右衛門、染の井妹葉末、團之助、片岡造酒ノ頭、林刑部、澤田庄三郎、手代久七、爲十郎、岡船岸之丞、安達元右衛門、友右衛門、伊織妻染の井、幸右衛門女房お時、梅幸、早瀨玄蕃、同伊おり、人形や幸右衛門、彥三郎、大和屋の小萬、才鶴太夫、長十郎、當狂言何れも評よし、棧敷土間十匁づゝ直下け

〇五月九日より中村座「神靈矢口渡」竹澤監物秀時、船頭六藏、三十郎、栗生の娘若葉、条三郎、新田小太郎義峰、新七、篠塚八郎、同苗主税之助、福助、萩原玄蕃、堂守道念、鶴藏、馬淵源藤太、しつかり候兵衛、廣五郎、荒澤軍次、人買萬八、音八、笹目兵太、元五郎、岩木傳次、三吉、孫達德壽丸、德次郎、兵庫一子友千代、延太郎、里の子きく松、歌柳、亘一子桃丸、百藏、南瀨六郎宗澄、目新左衛門、九藏、井筒や十兵衛、同若もの喜介、らい助、娵早苗、米次郎、同常夏、しけ松、其外大勢、仲居お梅、楠之助、同おはな、しらへ、鬼塚團八、冠十郎、願人ぐわん西、駒助、友千代めのとしがらみ、仲居おつる、芝雀、犬伏官藏、森五郎、畠山道誓、三上十次、新右衛門、畑重三郎、大鳥隼人、さぎ助、友千代かし付御代春、仲居お春、春次、井ノ彈正妻水木、萩のや、女房おとま、辰之助、新造玉里、玉三郞、けいせいうてな、梅歌、御臺

筑波御前、小六、江田判官景連、男女藏、頓兵衞娘おふね、兵庫妻みなと、菊次郎、由良之助信忠、矢口の渡し頓兵衞新田義興神靈、歌右衞門、新田義治、嘉三郎、第二ばんめ「仇緑浮名玲」香具彌兵衞、三十郎、岩田屋抱お才、粂三郎、佐伯助三郎、新七、たいこ持雀八、幅助、隱岡文藏、鶴藏、お才親方勘兵衞、廣五郎、丹波や惣兵衞、みい助、下男甚助、三吉、若者佐介、相藏、下部角内、孫六、矢しま才兵衞、かゞみとぎ新兵衞、九藏、でつちかん太、瓶助、樽ひろい千代松、千代飛助、下女およね、梅之助、古手や與平次、森五郎、戸倉屋佐次兵衞、瓶右衞門、八郎兵衞女房おくの、梅歌、古手や後家おいま、小六、小道具や久兵衞、男女藏、丹波屋抱おつま、菊次郎、古手屋八郎兵衞、佐伯隼人之助、歌右衞門、淨瑠璃岡竹雀太夫、竹本桂太夫、三味線金澤左衞門、鶴澤市藏相勤第一番目大切岩井杜若追善として所作事（岩井杜若追善なれどいまだな香に花も嫌も喪中ながら）「手向杜若四季咲」岩井粂三郎相勤所作事番組、春手ならい子、夏漁師たこ、瓶助、ふゞ、東之助、鶴、紫式部、冬花車、常磐津文字太夫、同小文字太夫、岸澤式佐連中富本豊前太夫、豊紫太夫、鳥羽屋里長相勤長唄松永忠五郎、吉住小四郎、同小八、岡安喜代三郎、岡安勝藏、松永鐵五郎、三味せん杵屋三郎助、同喜三郎、同定吉、同三七、同榮五郎、万次郎、万吉はやし連中ふり付西川芳次郎藤間勘右衞門何れも大出來

○第一ばんめ矢口由良兵庫頓兵衞中評也頓兵衞は海老藏外當時對手なし

○五月十三日より市村座「御贔負瓢簞」武智十兵衞光秀、千石權平、小團次、小田春永、安徳寺永慶、奴美名平、源之助、光秀妻みさほ、當吉、小田彈正信行、文五郎、安田作兵衞知綱、歌助、佐藤虎之助、宗兵衞、井上六郎、瓶太郎、田熊玄蕃、虎五郎、小山主水、又八、茨木や道手おとら、虎藏、こし元あやめ、入藏、矢代丈助、鳴藏、本能寺日和上八、元助、茶道珍才、市五郎、同宿うん念、しま八、同欲念、眼助、同西念、高藏、同觀念、鳴藏、茨木や仲居おぎん、箱右衞門、森の力丸、橘藏、清水長左衞門、光秀母さつき、三津五郎、小田三法師丸、吉彌、森の坊丸、勝次郎、茨木や娘おつた、七藏、政安娘おつる、才三郎、茨木や仲居おみつ、三津藏、こし元もみぢ、つやの、若葉、玉次、つゝじ、まつ三、なでしこ、仙之助、若竹、てうの助、仲居おます實は三好妣し

がらみ、福之丞、奥女中あじさい、かてう、吉川數馬、國五郎、林丈左衞門、大次郎、武智左馬五郎光俊、甚吉、長左衞門女房鑓梅、里とう、浦邊山三郎利氏、小次郎、長左衞門妹玉露、森の蘭丸、けいせい九重、花友、阿野の局、十次郎言號初ぎく、しうか、眞柴筑前守久吉、秋田金吾秀家、團十郎、茨木や傳三實ハ三好修理之助、武智十次郎光よし、小田出羽之介春忠、羽左衞門第貳番め「お染久松嬰讀賣」油や娘おそめ、土手のお六、おそめ母妙昌、在所娘およね、小團次、山家屋淸兵衞、源之助、お染伯母おゆみ、常世、油屋番頭善六、文五郎、同てつち久太、歌助、八千代九助、瓶太郎、鈴木彌忠太、虎五郎、肝煎源六、とら藏、門付惣次、嶋藏、所化さくらん坊、橘藏、同かくれん坊、勝次郎、大和屋佐四郎、三津五郎、油や太郎七、三津藏、巴や下女おたま、玉次、油屋下女おまつ、まつ三、巴屋下女おせん、仙之助、同おてう、てう之助、まやしの源太、國五郎、油屋太三郎、甚吉、京村屋お糸、りとう、髮ゆい四郎、竹のかめ、小次郎、京村屋女房おきく、花友、奥女中竹川、油屋でつち久松、同下女おその、權四郎、娘おみつ、しうか、鬼門の喜兵衞、船頭三筋の吉、團十郎、五百崎の久作、羽左衞門第貳ばん目大切上るり道行「心中二世紫」おそめ、子守女、小團次、在所娘お市、勝次郎、久まつ、おみち、おやま、しうか、でつち菊松、橘藏、三吉、團十郎、常磐津文字太夫、佐喜太夫、岸澤式佐、同金藏相勤何れも大々當り

○役者産物合に云、團十郎前文略之「頭取」五月狂言大功記に眞柴久吉水責の段評よく出家と成りてもよろしうござり升た此お役は立者衆の役にして位と落付がかんぬたばこ切の場大手にて猶せりふの間白猿丈と見違そふにござり升た大當り／＼油屋の場かたりあらはれ世話せりふの間への當り返し久松に殺さるる迄申分なし切に大和團子三吉はきれい／＼家橘前文略之傳三にて茶やの亭主と成娘を責る辛抱狂言二役武智十次郎古今無類／＼二ばんめ嫁菜うり久作大出來／＼小團次武智光秀小兵なれ共方端申分なし家橘三升三人だんまり見事／＼切お染の七役の内をしうか丈へ三役ゆづられ何のコテ／＼しく不評であつた別てお六は杜若を眞似てしられしはかんしん／＼しうか大功記に阿野局三立目立派に申分なく四立め早打勇氣あつて大でき

〳〵二番目久松與女中竹川下女おそのいづれも評よく大でき〳〵と云々

○大功記光秀同母さつき大出來久吉初きく阿野武智妻みさほ大に評よし十次郎中評なり○淨るり竹本入太夫養代太夫鶴澤極六 ○六月廿四日より「妻迎艶文月」因幡小僧、長五郎、駕かき佐渡七、小團次、幻瀧右衛門、賀の甚兵衛、源之助、與五郎姉おせき、十次兵衛、母岡の谷、常世、おかんばゝア、文五郎、三原傳藏、尼妙林、歌助、藤やけいせい紫、宗兵衛、山崎や手代權九郎、駕昇五兵衛、金貸鷲の善六、龍太郎、三嶋官藏、虎五郎、下駄の市、又八、刀や嘉七、虎藏、妙林妹おこと、七藏、藤や禿しげり、吉彌、山崎でつち長吉、次郎右衛門妹娵おしげ、橘藏、橋本次部右衛門、三津五郎、有右衛門、末子庄五郎、幸藏、おやゑの九助、三津藏、藤や仲居およし、玉次、幻の妾柳原小龍、まつ三、同梅ケ辻の小梅、仙之助、妙林姉娘おさき、蝶之助、ふじやけいせいあづま、福之丞、橋本の下女おかく、國五郎、倉岡郷助、大次郎、山崎屋與五郎、小次郎、次部右衛門姉娘おてる、花友、藤屋けいせいみやこ後に十次兵衛、女房おはや、しうか、南與兵衛、團十郎、南方十次兵衛、羽左衛門第二ばんめ「怪談隅田川」聖天町法界坊、野分姫の幽魂、小團次、永樂や手代要助實は吉田松若丸、源之助、青柳の女房おいと、常世、永らくや手代長九郎、文五郎、大阪屋源右衛門、宗兵衛、小道具や利兵衛、虎五郎、代官牛島大藏、入藏、奴甚平、嶋藏、浦中おつなばゝア、乃六、友丸小雛きく、浦、稻藏、花園宰相元よし公、三津五郎、永樂やでつち辨太、幸藏、青柳下女おゑん、津や之、野分姫かし付白露、まつ三、水茶や女おたま、てうの助、永らくや權左衛門、國五郎、花園息女野分姫、鯉とう、權そばうり二八、小次郎、永らくや娘おくみ、花友、渡し守五百崎のおまつ、しうか、吉田下部軍助、大館左馬之助照秀、團十郎、道具屋甚三、羽左衛門第貳ばん目大きり淨るり兩顏と申も戀人「釣忍萠芽袖」法界坊、野分姫、幽魂、小團次、要助、源之助、おくの、花友、おまつ、しうか、常磐津文字太夫、小文字太夫、岸澤式佐連中相勤いづれも評よし大當り○七月廿八日より澤むら宗十郎病氣全快出勤且五代目宗十郎三十七回忌弟田之助三十三回忌に付追善狂言として第貳番目に五大力相勤候樣口上有り河原崎座「増補筑紫[illegible]」桑原女之助、浪人加古川縣馬、同

宿宗悦坊、錦升、繁氏奥方牧の方、通陽門院、新車、駒澤一角、同宿安心坊、芝雀、奴薪平、同宿喜悦坊、竹三郎、郡娘千鳥前下り山下梅枝、庄や太郎兵衛、宇十郎、横口戸平、海月式部、善治、關口兵馬、岩五郎、しゝ戸郷助、武五郎、斯波主水、娍野分、喜十郎、友形大學、梅鉢、外山左門、五嶋主馬、銚次郎、狐川渡し守舟藏、扇藏、高野山兒紀久若、由次郎、繁氏一子石動丸、源平、監物太郎信俊、尼子衛門太夫晴久、彦三郎、大內三郎義國、友松、高野山兒若丸、奥升、與次娘かどた、紀千松、女順禮おさよ、梅三郎、義弘の奥方櫻木御前、佳好、高野山圓實阿闍梨、佐十郎、袖與喜藏、七右衛門、監物太郎妻はし立、團之助、大內五郎義純、黑塚鬼藏人、爲十郎、大內之助義弘、同宿義圓坊、友右衛門、新洞娘夕しで、與次女房おらち、梅幸、加藤繁氏後に苅萱桑門、多々羅新洞秀貫、禿の宿玉屋與次、宗十郎、菊地左門之介、長十郎「五大力戀緘(ごたいりきこひのふうじめ)」若徒八右衛門、錦升、武藏や女房おこの、新車、千嶋千太郎、芝雀、船頭の竹、竹三郎、難波げいしや梅吉下り梅枝、家主六右衛門、条本の伊之助、宇十郎、勝山大九郎、善次、間淵臺藏、岩五郎、杉山郷藏、武五郎、澤田一八、喜十郎、男げいしや紀之八、銚次郎、同澤八、源平、笹野三五兵衛、彦三郎、条本娘分お大、にしき、同お梅、げいしや条吉、梅三郎、むさしや下女おとは、佳好、出石宅右衛門、佐十郎、賤ケ谷伴右衛門、七右衛門、くめ本の娘分おちよ、團之助、奴土手平、爲十郎、廻しの彌助、友右衛門、げいしや小方、梅幸、薩摩源五兵衛、宇十郎、淨るり竹本河內太夫、嶋太夫、桂太夫、鶴澤與三郎、同東三郎、相勤是迄度々の興行故何れも大出來大當り

澤村病氣全快にて

夕立や一ト足つゝに日の光り　訥子

○八月十三日より中村座「高木織右武實錄(たかきおりゑもんぶどうじつろく)」横山刑部、虛無僧哲道實は盜賊魔隱太郎、百姓彌藏實は横山大藏、三十郎、蔭嶋娘初汐、能ワキシ条若數馬實は印南數馬、条三郎、細川勝次郎正泰、松浪佐次郎、新七、岩崎主税、百姓神田村の與吉、福助、田上犬八、漁師鱘六、鶴藏、小山伴藏、庄屋與茂九郎、廣五郎、長橋藤馬、中間欲助、晋八、三上平次、元五郎、魔隱れ手下勇藏、三吉、同どんがめ幸八、成藏、同いたちの天六、長四郎、三浦屋若ィ者佐の松、相藏、名和無理之介、ィ藏、品川猿之助、源次、土手泥之助、長三郎、尤道理之介、

鳩藏、六角歌若丸、歌柳、仁木桃千代、白藏、仁木多門之助、若徒白坂甚平、百姓傳介、能ツキ萩井右衛門實は甚平、九藏、鴻の巣しほや仙平、十藏、飛脚とび介、らい助、新造竹芝、竹三郎、同梅が香、梅代茶や娘およね、米次郎、仲居おまつ、しげ松、同おむめ、梅之助、同おてう、しらべ、眞金源次兵衛、冠五郎、戸隱シ手下タ運八、駒助、仲居おこま、印南下女おつる、芝雀、小道具や万八、矢走の喜伴太、森五郎、大高主膳、熊本勘ヶ由、嵐右衛門、信田小太郎、金波樓庄八、さゞ助、仲居おはる、三浦新造まがき、春次、同下女おたけ、こし元葉末、辰之助、けいせい和歌浦、安積の娘かつみ、玉三郎、佐次郎、女房おさわ、傳助妹おみつ、梅歌、多門の頭妻秋しの、十內女房おきさ、乳人おさよ、小六、細川修理亮正基、虛無僧快傳實は柳ヶ瀬十內、山名宗全、男女藏、白拍子司傳助女房おそよ、折右衛門妻梅の井、女盜賊あさみのお花實は梅の井、菊次郎、高木折右衛門、大高主殿、下部袖助實は主殿、能師霧竹武太夫實は主殿、歌右衛門、足利左門之助、長十郎、第一番目六幕目淨るり入擬の唱歌はみよしやたつた音羽番の大和歌「今樣望月(もちづき)」能師照之丞、九藏、久之進、粂三郎、同三之助、白藏、同竹太郎、花助、同梅之丞、菊次郎、同四ッ井武太夫、歌右衛門、常磐津文字太夫、佐喜太夫三弦岸澤式佐同三藏、笛住田又兵衛、小つゞみ大西德藏、大つゞみ竹井長吉、たいこ坂田重兵衛、小つゞみ田中傳左衛門、ふり付藤間勘右衛門、同龜三郎、世家滿大助、西川巳之助相勤、狂言作者櫻田治助、藤木吉兵衛 當狂言高木折右衛門細川血達摩望月の能を仕組大出來古今大當り御禮として○十月十一日より「けいせい反魂香(はんごんこう)」吃の又平の段、土佐將監、三十郎、修理之助光澄、新七、百姓杢助、鶴藏、下女お百、廣五郎、百姓出來作、吾八、百姓大勢、狩野雅樂之助、九藏、將監娘おむめ、秀之助、又平女房おとく、菊次郎、浮世又平、歌右衛門、右大將義尙、壽三郎、何れも大出來十月廿五日迄興行○八月廿日より**市村座**「繪入稗史蕣物語」多賀の大守俊行、森住十平次後岩代瀧太、小團次、百姓佐五右衛門、秋月弓之助、富士屋德右衛門、源之助、弓之助妻みさほ、佐五右衛門女房おつね、花形の仲居おせん、常世、間瀨久太夫、蛇つかひ蛇皮六、文五郎、笹山官兵衛、莂仙法印、歌助、松浦玄蕃、三度飛脚與五六、宗兵衛娰あざみ、宿引喜介、嵐太郎、三上鄉兵衛、入江大之進、虎五郎、おじやれおと

ら、箱右衛門、佐五右衛門悴里松、才三郎、奴曾平、橋藏、高ばし瀨左衛門、花形屋與兵衛、三津五郎、菊地友丸、幸藏、多賀梅丸、吉彌、駒澤主膳、奴關助、三津藏、在所娘おつや、つやの、同お玉、玉次、こし元小きく、松三、同小はぎ、仙之助、同桔梗、蝶之助、同尾花、福之丞、蘆守忠吾、中間丹平、國五郎、伴の筑八、出來嶋段平、大次郎、妼淺香、秋月下女おらく、鯉桃、小嶋林平、駒澤宗三郎、小次郎、彌十郎女房さつき、けいせい瀨川、若紫、小式部、太平次女房おみち、花友、秋月娘深雪後瞽女朝貌、花形の仲居お縫、孫七女房およね、しうか、早枝大學之助、宮城阿曾次郎後に駒澤次郎左衛門、立場之太平次、團十郎、高橋彌十郎、座頭竹の都、橋の藤泉卿、葵の上、幽魂湯淺孫七、多賀釆女之助、羽左衛門、第一ばんめ五まくめ淨瑠理「新曲胡蝶夢（しんきよくこてふのゆめ）」あそ次郎、團十郎、若紫の式部、花友、六條の御息所の靈御幸姬、しうか、藤泉卿、羽左衛門、常磐津文字太夫、小文字太夫、三味せん岸澤式佐、同文左衛門連中相勤當狂言朝貌と合邦二つ敵打組合の狂言大に評よし○初越川鷹野の場次に多賀館合法宇治螢狩朝顔次閤がり蚱孫七およね返りうち次舟の場上るり朝貌駿府猿藏也次に大井川大切合法ヶ辻敵討の場大出來大當り○九月廿七日より「當三升四谷聞書（まねてみますよつやのきゝがき）」小間もの屋與七實は佐藤與茂七、伊右衛門女房おいわ、小佛小平、お岩の幽魂、高の師直、小團次、小汐田又之丞、四ッ谷左門、源之助、伊藤後妻お弓、常世、波久官太夫、文五郎、あんま宅悅、歌助、秋山長兵衛、宗兵衛、中間伴介、蔀太郎、伊右衛門母すか、虎五郎、藥賣德平、又八、宅悅女房おちか、入藏、井林平內、嶋藏、大星大三郎、幸藏、直助權兵衛、大星由良之助、三津五郎、鹽谷爲若丸、吉彌、伊藤喜兵衛、三津藏、佛孫兵衛、近藤源四郎、國五郎、關口官兵衛、大次郎、奧田小二郎、甚吉、女房おそで、しうか、民谷伊右衛門、大高源吾、團十郎、一色左京亮、羽左衛門「嫗山姥」廓はなしの段、藏人妹白菊、花友、太田の十郎、文五郎、澤瀉姬、りとう、こし元尾花、てうの助、同桔梗、まつ三、小はぎ、玉次、同小きく、橘藏、同小てう、勝次郎、かもん、つるし、更科、仙之助、同藤浪、福之丞、同おうた、歌助、たばこ賣源七實は坂田の藏人、團十郎、荻野八重桐、羽左衛門何れも評よし大當り

○九月廿七日より河原崎座「伊賀越讀切講釋（いがごゑよみきりこうしやく）」柘榴武介、股五郎母鳴見、錦升、簡領與方、濱町、けいせい花

紫、新車、上松右内、佐々木丹三郎、万屋吉兵衛、芝雀、和田志津摩、竹三郎、荷持安兵衛、非人らい病、代官山本慶藏、宇十郎、藤井金兵衛、馬士鮑の目眼八、非人ひやくらい捨、善次、嶋川軍七、進藤野守之助、非人でくの坊傳、若五郎、山井清六、竹の内せいたく、奴銀平、武五郎、星合團五郎、春日や新八、酒や勘六、喜十郎、上杉力丸、由次郎、細川主水之助、源平、澤井股五郎、岡城五郎、磐田内記、彥三郎、足利息女彌生姫、梅枝、政右衛門一子巳之助、才三郎、こし元小菊、與三郎、岡尾花、榮枝、仲居おきん、三花、同おりう、政次郎、おきく、にしき、同おむめ、梅三郎、股五郎、言號おその、河内屋娘おてう、佳好、荒川兵部、俗醫太市、佐十郎、非人なまなりの八、河内屋おつめ、柏木善右衛門、七右衛門、志津摩言號お袖、仲居おきち、團之助、荒卷伴作、池添孫八、石森けいあん、山名次郎之助、爲十郎、和田靱負、櫻井林左衛門、沼津荷持平作、川角源内、友右衛門、丹右衛門、見ふくや重兵衛、細川修理之助、唐木政右衛門、宗十郎、伏見の三吉、長十郎、何れも大出來大當り　○十一月十四日顔見世中村座「金財長者(きんのざいてうじや)　將(やのゆみとり)」立浪伊達平實は晴久一子義丸、小西彌十郎、丹波屋八右衛門、夜商人鮑の目すしの虎、錦升、大明の漢學皇女、樋口娘三瀧、鹿之助娘おたね、つちや娘おきよ、金三郎、菊地左馬五郎武明、奴矢田平、文造ひ鵬金や文七、新七、具塚左京、醫者粹庵、忠三女房おむら、鶴藏、諸廻し甚太夫、樋口手代由兵衛、つちや抱女郎おつや、廣五郎、村澤兵庫、樋口藤左衛門、音八、井上大九郎、醫者道庵、冠五郎、甲利左門之助、手代吉六、鐵次郎、盜賊满海、俳諧し通雅、喜十郎、生田軍内、庄屋純右衛門、武五郎、同純平、石塚彌藤次、梅八、藏人妹深雪、樋口下女おたか、つちやの仲居おこう、幸勇、でつち與三吉、白藏、立浪兵部重勝、長岡牧齋、槌屋治右衛門、早川高景、九藏、三輪左衛門秀勝、玄良律師實は左衛門秀勝、粟島後室小夜島、髮結三五郎、三津五郎、眞柴公達仙千代、由次郎、代官權太夫、金かし由兵衛、若五郎、けいせい高しの仲居およね、米次郎娘てりは、仲居おせん、仙之助、こし元初霜、梅太、同梅のか、やまと、同小きく、榮枝、同小きく、與三郎、けいせいにしき、槌や仲居おしげ、しげ松、盜賊虎丸、手代清六、森五郎、吉川藏人、下部傳介、三津藏、常盤之介女房呉竹、かしづき道柴、つちや仲居お

たつ、辰之助、甲利奥方しがらみ御前、かしづきふ
せや、つちや仲居おはる、春次、樋口下女おりん、足
輕はや介、大明の臣二字老才妙傳子、宇十郎、娵小
はぎ實は小田信孝、在所娘おきの紀久之助、行長一
子綱若、源平、薺うり源六實は山中鹿之助、小西是
齋、大內千島之助、男女藏、甲利息女岩尾姬、こし元彌
生實は岩尾姬、行長妻唐おり、けいせい梅川、梅幸、
栗島加辨之助、大筒入太夫、實は盜賊筑紫權六、龜や
忠兵衛、新口村孫右衛門、尼子四郎義久實は鹿之助
一子光房、澤村長十郎（宗十郎改名）小田城之助春忠、壽三郎、
第二番目大切淨瑠璃（梅川忠兵衛浮名の一とふし歌舞妓の正月と名題を其まゝ）「道行（みちゆき）
故鄉の陽雨（こきようのはるさめ）」梅川、梅幸、おくま、つる藏、おきく、紀久
之助、飴賣由次郎、忠兵衛、源平、孫右衛門、長十郎大
出來評よし狂言作者藤本吉兵衛、市岡和助、中村七
郎右衛門、松島半二、豊島新造、梅田效助、梅盛春助
○十一月九日より「碁盤忠臣雪黑石（ごはんたゞのぶゆきのおちくろ）」横川の禪師實は
のり經、八丁礫鬼平次、江田源三廣綱、下市の庄屋善
兵衛、梶原平次景高、三十郎、九郎判官義經、宇野七
郎近春、泉の三郎忠ひら、花の師匠圓內實は澁谷昌
俊、源之助、光盛娘歌あや、忠基妹かしわ手、げいこ

娘杵やおこま、梅歌、齋藤五郎重光、わしの尾三郎、
壷のきく王、福助、吉水院金王法橋、海のゝ太郎、番場
の忠太、文五郎、鈴木三郎、正直村正作、小次郎、大江
太郎實は阿波の民部、多々羅左衛門、月行事仙吉實は
半澤六郎、鷲助、猪の熊入道大進、武少辨夫成、藏王堂
の堂守勸念、甑太郎、龜井の六郎、山鯨屋もゝん次兵
衛、又八、駿河の次郎成藏、片岡八郎、あんま錐市、鴻
藏、維兵音平、やぶ村夜番音、入藏、衆徒獅子鼻の二
本坊、イ四郎、其外大勢安德帝、信太郎、當今小舍人、
花丸、市村九郎右衛門、木曾の駒若丸、若太夫、吉五
郎、若宮の皇子、若太夫、竹松兒花若、吉彌、同月若、秀
之助、伊せの三郎、熊の膏藥傳三、元五郎、梶原郎等早
見藤太、醫者馬場祐齋、十藏、花鳥姬かし付衣手、玉江
櫻木玉次、小夜衣、たけ次郎、やどり木、つや之、重淸
妹紅梅、友之助、侍女橋立、まつ三、初霜、てうの助、菓
末、佳調、猪の熊妹夕しで、武國女房花岡、女髮ゆひお
たけ、芝鶴、須の又運平、冬奉公人與七、駒助、修驗者
荒土佐、下市馬士九助、寒念佛西念、大次郎、平大納言
時忠、川連法眼、道具や仲買喜七、甑右衛門、松木の七
郎、樽ひろい彌太、橘藏、泉の三郎妻松しま、惟盛侍女

なぎさ、一中ぶし師匠松川やおらく、りとう、朝方息女花照姫、門院侍女小侍從、げいこ娘お市、玉三郎、盛久妹うつ蟬、建禮門院、たばこ賣およし實は喜三太妹おきし、小六、時忠息女卿の君、若葉の內侍、武里女房おくに、花友、靜御前、山吹侍女更科、白川宿長者娘千壽の前、敎つね娘横笛、權太女房小せん、同妹おさと、しうか、佐藤四郎兵衞忠信、義仲妾巴御前、武藏坊辨慶、旭將軍義仲、いがみの權太、北條四郎義時、歌右衞門、渡海や銀平實は知盛、和田小太郎義盛、尺八指南安木彌左衞門實は主馬小金吾、三位中將惟盛、羽左衞門、第一ばん目四立目淨るり（大將の大盡姿／頁將の幸頭搭）「名橘花辨慶」（なにたちばなはなべんけい）喜平治、三十郞、よし經、源之助、しつか、しうか、けいせい薫、梅歌、辨慶、歌右衞門、喜三太、羽左衞門、常磐津文字太夫、佐喜太夫、三弦岸澤式佐、同文左衞門連中相勤いづれも大出來大當り狂言作者櫻田治助、木村紅助、松島てうふ、福森久二、淸水正七○天保三年中村座にて興行の通り少し增補せし也○霜月四日より河原崎座「東都內裡花良門」（あづまだいりはなもよしかど）御廚の三郞公朝、百姓栗木又次實は卜部季武、山姥一子快童丸、ちよこのちよこ平、平の經成實はかつらぎの蜘の精、地廻り

浮世戶平實は二の瀨源吾、小圓次、源賴親妹八重機、九條傾城小式部實は將門娘七あやひめ、賤の女袴垂のお安、女筆指南紅葉堂、高尾、新車、三田源吾廣綱、藤原の仲光、人入丹波屋山藏、芝雀、渡邊下部千代平實は惟光、河內冠者信賴、船頭の竹、竹三郞、鬼童丸手下五郞四郞、茶道とん才、あひる新地羽生やのおいろ、歌助、加藤三郞重國、堤の彌惣、灸點和尙希山、佐十郞、仲光下部谷平、宇佐美七郞、肴屋小ゑびの七、猿三郞、平の安盛、渡邊家臣長坂新六、代官小山忠太、虎五郞、かん酒屋とぶ六、山りようし牙藏、小倉の少將八重成、國五郞、幾野兵太、猪の熊入道雷雲、諸味中將、中扱善次、塚原大藏、渡邊家臣飯倉、團子、羽生や若ちの喜助、とら藏、田村隼人、庄屋正兵衞、冬奉公人杢助、雷助、仕丁米又、小川太郞、手品遣柳川小てふ、米平鬼童丸手下狸の八藏、粟餅曲ヅキ持六、薪藏、其外手下大せい、辻講釋古井千曳、文使新兵衞、扇藏、賴光公達文珠丸、幸藏、渡邊源次綱、柳川金吾實は純友、子重太丸、山かづ斧藏實は三田の仕、鳥かし金五郞實は伊賀壽太郞、彥三郞、小式部の禿ゆかり、よね次、同たより、音次郞、あひる新地羽生やおかつ、渡邊こし

元てりは、梅代、同村雨、岩城三郎妹せきや、あひるしん地お政、政次郎、熊澤八郎妹瀧の尾、渡邊こし元夕霜、あひる新地おしげ、三花、春日の神子おすゞ、げいしやお妻、梅之助、ぎおんの仲居おふじ、花園姫侍女道芝、羽生や二階廻しお大、にしき、花園かし付楠の戸、今切文治妻しがらみ、二階廻しかます、福之丞、大本戸五郎、山りやうし熊八、ごろつきづぶ六、宗兵衛、賴光妹花園姫、住原兵部妻呉竹、佳好、白川民部之助、山獵師鹿六、判人鬼藏、七右衛門仲光妻東路、渡邊妻春雨、あひる新地、羽生や女おきく、團之助、鬼童丸、手下土太郎、坂戸九郎鬼景、古鐵買權七、爲十郎、大宅太郎光遠、朱雀野の茨原木ばゝァ、西の宮左大臣、寒行者助法印、友右衛門、純友の娘粧姫、栗本又次女房おきく實は秀鄉娘千晴、田舍娘お松實は粧姫、賴光與方團生の前、羽生やのかさね、八百半下女お千代、菊次郎、攝津守賴光、盜賊張本市魚の鬼童丸實は良門、本下川船頭與右衛門實は碓井荒太郎貞光、足柄山百魔山姥、團十郎、關白家の小性舍那丸實はかつらぎの蜘の精、長十郎、第二番目大切淨るり山姥松枝の蔦葛快童照り葉の紅葉「新樹雪間の市川」快童、小團次、山かつ、彥三郎、山姥

團十郎、常磐津文字太夫、小文字太夫、岸澤式佐、同金藏相勤狂言作者篠田瑳助、梅澤宗六、九字新作、松本幸次、勝見調三、三升屋二三次、河竹新七〇當狂言は文化八辛未年霜月顏見世中村座大名題「吾嬬花岩井内裡」岩井半四郎、中村歌右衛門初顏見世にて此節ちよこのちよこ平歌右衛門、一寸法師にて大當り當年より三十八年の昔なり此度小團次のちよこ平の立廻りは以前梅玉の勤しよりはたての間も長く大に出來よかりしと前北齋爲一翁の話なり大出來なり〇當年三芝居とも春より顏見世迄甲乙なく大當り大繁昌にて日數打切目出度千秋樂舞納富貴萬福珍重／＼

京大坂評判記　役者產物合に云　▲客座

惣卷頭
大極上上吉　お江戸のぼりを待かねた初鰹　尾上菊五郎事　大川橋藏

上上吉　御しゆぎやうはだん／＼奈良ざらし　尾上松介事　大川三朝

上上吉　仕内はほいやりとして味みの有廣嶋の蠣

上上吉　だん〳〵とはな香の出てふな宇治の茶　中山[illegible]事　尾上松壽

上上吉　だん〳〵のぼりまて滿る〻帖　[illegible]事　三桝源之助

上上吉　早ふ御出世を親御が松山たばこ　坂東簑助

上上吉　社内は隨分しまりのよい小倉しま　市川高麗藏

坂東壽三郎事　中村仲藏

上上吉　かつふく程にはかゝみのない伏見唐からし　方作事　大谷廣右衛門

曾呂平事　大川水馬

大川魚藏

大川岸藏、大川釣藏

中村芝太郎事　芳澤國次郎

上上　しほらしふて働きの有ありま筆

市川猿藏

惣卷軸
大極大上　役者衆中の人氣を計る當[illegible]市　市川海老藏

大上上吉　當時の座頭今の位は千兩幟　尾上多見藏事　大川橋藏

同書名古屋の部に見ゆ京大阪に名不見

右上方にて改名せしと予しりし役者計り爰に記せり

大極上上吉[illegible]大川橋藏〔頭取〕扨此所が久々の下り役者怪談の問や大川氏でござり升先江戸表にては一世一代を致されしことゆへ昨年の評判記江戸の部にて無類と位を定め置ましたなれど上方にては一世一代とてはなきことゆへ右之位に定め置ました〔ヒイキ〕ヲット承知じや早ふ評判〳〵〔頭取〕御尤しかし上方えお登り迄に名古屋表御出勤是は奥の名古屋の巻にくわしう申上升す去る八月角の座中の座かけ持の御出勤角の座前狂言「三國大市川對戀」に四郎次郎元信、岩倉山雨舍りの段、三右衛門丈遠山と出合美しい事〳〵二役邪御座邪尊者大序衛ゆづり海老藏

丈駄右衛門との出合作り萬端異形の姿かやうなお役廻りは外に類なし本家〳〵後てつぽつより龍を出し大日丸の行衛を煙りにてしらさんと鐵鉢よりけぶりを出さるゝ御工風見物一統驚きました大當り〳〵三役天竺徳兵衛大きに評よし夫より異國王の首を出し唐土姫の聟にならんと海老藏丈駄右衛門との詞いさかい兩人成るゝ所適お江戸の去口男御兩人ゆへ格別親玉〳〵と見物一統悦び升たかへし奥庭の段にて駄右衛門衛爭ひ大日丸とさとられ駄右衛門唐土姫と一致し義賢を亡さるゝまで別に評る所なけれど目新らしく夫より體くづれかまの天窓より出られ唐土姫駄右衛門の幕切目ざましい事でござりましたとぞ下略之

當狂言は文政七甲申中村座秋狂言大名題「吾菊高麗戀」に日本駄右衛門簀は長崎次郎爲春、幸四郎、佐々木息女唐土姫、菊之丞、天竺徳兵衛、菊五郎其外略之貳ばんのはおさん茂兵衛にて大當りなりし此度右狂言を増補せしなるべし

嘉永元申四月四日

釋浄賛　　俗名中村歌壽郎行年四十四歳
寺にうなぎ谷法泉寺

同六月十一日

香取院宗心日篤信士　　俗名中村東藏行年五十五歳
中寺町正法寺

同十一月十九日　　中村三光

花江都歌舞妓年代記續編巻の廿三

◉嘉永二己酉歳

○正月廿五日より中村座「高嶺丘雲賀曾我」瀬の尾太郎兼康、瀧口□八郎、悪七兵衛景清、五尺染五郎、工藤祐經、錦升、伊藤息女辰姫、けわひ坂少將、賴政妻爪琴、けいしやおくめ、八百藏、お七、粂三郎、中納言伊道、八幡の三郎、丹波少將成經、新七、梶原平三、海老名軍藏、鶴藏、荒川平馬、釜屋武兵衛、廣五郎、梶原平次、とかげばゝあ、音八、會圖監物、所化妙傳、冠五郎、赤澤十作、鈍次郎、家主太左衛門、猫間中將、喜三郎、八坂藤六、武五郎、一條次郎、長四郎、玄蕃の頭、梅八、當今后女、田子君、紙屋娘おみの、尾上幸勇、小林朝日丸、白藏、石川左衛門秀能、近江小藤太、河津三郎、鬼王新左衛門、赤澤十内、三津五郎、曾我五郎時宗、猪の早太、醫者妙庵、丹左衛門尉、土左衛門傳吉、九藏、高倉の宮、山次郎、竹の下孫八左衛門、吉祥寺日和上人、音右衛門、土肥の次郎、甘縄丹下、岩五郎、ふでや娘おしか、妼松ヶ枝、米次郎、同若芝、仲居おせん、仙之助、けいこ娘おはな、梅太、同おいく、やまと、當今侍女櫻の局、繼みどり、しげ松、同初音、しらべ、御所の黒彌吾、百足屋金兵衛、森五郎、渡邊左金吾、結城七郎、三津藏、爪琴かし付お絹、釜鳴屋下女おたつ、辰之助、爪琴かし付ふせや、大磯のお針おきは、春次、當今の侍女梅の局、花や娘おきく、紀久之助、渡部丁七唱、紅や長兵衛、宇十郎、いしや三吉、源平、宇治大臣賴長、秀藤妻春日、平判官康賴、お七母おさよ、鬼王新左衛門、男女藏、當今后女菖蒲の前、鬘千鳥、大磯のとら、踊師匠梅吉、小娃吉三郎、梅幸、曾我十郎祐成、俊寛僧都、仁田の四郎、白酒賣新兵衛、八百や下女おすぎ、兵庫之助賴政、長十郎、平宗盛、壽三郎第二番目名題「其往昔戀江戸染」役わり前々にしるす第一番目五立目淨るり春を興する風々の聲高砂一奏と「滿平綠挿花道」高砂尉、九藏 姥、梅幸 いしや、九藏 踊の師、梅幸 お作、粂三郎 通人、長十郎常磐津文字太夫、岸澤式佐連中相勤第二ばん目淨るり「新嫁雛の世話事」傳吉、九藏 お七、粂三郎 舍人、源平 吉三郎、梅幸 白酒うり長十郎、富本備前太夫、鳥羽屋里長連中相勤「道行淚春雨」淨るり竹本河内太夫、鶴澤與三郎相勤何れも大出來○第一番目は文政五壬午三月中村座にて「賴政射家櫻」と云三代目坂東三津五

郎大坂下りおみやげ狂言に興行せし仕組也○正月十七日より**市村座**「青砥調」金剌利平次後圖書峯頭、醫者室富寧根、深屋由里八、西伯文王實は泰親官雷震、三十郎、悉達太子、鹿木眞三郎、旅商人紀州屋宗兵衛、閻浮院所化景定、舞つるや傳三、大元帥大公望呂尙、源之助、彌須多羅女、大公妹操氏、大磯江戶屋娘おむめ、しけ市娘わか竹、梅歌寢殿の宿直當叓梅、舞鶴や下男ぼん太、鹿木若徒小傳次、福助、高祿太夫飛道官、牛方あざ平、文五郞、腰越村百姓曾我八、花やの五助、小次郞、猿若町の中きく、若いもの長吉、茂曾七女房おさめ、さぎ助、三原織四郞、富屋手代傳平々々、翫太郞、小䶕我東八、鹿木の門弟稻本正次、又八、池子村百姓茂曾七、伊皿子七郞、戍藏、小間ものや輿の四郞、鴻藏、淺羽の十郞、金剌下女おいり、入藏、同下男、元介、同婢かのも、勝次郞、雷震錦渉、羽舞八男、夜鷹雛之助、十藏、鹿木門弟立浪右衛門、富屋下男長助、元五郞、唐女玉粧女、玉江、同虎遊女、たけ次郞、同甲子女、玉次、同潮來女、つや之、圖書女房しほで、富屋お針おつる、芝鶴、地もくり藤太、駒助、子母屋利九郞、大次郞、鹿木數馬、金剌若徒しげ市、翫右衛門、しやのく童子、橘藏、鹿木召仕おそで、富や下女お樂、りとう雷震姬妹璃玉女、猿若町平のや娘おなか、玉三郞、やしゆたら女かし付うたい、名太郞女房おいね、小六、般の后優花女、次作女房おはな、大磯江戶屋下女おしな、甚兵衛女房おきた、花友、圖書娘十六夜、雷震妻錦子連、巾の丁げいしやお秀、申助女房おもと、しうか、般の紂王、鹿木申助後鐘旭申介、貝の翁、賣卜者三國軒、下田浦の漁師次作、青砥狄右衛門藤綱、歌右衛門、縣井司三郞、皇妃妲己、推津左門之助、鳶の者吉、甲の鶴吉、富屋甚兵衛、羽左衛門、第壹ばん目四立目淨るり又お進めの色酒にひやうしも四イ〳〵神濡佛の三ッ打「新規一拳西魁聲」初段紂王妲己を愛する處替りて寶富寧、三十郞傳三、源之助、ぼんた、福助、お竹、花友、三國軒、歌右衛門、お梅、梅歌、お杉、玉三郞、お秀、しうか、嘉吉、羽左衛門、常磐津文字太夫三弦岸澤式佐 連中相勤第貮番目大切年靑申助「夜鶴思雪解」おもと、しうか しん介、おきく、花友歌右衛門、常磐津小文字太夫三弦岸澤連中相勤大出來大々當り○此度は三國拳と云拳をす

「おまへ女の名でおいせさんかぐらがお好でとつひきひィのぴい獅子は唐土孔子さまてん〳〵天ぢくおしやかさま丸く納る三國けんなんのこつたしや

ぶく\/おひげをなで\/くるりとまはつて一けんしよ　いづれも評よし

○正月十三日より河原崎座「初元結曾我鏡臺」小林朝比奈、大江家中白井權八、三浦の小紫實は權八・大磯小間もの屋とらや藤兵衛、伊場十藏、小團次、化粧坂少將、權八妹お才、三浦の新造かつ山、同女房おしつ、新車、曾我團三郎、本庄助市後に絹屋彌市、八わたの三郎、芝雀、曾我禪司坊、喜瀨川の龜鶴、仲の町長門屋息子金太郎、竹三郎、梶原源太、牛嶋宅兵衛、おその親岩淵久內、歌助、鬼王女房月小夜、おばゐ代官紋淵文藏、佐十郎、大江千嶋之介、櫻川三孝、猿三郎、赤羽根伴作、非人の馬、虎五郎、鬼王新左衛門、三浦の若い者作兵衛、國五郎、大江五郎、せげん善六、善次、番場忠太、同宿殘月坊、とら藏、與家老石部金太夫、家主佐次兵衛、雷助、御厩の德竹、芝浦三平、よね平、梶原平三、扇藏、同平次景高、らい八、竹の下孫八左衛門、閻六、福壽湯の流し三介、新屋半七娘お通、才三郎、長兵衛悴長松、幸藏、工藤祐經、醫者寺西閑心後伊豆の次郎左衛門、非人背簑の仁助實は有竹、丹助、茜足袋や長九郎、男達法華長兵衛、彦三郎、同宿曉月坊、友松、新造此糸、七藏、犬坊丸、與升、賴家公、三之助、禿ゆかり、音次郎、同たより、音助、磯村郡司娘おわか、梅代、通ひお針おいと、奥女中紅梅、政次郎、同若な、安森娘おせと、三花、岩城右內、娘おうら、奥女中さわらび、梅之助、げいしや小勝、合長屋女房お大、にしき、奥女中青柳、茜足袋や下女おもよ、福之丞、非人捨札の松、みのや女房おくら、宗兵衛、同下女はる、奥女中久須美、かこう、江間小四郎、非人の竹、七右衛門、丹助女房おかつ、仲の町大のやおれん、平右衛門女房おくら、團之助、大江の家中、白井兵左衛門、ぼろ買助八、本田次郎近常、爲十郎、近江小藤太、大江の家中本庄助太夫、今市屋善右衛門、茜足袋や平右衛門、友右衛門、大いそのとら、助太夫娘八重梅、三日月のおさよ、後げいしや三勝、半七女房おその、衣笠御前、菊次郎、曾我十郎祐成、同五郎時宗、大江の家中篠野權三、茜足袋や半七、惡七兵衛景清、團十郎、奴うさ平、長十郎、第一番目五立目淨るり白井何某かなげぶしの八重梅「袖浦涓春雨」八重梅、菊次郎、助市、芝雀權八、小團次、淸元太兵衛三弦淸元千藏相勤○當狂言は

文政八乙酉春中村座「御國入曾我中村」と云大名題

にて白井權八實小紫、茜たびや半七、菊五郎、笹野權三、茜足袋や甚、團十郎相勤大當りの狂言此度右狂言增補して興行す此度も大當り

○三月七日より河原崎座八代目市川團十郎上方登り名殘狂言「伊達競阿國戯場」若徒鹽澤丹三郎、豆腐屋でつち豆太、羽生や金五郎、小團次、右京妻沖の井、丹三郎女房おとよ、新車、渡邊民部之助、山中鹿之助、芝雀、井筒女之助、竹三郎、名和無理之助、俳諧師呑醉、歌助、道益妻小槇、家主六兵衛、佐十郎、笹の才藏、奴當の鶴平、猿三郎、黑澤官藏、高輪牛兵衛、虎五郎、醫師大場道益、八ッ山八官藏、國五郎、はいかい師善好、大崎伴吾、善次、あら井傳六、とら藏、古川新藏、雷助、茶道蝶齋、米平、鶴喜代君、音吉、高尾禿ゆかり、奥升、同みどり、歌栩、蜆うり三吉、幸藏、渡邊外記左衛門、とうふや三郎兵衛、左大臣道平靈、彦三郎、政岡一子千松、才三郎、仲居おます、奥女中篠川、政次郎、同若江、仲居おきく、三花、同お花、奥女中白川、梅之助、同名古曾、仲居おきん、にしき、同おふく、奥女中錦木、福之丞、鳶加藤次、宗兵衛、新造高あや、奥女中淺香、佳好、土子泥之助、七右衛門、新造高篠、掃部妻松しま、團之助、山名宗全、奴浮世戸平、爲十郎、大江の圖幸鬼貫、門番木戸嘉兵衛、榮御前、友右衛門、三浦の高尾、三郎兵衛妹かさね、乳人政岡、菊次郎、足利左金吾頼兼、角力絹川谷藏、俳諧師其角實は土手道哲、細川修理之助勝元、仁木彈正左衛門、同姉八汐、荒しゝ男之助照秀、團十郎、出雲や國吉、長十郎、淨瑠璃竹本戸和太夫、鶴澤市作相勤大切歌舞妓十八番の内「勸進帳」武藏坊辨慶、團十郎、卒子兵藤、友右衛門、同權藤、爲十郎、同ばん藤、歌助、駿河の次郎、猿三郎、伊勢の三郎、宗兵衛、片岡八郎、七左衛門、判官義經、竹三郎、常陸坊海尊、芝雀、富樫左衛門、小團次、長唄岡本喜代八、富士田音藏、同吉太郎、芳村伊四郎、同伊十郎、三弦杵屋六之助、同勝五郎、同正三郎、同彦四郎、ふへ住田新七、梅や竹次、大つゝみ六郷新十郎、同望月太之助、小つゝみ望月太喜藏、三弦杵屋六翁、小つゝみ望月太左衛門、ふり付西川巳之助、第一ばんめ伊達七役勸進帳辨慶いづれも親まさりとの評判大々當り大出來

市川團十郎御名殘口上

高ふはムり升れど役者之儀にムり升れば御免を蒙り是より口上を以て申上奉り升す私儀未だ若年に

は御座候へども三芝居座頭役相勤候は全先祖之餘光御町中様御ひゐき厚き故と心魂にてつし冥加にあまり有がたき仕合に存奉升す然る所去る天保十三寅年相別れ候父海老藏儀老行身の年まし老病に相成り候との事聞候に付ても何卒息才之内一度面會致度わするゝ隙なく心なき星霜八ヶ年を經ゑきりになつかしく母は殊更女の身行末越方をおもひつゞけ合見たきこゝろ矢竹にはやれ共任兼たる老の身になりかわり上坂致候やうにとくれ〲の申付もだしがたく且私事も便りなき身を御取立に預り候を父にも語り悦の貌も見度御ひゐき様に對し候ては誠に〲恐入候へ共暫時の御暇偏に伏して願上奉り升す付てはしばしの間ながら先年當座にて父海老藏御評ばんに預り候伊達七役並歌舞妓十八番之内勸進帳相勤候様に御進め被成下難有仕合には御座候へ共未熟成私中々相勤り申間敷段達て辭退申上候得共御聞入無之おこがましくも右の大役相勤奉入御覽候處悪しく候とも御見捨なく大入大繁昌仕何卒相替らず初日よりゑいとう〲と御來臨被成下候段私儀は中に不及かゝり合一統難有仕合奉存候七重のひだを八重にして奉祈上候八代目市川團十郎猶又早々立返り御目見へ仕候間御ひゐきの程奉希上升す先は御名殘の口上隅から角迄ずいと左様思召被下升う

〇四月二日より中村座「伊達旭盛櫻彩幕」第二番目富士見西行、江口屋のだん仁木彈正左衛門、木鼠小助、男達浮世戸平、今井の四郎兼平、錦升、けいせい高尾、荒獅子男之助、右京妹沖の井、鶴千代かし付松ヶ枝、新造高窩、粂三郎、鹽澤丹三郎、山中鹿之助、大工與四郎、新七、黒澤官藏、鶯嘉藤次、馬士勘八、鶴藏、庄屋杢兵衛、道益妻小牧、奥女中櫻木、寅五郎、修驗者願哲、横川大藏、音八、醫者寒竹、男達雀八、冠五郎、梁川數馬、篠の才藏、銑次郎、名和無理之助、奥女中もみぢ、喜十郎、有松源吾、男達龍助、武五郎、八ッ山八藏、長四郎、奴もゝ平、白藏、山名定清、彈正姉八汐、露五郎兵衛、瀬尾十郎兼光、三津五郎、井筒外記左衛門、男達白柄十三實は荒波掛藏、三浦屋藤左衛門、左馬頭木曾義仲、九藏、同公達駒若丸、由次郎、足利鶴千代、花助、宮城作太夫、石山逸平、岩次郎、馬さい荷駄六、荒井與三兵衛、音右衛門、奥女中にしき、新造

高しの、米治郎、奥女中千東、仲居おせん、仙之助、娰うた方、與三郎、新造梅の香、奥女中宮城野、しげ松、同文字摺、仲居おむら、しらべ、土子泥介、船頭の森、森五郎、曾根太郎光利、渡邊亙部、三津藏、鶴や仲居おはな、奥女中松島、辰之助、同象潟、仲居おはる、春次、奥女中浮島、新造高濱、紀久之助、つるや才兵衛、奥女中磯の、宇十郎、細川勝若、源平、大江の鬼つら、小栗宗丹、石黑左衛門實は飛驒左衛門、男女藏、乳人政岡、祇園のお梶、江口のけいせい逢坂山、義仲妾巴御前、梅幸、足利左金吾頼兼、同三七郎義高、局岩手、細川勝元、佐藤則清入道西行、長十郎、大館左馬之助、壽三郎、第一番め三幕目淨るり「澤紫色水上」より兼、長十郎高尾、粂三郎富本豐前太夫、鳥羽屋里長連中第二ばん目大切所作事詩歌の筆づさみを香蝶樓と一勇齋が「六玉川彩繪姿鏡」錦升、粂三郎、由次郎、源平、九藏、梅幸長十郎見立六歌仙富本豐前太夫、豐紫太夫、鳥羽や名見崎連中長唄、松永忠五郎、杵屋三郎助、はやし連中ふり付花柳芳次郎藤間世家滿大出來○壹ばんめ伊達馬場鏡山の仕組大に評よし貳ばんめふじ見西行嵐來芝、三五郎以來珍敷大出來大當り○四月十四日より市村座「惠閏初夏藤」望月源藏、老女松山、今様の役人三

笠松之進、三十郎、多賀大守道綱、細川勝元、源之助、多賀の妾お梅の方、奥女中眞袖、梅歌、辛崎求馬、福助、蟹江一角、奥女中なか山、文五郎、同長しま、多賀三國之助、小次郎、足輕曾平、奥女中鷺さき、鷺助、同あわてる、茶酒や番頭八兵衛、嶽太郎、修驗者くりから坊、又八、彥根嘉忠太、奥女中龜山成藏、同小せ鶴、坂本伴藏、鴻藏、鳥本三平、中間吾助、入助、志賀寺兒花君、吉彌、同月若、竹松、多賀花形丸、吉五郎、鳶の市松、九郎左衛門、足達公達義丸、花助、志賀寺淨阿上人、千藏、高島傒兵衛、奥女中元川、元五郎、古市備前や仲居おやま、玉江、同おその、たけ三郎、同おつぎ、玉次、同おつや、つやの、女中藤川友之助、同松風、まつ三、同小てう、てうの助、稲瀨かてう、同道芝、大次郎、研師岩見、奥女中捻野、嶽右衛門、奴淵平、橘屋奥女中伏や、善次、下女おらく、鯉桃道綱の妹かほる姫、娰淺香、玉三郎、苅藻のかし付白縫、菊酒や女房お才、小六、中老尾のへ、菊酒や娘おきく、古市仲居おとも、花友、岩ふじ召仕お千代、細川息女苅藻の前、源藏女房おなつ、今様の役人勝見の小秀、赤助女房お大、しうか、鳥井又助、局岩藤、今様の役人裏梅、梢

關白元房公、谷澤若徒喜兵衛、歌右衛門、谷澤頼母之助、尾上召仕おはつ、今様の役人立花右近、菊酒屋手代幸助實は谷澤主水、粂左衛門、第二番目大切士農工商のありし姿を描き筆に「四民歌土佐畫彩」三十郎、歌右衛門しうか、粂左衛門　常磐津文字太夫、岸澤式佐連中ふり付花柳芳次郎西川芳次郎改藤間勘三郎、ふへ梅屋平吉、小つゝみ福原百十郎、大つゝみ同門左衛門、たいこ太田市左衛門、小つゝみ福原百之助、いづれも大出來○第一番目かゝみ山菊酒やの仕組岩ふじおはつ中評所作は大出來○五月三日より中村座「花菖蒲誓御環襷」第二番目「伊勢音頭戀寢刃」高松刑部、髮結金五郎、錦升、源八娘おてる、刑部妹千星、彦太夫娘さかき、油屋娘お梅、粂三郎、加古川靱負之助、下部繁藏、内記妻菅の谷、奴林平、新七、岩代傳内、正直正太夫、仲居萬の、鶴藏、猿田彦太夫、御茶の間おゆか、德島屋岩次、廣五郎、下部鐵平、銅脈の金兵衛、晋八、山崎十平次、熊本角太郎、冠五郎、稲垣主税、岩田萬次郎、鈍太郎、横山伴助、遠州や次郎助、喜十郎、三木十藏、安達大藏、武五郎、吉田右近、たいこ万八、長四郎、百姓多介、兵庫屋定七、梅八、娵ゆきの、若宮數馬、三吉、相の山おすぎ、金太郎、同お玉、廣助、比丘尼妙音、島八、同妙聲、助藏、樋井一子熊之助、白藏、田宮源八、志渡寺祖正阿闍梨、月本式部、妻浪左膳、三津五郎、田宮宗右衛門、樋井内記、萱伯母おみね、料理人喜助、九藏、禿しげの、由次郎、田宮一子坊太郎、才三郎、石田軍藏、晋五郎、黑上主鈴、晋右衛門、娵なでしこ、油屋おこん、米次郎其外大勢同きくの、娵若葉、仙之助、宗右衛門、娘おゆき、あぶらや抱きしの、玄げ松、大上岡右衛門、森五郎、松浦隼人、三津藏、同女房さつき、油屋仲居おたつ、辰之助、同おはる、奥女中道芝、森次、岡尾俊、紀久之助、下部與五郎、油屋おしか、宇十郎、吉岡一子市之助、源平、都築源太左衛門後に堀口源太左衛門、笠原監物、あい玉や北六、男女藏、源八女房共鞆、加古川後室菊の方、吉岡女房梅の香、あぶらやおこん、梅幸、都築篭次郎、坊太郎乳母おつち、吉岡一味齋、松山主計之助、福岡貢、長十郎、鳴門左門之助、喜三郎、淨るり竹本松江太夫、竹太夫、鶴澤與三吉相勤○五月二日より市村座「花菖蒲佐野繁橋」原田の六郎友清、出來星の三郎兵衛、東金村の百姓茂助、三十郎、原田左司馬友重、文道佐次郎、醫者玄意、源之助、佐次郎妹おしづ、深雪ひめ侍

女玉笹、梅歌、佐野源次郎、福助、船頭在六、家主彌右衞門、文五郎、敷嶋勇助、まんぢうやでつち勘太、小次郎、庭作り義助、船橋若徒丹平、鷺助、相生段八、梁田伴藏、瓶藏、中の町花柳門弟おなみ、三太郎、同おきち、吉彌、佐の捨若丸、青柳娘分おなみ、勝次郎、同下女おてう、てう之助、同おつね、かてう、同おつる、芝鶴、足輕佐平、駒助、左大臣權兵衞、大次郎、四ツイ手代勘六、彌左衞門女房おきさ、瓶右衞門、まんじゆやげいしやおくに、りとう、同おゆき、玉三郎、青柳女房おいと、結城與方きぬ笠、小六、與五作女房おたへ、佐の丶奥方白妙、花友、中の丁げいしやおさの、佐野息女深ゆき姫、万壽屋女房おさよ、しうか、船橋次郎左衞門、饅頭屋與五作、三浦荒次郎義澄、最明寺時頼、歌右衞門、佐野源左衞門經世、第貳ばん目「ひらかな盛衰記」第三の口切船頭權四郎、三十郎、秩父の重忠、源之助、松右衞門女房およし、小六、木曾の駒若丸、九郎右衞門、松右衞門一子つち松、信太郎、清水屋德右衞門、乃六、船頭友六、元五郎、同富藏、駒助、同九郎作、番場忠太、大次郎、鎌田隼人、瓶右衞門、山吹御前、りとう、隼人娘お筆、花友、けいせい梅川、しうか、船頭

松右衞門實は樋口の次郎、歌右衞門、梶原源太景季、羽左衞門、第貳ばんめ大切上るり「四民歌士佐彩（よみとうたとさえ）」士農工商のありし姿を描き筆にかきかへて 農、三十郎 商、ふく助 侍女、しうか 工、歌右衞門 常磐津文字太夫連中相勤、第一番め狂言中評貳番目大切淨るり評よし○壬四月廿三日より河原崎座 表と裏二十三まく「假名手本忠臣藏（かなでほんちうしんぐら）」大星由良之助、桃井若狹之助、斧定九郎、鎊閒宅兵衞實は寺岡平右衞門 大坂下り 市川眼玉 坂東壽太郎改 市川白猿門弟 鹽谷判官、小間ものや彌市、佐藤與茂七、早の勘平、小園次、ゆらの助女房おいし、一文字や女房おたき、こしもとお高、新車、織部安兵衞、菅の谷半之丞、植木屋杢兵衞、芝雀、大星力彌、千崎彌五郎、竹三郎、鷺坂伴內、猩の角兵衞、歌助、兼好法師、種ケしまの六、佐十郎、竹森喜多八、見通し法印、猿三郎、高の門番寐ず兵衞、前原義助、虎五郎、安井彥九郎、百姓與一兵衞、國五郎、一力亭主才助、奥田孫六、らい助、鹽谷治助、新藏、大わし小文吾、幸藏、大星大三郎 下り 市川猿之助、岡野妻八、十瀨仲居おまさ、政次郎、磯むら妹眞弓、仲居おはな、三花、同おむめ、村松妹花の香、梅之丞、赤垣妹關路、仲居おだい、にしき、同おます、潮田妹小萩、福之丞、杉の久平次、林平內、宗兵衞、本藏妹み

なせ、仲居おきく、佳好、矢間重太郎、めつぼう彌八、七右衛門、本藏娘小浪、おかる母おかや、團之助、山名次郎左衛門、せげん源六、間瀬官太夫、鴛十郎、斧九太夫、近藤源四郎、織部彌次兵衛、友右衛門、かほよ御前、姥おかる、仲居おかぢ、本藏妻戸名瀬、菊次郎、高の師直、石堂右馬之丞、須破數右衛門、加古川本藏、彦三郎、足利直義、一力息子万吉、長十郎、淨るり竹本戸和太夫、同若美太夫、三味せん鶴澤一作、同左市相勤、市川團十郎、下り眼玉引合の口上十五日の間相勤、此度罷下り身にも應ざぬゆらの助の大役相勤御覽に入升るが是迄名人の衆御覽之上は中々御意に入申間敷候へ共私上坂留守中は何卒わたくし同樣に思召被下御取立之程偏に希上候との口上あり眼玉中評なり三段目道行なし、市川團十郎上坂に付贔負連中より餞別として摺もの豐國、國芳、其一、是心何れも極彩色亦吉原連中より此度の伊達七役之內足利賴兼、荒獅子男之助、仁木彈正^(豐國書は七代目)狂歌入綴本袋入にして送る表題は「伊達茂夜雨」と言牡丹の畵にて其裏勸進帳辨慶の笈と笠書師隣春序文に

雪の箚速に生立て氷の鯉尾鰭の幅をなすが如し八代目三升父白猿がひさしく浪花に在るをなつかしみこたび暫しの暇を告て其起臥を訪むとす名殘狂言伊達の七役新慶勸進帳親の藝道あたかもたがふ事なし人々其志しを愛て馬のはなけせんと因ある豐國ぬしの筆を賴みて例の一冊とはなしぬ實に俳優の功者とやいはん孝子とやいはん

賴兼を物の名にしてよめる　六朶園

いつよりかれかひおほけてのほるらん　花柳園

親なつかしき難波津の旅

新吉原連

八雲たつ旅の門出も賑はしく　泉　樓

おくる贔屓の人の八重垣

代々の家の譽れの俳優は　邑海樓

鳴呼つかもない花の江戶ッ子

目覺しき男之助は珊瑚樹の　角蔦樓

親玉なれや藝の筋くま

市なしてひく人むべも集ひけり　百　樓

二とはさからぬ三升の藝

川はゝは廣く三筋に別れても　山本樓

よとむ瀨のある贔負連中

みよしのゝ櫻にまさる江戸の花　吾妻樓
名にたてものや一トめ千金
升々と仰けは高し親の恩　山田樓
浪花登りにかさす鐵扇
名所の待乳の山をかさしにて　尾八樓
下蔭黑くしける見物
殘し置牡丹に獅子の荒るゝとも　新相樓
親のためしの甲斐はありけり
狂ひても花は散らさぬ富貴草　五勢樓
たいきんりきん見ゆる荒獅子
言のはの玉うるはしや堅板に　花王樓
水際のたつ瀧のほり鯉
伊勢海老や江戸の自慢の初鰹　大金樓
みところつけよ浪花津のうら
達者といつしかなりて世の人の　久喜樓
譽れは外にあらしとの役
七わたの王に目のよる顏あはせ　寶槌樓
蟻の這ふ如群る見物
役割のよくもはまりし伊達競　政田樓
お國歌舞妓の名にやよりけん

古しへの人にもかゝる孝行の　平龜樓
わさをきはなし〳〵
今爰に團十郎や鬼は外　大岡樓
ふくはうちはの似顏にも知れ
稀にきく初ほとゝすさか父の　越州樓
老鶯や待明すらん
成ひゝく江戸市川の鐵扇に　鶴泉樓
鼠木戸まてわれる大入
大江戸のこのむかたに浪花津の　若狹樓
梅の香りをそはせてかな
當分は何見て心慰まん　津國樓
しはし散ゆく大江戸の花
賞美するうしほの花の櫻鯛　藤本樓
あらみことなる魚の親玉
浪風もたゝす納る大芝居　松葉樓
江戸一川の役者大將
花やかに錦かさりて登るらし　京尾樓
先代萩を土産のわさをき
土地に合ふ水にそたちし紫は　東樓
名に賴かねのおきほうしかも

産れたる古郷を跡に浪花津へ　丸　龜　樓
いさやさかせん花のにしきを
送られて出ゆく旅も歸り見の　岡　本　樓
おも入をしき江戸の花有

○

若竹に寢たか雀の朝きけむ　金山樓梅宜
江戸しはし花なき春の心かな　三汲菴秀民
時鳥まては甘露の降る日かな　玉樓若紫
とくかへり見直したまへ夏のふじ　久喜樓雲爲
旅かなし青田にそよく朝の風　寶槌樓盛之助
すかたゑに風薫れかし留守の内　大岡樓菅原
つほみから日數かそふる牡丹哉　鶴泉樓愛之助
古さとの容と見歸れ雲の峯　中万樓賤濱
帷子のまゝ歸る日をまたれけり　岡本樓長太夫
との關もなんなく越る清水かな　丸龜樓高濱
家土産や骨柳の上なる江戸團扇　松葉樓若絲
歸るさは錦かゝやけ若楓　甲子樓　倭

○

舞ふ蝶の羽ふりも高し牡丹畑　湖南軒𪉩舍
紫の雨もあるべし目出し萩　鶯栖子盛以

行合す稻妻見たり橋の上　月昇齋山義
またの日を契てたゝむ日傘哉　松操庵麗水
ひと日つゝ咲のほりけり花葵　俳雅堂喜來

○

すゝしさや瀧にあまりし鯉の鰭　近江亭半四
海山もたひらに越すや時鳥　長崎亭双因
大江戸の土忘るなよつはくらめ　丸小亭貴丈
初松魚まけぬ氣性の首途かな　古池亭泉吉
蹈ならす檜舞臺の梅はしら　長門舍子瓶
木場に育しかひは見けり

○

ふたつなき富士の高嶺の八代目　芳　原　蒲　邦
遠かたしたふ水かみの親
親骨も子骨も強し枝扇　東風屋梅笑
南蠻鐵のきたへよくして
親鳥やさそよろこひて待ぬらん　千　菊　園
竹に雀の名殘狂言
浦嶋か七世の孫は何ならす　子　丈　庵
八世子の親にあへる嬉しさ
羽を伸て止るしらかの海老の髭　舞臺塗面

体もしはし江戸の大鵬

味へは澁りてにかきやわらかみ　鶯亭梅彦

　　うまくしわける伊達の七役

俳優の人眞似ならすのまねは　花笠文京

　　衆にまさるの藝そかしこき

染あけし江戸紫の伊達摸樣　六　帖　園

　　親のゆるしの筆やみすらん

都路も近き浪花の家土産や　万代園文信

　　せんたい萩のあたり狂言

伊達の木戸富樫の關の譽れをは　東雲亭照千賀

　　につきに殘す藝の市川

家の風吹なひかせよ初のほり　六　朶　園

　　たつるいさをに替紋の鯉

　此餘數多あり爰に略之

○六月十五日より河原崎座「天竺德兵衛韓噺（てんぢくとくべいゐこくばなし）」山三妻かつらき、十作女房おきぬ、奥女中累實は助の娘おるい、かさねの亡靈、けいしやおすへ實は助の娘おすへ、菊次郎、名古屋山三元春、あら川藏人、祐念上人、芝雀、細川政元、船頭わしの長吉實は助の悴伊之吉、佐々木桂之助、竹三郎、山名時五郎、道心者西念、歌助、足輕杉平、仲人甚兵衛、佐十郎、蜂山藤六、富じの先達七郎助、虎五郎、庄屋仲右衛門、百姓佛作兵衛、國五郎、絹川甚之進、笹の才藏、らい助、小奴升平、肴うりぶゑんの吉、友松、與右衛門母おかの、娵尾花、政次郎、同桔梗、平岩の娘分おはな、三花、同おむめ、こし元小萩、梅之助、銀杏の前、娵袖垣、げいしやおさん、にし木、山三妹いてうの前、平岩娘分お升、福之丞、犬上段八、箱廻し嘉兵衛、宗兵衛、奴いそ平、かし物や利兵衛、七右衛門、宗觀妻夕浪、賴母娘菜末、八助妹おりく、團之助、奴鹿藏、萩木屋門兵衛、久保田下部はち助、爲十郎、吉岡宗觀、浮洲の岩松、百姓羽生村の助、六字南無右衛門、友右衛門、天竺德兵衛實は大日丸、座頭德市、百姓十作實は絹川甚三郎、船頭神田川の與吉實は絹川甚七郎、久保田金五郎後に木下川與右衛門、不破伴左衛門重勝、彦三郎、大館左馬之助、長十郎、第二番目序幕淨るり「色彩間苅豆（いろもよふちよつとかりまめ）」かさね、菊次郎、與右衛門、彦三郎　清元太兵衛同美代太夫三弦同一壽、同千藏相勤何れも大出來當狂言中棧舖代二十五匁高土間二十匁同平十五匁

○七月十一日より中村座「假名手本忠臣藏（かなでほんちうしんぐら）」上松左門之助、植木屋杢右衛門、錦升、かほよ御前、大星力彌、

研屋娘おオ、高の妾おらんの方、粂三郎、鹽谷判官、千崎彌五郎、かし物や嘉兵衛、新七、鷺坂伴内、せげん源六、荒木軍次、鶴藏、山名次郎右衛門、研屋ばゞあおくら、太田了竹、廣五郎、岡島彌惣右衛門、狸の角兵衛、晋八、種がしまの六、萱原義助、冠五郎、竹森喜多八、貸本や佐七、鈍次郎、間瀬久太夫、たいこ持万八、喜十郎、仁木右京亮、杉野十平次、武五郎、荒川賴母之助、一力亭主淸六、長四郎、千葉三郎兵衛、一色左京之助、梅八、足利直義公、白藏、高の師直、斧九太夫、不破數右衛門、矢間喜内、三津五郎、寺岡平右衛門、斧定九郎、百姓與一兵衛、石堂右馬之丞、天川屋義平、九藏、同一子よし松、八段目小なみ、由次郎、同馬士鈴八、よし藏、小寺十内、瀧川中務、岩五郎、めつぽう彌八、奥田彥太夫、晋右衛門、一力仲居およね、娖野菊、米次郎、同尾花、一力仲居おせん、仙之助其外大勢同おしげ、こし元小さゝ、繁松、同きゝやう、仲居おてう、しらべ、矢間重太郎、細川監物、三津藏、研屋針妙おぬひ、仲居お辰、辰之助、同おはる、かし付秋しの、春次、本藏娘小なみ、紀久之助、一もんじや才兵衛、下女りん、小鹽田又之丞、宗十郎、八だん目となせ、源平、原鄕右衛門、研屋太左衛門、おかる母おかや、飯田多門之頭、男女藏、こし元おかる、ゆらの助女房おいし、寺岡女房お北、義平女房おその、梅幸、桃井若狹之助、早野勘平、本藏女房となせ、でつち伊吾、日雇薪割忠助、浦松半之丞、大星由良之助、長十郎、左馬佐義詮、壽三郎、八段目道行「千種花旅路嫁入」となせ、源平、小なみ、由次郎、奴角内、ふし藏、淨るり竹本松江太夫、同島太夫、同桂太夫、同若見太夫三弦鶴澤仲藏、同勘六、同與三郎、竹本澤太夫相勤いづれも大出來大當り○八月二日より市村座御當地御名殘中村歌右衛門「詞花紅成盛」伊東祐親、上總之介忠淸、男達牛時九郎兵衛、市宿のおさんばゝあ、景淸伯父大日坊、三十郎、長田の太郎、河野や重兵衛、源之助、娖夕じで、糸屋下女おりう梅歌、瀧谷金王丸、昌よし、眞田文藏、福助、觀音院門番太助、雲助猿藏、文五郎、祐淸鳥等天木七郎、鳥羽浦の千德比丘、小次郎、長田小者嘉六、鷲助、尼寺下男かん太、糸屋手代善八、猴太郎、觀音院所化西念、かし藏、源の牛若、羽舞八、ほつたんのあこや、晋次郎、信連一子伊與丸、吉彌、以仁若宮照日、竹松、神田の與吉、九郎右衛門、童のきく王、吉五郎、經慶公達あつ盛、花

助、發端のうづみ、勘藏、鳥羽浦の蜑おしの、たけ次郎、娵き丶やう、友之助、同千草、よつ三、同槇のは、てうの助、同まかき、かてう、祐若乳人成瀬、長田下女おつる、芝鶴、觀音院のおんぼう仁三、押上彌藤次、駒助、粟島權兵衛、高川大藏、大次郎、齋藤吾國成、閑原與左衛門、家主杢兵衛、統左衛門、下田小源次時春、橘屋金王丸、妹てり葉、照日の宮、侍女あはぢ、りとう、同さぬき、玉三郎、かげ致女房磯な、糸屋女房おいそ、祐清女房いこま、小六、景致姉娘うつみ、祐清の妹歌形、京や娘おふさ、花友、景致妹娘阿古屋、忠清女房白ゆふ、糸屋娘小糸、白拍子眞久野、しうか、觀音院小姓法作、伊勢參り助松後天日坊、阿波の民部、伊東九郎祐清、男達本町丸綱五郎、井場十藏、勝重、歌右衛門、忠清一子痣丸、上總七兵衛景清、糸屋佐七、那須の與市宗高、羽左衛門○九月九日より 第貳番目 大切所作事早くも三歳橘の櫓へ亦も歸り咲の御贔負願ふ「餘波五色花魁香」中村 歌右衛門相勤「靑樓全盛舗初松位操」けいせいうら梅太夫、歌右衛門、新造玉琴、福助、禿みどり、花助「黄鳥玉轉す彌生花見酒」腰付馬、曲馬乘り、だきりの吉 歌右衛門 法華の信者題目七次 三十郎

げいしや花友「赤色方輝く瑞午菖蒲偶」神功皇后、しうか、武内宿禰、歌おせん右衛門「白銀浪靜る七夕千種結」寶球大、仲居おかぢ「黒雲覆郡る重陽紅葉狩」餘伍將軍平の惟茂 三十郎侍女かほろ、梅歌、衛士五郎又橘藏官女實は戸隱の鬼女 歌右衛門淨るり常磐津文字太夫、同小文字太夫、岸澤式佐、同巳佐吉、連中竹本雀飼太夫、同古梵太夫、三絃鶴澤蟠六、連中長唄 松永鐵五郎、岡安喜代松、同喜代平、吾妻榮藏、岡安源太郎、三弦杵屋彌十郎、同和八、和十、小三郎、阿左吉、ふへ梅屋平吉、小づゝみ福原百之助、大づゝみ同門左衛門、たいこ同吉之助、小づゝみ望月太十郎、長うた富士田千藏 三弦杵屋勝三郎、たいこ福岡染吉、ふり付世家眞大助、藤間龜三郎、花柳芳次郎相勤

○歌右衛門天日坊存之外中評所作事、けいせいと釣狐大に評よし其餘は皆中評わけて紅葉狩の鬼女十二單にて長きさげ髮を石橋の如くふられしはいかがの事にや甚不評判なり五變化にて一人立の所作なく皆相手二三人づゝあり是迄度々勤られし所作事此度は惡しく評にて其中に釣狐は古人大藏彌右衛門のふり奇々妙々なりし

八月市川團十郎下り御目見え狂言の口上看板左之通

り

乍憚以口上書奉申上候

一御町中樣益御機嫌能被遊御座恐悦至極に奉存上候随而私義當三月御名残狂言として勸進帳相勤古今稀成大入大繁昌仕大坂表へも聞へ宜しく五月上旬に彼地へ登親共海老藏に對面致候處幸ひに以前に替る倅にそゞろに昔なつかしく只手に手を取りて泪に暮悦びの餘りに積る噺しも口へ出ず斯八ケ年ぶりにて難有も親子對面のねがひ相叶候は全く成田山之御利益先祖之蔭光且は御構の御影と東の方伏拜み御禮奉申上候扨彼地逗留中入出入に寸の間もなくなんの噺致し候事も不相成候故親共同道にて高野山え參詣致よふ〳〵宿坊にて母の傳言抔申御土産狂言之相談致候處親共工夫を以六彌太の物語を琴唄にて相勤候樣敎へ呉候へ共未熟不調法之私物語などはいづれも樣の御しかりの種なればと辭退致候得は親共申候は夫は物語に不限何役いたし候迚所詮御意に叶ふ義は有間敷只御見物被成下候は大江戸根生の其方故御ひゐき御取立斗りなれ共難有存候間違もない事に先年我等御評判に預り候歌舞妓十八番の内景清相勤候樣是又敎へ呉候得共既に三月狂言に勸進帳相勤又々元祿風の景清御なくさみとも相成間敷と存ながら親共の進に任せ夜を日に次で御當地え罷歸り早速座元權之助に右之譯申候所成程大役ゆへ辭退致し候は尤なれどもわるい所はゑび藏のおしへのわるさと御見ゆるしを願ふ程に是非相つとめ候よふ再應相進め候故おこがましくも御土産狂言として海老藏工夫致候六彌太の物語歌舞妓十八番之内景清右を第一番目に仕り第二番目は出村玉屋の世話狂言取仕組奉入御覽候且私事も旅行致候ニ付最早四月越に相成御馴染の何れも樣誠に以御なつかしく一日も早く御高顏を拜し度存候得ば何卒團十郎に無事の顏見せてやろふと被仰合三月狂言同樣に御構御取立を以初日より永當〳〵御來駕之程偏に奉希上候以上

月　日　　　　市川團十郎

第一番大名題「一谷武者畫土産」（いちのたにむしやゑのいへつと）第二番め「月出村白露玉屋」（つきのでむらしらつゆたまや）鷲の尾の三郎義久、隱居樂人齋實は兎原の田五平、氏原勇藏、賤玉、けいせいさゞ浪實は薩摩守忠度、鵜飼九十郎、玉屋手代半兵衛、小團次、けいせいながら實

は時忠息女菊の前、玉屋言號おゑん、新車、平大納言時忠り下淺尾奥山、源九郎義經、佐原半次郎、竹三郎、人足廻し蔦次兵衛、玉屋番頭三九郎、歌助、若徒佐五平、女中竹川、佐十郎、越中次郎盛次、玉屋息子檪平、猿三郎、澤田軍兵衛、虎五郎、杣斧八、國五郎、庄屋佐次右衛門、横山郷助、虎藏、杣峯右衛門、佐原や半右衛門、らい助、安德天皇、傘次郎、平家公達知若丸、幸藏、四國修行者快了實は鈴木三郎經俊、主馬判官盛久、出むら新兵衛、彥三郎、うぶ毛の金五郎、友松、庄屋娘分おつた、七藏、娵三草、玉庄女中おます、政次郎、仲居お谷、にしき、娵鶴尾、三花、同はま、扁之丞、地廻り勘八、雷十郎、豐しま五郎、中間丹助、宗兵衛、仲居お市、奥女中瀧町、かこう、黑井の次郎、七右衛門、呉織の局、げいしや小ぎく、團之助、平山武者所季重、葵の藤兵衛、爲十郎杣五郎作實は武藏左衛門有國、玉屋後家おたね、友右衛門、六彌太妻深谷、五郎作、娘お辻、げいしや三國の小女郎、菊次郎、岡部の六彌太忠澄、杣重藏實は三位中將重衡、非人六浦のいの助、玉屋新兵衛、團十郎、龍嶋の事ぶれ三作、長十郎、淨瑠理竹本戸和太夫、三味線鶴澤市作大切上るり小女郎新曲一和傘千種

いろ〳〵」菊次郎團十郎事觸長十郎清元太兵衛、同美勇喜太夫三弦千藏連中第一番目第二番目 間歌舞妓十八番之內景清役者團十郎、岩永左衛門宗連、小團次、景清娘人丸、新車、仁田の四郎、竹三郎、半澤六郎、七右衛門、ばんばの忠太、國五郎、平家の公達保童丸、才三郎、秩父の庄司重忠、彥三郎、竹の下孫八兵衛、虎藏、うんのゝ太郎、虎五郎、長谷八郎、歌助、梶原平三景時、友右衛門、景清妻あこや、菊次郎、悪七兵衛景清、團十郎、第一ばんめ三立目田五平、眼玉、忠のり、小團次、六彌太、團十郎だんまり大に評よし、四立め重ひら隱家、五立目六彌太物語り中幕十八番景清白猿其まゝ、貳ばんめ出村玉屋何れも大出來大當り○岡部六彌太忠澄、團十郎、イヤ身どもが手柄をまだ聞ずかまづ此六彌太が手がらといふは此たび千ざい集にゑらばれしさゞ浪や志賀の都は荒にしをむかしながらのイヤサ昔ながらの山さくらかなよみ人しれず出たるつけ文浪打ぎはの銀すなご立し屛風もすまのうらおもふおてきと組合すこれこのよふに引よせて○サア上になつたり下になつたり矢さけびの聲とこのうみゆびきり髮きりまだな事二世の誓ひとさしこみし右の腕を切おとし○サア

ヤイ六彌太義經からほうびにもらつたけいせいさゞ浪改て暇をやれ○さればさいにしへ平の忠盛へ下されし祇園の女御賴政のあやめの前是皆天子のくらゐあまり公家堂上はほまれとすれどよしつねより送りしは鼻毛のかずをよますため弓矢取身ははづべき所夫より身どもがどふ〳〵したながら太夫と祝言してさゞ浪に暇をやれ此樂八齋がだいて寐るてうどおふたり叶ふたり親どうせんのしうとのいひつけよもいへんは有まいがナア○第二番目非人六浦の伊之助市川團十郎やかましいわへ猿松めらしづかにしやアがれ○うぬらがそんなにぬかさずともおらアかたりに來たこもかぶりよしかしはらからまんざらの乞食じやアない身せうがわるさに物もらひ生故郷は鎌倉の山から里へころ付きて八百八丁のおあまりをくらひふとつた御當地の今年は暫くお暇を願つて氣まゝな旅あるき京大坂迄立返り泊り〳〵の旅枕お江戸の方へ片足もむかひの來ない其内にといそいでかへつた此足をあらへば同谷川の水知らずでもない旦那方お久しぶりて御ひいきをとらせてやつて下ありませ○九月十一日より中村座當七月狂言忠臣藏御意入大入大當り仕御禮として右忠臣藏續狂言義士銘々傳新狂言取仕組本望の場十八ヶ條の御譽大切富本淨るり迄不殘本人御覽候との口上書あり大名題は矢張り「假名手本忠臣藏」役割前に有之分略し○因幡隼人、錦升、安井娘お組、粂三郎、槌井左京之助、新七、鳥取逸郎、大鷲文吾下市川高麗藏、研屋太四郎實は近藤源四郎、鶴藏、近松半六、廣五郎、横綱軍藏、吉八、硯屋九郎八實は大須賀團八、研屋弟子かん八、冠十郎、上燭屋喜三郎、鉄之助、地廻り正平、喜十郎、刀屋かん七、武五郎、俳諧師其角、植木屋杢右衛門實は遠藤新右衛門、三津五郎、小間ものや彌七實は佐藤與茂七、九藏、鹽谷爲若丸、山次郎、圓覺寺狗呑長老、吉右衛門、太四郎妹おしん、米次郎、杢右衛門妹おいち、梅太、水茶や女おてう、調、大星瀬平、畠山主膳正、森五郎、庭作久八、三津藏、研屋下女おさき、船頭女房おたつ、辰之助、やらじ見せ柳屋おはる、春次、猪栗兵内、宇十郎、大星大三郎、源平姒お高後おらんの方、山岡女房淺茅正、梅幸、日雇新制勇介實浦松三之丞、楠屋重兵衛、大星由良之助、長十郎、足利義詮公、壽三郎、第二番目大切 觀世水の今樣裁 大和錦の彩絲帶「其俤淺間嶽」巴之丞、長十郎、傾城奥州、粂三郎 淨るり

富本豊前太夫、同豊喜太夫、鳴渡太夫、音羽太夫豊太夫改名三弦鳥羽屋里長、名見崎鶴壽相勤○當狂言續高評ばんよく大出來長十郎の手柄と云べし○九月十八日より**市村座**操狂言など四季に見立春「義經腰越狀」泉の三郎忠衡、源之助、龜井の六郎、福助、錦戸太郎、文五郎、九郎判官義經、小次郎、伊達の次郎、毿太郎、五斗娘德女、松太郎、泉の三郎女房高の谷、小六、五斗女房關女、しうか、五斗兵衞政次、歌右衞門「近江源氏先陣館」盛綱館の段和田兵衞秀盛、三十郎、盛綱女房早瀨、梅歌、佐々木高綱實は谷積六郎、鷺助、同高綱實は打手八郎、毿太郎、盛綱一子小三郎、九郎右衞門、同小四郎、花助、北條時政、毿左衞門、盛綱母微妙、小六、高綱女房篝火、花友、佐々木三郎盛綱、歌右衞門、佐々木四郎高綱、羽左衞門「鬼一法眼三略卷」下部知惠內實は吉岡喜三太、三十郎、平の淸盛、源之助、笠原湛海、文五郎、播磨大掾廣盛、毿太郎、難波の六郎、又八、瀨の尾太郎、成藏、紀の九郎、こう藏、高橋判官、入藏、齋藤吾國、武三太郎、讚岐の次郎孫六、安德天皇、竹松、越川瀨、まつ三、同幾世、てうの助、同小菊、かてう、鬼一娘皆鶴姬、花友、下部虎藏實は源の牛若丸、しうか、吉岡鬼一法眼、

歌右衞門「心中紙屋治兵衞」蜆川のだん粉屋孫右衞門、三十郎、江戸屋太兵衞、文五郎、でつち長太、鷺助、川庄下男三助、こう藏、仲居おぬい、武次郎、同おつぎ、玉次、なかし善六、大二郎、川庄女房およし、小六、紀の國や小はる、しうか、願人でんがい、歌右衞門、紙屋治兵衞、羽左衞門何れも大出來評よし○十月三日より**河原崎座**「勢州阿漕浦」あこぎの平次、彥三郎、庄屋彥作下り奧山平次母おなぎ、七右衞門、仲居おべん、猿三郎、二見磯八、虎五郎、嶋崎彌惣次、とら藏、奧田主水、らい助、平次一子友石、菊次郎げいこ小きく、歌柳、茶や娘おあさ、朝次郎、仲居おたけ、にしき、醫者玄伯、佐十郎、奧村兵庫、爲十郎、平次女房お春、菊次郎、平瓦の次郎藏、團十郎「敵討襤褸錦」大案寺堤の段春藤次郎右衞門、眼玉、若徒佐兵衞、小團次、彥坂甚六、爲十郎、須藤六郎右衞門、歌助、奴峯平、薪藏、同谷平、らい八、同山平、ふく藏、同川平、岡六、若徒伊兵衞、彥三郎、武右衞門一子庄之助、幸藏、奴濱平、もさ藏、同岡平、善平、同瀧平、扇藏、甚六妹おろく、佳好、春藤新七、竹三郎、加村宇田右衞門下り奧山高市、武右衞門、團十郎「けいせい返魂香」吃の又平のだん吃の又平、小團次、狩野歌之助、眼

玉、修理之助光澄、竹三郎、下女お百、歌助、百姓鍬六、米平、同鋤藏、眼助、土佐將監、彥三郎、百姓鎌八、小半次、同鈍助、市之助、將監娘お梅、七藏、又平女房おとく、菊次郎、狩野四郎次郎、團十郎「福在原系圖」百姓與茂作實は大江の音人、小團次、御臺美名世御前、團之助、堤軍頭次、宗兵衞、奴民平、國五郎、同時平、とら藏、小姓右門、猿之助、同左門、與升、こし元紅葉、政次郎、同小春、三花、同初霜、福之丞、奴萬平、雷十郎、伴の義澄、猿三郎、須摩の松風實は音人妻琴路、新車、中納言行平、團十郎、蘭平一子しげ藏、長十郎、奴蘭平實は孔雀三郎大坂下り尾上松緑、いづれも大出來大當り○十一月十一日より顏見世中村座「妹脊山婦女庭訓」太宰息女ひな鳥、杉酒屋おみわ、粂三郎、大職冠鎌足公、新七、蔦城太郎實は蘇我高麗丸、久我之助、高麗藏、おはしたおむら、大納言兼秋、官女櫻の局、鶴藏、同梅の局、合長屋土左衞門、廣五郎、同五洲兵衞、荒卷彌藤次、音八、米や祖右衞門、官女桃の局、冠五郎、靑柳要之助、鈍次郎、竹の局、喜十郎、興福寺虎徒晃禪、武五郎、芝六一子三作、白藏、そが入鹿大臣、三津五郎、りやうし芝六實は玄上太郎、丁稚寐太郎、九藏、天智天皇、幸勇、芝六忰杉松、才三郎、宮越玄蕃、澤平、酒屋ばゝおくま、音右衞門、官女花子、米次郎、深雪仙之助、官女采女の前、水茶やおみつ、しげ松、かしわ局、しらべ、月行事佐二兵衞、森五郎、民部太郎、紅葉局、三津藏、こし元小きく、辰之助、同小萩、春次、右大辨國房、娵きゝやう、宇十郎、小舍人蘭丸、源平、そがゑみし、家主茂工兵衞、男女藏、入鹿妹橘姬、玉三郎、太宰後室さだか、芝六女房おきし、賤女おとは實は梅園前、梅幸、大判司淸澄、ゑぼし折求馬、獵師ふか七、農夫、鶴澤仲造連中相勤

○序幕返し高麗藏こま藏 おとは梅幸 紀の作長十郎 だんまり大出來いもせ山も大に評よし狂言作者藤本吉兵衞、市岡和助、豐嶋新造、梅盛春助

市村座中村歌右衞門御名殘狂言興行之處病氣にて相休居候處全快に付直樣出立可致之處御ひゐきより御進めに任せ日數十五日之間相勤○十一月十九日より市村座「傾城阿波の鳴門」盜賊銀十郎實は阿波の十郎兵衞、三十郎、肝煎武太六、文五郎、りやうし喜の作、小次郎、蘆原四郎次、鷺助、庄屋杢作、尼妙林、犺太郎、米澤逸平、成藏、左官金五郎、鴻藏、十郎兵衞娘おつ

る、花助、蜑おせん、十藏、當摩四郎次、元五郎、水茶やおつね、武次郎、在所娘おとも、友之助、同おたま、てうの助、同おいね、かてう、喜之助姉おきは、芝鶴、押上藤太、駒助、百姓和子兵衛、大次郎、下田屋傳右衛門、甑右衛門、丁稚吉松、橘藏、和子兵衛娘おたき、鯉桃、右衛門介妹かつ見、玉三郎、同奥方さゞ浪、花友、十郎兵衛女房お弓、しうか、櫻井主膳、歌右衛門、德嶋右衛門之介、羽左衛門、第二番目は「義經腰越狀」相勤役割前に有爰に略、だんまり四王左司馬、三十郎、黑木賣お花、花友、女修行者眞砂路、しうか、大領久吉、羽左衛門、大切淨るり「戻駕色相肩(もどりかごいろのあいかた)」駕舁浪花の次郎作實は石川五右衛門、歌右衛門、禿たより、源平、駕かき東の與五郎實は大領久吉、羽左衛門何れも大出來狂言作者櫻田治助、木村仁助、松島半二、同釣夫、同鶴二、福森久助、清水正七、甑雀此度の名殘狂言總て中評判なりし○十一月十三日より河原崎座「寶(たから)楳莖源氏(のうめみはへげんじ)」第二ばんめ 天滿屋おはつ 平野屋德兵衛「霜劔曾根崎心中(しものつるぎそねざきしんぢう)」御曹子牛若丸、娚長藏、小團次、金賣橘内、竹三郎、難波の次郎、熊たか源五、虎五郎、阿波の民部、らい助、重賴妹初霜、朝次郎、松や下女お玉、政次郎、盛次妹深

雪、山中屋下女おなか、三花、新宮の藏人行家、猿三郎、常磐御前、新車、深草甚内實は安藝の太郎、淺田宗二、彥三郎、本鄕幸太夫實は安藝の前司、小猿の七郎、友右衛門、丁七唱、菊とぢ五郎、佐十郎、下司伴内、馬士の仁太、とら藏、唱妹早咲、仲居お梅、にしき、藏人妹卷きぬ、かこう、摺針太郎、道具や彌介、爲十郎、主馬判官盛久、若徒伊丹伊平、眼玉、田舍娘おはな、長十郎、八木下十六七右衛門、がん助、仲居お竹、山中屋下女お市、福之丞、小猿女房おなみ、勇助女房おきく、宗次女房おらく、團之助、熊坂長範、双ヶ岡の勇助實は安藝の次郎、松綠、甚内女房お京、てんまやおはつ、菊次郎、播磨の大掾盛廣、麻生の松若、歌助、神職左司馬、山中屋下女おくぼ、國五郎、盛久一子花若、猿之助、亘妹かるも、歌柳、童の菊王、幸藏、武藏小太郎、友松、盛遠妹かほる、七藏、近藤判官景友、三國の九郎、宗兵衛、瀨の尾十郎、油屋九平次、奥山能登守敎經、金賣橘次、平野屋德兵衛、團十郎、いつれも評よく大出來第二番目大切淨るり 道行「重扇色三升(ふたつおふぎいろとみます)」 おはつ、菊次郎 在所娘、長十郎 德兵衛、團十郎、長唄はやし連中竹本連中かけ合にて相勤狂言作者篠田瑳助、梅澤宗六、九字薪作、松本幸

蝶之助、平馬妹春雨、大七娘分おきよ、福之丞、重忠妹衣笠、上田屋女房おしけ、佳好、化粧坂少將下り片岡愛之助、工藤息女犬姫、岩槻樓抱おのち、三浦屋の片貝、玉三郎、近江小藤太成家、山川屋番頭義兵衛、お高兄三九郎下り中山市藏、鬼王新左衛門、尺八指南宅間玄龍、和田義盛、男女藏、娰お高後文七女房おたか、奥女中淸川、鬼王女房月小夜、岩槻樓女房おすみ、大磯の虎しうか、鷹金文七實は安達家中花岡文七、梅印千右衛門實は文七、雷庄九郎實は文七、安の平兵衛實は文七、布袋市右衛門實は、文七、曾我十郎祐成、工藤左衛門祐經、團十郎、御所五郎丸、壽三郎、第一番目五立目淨瑠璃これのますに米升緣なむすぶの神風に「戀湊濃入艭」大藤內、小團次龜きく、新車、おしつ、長三郎、小五郎、新七、喜瀨川、しうか、祐なり、團十郎富本豐前掾、同豐紫太夫三弦鳥羽屋里長名見崎與惣次連中相勤何れも評ばんよく大當り○當狂言は文政三辰年正月中村座「仕入曾我鷹金染」三代目永木三津五郎初めて一人りの五人男大當り天保六未正月森田座にゐて「結題曾我鷹」四代目三つ五郎一人五人男大當り同八酉四月森田座「初袷鷹五紋」玉三郎一人にて五人女大出來此度八代め大當り○正月十五日より市村座「澤潟鎧長者」曾我五郎時宗、三十郎、そかの片貝、和田の舞鶴姬、花友、八幡の

三郎、芝雀、大藤內、文五郎、二の宮太郎、橘藏、曾我團三郎、宇十郎、梅澤や小五郎兵衛、猿太郎、久須美次郎、三津藏、伊豆の次郎、虎五郎、赤澤十內、又八、閉坊法印、鴻藏、百足や金兵衛、梅八、竹の下孫八、岡六、鬼王新左衛門、三津五郎、淸水冠者義高下り嵐吉三郎、犬坊丸、由次郎、箱根の別當行實、十藏、佐々木小太郎、友松、政子御前、鯉とう、御所五郎丸、源平、工藤奥方梛の葉、小六、近江小藤太、曾我蛇足、友右衛門、大磯やおてん、とら御ぜん、梅幸、工藤一藹祐經、たいこ持高助、京の次郎祐俊、長十郎、曾我十郎祐なり、羽左衛門、第一番目五立目上るり「初霞緣蝶衛」おてん、梅幸、高助、長十郎、片かい、花友、祐成、羽左衛門常磐津文字太夫連中相勤第二ばん目三かつ半七筑波茂右衛門、三十郎、半七云號おはな、花友、田宮右內、芝雀、あかねや後家おかる、文五郎、有松源之丞、橘藏、茜屋下男彌助、宇十郎、笠松角太郎、猿太郎、有松中間吉平、三津藏、みのや平三、三津五郎、東金茂右衛門、吉三郎、三勝娘おしつ、由次郎、むさしや女房おとも、友之助、笠松中間雁介、半十郎、茜屋手代長九郎、猿右衛門、野花や女房およし、小六、今市屋善右衛門、友右衛門、けいしや三かつ、三勝母妙貞、梅幸、あかね

や半七、厚念治部太夫、長十郎、信田帯刀、羽左衛門安達原鎌杖や數漁師南兵衛實は安部宗任、三十郎、貞任娘おきみ、才三郎、義家御臺敷妙、りとう、平太夫國妙、三津五郎、八まん太郎、吉三郎、謙杖妻濱夕、小六、鎌杖直方、友右衛門、貞任女房袖はき、桂中納言實は安部貞任、長十郎嵐吉三郎御目見狂言「梶原平三紅梅靮」星合寺石切のたん海老名源八兵衛、三十郎、青貝師六郎太夫、友右衛門、濱名次郎、宇十郎、鹽山庄司、三津藏、大庭の三郎、三津五郎、梶原平三景時下り嵐吉三郎、股野五郎景久、文五郎、六郎太夫娘こすへ、梅幸、大江廣元、長十郎、畠山重忠、羽左衛門、第貳ばん目大切上るり「三勝半七富岡仇兼言」清元太兵衛連中相勤何れも大出來大當り○正月廿二日より河原崎座「山笑春清水」うすゆき姫、正宗娘おれん、粂三郎、奴妻平、來太郎國俊、松緑、澁川藤馬、常麻主水、爲十郎、園部左門之助、竹三郎、奥女中柏木、歌助、同繪合、猿三郎、同横ふへ、冠五郎、奴峯平、大次郎、同谷平、三吉、同關平、槌藏其外大せい刀鍛冶團九郎、園部の兵衛眼玉改鰕十郎、葛城民部、刎川兵藏、刀鍛冶五郎兵衛正宗、九藏、清水住寺轟坊、らい助、娵若菜、米次郎、同蝴蝶、やまと、同あふし、梅太、常夏、政

次郎、紅梅、朝次郎、松風、三花、あかし、しけ松、奥女中關屋、國五郎、娵梅か枝、辰之助、刀鍛冶來國行、佐十郎、天野一角、七右衛門、幸崎奥方松かへ、娵もしほ、團之助、秋月大膳、月光の喜宇藏、奥山、園部奥方梅の方、こし元まかき、あこや菊次郎、幸崎伊豫守、地藏の五平次、畠山重忠、彦三郎、景清一子あさ丸、長十郎、第二ばんめ「お染久松色讀販」油屋おそめ、同てつち久松、同姉奥女中竹川、喜兵衛女房おろく、庵崎の賤の女お作、久松云號寺島のおみつ、お染母貞昌、粂三郎、山家屋清兵衛、松緑、鈴木彌忠太、爲十郎、油屋多三郎、獅子舞鶴吉、竹三郎、かみゆい中の郷龜、歌助、油屋丁稚久太郎、猿三郎、同下男九助、大次郎、刀屋勘吉、冠五郎、油屋太郎七、鰕十郎、百姓庵崎久作、しゝ舞十二藤助、九藏、百姓寺しまの彌五兵衛、白十郎、茶や女おさき、朝次郎、粂本二階廻しおちか、政次郎、あふらや下女おたみ、三花、けいしや京村屋のお糸、しけ松、同廻し源太、佐十郎、駕かき又八右衛門、竹川召仕おかつ、油屋下女おその、團之助、同番頭善六、奥山太郎七女房おふみ、菊次郎、たばこ切鬼門喜兵衛、岩戸香松本屋佐四郎、彦三郎、鷲の者湯島の三

局、國太郎、同楓の局、辰之助、伊久野大彌太、佐十郎、越中の次郎、七右衞門、無官太夫敦盛、熊谷小次郎直家（大坂下り）市川猿藏（江戸表初舞臺）堤軍次、伊賀平内左衞門、爲十郎、右兵衞佐頼朝、千葉之助、松緑、熊谷妻さかみ、女仕丁お浪實は景清妻あこや、菊次郎、石屋彌陀六實は宗清、北條四郎時政、彥三郎、景清娘人丸、長十郎、第二番目（五代目六代目）七代目岩井半四郎（五代目六代目）松本幸四郎右追善狂言「杜若手向（かきつばたむけ）の花川戸（はなかはと）」播隨院の長兵衞、市川海老藏、白井權八、長兵衞女房おとき、粂三郎、うつら權兵衞、奥山久下玄蕃、爲十郎、男達極樂十三、竹三郎、同早桶半助、歌助、同石塚清吉、猿三郎、寺西下部土手平、大次郎、男達勘六、冠五郎、雲助大森の市、三吉（其外大勢）長兵衞一子長松、あかん平、白柄十右衞門、黹十郎、本庄助太夫、同若黨八内、九藏、三浦のやりてお爪、扇藏、權八下部細内、雷十郎、三浦新造此里、三すし、同此糸、米次郎、玄蕃下部鐵平、國五郎、三浦女房おやま、辰之助、家主茂九郎兵衞、佐十郎、男達藤兵衞、七右衞門、同眞むしの次郎吉、猿藏、三浦の小紫、團之助、本庄助市、松緑、權八云號八重梅、菊次郎、寺西閑心、彥三郎、鳥取主水之助、長十郎、淨瑠理竹本戸和太夫、同鶴太夫、三味線鶴澤市作、同榮三郎相勤○市川海老藏舞臺におゐて口上舞臺に併びし者若太夫、長十郎、猿藏、幸藏、あかん平、彥三郎、竹三郎、九藏、白藏、鰕十郎、松緑、菊次郎、粂三郎、團之助、爲十郎、奥山其外門弟中居ならびて口上あり

高ふはムり升れど御免の蒙り升て是より段〳〵御禮口上を以て奉申上升る先以大江戸御町中樣の斯うるはしき御尊顏を拜し冥加至極難有仕合奉存升る隨まして私身分之義乍憚御聞之程希上たてまつり升る蘆生が夢に引かへて是迄五十年來のたはけあほうの罪重ねまして既に御ひゐき樣方の御勘氣を蒙り下總の國成田山新勝寺へ立越境内延命院にムり升る地藏尊の堂守りに相成居りましてムり升るが是皆おのれが身の錆ゆへ千万悔むせんすべはムり升ねどまた其砌は子供同前の忰八代目團十郎へ多勢のやつかいを掛升るが心ぐるしく殊私と違ひ病身にムり升れば私身分を案事且は多勢の厄介何やかや心配いたし若煩も出ませふかと日夜案じおり升てムり升る夫のみならず狂言役向も何役を相勤升か其上未熟不調法の若年者に大切なる座頭

役仰付られ相勤升るは全江戸根生の團十郎御攝御取立の御影且は神佛の御かごと心魂にてつし難有御禮奉申上升る殊には又役者身分には古今稀成ゐうが至極の御褒美を頂戴致し先祖ゐの大功家の譽れ是も偏に御贔屓樣の御余光と冥加至極難有御禮奉申上升る扨又元祖團十郎追福のため二代目團十郎高野山に石碑を立置ましてムり升か年間相立まして損じ升たる故先年私登山の砌二代目團十郎幷に私母の年囘に相當り石碑の修覆致しましてムり升が其節供養を不致に歸國致しましたを兼々心にかゝりおり升したる事故右の石碑供養又は先祖へ此身の詫かた〴〵高野山え參詣致しましたる所此由を承り大坂表より芝居掛りの者高野山へ尋參り申升るは扨大坂表にも勤致吳候樣と達て相願升るゆへせひにとあらば出勤も致まい物でもないが存の通りの身のうへなれは御上樣の思召も恐入奉存れは御伺ひ申上ねば出勤は致されずと斷遣りましたるに芝居掛りの者一同大坂表御上樣へ御願申上ましたる處格別の御慈悲を以て下總國成田村成田屋七左衞門と申もの大坂表歌舞妓役者に御取立被下置難有彼地へ夘年より再び出勤仕りましてムり升す然るに私なじみの役者大概故人と相成り若役者のみにていかゞと存ましたるに何か伯父の兄でも參つたよふにやれこれと取はやし世話致し吳升るゆへついうか〴〵と八か年が間大坂表にて役者家業相勤ましたるもやはり大江戸の御餘光と難有仕合と奉存升る扨彼地に足を止升る內にも朝夕心に懸り升るは一度江戸表へ立歸り御目見へ致し度と成田山不動明王へ夫のみ願ひ猶又悴團十郎ゐ日々精進斷物に致し私身分之義を日夜おこたりなく御願申たる其神力の御加護且は御攝樣の御惠の思召顯れ昨年十二月廿六日御上樣より冥加至極にもなき難有御高免の蒙りましてムり升す誠に是迄は坊主にても相成ませねば御目通りは叶はぬ事と思ひ居ましたるにやはり役者家業にて斯難有御目見致し升るはうどんげの花盲龜の浮木なか〴〵御禮は詞に盡しがたく子々孫々に至る迄永く御禮奉申上升る扨私も六十の手習とやらで大坂表にていろいろ珍らしき狂言相勤ましてムり升れば此度の御目見へに何がな珍らしき義と存候ましたれどもけ

いこ等に日數かゝり升る故取あへずありふれましたる嫩軍記の熊谷第貳番目は五代目六代目七代目岩井半四郎五代目六代目松本幸四郎年囘相當り則追善に粂三郎に權八私長兵衞を致し升るよふ御さしづに隨ひ相勤升るやふに厶り升する猶御土產狂言には一昨年彼地にて相勤ましたる琵琶法師の景淸御覽に入奉り升る然るに右景淸にてだんまりを一幕致し升るよふ御好みに何かなと工夫致しましたる處先年五代目祖父白猿向島へ隱居いたし再勤の折柄初代歌川豐國夫の岩戸に見立三枚續に書きまして厶り升るか此度二代目豐國ぬし天の岩戸に私を見立ましたる錦畫御評判に預りし由承り是幸ひと右之岩戸をだんまりに取仕組御覽に入れ奉り升れ共なか／＼五代目白猿同樣にと增長致しましたる心ににては厶り升ぬたゞ錦畫にもとづきましての義に厶り升れは左樣思召の程願上奉り升る

是より惣坐中役者御取立の口上よろしくあつて

誠に以て御膝元の難有事は私幼年の砌より御ひゐき樣方是をやらふあれを遣ふとうまき物を澤山頂戴致しましたる其夜食のかたまりが十二人厶り升る内五人は女にてとんと役者の間には合ませねど七人は男にて惣領は御攝御取立に預りました八代目團十郎次男新之助事は幼年の折疱瘡にて私が讓りもの丶かんじんの眼玉を一つ失ひましたる故是は素人に相成十兵衞と申只今にては木場に居母の世話等致しをり升る三男は後の新之助に厶り升る是は弟幸四郎方へ養子に遣し當時高麗藏名前相續仕未熟不調法なる者に厶り升れど御取立をもちまして此度も白酒うりの大役を勤ると承り夫はけしからぬ赤子を海へほふり込よふなものどふかいたし樣はなきかと團十郎へ申遣りましたれば早番付出來致しけいこにも掛りしとの事故せひなき事に思ひをりましたる所御ひゐき樣御影を以てとふやらこふやら相勤升るよふに厶り升此上共御取立をもちましてゆく／＼は幸四郎名前相續致升よふ偏希上奉り升る扨其次は是におり升る猿藏めに厶り升るこれは私の跡をしたい大坂表へまいり藝道修行のためちんこと申子供芝居へ出勤仕何か立役敵役女形など年不相應の役のみ相勤ましたる事故只今年から相應の役相勤升るせりふ等も御聞ぐるし

ふムり升ふが此義は御用捨なし被下行末長く御ひゐき御取立の程願ひ上奉り升る又其次におり升るあかん平と申私出立の砌は捨子同前にて殘し置ましてムり升るが兄の手元にて成長なし只今にては五代め白猿の幼名幸藏の名前相續致し此度も家の狂言十八番の內外郎賣の大役相勤升る樣にムり升る是又兄〳〵と同樣に御取立を希上奉り升る又其次の小奴めは大坂表にてもふけましたる當時のあかん平にムり升る此度者長松の役を相勤升るこれ又くどふも御攝の程願上奉り升るかよに子供等六人親猿を入まして七人役者家業相勤升るは往古より稀なる義にて誠に市川家永續のしるし是全御ひゐき樣の御影と冥加至極難有御禮奉申上升扨〳〵長口上ながら牛は願かう鼻を通すとやら先年兄弟たる尾上菊五郎は役者家業を相止め好な植木を友と致し浦山敷事なれ共私などは不調法にムり升ればゞ一世一代抔者思ひもよらず殊に役者が好にムり升れはとつ百年も舞臺相勤升る樣御願申上至升たるがされはにや此度斯難有御目見へ致し升る上は團十郎を初め其外忰共迄御約束にムり升ればとつ百年も御ひゐき御取立の程偏に希上奉升る先は口上角から隅迄ずいと左よふに思召被下升ふ

海老藏御目見狂言三立目岩戸出景淸だんまり本舞臺向ふ一面箔置の岩組眞中に注連を張りし岩嵓此處に莫太なる大岩立掛有り上下錦の摺を幕へ張り能所に四神を餝り舞臺前上下に大かゞりを焚雨落より銀張りの波板すへ〳〵江の島岩屋の體雨窓をおろし波の音にて道具おさまると波の音打上げ大薩摩になる

夫神代の其むかし天の岩戸の常闇に八百万神の神樂を奏し常世となせし例しに習ひ今鎌倉の天變に月日の光り蝕の如く晝夜のわかちあら海に彼常闇と岩むろの神をいさめの庭神樂

と詠の神樂の入りしせり上げの鳴物に成り舞臺眞中へ彥三郎かけゑほし半素袍小手脚當附太刀錦の袋入の鏡を三寶にのせ是を持立身上手菊次郎よふらく附の冠り白の水干詠の大口白き幣を持下手に粂三郎同し形靑き幣を持住い居る上の方すつほんに鍛十郎同しく素袍小手脚當附太刀しての付し榊を持下の方すつほんに松綠同し形にて鉾を持三方三所にせり上る是と一時に花道に九藏金ゑほし狩

衣半大口附太刀錦の袋入曲玉を三寶にのせ是を持
立身手下に猿藏ひし皮のかつら四天丸くけ大小荒
事の形り白き鷄を抱へ住ひ居る双方見やつてせり
上る鳴もの打上げこだまの合方
九藏誠や唐土漢の高祖は三尺の劒を以て四百餘州を
切なびけついに帝王の位に登る彦三郎今我君頼朝公
一張の弓の勇むに帝の震禁を安んぜんと菊次郎奢る
平家を追討の御仁惠厚き御身さへ物にさはりの花に
風粂三郎月に浮雲御不例に都のそらへ御出馬もきの
ふと過ぎてけふはまた鰕十郎諸山の奉幣緒寺のきね
ん丹誠おこたることなけれど松緑神明佛陀の加護も
なく心ならざる時も時猿藏陰陽二精の光りをうしな
い三日三夜闇夜のごとし彦三郎神事の補佐は三老た
る北條四郎の時政菊次郎うすめの舞も今樣に和田よ
し盛か妹朝日粂三郎同し役目もふつゝかながら秩父
の重忠か妹衣笠鰕十郎路次のけいゑい非常を守るは
和田左衛門義盛松ゑく添やくとして千葉之介常胤猿藏
末座に扣へし某は岩戸をひらく手力雄にぶき刀も難
有此御目見得に御ひゐきの惠を江間の小四郎義時彦
三郎其外三浦小玉薫鰕十郎在鎌倉の大小名松緑神樂の
役にたつか弓猿藏矢なみつくろふもの丶ふも菊次郎貝
かねならぬ粂三郎笛ひちりき九藏實にいさましきみな
〲神いさめ岩うつ波にこだまして心耳をすます江
の島の天女のほこらぞ物すごき
とこれにて花道の九藏猿藏本舞臺へ來り九藏眞ん
中に上手に菊次郎粂三郎下手に彦三郎猿藏此左右
に鰕十郎松ゑく居ならぶ
九藏今日頼朝公の嚴命によつて當金龜山の神仙洞に
て天女をいさめる神樂の合奏かた〲の參籠君にも
嘸かし御滿足みな〲はゝ彦我〲共は神事の加役鰕
秩父どのには御名代松ゑく御苦勞千万にみな〲存奉
り升ると是にて樂になり九藏思入あつて九藏あれ見
られよ北條どの神仙しねんの岩屈へ大磐石を戸ざせ
しは余も凡力に有べからすかゝるためしは日本記に
天照す神素盞雄の尊の惡行怒りのあまり天の岩戸へ
籠りたまひ菊次郎晝夜はかたぬ常闇に粂三郎八十万ず
の神〲か猿藏庭火のかゝり左右に焚き松ゑく天のう
すめの俳優に鰕十郎御神岩戸をあけ玉ふ九藏夫は遠つ
神代のむかし彦三郎これは目前人の世に菊二郎月日の
光りあらすしてくゐ三日三夜さの常闇はゑび藏世に

も稀なる松ろく天變ふしき、と此時鷄時を作る
九藏最早長鳴鳥の聲をはつせば猿藏かた〳〵神樂の用意召れい
と下座にて大ぜいはあゝと是より本行の神樂になり菊次郎粂三郎立かゝり舞はんとするこの時どろ〳〵になり兩人目くるめきだち〳〵に成るこれにて右のかゞり一時に消へるみな〳〵きつと思入此時正面の岩屋の內より誂の後光顯れる
九藏あゝ岩戸の內より赫〳〵と金氣の光り顯れしは
彥妙音天女のかんのふなるか　猿藏何にもせよいぶかしきは岩屋の內それ
と猿藏つか〳〵と行磐石へ手をかける大どろ〳〵にて後光は消へ猿藏磐石を引のける岩屋の內より海老藏大百日どてら丸ぐけ好の拵へにて錦の袋入の小烏丸を持出て前の岩屋へ片足をふみ出し小がらす丸を拔かけきつと見へ是にて鳥笛相引のからす大ふん舞ひ雨窓あけてあかるくなるみな〳〵海老藏と顏見合扨はと思入海老藏小烏丸しやんとさす是にて又雨窓おろし元のくらがり誂へ夜神樂の入りし鳴ものに成りだんまり立上り能程にいせんの七右衛門出て海老藏へ掛り小からす丸へ手をかけるを振拂ふ是にて七右衛門劒の袋を持たまゝ下の方へ返る海老藏は小烏丸を腰へさし皆〳〵を縫て立上り鳴もの替つて立廻りよろしく能所にて三藏伺ひ出て
三藏重忠かんねんと切てかゝるを九藏身をかはし突やるを猿藏是をなげのけ引附る此內花道へ海老藏のがれ行を七右衛門劒の袋を取拔打に七右衛門を切倒す七右衛門下の方へ見事に返る是にてからす笛雨窓あけあかるくなるみな〳〵海老藏を見て　彥九まさしく平家のとこれにて海老藏ぎつくりして件の袋にて太刀を押へるを木の頭雨窓おろしくらくなる海老藏のりを拭ふ舞臺は三藏はねかへすを猿藏片足かけて見得皆〳〵向ふを見込む引はりの見へよろしくどろ〳〵かけりにてひやうし幕
と幕外海老藏のりを拭し劒を見る是にて雨窓あけあかるくなり鞘へ納てきつと見得誂への鳴物になり向ふへふつては入る知らせに附鳴物打上けあとしやぎり〇海老藏出勤大出來大々當り中村市村よりも海老藏出勤之事願出候由風聞有之

高ふはムり升れど御のんのかふむり升てこれより
口上をもつて申上奉り升るまづは當座御ひゐきと
ムり升てかよふに賑々敷御けんぶつに御來儲なし
下され升る段座もと勘三郎義は申上るに及び升せ
ず若太夫壽三郎其外惣座中いか斗りかありがたき
仕合にそんじ奉升るしたがひ升て申上升るは是に
扣へおられ升る座元勘三郎義にムり升る先年親共
より猿若の名前受繼升て十三代目家とく相續仕升

れどいまだ何れも樣方へ右御披露申上奉り升ぬ故
此度右御披露申上奉り升る恐ながら御しんみやう
に御聞之程ねがい上奉り升る○當芝居壽の口上は
團十郎代々申上升る吉例にムり升て私ためにはひ
ゐぢい白猿より申傳え旣に享保八壬卯のとし當芝
居の壽の節二代目市川團十郎口上を申上升てその
後延享元甲子年市川ゑび藏と改名仕り升てもまた
〳〵口上を申上升てムり升るゆへ安永二壬酉年百
五十年壽のせつ四代目市川海老藏私爲にはひゐぢ
いにムり升る隱居白猿また其節に市川團十郎にて
木挽町森田座へ相勤居升てムり升るが當芝居え參
り四代目五代目兩人にて壽の口上を申上文化元甲
子年壽の砌五代目隱居名代として私親共口上相勤
夫より文政六癸未年十一代目勘三郎貳百年壽の節
わたくし親共口上相勤ちかくは天保三壬辰年十二
代目勘三郎家督披露壽之節親共名代として幼年の
私に至り升て當芝居に座頭やく相勤おり升て壽の
口上申上升るは冥加に叶ひ升たる義有がたき仕合
にぞんじ奉り升る○殊に當芝居之義者寛永甲子年
初而御當地にて男歌舞妓狂言座御免を蒙り中橋に

おゐて太皷櫓を上け升たるより當嘉永三庚戌年迄二百廿七年の間元祖猿若勘三郎より當勘三郎迄十三代連綿と相續仕且今の地所下し置れ升て猿若町におゐて猿若勘三郎幾久しく興行仕る段是全大江戸中樣の御ひゐき厚き角目あらわれ升ていか計りか有がたき仕合にぞんじ奉り升る則右壽と仕升て元祖勘三郎より代々致置ましたる家の狂言門松猿若新發意たいこ右をかく日に相勤御覽に入奉り升るなれ共到て古風なるものにムり升て中〳〵御目にとまり升るよふにはムり升ねど只古來の趣を御覽遊すと思召升て御贔負厚く御見物の程偏に奉願升る○則是より吉例に任せ座元勘三郎大切に所持仕升る品々御披露申上奉升るおしとやかに御拜禮下されま升う

△右元祖猿若勘三郎より讓り受たる拜領の品々殊に歌舞妓根元の家の規摸偏に先祖の光りとは申ながら全く大江戸八百八丁の御めぐみと有がたき仕合存し奉り升る扨右難有御惠壽の莚悦びの砌りに申上奉り升るは私親共海老藏儀御ぞんじしられ升たる通り久々大坂表え罷越夫より永らくかの地居り升たる處一と年〳〵老年に順ひ升ればもはや何れも樣方へ御目見得致し升る事も計られず何卒一度御當地へ立戻り升よふと晝夜心に念じ居り升る所此度難有御赦に預り升て御當地へ罷下り以前お馴染の御見捨なく何れも樣方の御取立にあづかり升るだん私に置升てもいか計りか難有仕合に存じ奉升る右御禮申上るに置升ては中〳〵言語に盡しがたく白日に昇天の思ひ私心中の悦びいづれも樣方にも御賢慮の程偏に願上奉り升る○先者座元勘三郎請傳へ升たる重寶の御披露幷に十三代目家督相續の御披露の口上猶此上にも櫓相續萬代不易の御攝の程すみから角迄ずいと願上奉り升る先者其爲口上左樣思召被下升う

○五月五日より中村座「蘆屋道萬大内鑑」一はんめ二はんめとの間「猿廻門途の一諷」第二番目「國性爺合戰」三の口三の切奴與勘平、猿まはし與次郎、和藤内母、小團次、左近太郎妻花町、さかきの前、和藤内女房小むつ、新車、左近太郎照綱、瀧口靭負之助、岩倉監物、金剛太郎政勝、高麗藏、加茂後室岩手の方、古手屋五郎兵衛、小次郎、石川彈正左衛門、木綿うり吉六、釣鐘屋 權兵衛、廣五郎、

ざし式逸見圭税、鉄次郎、順禮の七、輪達や八兵衛、音八、安部の童子、吉彌、信田の庄司、蘆屋道滿、鄭芝龍老一官、男女藏、照綱一子照之助、才三郎、雁かゝあおさん、下官くとちやうせい、音右衛門、同ゑつきてる、おしゆん、親方才兵衛、森五郎、馬淵九平太、下官ちんふんかん、宗兵衛、婳常わ木、侍女りうくわ、芝鶴、庄司妻眞葛、與次郎母おさよ、佳調、けいこ娘おつる、佳女三郎、同おたけ、東之助、婳仙之助、同さつき、侍女しらんくわ、福之丞、照久妻筑波根、佳好、好古息女六の君、旃檀皇女、玉三郎、大倉權之頭照久、石川惡右衛門、市藏、信田の息女葛の葉、信田の森くつのは狐、げいしやおしゆん、甘輝妻錦衫女、しうか、安部の保名、井筒屋傳兵衛、和藤内後に國性爺、團十郎、武藏五郎、壽三郎、淨るり竹本鶴澤連中相勤

○市川海老藏（國性爺すけにて）伍將軍甘輝何れも大々當りなり

○五月朔日より**市村座**「忠臣藏五十三紀（ちうしんぐらごじうさんつぎ）」加古川本藏、堀部彌兵衛、鎗持七平、千崎彌五郎、矢間重太郎、宇渡濱の白藏、高の師直役七三十郎、重太郎女房おりへ、一力抱へおかる、九太夫娘おくみ、天津風のおとめ、由良之助女房おいし、花友、奥山孫七、芝雀、近藤源四郎、入間丑兵衛、手代善九郎實は清水一角、山名次郎左衛門、文五郎、大星力彌、橘藏、石堂右馬之丞、家主杢兵衛、高岡源吾、宇十郎、鷺坂伴内、澤沼の若徒曾平太、木田村傳次、鯱太郎、一力女房おまき、爲若乳人鷹間の羽、幸勇、富森助右衛門、三津藏、奥田品右衛門、三浦屋傳三、虎五郎、大星大三郎、寅之助、早乙女小よし、猪三郎、義平一子義松、花助、足利直義公、吉五郎、一色左京之助、原鄉右衛門、織部彌次兵衛、一文字や才兵衛、高島源五右衛門、石田忠右衛門、三津五郎、鹽谷判官、寺岡平右衛門、八百屋五郎吉實は平林嘉内、若徒佐五郎、斧定九郎、不破數右衛門、吉三郎、鹽谷爲若丸、九郎右衛門、黑橋仙助、齒磨賣米吉、十藏、一力仲居おはな、やよい（此外大勢）同おかつ、彌兵衛娘小春、にしき、取井民右衛門、下男甚藏、半十郎、近松半六、庄屋太郎作、鯱右衛門、佐藤與茂七、友松、本藏娘小浪、李下齋妾おりう、鯉とう、大星吉次郎、源平、石屋後家お禮、與茂七姉眞柴、下女おりん、戸田の局、小六、斧九太夫、村松澤平、勝右衛門、伯母おせき、太田了竹、肴屋吉五郎實は戸林平内、友右衛門、本藏女房となせ、け

いせい柏木、寺岡女房お北、三保崎おまつ、早乙女お
幸、沼澤左衛門、かほよ御前、梅幸、汐田又之丞、小
間ものや與七、李下齋紀文、高川理右衛門、金比羅參
り北八、山岡角兵衛、大星由良之助、長十郎、石屋五郎
太實は早の勘平、千葉三郎兵衛、下男元助、天川屋義
平、桃井若狹之助、旅人とちめんや彌次兵衛、仁木は
りまの守、羽左衛門、淨るり（妾は一蝶か筆雅を寫し意は一九か滑稽を慕ふ）「風曲(ふうぎよく)
膝栗毛(ひざくりげ)」池鯉鮒宿にて相勤（鎧持七介三十郎乙女花友 早乙女おこう梅幸喜多八長十郎 彌次郎兵衛羽左門）
いづれも評よく大出來大當り五月五日より**河原崎座**
「競伊勢物語(くらべこしいせものがたり)」紀の名虎の靈、斑鳩の藤太基國、紀の
有常、海老藏、在原業平、春日野の豆四郎、河内の生駒
姬、粂三郎、伴の大納言宗岡、どらのにやう八、奧山、宿
禰妻通路、團之助、惟仁親王、竹三郎、春日のお市、歌
雀、藏人、猿三郎、右大辨雲連、大次郎、左大辨師國、冠
五郎、堀川の大臣、秋信、春日の小よし、九藏、二條の
后高子、しげ松、大納言國經、茶見せの亭主五作、國五
郎、局絹拭、春日のおたに、辰之助、中納言長良、佐十
郎、代官川島典膳、七右衛門、舍人夜叉丸、春日のし
のぶ、大和の井筒姬、菊次郎、荒川宿禰春久、仕丁又作
實は小の丶簟、彥三郎、舍人金剛丸、長十郎、第貳番目
「紫花色吉原(ゆかりのはないろのよしはら)」佐野次郎左衛門、海老藏、万字屋八つ
はし、粂三郎、見せ物師鹿六、奧山額の小三、團之助、
金屋金五郎、竹三郎、非人の三、歌助、つたや佐四郎、
猿三郎、梁田伴藏、大次郎、中間權平、冠五郎、見せも
の師次郎吉、善平、同金次、つち藏、樽ひろい善太、あ
かん平、駕かき傳兵衛、九藏、輕業の子供峯吉、茂々
市、同岸松、茂々作、同口上言豆助、國五郎、げいしや
おとみ、米次郎、同おもん、やまと、同おたみ、三花、同
おまさ、三すし、傳兵衛母お倉、佐十郎、鳶の者綱吉、
猿藏、釣鐘彌左衛門、爲十郎、万字屋藤吉、松綠、土手
のお六、菊次郎、船橋次郎左衛門、修行者願哲、彥三郎
第一番目、貳番目間にて（江戸景淸後日狂言）「蓮生問答」（歌舞妓十八番日）熊
谷道心蓮生坊、海老藏、重忠妹衣笠、粂三郎、平山武者
所季重、奧山、賴朝息女大姬、團之助、結城七郎、竹三郎
三浦平六兵衛、歌助、二階堂主計、猿三郎、海の丶太
郎、大次郎、芦名次郎、冠五郎、武田太郎三吉、右幕下
賴朝公、九藏、里見藏人、らい助、番場忠太 三藏、妼大
勢、安達藤九郎盛長、國五郎、大江の廣元、佐十郎、北
條式部、泰時、七右衛門、淸水冠者實は秩父の小六郎、
猿藏、梶原平次景高、爲十郎、同源太景季、松綠、御臺

政子御前、菊次郎、劔澤彌五實は今井の四郎兼平、彥三郎、淨るり竹本戸和太夫、鶴太夫三味せん鶴澤市作、粂三郎相勤〇五月十七日より「神靈矢口渡」第四段目の切矢口の頓兵衞、海老藏、同娘おふね、粂三郎、けいせいうてな、團之助、しつ金候兵衞、國五郎、二そろひん助、大次郎、下男六藏、九藏、新田小太郎義峯、竹三郎、御臺つくは御前、菊次郎、新田義貞、彥三郎、第一ばんめ伊せ物語中評す此狂言は江戸へにむか梅玉も不當りなりし頓兵衞いつも大出來〇六月六日より市村座忠臣藏五十三記續き後日狂言「増補四谷怪談」民谷伊右衞門、同女房お岩、矢間重太郎、小佛小平、直助權兵衞、うはおまさ、田代安兵衞、佛孫兵衞、加古川本藏、百姓彌作、高の師直役十一三十郎、伊藤後家お弓、由良之助女房おいし、小六、大星力彌、奥田藤三郎、道心者雲念、宇十郎、あんま宅悦、鷺坂伴內、一毬太郎、灰方彌助、四つ谷左門、虎五郎、關口官藏、又八、茶屋女おまる、やよい妼なでしこ、武次郎、七太夫娘おつる、三之助うばおまち、妼夕なき、友之助、田代又右衞門、百姓彥太夫、十藏、茶や女おまつ、にしき、伊藤喜兵衞、毬右衞門、佐藤與茂七、友松、彌次兵衞娘おしな、伊藤娘お梅、りとう、千葉三郎右衞門、一色右京、芝鶴、彌作女房おかや、重太郎女房おりへ、お岩妹おそて、彌次兵衞娘おきそ、かほよ御前、花友、大星由良之助、藥賣胸原逸齋、堀江彌次兵衞、矢間喜內、三津五郎、何も評よし、第貳番目所作事雪月花とやら恐れ有難き御贔負のお差圖にすがりて「野黃雀親口眞似」關三十郎、淸元太兵衞連中長唄はやし連中相勤當狂言中棧敷代廿五匁高土間廿匁平土間十五匁〇七月十日より中村座「菅原傳授手習鑑」第一ばん目發端淨るり御攝のお進めに志賀山流を其儘に見やうみますの三番叟「拙優菘種蒔」三番叟、小團次千歲、しうか淸元太兵衞、長唄吉住、木村、岡安、三弦杵屋三郎助其外囃子連中ふり付藤間勘十郎、同藤太郎、花柳芳次郎三弦杵屋六左衞門相勤〇藤原の時平、百姓白太夫、武部源藏、宿禰太郎、小團次、同妻竜田、櫻丸女房八重、源藏、女房戸なみ、新車、判官代照國、くりから太郎、新七、舍人梅王丸、十條民部、高麗藏、舍人杉王、堤畑の十作、小次郎、奴宅內、左中辨稀世、よたれくり與太郎、廣五郎、齋世親王、鈍次郎、似迎ひ彌藤次、百姓五作、音八、同万作、三好の淸貫、とら藏、鐵棒引音又、下男三助、千代藏牛飼仕丁大勢い四段目遠見梅王、幸藏、土師の兵衞、船頭權頭太、男女藏、松王一子小太郎、吉彌、菅秀才、德次郎、手習子遠見の子供船頭妼大勢、安

樂寺住僧音左衛門、荒島主稅、森五郎、鷲塚平馬、宗兵衛、御臺花園御前、芝鶴、侍女槇の戸、かてう、梅王女房はる、佳好、かりや姫、玉三郎、春藤玄蕃、唐使斐文藉、市藏、松王女房千代、舍人櫻丸、後室覺壽、文室息女紅梅姫、しうか、菅原道實公、舍人松王丸、紀の長谷雄、團十郎、泰の兼氏、壽三郎、淨るり豐竹壽和太夫、鶴澤仲造相勤何れも大出來評よし〇七月十三日より**市村座**「菅原傳授手習鑑(すがはらでんじゆてならいかゞみ)」宿禰太郎、中納言基經、梅王丸、三十郎、櫻丸女房八重、苅屋姫、源藏女房戸なみ、花友、泰の兼武、芝雀、三よし淸貫、奴宅內、文五郎、齋世親王、舍人橋王丸、橘藏、左中辨希世、よたれくり宇十郎、わし塚平馬、似せ迎ひ彌藤次、黐太郎、唐使天蘭敬、夢中辨息成、虎五郎、左大臣時平、百姓白太夫、三津五郎、松王丸、判官代照國、吉三郎、菅秀才、九郎左衛門、松王一子小太郎、由次郎、百姓麥作、局岩瀨、十藏、いよの局、にしき、下男三助、右少辨緒師、半十郎、安樂寺住寐小辨權成、黐右衛門、舍人杉王、友松、梅王女房はる、御臺梅園御前、小六、土師の兵衛春成、玄蕃、友右衛門、松王女房ちよ、立田の前、梅幸、武部源藏、覺壽、左大將匡衡、長十郎、菅相丞舍人、櫻丸、巨勢大納言金岡、羽左衛門、大切淨るり(扇屋夕きり藤や伊左衛門)「廓文章」(喜左衛門、吉三郎 夕きり、梅幸 同女房、花友 伊左衛門、長十郎)常磐津文字太夫、小文字太夫、三弦岸澤式佐、連中相勤同役はり吉田屋喜左衛門、吉三郎、同女房おばな、花友、(同若いもの大勢)仲居おもと、にしき、あは大盡、文五郎、扇や夕きり、梅幸、ふしやいざへもん、長十郎、五明樓、吾山羽左衛門〇中村座市むら座菅原の張合狂言兩座共甲乙なく評はんよく大出來也〇七月七日より**河原崎座**「花紅葉對補襠(はなもみじついのうちかけ)」(鏡山白石の仕組狂言)宇治の常悅、局岩ふし、大黑屋惣六、海老藏、大姬、尾上召仕おはつ、宮城野妹しのぶ、条三郎、娍さゐだ、與茂作女房おさよ、團之助、奴伊達平、大野屋熊吉、竹三郎、たいこ持五丁、奥女中繪合、歌助、同松風、通人其廓、猿三郎、段七弟臺藏、醫師寒竹、大次郎、段七下部丹藏、奥女中浮舟、冠五郎、同舍人木、貸本や重兵衛、三吉、吉野屋の娘お芳、歌柳、綾瀨主水之助、菊之助、今井谷五郎後鳴野四郎次郎、杵島主稅、嶋田屋三郎兵衛、九藏、茶屋廻りゐびのざこ平、仲居おさき、奥女中みさほ、三すし、同若菜、新造宮柴、米次郎、こし元深雪、仲居おます、政次郎、同お花、奥女中呉羽、三花、同關屋、新造宮里、しげ松、唐崎松兵衛、とせう

太夫、國五郎、奥女中竹川、仲居おやま、辰之助、組頭佐次兵衛、通人遊子、佐十郎、牛嶋圖書、百姓與茂作、七右衛門、庵崎求馬、茶屋廻り三吉、猿藏、吉のや伊平次、ぜげん勘九郎、奥山中老、おのへ、けいせい宮城の、惣六女房おたま、菊次郎、志賀段七後鵜の羽九郎兵衛、庄や七郎兵衛、鞠か瀬秋夜、彦三郎、森岡左馬之助、長十郎、上るり竹本戸和太夫、鶴澤市作連中相勤右狂言大に評よし○九月八日より**中村座**「實成金菊月」時代世界「播州皿屋鋪」世話御色「盟結艶立額」淺山將監、こし元おきく、十作弟彌七、馬士胴八、大見や三四郎、小團次、後室漣御前、奥女中瀧川、新車、細川左門之助、下部しげ平、小三の兄宵寐の仁三、新七、細川巳之助、井筒釆女之助、たいこ持錦八、高麗藏、浦浪隼人、鬼瓦の勘六、家主太郎左衛門、廣五郎、相澤數馬、大こ持川柳銀藏、鈍次郎、杉原十平次、家主女房おふた、音八、きのしや長介、虎藏、十作一子重松、吉彌、茶や廻り吉、幸藏、仁木兵部之亮、千原佐次太夫、中の屋喜平、男女藏、いしや安宅、五人組李右衛門、吾右衛門、俄の世話役おはや國、森五郎、熊本典膳、代官左司馬、宗兵衛、隼人娘松か枝、けいしやおしま、芝鶴、侍女槇の戸、秋田屋女房おいね、佳調、妓野きく、仲居おせん、仙之助、妓はぎの、げいしやおふち、まつ三、同おてう、妓露の、蝶之助、同玉くつげ、いしやおふく、福之丞、大内の息女花園姫、こし元玉の井、げいしやおはな、玉三郎、淺山忠太、山名宗全、黒澤軍藏、市藏、勝元愛妾操の方後回國修行者、松月尼、おきく妹お峯、げいしや額の小三、しうか、淺山鐵山、植木や十作實は細川藩船頭三平、高岡藏人、町抱金五郎實は細川家中金谷金五郎、曾根崎主膳、團十郎、入間多門之介、壽三郎、第貳番め大切淨るり廓の俄の替りめも張と意氣地中の町「對色緣長夜」小三しうか金五郎團十郎仁和賀の場清元連中長うたはやし連中、常磐津文字太夫、岸澤式作連中相勤上るり、豐竹壽和太夫、鶴澤傳之助連中相勤○第一番め皿屋舖五立目鐵山おきくの預りし皿一枚紛失故忠太に言つけ庭の井戸に結付操うおし水を呑せ詮義す白狀せざる故に井戸え提切にす直に幽靈になり鐵山惱す處大出來同返しだんまり鐵山團十郎、將監とおきくの靈、小團次、松月尼、しうか、六立め十作內おきくの怪談大出來二ばん目小三金五郎大に評よく大入大々當り○九月九日より**市村座**「月雪花蒔繪見臺」「祇園祭禮信

仰記」「鬮取二代勝負附」「姫小松子日遊」山口九郎次郎實は武智光秀、下八新作、行司庄九郎、有王丸、三十郎、めのと侍從、秋津島女房おさと、几帳のまへ、花友、六角要之助、橘藏、大膳弟鬼藤太、火車小次兵衛、なめらの兵、文五郎、上かんや小文次、宇十郎、六角伊達五郎、どすの木藏、かけのとう六、䟽太郎、小西是齋、柴田權六、小山有心、三津五郎、松永大膳久秀、加藤虎之助、鬼か嶽洞右衛門、龜王丸、吉三郎、秋つしま一子國松、九郎右衛門、足利照若丸、小辨由次郎、磯浪娘かるも姫、三之助、同侍女まかき、友之助、けいせい大淀、にしき、大佛左仲太、さらほくの江吉、半十郎、深山の木藏、䟽右衛門、長岡與一郎、友松、小田御次丸、源平、信盛娘磯浪、是齋女房おさち、小督の局小六、宅間信盛、十河運平、眞木や次郎九郎、友右衛門、狩野の雪姫、せさい娘おつゆ、龜王女房お安、梅幸、木下藤吉久吉、佐枝政右衛門、高倉隼人、俊寛僧都、長十郎、小田上總之介、春永狩野の介直信、秋津島國右衛門、羽左衛門、何も大出來○九月廿三日より「往昔記麗襤褸錦」加村宇田右衛門、三十郎、甚六妹お六、花友、春藤新七、芝雀、須藤六郎右衛門、文五郎、中間與五郎、宇十郎其外大勢高市武右衛門、吉三郎、相の山おすき、武次郎、同お玉、榮枝、娵おしけ、友之助、春藤助太夫、半十郎、武右衛門、悴庄之助、源平、召仕お卷、小六、彦坂甚六、友右衛門、次郎左衛門女房おはる、梅幸、春藤次郎左衛門、若黨伴兵衛、長十郎、同左兵衛、羽左衛門、第二ばん目大切所作事、增補二人わん久、けいせい松山、梅幸、面賣高吉、源平、百姓田作、䟽太郎、あつま、花友、碗久、長十郎、與五郎、羽左衛門大に評よし、信迎記中評にて非人敵討と替りし也○九月七日より**河原崎座**「繪本合法衢」左枝大學之助、立場大平次、海老藏、孫七女房およね、福屋の仲居おぬい、条三郎、佐五右衛門女房おはた、太平次、女房おみつ、團之助、道具屋與兵衛、小島林平、瀬左衛門、下部妻平、竹三郎、松浦玄馬、奴八内、歌助、紫崎喜惣次、猿三郎、三上郷兵衛、飛脚雁八、大次郎、そうり取團平、玄蕃妹あざみ、冠五郎、水茶や万兵衛、扇藏、賤の女おりう、歌柳、信樂主税之助、菊之助、高瀬左衛門、鏡山大守俊行、九藏、左枝嫡子鯉丸、おかん平、福屋悴升吉、才三郎、佐五右衛門悴里松、里の子目松、茂々太郎、賤の女おいな、やまと、同おたの、梅太、同おはた、朝次

郎、奴いなは、政次郎、同野分、三花、左枝の妾おすま、米次郎、同おゆみ、しけ松、守山軍藏、山伏松法印、國五郎、乳人しがらみ、賤の女おやま、辰之助、松田幸兵衛、佐十郎、關口多九郎、篠山下部權內、七右衛門、犬槻角太郎、猿藏、篠山官兵衛、百姓佐五右衛門、奥山彌十郎、女房早月、道具や娘おかめ、菊次郎、高橋彌十郎後に修行者合法、問屋人足孫七、彦三郎、大領の嫡子梅千代、長十郎、新十八番之內虎之卷役者鬼一、海老藏、草り取虎藏實は源牛若丸、粂三郎、笠原湛海、奥山奴陸平、三藏、妼きゝやう、三すじ其外大せい奴海六、國五郎、吉岡息女皆鶴姬、菊次郎、奴智惠內實は鬼三太清住、彦三郎第二番日大切

祖父　市川門之助
父　市川男女藏
兒　市川門之助
「追善兒軍記」常磐津文字太夫淨るり けいせいあこや猿藏 にて此度初而相勤是迄は義太夫なり ちゝぶの庄司重忠、九藏、岩永郎等兵藤、奥山、半澤六郎成淸、猿三郎、岩永郎等軍藤、三藏、ちゝぶの郎等右源太、三吉、同左源太、市之助、岩永郎等權藤、國五郎、同伴藤、七右衛門、遊君あこや、猿藏、岩永左衛門宗連、海老藏

○合法辻大に評よし此度白猿新十八番之內虎之卷に鬼一法眼海老藏こしらへ万端能かゝりにて羽團扇も椶櫚の葉を羽うちはにせし好みに是等の思ひ付又外俳優の不及所奇々妙々又追善兒軍記是迄義太夫にて相勤來りし所祖父門之助父兒の追善として常磐津文字太夫相勤何れも大出來海老藏岩永男女藏の身振り大出來也

○顏見世十一月七日より中村座「雪花吉高木蘇山」宮本友次郎後宮本無三四、吉岡太郎右衛門、淵邊友光實は河內の塚本狐後仕丁又五郎實は塚本狐、小團次、けいせい櫻木太夫、楠生駒姬實和泉の千枝狐、辨の內侍實は千枝狐、粂三郎、楠帶刀正行、若徒與五郎、新七、花守官次郎、仕丁又五郎實恩地左近、竹三郎、熊澤甚之丞、村山玄藏、廣五郎、松原軍藏、下部段平、音八、車田源太兵衛、音右衛門、ほうらいや才兵衛、宮城忠助、らい助、白倉傳之丞、大窓進之助、米平、木曾山の牧童實は熊の精、花助、甲利輝元、森田勘彌、四代目坂東三津五郎改名、舞子龜笹、歌柳、粟田久右衛門、森五郎、腰元吳竹、仲居おつる、芝鶴、同おしげ、しげ松、同おせん、仙之助、妼ゑ谷、米次郎、同橋立、仲居おかつ、辰之助、宇佐美主水、白倉妻岡の谷、佐十郎、

百濟典膳、福田林左衞門、歌助、葉末姫、甲利輝太郎、玉三郎、白倉傳右衞門、森本儀太夫、ひよつくり兵藏、市藏、宮本武右衞門、下男七助、尾田行長、男女藏、白倉娘糸萩、加藤奥方淸瀧、女修行者照月實は伊賀守妹菊井、當今后辨の內侍、菊次郎、加藤虎之助正淸、笠原隨翁、佐々木宮吾後に一刀軒嚴柳、九字菱の薪吉實は恩地の太郎光國、杉本佐兵衞入道實は勘解由左衞門宗利、彥三郎、岩城主稅之助、壽三郎、第二番め大切淨るり「花際吉埜䌽」塚本狐、小園次　正つら、新七　內侍、菊次郎　千枝狐、粂三郎　又五郎、竹三郎　杉本坊、彥三郎　常磐津文字太夫、小文字太夫　三弦　岸澤式佐同文左衞門、同文左衞門連中豐竹壽和太夫、竹本雀飼太夫、鶴澤傳之助、同左市相勤　狂言作者　瀨川如皐　藤本吉兵衞改名す　市川和助、豐島新造、梅田敬輔、村冠二、梅森春助○第壹番目嚴柳しま三幕目だんまり小園次、塚本狐、粂三郎、千枝きつね、しのつか、彥三郎、賴員、是大切上るり發端なりいづれも評よし○十一月七日より　市村座「碁太平記達升形」高安左衞門實は河內の塚本狐、楠原普傳實は森唐意軒、入間の與茂吉、鳶の者仁三、九藏、甚內娘宮城の、宗六女房おくら、辨の內侍、女いしや香川武藏、花友、勅使辨の兼成實は立波五郎、楠左馬頭正よし、髮ゆひ三吉、高麗藏、粟島甲斐之介、下部佐五平、上かんや喜三郎、芝雀、高安主計之助、篠塚六郎、人形うり辨藏、橘藏、岩淵平馬、奴つた八、あんま三九實は津輕官太衞、文五郎、岩浪花の丞、安達丈助、四五六の七郎兵衞、鴰太郎、高舘大學、ぜげん勘九郎、鴰右衞門、千草姬めのとさゝ浪、愛三郎、御曹子義綱、竹松、新田よし丸、吉五郎、高舘市正、由良新左衞門、森田勘彌　四代目坂東三つ五郎此度十二代目勘彌に改名　宇治兵部之助、下部木曾兵衞實は七草四郎、吉三郎、武隈次郎、藏人一子常丸、九郎右衞門、楠四郎丸、幸藏、舍人秀丸、吉彌　其外大ぜい　おしやれ、お玉、玉次、同お松、妼紅梅、まつ三、同梅がゑ、おしやれおてう、てう之助、同おいね、妼松しま、かてう、同朝なぎ、おしやれおふく、福之丞、船頭嶋藏實は熊本勇八、非人とう六、宗兵衞、千種姬侍女水瀨兵部女房おせつ、りとう、岩手丸、馬五郎、福島八郎、友松、甚內女房島崎、藏人女房浮島、吉田屋お六、小六、赤松律師則祐、志賀臺七、大ふくや手代久六、友右衞門、辨の內侍實は千枝狐、宮城の妹しのぶ、佐五兵衞女房おりき、渡し守お秀、しうか、高舘陸奧之助、志賀谷五郎、松江藏人、大黑や惣六、團十郎、第貳ばん目大切淨るり　御好にとりあへず

「咲升花雪の山姥」山かつ三田の仕吉三郎、怪童丸、しうか、山姥、團十郎、常磐津文字太夫、小文字太夫、岸澤式佐、同文左衞門初上るり「雪三吉牡丹花桂」と云外題にて吉野拾遺之處山姥に替りしと也狂言作者櫻田治助、松嶋半二、同てうふ、福森久助、松島鶴二、村岡幸次○第一番め白石はなし御色大に評よし○十一月七日より河原崎座「小田雪貢賜」森のらん丸、尾西彌十郎、講釋師湖水寒龍實は武智左馬之助光よし、眞柴大領久吉、三十郎、矢代條助春則、植木賣寺嶋の松、小田三七信孝、松助、園生の局、淨るり師竹三、紅梅、松下娘千束、團之助、蜜柑うり源、源平、淺山多三、五文字の點者茂林庵文福、宇十郎、花守左近之助、大神樂丸一、紀之助、釻次郎、連歌師紹巴、福岡平馬、大次郎、狸長や家主ほん作、山りやうし峰藏、三藏、鹿門田五郎、船頭浪六、冠五郎、小奴ゑひ平、あかん平、本能寺兒菊若、尾上朝次郎、同升若、才三郎、今川嫡子花若、花助、小田三法師丸、由次郎、本能寺日和上人、觀別當、馬場勇介、十藏、中尾彌太郎、姉呉竹、蜑もしほ、政次郎、同千ひろ、春忠妹千本姫、三之助、蘭丸妹若な、矢大臣門やうしやおゆみ、三すし、宅間三郎信とし、陣中の膏藥うり赤服の黑平、半十郎、山内九郎次郎、竹本入道太掉、國五郎、中尾彌次郎、御伽新曾呂利新作、猿三郎、光秀妹きゝやう、船宿市川やおいろ、佳好、山りうし善六、諏訪飛騨守、七右衞門、武智十次郎、熊手賣、福嶋の市、鬼兒島彌太郎、猿藏、安田作兵衞、山鯨屋鹿六、宅門玄蕃、奥山光秀、妻さつき、牙藏、女房お谷實は内藏之介妻梅の戸、祇園の梶女、女歌舞妓お國、梅幸、小田上總之介、春長、六十六部快了實は小早川高景、小野のお通、男歌舞妓名古屋三左衞門、柴田修理之介勝家、長十郎、佐藤虎之助、鳶小目玉三吉、若太夫、長十郎「源平布引瀧」三の切瀬の尾十郎兼氏、海老藏、百姓九郎助、三十郎、九郎助娘小まん、團之助、同女房、小よし、幸勇、庄や杢兵衞、七藏、小万一子太郎吉、由次郎、葵御せん、佳好、矢橋仁惣太、奥山、齋藤別當實盛、長十郎、第二番目大切上るり「積戀雪關扉」關守關兵衞實は大伴黑主、小町姫、墨染櫻の精、梅幸、良峰の宗貞、長十郎常磐津文字太夫、岸澤式佐連中相勤上るり竹本戸和太夫、同松江太夫、鶴澤市作、相勤狂言作者篠田瑳助、梅澤宗六、紀文左衞門、勝見調三、河竹新七○第一番目返し義貞、ゑび藏、白梅、梅幸、高景、長十

郎無言のたち廻り三座一の大當り是より本能寺尼ヶ崎布引大切關の戸上るり迄大出來三座顔見世狂言大入大繁昌日數打切舞納ける目出たし〳〵

去る嘉永二酉どし秋市村座において四代目中村歌右衛門、名殘狂言相勤當春大坂表におゐて口上左之通り

高ふはムり升れど是より口上を以申上升る扨今更申上升るも事新らしうはムり升れど私事は御江戸に於て三座の振付を勤升たる藤間勘十郎が忰藤太郎後に龜三郎と改め三代目中村歌右衛門の門人と相成升て御當地へ所々の舞臺を相勤また鶴助と改め文政六年には又〳〵芝翫と相改いよ〳〵出精致升たる處未熟の私を厚き御贔負に預り升て追々の御取立莫大の御恩は申計りもなく難有此上は何れへも參らず生涯浪華にて朽果升る存寄でムり升たが右にも申上升る通り一體御江戸出生の事故に當時芝翫もゑろふ出世したさうな古郷の事一度は下つても宜らうと御江戸の御贔負様よりたび〳〵の御誘ひ是又默止がたなく存升て先頃暫くの御名殘りを惜み御江戸へ下り中むら座へ落付御目見へ致升たる所殊の外御意に叶ひ毎度大入大繁昌仕身に餘り冥加至極に存奉り其御情にひかされうか〳〵年月を通し升たが又御當地の御ひゐき様より達而歸れ〳〵との御意故止事を不得立歸り其節師匠梅玉より歌右衛門の名を讓り受相も替らぬ御評判有がたくはムり升れど御江戸にても他ならず御取立の御禮は勿論歌右衛門名前相續の御披露かた〴〵是非一と度はと心がけまた〳〵御江戸へ下り升ても何に替らぬ御厚恩誠には忰福助の未熟なるをも私めを御攝の餘りに御取立實に心魂に徹し難有然る所又此度御當地より達ての御迎ひ是も否とは申されず御江戸御贔負の御方様へ三ヶ年の御暇を頂き罷上り升た義にムり升る何とやらん水臭き申様との御叱りもムり升ふなれど私のみ歟忰迄厚き御恩の事なれば三か年の後は又一と度御江戸へ下りを仕一世一代の御禮を申上たうムり升れば此段はかね〴〵御聞濟至下され升る樣願奉り升る彌御聞濟被下升ふなれば三とせの後は相違なく御江戸へ罷下り御禮狂言相勤升る樣にムり升れば御序の折柄は吾妻の御贔負様方へより〳〵御噂御物語りの

程是又願上奉り升るやふムり升る

嘉永三戌春狂言　道頓堀　聚金堂正

花江都歌舞妓年代記續編卷の廿五

◎嘉永四辛亥年

○正月十二日より中村座「木下曾我惠澤路（きのしたそがめぐみのまざこち）」中納言氏定實は石川五右衛門、浪人眞砂路主計實は五右衛門、小田春永、菓子賣もれ〳〵の與嘉郎、八幡三郎行氏、小團次、義照御臺あやの臺、傾せい瀧川後五右衛門女房おたき、矢取娘おやゝま、曾我五郎時宗、粂三郎、細川修理之助政勝、西國順禮紀の作り下澤村源之助（初の市川清十郎）、足利義種公、星合丹下、新七、足利義照公、逸ノ彌藤次、小倉庵の長吉、曾我十郎祐成、竹三郎、田舍大盡平の平、平五右衛門手下三上百助、廣五郎、同眼六、へかの七藏、音八、坂ノ上中將諸白、足利臣無口眞主、女之助、らい助、同尤道理之助、五右衛門、手下片田の小すゞめ、米平、同矢橋帆平、猫間中將兒呂直、駒右衛門、玉淵利金太、石川手下瀬田橋藏、千代藏、鼬川少將天成、落合源吾、イ藏、五右衛門手下根ッ子の岩、小半次、其外手下大勢、蠶玉賣卯之松、森田又市、五右衛門一子五郎市、花助、壬生村次右衛門、岩木兵部、工藤左

衛門、勘彌、嶋原舞子、小きく、歌柳、犀ヶ崖のわつぱ、猿之助、百松、同友市、次郎吉、手下深山、霧藏、ぜにや六兵衛、森五郎、ほうらいや仲居おつる、奥女中松ヶ枝、芝鶴、友達娘おしけ、妼紅梅、しげ松、同吳竹、仲居おだい、にしき、同おせん、妼初音、仙之助、同道芝、仲居おかつ、三花、友達娘およね、米次郎、奥女中しがらみ、蓬萊屋女房お花、辰之助、同亭主米彥、五右衛門手下足柄金藏、佐十郎、同小鮒源五郎、大垣三郎、歌助、來作娘おそま、けいせい喜瀨川、玉三郎、蓮の葉與六實は仁木太郎、曾我團三郎、森田又三郎坂東みの助改名盜賊犀ヶ崖來作、三好長慶、三二五郎兵衛、梶原平三景時、市藏、けいせい芙蓉、祇園のおりつ、次右衛門娘小冬、大神樂太夫、花之丞、和田舞鶴姬、菊治郎、此下藤吉郎後直柴久吉、岩木當馬之丞、近江小藤太、植木屋喜の助、惡七兵衛景きよ、彥三郎、蒲冠者範賴、壽三郎、第貳ばんめ淨るり大和〳〵笑ふ惠方より汲乘船の拍子の音羽高嶋打連れて「彩一座劇の福攝」八わたの三郎、もれ〳〵うり、小團次、そがの五郎、やどり女、粂三郎、曾我十郎、小倉庵、竹三郎、工藤左衛門、勘彌、舞つる大神樂、菊次郎、小藤太、植木賣、彥三郎、常磐津豐後大掾文字太夫改名小文字太夫、岸澤式佐、同三藏、同文左衛門相勤〇當狂言木下蔭狹間合戰、釜淵二級巴、樓門五三桐右取交て仕組大序犀ノ崖二幕目女五右衛門、女藤吉出合立廻り大に評よく三幕目壬生村四まくめ御殿場五右衛門宙のり當馬之丞內、五右衛門內七幕目、大達八まく目釜煎大切上るり迄大出來大々當り釜煎の五右衛門江戸にて是迄興行なし珍らしく古今の大當り小團次の名是より大に發せり正月より三月迄引續興行す〇正月十一日より市村座「蓬萊山世嗣曾我」第二番目「黃八丈三筋竪縞」曾我十郎祐成、金簪の甚五郎、市の次郎祐とし、市村竹之丞十二代目羽左衛門改曾我五郎時宗、梅澤與次兵衛、大藤內成景、九藏、そがの片貝、げいしや小梅、月小夜妹十六夜、花友、鬼王新左衛門、城木屋後見藤兵衛、大藤內女房さかき、秩父庄司重忠、芝雀、下部橋平實は小彌太、三文字屋孫三郎、橋藏、海野太郎、小山重左衛門、箱根閉坊、佃屋喜藏、文五郎、梶原源太、城木や手代丈八、[illegible]太郎、より朝息女大姬、でつち長下り中村歌女之丞、あの四郎、古鐵買權兵衛、虎五郎、小林朝日奈、信樂勘十郎、千葉之助、吉三郎、工藤犬坊丸、幸藏、景淸娘人丸、吉彌、茶屋女おはる、工藤妼岬 薪屋娘おまき、登美三、

梶原平次、百足屋金兵衛、宗兵衛、梶原平三、城木屋後家おかん、𥿻右衛門、"かけ走米やのおよね、玉屋娘おまき、鯉とう、佐々木小太郎、上かんや茂助、城木やでつち、友松、鬼王女房月小夜、城木屋下女お秀、曾我滿江、小六、曾我團三郎、疊屋伊八、八幡三郎行氏、高麗藏、近江小藤太成家、源兵衛堀の源兵衛、友右衛門、大磯虎御ぜん、大藤内娘乙女、金笄のおよし、城木屋娘おこま、しうか、工藤左衛門祐經、仁田四郎忠常、八重𢢫の才三、鬼門の喜兵衛、惡七兵衛景淸、團十郎、御所五郎丸、吉五郎、萬壽君賴家公十三代目市村羽左衛門（九郎左衛門改名す）第二番目序幕（開帳の當年にとりあへず）「江の島奉納見臺」甚五郎竹之丞、およし、しうか、小むめ、花友、第三團十郎富本豐前掾、同齋宮、三弦名見崎友治、同安治連中相勤

○此度十二代目市村羽左衛門竹之丞と改名悴九郎右衛門十三代目市村羽左衛門改名仕相續御披露之口上八代目市川團十郎於舞臺相勤

高ふはござり升れど御免の蒙り升て是より口上をもつて申上奉り升す先もち升て當芝居御ひゐきとござり升て斯賑々敷御光來なし被下升る段座元市村羽左衛門幷若太夫を初として惣座中一統いか計りか冥加至極有難き仕合に奉存升る隨ひ升て申上升るは是にひかへ居られ升る市村羽左衛門義御存遊し升る通り一昨年中の大病以後今以て本復仕り兼升る故醫療を差加へ升て種々心をくだき升れ共とかくはか〴〵敷ござり升ぬ折柄去る御ひゐき樣より仰下され升るには最早若太夫も成人致たれば座元名前を讓りわたし改名致したならばぞんじがけなく全快を致に相違あるまいが此義はいかゞ有うと再應のお進めゆへ是にござる中村勘三郎どのを初め一家共へ相談の仕升たる所一統大きに悦び升て早速代がわりの相談決着仕升て恐ながら御公儀樣え願出跡目相續被仰付若太夫九郎右衛門え十三代目市村羽左衛門の名跡相讓り同名は市村竹之丞と改名仕只今より無病息才に相成升て是迄の未進に格別出情の仕相勤升る樣にござり升る數代御取立の座元の名跡且は御當座の竹之丞相替りませず幾久敷御贔負御取立之程偏に希上奉升る

當芝居之義は寛永十一戌年御高免の蒙り初て上堺町に置升て太鼓櫓を上げ升てより二百十七年來たへず打續興行仕此度十三代目世繼の壽にござり升

れば先例之通元祖宇左衛門寛文二寅年街道下り文珠猿と申升る狂言を御覧に入御評判に預り升たるゆへ其後享保十八丑とし百年の壽の節相勤又天明三卯年百五十年の壽の節も相勤升たる古來の狂言へ新規所作事を差加ゐ御覧に入升る樣にござり升る是迄も古代の狂言故中々御意に叶升ふ樣はござり升せぬ共代々讓り來り升たる家の狂言にござり升れば古雅なるも御慰とぞんじ一座罷出御覧に入奉り升る樣にござり升る自由ながら竹之丞しうか高麗藏儀は支度にかゝらせ升れば御免の蒙り中座仕せ升る樣にござり升る先は羽左衛門竹之丞改名の御披露隅から角までづいと願上奉り升る

○扨はや別升て申上升るは是に扣へられまする勘三郎どのまつた森田勘彌義も元祖より內緣ござり升て壽の砌は萬端立合心添仕升て座席につらなり升る先例ござり升れば此度も罷出とも〴〵御禮申上升る筈の所舊冬三津五郎義血緣にござり升るゆへ十代目森田勘彌と改名仕升たれ共隣町に絕目ござり升る故あれに扣へ升たる悴簑助若太夫又三郎と改名の仕り升たるゆへお目通り仕十三代目市村羽左衛門相替りませず御取立之程勘三郎とも〴〵希上奉升る

○又あれに扣へ升る常磐津文字太夫義にござり升る是迄も先祖宮古路豐後掾より數代御當地御取立に預り當文字太夫迄連綿と門弟繁昌仕升るもまつたく御ひゐきづよき大江戶の御惠といかばかり有がたき仕合存奉り升る折柄御ひゐき樣のおとりもちを持升て元祖名前に受領仕常磐津豐後大掾と改名仕り升てござり升る是又御當地豐後節の元祖の名跡にござり升れば幾久しう御ひゐき御取立の程願上奉り升る

○ついでながら申上升るは三座壽狂言の口上は二代目市川團十郎より相初め升ていづれの座に勤居り升ても罷出まして申上升るが吉例にござり升るゆへ誠に鳥の中なる蝙蝠の羽ぶしもにぶき身ながらも團十郞の名跡相續仕り升る規摸かつは三千餘町の御餘光といか計りか有がたき仕合奉存升るいよ〳〵此所壽狂言初り左樣御覧下さり升ふ

江戶大芝居根元歌舞妓續狂言
始引幕道具建切落者元祖宇左

衛門以工夫始之
寛永十一戌歳ョリ嘉永四亥年
迄二百十八歳相續右寛文二寅
年始勤其後享保十八丑年相勤
亦天明三卯年百五十年壽相勤
候
此度十三代目相續仕候依之古
來之狂言幷所作日數十日之間
相勤奉入御覽候尤惣座中罷出
座附相勤候以上

世　壽　品

壽狂言街道下前文略之

ワキ
一幸ひ是に舞扇の候ィ・御舞候へ

シテ
一イサ出立も近ふ候得ば旅立を祝ひの爲太郎冠者が望海道下の案内ヲ小歌にふして申そう

ワキ
一所望〳〵　小つゞみ松風の物音ヲ打　シテ柱の角に居す

シテ
一おもしろの海道下りや

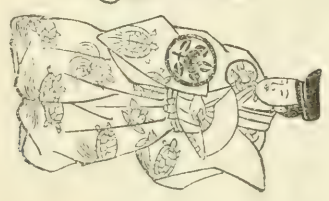
ハヤ笛ハヤツヾミ所作事傳授

海道下り章唄

「何ンと語るも盡せし加茂川白川うち渡り野路の篠原や霞こむ木々に聲ある鳥本哉摺針峠の細道を雨は降ねど守山や今宵は爰に草枕假寐の夢もやがて醒が井馬場峠は神さむし伊吹おろし不破の關や戸ざゝぬ御代こそめでたき

ワキツレ
「ヨイヤ〳〵ロ　シテ「早夜も明て候海道下り用意候へ

△●常磐津豐後大掾（文字太夫改）、△●常磐津小文字太夫、△●岸澤式佐、△●同巳佐吉、□○杵屋六左衛門、□○杵屋三良助、○□△■松永鐵五郎、○□■▲岡安喜代松、○▲吉住小作、○□■▲福原門左衛門、□○望月太十郎、□○大西德藏、▲○福原染吉、■△杵屋勝三郎、▲△■杵屋和八、▲△杵屋小三郎、▲■杵屋彌十郎、□△吾妻榮藏、▲■坂田仙四郎、○住田勝次郎、△□福原百十郎、■▲○□△梅屋平吉、■▲○□△福原百之助、ふり付花柳壽助、ふり付花柳勝次郎相勤

○當狂言第壹番目五立目對面の場役者揃第貳番目梅の由兵衛とお駒才三の組合狂言いづれも評よく取わけ壽狂言街道下り見物左衛門予見物せしが街道下り古雅にて面白し見物左衛門は此度あらたに仕組せしや大に評判よし右番組の內雅物語は興行なしと云々壽狂言を鳥居清滿畫にて摺物にものして江戸中へ配りしなり右狂言もよかりしが中村座釜煎五右衛門大當りにて不入なり○市村竹之丞

紋處角切角に鶴の丸なり此紋處は四代目市村竹之丞（後出家して淺草本所五ッ目竹之丞寺中興也）紋所なり故に此度紋所に用ひしなるべし野老三座記に（貞享元年役者評判記）市川若太夫市むら長太郎同紋なり後元祿年間に至り鶴を取りて橘に改しなり座本考にくわしく記す

○正月十一日より河原崎座「伊達競高評鞘當（だてくらべうわさのさやあて）」仁木彈正直則、同妹八汐、同弟不破伴左衛門、木場七左衛門、海老藏、名古屋下部しか藏、見世物師羽生の金五郎、山名奥方紫御前、渡邊外記左衛門、三十郎、山中鹿之助、船宿浮世戸平、渡邊民部、松助、斯波左京妻沖の井、さゝら三八娘お澤、三浦新造、薄雲團之助、加村嬌子かつらの介、紅葉豆ふや三吉、源平家主杢郎兵衞、修驗者奇寂院、宇十郎、笹野才藏、船頭もくづの三、銑次郎、黑澤官藏、呉服屋勘六、大次郎、小間物屋六兵衞、男達雷五郎、七三藏、同どん八、鳶嘉藤次、冠五郎、石塚若徒權平、たいこ持五郎介、梅八、足利鶴千代、茶屋廻り鰕ざこの十、あかん平、鳶の者音、菊之助、政岡一子千松、由次郎、奥女中淺香、仲居おこう、幸勇、初瀨寺住僧轟坊、湯や番頭五助、岩五郎、綠川要藏、花賣ばゝア、おしほ、十藏妼白川、仲居おまき、政治郎妼しのぶ、新造おた卷、三之助、同三わ里、奥女中錦木、三すじ、同宿雲念、男達夕浪篠藏、半十郎、中間さゝら三八、やりておつめ、國五郎、男達村雲、黑助、縫はくや秀次郎、猿三郎、女之助妻松しま、仲の町大野やお松、かこう、大江國幸鬼連、男達亦右衞門、七右衞門、荒獅子男之助、きぬ川谷藏、猿藏、石塚玄蕃、道益妻小槇、山名宗全持豐、奥山妼岩はし後上林けいせい葛城、名古屋下女おくに、音羽やのお梅、三浦の高尾、梅幸、名古屋山三、乳人政岡、細川勝元、足利左金吾頼兼、長十郎、大江鰭子、額五郎、將監弟子土佐の光とし（若太夫）長十郎、淨るり竹本戸和太夫、同戸茂太夫、三弦鶴澤市作相勤○第一番目伊達競貳番目不破名古屋何れも大出來大當り○二月廿一日より市村座（表と裏を引かへて二十二幕）「假名手本忠臣藏（かなでほんちうしんぐら）」大星由良之助、一文字屋才兵衞、上杉左門之亮、竹之丞、高の武藏守師直、加古川本藏、不破數右衞門、石堂右馬之丞、九藏、かほよ御前、小浪、花友、原鄉右衞門、吉田の兼好法師、芝雀、大ほし力彌、桃井家來曾根求馬、橘藏、鷺坂伴内、めつほう彌八、山名次郎左衞門、文五郎、せげん勘六、下女おりん、煮賣屋三ぶ六、毓太郎、山名屋新造袖の香、女之丞、梶川與惣兵

衛、種ケしま六、虎五郎、鹽谷爲若丸、竹松、鹽谷判官高貞、斧定九郎、大わし文吾、吉三郎、大星大三郎、幸藏、山名屋およし、吉彌、鹽谷妼道芝、かてう、同早わらひ、福之丞、同櫻の、登美三、勝田新三郎、狸の角兵衛、宗兵衛、野寺十內、飛脚早助、百姓與一兵衛、猇右衛門、磯田十郎妹眞弓、りとう、管の谷半之丞、でつち伊吾、友松、大石女房おいし、おかる母おかや、小六、千崎彌五郎、奴可內、足利直義公、高麗藏、斧九太夫、山名屋四郎兵衛、友右衛門、こし元おかる、山名屋浦里、一力女房お秀、しうか、桃井若狹之助、鎊閘宅兵衛實寺岡平右衛門、早野勘平、春日屋時次郎實は佐藤與茂七、天川屋儀平、團十郎、同悴よし松、吉五郎、浦里禿みどり、羽左衛門、第三段目裏淨瑠理（道行）旅路の藪入おかる、しうか、かん平、團十郎、清元連中相勤第八段目裏（山名屋浦里春日屋時次郎）「明烏花濡衣」四郎兵衛、友右衛門、かむろ、吉彌、うら里、しうか、時次郎、團十郎、禿、羽左衛門、上るり 清元太兵衛連中第二番目所作事（年毎にふへる女夫や雛の酒）「古今ひなの段幕」內裡雛、芝雀、后、花友、五人囃し、竹之丞、吉三郎、九藏、しうか、團十郎、布さらし竹之丞、賤の女、しうか、歌女之丞、友まつ、常磐津豊後大掾岸澤式佐、富本齋宮連中相勤三弦富本豊柳、名見崎八五郎、いづれも評よく大々當り ○淨るり明烏花濡衣清元太兵衛

「しら雪のつもるも戀にたくらべてとけぬ思ひを浦里がどうしたゑんでかのひとにあふたしよてからかわいさが身にしみ〴〵とほれぬいてあけてくやしきびんの髮なであけ〳〵（時次郎團十郎）「浦里モヲたれもさし合はないかや（浦里しうか）「見世が出たれば今のまはたれも來る事ではござんせぬわいナア（團十郎）「ヤレヤレ此廣ひ二階に身ひとつの置所ないといふはアア因果な身になつたことじやナア（しうか）「サア此やうにせきせかれさぞ氣づまりでござんせう夫をこらへて下さんすもみんな私がかわいと思ふてのお心ざし嬉しござんすかたじけないわいナア（上るり）「いだきしむればイヤおれゆへと引しめて物をも言ずしめあいてあとは泪にくれけるが（團十郎）「いつまでこうして居たとてもかぎりもなき二人りが中長居する程そなたの身づまり此程だん〳〵はなす通りカノお人えいろ〳〵と手を廻し言いれても叶わぬ望みと願書迄もつき戻されし身のほいなさ

上るり
「そなたもともにといひたいがいとしそなたを手
にかけてどうなるものぞながらへて我なき跡で一
ツぺんの回向を賴むさらばやと言すてたつを「取
りつひてあんまりむごひ情なや今宵はなれてこな
さんのまめで居さんす其身ならまた逢ふことのあ
らふかとたのしむ事も有べきが（文句此内しうか團十郎二人り情合の仕内大出來）
「兼て二人りが取かわすきせうに二人り手を取も
ろ共と「なぜにいふては下さんせぬころしておい
て行んせと男のひざにすがりつき身をふるわして
泣ゐたる「やりてのかやが聲として　やりてかや文五郎「子供や
みどりやア誰もゐなひのかヲ、浦里さん　しうか「ア
イおかやどん何ンの用でござんすへ　文五郎「外の用
でもござんせぬが夕べから居つゞけの客人ありや
アどこのおかたでござんすへ　しうか「サアどこやら
の御子息さんじやと言ことでござんす　文五郎「イヱ
イヱそうは彼ごせぬ憶にせかれたアノ時次郎サ
ア旦那さんがよんでじやほどにサアござんせ
しうか「コレおかやどんどふぞゆるして下さんせ
山名や四郎兵衛友右衛門「ヱ、まだるい〳〵そんな廿日できくや
つじやアねへサアおれと一所にうしやアがれト

上るり
「罪もむくひも後の世もしらがあたまの米かみも
張ゝさる計りのやらはら立引立てこそをりにける
「跡に大勢男共屏風の内の時次郎むにむさんに引
出し踏やらぶつやらたゝくやら直に表へつき出し
門の戸はたとしめにけり
トやりて文五郎若ィ衆多勢團十郎を引出し打擲
して外へ押し出し門の戸を〆る團十郎からだの
痛む思入衣類やふれすご〳〵ト這入
本舞臺山名屋奥座敷庭の處松の木にしうか下着の
まゝにて縛られ居る禿二人り羽左衛門吉彌やりて
文五郎竹笠を冠りて木切にてしうかを折鑑す
「折節降り來る雪ふゞきうちには亭主が浦里を庭
の古木にくゝりつけほふきおつとり聲あらゝげ
友右衛門「ヤイ浦里其くるしみは心がらだアそうべ
つ遊女をせつかんして客をせくこと客のため二つ
には女郎大切身代が猶大事アノ客もまだ若ひ人だ
があんまり繁々かよわれては親がゝりならば勘當
うけ主持ならば親方の手前しそこなふはしれた事
だ此じう年季を切りかへしも皆あの客のため此上
は心中するか欠落かとゞのくゝりはしれてあるせ

んさくだア是迄たび〱言ても聞いれねへがうつくばりめアノ時次郎のことをすつぱりと思ひ切てしまやアがれコレ男共浦里を氣をつけいト

友右衛門文五郎障子引立這入

「いひ捨てこそ奥に入る「浦里あとを打詠めわかれとなれば今更に泪に暮て居たりしが　しうか「アノ時さんはどこにどふして居さんすことじややら今一度顏が見たひあいたひわいナア

「きのふのはなはけふの夢今は我身につまされて義理といふ字は是非もなや　しうか「アノ二階でひく三味せんを聞につけても思ひ出すいつぞや主が居つゞけに寐まきのまゝに引よせてひく三弦の面白さ夫に引かへこよひのくるしみア、あじきない浮世じやナア「すいた男にわしや命でもなんのおしかろ露の身のきへばうらみもなきものを　しうか「わしが此身どふなるとも

「聲このみはあわ雪とともにきゆるもいとはぬが此世の名殘に今一度逢たい見たいとしやくりあげ「狂氣のごとく心もみだれ泪の雨に雪とけて前後せうたいなかりけり

トしうか禿二人りを相手に雪にこゞへ癪の起りし思ひ入禿いろ〱介抱し雪を口に含ませる是にて氣が付二人り禿ト愁たん大出來

「男はかねて用意の一トこし口にくわへて身をかため忍び〱て家根つだひ見るに浦里うれしやとかなしさこわさあぶなさにかわいと一トころ明がらすのちの浮き名や殘るらん〱

ト團十郎時次郎塀を乘越しうかの繩を切たすける友右衛門大せひ出て來り時次郎實は佐藤與茂七と名乘迄大出來當時江戸根生の團十郎しうか二人りのきゝもの殊に上るりは二人りとなき淸元太兵衛三人の寄合にて古今大々當り

○三月二日より河原崎座「濱眞砂幾久御攝」石田の局石川五右衛門、海老藏、奴矢田平、大明の宋蘇卿、三十郎、早川高景、尾西彌十郎、松助、けいせい九重、大領御臺淀町、團之助、室井主税、源平、曾呂利新左衛門、宇十郎、左枝政之丞、鈬次郎、小鮒源五郎、大次郎、澤部武藏妻綠り、三藏、茶道珍才、冠五郎、櫻井新吾、岩五郎、粟津左膳、十藏、久次妻早わらび、與三郎、同乙女、榮枝、同浮舟、朝次郎、同やどり木、仲若お山、やまと、

同おまさ、松屋下女おつる、政次郎、久次妾初音、三之助、同竹川、三すじ、荒川東馬、半十郎、篠井刑部、國五郎、柳川妻紀の治、猿三郎、舞子八雲、かこう、筑波妻松ヶ枝、七右衛門、石田の妹娘瀧川、猿藏、金吾久秋、瀬川采女、新七、筑紫の權六、上野妹ときわ木、奥山、石田ゝ姉娘早瀬、五右衛門女房おりつ、梅幸、眞柴久次、大領久吉、長十郎、堀尾茂一郎若太夫長十郎「近江源氏先陣館」和田兵衛秀盛、北條時政、海老藏、盛綱母微妙、三十郎、同妻早瀬、團之助、高綱一子小四郎、源平、三上八郎、宇十郎、竹の下孫八、岩五郎、盛綱一子小三郎、幸藏、緫千東、政次郎、淺井五郎、新七、高綱妻篝火、梅幸、佐々木三郎兵衛盛綱、長十郎、信樂太郎若太夫長十郎、第弐番目「戀飛脚廓以字文」丹波屋鬼藏、海老藏、槌屋治右衛門、三十郎、古手買忠三郎、松助、同女房お竹、團之助、つちや新造梅里、冠五郎、同枝川、宇十郎、同やりておしげ、龜屋手代清七、大次郎、非人傳がかゝ、三藏、若者喜介、梅八、男藝者榮壽太夫、七藏でつち善太、澤藏、鯏新小僧三吉、あかん平、でつち紀の松、由次郎、新造浪の戸、三之助、鯏新下女おきん、三すじ、龜屋手代利兵衛、半十郎、髪結北新町の三、猿三郎、新造鳴戸せ、かこう、船頭長吉、猿藏、浪人鶴掛藤三郎、新七、醫者針立道庵、奥山、槌屋梅川、梅幸、龜屋忠兵衛、五百崎甚内、長十郎〇四月朔日より淨るり「戻駕色相肩」難波の次郎作實は五右衛門、海老藏、禿ゆかり源平、東の與四郎實は久吉、長十郎、禿たより若太夫長十郎常磐津連中相勤何れも評判よし

樓門五三桐の五右衛門海老藏度々にて大出來なり然れ共一丁目小團次參入の五右衛門珍らしきゆへ是のみの評にて更に評なし天保年中芝翫捨若丸の五右衛門是江戸にて珍らしきとて大に當り其節市村座にて五三桐の石川五右衛門篝助相勤大出來なりしが不入なりし此狂言は是迄江戸にて度々興行にて二代目ひな助大當りして其後樓門の大仕掛も古めかしく見物も珍らしからねばなり

〇四月五日より中村座「世界花小栗外傳」横山太郎秀國、漁師浪七實は美戸小次郎、下男寐ず兵衛、六角左京之亮、小團次、太郎妻淺香、萬長娘おこま、足利御臺花園御前、粂三郎下部三千助、馬士駄多勘兵衛實櫻木隼人、源之助、小栗判官兼氏、畫師宗旦實は小栗兼氏、竹三郎、山名玄蕃、横山息女照日姫、りやうし橋藏、廣

五郎、修行者運天坊、賄ば丶おくま、音八、池の庄司、漁師沖藏、らい助、結城の三郎、星川運平、米平、細川治部大輔頼之、小栗郡領兼行、遊行上人淨阿、勘彌、岡崎甚兵衛、りやうし灘藏、森五郎、浪七妹おとく、かし付綾羽、芝鶴、萬長下女おたけ、しげ松、同お杉、にしき、萬長下女おまつ、米次郎、侍女道芝、下女おかつ、辰之助、若徒傳內、醫者沼田順才、佐十郎、横山次郎、りやうし四郎藏、わるもの十歌助、白拍子司、淺岡妹おもよ、玉三郎、足利義滿公、浪七弟彌吉、又三郎娩かほよ、義純愛妾賤はたり下 吾妻市之丞、横山大膳秀利、、式常陸之助、漁師胴八、在原や成平、市藏、横山息女照手姬、浪七女房小ふじ、賤女小萩實は照て姬、菊次郎、盗賊風間八郎實は新田義純、修行者學山實は風間八郎、萬長、後室お牧、細川頼行實は風間八郎、彥三郎、入間多門之助、壽三郎、第一番目萬長內の場、淨るり 時代な世話に容姿の繪兄弟「彩紫藤戀浴衣」おこま、くめ三郎、小はぎ、菊次郎、宗旦、竹三郎、富本豊前掾連中第二番目大切 曾我兩社の祭禮も皐月の空な魁て「勢獅子劇場花䦨」曾我祭り 惣座中不殘上るり 常磐津豊後大掾、小文字太夫、岸澤式佐、同文左衛門、當狂言評よく大出來〇五月五日より

市村座「戀摸樣振袖妹脊」歌舞妓十八番之内「鳴神」「橘牡丹皐月夜話」元服曾我、夜打そが、曾我十郎祐成、湯島三吉、秩父重忠、竹之丞、赤澤十內、八百屋下女おすぎ、そがの萬江、同宿白雲坊、九藏、梛の葉御前、手越少將、花友、玉井十平次、芝雀、若徒十內、橘藏、釜や武兵衛、箱根畑右衛門、大藤內成景、文五郎、長文六郎、雲助の松毓太郎、團三女房十六夜、友達娘おかめ、歌女の丞、番場の忠太、虎五郎、赤澤小五郎兵衛實は宇佐美金吾、仁田四郎忠常、同宿黑雲坊、吉三郎、犬坊丸、幸藏、小林朝比丸、吉彌、仲居お三、まつ三、同おてう、佳調、友達娘おつぎ、蝶之助、同おとみ、登美三、三うらの片かひ、福之丞、閑坊和尚、宗兵衛、吉祥寺上人、毓右衛門、友達娘おらく、鯉とう、喜應、新三郎、所化西念、友松、小五郎兵衛女房お澤、お七母おやほ、小六、五尺染五郎、劔澤彈正、所化靑雲、高麗藏、海老名軍藏、紅屋長兵衛、小地獄淸左衛門、同宿赤雲坊、友右衛門、八百屋お七、大磯虎御前、雲の當麻御前、しうか、小性吉三實曾我の禪司、土左衛門の傳吉、曾我五郎時宗、鳴神上人、三浦之助義村、團十郎、秩父小六郎、吉五郎〇

當狂言評ばんよかりし處五月廿三日の事なりし市

川團十郎舞臺にて急病差起り皆々打寄介抱し家内へ連行海老藏は河原崎にて民谷伊右衛門に紛作し居たりしが斯と聞より鬘をとりしまゝにて駈付る此大騒動にて中村座も狂言相仕舞皆々三升宅へ打寄り樂の手當等夫々せしかども大漸にて打臥共も中々通せず加持よ祈禱と神佛え御願ひ御利益をぞ祈りける最早世間にては八代目團十郎手向發句と所々賣歩行二板程出板せり予藏せしは戒名孝譽淨雲信士嘉永四辛亥年五月廿三日行年廿九歳辭世御ひゐきの暑き御恩を笠にきて涼しき法の庭に遊ばむ八代目三升又あかつきは三升もつらし賴の寐顔海老藏はやくむまれ替りて出よ火とり蟲母すみ此外役者の發句あり略之扨八代目病氣追々全快之由にて又々八代め市川團十郎蘇生の次第といふて提賣にものす此書に海老藏成田山不動尊へ大願をかけ丹誠をこらし祈りしに不動尊現れ玉ひ我を信ずる事當にせつなり又悴團十郎義は孝行尤ふかし殊に未だ命數盡ざるゆへ此度は命を救ひ得さすべし猶信心怠る事なかれと告玉ふとひとしく息吹かへしけると云々是偏に成田山不動尊の御利益と信心者にめいじ有がたきこと共なり是其節の提うりの抄録也

○五月廿七日より河原崎座「鶯塚長柄故」澤村長十郎、佐々木源之介、一世一代多賀の佐々木源太左衛門、淺香十左衛門、海老藏、淀與惣右衛門、佐々木源吾、三十郎、若徒作内、松助、忠太夫妹いくよ、團之助、澤野高次郎、源平、長者妻たまき、宇十郎、梅ヶ枝弟十次郎、鈍次郎、寶山比丘、大次郎、腰元文、三藏、戸田佐五右衛門、冠五郎、山淵運六、梅八、大島大八、武十郎、若黨佐左衛門、轉岡左内、新七、淺香十次郎、幸藏、長者手代忠太夫、男女藏、小奴關平、花助、醫者文南、十藏、家中娘小きく、菊太郎、同しのぶ、長者腰元はな、朝次郎、同お松、三の助、家中娘葉末、三すじ、外山貫左衛門、半十郎「長柄長者和田木辨夫、國五郎、淺香清三郎、猿藏、修行者大仁坊、奥山、源太左衛門妻渚、長者娘梅ヶ枝、梅幸、河内の佐々木源太左衛門、同悴源之助、長十郎、淀主水之助若太夫 長十郎、第二番目「東海道四谷怪談」尾上菊五郎、三回忌追善民谷伊右衛門、直助權兵衛、海老藏、四谷左門、千葉三郎兵衛、三十郎、小佛小兵衛、矢間重太郎、松助、伊東後家お弓、小平女

房おはな、團之助、木下川良助、源平、醫者養仙、宇十郎、萩山長兵衛、大次郎、仲間半助、進藤源四郎、三藏、水茶やお政、冠五郎、翁丸手代万藏、米屋長藏、武十郎、奥田長三郎、小汐田又之丞、新七、蜆賣次郎吉、あかん平、大三郎、でつち三太、菊之助、伊東喜兵衛、男女藏、ゆかんば買ぼろ七、宅悦女房おいろ、岩五郎、堂守西念、十藏、伊東召仕おまき、菊太郎、關口宮藏、半十郎、伊右衛門母お熊、國五郎、赤垣專藏、利倉屋茂助、猿三郎、伊東娘お梅、かこう、竹森喜多八、七右衛門、鰻かき五郎吉、猿藏、あんま宅悦、講中三九郎兵衛、奥山伊右衛門女房お岩、同妹お袖、梅幸、小間物や與七、佐藤與茂七、長十郎○六月六日より「ひらかな盛衰記」船頭松右衛門、海老藏、船頭權四郎、三十郎、鎌田娘おふで、團之助、船頭日吉丸の又六、三藏、同明神丸の番藏、冠五郎、同なぎ七、武十郎、遠見の富藏、玉藏、同杉右衛門、あかん平、木曾駒若丸、鐵次郎、秩父の重忠、新七、松右衛門女房お芳、梅幸、第壹番目鶯塚狂言は天保八丁酉年木挽町河原崎座にて大當り當年より十五ヶ年以前にて此度は長十郎年を重ねしゆへ若衆方不似合中評なり、貳ばんめ四ッ谷怪談お岩の靈梅幸小平の靈松助大に評よし○六月三日より市村座「一東夏花籠(ひとつかねさきりはなかご)」市村竹之丞、御名殘狂言、日數廿日の間「十帖源氏物草太郎」土佐又平光興、竹之丞、物草太郎實千の利久、九藏、水茶やおかち、花友、狩の元信、芝雀、長谷部雲谷、文五郎、千の利久娘左枝、歌女之丞、庄屋壽作、嶋藏、狩野雅樂之介、奴岡平、吉三郎、伴左衛門一子十太郎、竹松、かつらき、禿かつみ、吉彌、同あやめ、猪三郎、犬上團八、成藏、娘若竹、玉次、同ぬるで、佳調、茶や女おさつ、福之丞、あしや姫、登美三、佐々木彈正、甑右衛門、新造遠山、りとう、娘撫子、小六、金魚賣金八、高麗藏、さゝら三八、友右衛門、けいせい葛城、利久妻しがらみ、しうか、名古屋山三、團十郎出勤なし「朝顔日記」ふじや德右衛門、九藏、蛇遣ひ蛇皮六、文五郎、宿引喜助、甑太郎、出來島段平、虎五郎、正木勇藏、又八、宿女郎おちか、入藏、川ごしなだれの石、綱五郎、宮城阿曾次郎後駒澤次郎左衛門、吉三郎、川越し豆とら、虎藏、同たき、武五郎、同松、宗兵衛、宿女郎おかつ、まつ三、奴丹助、友松、佐五右衛門女房およし、小六、奴關助、高麗藏、岩城瀧太、友右衛門、秋月娘深雪後替あさ良、しうか、連歌師宗

祇、團十郎、筑紫左門之助、羽左衛門「一谷嫩軍記」組
打陣屋熊谷次郎直實、竹之丞、菊之助、花友、堤の軍次、
樒藏、玉おり姬、歌女之丞、梶原平次、嶋藏、源の義經、
吉三郎、藤の方、小六、彌陀六、友右衛門、小次郎直
家、敦もり、熊谷女房さがみ、しうか、岡部六彌太、團
十郎、大切所作事（替り御暇乞うさて、又御目見へを蒔繪臺）「松竹梅名殘嶋臺」
けいせい、さらし男朝貞貴、竹之丞、いさみ、九藏、賤
の女、藝しや、しうか、禿、竹松、羽左衛門、常磐津豐
後大掾、小文字太夫、岸澤式佐、同金藏相勤長唄三弦
はやし連中淨るり豐竹桐太夫、竹本松江太夫二せん
花澤仙五郎鶴澤佐市相勤○六月十五日より「大平記
忠臣講釋」二まく八段迄興行也、矢間十太郎、竹之丞、
万才德若、九藏、十太郎女房おりへ、花友、富もり助右
衛門、高麗藏、小寺十內、芝雀、惣嫁お市、文五郎、同お
きみ、紙太郎、房州屋幸兵衛、宗兵衛、大わし文吾、吉
三郎、矢間喜內、勘彌、けいせい浮はし、歌女之丞、ち
ゝもらひ杢兵衛、紙右衛門、喜內女房おわさ、小六、堀
部彌次兵衛、友右衛門、十太郎一子太市若太夫竹松、何
れも評よし○八月四日より中村座「東山櫻莊子（ひがしやまさくらそうし）」尾形
の浪子、松浦主水後淺倉領庄や當吾下部須磨平、雛指

南、やもめ、東雲當吾亡靈、小團次、白拍子桂木、尾形
息女松虫姬、足利次郎、冠者光氏、条三郎、細川修理之
助、勝元、仁木重清、源之助、足利義尙公、石堂釆女之
助實尾形惟光、竹三郎、難波村庄や作兵衛、宿屋後家
およく、廣五郎、根古實五平太、百姓六兵衛、音八、土
手泥助、百姓權十郎、イ助、同でき作、不破伴作、米平、
醫者順才、百姓彌右兵衛、駒右衛門、同とぢ作、婉野
分、千代松、茶道沼田拜幡、百姓牛太、イ藏、同米作、道
具や佐平次、相藏、當吾忰藤五郎、蔦之助、同弟國松、
条次郎、淺倉藤左衛門、植村隼人、連歌師貞德、勘彌、
ふじの方、女童小さゝ、歌柳、飯沼鄉藏、百姓杢兵衛、
森五郎、名古屋三平、香具屋勘七、雀十郎、仁木妹荻の
戶、下女おきよ、芝鶴、藤左衛門娘おたま、こし元小き
く、しげ松、同小櫻、在所娘およね、米次郎、赤松妹小
てまり、侍女敷しま、辰之助、岩倉主水、川合左司馬、
佐十郎、中津村久左衛門、代官船橋八平、歌助、婉玉
苗、玉三郎、赤松太郎隆直、又三郎、藤左衛門娘おき
み、かしづき杉生市之丞、山名宗全持豐、難波村の八
右衛門、岩瀨玄蕃、織越典膳、市藏、義政愛妾ふじの
方、當五女房おみね、白柏子お國、しのゝめ娘黃昏、菊

治郎、織越大領政知、尾形家臣松浦、眞十郎後わる者幻の長吉、仁木喜代之助、渡し守甚平、足利義政公、彦三郎、中納言義視、喜三郎、第壹番目五まく目淨るり（紅葉の賀の姿を移）「花桂照楓葵（はながたてりはのひとかた）」光氏、粂三郎、義尚、竹三郎、ふじの方、菊次郎、壹番目（夕がほの巻の暗を）「艶梺露玉枕（うきなのへつゆのたまくら）」しのゝめ、小團次、光うじ、くめ三、たそがれ、菊次郎、富本豐前掾三弦名見崎友治長唄はやし連中相勤當狂言田舍源氏と佐倉宗吾物語を仕組古今大出來瀬川如皐の手柄なり當座春狂言五右衛門五月狂言小栗（六月相休）當狂言と替りにて十月迄興行せしは近年稀なる大當り小團次大に評よく是よります／＼評判よし○第壹番目　發端高津八幡祭り場　百姓打寄　曾我狂言の仕出し

同佛光寺の場　佐倉藤左衛門娘二人りを連寺參り藤吾の身の上はなし二人りの娘代官より無理所望之事

同玄蕃邸宅場　藤吾村方一條願書差出し之事

○二幕目　足利家御館之場　しのゝめ小團次小烏丸を奪ひ去る喜代の介彦三郎と立廻り小團次の片袖を取かわりて長吉すま平の立廻り

○三幕目・旅籠屋の場　狹倉堤船渡し船頭彦三郎當吾兩人大出來

同當吾宅雪の別愁場　菊次郎小團次子わかれ此三幕狂言中の大々當り

○四幕目　洛陽金繡閣の場　紅葉の賀上るり花やかにてよし

○五幕目　通天橋の下より義政公へ淺倉當吾直訴

○六幕目　織越家獄屋の場　盜人長吉當吾おみね小供詮義の場

○七幕目　織越家館の場　城主政知公御病氣當吾の大詰　怨念異類異形の姿をあらわし殿を脳す此處仕懸多しいつれも大出來なり

○八月六日より河原崎座「千種高穐月宮本（ちぐさのあきつきはみやもと）」笠原隨翁軒、白倉傳五右衛門、百姓七助、海老藏、佐々木がんりう、傳五右衛門妻岡のや、當塚十兵衛實は若徒しけ藏、三十郎、花守官次郎、名しま三四郎、新七、甲利照太郎、佐藤主計之助、猿藏、鶴見喜之助、源平、多山源藏、宇十郎、若徒與五郎、鈍次郎、爪の喜六、久保家大八、大次郎、田むら伴藏、森越力右衛門、三藏、奴腕助、畑干之丞、逸五郎、宮本武左衛門、細谷主膳、男女藏、

深見宗八郎、幸藏、代官岩倉曾平、任頂傳六、イ太郞、豐岡蓮藏、木津次助、岩五郎、庄屋杢郎兵衛、百姓おせ六、十藏、茶屋娘お花、娵いなば、朝次郎、同眞ゞす、やまと、同きゝやう、三之助、同千種、三すじ、仲居おまさ、政次郎、同おさか、菊太郎、奴士手平、半十郎、百濟典膳、赤澤瀬平、國五郎、鳴見五三郎、猿二郎、奥女中寄なみ、佳好、奥同者はた七、七右衛門、けいせいむさしの、十兵衛、お品、團之助、熊澤甚之丞、福田林左衛門、なめら坊、岩松、奥山傳五右衛門娘糸萩、佐藤與方清瀧、梅幸、宮本宮次郎後無三四、吉岡帶刀、長十郎、草苅童丹の輪寶は熊の精（若太夫）長十郎、上るり竹本戸和太夫、鶴澤市作第貳番目大切「六歌仙[illegible]」小野小町、祇園のおかぢ、梅幸、所化あめん平、花助、同さくらん坊、由次郎、同よたん坊、宇十郎、同やりん坊、源平、官女大勢、在原業平、喜撰法師、文屋康秀、僧正偏昭、大伴黑ぬし、長十郎、所化かくれん坊（若太夫）長十郎淨るり淸元太兵衛三弦同一壽連中長唄はやし連中いつれも評よし〇九月七日より市村座「源氏摸樣娘雛形」（田舍源氏初編より廿編まで）第貳番目（とざい暫何れも樣おすゝめの笠松峠上り三里下りが三里の六冊な合卷に仕立後へんに仕候）「新板越白浪」細川勝元、たそがれ咄しのゝめ、義勝娘稻舩姬、せいたか童子、九藏、遊君あこぎ、喜代之助女房から衣、朝霧、侍女玉木、花友、赤松太郎高直、破軍の七兵衛、勢多迦童子、九藏、かわり高麗藏、赤松次郎高義、芝雀、宇佐美源吾、所化西念、橘藏、信樂源太夫、天滿やぶこ藏、次早馬刀内左衛門、文五郎、仁木川次郎、百姓九助、糺太郎、光氏御臺二葉の上、喜代之助妻村荻、歌女之丞、山名三郎、宗淸、雁かゝアおこう、嶋藏、あこぎのかむろ、藤江猪三郎、關犬吉、吉彌、仁木左衛門之助家淸、夏目四郎左衛門、柏木小六郎、下部礒平、吉三郎、義政御臺とよしの前、進見甚右衛門、勘彌、から衣弟若吉、幸藏、韋馱天彌藏、のたくりの梶藏、宗兵衛、かるかや比丘、井筒長左衛門、茶道淸喜、織右衛門、ふじの方、侍女司、鯉とう、蜑紅ひ實は石堂采女、光氏、昵近雅吉、友松、藤の方かしづき杉生、平のおよし、小六、寂寞阿闍梨、鹿野苑軍八、小路伴内、友右衛門、義政別室ふじの方、東雲娘たそがれ、宗入娘朝きり、こんがら童子、小六郎女房早百合、微塵流のお松實は自來也、しうか、足利次郎冠者、光氏、成田山不動尊像、平のや德兵衛後糸や佐七、梅津掃部之助國祐、逸見雅次郎實は夏目次郎三郎、團十郎、足利春

若九、吉五郎、朝霧小姓かほる、羽左衞門、第一番目四幕目上るり（葵の上の謡曲に結び合せて）「名夕皃雨の舊寺」しのゝめ、九藏、良清、吉三郎、光うじ、才念、橘藏、黃昏、しうか、團十郎富本豐前掾三弦名見崎友治連中同六幕目淨瑠理（すへ摘花な舞曲に取合て）「未いろは楓褄紅」いなふね、九藏、むらさき、しうか、光氏、團十郎、淸元太兵衞、同菊壽太夫、三弦同千藏、連中相勤大詰上るり（一弦の琴が風曲に調し合せて）「月光氏諷磨初鴈」あまかほる、粂左衞門、くれない、友松、おかめ、歌女之丞、朝霧しうか、たまき、花友、君吉、幸藏、高直、高よ藏、光氏、團十郎、常磐津豐後大掾、小文字太夫、岸澤式佐連中相勤第一番目「田舍源氏」新狂言八代目團十郎病氣全快にて田舍源氏に足利光氏大出來すまにてつい立に松を畫し二度め歌舞妓十八番の內成田山不動明王尊像

家之狂言則御手の繩にとりすがり早替り德兵衞にて川の中より引上けられ蘇生せし處不動尊御利益狂言に仕組し也第貳番目笠松峠鬼神のおまつ此狂言は文政九戌年八月中村座曾我中村穐取込にそが團三郎後稻の谷半兵衞め（二代）三十郎同女房おこう後盜賊張本稲葉幸藏後げいしや小ひな鶴屋南北作にて大當り同十一子年春此狂言を合卷草ぞうしに出板し褄摸樣沖津白浪と題せり此度は稻葉幸藏を自來也に書替しは當時神明前泉市より出板の草双紙自雷也大當りゆへ櫻田治助夫々添削して仕組以前よりは今度は古今大出來大々當りは櫻田左交が筆力によるべし○田舍源氏中村座と張合いづれも甲乙なし田舍源氏續狂言は此度を初めとす

○當彌生市村座浦里、しうか、時次郎、團十郎「絕世の時勢粧ひ」洞房にて情郎への深實の仕內見物の男女其業の細密にてふかき事を感稱せり又中村座當吾甚兵衞が渡し場兩人懇志の仕內夫より當吾妻子え暇乞の愁歎場親子夫婦の情合狂言とは思われず夫婦中にも義理を立夫に從ふ貞婦の仕內諸見物感淚に袖をしぼるかゝる脚色を見るにつけ勸善懲惡の道を心がけあしき道には入玉ふな

○諺紫田舍源氏は柳亭足薪翁種彥先生妙作にて京攝にも是を學び狂言に脚色染もやう押繪錦畵の出板數へ盡すべからず花見船遊參式は江のしま鎌倉などの景色にも光氏の居ざるは更になし斯後世に至り全盛なるは種彥先生一世の規摸といふべし因

に爰に記す

○九月二日より河原崎座「大塔宮曦鎧」貳ばん目「五大力戀緘」齋藤太郎左衛門、笹の三五兵衛、海老藏、土岐藏人、廻しの彌助、三十郎、平賀三郎、若徒八右衛門、新七、大塔宮、牛嶋千太郎、猿藏、名越高千代、源平、常磐駿河守、宇十郎、賤ヶ谷伴右衛門、大次郎、外田郷藏、三藏、澤田馬八、冠五郎、右馬頭一子鶴千代、鐵次郎、八才の宮、幸作、赤松政則、出石宅右衛門、男女藏、陶山秀千代、花助、高野春、千代田次郎、藏人一子力若、あかん平、八條義千代、幸藏、横淵東馬、岩五郎、粂本娘分お政、三之助、同おいよ、三すじ、同おきく、菊太郎、石塚伊平太、半十郎、下部土手平、團五郎、粂本伊の介、猿三郎、三位の局、粂本女房おみね、佳好、藏人妻早咲、武藏や女房お此、團之助、村上彦四郎、家主德右衛門、奥山、右馬頭妻花園、げいしや小万、梅幸、永井右馬頭、さつま源五兵衛、長十郎、輪管國千代若太夫長十郎「戀女房染分手綱」本田彌惣左衛門、奥山、おはしたおさつ、宇十郎、近習文五三、岩五郎、同源五三、梅八、しらべ姫、菊次郎、じねんじよの三吉、由次郎、お乳人重の井、長十郎、何れも評よし」

○十一月十三日より顔見世中村座「嬿源氏膽張取舵」〔從良記無間場迄暖簾狀朝三郎韻なり〕梶原平次景高、船頭權四郎、けいせい梅ヶ枝、旅人當作實は清水冠者、五斗兵衛盛次、小團次、梶原源太景季、冠者義親、源義經、竹三郎、姫千鳥、千歳や女房おふぢ、市之丞、船頭日吉丸、又六、伊達次郎、歌助、鎌田隼人、船頭富藏、佐十郎、同帆六、番場忠太、大次郎、修驗者賴圓、船頭九郎作、音八、松右衛門一子槌松、粂次郎、ちゝぶ次郎重忠、梶原奥方延壽、團彌、松右衛門女房およし、女非人おつた實は巴御前、五斗兵衛、妻せき女下り中村歌六二度目、同娘とく女、つたの助、姫道芝、仲居おせん、光次郎、同およね、賤女はゝきゞ、米次郎、姫ときわ木、仲居おだい、にしき、同おつる、根の井妹早咲、芝鶴、龜井の六郎、更科主水之介、友松、山吹御前、新造、浪の戸、佳好、人足まわし又六、根の井太郎、又三郎、錦戸太郎、横須賀軍內、辻法印、頓山、千とせや才兵衛、市藏、隼人娘おふで、義賢息女待宵姫、泉三郎妻高の谷、梅幸、船頭松右衛門實は樋口次郎、回國修行者典山、和泉三郎忠衡、彥三郎、蒲の冠者範賴、壽三郎、浄るり豐竹美壽太夫、同松江太夫、三弦鶴澤市左衛門、同左市、相

勤狂言作者瀬川如皐、市岡和助、楳田敎助、村冠次、梅守春助何れも大出來大當り第一番目序幕返しだんまり清水冠者、小團次、女非人、歌六、義ちか竹三郎、典山、彥三郎大當り其餘は上るり　○十一月十三日より市村座「花楓高㒵重賀紀」第二番目「娘景淸八嶋日記」京極內匠、微塵彈正、事觸鹿島要人、肝煎左次太夫、三十郎、一味齋娘おきく、おりどのや下女おみさ、黑木賣おはな、花友、衣川彌三郎、轟傳五右衞門、齋藤六利武、源之助、吉岡下部友平、天野四郎、利武良等兵藤、橘藏、主馬小金吾、利武良等軍藤、玉三郎、春風藤藏、杣斧右衞門、三保谷四郎、文五郎、進の次郎、庵原左近、宇十郎、門脇義平、嘉藤內、靑木久馬、翫太郎、郡元春、土屋郡內、鈚次郎、竹下甚八、りやうしあみ六、虎五郎、厚田新右衞門、あんま德市、又八、衣川下部佐五平、夜そば賣定、島藏、彌三郎一子彌三松、吉彌、郡音成、彌平兵衞宗淸、織殿や義助、非場十藏、吉三郎、重忠奥方眞弓、鳥さしおつる、義助女房おきぬ、景淸娘糸瀧、菊次郎、同一子あざ丸、由次郎、庄屋粟右衞門、三度飛脚早助、雷助、松坂のおしほば、あ、郡の中間可助、十藏、非人宵寐の仁藏、けんざんや茂助、イ太郎、佐五平娘おりき、はたおり女おまつ、まつ三、同おさん、郡娘おきし、三の助、同しもの、はたをり、おてう、蝶の助、同おとみ、利武妻しがらみ、とみ三、大森傳藏、齋坊主若念、半十郎、渡邊かげゆ、難波の六郎、翫右衞門、白酒賣おかめ、義助娘おしづ、歌女之丞、一味齋女房おこう、宗淸妾呉竹、小六、文うり喜の助、重忠一子小六郎、源平、吉岡一味齋、織殿屋手代歌六、瀨の尾太郎、友右衞門、義朝妾ときわ、一味齋娘おその、郡奥方渚の方、けいせいあこや、しうか、毛谷村六助、阿波の民部重能、西打數馬、日向勾當、惡七兵衞景淸、長十郎、乙若丸、竹松、今若丸、羽左衞門、狂言作者櫻田治助、松島半二、松島てうふ、福森久助、紀の文左衞門、村岡幸次、第一番目後三立目だんまり眞弓、菊次郎、ときはしうか、景淸、長十郎同淨るり（上の卷は鼓場美談下の卷は伏見常盤）「戀積雪墨染」ことふれ、三十郎、齋藤六、源之助、軍藤、玉三郎、黑木うり、花友、兵藤、橘藏、宗淸、吉三郎、鳥さし、菊次郎、きの介、源平、乙若、竹松、白酒賣かめの丞、常磐、しうか、今若、羽左衞門、富本豐前掾三弦鳥羽屋里次何れも評判よし　○十一月十三日より河原崎座「升鯉瀧白旗」鶴尾三郎義久、連

歌師由風實薩摩守忠のり、ちゝぶの重忠（下り）嵐璃寛、錦戸太郎、石や職人三實樋爪五郎、高麗藏、坂東順禮太郎七實は三位重ひら、新宮の藏人、新七、石田の三郎、むさし次郎左衛門、男女藏、伊達次郎保ひら、田船かし三吉實元吉四郎、猿藏、平山武者所、男達極樂十三、廣五郎、能勢藏人、龜井の六郎、猿三郎、平大納言時忠、せげん地獄清兵衛、宗兵衛、樋爪五郎、夜乃太郎手下金六、三藏、同天八、ゑんまの手分赤鬼幸次、冠五郎、庄屋杢郎兵衛かし物屋がん七、虎藏、主馬小金吾、座頭四五市、茂々三、じやく馬入道早口、ゑんま手分青鬼清次、武十郎、里の子つる松、木曾駒若丸、幸作、舟頭三筋の綱吉、幸藏、奈須與市、修行者西念實主馬判官、源九郎義經、九藏、ゑびざこの十、あかん平、關はら與市、雲竹の松（下り）嵐德藏同八本田次郎（下り）嵐寛六、半澤六郎、夜乃太郎、手下穴八（下り）寛四郎、同風六、飛脚久助、出來嶋仙助、賴國妹早さき、賤の女おいろ、しげ松、若菜屋新造若紫、娍朝次郎、同横ふへ、若菜や新造若山、やまと、重清妹初霜、娍紅梅、三すじ、同關屋常春、妹笹川、福之丞、盛長娘小柴、賤女おまつ、菊太郎同おやま、お針お糸、長之助、盗賊牙藏、せんたくばゝあおわた、團五郎、駿河の次郎妻白妙、賤の女おたき、鯉とう、秩父小六郎、文遣ひかしくの六三（下り）嵐和三郎、順禮お賤實呉服の內侍、白拍子桂野、團之助、近藤判官景友、米仁世屋番頭ひね六、奥山能登守教經、佛師焰魔小兵衛實越中の次郎、武藏坊辨慶、海老藏、官女玉虫、若な屋の若草、小兵衛女房三途のおばゝアお六、条三郎、盗賊火車の夜乃太郎實上總五郎兵衛忠光、舟頭浮世伊之助、熊井太郎忠基、梶原源太景季、團十郎、蝶々賣日玉の長吉、長十郎「周春戯書始」（青柳硯嫗山姥）小野道風荻のや八重きり、璃寛（御目見へ狂言）作徒宗、娍おうた、奥山、道風妻置霜、時行妹しら菊、團之助、太田の九藏、奥女中ふじ浪、しげ松、兼冬息女おもだか姫、菊太郎、基經、御臺菊の上、辰之助、とつこの駄六、海老藏、基經息女女郎花、条三郎、小のゝ賴風、團十郎、第二番目、序幕淨るり若菜屋若草浮世伊之助濡嬉浮寐鵜若草くめ三蝶々うり長十郎伊の介團十郎清元太兵衛同美勇喜太夫三弦同一壽同千藏相勤何れも大出來大當り

○第一番目四立目高麗藏猿藏石段のたてあり同返

しだんまりわしのを、りかん、玉むし、くめ三、願て
つ、海老藏、夜叉太郎、團十郎、四人の立廻り大に評
よし御目見へ狂言りかん八重ぎり大出來道風は訥
升の方よし貳ばん目若草伊の介龜戶神事に准らへ
し仕組大出來當狂言は文化七年市村座春狂言心
謎解色糸と云名題にて本町育小石川幕を龜井戶
に直し面白き脚色河竹能進翁の添削以前の仕組よ
り大に評よし手柄といふべし

○獨鈷の駄六　　市川海老藏

「道風まちやれ何と道風久しひの貴さまもおれも大
工であつたがちやんころ一枚なかつたナア時に道
風聞てくれ五月はおれも跡取の大事の〳〵やろう
をすんでの事ころして仕舞ふほどの大病御利益と
御ひゐきの御影で命は助かつた又其跡がおれも大
病既にあの世へ行所ありがたくも命助りその五月
からてうばの不入不仕合秋芝居の納迄のみともな
さ此行先はどうあらふと思ふていたが御ひゐきの
お惠でりつぱに顏見世になつたおれがからだの厄
落し大工道具の厄拂で聞てくれ○貴さまの提墨の
通りに逸成どのゝ工の樹大方地はならしてあれど
自力ではゆかぬゆゝきさまを柱に頼むさんだんお
ゝといやア おれも出世いやとぬかしア搔槌のど
たま扳ても出世するどちらでなりと鋸仕事仕舞の
つかぬ鐵槌論脇からしやくりはとり上ねどイヤカ
おふかのひと鐁男と男がすみがねあて手斧な所で
あつたが因果鑿こんだと返事のがゝり切まわし今
棟上の命の鍔のみ詞のけんのうサア錐々あいさつ
しねへのか○西も東もしらねへ土地へ下りそう
〳〵ぶつゝかるあいては馴染の此目玉花の顔見世
花やかに花にあらしの當りまへ當れや當れ大當り
に當るがりかんじやあるまいか

○小のゝ道風　　嵐　璃　寛

「イヤ面白ひながせりふ成程お主シがいふ通り以前
は同じ大工仲間しかも難波にいた時は一ツ家業に
世話になり其縁によりありがたひ此御目見へも取
持にて今度も世話に又成田屋下りそう〳〵突かゝ
り憎ひやつだとお叱りもかゝり三升に三ツ橋のが
れぬ中でありながら是も役目と何れもさま木場の
大目にごろうじて下さりませぬかうお詫をした
上は大丈夫以前はいせん今は公家地下のおのれに

用はないかへれ〳〵狂言作者篠田瑳助、梅澤宗六、由田藤治、能晉輔、しのだ金治、勝見晉二、河竹新七の顔見世狂言三座共評判よく大入大當りにて日數打切日出度舞納ける

雲暉松信　嘉永四年亥七月二日終る　淺草今戸□□寺　俗名三代目尾上松助後名三朝家名音羽屋

三朝古人三代目菊五郎一男なり文化五辰子役尾上朝太郎と云同六巳冬顔見世より榮三郎と改同十一戌松助と改名せり父梅幸と共に京攝名古屋其外諸所にて修行し甲州龜や座にて日蓮記の大々當り又嘉永元申上方にて大川三朝と改出勤す當年父の追善狂言五月河原崎座四谷怪談に小佛小兵衛矢間十太郎二役大に評よく是より追々出世すべきと思ひし處不斗冥土黄泉にいたられしは殘念なるべし

嘉永四年亥八月廿日

祥運院賢譽竹榮信士　十二代目市川羽左衛門俳名家橘本所押上大雲寺に葬す

十一代目羽左衛門實子二男文政元寅子役市村龜之助と云同四辛巳冬より十二代め羽左衛門と改名天保元庚寅元服同三壬辰太夫名題にかゝる同十三壬寅淺草聖天町へ場所替被　仰付嘉永四年亥春九郎右衛門え太夫元讓り市村竹之丞と改名し壽狂言相勤上方登り出立之處病氣に醫療手を盡し神佛へ願ふといへ共其驗なく八月二十日長き旅路に門出いたされし當時若手のきゝもの殊に藝の風故人坂東秀佳を能うつされ第一美男にて立役濡事所作事の大達者なりしおしむべし〳〵

辭世　暮て行秋の日あてや遠烟り

嘉永四年亥十月十一日

柄泉玉道錦鶴信士　俗名十二代目中村勘三郎　本所押上大雲寺

十一代目實子幼名中村明石後に傳九郎と改天保元庚寅太夫元同三壬辰四月壽狂言同十二丑十月七日自火にて燒失同十三壬寅聖天町へ所替當年迄廿二ヶ年の間太夫役相勤

榮壽院仕朝信士　嘉永四亥八月四日終る深川淨泉寺へ葬す　俗名坂東かてう

花江都歌舞妓年代記續編卷の廿六

◎嘉永五壬子年

○正月十一日より中村座「金烏玉兎倭入船(きんうぎよくとわこくのいりふね)」安部仲麿卿、同靈魂、稲栗小佐次吉光、石川惡右衞門、鳥羽帝寵妃玉藻前實は金毛九尾狐、三筋綱五郎、庄屋太郎作實は左近太郎照綱、小團次、淸川式部之丞、舍人親王、賤男毛衣の鶴作、船頭の竹、安部光躬之助保名、糸屋佐七、竹三郎、仲麿與方久かた御前、孫與進妹羅綾妃、げいしやおふぢ小糸、加茂息女榊の前、市之丞、唐大尉掛圖惠、繪藏、漂藏實はじやがたら左衞門、歌助、唐の三番館、千原衞守、ほうらいや米彦、佐十郎、左中將高藤、唐の官人じやうまんくわん、大次郎、同かまんくわん、黒塚玄蕃、吾八、若徒與五郎、唐の侍女ちりんふ、雀十郎、同てれんふ、石山主税、米十郎、りんそう太子、豊松、綱五郎一子綱吉、粂次郎、左大臣惠美押勝、維州官人玄東、遊客淸香草、是好、安部泰親、三浦之助義純、斷藏、孫與進妻秦淸女、廣成與方雲井の前、梅川女房およし、植木屋お梅、照綱女房賤はた、歌六、安部童子、竹松、唐童かるめら、又市、船頭住吉丸、油藏、岩倉主計之助、我升、官人りんやすかい、木魚講はら森、森五郎、唐人ちんふんかん、岩淵當六、岩五郎、緑初音、唐侍女松りん女、にしき、同鶴せい女、侍女松ケ枝、芝鶴、惠美嫡男訓儒丸、神職友成、友松、江守女房横の戸、侍女あいりん女、官女梅の局、佳好、勝浦主水之助、料理人喜介、蘆屋左門、又三郎、大尉安藤山、海賊玄海太郎實は安部好根、木綿買吉六實は岩倉源五郎、市藏、玄東妻隆昌女、廣成息女小夜照姫、后揚貴妃、庄司息女葛の葉姫、信田葛の葉狐、賤の女五百はた、梅幸、吉備の吉備公、玄宗皇帝、安部晴明、奴與勘平、獵人矢當作實は上總之助廣常、通客鶴屋みどれ、左大將廣嗣公、彥三郎、和氣の淸丸、壽三郎、第二ばん目大切所作事淨るり 下野に名高き奈須の原 攝津に聞へし安部野里「狐振分後段景事(きつねふりわけごだんけいじ)」惡右衞門二の男玉藻前小團次 保名暇の男竹三郎 秦ちか娘の女かんや葛のは梅幸しかん 彥三郎 童子竹松 常磐津豊後大掾岸澤式佐長うたはやし連中相勤○當狂言吉備道唐使と大內鑑安倍の仲麿(土佐備に養老とも云)又是等取交仕組しものか扨唐の玄宗の世日本より吉備公唐使せしは唐書を日本へ渡されんとの願ひなり是より先に仲麿此御使に參り右の書を寫し日本へ歸國せ

んと思ふ處に彼地のもの仲間の智の賢きをねたみ淩雲閣に忿死せしむ其靈吉備公の影身につきて此度の難題圍碁の勝負野馬臺の詩無恙なく續てかの書を日本に傳ふ此道具建不殘唐館をうつし衣裳も唐裝束にていつもよりは諸入用懸り且狂言の筋わからず不評判にて不入なりし吉春の釜入五右衛門は七八百兩程にて芝居出來せしと此度は千四百兩もかゝりし珍らしき狂言ゆへ定て大當りと思ひの外なりしは實に水ものといふべし

○正月廿三日より市村座「里見八犬傳」初編より八へん迄犬飼現八、犬塚番作、莊官小ものゝ額藏後犬川莊助、工藤祐つね實は龍山勘ヶ由、三十郎、王子村ふじやおあい、花友、足利成氏、百姓糠助、箱廻し里七實は里見義成、源之助、金まり大輔、勝馬隼人之助、蟇崎十一郎、橘藏棧し七郎、入齒師力次郎、玉三郎、ひき六女房龜ざゝ、上尾目太郎廣成、在村刑部文五郎、名古の七郎、石濱屋清兵衛、守十郎、簸上宮六、口尻の並四郎、鹽濱辛四郎、猿太郎、莊官小もの存助、天津七郎、鈍次郎、畑上語路五郎、牛ヶ根廣六、虎五郎、手兒名四郎左衛門、道心者孝念、草苅童團松實は神童、花助、犬田小文吾、網干左母次郎、犬村角太郎、正木大膳、山陵中將有發公、山下柵左衛門定包、吉三郎、蟇六娘濱路、女馬士引手、房八女房おぬい、けいせい花紫、角太郎女房雛衣、菊次郎、房八一子親兵衛仁、由次郎、藍原夢之助、雀松、仲居お梅、梅之助、同おはな、三花、新造玉章、玉次、嵐友妻宿り木、その三、新造立春、三の助、うば千とせ、辛川庵八、枝こき金太、牛十郎、軍木五倍次、新織帆太夫、籠右衛門、現八妹おむつ、新造歌あや、歌女之丞、莊官下女およし、房八母妙眞、吉田屋のおせき、小六、曾我一萬丸實は舞子鈍菊、源平、同箱王丸實は立花、狩左衛門、犬塚ひき六、古那や文五兵衛、丶大法師、友右衛門、里見息女伏姫、犬塚信乃、浪四郎、女房船虫、神崎遊君江口實は白拍子爪琴ゑこうか、山林房八、金鞠大輔實は八ッ房の靈、堀内藏人貞行、伊勢參り紀の松、犬坂毛野胤智、犬山道節忠興、長十郎、足利義若丸竹松第一ばん目四立目上るり谷の富山の明保野顔「咲梅の八房」伏ひはつかおしき初音籠しうか神童、花介大輔實は八ッ房の靈長十郎、富本豐前掾、鳥羽や里次、名見崎友次第二番目大切浄るり稚曾我の對面に形「袖机帳響」見送りの衣ぬく〳〵別朝妻的つ丸、三十郎、一万丸、源平、花紫、菊次郎、箱王、羽左衛門、江口、しうか、毛野、長十郎常磐津豐後大掾、岸澤式佐連中相勤○正月十三日より河原崎

座「戀衣鷹金染(こひころもかりがねぞめ)」奴淀平、田川善惣兵衛、男達布袋市右衛門實は山川屋出入市右衛門、璃寛、大江額五郎、鳶の者長吉、高麗藏、清水宿直之助淸はる、鶴本幸水、新七、植田治部右衛門、山川屋權左衛門、男女藏、花岡釆女、權六、吉號ゑひち、猿藏、山川屋番頭三九郎、醫者道庵、廣五郎、たい〳〵持猿孝、若徒小文次、猿三郎、角左衛門下部段平、奴さが平、宗兵衛、岡井出平、かし物屋眼七、虎藏、嬶小笹、梅太、同まがき、仲居おたき、朝次郎、看貴團十郎吉、幸藏、本庄村平次、市右衛門女房おつた、男達粂の平兵衛後に禪釋師玄龍、九藏、山川屋でつち善太、おかん平、奴長八朴平、難波の地廻り島江の新、德藏、同堂嶋の市、奴字治平、寬六、同木津平、芝居の頭取万助、仙助、嬶さゞ浪、新造岩里、杢げ松、同おきよ、嬶みさほ、やまと、同伏屋仲居おきん、三すじ、同おかね、嬶若芝、稲之丞、同呉羽、小倉庵下女おきく、菊太郎、奥女中杢がらみ、山川屋下女お山、長之助、清水住僧敬月、百姓ちよん平、團五郎、牛淵玄蕃、判人木場七、七右衛門、奴手生平、才若、橋松、和三郎、奥女中左枝、げいしやお高、團之助、奴鳥羽平、野田角左衛門、奥山、比企の義貞、ひせんや重

兵衛、男達雷庄九郎實はひる鳶五郎七、海老藏、入間息女櫻姫、けいせい岩崎、おつた妹おさべ、男達鷹金文七實は山川屋權六、粂三郎、清水淸玄、北條四郎義時、男達梅印千右衛門實はかん酒屋六助、山川屋權六實鷹金文七、團十郎、万歲、鶴田若太夫、長十郎「和田合戰女舞鶴(わだがっせんおんなまひづる)」三の口切與市妻板額女、璃寛、藤澤入道安靜、男女藏、齋宮姬、猿藏、藤澤四郎、廣五郎、局岩橋、寬六、宇津宮岩九、山本結藏、尼御臺政子御前、九藏、與市伜市若、幸藏、平太妻つな手、團之助、荏柄平太胤長、奥山、城の九郎資時、海老藏、あさり與市義遠、團十郎、上るり竹本戸和太夫、同鶴太夫、鶴澤市藏、相勤第壹ばん目四立目淨るり清玄櫻姫「闇梅夢手枕(やみのうめゆめのたまくら)」粂三郎團十郎淸元連中相勤第二番目序幕上るり若衆權六「　月　棚郭髪梳(くるわのかみすき)」岩さき、くめ三、萬才、長十郎、才藏、和三郎、權六、團十郎富本豐前大掾、同豐前太夫、名見崎與次、同勇三相勤〇壹番目せいげん大出來在人男何れも評よし和田合戰大出來大當り〇正二月朔日より中村座「伊賀越讀切禪釋」唐木政右衛門、栢檔武助、荷持平作、佐々木丹右衛門、小團次、和田志津馬、上杉右内、竹三郎、けいせい花紫、齋宮妻濱まも、市之丞、荒巻伴作、古手屋嘉助、歌助、道具や市兵

郎、講中六兵衛、三藏、野手の三、冠五郎、手代庄八、虎藏、長吉姉おせき、九藏、仲居おあさ、朝次郎、同おやま、やまと、同おきん、三すじ、下駄の市、國五郎、三原有右衛門、七右衛門、ふじやあづま、團之助、平岡鄕右衛門、奥山、爲もと治部右衛門、海老藏、治部右衛門娘おてる、爺三郎、濡髮長五郎、團十郎、淨るり竹本戶和太夫、同鶴太夫 三弦鶴澤市作、同市五郎、相勤大當り

○三月十八日より中村座「宿花いろは本說」市川小團次出勤なし 高の師直、大わし文吾、斧九太夫、大石後室ふじへ、飯田玄蕃、時彌、鹽谷判官、矢間金太郎、早野勘平、活花指南竹葉、竹三郎、けいせい高窓、數右衛門妹おりう、大星力彌、市之丞、平林嘉仲太、下女おりん、赤垣仙藏、歌助、篠崎六太夫、口屋吉五郎實は淸水一角、原鄕右衛門、佐十郎、山名次郎左衛門、質屋利兵衛、大次郎、梶川與惣兵衛、楠屋久兵衛、音八、鹽谷爲若丸、粂次郎、ゆらの助女房おいし、高の愛妾富の方、淺澤松月尼、おりへ母おうた、歌六、大石大三郎、竹松、千崎彌五郎、さゝや淸兵衛、我升、大星瀨平、森五郎、斯波左衛門、手代善九郎、岩五郎、米屋ぬか六、杉の十平次、鯉三郎、尼貞心、仲居おつる、芝鶴、石堂右馬之丞、娩うてな、佐藤與茂七、友松、加村右京、浦松三太夫、又三郎、百姓與一兵衛、鷺坂伴內、鎌田軍兵衛、八百や五郎兵衛實は小寺十內、市藏、顏よ御前、娩おかる、奎右衛門娘おりへ、平右衛門女房お北、けいせい薄雲、梅幸、大星由良之助、斧定九郎、一文字屋才兵衛、石塚隱居樂善、寺岡平右衛門、矢間喜內、上松左門之助、彥三郎、足利直義公、壽三郎、淨るり竹本美須太夫、美代太夫 三弦鶴澤市右衛門、同左市、相勤八幕目上るり 花は盛に月は隈なき つれ〳〵草の文章を「夢蓬瀨想翼」師直、かん彌、伴內、市藏、うてな、友松、かほよ、相勤十段目淨瑠璃 千藏を契る一とふしの尾上 伊太八が浮名によそへて「返咲梅連理壱」坂東竹三郎 尾上梅幸 富本豐前大掾、同豐前太夫 三弦名見崎友治連中相勤當狂言之內棧敷高平土間五匁づゝ直下け

○初幕、三城外之場殿中之場、四嘉村屋舖之場、ゆらの介蜂の巢之場、道行おかる勘平本國之場、六山崎之場五同纏手之場、九山科之場、七祇屋の場、石塚隱居之場、川崎宿之場上るり夢の場、戶塚宿之場、貸座舖之場、久喜屋之場、大切夜討いづれも大出來古八坂東樂善廿七回忌追善として彥三郎相勤る

○三月三日より市村座「隅田川對高賀紋」第一番目第二番目左り

甚五郎、男達花笠衞治、同佐多川のまげ藏、道成寺所化歌山坊、三十郎、はん女御前、花友、山田の三郎、男達さけ緒伊之助、源之助、橋本屋若菅壽助、續瀬金吾、橋藏、吉田梅若丸、五百崎求馬、玉三郎、象の彈正左衞門、奥女中中山、文五郎、鈴木下部宇助、通り者茂林舍文福、宇十郎、富田六郎右衞門、橋本抱おいろ、館太郎、新宿たいこ持、竹作、若徒小傳次、鈍次郎、下部とら平、奥女中柏尾、虎五郎、たいこ持米次、笹原軍次、又八、大工棟梁つきつめの權次、奥女中きつき、渦藏、道成寺寺雲坊、吉彌、新宿げいしやおこと、花助、秋葉忩達花王丸、吉五郎、男達神力民五郎實はさるしま惣太、高取若徒政助、道成寺所化鱗昇坊、男達其崎政吉、吉三郎、中老尾上、山田三郎女房おわさ、主水女房おやそ、甚五郎娘おなみ、菊次郎、定政一子菊壽丸、由次郎、新宿山口屋の午寅の助、同げいしや花柳、神職多司馬、らい助、新宿太こ持由兵衞、十藏、同嘉十、早乘四三太、イ太郎、新宿女與著おかね、大和次、おさと、やよひ、おふく、和三郎、おつる、玉次、おかめ、三花、おやま、まつ三、お春、三之助、おてう、てうの助、おてつ、とみ三、たいこ持二八、半十郎、橋本かゝへおかん、

高井戸宿娃島右衞門、玄實阿闍梨、黒右衞門、秋葉惣女、花子、橋本抱おうた、奥女中せきや、歌女之丞、同五百崎、白糸姓清瀬、げいしやおつね、小六、植松小太郎、源平、荒羽林由平、橋本屋佐五右衞門、神道村嘉次兵衞、友右衞門、召仕おはつ、橋本抱白糸、甚五郎女房おはな、定正息女玉照姫、庄司娘清姫後清玄尼、まうか、鈴木主水、男達椎倒拾五郎、谷澤頼母局、岩ふじ、吉田松若丸、長十郎、足利義丸、竹松水主娘おとく、立波左源照門、羽左衞門上るり白糸主水「重褄聞の小夜衣」第二番目序幕おやす、菊次郎、しら糸、しうか、おうた、かめ之丞、主水、長十郎清元太兵衞同美代太夫三弦同千藏、同榮次郎相勤第二ばんめ大切上るり道行「描錦五大関」坂東しうか、富本豐前太夫三弦鳥羽屋連中所作事道行も葉斗り多きさくら段「京鹿子娘道成寺」三代目坂東三津五郎二十三回忌追善狂言 京山坊、三十郎 臨列坊、吉三郎 番僧 玉三郎 橋藏 吉彌 白拍子、しうか押もどし、羽左衞門長唄松永鐵五郎、同鐵藏、岡安喜代松、吾妻、榮藏、松尾五郎藏三弦杵屋勝三郎、あさ吉連中囃子連中相勤

○當狂言幾山に此節はやる替女のうたふ鈴木主水と四ッ谷新宿娃樓橋本屋白いと小うた取交仕組六幕目橋本屋の場まうか宿場女郎大出來菊次郎主水

女房大に評よし鴻藏大工大出來是より名を發すか
が見山岩藤おのへおはつ何れも大出來大切道成寺
所作思ひの外評よし扨內藤新宿の世界を芝居に仕
組し事をきかず此度を初めとするか櫻田左交大出
來也

○四月廿八日河原崎座「昔談柄三桝太夫」山岡權六、三莊太夫娘おさん、璃寛、梁川數馬、高麗藏、岩城判官政氏、新七、安壽娘、猿藏、由良の三郎、廣五郎、人買牛藏、宗兵衞、同九助、牛淵段八、三藏、醫者紋壽、冠五郎、仲居おたつ、轟軍太、虎藏、高田傳六、柴刈與五作、武十郎、同五助、駒右衞門、庄や杢郎兵衞、扇藏、一學悴左門之助、幸藏、大和田藏之進、質や重兵衞、九藏、藏之進悴民千代、あかん平、げいこ菊野、婢おなか、ゑげ松、同お民、仲居おみち、三すじ、婢およし、菊太郎、乳人呉竹、辰之助、黑石主稅、國五郎、成合五郎、七右衞門、觀音化身金蓮童子、和三郎、御臺むつきの方、藏之進妻櫻戶、三莊太夫女房おぎさ、團之助、大江郡領時廉、奥山、三莊太夫、鬼柳一學、海老藏、權六女房おらち、一學娘植竹、粂三郎、元よし、要之助、小野宮賓影、團十郎、對王丸、長十郎、第二ばん目「伊勢音頭」貢伯母おみね、料理人喜助、璃寛、藍玉屋北六、高麗藏、奴林平、新七、今田萬次郎、猿藏、猿田彥太夫、德嶋軍次、廣五郎、杉山大藏、宗兵衞、桑原丈四郎、冠五郎、あいや次郎助、虎藏、いせ參り三吉、幸藏、同長太、あかん平、藤浪左膳、九藏、油屋女房おやま、ゑげ松、仲居たみの、梅太、同千野、朝次郎、同つたの、やまと、同よしの、三すじ、油やおきし、菊太郎、同おゑか、國五郎、黑上主鈴、七右衞門、油や息子和三吉、和三郎、彥太夫娘さかき、團之助、正直正太夫、仲居萬の、奥山、料理の金兵衞、海老藏、油屋おこん、粂三郎、福岡貢、團十郎、たいこ持おふむ石八、長十郎、上るり竹本戶和太夫連中相勤○三庄太夫、にわとり〝娘二ばんめ福岡貢大に評よし○五月四日より中村座「源平布引瀧」第二番目「娘扇一對俠贔負」瀨の尾十郎兼氏、鷲頭晴噂屋五郎吉、手習師匠田中兵助、うちわ賣浮世團助、小團次、下部折平實は多田藏人行綱、大松屋手代淸十郎、人形賣與次郎、竹三郎、侍宵侍從、藤兵衞女房おつる、三太夫娘おゑな、市之丞、難波六郎、おまき兒熊鷹、眼兵衞、大松屋手代喜藏下り中村鶴藏、同庄左衞門、九郎助女房およし、家主作兵衞、佐十郎、矢橋仁惣太、

道具屋清蔵、大次郎、高長谷判官、かし物やおきよ、管八、五郎右衛門女房おきし、更科御前、歌六、木曾先生義賢、林三太夫、藤兵衛母おみつ、舞女中師見賢は花車のお角、勘彌、小萬一子太郎吉、竹松、長田太郎、鎌間大九郎、歌助、若徒八助、諏訪七郎、飛升、霞田傳、興三郎、同はゝき、政次郎、同かけはし、光次郎、下女おだい、にしき、葵御前、但馬屋下女、おつた、芝鶴。飯沼六郎、神田川與吉、友松、小松三位重盛、但馬や手代勘七、又三郎、百姓九郎助、大松屋手代段八、但馬屋九右衛門、市蔵、兵助女房おまき、但馬や娘おなつ、在所娘おつゆ、九郎助娘小まん、梅幸、[illegible]別當實盛、男達朝日奈藤兵衛、結城多門之助、植木賣請地の音、志村非人、彦三郎、平宗盛、壽三郎、第二番目淨るり道行は夢と情の縺もつう「襖重戀といふじ」うちわ賣、小團次、清十郎、竹三郎、富吉、友まつ、おなつ、梅幸富本連中相勤何れも評判宜しく、大出來○五月五日より市村座「新造纒奇談(しんぞうつりふねきだん)」白糸主水三まく残すもつれ髪の德兵衛、三河町の義平次ばゝあ、三十郎、宮田宗直淺田蔵次、源之助、釣舟子分秀、玉三郎、大島村の代官右衛門、但馬屋後家妙順、文五郎、同番頭傳八、龍太郎、鎗間大九郎、虎五郎、釣舟子分勘次、鈍次郎、こつぱの權次、又八、但馬や九

平次、こつ[illegible]、なまの八五郎、孫六、家主杢兵衛、吉助、猪王島屋庄左衛門、十蔵、祭り練り子関しまの伊三、猪三郎、同三[illegible]松のはな、花助、同花扇見の吉、青蔵、助松一子政之助、吉五郎、助松主計、吉三郎、げいしや一寸のお房、[illegible]郎、同七一子茂吉、由次郎、川長仲居おとら、大和次、同おむら、やよひ、同おもん、菊太、草加屋仲居おせき、松代、同おわさ、和三郎、同おたま、玉次、同お松、まつ三、但馬屋娘おなか、三之助、仲居おてう、蝶之助、中賣の蝋市、龍右衛門、おたつ妹おてつ、歌女之丞、釣舟女房おつぎ、小六、同一子三吉、源平、神樂坂の大八、友右衛門、暮しや團七縞の お梶、しうか、上州浦林の團七の蔵兵衛、來ッはし釣舟の三末、長十郎、宮田娘子竹九、竹松、仲人狂言「須磨都源平(すまのみやこげんぺい)躑躅」扇や上總、友右衛門、阿假輪平次、文五郎、扇折おなべ、龍太郎、奴うつ平、又八、提單次、歳蔵、おふさ折おいま、崔松、おまつ、松代おきく、菊次、同おやま、大和次、おそで、やよひおたね、玉次、おさか、三蔵、おいち、まつ三、おさと、三之助、お糸、蝶之助、扇や娘かつら子、歌女之丞、上總女房おまき、小六、扇おり小はぎ實はあつ[illegible]、菊次郎、熊谷次郎直實、吉三郎、淨るり豊

竹桐太夫、花澤伊五郎相勤〇夏祭り書替大に評よし義平次ばゝあ大に評よし上州ものゝ團七古人寄性には不及〇六月十八日より中村座「繪合操見臺」「箱根靈驗」佐藤鄉助後瀧口上野、庄屋德右衛門、鶴藏、飯沼三平、下部三千助實は飯沼勝五郎、友松、けいせい勝野、米次郎、下部段助、非人の八、梅八、同次郎、代官溝口源左衛門、純五郎、納川久馬、下女おあひ、相藏、筒井順慶、佐十郎、新左衛門女房早わらび、多舞、同娘初花、市之丞、九十九新左衛門、下部筆助、市藏、筒の三郎、義はる、壽三郎「苅萱桑門築紫䡄」三段目 監物太郎、鶴藏、桑原女之助、友松、けん物妻はし立、米次郎、大內之助義弘、イ藏、重氏奥方牧の方、光次郎、義弘奥方櫻木御前、市之丞、多々羅新洞左衛門、市藏「夏祭浪花鑑」上中下 釣舟三ぶ、三河屋義平次、鶴藏、一寸德兵衛、同女房おたつ、友松、玉嶋礒之丞、團七、女房お梶、米次郎、こつぱの權、千代飛助、なまの八、小半次、けいせい琴浦、にしき、三ぶ女房おつぢ、芝鶴、道具屋娘おなか、市之丞、團七九郎兵衛、市藏、何れも評よし、當狂言中棧敷代拾五匁高土間十一匁平土間七匁五分上るり「其儘描うつし繪」やつこびよう湯うり 鶴藏 丹前姿船頭 友松 けいせい茶や

女市之丞當狂言中小文字太夫連中相勤〇七月十九日より河原崎座「児雷也豪傑譚話」初編より十編迄 高砂勇美之助、男達夢の蝶兵衛、盗賊大蛇丸、瑞竜、姫松須摩太郎、深見丹三郎、高麗藏、百姓稲作、新七、刀屋伴左衛門、男女藏、熊手屋娘たかね、月影深雪之助、猿藏、百姓茂木兵衛、児來也手下逆竹の節八、廣五郎、姫松下部松平、自雷也手下濡彦い山藏、猿三郎、同亀、刻八郎、鶴はしや若者喜助、宗兵衛手下田の八、牛淵鎬忠太、三藏、山岸曾平太手下ひよろ藏、冠五郎、八鍾若徒やぶ平、手下風平、虎藏、同寒藏、足輕權平、武十郎、谷口傳六、熊手屋やりておつめ、蘭右衛門、新潟太鼓持八百八、栗平、同八、磯八、當作、畑作、娘みゆき、幸藏、百姓畑作、仙素道人、盗賊夜叉太郎、持丸富貴太郎、九藏、妖童小草、あかん平、浪人破田扇八、児來也手下波藏、德藏、同九里平、浪人笠六、寛六、蒲原與七郎、手下峠藏、下り嵐德松、奥女中吳竹、こし元しらきく、しげ松、同糸はぎ、熊手や新造早百合、やまと仲居おさん、娘きゝやう、三すじ、同尾花、くまでや新造なでしこ、福之丞、蛇横の尾、仲居おやま、辰之助、庄屋杢兵衛、椎谷軍八、團五郎、勇美之助妹てる田實は更科家息女田毎

娘、仲居おたき、口口手下そが九郎、七右衛門、勇きた之助作彌三郎、和三郎、けいせいつや衣實は畑作妹みゆき、富貴太郎女房おしづ、團之助、わる者かん八實は熊手や鐵四郎、浪人針崎とげ九郎、八鐘鹿六、奥山、月影部領照時、妖婦越路、けいせいあやめ、更科家息女田毎姫實はゆみの助妹てるた、女順禮つな手、粂三郎、實無上人實は兒雷也、更科郡守之助實は自雷也、巫女福吉實子實は同斷、此企の蔵人實は同斷、盜賊兒雷也實は尾形周馬弘行、團十郎、畑作悴太郎、長十郎第二番目「蘆屋道滿大内鑑」二た葛の葉狐、葛の葉姫、奴野勘平、瑠寬、信田の庄司、男女藏、石川惡右衛門、廣右衛門、まがき段八、冠五郎、阿部の童子、由次郎、あしや道滿、脊目お市、九藏、横實兵馬、武十郎、庄司女房まつ、小、訓しう、馬士仁太、和三郎、道まえ、奴方人江、粂三郎、安部保名、奴與勘平、團十郎、實、與作、長十郎、第二ばん目大切道行いろに色「露古郷狐葛の葉」馬士、和三郎、鮹賣、長十郎くづのは、りくわん、こそ、九藏、常磐津連中後大薩連中竹本戸和太夫連中相勤、二立目更科八幡の場、鼠の宿の場、大磯の場、八丁堤の場、地獄谷の場、妙香山の場、藤橋の場、賤家の場、新潟樓下屋の場、同敵討の場、同海上の場、詮議の場、同鹿六宅の場、濱下刑罪の場、月影館の場、瀧壺の場、國分寺山門の場、捕物の場、第二ばん目くづのは瑠寬評判よし、妙香山仙素道人兒雷也に術讓りの場、仙素道人▲市川九藏、尾形自雷也●團十郎

●廿とせさきを目前に見るにひとしき御物語り聞につけてもなき父が□は更科月影よ／＼今に籏上なし南家を初め鎌倉管領打亡ぼし□修羅の御無念はらさせ申さんァヽむねんや口おしやナア▲ホヽヽヲ血すじとてたのもし／＼さりながら汝わづかの衆賊を味方となしての大望はことせうじゆまだるし／＼今我妖術を讓りあたへん是を行ひたすけにせよ●スーヤがまの妖術をお讓りいたゞきれんとナ▲其身をきよめて忍とくせナムサッタルマフンダリキヤ●ナムサッタルマフンダリヤキ▲シユゴシウデン●シユゴシウデン▲ハライソ／＼●ハライソ／＼▲傳ふる術の會得なせしかコリヤ弘行と呼わる聲に●ハッ憔に會得致して厶り升す▲秘文を唱へて心見よ●ハッーナマサッタルマフンダリギヤシユゴシウデンハライソ／＼ハッ、かヽ

る妖術請つぐ上は龍に翼(つばさ)を得たる心地ア、ラ嬉しや悦ばしやナアと悦び勇めば道人かされて▲此妖術を行ふ上はぎしゆ蛇と唱ふる双頭の毒蛇の血汐を服する時は忽術破れとなる恐るべし〳〵●スリヤぎしゆじやの血汐を服する時は受行ふ術やぶれとナ▲神變不思儀の妖術も元墓のなすわざゆへ大蛇には敵しがたく此程黒姫山より年ふる大蛇夜な〳〵出みつ頃谷間より來り惱す事たび〳〵なり是を討んに術に及はず人力ならで退治しがたし汝師弟の因を思はゞ大蛇を打て我愁をはらしくれよ●ハ、仰にや及ふべき譬へ年ふる大蛇にもせよ飛道具にて打とらんナ此弘行が手裏にあり▲ホ、ウ恩義をわすれぬ汝がせいしん今より影身につきそふて猶行末を守べし〳〵●スリヤ影身にそふて大望の助となつてくだされんとナチエ、忝なやナア下略す

○繪入讀本自來也物語十冊感和亭鬼武作北馬畫文化四卯年浪華芝居にて脚色(しくみ)三代目市川團藏自來也大當り是より市紅家之狂言となりし偏に鬼武の手がらといふべし其後天保十亥芝和泉屋市兵衞より美圖垣笑顔此作意に假用して盜賊自來也を田舍源氏の光氏の優姿になし出板せしに大當り無程笑顏死去す嗣編溪齋英泉筆を取しに最も又遠行し嘉永三春柳下亭嗣作して今盛に行わる鬼武の自來也を當世姿に直せしは美圖垣のはたらきといふべし此度新狂言に仕組彼是添削して大當りを取しに能進翁の筆意格別にして諸見物感心せしなり

○八月廿八日より中村座「御伽譚博多新織(おとぎばなしはかたのいまおり)」浦橋八十之助實は赤松滿祐一子十太丸後浦橋彈正、光耀山兒孝壽丸後孝養法師、竹太夫娘おまつ、後めのと五十嵐、孝養の亡靈、囘國修行者妙典實赤松則方、小團次、光耀山兒友若丸實生嶋次郎光陽、鞠川志津摩、今樣役人柳ヶ瀨但馬、竹三郎、貞行妹爪琴姫、奥田屋仲居おふじ、寶田奥方久かた御前、市之丞、光耀山兒季若丸、氏部傳內、今樣之役人井貝左平次、鶴藏、七草異人杯磐道師、杉の三太夫、佐十郎、堅村五平次、判人善六、大次郎、金村彌次兵衞、同宿雲月坊、音八、光耀山別當法了阿闍梨、大垣賴母、簑部競入道、大坪孫左衞門、勘彌、藤右衞門 妾花園、福清女房おさき、宗七母おまち、歌六、荒川玄蕃、鬼瓦個六、歌助、衣笠左近、船大工吉五郎、我升、同權三、森五郎、尾川十平次、岩五郎、娵

もみぢ、與三郎、同てりは、仲居おさき、政次郎、同おせん、娵きゝやう、光次郎、同かるかや、仲居およね、米次郎、同おきん、娵にしき、にしき、同松ヶ枝、仲居おはま、芝鶴、同おこう、衣笠妹守の戸下り山下里江、與女中常磐木、仲居お吉、住好、下部志賀平、赤澤諸作、友松、五十嵐圭水、吉田圭計之助、又三郎、多々羅刑部貞純、小松屋宗左衞門、千力權藏、浪人三輪毛作太夫、市藏、光耀由兒紅梅丸後貞行愛妾お雀の方、博多けいせい小女郎、賤の女七草の小萩實は赤松息女紅梅、室田息女八重桐の靈、梅幸、筑紫大領貞行、越野藤右衞門、安養寺の下男菊助實は猿嶋新作、房川內藏、福岡屋清兵衞、農夫太郎作實は七草四郎、細川修理之助、彥三郎、入間多門之頭、菊三郎、第一番目三幕目淨るり玉條の牡丹臺も夢に婦しき七草の繰言「濡衣法解」見小團次貞行、お筆梅幸彥三郎、富本豐前大掾連中相勤第二ばん目大詰淨瑠理上の卷小鍛冶の姿子も相の二人[illegible]「赤部色合樋」下の卷道成寺の今樣に寫し恨の二面「花紅葉連理鼓人」小團次竹三郎、梅幸彥三郎、常磐津豐後大掾、三弦岸澤式佐連中相勤長唄囃し連中上るり竹本美須太夫、同嶋太夫、三弦鶴澤市左衞門相勤何れも評判よく大出來也○七月九日より市村座「名譽仁政錄」須藤六郎右衞門、八百や半兵衞、江戸屋鶴四郎、三十郎、妻籠のおろく、花友、下部磯平、おさらぎ六郎、市着切喜三、源之助、小太郎信行、かいや善六下り中村福助、淺羽十郎、橋藏、稻のや手代和三郎、玉三郎、雲助得こぶの百、文五郎、非人仁三實は嶋野伴藏、いなのや手代甚助、梶太郎、鍛冶屋善太、若徒伊平、銑次郎、かぢや孫兵衞、伊皿子七郎、虎五郎、青鷺の金、又八、判人かん七、大工後家おこう、鴻藏、越後屋荷持重藏、十藏、新藤右左衞門、筋川源十郎、淨慶國師實は雲切仁左衞門、吉三郎、喜八妹おつゆ、梅の井のおはな、けいせい瀨川、菊次郎、いなのやでつちよし松、由次郎、髙市庄之助、寅の助、娵撫子、和三郎、下女お玉、玉次、中老松しま、まつ三、稻のや下女おさす、三之助、娵きゝやう、蝶之助、いなのや後家おかん、大工棟梁金兵衞、觀右衞門、佐平女房おぬい、稻野屋娘おけい、新左衞門、妹おろく、歌女之丞、清三郎、母深雪、喜八母おきぬ、小六、いなのやでつち長太、源平、須磨清三郎、武右衞門、女房秋しの、芝鶴、山脇十藏、嘉村宇多右衞門、眞の谷才、友右衞門、新左衞門女房おとき、十藏、娘おきく、時見のお八、お下代、ゑう

か、たばこや喜八、稲のや半兵衛、入間郡領光義、青砥左衛門藤綱、長十郎、入間守之助、竹松、第一番目四幕目淨るり夕立は晝にかくあめの姿かな「濡袖浮名緯」おちよ、しうか、長太、源平半兵衛長十郎、富本連中相勤同六幕目所作事花露の姿畫にならつて「檜初嫁七草」腰付馬乗い己頃歳清女房頭、福助、女太夫、しうか角兵衛しかむろ羽左衛門、常磐津兼太夫後大掾萬壽太夫式佐連中長唄囃子連中相勤○第壹番目二幕目小太郎信行福助下り中村福助

○女非人しうか着て居る酒樽の薦金糸にて縫たる物にて格別目立し歸りかへしのだんまり大出來なり父芝翫下りし時菊之丞女非人にて兩人の立まわり大評判なりし此度も評判なり

○九月三日より市村座「金毘羅利生稚讐」民谷源八、森口鶴藏、三十郎、八木の與方桂の前、花友、民谷新三郎、源之助、丸亀貢之助、福助、民谷下部鼠助、有高濃泉亭主善兵衛、橘藏、高松數馬、玉三郎、雲助並木の松、文五郎、黒井官藏、花や徳家おくま、田川玄蕃、龍太郎、大松坂抱おまめ、猪三郎、同おきよ、青彌、源八娘おはな、花助、大松坂かゝへおふか、福太郎、青柳左司馬、鶴谷村百姓當作、吉三郎、源八女房おまち、徳藏女房おのへ、後吉瀬川、菊次郎、金比羅の神童、由次郎、大松坂抱おとら、寅の助、同おうた、歌柳、里見武左衛門、ぬめた順才、中村鼻右衛門、有馬の湯女おきく、菊次、同おやま、和三郎、姉東路、松代、同道芝、やよい、大松坂かゝへおしま、玉次、同おかつ、まつ三、同おさん、三之助、同おてう、蝶之助、若代傳內、龍右衛門、瀬平妹お才、有馬の湯女おふじ、歌女之丞、生駒御前、小六、八木政市郎、源平、大川久馬之丞、芝雀、森口甚平後源太左衛門、友右衛門、文藏女房おあさ、大松坂抱其朝、しうか、金比羅權現化身、民谷若徒唐木文藏、槌谷內記、助高屋高助澤村長十郎改名す音川一子、音丸、吉五郎、禿みどり、竹松源八、一子坊太郎、足利左門之助、羽左衛門、第二ばん目「攝州合邦衢」八ッ目行者合邦、三十郎、高安俊徳丸、福助、淺井平馬、龍太郎、高安次郎丸、イ太郎、講頭稲本屋庄兵衛、又八、入平女房おとき、まつ三、影山息女淺香姫、歌女之丞、合邦女房おとく、小六、奴入平、芝雀、玉手御前、しうか、高安左兵衛門道俊、高助、河內左門之助、羽左衛門、淨るり富本連前太夫、豊竹雀飼太夫連中相勤第二ばん目大切上るり積數のいる目に着や花紅葉「市陽小袖看宮戲」市右衛門、三十郎、小藤內、五三郎、福助、庄九郎、吉おみ

つ、かめ之丞、おやす、次郎、おせん、しうか、菊文七、高助常磐津連中相勤○九月廿三日より河原崎座「一谷嫩軍記」熊谷女房さがみ、璃寛、源九郎義經、越中次郎盛とし、高麗藏、浦の冠者範頼、新七、參議經盛、男女藏、玉おり姫、猿藏、梶原平次、廣五郎、本田の次郎、猿三郎、番場忠太、宗兵衛、洲の又運平、冠五郎、わつぱの菊王、幸藏、安徳天皇、あかね平、有國妻伏屋、三すじ、景家妻松風、扇之丞、大館玄蕃、國五郎、盛次妻夏菜、鯉とう、堤軍次、七右衛門、山風荒丸、和三郎、ふじの方、團之助、平山武者所、奥山、石屋彌陀六實は宗清、海老藏、熊谷小次郎、大夫あつ盛、粂三郎、熊谷次郎直實、團十郎、初しま五郎、若太夫、權十郎長十郎改名「奥州安達原」三の切桂中納言則氏實は安部貞任、鎌杖娘袖萩、璃寛、鎌杖直方、男女藏、袖はぎ娘おきみ、由次郎、鎌杖妻濱夕、團之助、外ヶ濱の南兵衛實は安部宗任、海老藏、義家奥方敷妙、粂三郎、八幡太郎義家、團十郎、淨るり竹本戸和太夫、鶴澤市作連中相勤、此度市川海老藏元祖市川團十郎百五十年壽二代目市川團十郎百歳壽並一世一代として歌舞伎十八番の内「勸進帳」武藏坊辨慶、海老藏、戸樫左衛門、團十郎、常陸坊、高麗藏、義つね、猿藏、兵藤、奥山、權藤、廣五郎、伴藤、國五郎、駿河次郎、猿三郎、伊勢三郎、宗兵衛、亀井六郎、七右衛門、相勤長唄瀧村音藏、芳村孝十郎、同孝次郎、同孝十郎、同伊千三郎、同金五郎、杵屋六三郎、同勝五郎、同正三郎、同安源四郎、杵屋勝太郎、同歌音藏、住田新作、きし田伊左衛門、西川扇藏、望月太之助、杵屋六翁、望月太喜藏、望月太左衛門、第二番目大切淨るりありし姿のきぬもつて古「新よし原雀」女郎、放し鳥賣、粂三郎、いきみ、團十郎清元太兵衛連中相勤いづれも大出來大々當り

一世一代口上　　市川海老藏

高ふはムり升れど御免を蒙り升て是より口上を以て申上奉り升す先は當芝居御ひゐきとムり升てかよふに賑々敷御見物なし被下升る段座元河原崎權之助は申上るに及ず若太夫權十郎其外惣座中いか斗りか大慶至極に奉存升す隨ひ升て申上升するは私儀寛政六年市村座に置升て神靈矢口渡に德壽丸の役を四才にて初舞臺相勤夫より今年今月今日迄大江戸の御最負御取立を以て家名連綿と役者家業相勤升る段冥加至極難有仕合奉存升扨追々老年に及び心に替りはござり升せね共立振舞は元より口跡等も以前に替り升た

る事ゆへ功なり名とげて身しりぞくと申もをこがましきことながらもはや本卦がへりも過ましたれば一世一代相勤舞臺納致度忰團十郎共相談の仕元祖團十郎百五十年壽二代め團十郎百年の壽右壽を兼升て一世一代相勤たく夫々樣へ御願ひ申上升たる處難有も御ゆるしを蒙り當狂言を限り舞臺退身仕升る樣にムり升る別まして申上升るは是なる忰團十郎儀にムり升す私親とは申ながら産せ升たと申ばかりにて何一ッ敎へも致さず無覺束未熟不調法なる忰を御見捨なく御ひゐき御取立を以て役者の數にも加はり殊に座頭の大役相勤御取はやしに預り升るは全く成田山の御利益先祖の餘光御攝樣の御蔭ゆへ此御禮は中々詞には申し盡されませぬ樣にムり升る其上ならず高麗藏猿藏幸藏あかん平迄兄弟共夫々御取立私身にとり心魂にてつし冥加至極難有仕合に奉存升る且先祖團十郎二代目團十郎の壽並私一世一代御名殘り狂言に何にがな相勤御覽に入升ッやと忰共相談致し居り升る折柄去る御贔負樣より家の狂言歌舞妓十八番の内勸進帳のシテ相勤忰に戸樫を勤させよとの御差圖に預り升たれ共勸進帳の儀は先年私相勤忰に讓り置升たるゆへ四年跡上坂の砌御名殘り狂言に相勤いまだ間もなく殊に先年私シテを勤又々同事を致升るは御慰にも相成ませねば此度は戸樫のワキを相勤やはりシテは忰に勤させ升てはいかゞでムり升ふやと申上升る處イヤ〳〵一世一代にワキを勤むるもいな物なればぜひ〳〵シテを相勤るよふにと再三の御進めに隨ひまして古めかしくもシテを相勤升る其替り是を一世一代に仕り升ると申ゑるしを御覽に入升るト（かづらをとりて剃髪せしあたまを諸見物に見せ）かく誠の坊主あたまへ兜巾を當て辨慶役を相勤御覽に入奉り升すもはや當狂言限りにて六十年來の御馴染何れも樣方の御尊顏の拜し納と存升れば誠に以て御名殘おしくいつ〳〵迄申上升ても申盡しがたく短日の砌狂言のさまたげにも相成升れば心に思ふ十が一ッ申上先ッは先祖團十郎百五十年の壽二代目團十郎百年の壽幷私一世一代の御名殘り又忰共御ひゐき御取立に殘りし御禮の口上すみから角迄ずいと申上奉り升す

壽勸進帳

×シテ武藏坊辨慶　市川海老藏
△富樫左衛門　市川團十郎

○山伏問答（前文略之）×夫修驗の法といつぱ台藏金剛の

兩部を旨とし險山惡所を蹈開き現世愛民の慈悲をたれ或は難行苦行の功を積惡靈亡魂成佛得脱させ日月清明天下太平の祈禱をじゆす故に內には忍辱慈悲の德を納表に降魔の相をあらわし惡鬼外道を威伏せり是神佛の兩部にして百八の珠數に佛道の利益をあらわす×シテ袈裟衣を身にまとひ佛徒の形に有なら額ひに頂く兜巾はいかに×則ち兜巾篠掛は武士の甲胄にひとしく腰には彌陀の利劔を帶し手には釋迦の金剛杖を以て大地を突て蹈開き高山絕所を縱橫せり△寺僧は錫杖をたづさへるに山伏修驗の金剛杖に五體をかたむるいわれは何と×事も愚かや金剛杖は天竺檀特山の神人阿羅々仙人持るゝ靈杖にて台藏金剛の兩部を籠り釋尊罹曇沙彌と申せし時阿らゝ仙に給仕して苦行し玉ひャャ功積り仙人其信力强勢をかんじ罹曇沙彌を改て照普比丘と名附たり△シテ又修驗に傳りしは×阿羅々仙より照普に傳ふる金剛杖かゝる靈杖なれば我祖役の行者是を以て山野をけいれきなし夫より世々に是を傳ふ△佛門に入ながら帶せし太刀は只物おどさん料なるや誠に害せん料なるや×是ぞ案山弓矢ににたれどおどしに佩の料ならず佛法王法の害をなす惡獸毒蛇は言に及ずたとはゞ人間なればとて佛法王法に敵する惡徒は一殺多生利に依て忽切て捨るなり△目にさへぎり形あるものは切玉ふや×無形の陰鬼陽靈は九字を以て切斷せんに何れぞ難き事あらん△シテ山伏の出立は×則其身を不動明王の尊容にかたどるなり△頭にいたゞく兜巾はいかに×夫ぞ五智の寶冠にて十二因緣のひだをとりて是をいたゞく△かけたる袈裟は×九會曼荼羅のかきの篠掛△足にまとひしはゞきはなんと×台藏黑圖のはゞきと稱す△扨又八ッのわらんずは×八葉の蓮花を蹈の心なり△出入の息は×阿吽の二事△抑九字は大事の深秘にして語り難き事ながら疑念のはらさん其爲に說聞せ申べし夫九字の眞言といつぱ謂る臨兵鬪者皆陣列在前の九字なり正にきらんとする時はたゞしく立て齒をたゝく事三十六度手へ右のおゝ指を以て四縱を書き後に五橫を書く其時急々如律令と咒する時はあらゆる五陰鬼煩惱鬼惡鬼魔立所に亡事霜に熱湯をそゝぐが如し實に元品の無明を切の大利劔莫耶が

劔も何レぞしかん武門にとつて兇を切ば敵に
勝事疑ひなしまだ此外にも修驗の道ぎねんあら
ば尋に應じて答へ申さん其德廣大無量なり肝に
ゑりつけ人に語るな穴かしこ〳〵大日本の神祇
諸佛菩薩かんのうあれ百拜敬主恐れみ〳〵謹で申
ト云々

○勸進帳此度三度目古今大當り辨慶士卒を相手に
酒盛の所初て興行の節よりあつさりとしてよし右
狂言考は別記にくわし此度壽と一世一代御名殘り
狂言に江戸中の御攝連中へ扇を呈上す其扇に

「野々錦衣裝も秋も名殘りかな

予に送られしに前書に牡丹の根分もめでたく屆き
て

跡々も安宅の松や子供等の
みとり揃へて落葉かくなる

又一書に一世一代に入道して勸進帳も首尾能勤有
難さのまゝに

壽海老人

うれしさや役者の業もすみすゝり
筆も坊主になりたや白猿

能書にて諸藝に勝れ風流のこと也實に俳優の名家
と稱美すべし

○十一月七日より顏見世中村座「廓春玆光秀」第一ばん目二番目の間「嫗山姥」第貳ばん目「戀花章梅かしく」小田上
總之助春永、眞柴久吉、荻のや八重桐、福嶋や手代淸
七實は平井藩中船越十三郎、竹三郎、園生局、時行妹
しら菊、げいしやお仲、市之丞、安田作兵衛、娍おう
た、關東屋太次兵衛、鶴藏、武智郎等杉原十平次、家
主佐次右衛門、佐十郎、山口九郎次郎、平井藩中、堀彌
藤次、大次郎、庄屋茂作、里親おかんばゝあ、吾八、小
田三法師君、竹松、本能寺日和上人、取上ケ子安ばゝ
あ、歌助、大工の鐵、森五郎、四方天又兵衛、平井の藩
中柚木潤平、白十郎、百姓くわ六、鯉三郎、こし元もみ
ぢ、淺山いもとしがらみ、光次郎、光秀妹きゝやう、兼
冬息女澤瀉姬、米次郎、國守妹松がへ、侍女深雪、芝
鶴、森蘭丸、加藤虎之助、正木佐五郎、友松、柴田勝家、
かぢや藤兵衛、隨德寺住僧海月、太田十郎、市藏、光秀
母さつき、三好息女白梅、六三女房おその、女盗賊眞
砂路實は白梅、げいしやかしく、梅幸、武智十兵衛光
秀、たばこや源七實は坂田藏人、平井藩中正木七之

助、大工六三實は正木七之助、千原主膳、今川次部太輔義元、左三郎、平井多門之頭、喜三郎、第弐番目淨るり納さらひの一ト節も「仇情色二道」清七、竹三郎、かしく、梅幸、嵐まかせた柳はし　お竹、市之丞、六三、彥三郎、富本豐前大夫、名見崎勇三連中相勤大出來狂言作者瀨川如皐、市岡和助、豐嶋評造、梅田故輔、村冠次、奈川晴助、當狂言中棧敷代廿五匁高土間廿匁同平十五匁○十一月八日より市村座「鵯山姫捨松」第弐番目夕ぎり、伊左衛門「廓文章」跡見赤根、百嶋太夫、三十郎、芹摘后、花友、横萩右大臣豐成、源之助、吉水太郎光致、秦の娘おむく、ふじや伊左衛門、福助、舍人調子丸、讚岐六郎、橘藏、榛名大九郎、百姓新作、鼫太郎、粂の八郎、鉄次郎、馬淵鈎ヶ山、義藤次女房おとら、虎五郎、跡見八郎、大ふく餅賣太郎兵衛、又八、鶴幸法印、東の六郎、鴻藏、現樂坊、百姓仙平、十藏、淡路瓊帝、奴眞平實は左近之進春時、寂蓮僧都、中臣小四郎勝海、吉三郎、横萩御臺岩根御前、吉田屋喜左衛門、勘彌、跡見女房菊の井、大倉左門娘おりう、菊次郎、跡見一子小太郎、花助、茂藤次娘おさん、歌柳、永井大部、鞆の八郎、鼻右衛門、中將姬侍女吳竹、まつ三、官女月ます、三之助、水茶屋女おてう、蝶之助、れうし彥次、あら繩茂藤次、喜左衛門、官女花ます、歌女之丞、眞平女房おふみ、同母おりさ、吉田屋女房およし、小六、小のゝ妹千と瀨、源平、奉行藤成平、五位之助諸善、芝雀、修驗者玄海、守屋大臣、女右衛門、稻田の龍女、横萩息女中將姬、吉田屋夕ぎり、寶嶋女房楫の谷、しうか、葛城の嶋主、京の貴勝、高助、秦高丸、吉五郎、同勝丸、竹松、稱德天皇、猶左衛門、第二番目大切淨るり、夕ぎり、しうか、おかし、小六、伊左衛門、ふく助、喜左衛門、かん　やゝ、ふく助、二日替りに相勤　常磐津豐後大掾、岸澤式佐相勤大出來

此淨るりは初二人リ夕ぎりの幕開き伊左衛門の昔くとく拔露「三羽鶴中吉田屋」夕ぎり、瀨川菊次郎、坂東、澤村由次郎、市主、中村かしく之丞、澤村源平　夕ぎり、しうか、伊左衛門、高助　此役わりにて興行之處一番目狂言故障有之右に付高助外一兩人出勤なく此淨るり相止めしうか福助にて廓文章に替りしなり、狂言作者櫻田治助、松嶋半二、同鶴二、福森久助、紀の文左衛門、松嶋てうふ

○當霜月狂言相勤候來春役替入替仕候ト惣下番附に斷書を出し以來春の入替りになる故に入替り番付なし

當座狂言初め大名題「花和讃新羅傳記」此狂言は一向宗開山親鸞上人御一代記にて初て大坂豐竹座にて寬延二巳七月花和讃新羅源氏と云梁塵軒の作な

り此上るり本願寺より察斗ありて興行中場に止む
其後江戸豐竹座にて親鸞聖人繪傳記と外題を出す
夫より文化七午どし大薩摩吉右衛門座にて十一月
親鸞記となし興行せり其節聖人御眞筆の御名號を
大ぎりに舞臺の正面に錺り諸人に拜せしむ是は來
未年御開山聖人五百五十回忌に付取越して興行せ
り此度も幾にして止む其節の太夫人形遣役わり爰
略す此度も又々察斗あり早速鵰山姫捨松と名題を
改右に付高助三十郎出勤なし狂言大に評よし
○十一月十日より河原崎座「忠孝假名書講釋」寺岡平
右衛門娍お高後高の、妾おらんの方、あふみや次郎右
衛門、璃寛、金やり嘉兵衛、大わし文吾、高麗藏、石堂
縫殿之介、新七、ちゝ、貫善助、喜內女房おはし、男女
藏、大星力彌、猿藏、尾林兵內、廣五郎、千崎彌五郎、猿
三郎、小山田庄九郎、宗兵衛、惣嫁おきみ、神主左司
馬、冠五郎、大星大三郎、幸藏、同吉千代、あかん平、重
太郎、一子太市、粂二郎、猿廻し丹兵衛、旅人彌次八、
寛六、九太夫下部鎌平、茜屋おくろ、德藏、庄九郎妹お
松、しげ松、惣嫁お百、庄右德右衛門、國五郎、杢右衛
門妹お市、鯉とう、一文字屋才兵衛、植木屋橘六、和三
郎、けいせい浮はし實は喜內、娘おむつ、寺岡女房お
北、闇之助、斧九太夫、赤垣源藏、眼屋大四郎實は進藤
源四郎、奥山矢間喜內、不破數右衛門、植木杢右衛門
實は小寺十內、海老藏、重太郎女房おりへ、娍かきつ、
勘平女房おかる、粂三郎、矢間重太郎、早野勘平、小間
物屋彌七實は佐藤與茂七、團十郎、萬歳鶴太夫、權十
郎、足利直義公、權之助、大切浄るり（淺からずおもひ染井の植木屋に）「菊
千代傘言」（おらんの方、りかん 與茂七、團十郎）清元太兵衛連中相勤一世
一代勸進帳是迄通相勤何れも大々當り三戲場顔見世
何れも大出來大當り大繁昌日數打切千秋樂めでたし
〳〵

四代目中村歌右衛門大坂表におゐて終る（行年五十五歲 大坂中寺町常國寺葬す）
法號　歌成院翫雀日龍信士
同十九日葬禮の行列甚だ大行にて、先達正法寺（信陸 尺挾）
（箱新化 香持同）長柄（合羽籠 曲ろく）人數（八 十二）次蓮光寺（右同 斷）法性寺（右同 斷）雲雷
寺、圓妙寺、次本寺、常國寺（供廻り同斷 わけて立派）大坂芝居惣懸り
合之者（左官大工棟梁いろは茶屋のもの）惣廊上下一本（大はた）小はた四本花持五
人位牌（平次郎外 手代共）警固（人數わり 竹持數人）道香（さき助、花右衛門、こま助）芝藏事施主
中村玉七（初弟子江戸勤は名代にて十四五人）其外惣役者不殘

右何れも自身番所に白無垢上下にて編笠冠り二行にならぶ然るに見物群集ゆへ一行になりし故成駒屋家内より千日墓所迄つゞきしと云々諸見物は役者の燒香を見んと千日は人々山のごとく押合て十二三歳の女子七八歳の男子踏殺されし由此日千日前に御仕置に獄門かゝりありしに其繩張り押切後獄門臺取のけ行ことも歸ることも動く事ならざりしゆへ役者は中途より逃歸りしもありしと云々是迄役者名人も多く葬式ありしに此度のごときは未曾有之事と浪花よりの文通のまゝを抄略して爰に記せり

○江戸表は六月七日八ッ時葬式寺は土富店長遠寺日蓮宗施主關三十郎同門弟市川小六こゝに藏此日群集にて寺の門前に早朝より緣日のごとく出商人居ならび賑々しき事なりき、糀雀追善之詩

還老戲子之冥途、春口早成駒不斷、城中村外有非聲、左歌右舞從今罷、葉裏梅酸代我情

きゝものゝ飛車と角との成駒屋
乘てのり込彌陀の淨土へ　豐芥

○江戸贔負連中にて追善集出板彩色本二冊詩歌發句狂句東都に名高き人々の手向なり其内狂句に

編笠で逆るあわれや猿まわし　川柳
西をうしろに花道の蓮生坊　梅摩呂

○右歌右衛門は三芝居の振付藤間勘十郎倅幼名吉五郎後藤太郎又龜太郎改三代目歌右衛門門弟となり大坂にて中村鶴助と改名文政六芝翫と改同十年十一月中村座へ下り天保四大坂上り彼地にて四代目中村歌右衛門と改名す天保九三月中村座へ下り嘉永二八月市村座におゐて御名殘り狂言大坂表にて三ヶ年相勤再び江戸え下り一世一代相勤との口上なりしにはからず十萬億土西の都に趣かれしはおしき哉〱

花道を行蓮生のいかなれは　六樹園
西の棧敷にうしろ見せけん

此狂歌を燒直しもせず生で盗みしものなれど手向の句に西をうしろにとはどういふこゝろかされば言葉は生に盗みたれど意は大にたがへりここが上手と下手のわかるところならん

花江都歌舞妓年代記續編卷の廿七

◎嘉永六癸丑年

○正月十五日より中村座「擧廓三升伊達染(こぞつてくるはみますのだてぞめ)」仁木彈正直則、與右衛門女房かさね、土手の道哲、下總羽生之助直累の靈、三浦屋藤左衛門、箱根の畑右衛門、曾我五郎時宗、小團次、浮世渡平、山中鹿之助、植木賣松、高麗藏、大場道益實は田町法印、海川坊庄屋德右衛門、羽生村の金五郎、山名宗全、市藏、嘉村右京妹沖の井、近江や女房おふじ、げいしやおいち、市之丞、馬士多々八實は不破伴作、道益妻小まき、てうしやでつち德松、大江國幸、鬼貫、鶴藏、香取新吾、汐澤丹三郎、猿三郎、黑澤官藏、横川大八、宗兵衛、刀屋三四郎、太倉侍軍兵衛、吾八、白酒賣この吉、幸藏、船橋てうしや三ふ、井筒外記左衛門、彈正妹八汐、渡邊民部、田舍ごぜおさん、小林朝日奈、岩見重太郎友秀、三十郎、白酒うり花吉、花川次郎三、我升、松錦木、仲居おしも、三すし、同おふく、松鶴屋禰之丞、同みやぎの、新造高しの、米五郎、男達鬼門子分風神ふく六、篦野才藏、雀十郎、渡會銀兵衛、石山源吾、歌助、けいせい高尾、與女中松しま、在所娘お梅、歌女之丞、大工與四郎、與右衛門妹おきく、歌かた姫、大舘左馬之助、猿藏、足利鶴千代、粂次郎、山名奥方榮御前、三浦屋女房おうた、帶刀妻象潟、歌六、政岡一子千松、あかん平、めのと政岡、赤松息女白ぎく、出雲のお國、げいしやおこま、女達雷のお鶴、植木賣七草のおすゞ、大磯のとら、梅幸、足利賴兼、關取絹川谷藏後與右衛門、祐念和尚、足利次郎義高、細川勝元、飛驒内匠之助、工藤左衛門祐經、三筋綱五郎、荒獅子男之助、團十郎、靑砥五郎藤次、壽三郎（第壹番目と貳番目の間にて）淨るり（年々曾我の摸樣に倣て時代と世話を姿のいろどり）「當叶東綿繪」（五郎 馬士）小團次（在所娘、か めの丞）（朝日奈 瞽女）三十郎、豆藏（幸藏 花助）（大磯の とら）（植木うり）梅幸（工藤 いさみ）團十郎、常磐津豐後大掾、小文字太夫（三弦）岸澤小式部、三藏、文左衛門連中竹本美須太夫、同美代太夫三弦鶴澤市左衛門連中相勤何れも評よし○正月廿一日より市村座「里見八犬傳(さとみはつけんでん)」（七編より九へんまで）犬田小文吾、盜賊とぶ六、鳶小林朝吉、曾我五郎時宗、吉三郎、里見息女しおり姫、花友、犬村大角、大磯たいこ持新孝、お山の九助、天津高繼、源之助、犬江親兵衛、山崎屋養子親助、古著二國軒、禰助、常磐津文字よし、山崎

屋後家おかく、仲居おいね、小六、たいこ持友作、四六城の下男田楽助、友松、鮫の森礒九郎、酒呑次手下わな八、備前左仲太、猿太郎、長岡子太郎、中菊若者蝶吉、水茶屋若松の朧東、鉄次郎、杢作女房名引、酒呑次手下牛吉、沙三、蒲原郷藏、男達権兵衛、又八、泡雪中間かや内、酒呑手下なた藏、成藏、牛力士よもぎ村の久三、男達両九郎、入藏、仁田山新吾、猿右衛門、いろは茶千島山次郎、犬山道節、橋の戸津守、石亀や仁太郎、勘蒲、犬坂毛野、新町けいせいあづま、杢作娘濱路、酒呑次女房船虫、草の濱路亡靈、菊次郎、力ざいばん小栗、山村幸十郎、たいこ持卒中、らい助、百堀鯖六、男達腕の喜六相しま備右衛門、泡ゆき、中間おば内、牛力士はな右衛門、鼻右衛門、石亀屋下女おいく、柴枝、四六城の下女おせん、仲居お百、光次郎、石亀屋下女お三、若造君な、三之助、四六城下女おつた、仲居おこま、芝鶴、石かめや下女おしげ、けいせいみやこ、しげ松、入間師慶伯、泥のうみ土丈夫、牛十郎、虫村の須本太、酒呑次手下猿六、猿右衛門、非づゝ、娘分おます、歌棚、大黒屋傳三、若者札の松、源平、犬飼現八、四六城杢作、廿利兵衛高元、河鯉権之助、雀雀泡雪魔門

郎實は籠山逸藤太、梅澤屋小五郎兵衛、ゝ大法師、醫師道伯、友右衛門、犬塚信乃、大いそげいしやおひさ、山崎屋娘おもと、頼朝息女大姫、粂三郎、犬川莊助、童子格子酒顛次、たいこ持總八、油商人山崎や與五郎、工藤左衛門祐つね、高助、足利義若丸、吉五郎、指月院所化念慮、竹松馬士三吉、里見御曹子義通、羽左衛門第一ばんめ四立目淨るり後に角田の七福遊名に牛島の八人藝「色湊寶入船」朝吉、吉三郎、たいこ持、源之助、傳三、源平、三勝、ふく介、おひさ、くめ三郎、おのへ、菊次郎、たいこ持、友右衛門、つち八、高助初め七福神後牛島八人藝對面祐つね、高助時宗、吉三郎常磐津豐後大掾、岸澤古式部相勤第貳番目中幕淨るり重戸鏡助「仇結夢手枕」しん助、福助ちどり、由次郎いろは、粂三郎馬士、羽左衛門清元太兵衛三弦千藏連中相勤○去る丑春狂言八犬傳初へん八編迄より興行當春七へんより九編迄此度三立目北越白旗社角突の神事に小文吾荒牛を組留る是を初とし

○酒呑次船虫雪中に礒九郎を害す猿石山中に信乃奈四郎をこらし四立目七福神上るり四六城杢作方にて前の濱路の亡魂濱路を誘ひて戌孝と會する場小千谷の石亀屋に船虫小文吾を討んとす酒顛治住家岩窟の場大詰慈眼寺に二犬士酒呑次初め衆賊を皆殺しにす貳番目おもと親助夢の場油賣與五郎

けいせい吾妻を見そめより大切迄大に評よし併ながら去春の八犬傳に者不及

○二月七日より河原崎座「しらぬい譚(ものがたり)」菊地左衛門佐貞行、犬千代うは秋篠、漁師波六實は村岡員平、玄海灘右衛門後ち荒波大臣、璃寛、鳥山犬千代後ち秋作照忠、鷲津六郎正時、操人形の三番叟、歯磨賣百眼米吉、下り嵐璃玨、はしつ七郎正吉、雪岡冬次郎、同妹てる葉、せんまい人形の千歳、道具屋つる作、竹三郎、淺倉三太夫、百姓只作、男女藏、瀧川小文治、とつこや息子花吉、和三郎、宇壺矢九郎、渡し守軍八、廣五郎、漁師ふか八、雪岡下部眼介、大次郎、盗賊足長太郎、茶道進齋、冠五郎、早良門藏、蜑おたこ、茂々三、白縫手下左四六、割鐘くわん內、武十郎、箱崎傳八、りうしこき六、寛六、石垣伴藏、あまおくら德藏、漁師沖藏、白ぬい手下汐藏、德松、梶作娘かるも、夏之丞云號柵、隹好、禿岸の、あかん平、足利義尙、幸藏、冬次郎弟力松、禿浪路、吉彌、れうし梶作、庄屋佐次兵衛、佐十郎、惡ものまや助、虎五郎、青柳下部强平、漁師網藏、下り中村萬六、同胴六、轂手運八、下り嵐芝五郎、新造あら礒、鳥山媤八千代、やまと、同一重、新造おしてる、朝次郎、白縫手下お岩、媤早わらび、まつ三、同紅梅、新造眞砂路、蝶之助、神崎右京、白ぬひ手下笘次、我升、あら鐵太刀藏、大友下部邪摩藏、國五郎、漁師灘藏、玉島左司馬、七右衛門、蔭澤夏之丞、雪岡媤松代、獨鈷屋抱綾をり、團之助、大友岩太郎、漁師鮫藏、獵人彌平次、奥山大友息女若菜姫後白縫大臣、漁師春吉後に青柳春之助、鯖九郎娘小礒、ぜんまい人形の翁、藝者ひで吉、しうか、鳥山豐後之助保忠、七草官丁禮の亡靈、漁師ひれ九郎、大友刑部宗連、田舍侍浮田喜源太、彦三郎、龜屋多門之助光行、まゆ玉賣八つ花の作吉、權十郎、第貳ばん目大切淨瑠理上の卷難波之みやげにやうかましくも操の三番叟「柳糸引御攝(やなぎのいとひくやごひゐき)」三番叟、りかく千歳、竹三郎翁人形しうか下の卷江戸名所の淺草に梅にゆかりの豐後の一節と「霞色連一群(かすみいろつれてひとむれ)」百眼米吉、璃玨道具や鶴吉竹三郎けいしや、小秀、しうか田舍侍、彦三郎まゆ玉賣、權十郎、常磐津豐後大掾、小文字太夫、岸澤古式部連中長唄はやし連中相勤

○第壹番目新狂言柳下亭種員作しらぬい譚を歌舞伎に仕組何れも大出來大當り下り嵐りかく三番叟操の所作事大出來同下の卷大恩寺前歯磨賣百眼米吉璃玨田舍侍彦三郎、向じまのかへりがけ種員の所で一杯やらかして大生酔になりしとのせりふあ

り大々當り

○三月十四日より中村座「花現宿初役」「與話情浮名の横ぐし」おの八召仕おはつ、浪人閑良助、八丁礫喜平次、観音久治、小團次、庵崎求馬、下部淀平、鳶の仁三郎、高麗藏、牛島彈正、みるくいの松、井筒屋手代藤八、市藏、妼左枝、げいしや吾妻、女護しま乙女小ふじ、市之丞、山鹿毛平馬、鼈甲屋金五郎、こうもり安、鶴藏、伊豆屋手代清八、奥女中綺合、ゐん三郎、同松風、赤間子分岩太郎、宗兵衛、醫者貞庵、中間可助、やとひか丶あおくま、音八、でつち三太、奥女中常夏、米五郎、同野分、庄屋杢兵衛、純五郎、赤間子分丈八、飛脚早介、梅八、石部金太夫、白十郎、鳥鴨の淀平、幸藏、男達赤間源左衛門、井筒屋支配人、多左衛門、綾瀬主水之正、三十郎、からす鴨のお初、花助、同隅田平、才三郎、笹川軍藏、水茶屋おとらば丶あ、虎藏、奥女中錦木、もの縫おきの、にしき、奥女中夕顔、武藏屋娘分おきん、三すじ、同おふく、奥女中あかし、扇之丞、同せきや、下女おかね、米次郎、箱廻し才助、奥女中柏木、雀十郎、道具屋蝶九郎、井づみや手代松兵衛、歌助、頼朝息女大姫君、女護嶋乙姫、かゐ菊、あいや娘おつる、歌女之丞、伊豆屋與五郎、下部隅田平、男淺妻小平太、猿藏、隼人妻稲瀬、むさしや女房おうた、歌六、千葉常君、あかん平、中老尾上、げいしやお時後に與三郎女房横ぐしのおとみ、女護島姫君梅薫女、梅幸、局岩ふじ、伊豆屋與三郎後ち向疵の與三、伊豆御曹爲朝、千葉之助常胤、團十郎、源實朝公、壽三郎第三幕目浄瑠理弓張月の船に掉さし女護島へ男渡す「島廻色爲朝」喜平次小團次　小ふじ市之丞、龜きく梅女之丞　小平太、猿藏　源ため朝團十郎　梅薫女、梅幸　常磐津豊後大掾、岸澤古式部連中相勤浄るり竹本連中相勤

○第壹番目かゞ見山、貮ばんめきられ與三郎大に評よし此與三郎一條は古講師乾坤坊良齋翁自作の讀ものにて東都諸々講席におゐて辨じられ見物の諸子も能しられしことゆへ大當りなり此外良齋著述のもの當時戯場に仕組もの多し又合巻書そうし文政十一子年出板黒雲太郎雨夜譚（六册）傾城怪談冬の月（六册）あり何れも面白し

○三月三日より市村座「花吉田岩尾松若」堅田尾上之助、渡し守猿島惣太、民谷嘉門、三浦之助、秋高吉三郎、尾上之助妹眞柵、花友、清水平馬之助清玄、吉田下部軍藏、唐崎松之進、源之助、入間条之助、道綱息女櫻

姫、初平一子駒吉、福助、奥女中関屋、大磯吉田屋のおよし、小六、頼國下部淀平、三上源吾、友松、清玄下部戸田平、雇足輕紋八、犹太郎、綾瀬源之丞、若徒小傳次、鈍次郎、牛嶋刑部、料人幸吉、鴻藏、石山勘藏、奥女中紅梅、又八、同さつき、奴かめ平、成藏、醫者雪齋、奥女中もみぢ、入藏、同あやめ、道具や手代新八、新平、蝶々賣由松、由次郎、岩藤左衛門、堅田若徒喜兵衛、粂の平内左衛門、勘彌、入間愛妾お稻の方、喜兵衛娘お松、初平妹お花、同女房お大、菊次郎、大友一法師丸、寅之助、新清水阿闍梨、百姓太郎作、らい助、奥女中花の戸、石部金太夫、鼻右衛門、奥女中桐島、待乳仙藏、義右衛門、水茶屋おせん、娫若葉、光次郎、同培江、げいしやおまさ、三之助、奥女中道芝、下女おつる、芝鶴、奥女中ふせや、與左衛門姉娘おてる、しげ松、わしのや手代善六、庵主願念、半十郎、牛島大膳、禪國僧都、犹右衛門、娫たを柳、歌柳、吉田の梅若丸、求馬弟數馬、源平、庵崎求馬之助、與左衛門、悴與之助、江間小四郎、芝雀、大野新平、田代與左衛門、松井源吾、友右衛門、入間息女花子の前後に清玄尼、與左衛門娘お梅、堅田民部、女房おやゑ、喜八衛娘お千代、粂三郎、かたゞ民部後室無信、落雁尾上之助、下部初平、常陸之助頼國實は松若丸、入間之助道綱、高助、三浦一子普門丸、吉五郎、實朝公、竹松、源頼家公、羽左衛門、第貳番め大切所作事中村歌右衛門一周忌追善狂言、ふく介、粂三郎、相つとむ大和畫の竜の高助なかりそめにひまゆく駒の一周して「四季寫手向の花籠」内裡雛、子守娘、こんくはい、左り甚五郎福助、ひゐな人形后丁稚小山人形粂三郎、たいこ持女まつ放下師、高助仲居、羽左衛門常磐津富本長うたはやし連中相勤○四月中旬より「大經師昔暦」大經師意春、芝雀、番頭嘉右衛門、鈍次郎、お三はゞ小六、下女おたま、菊次郎、おさん、粂三郎、茂兵衛、高助、何れも大出來男草履打女清玄大に評よし○四月廿日より河原崎座「しらぬい譚」前狂言のつゞき十五幕より仕組前に有之役わりは略之花貫村の千種實は島山秋作、鷲津六郎、璃珏、塵頭灘市實は玄海灘右衛門、豬助、女房お露、璃寛、白縫の奴藤平實は赤橋太郎、只作悴只七、竹三郎、雲來庵丁梅、百姓只作、男女藏、龍川小文治、草かり鎌作、和三郎、どつこやおうし、升腰蜂藏、廣五郎、牛飼田五六、男達才助、大次郎、同帆綱曳六、わしつ下部權平、冠五郎、たいこ持京之助、早良門藏、茂々三、玄海手下幸次、鶴昇一り塚の松、武十郎、玄海手下長太、講中權右衛門、寛六、同作

十、玄海手下與六、德兵[?]、飛脚帆平、達見左近次、德松、猪作妹おさへ、奥女中早ゆり、佳好、博多茶や廻り忍ひ吉、あかん平、綾をり元たより、竹松、猪助倅猪の松、吉彌、曾我若[?]養御[?]、道具屋三九郎、佐十郎、やりてお爪、妻五郎、飛脚長九郎、青木下部强平、萬六、玄海手下蛇藏、駕かき竹芝五郎、奥女中あやめ、仲居おやま、やまと新造綾糸、和佳女、仲居おまつ、奥女中さつき、まつ三、同眞淺[?]、仲居おてう、蝶之助、三原要人、男達鳥八、我升、同笹の織藏[?]、遣ばゝあおさか、國五郎、若者くれ八、立板水九郎、七右衞門、鷲津七郎妻小笹、夏之丞、妹なでしこ、團之助、綾織の親判摩耶助、修驗者行山、やんまの羽根平、奥山女六部秀月後白縫大臣實は大友若菜姬、けいせい綾織、しうか、座頭波市實は市原左一郎、わしつ後家眞柴、鐘楼守願念、彦三郎、鷲津下部作内、龜谷多門之助光行、權十郎、第壹番目六幕目淨るり（色香[?]目には色と遊[?]の花なる）「積開戀山者」（[?]）千種實ハ作璃莚三（草刈法師、和[?]三郎實ハ[?]）白のび、しうか、富本連中相勤第貳ばん目「義經千本櫻」（道行[?]）佐藤忠信、源九郎狐、璃寛、横川覺範實は敎經、璃寛、源の義つね、竹三郎、駿河次郎、廣五郎、返り坂樂[?]坊、大次郎、鬼佐渡坊、冠五郎、姥わか葉、やまと、片岡八郎、德松、安德天皇、竹松、川連妻あすか、佳好、こし元さ苗、玉次、伊勢三郎、我升、山科荒法橋、國五郎、川連法眼、男女藏、静御前、しうか、重忠、彦三郎、龜井六郎、權十郎、第四段目上るり（花も紅葉となりふりもあゐし）「道行初音旅」（忠のぶ、りかく妻を其儘に、しうか）常磐津豊後大掾三絃岸澤古式部連中竹本戸和太夫、同鶴太夫、同猪太夫三絃鶴澤市作、野澤富助、相勤御殿場の忠信上るり太夫懷より出る處大に評よし第一番目新狂言大當り下り嵐璃珏順禮、嵐璃寛六部にて兩人紙張の內より出て諸々國のはなしあり後見物へりかん引合の口上交りのせりふあり

發端
■りようし春吉　坂東しうか
●七草官丁禮　坂東彦三郎

●いかに小冠者來れ我宿世の因緣あつて汝を待事年久し夫ゆへ是まで招きしぞ■さう云は日本に見なれぬ異人我を待とは合點ゆかずそも先づ御身は何人なるや●ホヽウいしくも問たり我こそは唐土廣州の舟人七草官丁禮といつしもの■夢にもしらぬ唐土人が我を招きし子細はいかに●其子細語り聞せん我壯年の頃なりしがふと海賊のむれに入り

ついにかれらが頭となり渡海のおりから强盗なせしに思ひ出せば七十年先き此筑前の沖におゐて菊地秀行が手だてをめぐらし思ひがけなき闇の夜に數多の兵船こぎよせて我元船をおつ取卷ふいを討れし事なればいかゞはせんとなす時しも灘藏といへるものに乘たる舟底くりぬかれ射たる矢はあられ舟には水よしやつばさのあればとて退かれがたなく心をはげまし乘込敵を切拂ひ近寄者もなかりしに討人の大將雪岡多太夫がねらい定めて放矢は我米がみにはつしとたつきうしよの痛手に今ははや是迄なりと唐士より奪ひ來りし釣鐘を引かついで海に飛入り底のもくずとなり果たり其頃肥前長崎なる連山とよぶ傾城に深くなじみを重ねしが彼我たねを身に宿し兄梶作が家にかへり產おとせしは則汝され共異國人の種を耻夫といはねば梶作夫婦も我子なりとはしるよしなし夫ゆへなんじを招きしも是を語らん其爲なり■や丶初めて聞し我素性今まで梶作が子とのみ思ひし我こそは●七草官丁禮が此土に殘す忘れがたみ■すりや肉身わけし現在の我父上にてあつたるか●たへて久しき對面も■父は唐士●我子は日本■波濤へだてし●親と子が■一つによるも●思へばふしぎな■●ゑにしじやなあ丶

○此七草四郎若菜姫しらぬい譚の稗史は柳下亭種員の著述にして近年の當りなり先きに自雷やの仕組大當りに付此度仕組し處當春より五月狂言迄打續ての大當り川竹氏の添削面白し

○五月三日より中村座「與話情浮名横櫛」狂言後日觀音久次、伊豆屋下男忠助、あいや善右衛門、小團次、相澤六郎、船頭與太郎、高麗藏、海老名軍次、市藏、左近妻闌路、市之丞、淺野良助、猿三郎、飛脚いた六、宗兵衛、いつや喜兵衛、音八、手代淸八、米五郎、船頭嘉四郎、純五郎、役人品川、しやこ右衛門、梅八、若徒金平、五八組市兵衛、白十郎、でつち長太、幸藏、赤間源右衛門、いづみや多左衛門、穗積隼八、三十郎、女護しま童花見りんとう、花助、同竹りんとう、才三郎、荒倉丈四郎、とら藏、花屋敷仲居おはな、にしき下女おたぎ、三すじ、湊屋女房おかね、福之丞、げいしやおよね、米次郎、船頭かん太、下男權助、雀十郎、小道具屋蝶九郎、歌助、あはや娘おつる、乙女、かめ菊、歌女之丞、千葉

與五郎、いつや與五郎、猿藏、隼人妻野きく、與五郎妹おつね、歌六、鳶小頭金神長吉、あかん平、源左衞門妻おとみ後ち横ぐしのおとみ、女護島梅薫女、梅幸、伊豆や與三郎後に向疵の與三、伊豆の御曹子、爲朝、團十郎、源の實朝公、壽三郎、淨るり島巡り役わり前に出す何れも大出來○當狂言

○發端は上總木更津濱汐干の場與三郎おとみを見そめる次赤間別莊與三郎おとみ忍び逢ふ處後露顯しておお富は海へ飛込與三郎はなぶり殺し次吾妻森の場次鎌倉雪の下源氏店妾宅の場質見勢の場御陣が原の場上るり元山町久次内の場小團次讓切大出來當狂言彌生より皐月まで續て興行せしは三升と梅幸の手柄といふべし

鎌倉雪の下源氏店伊澄屋番頭多左衞門内の場（前文略之）團十郎與三郎「これさ安やい手めへとおれと爰であかめやつたつてつまらねへそりやあ二百もらつて禮をいつて歸る所もありやあ又百兩もらつてもけへられぬ所もありやあこゝの内のあらいさらい釜の下のへい迄もらつてもまだたりねへ○だまつて聞ていろへト團十郎たつて梅幸のそばへすはる團「まつぴら御めんなせい、おかみさん、お富さんト、お富梅幸おとみ「なんだとへ團「久しぶりであつたなあ梅「そふしておまへは團「三與郎だとほふかむ梅「ゑゝゝりをとる團「おぬしやあおれを見はすれたなと是より新内の打合の相方になる團「しかねへ戀が情の仇命の綱も切はてたをどうとり留たか木更津からめぐる月日も三とせごし江戶の親父に勘當され無據鎌倉を八つ七鄕を喰ひつめて面へうけたる看板のきられ與三と異名をとりおしがりかたりならわうよりなれたしていの源氏店その白化が黑塀の格子作りの圍いものしんだと思つたお富とはお釋迦樣でも氣がつかねへよくまあおぬしやあたつしやでいたなあ○安イ是じや壹分じやアけへれねへ鶴藏かふもり安「こいつは壹分じやアけへれねへ團「これお富木更津にいた時には手前は亭主のあるからだゝおれがいつたのはソリヤアわりい其替り此つらを見てくれ額面からかけからたぢう三十五か所の刀疵親には勘當受こんなになつたのもみんな手めへのおかげだア、おとみの所へいつたのは憎こんな曉だつけ源左衞門がころしもやらず切さいなみ成田山のおかげで命は取

かへしたアヽお富は海へ飛こんだと聞たがしよせん命はむづかしいとおもふたんびにあんまりいヽ心もちじやアねへ夫にどういきのびたか今安がいふ通り何んだおかいこにくるまつて何んだぬしがある其ぬしと云のはどいつだ夫をぬかせ梅「あれおまゞいばかりいつてわたしのいふことを聞てから夫からわるけりやアどうともするがいヽはナ團「云ことがあるならいやアがれ梅「さアわたしも其時死ぬる氣で海の深みへすてる身のたゞよふ波に夢うつゝ藥よいしやよと介抱の其おかげにやよみがへり今はこうして居るものヽかくし妻とは表向枕かはすは扱置て色がましき事は是程もなく今迄暮す其内にお前は此世に御ざんすか但しあの時死んでかとわすれたことはないわいな夫に今の恨みごとソリャあんまりわからないと云ふものだよ團「うそをつけ〳〵べらぼふめいしやよ藥と介ほふしてこふやつて團て只置くやつがあるものかナア安イ鶴「ちげねへ〳〵こんなうつくしい代物を金にあかして團て置て手を出さねへ足を出さねへそんな氣どくなべらぼふが今時あるものか與三手めへもあの女のためにやア苦勞してそんなからだになつて今じやアきられ與三とかいつて賣出しの男だおれもみつともねへことをしちやアげへぶんがわりいそうして此譯をどうするつもりだ團「そりやア手めへの云通りだ旦那にあつて爰の內のあらいざらいもらつてお富を女房にするか又げすばるが二つ一つだ鶴「そいつは極た手めへも女のことについて面へ三筋の疵をば受て三筋も三すじ大疵だおれもこふもり安だ三筋に蝙蝠はのがれぬ中だやつつけろへ○あすこにさつきのやつがいらアヽサア爰へ出ろと

鶴藏上へあがり市藏をひつはつて下へおりる

鶴「やい手めへお富を世話して置くやつをしつているだろうサア夫をぬかせと團十郎鶴藏左右より市藏にかヽると市藏くるしき思入あつて市「何んにもしりませんと市藏奥へ迯る鶴藏おつかけると

團「そんなやつをせめたつてつまらねへ

此内三十郎多左衛門にて羽織脇ざしにて始終角口に樣子を見て居る團十郎鶴藏梅幸にむかい

團「サアヽいはねへかと

此時三十郎はいりながら三十郎多左衛門「いやおとみの口からきこうより其譯はわしがいひませうヨ
鶴「そんならおまへがお富さんの御亭主かへ
ト鶴藏三十郎を見て面目なきこなしあつて草履を以て立關十郎に思入あつて氣をもむ此時梅幸立ながら
梅「旦那さんきやふはいつもの參會よりたいそうおはようムざい升た三「イヤ今日はいつもよりは呑手がすくないゆへだいぶはやかつた此衆立はおぬしの身よりかちかつきか梅「サアちかづきでもあり身よりでもあり久しう打絶ていたものをこうしたなりで尋てこられわたしやおまへに面目ない三「なんの面目ねへことがあるものか人の浮しづみはいろ〳〵だどこにどんなゆかりがあろうもしれぬ〇モシおまへ方はどふで爰へ來るからは何か用がありま升う其用から先へ聞ませう團「なる程其用といつて外じやアねへ爰にいるお富がことさ三「此お富がどうしました團「今おまへが云通りわしやアお富が身よりのもの足かけ三年居所のしれねへ女夫れゆへあわなんだが通りかゝつた此新道見りやア立派な下やはいはずとしれた團ものよく〳〵見りや此女ちつとこつちに込いつたわけのある此おとみどふした事で爰にいやすたれがおせはで爰にいやす三「成程此女の身寄といつてとふて尋て來るからは大方其何が出ようとおもつた成程お富を爰へ置事はたれにもことわらねへ又世話をやいた者もねへのさてうど足かけ三年跡魚油の仕入に安房上總銚子へ乘越漁船え便船もらつていそぐ道浪にたゞよう一人の女海賊にでも逢たのか但しは身なげかたすけろと引上げ見れば身内の疵こいつは只事ではねへと心づけども仕様もなく船へあげたら氣がゆるみ息がたへたで其まゝに海へざんぶり又やるも不便と思つていろ〳〵と手當をするうちよみがへりさん〴〵かいほふした上でどふゆふ譯でと樣子をきけどふかくもつゝむ其場の始末もとより身よりのものはなしと聞たるゆへに連れてもどりきのふけふだと思ふ内月日の立ははやいものさ團「なる程そこはわかりやした其時たすけて下ださつた御深切は有がたいが夫からあとがきにくはねへおめへ見りやア店勤大所の番頭さ

んかうしておとみを置からは互ひにいはづとしれたもの又女も女ただまつているのは時につれ番頭さんのゑりにつき此與三郎を突出しものにしやアがるのか性根をすへてあいさつしろ梅「ア、マア静におしな當り近所へかつかうがわりいはね園「何をぬかしやアがることによりやア此人の主人の所へねぢこんで此譯道をつけにやあならねへ梅「そりやアもふおまへの云事はわかつているけれど今旦那のソレおつしやる通り其時わたしは死ぬる身をふしぎな事でたすけられ身内の疵からいろ〳〵と介抱受た命の親其御恩をば仇にしてそ丶うなことのある時はなんぼわたしのよふなものじやとてどふも旦那へすまぬ義理ちつとは浮世の人情もさつしてくれたがよいわいな三「これお富此人の云のはみんな尤だ何にも云にやア及ばねへ初から推量どふりしかし何んとそつちでいはう共こつちに氣ざけのねへことはお富が心に聞てもしれやうよもやおとみも此おれとかりに一ち度も枕かはしともねをしたことはいはれめへしかしおれがこう云つても緣者の證據い丶はこうなるからは物數いはずそつちの思ふりやうけん通りどふでもかたを付てやろうはさ園「何んふんおはやくお願申升す○是より三十郎鶴藏に異見あり夫より與三郎へのせりふ中略す三「お富を連れて行たいと云ことならやりもしようがけふ迄わしがせわをして爰にこうして置と云も是にはちつとしさいのあることしかし此譯は追而のこと何は扨置爰に金か十四五兩是をこなたにしんぜる程に是で當分どうかしてかた氣になつて商賣初めた上定めし親御もあろうから此末共に苦勞をはかけないやうにさつしやるがよふムるとにもかくにも此金を持てかへらつせへ園「夫じやあア富を引上けて置替り此金をもつてけへれとはこりやアおかへし申やせうよつる「これさ〳〵與三何を云のだ今旦那がおつしやるにはおとみさんを連れていきたければやろう只今爰でおいそれとはいかねへからよそこで此金を下すつたのだわりいことは云はねへからかへらつしよ園「是ばかりの金でどうなるものか鶴「これサ何にも手切の足だのと云じやあなし判證文をするといふ譯でもねへいはば十四五兩は無證この○いや

さ無商賣のおぬしのことだ此お金をもらつてナッレ又とうでもなることだ團「手めへがそんなに云ものだから此金をもらつてけへろうよつる「夫がい〳〵そうしてくれゝばおれもたすからあ三「そんならわしか詞をまかせて團「たとへ是を貰ても又譯を付てもらいに來升す鶴「そんなことをいつちやあいけねからうしやあねへかさあけへれよ團今けへらあ鶴、サアいくならはやくいくがい、ゝ鶴藏側にあるたはこ盆を三十郎のまへに直す鶴「さようなら旦那と團十郎鶴藏表へ出る團「しかしけへつたあとはさしむかい鶴「ゑゝやきあがるな團「よしてくれそんなのじやあねへ下略す當狂言中にて此場殊に評判よかりしゆへ爰に抄錄して記す

○五月廿二日より市村座「意東繪懸額」「敵討巖柳島」笠原新三郎、勘彌、白倉傳右衛門、芝雀、福田林左衛門、猿太郎、白倉妻おかの、谷鴻藏、木曾の童子、寅之助、村山源藏、又八、宮本武藏、福助、白倉娘糸はぎ、菊次郎「一の谷」熊谷次郎直實、芝雀、平山武者所、猿太郎、玉織姬、梅松、熊谷小次郎、あつ盛、福助、弟貮ばんめ鳶の鑑松、竹松、髮結はかたの新七、薬店ひかき三藏、福助、守山軍兵衛、永戸屋若者嘉兵衛、猿太郎、小見川伊折、永戸や若者忠七、鴻藏、もゝんがあ娘おなり、成藏、道具屋九藏、入藏、永戸若者富三、新平、見世物師六部熊、三太郎、青柳息子とら吉、寅之助、けいしやおさめ、左門娘お時、菊次郎、金かし廣田屋利平、鼻右衛門、福島や半兵衛、らい助、永戸屋下女おかめ、榮枝、同おうめ、光次郎、青柳下女お松、梅松、けいしやおまさ、三之助、青柳娘分おこま、芝鶴、足力あんま清庵、猿右衛門、青柳娘おうた、歌柳、九兵衛女房おいま、杵屋およし、小六、ひがき手代直七、わらや次郎吉、芝雀、永戸屋九兵衛、椎津左内、勘彌、小川竹丸、吉五郎、大黑屋宗次郎、羽左衛門大切千本櫻書替上るり賤のおたまきくりかへし昔を今に「名巳雛初音道行」佐藤忠信、源九郎狐、福助、龜井六郎、又八、駿河次郎、成藏、娵若菜、光次郎、靜御ぜん、賤はた狐、菊次郎、娵あやめ、梅松、川つら妻あすか、芝鶴、川連法眼、猿右衛門、源よし經、芝雀、源三弘綱、かん彌、わしの尾三郎、羽左衛門、富本豐前大掾、同豐前太夫三絃富本豐志藏名見崎與惣次連中相勤狂言中十日より直下け

○左門娘おとき　尾上菊次郎

一ャ、とゝさんコリャ何に故の御生害でムり升す

○其縁組を變改させたも清庵が氷垣へいつて藥を求めろくろ首の娘なりと無き名をつけたその上にわたしの袂へ簪を入て置盜人の惡名を付たのもアノお又の仕業でムんすわいなあ○成程そふじやなあ此まゝ死なば盜人の惡名と云とゝさん迄の耻辱とあれば仇をなしたるもの共をヲヽそふじや○爰の地主の寮とやらは代地の廣田屋是より直にそこへいて惡もの共を手にかけて此身のあかりを立た上へ兄さんのお行衞たづね寶のせんぎ仕出した上おまへの御存念は立升るでムり升る○合點でムんす○とはいへたつた獨りのとゝさんの御臨終を此まゝ見捨て○それじやと云て○はつ○アイ○是を此世の お顔 の見納 め○ハイわたしの惡名あらいに參り升た○さあさいせん旦那かわたしをば世話にしたいと淸あんさんがいろ〳〵といはんしたけれど物堅いとゝさんゆへにべのふ斷りいふたのを根にもつて折角とゝのゝ縁邊を變改させたろくろ首また其上にあられもない盜人惡名うけ夫故調ふ大まいの金の工面も水となりとゝさんには御切腹夫もみんなおのれらが惡工みから起ることとサアわたしが身のあかりから先へ立てすつはり洗ふて下さりませ

一いやそふはいはせぬ 最前内の 裏長家に 忍んで聞ともしらずしてうか〳〵いふた惡事の一ち〳〵殘らずうしろで聞升たさあ思案を極めて返答なさんせいなあ○女でこそあれ武士の娘手向ひなしたら命かないぞと是より十人斬大出來大當り

○口上書に云役者兩三人湯治に罷越候間殘り居候者共中村福助中村芝雀抔に故人歌右衞門相勤候狂言を出精爲致相勤候樣仰被下身延山へ參詣を願出候森田かん彌尾上菊次郎兩人を相賴故人歌右衞門相勤候狂言を取集大切に千本櫻書替二人靜二人忠のふの新狂言相勤候趣の看板を出す○新狂言は二人靜胎内探近松作是等の仕組なるか

○九月十五日より中村座「花野嵯峨猫魔稿（はなのさがねこまたそうし）」高山撿校後室嵯峨の方、東嘉門猫婦塚猫又の精、高山亡靈、在所娘おこま實は猫又の精、才三郎、兄嶋の甚吉、小團次、直島左近之助、一部淀平、高麗藏、檜岡彈正、八つ代玄蕃、番頭義八、市藏、嘉門妹礒浪、奥女中豐浦、市之丞、同またゝび、佃屋喜藏、修驗者螺典、鶴藏、尾花

屋六郎右衛門、高山時刃自、三十郎、嘉門娘おかね後ち三作女房おかね、愛妾小蝶の方實は壯太女房おかね、白木屋娘おこま、梅幸、荷しま大領直家、下部三作實田村市之丞後伊東壯太照重、盗賊首領隼太郎、實は□□□□、細川兵部之助實は盗賊隼太郎、髪結才三實は尾花甚三郎、結城左門之助、團十郎、六角修理之助、壽三郎、第一番目淨るり「胡蝶夢榮花手枕」小團次、こま藏、さる藏、梅幸、團十郎當巻津連中相勤〇初日相初候處御法度あり興行なく相止む

〇當狂言看板差出し候處面白き書組にて佐賀家にて座頭を壁に塗り込しと往古より其奇談あり夫に猫又の咄し白木屋の世話狂言を仕組初めざる内より評判なりしに興行無之〇座頭の亡靈黒き姿にあらはれ雪降りに白裝束のしのびのもの三十郎など面白き仕組にていよ〱廿一日より初日と相なり然る所九月廿日夕方南御番所より御差紙猿若町壹丁目狂言座勘三郎 義南 御役所より急御呼出し同町名主濱彌兵衛吉村源太郎も自身罷出候處市中取締方東條八太夫殿御懸りにて別紙寫之通り鍋島家より内懸合有之候間狂言仕組相止め可申旨被仰渡候に付當狂言相止め早々狂言仕組替興行致事但し鍋島家書面左之通り

一猿若町壹丁目狂言座勘三郎芝居にて相催候狂言仕組之内此方家に紛敷名目を取交候哉之趣浮説有之由尤取留候義に者無御座候得共萬一末々之者心得違等仕候而者心配仕候間御勘考之上可然御沙汰被下候様仕度此段申上候以上

九月廿日　　松平肥前守内　志波左輔太

因に去文化六巳年新板繪ぞうしいまだ外題山東京傳作歌豐國畫にて累井筒紅葉打舗き（おふさ徳兵衛／きぬ川與同）黒幽靈白裝束のしのび雪降りの場に著述せり其後式亭三馬歌川國貞畫にて松竹梅女水滸傳に白裝束のしのび黒き幽靈を出す是山東軒の作意を假用し此度戯場に用ひしも是等の作より仕組せしものなるへし猫の變化せし所作事も水木辰之助以來なるへし興行なきは殘念〱

〇同廿四日より「當穐八幡祭」山崎屋與次兵衛、かこの甚兵衛、船はし伊織、倉岡丈右衛門、小團次、荒川左近、下駄の市、小金餅賣與四郎、高麗藏、山崎屋隱居淨閑、眞間典膳、市藏、甚兵衛女房おしづ、いつみ新田

のおしめ、市之丞、葉山彦助、船頭わしの長吉、鶴藏、松下丹下ふぢや次右衛門、ゑん三郎、質屋善六、講中仁右衛門、宗兵衛手代權九郎、下部市助、音八、在所娘おむじ、幸藏、八はたや仲右衛門、三十郎、ふぢやお梅、にしき、同おかね、三すし、田川屋下女おふく、福之丞、ふぢや娘およね、米次郎、講中妙貞、三原有右衛門、歌助、ふちやあつま、奥女中竹川、歌女之丞、山崎屋與五郎、倉岡新三郎、猿藏、俄番付賣當吉、粂次郎、嶋野後室繼橋御前、田川屋女房おうた、歌六、蝶五郎悴蝶松、あかん平、甚兵衛妹おはや、奥女中關屋、與五郎云號おてる、黄金餅賣おはな、梅幸、南方十次兵衛、南與兵衛、幻蝶五郎、黄金餅の三五郎、橋本次部右衛門、團十郎、八幡主税、壽三郎、第壹番目九幕目淨るり菜種に狂ふおもかげは蝶も比翼の女夫商人「色競本毎の錦繪」とん六、こま藏、あつま、與五郎、さる藏、かめの丞、おむら、幸藏、有右衛門、うた助、おはな、梅幸、三五郎、團十郎 常磐津連中相勤何れも大出來評ばんよし○九月十五日より河原崎座「碁太平記白石噺」第貳番目「怪談小幡小平次」宇治常悦、けいせい宮城野、稲穂丹右衛門、璃寛、金江谷五郎、小幡小平次實は安西若徒小平、小平次亡靈わしの長吉、璃玨、鞠か瀨秋夜、安西喜次郎、竹三郎森岡左馬司、男女藏、吉野や息子伊之助、菅屋でつち三太和三郎、とせう太夫、見世物師權兵衛、國五郎、安達下部伴助、鳶辨の次、大次郎、若黨運八、見世物師岩戸のおすて、菅屋手代正八、冠五郎、新造宮舟、湯かんば買勘次、茂々三、見世物師幸次、武十郎、かし本や十兵衛、三藏、新造宮琴、才三郎、同宮浪、勘藏、百姓七助、通人山風下部林平、德松軒新造宮里、藝しやおいと、佳好、ゑびさこ十、あかん平、大野屋息子熊吉、幸藏、禿ゆかり、吉彌、通人杉第菅屋三右衛門、佐十郎、唐崎松兵衛、虎五郎、臺七下部丹助、萬六、同貫平、芝五郎、新造宮柴、やまと、在所娘おたみ、和佳女、同おいね、玉次、仲居おわさ、和三郎、同おてふ、蝶之助、茶屋娘おまつ、松三、吉見勝右衛門、菅屋手代惣助、我升、百姓與茂作、菅屋手代久七、七右衛門、與茂作女房おさよ、菅屋下女おつね、團之助、志賀臺七、「修行者現西、奥山與茂作、娘おのふ、菅屋娘おあき、小平次、女房おつか實はお秋姉おきく、しうか、庄屋七郎兵衛、大黒屋惣六、安たち左九郎、奴喜久平、佐山主水、權十郎、第貳番目序幕所作事邯鄲ならぬ一睡の夢に「亂菊枕慈童」嵐りかく相つとむ長唄富士田吾藏、芳村孝十郎、同金五郎、同辨之助、同伊與三郎、同

孝次郎三弦杵屋六三郎、岡安清次郎、きねや慶次郎、同榮次郎、同六之助、同彌十郎、笛梅屋竹次、住田新太郎、小つゞみ望月太助、大つゞみ望月太喜藏、たいこ岸田伊左衛門、望月太市、ふり付花柳壽助、長うた富士田音松、ふり付西川扇藏、西川虎之助、小つゞみ望月太左衛門、相勤淨るり竹本鶴澤野澤連中相勤○碁太平記吉原太黒屋迄何れも大出來第貳ばんめ序まく枕慈童所作事りかく大に評よし小はた小平次中かへりの怪談大出來なり然る處中村座にて小團次座頭高山と猫の怪談着板差出しければ小平次の怪談より面白からんとの評判にて其後惣菜のこはだは猫にくはれけり、如斯狂句せしに此狂言御差留に相成りしかば「猫が出ぬはかりてこはだ無事でいる」斯狷詠せり中村座興行あらば大當りなるべきに殘念いふばかりなし○九月十五日より市村座「假名硯姉娘復讎(かなきやうだいむすめあだうち)」「小栗判官車街道(をぐりはんぐわんくるまかいだう)」三段目尼子義久息女いつな姫、女太夫お松實はいつな姫、一味齋娘おその、太郎女房淺香、宮城野妹おのぶ下り中村富十郎中村松江事木村帶刀吉春、甲利音成、毛谷村六助、風間八郎、鞠か瀨秋夜、吉三郎、彌三郎一子彌三松、竹松、絹川彌三郎、吉岡下部友平、横山太郎秀國、星川運八、福助、轟傳五右衛門、吉岡一味齋、若徒勇藏、金江甚兵衛、小栗郡領菊重、芝雀、大野や伊平次、熊絹川家來山本主水之助、友松、春風東藏、同弟九藏、横山三郎秀勝、毿太郎、大工辨天幸次、門脇義平、鴻藏、盜賊九郎太、杣なた右衛門、又八、坂下玄蕃、おか六、成藏、同ゑた七、貸本屋十吉、入藏、辻新左衛門、青木久馬、新車、大福屋惣六、一味齋女房お幸、池の庄司、時門下男寐次兵衛、嶋田三郎右衛門、勘彌、一味齋娘おきく、晴賢妻勝男木、横山息女てる天御前、友平女房おのへ、信濃屋女房おせん、菊次郎、宮きの禿はなの、羽三郎、神主桐しま義衛、茶道らい助、洞入伯父四郎、杣花右衛門、鼻右衛門、侍女呉珍才、義右衛門、斧右衛門母おへに、大福屋若者喜八、竹、けいしや三吉、三之助、同新造みや柴、いつな姫かしつき眞垣、梅松、同秋しの、娰夕しも、光次郎、大ふくや新造宮里、侍女重浦、しげ松、同道芝、たつみの局芝鶴、若徒佐五平、大ふくや遣り手おまき、毿右衛門、同新造東路、信の屋娘おうた、歌柳、郡奥方眞弓御前、おのへ母およし、惣六女房お秀、小六、海賊張本金剛太郎、絹川彌三右衛門、遊行上人志賀臺七下り中村仲

助、京極内匠後みちん彈正、柚斧右衞門、横山大膳秀利、友右衞門、いつな姫妹久方姫、佐五平娘おりき、奥女中かほる、柳か浦蜑おくめ、傾城宮きの、粂三郎、小栗判官兼氏、宇治兵部之助常悅、高助、甲利嫡子音若、吉岡一子三之丞、羽左衞門、第貳番目大切上るりこまやまとの錦ともみ小袖「戀中富室楓」こし元、くめ三 田舍娘、ふく介 女太夫富十郎清元太兵衞、同延壽太夫、三弦清元榮治郎同千藏連中相勤淨るり豊竹桐太夫三弦花澤仙五郎同矢竹富太夫三弦矢澤宗七相勤大に評よし

○中村富十郎幼名市川熊太郎後中村松江俳名三光天保四年富十郎改名俳名慶子二代目なり

○十一月四日より中村座「意升手向花川戸」三まく「魁源平つゝじ」扇屋のだん 大切淨るり「積戀雪關扉」白井權八、小町姫、墨染櫻の精、扇をり小はき實は敦盛、猿藏、久下玄蕃、うつら權兵衞、奴文字平、阿根輪平次、鶴藏、若徒八内、藏人光俊、ゑん三郎、男達塔婆藤兵衞、八坂左源太、宗兵衞、家主查郎兵衞、夜番八四つ六、音八、木鼠忠太、男達石塔婆淸吉、米五郎、同勘六、下部鐵平、純五郎、男達極樂十三、幸藏、經盛奥方ふし方、歌六、うをうり十、あかん平、長兵衞一子長松、定吉、白井下部細內、堤の軍次、イ藏、若者てく六、雲助六郷の竹、梅八、閑心下部土手平、飛脚鳶竹とら藏、藏人姊紅梅、にしき、扇をりおはな、やよひ、同およし、與三郎、同おやま、三筋、上總女房深ゆき、福之丞、同娘かつらこ、米次郎、男達早桶半助、扇折おうた、歌助、三浦の小紫、歌女之丞、長兵衞女房おとき、市之丞、本庄助太夫、扇屋上總大掾、市藏、幡隨長兵衞、良岑の宗貞、荒川宿禰、高麗藏、惟仁親王、壽三郎、孔雀三郎成平、白柄十右衞門、小團次、寺西閑心、良岑少將、關守關兵衞實は大伴黑主、熊谷次郎直實、團十郎淨瑠理常磐津豐後大掾、同小文字太夫、三弦岸澤古式部同三藏巳佐吉連中相勤○當狂言中棧敷代金壹分貳朱高土間金壹分一朱同平金壹分

○だんまり孔雀三郎成平、小團次十二單へ御所車より出て上着をぬぎ大百日どてら少將團十郎傘をさし足駄にて鶴藏文字平を相手に兩人の立廻り大評判大出來、狂言作者瀨川如皐、奈河晴助、市岡和助、豐島新藏、桜田效助

○十一月七日より市村座「御所櫻堀川夜討」三四口切 しづか御前、おわさ、富十郎、武藏坊辨慶、吉三郎、萬壽君、

頼家、竹松、礒の藤彌太、福助、伊勢の三郎、礒の前司、芝雀、源義つね、友松、姚呉竹、翫太郎、江田の弘常、こう藏、土佐坊昌俊、かん彌、待從之助女房花の井、菊次郎、こし元初しも、しげ松、同さはらひ、芝鶴、梶原景時、翫右衛門、時忠御臺漣御前、小六、待從太郎、仲助、梶原平次景高、友右衛門、郷の君、おわさ娘しのふ、条三郎、秩父の重忠、高助出勤なし源實朝公、吉五郎、龜井六郎、羽左衛門○十二日より「女達出入湊」忠右衛門女房おまき、水くしのおつち、源左衛門妻おれい、富十郎、黒船忠右衛門、吉三郎、鳶の者龜八、竹松、鎌倉屋五郎八、福助、はんし物喜兵衛、芝雀、濱地源三郎、友松、手代三九郎、翫太郎、馬淵左平太、こう藏、若徒丹平、八木孫三郎、成藏、たばこや喜七、岡六、禿みどり、蛇の目濱地源左衛門、勘彌、けいせい瀧川、金ひらの小せん、菊次郎、禿千鳥、猪三郎、講中儀右衛門、義右衛門、米屋手代新兵衛、らい助、家主太郎兵衛、鼻右衛門、仲居おまつ、松太郎、同おしげ、梅太、同おさき、榮枝、同おみつ、三之助、十右衛門娘おしう、梅松、仲居おかつ、光次郎、同おまさ、しげ松、同おまき、芝鶴、鎌倉屋仁右衛門、翫右衛門、仲居おりう、歌栁、忠右衛門母おもん、小六、獄門庄兵衛、仲助、八木孫太夫、友右衛門、女達奴の小萬、粂三郎、羽守左門之助、高助、同一子守若、吉五郎、入江縫殿之介、羽左衛門○第壹ばん目

○堀川夜討辨けい吉三郎同四の切礒の彌藤太、福助、しつか、富十郎三絃立廻り貳ばんめ女達の出入湊いづれも大出來評ばんよし狂言作者櫻田治助、松島鶴二、同てうふ、福森久助、紀の文左衛門、松島半次

○十一月七日より**河原崎座**「鬼一法眼三略卷」六波羅書寫山五條橋「容競出入湊」ひやうたん町、新町、はし、鎌倉屋「姫小松子日の遊」しゆんくわん島物かたり書寫山兒鬼若丸後辨慶、獄門の庄兵衛、奴の小萬、龜王女房お安、有王丸、璃寛、吉岡鬼次郎、平の宗盛、かま倉屋五郎八、竹三郎、新屋次郎九郎、男女藏、笹尾の次郎友光、濱路源三郎、和三郎、岩倉刑部、高市數右衛門、國五郎、市原團平、たくほくの江吉、大次郎、はりまや亭主才兵衛、かけのとう六、冠五郎、壬生の小猿、茂々三、兒友千代、たはこや多助、德松、なきの前、小督の局、佳好、伊達小次郎、あかん平、錦戸太郎、幸藏、安德天皇、竹松、小辨吉彌、性慶阿闍梨、ね

つこのふし藏、佐十郎、百合八郎、虎五郎、淡海妹はや咲、やまと仲居おやま、和佳女、鎌倉屋下女おまつ、和三郎、同おかつ、玉次、仲居おまん、まつ三、同おしな、蝶之助、出羽之助武よし、谷かけの三、我升、金うり吉次、深山の木藏、七右衛門、うばあすか、けいせい瀧川、鎌倉や後家おみね、團之助、廣盛一子岩千代、はりまの大掾廣盛、鎌倉や手代三九郎、奥山鬼一娘みなつる姫、忠右衛門女房お梅、しうか、佐々木源三秀綱、黒船忠右衛門、八木孫三郎、俊寛僧都、彦三郎、武藏五郎光國、信夫太郎忠友、權十郎、御曹子牛若丸、鈴木三郎家重、はんじ物喜兵衛、龜王丸、璃珏、當狂言中棧敷代三十匁高土間廿五匁同平土間二十匁 狂言作者篠田瑳助、梅澤宗六、能晋輔、勝見調三、河竹新七

當狂言何れも大出來三座戯場狂言四季の替り甲乙無之大當り大繁昌日數打切千秋樂萬歳樂と舞納けるめてたし〳〵

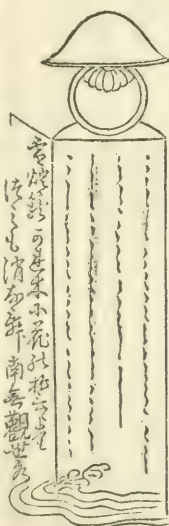
○嘉永六癸丑年十一月十五日尾張國名古屋表におゐて三代目助高屋高助死去す十四日

辭世　きゆる霜此世の役のおはりかな

十二月二十三日淺草誓願寺地中受用院に葬す

法號　高雲院賀源道壽居士

三代目助高屋高助俳名高賀四代目澤村宗十郎門弟にして幼名澤村源平と云文政の初め源之助と改名し上方へ登り京大坂諸々にて藝道修行し文政十二丑年正月木挽町河原崎座へ下り上上吉天保元寅彌生狂言にかゝるかや道心の役大當り其顔見世上上吉にすゝみ同二卯顔見世訥子と改名せしに故障ありて又訥升と改同十一子初座頭弘化元辰とし夏市村座におゐて澤村宗十郎と改名其後長十郎と改しに長の字憚ありて助高屋高助と改名せしなり當年は春狂言より是と云ふ當りもなく秋狂言には一世一代相勤候哉と相談に及しに其事ならず無是非旅行し修行に尾張名古屋表におゐておわりし事おしむべし〳〵

文化九申年四代目澤村宗十郎死去之節墓所に石燈籠建立せしが大地震之節皆崩れたり其後建立す其形

左右花立一對六代目門弟中　水磐　立川銀馬立之とあり

碑面ニ方譽良西トアルハ二世ノ澤村宗十郎ナリ此人ハ早世ニシテ代々ノ内ニ入ザリシカ文化九申年ヲワリシ宗十郎ハ四代目トアリ此訥升ヨリ二代目ニ加エシ物カ

勸學淨喜信士　十月十日於大坂死去　俗長中村鶯助

戯場の噂　嘉永六年　京顔見世評判記　京都名所盡しに寄也

惣後見無類　役者中で鬼門を守ひゑい山　市川海老藏

〔頭取〕扨此處は北側惣見白猿丈の評でムり升す名殘りをしうムり升れど此度一世一代口上書は則看板に出てムり升通り當地にて藝評の仕納どなたも此段御披露申升す實に天下無類〔ひゐき〕ヲットト云分ないで餞別に頭取委しく藝評してくれ〔頭取〕忠臣藏に若狹之助は度〳〵のお勤ゆへ一點の申分なし〔下京〕此樣な若狹之助はもはや見ることは出來ぬ〳〵〔京中〕誠〳〵お持前の得で狂言多くあれど若狹之助ばかりは昔の名人達でも白猿丈には及ぬ〳〵此後此樣な若狹之助は見る事は出來ぬと思へば名殘りおしうて泪がこぼれる此藝を評するはむだじや外の藝評を賴む〳〵二役由良之助四段目人品よく上下着付外にないと申升た（中略）〔老人〕此役は寛政時代古人團藏鯉三郎文政年中梅玉丈皆名人にていたされしが夫に見おとりなく白猿丈も能く出來ました〔見功者〕御役は名人達いろ〳〵とせられしが挑灯を切ての幕切あり血に染る切先きをなめての幕切もありしが此人の位牌過去帳を持て出て泪をこぼしての幕切さすが名人程あつて能く氣を付られ見物一統さもあらんと殊勝に思はれましたかんしん〳〵切に關の戸に關兵衞（中略）ぜんたい顔見世といふは來年此芝居で興行するといふ顔見世をするのじやないか夫に一世一代とはつまらぬ所へはめたのしや〔いらぬとんてき〕全體今の芝居は招きの並らべやう番附の書樣からの格あいを失ひ花方が客座にいたり口二枚目奥二枚めもなく一寸しても舍て出したり又は箱入にして出したり何やら樂屋でもめるげな扨〳〵芝居は六か敷うなり升た（中略）時節からが直が高いゆへかとんと不入にて殘念

〱七段目は二〇か見ているやうで面白ふなかつたやつはり常の七段目かよいぞ〱〔頭取〕中程より外題か替り中狂言に大功記切に今朝噂にて直段も安直になりまして大入となりました本能寺の場梅玉よりよいと申升た何にはしかれ仕内におゐては申分なし大當〱

○南側芝居は尾上多見藏座頭にて無人にて大入狂言は千本櫻に知盛の幽靈白骨の仕組辨慶能登守與市繼信忠信景清お染に久作大出來源九郎狐よくこゑて居て飛上りらんかんつたひ早竹も舌を巻ますかと存升す（中略）一人にて狂言を納めて大當り大入をさせる人は外に類なし天下壹人と云つべし（中略）此度北側の大座を恐れず大入をとられしは惣一座のはたらきといへ共全く松朝丈のお手柄〱と云々

斯あれば北側は海老藏一世一代にて忠臣藏おもはしからずと見へたり南側は多見藏一人にて外はさしたる役者なし松朝壹人にて大入をとりしはお手柄といふべし

花江都歌舞妓年代記續編巻の廿八

◎安政元甲寅歳

○正月十一日より中村座「松扇杏鶴亀曾我（まついてうつるかめそが）」鎮西八郎爲朝、松しまや仁三郎、河津三郎祐安（下り）片岡我童（古人片岡仁左衛門養子初我當と云）ねいわん女、嘉平次女房八ツ代、大礒屋女房お梅、小藤太妹八わた、同女房三さき、菊次郎、阿曾三郎忠國、りやうしあみ七、たいこ持駒八、下男佐七實は梁田の次郎、芝雀、りやうし傳次兵衛、醫者銀庵、股野五郎景久、鶴藏、娍小蝶、喜瀬川の亀菊、歌柳、松嶋屋でつち才六（下り）片岡松之助、須藤九郎、伊藤九郎盛長、猿三郎、宇佐美金吾、大磯の髪結長吉、坂東鶴三郎（我升改）地ごく清左衛門、左大臣頼長、吾八、松しまや下男黒八、越の彌源太、片岡松十郎、大場の三郎、村岡官次、義右衛門、鬼王悴鬼市、坂東又市、祐安一子一萬丸、由次郎、左馬頭義朝、狂歌師竹亭、伊東次郎祐親、勘彌、忠國妻眞弓、新左衛門、女房月小夜、寧王女侍女廉夫人、歌六、祐安一子箱王丸、竹松、小松なうり大吉（下り）片岡土太郎（我童二男）鬼王新左衛門、獵人野風、大礒屋傳三、

源之助、小野中將、工藤後室みさほ、らい助、辰姫侍女眞鶴、娰早わらび、にしき、祐親娘辰姫、こし元初霜、しげ松、金子の十郎、箱根畑右衛門、虎五郎、少納言信西、問屋太次兵衛下り大谷德次、炭燒藤市、赤澤十內、重忠一子花丸、花助、鬼王團三郎、梅澤屋小五郎、讃岐七郎、澤村訥升源之改名九條けいせい風折、藤市娘およつ、大磯げいしやかめ吉、荻野伊三郎中村歌女之丞改名獵人山雅、伊藤祐親、藤市悴武藤太、市藏、垣間八郎、三郎太夫忠重、三十郎、忠國娘白縫ひめ、千鳥の前侍女若菜、大磯げいしやお久、工藤金石丸、粂三郎、八丁礫嘉平次、鳶の者金門の仁三、近江小藤太成家、三嶋の在長鬼夜叉、崇德院、彥三郎、爲仁親王、壽三郎、第壹ばんめ四立目淨瑠理、大磯の寅年粧坂の正月［御禮中初音の鶯］尾上菊五郎、片岡松之助後我當、澤村訥升、岩井粂三郎、中村芝雀、片岡我童、荻野伊三郎、坂東彥三郎、常磐津豐後大掾、同佐喜太夫、三弦岸澤小式部、同三藏連中相勤大當り○浪華の老功片岡仁左衛門養子八代目片岡我童初下り幼名三枡光五郎後市川新之助と改又嵐橘次郎と改子供芝居にて大手柄あり天保四巳年養子と成再ひ片岡我當と改當時大坂にて實川延三郎と龍虎の爭ひにて日の出のき丶ものなり○三月朔日より河原崎座［都鳥廓白浪］第二ばん目［初霞女猿廻］男達しのぶの惣太實は山田の六郎、米津主水、霧太郎手下蜂藏、粂の平內左衛門、小團次、入間の家中遠山甚三郎、男達かつしか十右衛門、若徒橘平、女さるまわし、おわさ、璃寛、大友常陸之介、井筒屋傳兵衛、舟頭水掉の竹、竹三郎、松井源吾、江葉屋後家おしか、輪達や八兵衛、奥山、花賣佐吉、業平屋息子源太、和三郎、醒か井兵太、粟津六郎左衛門、國五郎、判人庄兵衛、若者幸次、大次郎、立場茶屋四六のおかん、道具屋小兵衛、冠五郎、はりまや下女おはつ、霧太郎手下音、茂々三、同がけ岩の六、若者喜助、武十郎、おわさ娘小縫、吉彌、吉田梅若丸、由次郎、大友一法師丸、幸藏、茶屋廻り小ゑびの十、あかん平、井つ丶や傳右衛門、中納言光房卿、佐十郎、源吾妹早枝、娰若菜、やまと、同下女おまつ、まつ三、同おてふ、こし元初音、蝶之助、ごぜお市、井づ丶やでつち長太、米五郎、若徒軍助、瀧口官左衛門、奥女中呉竹、紅葉や娘分おたみ、佳好、衣笠求女、遠山下部、佐五平、古手屋五郎兵衛、友松、吉田の斑女御前、惣太女房おかぢ、おわさ母おさが、

圑之助、あんま丑市實は盗人宵寐の丑右衛門、井筒番頭忠八、釣鐘屋權兵衛、友右衛門、吉田の松若丸、花菱屋けいせい花子實は天狗小僧霧太郎、げいしやおしゆん、女達樽井おせん、しうか、綾瀬彌太郎、萬字屋息子紀之助、訥升、梅若下部淀平、男達日出の五郎八、權十郎、第貳番目大切所作事豐國の筆意國芳の趣向「寄三十花四季畫」けいせい叶、福助、のみ取りの人形遣ひ相方權十郎御所女中、仕丁、雷、石橋七變化市川小團次相勤常磐津、竹本、長唄はやし連中相勤大出來大々當り三立目返し松若しうか網乘物を破り平内小團次橋平りかん常陸之介竹三郎四人だんまり大出來當狂言は天保元庚寅堺町中村座「櫻時清水清玄」松若にて大立宜しく櫻姫下女おべく、傾せい花子太夫實は松若、菊之丞、清玄坊下部淀平後に男達しのぶの惣太、芝翫此節菊之丞病氣にて評判はよけれど思はしからず此度しうか松若、花子太夫古今大出來にて何れも評よく大入なり

都鳥美男「踊形容花競」近年役者評判記京大坂のみにて江戸名目通評判ばかり更に藝評なし故に斯題して評判記を出す

前文略之△松若丸「見功者」もし〳〵あの松若の合卷は誠におもしろい仕組樣「ヒイキ」アノ中でいつちよいのは松若丸すいた顔ではあるはいのうあみのり物の駕をやぶつて出た所はどふもかふもいへぬ程よい若衆わけのみだれかゝつてはまの風を十分にまねび今ではあんな松若は外にあるまい中略あれから大友常陸之介粂平内左衛門松若三人のだんまり所え出て來る下部橋平が提灯を打落す所など別に骨を折もせぬがどこか吉田の君達らしく又盗賊の心もあつてぬけめなし〳〵三の卷鹽見坂身賣の仕内日の替た世話じたて女衒の庄兵衛の詞について女の仕内で山駕にのる所はよくしたぞ〳〵「見功者」實に男のやうな處をすこしづゝ見せて氣が附て女になる仕内丑市の持て來た系圖の一卷と都鳥の印を見て胴をすへた所は口にもなか〳〵いへぬあんな花子は唐天竺にもあるまい中略按摩宿おまんの立廻り古今稀成大出來でござり升たまた藝者のお俊仇姿にすこしかばつたやさがたは花子の形と目をかへたる意味合なか〳〵でかしたものじや柳の枝に梅桃櫻を開かせてよし野瀧田に植たる如く見事な事でござり升すと云々下略是しうかの評判記當狂言隨一の大當り當時日の出のきゝも

のなり
○三月十三日より市村座「梅柳魁雙紙」「五大力戀緘」兵庫頭義親、藤原の仲國、笹の三五兵衛、若徒初右衛門、平の忠盛、吉三郎、常陸之助時澄、横曾根平太夫、猪廻りの岩松實は熊野夜叉丸、鹿兒島十次兵衛、大宅の惟弘、仲助、大江之助、惟光、下部彌三平、進の藏人、げいしや濱吉實は三五兵衛言號なぎさ、千とせ飴福松、福助、平太郎一子綠丸、竹松義親、奥方菊の前、孫作母深ゆき、條本女房おうめ、隼人娘お筆、小六、一刀軒緘龍、土石宅左衛門、猴太郎、荒川軍藏、賤ヶ谷伴左衛門、わし塚藤太、箱廻し九助、鴻藏、平太言號卯の木、女夫坂柳の精、孫作、女房おりう、平淸女房おとみ、けいせい梅ヶ枝、回國修行者妙典實は仲國妹菊園、富十郎、金剛太郎秀虎、幸藏、小舍人しヽ王あかん平、田代玄蕃、貨物屋善六、虎藏、一鐵丹藏、若者長助、江戸坂京藏、松下軍藏、庄屋杢作、坂本久吉、仲居おかつ、友達娘初花、與三郎、同糸遊、げいしや春吉、三すじ侍女八はし、仲居おふく、福之丞、高倉息女梅その、友達娘左枝、三桝梅吉、侍女若紫、仲居おまつ、芝鶴、千とせや才兵衛、岩淵十平次、家主德右衛門、菊十郎、彈正時門、若徒門平、七右衛門、千歳屋女房おつる、市之丞、和歌浦三之丞、柳の木精、在所娘おはな、千崎與太郎、惠方商人三升、あめ屋正吉、猿藏、冠者爲義、三浦上總之介、行者蓮華坊、船頭彌助、町かヽへ金五郎、高麗藏、惟弘奥方若倉、白拍子嶋の千歳、げいしや小萬、梶原奥方圓壽、祇園女御、梅幸、横曾根平太郎、勝間源五兵衛、町抱三筋綱五郎、梶原源太景季、後白河法皇、廻國修行者典山實は陸奥次郎武ひら、團十郎、淨るり「廓操無間の鏡優」梅が枝、富十郎、景すへ、團十郎、常磐津豐後大掾、竹本富太夫、同雀飼太夫、三弦鶴澤富七、鶴澤猴吉連中相勤第貳番目芥川の畫合を栄種の野邊に心の蝶つかひけしき整道行は「梅艶解仇夢」源五兵衛、團十郎、あめうり猿藏、げいしや、梅幸、鳶の者、こま藏、千とせあめ、ふく助、櫻草賣、羽左衛門、富本豐前大掾、同豐前太夫連中相勤大に評ばんよし○第壹番目は院本「祇園女御九重錦」三十三間堂由來なり團十郎、富十郎兩人だんまりひらがな無間場大出來第貳番目五大力何れも大出來○三月三日より中村座「曆數二千八百年周甲寅當」香蝶樓の畫功を其儘歌舞妓に寫して卯花芽出月狂言の榮いろどる筆の揺きは御贔屓の御差

圖に隨釋迦八相の赤本習而「花見臺大和文庫」第二番目「櫻鯉鳴戸鮮」浮飯王の春宮しつた太子、海賊阿波の十郎兵衞、ふじや伊左衞門、我童、一の后まやふじん、鳥陀夷妻めうぶ、遊女はしゆみの太夫、十郎兵衞女房お弓、喜左衞門女房お梅、菊次郎、うだい下部しやり平、藥師風呂善助、芝雀、うつぼし夜叉ぐんしけうどんみの侍女南花、此田郡兵衞、料理人富八、鶴藏、うだい一子はんどく、松之助、太子の近臣きだん子、うたい若徒あんべい、料り人九助、猿三郎、太子の臣しんぶ、三士かせや藤右衞門、若者六藏、つる三郎、和國樓同心者純方、音八、伯了律師雲助、虎鰒の長松十郎、天竺浪人まにはんどら、松本屋三郎兵衞、純五郎、番新もうもく女、若徒左平太、儀右衞門、ぎはく道人、鞁師にまめん、イ藏、十郎兵衞娘おつる、由次郎、淨飯大王、檀特法嶺の阿羅々仙人、櫻井主膳、勘彌、けうどんみ、夜叉軍士、女房吉祥女、仲居おたね、歌六、阿難太子、竹松、右梵字太郎、料理人長吉、上まり造酒之進、源之助、仲居お大、やすたら女、侍女ぐし女、にしき、同ばいにん女、うかむせ娘お升、繁松、こし元いればん、千村丈助、虎五郎、侍女いんきやう女、婆須太夫、新造きんば、三之助、同しめたん女侍女やぎ女、米次郎、らごら太子、定吉、天上古佛提婆郎等かんてう來、下部三助、歌助、飛脚すがたみ、仲居おもん、臼しま鹿内、德次、かうが童子、櫻井半次郎、訥升、くだみ女、歌柳、右梵士女房りんどう女、太子そば女いき女、げいしやよしの、伊三郎、解飯王太子だいば、武太郎、阿波大盡賈手は代庄八、市藏、太子后やすたら女、扇屋夕きり、粂三郎、太子めのとうだい、車匿とねり、吉田屋喜左衞門、彥三郎、鳴戸屋五郎三、壽三郎、第貳番目大切夕きり伊左衞門「廓文章」我童粂三郎 常磐津豐後大掾、岸澤古式部連中竹本美須太夫、鶴澤市左衞門相勤○第壹番目「倭文庫」は萬亭應賀翁著述の草そうしにて釋迦八相記を添削し悉達太子を田舍源氏の光氏の姿にうつし后は紫の上其侍女に至る迄日本風に豐國畫き此稗史天保年間に發梓し當安政度迄三十七八編出板す近來の大當なり○五月五日より中村座「假名手本忠臣藏」桃井若狹之助、早野勘平、小間物屋彌七、佐藤與茂七、我童、かほよ御前、仲居お梅、となせ、義平妻おその、菊次郎、千崎彌五郎、石堂右馬之丞、芝雀、鷺坂伴內、山名次郎左衞門、さんひんの大助、鶴藏、仲居

おりう、小なみ、歌柳、足利直義公、松之助、竹森喜多八、猿三郎、狸の角兵衞、音八、めつほう彌八、純五郎、志波多門之助、松之助、一色左京、源之助、樽拾ひ紀の助、山次郎、高の師直、大星由良之助、不破數右衞門、天川屋義平　勘彌、娍若竹、仲居お大、にしき、同おやま、こし元あやめ、しげ松、原郷右衞門、おかる母おかや、慶十郎、梶川與惣兵衞、虎五郎、一力清兵衞、らい助、矢間十太郎、多目藏、せげん門八、間淵傳內、德次、與一兵衞、下女おりん、歌助、大星力彌、訥升、斧九太夫、一文字屋才兵衞、市藏、こし元おかる、ゆらの之助、女房おいし、条三郎、加古川本藏、寺岡平右衞門、鹽谷判官、定九郎、彥三郎、第貳番め、廓文章其まゝ、與行何れも評よし〇五月十五日より市村座「假名手本忠臣藏」四代目中村歌右衞門三回忌追善狂言「一谷嫩軍記」陣屋のだん「戀女房染分手綱」双六のだん、鹽谷判官、平右衞門、一文字や才兵衞、本藏、源の義經、吉三郎、斧九太夫、不破數右衞門、石屋みだ六、仲助、小寺重內、縫殿之介、熊谷次郎直實、福助、ゆる木息女しらべ、娘竹松、おかる母おかや、仲居およし、ふじの方、小六、鷺坂伴內、山名次郎右衞門、梶原平三、訥太郎、めつほう彌八、梶川與惣兵衞、判人善六、猿嶋左次太夫、山田文五三、鴻藏、熊谷女房さがみ、乳の人重の井（一世一代）富十郎、足利直義公、大ほし力彌、幸藏、同大三郎、あかん平、種ケしまの六、あんま欲市、虎藏、仁木右京、一力の亭主才兵衞、京藏、仲居おうめ、こし元浮船、梅松、同芝の戶、仲居おつる、芝鶴、本田彌惣左衞門、菊十郎、原郷右衞門、吉田兼好、與一兵衞、七右衞門、仲居おふぢ、市之丞、桃井若狹之助、千崎彌五郎、小鹽田又之丞、猿藏、石堂右馬之丞、矢間十太郎、斧定九郎、高麗藏、かほよ御前、娍おかる、おいし、おらんの方、梅幸、高の武藏守師直、かん平、大わし文吾、佐藤與茂七、大星由良之助（初役）團十郎、足利よし若君、吉五郎、じねん生の三吉、羽左衞門三段目返しにて淨瑠理道行「梅濡驛花聟」おかる、梅幸、かん平、團十郎、豐後路清海太夫、同翁太夫、三弦豐後路榮五郎、同仙調、同秀次郎、竹本雀飼太夫、富太夫、三弦鶴澤富七、訥六相勤、大切所作事「六歌仙體絲」祇園お梶、富十郎、在原業平、僧正徧昭、文屋康秀、喜撰法師、孔雀三郎、福助、所化、官女、雜掌、仕丁大せい、小野の小町、梅幸、大伴黑主、團十郎、淨瑠理清元太兵衞、同延壽

太夫、三弦清元榮壽老、直次郎、長唄松永鐵五郎、同菊五郎、同鐵之助、吉住小作、岡安喜代松、三弦杵屋勝三郎、彌七、歌、音藏、美和太郎、彌八、ふへ梅屋平吉、菊川吉太郎、小つゝみ福原百之助、大つゝみ望月太十郎、たいこ福原百十郎、望月鶴三郎、ふり付花柳壽介、同豊次郎、西川扇藏、杵屋和八〇忠臣藏いつれも評判よく團十郎口上に未熟の私に思ひもよらぬ大役の御進被下相勤升る様にござり升る先大序弁喧嘩場の師直は故人菊五郎の積りにて相勤又溫泉場夢の幕は少々私え加へまする又勘平は素より音羽屋にならひ受ましたる藝道にござり升は是は仕來りの相も替らぬ仕打を御覽に入奉り升す又其内にも大役ゆらの助はなか〳〵及びもつかぬ藝道殊に是迄名人たち勤おかれましたること故是は親海老藏の雛形ばかり相勤升又大切六歌仙の所作事の内大伴の黑主相勤升る是は御ひゐき厚き故人歌右衛門追善狂言にござり升ればば右歌右衛門の仕打を寫し御覽に入奉り升す誠に故人と親父の影法師と思召被下御見物被下置候様偏に希上候との口上なりし予も見物せしが初段の師直かほよのうしろ姿に見とれ若狹之助の言こと更に耳に入らず三寶にのせし兜を足にて蹴かへす處など又夢の場喧嘩場申分なし勘平は故人梅幸其まゝとの評ばん由良之助はいかゞと思ひの外大に評よく大切黑主迄大出來殊にゆらの助の壹人り大名題とは流石は大江戸の名物なり八代目三升浪華の一條は卷末くわしく記す〇六月十四日より河原崎座夏狂言「會稽殿下茶屋聚」第二ばん目大切浄るり巫山の雨の濡れ事も「雲艶女鳴神」東間三郎右衛門、安達彌助、京屋手代久七、小團次、早瀨伊織、人形屋幸右衛門、三浦之助義村、瑠寛、早瀨源次郎、岸田幸太郎、雲野當麻之助、竹三郎、岡舟岸之頭、林刑部、黑雲尼、奥山、浮田中將秀秋、萬才鶴太夫、齋藤小三郎、和三郎、奴腕助、岩倉の轟坊、國五郎、東間大藏、鳥羽の牛藏、大次郎、最上軍兵衛、神主鈴太夫、冠五郎、道具や利兵衛、手代嘉助、茂々三、廣見傳之丞、同宿うん念、武十郎、杣斧藏、道具や藤兵衛、三藏、萬助悴萬吉、芳太郎、幸右衛門悴幸松、丈之助、鳴神弟子勝見、尼吉彌、正木門彌、由次郎、五斗又市、幸藏、荒川鯉丸、あかん平、非づゝや伊三郎、非人頭傳吉、佐十郎、岩淵平馬、番頭善八、元朝、茶や娘おやま、やまと、山脇伴藏、丁稚三太、米五郎、尼

妙因、田舍侍新五左、猇右衛門、ゐづゝ屋お吉、奥女中菊野、佳好、片岡造酒頭、澤田庄三郎、赤雲尼、友松、玄蕃妻みさほ、萬助女房おとく、白雲尼、團之助、早瀨玄蕃、安達京屋萬助、友右衛門、刑部娘染の井、幸右衛門女房おとき、鳴神尼實は武智光秀娘きゝやうの前、しうか、正木主税、槌屋鶴三郎、訥升、佐竹新十郎、染の井妹葉すへ、齋藤小次郎、大舘左馬之助、權十郎、大切 淨るり富本豐前大掾、同豐前太夫、三弦富本菊藏豐志藏、竹本鶴澤連中相勤何れも大出來當狂言中棧敷代三十匁高土間代廿五匁同平廿匁○七月朔日より**中村座**夏狂言「旅雀我好話」ふじ川水右衛門、山本勘介、同母白妙、とちめんや彌次郎兵衛、市藏、伊世屋手代喜多八、若徒關内、長尾輝虎、鶴藏、直江山城、ゑらいやおゑん、桑名左近、猿三郎、家主杢兵衛、桃井三嶋之助、石井源次郎、つる三郎、五次兵衛娘おつぼ、劔術遣ひ松兵衛、松十郎、石井兵衛、加川左市、慶十郎、岩代傳內、横山玄蕃、純五郎、彌次郎兵衛、おたこ、針醫銀なん、相藏、せんたくや五兵衛、順禮南無藏、座頭犬市、音八、ゑらいや下女おとく、かん原兵馬、德次、堅井金太夫、藍玉屋與多兵衛、歌助、淺路妹おつゆ、歌柳、石井兵助、中野藤兵衛、勘助女房おかつ、芝雀、大切所作事(所作と申もおこがまし只大切の宿名に寄て)「連方便茲大津繪」座頭辨けい、雷、瓢たん鯰、鎗持、奴、鶴藏、ふじむすめ、歌柳、お若衆、船頭、うし若丸、芝雀、富本連中相勤長うたはやし連中相勤大に評よく〱藤栗毛側のチヤリ場不相替見物の請よく〱大入大當り當狂言中棧鋪代金一分三朱高土間金壹分同平金三朱○閏七月廿日より**市村座**「繪本更科譚(ゑほんさらしなものがたり)」「雙蝶々曲輪日記(ふたつてふ〱くるわにつき)」角力場、米や場、右馬之助娘更科、長吉姉おせき、富十郎、相木森之助、井上九郎、上杉輝とら、濡髮長五郎、吉三郎、山賊夜叉太郎、長坂左衛門、賊の手下勘左衛門、車屋大八、卷嶋大九郎、仲助、村上義淸、山中鹿之助、放駒長吉、山崎屋與五郎、福助、菊酒屋でつち長太、竹松、奥女中梅澤、美濃守奥方鶴瀨、小六、盜賊鬼丸、横田道庵後家代道助、三原有右衛門、尼妙りん、猇太郎、小田井又八、賊鬼藤太、菊酒や娘いく、平岡鄉右衛門、鴻藏、跡部七郎、盜人吉田太郎、下駄の市、又八、紫狩つた松、あかん平、大月主税之助、幸藏、馬場美の守、樂岩寺右馬之助、武田晴信、勘彌、神職右膳、矢村國作、山崎や與次兵衛、成藏、仲居おつる、娰紅葉、芝鶴、下部惣內、

海野常陸之助、又三郎、菊酒屋娘おきく、ふじやあづま、歌女之丞荻野伊三郎又かめの丞に復す菊酒屋手代幸助、板垣兵部之助、猿藏、跡邊大炊之助、武田四郎勝賴、高麗藏、すわ小次郎、吉五郎、更科一子鹿之助、羽左衞門、第貳番目大切淨るり江戶錦畫の筐に殘る噂も豐國盡し再新らしく筆の彩色「歌俤栞名所繪合」浦島太郎、お萬が飴、布かり、瀨田龍女、福助、俵藤太秀鄕、吉三郎、常磐津長うたはやし連中相勤何れも大出來○此更科物語は東海道遠州日坂驛にて栗枝亭鬼卵著述の畫入讀本にて京浪華にて度々興行す江戶表は此度初ての興行なり鬼卵姓は平名は昌房字は知白といふ栗枝亭鬼卵は其戲號なり晚年剃髮して佛卵といふ俗稱伊奈文吾といふ後に大須賀周藏と改後年日坂に隱遁して煙草を鬻ぐ產業とすくわしくは國字小說通點々漁隱著述珍書寫本也に出たり

「旅雀我好譚」　まり子、彌次兵衞（古者）▲中山市藏　喜多八●中村鶴藏

●アノ彌次さんはどふしたろふあんまりな人だおれが川へ落て着物をぬらしたから干ている內先キへ行とは附合のねへ人だあとか先キかしらねへが影も形ちもみへねへヲヽちやうどいゝ爰に古者が居る一寸見てもらおふモシ私は旅のものでムり升が連れの者にはぐれまして難澁致し升が其つれの者がどふぞしやアいたしませんか一寸夫を見てくださいまし▲アイ〳〵ハア、此つれの人はつい近所に居らるゝが此方の目にはまだみへまいア、おまへは絕命の死相があらわれました●ヱ、なんだへ死相が出ましたへ▲左樣でござるてアノおまへは江戶の御人と見へ升たが去る所の一ツ婦人をまよわせ殊に懷姙したをおまへの心掛がわるいばかりで產がおもくなつて死なれたといふような事はござらぬかナ●イヤモウ誠にあなたは安倍の晴明の生れかわりかしらぬが誠に其通りでござり升す其女のことを思ひだし升ると實に食事もすゝみませぬわたしがふがいない計りに其女は殺しましたサゾ恨ンでおり升ウ死ぬ時も私がことが氣にかゝり心が殘りましたろうとおもやア實に泪がこぼれ升す▲サア〳〵年月がたつほどそんなことがふびんになつて來る夫れが氣のよわみじや所へ死靈生靈或は狐狸の類が付込じや俗にいふ凡夫盛りに神たゝらず今おまへが連れにはぐれ心細いに付死ン

だ女房のことを思ひ出すと言が弱みじやまだ其罪ばかりではない小田原あたりであろう邪に女を犯したことがあろうがよくざんげをさつしやい●ハイ〳〵其通りでござり升▲まだ其上にきやふも盲人をあなどり水邊にかへつてこなたの身を惱すと言ふよふなことがござつたろうなどふじや〳〵●ほんにおまへさんはふしぎてござりますおまへさんなぞが江戸に行なさりやア大金もふけでござり升すしかしどふしたら退れまし升ウナ▲されば退れる仕様は敎へてしんじやうが女の死靈といふものでけふ必死の人相なればコリヤ誠に當惑じや●モシ〳〵少々のことなら金子も是にござり升す命とつりがへでござり升からどうかあなたが除をなされて私の一命をたすかり升うなら生々世々の御厚恩はわすれませぬ▲夫は我らが先祖より傳來にて一子相傳の受法がござつていかなる死靈生靈又は狐狸妖怪のついたるも一と七日の修法にてすみやかに退散いたすが己爰でござる謝禮としてざん金に五百疋祈禱料がかゝり升が御承知か●イヤモウ五百疋が六百疋でも宜しうござり升す則只今そつきんにお渡し申升からとうぞしやうげの放れる樣にごきとうして下さいましソレ五百疋差上升す▲アイ〳〵慥に受取ましたしかし此金子にモシ見にくい金でもある時はかへつて神の御ばつを蒙るが先ッ金子を改め升ッ大丈夫な金先ッ是をお納升すまだ其上に難義なことは今宵、チ夜おまへの其着物をかりて秘法の術を行ひ又こなたは今よりあしたの六ッ時迄目をとぢ口を閉て無言の立行といつて此處に立あかし行をせねば此怨靈は退きませぬが夫も御承知●ハイ〳〵承知ではござり升がそんなら今からあしたの六ッ迄目をとぢて無言の行をせねばきゝませぬか▲さよふとも〳〵〳〵其あとは手前が法にて七日受法を致してしんぜる●ハイハイ何も命あつての物種でござり升すから左樣なら何分宜しく除なされてください▲アイ〳〵太義ながら目をとじて無言でござるぞ●ハイ〳〵かしこまり升た▲アヽふびん千萬ドリヤしゆ法にかゝらずはなるまい先ッ五百疋にした馬が有たなら怨靈も退さんするであろふ●ヤアおまへは彌次さん▲コリヤ無言〳〵●エヽわりいしやれだどふりで

江戸の事迄不思議に當るとおもつた▲夫れでもおつぼのことを遠廻しにいつたらほろりと泪をこぼした内か有がてへ〳〵●ありがてへもねへものだわりいでうだんをハツクさメヱ、風を引たそふナ

○八月四日より河原崎座「吾嬬下五十三驛」前後二日つづき、觀音院法策後天日坊、お辰兄三作、隼人妻賎はた北條家後室手越の方、宇都の谷猫石の怪、直助權兵衞、清水冠者義高、小團次、盗賊地雷太郎實は竹川伊賀之助、觀音院下男久助實は大江廣元、三作妹おたつ、煙草や喜八、鳴澤隼人、璃寛、北條駿河之助、猫間中將光義、若菜屋手代伊之助、竹三郎、石田の三郎、修驗者觀音院、富士ヶ根左九郎後左京、大澤彈正、石垣伴作、非人權次、若菜屋番頭傳八、奥山鳴澤左門之助、新宮侍女かるも、吉田三之助、和三郎、取上げおさん婆ア、しらだ軍八、田舍侍源吾、三國五郎、蘆久保刑部、大工甚五郎、賊朝霧の松、大次郎、同嶋隱の權、山形玄蕃奥女中三毛野、冠五郎、旅役者宮川扇十郎、内げいしや小吉、茂々三、猫の怪童めてふ、吉彌、同おてふ、由次郎、北條五郎幸藏、萬壽君、ゐかん平、喜瀨屋小じよく、おかめ、長藏、同かゝへ、おくに、こし元千草、喜千三、喜せ川抱おかん、賊松風の音、寛六娍ききやう、喜瀨川二階まわしおやま、やまと、同抱おたま、玉次、同おてふ、娍白露、蝶之助、伊勢參り與之助、新田息子蝶太郎、米五郎、田舍同者平藏、平澤平藏、德松、日の岡中納言、旅役者宮川艶之丞、空言和尚、佐十郎、喜瀨川や女房おこう、住好、舟木雅樂之助、若徒文藏、友松、日の岡息女花園姫、隼人妹浮島、若菜屋後家おさか、喜八女房おしづ、團之助、修驗觀音院、盗賊赤星大八後典膳、石田三郎爲久、百姓孫左衞門、友右衞門、盗賊人丸おろく實はおろく、嶋原けいせい高窓、今樣の舞子おかつ、若菜屋娘若草、しうか、千葉之助男達月見の三五郎、訥升、荒波王税、龍宮侍女みるめ、結城七郎友光、今樣の役者室結權十郎　○初日三幕目淨瑠理富田趣向も地名に寄て蜃樓の色世界「桑名浦嶋浪乙姫」浦しま竹三郎、侍女みるめ、權十郎、同かるも、和三郎、乙ひめ、しうか、常磐津豐後大掾、三弦岸澤小式部連中後日六幕目上るり須磨の景色な品川に比て今樣のわざなき「指平引平月汐波」りかん、竹三郎、小團次、團之助、しうか、權十郎常磐津連中相勤

○初日京都大内猫退治大津觀音院旅宿草津お三ばゝア住家石部水口つゞき横田川渡し場、蓮華寺繩手土山坂ノ下鈴鹿山明

神、四日市龍宮上々吉、名古屋雛人形、鈴坂、虹ヶ岡、恵指、霜學院。後日藤枝岡部三作世話場・池鯉鮒、北條屋舗、宇都の谷別業、丸子猫魔の飛さり三島小田原宿場是より日本はし迄當狂言を合巻に仕立天地人脚色正本河竹能進編著述歌川國芳畫外草そうし壹部ヘおくり形容に準じ評判記上梓す其書にくわし

○八月廿五日より中村座「初紅葉小倉色紙」第貳ばん「戀飛脚大和往來」長澤早太、由ばん松作、稲の笹原狐、信田左近之進、笹屋忠兵衛、我童、小平次女房おかち、千草姫かし付淺尾、忠兵衛言號おすわ、菊次郎、高砂左門之助、下男久我之助、百姓忠三郎、次右衛門妹おゑん、芝雀、茨木彌藏、利倉傳右衛門、かめや利兵衛、鶴藏、けいせいすゑ衣、歌徳、幸崎傳次郎、ほつたん長澤早太、松之助、高砂艶五郎、古手やいが八、忠三郎女房おかめ、猿三郎、奴なべ平、千原金左衛門、つる三郎、田舍娘おきん、小平次妹おなみ、喜千三、小平次母おしま、音八、里の子由松、由次郎、小見川左内、きのじや勘兵衛、忠兵衛母妙閑、かん彌、千原三木之進、百姓喜の作、源之助、けいせいあかし、にしき、同しげ浦、早太母あすか、しげ松、高砂次郎太夫、虎五郎、傾せいときは木、三之助、同米うら、三木之進、妹なぎさ、米次郎、姫早枝、醫者道哲、德次、道具屋八十兵衛、小山與力賤はた、歌助、小松屋宗七、入江采女、訥升、小松屋惣右衛門、錺間九郎兵衛、丹波屋初右衛門、市藏、早太妹しら露、高砂息女千草姫、左近妹小芝、槌屋梅川、粂三郎、船頭小平次、夕浪兵庫、四國の海賊、犬上刑部大輔、小松や下男新助、槌屋治右衛門、新口村孫右衛門、彦三郎、小山英太郎、壽太郎、第貳番目大切淨るり梅川忠兵衛「道行故鄕の初雪」忠兵衛、我童、梅川、粂三郎、孫右衛門、彦三郎、富本清元連中相勤大評判大出來○十月十四日市村座　青砥稿「潤嫗兒源氏」中村富十郎眼病にて休　鐵屋喜吉、御曹子牛若丸、輻助、柴かり里松、長作女房お春、小六、高櫻判官、百姓かれ太、龍太郎、多賀部次、進の次郎、善吉女房おうし、鴻藏、伊皿子七郎、めおかし胴八、又八、舞子はまち、猪三郎、同きよし、重之助、鴻の臺清次、盜人鵜太郎、波多野十郎仲國、仲助、舞子みよ次、あかん平、百姓作左衛門、龍左衛門、笠屋小ふぢ、在所娘おきた、與三郎、同およし、仲居おはな、三すじ、同おかく、後家おとや、芝鶴、澁川玄吾、宗兵衛、森村主計、又三郎、木曾のお六、ときわの前、歌女之丞、鴻臺日九郎、長作悴長松實は源今

若丸、仕丁次郎又、高麗藏、續井吉若、吉五郎、賤女おむら、續井照義、羽左衛門、青砥左衛門、友柳七郎、藪屋與四郎スケ吉三郎、りやうし長作、妙雲國師、松山與惣スケ勘彌、第一番目五幕目滑るり「邯鄲かんたん」福介、こま藏、羽左衛門常磐津連中大切所作事「擂鉦菘種蒔とりあへずすゞなのたねまき」福助、寅之助、こゝの藏、歌女之丞、羽左衛門相勤常磐津長うたはやし連中相勤大に評よし十一月朔日より河原崎座良見世狂言は前年之通來春御披露と云口上書あり「假名手本忠臣藏」高の師直、加古川本藏、不破數右衛門、平右衛門、小團次、大星由良之助初やく斧定九郎、大わし文吾、本藏女房となせ、璃寛、鹽谷判官、早の勘平、矢間十太郎、竹三郎、藥師寺次郎左衛門、鷺坂ばん內、奥山、大ほし力彌、たゐこ持橋八、和三郎、百姓與一兵衛、下女おりん、國五郎、茶道久和、赤垣專藏、大次郎、倉はし金助、せげん源六、冠五郎、里見民部、種ケしま六、茂々三、舞子勝見、吉彌、足利直義公、由次郎、大舘左馬之助、幸藏、たいこゑび八、あかん平、一力女房おくに、喜千三、奴可內、狸の角兵衛、元朝、たいこ仲居、こし元大ぜい仲居おまつ、娍紅葉、まつ三、同早咲、仲居おてふ、蝶之助、近松半六、めつぽう彌八、米五郎、岡野新右衛門、一力亭主萬兵衛、德松、梶川與三兵衛、原郷右衛門、佐十郎、一色左京、千崎彌五郎、友松、ゆらの助妻おいし、おかる母おかや、團之助、斧九太夫、一文字屋才兵衛、友右衛門、かほよ御前、こし元おかる、仲居お大、しうか、鹽谷縫殿之助、潮田勝之丞、納升、桃井若狹之助、石堂右馬之丞、佐藤與茂七、小なみ、權十郎、狂言作者篠田瑳助、梅澤宗六、川口源次、河田藤治、鶴峯千助、河竹新七

○當芝居春狂言より引つゞき大入大繁昌仕候取分秋狂言は日數七十日餘興行仕難有仕合奉存候且良見世役者入替り之義は前年之通來春御披露仕候右に付御禮旁霜月狂言何がなと打寄相談之折柄去御ひゐき樣より忠臣藏操狂言爲相勤候樣役割迄御差圖に付早速役者共申聞候處嵐りかん義由良之助之役は未相勤候事無之殊に是迄名人上手の旁被相勤御見物樣之御目に殘り居候得ば中々以て思ひもよらずと達て辭退致候を再三相進め爲相勤候事思召に不相叶所は御差圖被成下御評判宜敷願上候との口上あり○右狂言評判よく十一月四日夜ゆらの助七段目稽古ありて五日には可差出之處聖天町より

出火にて類燒す早速本普請に取かゝる

○十一月五日より市村座中村富十郎御當地御名殘り狂言杉酒屋娘おみわ、緣枝娘袖はぎ、中村富十郎「八陣守護城(はちじんしゆごのほんじやう)」森三左衛門、鎧櫃の猪六實は濱名帶刀、仲助、瀨川采女、三左衛門娘ひな衣、福助、同母しがらみ、西國順禮おきし、小六、まり川玄蕃、瓢太郎、北畠春雄、鴻藏、宅間郡司、鱗兵衛、山中右內、岡六、帶刀女房お才、歌女之丞、佐藤主計之助、高麗藏、佐藤肥田頭正淸、吉三郎、西國順禮、石松、羽左衛門「奥州安達原」三段目桂中納言實は貞任、吉三郎、謙杖直方、仲助、八まん太郎、福助、謙杖妻濱夕、小六、義家奥方敷妙、歌女之丞、外ヶ濱南兵衛實は宗任、高麗藏、袖はぎ娘小きみ、竹松第貳ばん目「妹背山婦女庭訓」杉酒や道行御殿場りやうしふか七、吉三郎、そがの入鹿、仲助、ゑぼし折求女、おはしたおむら、福助、家主茂木兵衛、官女櫻の局、瓢太郎、同梅の局、合長やの主左衛門、鴻藏、宮越玄蕃、官女竹の局、又八、荒まき彌藤次、杉酒屋はゝおくま、成藏、合長や五す兵衛、官女松の局、入藏、同もみぢ局、合長屋野手久吉、仕丁官女大せい、ふじの局、三すじ、萩の局、芝鶴、入鹿妹橘姫、歌女之丞、でつち窪太郎、紀の長谷雄、高麗藏、上るり「柳絲戀苧環(やなぎのいとひのおだまき)」五ツわり富十郎、立花姫、八ゝめ之丞、求馬、福助、大切所作事、其まゝ差置上るり常磐津富本連中相勤

○右狂言初日に御座候處出火にて類燒す三座共早速本普請に取かゝり候よし右に付中村富十郎同仲助初め門弟不殘上坂す○當春より十一月まで三座戲場打揃大入繁昌は全大江都御繁榮之御余光猶千秋萬歲萬々歲と祝しける目出たし／＼

八代目市川三升難波ばなし

一嘉永七（安政元）甲寅年六月廿九日八代目團十郎深川木場宅より夜八ッ時出立團十郎供寅吉庄八萬吉駕之者三人荷持壹人

一六月晦日戸塚中村屋泊り七月朔日小田原大淸水泊り二日三嶋わたや泊り三日江尻大竹屋泊り四日藤枝江戸屋泊り五日袋井若まつやとまり六日二タ川まつや泊り七日岡崎山本屋泊り

右山本屋に逗留し此所より尾張名古屋え手紙を差出し候處実海老藏義は三河山惣兵衛と申者方に罷在旨申越候に付召仕寅吉并案內之者壹人相雇右惣兵衛方へ夜九ッ時頃に參り團十郎事岡崎迄參り居

候事を海老藏え爲知ら候故翌八日早朝に名古屋座本蔦右衞門と弟重兵衞寅吉同道にて岡崎え參り團十郎に面會いたし直に同道にて惣兵衞方へ罷越九日に父海老藏に久々にて逢ひ互に無事を悅び候よし

一七月十日三河山惣兵衞方を出立いたし名古屋表え參り藤の丸辰右衞門と申者方え着其夜紙彥と云旅籠やへ止宿致す

一十一日名古屋茶屋町岡田屋吉十郎方え參り候

一同二十九日名右屋表芝居初日之所閏七月朔日初日に相成候

一狂言「與話情浮名横櫛（よわなさけうきなのよこぐし）」きられ與三郎大評判貳番目源平つゝじ熊谷次郎直實團十郎あつ盛猿藏あねは平次文五郎扇屋上總海老藏大切狂言曾我對面工藤左衞門歲六曾我十郎團十郎同五郎時宗海老藏後日狂言「假名手本忠臣藏」大序より不殘大切「檀浦兜軍記」琴責の段けいせいあこや尾上菊次郎岩永左衞門海老藏畠山重忠團十郎大入大々當り

一同閏七月廿三日舞納同日宮宿棚屋と申はたごやへ止宿供の者は寅吉萬吉役者坂東秀朝當人とも四人なり

一同廿四日海老藏猿藏其外大勢參り皆々船に乘り桑名まで夜五ッ時着松屋といふ旅籠屋に止宿

一同二十五日龜山京屋泊り同二十六日石部米屋泊り

一同二十七日伏見豐後橋八百屋佐右衞門といふ船宿に止宿

一同二十八日伏見より橋本此處にて住度櫻の宮といふ處え大坂より大勢船にて迎ひに參り居右の船に皆々乘移り其夜大坂道頓堀中の芝居へ乘込いたし其賑々敷事筆にも書盡しがたしと云々

一同二十九日休日
右大坂表にては嶋の內御前町植久といふ者の方に海老藏猿藏みな〳〵止宿仕尤團十郎も同宿にて二階に罷居候

一同八月朔日大坂表大世と申料理茶屋より人參り海老藏團十郎猿藏皆々參り團十郎は氣分惡しく候とて間もなく其座を去り久兵衞方へ罷歸る

一同二日芝居にてけいこ夕刻海老藏團十郎兩人伊豆甚といふ茶屋へ罷越

一同三日けいこ惣さらい

一同四日中の芝居手代安藏參り今日初日致度旨申處團十郎朝寢に付海老藏え申置かへる其後晝頃三番叟相濟候旨申來る團十郎立腹のよし
一同五日朝年寄宅え役者共惣判と申一同罷越候に付團十郎も參り右かへりに芝居へ立寄り夜四ッ時頃右植久方にかへり氣分惡敷候と申奧二階に打臥按摩とり揉いたしふせり其後變死致し候始末
一見出し候ものは中の芝居手代山形屋安藏と申もの
一團十郎其砌之衣類は鼠紋付帷子白縞袢博多帶丹後縞袴寢卷帶にても丶立とり腹帶〆居候よし
一刀は江戸表より持參いたし候此刀は糀町伊勢八といふ質屋ゟ何方よりか質入いたし候品のよし
一團十郎變死に付猿藏大に驚き仰天し髻を切しと云々
一同六日御檢使相願候處其日夕方御役人御出ありて取片付被仰付相濟同日庄八萬吉江戸表ゟ出立
一同七日明ヶ方千日燒場におゐて火葬す
一同日寅吉事團十郎弟重兵衞よりの書狀を持江戸表ゟ二度目の注進同十六日寅吉江戸着
一同十九日庄八萬吉江戸着

此兩人道中にて海老藏妾おため幸藏あかん平に逢ひ大坂表八代目の一件夫々談話に及び手間どり二日延着せしと云々

辭世　うしろ富士難波に殘す旅の笠　八代目三升

法名　篤譽淨蓮實忍信士　俗名八代目市川團十郎天王寺村一心寺に葬す行年三十二歳

板松山高岳院一心寺と號す　京都智恩院末寺茶臼山より西の方

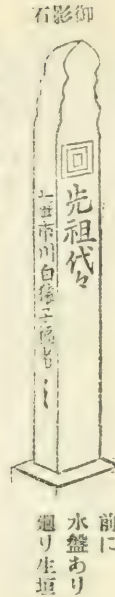
○去る嘉永巳三月河原崎座におゐて八代目團十郎御當地名殘り狂言也是父海老藏事久々大坂在勤ゆへ追々老年に及び候まゝ面會致度段座元權十郎ゟ相談之上彌生狂言伊達七役大切勸進帳武藏坊辨けい相勤古今大々當りにて首尾能御當地を出立し大坂表ゟ登り相互ひに無恙面會し喜悦大方ならず逗留中所々同道にて見物し且一心寺住僧は海老藏とは至て懇意故團十郎をも引合ければ一心寺も夫々挨拶に及びけるさて團十郎申ける樣は貴僧に御願申置事あり別義にあらず愚父海老藏儀老年に罷成りあすの事も斗りがたし如何なる儀も御座候はゞ當寺へ御引取御引導御賴申す何卒墓所地面取極め申度と地所見繕二間四方程かり請御影石にて塔婆

形に印を建父海老藏の事吳々も賴置扨江戸表にて
名殘り狂言の辨慶に紛する釣看板に出せしを一枚
當寺ゐ奉納す此書案今に衝立にして有之由如斯因念深き事にや父
の爲に補理し墓所へ今としはからず我身を葬られ
しは能々深きゑにしなるべし

御影石

回 先祖代々

七世市川白猿子孫とも

前に水盤あり
廻り生垣

八代目三升年表

文政六癸未十月五日深川木場にて出産す幼名新之助
母は本妻みえ同八酉中村座番附へ市川新之助名目を載る同
九戌弟出生に付新之助を弟に讓りゑび藏と改同十亥
小役にて上上吉同十二丑父大坂在勤中河原崎座の座
頭の處に置天保二卯市村座にて八代目市川團十郎と
改名七代目團十郎市川海老藏と改名同三辰市村座に
て澁谷金王丸の初しばらく父海老藏總坊主になり引
立同八酉市村座初座頭同十二丑中村市村猿若町へ移
る同十三寅河原崎座さるわか町へ轉地す座頭相勤同
十四卯若狹之助早のかん平大當り上上吉にすゝむ弘
化元辰花川戸助六初役大當り同二巳五月七日親孝行

に付御褒美頂戴同三午中村座頭藤原時平宿ね太郎大
出來同四未市村座頭嘉永元申十一月より河原崎出勤
此節八代目團十郎日の出にて位大上上吉に昇進す同
二酉大坂登り名殘伊達く七や勸進帳古今大出來同八月
下り御目見ゐ一ノ谷に六彌太半破の景清大出來當十
二月父海老藏御赦免ある同三戌五月大病同秋狂言よ
り病氣全快に付出勤同四亥市村座壽狂言口上相勤同
三月時次郎うか浦里し古今大々當五子河原崎座同六丑中
村座局岩ふじ初役切られ與三郎新狂言大出來同七寅
市村座忠臣藏にゆらの助初役大當り名題一人り夏休中尾
張名古屋より父同道にて上坂し八月六日に終る
○右八代目市川團十郎死去に付江都表にて三升背
像の錦繪凡貳百番餘出板此内戒名の異なりし物五
六部年齡の相違せしもの同斷其外追善手向の發句
一枚摺小冊物數多出板す其内一ッ二ッを爰に記す
市川團十郎涅槃像へ袋入の上にうぶる富士の句あり
追善三升孝子中本一冊作者䔥翁鶴壽
大坂表乘込より狂言の口上看板役割卷末に書置と
して長文あり辭世團栗は風を梢の別れ哉とあり
（八代目幼年の頃字名を團栗と云々）

又背像の上に
のせられた大まな板にひくつかて　梅の屋
切ッて見せたる鯉のはらわた
白牡丹大上上吉高々師直切上々吉畢のかん平評判記上上吉大星由良之助極上上吉切られ與三郎

市川三升追善手向三滿壽格子

惣役者手向發句　序文の末に

繪に殘る牡丹やあきの手向草　米入庵　瓢長

刺身八景　市川團十郎追善篤學造實忍信士

御ひいきの東をよそに西の空
けふそさめ行大坂の夢

追善刺身八氣意　常盤津月六日在陣作者梅素上人述

「大さかの芝居のあだし野の尾花の露ときへたりし義理といきちの市川や子孫もながき八代の涅槃は急なおくり文その御ひゐきの人によるなみだに目さへはれやらできれ〴〵ならぬ立かねもうんとつく身の　下略

浪花稲妻名古屋濡燕　ふたりつゐせんはたのはなむけ　雨人追善蓮花向　賽の河原崎　此六字續　花吹雪と表題あり　三升高賀兩人の群畫あり

不破名古屋かけ合　◯回　不破伴左衛門　名古屋山三

回違ふからん者は亡者に聞近くはよつて助高屋目にも三升の腹切出立今流行の立者がまよひ冥途の東門をくゞればたちまち極樂淨土こくうに人のかなしみは◯歌舞の役者の君達がたへたる事も遠國に名古屋浪華のでいたらくひゐきの袖もぬれ事のいろに色ある其中へよみ賣組やにしき繪に回是をしらずや大坂のはじまり見ずふりよの死去施主もあきれてあみだ笠かぶりてかへるなきすがた◯ぬるゝたもとや泪雨ぬれにそぬれしかの人に回ならべ牡丹にくわん菊は◯たがひに死出の山かづら回西に難波づ◯北には名古屋◯回おもひくらべん白小袖　長壽

老人照千賀述

八代目あはれあつぱれまたゝくひ　岡本樓
なにはに見する大江戸の腹

役に見し不破と名古屋の鞘よりも　萬代園
目はあてられぬ南無あみだ笠

極樂の歌舞の菩薩の數に入る　蔦樹園
蓮の臺のふたり座がしら

目覺しき江戸市川の荒事も　壽界山人
あまりに過て扨哀れなり

八代の家の寶をなくせしも

おためこ　長壽老人

かしと人はしらざる

惣役者追善發句合（半紙本 表題に）嘉永七年八月六日死 葬大坂

天王子村一心寺

猿白院成清月田信士と戒名あり役者發句略之

嘉永七甲寅歳閏ク好キ六日追善三升卅二孝四ニ切十

種香の段（袋に白牡丹畫 一蒲とあり）八代目三升追善　東都契義隱士述院本

文句略之

難波夢涙種（なにはのゆめなみだのたねひさご）替紋（相果申候 板松山一心寺葬す）第八月六日 暫手向のつらね

觀惠智恩信士（市川團十郎）

しばらく手向のつらね　三升自さつ

東夷南蠻北狄西戎四夷八荒天地乾坤の其間に何れか是を歎かざらんや近くは寄て目になみだ遠くは音に聞便り初は虚と遺言を一チまい紙に戒名を柿の素袍に太刀日さへ八月六日むなしくも一ッ本花の顔見世に出立のめしの煙りさへ消て行身はア、つがも難波の土と成田屋が今年積つて三十二八代めいどへ乘込は虚じやごんせぬ本願の十八番は家の藝歌舞の菩薩の隨市川いま飛び入りの蓮舞臺さまたげひろぐ牛頭馬頭めら惡く淨張憂目を見る目業の量にかけるがさいご閻魔の帳の高臺から奈落の底へほふりこむとホ、うやまつて亡者

夢客旅寢枕（ゆめのかくたびねのまくら）（一枚ずり）海老藏盲人にて杖を失ひし處歌

おため猿まわしの圖

又大錦三枚つゞき袋入なにはの夢（見當也切られ 與三郎豐國畫）同三枚千草の露と題し（三升素顔上下 着袋入國芳畫）此絹地え似良畫をすり彩色せしも多く鬻けり又豐國肉筆もありし猶數多あり略之往古より俳優追善の畫多くありといへ共如此度の番數程ありし事を聞ず今を盛りの深見草ちりてはかなき世のありさま惜まぬものぞなかりけり本葬のなきは殘念〳〵

十二月八日

嵐松法音信士（俗名三代目嵐音八、俳名和考、幼名和三郎）

辭世　さゆるとも九年德あり雪達摩　和考

元祖

嵐音八（俳名和考、道化方名人にて位功上上吉に至る人形町に鹿子餅の見世ありし當時なし弘化の頃家斷絶せり）

二代目

嵐音八（俳名和考 幼名彦吉）

三代目

嵐音八

花江都歌舞妓年代記續編卷の廿九

●安政二乙卯年

○本普請出來に付三月七日より中村座「花舞臺團岩曾我」清水の清玄法師、山形屋義兵衞、清水冠者義高、壬生平妹おつる亡靈、我童、奴淀平、鬼王團三郎、渡し守お松、芝雀、清水宿直之助、清玄、梅澤小五郎、訥升、奴壬生平、伊達與八郎、下り市川團三郎、初澤村紀久藏、庵崎求馬、妼松ヶ枝、待之助、河野惡五郎、鷲塚八平次、牛嶋軍藤次、疏太郎、奴鳥羽平、其股土太郎、本田彌惣左衞門、德次、植木屋八十吉、こし元葉末、道具屋萬八、米五郎、米屋九郎介、奥女中松しま、虎五郎、同小笹、箱根の畑右衞門、純五郎、シャボン玉賣馬、奥女中山吹、イ藏、古着屋源八、奥女中桐しま、義右衞門、同いくよ、賤原小文次、多目藏、牛嶋軍藏、與作下部團助、千代飛助、淀平女房おかち、結城奥方眞弓、下り瀨川乙女、與次郎下部八藏、奴升平、稻葉小僧、松若、伊達新左衞門、小團次、淀平母おさい、奥女中八千代、しげ松、同高嶋、百姓出來作、三藏、清水寺敬月、國師禪主、おりべ、江戸坂京藏、由留木馬之助、若者太介、好三郎、百足屋金兵衞、賤原丹藏、森五郎、妼さつき、重の井乳女おさき、にしき、げいしやいろは、彌三左衞門娘おかね、こし元若草、米次郎、櫻姬侍女しがらみ、梅澤屋女房おはる、小六、稻毛の十郎、局まがき、伊達與作、友松、淀平娘おつる、左內妻ふじ浪、市之丞、雲助江戸兵衞、わし塚官太夫、山形や後家おげん、市藏、由留木息女さくら姬、關小まん、山かたや娘おひさ、奥女中重の井、粂三郎、喜のじ村の次郎作、結城造酒之頭、勘彌、ちゝふ小六郎、壽三郎、第一番目七まく目淨るり田舍源氏の俤なうつして「邯鄲枕物狂」清玄、我童、松代、蔦之介、まかき、友松、十六夜、米次郎、妼待宵待之介、よしの、三の助、あさみ、米五郎、櫻ひめ、くめ三郎、富本豐前大掾、三弦富本兼藏連中、大切淨瑠理物の月の影ふたつ「松櫻隅田の兼言」清玄亡靈、我童、つね若、訥升、おまつ、芝雀、さくら姬、粂三郎、常磐津豐後大掾、三弦岸澤小式部連中相勤何れも評判よく大出來我童小團次一座にて貌合なし內々意見合不和なるべし○本普請出來三月十六日より市村座「鏡山再盛花硯曳」和田雷八、近藤郡次兵衞、梅本長兵衞、石原數馬、三十

郎、庵崎求女、料理人伊之助、竹三郎、清水冠者義高、小間物屋佐七、福助、日雇仁助實は綾瀨次郎、安達彌太郎、越野後室檜垣、源之助、賤女およね、たらふくや娘おかめ、歌女之丞、下部隅田平、大江靱負之助（下り）尾上菊三郎、下部淀平、おじやれおなで、小よし母おうた、歌助、若徒與五平、尼妙喜、大姬侍女關屋、鶴三郎、牛嶋軍藏、おどり子娘おこう、小道具屋九八、鴻藏、浪人中野鄕助、奧女中紅梅、又八、同早わらび、井坂左次太夫、成藏、竹倉曾平太、奧女中しの崎、武五郎、同かゝり火、金比羅參りのら八、入藏、結城友若、花助、げいしやおはな、梅幸、千日參り西念、井の堀主水、らい助、修行者うん念、百姓畔作、孫六、娵若ば、旅げいしやおよし、與三郎、たらふくや女房おかく、奧女中松かへ、芝鶴、へんくりや太郎兵衛、番場の夢忠太、猿しま郡じ、村右衛門、旅商人嘉七、禪門淨久、およね母早なへ、又太郎、頼朝息女大ひめ、おどり子おりう、歌柳、横川丈左衛門、旅人來り喜多八、髮結の鐵、鶴藏、劔澤彈正右衛門、若徒甚助、柳はし船頭長吉、高麗藏、大友常陸之助、男達破軍星五郎、若徒穗原愼平（下り）淺尾與六、中老おのへ、要助妹小まき、踊の師匠小よし、大江息女粧姬、菊次郎、浪士要助實は越野勘左衛門、局岩ふじの靈、鳶頭金門の伊三、とちめんや彌次郎兵衛、彥三郎、花見の世話番よし吉、竹松、鳶小頭橋の嘉吉、羽左衛門、第壹番目六幕目淨るり「道行惚雙色夜櫻」小よし、菊次郎、彥三郎、おこう、鴻藏、富本豐前大掾、同音羽太夫、三弦同兼藏相勤第二番目大切上るり（新舞臺を壽て奴嶋田の八幡大名奴容形太郞冠者）「祝言靱猿曳」常磐津豐後大掾、相勤第壹番目は故人尾上菊五郎狂言鏡山

後日局岩ふじの怪談第貳ばん目再膝栗毛此度は喜多八役は不相替鶴藏相勤彌次郎兵衛は座頭彥三郎相勤かゝる役を座頭相勤樣になり大に評判よく元祖十返舍の滑稽ます〳〵世に行なわる

○本普請出來二月廿八日より河原崎座「鏡模樣比翼花鳥」と云大名題にて矢倉下番附配り候處坂東しうか腫物にて打臥居候役割は中老尾上三浦の小紫、げいしやお八重、幡隨長兵衛女房お時、しうか第貳ばんめ序幕淨るり（富井の白井筑波の小紫）「逢見思大和」權八、竹三郎、禿ゆかり、吉彌、禿みとり、由次郎、小むらさき、しうか、富本連中右役わり出候處しうか養生不相叶

三月六日終る初日より是迄替り役にて興行之處死去に付相休來る十五日よりしうか追善狂言として花の上野志渡寺一ト幕差加へ初る其節之口上書に云

乍憚以口上奉申上候

御町中樣益御機嫌克被遊御座恐悅至極に奉存候隨て御祝義萬々歲申納御ひゐき厚き坂東しうか義かへらぬ旅へ趣き無據夫々替り役爲相勤興行致候處御見捨なく御見物に御來駕被成下難有仕合奉存候右御禮狂言何かな相談の折柄去る御方樣より花の上野志渡寺の段おつぢを瑞寬内記を吉三郎坊太郎吉彌に爲相勤候樣夫々役わりまで難有御差圖にとりあへず取仕組奉御覽候且親に別れし吉彌が便りなき身の上は坊太郎がかんなんしんくにひとしく追々成人に隨ひ親の名前相續致し候迄は只御ひゐきの助太刀ならでは本望はとげ兼候事ゆへ是迄にばいし吉彌御取立之程偏奉願上候わけてしうか御ひゐきの御方樣は親への追善悴への土産と思召是非／＼一度は御見物之程呉々も奉希上候以上と云々

○三月十五日より「鏡山比翼容姿視」「花野上野名譽石碑」志渡寺の段局岩ふじ、劔澤彈正左衞門、本庄下部八内、白柄十右衞門、槌谷内記、吉三郎、召仕おはつ、寺西閑心、白井權八、中老おのへ（しうかかわり）かつしか十三、竹三郎、牛嶋主税、石塚玄蕃、夢の市郎兵衞、奥山、奴伊達平、まむしの次郎吉、和三郎、奥女中繪合、觀上阿闍梨、國五郎、生垣寒竹、せげん善六、大次郎、白柄下部段八、奥女中含り木、冠五郎、同横ぶへ、馬淵官藏、元朝、奥女中明石、雲介、羽根田の辨、德藏、劔澤下部權平、雲助、川崎の萬、市太郎、千壽君實朝、山太郎、萬壽君、賴家、由次郎、天野刑部、雲助、大森の市、佐十郎、同濱川の三倉はし、團右衞門、宗兵衞、新造此花、奥女中早わらび、三すじ、同竹川、槌谷娘しのぶ、まつ三、茶屋女お蝶、奥女中關屋蝶之助、同初音、紫喜屋娘おやま、やまと、奥女中浮舟、若山數馬、德松、こし元さえだ、三浦屋女房おたつ、喜千三、奥女中伏屋、三木十藏、猿三郎、長兵衞一子長松、國太郎、賴朝息女大姬君、三浦の小紫（坂東しうかかわり）内記妻菅の谷、團之助、本庄助太夫、釣かね彌左衞門、森口源太左衞門、友右衞門、小紫禿ゆかり、田宮一子坊太郎、吉彌、大江因幡之助、綾瀨主水、調升、篠崎求馬、長兵衞弟幡隨長

吉、權十郎、何れも大出來大當り

坂東しうか追善狂言　田宮坊太郎、坂東吉彌(しうか悴)うばおつぢ、嵐璃寛

ヲヽ、和子おまへにお怪我はなかつたか嬉しや〳〵○アヽいかなる過去の約束にて世にも因果なわこが身の上てゝごは田宮源八さまとて劔術勝れし達人なりしが五年跡に誰ともしれず人に討れてあへない御最期跡に殘りし母さまには散行花の三月六日夜半の嵐に此を去りなきの泪の其中へかてゝくわへてこなたのごう病せめては親御の追善といたいけな髮すりこぼち此御寺の弟子坊主朋輩多き其中にも親のない身にかたわなこなた嘸肩身がすぼるであろふと夫がいとしふござるわいのふ○コレ和子今わしが言ことをよふきかしやれやとかく人は人さまのお惠受ねば出世はならぬお前の母御は言迄もなく此姥なども何れも樣の御取立ゆへ四とせどしどうなりこうなりくらすもおかげまして親のない身では力と頼は誰よりも此大江戸の御贔負樣のお取立をかうむらねば家相續はならぬ程にようお願申さつしやれ御らんの通り瘂ゆへにもの言ふことの叶わぬ和子定めて幼な子心にも何れもさまのお袖にすがり我身のことを幾重にもお願申たふはござり升ふが心に思へど言ことならぬせつない和子の胸の內御推量なされて下さりませ又ニッには過行し母御が草葉のかげにても只まよふのひ和子の身の上嘸やあんじていられふかと思ひ廻せば身につまされ出過たやつとお叱りもかへりみませず姥ゆへに親御に替りて和子のお願そりやモウ大江戸根生の事故に別にお願申さず共お取立あるはしれてあれどくどふもお願申升るは御ひゐき樣のお惠で末々親の名を繼升よふお取立下さらば亡母の悅は千部萬部の經よりも遙に增りし追善供養偏にお願申上升す

しうか追善のせりふ諸見物泪に袖をぬらせり

第貳目鈴ヶ森の場前文略之　●白井權八、坂東竹三郎　▲幡隨長吉、河原崎權十郎

●流石は江戸氣の其詞(ニ)まづく石も緣のはし力と賴む其許の御家名聞ぬ其内に名乘る拙者が姓名は因州の產にして當時浪人白井權八と申もの ▲スリャお若衆樣には權八さま ●シテ其元の御家名は ▲へイ問れて何んの何某と名のる樣な町人でもござり升ぬしかし生れはあづまぢに身は住なれし隅田

川流れ渡りの氣さんじは江戸で噂の花川戸所にふるき幡隨の●スリヤ中國迄も隱なき江戸に名高き幡隨の長兵衞どのでござるよな▲アイヤ〳〵そりや大違ひでござり升すわしは幡隨の長吉といつて長兵衞の弟でござり升す今おつしやつた江戸に名高い正眞正銘の長兵衞は大坂におり升す目の大きい幡隨長兵衞是はとふに隱居をしまして其後名前を繼ましたはわしか兄きの幡隨長兵衞は御祝儀は濟升たか去年八月六日の朝いかに達しと言ながら親兄弟をふり捨て思ひきつたる旅立も行てかへらぬ十萬億土便りに思ふ兄貴に別れ留守を預る女房の姉御を力に賴んだる其甲斐もなく此三月同じ六日の曉に跡をしたつて旅の空何んたることでこんなめに大坂以來二度の夢ねても覺ても忘られぬは私計か御攝きの何れも樣は同し事袖振あふも他生の緣只一ッへんの御回向を偏にお願ひ申上升す●とんだ所で無常の噺したか難有は御攝さますつへがしたもきのふ額に殘る前髮の跡さへ消ぬ靑二才此長吉に長兵衞の替りに出ろと幾度かおすゝめ故にお叱りもかへり三升に三ッ大の銀の替りにしやれ所かしれたせりふも江戸なまりほんの兄きの聲色もすこしは似たるなまにへの一トロ茄子のへた自慢みかけはけちな小野郎だか八百八丁の御惠を生れだちから產湯にあび弱ひ者ならよけて通し强ひやつなら向ふづら韋駄天が華羽織で鬼鹿毛に乘ッてこよふ共びくともするのじやァごぜへませぬ及ばずなから達しのはしくれ阿波座烏は難波潟藪鶯は京育吉原すゞめを羽かいにつけて江戸の男と立らるゝ男の中の男一疋●ト言はわしが兄貴の事どふして〳〵わしはまだ數にもならぬめばへの牡丹花のお江戸の厄介ものしたか一旦受合たらどこかどこ迄河原崎いつでも尋てござり升せ影ぜん位はおぼへており升す○是も八代目團十郎坂東しうか兩人の追善せりふ也

○五月五日より中村座「花菖蒲男鑑」第貳番目「伊勢譚戀湊」一寸德兵衞、なにわや新助、福岡貢、我童、團七九郎兵衞、鳴戸左內、貢伯おみゑ、小團次、道具屋淸兵衞、料理人喜助、芝雀、玉嶋礒之丞、道具や手代淸七、訥升、助松主計、團藏、今田萬次郎、松之助、大鳥佐賀右衞門、道具屋番頭傳八、藍玉屋北六、紋太郎、こ

つばの權、熊木角太郎、油屋おしか、德治、羽根倉軍藏、なまの八、米五郎、道具屋孫右衞門、德しま岩治、虎五郎、安達大藏、純五郎、神主伊おり、遠州屋治之助、イ藏、別當當義院、若者駒右衞門、義右衞門、大經師小助、講頭作右衞門、多目藏、助松、若徒勘藏、桑原丈四郎、千代飛助、胴脈の金兵衞、相藏、神子おすゞ、鴐舁半次、小半治、道具屋娘おなか、油屋おとめ、乙女けいせい琴浦、油屋女房おしげ、しげ松、庄屋久兵衞、堤彌源次、好三郎、仲居おさん、油屋娘分おまさ、三之助、同お金、仲居おまつ、にしき、油屋おきし、米次郎、さかいのおよし、おなかうばおかの、小六、濱田釆女奴林平、友松三ぶ、女房おつぎ、孫太夫娘さかき、市之丞、三河屋義平次、正直正太夫、仲居まんの、市藏、團七女房おかぢ、德兵衞女房おたつ、油屋おこん、粂三郞、釣舟の三ぶ、藤浪左膳、玉嶋靭負、勘彌、助松主計、壽三郎、淨瑠理豊竹桐太夫、三弦鶴澤佐市、相勤大に評判よし我童、小團次、顏合になり大出來○五月四日より**市村座**「五人男誧膽渫俠」貳ばんめ「伊勢音頭戀寢刄」男達布袋市右衞門實は眞間田甚三郎、鴈金屋紺屋文七實は 布袋市右衞門、若徒野田角左衞門、みつぎ、伯母おみね、料理人喜助、三十郎、男達鴈金文七實は結城友之助、鴈金紺屋手代文吉、奴林平、福助、里見長狹之助後淨念法師、ふじ浪主膳、源之助、里見息女清川、鴈金紺屋女房おつた、孫太夫娘さかき、歌女之丞、鳶神田與吉、岩田萬次郎、桑三郎、田川喜惣兵衞、ぁふらや抱おしか、歌助、小道具屋十兵衞、隼人女房岩さき、鶴三郎、非人九助、德崎岩次、鴻藏、山川屋手代平助、遠州屋次郎介、又八、大坪佐仲太、まわし丈八、成藏、下部しけ平、みこさよぢ、羽舞八、山川屋手代權六、入方佐助、薪三郎、相の山お杉、守助、同お玉、喜太郎、油屋悴龜松、吉五郎、里見奥方繼はし、油屋女房おつや、梅幸、千葉常若、花助、紺屋でつち長松、かん藏、小比くに妙喜、鶴之助、黑上主鈴、らい助、茨木彌藏、横山伴藏、多目藏、仲居およし、娍あやめ、與三郎、同さつき、仲居おみつ、光次郎、淸川侍女道芝、下女おてる、芝鶴、白船久右衞門、家主杢兵衞、猿田彥太夫、村右衞門、遠藤曾平太、あい玉や喜多六、又太郎、糸屋娘おはな、油屋おきし、歌柳、醫者藪坂道庵、正直正太夫、仲居まんの、鶴藏、男達雷庄九郎實は小見川傳藏、非人新米の三實は雷庄九郎、熊本角太郎、高麗藏、浪

士宅間玄龍、胴みやくの金兵衛、男達案の平兵衛實は里見主水、與六、千右衛門女房お梅、市右衛門妹お高、油屋のおこん、菊次郎、男達極印仙右衛門後に盜賊進藤徳次郎、植木賣小梅の伊三、望月數馬、福岡貢、彦三郎、禿千代の竹松、山川屋でつち、千吉、結城左門之助、羽左衛門大切淨瑠理時代は鳥居世話は清川「三幅對戯場彩色」竹三郎、彦三郎、ふく助、羽左衛門、常磐津豐後大掾、岸澤小式部、長うた松永吉住、岡安杵屋はやし惣連中相勤大出來評判よし○五月三日より河原崎座蝦蟇の妖術を走る悪事千里海船大蛇丸大蛇の怪異に止る善事一時朧碇綱手女狂言御色種貞作面影摸寫豐國表題「兒雷也後編譚話」第十一編廿編まで米山寺兒笑丸後賊主大蛇丸、仙素道人、濱荻若徒、磯平ス吉三郎、高砂勇美之助、濱荻波之進、刀屋娘おはな、璃寬、月影深雪之助、妖婦越路、刀屋半七、勇婦つなで、竹三郎、僞兒雷也實は地もぐりの黑、夜叉刀屋甥とび六、奥山、濱荻六三郎、和三郎、未塵骨平、見世物師仁太、黑川傳八、巫女あらゝ子、冠五郎、馬士一り里の松、仁太女房おもと、元朝、粟餅賣杵八、大蛇丸手下洞六、徳藏、同爪藏、刀屋でつち長松、市太郎、姫松力之助、由次郎、松崎四郎太夫義助、母おなぎ、佐十郎、狩人谷藏、雲助木八、宗兵衛、奥女中皐月、大蛇丸こし元汐路、三すじ、同もくず、刀屋下女お竹、まつ三、奥女中若葉、大蛇丸婢ちひろ、蝶之助、同さゞ浪、茶屋娘おやま、やまと、蒲原與七郎、刀屋手代忠八、徳松、悪魔婆娘小園、大蛇丸妾白綾、喜千三、濱荻下部林平、安土彌太郎、家主女房おいろ、猿三郎、波之進妻淺香、義助女房おとま、お花母おいし、團之助、奥老女岩根實は惡魔ばゝア、義助親穗作、醫者岩倉道全、五十嵐典膳、友右衛門、妖婦小草吉彌、一色太郎、荒川藏人、訥升、畑作悴太郎、後盜賊兒雷也、筏乘り木場七實は兒雷也、淸光尼實は兒雷也、旅篇僧虹山實は兒雷也、盜賊兒雷也實は尾形三郎弘行、權十郎、淨るり竹本戸和太夫、鶴太夫、猪太夫、三弦鶴澤市作、安太郎、第二番目大切所作事「眞三升姿八景」乙姫、景きよ、神猿、さらしめ、浦しま、水うり、せき候、石橋、常磐津連中長唄はやし連中相勤大出來評判よし當狂言中棧敷代廿五匁高廿匁平十五匁若太夫兒雷也兕三升其まゝとの評ばん大出來なり

○六月一日より市村座「機賑衆曰覗歌案」「ひらかな盛衰記」桂の里やどや逆艫船頭松右門實は樋口次郎、

福助、同一子槌松、船頭富藏、鴻藏、同又六、又八、其外大せい、宿や德兵衛、薪三郎、松右衛門女房およし、菊次郎、駒若丸、菊助、鎌田隼人、らい助、家主六兵衛、孫六、番場忠太、高十郎、山吹御前、大三郎、娫お筆、歌柳、船頭權四郎、三十郎、ちゝぶ重忠、羽左衛門「義經腰狀」三の口五斗兵衛、三十郎、源のよしつね、福助、龜井六郎、五斗娘とく女、花助、泉三郎女房高のや、鶴三郎、錦戸太郎、鴻藏、雀おとり奴大せい、伊達次郎、村右衛門、泉の三郎親衛、與六、五斗女房關女、菊次郎「滑稽七福人」遊君七福、連の伊多八、蔬太郎、同出茂助、佐次郎兵衛女房おぶん、鴻藏、ぐず六、又八、とつ八女房おねぢ、成藏、髮結金五郎、羽舞八、所作すいとん、薪三郎、とつ八、蔬助、喜やん七、吉六、同女房おいま、喜太郎、伊多八母おくら、孫六、ぐず六女房おらい、らい助、出茂助女房お市、高十郎、へぼ太郎、好三郎、茶や娘おはな、やよひ旅げいしやお富、與三郎、四國屋佐次兵衛、村右衛門「再清書」山科のだん寺岡平右衛門、與六、大ほし大三郎、竹松、太田了竹、又八、進藤源四郎、高十郎、下女おりん、吉六、今藤孫三郎、好三郎、平右衛門女房おきた、歌柳、由頁之助女房おいし、菊次郎「蕣物語」秋月娘深ゆき後ごぜ朝がほ、菊次郎、宮城阿曾次郎後駒澤次郎左衛門、福助、深雪母みさほ、鶴三郎、宿引喜助、出來嶋團平、鴻藏、雲介大せい、三木勇藏、らい助、下部關內、光十郎、こし元大せい、下女おしま、芝鶴、蘆間傳藏、へび遣イ蛇皮六、村右衛門、岩代瀧太、與六、ふじ屋德右衛門、秋月由射之助、三十郎、螢狩の子吉松、吉五郎奴橋平、菊地左門之助、羽左衛門、當狂言大當り棧敷代金壹分貳朱也高土間金一分一朱平十四匁

○當夏狂言時代世話四番續之幕間え滑稽七福人と云おかしみひざくり後編と仕兩國涼船之趣向より大山道中の滑稽新狂言に爲取仕組尤大暑之砌に御座候得は幕每引返しに仕夕七ッ半時迄に不殘御覽に入候也之口上書あり按に此仕組は瀧亭鯉丈著述の八笑人の內を仕組膝栗毛後へんと題してチャリ場にす大出來なり鯉丈翁の作意古き趣向を以て當時の人氣にあわせし滑稽の艸紙の內膝栗毛に續き大流行す

○七月廿七日より河原崎座「蝶衛龜山染」第二番目「袖浦故郷錦」三木十左衛門、石井兵助、木浦新吾

梅花屋徳兵衛、我童、石井兵衛、鍔間多門之助、中野藤兵衛、正木東三郎、璃寛、斯波左京之助、船頭三筋の網吉、權十郎、飯田田兵衛、正木下部直助、大和田平馬、與山、香川半次郎、明石ちゝみや清七、待之助、岩はし軍次、馬士關六、圓五郎、曾根治大夫、おかんはゝア、大次郎、磯田八之丞、川こし鳳寒の松、生姜酒の九助、冠五郎、鶴嶋權太郎、百姓九郎八、和摸屋抱おかく、元朝、前役人粂兵衛、扇藏、小じよくおかつ、玉藏、同おだい、玉市、小性左門之助、山太郎、八つ橋案内子鶴松、土之助、藤兵衛娘おいち、山次郎、赤堀水右衛門、鳥井彌十郎、田邊文藏、和摸屋次兵衛、吉三郎、十左衛門一子八十松、吉彌、藤兵衛悴藤吉、猪三郎、十左衛門妾岡の谷、難波げいしやお京下り嵐梧蝶、戸倉運八、川こし關の地藏、宗兵衛、與女中千草、さかみやかゝへおきち、三すじ、娵きゝやう、大和三、同眞葛、げいしやおしげ、玉次、通ひお針おいと、こし元萩野、まつ三、同尾花、藝者おなを、蝶之助、與女中にしき木、相撲屋抱おとく、やまと、大倉瀬平、小道具や義兵衛、德藏、川こしの三、藝者藻かり竹庵、德次、與女中みの尾、石井娘おとき、茶屋女おたみ、喜千三、茶道金才、

彌勒町茂右衛門、粂川主水、市川雛助〔森三郎事改〕石井下部關助、勝間舍弟淺次郎、和三郎兵衛妻おらい、勝間息女撫子姫、次兵衛女房おたつ、團之助、神原兵次、百姓又九郎、さかみや若イ者五六、友右衛門、藤兵衛女房おりつ、十左衛門妾おくら、娵房野後徳兵衛、女房おふさ下り中村大吉〔初め嵐川多門〕淺山内記、髪結紀之助、訥升、八ッはし案内子龜松〔若太夫〕團太郎、大岸主膳、權十郎、何れも大出來、二ノ夕幕日璃寛、我童鏡仕合場、次に關所四幕目、大井川大仕掛、兵助十右門早替り我童評よし敵打迄大當り、貳ばんめおふさ徳兵衛大に評判よし狂言作者篠田瑳助、梅澤宗六、繁河長治、竹柴淺吉、竹柴豊藏、中河彌吉、川口源治、河田藤治、銀杏麗助、河竹新七〔門弟竹柴の番兵衛に初〕○七月七日より中村座「松高手毬諷實錄」鐵炮鍛冶水瀬長兵衛、松臺屋小五郎、竹三郎、小揚駒屋新六、品田庫十郎、芝雀、中山彌一郎、足利義滿公、訥升、帶貝五三、野村喜太夫、團三郎、信田政兵衛、松臺屋手代松六、瓶太郎、近藤龍左衛門、とんだや與九郎、歌助、桑崎彌左衛門、法印金龍、與九郎、女房おとら、虎五郎、手妻遣ひ藤六坊、賢龍寺の善藏、米五郎、三上丈八、中間五智助、純五郎、民谷孫八、品田中間飛助、

義右衛門、同ごん內、妼夕かほ、多目藏、行方倖藏、千代飛助、げいじや小よし、大森息女おとゐ、乙女、保庵娘おやそ、由次郎、若徒鎌田又八、万里の矢四郎、肴賣一心太助、萬里愛妾菊野、松臺四郎兵衛、七房七郎、中山隼人、小團次、高橋右門之頭、道具屋手代庄八、好三郎、賢德寺住僧日々上人、醫者玄伯、相藏、かめや下女おさん、こし元松ヶ枝、奥女中ます井、三之助、同かるも、妼もみぢ、にしき、同なゝ草、市のや娘およね、米治郎、松臺屋市右衛門、野村喜太夫、佐十郎、およね、姥おみき、長兵衛、母おとり、小六、若徒又藏、提婆の仁三、友松、萬里の愛妾此むら、奥女中あづま、市之丞、筒木彌惣兵衛、品田伸十郎、市藏、萬里家後室松代尼、隼人女房おいろ、松臺屋娘おせん、かめや女房おつる、藝しやいろは、条三郎、大森彥七左衛門、中山文之進、勘彌、菊地八郎、壽三郎、〇右狂言は谷中鬼子母神、延命院森家騷動

〇鏡臺院又蓮華往生松前屋五郎兵衛一件大久保武藏鐙彼是取交へし仕組にて何れも大出來是好大森彥左衛門と云役割なりしか後彥七左衛門と改大出來大當り

大森彥左衛門　　森田勘彌是好

ア、コレ〳〵山名氏お手前は茶の道をしうしんではないかよん所ねへ私用があればとてあい客をおゐて先へかへるといふ法もあるめへそんなことにわきめへのねへ男でもなかつたがハ、アよめた此親父が腰につけて來た奉加帳を見た故かにげ仕度かイヤひきやう〳〵しかし例のねへ事でもねへ貴殿の親ご山名時氏は住吉阿部野の軍に正行の小勢に追立られ渡邊ばしまで迯たれど多勢ひ故あわてて川へ落入りしを敵ながらもあつぱれ正行にたすけられし下略

川崎宿の場、坂東太郎川の場、鎌倉かし松臺屋の場品田屋敷の場、大森屋敷の場、賢德寺の場、萬里館の場、山崎町隼人浪宅の場、文注所の場

〇九月九日より市村座「木下蔭硯伊達染」(このしたかげすゞりのだてぞめ)尾西行長、連歌師紹巴實は齋藤內藏介、若徒鹽澤丹三郎、彈正姉八汐、山名宗全、三十郎、清水の兒捨若後盜賊石川五右衛門、松ヶ枝的之助、嶋田重三郎、福助、瀨川求馬、眞柴久次、山中鹿之助、源之助、清水の兒花若、石田娘龍川、右京妹沖の井、歌女之丞、眞柴久秋、男達浮世伊

之助（下り）尾上鐘助、清水の兒雪若、狩野雅樂之助（下り）尾上榮三郎、笹野才藏、料理人喜助、鶴三郎、道益妻小まき、兒友若、鴻藏、同綱若、五右衛門手下足輕金藏、又八、同百助、黑澤官藏、成藏、講坊主西念、吉六、講中大せい、清水の兒月若丸、奥女中松しま（下り）尾上橋之助、賤女お梅實は赤松重太丸、足利賴兼、豆ふ屋娘かさね、けいせい高尾亡靈、乳人政岡（下り）尾上菊五郎（梅幸改名）兒竹若、花助、足利鶴喜代、松本丈之助、清水住僧轟坊、らい助、奥女中もみぢ、仲居おせん、光次郎、同おだい、こし元おのぶ、大三郎、同濱夕、兒よし若、與三郎、奥女中岩はし、仲居おつる、芝鶴、兒浪若、渡會銀兵衛、村右衛門、荒川藤馬、鷲嘉藤次、又太郎、石田娘早瀨、兒晉若、歌柳、同丸若、大江の鬼連、てつち豆太、鶴藏、羽生村の金五郎、仁木彈正直則、高麗藏、岸田刑部、とうふや三ぶ、木戸嘉兵衛（下り）淺尾與六、祇園のおりつ、大領愛妾淀町、出雲のお國、丹三女房およし、菊次郎、眞柴久吉、石田の局、旅商人木下屋藤吉實は眞柴大領、男達絹川戸平、井筒外記左衛門、繁御前、細川勝元、七やく彥三郎、政岡一子千松、竹松、清水の兒龜若、羽左衛門、淨るり豐竹桐太夫、三弦鶴澤富七相勤第貳番目大切上るり（廓の俄の儁ひとりしの女文字）「菊競艶相肩（はなくらべいろかあいかた）」女鸞昇、菊次郎、男達つる助、奴ふく助、女鸞かき、菊五郎、常磐津豐後大掾、三弦岸澤古式部連中相勤○三立目だんまり菊五郎、三十郎、彥三郎、いつれも評よし、大當り狂言作者瀨川如皐、奈河晴助、藤本□□、豐嶋新造、梅本彥兵衛、福森喜宇次、村漢治、桜田效助○九月十七日より**中村座**「報讎自來也說話（かたきうちじらいやものがたり）」盜賊自來也實は尾形弘行、名越長兵衛、齋藤六利武（ひらがな）けいせい梅ヶ枝（大功記）武智光秀、小團次、速水雅次郎、吾川釆男、推澤市の正國久、竹三郎、織どのや新三郎、由里量數馬、推津左門之助、荒山五郎、時門、團三郎、白山團之丞、淺妻歌之助、毓太郎、岩瀨喜文太、米五郎、代々衣母おたく、光五郎、笹山熊藏、純五郎、庄屋杢右衛門、義右衛門、升田伴作、千代飛助、久秀一子久丸、由次郎、勇源吾、中村新藏、芝雀、源吾女房おそゑ、けいせい左枝、乙女せげん、德兵衛、更科山藏、歌助、判人佐右衛門、茶木屋新助、森五郎、こし元茂路、つたの助、名越うばおしげ、婉淺きり、しげ松、淨國寺住僧呼子の三郎、佐十郎、すみ屋女房おでん、小田、星野破摩之助、友松、同女房玉木、けいせい秋篠、市之丞、鹿野苑軍八後五十嵐

典膳、市藏、長兵衛娘美鳥、玉琴姬、けいせい代々衣、粂三郎、醫者喜樂齋、音川民部、勘彌「繪本大功記」十段目夕貞棚「ひらかな盛衰記」無間のかね眞柴大領久吉、亭主才兵衛、芝鶴、仲居おきの、訥升、佐藤虎之助、團三郎、武藏三郎左衛門、やりておつめ、猿太郎、武智重次郎、たいこ持橘子、梶原源太景季、竹三郎、禿ゑびら徳治郎、同おまき、娘小笹、三之助、仲居おだい、娘もみぢ、にしき、けいせい三とせ、こし元夕なぎ、米次郎、光秀女房みさほ、小六、三位通盛、仲居おとも、友松、隼人娘おふで、有國女房なぎさ、市之丞、安田作兵衛、越中の前司盛とし、市藏、十次郎言號袖きく、仲居五ひさ、粂三郎、光秀母皐月、源太母延壽、松下嘉平次、勘彌大切淨るり氣儘育の枝ふりな投入の生田籠「造物楪咲分」源太、竹三郎、仲居、友松、仲居、訥升、亭主、芝鶴、雛兵、梅ヶ枝小團次 常磐津竹本長うたはやし連中 相勤狂言作者櫻田治助、松しま半次、同鶴次、福森久助、梅澤萬次、松島山造、中村七郎右衛門、銀杏麗助 何れも評判よし大々當り

○當十月二日の夜四ツ時頃大地震にて江戶御府內端々近在近鄕御城內御外廓御見附御櫓石壁石疊諸侯方御殿向神社佛閣市中の家々潰れ或は傾ふき門は倒れ塀は崩れ往來は山の如く殊に所々に火災發りて闇夜も白晝のごとし火事は吉原を初として江戶中に二十三ヶ所あり予も其一ヶ所にて家居土藏迄不殘燒失藏書も數多燒亡せり然れ共家內不殘一族皆々無事に立退たり扨猿若町三芝居茶屋幷役者の宅の殘りしは壹丁目入口之處森田勘彌、尾上梅幸、坂東彥三郎、同竹三郎、市村羽左衛門、中村福助、坂東しうか悴吉彌、片岡我童其外茶屋四五軒殘る尤商家も幸ひにして殘りしも有りかゝる大變に猿若町三丁目は左のみ死亡の人もなく岩井粂四郎弟子某妻懷妊して臨月なり六鄕侯の門前迄落のびしに俄に虫氣付たり同藩中の士にや憐みて疊を貸與へて此處にて生ましめたり安產はしたれ共產湯等の設けもあるべきやうなければ衣類を脫て赤子を拭ひ自らかき抱て去りしとぞ新吉原田町馬道類燒にて殊之外死亡人數多ありて梁に敷れ棟木に庇しに押れ死に當り土藏崩れ壁落其まゝ埋れて死すも有頭を破り手足骸を損じ命ばかりたすかりしも又多し斯の如き大變は元祿十六癸未大十一月廿三日

江戸弁 近在大地震地震の記に天異録と云にくわし此已前には寛永九
壬申大四月十八日慶安二己丑大二月六日より八日
迄天和三癸亥大四月五日御入國以來如斯此度は以
前に増りし大變なりと云々元祿より百五十三年目
にしてかゝる地災の大へんにあへり

安政二乙卯年　　高清亭と云
秀寳實山信士　　俗名坂東しうか　行年四十三歳
三月六日　　芝御山内月界院え葬す

此太夫幼名玉之助といふ三代目坂東三津五郎俳名秀佳深川永木に住永木の親方と云名人なり養子となり坂東玉三郎と改名す實父は
橋屋治助といふ文政七甲申とし市村座子役にて唐子
の所作相勤是初舞臺なり面体うるはしく愛敬ありて
追々評判よく同十二辛丑八月四代目坂東彦三郎同道
にて尾陽名古屋表え上り清壽院芝居にて十二月まで
興行大當り八月狂言めばへの曲者九月より赤城明神に伊せ
音頭十月壽東叔次に桂川次に幡随長兵衛大切に夕
きり伊左衛門廓文章十一月より妹背山切に本朝糸の
しらべ右薪水是業兩人の大當り同十三壬寅春大坂中
の座え初上り[鏡山]に大姫若此節岩井粂三郎急に江
戸えかへるに付おはんの替り相勤大出來げいこ小さ
んをでかされ是より替りぬ事に評よく梅幸丈と竹田
へ御出勤[菅原]にかりや姫と梅王女房はる夫より下
へ下り所々芝居にて評ばんよく又堺の大寺京因幡藥
師當顔見世京南側え出勤之處無之殘念〳〵藝道修行
ありて天保三壬辰貞見世市村座え下り位上上吉天
保八丁酉森田座夏狂言に故人三代目秀佳大當りせし
一人りにて五人男を女に書直し貳番目大切所作事迄
此狂言大々當り千秋樂の日に兄四代目三津五郎舞臺
におゐて御禮の口上を述たり當顔見世より大名題看
板に上り位上上吉にすゝむ同十己亥坂東秀歌と改
後しうかと書改同十二辛丑役者評判記投扇曲に云前文略之御改名から殊さら御評判よきしうか丈御親父坂三
津丈の俳名をつがるゝ程あつて當年は御上達か見得
升夫故若女形の巻軸にすへ升たと云々位上上吉に昇
進し大立者となりわけて傾城揚巻女清玄後寛のお安
げいしやおしゆんなぞは杜若存生の内に指南せられ
しゆへ大出來大當り又明がらすの浦里時次郎に八ゝ目市川團十郎女自
雷也鬼神のおまつ橋もとのしら糸松若丸三ヶ月おせ
ん下女おはつしらぬひ物語の若菜姫是らははまりし
役にて當時の役者には中々うつらず近來女形の稀も
のといふべし故に嘉永二己酉年評判記産物合に至上

上吉尾上梅幸坂東しうか同五壬子智惠鏡に同位同六癸丑同位如斯藝達し何れも先輩を乗りこへ三ヶ津の大立おやまと稱美せられしに風と腫物出來養生とゝかず冥土黄泉の道に趣き八代目三升の跡をしたふて蓮の舞臺えのぼられしは殘り多き事共なり此節江戸中の芝居好きの人々は八代目團十郎としうか此二人を贔負にせざれば耻の如くに思ひ江戸中の人氣皆爰に集り狂言毎に引幕水引天幕を張り表側には積物三四ヶ所づつありていつも顔見世のことし予覺えて錦升秀佳芝翫後玉助杜若など近來の名人なれ共春狂言か又は顔見世或は御當地御名殘狂言而已にて常にはかゝる事なし天保年間に芝翫後四代目歌右衛門秀調四代目三津五郎當時かん彌中村座にて初めて一座せし時兩人の贔負爭ひにて狂言毎に積物引幕出來せしが是も纔の內にて其後秀朝病身に相成はかく〳〵敷出勤もなく芝翫一人にては左のみ人氣もよらざりしが歌右衛門三津五郎張り合の物多く出板す大當り振分双六水滸傳英雄の見立其後さらになかりしに猿若町に移り三升しうかの如きは往古に覺えなく又後世にかゝるものあるべからず全盛の稀者とは此兩人をいふべき歟

追善物數多出板の內

追善明烏夢物語（あけがらすゆめものがたり）　坂東しうか　市川團十郎

浦里は死出の大和屋　時次郎は三途の市川

清元政太夫　清元榮壽太夫　清元千賀太夫　三弦清元榮壽庵　上てうし清元百二　清元八尾太夫

ワキ狂言壽二往生口繪　白井權八、しうか　幡隨長兵衞、團十郎　對面　工藤、歌右衛門　朝比奈高助　曾我五郎

八代目團十郎に羽左衛門

しうか三升似貌の上に

名殘りとはしらて三升も三ッ大も
おなし六日の露ときゆらむ

夜の雨に濡て三升は秋風の福牡丹
透引風に散て三大は彌生の花勝見

柳都 攝 秀升（おしなべてよものしうしやう）　春秋 六日 續

〈最負の頭　八町堀のよのじ〉

西の方

蛙術　じらいや
十八番　勸進帳
櫻姫　清玄
みつぎ　十人切
十八番　鳴神上人
獨里　五人男
十八番　助六
春日　時治郎

樓門　石川五右衛門
夏祭　團七九郎兵衛
つぼね　岩ふじ
男達　幡随長兵衛
いづ屋　伐れ與三郎
早野　勘平
物狂　保名
宮木　阿曾次郎
時致　五郎
代名　ゑひざこの十
井筒　傳兵衛

定紋　三ます
上下　柿素袍
眼玉　福牡丹
深川　木場の息子
身の　おための當世
立花　小糸
涙花　老の泪
雄德　成田の旅宿

孝行　上の御てあて
壽の　かうもり
しまゝ　三升かうし
あばた　古道具
なとうとく　丶り猿
替紋　つくね牡丹
立派　餅ばん
似貌　羽子板のすゑ

爲菩提

法號
嘉永七寅年　篤譽淨莚實忍信士　八月六日
安政二卯年　秀譽寶山信士　三月六日
芝山內　常光院
　　　　月界院

俗名　市川團十郎
　　　坂東しうか

西の方

蜘術　しらぬい
追善　道成寺
松若　清玄尼
白糸　八人まわし
墮落　女なるかみ
獨里　五人女
三浦　揚巻
山名　浦里

女盜　鬼神のお松
傾色　團七縞のお梶
召仕　おはつ
女達　女房おとき
天地人　人丸おろく
こし元　おかる
狐別　葛の葉
ごぜ　朝貌
見　箱王
長屋　三ケ月おせん
げい者　おしゆん

定紋　三ツ大
振袖　大和柿
花王　五大櫻
深川　永木の娘
なめし　おてんのむかし
幸鉢　小萬
江戸　かたばみの露
四日市　翁稲荷

大行　下のてあて
秀の　てふ〳〵
もやう　三ゑだすき
ほくろ　小道具
おすこ　吉彌結
替紋　花勝見
花やか　酒ばん
紋盡　簪やのかつかり

〈最負の一番　神田のよの字〉

亦此太夫の奇妙といふは往古より女形の錦畫は立役程には行ふはれざる物なり然るに狂言毎に摺出す續き繪の内しうか一人り放し呉候樣價は高直にても更に不厭求る人多し死後に至り八代目と兩人の追善繪數多出板すいづれも多く賣出せり繪屋には多く利を得しと云々其後兩人の繪時々出板するに當時日の出の役者ゑよりは數多く鬻しと云々是にて其最負の多き事を知るべし

一中村芝雀終る　家名新駒屋

幼名市川白之助といふ（市川白藏門弟當時團藏）其後四代目中村歌右衞門門弟となり中村翫之助と改又鶴五郎となり再び芝雀と改名して弘化三丙午とし河原崎座え下り同四丁未春伊賀越に丹右衞門池添孫七大出來何役にても相應にこなされ然れ共故人歌山丈の意味にして花うすく實澤山ゆへ見物には徳用にて何も評ばんよし嘉永六丑の評書武勇競に上々吉（狂言の仕樣はうそでない本弓と云々）追々ひゐきも出來し處に是もはからず西方蓮華座に乘込せしは殘念〳〵

淸元二代目家元九月廿一日終る

法名壽聲院榮壽日理居士（俗名太兵衞　深川淨泉寺地中東專坊）

元祖延壽太夫實子にて幼名巳三次郎と云後榮壽太夫と改文政十亥年より二代目延壽太夫と改名す父よりは高名にして世に淸元の一流をはやらせ譽を殘せしは此太夫の手柄といふべしその後素人名太兵衞と改近來の名人にて一とゝせ明からすの上るり時次郎團十郎浦里しうか當時の三名人寄合にて古今未曾有の大當りなりし（此太夫の家譜は別書にくわしく記す）

安政元卯年十一月晦日

法名善智院至嚴信士（俗名きれや六翁行年七十六歳　日蓮宗根津川端本壽寺）

辭世　年久しく池の端にすまゐて

濁なく世をすましけり蓮の露　喜哉庵　六　翁

杵屋六翁は東武板橋宿旅泊店奈良屋某が二男にして安永九庚子年正月の生幼名長次郎六歳にて三弦の調子をあわせ母なるものより長うた數十番習ひ覺得て調吟衆童にことなり人々奇なりとして杵屋正次の門に入十四歳より內弟子となりて十九歳の顏見世に初て芝居へ出勤す文化五戊辰年廿九歳にて杵屋六三郎名目相續より數百番の新曲製作して悉く大當り流行す就中老松、正札附、東都八景、猿舞わけて市川海老藏辨慶勸進帳興行之節ふし附幷

三弦の手附等せり是六三郎か三弦の一世一代相勤大當り古今無類中興開山と言つべし實に三弦の靈とも尊むべき名手といふべし當春正月二日例年門弟の内頭取候者ばかり寄初と相となへ祝義に相集り其節六翁試筆の戯れ歌を短册にしたゝめ景物に相添へ引手物に出す其夷曲に

　春の來て悦ひ事の數とゝもに
　　つもる七十六翁かとし

扨十月二日大地震の節も六四郎同道にて弟子内へさらひに罷越歸宅間もなく大變近邊別て強く家崩れ茅町邊より火燃出で死亡人も殊外多く有之時節六翁つゝがなく池の端土手へ立退き暫く爰に住居冬至後に本宅え立かへり七十六もからくして凌ぎ越候故一陽來復芝居ものゝ正月と七十七翁に自ら認め書つけられ同月廿日門人不及齋召つれ吉原仮宅の内心易方え見舞かてら相廻り玉樓のあるじを誘山谷八百善え罷りて三人共大下戸なから酒二タてうし飲盡し生涯の大出來と打興じつゝ罷出四ッ時過歸宅いたし臥候得共未酒氣醒やらず眠りかねふと時ならぬ花のうた詠しかけよふ〳〵曉に至り一首につらね翌廿一日に不及齋へしたゝめつかわしける歌に

花　　何所迄も若木心に悟れかし
　　　うき世は花のゆめみ艸にて

と書つけおくり其日八ッ時頃辨才天へ一人りにて參詣いたし先年建置し碑に

　たるまねはとなたもさよしや綱よりも
　　ほそき三すしの糸も世はたり

此碑地震の爲に池の中へ落入候を引上げたく別當所え懸け合夜九ッ時歸宅其曉より俄に不快くるしみ夜明て不及齋を呼に遣し早速欠付診察いたし候所傷寒の容躰殊に持病の疝癪差込候故手當いたし追々よろしく門弟中も打寄世話いたし各々悦び歸宅いたし候へ共日ましに容躰差重り醫者も歴々衆相頼候へ共いよ〳〵重躰に相成門弟中皆々病床を放れず介抱しける所かねて辭世讀置候得共手ふるへ候まゝ不及齋に筆をとらせ

　濁りなく世をすましけり蓮の露

自ら吟じ認めさせ六四郎初め其座の者へ相渡し遺言こま〳〵といたし其後一向人に對面致さず廿八

日早朝に玉樓の遊女若紫見舞に罷けるを病床に通し對面しいと嬉しげなるよふすにて六翁なればこそ廓中第一の遊君必死の場所へ見舞に參られ後世藝人は極々老る迄もいろけのぬけぬか花なりと申殘し其後一向無言にて晦日夜九ッ時頃此世の緣を永く離れ寂光淨土の花の臺に往生の素懷をとげられし

浪花におゐて市川猿藏死去す

安政二乙卯年九月二十九日
法名　實譽儀莚孝安信士　俳名莚猿行年二十一歳　大坂天王寺村一心寺墓所千日葬す

幼年より大坂に生立所々小芝居え出勤藝道修行して嘉永三庚戌父海老藏同道にて三月河原崎座へ下り「御江戸景清」に江間小四郎一ノ谷に無官太夫あつ盛熊谷小次郎貳番目「花川戸」にまむしの次郎吉是大江戸の初舞臺の御目見得狂言なり伊勢物語に夜叉丸九月合法ヶ辻に大槻角太郎大切市川門之助追善狂言に「兜軍記」にけいせいあこや（重忠九藏　岩永海老藏）十一月小田雪に武智重次郎鬼兒嶋彌太郎嘉永四辛亥正月同座「伊達競」に荒し丶男之助奴谷藏三月「濱眞砂」に石田娘瀧川貳番目船頭長吉五月「鶯塚」に淺香清三郎九月五大力に千嶋千太郎十一月「升鯉（のぼりこひ）」伊達の次郎同五子春「鴈金染」に花岡求馬權六言號おのち「和田合戰」に齊宮姫閏二月「いもせ山」に雛鳥「双蝶々」山崎や與五郎大出來四月安壽姫「伊世音頭」に萬治郎七月兒雷也にたかねと深雪之介九月玉おり姫勸進帳に源の義經大出來同十一月大星力彌相勤又々父同道にて大坂に上り安政元寅兒團十郎と同座に出勤之處兄三升不慮の死をとげ右追善狂言として兄の役を自雷也向ふ疵の與三替り役大出來同二卯若太夫芝居にて不破伴左衞門濡髮長五郎相勤此狂言中に病に臥て終るおしむべし／＼

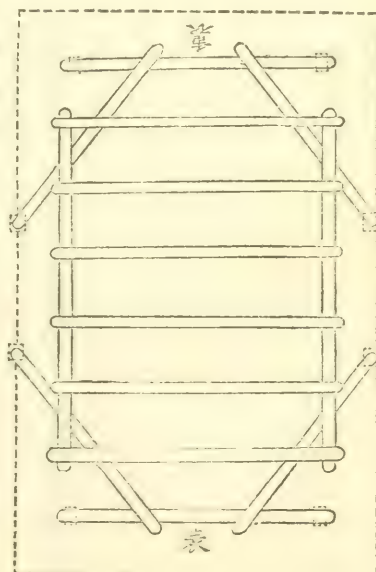
嵐璃寛同和三郎門弟不殘嵐吉三郎中村大吉門弟共上坂す

花江都歌舞妓年代記續編卷の三十

○安政三丙辰年

去る卯二月二日大地震に付猿若町三芝居を初として不殘類燒に及び去々寅年十一月燒亡せしより續きての燒失故普請も早急に者出來間敷との風聞有之處三座共普請に取りかゝる其中にも市村座大工棟梁長谷川勘兵衛新らたに工夫を設け是迄大梁三本（是を牛丸太と云）此三本の大梁材木問屋にも無之時者近在近國を尋ね伐り出し是も川近き場所にて押流し江戸の大河え引寄せ人歩を以て芝居町へ引込事にて其入用雜費莫大なり然るを此度小梁をもつて組梁の工夫なせり是市村座の起原にして既に中村座も此梁の工夫に習へり其梁の組方次に圖を出す、但し森田座者是迄の大梁三本を用ゆ

裏

表

龜甲梁と云

丸太拾四本を以て組合梁とす此繪圖面を以て御願申上候處多人數入込候場所故大丈夫補理可申段被仰渡候由

○三月三日より普請出來に付市村座「鶴松扇曾我（つるはらとせすへひろそが）」第貳番目「夢結蝶鳥追（ゆめおすぶてうにとりおひ）」小林朝日奈、倉橋丈右衛門、いやみ金調、人相見梶井主膳、鳶の者下駄の市、三十郎、あふみや禿みどり、竹松、曾我五郎時致、鳶の者鰕ざこの十、山崎屋與五郎、權十郎、そか禪司坊、舞鶴屋傳三、花助、橋本抱繼はし、山崎屋下女おしづ、橋之

助、三原傳藏、尼妙貞、鼠取樂うり十助、歌助、阿古木下部音平、天城三平、鶴三郎、女太夫おとら、葉山鄕助、鴻藏、道具屋善六、お長子分兼、又八、同根つこの松、梶原平次、武五郎、山崎でつち三太、麻生のお松、羽舞八、奈良屋德右衛門〃米屋仁右衛門、佐十郎、万壽君賴家、坂東つきち、女盜賊熊坂お六、十次兵衛娘おはや、近江屋抱藤浪、半次女房お長、工藤左衛門祐經初やく女太夫おこよ、甚兵衛、娘おせき、菊五郎、三原有右衛門山崎屋番頭權九郎、國五郎、湯女おはな、やよひ、同たき、こし元紅梅、鯉三郎、同初花、湯女おせん、與三郎、南方下女おつね、茶屋娘おまつ、梅松、雲助箱根畑右衛門、三原下部權平、宗兵衛、曾我の片貝、奈良屋娘おくに、喜千三、劔澤彈正、山崎屋淨閑、家主市郎兵衛、村右衛門、小家頭喜六、荒川三左衛門、又太郎、化粧坂のせふ〱、ふぢやあづま、山崎屋おてる、歌女之丞、八はた三郎行氏、結城七郎友光、盜賊野手の三、市川新升高麗藏改名近江の小藤太、小手抦半次、駕屋甚兵衛、與六、曾我十郎祐成、女馬士牛若およし、いやみ金之助、阿古木源之助、深見新三郎、坂東彥三郎竹三郎改名梶原源太景季、本田の次郎近常、南方十次兵衛、せつた直し長五郎、坂東龜藏彥三郎改名工藤犬坊丸、吉五郎、金調悴金子、甚兵衛孫浪市、羽左衛門、第一番目五立目淨瑠理工藤祐經が初會の對面曾我兄弟引附の杯觴「姿替霞假宅」朝ひな、いやみ金調、三十郎、傳三、花助、禿竹松、時宗に鰕ざこの十、權十郎、工藤にふし浪、菊五郎、せふ〱歌女之丞、梶原景季、龜藏、祐成と金之助、彥三郎、金調悴金子、羽左衛門、常磐津豐後大掾、三弦岸澤小式部連中相勤何れも大出來第貳番目座光寺何某一件と女盜賊熊坂おろくを取交し仕組大出來大當りなり

坂東彥三郎改名に付口上　坂東龜藏

「東西〱高ふはムり升れど口上の以て申上奉升す當座打續き燒類仕候處大江戸中樣御ひゐき御蔭を以て早速普請出來仕興行相初候處賑々敷御見物被下座元羽左衛門義は不申及芝居一統懸り合之者共難有仕合奉存升す別而申上升るは去る御贔負樣より此度悴竹三郎へ同座致候こそ幸ひ彥三郎名前を悴へ相讓り改名爲致候樣に難有御進め被下此段悴に申聞候處思召之程其身にとり千万難有仕合に者存し候得共未熟不調法之私いづれも樣御叱りの程も恐れ入候得者今四五年も修行いたし其上改名

致度と達而辭退致し御斷り申上候處尤成事ながら斯縁者成市村座へ同座致し候へ者能折柄なれば是非〳〵改名爲致候樣再三の御進めもだしがたく則忰竹三郎へ彥三郎名前相讓り私義者當座に御座候龜藏名前に改名仕候誠にふしぎなる義は先代彥三郎四十年名前相續仕私へ相讓り又々私當年にて四十年相續いたし不計此度忰へ相讓り候も全大江戶三千餘町の御ひゐきの御惠み且者先祖之餘光と心魂にてつし難有仕合に存奉升す此後者忰身分の義相替らず御ひゐき被下御取立之程偏希上奉升す甚だ歎深きに者ムり升れど私義も御身拾なく御惠被下樣に是又願上奉升す扨當狂言殊之外幕數御座候へ者幕こと引かへし同やうに仕御覽入奉升すれ者永當〳〵御見物之程偏希上奉升す先者彥三郎改名の口上角から隅迄ずいと左樣思召被下升うちん〳〵〳〵

坂東薪水略系譜

○元祖薪水　坂東彥三郎、寶永四年元服シテ立役トナル名人　幼名篠塚菊松ト云テ篠塚治良左衛門ノ甥ト云々寶永五ノ評判記ニ見エタリ

實子
二代目薪水　坂東彥三郎、寶曆元改名幼名坂東菊松ト云々

三代目薪水　坂東彥三郎、幼名市村吉五郎、明和七年改名　實ハ八代目市村何江二男後剃髮樂善法師

四代目薪水　坂東彥三郎、幼名市村竹三郎又龜三郎ト改　此度龜藏ト改名實ハ福地茂兵衛男俳名樂善

五代目薪水　坂東彥三郎、幼名坂東竹三郎、俳名薪子ト云　實ハ狂言作者村冠二ノ男當時花方ノキ、モノ

元祖二代ノ墓碑ハ深川淨泉寺ニアリ三代目ヨリハ本所押上大雲寺墳墓アリ代々門弟數多略之法名年月等ハ江都俳優大系圖ニ委シク記ス

○本普請出來に付四月十四日より中村座「一曲奏寶子曾我」工藤左衛門祐經、渡し守もくさの久次、桐山賢行、三十郎市村座兩座勤京の次郎、壽三郎、けいせい龜きく、半十郎、妹おはま、甚八女房おきく、團之助、朽坊法印、鬼神の甚八、劍澤彈正左衛門、鶴藏、濱名下部粂

平、仁田の四郎忠常、正蓮寺家來兵助、團三郎、本田次郎行國、船宿しげ藏、我當、工藤犬坊丸、花助、早見伴作、五井屋手代きやつ六、德松、大藤内成景、い太郎駕かき紫の金、義右衛門、桐山下部山平、大吉、同丸平、紀の平、瀨川禿浪江、由次郎、曾我十郎祐成、井釣幸次郎、千葉の家老井駒牛十郎、五井屋京之助、淸水冠者義高、我童、瀨川禿小礒、定吉、松葉屋娘おこう、八平、せけん權次、森五郎、松葉屋やり手おとら、虎五郎、同新造花の香、勘藏、げいしやおみつ、光次郎、同おます、三之助、同新造伏屋、鶴か岡神子小しの、三すし、曾我二の宮、松葉屋新造葉山、米次郎、同けいせい眞由仕、乙女、仲の町升屋女房おとく、桐山下女おいそ、小六、御所五郎丸、鳶の者團十郎吉下り市川九藏團藏悴白藏事改名して下る梅澤監物、堀の藤次、親家市藏、北條息女辰藏、逸當娘おやへ、濱名の後室江島、松葉屋けいせい瀨川、曾我五郎時宗、粂三郎、五井屋手代惣七、玉川の晒男長作、右幕下賴朝公、訥升、第一番目淨瑠理忍れといろに出にける「藪椿誰轉寐」我童、鴻藏、團之助、由次郎、粂三郎、淸元延壽太夫、三弦淸元千藏、同彥次郎、同榮次郎、第貳番目上るり結たりとびたり風の柳かな「淺綠露玉川」八作、三十郎、五京、我童、長作、訥升、五曉、鶴藏、せ川、粂三郎、常磐津豐後大掾、同小文字太夫、三弦岸澤小式部相勤何れも大出來大當り

第二豆州轟か淵だんまり辰ひめ、くめ三郎、とち坊、つる藏、淸水冠者我童第六曾我十番切第貳ばんめ瀨川五曉玉川道行迄大に評よし此世界は安永七戌年出板の傾城買虎の巻と題して田にし金魚の名作にしてしやれ本と稱するもの、魁首なり度々再板し黄表紙に者晦日の月と表題を直し其外合巻に此作意をとりし物六七部あり安永年中より今に廢たる事なきは金魚の手柄といふべし此事者外の洒落と違ひ發端幸次郎お八重忍び逢ひより仕馴し家を欠落し地震の甚八の世話になり幸次郎病ひに臥し夫の病氣の爲におやへ苦界へ身を沈め夫の病死の後五曉といふ者瀨川に通ひ瀨川五曉の種を懷妊す五曉は父より勘當の身となり武州玉川邊に寓居す此内に島山撿校瀨川を身請す瀨川島山の下部に賴みて此處を欠落して五曉の隱家へ尋ね來る道にて下男淫情にせまり瀨川を殺害す瀨川の亡魂產子を抱き來り夫五曉にわたし魂魄冥土へかへる迄

趣向の面白し餘のしやれ本で遊廓の穴をうがち笑顏を專一とす此虎の卷を閲する諸君子は男女の愛着を愼み玉へや壯き男女の敎訓の書とは是をいはん歟

森田勘彌座櫓再興　猿若町三丁目河原崎座休座す

御江戶

歌舞妓　萬治三庚子年木挽町ニ而始大芝居狂言座本奉蒙御免百八拾年來相續興行仕夫ヨリ今年迄十九ヶ年

大芝居根元　休座此度

續狂言　御憐愍御慈悲ヲ以櫓再興被爲仰附難有仕合奉存上候

口上看板之寫

乍憚口上

一御町中樣益御機嫌克被遊御座恐悅至極奉存候隨而私芝居之儀萬治三庚子年始而木挽町に而大芝居狂言奉蒙御免候より百八拾年來相續興行仕候處十九ヶ年以前無據儀に付休座仕然る處去る卯年極月御憐愍を以て櫓再興被爲仰付誠に盲龜の浮木優曇花の時待得たる身の仕合且は先祖へ對し外聞實儀冥加至極是も全柔を惠大江戶の御餘光と心魂徹し難有仕合奉存候爲御禮早速普請取急ぎ御馴染之役者共の外上方表より兩三人呼下し新古打交え何を哉御慰に相成候樣新狂言爲取仕組可奉御覽入候別而奉願上候者永らくの休座と中年來御取立之本櫓之儀に候得者偏芝居永續之仕候樣御贔負御取立被下置壹丁目貳丁目同樣に初日より永當〳〵御來駕之程奉希上候以上

大江戶歌舞妓狂言座根元　十一代目森田勘彌

櫓再興のありかたさに

君か代の千代にひかれてわさおきの
櫓もゝとへ十かへりの松　十一世勘彌書

森田座系譜

元祖
○○うなき太郎兵衛　本性森田うなきは鰻に依て之字なるべし
萬治三庚子年於挽木町五丁目始而芝居起立ス

二代目
森田勘彌　幼名又七、坂東又九郎 男
正德二辰年坂東又九郎ト改名其後又左衛門ト改名ス

三代目 森田勘彌 坂東又九郎
幼名福松、又七男

四代目 森田勘彌
幼名福太郎、又七男 小唄所作事名人
實ハ又三郎一子、俳名眞鳥、乘出シニ出ル

五代目 森田勘彌
幼名金藏、俳名牡光
八ヶ年太夫元病身ニテ隱居ス又左衞門ト改名

六代目 森田勘彌
實ハ中村重助男、俳名殘杏初瀧中重ノ井
後澤村小傳次ト改安永四未年坂東八十助ト改

七代目 森田勘彌
勘彌男 幼名勘次郎、俳名千蝶
又賀尉

八代目 森田勘彌
先勘彌弟又左衞門男
幼名又次郎、俳名紫花後坂東八十助俳名喜幸

九代目 森田勘彌
先勘彌男幼名又吉後不届アリ地所チ被拂

十代目 森田勘彌
實ハ三代目坂東三津五郎三男幼名三田八後三八ト改
天保元寅としより太夫元同九戌七月十一日終ル

十一代目 森田勘彌
實三代目坂東三津五郎男、十代目勘彌兄
此度再興ス幼名簔助後四代目坂東三津五郎此度十一代目相續ス

○普請出來に付 ○五月十五日より **森田座**「新舞臺(しんぶたい)いろは書始(かきぞめ)」鹽谷縫殿之助、太こ持次郎三、福助、かほよ御前、一文字や女房おてう、大星力彌、賤女おたま、玉三郎、木屋杢右衞門、衒太郎、千崎彌五郎、さき坂伴内、家主久兵衞、德松、下部軍藏、狸の角兵衞、團八、めつほう彌八、早野三左衞門、成藏、小汐田又之丞、梶川與惣兵衞、好三郎、鹽谷爲若丸若太夫 森田又市、早野勘平 九段目の 加古川本藏、煤拂竹賣文吾實は浪士大わし子葉、矢間重太郎、鹽谷判官高貞下り 市川男女藏、尾上新七改名す 高ノ武藏守師直二段目の 加古川本藏、佐藤郷助、おかる母おかや、松倉綠翁、大星由良之助、是好、上松左衞門之助、天川屋義平、吉三郎、竹森喜多八、百姓與一兵衞、長四郎、間瀨久太夫、一力亭主淸八、らい助、仲居おきん、

娩おこの、にしき、同おはな、仲居おてつ、蝶之助、同おたま、こし元若葉、玉次、本藏妹みなせ、仲居おやま喜代三、同おつる、うばおとし、芝鶴、一力娘おりう、本藏娘小なみ、歌柳、桃井若狹之助、斧定九郎、寺岡平右衛門、佐藤與茂七、駒留主税、友松、ゆらの助女房おいし、愛妾ふし娘、了竹妹おその、市之丞、斧九太夫、山名彈正、太田了竹、大石瀬左衛門、俳師寶井其角、友右衛門、本藏女房となせ、こし元おかる、高の愛妾おらんの方、大わし云號その菊、菊次郎、足利直義公、伊勢參り、勝見の吉、坂東三津五郎吉彌改名淨瑠理「道行旅路の嫁入」（みちゆきたびぢのよめいり）奴可内、友松、小なみ、歌柳、おたま、玉三郎、戸なせ、菊次郎、伊勢參り、三津五郎、清元延壽太夫、三弦同榮次郎相勤何れも評判よし當狂言棧敷代廿八匁高間土廿三匁平土間十八匁

當狂言役割の內福助吉三郎其外下り役者名前出し候得共出勤なし

坂東略系譜

元祖立役名人
○○坂東三津五郎　俳名是業幼名初メ大坂竹田巳之助ト云明和三戌冬養父坂東三八同道ニ而森田座へ下ル

二代目
坂東三津五郎　俳名是業初尾上藤藏後紋三郎ト改天明五巳冬ヨリ三津五郎ト改實子三田八幼年ニ付名前預ル後森野伊三郎

三代目實子
坂東三津五郎　俳名秀佳初ゼキヤウ幼名三田八又森田勘九郎ト改其後坂東簑助寛政十一未年三津五郎ト改名近世ノ名人

四代目
坂東三津五郎　俳名秀調幼名簑助天保三辰年三津五郎改名嘉永三戌年ヨリ十一代目森田勘彌ト改名

坂東しうか　幼名玉三郎　天保十亥年改名
森田勘彌　幼名坂東三田八又三八改、天保元寅年ヨリ勘彌ト改

五代目實子
坂東三津五郎　幼名吉彌、坂東しうか男此度五代目相續

○五月廿八日より市村座「苅萱道心筑紫𨏍」（かるかやどうしんつくしのいへつと）第三段目口より五だん目まで「花菖蒲褂野討入」（はなしようぶそのゝうちいり）兄弟ニまく　監物太郎、曾我五郎時宗、權十郎、同團三郎、花助、監物妻橋立、橋之助、同宿義、圓坊、歌助、稲毛三郎、鶴三郎、

金子十郎、鴻藏、關口兵太、又八、鬼菱藤馬、武五郎、菊地主水、羽舞八、友形大角、薪三郎、戸山左膳、音八、竹の下孫八左衞門、三太郎、松倉主計、吉六、梅月式部、孫六、かるかや同心、曾我滿江、菊五郎、同宿喜悅坊、國五郎、箱根の閉坊、多四郎、いはら宗兵衞、義弘奥方櫻木、喜千三、大藤內成景、同宿安心坊、村右衞門、同宗悅坊、赤澤十內、又太郎、重氏の御臺牧の方、大磯のとら、歌女之丞、久須美三郎、新井大內之助義弘、御所の五郎丸、與六、曾我十郎祐成、桑原女之助、彥三郎、新洞左衞門、仁田四郎忠常、龜藏、工藤犬坊丸、吉五郎、重氏一子石動丸、羽左衞門、上るり竹本戸和太夫、三弦鶴澤市作相勤いづれも評よし○十五日より第二番目三幕「梅雨濡仲町」料理人松七、三十郎、小はまや息子吉松、笹野半次郎、權十郎、植木賣三、花助、船頭多七、鴻藏、若い者傳八、羽舞八、船頭若助、薪三郎、地廻り洲崎の辨、中間權平、吉松、地廻り大勢、藝者小さん、菊五郎、二階廻しおかく、國太郎、同おたけ、武次郎、おたつ、やよい、おせん與三郎、娘分おきん、喜千三、大嶋傳藏、村右衞門、げいしや小ひな、歌女之丞、若待民平、新升、繁山、新十郎、肴賣左平次、與六、船頭金五郎、彥三郎、古手屋權三、龜藏、小名木主水、吉五郎、千葉左門之助、羽左衞門、何れも大出來大當り

○當狂言は文政三辰年三月十八日築地南本鄕町沖にて本鄕四丁目家持甚兵衞弟甚之助と云者深川仲町の藝者みの吉幷下女こと兩人を連れ木挽町河原崎座芝居え參り立歸り候砌り右場所にてみの吉を殺害に及ぶことゝ船頭は水中え飛入ことは溺死す水主勘次郎（此ものは筋違橋御門外花房町小松屋と云船宿）游上り自身番屋へ右之段〳〵斷申候故大騷動に相成町內より早速御訴申上其後落着す此一條を中村座におゐて狂言に仕組七月十五日より大名題「忠孝染分繮」故人坂東秀佳（重の井新左衞門古今大出來）第貳番目げいしやみの吉、故人岩井梅我（六代目岩井半四郎）相勤候處未だ間も無き事故御差止に相成早速妻吉と改古手や八郎兵衞故人關三十郎大に評よく其外右一條を名高き笑談師我〳〵と戲作す尤深川と芝居の取交世界故新作面白し中にも元祖船遊亭扇橋五日讀切に戲作し大當りにて弟子柳橋鐵扇抔に傳へ當時孫弟子に至り折〳〵寄場にて談話せり扨當辰とし文政三辰より三十七か年の遠忌

に風る此狂言をせし事不思議と云べし戯場かへりに一命を失ひ芝居狂言より其名弘まり亦遠忌に戯場にて仕組しこと能々深き因緣なるべし○藝者みの吉菩提所は根津の川端妙壽寺墓紋所上羽てふ〳〵法名斷途妙脱信女俗名みの吉十九歳委細は別にあり

〇七月十五日より森田座「木下蔭狹間合戰」第貳番目「菊累音家鏡」竹中官兵衛重晴、壬生村治右衛門、渡し守又平、是好、左枝犬清、佐々木息女いてうの前、けいしや小さん、盗賊石川五右衛門、此下藤吉、羽生屋助四郎、友松、官兵衛娘千里、垂井藤太、金谷金五郎、玉三郎、大垣三郎、山住五平太、德松、小田春永、五右衛門手下片田小雀、長井當助、好三郎、三上百助、見世物師藤六、團八、き〻やうや佐右衛門、四の宮源吾、質屋利兵衛、成藏、佐々木月若、幸岩枠之助、鳶小頭三吉、又市、五右衛門手下足柄金藏、世繼瀨平、大次郎、蓮の葉、與六、木戸番彌十、長四郎、發たんの治右衛門、重の井、筒の妙りん、らい助、下女おさの、にしき、娩玉〻つ、梶之助、同朝顔、水茶やかしくのおたま、玉次、こし元夕顔、げいしやおてう、蝶之助、水茶屋山吹のお花、喜代三、大内の妾みさき、藤六女房おかね、芝鶴、治右衛門娘小冬、幸助妹おみや、歌柳、今川義元、金魚屋金八、男女藏、齋藤次郎太夫義龍、雇か雁の來作、若徒佐五右衛門、友右衛門、官兵衛女房關路、藤吉女房賤の方、重井筒のおきく、けいせい遠山、名古屋小山三、たいこ持三津八、三津五郎、佐々木桂之助、又三郎、第壹ばんめと貳番目の間にて「嫗山姥」廓咄しのたん萩野屋八重桐、友松、煙草屋源七實は坂田藏人、玉三郎、太田の十郎、團八、女小性もみぢ、玉市、同てりは、羽三郎、娩おうた、長四郎、同き〻やう、梶之助、同かるかや、玉次、同撫子、蝶之助、侍女松か枝、芝鶴、兼冬息女澤瀉姫、歌柳、時行妹しら菊、菊次郎、上るり竹本富士太夫、同松榮太夫、三弦鶴澤衹助、文左衛門何れも大出來當狂言中棧敷代金壹分一朱高土間金壹分同平金三朱也

○六月十八日より中村座「義經千本櫻」第貳番目「御誂織薩摩新形」いがみの權太、笹の三五兵衛、三十郎、畠山小六郎、壽三郎、船宿三國屋おさん、げいしや小菊、團之助、すしや彌左衛門、箱廻し彌助、鶴藏、川越太郎重賴、若徒八右衛門、團三郎、主馬小金吾、伊勢屋

榮次郎、我當、千島千太郎、花助、川連法眼、出石宅右衞門、佐十郎、返り坂藥醫坊、丸屋六右衞門、德治、武藏坊辨けい、所化雲念、イ太郎、三五兵衞、下部土手助、所化西念、米五郎、猪の熊大之進、若い者喜助、銀十郎、庄屋杢兵衞、義右衞門、足輕伴右衞門、孫六、龜井六郎、手代九助、駿河次郎、島藏、喜撰所化曙山、由次郎、勝間源五兵衞、我童、六代君、長助、權太一子善太、政太郎、料理人喜助、片岡八郎、森五郎、しつか御前、權太母お辻、しけ松、山科荒法橋、於花屋才兵衞、虎五郎、於花屋娘分お花、勘藏、仲居おきし、紀千松、けいしや小松、奥女中櫻木、三之助、げいしや小つな、時忠息女郷の君、三すし、げいしや延吉、若葉内侍、米次郎、げいしや濱吉、乙女權太女房小せん、松本女房おこの、小六、源九郎義經、梶原平三景時、九藏、平大納言時忠、市藏、すしや娘おさと、仲町げいしや小萬、粂三郎、鮓や彌助實は三位中將、訥升、大切「六歌仙添乳口眞似(ろくかせんそへちのくちまね)」喜せん、康秀、業平、我當、黑ぬし、鶴藏、所化、由次郎、おかち、小町、訥升、淨るり淸元連中長唄はやし連中相勤何れも大出來夏狂言中棧敷代廿八匁高土間廿三匁同平拾八匁

○七月十五日より**市村座**「義經千本櫻(よしつねせんぼんさくら)」源九郎よし經、すしや彌助實は惟盛、田舍大神樂とん八、彦三郎、主馬小金吾、入江丹藏、田舍大神樂ひやり八、駿河次郎、權十郎、時忠息女郷の君、若葉の內侍、歌女之丞、左大臣朝方、返坂藥醫坊、歌助、伊勢の三郎、彌左右衞門、女房おくら、鶴三郎、片岡八郎、大峯多羅助、鴻藏、熊井太郎、羽舞八、番場の忠太、坂東音八、常陸坊海尊、庄屋彌九郎兵衞、安德天皇、權太悴善太、丈之助、靜御前、典侍の局、すしやおさと、權太女房小せん、菊五郎、川つら女房あすか、賤女おやま、喜千三、土佐坊正俊、猪の熊大之進、國五郎、醒か井兵太、小牛次、大納言時忠、宗兵衞、早見藤太、山科荒法橋、村右衞門、川連法眼、嵯峨貞林尼、又太郎、渡海や下女おきさ、官女渚の侍從、橋之助、相模五郎、龜井六郎、新升、武藏坊辨慶、梶原平三景時、與六、佐藤四郎兵衞忠のぶ、源九郎狐、渡海屋銀平實は知盛、いがみのごん太、小團次、（當狂言より出勤）川越太郎重賴、すしや彌左衞門、橫川の覺範實は能登守敎經、龜藏、六代御前、竹松、鮓屋娘おなみ、わしの尾三郎義久、羽左衞門、第四段目淨るり（後はせなる忠信が此御見目見へを待受て）「花市座初音の旅(はなのいちざはつねのたび)」大神樂、彦三郎、權十郎、し

づか、菊五郎、忠信、小團次、賤女、羽左衛門淨るり竹本戸和太夫、鶴太夫、三弦鶴澤市作、佐市、何れも評判よし大入也〇八月廿二日より中村座「増補鈴鹿合戰」三だん目四だん目中まく「猿廻門出一諷」第二番目「三世相縁の緒車」前生はお花半七後生はお半長右衛門平河原次郎藏、つりかねや權兵衛、關取半か瀨幸左衛門、平野屋久兵衛、三十郎、行司知村正市、壽三郎、平次女房おはる、蝶右衛門女房おきぬ、與次郎母おきし、團之助、庄屋彥作、輪違屋八兵衛、片岡幸之進、針の宗兵衛、鶴藏、田村將軍、代官奧村兵庫、肴うり仁王團介、團三郎、田村丸郎等滿力太郎、植木賣松、我當、立浪五郎、小船乘辰藏、花助、川隈左衛門、行司吉守與市、佐十郎、俗醫雛井恪右衛門、角力取姿見仙平、德治、氷上川繼金賣孫兵衛、イ太郎、藤原小黑丸、信濃屋若者、八十八、米五郎、島崎彌惣太、角力取千代鶴、千代飛助、玄賓僧都、片岡若徒八内、嶋藏、二見礒八、角力取三つ口、雁八、桂平治清房、猿まはし與次郎、關取桂川蝶右衛門、我童、お半妹おしう、田村丸公達千手丸、土之助、平次一子平吉、八平、祇園町箱廻し、嘉助、やりておつち、孫六、藤彥奧方いばら、片岡下部駒平、義右衛門、中納言種繼卿、料理人伊八、森五郎、綱賣仁左衛門、雁ばゝあおとら、虎五郎、女馬士大津のおまん、信のや娘おかつ、三之助、あこき浦蜑小ふじ、しなのや下女おみつ、光次郎、種繼妹眞垣、仲の丁げいしやおさん、三すし、佐五郎女房槇の戶、げいしやおふね、米次郎、苅田丸息女小ゆき姬、乙女、平内兵衛妻みのり、信濃や女房おいく、小六村岡左市、堤婆の仁三、九藏、藤原千方、井筒屋九郎兵衛、橫雲大之進、非人山の手の權、市藏、鈴鹿御前、藝者おしゆん、おきぬ妹おはん粂三郎、文屋宮田丸、片岡傳兵衛、訥升、高砂の若殿才三郎、傳藏、第貳番目大切淨瑠理關取の手力帶小娘い岩田帶「仇結他夕月」角力とり、蝶右衛門、我童、おはん、粂三郎、清元延壽太夫三弦同德平連中相勤何れも大出來也

〇當狂言は寬政二庚戌春中村座「春錦伊達染曾我」世界は曾我にて仙臺萩鏡山おはつ德兵衛おはん長右衛門を仕組し狂言なり其節役割におはつおきぬ妹おはんときれの小萬實は月さよ菊之丞後に仙女足輕曾根崎德兵衛工藤左衛門門之助二代目關取桂川蝶右衛門鬼王新左衛門幸四郎四代目後男女川京十郎曾我十郎祐成高麗藏後五代目松本幸四郎同五郎時宗男女藏後海丸又惣代劔澤はく庵

局岩ふじ松助後に松綠長右衛門女房おきぬ中老おのへ常世三代目あらましをしるす餘は略之當年迄六十八ヶ年春秋をへたり當春狂言に此仕組を添削しおはつ德兵衛をお花半七とし二代勝負附仕組發たん心中より十五か年年數のたちし櫻田の新趣向大に評判よし然る處八月廿五日の夜未曾有の大風雨にて江戸幷近在近國海邊者別而强く家〳〵吹倒し其上津浪にて家財土藏人馬共不殘流失せし處も數多あり又品川沖にかゝりし大船薩州侯御舟夷船造りの大船は芝濱松町海邊に吹寄是より葛西堀井猫實行德船橋馬か驛驗見川登戸のつゝき海邊え吹上けし大船のかそふるに遑あらず人馬の損亡せしこと其數しれず三座芝居屋根不殘吹放し右修覆中相休

○九月十八日より市村座「蔦紅葉宇都谷峠」第二番目「蘆屋道滿內內鑑」小袖物くるひ、狐わかれの段、安倍の保名、佐々木桂之助、黑木屋彥惣、彥三郎、尾花才三郎、髮結の才三、權十郎、白木屋おこま、こし元小まき、歌女之丞、木綿買はた六、佐の松屋淸兵衛、國侍鹿子嶋新吾、歌助、庄司妻しがらみ、藤屋治兵衛、鶴三郎、判人善六、江戸つ子から熊、口入ばゝあ、お百、鴻藏、彌次馬の喜太、又八、鳴子曳六、綿屋若い者與助、武五郎でつちもゝ太、つきぢあんま瘤市、下そり萬次、吉六、家主佐次郎兵衛、佐十郎、安倍の童子、丈之助、葛の葉姬、くつの葉狐、文屋姉おきく後佐野松屋抱古今、十兵衛女房おしづ、菊五郎、小牧召仕おやま、白木屋下女おかつ、喜千三、望月丹下、文屋母おりく、日光在百姓勘太郎、國太郎、あんま杢市、娵おだまき、多四郎、水あふき下女おます、居酒屋若い者彌太、小半次、娵もみぢ、奥女中竹川鯉三郎、同關屋、ふしや下女おせん、與三郎、白木屋番頭丈八、大坂もの太郎兵衛、村右衛門、信田の庄司、白木屋庄兵衛、又太郎、佐々木妾花園、藤屋女房おむら、橋之助、佐々木奥方月の戸、水あふぎ女房おきん下り中村梅歌、筑田鬼藏、肴うり綱、新升、尾花六郎右衛門、坊主小兵衛、與六、奴勘平、亡人文彌、同亡靈、提婆の仁三、小團次、蘆屋道滿、石川惡右衛門、伊丹や重兵衛實ハ稻生主膳、龜藏、白木屋でつち善太、竹松、文彌妹おいち、羽左衛門、第貳番目三番目古今彥三か名な假宅に「心中玉露白小袖」彥惣、彥三郎、古今、菊五郎、富本豐前大掾、同豐前太夫、三弦富本兼藏、名見崎勇三淨るり竹本戸和太夫、鶴太

夫、三弦鶴澤市作相勤

○當新狂言彦惣古今おこま才三世話狂言へ元祖金原亭馬生の座頭ころし噺を仕組第壹佐々木家の寶茶入紛失おこま才三不義の一條才三浪人して酒屋重兵衛方に住居芝片門前文屋内姉おきく身うり此處柳亭作六枚屏風の小松の身寶なはめたる趣向あり鞠子宿ふしや合宿文彌重兵衛仁三宇都宮文彌ころし白木屋の場柴井町酒屋重兵衛妻病氣文彌幽靈古今彦惣心中場文彌怪談大出來河内翁能進新作にて大々當り

○九月廿日より中村座「蘭奢待新田系圖」「初雪三升藏景淸」九藏事五代目市川團藏と改名して下り御目見へ狂言、惡七兵衛景淸、けいせいあこや、楠正行下り市川團藏、伊勢の三郎、恩地左近、中村福助下り岩永左衛門宗連、小山田彌太郎實は新田義貞、盜賊赤星太郎、三十郎、大塔宮壽三郎、呉羽の前、彌太郎女房礒浪實は勾當内侍、團之助、宇都宮公綱、劔澤平内、篠塚伊賀、鶴藏、粟生左衛門、村上義照、團三郎、大館左馬之助、我當、脇屋次郎義輔、花助、かぶらせ庄司、佐十郎、齊の四郎、德治、もかりの陀多八、イ太郎、小山田太郎、高家米五郎、百姓助市實は本間孫四郎、順禮重作、秩父庄司重忠、我童、景淸娘小櫻、由次郎、新田德壽丸、土之助、足利息女花形姬、德次郎、百姓あせ六、森五郎、そゝ草富金太、虎五郎、女小性靑柳、島松、同山吹、勘藏、樋守久六、紀千松、作女おうめ、梅太、同おみつ、光次郎、彌太郎女房礒浪、三之助、左馬之助妹みなせ、三すじ、同女房つな手、米次郎、片桐彌七女房白妙、乙女、幸内女房おそや、小六、本間の六郎、九藏、小山田幸内、備後三郎、市藏、助市女房おそね、伊場十藏妹初しも、楠正成娘菊水、粂三郎、揚名之助廣昌、名和又三郎、訥升、足利公達鶴壽丸、傳藏、第二番目所作事未熟もかへり皆樣へ遲參の御詫に取あへす「伊勢名所業土産」凡例、臼女の岩戸神樂、俳人の二見文臺、大々の攝社巡り、丹前若衆丹前の名古屋帶、後面夜たか奴の加賀見石、傾城道成寺の河崎音頭中村福助

御みやげ狂言相方所化、團三郎、神主、花助、丹前奴、訥升、社家、我當、所化、鶴藏、捕手大せい、常磐津小文字太夫、三弦古式部、富本豐前太夫、三弦同彙藏、淸元延壽太夫、三弦德兵衛、長唄吉住、坂田岡安、三弦杵屋惣はやし連中相勤大に評よし琴責書替評判不勝○十

月廿一日より**森田座**「還結柏政武飾駒」第二番目「初時雨浮名雙彈」譽田大内記、柘榴武助、能師今福太夫、福助、由理之助娘千代菊、白柏子粧、げいしや古今實は十太夫娘お糸下り片岡愛之助、和田志津摩、狂言師友之進、笹尾屋德兵衞、友松、池添孫八、松崎金十郎下り中村延雀、荒尾主膳、料理人長助下り嵐璃鶴、呉服や重兵衞、判人市六、冠五郎、醫者熬宅、犬井傳八、團八、靱負女房柴垣、川島娘分おあい下り片岡愛三郎、上松照千代若太夫又市、宇佐美五右衞門、升屋武右衞門、友右衞門、和田靱負、梶原隼人、是好、上松春太郎、鳶小頭熨斗菱の三吉、三津五郎、彦惣一子吉松、定之助、櫻井林左衞門、澤井又五郎下り中村半五郎、若徒沼津平作、好三郎、石部金太夫、鶴か岡別當敎じつ、らい助、びせんやかゝへおつる、にしき、其外大せい、同おかめ、蝶之助、同おやま、川嶋娘分おきよ、喜代三、仲居おしげ、和田の下女おはつ、芝鶴、鳴見大八、石川翫藏、翫太郎、備前屋抱おはな、歌柳、靱負娘おのち、びせん屋抱おひで、玉三郎、政右衞門女房おたに、白びやうしかほる、川しまの娘おきん、市之丞、池添孫八、佐々木丹右衞門、花屋惣八、男女藏、松田屋抱瀨川、備前屋かゝへ小ふち、白びやうし司、石見一則娘八重梅、彦惣女房おこと、菊次郎、唐木政右衞門、能師幸若太夫、澤井城五郎、川崎屋彦惣、赤松太郎政則下り市川團藏、上松左門之助、又三郎、第一番目四幕目淨瑠理「今樣望月」能師ふく助、同友松、白ひやうし、愛之助、能師市之丞、菊次郎、男女藏、團藏、常磐津豊後大掾、同小文字太夫、三弦岸澤小式部相勤第貳ばん目淨るり道行「一對模樣菊紅絲」おこと、菊次郎、古今、愛之助、おひで、玉三郎、三吉、三津五郎、大夫彦惣、團藏、富本連中相勤何れも大出來○伊賀越序幕靱負殺し次だんまり義次、福助、千代きく、愛之助、紅梅菊次郎、政則、團藏、譽田やしき、今樣望月、故人翫雀の俤大出來古市備前屋大おとり大切道行迄大出來狂言作者瀨川如皐、藤本基助、梅田效助、篠田全治、福森久助○十一月朔日より**中村座**前狂言「蘭奢待」役割改第貳番目出村玉屋「富賀岡戀の山鐘」上かんや助市實は目賀孫三郎、大森彦七、出村新兵衞、我童、彌太郎女房實は勾當内侍、正成妻きく水、けいしや小女郎、菊次郎、宇都宮公綱、うぶ毛の金太郎、芝雀、栗生左衞門、鵜飼九十郎、鶴藏、いろはのお梅、歌柳、神宮守小太郎、酒賣正兵

衛、待之助、淵邊伊賀守、氏原下部有助、猿三郎、大塔宮、小山田太郎、つる三郎、梅本娘分おきく、喜千三、との丶、法印、音八、紅葉茶屋おしう、純五郎、神主右衛門、義右衛門、紀の國屋由松、由次郎、足利尊氏、恩地左近、勘彌、新田德壽丸、竹松、大館左馬之助、氏原勇藏、源之助、梅本娘分おやへ、にしき、奥女中さゝ浪、松本女房おしげ、しげ松、見せ物師札右衛門、虎五郎、松本娘分おちよ、やよい、同おふで、梅太、梅本娘分おきた、光次郎、仲町げいしやひな吉、三之助、左馬之助女房初音、梅本娘分およね、米次郎、薺の四郎、玉屋手代三四郎、德次、畠山右馬之丞、同心者實念、歌助、脇屋義助、八百の伊三郎兵衛、訥升、小山田幸内、茨の藤兵衛、市藏、畑六郎左衛門、箱廻し三十郎、助市女房おそね、公綱妻白妙、玉屋娘おゑん、粂三郎、彌太郎實は新田義貞、小山田太郎高家、楠判官正成、相模次郎時行、玉や新兵衛(スケ)、彥三郎、いづれも大出來、狂言作者櫻田治助、松島半二、同鶴二、同仙助、豊嶋新造、梅澤萬治、松島山藏、中村七右衛門、銀杏麗助〇十一月七日より**市村座**「倡女誠長田忠孝(しよろのまことをさたゞちうこう)」第貳番目「松竹梅雪曙(しようちくばいゆきのあけぼの)」御厩喜三太、百姓巳の作實は伊豆頭、仲綱小性吉三郎、湯しまの三吉、彥三郎、曹子牛若丸、神田の與吉、題目講中妙八、權十郎、巳の作女房おしん、梅津息女梅かへ姬、賤女おたみ、歌女之丞、番卒兵内、油屋太左衛門、歌助、丁七唱、堀口主水、盜賊あんだう五郎、宿場女郎お八重、鴻藏、鱠うり築地の善、つきち、鞍馬山東光坊、五人組佐次兵衛、佐十郎、御曹子乙若、覺之助菊五郎養子常磐御前、鞍馬山僧正坊實は袈裟太郎、女房衣手、仲綱云號皐月姬、八百屋下女おすき、菊五郎、澁谷金王丸、吉五郎、笹鶴姬かし付深雪、友達娘おたけ、菊三郎、番卒杢内、星塚軍藏、國五郎、八百屋でつち丈太、權内唱妹早咲、梅松、藏人妹卷絹、菊榮、稻津伴藏、番僧快典、村右衛門、吉祥院住僧日法、宿老與惣兵衛、又太郎、義朝息女笹つる姬、友達娘おむめ、橘之助、梅津の娘松かへ姬、與吉女房おうた、梅歌、惡源太義平、戶倉十内、新升、奴喜平太、釜屋武兵衛、與六、彌平兵衛宗清、木の葉天狗實は袈裟太郎、八百屋お七、題目講中經七、小團次、長田太郎宗重、伊勢三郎義盛、八百屋久兵衛、渡邊隼人、龜藏、御曹子今若丸、竹松、吉祥院小僧辨長、題目講中法作、羽左衛門、第壹番目四立目淨るり操の常磐と夢にしら雪「恩愛晴關守(おんあいひとめのせきもり)」ときは、菊

五郎、宗清、小團次、乙若、覺之助、今若、竹松、常磐津豐後大掾、同小文字太夫、三弦古式部第貳番目大切淨瑠理六字七字も法の道連「封文戀書置(ふうじぶみこいのかきおき)」三吉、彥三郎、お七、經七、小團次、妙八、權十郎、所化辨長、羽左衞門、富本豐前大掾、三弦富本兼藏、名見崎勇三、出勤○五立目鞍馬山天狗の仕合木の葉天狗小團次立廻り身のかるきこと飛鳥の如く正眞の小天狗も我を折り奇々妙々と感心すべし後だんまり喜三太、彥三郎、牛若、權十郎、けさ太郎、小團次、女房衣手、菊五郎、大詰迄大出來第貳ばんめ八百屋お七中まく返し櫓の處小團次人形身大に評よし大切上るり大出來大當り○狂言作者篠田瓏助、梅澤宗六、繁河長治、中川彌吉、竹柴豐藏、竹紫淺吉、河田藤治、奈河晴助、河竹新七

江戶三芝居當春より顏見せ迄甲乙なく大入大昌繁にて日數打切千秋樂と舞納めてたし〳〵

○當正月大坂表角の芝居におゐて嵐璃寬江戶登り御目見として嘉永六江戶河原崎座にて興行せししらぬひ譚を差出す大名題(探題の秀逸劉善謄 惡は一樣揚屋入り)「けいせい白縫譚」合卷七編迄菊地右門之介貞行、鳥山豐後之助、三桝大五郎、妹てり葉、娘おたか、傾城高窓、嵐三右衞門、鳥山秋作、イ蓌鶴藏、翫雀、青柳春之助、玉七、巖山國師、りやうし鰭九郎、片岡市藏、けいせい綾はた、娘小いそ、女房おふじ、友吉、立川小文次、奴儀平、嵐和三郎、菊地多門之介、下男新助、三桝源之助、大友刑部、漁師鮫藏、船頭梶藏、中村雀右衞門、お筆の方、女六部おしつ、中居お蝶、女房おうた、歌六、大友若菜姬、白縫大盡、りやうし浪六、玄海灘右衞門、嵐璃寬、狂言作者嶺琴、八十助、松鱸亭助、又合卷作者柳下亭種貞と番附に名目を載たり草双紙作者の名前を狂言作者とならべて書出せしは此度初めてにやとにも角にも柳下亭大人の手柄稱譽すべし○扨是迄三桝大五郎座頭の處此度嵐りかん江戶上り御目見へに付座頭に直し番附へいだせし所諸見物のうけ甚たあしく不入にて璃寬御目見得狂言さん〴〵早速狂言を取かへ第一ばんめ妹脊山第二番め双蝶〳〵此度者りかんを書出しに出す役は入鹿大臣娘おみは、放駒長吉、璃寬にりやうし芝六、後室佐田香、玄上太郎、濡髮長五郎、三桝大五郎を座頭に出し相初め米やの幕にて姉おせき、中村歌六長吉に異見のせりふにこなたは米屋のでつち上りで大關の濡髮さんを差置て大關になろふとはあん

まりものういはれぬ關取にもよふおはびをいふたがよいと歌六せりふによせて見物への詫口上を述しにいまだ見物の心解ざりしにやイヤ其口上おかんせおけ〳〵と場より大勢にて云のゝしりしと云々此三桝大五郎は江戸表え下りしは文政三辰の顔見世中村座へ中村源之助と云初下り同五午年より上上一冬より三桝と改同七上上吉にすゝみ大名題に上り是より追〳〵出世して位上上吉にすゝみ天保八酉古郷大坂へ登り當時浪華の大達者極上上吉に昇進せら俳名始龜鶴後梅舍と改

花江都歌舞妓年代記續編卷の卅一

●安政四丁巳年

○正月十三日より中村座［歳德曾我松島臺（としとくそがまつしまだい）］八わたの三郎行氏、浪乘船の音吉、石井下部藤助、熊坂長範、曾我五郎時宗、福助、朝長御臺なぎさ御前、女太夫おいち、源三郎、女房お梅、けわい坂少將、大經師下女お玉、藤左衛門妻おこう、團之助、石井兵太夫、壬生小ざる、[illegible]じのこび八、赤澤十內、ゑぼし折求女、須原次右衛門、鶴藏、曾我十郎祐成、三條の吉內、たかのはのけしの介、梅澤や小五郎、大經師以春、訥升、そが團三郎、佐藤下部嶋藏、我當、京の次郎、座頭歌の市、花助、一藤左仲太、熊坂手下覺淨、大經師後家おみさ、研や藤左衛門、德次、伊豆の次郎、大隅下部宅內、い太郎、蒲の冠者のり賴、けさ太郎、研屋下男與助、德松、摺針太郎、石井下部彌五八、銀十郎、近江小藤太、初夢茄子三ッ藏、佐藤源三郎、淡路や仁右衛門、石井下部文治、金賣橘次、鬼王新左衛門、三十郎、でっち長太、土之助、所化雲念、藤袴禪久、らい助、仲居お梅、梅太、同お

みつ、三うら片貝、三之助、高尾新造立田、大磯や女房おまつ、三すじ、新造いろは、兵助女房いなせ、米次郎、仲居おつる、お磯やおはりおいと、芝鶴、平田岡之進、じやくまく四郎、歌助、常右衛門女房おたね、三浦ややりておよし、文治女房おさわ、小六、大磯屋傳三、麻布の松若、佐藤下部袖助、九藏、佐原丈左衛門、三島屋平左衛門、大經師番頭助右衛門、大隅藏人、市藏、大磯の虎、源牛若丸、女太夫おひさ、勇藏女房おかね、以春妻おさん、研屋娘おすて、粂三郎、寺手や久住、眞柳、石井常右衛門、若徒文治、大經師手代茂兵衛、工藤左衛門祐經、仁左衛門片岡我童改名す小林朝日丸、傳藏、第一番目四立目上るり 大磯廓萬歳 粧坂の禿萬歳「浮柏子五町明映（うきひやうしごちやうのあけぼの）」福助、九藏、由次郎、團之助、鶴藏、三十郎、訥升、粂三郎 常磐津豊後大掾連中第二ばんめ大切淨瑠理「夢結春手枕（ゆめむすぶはるのたまくら）」三十郎、粂三郎、おさん茂兵衛 花助、仁左衛門 常磐津連中相勤

○石井高尾と小夜の中山夜啼石の仇打熊坂長はんを加へし曾我物語狂言中評なり

元祖 片岡仁左衛門系譜

○片岡仁左衛門 元祿十四巳役者二挺三味線に上上吉實惡 片岡仁左衛門實惡の開山京大坂に此人程荒の事をする兵なし第一思ひ入よし打つゝいての座元手がら／＼た顔見世に能登守のりつねの役あつはれ出來ました萩野殿求馬殿大和や殿などめづらしき顔見世にけをされ少し入にぶりしか切狂言に宿なし團七七年忌にてめいりし所を引おこしの大當りおてがら／＼と云々下略かくあり其頃京大坂の大達者也

二代目 ○片岡長太夫 正松後牛三郎俳名茶谷

三代目 ○藤川繁右衛門　四代目 片岡仁左衛門 初名藤川

五代目養子 片岡仁左衛門 初名山本七藏後藤川牛三郎

○片岡三平 寶永八評判記

○片岡仁左衛門 後此名を廢し元祖三保木儀右衛門と改名

七代目ィニ六代目、寛政八評判記には三代目とあり

○片岡仁左衛門 初中村松助後淺尾國五郎 俳名我童家名松しまや

○片岡仁左衛門 幼名市川新之助ィニ三桝岩五郎後に嵐橘三郎天保四巳仁左衛門養子となり片岡我當と改安政四巳春江戸中村勘三郎座にて改名す

實子 ○片岡愛之助

養子 ○片岡あやめ 實豊松牛三郎子幼名熊吉後にあやめ

實子 ○片岡我當 幼名松之助

同土之助

此外子弟數多あり略之

○正月十四日より市村座「鼠小紋東新形（ねずみこもんあづましんがた）」刀屋新助、俄師しなのや尾牛、髪ゆひ浮世伊之助、松田主水、彦三郎、與惣兵衛悴與之助、俄師初春亭琴玉、甲子大黒の

息子文三、船頭長吉、權十郎、げいしやおもと、三浦の娘いと夕、松ばや女房お千代、歌女之丞、刀屋新兵衞、若黨本庄曾平次、又太郎石垣伴作、若菜屋番頭佐五八、國五郎、お熊子分赤間三次、娘玉章、わる者千八、鴻藏、同熊、講坊主西念、幸藏、子分長太、米五郎、高木四郎次郎、石見銀山鼠うり岩八、羽舞八、おふく、親九兵衞、駒田久六、新三郎、醫者養伯、若い者小助、小作次、山せげん權六、座頭かさ市、晋八、幸藏娘おみつ、覺之助、若菜や後家お高、松ばやの松山實は幸藏、女房おまつ、娘若草實はお高娘おわか、踊りの師匠尾上梅菊、菊五郎、松田主膳、家主佐次郎兵衞、佐十郎、娘竹川、つちや女房お大、梅松、村井傳藏、鼠取り藥うり銀次、菊四郎、仲居およつ、こし元梅かへ、榮枝、同早わらび、仲居おりう、鯉三郎、こし元若菜、げいしやおやま、菊榮、岩見東三郎、小間物や佐七、鶴三郎、平岡權内、乳母腹太のふく、欲山けんぎやう、村右衞門、若菜屋下女おせん、松葉屋新造松人、橘之助、同松山主膳娘おぬい、げいしやお梅、梅花、辻番人與惣兵衞田川五左衞門、三浦兵部之助、與六、盜賊稻葉幸藏實は與惣兵衞悴與吉、卜者高島米山、俄師初音亭、新玉、同下男權助、小團次、早瀨彌十郎、幸藏、養母お熊、高木四郎太夫、幸藏、女小性若竹、竹松、同若松おもと弟いけどら三吉、村左衞門、淨瑠理竹本戸和太夫、三弦鶴澤市作第一番目五立目淨瑠理上下（上の巻は松の舞臺の式三番／下の巻は梅の浪花の俄狂言）「修綠笑遠山（まれてみどりわらふとふつよ）」三番叟小團次（尾上三郎武藤武女之丞梅／吉梅花新五郎主權十郎おの）（へ菊五郎わか／竹竹松權介）小團次常磐津豊後大掾、同小文字太夫三弦岸澤古式部連中囃子連中相勤○盜賊鼠小僧、狂言大出來評判よく大々當り

右上るりに仕組し俄狂言は去る嘉永四亥の二月上旬大坂より西南國廣小路へ葭簀張の小屋にて招看板糸瓦大傳柱貫の穴をくゝる處下に壹人矢立を持居る此南八彌次郎兵衞喜多八なるべし其節のヒラ大坂下り膝栗毛俄茶番と號し江戸より伊勢參宮宿々多くは淨るり狂言のもぢり也箱根御關所狂言盡し大井川朝顏日記故人菊五郎怪談のおかしみ彌次郎兵衞市丸喜多八新玉大々當りにて後には一座講釋場移ります〳〵大入にて南天にも客留なり追々新趣向ありしが左程評ばんなし後に市丸若玉故障ありてわかれ、丸は上方へ歸り新玉座頭となり牛天神開帳之節境内に出たり其後皆々大坂へかへり

しかゝる業を見るにつけ元祖十返舍一九翁の妙作是等の徒は開山と稱し朝夕尊み敬ふべし又新玉尾半抔の眞似を大達者の役者が本舞臺にて勤玉ひ彼等が仕合といふべし

れんめい	
新玉	仲丸
本虎	福仙
市丸	

○二月十五日より森田座「入船曾我和取楫」清水冠者義高、唐糸悴大三郎、小はやし朝日奈、蜑千鳥、曾我十郎祐成、福助、大姬君、兼平息女かけはし、賤の女お梅、手越喜瀨川、愛之助、千葉息女侍宵姬、けわい坂少將、玉三郎、石田爲久、馬士箱根の畑六、海老名軍藏、祇太郎、同源吾、柳ヶ瀨郡次、冠五郎、平野屋淸八、永園主水、璃雀、梶原景時、盤澤段八、團八、庄屋神右衛門、堀江の藤吉、成藏、飛脚又藏、土肥の次郎、武十郎、若壽君賴家、又市、佐々木左門之介、宇野小太郎、下妻六郎、丹波少將成經、延雀、義仲一子大日丸、後七草四郎、天竺德兵衛實は大日丸、白浪撿校實天竺德兵衛、常陸之介國之實は德兵衛、丹左衛門尉基康下り市川市藏尾上多見藏二男大夫坊覺明實は賴家の靈、大江の廣元、是好、吉岡宗鑑實は中山權之頭、赤澤十內、瀨の尾十郎兼康、歌雀中村歌五郎事工藤犬坊丸、在所娘おはな、三津五郎、げいこ娘およし、幸若林之助、安西小六郎、こし元ゑ合、長四郎、天野藤內、やりておつめ、助藏、千葉の婲袖はぎ、愛三郎、千葉之助、石田刑部、爲次、平判官康賴、又九郎、蒲冠者範より、下部磯平、曾我五郎實は禪司坊、國三郎、宗鑑娘夕浪、のり賴奥方淸の前、和田舞鶴姬、市之丞、鬼王新左衛門、男女藏、工藤左衛門光盛、妾唐糸、結城左衛門友重、俊寬僧都、曾我五郎時宗、團藏、第一番目四立目淨るり「こゝろの蝶も花にうかれて」「櫻山艷忍夜」大ひめ愛之助在所娘三津五郎こし元仕三郎賴之市藏富本豐前大掾連中相勤大切淨瑠璃霞の隈のぼるや戀の奴凧上の卷松囃子對面下の卷子の日草摺曳諸成朝日奈福助、仕丁延雀仕丁奴凧市藏、祐經女仕丁團三郎、市之丞時宗草すり團藏「潤色女護島」こまの段一とまく菴に本瓜花的福攝當攝津豐後大掾連中長唄はやし連中相勤何れも大出來大々當り下り市藏小兵なれ共故人菊五郎の俤ありとて大に評よし天竺德兵衛は父多見藏の寫奴凧所作事同斷此度の大入市藏の手柄と云べし

○爰に一ッの珍談あり四月十四日の九ッ時頃中村

歌雀宗鑑切腹し天笠德兵衞と親子の名乘り致し宗鑑娘夕なみ愁歎場德兵衞親の言付にて父宗鑑を介借し首を打此狂言最中吉野と云昔はらかんと云二階棧敷或武家の御家來五八連にて見物致居候處右士の內藤倉某と云者德兵衞親の首を打しを見るより狂言とは申ながら親の首を討と云事あるべからず狂言奇語とはいへ共仁義禮智の道を守こそ善惡の敎へともなるべきに子として親を打事言語同斷とやいわん齒ぎしりして見物せしが風と逆上いたし二階より舞臺え飛下り親を殺すとは憎きくせものなりと刀を拔市藏目懸て切付る市藏仰てせしか不斷の立廻りもかゝる時少しは約にも立しか腰にかい置くまくらを打付し侍の頭に當る侍ます／＼いかりて追ひ廻る市藏は大皷を小楯にいたしあちこちと逃廻り少々手負てよふ／＼樂屋へのかれたり市之丞歌雀逃込たり此節誰一人出逢ふものなし火繩淸次郎舞臺へ柏子木打居所出合頭に横腹七寸程切られ大道具又吉脊中六七寸右腕半分切られ裏木戸越前やへ逃込たり市藏の迹りのもの鉢割の安五郞親方を切らせてはならぬと飛出し小鬢先を三寸程背中を突れ腕にゑぐり疵一ヶ所受ながら土間寄棒をとりて力五郞の足を拂ひ候て尻もちつきなから腹切ふんと致せしを連の侍よふ／＼取押へ當人は指五本程疵出來直に三丁目自身番屋へ五人共揚置右五八の客は茶や附無之出方之者取扱面上棧舖と入置候所尤大小は預り置候由然る處力五郞用事ありとて外へ出候由にて定吉より大小受取帶し又々棧敷へ立戾り右騷動に及び候よし右之節土間に居候見物一同に逃出し何れも少々つゝ怪我いたし或は紙入たばこ入等落し櫛笄の類失ひたるもの有よしと云々右騷動內濟に相成十六日より芝居相始り此一條より市藏評判ます／＼よく危き災難を遁れしは仕合なりと諸人申あへり往古より大喧嘩口論は度々あれ共かゝる刄傷の大騷動は此度はじめてなるべし

○三月三日より中村座「金龍山千本初花」當年淺草寺山內え千本の櫻植へしゆへの名題第二ばんめ「富岡戀山開」谷澤主水、戸山の下男伊助、三保木彌十郞、福助、中老おのへ、又助、女房おらよ、初役新兵衞、女房おゑん、團之助、谷澤若徒喜兵衞、菊酒や手代久八、鵜飼九十郞、鶴藏、滑川求女、

手代幸助、八百原伊三郎、訥升、花形才三郎、薩毛の金太郎、我當、松原數馬、下部八内、花助、牛嶋主税、望月下男徳平、音次、奥女中鈍菊、奴隅田平、講中金兵衛、い太郎、若徒佐五平、奥女中葉村、德松、同銀杏、講中作兵衛、銀十郎、奥女中千代鶴、地廻りだゝ六、千代飛助、奥女中玉章、鴈八、同うら梅、翫助、大姫君妹彌生姫、由次郎、望月源藏、鳥居又助、出村新兵衛、三十郎、こし元よしの、仲居おむめ、梅太、同おさへ、婉松ヶ枝、三之助、同梅か香、仲居おいく、三すじ、いろは茶やおよね、こし元關や、米次郎、同伏屋、松本女房おつる、芝かく、奥女中關歌、望月若徒松平、茨原藤兵衛、歌助、奥女中庵崎、下女おみね、船宿みうらやお時、小六、奴江戸平、多賀主計介、料理人三吉、九藏、劒澤大膳、修げん行禪坊、氏原勇藏、市藏、大姫君召仕おはつ、三國や小女郎、粂三郎、金澤左門之介、局岩ふじ初やく玉や新兵衛、仁左衛門、重忠、壽三郎、大切所作事五色彩廓燕、往來を鴈初花川戸の助六、三浦屋あげ卷、髭の意休、ぞめき侍甚太兵衛、福山かつさ、福助、白酒賣眞兵衛訥升、かむろ若葉、由次郎、くわんぺら門兵衛、歌助朝貌せん平、德次第一番目四幕めつとむ相淨るり常磐津豊後大掾、三弦岸澤古式部、同小文字太夫、岸澤式佐、惣はやし連中相勤大に評よし大當り○五月九日より市村座

夢鞋言雨夜怪談「敵討噂古市」佐々木右衛門佐、并筒粂之助、手跡指南九皐助、大川屋重右衛門、彦三郎、土佐修理之助、畫師荒波の光俊、松賀屋孫三郎、權十郎、佐々木奥方操御前、喜兵衛娘おれん、杉本やかゝへおれん、歌女之丞、三木藏之進、本陣の亭主佐五右衛門、又太郎、おれん、親喜兵衛、非人一ッ塚の咽六、國五郎、同さるゑの幸次、判人源八、爪永與九太夫、鴻藏、百姓あぜ六、非人沼藏、米五郎、茶道珍才、酒やでっち善太、羽舞八、唐崎松兵衛、百姓田五七、新三郎、瀬田關藏、御師手代深助、小半次、一學末子主水之介、權内、佐々木の小性梅彌、覺之助、不動院兒白菊丸後佐々木妾お菊の方實は梅津嘉太夫悴菊之助、清兵衛娘お梅後松本の抱お梅、幸八女房おしげ、菊五郎、佐々木小性橘彌、吉五郎、稲垣三左衛門、杉本亭主彦次郎、佐十郎、同かゝへおせん、こし元さつき、梅松村芝居頭取市助、非人松藏、又八、不動院同宿海全、堅田鴈八、菊四郎、百姓くね右衛門、馬士荒のみの三八、武五郎、婉あやめ、仲居おゑい、榮枝、同おりう、こし元夏きく、鯉三郎、同撫子、仲居およさ、菊榮、井つゝの下部藤助、白子勘十郎、鶴三郎、醫者玄伯、輪達郷兵衛、村右

衞門、修理之介實は號夫ふで、杉本かゝ八おまさ、橋之助、不動院住僧了海、庄や作右衞門、酒や亭主久七、輿六、荒川隼人、百姓正直、清兵衞、同亡靈久七、女房お瀧、小團次、野浦一學、井筒武太夫、伊勢路番太、幸八、六角修理之助、龜藏、杉本小じやくおきり、竹松一學忰主税之助、羽左衞門、第二番目三幕目淨るり一座の中も吉田やの其人形に准へて後の世かけし別れの鐘「時鳥酒杉本」粂之助、彦三郎、おれん、歌女之丞、孫三郎、權十郎、おきり、竹松お梅、菊五郎、富本豐前太夫、三弦同兼藏、竹本鶴澤連中相勤何れも大出來大々當り○壬五月五日より森田座「挿頭菖蒲閏高綱」「鬼一法眼三略卷」第二ばん「重扇壽松若」草り取り虎藏實源牛若丸、源實朝、福助、北條息女時姬、永樂や後家おきく、愛之助、同娘おはな、高砂家息女彌生姬、玉三郎、盜賊摺針太郎實は小坂郡九郎、綱藏弟あみ七、九藏、待乳屋金兵衞、在所かゝあおらち、猿太郎、富田の六郎、りやうしかき六、醫者東南、冠五郎、土肥の彌五郎、高宮勘左衞門、團八、古郡新左衞門、家主太郎兵衞、成藏、中間りく介、摺針手下勘松、武十郎、和久田鄕藏、獵師ふご六、調作、元吉四郎、永樂や甥義兵衞り下市川市藏、北條時政、永樂や番頭惣九郎、りやうし鰐藏、笠原湛海、歌雀、三浦之介實は長門、鶴本主水、りやうし網藏、是好、鰈々曾菜の三吉、三津五郎、同よし松、由次郎、眞屑買次郎七、摺針手下長藏、助藏、同ぢんどうばら助、夜そばうり二八、團六、高綱女房かゝり火、永樂や下女およし、佳好、同おたま、こし元あやめ、玉次、同さつき、下女おみつ、光次郎、こし元かきつ、侍女阿波の局、にしき、同さぬきの局、摺針女房およリ、愛三郎、比企左衞門賴員、米澤隼八、又九郎、千島冠者、松岡勇藏、安守伊織之介、團三郎、藤三女房おくる、綱藏女房おふね、吉岡息女皆つる姬、市之丞、佐々木四郎高綱、百姓藤三實は高綱、本田の次郎近常、普化僧來山實は勝見丹十郎、吉岡鬼一法眼、團藏、大江因幡之助、又三郎、三浦之介義村、新田梅次郎、弟九　郎、綱藏妹おつる、下部智惠內實は喜三郎、市藏、第二番目序幕淨るり御ひゐきを風がまねきて蝶あそぶ「花狂蝶戀双」蝶々うりおつる市藏由次郎三津五郎富本豐前大掾三弦同菊藏何れも評よしろくろ首中評馬士切大出來なり團藏鬼一大に評よし○五月七日より中村座「若樹梅里見八總」第二番目「號八百屋料理揃」二幕犬塚信乃、犬田小文吾、尾崎照文、八百や半兵衞、春日屋時次郎實は横川甚平、福助、犬塚ひき六、小者額藏後に犬川

荘助、馬加内記、八百や隠居半左衛門、山名ややりておかや、鶴藏、足利成氏、八ッ房の靈、金まり泰輔、角太郎女房ひな衣、犬江親兵衛、納升、網干左母次郎、山下定兼、犬村角太郎、八百やでっち三太、延雀、小ものぬり助、茶や廻りの豊實は千崎彌五郎、花助、簸上甚六、横堀在村、德次、手兒名四郎、小間ものや伊太郎、い太郎、繼橋七郎、下男眷助、德松、つの田角内、庚申山土祖神、鷹八、同山の神、相藏、洲崎神童子由次郎、犬塚伴作、犬飼現八、山林房八、赤岩一角實は山猫の怪異、一角亡靈、同女房船虫、寂寞院實犬山道節、利倉十左衛門、山名や四郎兵衛、三十郎、浦里禿みとり、すけ三津五郎、同若葉、十之助、半兵衛忰半之介、福太郎、赤岩牙次郎、新造松の戸、衒助、蟇六女房龜笹、勝間隼人之介、狩人兵六、猿三郎、小道具や金兵衛、寢すばん忠助、森五郎、金貸吉兵衛、料理人多介、虎五郎、早乙女おせん、扇之助、同おむめ、梅太、現八妹おむつ、仲居おつた、三之助、ひき六下女およし、仲居のおみす、三すじ、里見女中皐月、浦里の新造米さと、米次郎、里見女中芝つる、八百や下女おはま、芝鶴、軍木五倍次、古那や文五兵衛、歌助、里見女中松ケ枝、

船宿女房おみつ、山名女房おこう、小六、番作女房たづか、げいしや小ひな、團之助、里見息女伏姫、ひき六娘濱路、犬坂毛野、半兵衛女房おちよ、山名屋抱浦里、粂三郎、御曹子義成公、壽三郎、第一番目發端淨瑠理「綾錦姿の姫百合」八ッ房靈納升神童子由次郎伏姫粂三郎、富本豊前太夫三弦同兼藏相勤る第二番目大切淨るり短夜の夢にほの〳〵「明烏雪浦里」時次郎、福助、山名や、三十郎禿、三津五郎、やりて、鶴藏浦里、粂三郎清元延壽太夫三弦同德兵衛連中相勤いつれも評よし○明からす二度目福助八百や半兵衛人形身振雀に共まいとの評ばんなり○片岡仁左衛門、同我當入湯にて出勤なし○七月十五日より市村座「網模様燈籠菊桐」稲木新之丞、菊酒屋手代與四郎、同亡靈船頭水棹の竹、彦三郎、おぼう吉三、善導寺所化敎眞、お熊弟三之助、權十郎、新之丞妻おたみ、山崎抱お杉、大のや女房おやへ、歌女之丞、蓮の葉郎等伊勢森左衛門、玉菊親百姓畑作、又太郎、中万字やゝり手おさき、善導寺所化阿典、國五郎、船頭源次、櫻川善好、鴻藏、品川げいしやおさん、ろじばんいなせの市、米五郎、まみ穴の金、あふみや半四郎、羽舞八、岩淵伴吾、切見世女郎おなを、薪三郎、大のや若者粂吉、切見世の賄おすて、吉六、ぜげん善吉、つきぢ玉菊、禿しの

ぶ、覺之助、中万字屋玉菊、千葉の奥女中瀧川後七之助、女房御しゆでんおくま、中万字や女房おてう、菊五郎、千葉右衛門之介、吉五郎、沖しま七郎、あふみや喜兵衛、佐十郎、玉菊の新造玉つた、高縄茶屋おはま、梅松、大坪馬助、中まんじや若者金兵衛、又八、岸岡慶藏、秋竹丹作、菊四郎、玉菊新造玉露、鯉三郎、同玉くづ、稲木下女およさ、菊榮、小谷左七郎、中万字若い者友吉、夏森繁藏、鶴三郎、奥用人横田助平、家主太郎兵衛、村右衛門、番頭新造玉荻、あふみや女房おとく、橘之助、澁川軍十郎、稲木治左衛門、倉ヶ野屋義兵衛、與六、竹あみ悴猿之助、小林七之助後に修行者西心、中万字屋搊兵衛、小團次、藤高五兵衛助光、網打七五郎、與四郎親西念、道中師一時三五郎、龜藏、禿しげみ、善導寺小坊主眞海、竹松、中万字や初みどり、七五郎娘あんまのおなみ、羽左衛門、第二番目序幕淨るり（藤かづら文句を假てうきを身にしる袖の雨）「星逢瀬戀柵（ほしのあふせこひのしがらみ）」（おくま、菊五郎　七之助、小團次　義兵衛、與六　おなみ、羽左衛門）吾妻路富士太夫、同瀧太夫、同源太夫（三弦）同菊藏、同仲助相勤第一番目二まくめ小猿七之助夢の場、參州矢矧の橋猿之助藤高龜藏手下大勢猿之助と立廻此夢覺て永代ばし講釋場に小團次書寐之處奥女中瀧川を見染差て居るかんざし盜み後に夫婦となる四幕目吉原万字やの場玉きく菊五郎大當り六まくめ切見世御守でんおくま菊五郎局女郎にはちと不似合吾妻路淨るりの內何れも大出來也七まくめ七五郎病氣與四郎幽靈彥三郎大出來尙新狂言大々當り右玉きく大當りに付吉原中万字屋彌兵衛方より菊五郎小團次へ積み物送り數々あり中万字も棧敷片側買切にて一家親類其外出入のもの迄も招き見物させ其日の馳走莫大の費用なり扨亦尾上梅幸けいせい玉菊に扮作し大當りに付千かはる大竹より唄歌をものして贈る其書口いにしへの今様にならひて口千かはる　秋風さそふ葛の葉に野邊の松虫うらみつゝまねく尾花の袖みれば露の玉きく月のかけ　一梅幸

（こゝに抱一の朝顏の繪あれども略す）

朝貌　　抱一

「見しをりのつゆわすられぬあさかほの花のさかりはもゝとせもかわらぬ今のかたみとて昔かたりにあらはこそ合見れはうつゝに水くきのあとはつきせぬ玉菊のひとよふたよとおなしなの合あひよりいてゝなをあをきるりのせかいや花のおもかけ

安政五壬午葉月中の九日　井氏より所恵

又唯香以大介より文臺歌舞妓と題しするものをもの
して河竹大介へ送らる

（繪略す）

河竹生の新作粒々みな辛苦なるを感じ戯れに役割
を掠題とす

小猿七之助
ひよ鳥の番ひなからや盗み喰

中万字屋彌兵衛
義理詰に切られし菊の無心かな

千代與四郎
かた袖をつかんて退かぬいなこかな

所化敎眞
手料理やむこひ水瓜の切刻み

お坊吉三
南からつれてそれけり女夫星

さくら川善孝
鈴虫やいきて居る朝と晝の籠

藝者お三
似るものに似た匂ひそふ野菊かな

嶋さきの抱お杉
秋たつや杉もころ寐の普請小家

倉が野屋五兵衛
畑貸して手出しもならす渡り稲

奥女中菊川後に御しゆでんおくま
初凉しやの字の下の寐まき帯

遊女玉菊
終りまて汚れぬきくの操かな

夢の矢刕
蜂の蹈草市あとの瓢かな

あみ打七五郎
凄いめもこりぬ夜あみや盃しらす

女按摩おなみ
露の香や花野を掠る夜の蝶

香以獨詠

巳のはつ秋

今一紙　齊日釜　味香社

切籠燈籠の口ゑ　河竹生の新狂言を祝す
星に敎ふ千もとの竹のなひきかな　西馬

つくり得し菊にまたるゝ節句哉　湖十
人まねて燈籠も草のそよきかな　乙芽
作道の立てはてなし當り稻　種員
書おろす手際みえけり星の群　秣翁
出來秋の入り帆つゝきや稲か浦　善孝
隼や遣ひ上手のとや勝り　香以

當狂言目出度舞納其後梅幸の衣裳白繻子に千か春の墨繪に菊の畫しを額となし永見寺へ納め佛事供養念頭に勤られ此日も諸親類戲場の者迄も法席につらなりしと云々

右玉菊一條は新吉原略記にくわし其外諸書にあれば爰に略す

○七月七日より狂言中村座「陸奥群客娘當笠」第二ばん目（豐後譚かく邯鄲の枕／式部か寐る莊子の蝶）「二世相錦繍文章」當座打つゝき夏狂言大入大繁昌に付御禮として何をか御慰に相成候狂言相談に及ひし處去る御ひゐき樣より貞享二年元祖豐後大掾御當地へ罷下り流義も繁昌仕天明年中當座於て續段物百年之壽に相勤當常磐津豐後大掾に至り百七十餘年此方大江戶御取立に相成當小文字太夫十代目岸澤巳佐吉改五代め式佐改名の折柄五段續新上るり節付仕先例に任せ日數廿日之間相勤候哉之口上あり一番目白石噺藤栗毛二番目おその六三新狂言なり三社のねり子おつる、鶴松、金江谷五郎、福島やかゝへおその、鞠ケ瀨秋夜、鳶の者三五郎、我當、庄や七郎兵衛、ゑらいや下女おとく、料理人喜八、德次、志賀臺七、受負人七郎助、い太郎、房川嘉平、金かし權兵衛、千代飛助、古手や甚助、桶屋六兵衛、鷹八、喜多八、かしはや下女おたこ、舞子さがみ、忰長太、佐の德けんきよう、相藏、禿秋の、鉄之助、六三郎娘おまつ、權内、禿尾花、定吉、ごゆや喜太八、舟越十左衛門、駒谷三郎兵衛、大福や惣六、鶴造、新造宮里、三すじ、柏屋下女お濱、福大や仲居おしば、芝鶴、百姓與茂作、冥官王、ゑらいや後家おらい、雷助、百姓作兵衛、森五郎、家主佐次兵衛、焰魔大王、虎五郎、狂家師千念坊、福しまや清兵衛、猿三郎、とちめんや彌次郎兵衛、梶の高庵、歌助、與茂作女房おさよ福嶋女房おかち、小六、與茂作娘おのぶ、由次郎、宇治民部之介、けいせい宮城野、小紫、六三郎、三社祭ねり子紀之助實は六三郎、訥升、ねり子おつち、圭之助、第二番目（序まく おその六三郎）「道行蝶吹雪」洲崎堤之段　常磐津國太夫　三芳太夫　須摩太夫　綾瀨太夫　和歌吉三

弦岸澤仲助太夫連名福嶋やの段 常磐津小文字太夫須摩太夫八百太夫
三藏次すさき十万億土小文字太夫喜美太夫和佐太夫、文じ八、しき松墮地獄の段小文字組
太夫、三都太夫、わさ太夫綠太夫、壽助、佐九郎 極樂淨土の段 常磐津豐後大掾
三とせ太夫みやこ太夫三笠太岸澤古式部佐九、組太夫三社小文字すま太夫組太夫式佐仲助式松祭禮の段國太夫三
とせ太夫志喜太夫宮路太夫古式部もじ入わか吉 上るり竹本美壽太夫 三弦鶴澤安
太郎何れも評よし由次郎しのぶ大當り當狂言中棧舗
代金壹分、一朱高土間金壹分平土間金二朱也○八月十
日より森田座「當南身延妙利益（ときにみんなみのぶのりやく）」「壯色双蝶蝶（になのいろふたつてう〱）」大切
「檀浦兜軍記（だんのうらかぶとぐんき）」山そく案作實はでいらす丸、四條金
吾、波木井息女七里姫、六浦采女實三國、吉祥丸、濡髮
の長五郎、けいせいあこや、福助、藤繼妹都しほ、けい
せいあづま、玉三郎、同宿學林後に獵師多九郎、平の
左衛門重國、尼妙りん、流太郎、東條四郎景成、良觀律
師、おかんばゝあ實は一族ひよろかん、冠十郎、平岡
郷右衛門、久留里鬼藤太、岩淵九郎、下駄の市、市勝、
醫者玄伯下部戶田平、講中六兵衛、成藏、山賊夜叉丸、
判人喜藏、野手の三、流介、岩瀨兵內、三原有右衛門、
武十郎、勘作一子經市、榮吉、明星天子、又市、東條左
衛門、岩淵玄番、庄屋德右衛門、歌雀、鵜飼勘作、同亡
靈日觀、傳吉、修驗者肥前坊、放駒長吉、秩父の重忠、
市藏、三國太夫、北條武藏守時宗、淺羽主膳、勘作母
おみち、波木井庄司、是好、石井三郎長勝、木間六郎重
勝、日朗法師、山崎屋與五郎、牛澤六郎成清、延雀、沙
門日像、三津五郎、宿屋帶刀、手代庄八、好三郎、三國
奥方梅きく、彌三郎女房およし、佳好仲居おふく、こ
し元小菊、福之丞、同夕ばへ、仲居おたま、玉次、同お
みつ、娘道芝、光次郎、同糸はぎ、庄司妻鳴瀨、愛三郎、
那古の七郎、奥女中しの崎、山崎や與次兵衛、又九郎、
勘作女房おでん、與五郎言號お照、市之丞、三國嫡子
樂王丸後日蓮上人、法華長兵衛、長吉姉おせき、岩永
左衛門宗連、團藏、鶴瀨三郎俊長、又三郎、第一番目大
詰淨瑠理日蓮上人の御傳記たゞ八卷のおとゝも秋の色「戀積一經嵐（こひつもるみのりのやまかぜ）」七里姫ふく助、庄司是
好、日ろう延雀、日ぞう三津五郎日蓮上人團藏、宮本豐前太夫連中竹本連中
相勤○日蓮記何れも評よし、双てふ〱すまの場長吉長五
郎福介市藏一日替り相つとめ 琴責あこや重忠中評岩永大出來也○九
月十三日より市村座「菅原傳授手習鑑（すがはらでんじゆてならいかゞみ）」直備太郎、舍
人櫻丸、源藏女房戶なみ、浦しま太郎作、彥三郎、判官
代てる國、舍人梅王丸、漁師浪藏、權十郎、立田の前、
梅王女房おはる、歌女之丞、三好淸貫、百姓鍬藏、又太
郎、奴宅內、わし塚平馬、國五郎、僞迎彌藤次、百姓鎌

助、鴻藏、よだれくり與太郎、淸原廣作、米五郎、舍人杉丸、りやうし磯七、羽舞八、荒島主税、薪三郎、小舍人菊丸、覺之助、菅相丞、松王女房千代女、達雷のおつる、菊五郎、小舍人橘丸、吉五郎、よだれくりの親、彥左衞門、つきぢ手習子大勢、安樂寺住僧、百姓楠藏、佐十郎、鐵棒引香又、漁師沖藏、菊四郎、局みなせ、下男三助、鶴三郎、左中辨常世、堤畑の十作、村右衞門、齋世親王、花園御前、橘之助、藤原時平、春藤玄蕃、與六、舍人松王丸、後室かく壽、櫻丸女房、小團次、武部源藏、土師の兵衞、百姓白太夫、龜藏、松王一子小太郎、竹松、かりや姫、くりから太郎、羽左衞門、第二番見大切淨るり「命懸色の二番目」浦島太郎作、彥三郎、女達雷のおつる、菊五郎、りよふし淚藏、權十郎常磐津小文字太夫式佐三藏相勤何れも評判よし○九月十五日より中村座「いろは假名金捺」「釜賀淵二巴」法花山の袈裟太郎、音羽屋松朝、若徒佐五平、石川五右衞門下り尾上和市多見藏惣領市藏兄百姓彌作、千崎彌五郎、楠正行、福助、斧九太夫、座頭禿の一、鶴藏、堀部安兵衞、同女房おきく、勘平女房おかる、岩木藤馬、訥升、大星力彌、我當、若狹之助、あんまかけ市、孫六、早野かん平、百姓與一兵衞、斧定九郎、座頭松の一實は坪谷宗

伴、岩木兵部、三十郎、左大辨吉成、家主佐二兵衞、間瀨久太夫、森五郎、右少辨夫成、虎五郎、五右衞門一子五郎市、由次郎、一力娘おつる、鶴松、仲居おせん、扇之助、同お梅、梅太、けいこおまつ、娫若菜、三之助、同しぐれ、げいこおはる、三すじ、同おゆか、義てる御臺あやの臺、米次郎、仲居おこま、娫きゝやう、芝かく、大わし文吾、早野藤次、猿三郎、一色左京之介、竹森喜多八、歌助、ゆらの介母およし、五右衞門女房おりつ、小六、由良之介女房おいし、けいせい瀧川、五右衞門女房お瀧、次右衞門娘小雪、粂三郎、恩地左近、松しまや我童、大星由良之介、此下藤吉、仁左衞門、足利義成、壽三郎、第二番目大切淨るり所作事七變化「松朝扇うつし繪」凡例三番叟、豆腐買、一本足、天人、猩々、狂言師、和藤內常磐津連中長うたはやし連中竹本連中相勤忠臣藏書替大に評よし二ッ巴、五郎市由次郎大出來大當り所作評よし和藤內相手虎所作立つて立廻り竹に登る此竹簀の子の下迄屆竹のすへ迄のぼりし處中程より折土間の七え落たり見物少々怪我あり內濟に相成りしと云々○十月五日より森田座「假名手本忠臣藏」大序より七段目まで「群三込操曲文臺」二十四孝三段目吃の又平の

だん鹽谷判官、こし元おかる、上杉多門之介、百姓慈悲藏實直江山城守、吃の又平、福助、本藏娘小なみ、愛之助、大星力彌、高坂妻唐おり、玉三郎、斧定九郎、矢間十太郎、長尾三郎景勝、九藏、山名次郎左衛門、鷺坂伴內、猟太郎、判人源六、下女おひやく、冠五郎、近藤源四郎、たいこ持市作、市勝、梶川與惣兵衛、百姓與一兵衛、成藏、種ヶしまの六、前原義助、猟助、鹽谷爲若、又市、斧九太夫、土佐將監、歌雀、早野勘平、平右衛門、右馬の允、狩の雅樂の介、りやうし横藏實は山本勘助、市藏、加古川本藏、長尾鎌信、是好、若狹之助、千崎與五郎、修理之介、延雀、足利直義、三津五郎、早野三左衛門、長四郎、百姓正五平、狸の角兵衛、岡六、一力亭主清八、百姓臼右衛門、好三郎、同杵六、めつほう彌八、武十郎、仲居おこう、佳好、同おふく、こし元繪合、福之丞、同もみぢ、仲居おみつ、光次郎、原鄕右衛門、おかる、母おかや、竹森喜多八、又九郎、かほよ御ぜん、一文字や女房おきく、慈悲藏女房おたね、市之丞、大星由良之助、不破數右衛門、勘助母深雪、大わし文吾、又平女房おとく、武藏、高師直、團藏、細川修理之介、又三郎、第二ばん目所作事親又平が名跡に及ばぬ所作の拙書「採筆惠の大津繪」又平、福助、おとく、團藏瓢簞鯰さる、船頭、げほう大黑三津五郎ふじ娘、鎗持奴右五役福助相勤大に評よし大出來常磐津連中長うたはやし連中相勤〇十月十六日より市村座「伊達競阿國歌舞妓」第二番目「糸時雨越路一諷」絹川谷藏、仁木彈正直則、同妹八汐、飴屋次郎、渡邊民部之介、彥三郎、細川勝元、でつち豆太、汐澤丹三郎、荒獅子男之助、權十郎、右京妻沖の井、新造薄雲、嘉兵衛娘おくに、歌女の丞、大江の鬼貫、かめや次左衛門、又太郎、修驗者仙叟道人、道益妻小槇、國五郎、大工なまかねの鐵、巾着切生馬め吉、鴻藏、黑澤貫藏、齋坊主西念、米五郎、笹の才藏、船頭三吉、羽舞八、質屋手代利兵衛、與太郎、後家おべく、薪三郎、白銀臺藏、惣嫁おいち、小半次、大井葉助、家付おとら、晋八、鮫洲勘八、大工いきふしの松、吉六、賴兼小性菊彌、覺之助、乳人政岡、けいせい高尾、三郎兵衛妹かさね、足利賴兼、喜藏女房おそよ、菊五郎、政岡一子千松、權內、鶴千代君、長太、ぜげん善太、つきぢ、醫者大場道益、代官尤道理之介、佐十郎、奧州や女房おむつ、妼淺香、梅松、あかざ村組頭杢兵衛、又八、蔦嘉藤次、洲崎辨藏、菊四郎、山名臣右源太、高臺寺所化うん念、武五郎、仲

居おいわ、こし元白川、紫枝、同なごそ、仲居おたき、鯉三郎、同よさ、娘にしきゞ、菊榮、山中鹿之助、吾助後家おつぎ、鶴三郎、小倉團吾、あかざ村庄屋與次兵衛、村右衛門、かもん妻松しま、新造高しま、橋之助、山名宗全、浮世戸平、胴脈の金五郎、濁酒賣木戸の嘉兵衛、與六、渡邊外記左衛門、とうふや三郎兵衛、紫御せん、大工逆目の喜藏、蒲原式部、龜藏、茶やと廻りうづ卷の浪吉、井筒女之助、巾着切小雀の竹、羽左衛門、第二番目大切浄るり「寥素顔霜夜道行」次郎三彦三郎 おそや菊五郎 喜藏龜藏常磐津連中相勤○一番目仁木直則八汐其外彦三郎大出來二番目越の后州に其名も高き大工殺し遊女の小唄を趣向にとりし新狂言大出來小團次出勤なし

○十一月廿二日より中村座「綴合操見臺」「つゞれのにしき」上松左衛門之介、後藤兵衛盛六、和市、春藤次兵衛、福助、加村宇田右衛門、眞崎大角、鶴藏、若葉伊兵衛、我當、六右衛門娘おしも、花助、須藤六郎右衛門、德次、彦坂甚六、い太郎、入江左門之介、由次郎、高市武右衛門、三十郎、同一子庄之介、土之助、若徒佐兵衛、猿三郎、和田幸藏、虎五郎、奴曾利平、森五郎、次郎右衛門母おゑひ、らい助、春藤下女おせん、扇之助仲居大勢伊兵衛女房おいわ、米次郎、須藤下女おかく、芝鶴春藤助太夫、歌助、次郎右衛門女房おいそ、小六、春藤新七、訥升、佐平女房おみよ、粂三郎、春藤次郎右衛門、仁左衛門「姫小松子日の遊」丹波少將成經、福助、有王丸 鶴藏、なめしの兵、德次、かけのとう六、い太郎、侍女千鳥、由次郎、俊寛僧都、三十郎、龜王娘小蝶、土之助、のぶすまの小七、虎五郎、深山喜兵衛、猿三郎、だくぼくの江吉、歌助、小督の局、小六、龜王丸、訥升、同女房おやす、粂三郎、主馬判官盛久、仁左衛門、第二番目序まく浄るり「榮花の夢金盛遊」庄や鶴藏 かんらいし訥升、萬歳花助、黒木うりくめ三郎、才藏由次郎 清元連中相勤、堀河餘、熊井町番屋齋藤次郎實盛、福助、傀儡師實は宇野七郎、訥升、黒舖眞ッ九郎、孫六、道具や梅八、松坂縞藏、八百屋下女おすぎ、相藏、夜番人ばん助、延源太義平、三十郎、小船のり三うらや岩、猿三郎、料理人喜兵衛、歌助、家主五郎九郎、齋藤六國たけ、鶴藏、番介女房おかね實は粂康妹、粂三郎、茶船乘佃の常實難波の次郎、仁左衛門、當狂言中棧敷代廿五匁高土間二十匁平土間十五匁、當狂言は先年祖父杜若相勤燒いもお七の狂言なり竹

本鶴本連中 相勤狂言作者 櫻田治助、松島半二、同鶴二、同仙助、豊島新造、松しま山二、中村七郎右衛門、銀杏麗助○十二月四日より市村座「寒稽古五行寄本」「忠臣講釋」四條河原喜內住家 大功記第十段め尼ケ崎のだん 藤栗毛彌次郎兵衛喜多八 三途川の段閻魔宮の段 歌祭文油屋の段道行の段 夕ぎり伊左衛門 新宅廓文章吉田屋段初菊、扇や夕ぎり、油屋おそめ、太神樂丸一の紀の松、山次郎、矢間重太郎、吉田屋若者佐介、又太郎、矢間喜內母皐月、百姓久作、國五郎、吉田屋喜左衛門、大坂屋源右衛門、鴻藏、武智光秀、太神樂米藏、若い者喜八、山家屋清兵衛、米五郎、眞柴久吉、若い者半助、油屋太三郎、羽雛八、喜多八、若い者忠七、小道具や利兵衛、小半次、ちゝもらい善助、三途川ばゝあ、若い者嘉七、音八、奴關內、彌次郎兵衛若い者由藏、油や下女おはな、吉六、けいせい浮はし、若い者辨吉、雀松、惣かおよし、島八、重太郎一子太市、權內、金やり金兵衛、若いもの吉兵衛、菊四郎、仲居おたか、娘おいと、榮枝、喜內女房およし、仲居おすぎ、竹次郎、同おゑす、娘おいく、好之助、仲居おせん、關助女房おすき、やよひ、仲居おみき、娘おでん、鯉三郎、重太郎女房おりへ、光秀妻みさほ、吉田屋女房お梅、油屋後家妙貞、梅松、阿波大臣、手代善六、咲間玄蕃、村右衛門、万才德若、竹松、光秀一子重次郎、藤屋伊左衛門、丁兒久松、羽左衛門、淨るり竹本猪太夫鶴太夫 三弦鶴澤小市、才市、當狂言中棧敷代九匁五分、高土間代六匁五分、此度の大名題隣太夫三絃も顔の揃ひし操見臺夫に對して出語りはさりとは押の太棹といづれも様のおしかりをかへり翠簾越幾重にも未熟のだんを御詫の口上只御贔負を師匠と仰ぎて「寒稽古五行寄本」是迄時代世話取交狂言の大名題は元天明七辛年中村座六月土用休中稽古芝居「操歌舞妓扇」と題し宗十郎松助兩人にて中役者十四五人を相手にし毎日狂言を取かへ〳〵興行す尤前日に翌日の狂言を書て木戸に張出し當大當り大入也取集狂言を斯名題に出せし初なるべし其後寛政四壬子六月市村座「夏狂言三段目書」と題す菊十郎、菊之丞、達者揃大々當り 其後文政二己卯六月中村座「繊入操見臺」中村歌右衛門、梅玉也、中村大吉 同五壬午九月中むら座「三津組月盃」三津五郎鬼一大內かこ八百や半兵衛 文政十一年戊子「繊操見臺」川中島、近江源氏、五人女しのぶふり、天保四巳七月河原崎座「時代世話讀切功言」鬼一いもせ山五大力一の谷 同九戊戌正月河

原崎座「筆書始衣張曾我」布引一の谷曾我　同十四卯九月市村座「絞畫三艷僞毫」大内かゝみ傾城梅川　弘化四丁未正月中村座「綴合三升曾我初夢」五三のきり角力おそめ　嘉永五壬子六月中村座「機帳象曰覗操見臺」篩根清吉かろかや夏祭　安政二乙卯六月市村座「機帳象曰覗歌案」むらかなこしこへ狀七福人再清公朝貌　當十一月より中村座「矢張以前操見臺」の大名題にて興行市村座は座本羽左衛門、澤村由次郎、子供兩人其外中役者にて稽古芝居ゆへ如右寒稽古五行寄本とは能かなひし大名題にて戯場好子は河竹大介の筆意を感心せし也○狂言作者篠田瑳助、竹柴濤治、同淺吉、同金作、梅澤宗六、竹柴繆藏、大不河晴助、河竹新七

京大坂役者評判記物渡橋に云

惣役後見稀人大極大上大吉市川海老藏

春中の座長者鑑に後家唐糸二役賴豪阿闍梨三やく義高二の切船之段肥後太郎にて船を目かけ鐵砲を打かけての出元祖團十郎二百十七年壽勸進帳大々當り三の替伊賀越澤井股五郎山田幸兵衛礒馴松に此兵衛堺表にて大文字孫左衛門松かへや五郎兵衛切十八番之内茶の湯景清申分なし夫より宮しま芝居あたり御歸坂の船先あしく宮島表より滑稽いろ／＼にて歸坂迄の道の記を校合しられ宮島みやげ七夷と題號の隨筆を著述いたされ九月狂言角の座近江八景に醫者玄龍實三上傳藏八百や伊右衛門おちよに戀害傳藏と早替り中狂言齋藤太郎左衛門切狂言に江戸櫻に花川戸の助六の一世一代大々當りけいせいあげ巻、りかんびげの意久、大五郎夫より兵庫へ下り双てふ／＼鏡山大に評よしと云略之

同書に云、無類　一世一代　中山南枝家名大こくや行平礒馴松に松風大當り海老藏口上を述る

伊賀越丹左衛門女房笹尾政右衛門女房おたねおかね三やく相勤舞臺を引ゑびすはしと鬢付の油見世を開らき繁昌すと云々

安政四丁巳年十一月十一日終る寺は正法寺イニ鳥邊の本壽寺葬す　俗名中村大吉行年四十三歲

法號　讚佛院宗慶日乘信士

辭世　巴丈

今朝の霜都の水と消にけり

當顔見世京北側へ出勤致され染分綱にお梅役にて鳥邊山ね葬れ再びよみかへりて三吉に首を討れ三度目にほんまに死れしは前表かと存升す其上右之役にて鳥邊山の段迄勤られ樂屋へ這入と蔓もとらず其まゝ

の臨終致されしはほひない事同十四日鳥邊山本壽寺へ葬一座の衆も不殘野送り狂言も鳥邊山へ葬る狂言にて自分も鳥邊山へ葬むられし事珍らしい事でムり升す、始瀨川多門後澤村富三郎其答

悼

はかなしな霜とともにも鳥邊の丶雫となりて消はつるみは友ちとりひとつはなれてかも川に見へぬかげこそかなしかりける

市川猿之丞、嵐橘蝶、音羽次郎二、淺尾爲右衛門、市川藤作右五人死去す

花江都歌舞妓年代記續編卷の卅二

◉安政五戊午年

○正月九日夜九つ時頃猿若町三丁目森田座より出火同二丁目市村座初茶屋類焼中村座壹丁目茶や殘る福助澤田や土藏落す西澤一鳳隨筆其外珍重多く焼失すおしむべし二月朔日より**中村座**［晴模様染衣更著（だてもやうそめできさらぎ）］新薄ゆき青砥物語 鍛冶屋團九郎、盗賊八艘飛の與市、和市、園部左衛門、小間物屋彦藏、訥升、奴妻平、非人三吉實は淺羽の十郎、九藏、ほつたんの國護、駕かき助十郎、舛川兵藏、我當、あせへらや丈四郎、市川壽美藏猿三郎改名 澁川東馬、駕かき權三、德次、來國行、米屋隱居妙林、德松、清水寺住僧佐山德藏、らい助、こし元秋しの、地もぐり與茂太、鳫八、奴宅内、相藏、米屋市平、相藏奴妣大勢 米屋若い者いく藏、勘藏、喜八女房おむめ、仁左衛門、娘おさん、園部奥方梅の方、團之助、幸崎伊賀守、たばこや喜八、五郎兵衛正宗、團藏、かつらぎ民部、すゝ清三郎下り嵐雛助、同弟清之助、秀太郎、家主欲右衛門、塚はら丹下、虎五郎、こし元うら梅、下女おとみ、やよひ、同

お梅、娍梅の香、辰三郎、米や聟甚介、□大助、い太郎、米や下女おぬい、娍大和じ、喜代三郎、同津川下女おたけ、米次郎、うす雪姫、米や娘おゑい、橋之助、伊賀守奥方松がへ、大磯や女房およし、小六、彦藏弟由三郎、由次郎、秋月大膳、原わたの守根次、鶴藏、娍まがき、正宗娘おれん、彦八妹おつゆ、壽德齋娘おとく、粂三郎、園部兵衛、下男吉助實は來太郎國俊、青砥左衛門藤綱、仁左衛門、何れも大出來○市村座普請出來に付三月十七日より、當春隣町より出火に一ト類燒に及び一同當惑仕候處大江戸三千餘町御ひゐきの御餘光を以て早速普請成就仕外聞實義難有仕合奉存候且舊冬役者入替相極り。候御座頭役可相勤者無御座如何や致し候と存る折柄御贔負様より市川小團次に爲相勤候樣難有御差圖に早速當人へ申聞候處誠に以て思召之程身に取り冥加至極難有仕合に存候へ共未熟不調法之上中々思ひもよらず達て辭退仕候を夫にては折角の思召如何と再應相進め爲相勤候御ひゐき御取立被下候樣との口上書あり

○三月十七日より市村座「江戸櫻清水清玄（えどざくらきよみづせいげん）」入間息女櫻姫、渡し守惣太女房お竹、三浦屋の揚卷後助六女房おまき、菊五郎、清水直宿之助、牛若小僧、傳次、紀の國屋文左衛門、權十郎、奥女中しがらみ、佐五兵衛娘お玉、三浦の新造お玉、歌女之丞、戸澤助之進、清水住僧敎月、花形主膳、又太郎、朝川下平、修行者西念、國五郎、判人忠藏、山脇傳藏、米五郎、石濱主水、三浦や息子四郎次郎、橋之助、堀井門弟藪坂伴六、助六子分竹門の虎、小半次、同砂利場の石、俳徊師門面吉六、揚卷禿ゆかり、かつみ、同たより、權内蒲冠者のり賴、奴淀平、田河造酒之進下り市川米十郎（大名題 小團次養子）庄屋佐兵衛、やりておたつ、又八、こし元青柳、新造卷しの、菊榮、奥山茶屋娘おたま、娍きり島、鯉三郎、同桃野、三浦新造卷山、たけ次郎、同卷糸、こし元山吹、榮枝、同深見新造卷絹、三之助、番頭新造花川、娍ふじ娘、源之助、牛じま玄蕃、近吉、番頭權九郎、村右衛門、福山かつぎ仁三、助六子分三吉、花助、大江額五郎、浪人小畑佐五兵衛、判人貫門兵衛、與六、奴鳥羽平、堀井新左衛門實は假名意久、三浦屋四郎左衛門、白酒賣新兵衛、三十郎、新清水の清玄、花川戸助六、渡し守惣太、小團次、所化櫻ほし竹松、庵崎求女、佐五兵衛悴佐吉、羽左衛門、第壹ばん目四立目「解帶綾瀬河（とけしおびあやせのかはみづ）」さくらひ

め、菊五郎、しがらみ、歌女之丞、宿直之介、權十郎、さくらん坊、竹松、淸玄、小團次、淨瑠理富本豐前大掾、三弦同 兼藏相勤 第壹番目五立目「忍岡戀曲者」傳次、權十郎、權九郎、村右衛門、白玉、龜の丞、佐五兵衛、與六、佐吉、羽左衛門、淨るり吾妻路富士太夫三弦花垣豐造連中相勤竹本戸和太夫、鶴太夫、猪太夫、三弦鶴澤市作壹ばんめ淸玄貳ばんめ花川戸の助六書替新狂言大出來何れも評判よく大々當り○四月二日より中村座「戀夫帶娘評判記」髮結才三、しなのやおはん、尾花才三郎、城木屋庄次郎後松田屋才二、福助、荻野藏人、肴賣高砂半兵衛、九藏、川並次郎吉、井筒屋小三郎、我當、紅屋手代十藏、小山新兵衛、壽美藏、横山大藏、小間物屋太七、德次、豆藏、猫八、小山田理右衛門、鴻藏、片岡幸之進、若徒甚助、德松、講中六兵衛、そうかおこう、虎五郎、國侍貝傳次、友達娘おあい、鴈八、長右衛門女房おきぬ、文藏女房おしづ、民部姉おいち、團之助、藥湯亭主文藏、信のや手代十兵衛、雛助、たいこ持喜作、家主太郎兵衛、らい助、白木や手代久七、庄や作兵衛、森五郎、破星軍平、そうかおふか、い太郎、城木屋手代久助、そうかおやへ、歌助、針の宗兵衛、醫者三才、横山一角、犹太郎、友達娘お吉、下女お梅、辰三郎、同おきん、友だち娘おひで、喜代三郎、同おはな、帶や下女およね、米次郎、げいしや雪の、藏人妹小さゝ、橘之助、才次郎、うばおかや、お半母およし、小六、半兵衛妹おくに、由次郎、片岡幸左衛門、城木や手代丈八、鶴藏、城木や娘おこま、土手のお六、粂三郎、帶屋長右衛門、住の江半兵衛、荻野家中小見川隼人、仁左衛門、同嫡子釆女之助、壽三郎、第一番目四幕め所作事月雪花の景物を挿き筆にかきつばた「畵硯婦燕子作噂」江口の遊女淺妻、箱廻ししな藏、佐藤忠信、福助、安國下部紋吉、訥升、早見藤太、犹太郎、やぶいしや安國、鶴藏、兵衛之助のり淸、町げいしやおくめ、しづか御前、粂三郎、第貳番め大切淨るり道行「六浦川艶漣」おはん、福助、若ィ者九藏、長右衛門、仁左衛門、淸元延壽太夫、三弦同德兵衛連中相勤○當狂言大に評よしスケ中村福助、狂言作者瀨川如皐、スケにて出勤竹本美壽太夫三弦鶴澤安太郎○五月十一日より市村座「假名手本硯高島」重太郎女房おりへ、彌作女房おかよ、宗兵衛娘おはな、與左衛門女房おさみ、菊五郎、若狹之助、寺岡平右衛門、千崎彌五郎、鷺野谷伴之丞、大わし

文吾、權十郎、小浪、由良之介女房お石、けいせい浮はし、彌次兵衞娘おたみ、歌女之丞、早野三左衞門、義右衞門女房おその、神職高間鈴成、又太郎、牧方屋善七、鹽山若徒半助、半之丞、母おすか、百姓左文太、國五郎、鷺坂伴内、斧定九郎、義子孫七郎、米五郎、見通し法師、近松半六、眞水平四郎娘橋之助、鹽屋次助、早桶屋娘おれん、吉六、鹽谷爲若丸、ごん内、梶川與惣兵衞、庄屋庄左衞門、又八、足利直義公、吉五郎、鹽谷判官、矢間重太郎、早野和助、一色京之介、米十郎、おりへ娘おぬい、覺之助、庄や杢太夫、口入八兵衞、孫六仲居おしげ、茶や女房おきく、菊榮、こし元さつき、仲居おふみ、こゐ三郎、おさき、妼あやめ、たけ二郎、同かへで、仲居おせん、榮枝、同おます、酒屋娘おみき、三之助、米や娘お大、鹽山下女お梅、姉川源之助、法花坊主妙珍、質屋利右衞門、茶道珍才、村右衞門、石堂縫之助、鹽山の子息與之助、たいこ持歌八、花助、斧九太夫、二九屋源右衞門、柴村七太夫、須破數右衞門、與六、高の師直、あぶみや次右衞門、重太郎下部三太平、天川屋義右衞門、鹽山與左衞門、三十郎、大ぼしゆらの介、百姓彌作、義右衞門忰與茂七、夜そばうり宗兵衞、赤垣源藏、小團次、ほうづき賣奴市竹、竹松、大星力彌、六角左門之助、羽左衞門、淨瑠理竹本鶴澤連中相勤○當狂言忠臣藏書替新大出來別て鹽山屋敷高縄の場記念（かたみ）わけ赤垣源藏小團次大出來之處病氣にて相休第五幕目上るり（次郎右衞門が振事も及ず乍ら姿を寫して）[鄺雀差君名]（さとすゞめさすやきみかな）關三十郎、富本連中相勤未出矢倉下にあり役わりと畵本は見へず普請出來に付○七月七日より守田座（此度文字を改）[駒迎田實入魁込]（こまむかいたのみのつみこみ）第壹番目片岡仁左衞門出勤す、足利三七郎春高、佐賀良兵部太夫、高橋新十郎、仁左衞門、菊地左近之助、福助、料理人喜之助、高橋新十郎、嵐ひな助（より當狂言）傾城高尾、井つゞやおかち、玉三郎、佐賀良泉之助、小船乘の竹、我當、下男久六、馬士駄々八、仲居おかん、德次郎、唐使呉才官、小道具や治左衞門、冠五郎、伴僧快典、いしや東南、市川蝶藏（市藏改）小田主稅、たいこ土橋好三郎、亡八屋甚八、りやうし權六、成藏、たいこ持萬八、傳光寺瑞了、岡六、松坂伴吾、大工久次、音八、植木賣松吉、土之助、今木傳七、大工與四郎、あのや四郎作、延雀、沼津千嶋守、佐伯主膳、守田是好、市藏、香齋、典藏、淸德寺の敎善、かしくの兄金五郎、歌雀、所化敎心、市川市三郎、新造高圓、玉市、小

田宗左衛門、若徒三ッ平、庄や杢兵衛、德松、かな川や利兵衛、虎五郎、下部宮市、横山源吾、船のり八兵衛、又藏、下官くろす、市川花五郎、須藤丹平、武五郎、喜田伴作、大工藤吉、武十郎、小間ものや與七、長四郎、仲居おたけ、福之丞、同おきん、にしき、此外大勢けいせい名山、愛三郎、佐賀艮彈正、又九郎、傳七女房おこう、げいしやかしく、市之丞、小田息女千本姬、松浦五郎友光、三津五郎○濱田幸十郎、大工六三、所化西逸實高橋才一郎、才一郎亡靈、市藏、第貳番目序まく淨るり心中「二世懸露玉棚(にせかけてつゆのたまたな)」六三、市藏、かしく市之丞 父松朝か傀を又改て蝶升へ御ひゐき槺の御すゝめに「繋五行所作の拙(よせてごぎよふてぶりのふつゝか)」天人、雷、娘、相手玉三郎、三津五郎奴、石橋大に評よし 常盤津富本長うた 惣はやし連中相勤

○當七月末よりコロリと云痢病或は疫病の如く此病ひに臥ものは立所に死去す故にころりと云よし八月に至り追々はげしくなり日毎に人の亡失する事其數相しれず芝居を初め物見遊山吉原など更に行もの稀なり此節繁昌は藥種や醫者のみ其外は皆寂寞としてコロリよけの札或は咒加持祈禱或は產神へ參り御輿をかり町內を舁あるき八月中旬は極盛んにて早桶は切れもの皆松板にて箱にさし是を鬻くにさらに間に合ず前代未聞の事共なり其節守田是好の讀歌とて友人の見せしを爰に寫す「月見る月のはじめつ方より世にゑやみの行るゝをほけきてやまひよけといふ五文字を句の上に置てよめる

やえ雲もまつ間にはへてひさかたの
　　よに隈あらぬけふの月影

頭の五字をやまひよけと置てのうた風雅にていと面白し

俳優の內達者は皆此病ひをまぬかれ身を全ふせし事仕合此上なし中役者女形嵐小六、片岡虎五郎、尾上松之助是は流行病にてなし

○七月十三日より中村座「奉納小室山懸額(ほうのふこむろのかけがく)」當年甲州日蓮宗小室山御開帳有之故に大名題「一谷嫩軍記」源よし經、和市、無官太夫あつ盛、花助、越中次郎兵衛、壽美藏、わしの尾三郎、歌助、大舘玄蕃、平山武者所、翫助、堤軍次、翫太郎、梶原平三、相藏、遠見の熊谷、福松、六代御前、鶴松、遠見のあつ盛、駒彌、こし元秋しの、扇之助、同尾花、にしき、同きゝやう、喜代三、玉おり姬、米次郎、藤の方、小六、熊

谷女房さかみ、新車（此度下り御目見）熊谷の次郎、福助「けいせい返魂香」狩の歌之助、福助、下女おきん、壽美藏、修理之介、歌助、百姓茂久兵衞、茂三藏、同萬作、福太郎、同豊作、ゑん平、同米作、半藏、將監、將監娘おむめ、德次郎、庄屋太郎兵衞、らい助、土佐將監、歌助、又平女房おとく、團之助、浮世又平、和市「伊勢音頭戀寢刄」貢伯母おみの、團之助、若徒林平、花助、正直正太夫、歌太郎、杉山大藏、歌助、下田萬次郎、勝五郎、桑原丈四郎、胴ねの金兵衞、油屋おしか、相藏、講中德右衞門、茂三郎、同正藏、福太郎、神子おすゞ、しん平、仲居おちよ、千代三、黑上主鈴、らい助、德しま岩次、森五郎、あい玉や喜多六、歌助、油屋おきし、喜代三郎、孫太夫娘さかき、三すじ、仲居およね、米次郎、料理人喜介、壽美藏、油屋女房およし、小六、同かゝへおこん、新車、福岡貢福助、講中久兵衞、壽三郎、第二番目序幕淨瑠理（花咲綱五郎）「鷹音の夢二見曙」花さき、新車、綱五郎、福助、下女およね、米次郎、下男ごん介、福太郎、清元延壽太夫、三弦同德兵衞、連中相勤當狂言大出來　棧敷代三十匁高土間廿五匁平土間廿匁○當五月比市川海老藏事故障之義有之無據罷下り右談合追々相濟上坂いたし可申候處久々にて罷下り候こそ幸ひ御目見致狂言可致旨市村羽左衞門申進め納得仕相談極り早急之事故辻番付間に申不黒書にて市川海老藏出勤之趣鯛出し狂言は十五日より相始め番附は廿日頃に出板し相配る其節口上書別に添て出す其書に

五月廿日夜市川海老藏當着遲參に付手鎖一日にて御免河原崎に同居

乍憚以口上奉申上候

御町中樣益御機嫌克被遊御座恐悦至極に奉存候隨て此度大坂表より市川海老藏無據譯合にて罷下り候間内緣御座候故私小團次兩人罷越し久々にて何れも樣へ御目見得致御贔負をもつて座頭に相成小團次御取立に預り立身致し候權十郎右兩人之御禮申上候樣出勤之儀相進候處當人申候は元祖團十郎より代々忰共初門弟中御厚恩に相成候大江戸の御ひゐき樣へ御目見得致し御禮申上度事は海山盡し難く候得共未時節至らず團十郎名前再興之節御披露かた〳〵御禮申上候心得最早盆中にも相成候得は菩提所にて先祖代々之追善供養致し御名殘おしくは候得共此儘大坂表え罷歸り家督相續之折を相

待候と出勤之儀辭退候故夫は尤なる事ながら追善供養を思ひ候はゞ菩提所にて回向致し候よりも何れも樣へ御目見致し候方がかへつて追善可相成と兩人にて相進め候得共家督の儀も夫成りに出勤致し候ては思召之程も恐入候と申候ゆへ其義は我々共より御詫可致と再三相進め出勤爲致候右譯ゆへ此度は當人より口上は申上させず候何卒久々の海老藏先祖代々之追善と思召吳々も御見物之程偏奉希上候以上

座元
市村羽左衛門

月　日

市村座「繪本大功記」第十冊目まで「けいせい返魂香(はんごんこう)」吃又平、大津ゑ「關取千兩幟」三幕武智光秀、士佐將監、鐵ヶ嶽陀右衛門、下り市川海老藏、岩川次郎吉、光秀妻みさほ、又平女房おとく、菊五郎、武智十次郎、つるや禮三郎、佐藤虎之助正淸、權十郎、十次郎言號初きく、彌太夫娘お才、岩川女房おとは、歌女之丞、淺山多三、村岡段右衛門、又太郎、本能寺日和上人、市原九平太、國五郎、宅間信盛、角力鍬形鋤藏、米五郎、波多之但馬之助、長尾彌太郎、橘之助、大坂屋佐右衛門、山内玄蕃、小半次、たいこ磯八、角力取廬の浦久保藏、吉六、同剱兎浪八、たいこ海八、咲十郎、森力彌、權內、小田春雄、吉五郎、狩の雅樂之助、志村丈之助、北野屋吉兵衛、米十郎、惠海庵娘おまつ、覺之助、つるや手代重六、百姓おせ六、又八、蘭丸妹なでしこ、園生の局、菊榮、丈助妹千草、仲居おりう、鯉三郎、同おとら、彌太郎、けいせいにしき木、源之助、將監下女お百、つるや、番頭善九郎、村右衛門、足利義輝公、花助、四天王左司馬、鶴や久右衛門、松下嘉平次、與六、小田春永、光秀母さつき、尾西行長、三十郎、眞柴久吉、浮世又平、花垣主膳、小團次、呼出し奴橘八、竹松、森のらん丸、士佐修理之助、羽左衛門、第二番目中幕淨るり「鬢(びん)纏風穗芒(のほつれかぜにほすゝき)」おとは、歌女之丞、岩川、菊五郎、吾妻路富士太夫、同春太夫、三弦花垣豊藏、同喜久造淨るり竹本鶴澤連中相勤大々當りに付棧敷土間代五匁つゝ直上、八月八日より鳴もの御停止相成三芝居相休む○十月五日より中村座「英勇茲賴政(えいゆうこゝによりまさ)」第二番目五人女五人男「染分紅地江戸褄(そめわけもみぢのえどつま)」淸涼殿鵺退治の場、賴政別館の場、猪の早太、福助、瀧口競、訥升、淡路の局、新車、丁七唱、我當、大木勇內、壽美藏、左少辨實長、德次、岩山勘

解由、鴻藏、高くら刑部、い太郎、中納言伊道、德松、小島主税、翫助、倉橋監物、島八、玄蕃之助、兵藏、陰陽頭安世、勝五郎、官女糸遊、相藏、長谷部兵衛、九藏、石川左衛門秀行、團藏、兵庫頭奥方爪琴、團之助、賴政一子源太、士之助、禿たより、團口賴長近臣四郎國武、歌助、こし元もみぢ、嶋松、同落葉、七之助、同夕ばへ、辰三郎、官女みゆき、三すじ、同櫻木、喜代三郎、爪こと姚おきぬ、米次郎、鰟風の牛下口、翫太郎、平馬之丞、忠政、鶴藏、あやめの前、粂三郎、源三位賴政、仁左衛門、五人女、五人男、揃之場、淨るりの場、布袋市右衛門、素盞烏の尊、福助、極印千右衛門、訥升、女達のおつる、新車、同あいづちのお榮、我當、山谷の次郎吉、鴈八、安の平兵衛、九藏、雷の庄九郎、岩長姫後に山田大蛇、團藏、女達幻のおてう、團之助、頭取森藏、野田甚の丞、翫太郎、御劔の靈よし丸、由次郎、女達三日月おせん、鶴藏、濡かみの小三、粂三郎、鴈金文七、仁左衛門、仲の町折屋の場、今戸橋の場、山川屋權六、訥升、けいせい岩崎、新車、奴すみ平、壽美藏、地廻り梅ほりの松、九藏、奴可內、德次、倉はし丈助、鴻藏、若徒喜三兵衛、團藏、備前屋多右衛門、相藏、仲居おしち、七之助、番頭傳八、森五郎、野田角左衛門、鶴藏、傾城清川、粂三郎、鴈金文七、仁左衛門（文七蘇生雁金紺屋）紙屑買宵寐の仁三、布袋市右衛門、福助、千右衛門、訥升、文七女房おつた、新車、家主德右衛門、ぜうかんや喜八、德次、印判屋娘おにく、い太郎、人形やおかん、翫助、おんぼう、鴈八、石や兵六、縞藏、紺屋若者喜介、勘藏、文七母妙唱、團之助、料理人八百吉、歌助、所化觀空後に野田甚之丞、翫太郎、三日月のおせん、鶴藏、八太夫娘おき代、濡つはめの小三、粂三郎、鴈かね文七、仁左衛門淨るり（近松か文作の振袖の始を豐後が淨るりに寫して）「八雲立湯津妻櫛」盞素雄、ふく助、神靈、由次郎、ひめ、粂三郎、大蛇、團藏、常磐津豐後大掾、三弦岸澤式佐第壹ばんめ四まくめ相勤大に評よし大當り狂言作者櫻田治助、松嶋山造、梅澤萬二、中村七郎右衛門、松島鶴二、同松身、同專藏、松島半二、〇十月七日より市村座「小春宴三組杯觴」（御家は碁太平記時代は北條時賴記）赤星太郎、大黑屋惣六、平入道時賴、幡隨長兵衛、海老藏（世話はひよく蝶）、鞠ケ瀨秋夜、けいせい宮城の、時賴妹薄雲姫、源左衛門妻白妙、長兵衛女房おとき、菊五郎、桂中納言光成、三浦若狹義村、白井權八、權十郎、二階堂娘豐玉姫、源左衛門妹玉笹、けいせい小紫、

歌女之丞、長兵衛一子長松、河原崎國太郎、沼田の庄司、家主茂次兵衛、又太郎、佐野源藤太、寺西下部土手平、國五郎、杣五郎藏、男達半助、米五郎、同塔婆の角藏、神職青山左司馬、橘之助、菅野丹下、男達石塔清吉、小半次、新造宮舟、三浦若者長助、吉六、ゆかんば勘六、貸本屋彌三郎、唉次郎、秋田城之助、島田三郎兵衛、本庄の若徒八内、米五郎、新造宮路、覺之助、仕丁次郎又、男達三吉、國三郎、原田六郎、雲介松、又八、新造宮柴、こし元初霜、菊榮、同冬きく、仲居おせん、鯉三郎、同おさき、妼小ゆき、たけ次郎、同淺ぎり、新造宮川、三之助、時頼妾月小夜、新造宮里、源之助、山伏奇妙院、飛脚ころりとん平、村右衛門、北條時宗、弓削大太郎、花助、二階堂信濃守、志賀彈七、うづら權兵衛、與六、青砥左衛門藤綱、庄屋七郎兵衛、三十郎、金江谷五郎、宮城の妹しのぶ、馬士小佛藤六、佐野源左衛門經世、寺西閑心、小團次、吉のや息子伊之介、竹松、奴橋平、男達極樂十三、羽左衛門、淨るり竹本鶴澤連中相勤大出來大々當り

○三立目北條館豐玉姫歌女之丞大出來同かへしだんまり赤星太郎、海老藏、うすくも姫、菊五郎、光介、權十郎大に評よく馬士問答次に鉢の木大評ばん鈴ヶ森花川戸例之通大出來第一番目大詰の口茂呂宿馬士問答の場

本舞臺眞中に振り能雪の積りし大樹の松日覆より同じく釣り枝上手に口下し藁葺の出茶屋片付ある内に柵の土手の床几上下雪山の張り物向貫深ふ雪降り在体の遠見舞臺前に雪板舞臺花道共一面に雪布を舗都て下野國茂呂の在一里塚の体寔に米平たけ助麥藏簑笠脚半草鞋百姓形り息杖を腰にさし助合の歸りの体出茶屋の下にて枯枝を集め焚火をして烟草を呑み居る追分節雪おろしにて幕明く

米平 一なんと能降る雪じやアねへかさつきからおやみなし今夜はしつかりつもるだらふ

たけ助 一天氣のいひ時は苦にもならねへが雨や雪のふる時は助合も難義だな

麥藏 一しかしけふは佐野迄ゆゑわづか三里で仕舞ッたは三人共にもふけものだ

米 一隣村とかくばんゆへいくらふつても翌たは樂ゆつくりと寐られるわへ

たけ「こんなに雪が降らねへと岩舟の地藏堂へ談義でも聞に行に
參「だんぎもいひが夫よりはどぶろくでも呑ながらほら市が祭文でも聞ふか
米「そりやアいひ思ひ附だ談義なぞは面白もねへ小栗判官を聞てへものだ
たけ「勿体ねへ事をいわねへがいひ手めへなぞはころりといくと賽の川原へ行骸だ
米「べら坊め子供じやアなし人並すぐれた背高が何で賽の川原へ行ものだ
たけ「それでも手めへはまだ女と寐た事があるめへが
米「何ねへ事があるものか毎ばん女と寐らア
たけ「そりやア誰と寐るのだ
米「たれと寐るものだおつかアと寐るのよ
たけ「大方そんな事だろうと思つた
參「イヤ地藏馬鹿にしたやつだ
たけ參「ハヽヽヽヽ
と雪おろし木魚入りのやうな合方に成り向ふより海老藏鼠衣鼠着附白の手甲脚半わらじ頭陀袋を懸け鼠の帽子に網代笠を冠りあかざの杖を突與六鼠の着附墨の麻衣白の手甲脚半わらじ頭陀袋を掛如意をさし網代笠を冠り出て來り
與六「そつじながら百姓衆チト物が尋ねたふござる
三人「ハア、尋ねたいとは何ンでござるな
與「イヤ外の事でもござらぬが彼舟橋のある佐野の渡り迄は餘程道法がござるかな
たけ「佐野の渡りといふは知らないが渡しなら三里半あり升す
與「渡し迄三り半ござるとかシテ此所はなんと申な
參「爰は諸の宿といひ升す
與「それでは是からたゞみが岡其次が佐野でござるか
米「さやうでござり升すあら町犬伏シ天明と佐野の内にも小名があり升す
與「御深切にかたじけのふござる
たけ「トキニもふ出懸やうではないか
參「さうさたんと降ぬうちに行升ふ

一米　モシおまへ方當らつしやるなら此火を消さずに行
升ふか
一與　それは何より忝ひ一ト休して參れば其まゝにして
置て下され
一米　そんなら旅の　三人　一御出家樣　與　一百姓衆
一三人　ゆるりと休ンで行つしやれ
と雪おろし追分ぶしにて三人上手へは入る跡以
前の合方海老藏笠を上ゲ向ふを見て
一ゑひ藏　出流船の山々より富田駒場の田野迄皆白妙の銀世
界花よりは又一トしほに風情の増る雪景色何ンと
もいへぬ詠めではないか
一與　さやうにござり升す是で雪の寒くなければ猶さら
よろしふござり升す
一ゑひ　實に西行が歌の如く寒風はだへをおかすはわい
一與　今百姓共に承りますれば佐野迄は三里餘りもはや
未の下刻に近し余程いそがねばなり升ぬ
かよふな事なら最前富田の大長寺へ今宵の舍りを
致せば宜しふござり升た
定て御勞れ被成升たらふが今に馬か駕を雇ひ佐野
迄お乘せ申升れば必御案事被成升るな○幸ひこれ
に焚火がござればしばらく御休息被成升せ
一ゑ　いかさま是にて休息致さん
一與　先これへお掛被成升せ
と與六床几の雪を拂ひゑび藏に腰を懸させ焚火
をつくろいなどして
此間に佐野へ歸り駕か歸り馬かあればよいが
と向ふを見て
アレ／＼向ふよりゑきろの音が致すが是へ馬が參
ると見へる
と雪おろし馬士唄に成り向ふより小園次肩入の
どてら三尺帶脚半馬士拵へ竹笠をあみだに冠り
雪のつきし琉球ござをかたへかけすこし酒に醉
たるこなしにて鞍付馬の赤馬を引出て來り
一小園次　アヽ降るは／＼庄屋どんのぼた餅のやうなでけへ
雪が降てきたこれでなくちやア豊年にならねへ今
角の酒屋でとぶろくを二へい引かけて來たお影に
おらアさつぱりさむくねへがしかしおまア寒かん
べい今に褐を遣つてやつて豆を喰せるからしんぼ
うしろ○ソレ石だぞすべるハイ／＼／＼

と右の鳴ものにて本舞臺へ來る與六これを見て
幸ひといふ思ひ入にて

一與　コリャ馬士そちはどこへ歸るものじや
一小團　わしかへわしは栃木迄旅人を乘せて佐野の天明へ
歸るものさ
一與　それは幸ひ佐野へ歸る馬とあればその天明とやら
迄乘せてはくれまいか
一小　そりやァ折角の頼みだが馬も栃木迄行たのでけふ
の役が濟だから歸り迄此雪にくるしませるも殺生
ゆへ氣の毒ながら乘せられねへ
一與　至極尤なる事ながら此大雪に甚だ困ればどうか佐
野迄乘てくりやれ
一小　こまるとあれば何も後生どうで歸る道だから乘せ
て進ぜめへものでもねへが見りやァ御出家だね
一與　いかにも佛法修行の爲諸國を廻る沙門でござる
と小團次思入あつて
一小團　御出家じやァ乘せられねへ
一與　そりやまた何ゆへ
と雪おろし誂らへ馬士唄の樣な合方こだまをあし
らひ
一小　何ゆへとは知れた事出家とはどう書き升す家を出
ると書じやァねへか然も捨身の行といつて樹下石
上のいとひなく難行苦行なすが行それを馬にのり
てへなぞとは見りやァいひ年をして居さつしやる
が出家の行を知らしやらねへか
一與　それはそちが申さずとも捨身の行は致しおれど何
をいふにも此大雪佐野迄は三里餘も最早夕景近け
れば甚路次も難義ゆへそこでそちらを頼むのだ
一小　何此雪のなんぎだからそれで馬に乘りてへとかイ
ヤハヤたわけもゑゝかげんにいわしやい○コレお
めへらが宗祖と尊む釋迦牟尼世尊も元は天竺だん
どくせんにてあらゝ仙人に仕へた時は薪水の勤を
なし又雪山といつて四季ともに雪の降る山に寒風
に身をさかるゝも厭ず難行苦行さつしやつたつい
に正學を得在世四十九年の間普く佛法を世界へ開
き衆生を敎化したではないかそれは及ばぬ事なれ
ど此雪位を難義に思ひ馬に乘ふなんぞとはあんま
りの違いで横腹がいたいこなたも生涯味噌摺坊主
だな

と小團次與六を尻目にかけせゝら笑ひ焚火で煙
草を呑み居る與六むつとなし氣を替

與— イヤそちは田夫野人には珍らしき利屈者じやが我
も出家の身のうへ左程の事を存ぜぬではなけれど
もあれにござる我師の坊不知案内の山道に殊之外
御難義なされど難行苦行にたくらへては何程の事
もなきと御逗留も被成ずかく雪中に御歩行被成ど
扨弟子の身として師の坊の苦るしみ給ふがいたわ
しくそれゆへそちに馬を頼むも愚僧が馬に乘るで
はない師の坊を乘せまいらせん爲

小— ム、成程弟子の身として師匠がなんぎを見て居ら
れぬとは尤だコリヤ味噌摺が出かしたわへ○そう
いふ事なら乘せやうがそちらの師の坊は乘らしや
る氣か○と海老藏へ思ひ入あつて
よもや乘ふとはいわしやるまへな

與— そりや又なぜに

小— 雪が降つてあるき憎ひは同じ人間の身のうへだか
ら弟子も師匠もそれをおれは師匠なら名僧智識と
はいわれねへ譬へにもいふ通り師は針弟子は糸師
匠が曲れば弟子も曲る爰の道理を思つたらよもや
乘ふとはいわれめへそれをかまはづ乘らつしやり
ア師匠どんも味噌摺坊主だ與一なんと

小— イヤサ味噌摺坊主だといわれても一言半句もある
めへが
と小團次ぐつと云與六こらへ兼し思入にて

與— ヤアいわして置ばさま〲な物知り㒵のゑせ利く
つ我は兎もあれ師の坊をさみなす上は此まゝには
と與立かゝるを海老藏思入あつて

海— コリヤ出雲坊扣イ

與— テモあまりと申せばにつくき雜言

ゑ— ハテ扣へイと申せばまづ〲扣へイ　一へ、イ

小— ア、師の坊は師の坊だけいまの利屈がわかつたと
見へる
と海老藏思入あつて

海— 君子賢人廣野にあり田家にかならず智者のあるも
の我二ヶ年のその間諸國修行致せ共汝如きものに
出合ず飼ふ馬をいたわりてかへり馬には乘せざる
と利欲にふけらぬのみならず樹下石上に勤行なす

べき出家に馬はかされど釋迦になぞらへ留しは
々に利の當然作らそれはいろはにして此雪中に
願ふても乗せべき出家を乗せざるはいまだ汝は佛
法の三世の利益を存せぬな

小　ム、成程それは知りましねへ三世の利益といふ事
はどういふ事かいわつしやい

海　ヲ、知らずんばいつて聞さん○と誂らへの合方竹
笛入りに成り
そも三世の利やくといふは過去現在未來なりこれ
を則三世といふ過去にて惡行なしたるもの現在に
て畜生に生れあらゆるくげんにくげんを重ね惡行
の罪消滅し來世成佛得脱なすこれを三世の利益と
いふ汝が馬も前世にて惡行をなせしゆへ此世にて
畜生にうまれ斷雪中に小荷駄を背負ひ又は旅人を
乗せるのも皆前世の約束事くげんにくげんを致さ
ねば成佛とくだつは致さじ汝が飼置馬ゆへにいた
わり遣ふは情なれどかへつてそれが仇となり前世
の惡業滅せざれは來世迄も畜生道其馬の爲を思は
ば行もともとよりいとわずに遣ふが則何よりなさけ
ましてや三衣を身にまとふ佛法修行の出家をば乗
せなば馬の功德にならんかゝる三世の利益あつて
も汝は我をのせざるか　小團次　ムヽと思入

與　有無の返事はいかゞなるぞと　小團次　感心せし思
入にて手をうち

小　成程師匠は師匠だけ三世の講釋かんし升た此世で
くげんを受るのも前世の業を消滅し來世の爲と成
るならコリヤア乗せにやア置れまい

海　スリヤ三世利益の道理を辨へ我を佐野迄乗せると
か

小　馬の爲になる事なら唐天竺迄も乗せ升べい

海　それは何より忝ひ　與　それ見た事か是だから早く
乗せよればいに

小　エ、味噌すり坊主の口を出すのか　與　イヤ出さね
ばならぬは天明迄馬の駄賃はいか程だな　小團　ハ
ア天明迄は三里あるからやみでやり升べい

與　ヤミとはいか程の事じや　小團　ヤミといふはの三百
の事じや

與　三里三百とは歸り馬にしては高イなシテ仕立馬で

小　はいくら取るぞ

與　仕立馬なら一里六十四文三里貳百サ

小　仕立馬が二百にて歸り馬が三百とはさりとはわからぬ事だ駕に致せ馬に致せ歸りは行より安イものだ

小　そりやァ世間の馬方や駕かきはそうでもあろうが身にはぼうた着ていれどわしは清貧をたのしみに無欲ゆへ歸り馬が高イ

與　イヤそちは小利屈をいふやうにもない歸り馬が直が高イとはわからぬやつだ

小　何わしよりはこなたがわからねへのだ

海　イャ此馬士の申事は一々凡人と相違して理に當る面白いなれ共かへり馬が高イと申事は愚僧いまだ其利を得ずいかなる譯かいふて聞しやれ

小　三世の利益は御存でも歸り馬の高イのを知らつしやらずはいつて聞せう○同じ馬に生れても大名に飼るゝ馬は三度／＼かいばを喰ひ馬屋に樂にしていれどわしらに飼るゝ馬は不幸朝の六ッから荷を附たり又は旅人を乗せたりして樂といつては一日もないそれゆへ一日だけ遣つたらば早く內へ連れて歸り褚でも遣つて豆でも喰し樂をさせるが則情夫をおのれが欲に迷ひ行にも重き荷を附させまた歸りにも人をのせ働かすれば常よりもよけいに腹のへる道理それに同じ食を喰すればヱ、人遣ひの惡い主人と人ならわるくいゝ升が口を利ぬ畜生のあさましさだまつてそれを喰つてい升がいかに口を利ぬとて其まゝにしては置れねへ骨を折したかわりには三日が間よけいのものを馬に喰してやりますからそれで行より歸り馬が直が高く貰わにやアならぬ

海　成程これは尤至極一々もつて理の當然罪の疑しきは刑せず恩の疑しきは賞す天下の政事に用ある事○出雲坊いか程なり共かれにとらしやれ

與　畏つてござり升る

圓　それ承知なら乗らしつしやい

と小團次馬の仕度をする雪おろし又雪が降て來る與六見て

與　又だいぶ降ッて來たがもふよいかげんにやめばよいのに此雪も難義な事じや

一園　なんだ此雪が難義だからやんでくれゝばよいといわつしやるのか
一福　さればさ
一園　そういふ事をいわつしやるからこなたは味噌摺坊主だといふのだ此雪が降ねへで見さつしやい麥作の根へ蟲が附き來年百姓の喰ものがねへ譬にもいふ豐年の貢き日待をして悦び升
一與　それは百姓なぞは悦ぶが愚僧なぞは甚難義だ
一小　此雪が難義だといふ人が多いから兎角天下が穏でねへ今鎌倉のしつけんを初領主地頭も百姓のくるしむをもかへりみず年々余計に年貢を取り上榮よふ榮花をさつしやるがそれに引かへ百姓は暑さ寒さも厭はずにまつ黒になつて農業なし御領主さまへ年貢を納め殘つた米を賣た金でやふ〳〵一年くらしを附け汗水になつて作りもうけた米といつては見た計り三度の食は粟か稗能い所で麥がせいぎり頬いでもせにやア米をくふ事はねへその米がまづいのやれ菜がまづいのと榮よふをさつしやるそのつまりはみんな百姓の難義となる下の難義になるをば知らず天下の政事をとらるゝから下々は行立ませぬこれに附てもおしいのは前の北條時頼さま上から下迄行渡りお慈悲深い御方ゆへ御改革をたのしんだそのかいもなく御病氣で御世を譲られ天下は闇しかしおしい〳〵と人の思ふ精力でも御本復のありそふなものいまだ死なしやつたといふ噂もないからどうぞ御全快のあるやうにとわしらさへいのつており升す
　とこれをゑび藏與六聞顏見合思入
一海　ハテ扨そちは下賤に似合ず仁義の道をうしなわず理非明白なる志し馬追ひにはおしきものシテそちはいづくのもので名は何ンと申ぞ
一小　わしやア天明と犬節の境で小佛の藤六といふ佛氣質の馬士さこんな七むつかしい事をいふのはみんな聞とり法問で無法無體のわしらを集て敎訓をして下さる有難いお人があるので佐野いまわりの百姓雲介みんな五常の道を守り惡い事をするものは藥にしたくも一人りもねへこれ計りは佐野の自慢さ
一與　フウスリヤそち達に敎訓を致すものがあると申か

小 アイ然も天明の在に居さつしやるが名詮自稱とやらで天明といふ文字を二つに割れば天は二人ン明は日月其二人日月のやうなあきらかな御夫婦があります

與 ムヽテシ又それは何ものだな

小 もとは佐野の領主で佐野源左衞門常世さまとてそれは〳〵慈悲深ひお方いまではお家もぼつらくなし山際にかすかなおくらし又麻につるゝ蓬とやらで奥さまもけつこうなお人然も下總の仕人立石三郎常俊さまの御娘御此御夫婦が村のものを日待なぞに内へ呼び忠臣孝貞の御教訓被成候事ゆへわしらのやうなもの迄もほんの聞とり法文ながら和漢の故事はすこし位は小耳に狹でおりまする

海 扨は下野佐野の仕人常世が教訓致すとかシテ〳〵それはいかなる事で家ぼつらくはなしたるぞ

小 咄しては長い物語伯父源藤太といふ惡人が鎌倉どのへざんげんなしついに所領をもつしゆされいまではわしらも同じやうに御夫婦ともに下賤のまじはり見る影もない哀れな事斯善人おとろへて惡人のはびこるも元はといへば鎌倉の御政事が行屆ぬゆへアヽ天下に目のあいた人はなく目くら計りと見へるわへ

　とこれを聞ゑび藏與六思入

海 いかさまそちが申如く鎌倉の政事行屆ずさある善人世に落てよしやうもれ木になるとても天道誠を照らし給へば世に出ざる事のあるべきや

小 どうぞ元の御領主にならるゝのを待ており升す

與 成程諸國をへんれきなせばいまだ天下の御政事の行屆ぬ所

海 嘸や佐野の常世とやら時賴を恨みつらんムッ○

　と本釣鐘雪おろし雪しきりに降るゑび藏たんそくの思入小園次馬の足を結ひしはづなをとき引て來るゑび藏空を見て

白妙の雪に心はなぐさまでうきことつもる旅枕かな

與 これは感ふく仕り升す

小 サア仕度が能ば乘つしやい

海 ムヽトゑび藏鞍へ手をかけ侍の乘るやうにひらり

小 と馬に乗る小團次これへ目を附
小 ハテ御出家には珍らしい武家も及ばぬ馬の乘りかた
海 ヤ
小 心得たものだなア
海 と此時馬いなゝく
エヽどう畜生め
とはづなでうつこれにて馬おどろく與六飛のくひやうしに雪すべる海老藏馬上にしやんとかまへる小團次口をきつと取るこれを木のかしら
海 急いでりやれ
小 合點だ
と馬をふり向る海老藏與六顔見合うなづきこれをキザミ雪おろし馬士唄に成り雪しきりに降るよろしくひやうし幕
と此幕雪幕にて雪おろしのつなぎにて引かへす
或日鉢の木の幕にて何へより歟舞臺へ分銀を投し者ありゑび藏の方其外へも飛ちりしゆへ舞臺番いづれよりなげしと土間の内を所々尋し處水近江屋よりの客にて二人り連内一人は僧なり芝居打出してのち水あふみにて彼僧にいかゞの譯にて金子を投られ候やと申けるに僧答て愚僧は野州佐野の貧寺の住僧にて此度御當地へ初て罷上り法用にて出府いたし序ながら諸國名所舊跡を尋今日は歌舞妓おどりを見物せし所早朝よりいと面白くわけて鉢の木の狂言は馬士問答より源左衞門住家迄は我ら在所のこと常世夫婦の零落せし家に大雪になん義し玉ひ時頼公舍りを求められしに心よくお止めもふし粟の飯を焚て饗應し殊更常に愛せし櫻梅松鉢の木を伐て圍爐裡に燃し旅僧の寒氣を凌かせらる此隱德天より捨玉はず誠に逢かたき最明寺どのに逢ひ奉り大に家を起し其後鎌倉騷動の砌一騎に馳參りし常世が勇と兼平が粟津の忠戰實盛が篠原合戰此三士は謠曲百番の内の三勇と稱美する事なり拙僧も自分在所の事を眼前に見物し感にたへ嬉しさの餘り聊ながら褒美として額銀五百疋舞臺へ發投せしと云々是等も大芝居には珍らしき事ゆへ因に書付置ぬ

○狂言最明寺佐のゝ源左衞門夫婦の仕内其情合誠に狂言と思われずとの評にして妙なり

○十一月朔日より**森田座**「的當矢哉願掛額」小はる治兵衛「增補天網嶋」蜆川茶屋之段「倭假名在原系圖」六角左京之介、福助、和田雷八、奴蘭平實は孔雀三郎、尾上和市、當狂言より出勤桃の井息女、彌生姫、けいせい花鳥、勘左衞門、妹小まき、玉三郎、林監物、又九郎、桔梗屋才兵衞、冠五郎、下男藤六、くもて伴藏、桃の井光次郎、所作純念、成藏、天野孫作、武十郎、北畠靭負之助、大和の佐國、延雀、牡丹花肖柏、是好、勘左衞門姉織江、北畠主計之助、雛助、桃の井修理之介、近藤軍次兵衞、歌雀、禿たより、若松、同みどり、かつみ、家主杢郎兵衞、才兵衞、女房おふか、花五郎、藤井外記之進、長四郎、主計庄奥方濱荻、佳好、仲居およし、芝かく、新造床江、玉江、外記娘おうめ、仲居おすま、にしき、こし元松ヶ枝、左近之介奥方九重、市之丞、越野勘左衞門、下部瀨平、紙や治兵衞、大江の音八、市藏、佐々木盛重、三津五郎天あみしま粉や孫右衞門、雛助、きの國や小春、玉三郎、手代善六、冠五郎、江戸や太兵衞、蝶藏、河内屋庄兵衞、成藏、願人坊でんかい、歌雀、仲居お玉、玉次、同おしげ、重の井、鴈金や五郎吉、武十郎、川庄女房おきく、佳好、でつち三吉、延雀ありはら在原行平朝臣、雛助、須磨の松風實は音人女房琴仕、玉三郎、下部民平、又九郎、同時平、冠五郎、万平、蝶藏、伴の義澄、成藏、堤軍藤次、武五郎、妼初花、重の井、同小春、玉次、同常盤木、芝かく、蘭平一子繁藏、市三郎奥方みなせ御前、愛三郎、大納言經基、延雀第一番目四幕目彼文成か遊仙窟を爰にうつして「壽延夢玉枕」玉三郎、三津五郎、延雀、富本豐前大掾、同兼藏連中相勤何れも評よし○第一番目狂言は享和元酉の七月市村座にて興行の「敵討睸鴈的」と云ふ狂言の書替のよし狂言作者瀨川如皐、福森久助、松嶋粂助、藤本基助、篠田金次、楳田敎輔當狂言中棧舖代廿七匁五分高土間代廿貳匁五分平土間代十七匁五分○十一月十一日より**市村座**第一番目と鉢の木其儘にて貳番目新狂言大切關の戸を出す「柳嶋噂錦繪」金江金左衞門、關守關兵衞實は大友黑主、海老藏、良峯の宗貞、墨染櫻の精、げいしや額の小三、菊五郎、金江金五郎、小のゝ小町姬、權十郎、粂本女房おいさ、歌女之丞、小法印双巴、國太郎、いしや邊竹、又太郎、高木伴藏、國五郎、佐藤銀平、米五郎、料理人喜助、橘之助、たいこ持次郎吉、小半次、金ひら參りなま傳、吉六、舟頭むさしやの助、喚十郎、立花主水

之介、吉五郎、龜井彌三兵衛、米十郎、兵部娘おもん、岩之助、荻原千次郎、國五郎、家主與九郎兵衛、判人しび熊、孫六、茶屋女お梅、菊榮、粂本下女おゆか、鯉三郎、同おひで、音次郎、妼淺野、たけ次郎、粂本娘分おとみ、三之助、藤川の息女千種、源之助、秋月下部關內、村右衛門、花形三木之介、花助、城木丈八、與六、佃鬼喜藏、三十郎、秋月一學、尾花屋才三郎、小團次、小坊主妙珍、竹松、秋月下部作平、夏川左門之介、羽左衛門、大切上るり「積戀雪關扉」少將、墨染、菊五郎、小町姫、權十郎、關兵衛、海老藏何れも大出來大々當り

○此度の貳ばんめ狂言は「御江都名物錦始」此狂言の內おこま才三をとりて小三金五郎ばかりを仕組しと云々、狂言作者篠田瑳助、竹柴濤次、同試吉、同金作、梅澤宗六、竹柴喜三次、竹柴諺藏、奈河晴助、河竹新七

倘午の正月大坂道頓堀中の芝居市川てる世座「けいせい雪月花」、八冊早枝政右衛門、髮結鰕ざこの十、淺香與一郎、千嶋冠者、市川鰕十郎、岩木東馬、小鮒源五郎、三嶋左近、同靈小早川高景、寳川延三郎、奴樹平、古田織部、片桐且元、仙石權平、市川瀧十郎、眞柴久

秋、下人吉介、雲念坊、三桝、化人奥女中瀧川左近妻千枝、けいせい瀧川、妾宅おたき、嵐三右衛門、奥方呉竹、はしたおすへ、寳川勇次郎、千の利久、此村大炊之助、角屋虎松、片岡市藏、三浦常陸之介、三しま新左衛門、音羽屋樂善、奴そた平（水戸上り）坂東龜藏、石田の局、三郎常門、長しま屋鱗升、眞柴久よし、嵐吉三郎、眞柴久次、狩野四郎次郎、音羽や薪水、牛若丸、白拍子さくら木、（江戸上り）坂東彥三郎、利久娘早枝、けいせい陸奥、妾つかさ、中村千之助、かたゝの小雀、前の左司馬丸幸坊、中村友藏、淀町御前、おりつ、仲居お勝、山下金作、奴矢田平、石川五右衛門、音羽や松朝、浦辻十內、高木次郎太夫、大切柳櫻春錦書所作事」坂東彥三郎當春より守田座へ出勤之處其儀なく上坂す然る處正月九日森田座より出火にて芝居燒失せし故龜藏も悴の跡より上坂せり大坂表彥三郎大に評よく道成寺所作大當り之處彼の地二月廿五日角芝居より出火にて大西芝居一軒殘り餘は不殘燒失す故に此一座不殘京都四條芝居に上る龜谷早雲「傾城石川染」秀逸五冊白井ごん八傾城小紫「けいせい比翼塚」「油商人廓話」上中下眞柴久吉、油屋與次兵衛、寳川延三郎、左枝政右衛門、

白塚十右衛門、白井彌市郎、南方十次兵衛、坂東龜藏、石田の局、石川五右衛門、嵐吉三郎、白井權八、白拍子櫻木、坂東彦三郎、大切所作事、江戸紫男道成寺、〇六月尾張名古屋若宮名代松本や增太郎太夫元中村津多右衛門、添名代伊世屋久七「義經千本櫻」大序より道行迄「姫競双葉繪草紙」花見より大切迄「積重戀入船」有馬湯治、佐藤忠信、源九郎狐、すしやお里、小栗判官、鶴床音吉、彦三郎、梶原平三、不寐兵衛、風間八郎、雀右衛門、鮓屋彌左衛門、万長は丶お熊、高松馬之丞、內匠、いかみ權太、斯波左京之介、柏木次郎太夫、龜藏、同七月、同座にて「敵討浮木の龜山」大切「東錦繪双道成寺」石井兵助、花房主膳正、白拍子櫻木實は奴鶴平、彦三郎、旅客左一郎、石井源藏、瀧十郎、石井兵衛、松坂屋清七、鳥居彌十郎、松壽、赤堀水右衛門、非人いさか松實は水右衛門、多渡津大學、雀右衛門、藏之進妹おかな、藤兵衛女房おゆき、敷妙御前、梅花、でつ火の八實は最上八之丞、高丸刑部、內匠、三木十左衛門、中野藤兵衛、遠州屋宗七、龜藏、同八月大坂道頓堀竹田芝居普請出來「魁佐野八橋」「木の下蔭狹合戰」「持丸長者黃金鷄」嵐吉三郎、初座頭、同十月角の芝居普請出來壽式三番叟翁、市川福太郎、千歲、三桝竹次郎、三番叟、中村橋之助「新うす雪物語」「嫗山姥」五百織綿、京都龜屋粂之丞、早雲長太夫「千本櫻」「勝関孝源氏」切「持丸長者」後「景色會稽山」忠のぶ、おさと、若徒勇介、牛若丸、手代新兵衛、彦三郎、いがみ、原田六郞、のり經、龜藏、梶原景時、三村荒次郎、佐の兵衛、和田頁助、熊坂長はん、吉三郎、座頭餘略之

安政五壬午十月九日
戒名　釋致信信士　俗名四代目市川鰕十郎　俳名眼玉家名小紅屋　行年五十歲

七代目市川海老藏門弟幼名松しま巳之助といふ天保元寅年春河原崎座へ下り市川市十郎と云千本櫻に源よし經小金吾初舞臺なり角田川に手代半七筑紫轢に女之助弘化二巳冬四代め鰕十郎と改弘化四坂東壽太郎と改名嘉永二酉五月市川眼玉と改河原崎座へ下り同四亥鰕十郎と改上坂す當年竹田芝居にて木の下蔭に此下東吉切に尼屋庄九郎を勤此狂言中病で沒す實子市川猿之助河原崎座へ下り中評

花江都歌舞妓年代記續編卷の卌三

◎安政六乙未歲

○正月十五日より中村座「魁道中雙䌽曾我」丹右衛門房笹尾、政右衛門女房お谷、菊五郎、和田志津摩、尾上梅幸中村芙雀改名す管領はま町、靭負女房柴かき、幸兵衛妻おせつ、團之助、澤井城五郎、池添孫八、市川白猿新升改名植杉春太郎、我當、植杉右門、柏木隼人、市川雷藏壽美藏改名す笠松兵部、宇佐美五右衛門、哥助、庭方新次、近藤野守之助、翫助、竹の內せいたく、鳫八、荒井金兵衛、若徒彥七、星合段四郎、勝五郎、鎌倉屋爲助、餠屋亭主、らい助、神田軍藏、むく鳥兵六、縞藏、はん太いも八、相藏、公達音菊丸、覺之助、澤井股五郎、同母鳴見、山田幸兵衛、市川海老藏當春よりこし出勤す元紅梅、仲居おたき、鯉三郎、同おやま、妼若松、千代三、同浮ふね、仲居おくみ、榮子、奥女中染衣、おその、菊榮、大磯茶屋娘おます、奥女中糸ゆふ、三すじ、同松かへ、娘分おこま、芝鶴、庄屋德右衛門、醫者平脈、森五郎、あら卷伴藏、馬士しやく八、德次、わるものかん八、不破伴作、翫太郎、植杉息女彌生姫、幸兵衛娘おそで、澤村田之助由次郎改名す櫻井林左衛門、澤井家來助平、鶴藏、譽田內記、石榴武助、福助、和田靭負、佐々木丹右衛門、唐木政右衛門、仁左衛門、第二番目大切所作事「今様」室町御所の新稔を賀す「壽海式三番」翁、市川海老藏、千歲、菊五郎、三番双、福助、中の卷淨瑠理春もやゝけしき螌ふ「裏梅曆松宴」おきく、菊五郎、可內、新升、佐七、梅幸、東三郎、我童、おつゆ、田之助、こま吉、福助、軍次兵衛、鶴藏、長さく、仁左衛門、同下の卷御ひゐきの朝日奈かすいろ響を引立て「正札附根元草摺」小ばやし朝日奈、福助、曾我五郎時宗、海老藏、常磐津豐後大掾、同吾妻太夫、同國太夫、三弦岸澤式佐、同三藏連中振り付花柳壽助、同勝次郎、同芳次郎、長唄吉住小八、小太郎、平四郎、吉住眞之助、木村八三郎、三弦杵屋彌三郎、同喜三郎、同四郎次、同又三郎、同万吉、ふへ往田又兵衛、同由之助、小つゝみ田中傳右衛門、太皷田中長吉、福原百十郎、田中傳兵衛、三弦杵屋宗五郎、長うた坂田仙八、三弦藤間勘左衛門、長うた岡安勝藏、ふり付藤間勘十郎、藤間勘左衛門、小つゝみ田中傳左衛門、三味線杵屋三郎助右連中相勤大出來大大當り

○第壹番目伊賀越いづれも評判よく海老藏股五郎は昔よりとは大に異なり母鳴見山田幸兵衛大出來所作淨るり草摺の曾我五郎扮作万端相かはらずといへども音聲ひく〳〵してむかしに替りし老年のさま惜むべし〳〵○往古寶曆七丑年市村座春染手綱初午曾我に惡七兵衛景淸にてうゐろう賣市川海老藏二代目團十郎七十歲に而相勤大當りと云々うゐろう賣は辨舌さはやかならざれば勤らず當時七代目白猿にくらべ見れば猶老躰といへ共すこやかなりしか翌八寅年七十一歲に而九月廿四日におわりし此二代目に續く者七代め也

○二月五日より市村座「小袖曾我薊色縫（こそでそがあざみのいろぬい）」八幡三郎行氏、蔭山武太夫、地獄ばゝあおたに、俳諧師月岡白蓮實は盜賊大寺正兵衛、三十郎、曾我十郎祐成、蔭山繁之丞、輕業師橘小鶴、訥升、逸の進娘おみね、女輕業橘小梅、歌女之丞、大江稻穗之助、輕わざし、橘松吉、花助、妻木若徒宗助、無緣寺穴堀鋤藏、國五郎、網舟の三次、因果物師、六部兼鴻藏、長沼蓮藏、獵人狼の山九郎、米五郎、塚本主水、道具屋丸助、橘之助、俳諧師蝙蝠、因果物一寸ぼうし、ちよこ平、小半次、同おちよぼ、道具や銀七、吉六、石神道六、捕手運平、咲十郎、鷄娘のおけつ子、權內、妼初音、仲居おやま、辰三郎、白蓮の下女をよね、奧女中竹川、米治郎、寺澤塔十郎、白蓮下男杢助實は寺澤塔十郎、獵人正直庄藏、米十郎、曾我箱王丸、八重垣紋三、船頭三すしの綱吉、かるわざし橘小嶋、權十郎、花形巴之助、國太郎、夜そば賣仁八、蔭山下部又平、又太郎、牛窪臺藏、順禮おかん、い太郎、こし元靑柳、仲居お市、藤松、同おむら、家中娘おなか、たけ次郞、同おせき、仲居おます、三之助、主水妻おいね、奧女中梅か枝、源之助、醫者順方、白蓮下女おとら、村右衛門、妻木のこし元おつね、正兵衛女房お藤、輕業中賣おたけ、市之丞、塚本主膳、花うり源兵衛後に無緣寺墓守西心、八重垣若徒儀平、與六、大儀の虎御ぜん、武太夫娘おりう、扇屋抱十六夜、おさよ後白蓮の妾おさよ、又淸吉女房おさよ、女輕業橘小岩、粂三郎、近江小藤太成家、極樂寺所化淸心後に鬼あざみの淸吉、妻木逸之進、輕わざの口上ひつくり兵藏、工藤左衛門祐經、小團次、極樂寺小坊主敎月、竹松寺小姓戀塚求女、かる業の上乘り橘龜吉、工藤犬坊丸祐友、羽左衛門、第一番目四立目淨瑠理（朧夜に憎き物は男女の影法師）

「梅柳中宵月」十六夜、粂三郎、清心、小團次、清元延壽太夫三弦清元徳兵衛連中相勤第二番目大切淨るり浮線蝶の平家物語故蝶舞の源氏物語「蝶同翼輕業」小蝶舞、權十郎、粂三郎、訥升、羽左衛門、輕業、小しま、權十郎、小つる、訥升、お梅、歌女之丞、小竹、市之丞、口上云、小團次、松吉、花助、小いは、粂三郎、龜吉、羽左衛門、常磐津豐後大掾連中相勤大出來大當り○第壹番目曾我兄弟犬坊丸と對面小團次

近江小藤太にて祐つねもとぎのせりふ大に評よし

第貳番目鬼坊主新狂言大出來大當り然る處故障有之狂言中所々添削ありて狂言の筋譯わからず依之

第一番目三幕と大切淨るりの場を殘し

○三月十一日より第貳番目「妹脊山婦女庭訓」山の段杉酒屋御殿場、後室さたか、入鹿大臣、おはしたおむら、三十郎、太宰息女ひな鳥、歌女之丞、杉酒屋ば丶あお熊、官女松の局、國五郎、桃の局、相長屋土左衛門、鴻藏、柳の局、米五郎、竹の局、橘之助、藤の局、小半次、柏の局、吉六、宮越玄蕃、米十郎、荒卷彌藤次、又太郎、梅の局、婉き丶やう、い太郎、月行事佐次兵衛、又八、若なの局、國代、千種の局、藤松、彌生の局、たけ次郎、あやめの局、三之助、こし元小きく、源之助、家主杢郎兵衛、櫻の局、村右衛門、立花姫、市之丞、久我之助、清升、杉酒屋娘おみわ、粂三郎、大判司清澄、でっち寐太郎、漁師ふか七、小團次、金剛太郎、竹松、青柳要之助、羽左衛門何れも大出來○三月五日より守田座

「賴三升曾我神垣」「增補富士見西行」墨染江口の段千葉小性笹野權三、鳶木やりの權三實はさ丶の權三、曾我十郎、今井四郎、福助、千葉小性遠山甚三、髮結金、かんざしの甚三實は遠山甚三、新作兄出來星の三吉、曾成五郎、木曾冠者義仲、市藏、五郎兵衛娘おます、左門娘おみね後桝本抱小さん、そがの二の宮、新造うつしゑ、新車、主水娘おそて後桝本か丶へ小綱、刀鍛冶新作、けいせい逢坂山、當助妹おうめ、玉三郎、桝本の宗九郎、下部くらやみの牛、山名丹下、冠五郎、庄屋太郎作、盜賊九郎八、鶴屋才兵衛、蝶藏、紙屑買傳七、やとひか丶あおかめ、幾瀨屋勘吉、成藏、筒江重三郎、若徒左源太、近江八幡之助、浪人松浪靭負、雛助、劔澤彈正左衛門、小柴若徒澤竹熊七後駕かき、梅澤五郎兵衞、千葉之助常胤、宇佐美次郎、工藤左衛門祐經、佐藤則清入道西行、團藏、鳥屋藤助、宮城隼人、赤澤十內、

橘の六郎、和市、小柴彦藏、船人三よしの吉、奴久須平、根の井小彌太、九藏、鍛冶屋助七、判人長藏、長四郎、家主彌太七、足力の伴、周佐十郎、奥女中夕央、桝本かゝへお喜代、みんし（初岩井やまと後喜代三と改此度小六相續）こし元春風、仲居おたま、玉次、同およし、こし元早はらび、玉江、仲居おたい、奥女中紅梅、にしき、同若芝、仲居おはな、愛三郎、新作母妙貞、齋藤五郎、又九郎、山名奥右衞門、追手の雜八、箱根の閉坊、石黑左衞門實は飛驒左衞門、歌雀、千葉右門之助、魚うり三吉、三津五郎、小柴左門、和田の義盛、かん彌、淨るり竹本猪太夫、同美喜太夫、同美代太夫、三弦、矢澤富七相勤○當狂言壹番目者權三權八、書替にて大に評よしふし見西行靭負ひなすけ、大出來なり○三月三日より中村座「妹脊山婦女庭訓」貳段目より四段目迄「對梅松契由兵衞」芝六女房おきし、後室さたか、入鹿大臣妹橘姬、由兵衞女房小梅、てつち長吉、菊五郎、ゑほし折求女實は藤原淡海、男達鮫の茂兵衞、梅幸、大職冠鎌足、土手のとふ六、白猿、二段目三笠山の芝六、金谷金五郎、我當、宮こし玄蕃、こし元小きく、雷藏、右大辨國房、荒卷彌藤次、歌助、當麻太郎、官女藤の局、翫助、衆徒覺禪坊、親方才兵衞、鳫八、天智天皇、米屋手代德兵衞、勝五郎、民部太郎下男久助、らい助、轟郡司柏の局、縞藏、芝六忰杉松、團彌、同忰三作、國太郎嫁菜うり里松、覺之助、奥方春日前、米屋娘おきみ、團之助、太宰娘ひな鳥、げいしや小さん、田之助、彌生の局、巴屋娘分おさよ、鯉三郎、花子の局、こし元なきさ、千代三、蘆の局、妼きく野、榮子、同きゝやう、巴屋娘分おしま、三すし、同お八重、こし元小萩、芝鶴、代官五九郎、百姓きよろ作、森五郎、中納言兼秋、曾根伴五郎、德次、おはしたおむら、赤手拭長五郎、翫太郎、紀の友雄、花やしき新左衞門、信樂勘十郎、鶴藏、久我之助清舟、杉酒屋おみわ、入鹿大臣、福助、獵師芝六、大判司清澄、りやうしふか七、千葉左近之進、梅の由兵衞、仁左衞門、金剛太郎、壽三郎、淨るり道行戀苧環おみわ、福助、求馬梅幸、橘姬、菊五郎、竹本鶴澤連中相勤○市川海老藏病氣に付夫〳〵かわり役相勤第貳ばんめ梅の由兵衞小梅長吉の早替りいづれも評よく大出來大々當り○扨中村當座狂言大入大々當りは市川海老藏出勤ゆへなり

○二月下旬より菅原寺子屋一と幕差出し海老藏松

王丸の一世一代千代、菊五郎、源藏、仁左衛門、相勤候哉の評判あり然るに壽海老人氣分勝れざる取沙汰ありしが追〳〵全快の趣にて三月狂言者妹脊山に大判司淸澄入鹿大臣貳ばん目梅の由兵衛に三嶋隼人源兵衛堀の源兵衛の役わり番附に出し程なく出勤もあるべしと思ひし處又々病氣さし重り出勤相ならざるゆへ夫〳〵かはり役大判司、仁左衛門、入鹿大臣ふく助、源兵衛堀の源兵衛、鶴藏にて相初め海老藏は病床に臥といへども言語も左而已かはりなく今一度全快し一世一代相勤べく心得にて醫者は歴々を頼み、河原崎座權十郞、市川小團次、其外門弟中打寄り成田山不動尊へ祈誓をかけ或は信心の神佛へ加持祈禱は不申及良藥を用ひ其手當嚴重なりといへ共驗も見へす病ひ追〳〵おもく疲れ現世の定命にや終に三月廿三日

辭世　七代目　壽海老人

起て夢寢ても又夢うつゝにも
　歌舞の舞臺にあそふ身なれは

此一首を殘し極樂淨土の長き旅路の門出こそいたされける葬式は六月廿三日曉七つ半淺草猿若町高しま屋より芝山内常照院まで野送りの見物夥しく群集す

法號　德譽恢郭子儀善法子　俗名七代目　市川海老藏　行年七十才

壽海老人一代略記

大江戸根生俳優三ヶ津總役者の冠首七代目市川海老藏俳名白猿壽海老人は寛政三辛亥年の生年にして五代目市川鰕藏娘六代目市川團十郞姉すみと云にて和泉屋勘十郞へ嫁しもふけし息子なり寛政六甲寅秋市村座矢口渡に新田德壽丸市川新之助と云四才にて初舞臺同七巳卯河原崎座曾我に朝日奈同五月忠臣藏によし松同八月東伽羅に鶴千代同八丙辰顏見勢源太丸兼綱六歳にて初しばらく同九丁巳景淸一子あさ丸同十一月中村座櫓錦木に千代童子此時鰕藏と改名同十戊午三月六代御前同顏見世吉野深雪に楠正行六代目市川團十郞初座頭隱居白猿口上同十一巳未春伊達に鶴千代同四月襤褸の錦に高市庄之助同顏見世に今若丸同十二癸申五月千本櫻三の口にて六代目團十郞一周忌追善狂言としてうゐろう賣虎屋藤吉十才にて相勤辨舌さはやかにて大評判なり同六月武智十次郞土左衛門傳吉小僧同顏見世中村座「生茂(をいしげるな)波渦濁(みのうねく〳〵)」市川白猿先祖百年忌に付市川ゑび藏事七代

目市川團十郎と改名させ右口上ありて回國修行者實は大伴山主五大三郎女房鵜の羽菊之丞般若五郎照定團十郎三人せり出し大々當り（此幕歌舞妓年代記にくわし）此時團十郎七世嫡孫（せのまご）と題せし狂歌集出板す（元祖焉馬撰七書の内）此歌集の内に

我子のいとけなふして團十郎と名乘て心嬉しく有かたくて

御贔負をなを笠にきよ初深雪　女春曙（是母すみなるべし）

享和元辛酉市村座四月伊達に荒獅子男之助同三癸亥中村座春犬坊丸同顔見世市村座物見松に十三才にて御厩喜三太角前髪にて上下しはらく御幣をかつきての出荒事大出來也文化元甲子中村座百八十一年三度目支干に當り壽狂言の口上を先例にまかせ市村座出勤なれ共中村座へ來り舞臺に於て相傳の寶物披露の口上を述る五代目白猿隱居ゆへ幼年に而相勤家の規摸なり同二乙丑春曾我五郎時宗初役同三丙寅つゝれ錦に春藤新七同四丁卯顔見世熊井太郎忠基柿の素袍初ての暫十七才にて元服

賀七代目三升元服　蜀山人

七代市川團十郎　吉辰元服仲冬望

三升瀧水龍門鯉　天地乾坤大戲場

同五戊辰市村三月伊達に所化祐海に男之助同六己巳曾我に工藤左衛門祐經初役此節庵りに木爪を染拔したる手拭を江戸中の神社佛閣へ奉納しける古今珍ら敷事なり當春大當り

賀三升初工藤

一藹工藤稱別當　三升大入酒無量

天神七代唐天竺　日本市川團十郎

戊辰のとし浪花より中村歌右衛門とかなんとかいへる下手役者來りて都下をさはがせしがことし白猿が孫三升が工藤に鼻をひしがれぬもとより江戸は江戸浪花は浪花とはいへども江戸にては立小便する女と四文の蜜柑を四つにきりて壹文にうるものはなし

是は蜀山人元祖焉馬翁の扇に書て贈られしを見るまゝに記しぬ江戸贔負のものは實に左もあるべし

同座顔見勢四天王櫓磬大名題看板にのぼる同八辛未春曾我五郎時宗同團三郎同二月先祖追善狂言花川戸の助六初役髭の意休に幸四郎此時男達を八人供に連れて出たる團十郎への馳走なり是より斯定る尤男達

對の衣裳は助六より仕着せしと其場を立派に見せし
なり以前は地廻りの者の出しはがりにてかゝる事な
し秋は千本櫻に忠のぶ源九郎狐銀平小倉吾覺範五役
顔見世に惡源太同九壬申三月伊達に男之助細川勝元
五月漁師鱶七六月鳴神上人粂寺彈(正毛抜彈正歟)初
役なり貳番目閑心に大工六三此節〔鎌〕◎ぬの模様を
付是は往古はやりしはんじ物の模様の内にて菱川石
川などの浮世畫に吉原通ひの供奴など衣類に見得た
り近ごろ三升是を寫せしより衣類小紋或は手拭手
遊物瀬戸物に染付櫛の繪かんさしに至る迄細工にし
て大流行なり其後菊五郎の〔斧〕〔琴〕〔菊〕男女藏〔鎌〕其圖
抔ありしか〔鎌〕◎ぬ程に者行なはれす同顔見世森田
座篠塚伊賀守暫大詰成田山不動尊靈像

四天王隨市川のしばらくは篠塚伊賀の守方になし
近く寄て拜せん者は差出しの蠟に成田屋不動明王

蜀山人

同十癸酉曾我に十郎(初役)五郎同五月廿日より九代目森
田勘彌先祖うなき太郎兵衛より百五十年永續の壽狂
言佛舍利シテ勘彌ワキ團十郎(三條大黑屋藥)相勤同六月洗濯
話貳番目所作事姿八景大當り顔見世市村座初座頭に
て渡邊の綱に扮する一人大名題にて位上上吉昇進す
是より追〱日の出役者にて藝もめき〱と仕上げ
文政年間には大上上吉より極上上吉に至る文政十
二己未春河原崎座出勤の處三月廿一日佐久間町より
火事に三芝居類燒に付普請出來迄紀州高野山參詣し
夫より大坂表芝居ゑ市川白猿と名乘り出勤す彼地に
て大に評よく極上上吉にすゝみ天保元庚寅八月河原
崎えかへる不評也同二辛卯顔見世市村座菊五郎一座
にて不破名古屋大當り同三壬辰同座花御所染に吉田
松若局岩ふじ猿しま惣太此節海老藏と改名倅ゑび藏
改八代目市川團十郎海老藏助六大切に矢の根五郎同
五甲午市村座出勤之處二月七日又佐久間町より出火
に兩座類燒同十日鍛冶橋内より出火に而森田座も類
燒す海老藏直さま上坂し角の芝居え出勤同六乙未八
月市村座へ下り裏表忠臣藏に九役大々當り同七丙申
二月森田座春曾我菅原忠臣藏組合新狂言天保十一庚
子春河原崎座春曾我彌生五三桐に五右衛門宋蘇卿帶
屋長右衛門中幕に元祖市川團十郎より百九十年來血
統を以て代々相續いたし候右壽狂言として歌舞妓十
八番の内勸進帳興行武藏坊辨慶相勤源のよし經市

川團十郎富樫左衛門市川九藏相勤古今未曾有大々當り同十三壬寅年河原崎座三月かゝみ山貳番目十八番の内景清牢破り大に評判よし然る處身分不相應なる驕奢に付御咎を蒙り江戸十里四方を拂はれける依之無是非下總國へ趣き成田山内延命院に引移寓居す此時「風そよくなりたのやまに居るくれは身過そなしの素人なりけり」

藝なし猿の野ら廻り
畑にもへにおしろいもありなから
明暮さひしかつらきぬ髪

天保十三壬寅九月日記北總猿命院延白猿「幡谷村」成田屋七左衛門板

是中本にて外題しもふさ身旅喰と云白猿藏板なり當所に暫住居しうき日をかさね天保十四癸卯五月高野山より伊賀へ趣き古市芝居名代久馬屋武兵衛座本中村辰之助前狂言神靈矢口渡四幕夏祭浪花鑑上中下役割番附に由良兵庫渡し守頓兵衛團七九郎兵衛右役人幡屋重藏（市川海老藏改名して）出勤一座に南瀬六郎三河や義平次市川市勇（おふね おかち）中村富次郎（みなと次兵衛女房）坂東のしほ（よしみれ 一寸德兵衛）坂東重三郎（雲介願西つり船三ふ）坂東三津五郎同 九月同所名代嵐梅之丞前狂言殿下茶屋切狂言宿無團七時雨傘に東馬三郎右衛門千島左衛門人形屋郷右衛門團七の茂兵衛幡屋重藏相勤大當り同十一月より大坂道頓堀角の芝居へ出勤前狂言菅原傳授手習鑑大序より四段目迄大切御惠月景清菅相丞後室覺じゆ舍人松王非人七兵衛實は景清市川海老藏茶の湯場大當り

此程幡谷重藏名前之儀御伺申上候處當地にては矢張り海老藏と可申被仰渡候由

京大坂評判記役者產物合　嘉永元戊申年

惣巻頭大極上上吉お江戸のぼりを待かねた初鰹　尾上菊五郎　大川橋藏

惣巻頭大極上上吉役者衆中の人氣を斗る堂島市　市川海老藏

角の座海老藏菊五郎一座に相成大名題三國大市川對戀（さんごくいちついのくせもの）に日本駄右衛門海老藏天竺德兵衛菊五郎唐士娘口口大々當り

嘉永二己酉年十二月二十六日

猿若町壹丁目
專助店
歌舞妓役者

團十郎

此者父海老藏義先年深川島田町熊藏地借重兵衛方同居罷在候節不屆之義有之追放申候處弘化四未年文恭院様七回御忌御法事に付御赦御免被仰付候其旨可存

右之通被仰付難有奉畏候以上

右　團十郎
家主　專助
五人組　正藏
名主　源太郎

嘉永三庚戌三月市川海老藏事八ヶ年目にて河原崎座へ下り同十七日より第壹番目一谷嫩軍記難有御江戸景清熊谷次郎直實琵琶法師千壽實は惡七兵衛景清第貳番目幸四郎半四郎追善狂言　手向の　川戸幡隨長兵衛大坂下り　市川海老藏相勤久々に而大々當り、舞臺おゐて八ヶ年ふりの長口上自分身の上の申譯悴團十郎御取立且親孝行に付御褒美頂戴の事其外高麗藏猿藏河原崎座權十郎幸藏あかん平みな〳〵御取立被下御禮一統かんしんせり同五月中村座にすけ而國性爺合戰櫻門之段紅ながし段五將軍甘輝和藤内團十郎同母小團次老一官男女藏錦祥女しうか追々評よく嘉永五壬子九月より一の谷に彌陀六安達原に外ヶ濱南兵衛實は宗任第二番元祖市川團十郎百五十年忌二代目市川團十郎百年壽幷一世一代御名殘狂言として歌舞妓十八番の內勸進帳武藏坊辨慶海老藏源義經猿藏常陸坊高麗藏戸樫左衛門團十郎右勸進帳辨慶此夏三度目大々當りひゐき連中へ配りし扇面に

野々錦衣裳も秋も名殘りかな　壽海老人白猿

又

うれしさや役者の業もすみすゝり
筆も坊主になりたや白猿

斯ものして予に送られし能書にて見事なり諸藝には達し實に俳優の名家京浪花にも是に續くものなし同十一月より忠臣藏に矢間喜內植木屋杢右衛門相勤是を御當地の名殘りとし上坂す嘉永六癸丑年十一月京都四條顏見勢に一世一代忠臣藏に由良之助若狹之助二役老年にて若狹之助大に評判よし繪本大功記に武智光秀大出來安政元甲寅八月大坂の中の芝居悴團十郎同座出勤にて第壹ばん目兒雷也强傑譚話第貳番目與話浮名横櫛にわる者かん八後熊手屋欲四郎仙素道人　夜叉五郎　深見十左衛門　望月三右衛門　大番頭多左

衛門海老藏兒雷也與三郎團十郎越路横くしお富菊五郎右狂言八月六日の初日の處團十郎不慮の變死に付芝居休に相成團十郎は千日にて火葬し一心寺へ葬禮す右に付八代目三升役わりを其まゝ兄追善として猿藏相勤海老藏舞臺におゐて口上を述諸見物一統泪に袖を絞りしと云々然るに翌安政二乙卯九月廿九日市川猿藏終る海老藏も二ヶ年に成人の息子二人迄失ひその愁傷中〳〵云盡すべくもあらず然かあれ共其身は老躰ながらます〳〵評判よく出勤す扨安政五壬午年無據事にて只一人罷下り追〳〵一件落着に相成り直さま大坂表え出立之處市村羽左衛門市川小團次兩人にて出勤相すゝめよふよふ納させて七月より市村座へ出勤す則繪本大功記に武智光秀返魂香に土佐將監口上交のせりふ千兩幟に鐵か嶽何れも大々當り同十月三組杯觸に盜賊赤星太郎宇治の常悦大黑屋惣六最明寺時頼入道幡隨長兵衛十一月噂錦繪に金江金左衛門大切大關兵衛實大伴の黑ぬし安永六乙未年春中村座魁道中双六そろ第一はん目より貳番目迄大々當り猶又大切一世一代として菅原寺子や差出すべく之處病氣に相成彌生狂言出勤の處番付役わりに出候得共追〳〵重病に相成り三月廿三日終る一代の內當り狂言數ふるに遑あらず其內にも度々手柄なりしは伊達の書替鏡山に岩ぶし吉田の松若田宮伊右衛門不破伴左衛門又代々の相傳の藝花川戶助六鳴神上人粂寺彈正押戾し暫不動靈像うゐろう賣矢の根五郎景清いろ〳〵有勸進帳辨慶古今の大出來七代目より子々孫〳〵に至迄相傳の極秘藝となり東都は勿論京大坂三か津に其美名を殘す抑市川團十郎八代目の內元祖團十郎は役者荒事の開山にしてならぶものなき稀ものなり是は無類の役者にして二代目團十郎と七代目此二代は三都は云に及ず遠く漢土朝鮮夷國迄美名を傳へ諸藝の名譽をあらはせり三代目團十郎六代目三升いづれも美男にて名人といはれしに壯年に早世して藝の善惡いまだ定まらず四代目親玉木場五代目鰕藏向しまおや玉此二世は大江戶三芝居に而已出勤して京大坂名古屋など旅芝居を更に出勤せし事なし此二代の父子の團十郎者是こそ大江戶の名物と誰も稱譽すべし八代目は早く父に離れて壯年にして獨立す出立のはやきは此團十郎にとゞむべし難波の夢と失にしは惜むべし〳〵嗚呼

○四月廿八日より市村座「世界袷蝶々小紋」「牡丹記念海老胴」海老藏追善として一とまく古骨買源兵衛、堀の源五郎、米屋仁右衛門、鬼住洞太實は八尾の三郎幸長、一つ家老婆、淺井三十郎、山崎屋與五郎、南與兵衛、兒普門丸實は觀音化身、訥升、げいしやあづま、甚兵衛娘おせき、兵庫や此里、歌女之丞、橋本息次三郎、八尾の小太郎、花助、山崎屋手代權九郎、同後家妙林、國五郎、判人彦六、げいしや松吉、鴻藏、柳川堂蝶齋、山崎屋手代忠八、米五郎、舟頭大和屋の富、一つ家手下ゑんじゆ次郎、橋之助、箱まはし庄八、百姓豐作、小半次、うばおもと、でつち三太、吉六、子守おたみ、百姓万作、吹十郎、二階廻しおゑん、扇之助、同おやま、こし元あやめ、辰三郎、娘分おせん、新造音瀧、米次郎、南方十次兵衛、三原有右衛門、早瀬の六郎、米十郎、關取濡髮長五郎、山崎屋與三郎、楠朋王丸正儀、丹波屋七郎兵衛、權十郎、草刈童波松、國太郎、野手のおさん、不動院快全、又太郎、平岡下部さと七、い太郎、料理人傳七、累次郎、國三郎、不動院所化快傳、高安丹下、孫六、船頭吉、百姓麥作、大よし初みとり、下女おきの、山崎下女おしげ、たけ次郎、こし元さつき、二階廻しおとめ、茶見世娘おいろ、三之助、初緑女房おかく、新造音波、源之助、研屋佐助、成合八郎、村右衛門、げいしやおてる、十次兵衛娘みさほ、兵庫屋女房おくま、市之丞、平岡幸右衛門、駕の甚兵衛、山崎屋淨閑、與六、子守おとら後けいしや長吉、與四郎兵衛、女房小梅、一とつ家娘千草、兵庫屋の音羽、条三郎、山崎屋與四兵衛、信樂勘十郎、杉本佐兵衛、武藏坊辨けい、小團次、草かり綱松、竹松、下駄の市、御曹子牛若丸、羽左衛門、第壹番目五立目淨るり與五郎は月の山崎長五郎に雲の濡髮「亂咲垣根の卯花」與五郎、訥升、おてる、市之丞、あづま、かめ之丞、長十郎、權十郎、富本豐前太夫連中相勤第二番目大切所作事五丁町に粟島の由來一つ家に觀音の利益五條の橋に八幡の應護「種々薩埵誓掛額」粟しま丹七、權十郎、安中大盡、國五郎、おれん、吉六、此里、歌女之丞、喜助、こう藏、音羽、くめ三、吾妻路連中一つ家うは三十郎、兒訥升、あみ松竹松、波まつ國太郎、娘条三郎、富本連中橋辨けい小團次、牛若羽左衛門、竹本連中相勤いつれも大出來○第一番目狂言は文政元戊寅年春中村座にて「年曾我曲輪日記」第二番目山崎屋與四兵衛、三津五郎永木子守おとら後げいしや長吉、與四兵衛女房小梅、半四郎、當時くめ三郎祖

父なり關取濡髪長五郎、團十郎七代日當時海老藏此節も役者揃にて大に評よく大々當りなりし○五月朔日より中村座「花菖いろは實記」鹽谷與方顔世御前後松林尼、彌作女房おりよ、義平女房おその、仲町丹波屋抱おつま、菊五郎、千崎彌五郎、彦太夫妻おれい、人見佐五右衞門、梅幸、石堂右馬之丞、斧定九郎、平淸料理人喜助、白猿、大星力彌、かゝみとぎ新兵衞、我當、加村左京之助、大嶋才兵衞、雷藏、早野三左衞門、丹波屋惣兵衞、歌助、竹森喜多八、尾林平內、翫助、赤垣傳藏、古着や與平次、お熊ばゝあ、鷹八、下部定助、小寺十內、いやみのおかつ、勝五郎、間瀨久太夫、田代孫右衞門、家主奎郎兵衞、雷助、しほ田兵左衞門、組合彥太夫、縞藏、猪の熊運八、岩田屋勘兵衞、相藏、古手屋でつち長松、國太郎、足利菊千代、覺之助、彌次兵衞娘おきそ、ゆらの助女房おいし、平右衞門女房おきた、岩田屋かゝへお才、團之助、彌次兵衞娘おしな、彥太夫娘おくみ、丹波屋娘おゑん、田之助、義平一子よし松、士之助、松か岡秋色尼、仲居おしま、鯉三郎、智敎尼、千代三、同敎念尼、こし元撫し子、升之助、花月尼、こし元常夏、紫子、花光尼、小の寺娘お高、菊榮、春月尼、奥女中若竹、仲居おつる、三筋、同うら風、妙心尼、芝鶴、藥師寺次郎左衞門、梶岡文藏、德次、灰方彌助、戶くらや佐次兵衞、翫太郎、堀部彌次兵衞、芝村七太夫、さんひん太助實は近藤源四郎、斧九太夫、香具屋彌兵衞、鶴藏、田代安兵衞、早野勘平、鎊間宅兵衞實は寺岡平右衞門、里見隼人之助、福助、鹽谷判官、大星由良之助、天川屋義平、百姓彌作、古手屋八郎兵衞、仁左衞門、管領直義公、壽三郎、當狂言大に評よし大當り○五月十五日より守田座「時皐月桔梗旗上」第貳ばん目「增補夏祭禮男鑑」光秀女房みさほ、嘉平次娘小ふち、賤の女夕顔、道具屋娘お仲、團七女房おかぢ、新車、阿能の局、久吉妻八重はた、三ふ女房おつき、玉三郎、森のらん丸、加藤虎之助、玉しま礒之丞、團三郎、織江刑部、百姓たぬ藏、大鳥佐賀右衞門、冠五郎、波多野但馬之助、こつはの權、成藏、岩淵伊平太、武智郎等銀藤次、武五郎、同金藤次、髮結三吉、音八、團七悴市松、林之助、小田春永大出來小栗栖の此下東吉、德兵衞女房おたつ、雛助、武智光秀、千の利久、溝尾正兵衞茂知、齋藤內藏之助、鈞舟の三ぶ、團藏、眞柴久吉、團七九郎兵衞、福助、下男助作實は尾西行長、安田作兵衞、

一寸德兵衛、九藏、足利公達照若丸、團彌、武智一子重次郎住津美、小田三法師、川太郎、大澤主水、なまの八、駒七、妙國寺使僧日出、栗山丹下、是四郎、淺山多三、本能寺日和上人、佐十郎、奥女中清瀧、光秀妹桔梗、けいせい琴浦、珉子、賤はた御せん、妼早ゆり、坂東とゆう（玉次改）同しのふ、松下の下女おちよ、にしき、刑部女房蓬生、信若めのと左枝、愛三郎、宅間信盛、又九郎、小田彈正信連、四方天左司馬、三河屋義平次、歌雀、小田信若、森の力丸、三津五郎、松下嘉平次、玉嶋兵太夫、かん彌、第貳はん目淨瑠璃（五月雨や色の黒きの名鮮微て）「何菖蒲花猿最負」さる引、ふく助、女大名、團藏、冠者、九藏、常磐津豐後大掾三弦岸澤式佐連中相勤何れも大出來當狂言中棧舗代三十一匁高土間廿六匁同平二十一匁市川市藏、尾上和市出勤なし上るり竹本美代太夫同美喜太夫三弦矢澤富七鶴澤當藏相勤いづれも大出來○六月三日より市村座「紙合戲場書草紙」「三千兩黄金夏菊」（天竺德兵衛 馬士きり）伊勢音頭、油屋おこん、侍女小はき、賤の女おさは、田之助、吉岡宗觀、あら川隼人、藤浪左膳、又太郎、足輕橋平、馬士蛇々八、猿田彥太夫、鴻藏、名古屋山三、大工與四郎、桑名丈四郎、藍玉屋北六、橘之助、黒川主鈴、油屋おしか、小半次、山名時五郎、奴鹿藏、杉山大藏、吉六、佐々木桂之助、笹野才藏、今田万次郎、喜十郎、角太郎下部權平、神子小夜路、嶋八、相の山お杉、麥藏、同お玉、太市、入方佐助、鴫藏、あいや次郎助、三太郎、庄や德右衛門、德しま岩次、孫六、講頭佐次兵衛、又八、油や息子竹吉、竹松、犬上段八、駒卧の金兵衛、仲居まんの、い太郎、銀杏の前、侍女袖垣、仲居おむら、油屋女房おなか、たけ次郎、山三妹いてうのまへ、孫太夫娘さかき、油屋おきし、三の助、宗觀妻夕なみ、山三妻かつらき、貢伯母おみね、源之助、庄や沖右衛門、岩見大學、正直正太夫、村右衛門、細川政元、井筒女之助、足利小次郎義高、福岡みつき、俊成卿、賤の男紀の作、訥升、天竺德兵衛後不破伴左衛門、座頭德市實は大日丸、奴林平、料理人喜助、仕丁橘又、賤の男竹作、羽左衛門、第貳ばん目大切淨るり（中も後宮の三人は軒ちやうちんの三つ巴）「影祭俄俳優」田之助、訥升、羽左衛門、當本相勤何れも評判よく當狂言中棧敷十五匁高十二匁五分同平十匁

○七月十五日より市村座「小幡怪異雨古沼」小幡小左衛門、若徒安達左九郎後鼓の胴、多九郎、穗積丹左衛

門、三十郎、香西喜次郎、山の井波門實は喜次郎、訥升、同云號おあき、義太夫師匠竹歌仙、歌女之丞、鶴井屋玉之丞、須賀屋三四郎、花助、漁師太五兵衞、庄屋與九郎兵衞、國五郎、歌澤能六齋、雁はゝあお幸、鴻藏、雲介の岩、渡し守ねむ藏、米五郎、穗積下部友藏、隅田茶見世團子吉、橋之助、刀屋下男半次、野田伴藏、小半次、額の銀八、お幸娘お吉、吉六、鹿の角幾平、船頭のつきりの竹、咲十郎、在所娘おたみ、扇之助、同お百、娍小はき、辰三郎、宿屋下女おきん、みろく町茶やおやま、米次郎、宮崎式部、吉五郎、轟雲平、蒔田翻仲、米十郎、三浦之助高明、刀屋半七、權十郎、右近源次郎、國太郎、西光寺了念和尚、又太郎、轟下部伴助、雲介よい松、い太郎、香西下部松平、廻し與助、國三郎、宍堀百八、雲介の石孫六、同沖津の大、星川軍太、大よし家主奎兵衞、ゆや番頭五九郎、又八、小平次、一子平吉、粲藏、山本娘おとよ、宿屋下女おせき、三之助、穗積下女おいね、宿や女房おます、源之助、太井義太夫、すかや番頭傳八、村右衞門、喜内妻おまち、小兵衞女房おさは、市之丞、雷の五郎藏後香西若徒五郎藏、修行者現西、與六、小左衞門女房おつか後小平次女房彌勒町けいしや　おはな、丹左衞門妻お花實は五郎藏娘おはな、粂三郎、小はた小平次、同亡靈、鳶坊主小兵衞、小團次、穗積次男龜之助、竹松太郎助後家娘おむら、穗積丹三郎、羽左衞門、四幕目市川海老藏、追善狂言歌舞妓十八番の內、勸進帳武藏坊辨慶、權十郎、源のよし經、粂三郎、富樫左衞門、小團次、片岡八郎、米十郎、卒子權藤、團太郎、駿河次郎又太郎、伴藤、國五郎、同兵藤、村右衞門、伊勢三郎、花助、常陸坊海尊、與六、長唄はやし惣連中相勤第貳番目序幕上るり（紫雲庵の一と節にてう）（とお花と半七と）「由縁色蘿紫（ゆかりのいろはぎとむらさき）」半七、權十郎、お花、粂三郎、淸元延壽太夫連中相勤竹本鶴澤連中相勤

○第壹番目小はた小平次新狂言壽海老人追善狂言權十郎辨けい大出來大々當り此度ひゐき連中より引幕模樣開き扇盡し三すし蝙蝠牡丹荒磯鯉なと海老藏好の模樣にて甚た彩色美を盡せり往古はしらず先五十年以來かゝる引幕なし諸見物目を驚かせしなり此外にも二タ張りありしと云々權十郎大に評よく當時日の出の若もの也○小幡小平次の供養として本所回向院にて法事あり大卒塔婆建其文に施主市村座（外に小團次立る）正面に奉修大施餓鬼會者小畑小

平次秡苔與樂餘三方の文略之

○七月七日より中村座「義經千本櫻」堀川より川連館但しすしや興行なし「關取千兩幟」第二番目「譬脚浮世江戶褄」しつか御前、與侍の局、岩川女房おとは、八重ぐしのおさい、半七云號お花、菊五郎、源九郎義つね、主馬小金吾、石岡次男眞三郎、梅幸、龜井六郎、入江丹藏、我當、片岡八郎、通客妙々庵五絕、雷藏、川連法眼、まきた主計、歌助、伊勢三郎、町遣いかん二、猊助、梅本鬼佐渡坊、うへ木やおさん、鷹八、鈴木の三郎、長堀惣嫁おやへ、らい助、鄕の君、眞つるや女房おこう、團之助、武藏坊辨けい、宵寢の仁三、白猿、淨璃理御前、眞鶴屋おりう、田之助、川口屋下女おきぎ、こし元小はぎ、鯉三郎、同つゆ芝、仲居おさは、千代三、同おはつ、娍糸はぎ、紫子、石岡娘お袖、眞砂の局、菊榮、川連女房あすか、渡海や下女おなみ、三すし、こし元花ぞの、官女渚局、芝鶴、主屋彌九郎兵衞、返り坂藥醫坊、森五郎、土佐坊正尊、君はなや利志藏、德次、早見藤太、金久保十平次、猊太郎、川越太郎重賴、北野屋七兵衞、眞つる屋與右衞門、鶴藏、佐藤忠信、源九郎狐さかみ、五郎、鐵か嶽陀々右衞門、石黑若徒關助、龎助、渡海屋銀平實は知盛、橫川覺範、關取岩川治郎吉、庄司嫡子石岡半七後遊客浮世柄の半七、石岡左膳、仁左衞門第貳番目大切上るり誰なよつちの一樹の蔭「打盈雨濡事」菊五郎、田之助、團之助、仁左衞門、吾妻路富士太夫三弦花垣豐造連中相勤

○第一番目千本櫻中評千兩幟第貳ばんめ世話狂言大に評判よし中入

○七月七日より守田座「增補筑紫𧜎」第貳ばん目「顏紅葉三筋兼言」加藤左衞門重氏後かるかや同心、監物太郎、雛助、新洞娘夕して、玉三郎、駒形一角、同宿安心坊、成藏、大内之助義弘、團八、菱戶車藏、武五郎、菊地主水、同宿喜悅坊、音八、同義圓坊、關口隼八、市四郎、新洞左衞門秀連、歌雀、落合藤馬、圓實阿闍梨、長四郎、橫口斤平、同宿宗悅坊、駒七、義弘奥方櫻木、とゆふ、繁氏奥方牧の方、にしき、監物太郎妻橋立、愛之助、繁氏一子石動丸、團彌、桑原女之助、九藏、第貳ばん目役はり伊豆屋與三郎後向疵の與三、九藏、赤間子分海松杭の松、べつこうや金五郎、かふもり安、冠五郎、たいこ持相生、成藏、山鹿平馬、手代藤八、團八、庄屋杢兵衞、武五郎、黑砂の次郎助、音八、井

澄屋手代柳兵衞、市四郎、伊豆屋下男五助、赤間源右衞門、歌雀、源右衞門妾お富後與三郎女房おとみ、玉三郎、赤間子分黑戶の礒八、駒七、同叶山のはし藏、小の藏、もの縫おきの、みんし、井澄屋支配人多左衞門、綾瀨主計、雛助、町かゝへ神田の與吉、三津五郎、大切浄瑠理り淡海の琵琶をひくや袖の浦「新曲神奈川八景」ひな助三津五郎玉三郎九藏清元延壽太夫連中相勤浄るり竹本喜代太夫、同千代太夫、矢澤富七、鶴澤才市、當狂言中棧敷代十六匁高土間十二匁同平八匁何れも評よし

○嵐ひな助かるかや同心大に評よし乍併不入に而殘念〳〵

新群書類從第四 終

黒川眞道
米光關月 校

明治四十年十月二十日印刷
明治四十年十月廿五日發行

非賣品

編輯者
發行者　東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地
國書刊行會代表者
市島謙吉

印刷者　東京市本所區番場町四番地
廣瀬鐐太郎

印刷所　東京市本所區番場町四番地
內外印刷株式會社

大正十四年二月

喜代子嬢